

乾隆朝上諭檔 第十六册 目錄

乾隆五十五年(庚戌年 公元一七九〇年)

十月

十八日	.....	一
十九日	.....	二
二十日	.....	四
二十一日	.....	七
二十二日	.....	一
二十三日	.....	四
二十四日	.....	五
二十五日	.....	六
二十六日	.....	七
二十七日	.....	一
二十八日	.....	一

十一月

初一日	.....	二一
初二日	.....	二三
初三日	.....	二四
初四日	.....	二四
初五日	.....	二五
初六日	.....	二七
初七日	.....	二八
初九日	.....	二八
初十日	.....	二九
十一日	.....	三〇
十二日	.....	三四
十三日	.....	三四
十六日	.....	三六
十七日	.....	三七
十八日	.....	三七
十九日	.....	三八
二十日	.....	三九
二十一日	.....	四〇
二十二日	.....	四三

十二月

二十三日	.....	四四
二十四日	.....	四七
二十五日	.....	四七
二十六日	.....	四七
二十七日	.....	五〇
二十八日	.....	五〇
二十九日	.....	五三
三十日	.....	五四
初一日	.....	五五
初二日	.....	五七
初三日	.....	五七
初四日	.....	六一
初五日	.....	六二
初六日	.....	六三
初七日	.....	六四
初八日	.....	六四
初九日	.....	六六
初十日	.....	六八
十一日	.....	六八

十二日	.....	七一
十三日	.....	七三
十四日	.....	七五
十五日	.....	七七
十六日	.....	八〇
十七日	.....	八〇
十八日	.....	八二
十九日	.....	八五
二十日	.....	八八
二十一日	.....	八九
二十二日	.....	九二
二十三日	.....	九四
二十四日	.....	九七
二十五日	.....	九七
二十六日	.....	九八
二十七日	.....	一〇一
二十八日	.....	一〇二
二十九日	.....	一〇四

乾隆五十六年（辛亥年 公元一七九二年）

正月

初二日	.....	一〇六
初三日	.....	一〇七
初四日	.....	一〇八
初七日	.....	一〇九
初八日	.....	一〇九
初九日	.....	一一〇
初十日	.....	一一三
十一日	.....	一一六
十二日	.....	一一八
十三日	.....	一一九
十四日	.....	一一九
十七日	.....	一二〇
十八日	.....	一二〇
十九日	.....	一二二
二十日	.....	一二三

二月

二十一日	.....	一二四
二十二日	.....	一二六
二十三日	.....	一二六
二十四日	.....	一二九
二十五日	.....	一三一
二十六日	.....	一三二
二十七日	.....	一三三
二十八日	.....	一三三
二十九日	.....	一三四
三十日	.....	一三五
初一日	.....	一四四
初二日	.....	一四五
初三日	.....	一四五
初四日	.....	一四六
初五日	.....	一四七
初六日	.....	一四七
初七日	.....	一四七
初八日	.....	一五一
初九日	.....	一五三

初十日	.....	一五五
十一日	.....	一五六
十二日	.....	一五六
十三日	.....	一五七
十四日	.....	一六二
十五日	.....	一六四
十六日	.....	一六四
十七日	.....	一六五
十八日	.....	一六五
十九日	.....	一六七
二十日	.....	一六九
二十一日	.....	一六九
二十二日	.....	一七〇
二十三日	.....	一七一
二十四日	.....	一七三
二十五日	.....	一七三
二十六日	.....	一七三
二十七日	.....	一七五
二十八日	.....	一七七
二十九日	.....	一八〇

三月

初一日	.....	一八一
初二日	.....	一八二
初三日	.....	一八三
初四日	.....	一八八
初五日	.....	一八九
初六日	.....	一九二
初七日	.....	一九三
初九日	.....	一九四
初十日	.....	二〇〇
十一日	.....	二〇三
十二日	.....	二〇五
十三日	.....	二〇五
十五日	.....	二〇六
十六日	.....	二〇八
十八日	.....	二〇九
十九日	.....	二一〇
二十日	.....	二一三
二十一日	.....	二一五
二十二日	.....	二一七

四月

二十三日	二一九
二十四日	二一九
二十五日	二一九
二十六日	二二〇
二十七日	二二二
二十八日	二二三
二十九日	二二五
三十日	二二五
初一日	二二八
初二日	二二九
初三日	二三〇
初四日	二三一
初五日	二三二
初六日	二三五
初七日	二三六
初八日	二四〇
初九日	二四〇
初十日	二四一
十一日	二四三

五月

十二日	二四四
十三日	二四五
十四日	二四五
十五日	二四六
十七日	二四六
十八日	二四六
十九日	二四七
二十日	二四七
二十一日	二四九
二十二日	二五〇
二十三日	二五一
二十四日	二五二
二十五日	二五四
二十六日	二五五
二十七日	二五七
二十八日	二六五
二十九日	二六六
三十日	二七一
初一日	二七一

初三日	二七二
初四日	二七二
初六日	二七二
初七日	二七五
初八日	二七六
初九日	二七七
初十日	二七九
十一日	二八一
十二日	二八一
十三日	二八一
十四日	二八二
十五日	二八二
十六日	二九一
十七日	二九三
十八日	二九三
十九日	二九四
二十一日	二九五
二十二日	二九五
二十三日	二九六
二十四日	二九七
二十五日	二九八

六月

二十六日	二九九
二十八日	二九九
初一日	三〇一
初二日	三〇四
初三日	三〇五
初四日	三〇六
初五日	三〇八
初六日	三〇九
初七日	三〇九
初八日	三一〇
初九日	三一二
初十日	三一四
十一日	三一四
十三日	三一六
十四日	三一六
十五日	三一九
十七日	三二一
十八日	三二三
二十日	三二六

七月

初一日	三三四
初二日	三三四
初三日	三三七
初四日	三三八
初五日	三四〇
初六日	三四一
初七日	三四四
初八日	三四六
初九日	三四八
初十日	三四八
十一日	三四八
二十一日	三二六
二十二日	三二六
二十四日	三二九
二十五日	三二九
二十七日	三三〇
二十八日	三三一
二十九日	三三一
三十日	三三二

八月

初一日	三九〇
初二日	三九三
二十九日	三八八
二十八日	三八六
二十七日	三八四
二十五日	三八二
二十四日	三七九
二十三日	三七五
二十二日	三七五
二十一日	三七四
二十日	三七二
十九日	三七一
十八日	三六八
十七日	三六五
十六日	三六三
十五日	三六一
十四日	三六〇
十三日	三五三
十二日	三五一

初三日	三九四
初四日	三九五
初五日	三九八
初六日	三九八
初八日	四〇〇
初九日	四〇一
十一日	四一四
十三日	四一八
十四日	四一九
十五日	四二〇
十六日	四二六
十七日	四二六
十八日	四二八
十九日	四三四
二十一日	四三五
二十二日	四三七
二十三日	四三七
二十四日	四三八
二十五日	四三八
二十六日	四三九
二十七日	四四〇

九  
月

二十八日	四四一
二十九日	四四六
三十日	四四八
初一日	四四八
初二日	四四九
初三日	四五一
初四日	四五三
初五日	四五三
初六日	四六〇
初七日	四七一
初八日	四七一
初九日	四七三
初十日	四七三
十一日	四七四
十二日	四七九
十三日	四八一
十四日	四八一
十五日	四八二
十六日	四八二



十月

初一日	.....	五〇〇
初二日	.....	五〇〇
初三日	.....	五〇二
初四日	.....	五〇四
初五日	.....	五〇六
初六日	.....	五〇九
初七日	.....	五〇九
初九日	.....	五一四
二十九日	.....	五〇〇
二十八日	.....	四九九
二十七日	.....	四九七
二十五日	.....	四九六
二十四日	.....	四九五
二十三日	.....	四九四
二十二日	.....	四九〇
二十一日	.....	四八九
二十日	.....	四八九
十九日	.....	四八八
十八日	.....	四八五

初十日	.....	五一四
十一日	.....	五二一
十二日	.....	五二三
十三日	.....	五二三
十五日	.....	五二五
十六日	.....	五二五
十七日	.....	五二六
十八日	.....	五二七
十九日	.....	五三〇
二十日	.....	五三一
二十一日	.....	五三五
二十三日	.....	五三六
二十四日	.....	五三九
二十五日	.....	五三九
二十六日	.....	五四〇
二十七日	.....	五四〇
二十八日	.....	五四一
二十九日	.....	五四四
三十日	.....	五四六

十一月

初二日	五四六
初三日	五四七
初四日	五五四
初五日	五五五
初六日	五五七
初七日	五五九
初八日	五六〇
初九日	五六一
十一日	五六二
十二日	五六三
十三日	五六五
十四日	五六六
十五日	五六七
十六日	五六八
十七日	五六九
十八日	五七〇
十九日	五七三
二十一日	五七五
二十二日	五七八

十二月

二十三日	五八〇
二十四日	五八一
二十六日	五八二
二十七日	五八四
二十八日	五八五
二十九日	五八六
初一日	五八八
初二日	五八八
初三日	五八九
初四日	五九一
初五日	五九二
初六日	五九二
初七日	五九三
初八日	五九六
初九日	五九八
初十日	五九九
十二日	六〇〇
十三日	六〇一
十四日	六〇三

乾隆五十七年（壬子年 公元一七九二年）

正月

十五日	六〇四
十六日	六〇六
十七日	六〇九
十八日	六一〇
二十日	六一一
二十一日	六一八
二十二日	六一九
二十三日	六一九
二十四日	六二〇
二十五日	六二〇
二十六日	六二五
二十七日	六二九
二十八日	六三一

初二日	六三七
初七日	六三八

二月

初九日	六三九
初十日	六四〇
十三日	六四二
十四日	六四四
十六日	六四五
十八日	六四五
二十日	六四六
二十一日	六四六
二十二日	六四八
二十三日	六四九
二十四日	六四九
二十五日	六五〇
二十六日	六五一
二十七日	六五九
二十九日	六六一

初一日	六六二
初二日	六六二
初三日	六六三
初四日	六六六

初五日	.....	六六七
初六日	.....	六六八
初七日	.....	六七〇
初十日	.....	六七〇
十一日	.....	六七一
十二日	.....	六七二
十三日	.....	六七三
十四日	.....	六七四
十六日	.....	六七五
十七日	.....	六七六
十八日	.....	六八〇
十九日	.....	六八三
二十日	.....	六八六
二十一日	.....	六八七
二十二日	.....	六八九
二十三日	.....	六九〇
二十四日	.....	六九一
二十五日	.....	六九三
二十六日	.....	六九五
二十七日	.....	六九五
二十八日	.....	六九六

三月

二十九日	.....	六九六
三十日	.....	六九八
初一日	.....	七〇一
初二日	.....	七〇一
初三日	.....	七〇二
初四日	.....	七〇三
初五日	.....	七〇三
初六日	.....	七〇五
初七日	.....	七〇六
初八日	.....	七〇七
初十日	.....	七〇八
十一日	.....	七一〇
十二日	.....	七一〇
十三日	.....	七一〇
十四日	.....	七一一
十五日	.....	七一一
十七日	.....	七一二
十八日	.....	七一四
十九日	.....	七一八

二十日.....七一九  
 二十一日.....七二〇  
 二十二日.....七二三  
 二十四日.....七二四  
 二十五日.....七二五  
 二十六日.....七二六  
 二十八日.....七二七  
 二十九日.....七三〇

四月

初二日.....七三二  
 初四日.....七三三  
 初五日.....七三三  
 初六日.....七三六  
 初七日.....七三八  
 初八日.....七四〇  
 初九日.....七四〇  
 初十日.....七四一  
 十一日.....七四三  
 十二日.....七四五  
 十三日.....七四七

閏四月

十四日.....七四七  
 十五日.....七四八  
 十八日.....七五〇  
 十九日.....七五三  
 二十日.....七五五  
 二十一日.....七五七  
 二十二日.....七五七  
 二十三日.....七五九  
 二十六日.....七六〇  
 二十七日.....七六四  
 二十八日.....七六五  
 二十九日.....七六六  
 三十日.....七六八  
 初一日.....七六九  
 初二日.....七七〇  
 初四日.....七七二  
 初五日.....七七三  
 初六日.....七七五  
 初七日.....七七六

初九日	七七九
初十日	七八一
十一日	七八一
十二日	七八二
十三日	七八三
十四日	七八三
十五日	七八四
十六日	七八四
十七日	七八六
十八日	七八六
十九日	七八六
二十日	七八七
二十一日	七八八
二十二日	七八九
二十三日	七九〇
二十四日	七九二
二十五日	七九四
二十六日	七九五
二十七日	七九七
二十八日	七九七
二十九日	八〇二

五月

初一日	八〇二
初二日	八〇六
初三日	八〇九
初四日	八一〇
初五日	八一四
初六日	八一五
初七日	八一七
初八日	八一九
初九日	八二一
初十日	八二一
十一日	八二三
十二日	八二四
十三日	八二五
十四日	八二五
十五日	八二六
十七日	八三〇
十八日	八三一
十九日	八三二
二十日	八三六
二十一日	八三七

六月

二十二日	八三七
二十三日	八三八
二十五日	八四〇
二十六日	八四九
二十八日	八五一
二十九日	八五二
三十日	八五三
初一日	八五四
初二日	八五五
初四日	八五六
初五日	八五七
初六日	八六二
初七日	八六五
初八日	八六六
初九日	八六八
初十日	八七二
十一日	八七五
十二日	八七七
十三日	八八一

七月

十四日	八八一
十七日	八八四
十九日	八八六
二十日	八八七
二十一日	八九〇
二十三日	八九一
二十四日	八九二
二十五日	八九五
二十六日	八九六
二十七日	八九八
二十八日	八九九
二十九日	九〇〇
三十日	九〇三
初一日	九〇六
初二日	九〇八
初三日	九一〇
初四日	九一〇
初五日	九一二
初六日	九一四

初七日	九一六
初八日	九一六
十一日	九二〇
十二日	九二三
十四日	九二六
十五日	九二七
十七日	九二八
十八日	九三二
十九日	九三二
二十日	九三三
二十一日	九三七
二十二日	九三七
二十四日	九三八
二十五日	九四〇
二十六日	九四二
二十七日	九四四
二十八日	九四六

八月

二十九日	九四六
初一日	九四九
初三日	九四九
初四日	九五四
初五日	九五六
初六日	九五七
初七日	九六〇
初九日	九六一
初十日	九六五
十一日	九六六
十四日	九七〇
十五日	九七〇
十八日	九七一
十九日	九七二



增補糾正日期一覽表

乾隆五十五年	年份			
四 六 七 一六 一七 一八 二〇 二一 二六 二九 三〇 三四 三四 三五 三六 三六 三八 四〇 五〇 五五 五五 五七	頁碼	九 一三 一六 三五 三九 四〇 四一 四六 六四 七三 七七 八一 八三 八四 八七 八八 一〇三 一二二 一三七 一三八 一四三	檔案編號	查出日期
				十月二十日 十月二十日 十月二十日 十月二十四日 十月二十六日 十月二十六日 十月二十六日 十月二十八日 十一月初五日 十一月初九日 十一月初九日 十一月十一日 十一月十二日 十一月十三日 十一月十三日 十一月十三日 十一月十三日 十一月二十一日 十一月二十七日 十一月三十日 十一月三十日 十二月初一日
乾隆五十六年	年份			
五七 六二 七〇 七三 七五 七九 八五 八六 八八 八九 九一 九四 一〇四 一〇四 一二四 一二四 一三八 一四四 一五三 一五三 一五四	頁碼	一四五 一五二 一七六 一八四 一八五 一九五 二一七 二二〇 二二六 二二九 二三五 二四二 二六四 二六四 二六五 三〇五 三二四 三四五 三四六 三六八 三六九 三七一	檔案編號	查出日期
				十二月初三日 十二月初五日 十二月十一日 十二月十三日 十二月十三日 十二月十三日 十二月十五日 十二月十九日 十二月十九日 十二月十九日 十二月二十日 十二月二十日 十二月二十二日 十二月二十八日 十二月二十九日 正月二十一日 正月二十五日 正月初一日 正月初一日 正月初九日 正月初九日 二月初九日





乾隆五十七年

五八二	五八二	一三七九	十一月二十五日	六八六	一五八五	二月十九日
五八二	五八二	一三八〇	十一月二十六日	六八六	一五八七	二月二十日
五八二	五八二	一三八一	十一月二十六日	六八七	一五八九	二月二十一日
五八四	五八四	一三八三	十一月二十七日	六九七	一六一二	二月二十九日
五八八	五八八	一三九三	十二月初一日	七〇三	一六二五	三月初四日
五九〇	五九〇	一三九九	十二月初三日	七〇六	一六三八	三月初七日
六〇一	六〇一	一四二二	十二月十二日	七〇八	一六四三	三月初八日
六〇四	六〇四	一四三四	十二月十四日	七一二	一六五七	三月十五日
六三〇	六三〇	一四七二	十二月二十七日	七一九	一六六一	三月十五日
六三九	六三九	一四八三	正月初九日	七二〇	一六七〇	三月二十日
六四〇	六四〇	一四八八	正月初十日	七二〇	一六七三	三月二十一日
六四七	六四七	一五〇二	正月二十一日	七二一	一六七四	三月二十一日
六四八	六四八	一五〇四	正月二十一日	七二一	一六七五	三月二十一日
六六三	六六三	一五二九	二月初三日	七二五	一六七八	三月二十二日
六七〇	六七〇	一五四二	二月初六日	七三一	一六八二	三月二十四日
六七一	六七一	一五四八	二月初八日	七三三	一六九六	三月二十九日
六七二	六七二	一五五〇	二月十一日	七三三	一七〇四	四月初五日
六七二	六七二	一五五〇	二月十二日	七三六	一七〇六	四月初六日
六七五	六七五	一五六二	二月十六日	七三六	一七〇八	四月初六日
六七六	六七六	一五六五	二月十七日	七五二	一七五五	四月十八日
六七八	六七八	一五六六	二月十七日	七五七	一七六二	四月十九日
六八〇	六八〇	一五七二	二月十八日	七六一	一七六九	四月二十二日
六八一	六八一	一五七三	二月十八日	七六三	一七八八	四月二十六日
六八二	六八二	一五七四	二月十八日	七六四	一七八四	四月二十七日
六八四	六八四	一五八一	二月十九日	七七四	一八〇九	閏四月初五日



## 前言

「上諭檔」是本館所藏清代軍機處匯抄上諭的檔冊之一。

上諭本是泛指皇帝的命令和指示，統稱諭旨。但也是清代皇帝發佈日常政令的載體的總稱。它是清代最高級的下行文書之一，具有權威的法律和行政約束作用，是清王朝實行有效統治的得力工具。

爲了及時貫徹執行皇帝的命令指示，或爲了存檔備查，清代自中央到地方的許多機構和衙署，都有專門抄錄諭旨的檔冊，名稱各不相同。如在清廷中樞的內閣，有絲綸簿、外紀簿、上諭簿；在軍機處有寄信檔、明發檔、繪音檔、剿捕檔、諭旨檔等檔冊。這些檔冊，有的記諭，有的記旨，有的記公開的上諭，有的記機密的上諭，有的專記某一類的諭旨，都從各種不同的角度，記載了皇帝的諭旨。但也正因爲各有分工，所以都只是記錄了某些方面的上諭。軍機處的「上諭檔」，則是綜合性的記載皇帝諭旨的檔冊，兼有上述各類檔冊的內容。但若就某個專題內容來說，它又可能沒有某些專檔詳盡。如就記載乾隆末年鎮壓林爽文起義一事而言，上諭檔沒有「臺灣檔」詳細；就嘉慶中葉的林清起義一事而言，上諭檔也沒有「林清檔」詳盡。再如寄信諭旨，上諭檔內基本全載，但也有一些寄信諭旨，不見於上諭檔，而載在「寄信檔」內。這種情況在乾隆二十五年以前較爲普遍。

清代和我國歷代封建王朝一樣，以皇帝的名義頒發命令文書種類很多，所謂制、詔、誥、敕等類皆是，其形制、質地、顏色及其使用範圍亦各不一樣。上諭，亦即諭旨，是屬於皇帝發佈日常政令的命令性和指示性文書。但嚴格來說，「諭」和「旨」是有所區別的。據清人梁章鉅的《樞垣紀畧》卷十三記載：「凡特降者，曰內閣奉上諭；因所奏請而降者曰奉旨」。這就是說：「諭」是皇帝主動發佈的指示性命令；「旨」是皇帝對臣僚們向上請示的批覆性指示。在軍機處的「上諭檔」內，這兩種內容的上諭都有，它實際上是清代皇帝所發佈的日常政令的總匯。由此可知，「上諭檔」的內容十分重要，涉及的問題非常廣泛。凡清王朝對當時國家政治、軍事、經濟、文化等各項重要事務的最後決策及終極處置情況，都載在「上諭檔」內。但自嘉慶朝以後，清廷鎮壓較大規模的農民起義及有些對外戰爭（如鴉片戰爭等）的一些上諭，因另有「剿捕檔」等專檔記載，「上諭檔」內不

詳細記載這類內容的諭和旨。

清王朝自順治朝以來，就使用上諭文書，但在雍正朝以前，並無固定的辦理上諭文書的機構，沒有嚴格的立卷歸檔制度，以致存留下來的上諭文書很少。當時的上諭文書，有時是由皇帝親自用硃筆撰寫，稱作硃諭（硃諭也有內閣大學士擬稿後，經皇帝同意而用硃筆謄抄者）；有的是由內閣大學士撰寫；有的則是由南書房的侍臣撰擬，通過內閣頒發，或者直接發送有關部院。自雍正七年（一謂八年）設立軍機處後，上諭文書除皇帝偶爾親筆起草的硃諭外，均專歸軍機處撰擬。先是由軍機大臣親自起草，乾隆以後，逐漸改由軍機章京起草。其撰寫的過程是：凡臣工的奏摺到達宮廷，經皇帝硃批「另有旨」或「即有旨」者，均交軍機大臣閱看，然後由皇帝召見軍機大臣，商討應發上諭的要點，稱爲「召對」。召對完畢，軍機大臣回到值房，或親自擬旨，或令軍機章京撰擬成稿，謄清後由軍機大臣送呈皇帝審閱，稱作「述旨」。有時皇帝也用硃筆略作修改，但一般不作改動，即發交軍機處封發。發出諭旨的途徑，一般是兩條：一條是由軍機處送交內閣公佈，稱作明發上諭。這種明發上諭，其開頭第一句都是某年某月某日「內閣奉上諭」或「內閣奉旨」。其內容大都是屬於國家重要政事需要全體臣工甚至中外臣民所共知的，如有關宣戰、議和、大赦、巡幸、謁陵、經筵、蠲賑、高級官員的除授降革、重大案件的處理結果等。另一種是由軍機處直接寄發給有關的官員的寄信諭旨，因其寄自內廷，也稱「廷寄」。這是一種只限於少數或個別臣工所應知道而不適宜於公開的機密諭旨。其內容大都是告誡臣工、指授兵略、查核政事、責問刑罰之失當等。因恐事機洩露，故不由內閣發抄公佈，而以軍機大臣奉旨的名義，由軍機大臣用寄信的形式，轉達給應該接受和執行上諭的官員。這類上諭，一般均由「軍機大臣寄」或「軍機大臣傳諭」某某人爲開頭，然後接書某年某月某日「奉上諭」或「奉旨」字樣，在將上諭內容轉述完畢之後，則以「欽此。遵旨寄信前來」或「欽此。遵旨傳諭前來。」爲結束。按照制度，這「寄信」與「傳諭」二詞的使用是有嚴格區別的，主要是根據接受上諭者官職的高低。《樞垣紀略》卷十三載有：「寄信，外間謂之廷寄。其式：行經略大將軍、欽差大臣、將軍、參贊大臣、都統、副都統、辦事大臣、領隊大臣、總督、巡撫、學政，曰軍機大臣字寄；其行鹽政、關差、藩臬、曰軍機大臣傳諭。」

凡寄信上諭，經皇帝審定批准後，即由軍機處裝入封函。封函書寫式樣也有一定規定：「字寄者，右書辦理軍機處封寄，左書某處某官開拆；傳諭者，居中右書辦理軍機處封，左邊下半書傳諭某處某官開拆。皆於

封口及年月日處鈐用辦理軍機處印。」(梁章鉅：《樞垣紀略》卷十二)寄信上諭除行京內大臣者由軍機處用交片直接封發送達外，行外省官員者，均由軍機處視事情之緩急，於封函上註明，或馬上飛遞、或四百里、或五百里、或六百里加緊。然後交兵部加封，由驛馳遞。

爲了存檔備查，軍機處將上諭原件封發之前，均抄錄一份留存，其底稿、草稿之類，均由每日值班章京與領班章京會同檢齊焚銷。其發出之上諭原件，即歸接受諭令之官員遵照執行和保存，不再退回。但凡硃諭或上諭原件上有皇帝用硃筆親自改動或圈點、勾劃之處者，則於遵照執行之後，必須將原件退回宮中保存。不過，這類上諭爲數甚少。

軍機處每日所錄存的上諭，以一月爲一冊，稱爲「現月檔」，又每三個月合爲一厚冊，稱之謂「四季檔」。現月檔與四季檔，通稱爲「上諭檔」。上諭檔是清廷中央所存留的唯一的一份完整的備查本。清廷日後在檢查上諭執行情形及在其他事項處理過程中需要查考之時，均是根據這一份「上諭檔」。因此，它雖是抄本，仍具有與正本同樣的法律效力和史料價值。

上諭文書自清初使用以來，是清廷中央發佈日常政令的主要手段和形式，直至清末光緒年間採用電報以後，上諭逐漸使用電報發佈，遂有「電旨」、「電寄」等名目出現，在軍機處也相應形成了「電寄檔」。其實質與寄信上諭相同，只是發送手段與方式有所改變而已。但即使如此，也並沒有完全取代傳統的上諭文書，「上諭檔」亦繼續存在，直至清朝滅亡。

根據現存乾隆朝以後歷朝「上諭檔」的內容來看，其中不僅包括明發諭旨、寄信上諭及硃筆上諭等諭旨，而且還附抄有其他文種、其他內容的檔案文件。如歷次殿試及順天鄉試、宗室鄉試的欽命試題；重要案件人犯的供詞，如乾隆年間林爽文起義被鎮壓後，清廷追查柴大紀一案的審訊供詞，即附於上諭檔內；各式各樣的清單，如乾隆年間纂修四庫全書過程中的「禁毀書籍清單」、「文淵閣撤出各書清單」、「閱看書籍名單」、「記過處分名單」等，再如光緒年間的「王大臣年歲生日單」和「緣事遣戍文武各員案由單」，道光年間的「斬絞各犯清單」，又如「直省各屬戶口民數清單」、「查辦教案人犯物件清單」、「河工漫口次數單」、「稅銀數目清單」等等，名目繁多，不一而足；上諭檔內還有大量的軍機處奏片，這是軍機處奉旨議覆各項事件的奏呈文書；軍機處致直省將軍督撫大員的咨文、軍機處致俄國薩納特衙門的咨文以及軍機處給有關機構及官員個人的移會、札文、



函件等。這些大都是皇帝隨時交給軍機處辦理各類事件過程中所形成的文件，因為事關欽命交辦，不僅皇帝隨時有查問的可能，軍機處也要隨時向皇帝覆奏辦理的進展情形及其結果，而且日後遇到類似事件，皇帝還可能查詢，而軍機處更要查照成例辦理。於是逐一併匯抄於上諭檔內，以便隨時查考。因此，「上諭檔」不僅是清廷日常政令的總匯，而且其中還包括了豐富的其他具體史實，益加說明了「上諭檔」的史料價值之不同一般，也由此可以瞭解軍機處的作用日益擴大的一般概況。

乾隆朝是清代的鼎盛時期，清代的許多所謂「文治武功」，均於這一時期完成，清代的許多典章制度，也是在這一時期形成並固定。乾隆朝又是清代由盛轉衰的轉折時期，清王朝的許多弊政和各種矛盾沖突，也在這一時期有所暴露和發展。因此《乾隆朝上諭檔》的內容尤為豐富，其作為史料的研究和參考價值之大，更不待而言。

本館這一部份珍貴的檔案資料，從未系統地公佈過，為了更快地提供給清史學界及各界學術研究參考，特予影印出版。

本書在編輯出版過程中，得到了中國社會科學院及檔案出版社的有力支持，謹在此表示衷心的感謝。

編者 一九八六年九月

## 編 例

一、《乾隆朝上諭檔》是根據我館所藏軍機處全宗乾隆時期的「上諭檔」影印的，起自乾隆元年，止於乾隆六十年。其中除乾隆十三年缺一至七月份和乾隆三十年缺六月份以外，其他年份均完整。全書預計編印十八冊，每冊一千頁左右。

二、乾隆「上諭檔」多數年份原存只有一套檔冊，少數年份則有兩套，個別年份竟多達三套，共計三百三十四冊。此次影印時，發現部份重套檔冊所收文件稍有出入。爲了向讀者提供更多的史料，我們兼收並蓄，互相補充，使之更加完整。對其中個別殘損之件，則予換補，以便閱讀。

三、乾隆「上諭檔」所載主要是內閣的明發諭旨和軍機處的廷寄上諭，同時也收錄了不少軍機處奏片和其他文件。絕大多數年份的檔冊，都是根據每個文件的奉旨日期或發文時間，按照編年體例，混合進行編排的。但也有少數年份的檔冊，則把軍機處奏片等文件，按月照時間的先後，單獨編排，附於每月諭旨之後。爲了使各年在體例上前後一致，同時又維持原檔的面貌，我們對這部份文件仍照原樣付印，但作爲附錄，分別標明，以示區別。

四、爲了保持「上諭檔」內各篇文件的原貌，對其中存在的個別錯字、衍字和簡體字、異體字、古體字，以及一些修改挖補、勾劃貼蓋和缺漏殘損之處，均未予改動增補，請讀者見諒。

五、一些原檔天頭所貼的小黃簽（內容大多是文件的簡單摘由，一般僅二三個字），地角所畫的小圓圈和所寫「已錄」、「未錄」字樣，這些均係後來修書利用檔案時的標記，此次影印時未予保留。

六、爲了方便讀者，對原檔由於裝訂差錯或者抄寫筆誤而造成的一些文件日期錯亂之處，編者經過查核館藏乾隆朝「隨手登記檔」，業已分別加以改正；另外，我們對正文內，每個正件用阿拉伯數字按順序作了編號，附件用※號標明，附錄各件則以帶括號的阿拉伯數字進行編號；每冊在正文前編有按年月日排列的文件簡單目錄，並注明所在頁碼；全書出齊後，另作專題和人名索引，單獨成冊。

本書由俞炳坤同志任主編，主要編選人員有洪雪竹、盧經、張紅、江珊等同志，呂堅、田露汶同志協助

編例

做了部分工作。由於影印出版檔案文獻在我館是一項新的業務，我們編選經驗不足，本書在挑選底本、編排設計等方面肯定存在不少缺點，望讀者不吝指正。

編者

## 本册說明

『乾隆朝上諭檔』第十六册，自乾隆五十五年十月十八日起，至乾隆五十七年八月十九日止。本册共輯錄上諭、奏片、諮文等各種文件二千三百八十九件，其中正件二千二百六十八件，附件一百二十一件。原檔中有相當一部分奏片、諮文、知會等文件的日期缺漏或誤寫。編者根據本館所藏清代軍機處乾隆朝『隨手登記檔』的記載，查明了大多數文件的收發文日期，並按時間順序作了調整。為了便於讀者查閱利用，茲將查到日期各件按時間先後依次列表附於目錄之後。少數未查到日期的文件，則仍按原檔編排付印。此外，本册中第四、六三五、一四八五、一七〇三、二〇一三號文件原檔受墨跡污染或殘損，第一五五二號文件原檔時間抄錯。特此說明。

本册由張紅同志編，盧經同志統稿，俞炳坤同志審定。

1 乾隆五十五年十月十八日內閣奉

上諭奎林萬鍾傑辦理臺灣各案緝獲盜犯均屬認真奮勉知府楊廷理隨同查辦亦屬出力俱著加恩交部議敘以示獎勵欽此

2 大學士公阿 大學士伯和 傳諭

提督銜臺灣鎮總兵奎林 布政使銜按察使兼臺灣道萬鍾傑 乾隆五十五年十月十八日奉

上諭本日奎林等奏到各摺所辦尚屬認真已明降諭旨將伊等交部議敘矣此等命盜案件均屬緊要遇有二三件即應隨時具奏若必累積多案始行由驛奏聞則已結未結必致輾轉稽延著傳諭奎林等嗣後遇命盜之案二三件即可具奏不必為慎重驛遞起見積至多案方行彙奏也將此諭令知之欽此遵

旨傳諭

3 乾隆五十五年十月十八日內閣奉

上諭奎林等奏據嘉義縣詳報縣民林璇璣猪隻踐食蔡探園蔗起衅蔡探執槍往與林璇璣爭毆被林璇璣用刀戳傷斃命蔡均祿趕救亦被戳傷將林璇璣問擬絞候從重立決等語此案奎林等辦理未免過當蔡探工人朱琳因林璇璣猪隻踐食園蔗彼此爭鬧嗣經朱琳回家告知蔡探以口角微嫌即持槍趕與林璇璣爭毆其理本曲並先用槍向戳林璇璣始持刀抵禦戳蔡探倒地蔡均祿趕至幫護亦被砍傷蔡探旋因傷重殞命而蔡均祿傷痕業已痊愈核其情節係屬關毆傷人而不應擬以立決亦不至入於本年情重人犯案內辦理此事若在內地祇應照例問擬即以臺灣地方民情刁悍必當嚴示創懲不過將林璇璣一犯入於明年秋審情實已足蔽辜該部知道摺併發欽此

4 乾隆五十五年十月十八日內閣奉

上諭據奎林等奏審擬淡水廳盜犯鄭疊等嘉義縣盜犯林添成等鳳山縣盜犯許鳳林等三案因各案犯未全獲請將文武職名查明開叅固屬照例辦理但臺灣地處海外盜劫頻聞該地方文武各官遇有稟報盜案即能認真緝拏獲多犯頗屬奮勉功過尚可相抵若仍照例開叅恐不肖官吏規避處分轉致啓諱匿不報之弊所有各案文武職名著加恩免其開叅並著奎林等督飭所屬將案內逸犯嚴密查拏毋任遠颺漏網該部知道摺併發欽此

5 乾隆五十五年十月十九日內閣奉

上諭前因步軍統領衙門奏據江南民人湯乾學呈明河工利弊十三款若所言屬實與河務殊有關係當經降旨令韓鏞孫士毅等公同妥議具奏茲據覆稱該犯實因年老失館困苦無聊妄思條陳河務希冀好處又恐沿襲舊文別無新異遂臚列

毛城鋪廢棄草壩各條並拔缺包工等事砌詞聳聽其實毫無確據請將湯乾學按律發邊遠充軍因年逾七十准其收贖等語河防重務關係民生向來酌定章程悉臻妥善豈容鄉愚無職之徒妄為訾議乃湯乾學以失館無聊編列河工各款赴京具控輒思更易舊章並以營求包攬等事一併列入意圖傾陷其居心實不可問若不嚴加懲治則好事者紛紛效尤於河工大有闕礙倘該犯所陳各條或有一端可採尚可稍為寬宥今審明俱係空言自當按律問擬充軍該部核議時應不准其收贖以示懲儆茲韓鏞等以該犯年逾七十懇請准令收贖殊不知該犯年歲雖老但既能徒步遠赴京師捏詞妄控豈有不能前往戍所之理況韓鏞等辦理河工若寬此謬議更張者將來條陳河務必羣言沸興河臣將不勝其辨矣韓鏞孫士毅蘭第錫李奉翰穆和蘭俱著飭行欽此

6 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫海 福建廣東各督撫 乾隆五十  
五年十月十九日奉

上諭據海寧奏千總素鳳鳴鄭寧巡至王遜外洋追  
拏匪船被賊匪拒捕打傷並掠取鎗砲刀械逸去  
現在馳赴温州督率文武設法擒拏等語浙江溫  
州一帶盜匪出沒洋面最為商船之害上年經伍  
拉納親往該處督拏緝獲數案今盜匪尚敢肆劫  
竟至拒捕傷官掠取軍器不法已極可見沿海盜  
風未能盡戢海寧現已親赴温州著傳諭該撫即  
行督率文武員弁設法擒拏以期全數弋獲至溫  
州海道與閩廣相通恐洋盜等聞知浙省查拏緊  
急竄入福建廣東洋面或竟登岸潛逃亦未可定  
並著傳諭各該督撫於所屬內外洋面及沿海地  
方一體嚴密堵拏毋任遠颺漏網將此各諭令知  
之欽此遵

旨寄信前來

7 查本年九月十二日陝甘總督勒保奏請以宜

禾令豐延泰調補奇臺令一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今吏部照例議

駁於本日具

題<sub>臣</sub>等謹遵

旨擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

乾隆五十五年十月十九日奉

旨著照該督所請行

8 乾隆五十五年十月十九日奉

旨陳再著即處斬欽此

閩省嘉義縣民因姦故殺一案

9  
據金簡查明黎維祁眷屬十二名口從人黎忻  
等眷屬五十二名口俱在安南謹開列名單進  
呈臣等查前奉

諭旨令阮光平將黎維祁弟妹妻妾尋訪送京並據  
阮光平自請將黎維祁從人眷屬一體查明送  
進應請將名單遇便發交福康安轉交阮光平  
令其遵

旨辦理謹  
奏

\*黎維祁眷屬

弟黎維祇 妹黎氏 妹黎氏 妹黎氏 妻阮氏  
妾黎氏 妾阮氏 婢女潘氏 婢女陳氏  
婢女張氏 僕男阮武 僕男阮文

黎維祁從人眷屬

黎忻

妻阮氏子黎慎女黎氏女黎氏

范陳僖

岳母阮氏妻鄭氏子范廷仙子范廷值  
子范廷侃妾楊氏姪范廷體姪范廷傳  
姪范廷儷妹范氏姪女范氏乳母陳氏

阮日肇

妻阮氏女阮氏女阮氏養子阮有清

姪阮日盛乳母阮氏

黎文張

妻阮氏子黎文搜子黎文超女黎氏

妾阮氏姪黎文得姪黎文連姪女黎氏

姪女黎氏

黎貴適

妻阮氏弟黎貴時弟黎貴宜妹黎氏

阮有望

妻阮氏

黎拭

妻黎氏妻陳氏子黎文

黎光睿

妻阮氏妹黎氏



阮文良

妻潘氏 妹阮氏 姪阮可嘉

阮文消

妻范氏 弟阮有智 弟阮有信

陳文對

妻陶氏 弟陳文德

陶重光

妻阮氏 姪陶文鈞

阮世登

妻阮氏

10 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十五年

十月二十日奉

上諭前因黎維祁眷屬尚在安南諭令阮光平尋訪

送京並據該國王自請將黎維祁從人眷屬一併

探訪送進茲查明黎維祁弟妹妻妾一十二名口

其跟隨黎維祁進關之人除懇請返國者業經遣

回安南外其情願留京之黎忻等共有眷屬五十

二名口未經帶出應將名單交與阮光平查訪但

黎維祁等所開眷口係就進關時名數開出今已

將及一年又經兵燹其中或有逃亡及婦女改適

出嫁者恐不能逐名查送著傳諭福康安於發給

名單時詳悉知會該國王祇須將單內現存之人

確加查訪遣送進關如有事故不妨據實聲明並

非令其按名照單查送俾該國王知朕體諒深恩

自必益加感戴不致辦理掣肘也將此諭令福康

安知之名單著一併發往欽此

11 查本年各督撫奏報被水成災之直隸山東江

蘇安徽四省是否應需展賑蠲緩於新正

加恩之處臣等謹擬寫寄信梁肯堂等

諭旨進

呈謹

奏

十月二十日

12 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸山東江蘇安徽各督撫 乾隆五十五年

十月二十日奉

上諭本年直隸永平天津河間等府屬各州縣夏秋雨水較多河流漲發田禾被淹致成偏災山東平原禹城齊河德州等各州縣被水成災又江蘇徐州府屬蕭縣碭山二縣安徽鳳陽府屬之宿州靈璧二州縣均因毛城舖土壩刷寬漫水下注民田廬舍間被淹浸節經降旨撥給銀米分別賑借令該督撫實力撫卹毋使一夫失所第念各該處被災地方秋成失望于明春青黃不接之時民力恐不無拮据是否應需展賑蠲緩並此外勘不成災地畝應否酌借口糧籽種之處著傳諭梁肯堂惠齡福崧朱珪即行體察情形據實覆奏候朕于新正酌量加恩降旨將此各諭令知之欽此遵旨寄信前來

13 遵

旨詢問廣東水師把總鄭亮如何掣獲洋盜情形據稱把總於上年三月二十五日奉福總督諭令駕駛巡船在洋面巡查把總帶兵五十名行至新安縣屬東流洋面遇見賊船我帶同兵丁前往追捕賊持器械抵拒我就施放噴筒火箭趁勢跳上賊船將賊人打倒細縛彼時知縣吳沂帶同巡役亦在洋面聞聲趕到圍住賊船共掣獲盜犯鄭大邊保等三十八名等語謹

奏

14 為咨覆事准

貴將軍等咨稱

非鎮廟陰陽松樹連根倒壞等因前來查閱來咨內稱此項松樹於乾隆五十年九月因青枝被風吹折當經

奏聞在案是樹枝被風吹折

貴將軍等尚且具奏此次樹根倒壞轉以一咨存

案本處礙難核覆相應移咨

貴將軍等查照辦理可也須至咨者

右咨

盛京將軍

十月二十日

15 恭查

實錄順治九年十二月癸丑達賴喇嘛至謁

上於南苑

上賜坐賜宴達賴喇嘛進馬匹方物並納之十年正月

戊寅

上御太和殿賜達賴喇嘛等宴二月乙卯以遣達賴喇

嘛歸

上御太和殿賜宴併鞍馬金銀珠玉緞疋等物丁巳達

賴喇嘛辭歸命和碩承澤親王碩塞偕固山貝

子顧爾瑪洪吳達海率八旗官兵送至代噶地

方又命叔和碩鄭親王濟爾哈朗禮部尚書覺

羅郎球餞於清河

十月二十日

16

查韓鑠等奏報王平莊漫缺民堰一摺具奏實  
在周樽之前措詞本屬含混謹將原摺粘簽呈

覽並擬寫

諭旨進

呈謹

奏

17 乾隆五十五年十月二十一日內閣奉

上諭本年夏間黃水盛漲將王平莊民堰漫塌冲刷

溝槽由毛城鋪滾水壩下注洪河以致永城宿州

靈壁等處田廬間被淹浸而韓鑠等奏報時祇稱

唐家灣引河減洩黃水出槽漫灘下注毛城鋪其

外灘王平莊民堰亦被漫缺鉗口土壩尾刷寬二

十餘丈並未將王平莊在毛城鋪大堤之內及冲

塌二百八十餘丈之處詳晰奏明且稱此次長水

賴有各閘壩分洩各工一律平穩彼時朕以為王

平莊在毛城鋪大堤之外不過因毛城鋪洩下之

水間有泛溢實不知王平莊竟在毛城鋪大堤之

內黃水漫溢冲決民堰淹及下游並非毛城鋪減

下之水也嗣經周樽具奏宿州靈壁地方被災摺內稱黃水漫溢下注並未斷流朕方謂該處祇係毛城舖減下之水滙注周樽指為黃水措詞不明尚降旨申飭而韓鐸等因朕有此旨節次奏摺總遷就其辭含混聲敘並未言明王平莊在毛城舖大堤之內而內外大臣率多回護亦未有明言及此者直至令韓鐸等繪圖呈覽朕始知王平莊係在毛城舖大堤之內冲塌民堰並非毛城舖減下之水也况閩圖內新築王平莊大壩長至二百八十餘丈缺口若此之寬自係黃流漫溢為患從前因韓鐸等所奏不明誤會其意伊等復從而掩飾朕既未親臨其地亦何由洞悉情形今披覽河圖始覺前此之誤此固由韓鐸等奏報牽混然朕未經看出即當引以為過斷不肯始終迴護欲實前言朕臨御五十餘年辦理庶務一秉虛公從不飾非遂遇知而能改何待伊等代為迴護耶昨因南河秋汛安瀾特降旨將韓鐸等交部議敘乃伊等於王平莊漫口一事始終含混本當治以應得之罪姑念辦理堵築工程尅期竣事免其治罪已屬

格外加恩豈可復邀甄敘所有韓鐸等交部議敘之處著撤回至大堤以內河灘逼近黃河每遇盛漲時留為河流蕩漾地步原應禁民居住庶不致與水爭地以免漫溢之虞今江南王平莊一帶村莊多在堤內其豫省瀕河之處及直隸永定河兩岸地方在堤內河灘居住者想亦不少從前巡視永定河經朕屢降諭旨飭禁而地方官奉行不力小民等又罔知後患祇圖目前之利以致村莊戶口日聚日多若不申明禁例轉非愛護黎元之意但民人等安居已久未便令其遷移轉致失所著各督撫等轉飭地方官將各該處堤內河灘現在村莊實有若干戶房屋若干間查明確數造具清冊嗣後毋許民人等私自增添其有遷去人戶即于冊內刪除以杜影射佔居之弊並著各督撫于年終彙奏一次務須認真查禁毋得視為具文以副朕慎重河防保衛生民至意欽此

18 據金簡告稱

召見時面奉

諭旨文宗文瀾文瀾三閣藏書四庫全書所有裝潢  
度架等事現在陸費墀業經身故即著海寧全  
德承辦等語 臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

十月二十一日

19 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫海 傳諭兩淮鹽政全德 乾隆五

十五年十月二十一日奉

上諭前因江浙兩省為人文之藪特將四庫全書添  
辦三分發交揚州金山及杭州文宗文瀾文瀾三  
閣藏貯所有裝潢度架等事俱交兩淮浙江鹽政  
辦理嗣因陸費墀總理四庫全書草率錯誤獲咎  
甚重即罰令出資承辦陸費墀本係寒士家無擔

旨寄信前來

遵

石向在于敏中處籍館為業諒不過千金產業耳  
今所辦三閣書匣等項及繳出罰銀一萬兩計其  
家資已不下三四萬若非從前在四庫館提調任  
內苞苴餽送何以有此多貨現在陸費墀業已身  
故所有插架裝匣等事若令伊子接辦恐未能諳  
習且身後所遺家業想已無多亦難措辦此時三  
分書俱已校對完竣自應全行發往三處藏書未  
便稽延著傳諭海寧全德即仿照前次發去裝潢  
書匣等式樣製造專派妥商辦理並著海寧查明  
陸費墀原籍現有田房產業加恩酌留一千兩之  
數為伊家屬養贍如尚有餘資即作為添補三閣  
辦書之用海寧全德務須認真督率該商等經理  
妥速藏工毋任遲延草率將此各諭令知之欽此

20 乾隆五十五年十月二十一日內閣奉

上諭伍拉納奏到籌議臺灣新設屯所分撥埔地事宜又臺灣戍兵增餉游民挑募入伍掛驗船隻番錢歸官經理及船廠採辦木植臺地增銷鹽斤各事宜二摺臺灣地方於五十三年春間平定逆匪後經福康安等將該處設立屯弁清查埔地及戍兵加餉挑募各事宜分晰具奏旋經軍機大臣行令該督等查明定議即應督飭所屬將各條悉心查核酌議奏聞以期永定章程利興弊絕乃迄今已二載有餘始行議奏殊屬遲延即云地隔重洋往返酌籌有需時日亦不應遲緩若此所有伍拉納奏到兩摺除令軍機大臣會同該部議奏外伍拉納著該部議處欽此

21 臣 阿 等謹  
奏為請

旨事竊查從前軍機處中書行走奮勉者節次奏懇聖恩陞用主事在案 臣等查得現在軍機處行走內

閣中書沈琨程振甲行走有年俱屬勤慎奮勉人甚明白可否仰懇

皇上天恩准將沈琨程振甲二員

賞給 臣等所管各部先令其在額外主事上行走遇有題選缺出再行

奏請補授如蒙

允准各該員等感激

聖恩自必益加奮勉勤慎供職 臣等亦得收臂指之

益至所遺內閣中書二缺查有軍機處候補中書金應琦人亦勤慎可否扣留一缺將該員補

授之處出自

天恩為此謹

奏請

旨

乾隆五十五年十月二十一日奉

旨知道了欽此

22

查保寧所奏審擬蓬溪縣知縣劉德懋濫行科派一案係照料臺灣凱旋兵丁過境並非照料赴藏官兵該縣劉德懋聽從接收津貼銀至五千二百餘兩之多因公科斂似有應得之咎但既據審明並未入已誠如

聖諭尚可末減是以臣等擬寫劉德懋革職免其餘

罪

諭旨進

呈伏候

訓示謹

奏

十月二十一日

23 乾隆五十五年十月二十一日內閣奉

上諭據保寧奏審擬蓬溪縣知縣劉德懋於臺灣凱旋兵丁過境承辦催備夫馬等項接收前任知縣挪借津貼銀兩雖審明並未入已但因公科斂咎實難辭請將劉德懋革職照例問擬杖徒等語劉

德懋因兵差過境輒將前任知縣挪借民間津貼銀款擅用印照催繳自有應得之咎但究屬以公濟公且係聽從前任接收津貼尚無侵漁入已情弊予以褫革已足蔽辜劉德懋著革職所有問擬杖徒之處著加恩寬免餘著照所奏完結該部知道摺并發欽此

24 乾隆五十五年十月二十一日奉

旨王春芳王曾才俱著即處斬餘依議欽此

閩省私雕假印嚇詐平民一案

25 乾隆五十五年十月二十二日內閣奉

上諭黃河南北兩岸築堤捍禦原以防河水盛漲時泛溢為患專藉大堤為之保障以河流正身而論則瀕河兩岍灘地在大堤以內者即當謂之堤內在大堤以外者正當謂之堤外此一定不易之理也乃向來河臣等所奏河務情形摺內轉以附近河身兩岸灘地指為堤外而大堤外之民田廬舍轉稱為堤內殊為內外倒置茲偶思及必係從前

河臣等意圖影射以堤內之民田廬舍為堤外倘  
遇黃水沖缺口岸即可指稱在堤外漫溢以為掩  
蓋其災輕朦混之地不可不即行更正以杜隱飾  
弊端嗣後總以黃河正身為主附近兩岸灘地在  
大堤之內者謂之隄內若在大隄以外者謂之堤  
外毋得再有牽混以致陳奏失實藉滋影射也欽  
此

26

大學士公阿和 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十五年十月二十二日  
奉

上諭穆和蘭奏勘丈沙壓地畝請賞限一年以便詳  
細清釐一摺豫省臨河地畝果有沙壓難耕糧賦  
無出自應勘丈明確題請豁免但黃河沙性坍漲  
無常既有從前本係可耕之地現在被沙漲壓者  
豈無從前本係沙壓之地現在業經坍卸可以開  
墾者小民惟利是圖難保無以新灘地畝私自耕  
種希圖影射免科或更有歷年報明沙壓此時尚  
可挑復之地若臨河沙壓地畝俱係有漲無坍則

旨寄信前來

年復一年祇有豁免而無陞科亦非政體不可不  
逐一詳細履勘分晰查明以歸覈實今即照穆和  
蘭所請予限一年為期既寬該撫務須督同藩司  
將以上指出各情形分委幹員協同各地方官携  
帶實徵糧冊開明四至按畝勘丈將應豁免減應  
徵之處仍即親身履勘分別核實辦理毋使胥役  
里地人等朦混滋弊將此傳諭知之欽此遵

27 乾隆五十五年十月二十二日內閣奉

上諭朕披閱臣工等所進萬壽歌頌內有尚書房行  
走侍講吳壽昌恭紀九言詩一冊上下句用韻分  
叶體製新穎詩句藻麗其辭章雖屬可觀不免有  
騁博見才之意因思尚書房翰林入教皇子皇孫  
等讀書惟須立品端純藉資輔導原不同應舉求  
名者僅在文藝辭章之末况皇子及皇孫年長者  
學業已成其年幼之皇孫皇曾孫元孫等甫經就  
傅不過章句誦讀之功尚屬易於啟迪選擇師傅  
祇以品行為先與其徒藉以詞藻見長華而不實



轉不若樸誠循謹之人尚可資其坐鎮即如何肅學問雖未優長而資格已深人亦謹飭於皇子師傅頗屬相宜現在皇子等俱已年長尚書房翰林等皆係皇孫皇曾孫元孫之師傅若以外間師弟子世誼而論行輩多屬相等且有誼屬晚輩者在皇子師傅親身訓課自不至交結干求而輩行較晚之師傅等分同賓友恐不安本分之人藉以結納交通致有如從前秦雄褒與皇孫綿德往來交結之事不可不防其漸向來尚書房師傅缺出係掌院學士揀選僅會同內閣帶領引見今阿桂嵇璜俱已年老精力不周嗣後著大學士等公同揀選不必專取才華務擇資深立品之員帶領引見候朕簡用至皇子皇孫等與尚書房師傅朝夕晤對祇須勸勉訓課不得泛論文藝相聚間談為俗例倡和之舉致啟夤緣倘或該員等有營求干請之事一經發覺朕必照綿德秦雄褒之例從重治罪决不寬貸著將此旨恭錄一道交尚書房存記俾知警惕欽此

28

查刑部例載停發新疆改發內地人犯如三次犯竊計贓三十兩以下至十兩者又竊盜臨時拒捕傷非金刃傷輕平復者俱面刺改遣字樣如有脫逃仍照新疆遣犯脫逃例即行正法此向來奏定新疆改發內地之成案也本日穆和蘭奏到拏獲逃遣馬尤保係三次犯竊計贓在十兩以上之犯海寧奏到拏獲逃遣即小馬係竊盜臨時拒捕傷非金刃傷輕平復之首犯俱例應發遣新疆改發內地如有脫逃拏獲後即行正法該撫等所奏俱係照例辦理至尋常關隘問擬絞候緩決減流之犯脫逃被獲後例止加一等發附近充軍並不在原奏之內謹

奏

十月二十二日

29

查沉溺銅筋全數撈獲本年八月內業經奉有諭旨嗣後遇有銅鉛錫筋等船在途沉溺該員等果能實力設法全數撈獲著查明交部議敘以示

獎勵等因欽此欽遵在案本日胡季堂奏到滇  
省委員戴書丹沉溺銅舫全數撈獲一摺<sub>臣</sub>等  
照例交部遵照前奉

諭旨辦理謹

奏

十月二十二日

30 乾隆五十五年十月二十二日內閣奉

上諭胡季堂奏山東清平縣者民張攻同弟張珩又  
滋陽縣者民馬遇樂均年逾百齡請照例旌表等  
語張攻張珩昆弟隨肩期願矍鑠馬遇樂年臻上  
壽耕鑿自安洵俱為昇平人瑞所有應行建坊旌  
表及加恩賞賚之處該部察例具題摺并發欽此

31 乾隆五十五年十月二十三日奉

旨田自相著即處絞餘依議欽此

玉田縣逃流窩竊一案

32 同日奉

旨著交刑部嚴審定擬速奏欽此

提督衙門奏拏獲劫盜李二  
等八犯

33 大學士公阿 大學士伯和 字寄

四川湖廣各督撫 乾隆五十五年十月二十  
三日奉

上諭上年閏五月內在密雲縣地方令程宗聖呈遞  
策論之馬晏清即馬波一犯在逃未獲節經降旨  
令四川總督于該犯居住太平縣地方嚴密查拏  
並令湖廣督撫在該犯原籍松滋縣一帶偵緝務  
獲迄今已一載有餘總未據該督撫等奏報拏獲  
該犯呈遞策論後或仍在京城一帶藏匿或因為  
時已久希冀地方官訪拏稍懈潛回原籍均未可  
定除就近諭知提督衙門仍派番役密行緝緝外  
著傳諭四川湖廣各督撫等嚴飭所屬上緊查拏  
務期就獲解京懲治毋得視為海捕具文使要犯

始終藏匿漏網將此各傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

34 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫海 浙江提督陳 傳諭布政司歸

景照 乾隆五十五年十月二十四日奉

上諭陳杰奏接據護温州鎮總兵詹殿擢報稱瑞安營署都司李春欄等巡哨洋面被賊匪搶去鎗砲一事陳杰即馳赴温州瑞安督緝等語此案業據海寧奏報已降旨諭令海寧陳杰督率文武員弁設法擒拏並著福建廣東各督撫一體堵緝矣又據歸景照奏海寧於本月初七日前往温州十二日行抵建德縣地方寒熱復作似成瘧病因趨程心切不肯停泊現在已抵蘭谿服藥未能速效神氣稍覺沉綿已稟請撫臣暫駐蘭谿趕緊醫治俟精神平復再行前進等語所見甚是海寧先因偶感風寒調理旋愈嗣接據陳杰移會即兼程前赴温州在途次寒熱復作神氣沉綿自應即行回省

調理以期速痊若再力疾前往加以焦急一時不能向愈轉於地方公務無益現在該撫業飭溫處道高樹勳紹興府李亨特先行馳往查辦而陳杰自寧波馳赴温州路程較近此時早已至彼海寧竟應速回省城上緊調治所有温州洋匪一案即專交陳杰辦理該提督務須督率水陸各鎮營弁兵及派往該道府等協同實心查拏以期全數弋獲盡法懲治此等賊匪在洋日久所用淡水食米勢須登岸運取即所劫贓物亦必須登岸變賣如沿海各口岸弁兵留心堵截實力搜查無難立時就獲至該都司等出洋巡哨時共有五船何以千總索鳳鳴等二船被賊匪搶取鎗砲器械其餘三船並未協拏救護是否實係官兵追捕受傷抑係畏縮裝點均未可定朕於海寧奏到時早疑及此並著該提督嚴密訪查如該弁等有畏葸捏報情節即行據實嚴參不可稍有隱飾迴護又據歸景照奏籌辦漕務情形一摺所言利弊自係確有所見但歸景照在浙年久平日既能留心及此即當稟知巡撫早為整頓今已簡擢藩司漕務尤其專

責著該藩司照摺內所指情弊逐一清釐幫同海寧實心籌辦不可徒托空言有負委任也將此由五百里各諭令知之欽此

35 臣等遵

旨將進獻詩冊之編修劉鳳誥傳到令其將詩冊內馱轡誤作駟之處即行改正據該員跪稱駟字實係筆誤茲蒙

聖明指示不勝惶悚欽佩之至復蒙

恩賞大緞感激倍深謹叩頭祇領恭謝

天恩伏祈轉奏等語謹

奏

36 乾隆五十五年十月二十五日內閣奉

上諭昨歸景照奏海寧前往溫州督拏瑞安洋面盜匪在途患病當經降旨令該撫即回省城調理以冀速痊今據歸景照奏報海寧行抵蘭谿地方身故殊為可惜海寧自簡任封圻以來尚屬急公勤

奮茲甫經調任浙江正資整頓乃以力疾前赴溫州督緝洋匪在途溘逝深堪嘉憫海寧著加恩照總督之例給予卹典該部察例具奏欽此

37 乾隆五十五年十月二十五日內閣奉

上諭海寧因病身故所遺浙江巡撫員缺著福崧調補江蘇距浙江較近該撫將印篆送交孫士毅兼署即行馳赴新任福崧前在浙江巡撫任內辦理地方公務性疑才拘諸事殊欠洽意姑念該撫自簡任江蘇以來稽查積弊甚屬認真從前曾任浙江諮悉該處情形尚可收駕輕就熟之効是以加恩調補該撫務須益加奮勉隨時整頓而收漕為目今要務宜慎為之若再從前怠玩定行加倍治罪至江蘇巡撫員缺緊要一時不得其人因思長麟在山東巡撫任內於羅有良薛對元二案辦理錯謬獲罪甚重但伊平日辦理尚屬勤奮前任江蘇藩臬於地方情形較為熟悉若此時留於山東辦理城工伊係革職之員呼應不靈轉於工程無益所有東省城工著交與惠齡接辦長麟即前往

江蘇署理巡撫事務仍不准戴用頂帶其應得廉俸亦不准支給如果蒞任後自知愧悔勉思整飭地方力圖報効俟過數年後再當降旨加恩倘以為又得邀恩更復恃才偏聽意存自滿伊係棄瑕錄用之人必當從嚴懲治立真重典斷不能屢邀寬貸也欽此

38 乾隆五十五年十月二十五日內閣奉

上諭勒保奏甘省蘭州府屬之皋蘭金縣靖遠三縣高阜地方先因六月內雨水較少禾苗長發稍遲嗣於八月間天氣驟冷正當升漿結籽之時猝被嚴霜以致黃萎現在收成無望被災戶民力難接濟乏食堪虞請照例給予賑濟等語皋蘭金縣靖遠等三縣猝被嚴霜前據該督奏明業經降旨將本年應徵正襟銀糧草束緩至來歲徵收今既查勘成災小民口食維艱自應給予賑濟以示體卹著該督即派委委員實心經理俾災黎均沾實惠以副朕愛養邊氓至意該部知道摺併發欽此

39 蒙

發下河源紀畧二十部論語集解義疏五十部交臣

等擬賞謹分繕擬

賞名單進

呈謹

奏

\* 擬

賞河源紀畧名單

八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿恩阿哥

軍機大臣阿

和

王

福

福

董慶

大學士嵇璜

尚書彭元瑞

巴延三

常青

紀昀

劉綦

胡季堂

金簡

40 遵

旨將論語集解義疏賞單內綿億阿哥以下及王等

十五分改賞查各省巡撫共十五員已符十五

分之數不敷賞給學政之用謹改繕名單進

呈伏候

欽定謹

奏

\* 擬

賞論語集解義疏名單

八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿恩阿哥

軍機大臣阿

和

王

福

福

董

慶

大學士嵇

尚書彭元瑞

巴延三

常青

紀昀

劉我

胡季堂

金簡

留保住

左都御史舒常

李綬

侍郎

金士松

沈初

總督

梁肯堂

孫士毅

伍拉納

畢沅

勒保

保寧

富綱

蘭第錫

李奉翰

管幹珍

巡撫

長麟

朱珪

惠齡

書麟

穆和蘭

秦承恩

福崧

徐嗣曾

姚棻

福寧

浦霖

郭世勳

陳用敷

額勒春

譚尚忠

41 軍機大臣面奉

諭旨熱河僧機圖圍場嶺下有喬松一株旁有兩大幹向名為夷齊松嗣為荒火所燬枝葉俱焚惟本身及兩大幹尚存乾隆二十四年將兩大幹截取作工程之用其本根仍在原處近年以來是否復發新枝著副都統富昌查明覆知再此項松幹截下後作何處工程材料使用並著熱河工程處一併查覆等因為此劄知俱即遵照查明覆知本處以便轉奏不必尚摺覆奏也

42 乾隆五十五年十月二十六日奉

旨白萬春著即處斬白萬鍾著即處絞高氏依擬應絞著監候秋後處決餘依議欽此

甘肅省因姦致死親夫一案

43 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 乾隆五十五年十月二十六日奉

上諭據畢沅等審訊貴州委員吳壽朋領運京鉛沉溺鉛船一摺內稱該員帶有家口及柴米物件種種累墜以致船身加重沉鉛二十一萬觔雖沉溺各處係在著名險灘猝遇暴風但違例攜眷即屬玩誤所失鉛觔應賠償脚現咨黔省查明確數著落該參員追繳等語運京鉛觔該委員理應小心運送即遇有名險灘亦當加意防範以免疎虞今吳壽朋領運京鉛沉溺至二十一萬觔之多撈獲之數僅止三萬三千八百觔恐有中途盜賣鉛觔捏報沉溺情弊畢沅等惟當從此跟究嚴加詰訊乃祇稱該員攜帶眷屬柴米以致船重壓沉情節殊未確實試思該員所攜眷屬五人食米亦僅止六十石能重幾何豈有將鉛船沉壓之理畢沅等既經冒昧叅奏於前審訊時又復為之迴護顯係有心開脫著畢沅再行研訊確情據實具奏至此項沉溺鉛觔甚多自應賠繳今畢沅將價脚銀兩一併著落賠繳吳壽朋係屬微員焉有多資賠交官項將來必致拖欠難完仍歸無著並著畢沅一併另行籌議具奏將此諭令知之欽此



44 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差總管內務府大臣伊 乾隆五十五年十月二

十七日奉

上諭據伊齡阿查明松山杏山等處牧廠地畝一摺

此項地畝於紅冊之外丈出多畝皆係影射私開

自應查明業戶照畝數之多寡治以應得之罪其

查出尚可開懇荒地未便聽其拋棄今據伊齡阿

逐畝丈量必須登記簿冊既可備召募開墾之需

亦可杜影射佔據之弊現在奏到摺圖存記著傳

諭伊齡阿再將東廠地畝速行詳悉查勘並將私

墾各案及失察之副都統地方文武應議各官一

併秉公查辦俟具奏到日交內務府會同該部分

別核議將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

45 乾隆五十五年十月二十七日奉

旨劉大寬著即處斬梟示李九兒著即處斬餘依議

欽此

湖非監利縣行劫螺山客船一案

46 臣 等將未經入選之詩冊一百七十三本及畫

冊八本開列名單一併繳

進以備陳設謹

奏

47 乾隆五十五年十月二十八日奉

旨李二大劉二賸劉二俱著即處斬餘依議欽此

廣寧門外搶刦一案

48 乾隆五十五年十一月初一日奉

旨屈吉王錫爵俱著照例准其貶封該部知道摺併

發欽此

49 同日奉

旨著派福長安馳驛前往甘肅會同蘇凌阿巴忠查

辦事件所有隨帶軍機司員著一併馳驛欽此

50 乾隆五十五年十一月初一日內閣奉

上諭前因工部議駁勒保題銷勒洗鹽茶廳送回軍需一案駁減甚多諭令該督詳晰查明據實迴奏茲據勒保覆奏請將前項核減銀二萬五千七十餘兩在勒保及歷任總督藩司名下照數攤賠惟所稱火繩一項係因軍需緊急本地所出樹皮麻斤甚少是以用紙擰造殊屬非是烏鎗為軍營利器而臨時施放尤藉火繩點引朕常親御火鎗皆以麻繩引火從無用紙張製造即健銳火器等營亦無用紙火繩者蓋紙張質地脆薄久貯易於潮濕若擰造為繩藥多則不能留火藥少則點引較難故烏鎗火繩向用麻斤成造從無用紙之理今甘省綠營於軍火要需竟屬有名無實勒保全不諳習率據該營員等稟報具奏尤屬不合嗣後該省各營所用火繩俱照定制改造麻繩不可用紙以收實用欽此

51 乾隆五十五年十一月初一日內閣奉

上諭福建巡撫員缺著浦霖調補其湖南巡撫員缺著馮光熊補授所遺直隸布政使員缺著張誠基補授欽此

52 乾隆五十五年十一月初一日奉

旨總辦慶典工程係和坤金簡專司其事著於所加二級外再加一級彭元瑞前曾查勘工程現又纂輯萬壽盛典亦著一體加二級欽此

53 大學士公阿 大學士伯和 字寄

調任浙江巡撫福 署江蘇巡撫長 乾隆五十五年十一月初一日奉

上諭福崧奏江省各州縣向有漕總名目慣於舞弊每年點充之際各州縣並不遵例僉換若不嚴革重懲恐其暗中滋弊影射朦充查有長洲等二十八州縣漕總每縣二三名不等共七十一名業已按名斤革拏解來省枷號通衢復發回各該州縣

加示漕倉門口俟收漕完竣再行分別發落等語  
江省近年漕務廢弛福崧飭屬嚴辦查出長洲等  
縣漕總蠹書七十一名斥革加示所辦甚為妥協  
現已降旨將福崧調補浙江巡撫本年浙省嘉興  
府屬有漕書浮收舞弊之事恐該省各州縣亦有  
似此漕總名目欺哄鄉愚影射滋弊不可不嚴行  
查辦著傳諭福崧到浙江新任後一體留心訪察  
認真辦理至長麟經朕棄瑕錄用此時赴任江蘇  
於地方要件益當加意整頓以期積弊肅清所有  
各州縣舞弊漕總即著長麟照福崧所奏實力嚴  
辦使各漕書咸知懲儆毋或稍存姑息致負委任  
將此各諭令知之欽此

54 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十五年十一月初二日  
奉

上諭前因勒保題銷軍需本內甘省所用烏鎗火繩  
係以紙張製造可見外省綠營器用全無實際恐  
各省火繩意圖省便多有似甘省不用麻繩者於

軍器殊有關係曾通諭各省督撫查明據實覆奏  
此係九月十四日所降之旨迄今將及兩月本日  
已據穆和蘭奏到直隸密邇京師較河南尤近何  
以梁肯堂尚未具奏殊屬遲緩著傳諭該督即行  
遵照前旨查明直隸各營是否用紙張擰造火繩  
之處迅速據實具奏勿再遲延干咎欽此

55

本月初一日吏部將丁憂回旗之原任湖非武  
昌府知府穆通阿原任福建福州府理事同知  
景祥原任河南歸德府通判達本原任福建上  
杭縣知縣恩古達又前任河南巡撫畢沅保送  
卓異之原任鄧州知州今推陞順天府治中張  
文炯前任廣東巡撫孫士毅保送卓異之原任  
新興縣知縣今推陞通政司知事胡昌賜帶領  
引

見奉

旨穆通阿景祥達本恩古達張文炯胡昌賜俱著交  
軍機處記名欽此

十一月初二日

56 乾隆五十五年十一月初二日內閣奉  
上諭甘肅按察使員缺著鄭製錦補授欽此

57 乾隆五十五年十一月初二日奉  
旨駱榮生吳亞帶梁發珍李亞四麥自章張閔弟羅  
春芳陳老世黎亞勝梁奉堅蘇亞和吳亢貴黃彩  
隴衛亞得梁明元羅亞全陳志韜俱著即處斬梟  
示餘依議欽此

廣東省拏獲洋盜吳昌盛等糾  
夥疊劫一案

58 同日奉  
旨楊大楊二尹二李二俱著即處斬餘依議欽此  
刑部議覆楊大等行竊陳起鳳臨時  
行強毆傷事主一案

59 乾隆五十五年十一月初三日內閣奉  
上諭直隸清河道員缺著方受疇補授欽此

60 十月初四日富綱奏請以雲南府同知朱紹曾  
陞授順寧府知府一摺奉  
硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會  
照例議准於本日具

題臣等是以無庸擬寫

諭旨進

呈謹

奏

十一月初三日

61 乾隆五十五年十一月初四日內閣奉  
上諭直隸保定府知府員缺緊要著該督於通省知  
府內揀選一員調補所遺員著張文炯補授其所  
遺員著盧又紳補授欽此

62 乾隆五十五年十一月初四日內閣奉

上諭據陳杰奏温州瑞安洋面賊匪拒傷官兵一案  
隔別研訊方得實情緣千總袁鳳鳴一船於九月  
二十遇盜刦取軍器外委林公柱一船將軍器搬  
藏山上二十一日千總鄭寧復被盜船圍住搬取  
軍器衣物而去外委金殿選隨即收船回泊分巡  
之都司李春欄停泊未駛將遇盜實情面稟護副  
將王愈安該副將因賊船過多兩次被刦隨商同  
備弁裝點報現將該將備千總等摘去頂帶追  
取劄付咨明督撫辦理等語此案前據海寧奏到  
時朕早疑及該都司等出洋巡哨何以袁鳳鳴等  
二船被賊搶刦器械餘船並未協拏恐有裝點情  
弊曾降旨令陳杰據實嚴查辦理茲據陳杰奏到  
竟係護副將王愈安商同備弁捏報果不出朕所  
料而其所報情節將盜船數目及遇盜日期全行  
改捏殊出情理之外綠營懦怯性成而水師弁兵  
為尤甚每遇緝捕賊匪率多畏葸不前稟報時又  
復假捏情節希圖避罪此等惡習甚為可恨王愈

安李春欄袁鳳鳴鄭寧林公柱金殿選俱著革職  
拏問交與福崧陳杰嚴審定擬具奏欽此

63 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十五年十一月初五日  
奉

上諭本年六月內據梁肯堂奏喀爾喀盟長貢楚克  
扎布差扎奇魯克齊博羅特入貢於多倫諾爾地  
方被賊竊去製造經典銀八百餘兩並衫帽等物  
一案曾降旨令該督通飭所屬嚴拏迄今將及半  
載曾否將案內賊犯拏獲總未據該督奏聞豈此  
等偷竊外藩來使之案並不認真嚴緝僅以一奏  
了事耶著傳諭梁肯堂即行飭屬查拏務獲賊  
毋再玩延干咎將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

64 查軍機處所奉

硃筆改定清漢字

諭旨及各項事件名單奉有

硃筆並各該處繳到

硃批奏摺等件每年彙交奏事處恭繳所奉

硃筆改定

諭旨內臣等細加檢閱其中有關係緊要事件應備

另匣存貯者敬謹檢出另束恭呈

御覽至各項名單及尋常事件并交議奏等件均分

束照例彙交並將各該處繳到奏摺開列清單

一併呈繳謹

奏

\* 各處繳到

硃批奏摺清單

慶 桂一封

巴延三四封

劉 我二封

韓 鏞一封

王 昶一封

劉秉恬一封

劉權之一封

陸錫熊一封

翁方綱一封

和 琳一封

劉種之一封

汪如洋一封

邵 洪一封

徐立綱一封

葉觀國一封

伍拉納二封

孫士毅三封

李世傑一封

毓 奇一封

圖薩布四封

長 麟三封

惠 齡二封

琅 玕二封  
閔 鶚元一封  
譚 尚忠二封  
何 裕城二封  
姚 榮一封  
李 慶榮一封  
穆 和蘭二封  
陳 用敷二封  
陳 步瀛一封  
保 成一封  
成 德二封  
成 善一封  
穆 騰額一封  
萬 寧一封  
富 尼善一封  
託 倫一封  
王 站柱一封  
汪 新一封

蔣 兆奎一封  
李 承鄴一封  
顧 學潮一封  
王 德一封  
恩 長一封  
姚 梁一封  
陳 奉茲一封

<sup>65</sup> 乾隆五十五年十一月初六日奉

旨此案著交侍郎吉慶王昶提集人証東公確訊定  
擬具奏原告王澤遠著交該部照例即行解往質  
訊欽此

<sup>66</sup> 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎吉 王 乾隆五十五年十一月初六日  
奉

上諭據步軍統領衙門奏湖南長沙縣保正王澤遠  
呈控監生李敬思生員李楷等串同該縣倉書黃

克明等勒派採買倉穀短發價值歷控不辦一案  
事闕蠹書翫法派累鄉民該省總督藩司等何以  
不為查究恐亦有徇庇情弊如果所控屬實自應  
從嚴究辦若王澤遠受人唆囑挾嫌妄控亦當治  
以應得之罪以儆刁風著傳諭吉慶王昶於審訊  
湖非李杜趙學三兩案完竣後仍赴湖南提集犯  
証將此案實在情節秉公確訊定擬具奏步軍統  
領衙門原摺著發交閱看欽此遵

旨寄信前來

67 乾隆五十五年十一月初七日内閣奉

上諭原任淮徐道師彥公准揚道趙載元前於失察  
高郵州書吏假串冒徵案內革職咎有應得本不  
應送部引見但念該二員係河員出身尚能熟悉  
河務師彥公趙載元俱著加恩送部帶領引見欽  
此

68 乾隆五十五年十一月初七日奉

旨這所叅貴溪縣知縣鄭高華著革職交該撫提同  
案犯嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

69 乾隆五十五年十一月初九日奉

旨浦霖畢沅王懿德俱著從寬免其革任仍註冊恩  
長姚學瑛著改為革職留任郭世勳著銷去加一  
級免其降調餘依議欽此

湘鄉童高門一案

70 同日奉

旨韓鑠著從寬改為革職留任八年無過方准開復  
餘依議欽此

伊子充順天吏員一案

71 乾隆五十五年十一月初九日奉

旨李四著即處斬餘依議欽此

刑部奏續獲行劫路四宗逸犯一摺



72 大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 乾隆五十五年十一月初九日  
奉

上諭浙江瑞安營巡船被盜搶劫軍械一案前據海寧奏稱千總素鳳鳴等在外洋追捕盜匪受傷失去軍器朕即疑有裝點情弊及陳杰親往查訊始知此案實在情形該弁等連日遇盜搶劫巡船並未出洋署都司李春欄亦未追緝竟係護副將王愈安商同捏報已降旨將該副將備弁等革職擊問矣茲伍拉納奏報之摺尚係據該營初報具奏是以所奏情節未能確實現將此案交福崧陳杰嚴審辦理未獲各犯飭該撫及提督等認真緝緝但浙江與閩省海道本屬相通恐盜匪見浙省查拏緊急竄入閩省洋面或棄船登岸潛逃亦未可定著傳諭伍拉納即行嚴飭水師將弁並沿海各地方官於外洋海口嚴密堵拏毋任遠颺漏網再伍拉納另摺奏署千總沈天衢帶領哨兵在菜子嶼外洋拏獲盜犯十七名甚屬奮勉可嘉著該督

即將沈天衢送部引見以示鼓勵將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

73

查原任大學士洪承疇所得三等輕車都尉世職准襲四次於乾隆二年襲次已完現在伊裔孫內有告病遊擊洪哲燕候選鹽大使洪文詒州同職銜洪文詒繕本筆帖式洪廷祥副榜洪文謙生員洪廷福官學生洪廷裕餘俱閒散謹將洪承疇家譜進

呈謹

奏

74 乾隆五十五年十一月初十日内閣奉

上諭大學士王杰尚書彭元瑞董誥胡季堂福長安將軍保寧或簡任綸扉綜理部務或出膺閩帥宣力邊疆宜錫官銜用昭優眷王杰著加太子太保彭元瑞董誥胡季堂福長安保寧俱著加太子少保欽此

75 乾隆五十五年十一月初十日奉

旨這所參昌吉縣知縣占慶著革職交與該都統提同案內人犯一併審擬具奏該部知道摺併發欽此

76 乾隆五十五年十一月初十日內閣奉

上諭江南河庫道員缺著謝啓昆補授欽此

77 臣阿桂等謹

奏為奏銷事查向例熱河道庫收貯備賞備用銀兩其動用實存銀數臣等於年底查核一次茲據熱河道全保將乾隆五十四年報銷以後道庫存貯銀兩開具管收除在四柱清冊呈送前來臣等逐加查核其冊內舊管備賞備用備存銀十四萬四千六百二十六兩三錢九分與上屆奏銷銀數相符新收准熱河副都統解交柳蓋廂藍旗營房五十五年春夏二季兵餉內扣存應繳銀一百五十六兩又秋冬二季應繳銀

一百五十六兩又

行在戶部劄交武備院弓匠世良等留京備差繳回原領銀二十四兩共新收銀三百三十六兩核算數目均屬相符至開除項下自乾隆五十四年八月初二日起至五十五年七月二十一日止

行在廣儲司咨借備賞銀六千兩

行在上駟院請領存庫賞銀四百三十五兩

行在戶部劄領軍機處內閣兵部侍衛處翰林院內

務府提督衙門嚮導處粘杆處太僕寺欽天監

十一處換班回京官兵驛價銀一百九十八兩

行在戶部劄領東三省并伊犁學習行圍官兵路費

銀四百五十六兩三錢

行在戶部劄領東三省并伊犁學習行圍官兵賞銀

三百七十九兩

行在戶部劄領索倫莫爾根官兵路費并賞銀一百

九十二兩二錢

行在戶部劄領內閣戶部

上駟院武備院理藩院會計司都虞司

御茶膳房烏鎗處養狗處太醫院欽天監十二處官

兵路費銀九千八百九十一錢

行在戶部劄領軍機處禮部兵部刑部工部鑾儀衛

虎鎗處粘杆處太僕寺前鋒統領提督衙門十

一處官兵補領路費銀一千八百五十四兩四

錢五分

行在廣儲司咨借備賞銀二千兩

行在戶部劄領

上駟院達里崗愛送馬官兵路費銀六十二兩四

錢

行在戶部劄領吏部侍衛處護軍統領嚮導處諸達

處共五處官兵補領路費銀七百四十二兩九

銀五分

行在戶部劄領請轎校尉賞給一月錢糧銀二百二

十六兩

行在戶部劄領索倫莫爾根官兵補領路費銀一百

三十一兩四分

行在戶部劄領

上駟院尚都達布遜諾爾放馬官兵補領路費銀

三十三兩八錢

行在戶部劄領行圍打鹿人等賞銀一萬二千五百

五十四兩

行在戶部劄領

盛京學習行圍官兵回程路費銀二十七兩六錢

又准熱河副都統咨領圍場獲虎官兵賞銀六

十九兩

行在戶部劄領鑾儀衛校尉賞銀二百二十六兩

行在戶部劄領內務府都虞司茶膳房太僕寺

上駟院四處官兵先行回京驟價銀三百九十二

兩四錢

行在戶部劄領鑾儀衛校尉賞銀五十二兩五錢

行在戶部劄領熱河滿洲兵丁賞銀六千五百四十

七兩

行在戶部劄領熱河額魯特官兵賞銀三百一兩五

錢

行在戶部劄領內閣吏部戶部禮部兵部工部都虞

司會計司

御茶膳房虎鎗處武備院

上駟院太僕寺太醫院理藩院十五處官兵賞銀

一萬五百九十七兩內除

上駟院放馬官兵暫存道庫銀三百八十一兩外

實發銀一萬二百十六兩

行在戶部劉領熱河井口外南路看守

行宮官兵賞銀一千三百二十八兩

行在戶部劉領侍衛處鑾儀衛粘杆處嚮導處提督

衙門養狗處諸達處烏鎗處熱河額魯特總管

刑部十處官兵賞銀五千八百二十八兩

行在廣儲司咨借備賞銀八千兩又咨借備賞銀六

千兩

行在戶部劉領鑾儀衛校尉賞銀五十二兩五錢

行在廣儲司咨借備賞銀一千兩

行在上駟院請領存庫放馬官兵賞銀三百八十一

兩

行在戶部劉領侍衛處鑾儀衛

上駟院粘杆處虎鎗處提督衙門茶膳房禮部刑

部詹事府理藩院內務府諸達處十三處官員

射中布靴賞銀四百二十五兩

行在戶部劉領熱河副都統請領沿途坐堆撥管聲

音帳房馱載脚價銀六十七兩二錢又劉領內

務府

上駟院武備院茶膳房太僕寺鑾儀衛欽天監翰

林院詹事府善撲處式邦十一處官兵驟價銀

二千五百三兩二錢以上共開除銀七萬八千

五百七十二兩一錢四分臣等將各款數目按

冊詳加核對並交查戶部內務府咨領各案均

屬相符其實存備賞備用六萬六千三百九十

兩二錢五分應令熱河道全保造入下年報銷

冊內再行核算所有臣等查核緣由理合恭摺

具

奏伏乞

皇上睿鑒謹

奏

78 乾隆五十五年十一月十一日奉

旨知道了熱河道庫現存銀兩無多著於廣儲司庫內撥給銀三十萬兩照例解往存貯備用欽此

79 乾隆五十五年十月十一日奉

旨這所叅署內鄉縣知縣陳捷登著革職交該撫提同案內犯証嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

80 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 浙江提督陳 乾隆五十五年十一月十一日奉

上諭據陳杰等奏瑞安洋面匪船拒傷弁兵擄取軍械一案現派兵船五十隻哨探賊蹤於浙屬洋面遍歷兜拏務將各匪船全行弋獲再游擊錢夢虎在洋巡緝調派來溫會勒十月十八日船至昌石營淡水門洋面遇盜拒敵官兵受傷擄去鎗砲牌刀現飭副將劉潢馳往查明另行具奏等語浙省

洋面盜匪肆行劫掠膽敢拒傷弁兵擄奪軍器瑞安外洋甫有千總索鳳鳴鄭寧巡船被盜之事匪犯尚未就獲今游擊錢夢虎又在昌石營洋面遇盜劫去軍器可見該省沿海一帶夥匪甚多竟係福建廣東等省查拏緊急匪徒皆竄入浙江洋面愈聚愈多若不嚴行緝捕恐致別滋事端現在陳杰飭派兵船出洋哨緝賊匪聞追拏嚴緊自必棄船登陸竄匿島嶼陳杰係屬提督地方非其所屬恐呼應不靈緝捕不能得力因思福崧曾任浙江巡撫於該省洋面情形較為熟悉近日該撫應已抵任省城並無要事自當前往會辦以期盜匪速獲著傳諭該撫即速馳往温州駐劄該處此案即責成福崧會同陳杰督率文武各官帶領弁兵於外洋及海口地方嚴密緝拏毋任遠颺漏網至錢夢虎遇盜一案有無裝點捏報情弊並著據實查明辦理不可稍有諱飾將此傳諭福崧並諭陳杰知之仍著將查辦情形由六百里迅速覆奏欽此

遵

旨寄信前來

81 臣等遵將

硃批孫士毅等奏分限緩扣被水衛幫運費及李奉翰等奏估挑運河伍拉納奏暫緩計典各摺文九卿等閱看據彭元瑞等僉稱本年淮徐等屬秋雨稍多以致窪地間有被災已蒙

皇上賞發帑銀分別賑卹茲據孫士毅等查明各衛幫軍田歉收之處丁力未免拮据請將應扣運費等款分年扣繳以紓丁力即蒙

特恩允准俾各丁等濟運有資得以早開行恤丁利漕實為周至又東省運河受淤自當確切勘估以期工歸實濟茲據李奉翰等覆加查勘用項比上年稍增據實陳請

皇上俯念運河緊要准照確估土方銀數核實造報不惜帑金通行挑挖明年漕運源源非上自可益加迅速至大計為考察重典閩省於上年補行計典之後本年薦舉之員伍拉納奏請歸入下屆辦理亦蒙

批准允行俾得詳細考核不致濫舉充數仰見

皇上事無鉅細

睿照靡遺遇各省陳奏事件有闕國計民生官方吏

治者苟事屬可行無不立蒙

俞允元瑞等恭閱之下實不勝欽佩悅服等語謹奏

82 乾隆五十五年十一月十二日奉

旨這所叅銅陵縣知縣謝承遠著革職交與該督撫提同案內人證嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

83 本月十二日吏部將閩浙總督伍拉納等保舉

堪勝知府之浙江杭州府海防同知趙思恭原任廣西巡撫孫永清奏准陞署思恩府百色同知之臨桂縣知縣張曾誼貴州巡撫額勒春奏請陞署仁懷直隸同知之貴筑縣知縣蔡五錫等三員帶領引

見奉

旨趙思恭張曾誼蔡五錫著交軍機處記名欽此

84 臣等遵將僧機圖圍場嶺下夷齊松截下松幹作何使用本根曾否復發新枝之處交查熱河副都統及熱河工程處詳查具覆茲據覆稱熱河收發圍場木植祇記丈尺件數其砍自何處作何材料並不登記檔案至僧機圖圍場嶺下截去松樹兩株舊根尚存並無萌芽長發其旁另有大松一株相去約有七八丈樹根微有火焚痕迹枝幹尚茂等語謹將所繪圖樣恭呈

御覽謹

奏

85 大學士公阿 大學士伯和 字寄

伊犁將軍署四川總督保 四川總督鄂 乾

隆五十五年十一月十三日奉

上諭據保寧奏署總兵索國璜現已交卸建昌鎮篆自應循例進京但邊疆要地驅使需才請將索國璜暫緩進京留川候委俟簡放有缺再令該鎮赴京等語索國璜前在熱河召見時看其人尚明白

熟於川省營伍是以令該鎮馳赴川省署理建昌鎮篆今既據保寧奏請留川候委暫緩進京索國璜竟不必令其來京即著留於川省俟有該省總兵缺出候朕簡放可也將此傳諭保寧並諭鄂輝知之欽此遵

旨寄信前來

86 乾隆五十五年十一月十三日內閣奉

上諭保寧奏潼綿營遊擊張思紳駐防察木多臺站迄今未及一載竟敢藉病乞休其情甚屬可惡請將張思紳革職枷號半年再行釋回等語西藏一路臺站係邊陲要地向由內地派員前往駐劄三年更換今張思紳防駐該處未及一年遽行藉病規避稟請休致自應嚴懲示儆著即照保寧所請將張思紳革職於察木多地方枷號半年滿日釋放保寧係伊犁將軍暫署督篆並不存五日京兆之見於此等捏病乞休之員不避嫌怨即行嚴參辦理甚屬可嘉著加恩賞給上用大荷包一對小荷包二對以示獎勵欽此

87 為劄知事十一月十三日軍機大臣面奉

諭旨僧機圖圍場嶺下夷齊松舊根旁有喬松一株樹根微有火焚痕迹因思圍場每值冬令草枯之際或遇野火或係放荒皆所不免但各圍場大樹甚多若竟被火延燒燎枯枝葉殊屬可惜嗣後著熱河副都統預行派人赴圍場查看遇有林木茂密及樹身高大者將四旁枯草艾薙留出火道數丈庶不致為野燒所燬至僧機圖現存大松一株樹根有焚燬之處著即將被燒焦木全行鏟削培護活枝以期益加茂盛免致引火等因為此劄知遵照辦理並將如何查辦之處覆知本處不必專摺覆奏須至劄者

88 臣等遵

旨將畢沅所奏監利縣之新淤洲請仍改歸臨湘縣一摺詢問舒常從前因何將新淤洲歸入監利縣管理據稱我前於湖廣總督任內因巴東縣所轄荆沙腦城陵磯以下江面寬濶凡有稽查

三六

盜賊等事該管官往往互相推諉因於江心定界分屬臨湘監利兩縣以專責成其時祇就江心東西分界新淤洲係在西岸是以歸入監利界內管轄嗣經李侍堯題定將該處烟民漁戶併歸監利縣編查經部議准之處我其時已調任廣東續於五十二年再到湖廣未將此案詳查亦未有該處民人呈訴是以未經查辦今聞畢沅摺內以新淤洲離臨湘僅止十里距監利一百六十餘里舍近求遠官民俱多未便自係實在情形我從前未及詳查實深惶悚等語謹奏

89 遵

旨恭查康熙元年至六十一年冬至

南郊大祀共六十一次

親詣四十四次

遣官恭代十七次謹

奏

十一月十六日



90 大學士公阿和 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 署江蘇巡撫長 乾隆五十五年十一月十七日奉

上諭據福崧奏寶山縣塘工形勢險要應於塘前酌添坦水以資抵禦石塘工尾一帶土塘亦當酌添坦壩又施港土塘地處頂冲亟須添石加椿搶修完整現飭藩司巡道悉心確估具稟孫士毅長麟覆奏等語寶山地方濱海向曾建有石塘為全縣保障五十二年間因風潮冲刷將塘外土工傾卸潮汐直抵塘根形勢單薄業經興工補築茲據福崧親往查勘須再添築坦水方能永資鞏固其形勢坐灣及頂冲之處亦應添築坦壩修葺椿工福崧現已調任浙江所有此項工程著傳諭孫士毅長麟再行悉心確勘將應否修辦之處據實具奏其鎮洋華亭等處據福崧奏亦有應修工程並著孫士毅長麟一併查勘具奏將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

91 乾隆五十五年十一月十七日內閣奉

上諭據穆和蘭奏尉氏縣民王從讓汜水縣民高寬孟縣民劉萬高俱五世同堂請照例錫賚等語王從讓高寬劉萬高俱年臻耄耋膝繞曾元洵屬昇平盛事所有應行賞賚之處著該部察例具奏摺併發欽此

92 乾隆五十五年十一月十七日奉

旨這所參鹽城縣知縣謝遇著革職交該督提同犯証一併嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

93 乾隆五十五年十一月十八日內閣奉

上諭山西平陽府知府員缺著張曾誼補授所遺員缺著王貽慈補授欽此

94 乾隆五十五年十一月十九日內閣奉

上諭尹壯圖奏近有嚴罰示懲而反隣寬縱者如督撫自蹈愆尤不即罷斥罰銀數萬以充公用因有督撫等自請認罰若干萬兩者在桀驁之督撫借口以快饕餮之私即清廉自矢者不得不望屬員飲助日後遇有虧空營私重案不容不曲為庇護是罰項雖嚴不惟無以動其愧懼之心且潛生其玩易之念請永停罰銀之例將罰項改記大過若干次如才具平常者或即罷斥或量予京職毋許再膺外任等語督撫等坐擁厚廉以其尸位素餐故議罰充公之項令其自出已資稍贖罪戾亦不過偶爾行之非定例也若敢藉此斂派累及屬員則是貪黷營私自蹈重罪倘僅予以罷斥改用京員是名為嚴之而實寬之且各督撫必感尹壯圖此奏矣尹壯圖慮有此等情弊奏請將罰銀之例永遠停止固屬不為無見殊不知朕之簡用督撫皆因一時無人而又非犯侵貪徇庇之過者以愛惜人才起見往往棄瑕錄用量予從寬即或議繳

罰項皆留為地方工程公用亦以督撫等祿入豐腴而所獲之咎尚非法所難宥是以酌量議罰用示薄懲其案情重大如富勒渾雅德閔鶚元諸人一經罷斥即不能復邀起用甚至翫法營私貪婪敗檢有若王亶望陳輝祖國泰郝碩等無不按律懲治立寘典刑未曾但示罰而復用也此朕權衡情罪一秉至公或重或輕惟視其人之自取並非封疆大吏身獲罪愆概得以罰緩倖免但督撫中或有昧良負恩之人以指辦官項為辭需索屬員派令飲助而屬員亦藉此斂派以為逢迎之地此等情弊不能保其必無尹壯圖既為此奏自必確有見聞今摺內祇係空言並無左證若遽以無據之辭治督撫以派累之罪倘更誣人重罪亦可不察虛實加之嚴譴乎著將所指之督撫何人逢迎上司者何人籍端勒索致有虧空庫項者何人即令尹壯圖指實奏朕必嚴加究訊重治其罪決不稍存姑息朕從來不尚虛辭顛頂了事尹壯圖不得以風聞取譽也欽此

95 乾隆五十五年十一月十九日奉

旨郭之連著即處斬餘依議欽此

直隸賊犯行竊拒傷事主二命

96 乾隆五十五年十一月二十日奉

旨梁肯堂劉我俱著從寬免其革任仍註冊阿精阿著降二級從寬留任通水道陳昌圖著改為降三級從寬留任遵化州知州薛學詩於此案是其專屬著照部議降調欽此

97 乾隆五十五年十一月二十日奉

旨王清剛蔣大海丁芳蒺周培曹樹業俱准其馳封該部知道摺併發欽此

98 同日奉

旨高勇忠著准其發回甘肅以相當之缺補用欽此

99 乾隆五十五年十一月二十日奉

旨何挺津著即處斬餘依議欽此

刑部議覆臺灣鎮奏私雕假印一案

100 乾隆五十五年十一月二十日內閣奉

上諭本年東省地方因夏秋雨水較多田禾被淹業將被災各州縣優加賑卹並將應徵漕米倉穀一律緩徵其勘不成災地方雖被水稍輕究與災地毗連秋收未免歉薄著加恩將鉅野濮州朝城海豐陽信利津惠民霑化蒲臺青城博興高苑平陰壽張金鄉等十五州縣應徵漕糧與成災地畝一體分作兩年帶徵俾閭閻得免追呼民力益臻寬裕該撫務須督率所屬實力體察毋任吏胥等私徵中飽以副朕加惠貧黎至意欽此

101 乾隆五十五年十一月二十日內閣奉

上諭據朱珪奏歙縣捐職府知事潘起煌績溪縣耆民周瑞積五世同堂懇請恩賚等語潘起煌等年踰八秩繞膝曾元洵為盛事所有應行賞賚之處該部查照向例辦理摺併發欽此

102 乾隆五十五年十一月二十一日內閣奉

上諭山海關監督百福保奏一年任滿比較盈餘短少銀四萬八千八百七十餘兩請從重治罪並將房屋變抵其餘銀兩將應得俸銀內全行坐扣完欸等語闕稅盈餘比較短少該監督自有應得之咎但念該處連歲歉收商本不能轉輸况今歲九關等處雨水較多河流漲發間被淹冲以致貨船到闕稀少盈餘短絀自屬實在情形且較之十四年德綸任內微有多餘尚非辦理不善百福保著罰俸四年以示懲儆所有短少盈餘銀四萬八千八百七十餘兩著加恩免其賠繳其所請治罪並變抵房屋之處俱著一體寬免欽此

103 查山海關盈餘銀兩向係交圓明園庫收貯並

無

賞給喇嘛回子番子侍衛之例此次該闕所有盈餘

銀一萬一千八百八十八兩零應請照例仍交圓明

園庫收貯謹

奏

104 大學士公阿 大學士伯和 宇寄

雲貴總督富 乾隆五十五年十一月二十一

日奉

上諭富綱奏前赴黔省會同額樂春審擬傅志榮在京控告傅志舜一摺內稱緬甸南掌回國貢使目下已入滇境擬俟貢使到省略為停息即派員伴送出關等語回國貢使既經該督派員伴送出關足資照料惟本年緬甸國王孟暎遣使備表來京謝恩前據該督奏委糧道永慧參將百福伴送來京已於十月初七日自省起程是該國貢使已有委員伴送亦可毋庸該督親自照料富綱此時有赴黔會審案件尚需時日即於明歲新正到京亦

不為遲至緬甸所遣貢使則必須年內趕到著傳諭富綱即飭知伴送貢使之委員等沿途妥為照料務於十二月二十日以前到京毋致遲延將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

105 乾隆五十五年十一月二十一日內閣奉

上諭尹壯圖奏督撫等籍交納罰項為名派累屬員致有虧缺因降旨令將何人勒派何處虧缺一一指實叅奏茲據覆奏各督撫聲名狼籍吏治廢弛經過各省地方體察官吏賢否商民半有感額興嘆各省風氣大抵皆然若問勒派逢迎之人彼上司屬員授受時外人豈能得見徒以道路風聞漫形奏牘斷不敢作此孟浪之行等語朕披覽再三摺內並未指實一人一事仍係摭拾浮辭空言支飾朕五十五年之間簡任督撫多矣凡棄瑕錄用之員皆因一時無人或所獲之咎又非侵貪敗檢法難寬貸者是以量予從寬復加起用若如玉璽望陳輝祖國泰郝碩等有貪贖營私劣蹟一經發

覺無不加以重辟從不稍存寬假即尹壯圖摺內亦復歷數諸人言其相繼敗露伊等敗露抵罪並非尹壯圖所叅劾其事不遠豈伊未曾為官乎至若李世傑書麟長麟等在督撫中尚能董率屬員留心民事尹壯圖僅稱為獨善其身李世傑以老休致不必復言其現指較好之督撫將書麟長麟頻與閔鶚元相提並論其意蓋以書麟長麟既已復擢用閔鶚元同係在巡撫任內獲罪之人尚在囹圄羈禁故爾隱躍其辭用巧實愚朕已洞鑿矣朕之用人權衡悉協至公從不畸輕畸重長麟平日辦事認真聲名實好審擬薛對元一案祇係改易月日於案內情節及問擬罪名之處並無錯誤非閔鶚元有心狗庇劣員欲化有為無者可比即書麟與閔鶚元雖均係失察所屬胥吏舞弊然書麟於高郵假印一案並未據陳倚道揭報句容冒徵一案亦係書麟在署理巡撫任內經該縣查出檢舉即行飭屬查辦及福崧接任劾叅摺尾尚會同總督名銜具奏若閔鶚元則始終徇隱袒護屬員其咎較書麟為重今尹壯圖兩次牽連言及

竟似罪同罰異亦應寬釋是巧為閔鄂元作說客  
非曰愛之其實害之著尹壯圖明白迴奏伊二人  
之罪同乎不同乎至摺內所稱伊經過之直隸山  
東河南湖廣江浙廣西貴州雲南等省商民半皆  
感額興嘆之語竟似居今之世民不堪命矣朕臨  
御五十五年子惠元元恩施優渥普免天下錢糧  
四次普免各省漕糧二次為數何啻萬萬偶遇水  
旱偏災不惜千百萬帑金補助撫卹賑貸兼施節  
屋窮簷共沾實惠凡身被恩膏者無不家喻戶曉  
小民等具有天良方將感戴之不假何至感額興  
嘆相聚怨咨或係尹壯圖往來途次間有一二小  
民為胥役擾累者向其陳訴尹壯圖亦即當據實  
奏聞朕必差大臣往辦但此係聞之何人於何處  
見此情狀亦令其據實指出即所言月選官傳說  
缺分美惡虧空數目似屬確有見聞據以入告而  
摺內又云僅屬空聞並未目擊究竟此等傳聞之  
語出自何人豈絕無姓名可指乎尹壯圖又請簡  
派滿洲大臣同伊密往各該省盤查虧空不但朝  
廷無此政體且各省吏治不同庫項充盈者無藉

盤查即或偶有虧短之處一聞欵差起程信息早  
已設法彌補名曰盤查仍屬有名無實合計天下  
州縣不下千餘即使經歷數年尚不能盤查周遍  
在尹壯圖之意亦知事有難行不過自揣學問才  
具均屬平庸內而不能陞用侍郎外而不能簡派  
學政至尚書督撫之任更難夢想欲藉此奏見長  
或俸錄用又可假盤查為名沿途嚇詐希得飲助  
可以名利兼收此等居心豈能逃朕洞鑒朕自御  
極以來迄今已五十五年壽躋八袞綜覽萬幾自  
謂勤政愛民可告無愧于天下而天下萬民亦斷  
無嗟怨於朕者茲距歸政之期僅有數載猶恐年  
老倦勤稍有弛懈惟日孜孜冀仰答

昊蒼鴻貺每於召見內外大小臣工時以朕辦理庶務  
情形時加諮訪僉稱朕精神強固辦事日益勤勵  
若如尹壯圖所奏則大小臣工等皆係虛詞貢諛  
面為欺罔而朕五十餘年以來竟係被人朦蔽於  
外間一切情形全無照察終於不知矣著尹壯圖  
將所奏直隸等省虧空者何處商民興嘆究係何  
人月選官議論某缺虧空若干又係聞自何人傳

說逐一指實覆奏若果查詢得實朕從不肯懣忤混過自有辦法尹壯圖不可徒以空言無實自蹈欺罔之咎也欽此

106

大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫書 乾隆五十五年十一月二十二

日奉

上諭前據尹壯圖奏各省督撫藉罰項為名派累屬員致倉庫多有虧缺因令將何人派累何處虧缺逐一指實復據尹壯圖奏稱虧空各省皆有請簡派滿洲大臣同伊家往盤查等語其實在何省虧空共有若干之處並未指明仍係摭拾浮詞籠統具奏所言本無確據但尹壯圖既請派大臣同伊前往盤查朕亦不肯懣忤了事已派侍郎慶成帶同尹壯圖前往山西確切盤查核實辦理以服其心蓋因尹壯圖原奏內稱現有罰項之督撫即自矢清廉仍不得不望屬員仗助如書麟為督撫中之較好者未免尚懼此失等語是以即令其前赴伊

所指書麟之省由宣化行走先至大同盤查自北而南直至省城之布政使將有無虧空之處核實盤驗著傳諭書麟即行迎赴大同聽候查辦至此次派慶成前往晉省自應馳驛按品支子廩給其尹壯圖係自請盤查之員本不應一體由驛行走但恐其自備車馬未免濡遲止著給予驛馬不必支子廩給將此由五百里傳諭書麟並諭梁肯堂知之著將兩次所降諭旨及尹壯圖兩次奏摺抄寄書麟閱看欽此遵

旨寄信前來

107 乾隆五十五年十一月二十二日奉

旨孫鶴著即處斬餘依議欽此

刑部議覆謀殺總麻尊

長一案

大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 浙江巡撫福

浙江提督陳 乾隆五十五年十一月二十二

日奉

上諭伍拉納覆奏籌辦浙省瑞安洋面盜匪拒捕一摺內稱本擬於冬間赴浙巡閱今俟撫臣回任交卸撫篆後即先由福寧一帶前赴温州等處閱兵就近會同提臣陳杰妥籌辦理等語浙省瑞安及淡水洋面盜匪劫奪軍械之案節據陳杰奏報已降旨令福崧馳往温州駐劄該處會同陳杰督率文武各員嚴密緝拏以專責成今伍拉納擬俟交卸福建撫篆後亦前往會辦因思福建地處海疆洋盜及械鬥等案較之浙省更為難辦調任巡撫浦霖雖任巡撫有年但甫調閩省於該處情形諸未諳悉伍拉納此時未可遽離福建著傳諭該督俟浦霖到任將該省地方一切情形與之講求熟習俟一二月後伍拉納再往浙省閱兵會辦盜案亦不為遲至瑞安洋面逸盜及淡水洋面盜船拒

捕之案前已降旨福崧陳杰嚴速查拏並令將查辦情形迅速覆奏現在曾否獲盜及督緝查辦情形究竟若何未據該撫等奏報並著傳諭福崧陳杰遵照前奉諭旨將是否擒獲匪犯迅即覆奏將此傳諭伍拉納等並諭浦霖知之欽此遵旨寄信前來

109 乾隆五十五年十一月二十三日內閣奉

上諭昨據尹壯圖奏各省督撫派交罰項虧空倉庫而商民等感額興嘆不能樂業因兩次明降諭旨令其指實覆奏並將朕用人行政大端剴切曉諭尹壯圖亦自認措詞失當實不能指出確據奏請治罪是其逞臆妄言陳奏不實自問亦難以解免矣朕之簡用督撫凡棄瑕錄用者或因一時不得其人或所獲之咎並非侵貪翫法始加思量予從寬以觀後效但以其素餐尸位亦不可不予以薄懲故令罰出養廉充公以贖其虛糜廩祿之罪若如尹壯圖所奏概免罰賠則邀恩起用督撫等如書麟之失察屬員長麟之恃才任性既得免罪復



官又可坐享豐厚使曾獲罪戾之人無所做懼何以飭吏治而肅官方若從前王亶望等之侵貪罹罪實由自取何嘗因有罰項始致藉詞婪索在尹壯圖之意實亦知此第欲督撫等見伊此奏以為見好市惠之地耳至於天下官吏自督撫以至州縣人數衆多賢愚不等若謂其中竟無一貪婪玩法之人朕原不敢深信即小民等愛憎之口或因吏胥侵擾或因偶挾微嫌間有一二人怨其守令亦屬事所難免若謂普天之下民不堪命竟疾首感額互相告語怨及朕躬則斷斷無此情理朕實不肯受其咎我朝自定鼎以來深仁厚澤浹洽人心朕覽國史順治年間睿親王攝政曾欲於邊外築城避暑加派直隸等省銀二百四十九萬餘兩以輸工用逮

世祖章皇帝親政即

降旨將所加賦稅盡抵是年額征錢糧概免派累

聖祖仁皇帝御宇六十一年德政及民

恩周寰宇曾免天下錢糧三次漕糧二次稽之史冊隆

古未聞我

皇考愛養黎元整肅綱紀十三年中惠民實政不能殫述朕誕膺

景命丕紹宏圖保赤誠求無時不以愛民為念普蠲天下錢糧者四普免各省漕糧者二偏災賑恤蠲貸兼施以及修築海塘河工為民禦災捍患為數何止數千萬萬今已年躋八旬勵精圖治孚惠益下猶日孜孜罔敢暇逸敬惟我國家

聖

聖相承前猷式廓惠此兆民有加無已朕自繼緒以來益隆錫述凡澤民之事敷錫愈多恩施愈溥此不特勝國所無即上溯三代下訖宋元亦復罕有倫比惟願我萬世子孫以朕之心為心朕之政為政勤求民瘼益廣仁恩于惠民之政總能有增無減俾我大清億萬年景祚綿長天下臣民亦永荷無疆之福此實朕之深願也夫以朕之愛養斯民如此其厚天下萬民無不身被醲膏共知感戴尹壯圖于朕愛民勤政之意惻然罔覺忍為此感額興嘆之語幾于搖或人心豈伊自外生成獨非大清之民乎且如邇日各省叩閭呈控者不一而足無

不欽差大臣前往審辦皆因朕平日愛民如子未嘗加派一縣枉刑一人即民間鼠牙雀角之爭亦不令稍有冤抑故赴愬求理接踵而來曾有人言朕於此等小民不啻如慈父之養驕子者是愚民感激深恩尚能咸喻朕意尹壯圖身為大員曾鄉曲小民之不若矣今已令侍郎慶成帶伊前往所指書麟管轄之山西省切實盤查若果有倉庫虧缺即當追問虧缺之由嚴加究辦倘有代完巡撫罰項情弊朕必將書麟及攸助之屬員從重治罪若所盤倉庫毫無虧缺則是尹壯圖以捕風捉影之談為沽譽邀名之舉不但誣地方官以貪汙之罪並將天下億兆民人感戴真誠全為泯沒而朕五十五年以來子惠元元之實政實心幾等于暴斂橫征之世試令尹壯圖清夜捫心亦何忍為此耶著將朕辦理庶務之苦心及尹壯圖莠言亂政之處通諭知之欽此

110 大學士公阿 大學士伯和 字寄

雲貴總督富 乾隆五十五年十一月二十三

日奉

上諭富綱奏擊獲逃遣陳亞令審明正法一摺已批交該部知道矣閱所奏摺內該犯陳亞令係於八月二十二日在配脫逃於九月初二日行至羅平州地方即被塘兵盤獲是該犯逃後甫及十日即被擒獲尚為迅速此等逃犯被獲後自必即解省城審辦今閱富綱奏摺係於十月十五日拜發距該犯被獲之期已逾四十餘日即謂提解需時亦不應遲延若此可見該省吏治廢弛任意延緩富綱著傳旨申飭欽此遵

旨寄信前來

111 乾隆五十五年十一月二十四日奉

旨李伯龍胡文銓何裕均俱著准其馳封該部知道  
摺併發欽此

112 臣等遵

旨查遼金元三史應改之人地名對音先經

武英殿將板片挖改刷有樣本嗣經校出錯訛之  
處付

殿改刻後於乾隆五十三四等年陸續交館尚須  
將原辦底本覆加校對始行刷印而底本祇有  
一分其時正當趕辦

四閣空函書籍及江浙三閣之書均經移取此項  
底本校辦本年復帶往

盛京覆勘

文溯閣全書現又將底本覆校

摘恭堂叢要尚未完竣臣等現在行催一俟交回

底本即行趕緊核對板樣刷印頒發謹

奏

十一月二十五日

113 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東 江南 浙江 福建 各督撫 乾隆  
五十五年十一月二十六日奉

上諭據盛京將軍嵩椿等奏佐領王尚賚驍騎校范  
建保帶領水師弁兵在洋面踴緝盜匪八月十二  
日至兎兒崑有盜犯李佩等來劫該員等直前擒  
拏賊犯帶傷落水者六七名餘賊跳入水內除入  
水擒獲四名外餘俱漂流無踪又在船中水櫃內  
獲賊一名訊據供稱李佩同首盜華官等二十七  
名自七月至八月在錦州蓋州一帶盜竊五案並  
傷斃事主等語盜犯華官等糾集多人在錦州等  
處肆行疊劫并膽敢傷斃事主實屬目無法紀不  
可不嚴拏迅辦該犯等籍隸福建或因在該省洋  
面犯案查拏緊急是以竄入奉天地方復糾眾為  
匪此次行劫脫逃或仍潛回本省並或在附近沿  
海各省分逗遛藏匿俱未可定著傳諭各該督撫  
一體派委員弁嚴密查拏毋使一名漏網至該犯  
等所得贓物若即在奉天一帶上岸變賣則就近

緝拏尤易為力並著嵩椿等飭屬留心踴緝毋令稍有疎懈以致盜犯遠颺將此由五百里傳諭各督撫並令嵩椿等知之欽此遵  
旨寄信前來

114 乾隆五十五年十一月二十六日內閣奉

上諭惠齡奏審擬昌邑縣民人隋必蔭殺死無服族叔隋有喜等一家六命一案已批交三法司核擬速奏此等克犯不法已極照例問擬凌遲即應一面奏聞一面恭請王命先行正法若照尋常案件之例等候部覆設或疎於防範越獄脫逃或竟染患病症瘦死獄中使克犯倖逃顯戮日久百姓或不知為何事惠齡審擬隋必蔭一案不即正法殊屬拘泥著傳旨申飭此等兇徒害命眾証可據豈尚慮及地方官究彼乎嗣後各直省凡殺死一家三命以上克犯審明後均著即行正法以儆兇殘因思愚民無知輕於罹法往往以細故微嫌逞忿斃命與其犯案後示以懲創莫若平時切實化導

俾知畏罪保身勉為良善督撫等身居省會且所屬地方寬廣或不能親臨訓誨其知州知縣等均係親民之官於聽斷詞訟收納錢糧之時皆得與所部民人相接自應隨時隨事將天理國法之宜畏身家性命之宜保剴切宣諭俾共知曉庶使暴戾之氣漸消而民俗敦龐可收默化潛移之效朕辦理庶獄每見此等逞兇案犯不能道之以德不得不齊之以刑方且引以為愧地方官皆有訓迪斯民之責尤當於風俗民情加之意也欽此

115 同日奉

旨隋必蔭即著凌遲處死餘依議欽此

昌邑縣民人殺死一家六命

116 同日奉

旨票落著即處斬餘依議欽此

奉天錫伯殺死二命

117 乾隆五十五年十一月二十六日奉

旨李佩李吉林四卓元俱著即處斬梟示餘依議欽此

118 同日奉

旨郭二狗子著即處斬餘依議欽此

因姦毒殺二命一案

119 同日奉

旨李麻子候二馬老俱著即處斬餘依議欽此

強盜行劫一案

120 乾隆五十五年十一月二十六日內閣奉

上諭宋思仁著調補濟南府知府所遺泰安府知府員缺著徐大榕補授欽此

121 十一月初一日孫士毅等奏請將江蘇句容縣

知縣改為調缺金壇縣知縣改為選缺等因一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

現經議准於本日具

題臣等是以毋庸擬寫

諭旨進

呈謹

奏

122 川省候補道員奉

旨遇有各省道員缺出開列進呈名單

候補道良 柱

126 同日奉

旨黃開性吳申嵐黃戟俱准其貶封該部知道摺併

發欽此

123 川省候補知府奉

旨遇有各省知府缺出開列進呈名單

候補知府遇 昌

候補知府色穆懇

候補知府札克桑阿

127 乾隆五十五年十一月二十八日奉

旨此案仍著吉慶王昶就近在湖南提集犯証秉公

嚴審定擬具奏其回程路過豫省時並著將新鄉

縣民人張兆欠錢不還一案一併審明具奏所有

逃軍蒲太沂著照例迅解湖南聽候質訊欽此

十一月二十七日

128 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎吉 王 乾隆五十五年十一月二十八

日奉

124 乾隆五十五年十一月二十七日內閣奉

上諭福建汀州府知府員缺著遇昌補授欽此

125 同日內閣奉

上諭廣西思恩府知府員缺著色穆懇補授欽此

上諭據步軍統領衙門奏湖南民人蒲太沂呈控前

在湖南永明縣因控告徐吉賢等賄買武童案首

等事本省審係証告發配河南新鄉縣充軍今在

配所脫逃來京申訴前案並控新鄉縣民人張兆

等欠錢不還各等情蒲太沂前在湖南所控各案

經該省總督審係誣告且又有教唆詞訟之案將該犯問擬軍罪發配河南乃於在配四年後膽敢潛逃赴京以從前楚省所辦負屈復行翻控如該省前此審辦之案果有屈抑自應秉公研究倘該犯以逃軍赴控妄希誣控翻案更當嚴行治罪以儆刁風現將蒲太沂一犯解交湖南著傳諭吉慶王昶於湖南審辦長沙縣保正王澤遠呈控倉書勒派採買一案之便就近提集犯誣悉心研審毋任狡展至該犯所控親鄉縣民人張兆欠錢不還一案並著吉慶等於回程過豫時一併嚴訊明確定擬具奏將此由五百里諭令知之欽此遵旨寄信前來

129 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 沿海各省督撫 乾隆五十五年十一月二十八日奉

上諭孫士毅奏寶山縣江東海口外沙灘上於潮退時起獲銅砲一位鐵砲四位並無銹蝕痕跡亦未鑄有年月字樣自係沿海各營汛之砲被匪盜偷

竊經弁兵追尋匪盜等攜帶不及棄擲水中現飭總兵魏轍知州西琳親往查驗等語此項砲位在海口外沙灘起獲該處並無民居自係盜船棄擲該督恐沿海各營有遺失砲位之事現在通飭嚴查綠營向有諱盜報惡習其弊或不出此但思砲位並無銹蝕痕跡尚係新鑄之砲拋入水中當亦不久而各砲未鑄年月字樣又似非各營所安設者且起出之砲係縣役會同營兵查獲若果營中遺失諱匿未報豈肯自行出首或係出洋商船在外國貿易置買砲位防禦盜賊回內地後不便攜帶棄擲海濱或係盜匪劫奪商船砲位在沙灘私行藏匿均未可定著該督即會同提督陳大用通查沿海附近各營安設砲位是否齊全式樣是否相同抑或此項砲位竟屬商船遺失之處詳悉查明據實覆奏至砲位為軍火要需民間原不應私行製造即商船在外夷置買以為途中禦盜之用亦當於進口時報明呈繳地方官酌量給予價值分撥各營備用方為妥善並著該督申明例禁酌定章程一併具奏所有沿海各地方並著各督

撫嚴飭所屬一體照此稽查收繳欽此遵  
旨寄信前來

130 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 乾隆五十五年十一月二十八

日奉

上諭孫士毅奏據降調通判葉文麟稟稱於署通州任內有所屬秦興縣承審搶奪一案該縣係於九月二十七日解州該署州於十月初七日審轉經署臬司張銘遺漏未辦率將解州日期移改十月十六日通州知州呂燕昭不行據實詳明輒將職名開送以致該署州降調現將此案是否實情行令按察使東公確查徹底究辦等語州縣臬司承審及審轉案件俱有一定例限如有遲延即應將何衙門逾限之處聲明聽候部議豈容私自移改日期迴護處分諉過屬員但該署州葉文麟於所屬承審遲延不行揭報致被叅處或係捏詞妄稟異圖卸罪亦未可定均應徹底究辦整飭官方著

傳諭該督即弔取案卷核對日期據實查明具奏以昭平允又據該督另摺奏稱沭陽縣民張懷路呈告監生仲見龍之祖仲繩所著奈何吟一本辭多狂悖現在提犯來省從嚴審辦等語因將所著奈何吟一本詳加披閱雖不至如呂留良徐述夔之狂吠顯肆悖逆但其詩詞內如舉世盡成狐假虎及石渠天祿釀成禍種等句甚屬謬妄看來該犯竟係一不通之人求名未遂怨憤牢騷因而逞臆編造語涉妄誕不可不從嚴懲辦並著該督查明作詩之仲繩現在是否尚存因何作此悖妄語句伊孫仲見龍因何藏匿不繳提犯至省嚴訊定擬具奏將此由四百里傳諭知之欽此遵

旨寄信前來



<sup>131</sup> 乾隆五十五年十一月二十八日奉

旨鄭敏嚴鰲杜魁光俱著准其貤封該部知道摺併發欽此

<sup>132</sup> 乾隆五十五年十一月二十八日奉

旨李南馨楊正聲俱著准其貤封該部知道摺併發欽此

<sup>133</sup> 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

傳諭粵海關監督額爾登布 乾隆五十五年

十一月二十九日奉

上諭福康安等奏報徵收關稅期滿一摺核計五十六年徵收數目比照四十一二兩年均多收銀五十三萬九千一百餘兩因思粵海關收納洋貨稅課每年徵收盈絀不在洋船之多寡惟視貨物之粗細到關細貨較多則徵收自裕但若鐘表羽呢等件究非民間常用之物銷售未能迅速即商船

販運稍多所致稅銀亦不應比較盈餘多至五十萬九千餘兩朕聞外洋夷地與俄羅斯相連近年俄羅斯因未通貿易非邊一帶稽查嚴緊私將海龍黑狐等項皮張貨物由洋船販至廣東售賣恐該關稅課充盈或由于此俄羅斯需用內地大黃茶葉等物刻不可離若私販皮貨至粵自必易換該國必需之物透漏出洋是名為閉關仍不能全行禁絕著傳諭福康安等於粵海關洋船進口時嚴密稽查有無前項情弊如販有海龍等物務須嚴行查禁毋任稍有透越亦不得因稽查違禁貨物遂將稅銀短少也至此該關洋貨究係何項貨物以致稅課增多即著查明開列清單呈覽

欽此遵

旨寄信前來

134 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十五年十一月二十九日奉

上諭據福崧奏查勘海塘實在情形將應辦工程分別緩急次第興修一摺所辦尚好海塘工程保衛民生為浙省應辦要務現據該撫所奏情形應行補修之處甚多自應及時籌辦斷不可再有因循著傳諭該撫務須督率所屬將應辦各工次第經理俾臻完善毋得玩愒從事也除令琅玕明白迴奏外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

135 大學士公阿 大學士伯和 字寄

哈蜜辦事頭等侍衛琅 乾隆五十五年十一月二十九日奉

上諭據福崧奏浙省海塘近年以來未曾安實歲修現在柴石工程潑損埴墊之處甚多彼時前撫臣琅玕並未前往查勘據實奏報等語浙省海塘工

程關係民生保障經朕屢次親臨相度特發帑金改建石工永資鞏固是該處工程為浙省第一應辦要務琅玕身任巡撫是其專責自應隨時親往查勘據實具奏乃竟安坐衙署並不前往閱視殊不可解豈于保衛民生之事視同膜外全不經心耶著將福崧原摺抄寄琅玕閱看令其據實明白回奏欽此遵

旨寄信前來

136 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江兩廣陝甘雲貴閩浙各省總督 乾隆五十五年十一月三十日奉

上諭本年八月內經軍機大臣議覆浙江提督陳杰奏弁兵艱於考拔一摺行令兩江等省總督與提督隔省及駐劄相遠者即將考拔千把外委章程悉心妥議具奏到日再行核議事隔三月之久本日始據畢沅酌議具奏已屬遲緩而兩江兩廣陝甘雲貴閩浙各省至今尚未奏到尤屬延宕著傳

諭該督等即將隔省各標營如何就近令提督總兵自行考拔之處迅速妥議覆奏將此諭各令知之欽此遵

旨寄信前來

137 查湖北棗陽縣劣生蔣宗雅恃矜健訟一案學

政李長森於八月初三日奏到奉有

諭旨交畢沅查明蔣宗雅抗不赴審是何案件平日

有無逞刁唆訟抑或該學政有意屈抑之處東

公究辦嗣於十月十三日畢沅將實係該劣生

挾嫌誣控希圖勒詐先行覆奏奉

硃批似此健訟應嚴辦即奏來欽此茲據畢沅審明

定擬於十一月十九日具奏臣等核對月日尚

不甚遲謹

奏

紅本內詳查事蹟謹摘敘略節進

呈謹

奏

139 大學士公阿 大學士伯和 字寄

烏魯木齊都統尚 乾隆五十五年十二月初

一日奉

上諭尚安奏緞來縣民人吳文德向鄒緒堂索欠未

償越日鄒緒堂帶同兵丁何奉朝赴吳文德舖內

尋鬧該犯躲避未見嗣因買食西瓜與何奉朝挾

坐相碰致被詈罵吳文德觸起前嫌將何奉朝扎

傷身死請照故殺律擬斬監候等語此案鄒緒堂

向吳文德爭鬧何奉朝不過隨同前往吳文德於

他處相遇輒因口角微釁觸起前嫌將何奉朝立

扎斃命情殊兇惡且事犯在本年秋審以前著傳

諭尚安將該犯入於本年秋季審情重人犯內即行

正法將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

138 遵

旨將順治年間內監吳良輔納賄營私原案於

140 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 乾隆五十五年十二月初一日  
奉

上諭據畢沅奏楚非訟風最甚一經控准竄跡遠颺民間有只圖准不圖審之謗每屆放告之期接閱詞狀即將具呈人押交藩臬立時審辦倘有原告規避已逾兩月者即照新例詳明銷案仍俟緝獲原告治罪統計結過各案一千五百餘件未結各案現俱派員分審立限速結等語楚省民情刁悍素以健訟為能但若如所辦何致原告規避希冀牽引株連為洩忿陷人之計此等刁民甚屬可惡自當嚴行懲創以儆惡習今畢沅督率地方官嚴審速結並將具呈人立即管押毋令遠颺所辦尚好但該督自到任以來迄今已及兩載於地方事件並未實力整頓惟此一奏尚覺稍有良心然亦因近日楚省赴京呈控者紛紛不絕派往審辦之吉慶等久駐該省畢沅恐民風日益刁健始行留心查辦立法嚴懲是所辦雖屬認真而平日不及

五六

早清釐以致塵案累積告訐成風亦難辭急緩之咎且恐此奏仍屬虛言也况地方官收受呈詞後即應將原告之人扣留待質乃任其匿不到案枉累無辜而闖草疲玩之員籍辭延宕懸案不結就該督所奏情形而論是該省之吏治廢弛已不啻自行呈首矣嗣後該督等務須督率所屬遇有控案立即管押原告迅速審斷倘敢潛行逃避情虛已可概見莫若照原告兩月不到立案不行之例竟可毋庸審辦詳明銷案其任聽原告逃匿之地方官即從嚴叅處仍俟緝獲原告到案重治其罪庶使此等刁惡訟棍知所做懼或可稍為斂迹也將此傳諭畢沅並諭福寧知之欽此遵

旨寄信前來

141 乾隆五十五年十二月初一日內閣奉

上諭朱珪奏旌德縣貢生朱麟書五世一堂請錫予恩賚等語朱麟書慶衍曾元洵為盛事所有應行賞賚之處著該部照例辦理摺併發欽此

142 乾隆五十五年十二月初一日奉

旨這所叅鄖西縣知縣耿符賁著革職交該督提同案犯嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

143 遵

旨查任舉在固原遊擊任內擒獲糾眾搶劫之不法

兵丁一案謹將

國史館所纂任舉列傳粘簽進

呈謹

奏

144 乾隆五十五年十二月初二日奉

旨韓樹猷著加恩准其贖罪欽此

145 遵

旨將

硃批孫士毅等奏到查辦灘地緣由一摺交九卿等

閱看據彭元瑞等僉稱黃河南北兩岸築堤捍

禦原以防河水盛漲時為之保障自當以河流

正身分別大堤內外乃本年王平莊民堰漫塌

冲刷溝槽由毛城鋪滾水下注洪河而河臣等

奏報總未將王平莊在毛城鋪大堤之內詳晰

聲敘以致堤內堤外牽混倒置誠如

聖諭自係從前河臣等意圖影射以堤內之民田廬

舍為堤外倘遇黃水冲缺口岸即可指稱在堤

外漫溢以為掩蓋朦混地步茲蒙

皇上明切訓示嗣後河臣等自不敢稍有牽混至堤

內河灘不許民間復有侵佔其現有村莊戶口

俱逐一清查履勘各督撫均仰承

聖訓遵照辦理凡關係河務民生皆上賴

聖主愛養保全得以永臻寧貼臣等恭聞之下實深

欽佩悅服等語謹

奏

116 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎慶 乾隆五十五年十二月初三日奉

上諭慶成帶同尹壯圖前往山西盤查虧空該侍郎

係欽派大臣自當照例支予廩給尹壯圖乃自請

前往之員止給駟馬已屬格外恩施加以體恤自

不應復予廩給但伊本係窮儒所帶盤費想亦無

多如果不敷用度慶成不妨將自領廩給及跟役

口糧內酌量分給以資日用並著慶成傳旨曉諭

尹壯圖伊之謬妄之處固難辭咎然究係愚昧無

知其罪斷不至死亦不值治以重罪現在接奉諭

旨令爾認真盤查如果得有實據聖恩尚當嘉予

如爾不能周察我係特派之人自當助爾實力查

辦如此明白曉諭庶足以折服其心無可藉口若

尹壯圖自揣罪重途中或欲自尋短見則是罪由

自取即著慶成一面奏聞一面將伊拏解小心防

護送京朕必明數其罪立寘典刑不能復邀寬貸

矣至尹壯圖此次由直隸至山西將來事竣回程

時即當盤查正定保定等處或令其再往山東江

浙等省盤查均未可定慶成務須留心查察若有

沿途地方官有與尹壯圖私相餽遺之事及或與

揚州鹽商等交接餽問即著慶成密為存記回京

時據實指名奏聞候朕酌量處治該侍郎不得稍

為隱飾也又前據尹壯圖摺內稱比將此諭令知之欽此遵年認罰最多之

面寄信前來所得廉俸除用度應酬外尚餘若干又

從何處生法若干始完如許罰項等語書麟即係

有罰項之人此時尹壯圖現隨慶成在太原省城

盤查司庫即著慶成帶同尹壯圖面向書麟詢問

將書麟罰項若干除用度外究於何處生法詳詢

書麟書麟作何登覆之處令其據實覆奏如慶成

等盤查完竣業已起程接奉此旨後即著帶同尹

壯圖速回太原遵旨詢問毋得延緩或將來令其

再詢長麟亦未可定將此由正定一帶迎探諭令

知之欽此遵

旨寄信前來

147 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎慶 山西巡撫書 直隸山東江南浙江

各督撫 乾隆五十五年十二月初三日奉

上諭據書麟奏慶成及隨帶司員等自入山西境後  
例有廩給亦不支領等語向來欽派大臣出差俱  
按品支予廩給前因尹壯圖係自請照查之員是  
以降旨止給驛馬不予廩給至慶成係朕特派帶  
同尹壯圖前往所有應得之項自應照例支領再  
此次盤查太原省城司庫之後倘尹壯圖復欲向  
伊所指之直隸山東江浙等省前往抽查亦未可  
定著傳諭各督撫於該侍郎等到省時俱遵照前  
旨尹壯圖止須給以驛馬其慶成及隨帶司員應  
得廩給仍行按例給予將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

148 乾隆五十五年十二月初三日內閣奉

上諭前據尹壯圖奏督撫等籍交罰項為名派累屬  
員致有虧缺且言督撫等聲名狼籍吏治廢弛各

省風氣大抵皆然若果所言確有指証據實劾參  
朕必從嚴究辦而尹壯圖兩次奏覆仍未指出一  
人一事實據因伊有自請照查之奏當派侍郎慶  
成帶同前往山西切實盤查該省係書麟管轄即  
伊摺內所指之人也倘有侵虧自不肯為之隱諱  
今慶成偕尹壯圖馳抵大同府會同書麟將庫項  
逐一查點彈兌絲毫並無短少復將倉穀丈量盤  
驗石數亦屬相符並據尹壯圖奏明親自盤查不  
能指出虧空確據陳奏不實之咎百喙難辭懇即  
回京治罪是其前奏之逞臆妄談幾如捕風捉影  
毫無憑據實已不能置辦但閱其摺內仍稱猥以  
蠢愚冒瀆聖聰蒙派往山西盤察倉庫晝夜趕程  
誠恐偶冒霜露之疾不能平安回京以受朝廷處  
治轉非為臣之體等語是何言即往查是伊所請  
今既派往又欲回京人臣受君命者當如是乎且  
伊奏摺祇云各督撫藉口罰項派累貪婪各州縣  
倉庫侵虧官吏欺蔽並未言及朕之得失若所奏  
皆能確實倉庫竟有虧缺方將嘉其公正治督撫  
等以應得之罪今尹壯圖自知虛捏而認罪之語

一則曰冒瀆聖聽再則曰受朝廷處治故為隱躍其辭轉似伊抗疏諫諍朕不能容受直言者然則其居心巧詐殆不可問且所奏倉庫虧缺始而欲派滿洲大臣同往查訪茲以大同府庫無虧又不欲赴他處盤驗遽請回京似此進退任意已犯人臣無將之義矣尹壯圖雖非積學亦曾讀書寧不知人臣無將將則必誅乎在尹壯圖之意徒以備職間曹內而不能僅用侍郎外而不能如錢澧之簡派學政藉得養廉公費因思此秦仰希陞擢伊之才具迂謬固不待言即以學問而論前奏各摺內字畫訛舛之處不一而足豈能勝訓迪士子之任蓋伊亦自知才具學問均屬平常即或不能邀恩錄用猶可以建白沽謹直之名且得藉盤查各省倉庫為辭沿途嚇詐挾制官吏將來或盤至淮揚一帶齷齪等畏其聲勢共相扶助伊既坐博高名又可廣漁厚利以為名利兼收之舉此在尋常庸主尚不能受其欺蔽若朕燭照所及情偽周知小人心術早已洞見肺肝尹壯圖視朕為何如主而敢以此等伎倆在朕前嘗試耶朕臨御五十五

年敬

天勤民勵精圖治仰膺

吳春海宇又安自踐阼以迄今茲年躋八袞親綜萬幾貪官蠹吏如王亶望陳輝祖國泰郝碩等有犯必懲從不肯輕縱殃民稍滋擾累是朕之愛民勤政五十五年如一日返躬自問實無失德即云罰項一事亦不過因督撫等偶有公過量予薄懲且實為愛惜人才起見不但滿洲人員無幾即漢員中人才可用者亦屬難得是以不即罷斥令其罰繳養廉為地方公用以贖其尸位素餐之咎况金作贖刑制於虞典罰緩輕重見於呂刑古之聖帝明王明罰勅法皆所不廢朕之酌議罰項豈得謂之過舉乎方今我國家帑藏充裕富於民普免漕糧地丁及偏災蠲賑不啻數十萬萬區區罰項尚不及億萬分之一若云貪此微利則辭十萬而受萬斷無是理况億萬分之一乎尹壯圖全不知朕用人之苦心而冒為此奏真同夢囈朕轉不嫌其謬妄但覺其可笑可鄙耳至尹壯圖盤查外省倉庫是其自行奏請今甫查過大同府庫並無虧缺



伊雖自言大同如此太原可知但尹壯圖摺內所指原不止山西一省查無虧缺恐不足以服其心尚當前赴山東及直隸正定保定等處亦著慶成帶同順道前往切實盤驗若言近省尚無侵虧情弊即照伊摺內所指各省遍歷詳查亦無不可朕辦理庶務從不肯憚忤混過尹壯圖不得惟以空言支飾致蹈欺罔之咎仍著明白迴奏欽此

149 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

乾隆五十五年十二月初三日奉

上諭據福康安等奏提訊崖州案內生存弁兵一摺內稱錢邦彥在洋面被害在前張中秀趕及在後與兵丁奮力殺賊該弁兵俱因抵禦受傷並非畏賊偷生總兵陸廷柱與錢邦彥分路巡哨當錢邦彥失事時陸廷柱之船相去二三百里無從得信不能前往救應至錢邦彥被害後船隻擱在河灘一節查核情形與原勘亦屬符合尚非裝點捏飾等語所奏查出各實情俱已閱悉惟是此案盜匪

拒捕戕官迄今已逾數月尚無一犯就獲殊屬不成事體著傳諭福康安郭世勳嚴催該提鎮督率員弁於沿海口岸實力緝務將尤盜盡數拏獲以靖海疆毋任日久遠竄致成海捕具文今得發犯否將此五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

150 遵

旨將昨日所奉明發

諭旨及寄信慶成

諭旨二道令大學士九卿閱看據嵇璜等僉稱尹壯

圖前奏各省倉庫虧缺商民興嘆等摺逞臆妄

談已屬罪無可逭蒙

皇上不加嚴譴

特派侍郎慶成帶同前赴伊所指書麟管轄之山西

省確切盤查茲據奏到大同一府倉庫毫無虧

缺是其從前所奏盡屬虛誣已可概見自應惶

悚無地引罪不遑乃尹壯圖摺內輒稱冒瀆

聖聰受

朝廷處治等語實屬措詞乖謬以陳奏地方之事  
邀譽市惠轉借愚慧之名以濟其私其居心尤  
不可問且伊係自請盤查之人今甫至大同一  
查即請回京竟若進退可以自由大夫人臣事  
君之道蒙

皇上示以無將之義揭其巧詐之私不特尹壯圖無  
地自容即璜等亦倍深敬凜至尹壯圖種種謬  
妄自外生成乃荷

皇上曲加矜宥猶  
命慶成酌分廩給俾資日用益仰見  
天地廣大之恩無物不煦在尹壯圖受  
恩如此深重則其昧良妄誕之罪尤不可寬璜等跪

閱之下實深欽服悚惕等語謹

奏  
十二月初四日

151 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十五年十二月初四日  
奉

上諭據惠齡彙奏通省城工一摺內稱陽穀等縣四

十二處係前撫長麟奏准借帑生息興修其福山  
縣一處現據報本年雨水過多坍塌城垣段落已  
飭府查勘另行辦理等語東省應修之陽穀等縣  
四十二處城垣經長麟奏明借帑交商生意分限  
興修此項工程浩大為各處地方保障長麟前經  
估奏未及興修交與惠齡接辦所有一切應辦事  
宜該撫務須按照章程即行詳慎查勘確加核定  
不得任聽屬員草率從事致有偷減情弊其福山  
縣城垣既據奏稱坍塌段落亦著該撫切實勘明  
另行辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

152 查前奉

諭旨詢問新正應否加恩展賑係直隸山東江蘇安  
徽四省其直隸省前據梁肯堂奏現派署藩司  
阿精阿前往各州縣確切抽查再行分晰具奏  
外所有山東江蘇安徽三省已據孫士毅等覆  
奏前來臣等謹遵

旨先行擬寫

加恩

諭旨進

呈應於新正何日

頒發之處敬謹空寫恭候

欽定謹

奏

153

臣等查乾隆五十四五兩年

上諭內有

特恩頒發

諭旨敬謹抄錄照例歸匣進

呈謹

奏

十二月初五日

154 大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建巡撫浦 乾隆五十五年十二月初五日

奉

上諭據浦霖奏接奉調補福建巡撫諭旨即於十一

月二十日自湖南起程懇請來京陛見等語已於

摺內批令不必來矣福建地方民刁俗悍非湖南

可比且係海疆重地一應緝拏洋盜稽查奸匪等

事均關緊要浦霖係新調閩省恐於該處情形未

能諳習著傳諭該撫到任後辦理地方事件加意

講求留心整飭一二年後再行奏請陛見亦不為

遲浦霖於何處接奉此旨即由該處速赴新任將

此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

155

查許世亨之子許文模承襲伯爵在頭等侍衛

上行走本年四月內蒙

恩給予本年伯俸並

賞給安定門五道營官房一所現在該員已告假回

川迎接伊母前據保寧奏到孫士毅在川督任

內曾移文幫給許文模家屬路費銀一千八百

兩許文模業於九月十九日啟程進京等語謹

奏

十二月初六日

156 本年十一月初一日兩江總督孫士毅等奏請

以荆溪縣知縣呂聖宗調補吳江縣知縣嘉定

縣知縣於一芳調補震澤縣知縣一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

將呂聖宗調補吳江縣之處恭候

欽定其於一芳照例議駁於本日具

題臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

十二月初六日

157 乾隆五十五年十二月初六日奉

旨呂聖宗於一芳俱著照該督等所請行餘依議欽

此

158

本月初六日兵部將直隸永寧路都司推陞廣

東高廉羅鎮中軍游擊晁運昌一員帶領引

見奉

旨晁運昌著交軍機處記名欽此 十二月初七日

159 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安徽巡撫朱 乾隆五十五年十二月初八日

奉

上諭刑部題覆安徽省盜犯馬虎等行劫黃永亮家

並姦汚事主孀母一案已照部議將現獲之盜犯

馬虎即行斬梟其盜首馬玩受亦經拏獲正法此

案逸盜尚有馬迎受李文受二犯俱係隨同行劫

在外接贓至今未經緝獲該犯等籍隸合肥著傳

諭朱珪飭令地方文武員弁上緊緝拏務期迅就

弋獲毋任遠颺漏網將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

160

本年十二月初四日山東巡撫惠齡奏請以候

補知州范東輝署理莒州知州一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

照例議駁於本日具

題 等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

初八日

161 乾隆五十五年十二月初八日奉

旨范東輝著照該撫所請行欽此

162 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十五年十二月初八日

奉

上諭直隸山東山西湖北等省俱經各督撫陸續奏

報得雪豫省與該數省境壤毗連自應一律均被

祥霽且距京甚近何以該撫迄今未見奏到是否

該省尚未得有雪澤抑業經得雪或未據各屬報

齊是以具奏稍遲耶著傳諭穆和蘭即將現在該

省曾否得雪情形迅速具奏以慰屢注將此由五

百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

163 乾隆五十五年十二月初八日內閣奉

上諭惠齡奏昌樂縣監犯周一夔因毆傷李鐸斃命

一案收禁縣監自用拷上鐵釘碰傷身死請將

典史湯承裕革職嚴訊署知縣徐時樂一併革職

等語監獄是典史專責湯承裕於所管監獄漫不

經心致要犯在監自戕自應革職示懲至該縣知

縣雖不能辭疎忽之咎但究屬有獄官係兼管之

員尚可從寬免其革職仍著交部議處欽此

164 查書麟因失察高郵州書吏假串重徵一案自

行議罰銀三萬兩尚未到限此外並無罰項現

在仍支食山西巡撫養廉至長麟前於審擬平

度州張子布錯誤一案自請罰銀三萬兩奉

旨寬免銀一萬兩本年十月內該撫已交銀一萬兩

現在長麟署理江蘇巡撫不准支領養廉謹

奏

初八日

旨查順治年間彭長庚請復睿親王爵號

命議政王貝勒大臣會同密議具奏一案臣等恭查

實錄並順治十二年

紅本一併摘叙抄錄進

呈謹

奏

初八日

上諭前經尹壯圖查明大同府庫無虧懇請回京朕

以尹壯圖所指原不止山西一省今其查明藩庫

後再赴直隸及山東江南等省逐加盤驗並以其

前摺內稱請詢各督撫所得廉俸除每年用度酬

應又從何處生法始完如許賠項等語因即令伊

就近詢問書麟據實登覆想未接奉前旨茲據慶

成帶同尹壯圖至太原省城赴藩庫眼同點驗銀

款與清冊相符絲毫無缺已自太原起程回京仍

著慶成遵旨帶尹壯圖速回太原以前奏之語向

書麟切實詢問將該撫作何登答之處詳悉覆奏至此次尹壯圖來往山西經過各州縣地方甚多小民等有無感額之狀興嘆之語並著尹壯圖於途中體察諮詢一併據實覆奏事竣回程時即行遵照前旨盤查正定保定等處再前赴山東濟南由旱路至江南等省遍歷詳查不拘省城及各府州縣尹壯圖欲往何處即帶同前往盤驗以服其心長麟係有罰項之人且係尹壯圖摺內所指獨善其身不能整飭吏治者今山東為長麟舊管地方江蘇乃長麟新調之省且長麟曾任江蘇藩臬各府州縣原其所屬尹壯圖欲實其言自必認真查察斷不肯為之隱諱若又為之隱諱做好人則進退無據更不成人矣尹壯圖見長麟時並著照詢問書麟之語向該撫詢問所繳罰項究於何處生法若干看其如何登覆據實奏聞至尹壯圖前奏有密查虧空一語所見尤謬京中派往大臣原不能掩人耳目若令改裝易服密往訪查國家更無此政體倘以督撫藩臬皆不可信寄耳目於密查之人豈簡用之封疆大吏以及監司方面盡人

可疑獨似尹壯圖之一二人可以寄之心膂乎萬一併此一二人而疑之是輾轉生疑朕將不能自信何以綜理萬幾撫馭天下乎即或督撫中貪婪敗檢如王亶望陳輝祖國泰郝碩等皆昧良負恩為天理所不容無不自行敗露陷於重辟並非朕有意苛求稍存逆億也在尹壯圖之意不過以久滯間曹希圖陞擢自問才具於侍郎尚恐無分或思藉建白見長妄冀簡派學政殊不知伊之學問尤屬陋劣即如節次奏摺桀驁詭為傑驁孟浪訛為夢浪今日摺內之眼同又訛為衍同別字不一而足豈能勝訓迪士子之任又若自請赴外省盤查且厯指各州縣俱有虧空蓋因伊丁憂時往來各省或有與地方官交接抽豐之事而地方官未遂所欲故向伊將地方清苦公私賠累之處藉詞抵塞此係外官常有陋習而尹壯圖遂信以為實冒昧入告又可藉盤查為名需索嚇詐其居心卑鄙即此可見安能逃朕洞鑒耶欽此

167 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎慶 乾隆五十五年十二月初九日奉  
上諭前經降旨令慶成帶同尹壯圖將應詢問書麟之語眼同詢問如已竣事回京仍即馳赴太原今據該侍郎奏稱查明山西藩庫無虧現由大同一路旋京想前旨尚未奉到著傳諭慶成仍即遵旨回至太原帶同尹壯圖向書麟詢問覆奏事竣回程仍赴直隸山東江南等省一體盤查辦理至尹壯圖係請往盤查之人不便給予廩給朕念其本係窮儒資斧不繼令慶成將跟役口糧酌量分給以示體恤慶成不可因有此旨欲向尹壯圖見好將自領廩給再行仗助也將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

168 乾隆五十五年十二月初九日奉

旨單祐忻著即處斬餘依議欽此

刑部議覆山東高密縣民單祐忻  
行竊臨時拒捕傷命一案

169 本年十一月初五日勒保奏請將安肅道榮德  
調補鎮迪道候補道景如柏補授安肅道一摺  
奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今吏部業經議

駁於本日具

題臣等謹遵

旨擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

十二月初九日

170 乾隆五十五年十二月初九日奉  
旨榮德等著照該督所請行欽此

171 乾隆五十五年十二月初十日內閣奉  
上諭浙江杭嘉湖道員缺著良柱補授欽此

172 同日奉

旨這所叅平利縣知縣李細著革職該部知道摺併  
發欽此

173 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 乾隆五十五年十二月十一日  
奉

上諭前據孫士毅奏寶山縣江東海口外沙灘上於  
潮退時起獲銅砲一位鐵砲四位現飭總兵魏轍  
等前往查驗本日據陳大用奏會同該鎮等公同  
驗看其鐵砲均與營製不同銅砲亦係舊色所有  
沿海各營存貯之砲查與冊報足額相符並無遺  
失等語寶山縣所獲砲位既非營砲著傳諭孫士  
毅將鐵砲四位留於該省酌量改鑄軍器所有銅  
砲一位著即送京其鐵砲若無需用之處亦一併



送京該督祇須於漕船之便將砲位飭交運員順  
便帶運毋庸專員解送也將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

174 本日戶部議覆費淳條奏滇銅運京一摺臣等

遵

旨擬寫

諭旨進

呈至運員自備餘銅應歸江省委員出售一節誠

如

聖諭江省究係接運之員所得餘銅售出價值全行  
給予未免過優但交與倉場侍郎經官售賣其  
中保無有書役人等從中滋弊於該運員轉無  
裨益臣等公同籌酌此項餘銅按解運各省盤  
查後遞相交還價值俟江省委員到京交足正  
額後仍准其以餘銅出售似各委員均不至有  
偏枯謹於

諭旨內寫入伏候

訓示再滇銅經過各省地方所有應派各該督撫謹

於

諭旨內空出開列名單進

呈恭候

簡派謹

奏

十二月十一日

175 乾隆五十五年十二月十一日奉

旨據刑部訊明浙江道御史和寧前在張家口監督  
任內所有未完稅課盈餘銀兩實因是年張家口  
被旱成災客貨往來稀少所致並行文直隸總督  
查明屬實是該員應繳盈餘銀兩逾限不交尚屬  
有因惟從前奏報時浮報虛數較前任尚稍有加  
多則其欺飾之咎自所應得和寧著照擬革職其  
未完盈餘等項銀一萬二千餘兩著免其賠繳所  
有將該員住房變抵及在近支子弟內坐扣糧俸  
之處俱著加恩一體寬免欽此

176 前奉

諭旨詢問直隸省新正應否加恩展賑茲據梁肯堂

查覆前來臣等謹擬寫

加恩

諭旨進

呈應於新正何日

頒發之處伏候

欽定再前次呈遞新正

加恩諭旨奉

硃筆標出頒發日期江蘇安徽二省係初二日山東

省係初四日合併聲明謹

奏

177 乾隆五十五年十二月十一日奉

旨田華著即凌遲處死趙氏依擬應絞著監候秋後

處決餘依議欽此

刑部議覆貴州民人田華因姦

商同謀殺胞兄田榮身死一案

178 乾隆五十五年十二月十一日奉

旨蔡程氏著即凌遲處死蔡之勇著即處斬欽此

刑部議覆甘肅隆德縣民蔡之勇因

姦商同謀死本夫私埋滅跡一案

179 臣等遵

旨詢問金簡德成將皋蘭修建郭城一案應否准駁

因何意見不同據金簡稱福康安原奏雖無改

造字樣而摺內歷敘應修之城臺樓座應行拆

建原未遺漏勒保估冊送部即將改做法詳

細聲敘所銷銀兩並未出原奏估計之數送到

估冊已准照估興修題銷時自應議准等語復

據德成稱此項城工福康安原奏祇言通行拆

建並未將應行更改之處確切聲明勒保題估

本內恐難准銷亦未詳敘僅於估冊內添入與

原奏不符所有多用銀兩應行刪減等語彼此

各執一詞互有爭論及詢之侍郎鄒奕孝張若

淳應以何人所言為是辦理此案究竟主准主

駁據該侍郎等同稱署中辦理公務本無偏向  
此案惟改造與拆建字樣不同原奏未經敘出  
然估冊業經聲明銀數又與原估相符亦於定  
例無礙我等意欲將情節據實奏明請

旨德成不肯如此辦理是以未經定稿等語臣等查  
金簡德成各據原奏原冊為詞似皆近理而意  
見未能符合謹將詢問情形先行奏

聞俟明晨

召見時臣等再行面請

訓示謹

奏

十一日

180 乾隆五十五年十二月十二日內閣奉

上諭昨據德成奏甘肅臬蘭縣修建郭城一案福康  
安原奏通行拆建並未聲明改建勒保造冊題估  
照舊式均有加增實屬朦混今該督題銷到部始  
知估冊與原奏不符自應將多用銀二萬三千餘  
兩照例刪減不意尚書金簡以估冊既經敘入亦

可准銷含糊支吾不肯定案意在規避處分將錯  
就錯違例准銷等語本日召見軍機大臣及工部  
堂官等面加詢問金簡與德成各執一詞意見不  
相符合朕思工程報銷全以估冊為憑奏請興修  
摺內原不能將做法丈尺瑣瑣聲敘此案蘭州城  
工福康安原奏明言拆建即係拆去舊城全行改  
建與改造本無分別豈有城牆改寬城樓臺座仍  
照舊式興建之理且勒保題估冊內已將一應做  
法詳細開列所銷工價仍不出原估十八萬餘兩  
之外而較之該處舊城式樣城臺丈尺增加寬深  
城樓一間者廣為三間單簷者添為重簷規模恢  
廓辦理均無不合原不當苛求駁減若勒保題估  
果有浮冒金簡違例議准或竟有賄囑請托情弊  
德成即當指出參奏朕必將金簡勒保革職研審  
治以應得之罪今所辦本無不合德成惟以拆建  
改建一二字瑣屑區別曉曉爭辯明係固執已見  
藉辭攪擾以見其百折不回不畏強禦原非認真  
辦事之本意也德成身係滿洲尤不應有沽名要

譽之習即以家法杖責示懲亦不為過姑念其平日尚屬勤慎諳習工作尚可量予從寬德成著革去職任仍加恩僅令其在工部侍郎上効力行走以觀後效所有臯蘭縣郭城一案即著照估准銷欽此

181 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎慶 乾隆五十五年十二月十二日奉

上諭據尹壯圖奏遵旨回至太原省城詢問書麟覆稱所有罰項將養廉餘存銀兩完繳已屬有餘毋庸別處生法從前所奏望助屬員之語實為過當且倉庫整齊並無虧缺業已傾心帖服可否懇恩即令回京待罪等語前經降旨令慶成帶同尹壯圖於山西查辦事竣再赴正定保定并山東江南等省一體盤查慶成想已接奉前旨此次盤驗虧空原係尹壯圖自行請往且長麟即係尹壯圖摺內指出之人今山東為長麟舊管地方而江蘇又為新調之省自當令尹壯圖一併認真查察未便准令回京著傳諭慶成仍遵前旨帶同尹壯圖於

盤查正定等處後即前赴山東江南不拘省城及各府州縣聽其詳悉盤查並仍向長麟照詢問書麟之語詢以所繳罰項如何生法令其據實登覆再行迴京候旨除過河過江外不許乘舟均由旱路行走將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

182 乾隆五十五年十二月十二日奉

旨向來滇省辦運京銅八起皆派雲南官員領運自瀘州至京程途甚遠涉歷江河屢換船隻運員等入地生疎雇覓他省舵工水手多非素習往往防護疎虞銅船致有沉溺今費溥奏請派運京銅令滇員運至重慶交替自重慶至漢口儀徵等處例應換船之所即由各省選派人員更換遞運令其雇覓妥船慎選舵水可免沉溺之虞等語戶部照該藩司所奏核覆因屬慎重銅務起見惟是各省水程遼遠自重慶至漢口自漢口至儀徵再由運河進京中間相距各數千里每至交替處所凡遞運委員不能不盤查秤兌或因舳舻短少成色高

低額外需添或因結報無虧藉端勒索遞相交卸則遞有稽延勢必輾轉長途逾違程限是欲杜弊而轉致有違限誤運之漸不足以專責成而昭慎重嗣後自應仍令滇省委員長運到京庶責有專司不致互相諉卸但所歷之四川湖南湖北江西江蘇安徽山東直隸地方皆非滇員本省如江路經過險灘河道提溜打閘雇覓夫役呼應究恐不靈且遇有沉溺等事亦恐該員藉端影射不可不派委大員經理稽查所有滇銅經過之處四川著派鄂輝湖南著派馮光熊湖北著派福寧兩江著派孫士毅山東著派惠齡直隸著派梁肯堂於銅船到境時各派勤幹或道或府一員會同滇員照料押運出省境後遞相交替仍通飭各屬小心護送並令各該督撫籌定章程如何督同道府大員及地方官稽查彈壓代雇船隻之處妥議具奏不得僅以出境入境日期一奏了事倘有沉溺短少惟派出之該督撫是問嗣後每年滇省奏到銅運開幫時即照此次辦理章程將沿途各省藩臬大員開單候朕每省酌派一員經理其事俾各有專

責毋致推諉則盜賣短少之弊自可永除所有戶部核覆費淳陳奏各條俱毋庸議欽此

183 本年十二月十二日吏部將前任湖北巡撫惠齡保舉堪勝知府之武黃同知羅經一員帶領引

見奉

旨羅經著交軍機處記名

十二月十三日

184 遵

旨查閱浙總督喀爾吉善奏浙江巡撫常安貪婪

不法一案謹於

紅本內摘取畧節進

呈謹

奏

閩浙總督喀爾吉善奏劾浙江巡撫常安貪婪

一案列款參奏

一嘉松分司周宣猷收漕苦累糧戶因恐查究餽送金兩

一候補分司陳柱行賄謀補周宣猷題陞遺缺並周宣猷每年宴送養廉鹽規

一東塘同知劉宴縣丞張治行賄鑽營委署府縣等缺

一提取書吏心紅紙張銀兩入己並硬扣書吏飯食鹽菜銀兩

一杭紹嘉松四所掣鹽時常安從不一至以致鹽政廢弛

一點換鹽政承差勒獻規禮

一收受掣鹽飯錢

一借淨慈寺工程為名將商人辦公各項均行扣減

一歷年置買玉器俱令鹽道轉交鹽商承辦不

發價值

一向米行牙人闖說令送規禮許以加改平水

增添賣價

一縱令家人李十同管引承差賒取舖戶人參金珠欠銀不還

一將塘工効力人員只憑鑽刺營私甄別不公以上共十二款經原任大學士公訥親前往查審將剋扣衙堂紙劄銀兩廢弛鹽政收受鹽差規禮及受掣鹽秋審飯錢並令鹽商買辦玉器物件等五款審實共計常安並伊家人李十得過贓銀三萬三千四百一十兩查抄家產將常安照枉法贓律擬絞監候經三法司照擬核覆具

題乾隆十三年七月二十五日奉

旨常安依擬應絞著監候秋後處決餘依議欽此是年十二月內常安在監病故

十二月十三日

185 本年十二月初三日直隸總督梁肯堂奏請將  
原任河間府知府楊濬文加倍捐復原官一摺  
奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

業經議駁於本日具

題臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

186 乾隆五十五年十二月十三日奉

旨楊濬文著照該督所請行欽此

187 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十五年十二月十四日

奉

上諭前因阿拉善王旺親班巴爾福晉格格靈櫬由

內地回伊游牧曾降旨傳諭沿途各督撫於經過

時酌量雇備人夫毋致遲滯原以道路遼遠恐彼

雇覓人夫艱難是以諭令各督撫官為雇備用示

體恤而已本無令其別項供應之事今聞旺親班

巴爾於經過直境時乘坐八轎騷擾驛站妄自尊

大該督前往接見不加禮貌并高坐問伊係何姓

名梁肯堂身為總督大員祇應遵旨將人夫一項

飭屬妥為照料原不應躬出見彼及別有支應致

滋煩費若如此等差務尚需分外應付則設遇阿

哥等祇謂

兩陵經過該省又將如何支應乃該督一任旺親班巴

爾沿途擾累不行據實參劾且親自往見以致受

其侮辱心懷愧忿又復隱忍不言殊不可解梁肯

堂不當不解事至此著傳旨嚴行申飭並令明白

迴奏欽此遵

旨寄信前來

188 乾隆五十五年十二月十四日內閣奉

上諭大臣官員等奉使各省馳驛往來應給之馬匹廩給及跟役口糧各按品級以為等差於兵部勘合內逐一填註原不准例外多支乃派出之大臣等多假欵差聲勢騷擾驛站隨行官員亦復不知欵戢以致家奴跟役訛索多端者有之各該省督撫並不効叅地方官懼其凌辱惟求安靜過站曲加承應違例濫支即多用夫馬車輛勒取供給亦不敢復行爭較而辦差之家人胥役等藉端派累民間從中侵冒其弊將無所不至昨尹壯圖摺內稱地方官辦理差務胥役滋擾商民不無議論一節所言縱或過當然近年或因阮光平及各國陪臣入覲時地方官應付太過故有此語若不申明例禁嚴示創懲何以肅清郵政况地方官辦理差務毋論大小官員皆宜恪遵定例即朕省方所至守土官吏各有除道清塵之責朕猶曲加體恤切戒華靡豈遣派辦事之員轉可任情滋擾即如近日旺親班巴爾自京回伊遊牧以其送格格靈櫬

令沿途酌量給夫遂致例外多支擾累驛站伊不過一蒙古藩王地方官尚如此畏懼若朕派出之親信大臣又將如何供應耶朕軫惜民隱凡有赴京控告者無不欵派大臣前往審辦今雖馳驛人員間有騷擾之事亦不肯因噎廢食不行派遣致小民含冤莫愬也特此降旨剴切誡諭嗣後欵差大臣官員如敢於應得馬匹廩給之外稍有擾累一經發覺即行從嚴治罪若該督撫等任聽屬員違例濫付希圖見好不行叅劾亦即將該督撫一併嚴究決不姑貸欵此

189 乾隆五十五年十二月十四日奉

旨陳大文著改為革職從寬留任盧鳳道述德於茂倫重犯潛逃該知州匿不詳報並不隨時稽查著照部議降一級調用欵此



旨將寄信梁肯堂並嚴禁大臣官員馳驛往來擾累

驛站

諭旨交大學士九卿閱看據嵇璜等僉稱大臣官員

等馳驛往來應付馬匹廩給各按品級以為為等

差原不准例外多支昨因阿拉善王旺親班巴

爾于過直隸境時騷擾驛站總督梁肯堂受其

倨辱隱忍不言

特旨申飭令其明白迴奏復明降

諭旨將各地方官違例濫支並辦差家人胥役等

藉端派累從中侵冒種種情弊俱在

聖明睿照之中凡在臣工無不恪遵凜惕而我

皇上軫念民隱倘有赴京控告之人又不得不

欽派大臣前往查辦嗣後自必凜遵

功令不敢于應得馬匹廩給之外稍有擾累該督撫

等亦不敢任聽屬員違例濫付希圖見好從此

再申例禁郵政肅清益見我

皇上撫馭嚴明體卹驛站之至意臣等恭聞之下實

奏 深欽服敬凜之至等語謹

191 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩廣總督公福 乾隆五十五年十二月十五

日奉

上諭福康安奏據署臬司韓蔚稟稱委員都司盧魁

等在沿邊一帶密行偵訪洋匪踪跡隨于欽州與

安南交界之先安港口盤獲無照空船一隻擒獲

水手董勝發黃均腹二名並訊出同夥之闖應華

闖進秀二犯一併拏獲並經起出賊衣現飭催提

解省審辦等語所辦甚好崖州盜匪拒傷官兵一

案久緝無踪今既拏獲董勝發等四犯並據供出

盜首何起文等姓名雖尚在逃未獲而該犯等竄

匿之處董勝發等斷無不知向其嚴切根究自可

得其踪跡按名弋獲以期搜拏淨盡又據另片奏

稱據署閩粵南澳同知宗聖垣具稟于隆澳口岸

會營拏獲匪犯余何策等四名又在牛心石洋面

遇有盜船施放鎗砲上前追赶搜獲余恩等四名

及火藥器械等物現在一併飭審等語南澳為閩粵交界處所查緝匪踪尤關緊要今據該處員弁先後等獲余阿策等八犯尚能認真查緝看來福康安回任後該省地方文武自知畏懼于緝捕等事不致仍前懈弛是以屢有緝獲著傳諭福康安即將解到各犯嚴行鞠訊跟究崖州一案魁黨盡數訪拏務期根株淨盡洋面肅清方為妥善仍當速辦速奏將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

192 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎慶 乾隆五十五年十二月十五日奉

上諭慶成奏尹壯圖自知謬妄查過兩省均已親身

目擊面詢書麟罰項確係出自廉餘若至江南並

無顏以對長麟懇將此情節代為奏開等語尹壯

圖自請前往各省盤查歷指直隸山東江南等省

多有虧空且請詢問各督撫完交賠項係從何處

生法此皆伊自行陳奏之語今甫查過山西庫項

無虧詢問書麟罰項實係將俸廉繳納而其餘各

七八

省尚未盤查長麟罰項亦未面詢未便即令回京著傳諭慶成遵照前旨俟查過直隸後仍帶往山東盤查再由陸路前赴江南不拘何府州縣任其盤查再照詢問書麟之語面詢長麟覆奏此次尹壯圖來往山西直隸即日又須往山東江南等省所過州縣地方甚多小民有無感額之狀興嘆之語著尹壯圖於途中體察諮詢其所曾見者又皆何往一併據實具奏再慶成帶同尹壯圖盤查各省伊若向慶成言及天氣寒冷馳驛遠行不能即時回京皆因我冒昧陳奏致相拖累深抱不安等語慶成即應答以汝此語即屬昧良奉差行役乃臣下職分當然雖赴湯蹈火尚且不辭何況查辦事件設使奉旨帶爾赴伊犁等處我亦安心前往若以馳驅道路即已畏怯不前何以出兵赴敵耶如此明白曉諭看其如何回覆即行詳悉奏聞尹壯圖途中如有無此語並著慶成據實覆奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

193 乾隆五十五年十二月十五日奉

旨知道了此案金垣拖欠稅課銀兩除查明後將家  
產變抵追賠外如尚有不敷即著遲辦之閔鶚元  
照數代賠以完公項欽此

工部奏江蘇巡撫福崧應奏不  
奏一摺

194 同日奉

旨著派入安南緬甸所進樂舞于除夕上元輪次預  
備欽此

195 昨安徽廬鳳道述德業經奉

旨降一級調用所遺員缺臣等謹於各省道府內查  
係內務府人員開列名單並擬寫空名

諭旨進

呈伏候

簡放謹

奏

道員

廣厚

刁玉成

知府

敷森布

完顏岱

劉嘉會

196 乾隆五十五年十二月十五日內閣奉

上諭安徽廬鳳道員缺著刁玉成調補欽此

197 乾隆五十五年十二月十五日內閣奉

上諭山東兗沂曹道員缺著高宮壘補授欽此

198 同日奉

旨豐仲濟倫著兼管光祿寺事務欽此

199 同日奉

上諭廣東雷瓊鎮總兵員缺著蒼保調補所遺潮州鎮總兵員缺著伊昌阿補授欽此

200 乾隆五十五年十二月十五日奉

旨著照所請行該部知道摺併發欽此

奉天府尹奏請以銑嶺縣永祚調補承德縣

201 乾隆五十五年十二月十六日奉

旨周兆基著准其馳封該部知道摺併發欽此

202 乾隆五十五年十二月十六日內閣奉

上諭山東兗州府知府員缺著蔡五錫補授所遺員

缺著慶瑞補授欽此

203 乾隆五十五年十二月十七日內閣奉

上諭據孫士毅奏降調通判葉文麟呈控前署通州任內所屬泰興縣拏獲搶犯一案該縣知縣武廷選承審並未遲逾二叅分限前署司張銘因自己逾限多日欲圖迴護妄扣該縣加展限期而後署司訥清額輒挪改該縣解州日期將武廷選開叅革職并將署知州葉文麟不行揭報職名送部致罹降調種種捏飾難保無受囑誣陷情弊請將訥清額革職嚴審等語此案該縣武廷選解犯到州係在二叅限內並未遲逾該署州葉文麟亦無不行揭報之咎乃前署臬司張銘於案犯解到不即審辦混將該縣扣展限期以為卸過之地而接署臬司訥清額移改解州日期並將該州續叅以致武廷選及葉文麟俱經部議降革張銘以監司大員審案遲延轉思規避處分諉過屬員已屬不合至訥清額係接署人員並非本任之事復為張銘迴護將屬員捏混開叅恐尚有徇情受囑情弊訥清額著革職交該督等提同張銘嚴審確情據實具奏欽此

204 大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 浙江巡撫福 浙江提督陳

乾隆五十五年十二月十七日奉

上諭據伍拉納奏拏獲行劫浙省哨船及在閩洋肆  
劫盜犯陳勝等十四犯審明後即已處決臬示等  
語所辦尚好惟浙江瑞安王遜洋官兵哨船被盜  
搶劫軍械一案前據陳杰奏報係盜船八隻圍住  
哨船搬取軍器衣物而逸今據伍拉納審訊此案  
盜犯陳勝等供認行劫兵船時實止盜船四隻與  
陳杰所奏不符或係該弁等虛報盜船數目欲藉  
寡不敵衆為辭以掩其退怯之罪亦未可定現在福  
崧已赴温州即著會同陳杰就近查明行劫盜船  
確數據實具奏此案盜匪共夥黨四十餘人向在  
温州一帶洋面肆行劫奪茲據閩省拏獲各犯內  
有此案夥黨七名而浙省並未緝獲一名並著伍  
拉納福崧陳杰嚴行督緝將逃逸盜犯迅速弋獲  
毋使遠颺漏網再據伍拉納奏閩省現獲盜犯除  
已審辦外尚有陸續報獲者二十餘名現在提省

審訊等語所辦亦是該犯等解到時該督務須隔  
別研鞫如係行劫兵船之犯即當從嚴懲治以戢  
盜風其獲盜之地方文武各員緝捕多犯尚屬奮  
勉並著照該督所請俟查明出力之員奏到時再  
行酌量加恩用示鼓勵將此由五百里各傳諭知  
之欽此遵

旨寄信前來

205 乾隆五十五年十二月十七日內閣奉

上諭江蘇蘇松糧道員缺著孫士毅揀選一員調補  
所遺員缺著方昂補授欽此

206 乾隆五十五年十二月十七日奉

旨鄧應文蔡廷樞俱准其貽封該部知道摺併發欽  
此

207 乾隆五十五年十二月十七日奉

旨陳三元著即處斬餘依議欽此

208 同日奉

旨洪定著即處斬餘依議欽此

209 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十五年十二月十八日  
奉

上諭直隸每年額徵旗地租銀該督例應于十月內飭令藩司委員解部以備頒賞八旗兵丁之用今據戶部奏稱該省本年應解五十四年分旗地租銀因逾限未解節次行催始據解銀二十五萬二千二百餘兩再上年清查旗租案內經伊齡阿奏明追完解交藩庫銀十七萬一千八百餘兩亦應批解部庫以備分賞節經檄催解部仍未報解殊屬遲延等語此項五十四年分旗地租銀于本年十月間早應照例解部乃該督遷久未解經部屢次檄催僅據解到銀二十五萬二千二百餘兩不敷賞賚八旗兵丁一月錢糧之用本年直隸地方夏秋之間雨水過多收成不無稍歉該督徵收租

銀未能齊全致所解旗租尚未足額或屬事理所至上年伊齡阿清查旗租案內所有追完銀十七萬一千八百餘兩早經存貯在庫該督有何動用之處以致遲延日久屢催未解著傳旨嚴行申飭其不敷分賞銀兩于部庫積存旗租內先行撥用著傳諭梁肯堂即嚴飭該藩司查照伊齡阿原奏實數迅速委員撥解歸款並將因何遲延未解及有何擅自挪移之處據實速行明白迴奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

210 乾隆五十五年十二月十八日內閣奉

上諭從前因前後藏達賴喇嘛班禪年班來使進京經過地方多有擾累甚至遺失包累州縣官代為賠出以致該來使肆行訛詐各督撫等不能約束屢經降旨曉諭特命軍機大臣會同理藩院將應付各事宜酌定章程通行遵照並令各省揀派道員同武職沿途防護該督撫等理宜嚴行稽察照

例辦理乃本年衛藏喇嘛來使入貢福長安自蘭州回京適於山西途中相遇見喇嘛等行李包件車載夫送絡繹道路數日不絕並無派出官員稽查護送若任其騷擾驛站不為飭禁又恐如從前捏報遺失物件責令賠償致啟訛索詐冒之漸更屬不成事體且伊等經過各省祇有例給驛頭如運送多餘包件俱係自行催備並無官給夫馬車輛之例其沿途伴送大員專為照料喇嘛不准滋事而設亦應隨同行查今甘肅陝西山西直隸等省既無官員護送又復濫應夫馬喇嘛等見沿途無人管束攜帶私包過多任意需索地方官員遂以例給驛頭不敷違例供應各該督撫等漫不經心而委出之道員等又不親身彈壓惟以過境無事一奏塞責實難辭急玩之咎著各該督撫即將因何不遵例支給之處據實明白迴奏並將派出道員等係屬何人因何不親身照料查叅示儆不得稍為徇隱朕嘗歷觀史冊漢唐宋明之世恐召邊釁於外國貢使往往曲意優容恣睢橫肆因此為外夷所輕轉生大患者不可勝數我國家德威

遠被中外一家四夷來享來王罔不賓服迥非前代可比朕因其遠赴闕廷輸誠向化每格外加恩賞賚以示厚往薄來之意即衛藏喇嘛來使亦以伊等不遠萬里而來是以優加體恤酌給驛頭運載包件如果不知安分滋事妄為仍當照例治罪即如近日達賴喇嘛之親弟兄等倚勢滋擾尚命拏送來京治罪何況所遣之來使僅一微末喇嘛聽其妄為轉不加懲究乎封疆大吏等不知仰體朕意願忌因循不復過問外間無識之徒不幾疑本朝尊崇喇嘛如元季之供養喇嘛致有詈罵者割舌毆打者截手更復成何政體乎總之外國使臣入貢沿途皆有定例原不准絲毫濫付地方官惟求安靜過站即有例外求索不復與較昨尹壯圖摺內奏稱地方官辦理差務胥役滋擾商民感額興歎一節雖未免言過其實然本年阮光平及各國陪臣入覲時想沿途應付稍過地方辦理拮据或亦有之然辦差之員臨時不惜多費以期見好及至事後又復口出怨言藉稱賠累致尹壯圖求給不得其感額興歎之言實由於此外省此等

惡習最為可惡各督撫所司何事以致小人誣朕耶嗣後著各直省督撫認真稽察凡外夷陪臣及喇嘛來使過境嚴飭州縣照例應付並各派委妥當道員遞行護送行走若敢仍前濫應即行指名劾參該督撫如有徇隱一經發覺必當從重治罪決不姑貸將此通諭知之仍著據實具奏欽此

<sup>211</sup> 乾隆五十五年十二月十八日奉

旨嗣後外藩各國賫表來京貢獻方物使臣其朝鮮國仍照向例令禮部照料辦理外所有安南緬甸暹羅南掌等國來京使臣及隨從人等應行照料事宜俱著內務府經理仍著禮部派委司官二員幫同照應欽此

<sup>212</sup> 乾隆五十五年十二月十八日奉

旨朱珪著改為降三級從寬留任鄭源璿穆和蘭陳淮伍拉納譚尚忠俱著於現任內降一級留任富綱常青俱著於現任內罰俸九個月伊轍布泰承

恩姚荼馮晉祚馮光熊俱著銷去加一級免其降級其因失察邪教聚眾斂錢議以補官日降級用之王運昌俟服闋之日著本籍督撫查照原次考語送部引見安靜著該督撫出具考語送部引見餘依議欽此

<sup>213</sup> 乾隆五十五年十二月十八日奉

上諭前經降旨直隸解到旗租銀兩足數普賞八旗兵丁一月錢糧即行普賞一次現在直隸解到租銀雖不足數賞賚之用但念該兵丁等寒冬歲暮生計維艱著於節年積存項下撥補足數加恩普賞八旗兵丁一月錢糧俾生計益臻充裕以示敷錫春祺有加無已至意該部即遵諭行欽此

<sup>214</sup> 乾隆五十五年十二月十八日內閣奉

上諭江西饒州府知府員缺著札克奈阿補授欽此



215 查戶部題覆事件定例以內閣發抄到部之日

為始限五十五日具

題如有會同別部查核之處例得展限十日昨

發下戶部題覆毓奇奏銷烏什所屬銀糧一本內有

該處實存軍器砲位鉛藥硝磺等項應移文兵

部查核毓奇原摺於十一月十二日抄出到部

扣至十二月十七日具

題共計三十六日並未逾限謹

奏

十二月十八日

216 查本月初五日姜晟奏到審擬寶坻縣民控告

書役勒索錢文一案請將寶坻縣知縣徐定邦

交部嚴加議處東路同知汪大鏞交部議處奏

硃批該部議奏欽此並面奉

諭旨此案地方官失察處分尚可從寬著於部議上

時提奏欽此今據吏部知會徐定邦議以降三級

調用汪大鏞議以降一級調用均不准抵銷於

本日具

題臣等謹遵

旨提奏謹

奏

十二月十八日

217

查從前福崧參奏句容縣隱諱書吏重徵一案

係署知縣之縣丞吳汾業經革職治罪本日孫

士毅等奏到辦理收漕聲名不好之署句容縣

係候補知州程宗洛與前案並無關涉臣等謹

將孫士毅等原摺發抄並擬寫寄信孫士毅等

諭旨令其嚴行審辦謹

奏

218 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 乾隆五十五年

十二月十九日奉

上諭據孫士毅等奏署句容縣事候補知州程宗洛

署金壇縣事縣丞倪時慶征收漕米民間交納未

能允服訪係漕書毛永年王申之等從中滋弊致啟物議恐有官吏勾通情事現將漕書等提至省城嚴鞫並將程宗洛倪時慶解任候質一摺已批交該部知道矣江南吏治廢弛如高郵州句容縣之書吏重徵侵蝕種種舞弊甫經嚴行懲辦乃為時無幾復有程宗洛倪時慶等縱吏滋弊之事其中恐有官吏通同勒折浮收染指分肥情弊不可不徹底究辦著傳諭孫士毅長麟即提集案內應訊人等嚴加跟究據實具奏毋得稍涉徇隱將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

219 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 乾隆五十五年十二月十九日

奉

上諭全德奏籌辦食鹽口岸滯引一摺據稱安慶池州太平三府處處瀕江私鹽最易闖入官引滯銷日甚數年以來又積至六十七萬有餘與其積年

遞壓課帑徒懸不如攤完課稅銳銷積引較得年清年款等語已批交該部速議具奏矣前因私販充斥致官鹽不能暢銷該地方官未能實力查緝而該鹽政又於各州縣呼應不靈是以曾降旨諭令書麟協同辦理今據全德奏地方官勤惰不一仍多視為具文以致奸販無所畏憚官引遞壓則是各口岸私鹽之多總由地方官查緝不力所致於釐務大有關係著傳諭孫士毅嗣後仍須會同全德辦理並檄飭所屬嚴查私販出入隨時留心緝捕務令根株淨盡官引得按額足銷方為妥善將此傳諭孫士毅並諭全德知之欽此遵

旨寄信前來

220

查寶坻縣知縣徐定邦於吏役藉賑歛錢既無覺察迨劉允章等赴訴於事關書役索詐之案並不即時審辦耽擱兩旬之久情節較重臣等謹擬寫將該員改為革職留任並同知汪大鏞改為降三級留任

諭旨進

呈謹

奏

221 乾隆五十五年十二月十九日奉

旨此案寶坻縣知縣徐定邦失察吏役斂錢且延擱未辦固有應得之咎但該縣尚無知情縱役徇隱情事其過止於遲延失察尚可量減著從寬改為革職留任東路同知汪大鏞著改為降三級從寬留任欽此

222 乾隆五十五年十二月十九日內閣奉

上諭據伍拉納奏福建候補知縣雜職不敷委用請揀發知縣六員從九品四員未入流八員即飭來閩以資差委等語著照所請派彭元瑞常青福長安金簡會同該部於候補候選人員內照例揀選帶領引見發往欽此

223 乾隆五十五年十二月十九日內閣奉

上諭據梁肯堂奏阿布該卓里克圖王進京在宣化縣榆林堡被賊竊去衣物銀兩請將該縣知縣王瀾交部嚴加議處將失去衣物銀兩勒令照數賠還等語外藩入覲經過州縣向無地方官派人護送之例即偶有失竊物件該縣知縣不過照竊案處分議處俟緝賊匪後起獲贓物再行給主原不應照數賠贖若一一為之賠償或竟致捏報啟詐冒之漸從前因多倫諾爾遺失銀兩該督請令賠償曾經降旨飭諭今梁肯堂復有此奏實屬不曉事體所有拉特納錫第失去贓物惟當實力拏賊毋庸令該縣賠償王瀾著交部照例議處欽此

224 乾隆五十五年十二月十九日奉

旨劉紹起著即處斬餘依議欽此

貴州省竊犯拒捕傷差一

案

大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十五年十二月十九日 奉

上諭據陳用敷奏阮光平於十一月二十九日行抵鎮南關與之餞別該藩縷述隆恩詞意甚覺肫摯自關外至義安按日計程總在年內可到謹將該藩謝恩表文呈覽等語表文已經披閱於表內親加批諭矣現屆嘉平之吉御書壽字以賜以為新春吉慶並加賞金線葫蘆大荷包一對小荷包四對內分貯金錢二個金八寶一分又白玉鶯一件漢玉象一件瑤瑯金盃一件瑤瑯海棠盒一對奶皮一匣奶餅一匣果脯一匣用示眷注垂念之意陳用敷奉到後即行照會阮光平敬謹遞交祇領該國王渥受厚恩自必倍加感悅也將此由百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

旨覽王奏表因前經傳旨不准收受謝恩方物於遵旨停止例獻之外別具土物附進情詞肫摯備見悃忱著即准收並令內務府大臣優加議賞以示愷澤柔懷恩加無已之至意欽此

上諭保寧奏雲南委運京銅之寧洱縣知縣蕭霖在巴縣甘溪口遇風船壞沉銅六萬觔嗣據該縣暨運員上緊打撈業已全數撈獲行至雲陽縣廟磯灘復碰沉銅七萬觔一月之內兩次沉溺其為漫不經心已可概見請將蕭霖交部嚴加議處沉銅如限滿無獲不准豁免等語所奏甚為公當滇員運送京銅最關緊要不容屢次踈虞乃該運員蕭霖於巴縣地方碰沉銅觔甫經撈獲復有沉溺之事不惟踈於防範且恐有銅觔短缺捏報沉溺情弊蕭霖著交部嚴加議處所有沉溺銅觔除撈獲外餘著該員照數賠補以示懲儆保寧係伊犁將

軍暫署總督並不存五日京兆之見於此等事件  
竟能不避嫌怨嚴叅辦理尚屬可嘉保寧著交部  
議敘欽此

228 乾隆五十五年十二月二十日內閣奉

上諭廣西左江道員缺著成林補授欽此

229 奉

旨勒保著從寬免其革任仍註冊

230 遵查

西峰秀色雨搭七十五架竹簾四架內粘補修整  
實用過杉木三段每段長一丈四寸共長三丈  
一尺二寸所換板片祇係零星粘修並非全行  
更換是以所用木料無多謹  
奏

十二月二十日

231

臣等將朝鮮國進

呈土宜各件分別酌量從優議賞開單呈  
覽所有

頒賞各件較之該國所進土物已屬優厚其屏風烟

盃蜂窠三種所值無幾似可毋庸議

賞謹

奏

十二月二十一日

\* 人參五十本 秤重十二兩

擬賞<sup>蘇銀</sup>各四疋

四海硯一方

擬賞澄泥硯二方

文字硯一方

擬賞大歛硯二方

九色詩牋五百四十片

擬賞絹箋五百四十張

四色聯牋八圓

擬賞描金蠟箋八卷

各色書牋十幅

擬賞仿宣紙一千張

鏡光紙六百片

擬賞新宣紙六百張

竹清紙三百片

擬賞福字牋三百張

筆三百枝

擬賞湖筆三百枝

墨一百錠

擬賞徽墨一百錠

各色扇一百把

擬賞十錦扇一百把

絹本鈔金彩畫屏風一對無庸議

絹本寫意翎毛屏風一對無庸議

烟盃三十個

無庸議

蜂窠五缸

無庸議

232 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十五年十二月二十一

日奉

上諭寶光萬奏考試衢州金華等府查辦夾帶頂替

各案又據提調官訪拏東陽縣文童盧澄胡夢泰

覓人代倩一案現在嚴訊分別治罪等語提調官

專司稽察文場弊竇該員訪拏代倩案犯尚屬留

心傳諭福崧即行查明提調係屬何人開送職名

交部議敘以示鼓勵將此傳諭福崧並諭寶光萬

知之欽此遵

旨寄信前來

233 查本日畢沅奏之宜都縣知縣明良係正黃

旗包衣滿洲原任苑副馬奇圖之子由文舉人

截取知縣選授奉天知縣嗣經丁憂回旗在

上駟院筆帖式上行走服闋後揀發湖非補授今

職謹

奏

十二月二十一日

234 遵

旨查雍正年間查嗣庭犯事原案謹於

實錄及

紅本內抄錄案情進

呈謹

奏

十二月二十一日

235

據緬甸國王遣使呈進謝

恩表貢謹將所進物件交該處預備呈

覽理合開列清單進呈謹

奏

\*金葉表文一道

白石佛像成龕

紅黃檀香二十筒

象牙五對

孔雀屏十對

吉祥寶樹一本三枝

緬布四種 共八十疋

紅呢三板

象二隻 現在未到

十二月二十一日

236

蒙

發下高麗墨五十錠筆一百六十四枝 臣等謹分別

擬

賞開單進

呈謹

奏

\*八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿恩阿哥

每位墨三錠筆七枝

綿億阿哥

綿惠阿哥

綿志阿哥

綿懃阿哥

綿懿阿哥

綿總阿哥

綿德阿哥

綿慶阿哥

綿寧阿哥

每位墨二錠筆六枝

奕純阿哥

奕紹阿哥

載錫阿哥

每位墨二錠筆五枝

軍機大臣

阿桂

和坤

王杰

福康安

福長安

董誥

慶桂

大學士嵇璜

每人墨一錠筆六枝

南書房

彭元瑞

沈初

金士松

每人墨一錠筆四枝

237 蒙

發下高麗詩箋十七卷書箋一百束臣等謹分別擬

賞開列名單進

呈謹

奏

十二月二十二日

八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿恩阿哥

每位詩箋一卷書箋四束



綿億阿哥

綿惠阿哥

綿志阿哥

綿懃阿哥

綿懿阿哥

綿總阿哥

綿德阿哥

綿慶阿哥

綿寧阿哥

每位詩箋一卷書箋二束

奕純阿哥

奕紹阿哥

載錫阿哥

每位詩箋一卷書箋一束

軍機大臣阿桂

和 珅

王 杰

福康安

福長安

董 誥

慶 桂

每人書箋六束

大學士嵇 璜

書箋五束

尚書房彭元瑞

沈 初

金士松

每人書箋四束

238 同日奉

旨劉雙玉著即處斬餘依議欽此

殺死一家二命一案

239 乾隆五十五年十二月二十二日奉

旨林承富著即處斬餘依議欽此

殺死一家二命一案

240 同日奉

旨許連著作著即處斬餘依議欽此

扎死方奇位又毆斃梁  
文作一案

241 乾隆五十五年十二月二十二日內閣奉

上諭吏部尚書彭元瑞供職內廷勤勞夙夜學問優  
長本日朕至寧壽宮見其所製燈聯莊雅典切現  
在詞臣中無出其右者漢協辦大學士員缺久未  
簡用有人彭元瑞著加恩協辦大學士事務尚其  
益勵揀修勉勤職業用副朕造就成全至意欽此

242 據暹羅國遣使呈進

貢品謹將所進物件交該處預備呈  
覽理合開列清單進

呈謹  
奏

243 乾隆五十五年十二月二十三日奉

旨劉佳珣姜道恕李大基王萬清劉寶屈恒展史東  
成孫世守俱著准其貤封該部知道摺併發欽此

244 乾隆五十五年十二月二十三日內閣奉

上諭據福康安奏增城縣民溫廷毅現年九十五歲  
陸豐縣監生郭維旭現年八十九歲均係五世同  
堂請予錫賚等語溫廷毅陸維旭俱年登耄耄統  
勝曾元洵為昇平人瑞所有應行賞賚之處著該  
部照例辦理摺併發欽此

245 臣阿桂等謹  
奏為遵

旨議奏事據紀昀陸錫熊具奏添纂八旗通志凡例  
一摺奉

旨著軍機大臣議奏欽此 據稱八旗通志一書自  
雍正十三年以後至今已閱五十餘年凡遇欽  
奉

上諭

加恩八旗及各衙門奏議案牘有關興革事宜者俱  
應分門纂入勒成新編又八旗王公大臣列傳  
與現定

國史傳查核多有舛異亦應詳加訂正查此書卷  
帙較繁除翰林錢棻謝振定梁上國三員現在  
纂辦外擬派翰林邵晉涵余集二員一同分修  
至八旗事例漢員未盡諸悉請

勅下軍機大臣於滿員內酌派通曉掌故者一二人  
協同核定等語臣等伏查八旗通志一書初制  
典謨昭垂法守我

皇上加惠八旗  
恩施稠疊復奉

旨於忠烈傳內將乾隆年間恩卹各條添纂凡欽奉  
聖諭及各衙門奏議有關興革事宜者自應逐一依  
類分門續行纂入勒成新編用彰美備其八旗  
王公大臣列傳既有與

國史傳舛異之處亟應查照各傳所載事蹟詳加  
訂正以昭傳信均應如紀昀等所擬凡例各條  
詳晰辦理至所請於滿員內酌派一二人協同

查定之處查有給還原銜巴尼琿理藩院員外  
郎翰圖通曉滿文於八旗事例亦尚熟習臣阿  
桂臣和坤前因奉

旨重修八旗氏族通譜曾派該二員承辦今八旗通  
志一書擬即令該二員隨同紀昀等查考核訂  
似可得力又據紀昀等摺內稱原書內人名官  
名地名等項對音之處尚襲舊文與現在譯定  
音義多不相合請隨時查開清單交方畧館譯  
漢官查明改正等語臣等查纂辦書籍自應蒼  
萃一處查閱全書互相參訂方可期迅速完善  
若隨時開單彼此移文查詢則辦理渙散往返  
需時必致遲緩且恐參差舛錯之處在所不免  
因思從前重修八旗氏族通譜時臣等於派翰  
圖巴尼琿二員外曾添派辦過遼金元三史人  
地名對音之清書翰林陳嗣龍錢棻繆晉三員  
幫同核辦今此書內人名官名地名既有與譯  
定音義不相符合之處應請仍派翰圖巴尼琿  
陳嗣龍錢棻繆晉五員詳查更正俾歸畫一庶  
彼此參觀互証辦理如出一手既不致于遲延

亦可免于錯誤較為妥協紀昀等所請開查送館更正之處應毋庸議所有臣等遵

旨擬議緣由是否有當理合覆

奏俟

命下臣等即交紀昀等分飭各該員遵照辦理謹

奏 乾隆五十五年十二月二十三日奉

旨依議欽此

246 查朝鮮暹羅緬甸貢使俱已陸續到京所有該

國王及使臣等例應

頒賞物件仍由禮部照例辦理外其

紫光閣

加賞物件臣等謹分晰擬

賞開單進

呈至

圓明園上元節山高水長筵宴如奉

特旨預備屆期再行擬

賞進

呈謹 奏

十二月二十三日

\* 乾隆五十六年新正

紫光閣筵宴

加賞朝鮮暹羅緬甸三國使臣物件清單

朝鮮正使一員

大卷緞十六疋

大荷包一對

小荷包三對

副使一員

大卷緞八疋

大荷包一對

小荷包二對

暹羅正使一員

大卷緞四疋

大卷宮綉四疋

大荷包一對

小荷包三對

副使一員

大卷緞三疋

大卷宮綉三疋

大荷包一對

小荷包二對

緬甸大頭目三名

大卷緞各四疋

大荷包各一對

大卷宮絨各四疋

小荷包各三對

<sup>247</sup> 乾隆五十五年十二月二十四日內閣奉

上諭梁肯堂奏通水道陳昌圖患病難以速痊懇請

回籍調理等語陳昌圖著准其回籍調理所遺通

水道員缺著索明阿補授欽此

<sup>248</sup> 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十五年十二月二十四

日奉

上諭據梁肯堂奏永定河灘村莊實無添建房屋一

摺並繪圖貼說呈覽朕閱圖內所註大清河地方

似有錯誤永定淀河一帶朕屢曾親臨閱視於水

道支流素所稔悉該處當鳳河下游斜埝外迤下

向東河道應是大清河其自西南來會注之水應

是東淀河今將大清河三字寫於兩河會合之地

而東淀河並未繪出殊屬牽混已用硃筆標識應

將圖樣略加展寬分晰繪出以清眉目至河灘內

舊住村莊既據該督查明柳坨等十一村俱已遷

淨其餘一百十二村遷去一千六百餘戶並無另

增房屋著傳諭該督嚴飭所屬申明例禁經此次

清查之後務須隨時實力查察不得再有私行佔

住民戶致礙河道也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

<sup>249</sup> 乾隆五十五年十二月二十五日奉

旨知道了其八次不到之英珉四次不到之龔駮文

三次不到之福祿俱著交部分別察議欽此

<sup>250</sup> 乾隆五十五年十二月二十五日內閣奉

上諭山西大同府知府員缺著孫之岸補授所遺員

缺著周士拔補授欽此

251 臣等查乾隆二十七年十二月內遵  
旨將各省修造戰船暨節省銀兩數目開單進

呈奉

旨知道了嗣後每年彙奏一次欽此茲據工部將乾隆五十四年各省估報例應修造船隻自行樽節銀兩數目清單移咨軍機處臣等查廣東福建浙江等三省於乾隆五十四年分應行修造船隻或將應折造者改為大修應大修者改為小修應小修者改為停修捐修共船一百零二隻桅木五株通共節省銀四千九百七十五兩五錢二分三釐再查設有戰船共九省內江蘇安徽江西山東湖非湖南六省五十四年分並無改修停修捐修船隻節省銀兩合併聲明謹將工部查核原單一併進

呈謹

奏

十二月二十五日

252 臣等傳到朝鮮正副使臣金箕性閔台懌等將加賞該國王物件令其逐一祇領據該使臣等跪稱

伊國主身為藩服久沐

皇仁每年呈進貢物不過稍抒忱悃仰蒙

大皇帝恩施稠渥賞賚疊加國王屢次奉到

上方珍品感戴

天恩方愧無以報稱此次具表謝

恩呈進方物皆係些微土產自歎菲薄乃復蒙

大皇帝錫予駢蕃更加優厚迥逾常格使臣等敬謹

領回國王自必倍加感激益切不安等語謹

奏

十二月二十六日

253 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 閩浙總督伍

沿海各省督撫 乾隆五十五年十二月二十

六日奉

上諭伍拉納奏署同安縣知縣張學溥緝獲崖州拒

捕傷官案內盜犯鄧全吳佑二名審係同夥共二十二人乘駕紀日盜船於六月二十五日船至廣東虎頭山外洋遇船六七隻在洋對敵見有一船損壞該犯等乘勢駛攏同各盜船人衆擁上搶奪馬褂腰刀拒傷官兵各自回船逃逸那日委見各船互相抵敵乘勢往搶實不知何人把官傷害其先在洋面盜船三隻並非同夥再三詰訊姓名尚無指實其如何拒捕戕官確情恐有不實不盡再須質証之處未便遽請正法仍將鄧全等嚴行監禁等語此案前據福康安奏盤獲崖州案內夥盜關應華等四犯供出拒捕日期及犯事洋面尚屬相符惟關應華等所供案內盜首係何起文李廣才蛋家二亞常大辯三共船五隻除李廣才一船落後其拒捕傷官首夥實係何起文等四船與本日伍拉納奏到鄧全所供祇見有盜船三隻船數不符且關應華等供詞內亦無鄧全等坐駕紀日船隻乘勢搶劫幫同拒捕之語情節未能脗合恐各供均有不實不盡及另有逸盜之處自應將鄧全等解粵質訊今伍拉納奏請將該犯等嚴行監

禁咨明廣東核辦往返咨查耽延時日轉致久稽顯戮所辦殊屬錯誤著傳諭該督即將鄧全吳佑二犯派委妥協員弁小心解送廣東交福康安確加審訊審明後即行正法若羈禁日久恐防範稍疎致有越獄脫逃之事再鄧全等所供逸盜紀日等二十犯關應華等所供逸盜李廣才等三十餘犯多未就獲著傳諭福康安伍拉納嚴飭文武員弁上緊緝拏其沿海各省地方海道俱屬相通恐該犯等聞閩粵洋面追拏緊急竄入他省洋面藏匿並著各該督撫一體嚴緝務獲毋使一名漏網至同安縣知縣張學溥拏獲盜犯鄧全吳佑二名尚屬留心緝捕並著伍拉納將該員送部引見以示鼓勵將此各傳諭知之並將伍拉納原摺抄寄福康安閱看欽此遵

旨寄信前來

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 山西巡撫書

乾隆五十五年十二月二十六日奉

上諭梁肯堂奏據署磁州知州明崑稟報查獲圖財謀命之劉松一犯搜出邪教歌單一紙訊明該犯在山西壺關縣地方打柴度日與三皇老祖教首楊便熟識聽從入教給與歌單現在飛咨山西巡撫查拏楊便及入教夥犯並移咨河南巡撫嚴查該犯原籍家中有無收藏不法字跡提省嚴審等語所辦尚好邪教惑人最為風俗人心之害楊便胆敢設立三皇邪教名目編造歌詞聚眾斂錢甚屬可惡不可不嚴密查拏逐一跟究以盡根株著傳諭書麟即密派員役赴壺關縣地方將楊便速行緝獲確訊邪教來歷及傳授夥犯嚴切追究從重辦理毋得稍有縱漏並著穆和蘭即飭該縣前往劉松家內搜查曾否收存不法字跡提訊該犯家屬有無在原籍將邪教歌詞授徒傳播之處據實嚴查毋任隱飾漏網至劉松既身帶歌詞潛赴

旨寄信前來

遵

磁州一帶沿途難保無聽從入教之人亦著梁肯堂一面留心查訪一面親提該犯研究邪教實在來歷有無輾轉煽惑並在壺關縣地方起意謀死李永白實情一併嚴審明確據實具奏再明崑係原任承德府知府甫於馬十案內降調今能于署磁州任內訪獲過路匪犯究出邪教歌單尚屬認真著送部引見將此由四百里各傳諭知之欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

甘肅陝西山西河南湖北湖南貴州各督撫

乾隆五十五年十二月二十六日奉

上諭據署理塔爾巴哈臺叅贊特成額等奏遣犯余大娃在烏魯木齊脫逃一摺余大娃係伊父余形謀殺尊長一家八命案內緣坐之犯胆敢在配脫逃情殊可惡該犯籍隸貴州自必潛回本省或在沿途地方逗遛藏匿均未可定著傳諭各該督撫



飭屬派委員役嚴密查拏務期弋獲毋得視為海捕具文以致遠颺漏網將此各諭令知之欽此遵旨寄信前來

256 蒙

發下太常寺光祿寺則例令臣等詳加閱看查太常

光祿兩寺從前未經纂過則例均係按照會典及本衙門例案辦理至乾隆三十四三十八等年始行奏明纂辦于四十年五月內編輯成書即係現在刊刻進

呈之本臣等謹將會典內所載逐一核對會典較畧則例較詳而一應支銷數目及品物價值均屬相符並無加增浮冒謹

奏

十二月二十七日

257 乾隆五十五年十二月二十七日內閣奉

上諭穆和蘭奏寧陵縣民周興邦武安縣民王丕才俱係年屆九旬五世同堂請予賞賚等語周興邦王丕才年登耄耋膝繞曾元洵屬昇平人瑞所有應行賞賚之處著該部照例辦理欽此

258 遵

旨將俞鴻圖納賄營私原案交查

國史館茲據送到王士俊原參及刑部等衙門定擬各本臣等謹摘敘案情並先後所奉諭旨一併抄錄進

呈謹

奏

十二月二十七日

259 臣等傳到緬甸大頭目便居也控等將

加賞該國王物件令其逐一祇領據該頭目等跪稱伊國主僻處炎荒仰蒙

大皇帝准予封爵俾得撫綏土宇榮列藩封疊蒙

賞賚駢蕃

恩施渥被屢次恭奉

上方珍品感戴之忱方媿無以報答此次具表謝

恩呈進方物皆係炎陬土產自慚菲薄迺蒙

大皇帝復加優賜迺越尋常皆小國日所未睹使臣

等敬謹領回國王自必倍加感激再行奏

謝等語謹

奏

十二月二十七日

\* 擬

加賞緬甸國王物件

御筆福字一個

洋漆龕玉佛一尊

玉如意一柄

粧緞二疋

蟒緞二疋

閃緞二疋

錦緞二疋

筆四匣

墨四匣

硯二方

絹箋十卷

260 大學士公阿 大學士伯和 宇寄

欽差侍郎慶 乾隆五十五年十二月二十八日奉

上諭慶成帶同尹壯圖赴山西直隸山東等省盤查

均無虧空現在已往江南盤驗節次據尹壯圖具

奏經過各州縣地方百姓俱極安帖隨處體察毫

無興嘆情事等語可見前奏所言商民半皆感額

興嘆竟屬全無影響今既目擊商民樂業情形自

不能復置一辭但伊從前道路所聞得自何人傳

說縱不能認識商民將名姓一一指出而該處地

方官吏係屬何人豈竟不能記憶且伊前次覆奏

摺內即云感額興嘆係指牧令不能約束胥吏而

言究係何處牧令自必確有其人即如其所經之

直隸感額興嘆之官吏為誰著慶成即向尹壯圖確切詢明令其指實具奏二三人再尹壯圖丁憂回籍時由京至滇祇過直隸河南湖廣貴州等省何以伊前摺內又有經過江浙廣西各省之語自係尹壯圖紆道前往各處與地方官交接以為抽豐之計並著慶成將伊回籍時因何由江浙廣西等省之處一併詢明具奏將此諭令知之欽此

261 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十五年十二月二十八日奉

上諭前據福崧在江蘇巡撫任內奏稱江省各州縣向有漕總名目查出長洲等縣蠹書七十一名斥革枷示當即降旨諭令該撫赴浙江新任後一體嚴行查辦乃福崧抵浙後正值各州縣徵收漕米之時該省漕務向多弊竇此等漕總名目欺哄鄉愚把持包攬想亦必有何以該撫在江蘇任內尚能嚴查漕總重處示懲而於浙江並未奏及整飭豈該省漕務近年以來尚得為徵收無弊耶況本

年嘉興府屬甬有漕書浮收加徵之事雖經伍拉納奏嚴辦而錮習相沿仍恐不肖書吏復蹈故轍不可不嚴行查禁以絕弊端著傳諭福崧現在浙省有無設立漕總名目何以並不照江蘇一體留心訪察之處據實覆奏至徵收錢糧各州縣書吏有折總名目現經長麟飭屬嚴拏恐浙省亦有此弊並著福崧一律查禁毋得稍存姑息致負委任將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

262 乾隆五十五年十二月二十八日奉

旨歸朝煦著照該撫所請准其發往山東差委遇有知府相當缺出補用該部知道摺併發欽此

263 同日內閣奉

上諭據福崧奏鹽道王貽桂於鹽務一切事宜俱極廢弛且眾商怨懟聲名甚屬平常請旨革職等語王貽桂著革職所遺浙江鹽道員缺著柴楨補

授欽此

264 遵

旨查孫士毅奏等獲隣境盜犯之千總任燦是否係

任承恩一家之處交查兵部茲據覆稱任燦係

江南人任承恩係山西人並非一家謹

奏

265 臣阿桂 臣和坤 臣王杰 臣福慶 臣董誥 臣慶桂

謹

奏為奏銷領用紙張等項事查先經戶部於乾隆

十二年四月奏銷各項用過紙張等項一摺奉

旨知道了嗣後奏銷紙張時著該處將上年領過數

目詳細註明具奏欽此欽遵在案臣等謹將乾隆

五十五年正月起到十二月止辦理

南巡盛典安南紀畧巴勒布紀畧領用過紙張黃綾

等項並將乾隆五十四年領過數目一併詳細

開列繕摺奏

聞謹

奏

\* 計開

乾隆五十五年領過

金線榜紙壹千張 舊存陸拾壹張繕寫 南巡

各正本及各書抽換篇頁共用

四百零一張現存陸百陸十張

台連紙一萬張 舊存八千柒百十五張繕寫各

呈使用壹萬二千一百八十一張

現存六千五百三十四張

本紙一百張 舊存陸十五張繕寫奏摺片及各

五摺黃榜紙二百張 舊存一百九十六張裝釘

並裝釘各書副本及

發報包封等項無存

白榜紙壹百張 舊存肆百九十五張裝釘檔案

及裱稿抄寫檔案無存

裱料紙一十張 裝釘各書皮面無存

舊存黃花綾四十五丈三尺五寸 裝釘 南巡

畧巴勒布紀畧玖拾肆本及各書抽換皮面裱

糊匣子貳個共用拾肆丈壹尺貳寸現存叁拾

舊存紅花水貳拾伍劬刷印各書正副本殿本

舊存素黃箋貳拾玖張書篇無存

舊存石青杭絹伍丈貳尺現存

烤炭貳千肆百劬

乾隆五十四年領過

五摺黃榜紙柒百張

奏本紙叁百張

台連紙叁萬張

金線榜紙貳千張

裱料紙壹千張

黃花綾肆拾捌丈

雙料紅花水壹百劬

黃絲線壹劬

白榜紙壹千張

烤炭貳千肆百劬

乾隆五十五年十二月二十日奉

旨

266 臣阿 等謹

奏為

奏銷紙張事查乾隆五十四年分軍機處支領戶

部紙張又清漢檔房領用紙張循例報銷理合

一併開單奏

聞謹

奏

\* 計開

軍機處五十五年分領用紙張

本紙五千張繕寫奏摺及抄錄各處奏摺行文等項用實銷無存

白榜紙一千張抄寫檔案包封事件用實銷無存

黃榜紙一百張釘輯檔案包封案件用實銷無存

高麗紙一百張包封月摺及印封用實銷無存

台連紙七千張繕清譯漢并寫底稿用實銷無存

計開

清漢檔房五十四年繕寫清漢檔用存紙張

白榜紙三千零二十張

黃榜紙三百九十張

台連紙五千一百九十張

毛邊紙三十二張

高麗紙八十七張

五十五年十二月領過紙張

白榜紙五千張

黃榜紙一千張

台連紙五千張

高麗紙二百張

今將五十五年正月日起至十二月止報銷實用

實存數目

白榜紙抄寫月摺清漢檔共用一千七百七十張實存六千二百五十張

台連紙訂摺整書抄寫月摺譯漢巴勒布書共用三千零五十張實存七十一百四十張

黃榜紙包封每月摺檔裱皮面共用二百六十張實存一千一百三十張

高麗紙裱皮面換月摺摺包共用八十九張實存一百九十八張

毛邊紙裁摺片實用無存

十二月二十九日

<sup>267</sup> 乾隆五十六年正月初二日內閣奉

上諭保寧奏大竹縣民許志榮現年一百一歲資州民曹友仁現年一百歲綿州民婦唐羅氏現年一百一歲俱請旌表等語許志榮曹友仁唐羅氏均年屆期頤精神矍鑠俱為壽宇祥徵所有應行賞給銀兩緞疋及建坊旌表之處著該部照例辦理摺併發欽此

<sup>268</sup> 同日內閣奉

上諭王懿德奏長沙縣民劉光任現年百歲五世同堂懇請旌賚等語劉光任壽享期頤曾元統膝洵屬昇平人瑞所有應行建坊旌表及加恩賞賚之處著該部照例辦理摺併發欽此

<sup>269</sup> 乾隆五十六年正月初二日內閣奉

上諭上年江蘇徐州府屬蕭縣碭山等縣因毛城鋪土壩刷寬漫水下注民田廬舍間被淹浸致成偏災業經降旨令該督撫實力撫卹分別蠲緩並動

撥銀兩給予賑濟小民自可不致失所第念該處被災地方今春正賑已畢青黃不接之時民力恐不無拮据著再加恩將蕭縣碭山睢寧三縣八九分災無分極次貧民概行展賑一個月其衛所饑口及貧生兵屬亦著照正賑之例一體辦理至該三縣被災五分並勘不成災地方及銅山沛縣邳州宿遷山陽清河阜寧鹽城安東桃源泰州東臺興化海州沐陽等十五州縣並淮安大河二衛勘不成災之區仍著該督撫察看情形酌借口糧籽種以資接濟該督撫務須董飭所屬悉心經理俾茅簷蔭屋溼澤均沾以副朕順時施惠恩加無已至意該部即遵諭行欽此

270 乾隆五十六年正月初二日內閣奉

上諭上年安徽省宿州靈璧等各州縣因毛城鋪土壩刷寬漫水下注民田廬舍間被淹浸業經降旨令該撫實力撫卹分別賑濟小民自可不致失所第念今春正賑已畢青黃不接之時貧民餬口無資著再加恩將宿州靈璧泗州三州縣被災八九

分貧民無分極次概行加賑一個月其衛所饑口及貧生兵屬亦著照正賑之例一體辦理至宿州靈璧泗州盱眙五河被災五六七分貧民及勘不成災之鳳陽懷遠鳳臺壽州定遠霍邱天長滁州全椒來安舒城等十一州縣仍著該撫察看情形酌借口糧籽種以資接濟該督撫務須董率所屬實心經理俾災黎均沾愷澤以副朕軫念窮蒼普惠春膏至意該部即遵諭行欽此

271 乾隆五十六年正月初三日內閣奉

上諭據姚榮奏永新縣民胡遇軒劉西侯廣豐縣民婦徐呂氏現年均一百歲請即旌表等語胡遇軒等俱年屆期頤精神矍鑠洵為壽世祥徵所有應行賞賚並建坊旌表之處該部照例辦理摺併發欽此

272 乾隆五十六年正月初三日內閣奉

上諭據姚茶奏萬載縣民鄭南輝監生鮑啟仁上高縣生員李幹秀興國縣職員徐佐達崇仁縣民楊文智崇義縣監生郭濂現俱五世同堂請予錫賚等語鄭南輝等俱年登耆耄統滕曾元洵為昇平盛事所有應行賞賚之處該部照例辦理摺併發欽此

273 乾隆五十六年正月初四日內閣奉

上諭上年直隸永平天津河間等府屬各州縣夏秋雨水較多河流漲發田禾被淹致成偏災節經降旨令該督實力撫卹並於天津北倉截留漕米及通倉撥給米石分別賑濟毋使一夫失所第念今春正賑已畢青黃不接之時小民生計維艱口食恐不無拮据著加加恩將順天府屬之文安寶坻大城武清寧河永清東安薊州霸州保定永平府屬之樂亭灤州盧龍昌黎保定府屬之清苑新城雄縣高陽河間府屬之河間獻縣阜城交河東光

景州天津府屬之天津青縣靜海滄州遵化州屬之王田豐潤等三十州縣所有八分災極貧民九分災極次貧民俱著加賑一個月俾民食得資接濟至被災較輕之六七分及八分災之次貧並勘不成災地方仍著該督察者情形或酌借口糧籽種或減價平糶分別酌辦該督務須督飭所屬實心經理俾災黎均沾愷澤以副朕普錫春祺恩加無已至意該部即遵諭行欽此

274 乾隆五十六年正月初四日內閣奉

上諭上年山東省平原禹城齊河德州等各州縣因夏秋雨水較多河流漲發田禾被淹致成偏災節經降旨令該撫實力撫卹分別蠲緩並撥帑截漕一體賑濟毋使一夫失所第念今春正賑已畢青黃不接之時小民生計維艱口食恐不無拮据著再加恩將平原禹城齊河德州長清德平濟陽臨邑陵縣聊城茌平高唐堂邑館陶清平莘縣冠縣恩縣博平范縣臨清邱縣夏津武城商河濱州樂



陵等二十七州縣並座落衛地被災九分極次貧民於正賑之外加賑兩個月其七八分極次貧民俱展賑一月以資接濟至被災五六分及勘不成災之區仍著該撫察着情形或酌借口糧籽種或減價平糶分別酌辦該撫務須督飭所屬實心經理俾災黎均沾溥澤以副朕惠愛閭閻教錫春祺至意該部即遵諭行欽此

275 乾隆五十六年正月初七日内閣奉

上諭據勒保奏平涼縣民陳世道現年一百一歲懇請旌表等語陳世道壽逾百齡精神矍鑠洵為昇平人瑞所有應行賞賚及建坊旌表之處著該部照例辦理摺併發欽此

276 乾隆五十六年正月初八日内閣奉

上諭恩齡奏壽光縣耆民胡恭等年逾百齡懇恩旌表等語胡恭趙之曾楊鴻菴均壽過期頗精神矍鑠洵屬昇平人瑞所有應行賞賚及建坊旌表之處著該部察例具奏摺併發欽此

277 乾隆五十六年正月初八日内閣奉

上諭梁肯堂奏壽縣耆民沈良柱等俱年躋九袞五世同堂懇請獎賚等語沈良柱馮之真王雙才王又楚郝子成魏贊楚光宗王文正均年臻耄耋統膝曾元洵為熙朝盛事所有應行賞賚之處該部察例辦理摺併發欽此

278 乾隆五十六年正月初八日内閣奉

上諭秦承恩奏大荔縣民張之璋等八家均係五世同堂其壽婦胡馮氏現年一百三歲又三水縣民趙邦傑十世同居請予賞賚旌表等語張之璋等或昌詒五世算紀百齡或十葉同居一門聚慶洵屬昇平嘉瑞所有應行錫賚及建坊旌表之處著該部分別察例辦理摺併發欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 哈密辦事大臣琅 乾隆五十

六年正月初八日奉

上諭據琅玕覆奏浙省海塘工程本年七月間被風潮潑損因病未能親往履勘八月初間隨即前往詳閱各工其中輕重情形不一是以仍照向辦章程分別緩急附請修建並未先行具奏各無可辭請交部嚴加議罪等語浙省海塘關係民生保障遇有工段踳陘自應隨時親往查勘據實具奏乃琅玕並不即往詳查僅將即應修築之工入於七八兩月沙水情形摺內修辦其餘風潮塌損各工並未奏聞實屬因循玩忽所有琅玕未奏各工著福崧詳悉查明先於海塘經費內動支迅速興修仍令琅玕照數賠出解浙歸款以示懲儆將此傳諭福崧並諭琅玕知之欽此遵

旨寄信前來

乾隆五十六年正月初九日內閣奉

上諭前命軍機大臣議覆浙江提督陳杰條奏選拔千把外委應按照總督提督駐劄地方就近考驗一摺行令兩江等處各就該省營伍道里情形悉心妥議具奏彼時朕以此等微末弁兵分隸各提鎮標營管轄其有距總督駐劄地方較遠者於選拔時必須前赴總督衙門考驗恐賢弁維艱且往返轉需時日是以諭令該督等將隔省各標營如何就近令提督總兵自行考拔之處酌定章程另行核辦原為體恤未弁起見嗣據兩江湖廣閩浙等省陸續奏到情形各有不同茲福康安奏千把二項職分較大所得養廉較諸文員中州判縣丞為加優一選拔補即可食廩赴考不虞拮据嗣後各營千把缺出請循照舊例仍送總督考拔其外委及額外外委缺出各歸就近考拔等語所議甚是千把職任雖微但一經拔補將來即可膺都司守備之選若本管鎮將考送或有不公提督瞻顧情面不行駁飭適足以啟倖進諸弊即總督巡閱時

復行考驗查出徇情弊竇叅革示懲而該弁業已補拔有年於營伍操防不無貽悞轉非慎重戎行之道即如前年福康安叅奏總兵葉至綱濫送兵丁呂蒙一案是其明証嗣後提鎮協營遇有干把缺出仍由提督轉送總督考試拔補其外委及額外外委例無養廉所得餉銀亦屬無幾恐其憚於遠涉墮其上進之心著照福康安所議行該部知道摺併發欽此

281 乾隆五十六年正月初九日內閣奉

上諭向來各省遇有壽民年逾百歲及五世一堂應行旌表賞賚之處俱係照例具題嗣因朕得有五代元孫上年又係朕八旬壽辰中外臣民同深歡忭是以各督撫等於所屬民人內見有年登耄耄膝繞曾元者具摺入告以為并平歲事然在上年奏報則可此後仍當照例具題辦理朕從不侈言祥瑞崇尚虛文總期時和年豐天下共享盈寧之福斯實為麻徵上瑞如不過皓首龐眉含飴衍慶

因屬閭閻佳事而朕心塵念黎元時深願望者實在彼而不在此也嗣後各省有百歲者民及五世同堂等事著各該督撫仍照向例具題給予旌賞不必專摺奏請所有本日穆和蘭奏汜水縣民李汝霖封邱縣民張廷照長麟奏銅山縣民王進公福崧奏烏程縣民翁尚英臨海縣民侯介福瑞安縣民蔡次玉等即著該部照例辦理摺併發欽此

282 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭 乾隆五十六年正月初九日奉

上諭據福康安等奏審訊崖州案內夥盜關應華等供稱並未隨同拒捕但既已搬取器械即與拒捕無異自應照律定擬被擄之董勝發等二名訊未行劫但在盜船上聽從使令未便即行寬釋俟獲到盜首另行訊明定擬此案已經得有踪緒乘此搜捕較為得力至盜首及各夥盜據關應華等供稱現往短棉農耐等處躲避不得以該處係安南

所屬地方觀望復經照會阮光平令於境內一體  
挨查盜匪自無從竄逸等語所辦俱是已於摺內  
批示現在粵省地方文武各員經福康安等認真  
督率俱知上緊訪緝設法追拏案內匪犯自無難  
全數弋獲福康安等惟當督飭所屬益加嚴密購  
線尋踪不得以已獲數犯稍存疎懈至盜首及夥  
盜等逃往安南之短棉農耐地方藏匿冀延殘喘  
福康安已行知阮光平一體查緝並著福康安再  
行照會該國王以盜犯等因內地查拏嚴緊竄往  
爾國所轄地方避匿如能按名拏送奏聞大皇帝  
自必仰蒙恩獎優賞即或該犯等往來洋面奔竄  
無定不能跟踪拏獲亦當派人嚴密搜查勿使潛  
匿安南境內驅回內地以便官兵截拏此等匪犯  
若在爾國地方藏匿驅除未盡必致劫掠滋事為  
害行旅於爾國亦多未便如此明白宣示該國王  
感激朕恩自當嚴飭境內幫同緝捕也至陳亞太  
供出盜首亞常夥盜英亞九等各犯務須上緊緝  
拏毋任漏網其各營縣員弁稟報續獲洋匪各案  
著福康安等逐案研訊嚴行定擬具奏將來拏獲

盜首時其出力之官兵弁兵丁等並著福康安等查  
明具奏候朕酌量加恩以示鼓勵將此傳諭知之

欽此遵

旨寄信前來

283 大學士公阿 大學士伯和 字寄

署江蘇巡撫長 乾隆五十六年正月初九日  
奉

上諭據長麟奏各屬造報民數未確請展限核實查  
造等語國家承平日久生齒日增戶口自必益臻  
繁庶各省督撫於年底奏報亦祇就各州縣開造  
清冊彙核繕奏祇覺繁增然原屬具文無甚關係  
若如長麟所奏必另行委員清查辦理戶口殷繁  
勢難一一查核即細加查造之後亦斷不能一無  
舛漏且恐吏胥藉端滋擾更非安輯閭閻之道長  
麟祇須照例造冊奏報毋庸過為稽覈轉滋擾累  
而無實際也將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

284 乾隆五十六年正月初十日內閣奉

上諭前據尹壯圖具奏督撫因有賄項派累屬員以致倉庫多虧小民興嘆屢經降旨詢問尹壯圖全改其言虛譽朕愛民勤政及至訊其實事尹壯圖節次覆奏總不能指實一人一事因令慶成帶同赴山西直隸山東江南等省盤查倉庫俱無虧短是尹壯圖逞臆妄言其罪已無可逭揆其初奏之意不過自揣才具甚庸學問又劣於尚書督撫不敢奢望而思藉此一奏或可內擢侍郎外用學政殊不知朕之用尹壯圖為閣學原以雲南現無大員故爾不次陞擢若論其才具學問於閣學已為倖獲今尚欲妄思干進其希榮卑鄙之念朕早已灼見其肺肝若謂其以建白沽黨直之名雖庸人亦知其不能出此惟伊前摺內所奏各省多有虧空奏請盤查尚不得謂之有所建白但朕綜理庶務從不肯察察為明五十餘年未嘗特派大臣清查倉庫者蓋緣偏聽一人即恐其人藉端勒索查弊適足以滋弊而督撫藩臬舉不足信何以委之地方重任至其所稱吏民感頌興嘆則實造作

無稽天良盡泯之言不可不辨試思我國家

列聖相承厚澤深仁洽於寰宇

一次

聖祖仁皇帝御宇六十一年普免天下錢糧二次漕糧

世宗憲皇帝十三年中整綱飭紀內外肅清愛民實政不可殫述其時因籌辦西北兩路軍精未暇議及普蠲之事迨朕繼緒承麻臨御五十六年偏災賑卹蠲貸均施以及修築河工海塘捍衛民生所費何止萬萬而普免天下錢糧四次漕糧二次為數又不啻數十萬萬乎惠問闔有加無已朕歷觀史冊自勝國以溯漢初僅有漢文帝賜農民田租之半史臣已侈為美談從未有如我朝普免正供再三再四者在朕愛養黎元如傷在抱惟恐一夫不獲施惠猶以為未足是以宵旰憂勞勤求民瘼迄今年逾八表猶日夜孜孜無事無時不以愛民為念雖底小康猶懷大惕從不肯矜言示惠朕嘗稱易象所云有孚惠心勿問元吉實膺之心而見之詩文不啻再三也乃尹壯圖忍為此感頌興嘆之言直似方今天下民不聊生不特誣及朕躬併將億兆

黎民愛戴悃忱全為泯沒故不得不將朕于惠元  
元之實政實心一為剖析天下之民具有天良方  
將感悅之不暇亦何至怨讟煩興朝不謀夕乎茲  
如尹壯圖所言竟已民不堪命何以百數十年海  
宇清寧地方無事即有王倫蘇四十三田五林典  
文等一二亂民聚眾滋事亦無不立就撲滅民皆  
安堵若夫天下之大兆民之眾貧富本屬不齊其  
中有拙於謀生自傷窮困者事所難免况國家承  
平日久生齒日繁物產祇有此數而食用日漸加  
增康熙年間朕在沖齡時即聞乳保等有物價昂  
貴度日艱難之語今又七十餘年戶口滋生較前  
奚啻倍蓰是當時一人衣食之需今且供一二十  
人之用欲使家給人足比戶豐盈其勢斷有所不  
能若如經生迂腐之見拘執古制均其田畝限其  
服制必致貧者未富而富者先貧擾累紛紛適以  
釀亂即如孟子云庖有肥肉廄有肥馬民有饑色  
野有餓莩又云內無怨女外無曠夫亦係當時啟  
導時君權以立論而以事理度之則亦有未可盡  
信者試以廄有肥馬而論則當時七國縱橫兵車

乘馬不能一日不備豈有徒步從征之理若以怨  
女曠夫而論則臨淄十萬戶即全出齊宮怨女散  
之民間亦斷不能使無一夫鰥曠即如唐太宗時  
偶因災祲曾放宮女三千人所放若及一半則所  
留者仍有三千縱復全行遣出亦難使天下曠夫  
人皆有偶此所謂盡信書則不如無書也本朝恭  
儉相承惠民益下遇有行軍征討即所需芻秣亦  
從不取之民間是以拓土開疆大功屢藏雖用兵  
而民不知兵至於宮中嬪御以及給使女子合之  
皇子皇孫等乳姬使婢約計不過二百人實從古  
宮闈所未有朕以躬行節儉為天下先而太平日  
久戶口殷繁小民生計或有未能盡裕朕正以為  
盛滿難居每懷兢惕更不能不時以愛民為急也  
至現在紀綱整肅內外大臣實無敢有營私亂法  
者康熙雍正年間雖法度嚴明吏治整飭然尚不  
免有明珠徐乾學高穎圖噶禮隆科多年羹克諸  
臣竊權交結而鄂爾泰田文鏡李衛亦尚有三家  
鼎峙之說自朕臨御以來大學士傅恒為朕倚任  
多年恪恭奉職訥親亦為朕所嚮用後因貽誤軍

機即行正法而平日居官並無貪黷之事也且近日總督中如福康安為朕信任之人畢沅與前任總督書麟李世傑輩均係素能辦事者有敢於公然角立門戶營私舞弊者乎其有貪婪不法如王亶望陳輝祖國泰郝碩諸人一經敗露無不立真典刑天下各督撫當此吏治肅清之際即有不肖之心亦必默化潛移豈敢以身試法夫各督撫如果品等項土貢令出產之州縣墊辦採買不能保其必無倘藉端賠項派累屬員則斷斷不敢為此今尹壯圖所指之書麟長麟二人則併此些微土貢亦可保其不令屬員代辦是以偶因公罪罷斥旋因人才難得仍皆用為巡撫總之尹壯圖謬罔無知以感頌興嘆之言誣及朕躬誣及百姓朕正不妨以謗為規尚欲加恩寬宥但降旨詢問感頌興嘆究屬何人或百姓道路之言不能指實而牧令官吏斷無不知姓名之理今尹壯圖覆奏竟敢以不能記憶虛詞有心欺罔其咎實不可寬宥矣且現據伊奏出伊母年逾七旬留在雲南原籍伊即來京候補之語竟是天奪其魄自陳不孝滇

南距京萬里垂白老親未能迎養自當據實陳情留籍侍奉乃竟戀職忘親棄之不顧尚得謂之人類乎尹壯圖不但無君而且無親人倫盡喪豈可忝居朝列玷辱搢紳尹壯圖著革職交與慶成押帶來京交刑部治罪俟定擬上時候朕再降諭旨將此通諭知之欽此

285 乾隆五十六年正月初十日內閣奉

上諭本日費振勳奏到謝賞石鼓文及涇清渭濁詩圖一摺此項墨刻前經頒賞內外臣工因搨印較多是以各省學政亦得與分賞之列今閱費振勳奏謝之摺鋪敘繁文連篇累牘殊屬無謂學政職司訓課一切士習文風皆須整飭自有任內應辦事宜該學政到任以來於陳奏考試各摺並未見有實力整頓之處乃僅於謝恩摺內填砌膚詞徒為虛頌希冀藉此見長豈不知朕綜理庶務惟在崇實無浮不以虛言粉飾為尚耶又另摺奏請仿刻石鼓文列於文廟等語朕以太學為京師首善之區熱河為每年駐驛之地因特令將重排石鼓

文於兩處建立若如該學政所奏則各省學官均須紛紛請建殊為多事費振勲著傳旨申飭欽此

286 乾隆五十六年正月初十日內閣奉

上諭彭廷棟奏查閱營伍情形一摺內稱所到各營將部頒行軍紀律向各兵指名抽問有能記五六條者並有全能背讀者分別獎賞以示鼓勵等語提鎮大員平日督率將備訓練兵丁當令各營伍騎射精純技藝嫻熟咸成勁旅至頒發紀律不過仗各標營遵曉大畧叅將遊擊以上能知亦可矣原不在兵丁之能否背讀以定等差即該兵丁等於紀律各條全能背記設行軍時騎射弓馬俱未精嫻雖背讀亦有何益况行軍之道全在臨時相機不可拘守成法即將備等未曾親履行間亦不能洞悉機宜豈兵丁等能背讀紀律即謂通曉兵法耶即如士子等服官効用讀書原當知律若必令人人將律例背誦又復成何事體彭廷棟所奏不過藉此以見其認真整飭殊屬多事著傳旨申飭欽此

287 遵

旨將禮部奏請

頒賞暹羅緬甸國王王妃及員役物件俱酌改畫一

查向例

賞賜暹羅各物俱較緬甸為多此次謹將

賞賜緬甸各項均照

賞賜暹羅之例一體

頒給另行開單進

呈俟

發下交禮部屆期

頒賞嗣後除朝鮮仍照舊例外其餘各國俱照此畫

一辦理謹

奏

正月十一日



\* 賞暹羅國王王妃及員役清單

賞國王

錦八疋 織金緞八疋 織金紗八疋 織金羅八疋 紗十二疋 緞十八疋 羅十八疋

賞王妃

織金緞四疋 織金紗四疋 織金羅四疋 緞六疋 紗六疋 羅六疋

賞正副使二員

織金羅各三疋 緞各八疋 羅各五疋 絹各五疋 裏各二疋 布各一疋

賞通事二名

緞各五疋 羅各五疋 絹各三疋

賞從人十七名

絹各三疋 布各八疋

賞伴送官二員

彭緞袍各一件

正月十一日

\* 賞緬甸國王王妃及員役清單

賞國王 擬照 賞暹羅國王例

錦八疋 織金緞八疋 織金紗八疋 織金羅八疋 紗十二疋 緞十八疋 羅十八疋

賞王妃 擬照 賞暹羅王妃例

織金緞四疋 織金紗四疋 織金羅四疋 緞六疋 紗六疋 羅六疋

賞大頭目 擬照 賞暹羅正副使例

織金羅各三疋 緞各八疋 羅各五疋 絹各五疋 裏各二疋 布各一疋

賞小頭目並通事 擬照 賞暹羅通事例

緞各五疋 羅各五疋 絹各三疋

賞緬甸人役及象奴 擬照 賞暹羅從人例

絹各三疋 布各八疋

賞伴送官

彭緞袍各一件

正月十一日

288 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 乾隆五十六年正月十二日奉  
上諭本日長麟奏遭風琉球難夷護送歸國一摺內  
稱據通州詳報乾隆五十五年九月初二日東七  
甲港口有外來船一隻查係琉球國人運送粟米  
遇風漂至港口泊住詳經孫士毅福崧批飭妥為  
撫卹令將如何遣回本國之處查議具詳茲據查  
明該難夷願坐原船回國即移會陳大用撥兵護  
送至閩歸國等語朕閱此摺乃知上年九月間即  
經通州詳報孫士毅等既已據詳飭查自應將該  
難夷遭風情節一面奏聞一面查辦乃直至長麟  
到任後查明具奏殊屬遲緩朕辦理庶務惟以疾  
速為要著傳諭孫士毅嗣後遇有此等事件即一  
面飭查一面奏聞將此傳諭孫士毅並令長麟知  
之欽此遵

旨寄信前來

289 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫書 乾隆五十六年正月十二日奉  
上諭前據梁肯堂奏盤獲謀財害命兇犯劉松供出  
山西壺關縣民楊便倡立三皇老祖邪教因降旨  
令書麟查緝茲經書麟將楊便等拏獲供稱均係  
務農良民並無倡教斂錢之事因楊便寄居史窰  
村種地時劉松在彼砍柴被楊便驅逐是以挾嫌  
誣扳等語楊便等既堅供無倡立邪教之事搜查  
各家又無圖像歌單等不法字跡所供尚屬可信  
且書麟續又准梁肯堂咨會覆訊劉松已自認挾  
嫌誣控是實所帶歌單係焦園村人高三言及壺  
關縣神焦廟道士廣息曾傳歌詞因收該犯為徒  
轉行傳給並非得自楊便是此項歌單為高三廣  
息二犯所傳供詞甚屬確鑿著傳諭書麟詳悉訊  
明楊便等實係誣扳即行省釋以免拖累其神焦  
廟道士廣息焦園村人高三兩犯並著該撫飭屬  
查拏務獲從嚴究辦將此傳諭書麟並諭梁肯堂  
知之欽此遵

旨寄信前來

290 乾隆五十六年正月十二日內閣奉

上諭據額勒春奏大定府民吳尚敏現年一百三歲五世同堂懇恩旌表等語著照所請所有應行賞賚及建坊旌表之處該部照例辦理摺併發欽此

291 本日保寧奏此次出師巴勒布抵藏官兵往返

路遠晝夜備行著有微勞其原借行裝銀兩若全數扣還未弁窮兵未免倍行拮据請照西藏換防兵丁之例將原借銀七千九十兩酌免十分之六其餘應繳四分攤作四季扣還等語係於酌減六分之外其應繳四分仍分四季扣還歸款臣等現交戶部將各處出征及川省換防臺藏官兵在察木多迤西者其借支行裝銀兩凱旋後並更換回營時是否有減扣分扣之例除將原摺交部核議外所有應否准其減免分扣之處俟部議上時伏候

欽定謹

奏

正月十二日

292 乾隆五十六年正月十二日內閣奉

上諭陝西督糧道員缺著秦震鈞補授欽此

293 乾隆五十六年正月十三日內閣奉

上諭甘肅平涼府知府員缺著閻曾履補授欽此

294 乾隆五十六年正月十三日內閣奉

上諭據譚尚忠奏新興縣民陳管現年八十八歲建水縣民婦楊馬氏現年一百一歲均五世同堂請予旌賞等語著照所請該壽民等所有應行賞賚及建坊旌表之處該部照例辦理摺併發欽此

295 乾隆五十六年正月十四日內閣奉

上諭向來各省民人赴京呈控案件都察院步軍統領衙門不敢壅於上聞即行據呈轉奉朕勤求民隱惟恐鄉曲小民含冤莫訴每於來京具控之案無不特派大臣前往審辦其中伸屈抑者固有而近日不安本分之徒見來京者控無不准准無不

辦赴懇求理者遂覺接踵而來及欽差大臣提集  
案犯認真研鞫所控情節多屬子虛不過挾嫌逞  
忿妄砌誣捏之詞莫遂其拖累之計即被控之人  
訊明省釋而輾轉審解拘禁囹圄胥役等又復借  
事生風從中嚇詐事雖得白而身家已破情形殊  
堪憐憫且欽派審案大臣經過地方徒勞驛馬糜  
費供支於沿途驛站亦恐不無擾累此等刁健訟  
棍各省多有而湖北湖南為尤甚若不嚴加懲創  
則枉累無辜藉端傾陷之風伊於何底所有本日  
吉慶等奏到之湖南長沙縣保正王澤遠誣控勒  
買倉穀一案及富綱等奏到之貴州桐梓縣民人  
傅志榮誣控傅志舜串通書役斃命搶奪一案俱  
著交刑部核覆時量行加重定擬以示懲儆嗣後  
著各省督撫轉飭所屬剴切出示諭以小民等如  
果實有冤抑地方官不為審理原不禁其赴京具  
控但若稍涉虛誣亦必加倍治罪務使家喻戶曉  
咸懷儆惕庶告訐刁風漸知斂戢而良善鄉氓免  
致株累亦整飭風俗人心之一端也欽此

296 乾隆五十六年正月十四日奉

旨張錫謨滑承芳韋協夢孟生草倪為炳俱著准其  
馳封該部知道摺併發欽此

297 乾隆五十六年正月十四日內閣奉

上諭據譚尚忠奏保山縣民姬良海河西縣民婦解  
羅氏昆明縣民婦楊李氏均年屆百齡請予旌表  
等語著照所請該壽民等所有應行賞賚及建坊  
旌表之處該部照例辦理摺併發欽此

298 乾隆五十六年正月十七日內閣奉

上諭朕於二月初五日臨御經筵所有應行典禮著  
各該衙門照例預備欽此

299 乾隆五十六年正月十八日內閣奉

上諭據惠齡奏東平州生員師屏翰現年九十一歲  
又姚茶奏安福縣民婦邱賴氏現年一百歲均五  
世同堂請予旌賚等語著照所請該壽民等所有

應行賞賚及建坊旌表之處該部照例辦理摺併  
發欽此

300 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎慶 乾隆五十六年正月十八日奉

上諭慶成奏帶同尹壯圖抵蘇後遵旨照依詢問書  
麟之語詢問長麟據稱歷任巡撫七年領過養廉  
八萬餘兩除繳罰項尚餘銀二萬餘兩用度有餘  
何必生法若藉口婪索豈成人類並據尹壯圖奏  
長麟夙稱廉謹今親與接談頗覺敬慎小心所云  
罰項無庸另行生法之處洵屬可信隨至藩庫盤  
查悉與冊檔相符並無缺少前奏措詞乖謬實屬  
罪由自取惟求從重治罪等語前因其誣及天下  
百姓是以明降諭旨將尹壯圖革職令慶成押帶  
來京交刑部治罪矣長麟所繳罰項經尹壯圖面  
詢該撫實係歷年多餘養廉積存完繳確鑿可信  
而長麟並有若藉此婪索屬員豈成人類之語是  
該撫果借罰項為名向屬員勒索幫助實屬不成

人類尹壯圖詢明並無其事則伊前此以無稽之  
言任意污蔑亦不得謂之人類矣又尹壯圖前奏  
稱書麟長麟僅能獨善其身未免尚惟此失遇有  
虧空不能不向屬員生法今摺內又以長麟謹慎  
小心不向屬員生法之言自屬可信則前後措詞  
自相矛盾試令伊捫心自問豈非進退無據之小  
人乎至摺內稱所過淮揚常鎮以及蘇州省會正  
當新年慶賀之時溢巷摩肩携豚沽酒童叟怡然  
自樂並未聞有官吏滋擾之事所言前後更為不  
倫伊前摺內所稱商民半皆感額與歎各省風氣  
大抵皆然竟似居今之世民不堪命而此時目睹  
閭閻豐裕情形復以諛詞虛譽冀圖解免前言之  
謬其居心巧詐尤屬顯然著慶成將以上指出尹  
壯圖前後措詞自相矛盾各情節逐一詢問着其  
如何登答再尹壯圖前奏以比年來虧空彌補徒  
事遷延大率各省皆有若如所言則督撫等所奏  
倉庫無虧全不可信即如本日穆和蘭奏盤查河  
南通省倉庫並無缺少一摺亦豈以虛言入告俱  
不足憑予著慶成令尹壯圖將前奏虧空未經查

過之處係何省督撫謊言倉庫無虧逐一指出毋任再有支吾隱飾本日又據憲齡奏遵奉昨降諭旨將盜案原贓未能起獲即著該地方官罰賠示儆一摺民間偶被竊盜其所失物件尚恐原贓無著責令地方官賠償俾事主得沾實惠可見朕惠愛黎元無微不至小民方且感戴之不暇豈有怨謫繁興之理且今未獲賊贓之地方官賠給被竊之百姓尹壯圖亦以為累官累民乎并著慶成詢問尹壯圖將商民感額興歎之言究竟得自何人聞於何處令其一併登答據實覆奏將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

301 據朝鮮國正使金箕性副使閔台懋遵

旨恭賦元宵即景詩各一首謹將原詩進

呈其暹羅緬甸二國貢使俱不諳聲律未經作詩

臣等謹照例擬

賞朝鮮國賦詩之正副使二員物件開單呈

覽再查上年未經賦詩之琉球暹羅正副使亦蒙

恩賞此次應否

賞給之處伏候

欽定並將擬

賞物件開列一單一併進

呈謹

奏

正月十九日

\* 擬

賞朝鮮國賦詩正副使二員

大緞各一疋

筆各二匣

墨各二匣

箋紙各二匣

\* 擬

賞未經賦詩之暹羅緬甸貢使共五名

八絲緞各一疋

筆各一匣

墨各一匣

箋紙各一匣

正月十九日

302 乾隆五十六年正月十九日奉

旨高琳著照所請准其貶封該部知道摺併發欽此

303 乾隆五十六年正月二十日奉

旨交刑部嚴審有無致死別情定擬具奏欽此

舒明毆妻致死一案

304 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 安徽巡撫朱 乾隆五十六年

正月二十日奉

上諭據孫士毅奏嚴緝私販一摺內稱淮北引鹽積滯皆由私鹽充斥地方官查緝不力所致現與朱珪熟籌扼要緝捕之方而出力大員頗難其人惟盧鳳道述德實心任事委令督緝私梟必能得力已會同朱珪密飭該道悉心偵探並嚴飭地方官及各關委員如能獲有大夥私販不特免其失察之咎並可立予保題以期私淨引銷年清年款等語所辦甚是已於摺批示淮北私鹽興販之地已據孫士毅查明多在滁州定遠鳳陽壽州合肥一帶即着該督會同朱珪設法偵緝嚴定勸懲務須督飭屬員實力辦理不可日久生懈致私鹽稍有透漏至原任盧鳳道述德前因失察亳州茂倫重犯潛逃該州匿不詳報一案業照部議降調該員來京需次本無所事今既據孫士毅奏其緝私得力即着賞給同知留於江省交與孫士毅朱珪專委以緝私之事俟二三年後如果認真出力著有成效即奏明以知府陞用亦無不可該員前在盧鳳道任內有管理關務之責委令督緝私鹽或恐不能兼顧今已降調離任轉可專心查緝於緝捕

私販之事更可期得力也將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

305 本月二十日吏部將四川調任總督孫士毅保

舉堪勝知府之江北同知文需資州直隸州知  
州石作瑞陝西巡撫秦承恩等保舉堪勝知府  
之候補理事同知焱光又山西巡撫書麟咨送  
六年俸滿之平定直隸州知州金明源又禮部  
將伴送暹羅貢使之廣東南澳同知邱學勳等  
帶領引

見奉

旨文需石作瑞焱光金明源邱學勳俱著交軍機處  
記名

306 乾隆五十六年正月二十一日內閣奉

上諭總兵張朝龍尚維昇出師安南陣亡前經降旨  
從優議卹均照提督例給與騎都尉又一雲騎尉  
世職本日兵部將張朝龍之子張文貴帶領引見  
襲職因念張朝龍尚維昇帶兵前赴安南屢著勞

績迨後力戰陣歿奮不顧身尤堪嘉憫著再加恩  
賞給三等輕車都尉世職即令伊等之子承襲用  
示朕褒嘉勇烈有加無已至意欽此

307 臣等擬寫成策調補工部侍郎員缺

諭旨進

呈其所遺盛京工部侍郎員缺謹於

諭旨內空寫擬開應陞人員名單呈

覽恭候

簡放謹

奏

正月二十一日

\* 內閣學士傅 森

王 保

副都御史巴彥學

哈福納

通政使夢 吉

大理寺卿慶 齡



詹 事伯 麟  
太常寺卿德 瑛  
光祿寺卿武隆 額  
太僕寺卿世 魁

308 乾隆五十六年正月二十一日內閣奉

上諭本日召見副都統靈泰觀其人尚明白伊前在吉林協領任內辦理官參事件尚屬熟諳盛京亦有辦參之事以盛京之缺補用吏資駕輕就熟現在阿必達久病未痊工部滿洲堂官之員阿必達著即開缺仍留副都統在御前侍衛上行走俾得安心調攝所有工部右侍郎員缺著成策調補其所遺盛京工部侍郎員缺著傅森補授盛京副都統員缺即著靈泰調補欽此

309 乾隆五十五年十二月十七日署四川總督保寧奏請將留川以遊擊用之督標中營都司劉國剛補授潼綿營遊擊所遺原缺即以守備魯遇春遞補等因一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如該部議駁即寫准行諭旨欽此今據兵部知會

四川潼綿營遊擊一缺於上年十一月內將陝

西都司達蘭圖推補其守備魯遇春亦於上年

十一月內照例擬陞四川懷遠營都司均經奉

旨允准在案現將保寧奏請遞行陞補之處議駁具

題臣等查潼綿營遊擊員缺經部推補有人守備

魯遇春亦擬陞川省他缺俱係上年奉

旨准行之件兵部業經遵

旨行知該省保寧因未接奉部文是以另行具奏所

有陞補各缺似應仍遵前奉之

旨辦理毋庸再行擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

正月二十一日

310 乾隆五十六年正月二十二日內閣奉

上諭畢沅等奏蒲圻縣民單方攷黃岡縣民藍有德江寧縣民廖繼周監利縣民王如珞襄陽縣生員李榮房縣民朱瑟和棗陽縣民婦傅舒氏等俱曾元統勝五世同堂請予恩賚等語著照所請所有該壽民等應行建坊旌表之處該部照例辦理摺併發欽此

311 乾隆五十六年正月二十二日奉

旨朕於三月初四日啓鑾巡幸盤山著各該衙門照例預備欽此

312 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年正月二十三日奉

上諭書麟奏據臬司顧長紱稟稱密查壺關縣神焦村有朝真觀一所土人稱為神焦廟當即馳往該處傳齊廟內道士詢問並無廣息之名亦並不與

劉松認識逐細搜查亦無歌單及不法字跡其高三一犯查係河南林縣人所住村莊與壺關縣聯界委員前往訪等聞已被豫省拏獲等語前據梁首堂覆訊劉松供稱所帶歌單在高三家抄得高三係得自神焦廟道士廣息所供甚屬確鑿因令書麟飭屬嚴查務獲今據奏稱查明該廟道士共十一人並無廣息名字各道士亦均不與劉松認識并吊查道會司所造合縣道士名冊亦並無廣息其人則劉松前日何以又有此供著梁首堂再行嚴訊劉松伊所指廣息究在何處居住是否實有其人務得確切証據以便跟踪嚴緝毋再任其狡展至高三一犯既經豫省拏獲其所傳歌單實在來應自可向其逐一追究著穆和蘭即將高三嚴行審訊劉松所抄歌單是否係伊傳給并曾否與神焦廟道士廣息認識轉相傳播令其據實供出自無難得其底衷也將此各諭令知之欽此遵旨寄信前來

大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 浙江巡撫福 浙江提督陳

乾隆五十六年正月二十三日奉

上諭據福崧奏等獲行劫哨船正盜陳朝邱阿田陳阿助等三犯審明後即恭請王命處斬臬亦又等獲買贓之周友卿一犯審係在沿海地方屢次價買贓布請先在海口用重枷枷號一年滿日發遣黑龍江給披甲人為奴等語浙省行劫哨船拒捕奪械一案前經閩省拏獲七名浙省係犯案地方獲犯僅此四名轉較閩省為少且所獲各犯止係案內夥黨而盜首在逃迄今未獲著傳諭伍拉納福崧陳杰嚴行督緝將逃逸各犯迅速全行弋獲毋任遠颺漏網拏獲後不分首從即行正法以示懲儆又據福崧另片奏稱海塘應修各工亟須安速補築擬暫回省城親往督催俟二月內伍拉納來溫之前仍即前抵温州會同商辦等語福建地處海疆最關緊要浦霖新調該省巡撫恐未能諳悉海疆情形且浙江粵東洋盜多係藉隸福建該犯等劫得貨物竄至閩省洋面勢須登岸賣贓海口地方亦必有接贖私買之人現在浙省拏獲屢買盜贓之周友卿可為明證伍拉納此時竟當在閩飭屬於洋面及各處海口認真緝捕或親至沿海查拏何必因此一案餘犯前赴溫州上年十一月內曾經降旨諭知伍拉納此時想已接奉該督即當遵照前旨毋庸赴浙如已啓程抵溫將緝捕事宜與福崧等商定後即著速行回閩至福崧俟查催海塘後即行前往溫州督辦務期盜首就獲洋面肅清不可稍有疎縱也將此由六百里各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

314 乾隆五十六年正月二十三日內閣奉

上諭福崧等奏審擬千總袁鳳鳴等在洋遇盜搶失軍械並護副將王愈安等飾詞具報一摺袁鳳鳴帶兵出洋巡緝遇見盜船正應奮力擒拏督率兵丁等向前追捕乃轉被盜匪過船將該弁槍住槍去軍械衣物且該弁並未身受一傷實屬懦怯不堪該撫等比照領兵官失誤軍機之例擬以斬候

尚不足以示懲袁鳳鳴應照臨陣逃脫律著即處斬餘俱照該撫等所奏完結又據奏查明遊擊錢夢虎在淡水洋面瞥見盜船即首先出抵脚踫兩賊落水又拔刀連砍數匪嗣因盜匪拚命抵拒致被重傷倒地等語錢夢虎一見盜艘即能迅速追擊迨至賊船駛攏抵死拒捕該遊擊親身直前抵禦奮勇格殺盜匪多名身受重傷核其情節勝袁鳳鳴畏縮無能者多矣錢夢虎著免其治罪仍回遊擊之任所有在船兵丁亦著照舊歸伍食糧朕向來辦理軍務信賞必罰功罪輕重惟其自取該弁兵等巡緝海洋遇盜匪持械拒捕即與臨陣無異豈可心存畏葸惟怯不前今袁鳳鳴出洋捕盜反被盜匪揜倒船艙如此無用竟不成為武弁是以將袁鳳鳴立寘重典錢夢虎雖被盜格傷而其奮身追捕殺斃匪犯多人在營員中尚屬認真緝捕足以仍令其照舊供職嗣後各水師營員弁目俱當知所勸懲遇有出洋巡緝之事毋得稍有退縮致干重罪也著該督詳諭各提鎮兵丁知之該部知道福崧等摺併發欽此

315 乾隆五十六年正月二十三日奉  
旨阿哥書房總師傅著派王杰欽此

316 同日内閣奉

上諭左都御史員缺著劉墉補授吳省欽著補授禮部右侍郎其劉墉所遺順天學政即著吳省欽去  
欽此

317 乾隆五十六年正月二十三日內閣奉

上諭據書麟奏解州民人陳巖舜現年九十歲五世同堂請予錫賚等語壽民陳巖舜所有應行賞賚之處該部照例辦理摺併發欽此

318 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年

正月二十四日奉

上諭本日穆和蘭奏據陳文緯稟稱督同府縣將劉松所供之高三拏獲該犯雙目俱瞽搜查家內並無不法字跡連日審訊堅供與劉松素不認識惟記得五十二年三月間有一討乞花子在門前要錢要飯回說沒有他便生氣說我係河焦溝劉松誰不知道出言詈罵因用拐棍向毆他就去了並沒傳授歌詞亦不知神焦廟道士係何姓名實是挾嫌誣扳隨將該犯押解到省經該撫率同司道研訊供亦相符現在飭縣管押以候質究等語前據梁肯堂覆訊劉松供稱所帶歌單係焦園村人高三言及壺關縣神焦廟道士廣息曾傳歌詞因收該犯為徒轉行傳給是此項歌單劉松得自高三供詞甚屬確鑿茲據穆和蘭奏拏獲高三審訊堅稱並未與劉松認識曾有討乞花子在門首叫喊因不給錢飯出言詈罵自稱劉松實是挾嫌誣捏並無傳授歌詞情事或高三恃無盾証飾詞狡

展抑或劉松實係誣扳報怨均未可定著傳諭梁肯堂即速提訊劉松伊前日所指高三是否實有傳授歌詞之事如係挾嫌誣扳則其歌單畢竟得自何人務令一一據實供吐速奏毋任支吾狡展致滋延宕該督審訊明確即一面具奏一面咨明穆和蘭查照辦理將此傳諭梁肯堂並諭穆和蘭知之欽此遵

旨寄信前來

319 查臺灣從賊逆犯子孫例應緣坐者前經奉

旨凡年在十五歲以下者俱解交內務府閹割以備掃除之役欽此本日奎林等奏拒捕越獄從賊逆犯林濕一名其長子林究次于林連俱應照例送京辦理臣等謹擬寫傳諭奎林等

諭旨進

呈謹奏

正月二十四日

320 乾隆五十六年正月二十四日奉

上諭奎林等奏拏獲謀殺捕役復經越獄從賊逆犯林濕一名業經照謀叛律擬以斬決即請王命正法并嚴拘犯屬照律緣坐等語此案林濕一犯先因拒捕殺斃事主拏獲收禁及賊匪陷城旋即越獄從匪逃入內山現又起意夥同匪類殺死捕役不法已極該犯雖已立正典刑其長子林兜次于林連均在十五歲以下例應送京闈割著傳諭奎林等即將該犯林濕之子林兜林連解送進京交內務府照例辦理至此案未獲何創等各犯並著奎林等即行飭屬上緊緝拏務獲審明定擬毋使一名漏網將此傳諭知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭臺灣鎮總兵奎林臺灣道萬鍾傑

321 查伍拉納摺內拏獲首夥各盜曾根邱各等二

十三名與福崧等昨日奏到摺內拏獲盜匪陳潮等供出在草嶼洋行劫哨船未獲之盜犯名姓俱各不同又伍拉納另片稱拏獲廣東戕官案內洋盜梁麟等十五名亦與前日福康安奏到摺內所稱未獲之盜首何起文李廣才等名姓不符是以臣等於擬寫

諭旨內令伍拉納將未獲各犯仍行上緊緝拏謹

奏

正月二十四日

322 大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 乾隆五十六年正月二十四日

奉

上諭伍拉納奏續獲行劫浙省甯船案內拒傷官兵首夥盜犯審明分別凌遲斬決一摺又另片稱據各營縣報獲浙江劫船案內洋盜蔡市等十五名廣東戕官案內洋盜梁麟等十五名現在提省嚴

鞠等語所辦好已於摺內批示矣浙江粵東洋盜多係籍隸福建該犯等劫得貨物回至閩省勢須登岸變贖是以節經降旨令伍拉納嚴飭各文武員弁於洋面海口嚴密訪拏茲據伍拉納前後等獲浙省行劫哨船案內盜犯二十八名拏獲廣東戕官案內盜犯前後十七名可見各盜犯在浙江粵東洋面行劫後俱紛紛竄回原籍希圖上岸變賣贓物伍拉納尤當上緊飭屬於洋面及各處海口認真緝捕遵照節次諭旨毋庸前赴温州況此次雖據該督拏獲曾根印各等各犯正法而昨日福崧等摺內等獲陳潮等訊出該犯等俱在吳機林首陳賞等船中出洋行劫哨船又前據福康安奏崖州案內盜首係何起文李廣才蛋家二亞常大辦三等犯俱未經拏獲是各案首夥盜匪尚多正應趕此跟踪購緝務須全數弋獲盡法處治以靖海疆而戢盜風所有等獲盜匪認真出力之文武員弁並著伍拉納查明咨部議叙以示鼓勵將此諭令知之仍即將續獲盜犯速行迴奏欽此遵旨寄信前來

323

大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 湖北巡撫福

雲南巡撫譚 貴州巡撫額 乾隆五十六年

正月二十五日奉

上諭長麟奏訪拏收藏小錢之黃甲一犯訊係此項小錢從湖北開張緞店之屈恒太鍾嘉茂處得來查驗背面清字多係寶熙寶雲寶源字樣現在咨明湖廣雲貴各省確查嚴辦等語所辦好小錢攪雜流行於錢法大有闕碍節經降旨通諭各督撫一體認真嚴禁乃黃甲屈恒太等並不遵例繳銷胆敢轉轉藏寄若各省奸商從而效尤則官為收買查禁之例仍屬有名無實不可不嚴跟究以絕根株其小錢背面所鑄寶熙寶雲字樣自係雲貴二省私鑄由湖廣流行到蘇該二省向來有私鑄小錢之弊雖經上年嚴定章程通行禁止而地方官奉行不力積弊未能一時肅清著譚尚忠額勒春嚴飭所屬上緊查拏勒限呈繳如再視為具文該處奸商仍將小錢私行販賣一經查出係寶熙寶雲字樣惟該省督撫是問至寶源係工部錢局

字樣官鑄斷無此等小錢想係奸商等見通行錢  
文內有寶源字樣私銷做鑄并著湖廣督撫逐一  
跟查此樣小錢究竟何處私鑄嚴辦示儆又據孫  
士毅等另片稱竊獲盜匪丁士隴等五起係在浙  
江寧波秀水等處行劫並訪獲曳刀匪犯虎牙等  
五名現在嚴切究審等語盜匪棍徒為害行旅擾  
累市集最為地方之患孫士毅等能密飭各屬等  
獲多名足見實心任事務須將現獲各盜犯嚴行  
訊究夥盜姓名一併嚴拏速行審辦不可稽延其  
曳刀匪犯虎牙等妄立譚號結黨成羣亦當速為  
跟究有無夥黨按名訪獲從重懲治以安良善而  
靖地方將此各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

324 查孫士毅等奏拏獲海洋盜匪丁士隴王虎等  
各犯姓名<sub>臣</sub>等將伍拉納福崧節次奏到之摺  
詳細核對均非在浙江温州洋面行劫哨船之犯

謹

奏

325 乾隆五十六年正月二十五日奉

旨張兆熊安廷贊亦九叙陳天祥劉振唐余金門楊  
崧趙攀龍吳清俱准其貶封該部知道摺併發欽  
此

326 乾隆五十六年正月二十五日內閣奉

上諭勒保奏安定縣民吳喜周蘇拱辰俱年臻耄耋  
五世同堂請予錫賚等語壽氏吳喜周蘇拱辰等  
所有應行賞賚之處該部照例辦理摺併發欽此

327 乾隆五十六年正月二十六日內閣奉

上諭馮光熊奏于蘭珍李年略湯有德方成章何天  
衢歐陽易氏邱陳氏或年臻耄耋或壽衍期頤俱  
五世同堂請予旌賚等語該壽民壽婦等所有應  
行建坊旌賞之處交部照例辦理摺併發欽此



328 乾隆五十六年正月二十七日奉  
旨熊枚准其貶封該部知道摺併發欽此

329 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 山西巡撫書 乾隆五十六年

正月二十八日奉

上諭梁肯堂奏復將劉松嚴加刑鞫據供歌單實是高三傳給而高三又係得自神焦廟道士廣息我與高三廣息並無仇隙何肯憑空誣扳等語昨據穆和蘭奏將高三等獲到案該犯年逾六十雙目俱瞽搜查家內並無不法字跡堅供與劉松素不相識今梁肯堂訊據劉松所供之高三約四十五六歲面麻微鬚並非瞽目與現在豫省所等之高三年貌既屬不符況劉松所供高三住址家口年貌確鑿可據是此項歌單竟係高三傳給劉松而高三亦實有其人明係豫省地方官恐干失察邪教處分意欲化有為無或另等一名姓相同之人輒以訊不知情希圖將了事均未可定穆和蘭甫

經委任不應出此已據梁肯堂將高三的確住址咨明豫省著再傳諭穆和蘭務須密委幹員按照直隸所開高三住居地方跟踪緝獲毋得一任屬員朦混僅將現獲之高三搪塞完案致干咎戾至晉省神焦廟道士廣息前據書麟覆奏實無其人亦不可信並著書麟照梁肯堂咨文所開廣息年貌一體再行嚴緝務獲歸案審辦毋任遠颺漏網將此傳諭穆和蘭書麟並諭梁肯堂知之欽此

330 乾隆五十六年正月二十八日內閣奉

上諭據成德奏松茂道倭什布之第二子保明係胞姪女婚誼屬姻親應否迴避請旨遵行等語松茂道為總督所屬將軍不過兼轄並非專管上司且倭什布之子係成德胞姪女婚雖屬姻戚究與例應迴避者不同倭什布著毋庸迴避該部知道欽此

331 乾隆五十六年正月二十八日內閣奉

上諭各省彙奏事件內盜案竊案已未緝獲及命盜已未審結等項尋常案犯等款向由各該督撫將緝獲審辦各數造冊送部查核並令該部按照功過等差定立處分以示懲勸但近年殊未見各部查奏此因奉行日久承緝承審人員意存疎懈內而各部外而督撫皆視為海捕具文以致塵累久懸要犯逃匿殊非核實辦公之道所有查等入犯審辦案件等款應如何再行酌定處分之處著軍機大臣會同該部查照向例酌量核加定議具奏並定以各部不行以時奏聞科道如何查叅之例欽此

332 乾隆五十六年正月二十九日奉

旨此案遺失紅本非尋常疎忽可比所有禮部司員著交部嚴加議處該堂官著交部議處欽此

333 同日內閣奉

上諭劉墉著補授禮部尚書所遺左都御史員缺即著紀昀調補欽此

334 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 閩浙總督伍

乾隆五十六年正月二十九日奉

上諭據伍拉納奏等獲崖州洋面拒捕傷官案內盜犯鄧全吳佑同續獲各犯內已解到省之梁麟等七犯一併解粵審辦其未解解省之鄭竹等八犯即在泉州就近起解送粵等語浙省粵東洋盜多係籍隸福建節經該督具奏前後等獲温州案內盜犯二十八名崖州案內盜犯十七名伍拉納督率有方地方文武各員上緊緝捕等獲多犯尚屬認真惟各案首犯及夥盜核之福康安福崧所奏尚多逃匿正應起此跟踪購線悉數擒拿其崖州温州兩案之外各處洋盜並著飭屬嚴緝以靖海疆而戢盜風該督竟當遵照節次諭旨在閩督等

最關緊要毋庸前赴温州如已起程抵浙將緝捕事宜與福崧等商定即著速回閩省所有解赴粵省各犯著福康安嚴加審訊令將首夥各犯姓名踪跡據實供出審明後即行正法仍一面將供出各犯嚴密查拏毋使一名漏網將此傳諭伍拉納並諭福康安知之欽此遵

旨寄信前來

335 乾隆五十六年正月二十九日奉

旨戶部議駁四川調撥協勒巴勒布綠營官兵借支行裝銀兩未便照換防臺藏官兵之例邀請減扣一摺係屬照例議駁但念該官兵等遠涉衛藏往返二萬餘里雖未經打仗即日凱旋而長途不無勞苦所有此項官兵借支銀兩著加恩照所請免其十分之六餘著分季扣還以示格外體卹欽此

336 乾隆五十六年正月二十九日奉

旨張起著即處斬餘依議欽此

殺死一家二命一案

337 同日奉

旨李廣居著即處斬梟示餘依議欽此

執有軍器白日強劫一案

338 本年正月十四日梁肯堂奏請以借補按察使

經歷吳翰陞署通州知州一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

業經議駁於本日具

題 臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈 謹

奏

奉

旨吳翰著照該督所請行

正月三十日

339 查上年三月十六日臣等面奉

諭旨湖南經徵南米鹽脚未完一案經吏部將李樹穀等十二員議以革職嗣據單沅以此項銀兩該員等先已全完實係糧道武調元詳報遲延奏請開復部議以所奏在奉旨之後仍令該員等赴部著將應行開復例應引見各員存記俟引見時提奏欽此今據吏部知會所有此案議以革職續經奏請開復之原任湖南岳州府通判鄭瑾於本

日帶領引

見理合遵

旨提奏謹

奏

正月三十日

340 乾隆五十六年正月三十日奉

旨甘定進著准其贖罪欽此

341 乾隆五十六年正月三十日奉

旨張奉廷著准其捐復欽此

342 查原任雲南祿勸縣知縣袁筠因經徵民欠鹽

課完解遲延經富綱等奏請革職嗣據該督等以該員協同接任知縣催徵全完奏請開復送部引

見於五十五年五月初七日奉

旨俟引見時提奏欽此今據吏部知會袁筠業經到

部於本日帶領引

見理合遵

旨提奏謹

奏

正月三十日

343 遵

旨將紀昀前奏王杰曾經派人辦書勸派之事詢問紀昀據稱乾隆五十三年五月我在熱河時王杰奏續修禮部科場條例其書不過一千四百餘頁而原奏議叙書吏有二十名之多計每人寫書不過七十餘頁較各館議叙實為太優又

原奏僅有書吏自備資斧辦理紙張飯食板片  
工料之語並未奏明派令出銀王杰令書吏二  
十名每人出銀一百五十兩並七八十兩不等  
存貯部庫以為修書之用現有支銷賬目可憑  
前

召見時曾經奏及此事是實等語謹

奏

正月三十日

<sup>344</sup> 乾隆五十六年正月三十日內閣奉

上諭前據尹壯圖具奏各省倉庫多有虧缺及詢以  
是何省分虧空若干又不能一一指實惟自請前  
往盤驗真寶其言朕思天下各省倉庫甚多挪移  
虧短之弊或不能保其必無從前朕亦微有所聞  
但恐偏聽生弊人言未可盡信故五十餘年以來  
推誠待下不肯察察為明未嘗特派大臣清查倉  
庫致使查弊之人反得藉端滋弊今既據尹壯圖  
奏稱各省虧缺大勢皆然既有人講明則不可置  
之不問矣因令侍郎慶成帶同尹壯圖前往山西

直隸山東江蘇聽其盤查以驗傳聞虛實如果數  
目稍有虧短一經據實奏朕必將督撫藩司及  
該府州縣等從重治罪且跟問致虧之由嚴究辦  
理迺尹壯圖所至各省查明藩庫及各府州縣庫  
貯均屬充盈并有康熙年間銀兩久存在庫者各  
處倉版米穀逐一盤量亦皆不虧升合若謂各省  
本有虧缺一聞欽差起程信息臨時設法彌補無  
從查出殊不知州縣庫貯無多或可通融掩飾至  
於藩庫銀兩每省不下數十百萬即欲彌縫一時  
豈能猝辦是尹壯圖所奏虧空之語不過輕信浮  
言撫拾入告克屬全無影響矣茲已遍加查驗目  
擊情形其誣捏妄奏之罪自難解免可見外間傳  
聞之說舉不足信禹謨所謂無稽之言勿聽者此  
也至山西直隸山東江蘇四省藩庫既查無虧缺  
該藩司等屏當得法實屬慎重所有該四省現任  
布政使均著加恩交部議叙欽此

345 臣等將節次面奉

諭旨指出各條及尹壯圖前摺內種種謬妄之處反覆詰訊令其據實供吐尹壯圖伏地碰頭痛哭戰慄悚懼親書供詞逐條登答因手戰字畫潦草<sub>臣</sub>等將原供另錄進

呈謹  
奏

\* 問尹壯圖你從前奏摺內稱商民感額興嘆之語究竟得自何人聞於何處節經奉

旨訊問你總以不能記憶為詞豈非有心欺飾况商人皆有資本營生並非無籍貧民何致感額興嘆即窮民等或偶因衣食不周自傷貧苦亦不過在家愁嘆你係過路之人亦何由聽見揆之情理必無其事自係你丁憂回籍及起復進京時往來直隸河南湖廣貴州四省又繞道到山東江浙廣西等省與地方官交接抽豐而地方官不肯資助藉詞差使繁多

公私賠累故作嗟嘆之狀你遂信以為實假托商民冒昧入告今奉

旨嚴訊你又恐說出實情與地方官有礙支吾掩飾殊不知地方官不肯資助托詞回覆有何不是你既自行迴護并欲為地方官迴護是何肺腸你若再不指出豈不罪上加罪嗎

據尹壯圖供我前摺內感額興嘆之語原係繕摺時信手混叙希圖聳聽今蒙

聖明指出再三詰問我愈想愈加害怕追悔無及總緣我天奪其魄一時覆奏匆促未及檢點直是我糊塗該死我現在經歷直隸山西山東江蘇等省親見倉庫充盈不特商人貿易營生無由興嘆即百姓等亦未聞有地方官吏滋擾之處至我從前繞道回籍原因旱路盤費較多從水路行走雖道途迂折可省其半未嘗不希冀一二熟人稍為扶助無如沿途所過地方并未遇有熟人實不曾有地方官向我托詞差事繁多公私賠累故作嗟嘆之狀今蒙這等嚴訊我稍有隱飾豈不是罪上

加罪呢

詰問你所說盛額興嘆之言出自商民之口你或者一時不能記憶至於你繞道到江浙等省原想要熟人幫助一路地方豈沒有你親戚及同鄉同年做州縣的這盛額興嘆自然就是你認識的人豈有指不出姓名之理你既自行迴護又要替地方官迴護你的欺妄之罪更重了還不據實供出

又供我從前迂道江浙等省原因為省盤費起見至原奏盛額興嘆係得之道路悠悠之口我原想借此為地方官不好証見豈有地方官肯向我說商民盛額興嘆之話呢至江浙一帶大路上並未遇有我同鄉同年在彼做官這是可以查得出的我此時已身罹重譴何敢再為隱飾

又詰問據你說盛額興嘆的話既非得自商民又非聞之官吏難道你無故捏造嗎斷無此理你究竟在何處聽見必得選出實據來若再支吾掩飾你的罪更重了

又供我來京過河南時正是六月初間聞得阮光平及各國使臣即要到站所有房屋正在修作公館沿途預備車馬絡繹及到直隸地方又見民夫修理道路因天雨泥濘旋修旋塌我就疑百姓因此未免愁嘆這原是有餘外實無差使往來使喚百姓的至我一路俱住破損小店地方官方照應差使之不暇安有向我周旋之理實在盛額興嘆之言並非得之地方官及百姓之口總是我一時糊塗揣度之言實無憑據只求詳情

又詰問你摺內稱自服官以來三十五年前外省間有虧空人尚諱言嗣後漸聞某督撫貪婪敗檢某督撫執法營私不數年果有王亶望陳輝祖國泰郝碩相繼敗露等語彼時王亶望等貪贓執法聲名最著你正身任御史京堂何以並不見你彈劾一人現在督撫皆謹慎小心你反說各省風氣大抵皆然即叅倒一督撫而各督撫未見警惕任意汗蠖及至奉

旨再三訊問你又說實無其人前後自相矛盾究竟

此時督撫中貪黷者何人一一說來

又供從前王亶望陳輝祖國泰郝碩在督撫任內貪婪敗檢我彼時已做御史太僕少卿可以奏事原該據實叅劾日今督撫中並無其人我反以無稽之言冒昧入告實是我是非

倒置自相矛盾還有何辯

又詰問你身任京堂御史多年從不曾見你上一條陳即每年秋審時亦並不見你自出意見簽商一二事何以此時忽將毫無影響之事冒昧陳奏必係你丁憂在籍時有人替你出此主意或此次到京候補時被人慫恿教你上這條陳抑或竟係別人代作奏稿據實供來

又供我從前做御史六年每值秋審所校閱招冊刑部定擬罪案本屬允當我亦無可簽商至回到雲南丁憂家居所見俱鄉鄙愚民有何人與我談及地方政事至我此次摺奏都係我自己糊塗想頭冒昧賣陳不但無人替我

出主意亦未給人看見是實

又詰問你稱各督撫聲名狼籍吏治到處廢弛現在虧空庫項大率各省皆有若各省倉庫果有虧缺督撫等所奏盤查倉庫無虧全不可信一經查出

皇上必嚴治督撫之罪今你查過直隸山西山東江蘇等省目擊情形並無私毫缺少你又頃改前說以各省督撫接任後先自盤查陳奏前任若有虧空接任者誰敢說奏代人受過反覆其詞則你從前虛言誣捏當得何罪

又供我平日迂謬無識在京供職於外任交代等事全未深悉今我由直隸山西山東江蘇等省逐一盤查俱無虧短方知督撫前後交代時俱要盤查如果有虧空後任豈肯代人受過况封疆大臣俱受

皇上委任重恩所奏盤查倉庫無虧各摺斷不敢憑空捏造總是我不知事體糊塗該死只求從重治罪

又詰問你前奏稱書麟長麟遇有虧空亦不能



不向屬員生法嗣又稱書麟長麟皆謹慎小心自屬可信前後兩歧昨經傳

旨訊問你供稱前奏乃懸空揣度若仍執前說是虛謬之中又加虛謬所以據實登答封疆大臣如果向屬員勒索必干重罪今偶以毫無影響之事憑空逞臆妄言污人名節難道叛逆之事亦任你誣賴嗎

又供我從前說書麟長麟遇有虧空不能不向屬員仗助之語原是我憑空臆度並無確據今我到山西目擊書麟為人悃悃無華及到江蘇又見長麟謹慎小心不向屬員生法之處確鑿可信我彌覺前言虛謬百喙難辭污人名節自蹈罪愆更無他辯

又詰問你既自請前往各省監查後因查過山西倉庫不能指出虧空確據難免陳奏不實之罪懇請回京不欲再赴他處盤驗如此任意進退豈非犯人臣無將之義你係科甲出身亦曾讀書豈不知人臣無將則必誅乎你不過欲藉盤查為辭沿途嚇詐挾制官吏後

因盤驗無虧不能施其伎倆遂欲回京待罪似此居心巧詐豈能嘗試於

聖主之前現在除你查過各省外到底尚有何處虧空據實說來

又供我到山西大同府盤查我見倉庫實在整齊無可指摘之處大同一府如此山西通省可知山西一省如此他省可知是我陳奏不實之罪已無可遁心中實在害怕不敢再查是以奏請回京今蒙

皇上指出人臣無將之義實在悚惶無地至於借盤查為名希圖挾制官吏現在

綱紀肅清并無虧空地方官豈肯受我挾制呢此時盤過四省俱無虧缺其餘各省更屬可信教我如何指出來

又詰問你從前奏稱商民感額興嘆各省皆然竟似居今之世民不聊生後因盤查倉庫並無虧缺又全改其言稱所過平定州等處百姓行歌道路其淮揚常鎮以及蘇州省會溢巷摩肩携豚沽酒童叟怡然自樂並未聞有

官吏滋擾之事實你上年纔從江浙經過親見商民感額興嘆何以此次復稱怡然自樂竟如此先後懸殊我

皇上深仁厚澤曠古所無天下萬民且方感頌之暇乃以感額興嘆之言重誣百姓及見所言虛謬自罹欺妄之愆作此謾詞虛譽希圖未減罪名豈不是你居心巧詐麼

又供我到直隸山西山東等省數千里內目擊吏惕民恬時和歲稔及至江蘇正遇新年慶節童叟扶携歡欣載道實有怡然自樂共享太平光景這是人人共見我並不敢稍有譽詞今日擊情形愈覺我從前感額興嘆之語實屬我福薄災生喪心病狂竟同夢嚙只求將我從重治罪

又詰問你摺內稱父憂服滿時母年已七旬留在雲南原籍即來京候補等語雲南距京萬里你既有七旬老母未能迎養即當據實奏明請留籍侍奉方是正理乃你竟毫無繫戀遠赴京師徒以補官為榮不顧忘親之罪今

你自行奏出將自己不孝之處明明供吐你還有何說呢

又供我母親年過七旬雖有兄弟四人在家侍養我係長子現在居官自揣無力迎養就該乞

恩終養乃竟遠赴京師戀職補官不孝之罪無可置

辦  
又詰問你疊蒙

皇上厚恩不次陞擢用為閣學今造作無稽之言妄行陳奏若謂藉此沽名自居謹直你尚見不到此不過熱中干進因自己學問才具俱屬庸劣於尚書督撫不能仰邀

簡任希冀有此一奏或可內用侍郎外用學政種種卑鄙之念早經

聖明洞照無從掩飾你據實供來

又供我係邊省庸愚才具學問實在平常蒙皇上天恩用至閣學自揣已屬過分豈敢妄有希冀至於欲借一奏以沽諱直當此

光天化日之下斷斷不敢萌此妄念我熱中干進之

心早經  
聖明洞鑒我亦無庸掩飾

\* 臣等又遵

旨將本日兵部奏請甘定進發往軍臺効力贖罪一摺令尹壯圖閱者並告以甘定進向在河工搶護壩工曾經落水救出因此叠次陞用今在臬司任內獲咎發往軍臺効力

皇上念其情罪尚有可原且曾在河工出力是以加恩准其捐贖這難道也是罰賠之項麼你還有何說呢

又據尹壯圖供甘定進身任臬司大員於薛對元一案革職發軍臺効力實屬罪所應得今蒙

皇上以甘定進獲罪係屬因公且向在河工搶護壩工曾經落水加

恩准其捐贖仰見

皇上用人行政一秉大公凡大小臣工獲咎必懲微

勞必錄即納錢自贖必按其情罪之重輕分別准駁我從前請得罰項之奏實屬謬妄無知今已悔之無及

\* 臣等遵

旨復訊尹壯圖你母親年逾七十不思在家侍奉已屬不孝或因捧檄娛親遠赴京師就該將妻妾兒子留在家中乃你反攜帶到京祇圖一身團聚不顧老親奉侍無人不孝之罪還有何辯至你呈遞此摺必非無謂你自問學問才具均屬平庸督撫尚書固不敢妄思陞擢必係希圖借此露名得邀

簡放學政以遂其貪鄙之私你種種巧詐久在聖明洞鑒此時還不據實說出嗎

據尹壯圖供稱我妻早已亡故生有五子長子業已成家生子同三子四子五子俱留在家中我止帶次子並一妾同來但我有老母在家我本不該出來茲尚帶一子一妾以圖團聚即是我我不孝之罪至我前此糊塗妄奏誠如

聖明洞鑒希圖露名邀

恩今蒙

皇上燭照肺肝我亦無可置辯只求將我從重治罪

就是了

346 本年正月三十日吏部將捐復知府那蘇圖捐

復直隸州知州岳興阿及陝甘總督勒保咨送

拿獲壹竊拒捕首夥各犯之阜康縣知縣永舒

前任山東巡撫長麟保薦卓異之荷澤縣知縣

王績著等四員帶領引

見奉

旨那蘇圖岳興阿永舒王績著俱著交軍機處記名

欽此

347 臣等遵

旨詢問紀昀據稱王杰派令書吏出銀一事我一時

愚昧之見原以其既奏令自備資斧即不應更

令出資交官與原奏不符是以與之爭論今蒙

皇上指示王杰派令書吏出銀乃係從嚴並非從寬

始悟從前過於拘泥至此項銀實係繳出貯庫  
辦公我原未言其有所沾染今蒙

指示王杰並未携回家中私用仰見

聖鑒高明至公至允我不勝惶愧之至等語謹

奏

二月初一日

348 乾隆五十六年二月初一日內閣奉

上諭穆和蘭奏拏獲脫逃遣犯高虎山審係盜犯免

死減等發往黑龍江為奴在配脫逃行至濬縣地

方被獲審明後即恭請王命將高虎山正法等語

高虎山係發往黑龍江為奴之犯逃回河南原籍

非經由直隸地方即係由山東行走沿途州縣甚

多難以概行查叅若該省臬司督飭各屬於此等

遣犯潛逃過境嚴行偵緝亦不至於疎縱著交部

查明該犯原供係由何省逃回即將所過省分按

察使交部議處嗣後拏獲逃遣人犯審訊係由何

省行走即將沿途所過省分臬司一併議處庶各

省按察知有處分留心緝拏要犯欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 乾隆五十六年

二月初二日奉

上諭前據孫士毅等奏江省各標營戰哨船隻請改歸巡道一摺批交部議茲據吏部議覆以江寧等廠船政向係各該道管理乾隆三年經原任總督慶復請歸於各府同知通判就近兼理迄今五十餘年如果有礙難辦理之處何以遲至今日始覺佐貳管理未便應請勅下該督撫再行確實查明從前有無貽悞之處並必須更改緣由詳細聲覆到日再行核議等語各標營戰哨船隻最關緊要孫士毅等奏請交巡道管理自係因佐貳官職較早分管各廠無所統轄不若交巡道大員督辦以專責成而昭慎重但自乾隆三年由道員改歸丞倅之後已閱五十餘年之久即云江省同知通判等差務殷繁往來調派亦不始於近日如果礙難辦理何以歷任督撫並不隨時酌改因循至今或係孫士毅長麟到任後查出丞倅等管理船政有貽

悞草率情弊是以奏請改歸巡道而摺內又未詳細聲叙該部自難遽行核准著傳諭孫士毅等即照吏部所奏將乾隆三年以後專管之丞倅如何經理不善必須酌改之處據實詳悉覆奏再行降旨准行至此事已閱多年歷任督撫不下數十人從前即有因循貽悞朕亦不肯概行追究該督等更無所用其迴護也將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

350 乾隆五十六年二月初三日內閣奉

上諭翰林院詹事府應考人員著於二月初九日在圓明園正大光明殿考試欽此

351 乾隆五十六年二月初四日內閣奉

上諭江西九江府知府員缺著金明源補授所遺員缺著闕崇德補授欽此

352 乾隆五十六年二月初四日內閣奉

上諭前因尹壯圖奏督撫藉詞賠項勒派屬員倉庫遂致虧缺商民感額興歎節次降旨詢問令其據實指出並著慶成帶同前赴直隸山西山東江蘇等省盤查尹壯圖目擊各省庫項豐盈倉儲充足並無絲毫短缺而往來數千里內復見商賈士民安居樂業共享昇平實無地方官滋擾之事伊又全改其言自認為愚謬妄談其於何處督撫貪黷何處商民嗟怨總不能實指一事一人輒以感額興歎之言誣及百姓其罪不能再為寬宥因降旨將尹壯圖革職押帶來京治罪並將伊熱中干進戀職忘親及種種虛捏謬妄之處明白通諭矣茲據慶成押帶尹壯圖到京命大學士九卿會同審訊尹壯圖俯首認罪將希榮卑鄙飾詞誑奏各實

情逐一供吐大學士九卿照挾詐欺公妄生異議律問擬斬決在諸臣以尹壯圖如此乖謬不敬忠孝兩虧實堪共憤自應按律問擬即不立寘典刑亦當發遣伊犁以示懲儆但朕於臣工功罪是非必期核實若伊前摺內祇以各省多有虧空奏請盤查倘所查倉庫果有一二處虧短必將督撫藩司及該府州縣等重治其罪跟問虧短之由嚴加究辦尚將尹壯圖予以獎擢是以未往盤查之先大學士九卿等奏請將伊革職治罪其時朕猶曲加寬宥未嘗交部也今即盤查無缺所言盡屬虛誣而伊前摺內若無此商民感額興歎之言亦欲矜全格外乃尹壯圖造作無稽使小民等受我朝百數十年來深仁厚澤尊親愛戴之忱盡行泯沒竟將熙皞之民誣為朝不謀夕之狀則莠言惑眾其罪實無可解免雖摺內所指係下吏怨及督撫小民怨及收令而文理不通未能明晰直似居今之世民不聊生朕實不受此言即萬民孰無良心亦不受此言也此而不加之譴斥仍令復任原官不特無以安天下百姓之心而朕亦轉類矯情矣昔

唐太宗之於魏徵徒以金帛賜賚沽納諫之名原非虛表聽受試思唐太宗果從諫如流魏徵果直言無隱則太宗闕德之事多矣即納巢刺王妃時偽不能相與以誠而竟能博十載美名實素所不取朕辦理庶務一秉大公至止從不肯飾虛文以干譽而於臣工獲罪重輕處置悉歸平允尹壯圖撫拾虛詞妄行噴奏律以挾詐異議之罪原難寬予從寬而造作無稽污蔑良民其咎更無可逭然朕孜孜求治兢惕為懷從前彭元瑞呈進古稀頌贊揚鴻業朕因作古稀說有以頌為規之語今尹壯圖逞臆妄言亦不妨以謗為規不值加之重罪也尹壯圖著加恩免其治罪以內閣侍讀用仍帶革職留任八年無過方准開復並著將朕前後辦理此事原委權衡至當之處再行通諭知之摺併發欽此

353 查周厚轅前因大考違式休致上年恭進

八徵耄念紀實

命題考試奉

旨仍授編修未經

賞給緞疋謹

奏

乾隆五十六年二月初五日奉

旨周厚轅著賞緞二疋欽此

354 查許世亨業經入祀昭忠祠並於上年奉

旨入祀賢良祠謹

奏

初六日

355 乾隆五十六年二月初七日奉

旨吏部題請將告病之翰林院侍讀學士彭紹觀准

其休致一本現在翰詹各員定期於本月初九日

考試向例在京官員遇京察期近即不准其告病

今彭紹觀於己屆大考之年始以患病年衰呈請開缺明係藉詞規避彭紹觀著即革職掌院學士率行咨部殊屬非是著交部察議該部不即駁回遽行題請亦著飭行欽此

356 乾隆五十六年二月初七日內閣奉

上諭奎林等奏風聞彰化縣南役地方有匪徒結會之事臺灣府知府楊及理已派委人前往訪查隨即密飭該營縣一體查拏陸續拏獲張標等三十六犯訊係張標籍隸漳州與泉人不睦思欲結會防備泉人與謝志等糾人復興天地會相約有難大家幫助應請將張標等二十八犯照謀叛例擬斬已經正法林三元等八犯從重發黑龍江為奴逸犯謝志等十三犯現飭嚴拏等語天地會名目係逆匪林典文糾約拜盟聚眾滋事自勒平賊匪後嚴行查禁甫及數年張標謝志膽敢潛謀糾結以復興天地會為名鑽刀設誓暗立記號不法已極閩省民俗最為剽悍而臺灣遠隔海洋結會械鬪之風尤甚今張標等復興逆匪會名實堪痛恨

若不嚴加懲辦何以安良善而靖地方所有此案聽從糾邀未經結會之林三元等八犯亦未便僅擬發遣致滋輕縱著交部從重定以絞候其另摺所奏盜犯翁希案內知情買贓之陳隆盛一犯又縣吏蕭秀私雕假印一案均著該部從重定擬具奏嗣後並交刑部存記遇有臺灣地方結會拜盟等案似此情節重大者均著加等治罪至奎林萬鍾傑訪拏要犯所辦實屬可嘉均著交部議叙知府楊廷理於此等案件豫行派人密查復馳赴該處督同營縣嚴拏緝獲多犯亦屬認真出力著加恩賞給道銜用示獎勵所有逸犯謝志等十三名尚未就獲謝志係與張標商同結會起意興復天地會名目尤為可惡斷不可任其漏網著奎林等督同楊廷理將各犯嚴密查拏務獲從重辦理以示懲創欽此



357

乾隆五十六年二月初七日內閣奉

上諭江蘇蘇州府知府汪志伊現署糧道守潔才  
揀選一員調補所遺員缺著方昂補授茲據孫士  
毅等奏稱蘇州府知府汪志伊現署糧道守潔才  
優能於漕務實力整頓等語汪志伊著即陞授蘇  
州府知府方昂仍著留於江省遇有道員缺出再行  
酌量題補欽此

358

乾隆五十六年二月初七日奉

旨參瑞吳壯圖俱著准其馳封該部知道摺併發欽  
此

359

大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫士毅奏准北私鹽現飭令述德設法偵緝密  
速擒拿茲據稟稱拿獲私鹽大小船十三隻私販  
水手三十餘名約共鹽十餘萬觔現將解到各犯  
親加訊鞫如供有應等要犯再行查拿到案詳細

頃訊徹底究辦等語兩淮地方私販出沒官引不  
能暢銷於釀政大有關係今拿獲私鹽竟有十餘  
萬斤大小鹽船十三隻之多自應確查來歷有無  
水陸窩頓之處其同夥私販共有若干均須逐一  
切實跟究從嚴辦理著傳諭孫士毅會同朱珪督  
飭所屬凡淮南淮北各令其往來躡緝以專責成  
以淨根株至此案私鹽雖經人鹽並獲為數甚多  
其沿途地方文武各官如查明一到本境即經協  
同緝獲自可免其議處若實有留心緝捕認真出  
力之員再咨部議叙倘經過所管之境毫無知覺  
雖被別處拿獲其經過失察之該管地方官仍當  
照例議處以示懲儆並著該督等查明辦理分別  
勸懲庶該地方官各顧考成益當竭力搜擒私鹽  
自可不致透漏若因此案拿獲多人該地方官概  
免議處轉恐啟伊等倖免之見以致緝私疎懈也  
將此傳諭孫士毅並諭朱珪知之欽此遵

旨寄信前來

奏為遵

旨議奏事竊照各省每年彙奏事件內新舊盜案已未緝獲各數承緝竊案記功記過與命盜案已未審結各數等款前於乾隆四十九年閏三月經軍機大臣奏准令各省造冊送部查核由各部按照功過及已未審結各數分別議處議叙並交軍機處彙核具奏歷年遵行在案第恐奉行日久地方官意存疎懈誠如

聖諭內而各部外而督撫視為海捕具文以致塵案久懸要犯潛匿殊非核實辦公之道茲奉諭旨令臣等酌量核加定議伏查新舊盜案已未緝

獲一款承緝承審地方文武各官未滿參限及已滿參限開參年分業經例有專條惟各該督撫及提督臬司等皆有統轄兼轄之責向例統計通省所屬新舊盜案獲不及十之二三者罰俸六個月處分未免過輕嗣後請改為罰俸一年又竊案已未獲記功記過一款向例統計一年按照已未獲數目議叙議處以示懲勸定例

因屬周到惟各該督撫及提督臬司等皆有督率查核之責向例統計通省所屬竊案獲不及十之二三者罰俸三個月議處未免過輕應請嗣後改為罰俸半年至逃遣人犯所過省分該地方官如果能留心查察嚴行偵緝亦不致任其潛竄過境嗣後逃遣人犯所有失於查緝地方應現奉

諭旨查明係由何省逃回即將所過省分之按察使交部議處庶該臬司等知有處分飭屬嚴拏不至疎縱至命盜案已未審結一款係屬一年總數或案情未確或奉駁再審或甫經到案例限未屆各該省聲明上緊趕辦依限審結如有逾違定限者俱於本案聲明隨時議處仍應照例辦理毋庸再行酌議以上各款向例各該督撫彙奏到部由刑部主稿會同吏兵二部議處議叙今請嗣後各省督撫造冊到部之日各該部即行詳加核察將各省議處議叙之處照例辦理後除送軍機處覆查彙奏外仍移會吏兵刑等科及稽察各該衙門御史查核倘有遺漏舛錯不

以時奏

聞准科道等據實查叅議處所有臣等酌議緣由理

合恭摺具

奏伏乞

皇上睿鑒施行謹

奏

乾隆五十六年二月初七日奉

旨依議欽此

361

乾隆五十五年十二月十七日署四川總督保

寧奏請以華陽縣知縣徐宗仁陞署馬邊廳通

判健為縣知縣嚴士鉉調補華陽縣知縣一摺

奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

該員雖歷俸未滿既據該署督專摺奏請應令

其赴部引

見即與議准無異是以臣等未經另行擬寫

諭旨謹

奏

二月初七日

362

乾隆五十六年二月初八日內閣奉

上諭富綱奏銅廠積欠實數酌籌捐補一摺內稱乾

隆四十九年清查以後截至五十四年年底止辦

獲銅七十餘萬觔共長支工本銀五十二萬七千

七百餘兩俱係實欠在民並無官虧影射捏報等

弊此內有著銀十二萬九千三百餘兩在原領該

爐戶名下勒限追完其無著廠欠銀三十九萬八

千四百餘兩請於通省養廉內分年攤捐彌補再

從前兩次清查有著廠欠尚有未完銀十一萬九

千二百餘兩實居無力完繳亦應歸入通省養廉

內接續攤扣等語滇省採辦銅觔不得不預發工

本以資接濟爐戶等多係無業貧民日積月累通

欠自所不免前於乾隆四十四年四十九年查明

實在廠欠無著確數曾降恩旨豁免今據富綱奏

四十九年以後至五十四年廠欠無著銀兩委係

近年物價增昂用費較多致成積欠並非廠員侵

冒自屬實在情形且該省辦運銅筋每年依限掃帶採辦尚屬妥速所有此次欠除有著銀十二萬九千三百餘兩仍行勒限追完外其無著銀三十九萬八千四百餘兩著即加恩豁免至從前兩次清查有著欠尚未完銀十一萬九千二百餘兩究係該省催追不力所致所有此項銀兩即著於該督撫藩司及經管厥務之道府養廉內攤扣完補欽此

363

大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 直隸山東江南

浙江各督撫 乾隆五十六年二月初八日奉

上諭據鑲紅旗漢軍都統奏已革福建永安縣知縣高惠名下應追未完鹽款銀七千六百餘兩除伊子德克進住房十九間外並無產業高惠尚未到京請交該督撫辦理等語高惠前經革職自應迅速回旗何以此時尚未到京著傳諭該督等查明是否尚在閩省即嚴行飭催進京如業經起身或有途中逗遛之處並著沿途各省督撫飭屬查催

令其迅即回旗毋任遲緩將此各諭令知之欽此  
遵  
旨寄信前來

364 乾隆五十六年二月初八日內閣奉

上諭福康安前因木植一案罰總督養廉三年以示懲儆今在廣東總督任內緝拿洋盜整飭地方諸事認真妥協殊屬可嘉所有前罰養廉除已經交納外餘著加恩寬免至長麟前在山東巡撫任內於羅有良薛對元二案獲罪較重前令其署理江蘇巡撫曾經降旨不准支給廉俸但念其自署任以來查辦地方事件亦屬奮勉著加恩每年賞給養廉一半以資辦公欽此

365 乾隆五十六年二月初八日內閣奉

上諭巡漕給事中和琳已降旨補授內閣學士但伊於漕務河道情形頗能諳悉節年辦理均屬妥協現屆重運北來之時未便遽易生手和琳著仍留山東巡漕之任欽此

366 乾隆五十六年二月初八日奉

旨陸有仁張度李紹祖何耀泰丁有成李選棟夏本清俱著准其貤封該部知道摺併發欽此

367 乾隆五十六年二月初八日內閣奉

上諭穆和藺奏稱按察使李濤現在患病勢難就痊懇請解任調理等語李濤著准其解任回籍調理所有河南按察使員缺著吳璣補授欽此

368 本月初八日兵部將陝甘總督勒保保送邊俸

俸滿之甘肅安西協副將扎爾杭阿帶領引

見奉

旨扎爾杭阿著交軍機處記名欽此

369 本月初八日吏部將陝甘總督勒保保舉堪勝

知府之蘭州府循化同知台斐英阿直隸州知州借補固原州知州陳科銷帶領引

見奉

旨台斐英阿陳科銷俱著交軍機處記名欽此

370 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江西巡撫姚 乾隆五十六年二月初九日奉

上諭各省漕船經朕降旨嚴催近年已復冬兌冬開之限惟江西漕船向來開幫遲滯前歲曾因鳳凰灘水淺至五月始行渡湖出境本年正月內雖據姚荼奏到首幫已於上年十二月二十日開行但江西受兌水次甚近渡湖出境程途不遠首幫於臘月底開行至今並未將掃幫出境日期具奏恐在後各幫尚未全離水次又致有從前遲延捏報情事著傳諭姚荼即將江西幫船何日掃幫出境

所報首幫開行日期有無捏飾迅速據實具奏不  
可任聽押運各員仍前延緩倘經查出恐該撫不  
能當其咎也將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

371 查本日

簡放河南開歸道之衛輝府知府德昌昨據穆和蘭

奏報丁憂謹另開空名

諭旨進

呈恭候

簡放謹

奏

372 乾隆五十六年二月初九日內閣奉

上諭河南開歸道員缺著蘇爾芳阿補授欽此

373 應行迴避大臣名單

阿桂 孫那彥成考試

374

並無迴避大臣名單

嵇璜 兒女姻親錢榮考試  
董誥 內姪孫泰泉考試  
劉墉 胞姪劉環之考試  
紀昀 女婿之弟盧蔭濟考試  
翁方綱 子翁樹培考試  
吳省欽 弟吳省蘭考試

硃圈

和 坤  
王 杰  
彭 元 瑞  
金 士 松  
沈 初  
錢 保  
鄒 奕 孝  
王 保  
李 潢

375 乾隆五十六年二月初十日內閣奉

上諭伍拉納奏續獲行劫浙省哨船案內正盜暨在  
閩洋疊劫各案首夥盜匪審明正法一摺浙江粵  
東洋盜多係籍隸福建節經該督具奏前後拏獲  
四十五名今又據等獲浙省草嶼洋拒傷官兵之  
林水等十七名在閩疊劫多次之林前等十四名  
審明正法所辦尚屬認真但浙省草嶼洋案內前  
經陳勝供出之吳機林首陳賞等糾夥四十餘人  
分坐盜船四隻搶劫哨船而粵東崖州洋面戕官  
之何起文蛋家二大辦三亞常等首夥各盜俱未  
經拏獲此時伍拉納想已接奉令其不必前赴溫  
州諭旨務當督率地方文武各員越此跟跡嚴緝  
毋許一名漏網以靖海疆而戢盜風又另片奏署  
臬司王慶長在泉州地方督緝盜犯前後獲犯甚  
多復親赴同安縣屬之井頭鄉曉諭居民令其舉  
首縛送已據緝獲肆劫有名匪犯四十餘名等語  
王慶長親赴同安訪獲多犯高屬留心緝捕自應  
加恩鼓勵但現在並無臬司缺出而王慶長自道  
員署理臬篆以來於緝盜情形較為熟諳未便遽

離閩省王慶長著先賞給按察使銜如果始終奮  
勉再當加恩實授欽此

376 乾隆五十六年二月初十日內閣奉

上諭伍拉納奏黃巖鎮石營守備葉起發帶領兵船  
在洋緝匪令兵丁方洪選等回黃巖支領口糧載  
米出洋被盜匪搶去米袋軍械方洪選等懼罪捏  
報該備據情率轉顯有通同捏混情事請將葉起  
發革職交福崧嚴審定擬等語浙省營伍廢弛兵  
丁怯懦從前調派出征不能得力而水師出巡洋  
面遇盜則畏葸不前失事則飾辭避罪温州兵船  
被劫甫有控報遺失軍械之事今黃巖鎮兵方洪  
選等復敢將劫去米石軍器捏飾具稟守備葉起  
發率行轉報此等綠營欺詐之習竟至互相效尤  
實堪痛恨葉起發著革職交與福崧提同該兵丁  
等嚴審確情從重定擬具奏並著伍拉納陳杰將  
浙省營伍隨地隨時力加振作嚴示創懲如再不  
知悛改將弁即行叅究兵丁即行責革務使水師

陸路弁兵咸知軍紀痛改惟怯捏報積弊以副朕  
整飭戎行慎重海疆至意欽此

377

臣和坤臣王杰臣彭元瑞臣金士松臣沈初臣鐵保謹  
奏臣等遵

旨閱者考試翰詹等官試卷謹擬一等二卷二等十

一卷三等七十四卷四等八卷不入等一卷其

由外衙門陞用考試繙譯之翰詹各官謹擬二

等二卷三等五卷不入等二卷一併粘簽進

呈伏候

欽定候

發下交該衙門遵照名次分起預備帶領引

見謹

奏

二月十一日

378

臣等遵

旨傳到馮應榴尹壯圖將馮應榴從前在江西藩司

任內饋送郝碩銀兩獲罪馮應榴因曾任坐糧

廳及江西藩司積有廉餘皆出自

聖恩所賜情願繳出贖罪且此項銀兩如係取之屬

員則饋送巡撫之事尚且發覺豈有勒索屬員

不被人叅劾之理馮應榴係由京員初任藩司

尚以養廉優厚情願納錢自贖况書麟長麟身

任督撫有年所得養廉更加優厚因公獲咎難

道不該將積存餘貲繳出備充公用面加詢問

令尹壯圖據實登答並應馮應榴將情願贖罪

緣由當面告知據尹壯圖稱馮應榴因饋送郝

碩案內獲罪問擬軍臺嗣經繳銀呈贖皆係在

坐糧廳藩司任內所得養廉積有餘貲本係

感敷

皇上恩賜及獲咎後自問難安情願繳銀贖罪實屬

此

聖恩不敢私擁厚賞况此項銀兩如係勒索屬員當



功令森嚴早已被人叅劾馮應榴係屬初任藩司  
尚有廉餘存積今書麟長麟歷任多年督撫養  
廉豐厚壯圖前此面詢時皆稱除一切用度外  
每年有數十金餘剩其呈繳贖罪之處更非藩  
司馮應榴可比乃壯圖從前摺內妄請停止罰  
項糊塗混說竟同夢囈節經奉

宥今蒙

旨詢問業將種種乖謬情節據實供明自揣法所難

聖主天高地厚之恩不但不立置重典且荷

逾格鴻慈賞給內閣侍讀實為夢想所不到茲復以

馮應榴贖罪一事傳

旨詢問壯圖愈加惶悚愧懼自悔前奏措詞謬妄實

在無地自容等語謹

奏

二月十二日

379 查乾隆五十年欽奉

上諭嗣後翰詹等官凡遇考試應行降補者俱著對

品以部屬用等因欽此謹將原奉

諭旨恭錄進

呈謹

奏

二月十二日

380 臣等遵

旨詢問德瑛據稱本月十二日致祭宏毅公祠係我

輪值是以於門卑內註明祭祀字樣本年正月

二十三日遇太常寺該班我即親自到

園至上年輪值該班日期適逢祭祀輪著我去曾

有一二次其餘無不親到各堂官都是知道的

况我係滿洲世僕遇該班日期蒙

恩旨見實屬非常榮幸何敢以祭祀為名借詞填註

這是可以查得的等語謹

奏

二月十三日

381 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年二月十三日奉  
上諭穆和蘭奏親赴林縣督緝要犯高三據河北道  
陳文緯稟稱查得該縣南焦園村有高姓四戶惟  
高三一人名面貌與劉松所供相似隨加究訊據  
供平日做棒槌發賣並伊母前患噎症身故各情  
節均與劉松所指符合因即搜查該犯家內並無  
不法字跡并堅供與劉松廣息向不認識經該撫  
親提嚴鞫供亦無異現在派員押解直省以便質  
審等語前因梁肯堂奏劉松供指之高三並非替  
目其年貌俱與豫省所拿之高三不同是以諭令  
另行嚴緝今據穆和蘭續行查拿之高山晃雖姓  
名居址年歲微有不符該犯亦堅供並不與劉松  
等認識但貌既相似其平日所做生理及伊母病  
症又相吻合或即係劉松所指之高三因一時質  
對無人堅不吐實以圖狡賴亦未可定著傳諭梁  
肯堂俟該犯解到時即行提出劉松與之當面質  
對其是否傳授歌詞自不難得其底裏再本日刑

部定擬傳大頭等疊次行劫一案內有夥犯胡老  
即侯二於上年十一月內由順天府尹轉發直隸  
灤州充徒旋於十二月內脫逃此等夥劫匪犯情  
節較重自應上緊緝獲解京審辦並著梁肯堂飭  
屬嚴拿務獲毋任遠颺漏網將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

382 乾隆五十六年二月十三日奉

旨傳大頭劉五李二馬五著即處斬餘依議欽此

刑部審擬疊劫盜案

383 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 乾隆五十六年  
二月十三日奉

上諭據長麟奏前次所獲曳刀匪犯虎牙等五名之  
外又拿獲苗四等三十七名現在分提各犯嚴加  
究審等語匪犯虎牙等結黨成羣擾害地方實屬  
可惡既據該督撫拿獲多名即當嚴加跟究從重速  
行辦理以示懲儆况曳刀會名目尤為從來未有

之事該犯等敢於肆行創立不可不嚴等禁止以絕根株著傳諭孫士毅長麟務須迅速審辦並嚴訊該犯等是否尚有夥黨按名緝獲毋使遠颺漏網將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

<sup>384</sup> 乾隆五十六年二月十三日內閣奉

上諭鄂輝奏溫江縣民宋榮高江津縣民姜良相巴縣民李成璋宜賓縣民張鑑李其鼎遠洲民高秉敬湯廷獻丁國吉新寧縣民熊樞榮等皆年登耄耋膝繞曾元請予恩養等語壽民等所有應行錫賚之處該部照例辦理摺併發欽此

<sup>385</sup> 乾隆五十六年二月十三日內閣奉

上諭伍拉納奏惠安縣民劉會寧化縣生員楊新隆均年登耄耋五代同堂請予恩養等語該壽民等所有應行賞賚之處該部照例辦理摺併發欽此

<sup>386</sup> 乾隆五十六年二月十三日奉

上諭詹事府詹事馬啟泰前次陞用正詹係由吏部進本開列應陞照例補授茲該員於本日帶領考試之翰詹等官引見朕者其人甚平常年已衰邁若此次一體與試諒亦列置下等馬啟泰著降一級用出缺以為考中一等者之陞階欽此

<sup>387</sup> 查本日奉

硃批降用及部內空缺共有十三缺除將應行降用人員坐補四缺外尚餘九缺謹開列清單請旨簡放至旗員內奉

硃批降用及不入等應行革職者共十一缺除將應陞降用人員坐補三缺外其餘尚有八缺現在旗員並無考列一二等應陞之人請交吏部照例辦理再滿漢翰詹等員考列三等四等有以部屬知縣改用及休致者其不入等之員上次俱係革職此次未奉

硃批標出理合將原單及上次比較原單一併呈

覽伏候

欽定發下以便擬寫

諭旨再行進

呈謹

奏

二月十三日

\* 現在翰詹等官奉

硃批降用漢員共有九缺

詹事一缺 馬智泰降調 正三品

少詹事一缺 羅修源降 正四品

侍讀學士一缺 陸伯焜降 從四品

侍講學士一缺 陳崇本降 從四品

侍講學士一缺 王坦修降 從四品

侍讀一缺 陳萬青降 從五品

中允一缺 朱紱降 正六品

贊善一缺 劉種之降 從六品

贊善一缺 裴謙降 從六品

吏部現有三缺

侍讀學士一缺

侍讀學士一缺

右庶子一缺

又侍讀一缺 吳省蘭陞

侍讀一缺 陳嗣龍陞

侍講一缺 曹城陞

中允一缺 祁韻士降

十三日

\* 滿洲人員奉

硃批降用者共十一缺

無人 少詹事一缺 恭泰降 正四品

無人 侍讀學士一缺 達椿降 從四品

無人 侍講學士一缺 法式善降 從四品

無人 侍讀學士一缺 集蘭考不入等 從四品

可補 侍講學士一缺 德昌降 從五品

可補 侍讀一缺 文寧降 從五品

補此缺 侍講一缺 文寧降 從五品

無人侍講一缺 永安降從五品  
無人庶子一缺 觀永降正五品四品頂帶  
無人洗馬一缺 薩提降從五品  
無人中允一缺 哈通阿考不入等從五品  
無人贊善一缺 愛星阿考不入等從六品  
無人 例應革職從六品

十三日

388 乾隆五十六年二月十三日內閣奉

上諭此次考試翰詹各官按其文字優劣分為四等

一等阮元吳省蘭二員二等胡長齡劉鳳誥陳嗣龍汪廷珍劉鏞之蔡共武曹城程昌期崔景儀吳樹本邵晉涵十一員三等潘紹經陳崇本余集俞廷倫謝振定劉種之陳萬青朱理游光繹曹振鏞裴謙周厚轅陳萬全祁韻士梁上國王天祿施杓李鈞簡泰承業邱庭澄王錫奎冠賚言祝孝承汪如洋吳廷選羅修源錢開仕顧德慶達椿張鵬展徐鑑汪彥博倪思淳盧陰溥徐準史致光王觀文

寧泰泉李傳熊錢樾蔡善述吳鼎燾戴聯奎陸伯焜錢斌羅國俊馮集梧德生周棧甘立猷錢榮法武善謝墉德昌周維壇朱紱闕槐尹英圖李光雲繆晉程嘉謨李騏元楊祖純那彥成恭泰王坦修吳玉綸瑚圖禮汪滋晚程槐翁樹培邵玉清汪鏞七十四員四等周瓊劉錫五邵瑛吳灼達林朱依吳李鼎元永安八員不入等集蘭一員侍講吳省蘭著陞授詹事編修阮元著陞授少詹事侍講曹城編修劉鳳誥吳樹本俱著陞授侍講學士修撰胡長齡侍讀陳嗣龍俱著陞授侍講學士編修汪廷珍檢討劉鏞之俱著陞授侍讀編修曹振鏞雖考列三等但觀其才具尚堪造就且係曹文植之子著加恩陞授侍講編修邵晉涵檢討蔡共武俱著陞授中允編修程昌期崔景儀俱著陞授贊善其考列三等之少詹事恭泰著降補侍讀少詹事羅修源著降補右庶子侍讀學士達椿著降補侍講侍講學士陳崇本著降補侍讀侍講學士王坦修著降補洗馬侍讀德昌侍讀陳萬青侍講文寧中允朱紱贊善劉種之裴謙俱著各降留編修檢

討法式善陸伯焜祁韵士俞廷樞汪彥博盧蔭溥  
王觀秦泉倪思淳俱著以部屬分別錄用徐鑑尹  
英國俱著以知縣用至三等六十名以下經硃筆  
單點之程嘉謨李驥元楊祖純吳玉綸瑚圖禮俱  
著罰俸一年七十名以下之汪滋晚程槐翁樹培  
邵玉清汪鏞俱著罰俸二年考列四等之員詩賦  
俱屬庸繆但觀其才具尚可錄用之周瓊劉錫五  
邵瑛吳灼李鼎元俱著加恩以中書用達林朱依  
吳永安俱著休致不入等之侍講學士集蘭著革  
職其留館者各宜自思愧奮勤讀正書教勵實行  
毋負朕激勸教誡至意欽此

389 乾隆五十六年二月十三日内閣奉

上諭此次考試滿洲由別衙門陞用翰詹等官閱其  
繙譯文字並無堪列一等者二等達慶寶源二員  
三等薩提薩敏觀永慶善岳起五員不入等愛星  
阿哈通阿二員其考列三等之洗馬薩提庶子觀  
永俱著降一級用不入等之贊善愛星阿中允哈  
通阿俱著革職欽此

390 乾隆五十六年二月十四日奉

旨南書房翰林辦理石渠寶笈正在需人著內閣學  
士玉保詹事吳省蘭少詹事阮元在南書房行走  
一同纂辦欽此

391 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

乾隆五十六年二月十四日奉

上諭據福康安等奏拏獲形跡可疑之李亞安即李  
昌利據供與洋盜往來熟識并於赤嶺地方拏獲  
夥盜梁章有黃亞六王才勝鄭之秀四名又先後  
拏獲蘆亞四何亞四及莫亞九蔡亞保伍維蓮等  
犯俱令解省審辦等語崖州案內盜匪經福康安  
等督率文武各員實力躡緝今先後拏獲多人嚴  
行審辦該地方官弁等高屬認真但所獲俱係夥  
犯其盜首未經就獲且洋面劫盜甚多尚不止此  
一禁不可不竭力搜拏務期全數弋獲以淨根株  
據匪犯李昌利供稱盜首何起文蛋家二現住安

殊

南農耐地方與前奏關應華等所供相合前經諭令福康安等照會阮光平嚴飭境內將竄入安南盜犯幫同搜捕著再傳諭即詳悉知會該國王以盜首何起文蛋家二等因內地查擊緊急竄往爾國恐棗內盜首及夥盜等在爾國所轄地方藏匿或稱爾國百棗亦不可知應令爾地方官嚴拏以靖地方稽誅正復不少該國王如能按名拏送奏聞大皇帝自必優加獎賞即或該犯等在洋面奔竄無定難於跟緝亦當令所屬嚴密搜查驅向內地以便官兵截拏勿使在境內潛匿致令劫掠滋事於爾國商旅亦多未便如此明白宣示該國王感激朕恩自當嚴行飭屬協同搜捕也將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

392 大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年二月十四日奉

上諭據福康安奏安南國王阮光平回至義安遵委陪臣恭賞表函方物於正月上浣自義安起程當移行陳用敷暨駐闕員弁俟該陪臣到時即啓關驗進並派委員弁安行獲送進京等語阮光平回

至本國即派陪臣來京恭進謝恩表函貢物其恭順感悅之忱甚屬可嘉但該陪臣於正月上浣自義安起程過日已可進關計算程期到京未免太早不值為彼一國使臣辦理宴費自應令安南使臣於七月二十日以前抵熱河以便與各外藩一同預宴著傳諭陳用敷於該陪臣等到關後在粵西略為憩息再行緩程前進並知會沿途地方按程緩行約計七月二十邊至熱河亦不為遲並著該撫諭知該陪臣等以鎮南關距熱河道里遙遠途中已交夏令天氣炎熱自當緩程行走以示體恤不必將計期到京隨同預宴之意宣露為要將此傳諭陳用敷並諭福康安知之欽此遵旨寄信前來

393 乾隆五十六年二月十五日奉

上諭據奎林等奏拏獲盜犯並拒捕案內從犯審明  
正法及審訊械鬪案內分別正法定擬各摺已批  
交該部矣臺灣民風剽悍糾眾拒捕目無法紀械  
鬪搶劫視為故常弊俗相沿寔堪痛恨奎林等自  
到臺灣以來詰奸緝匪諸事認真遇有情節較重  
者審明後無不立寘典刑嚴示懲創節次所辦案  
件均屬可嘉如此力加整頓該處玩法積習或可  
漸次挽回一二十年以後民氣漸馴各知警懼不  
但壯年強悍之人可消其桀驁之氣即幼穉者耳  
濡目染長成後亦皆知畏法愛身勉為良善是在  
奎林等留心整飭毋致久而生懈自可收默化潛  
移之效也將此傳諭知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭提督銜臺灣鎮總兵奎林布政使銜兼臺灣

道萬鍾傑

394 本年正月初八日兩江總督孫士毅等奏請以

邳州知州任兆炯陞署海州直隸州知州一摺

奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

該員歷俸未滿既據該督等專摺奏請應令其

赴部引

見即與議准無異是以臣等未經另行擬寫

諭旨謹

奏

十六日

395 乾隆五十六年二月十六日奉

旨沈秀著即處絞餘依議欽此

臺灣械鬪一案



396 乾隆五十六年二月十六日內閣奉

上諭管幹珍奏杭嚴四幫千總李鈞歷運七次實心  
任事現已推陞浙江鎮標守備懇請仍留本任入  
於應陞銜缺班次選用等語著照所請李鈞准其  
留杭嚴四幫千總之任俟有應陞銜守備缺出交  
該部即行補用摺併發欽此

397 大學士公阿 大學士伯和 字寄

漕運總督管 乾隆五十六年二月十六日奉  
上諭據管幹珍奏杭嚴四幫千總李鈞沿途催備實  
心任事不辭勞瘁於甄別案內保送留任候陞奉旨  
以營缺用經部推陞浙江處州鎮標守備懇請將  
李鈞仍留本任歸部入於應陞銜備班次選用等  
語千總李鈞送部引見時朕因其才具尚可故令  
以營缺補用今該督既稱該弁熟諳漕務催備得  
力何不於保送候陞之時預為具奏直待推陞營  
缺始行懇請留任所奏未免遲緩除降旨將李鈞  
仍留本任以衛守備即用外將此諭令知之欽此

旨寄信前來  
遵

398 乾隆五十六年二月十七日奉

旨劉景齡梁國貞王士賢李蔭棠胡定泰邱中玉朱  
慶錦周言斌高登科蔡國棟俱著准其馳封該部  
知道摺併發欽此

399 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江西巡撫姚 傳諭鹽政全德 乾隆五十六  
年二月十八日奉  
上諭據全德彙奏上年銷鹽總數一摺內稱江西缺  
銷官鹽雖祇七千八百二十五引究於定額有虧  
將來又恐致新舊遞壓據護鹽道恒寧稟稱竟有  
數月不銷一引官鹽者該護道親往隘口堵截閩  
私始日漸銷官引其平日地方官並不認真禁緝  
可知現咨江西撫臣再行嚴飭所屬實力緝私等  
語江西省與浙江閩粵毗連鄰省私販鹽斤潛往

售賣官引每不能暢銷前經降旨嚴飭並令恒寧護理道蒙暫留一年核其銷數多寡以定功過乃恒寧於所屬地方緝私怠玩不能認真督飭缺銷官鹽七千八百餘引新舊遞壓仍恐不能年清年款著傳諭姚茶就近督催恒寧並通飭各該地方官緝拏私販務使官引暢銷補足缺額數目本年三月屆滿時即行牽算銷數具奏將來此事即交與姚茶嚴查妥辦俟再滿一年時將該省通年銷數牽算多寡如較額引稍有短少即著據實嚴辦不得稍存徇隱並著全德隨時查察核實具奏倘該鹽道仍有短缺捏報情弊則為該撫是問以專責成不得置身局外也將此各諭令知之欽此遵旨寄信前來

400 大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 乾隆五十六年二月十八日奉  
上諭據伍拉納奏署臬司王慶長在泉州督緝續獲洋盜王筴陳寶等四十名分別斬梟充發一摺已批交該部知道矣又據片內奏稱王慶長駐劄泉

州督同文武拏獲浙粵及本省各案首夥盜犯一百數十名節次分別辦理等語此次緝拏洋盜王慶長前赴泉州率同文武各員寔力搜拏節經拏獲多犯辦理頗屬認真前據該督奏王慶長親赴同安訪獲盜犯業經降旨加恩將王慶長賞給按察使職銜以示獎勵但獲犯既多自非王慶長一人所能緝捕所有幫同出力文武各員亦應一體加以鼓勵著傳諭伍拉納即詢明王慶長將隨同該署司緝捕之文武員弁最為出力奮勉者開送職名由該督咨部議叙至此案盜犯多係籍隸閩省尚未全獲並著該督轉飭王慶長督率文武赴此認真緝務務期搜捕淨盡以靖洋面而戢盜風毋致稍有疎懈將此由四百里傳諭伍拉納知之欽此遵

旨寄信前來

401 乾隆五十六年二月十八日奉

旨紀昀著從寬免其革任仍註冊但此案非尋常疎忽可比所有應得飯銀公費著停支三年以示懲儆常青德明沈初鐵保俱著改為降三級從寬留任餘依議欽此

402 乾隆五十六年二月十八日內閣奉

上諭伍拉納奏海祿現在患病難以速痊請回旗調理等語海祿著解任回旗調理所遺福建陸路提督員缺著哈當阿調補奎林即著陞授福建水師提督閩省水師事務臺灣尤為緊要奎林自任臺灣總兵以來於地方營伍詰奸緝匪諸事皆能實心整頓該處玩法行兇積習正可漸次挽回且內地水師總兵設有三員而臺灣祇係一缺責任更重此時未便遽易生手奎林仍著兼管臺灣總兵事務每年或赴廈門一二次查閱內地營伍並著奎林自行酌量往來兩處總須在臺灣駐劄之日多廈門駐劄之日少方足以資整飭至奎林駐劄臺

灣時所有水師提督事務著常泰兼署其駐劄廈門時臺灣總兵印務即著伍拉納奎林於水師總兵內擇其熟諳海洋精明強幹者酌委一員奏請暫署欽此

403 大學士公阿 大學士伯和 守寄

兩江總督孫 乾隆五十六年二月十九日奉  
上諭戶部奏川省各廠出產銅鉛前據李世傑請照滇省辦銅之例派員專管三年更換核其獲銅多寡分別勸懲業經議准遵行在案嗣屆三年限滿節次查催先後據李世傑保寧咨稱毋庸獎勵議處而孫士毅在任時造送管廠各員獲銅數目清冊核計所獲多少盈絀不齊必須明示勸懲方足以期廠務振作請勅下該督仍恪遵原奏辦理等語川省銅鉛各廠既據李世傑奏請照滇省向例視所獲之多寡於三年後分別勸懲業經定有章程何以該督等於限滿時又咨請毋庸獎勵議處其所稱三年中獲銅較多者係礦苗偶旺所致即為數漸少者因礦砂將竭硿老山空並非有意廢弛

是否係該處實在情形孫士毅曾任該省總督必能知其詳細且該督所造廠員銅數清冊祇係比較盈絀並未如李世傑保寧等以毋庸優獎議處之處聲明或亦另有所見究竟川省廠務能否照滇省之例計所獲之多寡分列等第按限核實題奏以重考成之處著孫士毅即行覆奏勿庸代為迴護也將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

404 查乾隆五十一年九月內山東臬司監內收禁斬絞各犯單大經等二十名越獄一案當經砍斃五犯擒獲十三犯又續經緝獲一犯現在祇有張曰虔一犯未獲謹

奏

二月十九日

405 查黃仕簡應繳軍需銀四十萬兩除兩次欽奉恩旨寬免銀二十五萬兩實應繳銀十五萬兩業於

五十四年十二月內經伍拉納等奏據黃仕簡家屬照數全完解貯藩庫謹

奏

二月十九日

406 查本日陳用敷奏江西委員沉溺銅五萬六千五百二十觔當經撈獲五萬五千二十觔所有打撈未獲銅止有一千五百觔誠如

聖諭未獲銅觔為數無多無庸議處臣等謹將陳用敷一摺擬寫該部知道諭旨發抄並將原摺粘簽進

呈謹  
奏

二月十九日

407 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖北巡撫福 乾隆五十六年二月十九日奉  
上諭畢沅等奏拏獲私梟拒捕首夥各犯審明定擬  
一摺已批交三法司核擬速奏矣該犯唐光烈等  
胆敢越境販私逞兇捕拒實屬目無法紀馬定鼎  
等率領各該縣營分投追捕將首夥各犯全行拏  
獲尚屬認真緝捕除鎮將道府大員毋庸加恩外  
其追捕出力之各該縣營員弁著福寧查明咨部議  
叙以示鼓勵至此梟私販入境即經兵役截拏迨  
被該犯等拒捕殺傷兵役該營縣旋即隨同追拏  
獲犯尚為迅速所有疎防失察各員弁著加恩免  
其叅處仍令留心巡緝以期私販淨絕官引暢銷  
方為妥善再私梟唐光烈等既於上年十二月十  
二日破案旋經拏獲畢沅等自應即日提省審明  
速奏何以於本年二月初八日始行定案奏聞辦  
理未免失之延緩嗣後遇有此等案件當隨事迅  
速審辦具奏將此傳諭福寧並諭畢沅知之欽此  
遵

旨寄信前來

408 乾隆五十六年二月二十日奉

旨唐光烈著即處斬劉正經著即處絞餘依議欽此  
刑部議覆湖廣省私梟拒捕  
傷兵一案

409 乾隆五十六年二月二十一日奉

旨王淦楊嗣博俱准其貶封該部知道摺併發欽此

410 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年二月二十一日  
奉

上諭書麟奏據知府恩福等將神焦廟當家道士景  
宣洞源及年貌與劉松所供相似之道士景國等  
解省訊問書麟率同藩臬兩司親加訊鞫僉供實  
不知有廣息其人伊等並不與高三劉松認識情  
願同赴直省與劉松質對等語此案節據梁肯堂  
提訊劉松供稱歌單實是高三傳給而高三又係  
得自神焦廟道士廣息屢經降旨令書麟穆和蘭

飭屬查拏前據穆和蘭奏訪獲高山晃一名狀貌雖與劉松所供相似而年歲居址亦屬不符今書麟又稱將壺關縣通縣道士遍查並無廣息之名自係劉松隨口誑供或將素有仇隙之人誣扳洩怨均未可定梁肯堂率據該犯所供咨查兩省輾轉拖累多人殊屬不成事體著傳諭該督再行嚴訊劉松此項歌卑究竟傳自何人抑係該犯自行編造務得切實憑據上緊訪獲審明定擬結案毋得再任該犯信口捏供紛紛咨緝致滋擾累將此傳諭梁肯堂速問速奏並諭書麟知之欽此遵旨寄信前來

411 遵將昨日陳用敷所奏江西委員沉失銅勛除業經撈獲外尚有一千五百勛未獲是否應令該運員賠補及地方官有無議處交查戶部茲據覆稱廣西境內並無險灘此項沉溺銅勛已獲過半原可照例免議前因該撫咨報該運員家人捏報全獲業經戶部行令轉飭賠補其疎防

文武職名亦經該撫咨送吏兵二部查議在案  
臣等謹擬寫寄信陳用敷

諭旨進

呈謹

奏

二月二十二日

412 大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年二月二十二日

奉

上諭昨據陳用敷奏江西委員高鳳翥辦運滇銅行抵廣西婪鳳塘砧板灘猝遇狂風撞破船隻沉失銅五萬六千五百餘勛當即撈獲五萬五千二百勛尚未獲銅一千五百勛一年限滿打撈無獲等語此等沉失滇銅既據撈獲五萬五千餘斤可見該運員及地方官果能認真設法打撈斷無終於無獲之理督撫遇有銅斤沉溺之事往往藉詞水勢溜急難於打撈以為諉卸之地及部中行令賠補該員等上緊辦理即能撈獲此其明驗也嗣後

該撫境內遇有銅運沉失務須嚴飭運員及地方官認真設法打撈以期全數就獲勿再任其飭詞捏報也將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

413 乾隆五十六年二月二十二日內閣奉

上諭譚尚忠奏南寧縣壽民崔輯瑞現年一百二歲五世同堂請予旌賞等語著照所請該壽民應行旌表賞賚之處該部照例辦理摺併發欽此

414 乾隆五十六年二月二十二日奉

旨楊焯等俱著准其馳封該部知道摺單併發欽此

415 乾隆五十六年二月二十三日內閣奉

上諭湖北荊州府知府員缺著崔龍見補授所遺員缺著修仁補授欽此

416 乾隆五十六年二月二十三日內閣奉

上諭甘肅鞏昌府知府員缺著羅經補授所遺員缺著馮福昌補授欽此

417 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年二月二十三日奉

上諭梁首堂奏河南省解到高山兇提出劉松指認劉松並不認識據供高三住屋在林縣焦園村西北緊靠山坡大門向南又供出高三名叫高選現在林縣當催頭而現經拏獲之高山兇則稱住房在村西南大門向東與劉松所供不符劉松既知高三住址若押令前往指認真偽自可立見現派臬司阿精阿親帶劉松徑赴林縣焦園村地方查辦等語此案節據梁首堂提訊劉松供稱歌車實是高三傳給高三又得自神焦廟道士廣息屢經書麟在晉省查拏實無廣息其人而豫省前獲之瞽目高三訊非正犯現在所獲高三兇一犯年歲居

址又屬不符書麟穆和蘭身任地方豈肯於此等  
邪教人犯因循不辦之理想劉松係謀財害命罪  
應斬決之犯必係自知身罹死罪任意誣扳以為  
苟延時日之計梁肯堂率據該犯所供輾轉咨查  
拖累多人殊屬不成事體本日鄂輝奏華陽縣匪  
徒陳添順謀逆騙錢一案首夥各犯迅速全行等  
獲審明定案後始行奏聞並不稍露張皇梁肯堂  
歷任封圻豈轉不若初任總督之鄂輝耶著傳諭  
穆和蘭就近即飭阿精阿押帶劉松前往焦園村  
令其指認住址確切查拏如實有高三人自當  
就近根究嚴行審辦倘所指又屬虛誣明係該犯  
任意誣供藉詞支飾殊屬可惡即著穆和蘭阿精  
阿用刑嚴審劉松畢即於該處正法速為完結毋  
任伊信口捏供紛紛咨緝徒滋擾累也將此傳諭  
梁肯堂並諭穆和蘭知之欽此遵

旨寄信前來

418 乾隆五十六年二月二十三日內閣奉

上諭鄂輝奏華陽縣匪徒陳添順行醫為生捏稱衍  
化真人轉世與僧珠林等妄稱謀逆惑眾誑騙錢  
文並私製小旗糾人入夥偽封官職經該縣知縣  
嚴士鉉等訪聞拏獲首犯並隨飭署臬司林雋叅  
將楊長棟帶同員弁嚴拏共獲犯一百餘名並據  
署典史谷煊將僧珠林等拏獲審明後將要犯即行  
凌遲正法其餘各犯照例分別定擬等語陳添順  
等始稱衍化真人轉世計圖誑騙繼因獲利無多  
復捏造謀為不軌情詞附和煽誘不法已極鄂輝  
督飭所屬於兩旬之內將首夥要犯全行拏獲分  
別正法所辦甚屬妥速本地官功過相抵毋庸議  
叙至署理臬司道員林雋叅將楊長棟緝捕認真  
拏獲多犯著加恩交部議叙署典史谷煊於鄰縣  
匪犯到境即行查拏獲亦屬奮勉著即送部引見  
以示鼓勵其逸犯楊榮等三名雖非案內緊要人  
犯仍著該督董飭文武上緊緝獲毋任漏網欽此



419 乾隆五十六年二月二十三日內閣奉

上諭伍拉納奏到閩省雨水二麥情形一摺稱各屬  
得有雨雪二麥獲此滋培來時暢發收成定卜豐  
稔等語閩省自冬春以來節次雨雪優霑二麥豐  
收自屬可望但該督遽稱定卜豐稔措詞太涉滿  
足已用硃筆改正批示矣朕臨御五十餘年敬念  
庶徵時存兢業荷蒙

吳蒼眷佑暘雨應時然且寅畏益深不敢稍存自滿該  
督身任封疆自當仰體朕懷於民事倍加謹凜不  
得因該處甫霑雨雪為此滿足之言也欽此

420 乾隆五十六年二月二十三日奉

旨孫全謀張世斌朱名揚俱著准其馳封該部知道  
摺併發欽此

421 乾隆五十六年二月二十三日奉

旨李芳園著照所請准其馳封該部知道摺併發欽  
此

422 查三品以上文武官員例得

封贈二代其有情愿將本身及妻室應得

封典馳封曾祖父母者督撫提鎮俱得自行

奏請所有本日福建金門鎮總兵李芳園奏請馳

封曾祖父母之處與例相符臣等謹擬

諭旨進

呈謹

奏

423 乾隆五十六年二月二十五日奉

旨這差著玉德去欽此

戶部題石翼稅務一本

424 乾隆五十六年二月二十六日內閣奉

上諭昨召見國子監蒙古司業五格詢以蒙古語竟  
全不解何以膺訓課蒙古學諸生之任該員原係  
郎中著仍以郎中補用所有國子監蒙古司業員  
缺著該部於蒙古應陞人員內揀選能通習蒙古  
語者二三員帶領引見候朕簡用欽此

425 乾隆五十六年二月二十六日內閣奉

上諭孫士毅等奏審訊販賣私鹽各犯據供或在海州等處池窰收買餘鹽或在洪澤湖邊窰溝曾家嘴二處半路接買現已飛咨全德查明海州小房等處是否均係板浦場所管再行叅奏所有各犯供出未獲之同夥船戶及窰丁秤手等均經四路緝拏務獲等語海州小房子等處產鹽場窰俱係專設場員經理存積餘鹽豈容稍有透漏今該犯等所賣私鹽多從該場販買顯與窰戶通同作弊即該場官亦不得諉為不知乃全德平日惟以官引滯銷指為地方官查禁私梟不力紛紛陳奏豈知該犯等所賣私鹽竟係從場窰販出是地方官即竭力緝私而窰戶轉將官鹽出售何以杜私販而絕弊端全德於所屬各場並不認真整頓實力訪查以致窰戶等敢於私行售賣及至私鹽充斥官引不能暢銷祇以地方官查緝疎懈為詞意存推卸甚屬不公全德著嚴行申飭並著交該衙門議處以示懲儆嗣後該鹽政務須嚴飭各該場將所積餘鹽毋許窰戶等稍有偷漏使私梟無從販

買其弊自可漸除而官鹽不致再有壅滯至窰溝曾家嘴兩處私鹽該犯等供係向攬頭秤手轉買該處並非鹽場安得有攬頭秤手恐亦係官廠人役通同舞弊自應查拏到案究明來自何場與失察窰丁私買餘鹽之各場員等一併嚴叅究辦其同夥船戶窰丁秤手並零星接販之人俱當查拏務獲徹底跟訊著孫士毅等將全案人犯逐一研鞫務得實情其場員有無知情賄縱及沿途經過地方員弁兵役有無得贓包庇情事一併嚴審定擬具奏欽此

426 乾隆五十六年二月二十六日奉

旨余延良方維祺傅廣聰左逢霖曾世棠俱著照例准其馳封該部知道摺併發欽此

427 乾隆五十六年二月二十六日奉

旨馬玉魁邱章馬君襄曹松齡俱著照例准其馳封該部知道摺併發欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫書 乾隆五十六年二月二十六日 奉

上諭據孫士毅奏丞倅管理各廠船工草率從事請  
 交巡道督辦一摺所奏是已如議行矣江省船廠  
 自乾隆三年由道員改歸丞倅之後已閱五十餘  
 年何以歷任督撫並不隨時酌改前降旨令孫士  
 毅詳查奏覆茲據奏稱江寧蘇州兩藩司於書麟  
 任內詳請將船工仍歸道員管理書麟因詳內所  
 叙未明先行駁查旋值卸事未辦等語戰哨船隻  
 最關緊要管理之丞倅等經理不善原應早為籌  
 畫乃書麟於兩司具詳後未將應否辦理之處據  
 實核定僅藉稱詳內原委未明先行駁查為此模  
 稜兩可之見地方大吏於此等事件任意因循推  
 諉安能望其留心整飭耶書麟不應出此著傳旨  
 申飭欽此遵

旨寄信前來

臣等遵

旨傳到尹壯圖將歸景照代伊兄歸朝煦交河工賠  
 項銀兩於養廉內分年扣繳摺片令其閱看據  
 尹壯圖稱歸朝煦前在河南同知任內有河工  
 應賠之項現在因事降調無力完交伊弟歸景  
 照代為呈繳本屬情理之常况歸景照身任藩  
 司養廉優厚每年僅扣繳一半尚屬寬然有餘  
 是此項乃歸朝煦分應完繳並非所罰銀兩而  
 歸景照代扣養廉完交其非派累屬員可知今  
 蒙傳

旨詢及尹壯圖史覺從前所奏實屬糊塗益加愧悔  
 無地自容等語謹

奏

二月二十七日

430 乾隆五十六年二月二十七日奉

旨此案著交孫士毅長麟提集犯証秉公確審定擬具奏所有原告粟時育著該部照例解往質訊欽此

都察院奏江南邳州民人  
控告竄役誣陷一案

431 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 乾隆五十六年  
二月二十七日奉

上諭都察院衙門奏據江南邳州民人粟時育以竄役誣陷代父聲冤等情呈控一摺此案粟秉鈞先後呈控該省督撫衙門審係粟秉鈞私立社名抗不完料問擬流罪經書麟咨部完結今粟時育以邳州書役石位串工書張清萬捏造供詞陷害伊父並將已完攤派稻料勒折重追種種情節如果所控屬實自當嚴行究治或係粟秉鈞抗欠工料誣告勒折業經問罪粟時育藉口為父聲冤來京

呈控希圖翻案却罪亦不可不徹底跟訊以儆刁風著傳諭孫士毅長麟提集犯証秉公確審定擬具奏此事係書麟審辦咨部非孫士毅長麟任內之事自無所用其迴護也所有原告粟時育已交該部照例解往質訊都察院原摺供詞俱著發交閱着將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

432 乾隆五十六年二月二十七日奉

旨伊桑阿著改為降二級從寬留任欽此  
兵部奏前在藩司任內報  
撥遲延一案

433 乾隆五十六年二月二十七日奉

旨著交原議大臣一併議奏欽此  
劉權之奏請將翻控案犯歸  
入徐娘條奏內酌定章程

434 乾隆五十六年二月二十七日奉  
旨著交刑部速行嚴審定擬具奏欽此

提督衙門奏拒捕傷人盜犯  
周二等一案

435 查刑部題覆直隸總督梁肯堂審擬王玉坤等  
偷祀灘鹽拒傷巡役一本事犯在乾隆五十四  
年十二月十六日雖據本內聲明例應以五十  
五年正月二十五日獲犯之日起限除去東路  
同知汪大鏞直隸臬司阿精阿先後因公出  
並各犯起解程限及在監患病各日期於五十  
五年十月二十一日始屆限滿但此事究係於  
五十四年十二月內破案至五十五年十月二  
十九日始行具題誠如  
聖諭審辦未免遲延所有承審此案各職名應請  
勅交梁肯堂查明咨部議處臣等謹擬寫  
諭旨進

呈再查刑部核覆事件定例以一百日為限此本  
於五十五年十一月二十四日奉  
旨抄出到部除去封印一月今於本月二十六日具  
題計算六十二日並未逾限合併陳明謹  
奏

436 乾隆五十六年二月二十七日奉  
旨直隸省審擬王玉坤等偷祀灘鹽拒傷巡役一案  
辦理遲延所有承審各員著梁肯堂查明交部議  
處欽此

437 臣阿 等謹  
奏為遵  
旨議奏事陝甘總督勒保奏新疆各部落來使進京  
行李包物請

勅下伊犁將軍及總理回疆叅贊大臣等按品定以  
應帶數目一摺乾隆五十六年二月二十日奉  
硃批軍機大臣議奏欽此 據該督奏稱查喇嘛來

使進京經過各省業經理藩院分晰定以包件數目並奉

特旨責令道員副將等親身按站稽查覆奏現在凜遵飭屬辦理外維查新疆各部落回目及土爾扈特人等每年入

覲進京向來馬匹口食係屬按品給予而行李包物止由哈密等處秤明斤重移咨內地給以車輛運送並無應帶包物定數似應一體定以數目以垂永久仰懇

聖恩勅下伊犁將軍及總理回疆辦事參贊大臣等按品定以應帶斤重數目飭令嗣後分別照數應付等語 臣等伏查定例凡官員由驛行走俱按品給以騎馬廩給其包馬亦係按品遞減均有定數原以慎重驛站錢糧毋許濫行需索倘違例支應即干叅處至西藏喇嘛來使經過各省現亦經理藩院分晰定以包件數目並奉特旨責令道員副將等稽查彈壓按站護送定制極為周詳惟新疆各部落回目及土爾扈特人等

### 并班朝

覲入京經過甘肅陝西山西直隸等省地方其馬匹口糧向係按品按人分別給予而行李包物止由哈密等處秤明斤重移咨內地給以車輛運送查口外地方其所帶包件按五百二十斤給車一輛口內按三百九十斤給車一輛山西直隸按六百斤給車一輛俱先行咨報戶兵二部及理藩院衙門查核事竣之日照例題銷至由京回往時應需車馬係由理藩院移咨兵部每伯克等一人例給行李車一輛騎馬一匹每跟役一名止給馬一匹歷經遵辦在案但伊等包物雖按其輕重定給車輛若不限以斤重數目誠恐該回目人等行李包件逐漸加添斤重日增以致所需車輛愈多難免中途遲滯及額外需索等弊於驛站地方不無擾累該督奏請各按品級定以斤重數目自係杜漸防微之意應令伊犁將軍及回疆辦事參贊大臣等分別各回目並土爾扈特人等品級斟酌所帶包件其輕重多寡應用若干車輛馬匹應需若干議定

確數具奏到日 臣等再行核覆具奏是否有當伏乞

皇上訓示遵行謹

奏

乾隆五十六年二月二十八日奉

硃批依議速行欽此

438 本年二月初七日兩江總督孫士毅等奏請將

碭山縣知縣鄭濂調補華亭縣知縣一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

業經議駁於本日具

題 臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

乾隆五十六年二月二十八日奉

旨鄭濂著照該督等所請行

439 本年正月二十八日直隸總督梁肯堂奏請將

經管霸州營田三年期滿之原任通州知州李

宏照可否給咨送部引

見一摺奉

硃批著送部引見欽此又奉

旨引見時提奏欽此今吏部將李宏照一員於本日

帶領引

見理合遵

旨提奏並將梁肯堂原摺進

呈謹

奏

二月二十八日

440 乾隆五十六年二月二十八日內閣奉

上諭河南陳州府知府員缺著陳於禮補授所遺員缺著周兆蘭補授欽此

441 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年二月二十九日奉

上諭刑部議覆河南省太康縣民人李三戲戲王王氏羞忿自縊身死一本穆和蘭原題內據李三供稱王氏同伊姑王戴氏赴井擡水我跟着王氏背後用手擎烟袋戲戲了一下王氏不依嚷罵我賴說無心招著何必認真等語而定案時又稱嚴加究詰該犯堅供委非有心圖姦前後聲叙自相矛盾試思該犯既自稱賴說無心招著是其為有心調戲業已供認屬實矣况李三手携烟袋尾隨王氏背後向前戲戲豈得謂之無心乃穆和蘭本內復將該犯委非有心圖姦等供叙入前後供詞不能符合不特聲叙不通亦且似有意開脫矣著穆

和蘭即飭臬司提犯到省親加研鞫務得確情另行具題毋再仍前含糊將此傳諭知之欽此遵旨寄信前來

442 遵

旨將本日長麟奏到江蘇省新舊錢糧完欠一摺與前次奇豐額所奏蘇州各屬應徵新舊錢糧數目細加核對其已未完各數均屬相符即係該撫據藩司詳報數目查核具

奏謹奏

二月二十九日

443

本月二十八日吏部將原任廣西巡撫孫永清保送堪勝知府之原任百色同知李煥直隸總督梁肯堂奏准陞署冀州直隸州知州之長垣縣知縣孔廣彬又鞏獲鄰境盜犯給咨送部之新城縣知縣王以清帶領引



見奉

旨李煥孔廣彬王以清俱著交軍機處記名欽此

二月二十九日

<sup>444</sup> 乾隆五十六年三月初一日內閣奉

上諭向來戶刑二部案件繁多定例題本期限較寬但查核錢糧研求情罪雖比別部事件辦理稍需時日亦不宜過於稽緩嗣後戶刑二部題本俱著統以八十日為限刑部八九兩月應題之本仍准照百日之限其餘各部題本限期俱照舊例辦理勿任遲逾欽此

<sup>445</sup> 乾隆五十六年三月初一日奉

旨鍾和楊定謀白守忠朱學仁俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

<sup>446</sup> 大學士公阿 大學士伯和 字寄

陝甘總督勒·乾隆五十六年三月初一日奉  
上諭勒保奏拏獲搶奪蒙古牲畜番賊審明正法一摺林沁等均係邊地番子胆敢糾夥攜帶刀箭在蒙古地方以打牲為名肆行搶奪實屬兇頑可惡自應嚴飭該管地方文武員弁上緊查緝何以該犯等於五十四年九月內犯案後並未據該督具奏直至本年二月內始行拏獲事隔一年有餘可見該督並不督飭所屬認真迅速查拏殊屬延玩勒保著傳旨申飭至多爾吉沙木格籠棍布係夥同林沁在蒙古地方搶奪牲畜之犯必須飭屬嚴緝務獲毋使遠颺漏網况格籠棍布自係喇嘛隨同搶劫尤屬可惡拏獲後更當從重辦理再摺內所稱索諾本並非番語想係索諾木之訛該督庸劣幕友不諳番語將木字悞添一畫以致錯誤勒保於陳奏事件何未留心檢點耶將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

447 查本日勒保奏等獲賊犯林沁等在蒙古地方搶奪牲畜一摺該督及西寧辦事大臣從前均未經奏報有案再查此等僅止搶奪並未傷人之案向係該處辦事大臣咨明總督查緝合併聲明謹

奏

三月初一日

448 本年二月初四日閩浙總督伍拉納奏請以福建水師提標後營遊擊李得勝陞補浙江乍浦營參將一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如兵部議駁即寫准行諭旨欽此今據兵部知會

閩浙二省武職員缺向准通融辦理既據該督

專摺奏請應令給咨送部引

見即與議准無異是以臣等未經另行擬寫

諭旨謹

奏

三月初一日

449 乾隆五十六年三月初二日內閣奉

上諭上年孫士毅奏川省地方向有換和小錢之弊請定價收買銷毀另行改鑄制錢節經降旨通諭各督撫一體收買查禁乃奉行未久本年正月內據長麟奏稱在蘇州地方訪獲收藏小錢訊係由湖廣雲貴流行到蘇復降旨令各該省跟查嚴禁本日又據姚茶奏等獲在吳城鎮沿河一帶擺賣錢桌之龔鴻烈等起出小錢六十二千現在嚴行訊究等語可見各省私銷私鑄之弊雖屢經飭令設法禁止而小民趨利若鶩地方官又不認真查辦或且局錢不能如式以致奸民影射積習難除即官為收買之例亦屬有名無實此事總在督撫等行之以實要之以久而於官局不任透漏舞弊始能淨絕根株若不能扶本塞源即定例甚嚴亦復何益嗣後各督撫務須一體嚴行飭禁毋得日久懈弛僅以查無私鑄一奏塞責若經此次飭諭之後再有小錢攙雜流行惟該督撫及管錢局之員是問將此通諭知之欽此

450 遵

旨將昨日長麟所奏揚州府知府馬慧裕族叔馬垌私至該員任所該旗曾否具奏之處交查正黃旗茲據佐領音登額呈稱查有閑散馬世焯之子馬垌久在順天府永清縣鄉屯居住向來在屯居住之人如前往他處係由該屯守堡呈報今馬垌私往江南探親未據該守堡報明佐領無從知悉是以未經呈明本旗具奏現在派員速往永清縣查詢等語除俟馬垌解到聽候刑部照例查辦外理合奏

聞謹  
奏

三月初三日

451

遵將前日福崧摺內曾充內務府書史之嚴維敬一名交查內務府茲據覆稱該衙門從前原有書吏嚴維敬係浙江紹興府上虞縣人於五

十二年二月期滿照例發給役滿執照在案與福崧所詢嚴維敬供詞相同至在京呈遞改歸大興原籍之處查係吏部據順天府咨送印文及大興縣印結准令改籍其考取正九品執照至今尚未領去其中自必有頂冒情弊俟嚴維敬解到時應聽刑部審訊辦理謹

奏

三月初三日

452

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
江西湖廣河南山東各督撫 乾隆五十六年  
三月初三日奉

上諭向來江浙兩省漕務弊竇最多上年福崧長麟將各州縣漕總名目革禁嚴行懲處官吏等自必稍知儆惕浮收包攬之弊可以漸次剔除因思江西湖廣河南山東等省皆有漕務雖徵收數目不及江浙之多但百姓將應完漕米向州縣交納即難保書吏等無從中勒折浮收把持包納之弊亦不可不一體整飭嚴禁著傳諭姚茶等務須留心

訪察各州縣如有設立漕總名目俱照福松長麟所辦即行嚴拿懲處以清弊源除就近諭知畢沅外將此各傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

453 乾隆五十六年三月初三日內閣奉

上諭畢沅歷任封疆辦理地方事務尚屬認真妥協所有應繳未完賠項內著再加恩寬免銀三萬兩  
欽此

454 查畢沅節次應繳賠罰各項共銀十二萬七千

八百兩上年正月內蒙

恩寬免銀二萬兩節據完交銀五萬七千八百兩現  
尚有未完銀五萬兩謹

奏

三月初三日

455 乾隆五十六年三月初三日內閣奉

上諭前據吉慶等奏荆州府知州張方理於承辦方家溝堤工草率捏報業經部議革職茲畢沅奏該員辦理地方事件實為得力請加倍捐復留辦城工等語張方理著准其加倍捐復留於楚省委辦城工俟工竣後送部引見另候諭旨欽此

456 乾隆五十六年三月初三日奉

旨刑部題覆湖南省平江縣民李笑兮誣執妻父童錦安父女通姦勒據捆毆致童錦安忿激縊死將李笑兮問擬絞候一本朕詳加披閱李笑兮因貧難度日屢欲嫁賣其妻被童錦安阻止嗣又欲攜伊妻遠出圖嫁復被斥阻李笑兮忿恨起意與魏三元商謀誣捏童錦安父女通姦令伊妻攜錢托童錦安帶買蚊煙是晚童錦安將蚊煙送至伊女房門李笑兮隨自進房聲喊童錦安與女通姦魏三元接應走進將童錦安脫去衣褲縛住手足釀成姦宿情形勒令寫立犯姦字據復拾瓦鋒劃破

童錦安左右腮朕經隣人解勸仍不釋放童錦安之子至始行解放童錦安告官後忿激自縊核其情節童錦安係李笑兮妻父乃以斥阻嫁賣其妻輒起意商謀將父女通姦事情粧點污蟻並網縛手足劃傷腮朕以致伊妻父羞忿投繯實為兇狡雖童錦安係自縊身死與謀殺無異况父女通姦如果屬實照亂倫重例問擬父女俱當立決今李笑兮設謀污陷即照誣告人父女通姦治以反坐之罪亦應按律予以立決且童錦安係李笑兮外姻尊長該撫僅照常人挾仇污蟻致被誣之人自盡律擬以絞候而刑部祇將該犯入於本年秋審辦理其罪名並未駁改俱屬失當所有調任湖南巡撫浦霖及刑部堂官均著飭行李笑兮著即絞決至聽從誣姦幫同網縛之魏三元非常加功可比若僅予以杖流亦不足蔽辜魏三元著從重發往黑龍江給兵丁為奴以示朕明刑弭教至意欽此

457 臣等傳

旨將給事中諾穆福革職並帶上鎖鍊訊以你兒子篤隆阿徇情受賄你斷無不知之理若非聽從你兒子言語閣泰和叅奏摺內何以院皂張文項受賄情事逐一嚴加究詰跪鍊訊問並令伊子篤隆阿及院皂張文趙越等三面對質加以刑訊俱堅供諾穆福實不知情且現在止准令開廟出會仍不准婦女入廟燒香現有與漢巡城公同曉諭告示可憑這是不能假捏的至閣泰和摺內所稱諾穆福准令婦女入廟燒香一語係趙越告知張文之言復將趙越嚴加刑訊據供實係我希圖從中分用錢文是以捏稱已經諾御史准令婦女入廟燒香告知張文並非本官批准亦不是篤隆阿告知等語臣等再四研求反覆究詰看來諾穆福實係昏憤糊塗不能覺察伊子招搖受賄皆係院皂張文趙越與伊子篤隆阿勾結分用錢文遂捏稱諾穆福知情為

名指官撞騙若果諾穆福知情豈有反同漢御史闖泰和聯銜出示禁止婦女入廟燒香之事除將案犯再加嚴究另行定擬外所有現在審訊諾穆福等供詞先行錄取進

呈謹

奏

三月初三日

諾穆福供上年七月間我到任之初因城隍廟有婦女入廟燒香之事當即親赴該廟查看出示禁止本年二月十八日該廟道士袁洪亮張喜貴赴城隍廟內稱每年十月初一日並清明日期向例城隍出巡懇恩照舊准行我想此會既係歷年准行隨當堂吩咐止准出會仍不准婦女燒香後來漢御史闖泰和到城看見稟帖也說此事尚可准行我同漢御史隨告訴坊官於出會之日令坊官多派衙役上緊巡邏那時我又說屆期我必親身前往如有查出婦女進廟惟你是問隨後又與漢御史商量該廟道士既已知曉恐各處燒香人等不知禁止必須再

行出示曉諭二十九日先在城隍廟門口實貼告示一張又令坊官依樣寫出十數張送漢御史標發貼在各處俱可查對得的至我兒子如果向我求情豈有反行出示禁止之理但我身為巡城我兒子通同皂役私自受賄我漫無知覺實屬昏憤糊塗只求將我從重治罪今已經革職蒙如此嚴訊我還敢私毫隱瞞益發罪上加罪了所供是實

\*  
張文供我充當北城察院衙門皂役我們得的道士袁洪亮張喜貴等京錢一百千內七十千是趙越送進城內的諾御史的儿子篤隆阿實在止收了京錢五十千趙越用了二十千下剩錢三十千留在城外後來我因諾御史跟班趕車人將來必知此事恐他們向我不依隨將三十千內又交趙越送給跟班人王二京錢八千車夫戴五京錢五千彼時我與趙越等大家吃了飯錢四千尚有錢十三千是我自己花用了前閩御史訊供時我說三十千錢全交給趙越是我害怕推諉的話至此事是與趙越商量的諾御史原有告示止准開廟出會不准婦女入廟燒香前向閩御史說准令婦女入廟燒香的話諾御史原未有准行之語只求訊問趙越就是了今如此刑訊還敢不據實供出嗎

\*  
篤隆阿供我係給事中諾穆福之子這皂隸張文趙越常到我家稟事我曾見過他們本年二月內趙越到家對我說現在城隍廟要開廟出會恐仍舊不准婦女燒香要在巡城御史跟前稟求出會並求准令婦女燒香我想出會係每年定例斷無不准之理可以賺得他們的錢文使用至婦女燒香一層原含糊答應並沒應准二月十二日趙越送進京錢五十千我隨令家人將錢文收下此事我因向例原可准行飾詞哄騙希圖入己並不敢在父親前露出一字我又親實不知情總是我的糊塗不堪只求從重治罪

趙越供我充當北城察院皂隸我同張文向幫辦城隍廟事務張喜貴講定京錢一百千打點門路後因我們二人不能擔承此事我就向諾御史的儿子篤隆阿央求說張喜貴等情願酬謝京錢一百千欲求開廟出會准令婦女入廟燒香彼時篤隆阿含糊應允叫我們送給他京錢五十千叫張文分用三十千給我錢二十千十四日我雇了車將京錢五十千送給篤隆阿收下的十九日道士袁洪亮同張喜貴在城上遞了稟帖諾御史吩咐止准開廟不准婦女燒香彼時袁洪亮張喜貴就走了原擬初三日清明開廟出會不料初一日就被拘拏到案了所有我分得京錢二十千我零星用了十五千二百文尚有京錢四千八百現在存放楊十茶館內張文分的京錢三十千他又叫我送給諾御史跟班人王二京錢八十趕車人戴五京錢五十當日我們大家吃了四十錢的飯下剩的三十千是張文使了是實至我向張文說諾御史

准令婦女入廟燒香的話原是誰騙道士等希圖先得分用錢文其實諾御史並未批准婦女入廟燒香還有告示禁止可憑這都是實情不敢謊供

458

乾隆五十六年三月初四日內閣奉

上諭朕此次巡幸藍山所有沿途經過地方本年應徵地丁錢糧著蠲免十分之三欽此



459 乾隆五十六年三月初五日内閣奉

上諭直隸易州直隸州知州員缺前經補授蔣如燕  
至今尚未到任易州係

陵寢重地知州員缺未便久懸現有在直候補知府楊

濬文未經得缺著即以知府銜補授易州直隸州

知州其原補授之蔣如燕到直後如查未逾違例

限著另以相當之缺補用欽此

460 查本日梁肯堂奏稱等獲胡老印候二一犯係

巡城御史等獲疊次行劫之傅大頭等案内逸

犯其傅大頭等業經刑部審擬分別正法發遣

在案謹

奏

461 臣 和坤等謹

奏為遵

旨審擬具奏事巡視北城御史闔泰和參奏巡城給  
事中諾穆福之子篤隆阿因開廟出會聽從皂

役求情受賄一摺乾隆五十六年三月初一日

奉

旨交臣等嚴審定擬具奏欽此臣等當即將諾穆福

之子篤隆阿道士袁洪亮幫辦廟事之張喜貴

院皂張文等逐研訊篤隆阿堅不承認及續經

等獲向篤隆阿當面說合之院皂趙越及開設

聚興店之孫二開設茶館之楊十並分錢之車

夫家人等陸續拘提到案三面質訊緣此案北

城地方橫街城隍廟向有婦女入廟燒香還願

之事上年曾經該城御史出示嚴禁茲節屆清

明因向年俱開廟出會該廟住持道士袁洪亮

緣舊冬奉文禁止婦女燒香以致廟內香火缺

少因與幫辦廟事之張喜貴一同商酌打點門

路張喜貴就找尋素識者管北城衙署之姜有

德並院皂張文轉尋院皂趙越三面商議講定京錢一百千打點使費遂向諾穆福之子篤隆阿懇伊轉求諾穆福准其開廟出會並婦女燒香以圖多得香資張喜貴情願捐資五十千道士袁洪亮亦典當錢五十千共湊京錢一百千於二月十二日張喜貴將此項錢文交給姜有德張文伊二人先送至南城外聚興客店留下錢三十千即將京錢七十千用車拉至城內西單牌樓楊十茶館內交給趙越收存至十四日趙越復催小車將京錢五十千雇車拉送諾穆福宅內趙越先見篤隆阿說明篤隆阿當令家人蘇六十五車夫戴五將錢搬進房內私自收用並未向諾穆福告知其下剩二十千趙越零星使用錢十五千二百現有京錢四十八百尚存楊十茶館內未經花用所有聚興店內張文留存之三十千復經趙越送給諾穆福之跟班王二京錢八千車夫戴五京錢五千眾人吃飯共用錢四千餘錢十三千張文自己使用旋經御史閻泰和訪聞傳訊道士袁洪亮等供出前

情不諱參奏前來臣等再四駁詰不但皂役張文趙越及道士袁洪亮等俱各供認不諱並質訊搬錢之蘇六十五戴五及分錢之王二等亦各供吐如繪篤隆阿始自認收用京錢五十千是實是張喜貴等出錢營求轉托張文趙越勾通篤隆阿之處業已供証確鑿反復究詰似無遁飾臣等以此事既係篤隆阿受賄應允必先向伊父諾穆福說明始能將錢文收用諾穆福斷無不知情之理且平日聽情受賄亦必不止此一事再四研詰加以掌嘴擗耳並撻夾刑嚇諾穆福堅供我兒子篤隆阿素不安分我時常訓誨不料他此時因我巡城竟有此受賄得贓之事我不能查察糊塗昏憤實屬罪無可辭至此事我與漢御史閻泰和公同曉諭禁止婦女入廟燒香現有告示可憑這是不能捏造的若我知情受賄豈反肯出示禁止但我平日不能約束以致篤隆阿在外招搖撞騙與皂役下賤通同勾結只求將我從重治罪還有何辯此外若另有受賄知情等弊閻泰和豈有不一併參究

之理求詳情臣等復將篤隆阿嚴加刑訊據供實因此事向來准行遂捏許趙越可以行得實不敢向我父親諾穆福說知並將張文趙越嚴行究詰三面頂訊亦供稱只向篤隆阿商量捏稱允准希圖從中賺錢分用現在諾給事中並未准婦女入廟燒香有與漢御史一同列銜出示曉諭實貼廟門這是不能假捏的如此嚴刑訊問若諾本官果有知情之事我為何還替他隱瞞呢等語查律載無祿人枉法贓二十五兩者杖七十徒一年半五十兩者杖一百流二千五百里又律載風憲官吏受財各加其餘官吏罪二等又律載凡有事以財行求及說事過錢者皆計所與之贓與受財人同科無祿人減一等如有首從者為從無祿人聽減二等又律載凡監臨官吏家人於所部內求索財物減本官罪二等各等語今已革給事中巡城諾穆福之子篤隆阿聽信皂役得受伊父所部民財不但照無祿人枉法贓二十五兩例徒一年半無

以示懲卹照風憲官吏受財加二等治罪亦止杖徒不足蔽辜應革去謄錄從重發往伊犁充當苦差皂役趙越張文勾引本管官子弟說事過錢分肥入已實屬不法亦均應從重發往黑龍江給兵丁為奴道士袁洪亮及在廟幫同辦事之張喜貴串同本城皂役向巡城御史之子賄求開廟圖得香資計贓五十兩與受同科罪止杖流亦不足示儆均應從重發極邊烟瘴充軍至聽從張喜貴等說事過錢並未分肥之姜有德應依為從無祿人減二等例杖九十徒二年半王二戴五係巡城御史家人於本官所部內得受錢文應於篤隆阿本罪杖九十徒二年半減二等杖七十徒一年半該犯以風憲官家人受財執法應從重於犯事地方加枷號一個月交順天府定地發配其餘傳訊頂証之楊四孫二龐七等俱屬無干並未得錢之家人郭七蘇六十五應請均予省釋至已革給事中諾穆福經再三嚴訊並據伊子篤隆阿及家人王二戴五并皂役張文趙越等僉供諾穆福實不知

情業經奉

旨革職應毋庸議所有篤隆阿及皂役張文趙越并家人王二車夫戴五得受錢文及寄存楊十茶館之京錢四十八百一併照例追出入官再查向來巡城御史例應二年更換誠如

聖諭該御史巡城日久吏役等易於窺伺交結滋弊嗣後應請改為一年期滿即行更換以杜弊端至諾穆親身為大員於胞姪受賄得錢不能先事管束今據該侍郎奏請議罪咎實難辭但並不同居應請

旨交部察議以為大員不能約束子弟者戒所有臣等公同審擬緣由理合繕摺具

奏伏乞

皇上訓示謹

奏

乾隆五十六年三月初五日奉

旨依議欽此

462 遵

旨詢問梁首堂霸昌道同興已派委護送堪布喇嘛今復委令挑濬河道恐難兼顧俟護送喇嘛差竣後再往工次能否不悞大汛前完工據稱堪布喇嘛於三月初十邊自京起身約至本月二十外出直隸井陘縣境同興護送出境後即可赴工督辦挑濬距大汛之期尚及兩月有餘似可無虞遲悞等語謹

奏

463 查會匪謝志供出之陳信一犯前已據奎林等拏護正法至洪月一犯應行從重定擬絞候之處<sub>臣</sub>等已告知刑部照前獲會匪林三元等之例辦理謹

奏

464 查向來恭逢

聖駕巡幸盤山所有墊道人夫節次俱係

賞銀二百兩此次仍照上屆擬

賞謹

奏

465 乾隆五十六年三月初六日奉

旨此次巡幸盤山途值春雨應時所有墊道人夫著

加恩賞給銀二百兩欽此

466 乾隆五十六年三月初七日奉

旨此次巡幸盤山途中適霈春膏所有墊道兵丁等

亦著查明每名賞給銀二兩以示體恤欽此

467 據梁肯堂閔正祥將趕辦道路文武各員開送

前來謹遵

旨擬

賞開單進

呈謹

奏

初七日

\* 總督梁肯堂

提督閔正祥

擬各

賞大卷緞二疋

三屯協副將張錫謨

清河道方受疇

口北道索諾木扎木楚

擬各

賞大緞一疋

喜峯路遊擊西福

薊州營都司徐占魁

玉田營都司黃戰

易州直隸州知州楊濬文

冀州直隸州知州孔廣彬

署易州知州傅修

南路同知汪應紹

通協石營守備班濟布

擬各

賞小卷緞一疋

468 乾隆五十六年三月初七日内閣奉

上諭上年直隸所屬州縣內有間被水災之處節經降旨撫卹並於本年新正特頒諭旨加賑一月此次巡幸盤山偶見薊州境內道傍柳樹尚有水痕雖所被偏災業經屢加恩卹但蹕路經臨目覩情形朕軫念民依有加無已著將薊州所屬各村庄再加恩展賑半個月以副朕時巡沛澤補助閭閻至意欽此

469 乾隆五十六年三月初七日奉

旨何适係逆匪何東山之姪雖例應緣坐但何東山從逆時何适年幼逃避並不知情尚可從寬何适著免其治罪送交內務府照例辦理嗣後逆犯家

屬年未及歲者俱著照此查辦欽此

470 啟者本日面奉

諭旨京中報雨各摺未經加批著將昨日御製得雨

詩章抄錄寄京令各位阿哥及南書房翰林等同

和欽此謹將

御製詩抄寄祈即遵照辦理頓請

近安不一

八阿哥

阿中堂

和謹啟

471 乾隆五十六年三月初九日奉

旨邢鳳竹蔣曾煌席世綢張占魁羅定國俱著准其馳封該部知道摺並發欽此

臣和坤等謹

奏為遵

旨議奏事據成都將軍成德等奏打箭鑪口外巴裏二塘原貯糧石請照西藏等處一體酌減一摺

乾隆五十六年三月初九日奉

旨軍機大臣會同該部議奏欽此據摺內稱西藏等

處原貯糧石業經奉

旨酌減所有巴塘裏塘二臺原議各貯青稞二十石

自應一體減貯以重倉儲查裏塘原貯有軍需

利米易麥歸還青稞一千八十八石零又採備

青稞一百二十石巴塘亦貯有軍需存利米易

麥歸還青稞一千五百一十四石三斗零又採

備青稞三百一十五石以上裏塘共貯青稞一

千二百八石零巴塘共貯青稞一千八百二十

九石三斗零應請即令裏塘長貯青稞一千二

百石巴塘長貯青稞一千八百石兩臺共足三

千石之數毋庸再行採買其裏塘餘剩青稞八

石零巴塘餘剩青稞二十九石零查該二臺每

年歲有實支糧石應即在於實支歲糧內動銷

其所貯糧石仍遵前議每年存七出三源源糶

易以免霉變等語

臣等伏查從前

欽差侍郎巴忠等會議西藏善後事宜案內奏明西

藏買貯糧食六千石拉里察木多二臺各採貯

糧食三千石巴塘裏塘二臺各採貯糧食二千石

等因旋奉

諭旨此項糧石用處無多若令多買備貯不但徒致

霉爛且不免日久弊生此後惟當擇節買貯欽此

嗣據鄂輝會同普福奏請將西藏原貯糧食六千石酌

減三千石拉里察木多二臺每處原貯糧食三

千石各酌減一千八百石奏蒙

俞允在案所有巴塘裡塘二處存貯糧石與西藏等

處事同一例自應查照酌減今成德等奏請裡

塘原貯青稞二十石酌減八百石長貯一千二

百石巴塘原貯青稞二千石酌減二百石長貯

一千八百石以備支用臣等伏思倉儲糧石原

備緩急之需但積貯過多恐致霉變若買備之

數過為減必又恐不敷支用必須多寡適中無

474 乾隆五十六年三月初九日奉  
旨內務府大臣議奏欽此

穆騰額奏長蘆商人  
分年攤繳帑本一摺

475 軍機大臣面奉

諭旨本日江蘭呈進貢件向來兩司從無進貢之例  
亦不准奏事處接收江蘭本條兩淮商籍伊父在  
日曾備貢件經軍機處大臣代奏酌量賞收原不  
在兩司之例此次貢件業據商人賚呈已令該處  
預備呈覽外著傳諭江蘭嗣後如遇萬壽及歲底  
准其各進一次其餘端陽中秋及尋常巡幸俱不  
准越分呈進欽此相應傳知該藩司遵照可也

紅朽之堪虞亦支銷之足數方為妥善因面詢  
侍郎巴忠據稱該將軍等奏請酌貯之數係就  
該處實在情形籌辦既不浮多亦足敷用等語  
是該將軍等所奏係就該處現在情形因地酌  
宜自應如所議辦理其存貯糧石仍令每年照  
存七出三之例源源糶易責成該管道員隨時  
查察毋使稍有窳變並於年底委員據實盤查  
倘有虧缺即行嚴叅辦理無得日久滋弊至裡  
塘餘剩青稞八石零巴塘餘剩青稞二十九石  
零亦應如該將軍等所請准其在於歲支糧內  
動用造入奏銷案內報部查核是否有當伏候  
命下行文該將軍等遵照為此謹

奏請

旨

473 乾隆五十六年三月初九日奉

旨周二朱大劉大俱著即處斬餘依議欽此

行竊民人傅五家拒傷事主及營兵一案



476 本年二月初一日福康安等奏請將候補知府

莊肇奎補授惠州府知府一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部照例

議駁臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏 乾隆五十六年三月初九日奉

旨著照該督等所請行欽此

477 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 乾隆五十六年

三月初九日奉

上諭據孫士毅等奏張懷路呈告仲見龍之祖仲繩  
所著奈何吟辭多悖謬一案審明仲繩生於明季  
仲見龍係仲繩遠族並非嫡派子孫張懷路因挾  
涉訟微嫌聽從趙從等教唆將家藏奈何吟首出  
誣控應請將仲見龍省釋至仲繩曾孫仲克順等

雖不知伊曾祖刻有詩稿搜查實無其書但究係  
本犯子孫豈竟毫無聞見請將仲克順等照仲繩  
應擬絞決罪名減一等杖一百流三千里等語所  
辦未免過重仲繩生於明季至本朝康熙年間尚  
在所著詩稿原有揚頌本朝之辭語涉字騷怨憤  
之處既據張懷路供明係為崇禎宏光而發該犯  
呈首時即慮及當官者出恐生以反誣之罪曾與  
趙從密商趙從以此書刊於康熙年間首出必當  
嚴究是張懷路趙從等挾嫌誣控希圖拖累洩忿  
情節業經確鑿祇須將仲克順等責懲完案已足  
蔽辜何必問擬滿流况仲繩詩詞謬妄係指明季  
而言更不值代勝國追究將其裔孫治罪也外省  
督撫辦理案件若非失之寬縱即屬有意從嚴權  
衡情罪每不能允當孫士毅在督撫中係屬曉事  
之人不應若此著傳諭該督等即行遵照發落其  
誣告之張懷路咬訟之趙從等仍照所奏辦理咨  
部完案將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

478 查西藏喇嘛被德爾格番子搶刦一案業經奉  
旨派張芝元前往查拏郭洛克部落距德爾格地方  
道路遼遠恐該鎮難以兼顧臣等擬寫寄信成  
德等

諭旨內飭拏郭洛克番子令其選派熟悉番情大員  
前往未將添派張芝元一節寫入謹

奏

479 大學士伯和 字寄

成都將軍成 四川總督鄂 四川提督觀

乾隆五十六年三月初九日奉

上諭據成德奏尼雅木錯部落被郭洛克番子搶去  
牛三千四百隻羊三千五百五十隻並搶去馬匹  
軍器等物現派叅遊大員酌帶妥幹兵目前往郭  
洛克地方傳集土司頭人嚴行查拏等語此案前  
據奎舒奏到曾降旨飭令鄂輝派員前往督拏茲  
據成德等接准青海來咨選派員弁即赴郭洛克  
地方查緝著傳諭該將軍等選派熟諳番情大員

親往郭洛克查緝務將此次搶奪賊番首夥全行  
拏獲從嚴究辦至尼雅木錯被搶牛羊至六千餘  
隻之多恐係該番人等希冀多得賠償浮開贓數  
具報均未可定除降旨令奎舒查明咨會川省外  
並著傳諭成德等飭諭查辦各員確切查明辦理  
毋任冒混將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

480 大學士伯和 字寄

四川總督鄂 乾隆五十六年三月初九日奉

上諭據鄂輝奏撈獲沉溺銅鉛數目按月具報一摺

閱所開單內委員黃澍於五十三年五月十八日  
在大湖灘沉銅七萬斤前後撈獲銅共一萬五千  
八百餘斤尚未獲銅五萬四千一百餘斤此項沉  
銅係上年五月內之事扣至年底已逾兩載撈獲  
者僅一萬有餘未獲者尚有五萬數千斤之多是  
該地方官及運員等並未認真設法打撈已可概  
見前據陳用敷奏廣西境內沉銅五萬六千餘斤  
當即撈獲五萬五千餘斤未獲者止一千有零可

見該員等果能實力打撈斷無終於無獲之理著傳諭鄂輝即將未獲各項沉銅嚴飭該管地方官及運員等務須設法打撈期於全獲毋得怠緩從事任其控飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

481 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 直隸河南湖北湖南各督撫  
乾隆五十六年三月初九日奉

上諭陳用敷奏安南國王阮光平遣使恭進表西方物於二月十八日行抵桂林省城二十日起程進京等語安南所遣陪臣前據福康安奏到時當經降旨陳用敷令將陪臣在廣西省城畧為憩息緩程前進並令陳用敷知會沿途經過地方照料該陪臣等按程緩行約計於七月二十邊至熱河以便與各外藩一同筵宴今據該撫奏稱安南陪臣已於二月二十日由省城起程自係未經接奉前旨但該陪臣等業已起程計此時已早入湖南境

內如陳用敷遵照前旨將陪臣追回固屬不成事體若沿途扣算七月日期過為羈留以致在途多延時日亦覺未妥除令軍機大臣劉行委員遵照行走外著傳諭沿途經過各督撫俟該陪臣到境後即行照料前進於四月底到京彼時已屆端陽可以瞻視龍船競渡酌賜宴賚毋得拘泥前旨有失體恤遠人之意將此傳諭陳用敷及沿途各督撫並諭福康安知之欽此遵

旨寄信前來

482 辦理軍機處為劄飭事安南國王阮光平恭遣陪臣等恭齋

表貢進京已於二月十八日行抵桂林省城二十日起身北上欽奉

諭旨令該陪臣等四月底到京以便於端陽令節賜以宴賚為此劄行廣西護送委員知州邵志望守備翁大猷即行按站前進務於四月底到京毋得遲延干咎但為期甚寬儘可從容到京亦不

便過於催促也須至劄者

右劄廣西委員

知州邵志望  
守備翁大猷准此

三月初九日

483 乾隆五十六年三月初十日內閣奉

上諭孫士毅奏據江西藩司託倫稟稱玉山縣城垣原坍續坍計五十六段又坍塌石砌五段先據署任知縣程肇豐估計工料需銀三萬四千六百餘兩嗣據陞任山西同知原任玉山縣知縣丁如玉減估共需銀一萬三千七百餘兩兩任先後所估銀數多寡懸殊程肇豐因丁如玉大加刪減曉曉不服請將丁如玉留於玉山協辦城工俟親抵該處核估確實另行分別參奏等語外省官員承辦工程事件往往浮報多開冀圖侵冒否則欲見已長故行摺節以為居功見好地步此項玉山縣城工署縣程肇豐估需銀三萬四千餘兩經丁如玉減估止須銀一萬三千餘兩是核估之數減至倍餘若無浮冒情弊不應懸殊若此但工程需費之

數雖有丈尺可按亦必需工竣後確切核算實用實銷則銀數多寡無難立見並非口舌爭辯所可逆料此案署任知縣程肇豐即著解任留於該處陞任知縣丁如玉著留於玉山辦理城工如果丁如玉草率偷減欲實其言以致工程未能堅固即將丁如玉參處若所估之數儘可敷用工程做法俱能如式一律完整則是程肇豐有意冒銷侵欺入己其罪自不可逭即將程肇豐革職嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

484 乾隆五十六年三月初十日奉

旨劉澐李廷敬寧貴俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

485 乾隆五十六年三月初十日奉

旨徐五即許五李二陳十張立德即張大著即處斬餘依議欽此

海豐縣等復疊次行劫盜徐五等一案

486 查本日所奉寄信陳用敷

諭旨由六百里加緊發往計算本月十八九日可以奉到該撫即令該陪臣等起程趨程行走途次約須四十餘日計至五月初五日以前可以到京是以臣等於擬寫

諭旨內令其於五月初五日以前至京等並行文經過沿途各督撫一體遵照謹

奏

487 乾隆五十六年三月初十日內閣奉

上諭陳用敷奏接奉諭旨令此番安南使臣緩程前進約計七月至熱河但此旨到時該陪臣等先已過省因計算行程尚在粵西境內隨飛飭委員帶同該陪臣等仍來省城懋息數旬後再行前進等語前以安南使臣入關尚早途中程期甚寬該陪臣等不必急於跋涉故令緩行以資懋息今於七月內前赴熱河以便宴賚乃陳用敷於該陪臣過省之後奉到此旨過於拘泥輒又復趕回使臣至省令其徒勞往返實屬不成事體該撫前於安徽巡撫任內辦理地方事件無不以此糊塗是以降為府尹茲復加恩擢用巡撫該撫宜如何遇事主持奮勉乃於辦理安南使臣之事仍錯誤顛倒至於此極竟係故智復萌除另降諭旨嚴行申飭外陳用敷著交部嚴加議處欽此

廣西巡撫陳 乾隆五十六年三月初十日奉

上諭據陳用敷奏接據前奉諭旨計算安南陪臣於二月二十日自桂林起身行程尚在粵西境內沿途未便久憩不在省城停留一切較為便適現飭委員帶同該陪臣等仍來至省城憩息數旬再行緩程前進於六七月間抵京等語所奏甚屬錯謬前以安南所遣陪臣到闕尚早今在粵西略為憇息並令知會前途令其緩程行走於七月二十邊到京昨據陳用敷奏到該陪臣業已起身此時應入湖南境內沿途不便過為遲留多延時日致滋疑畏即降旨仍令按程前進於四月底到京俾與端陽宴會乃陳用敷於該陪臣過省後拘泥新旨復行趕回實屬不成事體如此茫無定見不特取笑外夷且恐該陪臣等不知原委見該撫已令起程忽又追回留住省城館驛必致心懷疑惑殊非撫馭遠人之道除交部嚴加議處外陳用敷著仍傳旨嚴行申飭並著該撫轉告該陪臣等以前

此因爾等進闕尚早大皇帝特加體卹令緩程赴都及聞爾等已過桂林即不必復回以至徒勞往返巡撫拘泥糊塗輒令爾等轉回省城實為錯謬大皇帝已將巡撫訓飭交部治罪爾等仍可按站前進計程到京瞻覲仰邀宴賚途中雖交夏令但北地尚不過於炎熱爾國王上年入覲時即係六月間北上行走均屬妥適爾等此行亦不致過於勞頓此皆大皇帝體恤深仁念爾等遠來是以屢次降旨俾得行走便適爾等宜咸喻此意如有信啟寄回亦應將此事詳悉啟達爾國王俾得知悉如此明白宣諭庶使該陪臣等感戴天朝加惠遠人至意不至別懷疑慮陳用敷接奉此旨後即行派員照料啟程知會沿途備程行走務於五月初五以前到京亦不可因有此旨過於促迫也將此由六百里加緊傳諭知之仍將該陪臣何日起程約計何時可以到京之處迅速覆奏欽此遵

旨寄信前來

489 辦理軍機處為飛咨事安南國王恭遣陪臣等

來京謝

恩已於二月二十日自桂林省城起程昨經奉

旨今於四月底趕到茲據廣西巡撫陳 奏到該陪

臣等過省後該撫接到從前所奉令其在省城

懇息數旬之

旨復將該陪臣等趕回桂林現奉

諭旨訓飭仍令即行起程約計程期即不能於四月

趕到而端節以前斷不可遲為此飛咨沿途各

督撫於該陪臣等到境即行飭屬安速預備俾

得過行無阻務於五月初五日以前至京勿稍延

緩計自粵西至京程站不過四千八百二十餘

里途中畧加僱緊已可趕赴期限亦不必晝夜

僱行過於促迫也該陪臣等出境入境日期務

須隨時由驛咨報軍機處以備

垂詢須至咨者

490 啟者本日面奉

諭旨陳用敷奏上年安南國王阮光平回國沿途嚴

束隨從人等從無求索滋擾之處各該地方官等

自不得以辦差藉口擾累商民等語著將此摺抄

錄寄京交阿 傳到尹壯圖令其閱看並詢以爾

從前奏稱地方官辦理差務胥役滋擾商民感額

與歎是何意見令其據實登答隨報覆奏又阮光

平謝表一併寄京交大學士九卿閱看欽此為此

佈達希即遵照辦理順候

近祺不一 和 等公具

491 遵

旨詢問梁肯堂將慶章在承德府任內於所屬建昌

縣詳報遲延一案是否有心徇庇據稱建昌縣

距府城約有三百餘里該縣於命案甫經到案

亦未具有初報慶章實係失察並非有心瞻徇

等語 臣 等謹遵

旨擬寫將慶章改為革職留任八年無過開復

諭旨進

呈謹

奏

492 乾隆五十六年三月十一日內閣奉

上諭承德府知府慶章於所屬建昌縣承審命案詳報遲延失於覺察經部議以無級可降照例革任業經降旨令該督出具考語送部引見但念該員於熱河情形尚為熟習著加恩改為革職仍留原任俟八年無過方准開復欽此

493 乾隆五十六年三月十一日內閣奉

上諭朱珪奏安徽和州安慶衛積欠南屯蘆課等項銀兩因該州衛連年間被淹浸民間元氣未復若將緩帶錢糧同時並徵民力未免拮据等語和州安慶衛於五十二三等年被水淹浸所有新舊應徵銀米業經加恩遞緩第念該處連年疊被水淹民間元氣未能驟復加之應徵五十五年新糧若新舊一時並徵恐民力實有不逮著再加恩將和州未完災緩帶徵南屯米折銀一萬五千餘兩安慶衛未完災緩蘆課銀四千二百餘兩俱以五十五年起分限三年帶徵俾小民按限輸將無虞竭蹶以示朕惠愛閭閻有加無已之至意該部知道

摺併發欽此

494 乾隆五十六年三月十一日內閣奉

上諭閩浙一帶洋面盜匪出沒為害商旅甚至圍劫哨船拒傷弁兵節次降旨令各該省督撫嚴密查拏經伍拉納督率員弁陸續拏獲各案首夥盜犯一百一十餘名茲復據奏拏獲盜犯三十八名俱已審明正法伍拉納辦理認真連獲多犯著交部議叙其出力緝捕之文武員弁並著該督查明咨部議叙以示鼓勵至福崧陳杰在溫州沿海地方督拏洋盜為日已久祇獲正盜陳潮等三名差弁赴閩亦祇獲張阿巖一名獲盜無多毋庸交部議叙仍著該撫等督飭所屬上緊緝拏毋任踈縱此等盜匪皆由沿海各處民風剽悍地方官不能留心化導遂致相習為匪輕生犯法朕不能道之以德不得不齊之以刑尚當引以為媿故每披覽奏牘見愚民自蹈刑章駢首就戮未嘗不惻然動念但匪犯等糾夥出洋聯鯨劫掠倘或稍事姑息更何以安行旅而靖盜風若愚民等見此番痛懲之



後咸知畏法懷刑勉為良善民氣漸淳刑網皆可  
不設是誅戮者祇此百餘人而所以保護生全者  
實多也閩浙等省盜風如此之熾總因富勒渾雅  
德從前在督撫任內姑息養奸因循貽誤所致伊  
等獲咎甚重本不應釋令回京姑念皆已年老得  
以倖邀寬宥釋回嗣後該督撫等若再蹈伊二人  
覆轍必當從重治罪斷不能倖邀寬典惟當督率  
所屬認真緝匪化導愚民與其懲於既犯之後不  
若弭於未然之先小民等苟能自愛身家不致輕  
罹憲典於辟以止辟刑期無刑之意或庶幾焉欽  
此

495 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 乾隆五十六年三月十一日奉  
上諭伍拉納奏續獲閩浙兩省行劫首夥盜匪分別

定擬一摺該督此次督率屬員查緝盜匪前後拏  
獲多名辦理尚屬認真已交部議叙矣但閱摺內  
此次拏獲盜犯共三十八人又將從前所獲各犯  
一併牽連叙入竟似此次獲犯已有一百餘名之多

若如此開叙則一年之內所獲之犯不幾及千數  
耶摺內聲叙甚屬牽混著傳諭伍拉納嗣後奏報  
拏獲盜匪各摺務須分晰清楚毋得前後牽混也  
欽此遵

旨寄信前來

496 乾隆五十六年三月十一日奉

旨彭世富著即處斬餘依議欽此

湖北竹山縣彭世富因姦扎  
死李氏等二命一案

497 乾隆五十六年三月十二日奉

旨此次巡幸盤山所有修墊山道人夫著加恩賞給  
銀二百兩欽此

498 乾隆五十六年三月十三日內閣奉

上諭額勒春奏龍里縣知縣楊炳志氣昏頹精神  
委頓詢以案牘民情類皆答非所問辦理地方

公事糾錯遲延請旨革職等語楊炳著革職至該員係直隸舉人由易州學正截取知縣此等庸劣之員當日截取時例由總督驗看何以並不據實具奏殊屬不合著吏部查明驗看之總督一併議處該部知道摺併發欽此

499 查惠齡審擬安維致斃一家三命一案摺內聲明該犯有子小玉年甫五歲飭州牢固監候俟年至十一歲時解京辦理謹

奏

500 乾隆五十六年三月十三日奉

旨張信著即處斬餘依議欽此

廣西省謀殺死總麻服叔

501 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年三月十五日奉

上諭據步軍統領衙門奏正藍旗滿洲步軍校貴德

呈報賊犯孫英一名在監病故經指揮鄧謙芳帶領伴作驗係用鐵鍊自縊身死而詢據步甲德兒等供稱見孫英斜枕鐵鍊之上並無自縊情形與伴作所驗不符請將一千人証俱交刑部並另行詳驗孫英屍身審明定擬等語此案情節係步甲等一面之詞固不足據即指揮所帶之伴作等遺漏傷痕捏混填報之處亦所不免是相驗原報均未可遽以為憑但孫英一犯不過僅係竊賊並非劫盜可比律無死法何至畏罪自盡且步甲等供內孫英口裡哼哼斜枕鍊上之語迥非自縊情形或係步甲等冀圖索詐有意凌虐以致適斃否則或係步甲等本係知情縱竊事後分贓因孫英就獲恐被到案實供致罹罪譴有心將該犯致死冀圖滅口亦未可定著傳諭刑部堂官委員將該犯屍身另行相驗悉心研鞫以成信讞所有步軍統領衙門原摺並著發交閱看欽此遵

旨寄信前來

502 乾隆五十六年三月十五日奉

旨託倫著免其革任仍註冊蘭第錫英善俱著降二級從寬留任伊桑阿著於補官日改為革職從寬留任永保著降一級從寬留任其前任玉田縣知縣丁日昇方應綸陳鳳翔俱著革職前任遵化州知州蔡封李憲宜俱著降三級調用王若常著於補官日降三級用前署通水道孫景曾著於補官日再降二級用至議以降調之那穆塔著該堂官出具考語送部引見補官日降級用之薩哈善俟病痊之日著該旗查照原咨考語送部引見革職之慶章著該督出具考語送部引見再降諭旨餘依議欽此

503 乾隆五十六年三月十五日內閣奉

上諭都察院奏東城吏目尹明允辦理民人陳玉控告林大拐伊妻子一案審係誣捏有都察院經歷廳稿房劉姓到坊為陳玉求情釋放經該吏目斥出劉姓遽將陳玉拉去吃飯一去不回當即飭拏劉

姓送交刑部辦理茲將該管廳官交部議處等語陳玉控告林大串通車夫拐伊妻子一案即使審明誣捏尚無大罪惟經歷廳書吏劉姓為該犯向坊官求情及坊官不允所求輒膽敢私行帶去藐法已極不可不從嚴究辦著交步軍統領衙門順天府五城一體緝拏務將書吏劉姓緝獲交刑部嚴審有無賄囑情弊從重定擬具奏該管廳官平日不能約束並著交部議處欽此

504 據書麟奏到薩邁林計期十三日可入直隸境

遵

旨詢問梁肯堂何時可以解到據稱現在尚未據井陘縣稟報入境日期又已派員迎催趨緊行走若於十三日入直隸境計算程途約於十七八日可以解到等語謹

奏

505 乾隆五十六年三月十六日內閣奉

上諭直隸承德府知府員缺著台斐英阿補授欽此

506 乾隆五十六年三月十六日內閣奉

上諭直隸正定府知府員缺著邱學勅補授所遺員

缺著胡昌暢補授欽此

507 乾隆五十六年三月十六日內閣奉

上諭四川成都府知府員缺緊要著該督於通省知府內揀選一員調補所遺員缺著孔廣彬補授其所遺員缺著成明補授欽此

508 查律載婦女與人通姦本夫與父母並未縱容

因而羞忿自盡者將姦婦擬絞監候此指已嫁之女而言至于孫因姦因盜以致祖父母父母憂忿自盡者始照過失殺例擬絞立決查已嫁之女為父母服制降為期年其期功尊長服制以次遞降故問擬罪名俱照服制以次遞減今

刑部議覆河南省所題陳張氏與王傑通姦致伊父張起羞忿自盡一案因陳張氏係已嫁之女是以照例問擬絞候若在室之女與人通姦致父母羞忿自盡者方照子孫過失殺之例問擬絞決今遵

旨擬寫改簽

諭旨進

呈令刑部改纂例冊遵照辦理謹

奏

三月十六日

509 乾隆五十六年三月十六日奉

旨張陳氏與王傑通姦致伊父張起羞忿自盡該撫因係已嫁之女問擬應絞候刑部亦照擬核覆固屬照例辦理但張起之死由於伊女陳張氏與人通姦所致與子孫因姦因盜致祖父母父母憂忿自盡者情罪相同自應一律問擬絞決夫服制以已嫁未嫁分輕重尚可若闕父母之死生則不可如尋常罪犯照出嫁降服之例稍從輕減也且明刑

所以弼教父母天倫不得因已未出嫁遂有區別設使已嫁之女致死父母豈可免其凌遲概從寬典耶嗣後婦女與人通姦致父母羞忿自盡者毋論已嫁在室之女俱著問擬絞立決交刑部纂入例冊所有陳張氏一犯即著照此辦理餘依議

510 乾隆五十六年三月十八日內閣奉

上諭據伍拉納奏續獲浙江哨船案內夥盜高造等四名又閩省各案盜首林啟並夥盜陳秋等二十八名又疊次夥劫消贓之蔡溜一名俱即處斬梟示又知情買贓及誘逼雞姦之紀笑等六名分別充軍杖徒一摺已批交該部議奏矣伍拉納督率員弁嚴拏洋面盜匪前據奏報陸續拏獲洋盜共有一百一十餘名之多業經降旨將伍拉納交部議叙茲復續獲浙閩各案盜犯高造等三十餘名審明辦理該督上緊飭緝連次拏獲多犯甚屬奮勉又另摺奏拏獲臺灣脫逃征兵陳傑勇即行正法具見留心緝捕不使要犯稽誅所辦亦屬認真伍拉納著再交部議叙並賞大荷包一對小荷包二對

用昭獎勵署臬司王慶長前因緝獲盜匪多名賞給按察使銜並著加恩一併交部議叙欽此

511 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 安徽巡撫朱 乾隆五十六年三月十八日奉

上諭孫士毅等奏審擬馬玉等販賣私鹽一摺已批交該部議奏矣此案該犯等所賣私鹽多從臨興場竈戶販買全德鹿荃係專管鹽務之員各場大使皆其所轄乃並不認真整頓實力查察以致竈戶等敢於私行售賣實難辭咎今孫士毅等摺內祇請將場員及失察私販繞道潛行之都司把總一併革職而於全德鹿荃並未提及豈官廠出售私鹽專管之鹽政運司轉得置身事外耶著傳諭孫士毅等因何不將全德鹿荃奏請議處緣由即行據實覆奏將此各諭令知之欽此遵旨寄信前來

512 乾隆五十六年三月十八日奉

旨史必大李太晉孫鍾源葉芳淑俱著准其貶封該部知道摺併發欽此

513 乾隆五十六年三月十九日內閣奉

上諭江西廣信府知府員缺著張健補授所遺員缺著陳子承補授欽此

514 乾隆五十六年三月十九日內閣奉

上諭譚尚忠奏籌畫收買小錢章程一摺內稱各屬收繳小錢與其運省改鑄多糜腳費莫如於適中處所就近銷燬改鑄大錢較為便捷等語上年孫士毅奏川省地方向有攙和小錢之弊請定價收買銷燬節經降旨通諭各督撫一體收買查禁乃奉行未久江蘇江西二省仍有收藏小錢之事經長麟等嚴拏懲治可見小民趨利若鶩地方官又不認真查辦或且局錢不能如式以致奸民影射積習難除是收買小錢之例不特有名無實更恐

弊益滋弊益奸民私鑄小錢恃有官為收買之例紛紛赴局呈繳易換大錢即將所易之大錢私行銷燬復鑄小錢輾轉更換希圖獲利則官為收買不啻導奸民私銷私鑄之弊矣且官局不肖書吏或即將收買小錢復行轉售弊中生弊而小錢終無收繳淨盡之日於錢法大有關係若不正本清源即定例甚嚴亦復何益試思小民等私用小錢已干法禁令既宥其應得之罪祇令將小錢呈繳原屬格外加恩又何必將大錢給換致滋弊竇乎嗣後著督撫傳飭地方官出示曉諭再行酌量勒限令將民間所有小錢就近赴官呈繳免其治罪不必給換大錢若此次告誡之後仍復私自收藏攙雜使用一經查出即行按律懲處並將錢文入官決不再為宥貸如地方官奉行不實或官局偷漏舞弊惟該督撫及管錢局之員是問此弊各省皆所不免而雲南為尤甚富綱回任更當與譚尚忠上緊嚴查寔心整頓以清弊源毋得日久懈弛僅以查無私鑄一奏塞責自干咎戾將此通諭各省督撫知之欽此

515 乾隆五十六年三月十九日內閣奉

上諭梁肯堂奏據涿州知州宋鑿稟稱有河南淮寧縣解部發遣盜犯孫二王成張毛兎三名於二月二十九日押解到州派役李文忠王沛等會同營兵轉解前進行至竇店地方孫二假稱腹痛赴坑乘間逃逸該役等前往追趕王成張毛兎又先後兎脫現在王沛追趕未回李文忠畏罪自縊請將該知州宋鑿革職拏問等語孫二等均係免死減等盜犯沿途自應小心管解毋致疎虞乃於該犯等遞解到境竟至全行脫逃寔非尋常疎玩可比宋鑿著即革職拏問交該督提同兵役人等一併嚴審定擬具奏其在逃各犯並著飭屬迅速緝拏務獲至此等重犯過境時該督及臬司理應嚴飭文武員弁慎選兵役留心護解今該知州如此玩忽致要犯兎脫三名之多則其平日之不能整飭官方已可概見梁肯堂阿精阿及其餘該管各司均著交部嚴加議處摺併發欽此

516 乾隆五十六年三月十九日內閣奉

上諭譚尚忠奏據署寶寧縣知縣熊孔榮詳報該縣僉差解審發回斬決人犯蕭光祖一名於正月初五日夜間行至縣屬地方住宿該犯乘兵役睡熟擲斷鎖扭脫逃現在飛飭各州縣嚴密截拏請將熊孔榮及添差撥兵護解之署邱北縣縣丞樊若時彌勒汎把總羅文魁一併革職協緝等語蕭光祖係例應斬決重犯由臬司轉發首縣收禁沿途自應添派兵役逐程小心護解今於寶寧縣地方乘夜毀棄刑具脫身潛逃兵役等竟敢任意熟睡以致追尋無踪該署縣等僉派不慎疎玩已極若僅予以革職不足蔽辜熊孔榮樊若時羅文魁俱著革職拏問交該督提同押解兵役人等一併嚴審定擬具奏至譚尚忠於地方文武員弁平時不能整頓臬司賀長庚於重犯發回未能嚴飭所屬留心防範以致重囚中途竄逸亦難辭咎譚尚忠賀長庚及該管各司均著交部嚴加議處摺併發欽此

517

大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 浙江巡撫福

乾隆五十六年三月十九日奉

上諭孫士毅奏據各屬稟報拏獲海洋江面及內河  
 陸地行劫盜犯劉鶴張三等四十九名現已審明  
 各情節分別定擬一摺已交部議奏矣江省洋面  
 雖非閩廣可比但沿海一帶地方亦當留心偵緝  
 今孫士毅等分委幹員嚴密查拏緝獲多犯從嚴  
 究治可見地方官認真辦理即能獲盜如此之多  
 所有此次出力拏獲多盜之知縣縣丞一併交部  
 議覆准其送部引見以示鼓勵外其案內未獲逸  
 盜著孫士毅等嚴飭所屬四處搜捕務期弋獲以  
 淨根株現在浙省洋面盜匪出沒皆由沿海各處  
 民風剽悍地方官不能留心化導遂致相習為匪  
 犯法輕生倘或稍事姑息何以安行旅而靖盜風  
 福崧在温州地方督拏已久獲盜無多並著傳諭  
 該撫上緊緝捕飭屬嚴拏不可因日久生懈致滋  
 疎縱也將此各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

518

大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣西巡撫陳

乾隆五十六年三月十九日奉

上諭陳用敷奏阮光平奏到御批表文恩賜各件具  
 表謝恩並將表文進呈朕披覽之下具見該國王  
 語出衷誠深可嘉尚已於表內批示並將陳用敷  
 拘泥前旨令該國使臣趕回省城辦理錯誤業將  
 該撫訓飭議罪緣由用寄信諭旨詳悉諭知阮光  
 平該撫接奉後即專員賞至鎮南關交該國鎮目  
 轉送該國王閱看並著知會阮光平以天朝凡有  
 傳諭各督撫大臣事件俱用大學士遵旨寄信字  
 樣上年國王在京瞻覲祝釐大皇帝曾將寄信各  
 督撫諭旨賜令閱看國王自己諳曉今此次諭旨  
 大皇帝特令寄信頒示係屬格外優眷與內地督  
 撫大臣視同一體大皇帝之於國王不啻家人父子  
 實為從來外藩未有之榮幸如此詳悉照會該國  
 王自必倍加欣感也除將硃批表文及寄信阮光  
 平諭旨發交陳用敷就近轉交外並諭福康安知



之欽此遵

旨寄信前來

519 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安南國王阮 乾隆五十六年三月十九日奉

上諭安南國王阮光平於南旋後接奉硃批嘉獎並

御書大壽字荷包玉器等件具表恭謝情詞肫摯實皆出自衷誠披覽之餘深為欣悅已於表內硃

筆批示矣前此國王所遣進京謝恩使臣朕因其

入闕尚早程期甚寬該陪臣等毋庸急於跋涉降

旨傳諭廣西巡撫陳用敷令其知會前途緩程行

走於七月交秋涼爽前赴避暑山莊與蒙古王公

等一同宴賚此係朕特加體恤令得緩行赴都不

致途中冒暑勞頓及陳用敷接奉諭旨陪臣已過桂

林即不必再令轉回徒勞往返乃陳用敷拘泥前

旨輒令趕回省城殊屬錯謬已降旨訓飭將陳用

敷交部議罪並恐陪臣等不知原委見巡撫已令

起程忽又追回或致心生疑畏諭令陳用敷將此

事情節向陪臣詳悉告知今再將朕前後降旨飭

諭緣由一併令該國王知之表內稱有廣西撫

部阮陳字樣於陳用敷未經書名其意自屬尊重

天朝但君前臣名汝既備列藩封與督撫大員同

係臣子何有內外之分嗣後對朕之言均應直書

督撫名姓用符體制汝益當恪恭侯服勵乃忠誠

以期永膺渥眷所有硃批該國王表文仍著發交

閱看該國王接奉此諭不必另行繕表謝恩副朕

嘉惠遠藩優加體恤至意欽此遵

旨寄信前來

520 臣等遵

旨將

硃批馮光熊等摺交九卿閱看據沈初等僉稱我

皇上年逾八旬惟日孜孜彌勤

宵旰於馮光熊覆奏外國使臣入貢沿途驛站不

得例外供應又雨水糧價情形摺內稱現在乘

時出售米穀於民食商販兩無妨碍均蒙

指示周詳勉令實心經理又於鄭源璠謝

恩一摺

諭以不可始勤終怠諄諄

訓誠仰見

皇上綜理庶務鉅細靡遺凡臣工一切奏章無不仰

紆

睿念即尋常事件悉奉

丹毫垂訓勸勉警惕至再至三臣等恭閱之下實深

欽服等語謹

奏

三月二十日

521 本月十九日吏部將調任湖南巡撫浦霖保舉

堪勝知府之桂陽直隸州知州常明貴州巡撫

額勒春保舉堪勝知府之古州同知董樑二員

帶領引

見奉

旨常明董樑俱著交軍機處記名欽此

三月二十日

522 查順治年間直隸山東山西總督張元錫自刎

一案緣由具載張元錫列傳內謹將原傳進

呈謹

奏

三月二十日

523 乾隆五十六年三月二十日內閣奉

上諭朕恭閱

世祖章皇帝實錄內有直隸總督張元錫被麻勒吉呵

辱自刎之事因取國史館所纂張元錫列傳詳加

披閱內載張元錫於任直隸總督時值孫可望降

附學士麻勒吉賚

勅往迎至順德府元錫出迓麻勒吉責其失儀加以呵

辱元錫歸引佩刀自刺以家人救未絕經巡撫董

天機奏聞

命學士折庫納往究並令赴京質對元錫具陳麻勒吉

苛索凌辱情狀下九卿科道議將麻勒吉革職旋

經降級留任數月後元錫復自縊身死等語朕閱

此情節當時開國之初滿漢不無意存岐視此案自係袒護滿洲故於麻勒吉議從末減試思張元錫接見麻勒吉時若非任意需索肆行呵斥種種受辱難堪何至以總督大員遽爾輕生自刎迨赴京對鞫復未將伊屈抑之處為之申理致張元錫含冤莫雪仍復自縊麻勒吉妄作威福情罪甚大設在此時朕必當寘之重典決不稍為寬貸至張元錫服官本朝並無劣蹟雖係明季庶吉士未經授職與曾任前明清要覲顏改節者不同非但不應列入貳臣乙編並不應編列貳臣傳內乃國史館臣不加詳審輒與馮銓龔鼎孳諸人一例編輯該總裁亦不免存偏袒附和之見著飭行該館從前所辦諸臣列傳有身事本朝而在勝國時僅登科第未列仕版者均著查明改正毋庸概列貳臣以昭信史朕彰善癉惡一秉大公於偷生貪祿行同犬彘之流即身後亦不能倖邀寬假而核其事蹟實與貳臣有間者則必加以區別使薰蕕不致混淆設張元錫等地下有知當必銜感於泉壤而天下萬世知朕於滿漢諸臣一視同仁褒貶悉歸至

當益可曉然於激勸之大義也欽此

524 乾隆五十六年三月二十一日內閣奉

上諭現在兵部堂官乏人諾穆親著兼署兵部侍郎吉慶之缺金士松著兼署兵部侍郎胡高望之缺欽此

525 乾隆五十六年三月二十一日奉

旨這所奏沈邱縣知縣朱震著革職交該撫提同案內犯証嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

526 臣 阿桂等謹

奏為審擬具奏事本月初十日據熱河副都統富昌奏稱正黃旗佐領兆善因馬甲長保住犯賭板責致斃一摺奉

旨佐領兆善如果因長保住賭博板責受傷身死於伊尚屬無罪倘係平日扶有私仇故加重責斃命自當審明治罪即將佐領兆善解任並將應質人

証一併解京交軍機大臣審訊辦理等因欽此<sub>臣</sub>  
等並即遵

旨派刑部司員帶領仵作前往熱河屍所檢驗屍傷

旋據該司員等回稱驗得已死馬甲長保住年

三十二歲右臀相連右大腿重疊杖傷一片青

赤色量斜長一尺一寸上寬四寸五分下寬四

寸中間潰爛一處圍圓四寸八分深至骨餘俱

無故委係受杖身死核與驗相符並據該副都

統暨承德府飭委員弁將兆善及應質犯証屍

親分別解送前來經<sub>臣</sub>等隔別研鞫審得兆善

係熱河駐防正黃旗佐領年七十二歲本年二

月初六日一更時分有該旗馬甲長保住與民

人馬文清馬文成等在茶館內用骨牌賭錢長

保住輸錢六文尚欲再賭經該旗查街兵丁五

十九等至彼巡獲將長保住帶回稟知該協領

官德於初七日早訊明賭錢屬實即發交該佐

領責處惟時適有同旗馬甲伍什亦因另案犯

賭發交該佐領責處兆善隨至辦事公所將該

二犯訓責先將長保住細縛兩足鞭十九下因

鞭折即令馬甲瑚圖里用竹板責打二十長保  
住不認賭博兆善又令馬甲豐仲責打二十板  
兆善嫌其打輕將豐仲瑚圖里各板責五下復  
欲將長保住責打經防禦明德驍騎校富明等  
在旁代為求饒詎長保住仍以頑耍骨牌輸贏  
無幾不算犯法之言頂撞兆善因其不服管教  
又令馬甲額爾欽額責打四十板即令瑚圖里  
等將長保住扶出其伍什一犯板責四十因其  
認罪輸服即行釋放其時長保住之母張氏因  
住屋與佐領辦事公所相近聽聞伊子被責即  
從矮牆看望目擊伊子被責情形及長保住扶  
回家內詢知因賭被佐領疊責用藥調治不效  
延至十五日因傷殞命痛子情切當即呈控經  
該副都統叅奏解京訊供不諱<sub>臣</sub>等以兆善因  
長保住犯賭細過任意責打必另有挾嫌故勘  
情事復行嚴加究詰據兆善堅供實因長保住  
犯賭訓責原想他知罪改悔因其出言頂撞一  
時生氣令馬甲額爾欽額等先後杖責不料他  
就因傷殞命實無挾嫌情事即質之屍母張氏

屍妻白氏屍兄佛保住等亦僉供兆善與長保住平日並無嫌恨但長保住係犯賭細故何至疊加責斃只求伸冤等語並質之同旗兵弁明德等亦供稱兆善責打長保住實因語言頂撞氣忿重責並無挾嫌反復究詰矢口不移似無遁飾 查律載官司決人不如法因而致死者杖一百若於人臀腿受刑處依法決打邂逅致死者勿論等語查旗人犯罪例應鞭責即罪應滿杖亦止拆責四十板今佐領兆善因該管馬甲長保住犯賭輒用竹板疊責至八十餘板之多以致長保住傷重斃命實屬任意用刑有違定例未便因其傷在臀腿以下照依法決打勿論律致啟官吏任性之弊若即照決罰不如法律擬以滿杖又恐啟兵丁不遵約束之漸應將兆善擬以降二級調用不准抵銷其行杖之馬甲額爾欽額因先見瑚圖里等行杖稍輕致被該佐領責打心懷畏懼聽從重責應與在旁勸阻之防禦明德等均免置議其與長保住同賭之馬文清等應解回承德府照例辦理並將失

察賭博之文武各職名行令查明送部議處餘俱無干概行省釋所有<sub>臣</sub>等審擬緣由理合恭摺具奏伏候

皇上訓示謹

奏

乾隆五十六年三月二十一日奉

旨<sub>清字</sub>

527 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 閩浙總督伍

廣東巡撫郭 乾隆五十六年三月二十二日奉

上諭據福康安奏拏獲海洋疊劫盜犯吳士奇等三十三犯審明後即行正法又拏獲崖州拒捕案內盜犯將周元保等八犯先行正法伍維連一犯暫留質証所辦均屬認真妥協其緝捕出力之文武各員即著咨部議叙以示鼓勵又福康安另摺奏稱閩省解到盜犯鄧全等一十七名至省隔別研訊供詞各皆矛盾據鄧全等十二名供明係在閩

洋行劫之犯內有鄧全吳佑陳送梁麟四犯曾在閩省虎頭山洋面搶劫並非崖州案內正犯監提正盜關應華當堂質認各稱從未見過閩省訊供時因閩省廈門虎頭山與廣東崖州老虎頭山地名相似該犯等圖免受刑朦朧混認查兩山相距不下三千六百餘里原供開船行劫月日本屬未確拒捕情形亦未昭合該犯等甫經解到未便仍行解閩致有踈虞現飭牢固監禁錄供咨閩查詢明確即在粵省正法等語鄧全等雖非本案正盜但曾在閩洋疊次行劫即係例應斬梟之犯亦不必因供內地名不符稽顯戮閩粵洋面毗連盜船往來出沒原無定踪全在兩省文武員弁協力緝拏以靖盜風而安行旅在閩在粵自不可略存畛域之見致追拏員弁等彼此推諉轉使盜匪遠颺漏網朕以沿海地方洋盜肆劫嚴飭各該督撫上緊查拏果能實力督緝即行恩加褒叙從不肯將盜犯本籍地方官治以失察之罪致啟其諱匿之心即如浙江廣東所獲盜犯多籍隸福建之人朕並未咎及閩省轉因伍拉納獲盜較多加之甄叙該

督等惟當協力緝拏更毋庸以疆界區分稍存岐視嗣後閩粵獲有盜犯於何省拏獲即於何省正法若以供詞小有不符復解往犯事地方質訊恐長途往返接遞致有踈虞且該犯等自知罪在必死往往信口誣扳混供情節希冀反覆咨查苟延殘喘即如直隸所獲謀財害命之劉松一犯搜出邪教歌單據該犯供指係豫省高三晉省廣息傳授及遍查兩省並無其人實係劉松誣扳始將該犯正法完案福康安等拏獲盜犯惟當悉心研鞫不得任其誣扳狡展稽延時日其未獲要犯匪夥等即有逃匿安南之供自應照會阮光平於境內堵截搜拏該國王最稱恭順想能嚴飭鎮日上緊緝捕如果將匪犯獲獻自當優加恩賚也至阮光平回國後特遣家臣黃仲川齎送福康安禮物固屬該國王恭敬悃誠藉通款洽但伊職居藩服分則外夷福康安却之不受自當如此該國王接准照會知人臣無越境私交之義於天朝法制更為得體也將此傳諭福康安郭世勳並諭伍拉納知之欽此遵

旨寄信前來

528 乾隆五十六年三月二十二日內閣奉

上諭山西太原府知府員缺緊要著該撫於通省知府內揀選一員調補所遺員缺著那蘓圖補授欽此

529 查本月初十日寄信陳用敷

諭旨係由六百里加緊發往約計本月十八九日可以奉到該撫接奉後若由六百里覆奏約計於本月底四月初可以奏到謹

奏

三月二十二日

530 本月二十二日戶部三庫將解餉官安徽廬州

府同知徐嘉祿一員帶領引

見奉

旨徐嘉祿著交軍機處記名欽此

531 遵

旨將麻勒吉有無子孫之處交查該旗茲據覆稱麻勒吉現有曾孫靈保靈德二人靈保係刑部員外郎現在伊犁出差靈德係工部八品筆帖式靈保之子玉格係閒散此外並無子孫等語謹

奏

三月二十四日

532 遵查奎林等節次所奏拏獲匪犯各摺臺灣同

知內並無寔在首先出力之員茲有在閩候補知府楊紹棗曾在臺灣幫辦軍需又五十三年江蘓保舉堪勝知府發往福建現任臺灣淡水同知袁秉義二員<sub>臣</sub>等謹於擬寫

諭旨內空名並開列名單進

呈伏候

簡放謹

奏

三月二十五日

\* 福建候補知府

楊紹裘

曾在臺灣辦理軍需

臺灣淡水同知

袁秉義

保舉堪勝知府借補同知

533 乾隆五十六年三月二十五日內閣奉

上諭萬鍾傑現在丁憂福建按察使員缺著王慶長

補授楊廷理著陞授臺灣道所遺臺灣府知府員

缺著楊紹裘補授欽此

534 查定例發遣黑龍江為奴人犯如係強盜免死

減等脫逃拏獲即行正法其平常發遣人犯非

免死減等者如逃後復行兇為匪並拏獲時拒

捕犯該斬絞者改為立決犯該軍流發遣者改

為絞候犯該徒罪者遞回發遣處枷號三個月

奏

罪止笞杖者枷號兩個月俱鞭一百若逃後並無行兇為匪亦無拒捕者遞回發遣處枷號一個月鞭一百至犯二次三次脫逃者獲日審明並無為匪等情遞加枷號一個月仍給原主為奴謹

三月二十六日

535 查全德係內務府人員其應得處分吏部仍應

移交內務府辦理是以臣等於

諭旨內擬寫交該衙門議處並將寄信改寫明發

諭旨進

呈謹

奏

二月二十六日



536 大學士公阿 大學士伯和 字寄

各省督撫 乾隆五十六年三月二十六日奉

上諭姚茶奏粵浙兩省毗連江境之處堵緝私益尚易為力惟建昌府屬界連閩省之區路徑較多堵緝稍難必須於各要隘添設卡巡廣為堵截方收實效等語各省行銷官益分疆畫界各銷各地原以杜偷漏引課越境販私之弊但必須酌核遠近情形使民間食益不致舍近求遠去賤就貴方為妥善即如姚茶所奏江西建昌連界閩省該處私益多從福建販入可見建昌一府雖例食淮鹽而距淮南二千餘里離閩省邵武汀州等處不過二三百里運鹽程站較之淮南近至十倍其鹽價自必貴賤懸殊欲百姓之舍近賤而食遠貴原非正道即禁閩鹽之不入江境顯屬有名無實不知從前定例時何以不將隣閩府分就近行銷耶他如湖南之永順湖北之宜昌等府與川境毗連該處私益俱從四川運入以此類推各省多有在鹽政等各有額定引課所謂出納之吝不肯通融辦理

殊不知建昌與閩省相近永順宜昌等府與川省相近何妨改食川閩引鹽所有應徵鹽課即移在該二省輸納如此一轉移間不特便於民食即私販亦無從影射獲利其弊自可不禁而止即直隸豫東江浙閩粵山陝甘肅雲貴等省向定銷鹽地方有相離較遠之處或可改歸就近省分均勻搭配庶於民食國課兩無妨碍但此事行之既久一涉更張恐致滋擾扞格難行著傳諭各督撫酌量情形悉心核議如能不動聲色與隣省彼此確商調劑可省許多緝私之繁者並著會銜詳議具奏總不以畏難而又以不滋事為要將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

537 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江西巡撫姚 乾隆五十六年三月二十六日 奉

上諭姚茶奏拏獲臨川縣民張必發等十二犯結黨

誘賭滋事審明定擬一摺內稱張必發等藉墟會酬神為名結拜弟兄糾黨誘賭並有強當強買之事民間因其兇惡指為天罡地煞名目該犯等即以天罡為會名每借廟會飲錢打架擾害地方等語此案張必發等立會飲錢強梁滋事殊屬不法乃該撫摺內稱天罡地煞實是鄉間詬罵惡人之語為之聲叙以真化大為小甚屬非是試思天罡地煞係水滸傳奇所造名目設為誇大之詞以肆其橫行搶奪姚茶豈未之見非若川省呼匪徒為懶魯語涉詈罵者可比安得以天罡為詈罵之言曲為解免耶况該犯等既聚集多人而鄉民以天罡會指為詬罵該犯等豈肯直居其名外省地方官辦理案件往往規避處分化大為小積習相沿牢不可破即如閩省天地會改為添弟會有心隱飾即其明証姚茶曾任閩粵豈不聞知雖張必發等糾黨滋事不過意在飲錢訊無別項不法情事然該地方官有意消弭以天罡係詈罵之詞代為開脫該撫不行詳察遽爾入告轉致案情不實姚茶著傳旨嚴行申飭至此案雖非糾眾搶劫滋事但

既聚有十二人之多為首之犯亦應加重問擬絞罪方足示懲著傳諭姚茶再行提犯嚴鞫務得確情另行定擬具奏以成信讞將此諭令知之欽此

旨寄信前來

538 大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建水師提督兼臺鎮總兵奎 乾隆五十六年三月二十七日奉

上諭奎林等奏續獲結會匪徒審明定擬一摺已批交該部速議具奏矣但摺尾僅寫至恭摺具而止奏字以下應寫字樣全行脫落特用硃筆點出該提督等於此等陳奏事件何漫不經心錯誤若此豈繕寫拜發時竟全未寓目耶奎林萬鍾傑著嚴行申飭又另摺奏擊獲榜示有名逸匪陳宜徐講二犯審明正法所辦尚屬認真所有盤獲該二犯之兵役著奎林等查明酌加賞賚以示鼓勵將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

539 乾隆五十六年三月二十七日奉  
旨依議所有拏獲此案盜犯之知縣葛建楚縣丞陳  
夢蘭均著送部引見欽此

540 同日奉

旨梁森余名墜朱泰曾吳焯俱准其貶封該部知道  
摺併發欽此

541 同日奉

旨裴振准其贖罪欽此

542 乾隆五十六年三月二十七日奉

旨李才著即處斬餘依議欽此

刑部奏行劫盜犯即於黑龍江正法由

543 同日奉

旨胡老著即處斬餘依議欽此

刑部奏行劫盜犯

544 查從前廣西按察使哈精阿山西按察使明祿

審擬案件經部議駁該司等曾將府州原擬罪  
名並未錯誤之處據實自行檢舉請交部議處  
於具

奏到日當經奉

旨寬免今鄂輝所奏林偽據實檢舉之處事同一例

臣等謹遵

旨擬寫寬免

諭旨進

呈謹

奏

545 乾隆五十六年三月二十八日內閣奉

上諭鄂輝奏據署臬司林偽稟稱儀隴縣易蕭氏故  
殺夫姪易紹華一案該府縣原擬本屬絞罪該署  
司以係尊長致死行竊之卑幼改擬杖流今經部  
駁除遵照改正外理合據實檢舉自請交部議處  
等語此案原擬之府縣既係問擬絞候並無錯誤

自應免其議處至該署司林僑改擬失當固屬咎有應得但念該員據實自行檢舉並不稍存推諉尚屬得體所有林僑交部議處之處著加恩寬免欽此

546 乾隆五十六年三月二十八日奉

旨周拱係大計案內有疾休致之員部議不准捐復原屬照例辦理但該員現經病痊年力尚健非六法內浮躁不謹等項劣款可比周拱著加恩准其捐復餘依議欽此

547 乾隆五十六年三月二十八日奉

旨本日吏部帶領引見人員內有正指揮三缺王世勳即著補授正指揮一缺以示獎勵餘依議欽此

548 乾隆五十六年三月二十八日奉

旨陳月著即處斬餘依議欽此

臺灣嘉義縣謀殺人命一案

549 臣等遵

旨隨同

阿哥等詢問嵇璜可否遲至熱河

回鑾後再行具摺告休之處據嵇璜跪稱我蒙

皇上恩施優渥生成養五十六年

高厚鴻慈有加無已雖近來年力衰邁尚思黽勉供

職趨侍

闕廷稍盡犬馬戀

主之忱不敢遽求閒退實因本年二月以來不但兩

耳重聽更兼目力昏花於本內貼黃細字不能

詳晰閱看誠恐曠悞公事是以具摺懇

恩休致今蒙

皇上溫語垂詢令我自揣精力若實在難以支持

俯允於夏前回籍如尚可稍遲時日不妨俟

回鑾後再行奏請

諄諄慰諭曲體下情跪聽

恩綸不禁感深以泣惟有謹遵

聖訓俟熱河

旋蹕再行具摺奏懇等語謹

奏

三月二十八日

550

本月二十八日吏部將閩浙總督伍拉納保舉  
堪勝知府之現任福建福州府海防同知富寧  
阿又山西巡撫書麟奏請陞署大同府豐鎮理  
事同知之現任太原府理事通判穆爾薩理又  
直隸總督梁肯堂奏准陞署通州知州之借補  
按察使經歷吳翰又伍拉納咨送訪拏隣境洋  
盜多名之現任福建龍溪縣知縣秦為幹四員  
帶領引

見奉

旨富寧阿穆爾薩理吳翰秦為幹俱著交軍機處記  
名欽此

二十九日

551 乾隆五十六年三月二十九日奉

旨張士全蓋同周廷相徐志著即處斬陳二虎牙張  
三著即處絞黑虎王貴即王元等十六名私起綽  
號結盟生事索詐滋擾兇橫已極若發遣充軍轉  
恐在配所糾結匪徒復致滋事著即解送刑部在  
京城九門衢市用重枷永遠枷號以示懲儆並著  
該督等派委委員小心解送毋稍疎虞餘依議欽  
此

刑部速議江省曳刀會一摺

552 大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 直隸河南湖北湖南各督撫

乾隆五十六年三月三十日奉

上諭據陳用敷奏前此接奉諭旨已在安南陪臣等  
過省之後辦理糊塗此時自當遵旨即今起程趕  
於端陽前到京但該陪臣等業已轉回若復令其

即日起程距端陽止有四十餘日加緊並站尚恐不能如期抵京既非所以仰體軫恤深恩而行程忽速忽遲陪臣等轉生疑慮且恐趕赴不及與兩次所定宴賚之期均不能適當其時現在酌量情形不敢因前經錯謬文飾迴護仍遵前旨於七月二十日前行抵熱河等語前因安南使臣已經過省陳用敷拘沈前旨仍行趕回辦理實屬糊塗業經降旨交部嚴加議處並令該撫即行派員照料啟程於端節前到京今陳用敷以現距端節止有四十餘日恐趕赴不及仍請俟四月中旬由水路行抵武昌由武昌登陸進京約於七月二十前行至熱河此時若再令起程為期更促莫若即照所請為便該撫於此事雖顛倒錯亂於前而接到後奉諭旨計算程期不敢將錯就錯所奏尚屬可行著傳諭陳用敷仍遵初次諭旨竟令陪臣等於四月中旬緩程前進由水路行抵武昌再行登陸並著傳諭沿途各督撫不必即行預備探知該陪臣等到境飭屬妥為照料令其緩程行走於七月二十以前行抵熱河以便與外藩蒙古哈薩克等一

同宴賚也將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

553 查向來南糧抵通交足正供之外所有餘米均  
蒙

恩准旗丁等就近糶賣本日據蘇凌阿等奏南糧頭  
進幫船現已抵通交卸臣等照例擬寫

諭旨進  
呈謹  
奏

554 乾隆五十六年三月三十日內閣奉

上諭向來南糧餘米俱准在通州變賣以資食用今  
南漕現已抵通旗丁於交足正供之外所有多餘  
米石情願出售者仍著加恩准其就近於通州糶  
賣在旗丁等既所樂從而近畿地方糧米益充於  
市價民食均有裨益該部即遵諭行欽此

555 乾隆五十六年三月三十日內閣奉

上諭額勒春奏平遠州知州朱昕領運楚鉛據該員報稱在楚鎔化竟短少七萬餘觔連後幫核計共短二十萬觔查該員在局領兌時如果低潮何以並無隻字稟聞且後幫之鉛未到未鎔何以知其短少顯有情弊請將朱昕革職提解回黔嚴審究擬等語委員未昕領運楚鉛在局領兌時既無短少何以在楚鎔化忽稱短鉛七萬餘觔且將未到未鎔之鉛逆料其必有短少預留侵冒情弊居心實屬巧詐僅請革職審擬不足蔽辜知州朱昕著革職拏問交該撫嚴審定擬具奏至閱摺內該委員係於五十五年在局領運該員在途任意遲延經該撫扎催並將遲延職名開查咨部是該員領運在途無故逗遛顯有偷換舞弊情事該撫明知該員行走遲滯僅行扎催並不查明參奏究辦事已逾年經該員稟報鉛觔短少始行奏參實屬非是額勒春著傳旨申飭現在該員朱昕已據提解回黔嚴審究擬該撫務須秉公研鞠徹底查辦毋

得意存膽徇致滋寬縱干咎該部知道摺併發欽此

556 乾隆五十六年三月三十日內閣奉

上諭據穆和蘭參奏新野縣知縣陳子瑾於魏壽山店內被劫業經親往勘驗情形並不據實通詳捏報被竊請將陳子瑾革職等語知縣有緝盜安民之責本宜稽查盜匪嚴拏究辦以安良善乃該縣陳子瑾於魏壽山店舖被劫一案輒敢規避處分以盜為竊似此有心諱飾必致縱盜殃民自應將該縣嚴參治罪若僅予褫革何以肅吏治而靖閭閻陳子瑾著革職拏問至該撫於此等諱盜欺飾之員僅以參奏革職了事所辦殊屬輕縱穆和蘭著傳旨申飭該部知道摺併發欽此

557 查李蔭祖列傳內有漢陽天門潛江沔陽水災

蔭祖奏請拯卹等語與

實錄所載相符惟李蔭祖奏疏各款其列傳內未盡

叙入自係

國史館編纂時量加刪節臣等謹將

實錄夾簽並原傳粘簽一併進

呈謹

奏

三月三十日

558

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸河南湖北湖南各督撫 廣西巡撫陳

乾隆五十六年四月初一日奉

上諭前因陳用敷於安南使臣過省之後復行趕回  
辦理拘泥錯謬降旨將該撫交部嚴加議處經吏  
部議以無級可降應行革任本應即照部議革任  
昨據該撫具奏接到續奉諭旨令該陪臣等即日  
啟程於五月初到京計算程期實不能趕赴仍請  
遵照前旨於七月二十前行抵熱河是該撫雖顛  
倒錯亂於前尚不敢將錯就錯於後已將吏部議  
處本折留俟御門降旨留任但該撫於外藩陪臣  
入覲之事辦理錯誤令其徒勞往返咎實難辭難

旨寄信前來

加恩免其革任亦應將陪臣等經過各省沿途往  
回支應之費罰賠示儆著傳諭沿途各督撫將安  
南陪臣此次過境一切例給支應費用共計若干  
俱咨明陳用敷令其照數賠交不准開銷將此各  
諭令知之欽此遵

559

查鄂輝奏華陽縣匪徒陳添順惑眾不法將首  
夥要犯正法餘犯加重定擬於二月二十三日  
奏到奉

旨該部知道欽此又奉明發

諭旨以該督拏獲首夥各犯分別正法定擬所辦安  
速將原摺隨

旨發抄向來刑部議覆事件凡奉該部知道之

旨者如所擬罪名未協仍行議奏今此案問擬各犯

罪名俱係加等定擬是以毋庸

題覆即於二月二十九日行文該督欽遵

諭旨查照辦理謹

奏

四月初一日



560

大學士公阿 大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 乾隆五十六年四月初一日奉

上諭本日吏部將推陞慶陽府知府周承芳帶領引

見該員係由浙江衢州府同知論俸推陞知府朕

觀其才具平常恐不能勝知府之任著傳諭勒保

俟該員到任後留心察看如尚堪供職則可果不

能勝任即行據實奏聞毋得瞻徇將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

561

查本日引

見之知州黃彬係於乾隆五十二年在福建漳州府

知府任內因失察周思等糾匪搶劫案內部議

降調奉有諭旨令該督將該員應否暫留之處

酌量覆奏所有此案原參及吏部議覆並該督

覆奏原摺現向城內查取檔案俟取到時再行

覆

奏謹

奏

四月初一日

562

查永寧州知州黃彬前於乾隆五十二年漳州

府知府任內因所屬平和縣匪徒周思等糾眾

搶劫拒傷兵丁一案經李侍堯將疎防失察職

名咨部嚴加議處吏部議以降二級調用奉

旨黃彬應照部議降調但現在臺匪有事福建需人

著李侍堯酌量或於事完再按例降調或即於前

次發往閩省之保舉堪勝道府人員內揀員奏請

補授欽此旋經該督覆奏黃彬人屬中平事簡地

方尚堪靜鎮而漳州繁劇之地實非所宜請將

發閩差委之知州李華國陞授漳州府缺奉

旨著照所請行欽此該員即降調離任今選得貴州

永寧州缺謹

奏

初二日

563 乾隆五十六年四月初二日內閣奉

上諭本日召見大理寺少卿富爾遜年邁耳聾高聲詢問竟無所聞奏對舛誤斷難勝京堂之任富爾遜著即以原品休致欽此

564 乾隆五十六年四月初二日奉

旨常老五著即處絞常永吉依擬應絞著監候秋後處決餘依議欽此

刑部議覆河南盧氏縣奪犯毆差一案

565 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年四月初三日奉

上諭梁肯堂奏據大名縣李崇等稟報已將涿州逃解到部發遣在途脫逃之孫二一犯拏獲押解赴省嚴鞫等語孫二等係解部發遣盜犯膽敢在途脫逃情殊可惡今既將孫二一犯在大名地方拏獲即應解部審辦何必停留保定審訊致稽時日

著傳諭梁肯堂如該犯業經解到保定審訊後即行解部若此時尚未過省著派委妥幹員役逕行迅速解部再行研審勿任遲延疎脫至在涿州同時脫逃之王成張毛兒二犯尚未弋獲並著飭屬上緊嚴拏務獲毋使漏網稽誅將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

566 查孫二王成張毛兒三犯係河南省免死減等

盜犯解部定地發遣在涿州同時脫逃已奉

旨將該州知州革職拏問今據梁肯堂奏將孫二一

犯在大名縣地方拏獲現在解省嚴訊查大名

至京路程必須經由保定今該督令其解省審

訊臣等謹遵

旨擬寫寄信梁肯堂

諭旨令將現獲之遣犯孫二解京交刑部審辦謹奏

567

查成德奏金川勝因寺喇嘛擢爾吉噶竹諾爾  
布請照廣法寺喇嘛羅卜藏札木揚之例永遠  
住持一摺臣等詢問札克塔爾據稱廣法寺喇  
嘛羅卜藏札木揚係奉

旨由京派往總管大小金川各處黃教勝因寺亦其  
所轄至勝因寺喇嘛擢爾吉噶竹諾爾布即係  
金川本地喇嘛並非

簡派前往等語臣等查明於明日面奏請

旨謹

奏

568 乾隆五十六年四月初四日奉

旨此案著交孫士毅秉公查審具奏原告董培著即  
照例解往欽此

569 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 乾隆五十六年四月初四日奉

上諭刑部奏安徽涇縣監生董一棟之弟董培呈控

湯考等刦捨棧木糾眾拆屋釀成人命出銀賄和  
一案朕詳閱情節此案業據該撫審明題結今復  
據董一棟遣弟赴京控告所控起釁互毆各斃人  
命緣由均與原題相符惟呈內所稱刦捨棧木糾  
眾數百人持械爭毆及縣書婪贓舞弊湯姓出銀  
賄和俱屬原題內未有之情節是否該犯捏詞聳  
聽抑或承審之員刪減案情急存聞脫自應徹底  
究訊至董一棟在湯姓墳前八十步蓋造房屋恐  
礙風水經湯考聞知控縣禁阻董姓並不聽候審  
斷即行建造固屬不合而湯考不俟官斷輒復持  
械糾眾捨木拆屋以致各斃人命亦屬恃強滋事  
著將董培解往交孫士毅弔查原案秉公審訊據  
實具奏孫士毅非此案原辦之人自無所用其迴  
護也刑部原奏及董培原呈并著發交孫士毅閱  
看欽此遵

旨寄信前來

570 乾隆五十六年四月初四日內閣奉

上諭江西南昌府知府員缺緊要著該撫於通省知府內揀選一員調補所遺員缺著富寧阿補授其所遺員缺著秦為幹補授欽此

571 本月初四日吏部將雲貴總督富綱保舉堪勝

知府之永北直隸廳同知法克晉帶領引

見奉

旨法克晉著交軍機處記名欽此

四月初五日

572 查原署鳳陽縣知縣沈寧仁名下核減辦賑濫

用銀一萬五千六百七十三兩二錢前經巡撫

陳用敷奏明請於並不慎選委員承辦之各上

司薩載閏鶚元農起基厚福保五人名下各賠

一分共銀七萬八千三百六十六兩其後任並

不早行查辦之各上司楊魁等十二員再行分

賠一分二共應賠銀九萬四千三十九兩二錢

共繳過銀一萬七千二百十四兩零未完銀七萬六千八百十六兩零今將各員名下已未完銀數清單進

呈謹 奏

四月初五日

本案各上司各賠一分每員應完銀一萬五千

六百七十三兩二錢

前任兩江總督薩載

有另案應繳銀兩未據完交

前任安徽巡撫閏鶚元

業經查抄家產未據完交

前任安徽布政使農起

繳過銀三千兩尚未完銀一萬二千六百七

十三兩二錢

前任廬鳳道基厚

繳過銀五千二百二十四兩四錢尚未完銀

一萬四百四十八兩八錢

前任鳳陽府知府福保

繳過銀五百兩尚未完銀一萬五千一百七

十三兩二錢昨奉

旨再令賠繳銀二千六百七十兩餘著寬免

歷任各上司合賠一分共銀一萬五千六百七

十三兩二錢

原署兩江總督楊魁 已完

原署兩江總督陳輝祖

業經查抄家產未據完交

前署兩江總督李奉翰 已完

前署兩江總督李世傑 已完

前任安徽巡撫譚尚忠 已完

前任安徽巡撫富躬 已完

前任安徽布政使奇豐額 已完

前任安徽巡撫書麟 已完

原署安徽布政使袁鑒 已完

前任安徽布政使福川

現有另案應繳銀兩未據完交

前任安徽布政使劉戡 已完

前任安徽布政使國棟

五十四年七月內奉

旨寬免

前任廬鳳道署布政使王懿德

有另案應繳銀兩未據完交

原署安徽布政使劉樽 已完

前署安徽布政使福寧 已完

前任安徽布政使陳步瀛 已完

前任鳳陽府知府護廬鳳道臧榮青

繳過銀四百二十四兩二錢零尚未完銀一

千二百七十二兩八錢零

前任鳳陽府知府護廬鳳道喬人傑 已完

前署廬鳳道錢金殿 已完

前任廬鳳道永福

在於伊子筆帖式阿爾琿阿名下交納未據

完繳

前任鳳陽府知府江恂 已完

前署鳳陽府知府鄭文泰 已完

辦理軍機處為劄諭事竊照乾隆五十四年四

月內前任安徽巡撫陳用敷審擬原署鳳陽縣

知縣沈寧仁濫用銀兩一案所有核減銀一萬

五千餘兩請在本案及歷任上司名下分別賠

交經部議准行知各員在案查該

完銀二千二百一十六兩九錢已屆二年未據

完交現在奉

旨以該員係內務府人員現任藩司何得托故稽延持

此劄催即行按數清交毋得再遲干咎並將何

日於何處交完申覆軍機處暨戶部查照無庸

專摺具奏須至劄諭者

右劄湖南布政使王懿德准此

乾隆五十六年四月初五日

574 乾隆五十六年四月初五日內閣奉

上諭前年因叅革府經沈寧仁署理鳳陽縣任內辦

理災賑核減銀至一萬餘兩之多顯有侵冒情弊

交前任巡撫陳用敷查辦嗣據該撫審明稱係多

帶夫役濫用多費委無捏飾侵吞之事將沈寧仁

發往伊犁充當苦差並將各前任失察官分別著

賠業經照擬完案朕思沈寧仁以微員署理縣篆

經營賑務浮開銀兩該省自行核減至一萬餘兩

其為藉端侵冒情弊顯然陳用敷查審此案僅稱

該員所派人役過多復延時日致例外多有糜費

並未將濫領冒銷之弊查出問擬發遣已屬從輕

辦理業已久定朕亦不加深究矣今因該旗查辦

著賠之人有因濫賑核減之一語偶觀之不勝微

惕朕自臨御以來迄今五十餘年勤求保赤補助

多方每遇偏災無不預籌蠲貸偶值旱潦災侵不

惜千百萬帑金優加賑卹並每諄諭封疆大吏寧

濫無遺不得稍存靳惜務使部屋窮簷胥沾實惠

此天下臣民所共知共見者也因濫賑而治罪者

為誰沈寧仁承辦賑務果能毫無欺隱惠及閭閻  
即使多費帑金尚當加之獎擢茲核減過多乃因  
其違例私用但非侵冒入已故從輕辦理耳若侵  
冒入已必當正法豈祇發遣者賠乎今軍機大臣  
及該旗部所辦不周竟稱因災賑核減此語雖小  
不用心之誤寫實大有關係朕不肯受亦不忍受  
也使天下後世謂因多賑核減治人之罪則朕為  
何如主且此素正賑加賑帑項就鳳陽一邑而論  
已費銀二十餘萬兩豈於此萬餘金而轉有所吝  
命核減之理此案乃沈寧仁浮開銀數為家人胥  
吏從中侵冒所致是以將伊治罪特無入已之贓  
故未正法耳並非於災賑帑銀嫌其多費也若如  
軍機大臣及旗部所稱因災賑核減則以後各省  
凡遇災傷地方官必預存恐因賑核減之心以致  
撫卹不周災民失所其弊尚可問乎無知狂徒正  
可妄言謂朕為吝賑不愛百姓矣故此語失之事  
雖小而所關者大不得不費辭此諭著通行各省  
大小衙門各書一通永遠示警知朕愛民不惜費  
也欽此

575 臣等遵

旨將

硃筆改定

諭旨交嵇璜等閱看據稱沈寧仁違例濫用浮開雜  
費銀數係為家人胥吏從中侵冒所致自應按  
例治罪並非因濫賑多費核減銀兩過多將伊  
發遣茲因查辦著賠之人軍機大臣及旗部有  
濫賑核減一語欽奉

諭旨以此語雖小不用心之誤寫實大有關係恐嗣  
後各省適遇災傷地方官必預存恐因賑核減  
之心撫卹不周災民失所

天語煌煌軫惜民生無微不至

親御丹毫將五十餘年

勤求保赤

諄諭封疆大吏於辦理賑務寧濫無遺之處

愷切訓示凡天下臣民身被

恩施淪肌浹髓不特不能妄生議論亦不忍妄生議

論臣等恭閱之下仰見我

皇上愛民不惜費之實心無時或釋實深儆惕欽佩

等語謹

奏

四月初六日

576

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年

四月初六日奉

上諭梁肯堂奏拏獲解部發遣盜犯孫二審明正法及官兵役人等分別定擬一摺已批該部議奏矣孫二係免死減等盜犯胆敢在途脫逃情殊可惡今梁肯堂飭屬拏獲後即將該犯正法所辦尚是至摺內又稱同孫二脫逃之王成一犯現經河南內黃縣拏獲解省審辦等語王成亦係免死減等盜犯一經拏獲例應即行正法著傳諭穆和蘭不必將該犯解部審明後即在該省正法至未獲之張毛兒一犯著梁肯堂飭屬嚴拏務獲毋使漏網稽誅又該州解役王沛沿途既不能小心管解致重犯三名同時脫逃茲復畏罪潛逃甚屬可惡

二二六

並著該督一併飭拏從重處治其拏獲孫二王成二犯之兵役人等著梁肯堂穆和蘭查明量加獎賞以示鼓勵將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

577

乾隆五十六年四月初六日內閣奉

上諭梁肯堂奏宣化鎮總兵愛星阿現患痰疾驟難痊愈懇請解任等語愛星阿著准其解任回旗調理所有直隸宣化鎮總兵員缺著扎爾杭阿補授欽此

578

大學士公阿 大學士伯和 字寄

各省督撫 乾隆五十六年四月初七日奉

上諭本日譚尚忠覆奏查辦小錢一摺內稱欲禁小錢宜嚴私鑄現在飭屬訪獲私鑄匪犯提省審辦等語民間攬和小錢節經降旨令各督撫嚴定章程通行禁止並恐官局偷漏舞弊飭令該督撫等嚴查整飭矣今譚尚忠奏稱欲禁小錢宜嚴私鑄不知民間私鑄得以攬雜流行者皆由局錢不能



一律整厚奸徒得以乘機影射不得以小錢未能  
淨絕悉諉之民間私鑄也今欲肅清積弊必先嚴  
飭局員將官鑄按照部式分兩毋得稍有偷減則  
局錢輪廓整厚與私鑄小錢迥別奸民自無所用  
其弊混方為正本清源之道此時富綱想已將次  
回滇著傳諭該督撫一面飭屬查拏私鑄勒限呈  
繳一面飭令局員如式鼓鑄嚴查爐戶毋使稍滋  
弊竇致干咎戾並傳知各省督撫胥令留心官局  
以正其本欽此遵

旨寄信前來

579 乾隆五十六年四月初七日内閣奉

上諭伍拉納奏緝獲行劫錦州等洋面首夥各盜犯  
審明辦理一摺已批交該部矣此案盜犯黃如玉  
等二十餘名出洋壺劫延及數省搶獲多贓情罪  
甚為重大經該督飭屬辦拏據總兵丁朝雄糧道  
錢受椿購線訪獲將該犯等究出洋面行劫實情  
得以按律定擬該鎮道留心緝捕不使要犯稽誅  
尚屬可嘉除該督伍拉納及臬司王慶長業經加

恩議叙陞用外丁朝雄錢受椿俱著交部議叙以  
示獎勵欽此

580 乾隆五十六年四月初七日内閣奉

上諭福康安奏接准陳用敦咨送會奏稿內有容縣  
民謝綬田寮被劫牛物及雲南曲江司巡檢徐振  
家人林茂船在橫州被劫銀物二案正盜均未  
獲其事主被劫贓物俱已飭令該州縣照估罰賠  
給領查贓從盜起以未經被獲之案先令州縣罰  
賠贖銀其中實有窒礙難行之處不敢以業經會  
銜具奏遂即不加酌核致滋流弊業將東省現辦  
情形備細劄知陳用敦通飭遵照等語所奏甚是  
前經降旨各省盜案如原贓未能起獲即著該管  
地方官罰賠原以盜匪劫掠財物擾害閭閻該管  
官於緝獲正盜後即應審明贓數嚴切查追令原  
贓不難起獲即使變賣俵分亦不至花消淨盡無  
如州縣官一經獲盜往往延擱不審或雖經審定  
而置原贓於不問是以飭令嗣後盜案原贓未能  
起獲即著該地方官罰賠以示懲儆但盜憑贓定

而賊從盜起必須盜確賊真方可據以定案若正盜尚未被獲先令州縣賠出賊銀將來州縣規避罰賠必有抑勒事主諱盜及刪減賊數情弊而狡獪事主因有官為賠賊預行浮報賊數圖得便宜均屬勢所不免嗣後各督撫惟應通飭所屬遇有盜案即行嚴緝正盜審明賊數查追給主如已經獲盜而原賊未能起獲仍遵前旨著該管官罰賠示懲其正犯尚未緝獲賊數無從審明者俱照福康安所奏辦理福康安摺併發欽此

581 大學士公阿 大學士伯和 字寄

奉天將軍嵩 奉天府尹宜 榮 調任錦州

副都統台 乾隆五十六年四月初七日奉

上諭前因奉天錦州等處洋面行劫盜匪多係籍隸福建當經降旨令該省督撫飭屬嚴拏茲據伍拉納奏緝獲行劫錦州等各洋首夥盜犯二十二名已審明正法矣奉天為陪都根本之地民風淳厚從無為匪劫掠之事是以奉天錦州一帶海洋往來商賈並未聞有被盜疊劫重案乃此次盜犯黃

如玉等糾約多人在錦州蓋州等處洋面肆行劫掠多次所得賊銀至三千兩其餘貨物甚多實為該處商旅之害該盜犯等俱係籍隸福建必有閩省民人在錦州蓋州一帶為之串通勾引不可不嚴行查辦以靖洋面而戢盜風朕聞奉天錦州一帶沿海地方竟有閩人在彼搭蔡居住漸成村落多至萬餘戶則此次錦州盜案明係此等無業民人作為線目並恐有窩藏隱匿之家以致該犯等敢於在洋肆劫登岸分贓此皆係地方官以閩人在彼貿易營生藉此多徵商稅遂爾任其居住若不亟行查禁則呼朋引類日聚日多不特勾連盜匪擾害行旅且於陪都風俗淳樸之鄉大有關係但閩人在彼住居已非一日且戶口較多亦未便概行驅逐以致激成事端惟有嚴飭該管旗民員弁編列戶口清冊設立保甲逐一清釐隨時查察如有不法滋事勾引盜匪在洋搶劫及窩留代變贓物者即將犯事之家從重處治保甲等亦一體治罪並查明實在戶口造冊後毋許再有加增其有

遷移回閩者即於冊內開除務使有減無增庶可漸次禁絕然必須不動聲色設法查辦方為妥善嵩椿為人踈濶辦事未能精細積拉敏係新授錦州副都統於該處情形亦未能熟諳因思台斐音在山海關副都統任內訪拏玉田縣逃回匪犯田自相一案並節次查獲私帶人參等犯辦事甚屬認真細緻已明降諭旨與積拉敏對調矣海蓋廣寧及牛庄等處沿海地方皆係奉天錦州所屬恐皆有閩人居住此事竟責成台斐音遵照諭旨指示之處嚴密設法查辦並著嵩椿及奉天府尹一體留心幫同整飭總以不滋事而絕盜源使閩人不致在彼聚集為匪日漸減少為要復令軍機大臣詢問前任山海關監督巴寧阿據稱錦州蓋州牛庄等處每年俱有福建商船到彼貿易即有無業閩人在該處居住漸聚漸多或有借打魚為名往來洋面勾通閩盜之處亦未可定等語可見此等寄居貧民與閩盜俱係同鄉彼此聯絡上年錦州等處洋面商船被劫一案該將軍等拏獲李佩等犯即有閩省民人流寓奉省者在內此其明証台

斐音赴任後務須會同嵩椿等密訪嚴查為之以漸不可稍涉聲張轉致閩人等激而生事有負委任台斐音向來辦事奮勉今又委以海洋緝捕之事並著加恩賞戴花翎以示鼓勵將此傳諭台斐音並諭嵩椿等知之仍著將如何設法查辦之處據實悉心妥議具奏所有詢問巴寧阿奏片並著發交閱看欽此遵

旨寄信前來

582 乾隆五十六年四月初七日奉

旨這所叅怠玩閩冗束役不嚴之曲江縣知縣熊聖清著革職該部知道摺併發欽此

583 乾隆五十六年四月初七日奉

旨趙攀龍莫淇劉維馨俱准其貶封該部知道摺併發欽此

584 同日奉

旨譚掄吳昂俱准其馳封該部知道摺併發欽此

585 同日奉

旨謝恩詔譚綸邦楊標鍾光耀俱准其馳封該部知道摺併發欽此

586 遵

旨將奉天錦州沿海一帶地方居住閩人共有若干戶是否為匪滋事詢問巴寧阿據稱我於五十年在山海關收稅錦州蓋州牛庄等處海口每年俱有福建商船到彼貿易即有無業閩人在該處搭寮居住或為閩商買賣經紀或以打魚採藥為業以致漸聚漸多不能約計數目我在監督任內雖未聞有該處居住閩人在洋劫掠滋事但此等寄居貧民借打魚為名往來洋面或有勾通閩盜窩藏為匪之處亦未可定等語謹

奏

587 乾隆五十六年四月初九日內閣奉

上諭吳省欽奏現在染患痰嗽之症精神委頓非一時所能痊愈懇請賞假兩月回京調理等語吳省欽著准其給假回京調理所有提督順天學政者吳省蘭去並著即日前赴通州接印任事不必請訓欽此

588 同日奉

旨恩福三連色廖輝周琦韓文秀嵩舒王應鳳汪連棟李春張朝林劉應科李永陞周斌張成金玉俱准其馳封該部知道摺併發欽此

589 同日奉

旨韓勝莊劉張俊張剛劉志剛俱准其馳封該部知道摺併發欽此

590 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安徽巡撫朱 乾隆五十六年四月初九日奉

上諭秦潮奏考試情形一摺內稱鳳臺縣招覆第一卷童生見其人甚粗鄙神色可疑當經另桌給卷留心察看該童生匆匆納卷文理淺塞與正場原卷相去懸殊豈可聽其僥倖冒進等語歲科兩試所取諸生為士子進身之階豈容稍有假借局試時自應稽察嚴密方可杜代倩傳遞之弊今取進鳳臺縣第一卷童生尤非後列可比乃覆試時文理潦草與正場原卷迥不相符如出兩手其中必有代倩傳遞等弊不可不嚴加跟究以杜僥倖而拔真才該學政摺內未將審明如何作弊之處詳細聲叙殊欠明晰此案著交與朱珪就近提犯訊明作弊緣由即行審擬具奏將此傳諭朱珪并諭秦潮知之欽此遵

旨寄信前來

591 本日安徽學政秦潮摺內所稱招覆鳳臺縣第

一卷童生文理淺塞與正場原卷不符豈可聽其僥倖冒進等語臣等查該童生即係秦潮自行取進於覆試時看出文字潦草並非前任學政考取之卷但摺內未將審明如何作弊之處詳細聲叙殊未明晰臣等謹擬寫令朱珪提業審訊

諭旨進

呈謹  
奏

592 交吏部查照向例即將乾隆五十五年分各省

承緝督緝已未獲盜竊各案各員文職自督撫以至州縣某省督緝應罰俸者若干員承緝應罰俸者若干員某員應罰俸若干員承緝應罰俸者若干員某員應罰俸若干員共有若干案之處逐一明晰各案省分款項開寫清單限五日內彙送漢軍機處以憑核辦彙奏此項分造清單

貴部向已辦有章程即遵照趕繕查送毋稍遺漏舛錯亦毋再遲緩此交

\*

交兵二部將乾隆五十五年各省甄別教職佐雜千總是否有不及百之二三應行議處之業並彙奏月日是否有遲延應行議處之省分詳晰查明開單速送本處以憑辦理彙奏毋遲交兵部查照向例即將乾隆五十五年分各省承緝督緝已未獲盜竊各業各員自提鎮以至千把外委某省督緝應罰俸者若干員承緝罰俸者若干員某員應罰俸若干共有若干業之處逐一分晰各按省分款項開寫清單限五日內彙送漢軍機處以憑核辦彙奏此項分造清單

貴部向已辦有章程即遵照趕繕查送毋稍遺漏舛錯亦毋再遲緩此交

\*

交戶部即將乾隆五十五年分各省彙奏倉庫錢糧有無虧挪等款并現在奏請展限者共幾

省及其奏是否有遲延省分逐一開單速送本處以憑核辦彙奏其各省彙奏民數及銀號無弊等款亦按照向例查明有無違例違限之處逐款詳查開列清單覆知無遲

交刑部即將乾隆五十五年各省彙奏通緝逃遣及新疆改發內地接遞人犯有無脫逃及拏獲尋常案犯功過等款各按省分逐款開單送漢軍機處以憑核辦彙奏至各省已未獲盜竊應行議處之大小文武各員雖事隸吏兵二部但現在

貴部按照新例已經會同彙題者共有幾省未經彙題者共有幾省抑或各省俱已題竣之處亦即逐一查明開單彙送本處以憑辦理毋遲交工部即將乾隆五十五年分各省城垣保固業內是否有上年急修之工次年未經奏報應行照例議處之業查明覆知並各省彙奏節省應修船隻估變物料等款列入彙奏者有無違限違例之處一併查明開單速送軍機處以憑

核辦彙奏毋違

四月初十日

593 本年二月二十九日兩江總督孫士毅等奏請

將江陰縣知縣梁蘭生調補句容縣知縣一摺  
奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此茲據吏部照例

議駁謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

乾隆五十六年四月初十日奉

旨梁蘭生著照該督等所請行欽此

樂縣監犯越獄脫逃一案部議降一級調用經

李侍堯專摺奏請改為革職留任八年無過方  
准開復奉

硃批著照所請行欽此五十四年又因餉鞘被竊該

縣李景觀匿報賠補未經查叅部議降一級調  
用任內有革職留任無級可降相應革任奉

旨著該督撫出具考語送部引見再降諭旨欽此該

員因留辦軍需於上年九月始行來京引

見奉

旨仍發往福建以道員用謹

奏

595 乾隆五十六年四月十一日內閣奉

上諭福建按察使員缺著戚蓼生補授欽此

594 查福建候補道戚蓼生曾任雲南學政並未任

雲南道府該員係由戶部郎中截取推陞江西

南康府知府於乾隆四十七年奉

旨補授福建鹽法道五十三年著按察使任內因長

596 乾隆五十六年四月十一日內閣奉

上諭梁肯堂奏理事同知通判不敷委用請揀選理

事同知通判四員以資差委等語著照所請交該  
部即將記名人員於十三日帶領引見發往欽此

597 乾隆五十六年四月十一日内閣奉

上諭鄂輝奏進征巴勒布中途撤回屯土弁兵支給  
俸賞行裝銀兩經部議覆准銷七分其刪減三分  
銀兩按名追繳本應遵照扣還惟是屯土弁兵此  
次中途撤回因彼時無需多兵並非軟弱無用請  
將應追三成行裝俸賞銀七百三十八兩免其扣  
還等語屯土弁兵等屢次調派出師甚屬奮勇出  
力此次進征巴勒布該番等遠從征調因將次歲  
事始於中道撤回已領之項自毋庸復行追繳鄂  
輝並不拘泥部駁懇請免追所奏甚是著即照該  
督等所請將應繳三成行裝俸賞銀七百三十八  
兩加恩全行賞給免其扣還以示體恤摺併發欽  
此

598 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督孫 江蘇巡撫長 乾隆五十六年  
四月十二日奉

上諭據孫士毅等參奏太倉州直隸州知州西琳日

二四四

耽翹襲批審案件並不隨時審辦請將西琳革職  
以肅吏治等語直隸州知州為親民之官有督率  
屬員之責太倉係沿海要缺豈宜怠玩若此西琳  
身為滿洲出膺民社尤不應沉擱案件嗜飲誤公  
該員在任年久恐有別項劣蹟其咎不止於革職  
尚當照例治罪著傳諭孫士毅等即行詳悉查明  
西琳任內若僅耽酒誤事革職已足蔽辜若別有  
營私款蹟即行據實參奏俟覆奏到日再降諭旨  
將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

599 乾隆五十六年四月十二日内閣奉

上諭據孫士毅等奏江蘇省分發候補知縣及大挑  
試用人員俱經陸續補用遇有公事不敷差委請  
揀發知縣八員以資委用等語著照所請派彭元  
瑞福長安舒常瑪典阿會同該部於丁憂起復病  
痊降調各班候補人員內揀選八員帶領引見發  
往該省委用欽此



600 乾隆五十六年四月十二日内閣奉

上諭馮鼎高著照該督等所請調補蘇州府知府李  
克棟調補江寧府知府所遺常州府知府員缺著  
巴哈布補授其所遺員缺著王績著補授欽此

601 本年三月初九日兩廣總督福康安等奏請將

淡水場大使漆滬美陞補感恩縣知縣一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

照例議駁於本日具

題臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

乾隆五十六年四月十二日奉

旨漆滬美著照該督等所請行欽此

602 本年三月十八日兩江總督孫士毅奏請將帶

往江南清釐積業應陞四川石碛同知之仁壽  
縣知縣姚令儀給咨送部引

見一摺奉

硃批覽欽此又奉

旨俟引見時提奏欽此今據吏部知會該員於本日

帶領引

見臣等謹遵

旨提奏並將原摺抄錄進

呈謹

奏

四月十三日

603 乾隆五十六年四月十四日内閣奉

上諭甘肅安西協副將員缺著德成額署理俟服闋  
後再行實授欽此

604 乾隆五十六年四月十五日奉

旨畢繼曾史廷棟俱著准其貶封該部知道摺併發  
欽此

605 乾隆五十六年四月十七日奉

旨王汝璧著照該督所請准其署理直隸宣化府同  
知該部知道摺併發欽此

606 同日奉

旨這所叅理事通判管理朝陽縣知縣白琳著革職  
前任承德府知府慶章著交部議處該部知道摺  
併發欽此

607 查奎林等奏王謁等霸佔魚塢外海坪檀禁莊

民採捕一業緣黃田等以該處海坪係歸公採  
捕前往檢拾螞蚱王謁喝眾攆逐黃兒將黃田  
用刀砍傷斃命黃歲黃甘黃岩黃治將王寵李  
蘭黃成毆傷查喝眾攆逐之王謁毆斃黃田之

黃兒及幫毆之黃歲等現俱在逃未獲其已獲  
之黃治一犯係在場隨眾趕毆砍傷黃成腿肚  
並未斃命該提督等從重比照械鬪辦理又以  
械鬪為從之例問擬發遣尚不足蔽辜將黃治  
再從重照光棍為從例絞監候而摺內將光棍  
為首擬斬立決之例一併牽連叙入殊未明晰  
臣等於擬寫  
諭旨內將奎林申飭並令將業內要犯王謁黃兒等  
嚴拏務獲從重定擬謹  
奏

四月十八日

608 大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 福建水師提督

奎 乾隆五十六年四月十八日奉

上諭據奎林等奏拏獲偷渡舵水客民一業內稱蔡  
牙聽從王金山偷渡過臺將已故陳次之舊置商  
船一隻裝載客貨托陳次之姪陳鼎為管船出海  
駛近臺灣將船停泊僻靜處所另僱小船二隻裝

貨上岸被汛口盤獲陳鼎等聞知將原船駕逃等語客民私渡臺灣例干嚴禁王金山起意偷渡包攬客民陳鼎等聽從駕駛過臺聞知汛口查拏又復駕船逃走均屬不法未便任其遠颺漏網著傳諭奎林留心偵緝並著伍拉納等於沿海地方及各該犯原籍上緊查拏務獲嚴行審辦速奏再另摺王謁等霸佔採捕黃兒毆斃黃田一案將隨衆毆傷黃成之黃治一犯從重照光棍為從例問擬絞候而摺內復將光棍為首擬斬立決之例牽連叙入殊未明晰奎林著傳旨申飭仍將業內在逃要犯王謁黃兒等嚴拏務獲從重定擬具奏欽此

旨寄信前來

609 乾隆五十六年四月十九日奉

旨馮七于二孫老兒胡二焦大羅二俱著即處斬餘依議欽此

步軍統領衙門拏獲糾

夥疊劫一案

610 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安徽巡撫朱 乾隆五十六年四月二十日奉  
上諭前據朱珪奏二月分糧價單內所開各屬價值皆係價中與上月相同字樣竟成印板文章經朕降旨申飭茲朱珪奏到三月分糧價單惟鳳陽府屬之中糙米小麥較上月稍增其餘十二屬俱仍開與上月相同該省米糧價值豈能一律相等而各屬每月時價亦不應絕無增減朱珪前此奏報糧價既率據屬員稟報並不確切查明遽行入告而此次所開三月分各屬糧價又復依樣葫蘆仍視前奏報具文可見該撫僅係讀書之人於地方事務不能留心查核豈不知朕屢念民依無時稍釋之意耶著再傳旨申飭欽此遵

旨寄信前來

611 大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年四月二十日奉  
上諭據金簡奏黎維初於上年冬間聽信伊屬下黃

益曉等唆使頓萌去志稟請於安南之高平諒山宣光興化四處酌給一處安插曉曉潰擾屢飭不悛請將教唆黎維祁之黃曉益等分別發遣以示懲儆一摺已降旨分別辦理並將此事詳悉告知阮光平所有寄信諭旨一道及端陽節賞給該國王各物件該撫接奉後即派員齎至鎮南關交該國鎮目轉送該國王接收將此諭令陳用敷並諭福康安知之欽此遵

旨寄信前來

612 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安南國王阮 乾隆五十六年四月二十日奉

上諭前因黎維祁投回內地特令帶領屬下人等來京歸入鑲黃旗漢軍旗下授為佐領賞給錢糧俾免失所伊自到京數月以來尚知安分上年冬間忽向該管都統金簡懇請仍回安南並請於安南之高平諒山宣光興化四處內酌給一處安插愚妄無知莫此為甚茲據都統金簡奏稱黎維祁庸懦無能聽信黃益曉范如松阮國棟黎忻等教唆

是以妄行瀆請而黎光睿等二十名不領餉銀隨同告歸亦屬生事請將黃益曉等四名分別發往伊犁等處當兵食糧黎光睿等二十名分發江寧等處安插等語黎維祁自到京以來入旗受職思加養贍乃敢聽信黃益曉等之言瀆請回國自應將教唆之人加以懲治已令將黃益曉等四名發往伊犁等處入伍當兵祇准支食一半錢糧黎光睿等二十名不必發遣外省即著發往熱河地方安插著將辦理情形諭令該國王知悉並將硃批金簡原摺發給閱看至黎維祁弟妹妻妾及伊從人眷屬等尚在安南未經帶出前經降旨令阮光平查訪送出俾得有家室完聚朕格外之恩今黎維祁等如此不安本分不能承受朕恩竟不必將伊等眷口查送况黎維祁等進關以後迄今已及兩載婦女老弱經兵燹流離之後亦恐難於尋訪著傳諭該國王若此時業已訪得仍可遣送進關倘現在尚無消息竟可毋庸查訪矣現屆天中令節該國王迎禧集慶諸事吉祥因思上年端節正值該國王入覲在途曾馳賜節賞一分今遠隔關

廷朕心深為厯注著照上年之例加恩賞給庫紗  
葛紗牙扇蕉扇十錦扇芙蓉巾香器藥錠等物並奶餅  
一匣隨旨發往用昭優眷將此諭令知之不必遣  
人謝恩欽此遵

旨寄信前來

613 賞給安南國王阮光平物件單

- 大卷紗四疋
- 兼絲葛四疋
- 十錦扇一匣
- 芭蕉扇一柄
- 象牙扇一柄
- 香袋一匣
- 小香袋八個
- 香餅一包
- 香珠一匣
- 線絡香念珠一串
- 甜香手珠一匣
- 扇器二十個
- 各色藥錠一分
- 芙蓉手巾二條
- 奶餅一匣

614 乾隆五十六年四月二十日奉

旨李倌金潤李鳳丹俱著准其貶封該部知道摺併  
發欽此

615

查山西巡撫馮光熊及藩司鄭源璠臬司顧長  
紱均係漢人應與兩司內與滿洲人員對調謹  
將旗員較多省分開列名單進

呈伏候

簡調謹

奏

四月二十日

\*

河南省

巡撫穆和蘭

布政使景安

按察使吳璣

江蘇省

巡撫長麟

布政使奇豐額

按察使陳奉茲

四川省

總督鄂輝

布政使英善

按察使聞嘉言

貴州省

巡撫額勒春

布政使汪新

按察使萬寧

616 遵

旨將缺雨減刑舊例交查刑部係乾隆五十三年刑

部遵照

諭旨將徒罪以下情節較輕之犯分別減等發落其

因事牽涉拘繫者即行訊明省釋迅速完案臣

等謹照所查舊例擬寫

諭旨進

呈謹

奏

617 乾隆五十六年四月二十一日內閣奉

上諭京師自三月初六日得有膏雨以後近畿一帶

業據奏報普沾渥澤惟京城一月以來雖間有微

雨未得深透現屆大田播種之際望澤甚殷因思

清理庶獄或可感召甘膏著刑部堂官查明徒罪

以下各案犯情節較輕者分別減等發落其因事

牽涉拘繫候質者亦速行訊明省釋至尋常案件

並著即行完結毋得稽滯該部即遵諭行欽此

618 乾隆五十六年四月二十一日奉

旨不必更換著照多隆武之例辦理欽此

戶部奏殺虎口稅差窩

陞額丁憂一摺

619 乾隆五十六年四月二十二日內閣奉

上諭雲南提督員缺著路超吉補授欽此

620 乾隆五十六年四月二十二日內閣奉

上諭陝西河州鎮總兵員缺緊要著瑪爾洪阿調補所遺延綏鎮總兵員缺著楊秀補授欽此

621 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩廣總督公福 廣東巡撫郭 乾隆五十六年四月二十三日奉

上諭福康安等奏稽查砲位酌定章程一摺內稱各國來廣貿易洋船向有攜帶砲位鎗刀等項由粵海關監督於該船出入虎門時查驗開報例准隨帶外其東省商船領照出口無論遠赴夷地及赴各省貿易均由守口文武員弁驗照放行不准攜帶砲位等語此事恐難行已於摺內批示矣商船出洋攜帶砲位原為洋面禦盜之用不特各國來廣貿易商船未便禁止即內地出口商船概行不准攜帶砲位倘於海面遇匪船行劫臨時不能抵禦豈有轉令束手待斃之理況在洋行劫者不獨內地匪徒想各國夷匪亦有糾約為盜攜帶鎗砲出沒海洋為行旅之害而內地出洋商船內轉無

砲位抵禦該商等即不保護貨物亦各愛惜身命若拘泥禁止何以衛商旅而禦盜劫若有名無實何必為此耶著福康安等飭令海口文武員弁祇須於商船出洋時將砲位稽查點驗後仍准其攜帶不可因噎廢食也至另摺奏拏獲崖州拒捕盜犯梁章有等訊出梁章有即係蛋家二項名支飾希圖避重就輕俟催提盜犯陳學輝等到日再行質審立置重典又訪獲揭刻關防李應選一犯現在嚴刑跟訊等語所辦好蛋家二條為首戍官之犯情罪重大既經就獲訊明定案時自當問擬凌遲其拏獲該犯之文武員弁並著福康安等查明出力之人隨案咨部議叙以示鼓勵所有未獲之盜首何起文大辦三及案內夥盜仍著嚴飭文武及各路委員人等加緊搜捕盡數查拏毋使一名漏網將此傳諭福康安郭世勳知之欽此遵

旨寄信前來

622

上年四月十四日閩浙總督伍拉納奏外委富  
天安等獲盜犯林灼灼頗屬出力俟有千總缺  
出拔補等因一摺奉

旨引見時提奏欽此茲據兵部知會富天安於本日  
帶領引

見理合遵

旨提奏謹

奏

623

查河南麥收分數上年穆和蘭於四月二十八  
日具奏本年尚未據奏到謹

奏

624

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
兩江總督孫 乾隆五十六年四月二十四日

奉

上諭據御史初彭齡參奏彭元瑞於伊姪彭良鼻為  
其子頂買嚴維敬吏員一案經刑部審出之後始

行具奏其中知情扶同瞻徇取巧情節已屬顯然  
再武英殿國子監皆係彭元瑞管理上年十二月  
武英殿出有校錄一缺咨行國子監咨取肄業生  
充補彭元瑞即將伊婿饒文震咨送嗣以諸生噴  
有煩言彭元瑞復令提調將咨文駁回等款因命  
軍機大臣嚴行訊究業據彭良鼻自行供認先已  
告知伊叔而彭元瑞亦自認彭良鼻未經刑部審  
出拘拏之前已向告知哀懇容隱因念其家有老  
母未行具奏隱忍不言之罪實無可辭等語其咨  
送伊婿饒文震充補校錄一款現在吊查稿案情  
節亦屬支離彭元瑞前於浙江學政任內不能謹  
飭因係已往之咎且念其學問尚優未經罷斥復  
經加恩擢用尚書而協辦大學士一缺懸缺兩年  
未補因彭元瑞近年以來頗知黽勉又用為協辦  
大學士伊自當感激朕恩力圖改悔以副朕矜宥  
成全至意乃於伊姪彭良鼻頂買吏員一案知情  
容隱及知事難掩蓋仍復飾詞檢舉而咨送武英  
殿校錄又輒將伊婿饒文震咨送顯有徇私情弊  
其咎實無可辭若伊一知彭良鼻頂買舞弊情節



即行據實奏明送交刑部治罪其咎止於失察不過如諾穆親失察伊姪篤隆阿一案尚可加恩留任今彭元瑞竟敢為之容隱事後始行飾詞檢舉且伊婿充補校錄既係應行迴避之人並不停其咨送是其種種徇私欺隱若再思加寬宥為大臣者竟可任情欺蔽從而效尤更將何以示儆即令彭元瑞捫心自問亦何顏復膺顯要耶將來定案時自應將伊協辦大學士吏部尚書全行斥退以示懲戒所遺員缺即令孫士毅補授並協辦大學士事務此時尚未明降諭旨著先傳諭孫士毅即行來京陛見將總督印務交與長麟暫行署理其兩江總督員缺現已另諭寄知書麟令其來京陛見再行降旨補授孫士毅若能到於朕啟蹕前更好將此由六百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

625 大學士公阿 大學士伯和 字寄  
山西巡撫書 湖南巡撫馮 乾隆五十六年  
四月二十四日奉

上諭據御史初彭齡參奏彭元瑞於伊姪彭良昇為其子頂買嚴維敬吏員一事經刑部審出後彭元瑞始行具奏明係知情取巧又將伊婿饒文震咨送武英殿校錄旋因國子監諸生噴有煩言復行駁回等款當令軍機大臣提齊人証鞠訊並詢問彭元瑞據彭良昇供出頂買吏員一事恐刑部嚴訊破案已將情節告知彭元瑞而彭元瑞亦自認於具摺檢舉時並未將知情隱忍緣由據實奏明請從重治罪是彭元瑞有心隱飾已屬咎無可辭至將伊婿咨送校錄雖注明迴避未曾畫稿旋即由武英殿駁回但彭元瑞係總理國子監即不應將伊婿咨送現在吊查稿案亦難置辯將來定案後自應將彭元瑞協辦大學士吏部尚書斥退現已傳諭孫士毅令其來京陛見補授彭元瑞遺缺書麟前因向容縣漕書作弊一案獲咎較閔鶚元為輕是以加恩棄瑕錄用伊曾任兩江總督該處地方河務尚為熟諳孫士毅赴京後仍欲將書麟補授兩江總督著傳諭書麟接奉此旨後將山西巡撫印務交鄭源璠暫行護理啟程赴京陛見其

山西巡撫員缺將馮光熊調補並著傳諭馮光熊亦啟程赴京其巡撫印務暫交王懿德護理至彭元瑞知情不舉徇私濫送等事現已訊有端緒即可審明定案另降明發諭旨想書麟等於途次可以接奉也將此由五百里各傳諭知之欽此遵旨寄信前來

626 乾隆五十六年四月二十四日奉

旨梁亞秋梁亞珍蘇亞陶鄧秀元梁志南梁賢昇陳亞魁鄧士吉鄧亞伯蔡亞河鄧加禮馮亞儒陳亞領陳昌言鄧亞光李亞賢吳亞敬黃調長吳學潮陸亞杭廖社三鄧與湛霍振邦梁亞二鄭亞蒸楊亞柏俱著即處斬餘依議欽此

廣東省拏獲疊次行劫盜犯一案

627 臣等遵

旨傳到尹壯圖將御史初彭齡參奏彭元瑞於伊姪

彭良鼻為其子頂買吏員一案於刑部審出之後始行檢舉又國子監

武英殿係彭元瑞一人管理上年

武英殿校錄缺出將伊婿饒文震咨補嗣以諸生

等請有煩言始令提調將咨文駁回現在奉

旨嚴訊據彭良鼻供稱先已告知伊叔而彭元瑞亦

自行承認其咨送校錄一款吊查國子監稿業

情節支離俱交刑部嚴行究擬等因詳細告知

據尹壯圖稱我

皇上綜理萬幾大公至正遇有臣工一切情弊洞照

無遺今彭元瑞於伊姪頂買吏員及伊婿咨送

校錄之事一經御史叅劾即

飭令嚴訊徹底跟究不稍寬假仰見我

皇上肅清綱紀凡大小臣僚無不益深敬畏臣實不

勝悚惕欽服之至等語謹

奏

大學士公阿 大學士伯和 字寄

江蘇巡撫長 江西巡撫姚 傳諭兩淮鹽政

全德 乾隆五十六年四月二十六日奉

上諭昨據孫士毅等奏酌籌建昌府屬各隘添設卡  
巡堵緝私鹽一摺朕以為有名無實交部核議據  
戶部議奏私鹽易售之故總由舊定銷引之處距  
出鹽地方過遠而私鹽就近販賣價值較平民間  
日食所需買私勢所必至雖添設卡座巡丁堵緝  
稽察不能周密仍屬有名無實且令商人捐辦仍  
不能杜絕私梟徒令坐糜費用所奏均毋庸議仍  
令該省督撫遵照新降諭旨籌議具奏等語已依  
部議速行並著長麟全德前往其地詳悉妥議速  
奏矣向定銷鹽地方相隔遠近民食不便者原不  
止此一處是以新經降旨令各該督撫妥議就近  
改撥引課即如建昌一府例食淮鹽距淮南二千  
餘里至閩省汀州邵武等府不過二三百里程站  
近至十倍鹽價自必懸殊淮南商人運鹽至建昌  
道路遙遠水脚盤費用度較多鹽價自必倍昂不

能令商人賠本賤賣此病不惟在民而且病在商  
閩省私鹽數日可至該處費省價平出售自易轉  
欲驅令民間舍近求遠舍賤買貴不但其勢有所  
不能抑且於情理亦未平允今惟添設卡座增設  
丁役以杜絕販私之弊並未尋究本源亦屬徒勞  
無益且商人等運鹽路遠所費已屬不貲復將新  
建卡座工料及巡丁兵役飯食等項俱令商人捐  
辦層層糜費亦非體恤商人之道該商等勢不能  
不將新增費用仍於鹽價內取齊則病民益甚其  
弊不止病商於查緝私鹽之事仍屬有名無實此  
不待智者而後知也朕非固執所降諭旨欲將銷  
鹽較遠地方改歸就近省分均勻搭配庶於釐政  
有裨原不誤國而且利商但此事行之已久另加  
更定必須踏勘地方情形妥議章程俾商民兩便  
方能永遠無弊長麟現在署理兩江總督江西乃  
其所轄著即帶印前往與全德一同至彼會同姚  
茶悉心妥議並知會閩省督撫會商辦理務使官  
引暢銷商民交利以副朕恤商愛民之意方為妥  
協此事關係鹽務在全德以兩淮有額定鹽課未

必肯通融將建昌一府劃歸閩省所謂出納之吝必致扞格難行不知省商費而不誤國課於淮商為有益耳但恐姚茶不能折服全德因長麟平日尚屬曉事是以令其前往長麟務須確持定見悉心籌議此係發令之始長麟等議到日各省已可陸續奏到若江西辦有成規則各省銷鹽地方即可查明道路遠近仿照更定至從前定地銷鹽分畫疆界鹽政衙門必有成案可稽全德接奉此旨即查明定例因何不按遠近定立疆界又行之已久何近年方有此弊商人等行銷納課是否早經賠累拮据之處一面先行覆奏一面會同長麟起程前往所有江蘇巡撫印務長麟起程時即交奇豐額暫行護理除常行事件照舊辦理外如該省及安徽省另有緊要事件原可札商辦理也將此由五百里傳諭長麟等並諭伍拉納等知之欽此遵

旨寄信前來

629 乾隆五十六年四月二十六日奉

旨王均張官五俱係聽從李天培派帶木植且王均係道員與臬司並無統屬張官五亦係隔省之員不過交往通情非逢迎上司可比情節均尚可原劉璿於安插土司捏報病故其失察之咎尚屬因公所有王均張官五劉璿三員俱著准其捐復餘依議欽此

630 查上年山東省二麥收成分數係五月初二日

奏到本年尚未據該撫具奏或於數日內即可奏到倘五月初二三日尚未奏來臣等再行擬寫詢問惠齡

諭旨進

呈謹

奏

631 遵

旨擬寫金士松充補

武英殿總裁

諭旨進

呈查向來

武英殿曾經設有滿總裁自嵩貴降官以後未蒙

另行

派充臣等此次遵

旨將滿洲大臣內科甲出身者開列名單進

呈恭候

簡充謹

奏

\* 侍 郎鐵 保

內閣學士 玉 保

副都御史 巴彥學

632 乾隆五十六年四月二十七日內閣奉

上諭劉墉著管理國子監事務鐵保金士松著充武

英殿總裁欽此

633 乾隆五十六年四月二十七日奉

旨吳登三葉汝芝田啟華姚國棟俱著照例准其馳

封該部知道摺併發欽此

634 臣 阿桂等謹

奏為遵

旨嚴審定擬具奏事前據浙江巡撫福崧奏候選正

九品嚴維敬呈控被人在京冒領執照捏改籍

貫請解京交刑部查辦一案於乾隆五十六年

二月二十九日奉

硃批是知道了欽此經刑部查吏部嚴維敬正九品

執照現存吏部並未被人冒領其改籍原呈原

結供經查出節次拘提嚴維敬在籍原供託領

執照之范元朋並出具圖結之關官莫廷璣加

結之刑部主事張樹槐及素內應質人証一併研訊確供其起意捏改嚴維敬籍貫之朱瀚查拏日久於四月十七日始行投到隨據供出托伊項買嚴維敬吏員執照係舉人彭良鼻經刑部即將彭良鼻飭拏到案正在究審間二十三日御史初彭齡參奏彭良鼻係彭元瑞胞姪其承買執照彭元瑞不能諉為不知等因一摺奉旨著軍機大臣會同刑部嚴審定擬具奏欽此臣等

親提各犯隔別研訊緣朱瀚即朱德基向充武英殿供事議叙未入流與舉人彭良鼻熟識彭良鼻欲為伊子圖取功名朱瀚即捏稱有浙江人嚴維敬考取正九品職銜未領執照現已病故可以頂替共索銀一百六十兩並代為辦理改籍等事彭良鼻允從囑其改歸順天籍貫當給朱瀚銀十兩其餘一百五十兩俟改籍改姓並另換執照後再行兌付朱瀚隨托吏部已滿書吏陸秉恒代覓印結並口許以事成之後謝銀三十二兩亦未付給陸秉恒因托素識之駱大給銀三兩向柳村關官莫廷璣出具順天同

鄉圖結莫廷璣得銀一兩六錢餘銀一兩四錢係駱大自用陸秉恒以關官圖印必須六品以上京官加結始能合例憶及伊戚劉陞掄與刑部主事張樹槐相好遂托劉陞掄轉求加結張樹槐以莫廷璣圖結可憑加結付給並未得受銀兩陸秉恒又代朱瀚假捏嚴維敬改歸大興縣原籍呈詞在部投遞嚴維敬原照並未領出經吏部據呈行查大興縣朱瀚復假捏族長鄰佑甘結在知縣王殿光處蒙混具呈承行書吏陳琪並不稟請詳查王殿光率行據結申詳吏部照例知照嚴維敬浙江原籍朱瀚以此事未經與嚴維敬面商於上年九月前赴浙江行至揚州患病逗遛至本年二月間始至浙江聞嚴維敬業將被人在京捏改籍貫呈控經巡撫將嚴維敬解京質審朱瀚知事已敗露即起身回京探聽於本月十七日到京聞拏緊急即赴部投首彭良鼻於朱瀚未曾到案之先聞刑部查拏素犯心生畏懼本月初間至伊叔彭元瑞家中告知前情彭元瑞當欲送部經彭良鼻哀懇

復為容隱令其投案赴審十六日又經喚往面  
催投首彭良鼻雖經應允仍復遷延至十八日  
經朱瀚供出拘拏到案審悉前情供認不諱此  
朱瀚彭良鼻商串作弊冒名改籍之原委也  
等遵

旨詢問彭元瑞據稱我姪兒彭良鼻於本月十九日  
四鼓從官學拘去二十日我自行具奏此事我  
姪兒於未經差拘之前向我涕泣碰頭哀求饒  
命我即駭問何事他告稱嚴維敬一案係伊托  
朱瀚辦理我當欲捆送刑部辦指自行檢舉他  
伏地哀懇口稱若送伊到部即受重罪家有八  
十歲老母若聞在京受罪定難活命被伊苦求  
不過我一時心軟令其自行投首當下容隱未  
舉及經部拘拏到案我具奏時僅稱聽候審明  
辦理未將彭良鼻哀求情節據實陳奏實是我  
糊塗隱忍咎無可辭今蒙

皇上令軍機大臣詢問我一語不敢隱瞞只求

天恩將我從重治罪還有何說呢至該御史奏稱刑  
部郎中金光悌係彭元瑞兒女姻親彭良鼻又

係伊所取門生遷延托病欲為彌縫一節訊據  
金光悌稱我係刑部總辦處郎中於三月內因  
患病不能進署辦事於十六日呈堂給假嚴維  
敬係三月二十三日解京到部彼時我告假在  
家並未承審此案至四月十二日我病痊銷假  
十七日朱瀚自行投到我即同各司員連夜審  
訊朱瀚究出彭良鼻託代伊子項名買照情節  
當即回堂稟拏彭良鼻到案研訊商同朱瀚項  
名買照屬實復將審出情節回明各堂在案至  
彭良鼻係四十二年中式舉人我於四十八年  
充江西考官並非我的門生我與彭元瑞之子  
彭翼蒙原是兒女姻親這彭良鼻一案我實無  
扶同瞻徇之事且承辦此案司員共有十餘人  
豈有因我一人抱病在家即延擱不辦之理嗎  
又該御史奏稱國子監肄業貢生饒文震係彭  
元瑞之婿違例咨送

武英殿充補校錄一事臣等調取該衙門各稿逐  
一核對內惟咨送饒文震一稿彭元瑞並未畫  
行註明迴避二字因面詢國子監各堂官彭元

瑞既經聲明迴避你們就應中止何以仍將該生咨送且彭元瑞各稿俱係親畫獨饒文震一稿不畫你們豈有不問明白因何迴避之故明係知道饒文震是他親戚所以咨送的一一究詰據吉善章謙恒等稱我們考取饒文震時實不知是彭元瑞親戚後來彭元瑞不畫行稿始知是其女婿我們未經停止仍復咨送就是糊塗瞻徇無可置辯各等語 查例載誑騙舉監財物指稱賣官買缺等項如誑騙已成於該衙門門首枷號三個月發烟瘴充軍其央浼營幹致被誑騙者免其枷號照前發遣若誑騙未成財未接受罪應滿徒加枷號兩個月又律載枉法贓一兩至五兩杖八十各等語此案朱瀚因嚴維敬回籍未領考職執照膽敢捏稱嚴維敬已故誑騙彭良昇銀兩雖贓未全受姓未呈改尚在未成該犯聞拏又自行投首律得減等但事關頂冒執照情節較重應不准其減等即照誑騙已成發烟瘴充軍例從重發往伊犁給兵丁為奴所有該犯議叙未入流執照追出塗銷

彭良昇身為舉人且係大臣子姪現充教習不思安分守法輒敢串商作弊為子冒名干進若僅照例擬軍不足蔽辜應革去舉人從重一併發往伊犁充當苦差已革闈官莫廷璣得受駱大銀一兩六錢濫行出結計枉法贓在五兩以下依律杖八十折責三十板駱大聽信陸秉恒主使轉求莫廷璣印結從中分用銀一兩四錢應照枉法贓一兩至五兩律杖八十加枷號一個月陳琪身充大典縣吏書於承辦吏部查改籍一事並不稟請詳查混行申覆雖訊無受賄別情究有不合應革役照不應重律杖八十加枷號一個月滿日俱折責發落捐職布政司經歷劉陞掄訊非知情串通冒昧但代求出結亦屬多事應革去職銜仍照不應重律杖八十折責發落朱瀚等各犯名下所得贓銀照追入官其應得杖罪之莫廷璣等雖到官在清理庶獄恩旨以前俱不准其援免協辦大學士吏部尚書彭元瑞於子姪頂冒執照不能覺察咎已難辭迨彭良昇事經敗露面向告知並不舉發送官旋



經刑部查拏又不將彭良鼻於四月初間曾經告知情節據實奏明又伊婿饒文震咨送校錄既應指駁何難於廳官送稿時明白告知令其更換必待咨送後始行駁回是其知情不舉徇私濫送殊失大臣之體且彭元瑞身管吏部任聽子姪營私頂冒尤非尋常失察獲咎者可比應照溺職例革職刑部主事張樹槐冒昧加結大典縣知縣王殿光率行申詳俱應交部嚴加議處刑部郎中金光悌雖訊無瞻徇含混情節其患病在家實係呈堂給假並非托故推諉至朱瀚於十七日投到後十八日即究出彭良鼻立時拘拏到案詢之初彭齡亦稱金光悌在本衙門告假無從知悉因其與彭元瑞之子兒女姻親恐其有推諉瞻徇之弊其實我並無確切聞見等語是其審辦此案尚無徇庇之處但該員係刑部總辦處郎中不能將此事速審完案亦有不合應交部議處國子監各堂官明知肄業貢生饒文震係總理國子監彭元瑞之婿於咨送校錄時並不秉公甄拔遽行揀選充補實

屬有意瞻徇祭酒吉善韋謙恒司業改用郎中五格陞任司業納麟寶俱應交部分別議處至朱瀚業內在逃之陸秉恒應交提督衙門順天府五城嚴緝務獲另行審擬其無干之范元朋等均予省釋至原告嚴維敬既經考取正九品遲至三年並不請領執照以致朱瀚等生心頂冒種種滋弊亦有不合該職員於解京取供後業已病故應毋庸議應將所存正九品執照一張役滿執照一張交吏部查銷所有臣等會同審擬緣由謹合詞恭摺具

奏請

旨

635 乾隆五十六年四月二十七日內閣奉

上諭前據福崧奏嚴維敬呈控咨查冒領吏員執照捏行改籍一案交刑部行提犯証審辦嚴訊代改籍貫之朱瀚究出彭良鼻賄囑該犯為伊子頂買情節將彭良鼻拘拏到案旋經彭元瑞具奏彭良

昇是伊親姪項名舞弊實係不能約束並未將知情容隱之處據實檢舉朕以彭元瑞身為大臣渥受恩眷自不至庇護伊姪飾辭具奏其咎亦止於不能管教子弟尚無大過昨據御史初彭齡叅奏彭元瑞於此事早已知情及刑部審出之後始行具奏掩飾顯有瞻徇取巧情弊並奏稱彭元瑞管理武英殿國子監事務上年十二月武英殿校錄缺出咨取肄業生充補國子監即將伊婿饒文震咨送旋以諸生噴有煩言復令武英殿提調具文駁回實屬徇私顛倒等語命軍機大臣會同刑部將此案一併審明定擬具奏茲據訊明彭元瑞於四月初間已知彭良昇頂冒情弊即欲拏送刑部彭良昇以家有老母再三哀懇遂即聽從容隱迨刑部指名拘拏彭元瑞會混奏聞藉為支飾彌縫之計彭良昇到案即據供認不諱彭元瑞始自行認罪不能置辯至咨送伊婿饒文震充補校錄一節雖於武英殿駁回但國子監咨送原稿僅註明迴避字樣未經畫行仍未停止咨送而吊查該衙門從前咨送校錄之稿無不畫行者是其徇私濫

送之弊欲蓋彌彰無可解免奏請將彭元瑞照例革職核其情罪實無可寬從前彭元瑞在浙江學政任內不能謹飭因係既往之事且無左驗是以不復深究仍行保全加恩錄用存擢尚書近年以來頗知黽勉供職且念伊學業優裕甫用為協辦大學士旋錫宮銜如此曲賜矜全恩施格外彭元瑞自當感激思奮益勵操修迺敢辜負朕恩徇私隱飾非僅如近日諾穆親失察伊姪篤隆阿可比且此案刑部堂官皆有觀望之意獨阿桂一人飭辦耳即阿桂和坤亦未必與彭元瑞情孚莫逆然使伊果能謹恪自持無瑕可摘又誰得乘間抵隙持其短長耶且不但阿桂和坤不能意為好惡於朕前臧否大臣即朕辦理庶務一秉大公有必錄有過必懲惟視其人之自取從不稍存成見而有所愛憎於其間是彭元瑞此案不惟為大臣者不能曲為軒輊即朕素以文詞雅贍猶欲成全保護然案經敗露御史糾叅軍機大臣等審訊得實自應按例懲辦亦不能稍為迴護若再加恩留任為大臣者竟可相率效尤無所畏忌何以儆有位

而肅官箴彭元瑞具有天良即令其清夜捫心亦何顏覲居顯秩耶本應即照所議革職念其學問素優堪備編纂書籍之事姑免其全行斥退彭元瑞著革去太子少保協辦大學士吏部尚書仍加恩降授侍郎南書房行走予以自新而觀後效彭元瑞經此番懲戒之後倘再不知改悔定行從重治罪斷不能屢邀寬典矣至刑部堂官於此案遲延觀望經阿桂嚴飭究問始行查出實情除阿桂外其餘各堂官均著傳旨嚴行申飭國子監堂官吉善等咨送饒文震雖訊無顯聽屬託情弊但彭元瑞既稱係至戚未經畫稿該堂官仍行咨送即屬有心瞻徇吉善等俱著交部議處彭元瑞所遺吏部尚書員缺著孫士毅補授並協辦大學士事務其兩江總督之缺地方河務較繁一時不得其人因思書麟久任江南於該省地方河工尚稱諳練前以句容書吏侵蝕一案獲咎因其曾飭所屬查辦尚非如閩鷓元之有心徇庇屬員者可比是以復棄瑕錄用自任山西巡撫以來尚知改過奮勉書麟著補授兩江總督所遺山西巡撫員缺著

馮光熊調補其所遺湖南巡撫員缺著姜晟補授姜晟疊經獲咎以其尚諳刑名屢加寬宥今於彭良昇一案姜晟亦不無觀望第因簡任乏人湖南事務較少是以復任封圻姜晟抵任後若再不知振作改悔定行加倍治罪孫士毅即著來京供職其印篆交與長麟署理馮光熊未抵任以前所有山西巡撫印務著鄭源琦護理姜晟未抵任以前所有湖南巡撫印務著王懿德護理朕綜理庶政黜陟臣工功罪權衡從不預存成見大臣等若敢稍涉隱飾亦無不洞燭情偽罰當其辜茲特明白宣示申誡諸臣其各勉矢樸誠屏絕私意約束子弟勤慎奉公倘竟自蹈愆尤朕惟執法從事決不姑息是朕之小懲大戒皆所以保全大臣庶不至敗檢縱恣轉罹重罪也所有項冒吏員案內各犯著即照議完結並著將辦理此案原委通諭知之

欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

署兩江總督長 傳諭兩淮鹽政全德 乾隆

五十六年四月二十七日奉

上諭孫士毅等酌籌建昌府屬添設卡巡堵緝私鹽一事朕以為有名無實昨經降旨令長麟全德前往江西會同姚棻詳悉妥議並將向定銷鹽地方何以定立疆界相距遼遠商民既屬不便因何又奉行日久不加更定諭令全德查明先行覆奏朕因淮南商人運鹽至建昌道路遙遠費用增多鹽價自必倍昂欲令民間舍賤買貴舍近求遠其弊在於病民若民間貪圖賤價買食私鹽官引壅積難銷勒令商人平價出售勢必賠本賤賣運脚無出則此弊不持病民抑且病商不知從前定例時何以不就近分地行銷致使道里遠隔搭配不均商民交病且定例不始於近年何以近年方有此弊商人等行銷納課若向有賠累拮据之處因何不早思變計以情理揆之其故殊不可解或係歷任鹽政以額引均有定課撥出一府即少一府鹽課所謂出納之各未肯通融籌辦不知減淮南

一府之課增闕省一府之課於國課原無損也抑或該處私鹽充斥查緝不易即使以建昌劃歸閩省而私販越過建昌仍可隨地闖入延及他府則改撥之法亦屬無益是以不必更張再或因該商等定地行銷各有窩本久已置同產業不肯撥歸鄰省商人致損資本是以寧可捐貲設卡添兵以防私鹽偷漏種種情形難以懸揣朕非欲固執新降諭旨預存成見惟在長麟等踏勘情形悉心籌議庶使官引暢銷商民兩便方為妥善長麟尚稱曉事全德久任鹽政自所諳習此次派令前往自能詳妥辦理副朕恤商愛民之意並著傳諭全德於起程之前將從前定地銷鹽例案據實查明因何不按遠近勻配商人有無賠累隔礙之處一併先行覆奏欽此遵

旨寄信前來

637 乾隆五十六年四月二十八日內閣奉

上諭景安著調補山西布政使其河南布政使員缺  
即著鄭源璠調補鄭源璠現護撫篆俟馮光熊抵  
任後再赴新任欽此

638 乾隆五十六年四月二十八日內閣奉

上諭刑部侍郎員缺著張若淳調補吳省欽著調補  
工部右侍郎所遺禮部右侍郎員缺著彭元瑞補  
授欽此

639 大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

江西巡撫姚 乾隆五十六年四月二十八日  
奉

上諭據趙佑奏拏獲鎗撞棍徒一摺內稱南安府知  
府胡本濤等查拏形跡可疑之李承恩邱大成周  
嘉謨等三名訊係廣東嘉應州人改易姓名由贛  
屬定南信豐一路來到南安甫及兩日正在設計

招搖未有說合生童即被查拏若照謀而未成例  
罪應枷杖遞解不過就其捏名咨行收管不足以  
示懲創請將該三犯解粵交該省撫臣確究的實  
姓名頂帶斥革治罪等語李承恩等三犯混捏姓  
名藉以賣筆墨等物為名隨棚趕考希圖招搖撞  
騙未便將就完案自應解粵辦理該犯等解到後  
著福康安等嚴行審訊查明的實籍貫姓名有無  
項帶即行斥革治罪以示懲儆又據趙佑奏贛州  
拏獲久慣鎗架之傅章寧夥謀招搖之孫發祥等  
一案並著傳諭姚榮即行提集犯証嚴審定擬具  
奏將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

640 據畢沅寄到應

制題李庭珪墨詩<sub>臣</sub>等謹將原詩恭呈  
御覽俟  
發下後一併代繕入卷謹  
奏

641 乾隆五十六年四月二十九日奉

旨海旺富爾呼納多福賓保成祿謹福索木賀七犯俱著即處斬並派刑部堂官一員同該旗護軍統領傳齊各護軍看視行刑俾各知所做畏多隆武五保佛保太保永明六達子九福鍾保珠隆阿等九犯俱係看庫之人於海旺等偷竊庫項既經撞過並不據實首告復敢得受贓銀聽從徇隱情罪可惡僅擬發伊犁為奴殊屬輕縱所有多隆武等九犯俱著改為應斬監候秋後處決入於本年秋審情實辦理至護軍統領等俱係輪日該班有稽查之責若僅議本旗該管及是日輪值宿之員則其餘前鋒護軍統領等俱得置身事外無以示懲所有各前鋒護軍統領叅領等官俱著交軍機大臣嚴行查詢從重治罪至此庫係存貯銀兩封鎖不開銀庫司員雖無看守職任但平日坐擁厚廩並不隨時看驗封條留心查察實難辭咎著將該司員等應得三年養廉均停其支領阿桂和坤係管庫大臣既經失察於前辦理此案又復失之寬

縱除將所短銀兩著落照數賠補外仍著交部議處其出首之花尚阿尚屬畏法僅賞銀五十兩未足示獎著照所請自出已資賞銀一百兩餘照所奏完結欽此

642 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年四月二十九日奉

上諭據梁肯堂奏熱河自廣仁嶺而下有旱河一道因前兩年陰雨較多山水漲發河道漸次淤塞又河屯協署前河道亦有淤滿均請挑挖應否仍照上屆交熱河工程處估辦等語該處旱河既經該督委員勘明實係淤塞自應准其挑濬但所奏太遲朕五月間巡幸熱河為期已近此時興工挑挖已屬無及莫若俟朕熱河駐蹕時就近派令熟諳工程之員會同確估再行修濬將此傳諭知之欽此

旨寄信前來

643 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸山東江蘇浙江各督撫 乾隆五十六年

四月二十九日奉

上諭浙江省安插夷人去冬據該撫奏明除送回安

南外其黎輝理等十名口情願來京跟隨黎維祁

居住前因黎維祁率領所屬人等業經歸旗編入

佐領是以准令來京今黎維祁聽從黃益暎等教

唆妄請回國分給一道安插實屬愚謬無知不安

本分已將黃益暎等分別發遣不便又將外省安

插夷人增入令與黎維祁等聚處致滋事端所有

浙省送京夷人黎輝理等十名口現在尚未到京

著傳諭沿途各督撫即於中途截留詳加詢問如

黎輝理等情願仍回故土即行遞赴廣西咨會陳

用數遣送出關交與該國王收管若伊等不願返

國亦可毋庸送京著即解往江寧交與該督同原

發該處夷人一併安插並令地方官嚴加管束倘

敢生事即行從重治罪將此傳諭直隸山東江浙

各督撫知之欽此遵

旨寄信前來

\* 黎輝理 黎輝琳 阮 皓 黎允俊

黎輝塘 黎 伶 武 橘 阮 毅

阮氏獻 阮氏亞

644 乾隆五十六年四月二十九日內閣奉

上諭據福康安等奏行商拖欠番夷貨價嚴審定擬

分別追還一摺內稱訪查豐泰行商吳昭平有拖

欠夷商銀兩之事嚴切飭查當據喝咄喇哈等呈

控該商欠交番銀四十萬一千六百餘圓合銀二

十八萬九千一百餘兩請將吳昭平革去職銜從

重發往伊犁當差家產業經查封共估值銀五萬

九千三百餘兩除抵該商名下所欠關餉銀兩外

餘銀五千八百餘兩先給夷人收領尚欠貨價銀

二十八萬三千三百餘兩現據原保各行商蔡世

文等情願限五年內分作六次代還等語行商吳

昭平於乾隆五十四年揭買夷商貨物價值欠未

清還欠銀至二十八萬餘兩之多情殊可惡自應

照所擬發遣示懲至所欠銀兩雖據福康安等將

估變家產餘銀先給夷商收領不敷之數亦經各

商呈請分限代還但內地商人拖欠夷商銀兩既據該夷商呈控到官若不即為清欠轉致貽笑外夷著福康安等即於關稅盈餘銀兩內照所欠之數先行給與夷商收領再令各商分限繳還歸款再粵海關監督徵收商稅管理洋行於洋商拖欠物價不能早為清釐亦難辭咎所有五十四年以後監督等俱著福康安等查明咨送該衙門議處欽此

645 蒙

發下

御製墨雲室記刻一百零九分令臣等擬

賞謹擬寫

賞單進

呈謹

奏

二十九日

賞墨雲室記墨刻名單

\* 擬

八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿思阿哥

綿億阿哥

綿惠阿哥

綿懿阿哥

綿慶阿哥

奕純阿哥

禮親王永恩

睿親王溥穎

豫親王裕豐

肅親王永錫

莊親王綿課

怡親王永琅



克勤郡王雅朗阿

順承郡王倫住

裕郡王亮煥

誠郡王弘暢

和郡王綿脩

軍機大臣阿桂

和坤

王杰

福康安

孫士毅

福長安

董誥

慶桂

大學士嵇璜

尚書巴延三

常青

劉墉

劉戡

明亮

胡季堂

金簡

留保住

左都御史舒常

紀昀

侍郎瑪興阿

金士松

保成

沈初

諾穆親

蔣賜棨

慶成

韓鐸

德明

寶光羅

鐵保

彭元瑞

吉慶

趙鋈

度禮寶

胡高望

穆精阿

張若濟

玉德

王昶

德成

鄒奕孝

成策

吳省欽

蘇凌阿

劉秉恬

內閣學士 扎朗阿

伊蘭泰

玉保

多永武

薩哈爾濟

和琳

翁方綱

李潢

鄒炳泰

周興岱

副都御史 巴彥學

哈福納

劉權之

陸錫熊

南書房 吳省蘭

阮元

總督 梁肯堂

書麟

伍拉納

畢沅

鄂輝

勒保

富綱

蘭第錫

李奉翰

管幹珍

巡

撫長麟

朱珪

福崧

浦霖

惠齡

穆和蘭

馮光熊

秦承恩

姚榮

福寧

姜晟

郭世勳

陳用敦

譚尚忠

額勒春

予告大學士蔡新

在籍尚書曹文植

646 乾隆五十六年四月三十日內閣奉

上諭孫士毅未到任之前所有吏部尚書事務著劉墉暫行署理欽此

647 同日內閣奉

上諭甘肅安肅道員缺著福慶補授欽此

648 乾隆五十六年四月三十日奉

旨劉潢毛鳳飛袁夢麟俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

649 乾隆五十六年五月初一日內閣奉

上諭直隸永平府知府員缺著孔繼炘補授欽此

650 查四月二十五日臣等面奉

諭旨發往雲南候補知府孔繼炘遇有知府缺出提奏欽此茲有直隸永平府知府缺出理合遵

旨提奏謹

奏

651 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年五月初三日奉  
上諭上年山東省二麥約收分數於五月初二日奉  
到本年東省雨澤應時昨惠齡奏報省城復得時  
雨摺內祇稱二麥顆粒飽滿並未將通省麥收共  
有幾分之處先行約計具奏豈不知朕屢念民依  
無時或釋耶著傳諭惠齡即將東省統計麥收約  
有幾分據實速奏以慰屢注將此由三百里傳諭  
知之欽此遵

旨寄信前來

652 乾隆五十六年五月初四日內閣奉

上諭雲南曲靖府知府員缺著常明補授所遺員缺  
著岳興阿補授欽此

653

查回部屬天山南路為漢西域三十六國地其  
都護治所在烏壘城即今喀喇沙爾所屬境唐  
貞觀中徙安西都護府於龜茲國統于闐碎葉  
疏勒號四鎮即今庫車境通計回疆大城凡六  
曰葉爾羌曰和闐即額里曰喀什噶爾曰烏什  
曰阿克蘇曰庫車小城凡十二曰喀喇沙爾曰  
英吉沙爾曰沙雅爾曰布古爾曰庫爾勒曰賽  
里木曰拜曰哈喇哈什曰玉隴哈什曰車呀曰  
塔克曰克爾雅自喀喇沙爾東境起至和闐境  
盡止東西共三千六百餘里以徑一圍三計算  
回疆週圍共一萬一千餘里

葉爾羌舊名葉爾奇木又名葉爾欽漢為莎車國  
北魏為渠莎國唐屬毗沙都督府元為葉爾羌  
原作鴉兒東接阿克蘇界西通拔達克山界東  
看今詳改南至和闐界西北接喀什噶爾界距京師一萬  
二千三百八十五里所屬村堡四十有二現設  
辦事大臣二員兼轄和闐

和闐城曰額里齊舊作伊漢為于闐國後漢書作

于寘唐置毗沙都督府宋以後復為于闐國

東入沙磧西接葉爾羌界南至南山北接阿克

蘇界距京師一萬二千一百五里所屬五城曰

哈喇哈什曰玉隴哈什曰車勒舊作齊爾拉曰塔克

曰克勒雅舊作克勒底雅村堡二十有四現設領隊大

臣二員

喀什噶爾舊名喀什哈爾漢為疏勒國唐置疏勒

都督府元為喀什噶爾原作合失合兒今譯改明因之

東接烏什界東南接葉爾羌界北通安集延界

距京師一萬一千九百二十五里所屬村堡二

十有二現設參贊大臣一員協辦大臣一員統

轄四城

烏什漢為尉頭國唐為尉頭州又名鬱頭州東

接阿克蘇界西通喀什噶爾界南通葉爾羌界

北通伊犁界距京師一萬九百九十里所屬村

堡二十有三現設辦事大臣一員兼轄阿克蘇

阿克蘇漢為溫宿國唐為溫肅州又名溫府州

東接庫車界西通烏什界南至葉爾羌界北通

伊犁界距京師一萬七百九十里所屬有賽里

木城舊名賽喇木拜城村堡三十有九現設領隊大

臣一員

庫車漢為龜茲國唐置都督府東至喀什沙爾

界西至賽里木界南至烏恰特達里雅北通伊

犁界距京一萬八十里所屬有沙雅爾城又村

堡二十有五現設辦事大臣一員

喀什沙爾舊名哈拉沙漢為焉耆國唐置都督

府元置巴什伯里宣慰司明為巴什伯里國

東接土魯番界西接庫車界南至羅布淖爾北

接烏魯木齊界距京師九千一百里所屬有庫

爾勒布古爾二城村堡十有二現設辦事大臣

一員

英吉沙爾舊名英阿雜爾又名英噶薩爾漢為依

耐國地南接葉爾羌界北距喀什噶爾界所

屬村堡五現設領隊大臣一員

654 遵

旨將乾隆十八年李因培叅劾涿州知州李鍾俾虧

空一案總督方觀承有無處分之處檢查原案

方觀承在總督任內聞涿州知州李鍾俾有長墊辦差銀兩當將該員撤回密諭藩司委員會同接任之員將該州倉庫錢糧驛站馬匹徹底清查並移咨順天府尹將順天各屬州縣倉庫一體盤查會商辦理旋經李因培親往涿州將知州李鍾俾虧空實數查明叅奏並於摺內聲明方觀承前往熱河接

駕不及會銜是此案李鍾俾虧空之處方觀承早有見聞移咨順天府尹一體查辦其未及會銜之處亦經李因培於摺內聲明是以李因培於審擬定案及部議核覆時止將該管失察之道廳分別議處方觀承並無處分再查李因培條奏直省督撫各衙門遇有會稿事件應俟所會衙門畫覆後再行題咨一節業經部議允准行知各督撫衙門一體遵照在案謹

奏

655 遵

旨將劉正宗係明季編修何以不列貳臣傳內交查國史館茲據覆稱劉正宗本傳前經編入大臣傳內現擬遵

旨撤入貳臣乙編因尚未進

呈是以將原纂本傳先行呈

覽至劉正宗曾經籍沒歸旗其隸入何旗之處交查漢軍及內務府三旗據稱各旗並無劉正宗其人等語謹

奏

656 乾隆五十六年五月初六日奉

旨蔡阿港蔡阿柯謝阿靄蔡阿傳蔡阿豹蔡阿千蔡阿香謝阿五謝奇明謝阿才俱著即處絞餘依議欽此

刑部議覆廣東省共

一案

657 乾隆五十六年五月初六日奉

旨劉輝宗著准其貶封該部知道摺併發欽此

658 乾隆五十六年五月初六日內閣奉

上諭朕此次駐蹕熱河巡幸木蘭著怡親王儀郡王大學士公阿桂協辦大學士尚書孫士毅留京辦事所有吏部兵部應行引見官員文職知縣以上武職守備以上於未啟鑿進木蘭之前著該部每月派堂官一員輪流帶赴熱河引見其文員內佐雜等官武員內八旗護軍校驍騎校及外省送到之補放驍騎校水手並年滿千總等官弁仍著王大臣照例驗放至八月以後月選州縣等官照例俟迴鑿後歸於九月分一併引見其各省督撫提鎮等奏摺著齋摺人前赴行在投遞進哨後著兵部派員駐劄哨門接遞各省奏摺封送行在候朕批示發回仍於哨門交付齋摺人祇領該部即遵諭行欽此

659 乾隆五十六年五月初七日奉

上諭董椿奏准宿兩關徵收盈餘銀兩較之上屆少收銀六萬九千八百餘兩懇請照數分年賠繳等語准宿兩關近年徵收稅課盈餘並無短少何以董椿此次徵收銀兩少至六萬九千八百餘兩之多董椿人尚謹慎小心諒不敢以多報少其管關之家人書役等董椿亦自當稽查約束不至任其從中舞弊致有短絀即云去秋王平莊民搶冲塌亦係即時補築完竣且距豫省較遠貨船自應照舊流通不致阻滯其因何少收稅課盈餘之處著董椿將該處實在情形據實速奏再降諭旨毋得稍有隱飾致干咎戾將此諭令知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭准關監督董椿

660 乾隆五十六年五月初七日奉

旨陸湘著准其貶封該部知道摺併發欽此

661 乾隆五十六年五月初七日奉

旨趙雄飛毛師沆王旭藻白霽揆明劉大任劉耀德  
楊如堂雷玉振景循楊如棣俱著准其貤封該部  
知道摺併發欽此

662 乾隆五十六年五月初七日奉

旨著照該撫所請行該部知道摺併發欽此

山東巡撫惠齡奏請將  
候補知州許紹錦署理  
莒州知州一摺

663 本月初七日吏部將湖南省經徵南米驢脚未

完業內部議革職續經全完開復之原任善化

縣知縣徐元辰一員帶領引

見奉

旨交軍機處記名欽此

五月初八日

664 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安徽巡撫朱 乾隆五十六年五月初八日奉

上諭昨據董椿奏淮宿兩關徵收稅課盈餘銀兩因  
豆船過關稀少較之上屆均有短絀降旨令將因  
何少收情形據實覆奏朱珪奏鳳陽關徵收稅  
課一年期滿比較上三屆短少盈餘銀四萬一千  
九百餘兩請在各員名下勻攤賠補等語鳳陽關  
徵收稅課盈餘銀兩上三屆均有十七萬四五千  
兩不等何以此次短少四萬餘兩昨准關短絀稅  
課或因去秋王平庄民捻冲塌貨船稍有阻滯但  
該處民捻即時補築完竣且距豫省較遠商販自  
應照舊流通其稅課短少之故未必因此今鳳陽  
關在淮關上游距王平庄尤遠商販更不應有阻  
滯該關短少盈餘自必另有他故是否實係米豆  
船隻過關稀少抑該監督等屢經更換在關員役  
從中弊混徵多報少致有短絀之處著傳諭朱珪  
詳悉查明據實速奏再降諭旨毋任稍有隱飾迴  
護將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來



665 乾隆五十六年五月初八日奉

旨王朝佐李正勳歐國光郭益起俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

666 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江蘇巡撫長 傳諭兩淮鹽政全 乾隆五十

六年五月初九日奉

上諭前據孫士毅等酌籌建昌府屬各隘添設卡巡堵緝私鹽一事朕以為有名無實當即降旨令長麟全德前往江西會同詳悉查勘並將向定銷鹽地方何以相距遠遠於商民均屬不便且奉行日久因何不早思變計之處查明先行覆奏既又思若將建昌一府應銷引鹽劃歸閩省而私販越過建昌仍可隨地闖入則改撥之法亦屬無益復降旨傳諭長麟全德務須詳妥辦理不可稍存拘泥遷就之見本日召見書麟詢以江西建昌鹽務情形所奏與新降諭旨大畧相同蓋無知小民惟利是圖祇知得尺則尺得寸則寸如建昌劃歸閩省

私販即可越過建昌沿及撫州雖設卡巡緝亦恐不能攔截在商人運鹽道路愈遠脚費愈增鹽價自必倍昂欲令民間舍賤買貴舍近求遠不但勢有不能於情理亦未平允且商人行銷鹽引利於就近而憚於遠行即如建昌行銷淮鹽書麟亦奏稱商情多有不願何以現在又請添設巡卡堵緝私鹽轉增多費或係該商等定地行銷各護窩本是以不惜增費抑係通網有公攤幫貼資助辦理之處殊難懸揣朕辦理庶務毋固毋必惟期利民便商兩有裨益從不稍存成見長麟全德皆當仰體朕意據實查辦不必回護前旨此事即經降旨傳諭後尚未據長麟等查明具奏想此日正在會同詳悉查勘若即令書麟前赴兩江之任則長麟在彼即須將督篆先行移送恐諸事呼應不靈現已令書麟俟送駕後再往江南彼時孫士毅自己到京長麟等查辦情形亦可奏到再令軍機大臣會同詳晰酌商定議期臻妥善也將此由六百里傳諭知之仍即將實在情形先行速奏欽此遵

旨寄信前來

667 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十六年五月初九日奉

上諭本日據福崧奏拏獲在洋行劫盜案戴添英等分別定擬一摺已批三法司核擬速奏矣此案戴添英等四犯在洋糾夥行強搜劫賊物情罪最為兇惡一經拏獲審訊得實自當一面具奏一面恭請王命即行正法閩粵江南等省拏獲洋盜俱係如此辦理今福崧審擬戴添英等一案於行強糾劫情節業經審訊明確自當即行正法乃尚待請旨辦理殊屬拘泥除交部速議具奏外福崧著傳旨申飭欽此遵

旨寄信前來

668 大學士公阿 大學士伯和 字寄

四川總督鄂 浙江巡撫福 乾隆五十六年

五月初九日奉

上諭鄂輝福崧同日奏到雨水農田情形二摺並糧價清單朕詳加批閱鄂輝摺內祇稱省城及附近

州縣各得透雨二麥情形各府州縣所報與省城大概相仿福崧摺亦祇稱三四兩月各屬具報得雨二麥收成分數多在九分以上各等語而於該二省二麥收成統計分數實在約有幾分之處並未奏及朕屢念民依無時或釋該督撫豈不知之何以此次所奏僅係雨水糧價情形於民食攸關之事轉不詳晰查明早為陳奏耶著傳諭鄂輝福崧即將該二省統計麥收分數據實速奏以慰屢注將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

669 乾隆五十六年五月初九日奉

旨願鳴漢著准其馳封該部知道摺併發欽此

670 遵

旨查葉爾羌每年抽收克什彌呼等處貿易回子稅務碎小米珠一項查葉爾羌抽收此項碎小米珠係隔四五年積存稍多送京一次其珠顆俱

係零星碎小祇可作荷包等項珠結及配藥之用每次進

呈後即交廣儲司收貯謹

奏

五月初九日

671 查葉爾羌抽收碎小珍珠於四十三年四十九年送京二次共計一百五十二串計三千一百十九粒謹

奏

672 遵

旨查取劉正宗列傳恭呈

御覽至魏廷珍列傳現在甫經纂就底本即行趕繕

正本進

呈再查魏廷珍係直隸景州人魏裔介係直隸柏鄉人並非一家又奉

旨查季振宜季開生二員詢據國史館稱季振宜官

御史季開生官給事中職分較小例不列傳合

併聲明謹

奏

五月初十日

673 乾隆五十六年五月初十日內閣奉

上諭前據姚榮奏江西建昌府屬界連閩省之區路徑較多堵緝稍難必須於各要隘添設卡巡一摺彼時以建昌距淮南二千餘里離閩省邵武汀州等府不過二三百里運鹽程較之淮南近至十倍其鹽價自必貴賤懸殊欲百姓之舍賤買貴舍近求遠於情理亦未平允何以從前定例時不將鄰閩府分就近行銷並恐他省亦有似此者因降旨通諭各省督撫彼此酌商調劑使商民交便以省緝私之繁嗣據孫士毅等奏酌籌建昌府屬設卡巡緝章程有名無實且商人行銷鹽引利於就近而憚於遠行運鹽道路愈遠腳價愈增所費已屬不貲若又添設卡巡多增費用不特病民而且病商復令長麟全德前往該處察看情形詳妥辦

理昨又思無知小民惟利是圖祇知得尺則尺得寸則寸如建昌劃入閩省私販即可越過建昌沿及撫州南昌無所底止恐巡緝亦未周到傳諭長麟等不可迴護前旨稍存拘泥遷就之見朕辦理庶務毋必毋固惟期利民便商從不預存成見今據全德將前旨所詢數款查明覆奏所言甚是其措內稱若將建昌一府改食閩鹽恐撫州等府漸有私鹽闖入於通省鹽務有關是以該處向係減價敵私令通省綱力派出公費貼補與昨降諭旨相同果不出朕之所計從前酌定行銷引鹽運道全藉關津山隘得以稽察遮攔若舍此久定之界聽其就便行銷則平原地面毫無阻隔鄰鹽逐漸侵入必致無所底止且以通綱資助建昌一府公費衆警易舉於該處商人並無賠累况有杉關等隘口可恃為門戶堵截關私自應照孫士毅所奏設立巡卡增派兵役嚴密稽察以絕私販侵越之路至江西一省情形如此則他省可知看來該督撫等酌議到時亦與全德所奏大畧相同此事竟可不必更張以恣仍其舊為是長麟全德如未經出

境均可不必前往如已前赴江西祇須將各隘口如何設卡巡緝可期永絕私販之處會同詳悉履勘核定章程據實具奏毋庸再議劃歸閩省之事總之整飭疆務全在各地地方官實力緝私認真督察使各銷各地毋任鄰境鹽斤絲毫闖入則官引自必暢銷私販無利可圖並可不禁而自止也全德摺併發欽此

674 乾隆五十六年五月初十日奉

旨戴忝英張忝孝李昌才張立組俱著即處斬梟示餘依議欽此

浙江省拏獲行劫客船  
洋盜一案

675 乾隆五十六年五月初十日奉

旨顧存仁著即處斬餘依議欽此

浙江太平縣戶書私雕  
假印一案

676 乾隆五十六年五月十一日內閣奉

上諭刑部議覆江蘇省拏獲鹽犯謝鴻儀分別治罪一摺案內孫元梅以監生窩頓私鹽至四千斤以上特符庇匪未便因其係屬監生即得免其為奴應將該犯改發黑龍江給披甲人為奴等語所奏是已依議行矣該部議從重原係遵朕諭令改者向來監生犯事罪應發遣者例祇發往當差與平人為奴者不同定例本未允協監生捐銜者多即祇為貢監既名列成均理宜懷刑自愛若以定例從寬輒敢特符玩法較之無知愚民尤為不肖且既已犯罪斥革即與平人無異豈得因其原屬監生即免為奴致滋縱嗣後監生犯事有似此情罪較重者俱照平人一律辦理至在籍候選之進士舉人及其餘舉貢生員皆屬身列衣冠名登黌序若能安分守法立品讀書為小民倡率原當加以體貌別於齊民倘特符縱肆自蹈刑憲是即不知君子懷刑之意為士林敗類免其加倍治罪已屬法外施仁復轉較平人從輕定擬何以明刑弼

教嗣後進士舉貢生員等祇係尋常過犯不致行止敗檢仍照舊例辦理若係黨惡窩匪卑污下賤者著俱照平人之例問擬以示懲儆欽此

677 乾隆五十六年五月十一日奉

旨閱卷大臣著派舒常諾穆親校閱司員著派寶淑敬順昌奕祿世傑欽此

考試筆帖式

678

本月十一日吏部將雲貴總督富綱保舉堪勝知府之署昭通府大關同知張曾敬一員帶領

見奉

旨張曾敬著交軍機處記名欽此

679

遵查楊鵬舉係內閣中書職分甚小例不立傳謹將該員革職治罪原案

紅本進

呈謹  
奏

680 乾隆五十六年五月十三日内閣奉

上諭朕啟鑾後步軍統領事務著金簡暫行兼署俟  
綿恩百日孝滿後仍交綿恩署理欽此

681 乾隆五十六年五月十三日内閣奉

上諭朕啟鑾後常書著兼署吏部尚書金簡著兼署  
戶部尚書欽此

682 乾隆五十六年五月十四日奉

旨鄒炳泰准其貶封該部知道摺併發欽此

683 臣等遵

旨將長麟全德奏到鹽務各摺會同書麟悉心籌議  
並臣孫士毅前奏於江西建昌府屬界連閩省  
各隘口設卡巡緝各事宜公同商酌查建昌一

府雖距淮南較遠隣近福建向來商人艱於運  
遠鹽價較增閩省私販得以乘機侵越今若將  
建昌應銷官引劃入閩省無知小民惟利是圖  
祇知得尺則尺得寸則寸即可越過建昌沿及  
撫州南昌無所底止於通省鹽務均有關係况  
建昌地方杉關等隘口可恃為門戶堵截若舍  
此關隘則撫州等處俱係平川毫無阻當隣鹽  
必至逐漸侵入且建昌官鹽向係減價敵私以  
通省網力派出公費貼補今設卡添兵等事亦  
係通網攤出於商人並無賠累江西一省如此  
他省可知將來各督撫等的議到時情形大畧  
相同誠如

聖諭整飭釐務忙在各地地方官認真緝私各銷各地  
私販無利可圖不禁自止伏讀

諭旨前後

指示情形無微不燭於商民均有裨益自應欽遵妥  
辦無事更張其添設卡巡章程即照臣孫士毅  
前奏辦理該地方官如果實力奉行官引暢銷  
而私鹽自可淨絕矣謹

奏

乾隆五十六年五月十五日奉

旨依議欽此

684

大學士公阿 大學士伯和 字寄

甘肅陝西河南湖北安徽江西各督撫 乾隆

五十六年五月十五日奉

上諭據保寧奏遣犯羅喜山於本年二月二十九日

在配脫逃等語羅喜山因假裝行客出外叠竊審

依積匪猾賊例發往伊犁給種地兵丁為奴之犯

今膽敢脫逃情殊可惡該犯係江西上高縣人或

徑潛逃回籍或於經過地方逗遛藏匿均未可定

著傳諭甘肅陝西河南湖北安徽江西各督撫一

體飭屬嚴密查拏毋任遠颺漏網所有保寧奏片

並抄寄閱看將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

685

乾隆五十六年五月十五日奉

旨牆見羨等俱准其貶封該部知道摺單併發欽此

額勒春代奏請封一摺

686

臣等查各省年終彙奏及本年開印後應行具

奏各案於乾隆四十九年二月初三日欽奉

諭旨著各該部詳核具題後再行彙送軍機處覆加

考核具奏欽此本年二月初七日<sub>臣</sub>等遵

旨議奏嗣後各該部照例辦理後除送軍機處覆查

彙奏外仍移會吏兵刑等科及稽察各該衙門

御史查核倘有遺漏舛錯不以時奏

聞准科道等據實查叅議處奉

旨准行在案茲查乾隆五十五年分各省彙奏事件

經各督撫陸續奏到各該部遵照成例逐款核

議具題彙送前來<sub>臣</sub>等覆加查核所有各部逐

案核准具題之處俱係遵照章程並無錯誤惟

查盜竊功過等款奏定條例令各該省於三月

初十日內將文武專管兼統轄各職名造冊咨

送以憑查核如有稽延即行議處今各省俱依限咨送到部經吏兵刑三部逐案查明照例具題此內直隸浙江福建陝西廣東四川武職各員咨冊到部遲延相應請

旨照例察議至各省倉庫錢糧一款臣等於五十一年

年查核彙奏時

奏請嗣後應令各該督撫於彙奏時所屬倉庫如有虧缺數目已彌補若干未彌補若干據實奏明如逾違定限者即行叅奏辦理在案今查乾隆五十五年彙奏盤查倉庫各摺奉天直隸江蘇安徽江西山東山西陝西甘肅河南湖北四川廣東廣西雲南貴州均稱並無虧缺情弊其浙江湖南兩省所有各屬倉庫經該撫等奏請展限確查再行結報又福建省據伍拉納奏各府州屬倉庫現在查明著追各數同臺灣從前府倉虧缺穀石并各廳縣倉庫被賊焚搶各款銀數分別著賠請蠲另摺具奏等語應飭令各該督撫速行查奏核實辦理至其餘應行彙奏各件各省俱係遵奉定限逐案奏到並無遲延

遺漏並經吏刑兵工各部先後具題所有臣等核辦乾隆五十五年各省彙奏事件理合分款開具清單恭呈

御覽伏乞

皇上睿鑒謹

奏

乾隆五十六年五月十五日奉

旨知道了欽此

687 查核彙奏事件已未逾限及應行議處各項清單

竊案已未獲分別功過及命盜各案已未擊獲完結等款向例歸併一摺具奏 查定例內州縣等官一年內報竊之案記功記過按年查核記過至四次者罰俸六個月記功至四次者紀錄一次俱以次遞加又定例督緝之道府鎮協統計所屬內竊案獲不及十之三四者罰俸六個月督撫提督臬司獲不及十之二三者罰俸三



個月又例內盜案承緝州縣定有四參限滿降  
調處分其盜案參限未滿一年統計所屬獲不  
及十之二三者督撫提督臬司罰俸三個月盜  
案已滿參限一年內統計所屬獲不及十之三  
四者道府鎮協罰俸六個月督撫提督等罰俸  
三個月嗣於本年二月<sub>臣</sub>等遵

旨議奏以各省督撫提督臬司等有統轄兼轄之責  
向例處分過輕請嗣後所屬新舊盜案獲不及  
十之二三者改為罰俸一年竊案獲不及十之  
二三者改為罰俸半年奉

旨准行在案茲查乾隆五十五年分各省彙奏各  
案除奉天直隸江蘇安徽江西陝西甘肅等省  
統計所屬盜竊案參限已未滿獲犯已及十之  
二三之督撫提督臬司及各省盜竊案獲犯已  
及十之三四之道府等員又承緝州縣功過不  
及四次均毋庸議外其餘文職應行議處之員  
業經吏部將督緝已滿參限盜竊各業獲犯不  
及十之二三之湖廣總督畢沅罰俸三年六個  
月雲貴總督富綱署總督雲南巡撫譚尚忠各

罰俸三年山東巡撫前任湖北巡撫惠齡罰俸  
二年六個月兩廣總督公福康安署總督廣東  
巡撫郭世勳貴州巡撫額勒春各罰俸二年浙  
閩總督伍拉納罰俸一年六個月調任四川總  
督孫士毅署總督保寧前署山東巡撫尚書胡  
季堂前任山東巡撫長麟山西巡撫書麟前護  
巡撫布政使鄭源璣調任湖南巡撫浦霖廣西  
巡撫陳用敷前護巡撫英善均罰俸一年前任  
浙江巡撫琅玕巡撫福崧前任河南巡撫梁肯  
堂護巡撫布政使景安巡撫穆和蘭均罰俸六  
個月前任湖北按察使成汝舟罰俸二年六個  
月貴州按察使萬寧罰俸二年署福建按察使  
王慶長孫思庭前任山東按察使甘定進署按  
察使阿林保按察使陸有仁山西按察使顧長  
紱湖北按察使孫日秉湖南按察使思長署廣  
東按察使嵇承志韓崙按察使張朝縉前任廣  
西按察使聞嘉言署按察使湯雄業陞任四川  
按察使和寧雲南按察使賀長庚各罰俸一年  
前任浙江按察使歸景照署按察使高樹勳前

任河南按察使陳奉茲各罰俸六個月直隸省  
督緝竊盜案獲不及十之三四之清河道方受疇  
罰俸一年六個月大名道丁桂馨署道王銳前任  
清河道鄭製錦各罰俸一年前任清河道朱瀾通  
水道陳昌圖前任天津道慶章天津道喬人傑調  
任口北道金保口北道索諾木札木楚前任保定  
府知府王汝璧署知府申允恭正定府知府蔡封  
永平府知府福慶前任河間府知府楊濬文河間  
府知府戴華齡前任天津府知府單燧署知府莊  
士寬前任順德府知府熊枚前署大名府知府舒  
明宣化府知府甘立德前署西路同知何裕堦西  
路同知蔣雲師前任遵化州知州薛學詩署知州  
范清澄各罰俸六個月山東省督緝獲犯不及十  
之三四之前任登萊青道奇明濟南府知府宋思仁  
罰俸一年六個月前任濟東泰武道歸朝煦前任  
兗沂曹道高璐索寧安署登萊青道姜斌前任濟  
南府知府高天鳳東昌府知府達明阿前任兗州  
府知府高宮壘沂州府知府白啟泰曹州府知府

蔣繼煥前任濟寧州知州張玉樹各罰俸一年濟  
東泰武道熊枚武定府知府唐若瀛萊州府知府  
徐大榕前任青州府知府楊紹表青州府知府公  
哉前署沂州府知府王遇亨前任濟寧州知州王  
道亨署知州方應時王毅各罰俸六個月山西省  
督緝盜案獲不及十之三四之冀寧道盛祿河東  
道和明署太原府知府高燦知府海昌前任平陽  
府知府袁行簡署知府金明源宋開衡各罰俸  
六個月江蘇省督緝竊案獲不及十之三四之  
江寧道王雨溥淮揚道谷廷珍前任常鎮道通  
恩江寧府知府李廷敬松江府知府馮鼎高署  
淮安府知府孫同琬揚州府知府馬慧裕通州  
知州呂燕昭各罰俸六個月安徽省督緝竊案  
獲不及十之三四之前署廬鳳道門應兆前署  
徽州府知府善慶前署池州府知府倪廷模池  
州府知府荆道乾前署廬州府知府李祖瑞陞  
任鳳陽府知府谷廷珍各罰俸六個月浙江省  
督緝竊案獲不及十之三四之前任杭嘉湖道  
清泰湖州府知府雷輪各罰俸一年寧紹台道

左周金衢嚴道玉德杭州府知府明保前任嘉興府知府孝順阿署知府鄧汝勉知府劉嘉會寧波府知府克什訥紹興府知府李亨特台州府知府李抗温州府知府張慎和各罰俸六個月福建省督緝盜案獲不及十之三四之督糧道錢受椿興泉永道胡世銓汀漳龍道特克慎陞任福州府知府成寧署知府元克中前署泉州府知府德泰漳州府知府史夢琦各罰俸六個月河南省督緝竊盜案獲不及十之三四之河陝汝道劉同敬罰俸一年六個月開封府知府武先慎汝寧府知府彭如幹河南府知府張松孫各罰俸一年陞任開歸陳許道吳璥前任彰衛懷道唐侍陞彰衛懷道陳文緯南汝光道陳鍾琛衛輝府知府德昌南陽府知府完顏岱前任陳州府知府蘇爾芳阿各罰俸六個月湖北省督緝竊盜案獲不及十之三四之鹽法武昌道保定罰俸二年署武昌府知府張映鸞罰俸一年六個月漢黃德道張長庚安襄鄖道田鳳儀武昌府知府德興漢陽府知府劉永銓黃

州府知府先福前任安陸府知府吳棗龍德安府知府盛德昌前署襄陽府知府閔思敬鄖陽府知府徐兆伯各罰俸一年荆宜施道布顏前署安陸府知府羅經安陸府知府施奕學前任荊州府知府張方理襄陽府知府楊芳春署宜昌府知府傅巽施南府知府赫爾謹各罰俸六個月湖南省督緝盜案獲不及十之三四之鹽法長寶道姚學瑛衛永郴桂道世寧前署岳常澧道李大霽岳常澧道臧榮青前署辰永沅靖道伯起圖辰永沅靖道王家賓前任長沙府知府陳嘉謨長沙府知府潘成棟寶慶府知府王汝恂前署澧州知州朱敬修澧州知州方維祺各罰俸六個月陝西省督緝竊盜案獲不及十之三四之西安府知府李國祺同州府知府蕭登生各罰俸一年前任督糧道溫承惠漢興道盛時杰前任延榆綏道楊壽楠署道富興阿延榆綏道廣厚署西安府知府啟光興安府知府王應芬乾州知州張位台各罰俸六個月廣東省督緝盜案獲不及十之三四之督糧道吳俊肇羅道阿

彰阿廣州府知府張道源陞任肇慶府知府王  
仕基署知府侯學詩各罰俸六個月廣西省督  
緝盜案獲不及十之三四之右江道宋文型罰  
俸一年護鹽法道查淳署右江道李鏡圖右江  
道薩騰安梧州府知府王友蓮署泗城府知府  
潘鍾濂各罰俸六個月四川省督緝盜案獲不  
及十之三四之署川東道林僑罰俸一年六個  
月永寧道舒弼罰俸一年川東道王啟焜前署  
川北道良柱川北道博純成都府知府李憲宜  
重慶府知府趙由坤潼川府知府蘇文輔叙州  
府知府吉陞保各罰俸六個月雲南省督緝盜  
案獲不及十之三四之迤東道恩慶署迤東道  
蕭文言迤西道楊以浚昭通府知府敦柱曲靖  
府知府常德署知府周名炎各罰俸六個月貴  
州省督緝盜案獲不及十之三四之前任糧儲  
道孫曰東貴西道張繼辛署貴西道程國璽貴  
東道尼堪富什渾貴陽府知府牆見羨大定府  
知府色 南籠府知府張鳳枝遵義府知府  
劉詔陞各罰俸六個月其餘各省承緝之丞倅

州縣等員應行議處及記功記過俱經吏部會  
同刑部查照各省原冊分別辦理彙核具  
題各在案至武職應議各員除直隸浙江福建陝

西廣東四川等省咨送到部遲延另行請

旨察議又奉天甘肅二省查核並無處分據兵部議  
將督緝盜竊各案獲犯不及十之二三之湖廣  
提督俞金鰲罰俸四年六個月福建提督哈當  
阿廣東提督高瑛署提督事總兵蒼保廣西提  
督梁朝桂署提督事總兵王林湖廣署提督事  
總兵尹德禧均罰俸二年浙江提督陳杰署提  
督事總兵謝斌貴州提督彭廷棟署提督事總  
兵馬詔蛟均罰俸一年獲犯不及十之三四之  
山東總兵柯藩朱泰德署總兵事副將富寬湖  
北總兵彭之年廣東總兵趙邦詔均罰俸一年  
六個月山西總兵福敏泰浙江總兵伊里布署  
總兵事副將實誠河南總兵袁敏王普福建總  
兵丁朝雄常泰廣東總兵魏大斌署總兵事副  
將德敏廣西總兵孝順阿普吉保署總兵事副

將常福湖北總兵馬定鼎署總兵事副將張鵬  
蕭樊繼祖均罰俸一年山西總兵巴揚阿福建  
總兵李芳園江南總兵王炳前署總兵事副將  
豁隆武廣東署總兵事副將尚維勳廣西署總  
兵事副將德克登布湖南總兵劉君輔署總兵  
事副將趙玉衡雲南總兵竇瑣貴州總兵范建  
豐珠隆阿署總兵事副將永寧花連布均罰俸  
六個月其餘督緝承緝之副叅遊都以至千把  
外委應行議處及記功記過各員並據兵部會  
同刑部查照該省原冊分別核辦照例具  
題各在案臣等詳加覆核俱無遺漏應毋庸議  
各省通緝逃遣人犯及新疆改發內地本省起解  
接遞人犯有無脫逃等款 查各省通緝遣犯  
前經奉

旨通緝人犯於何省脫逃責成該省州縣並原籍州  
縣實力緝捕如仍年久無獲交部量予議處等因  
欽此經吏部

奏准於向例二叅降調外再將從前未獲年分按  
照二限各罰俸二年在案今查乾隆五十五年

分直隸安徽河南陝西甘肅雲南等省奏到拏  
獲逃遣共一十六名尚非全無弋獲至各省改  
發內地及起解接遞之犯有無脫逃各督撫俱  
於年終彙奏隨摺聲明並經刑部照例核議應  
毋庸議

拏獲尋常案犯一款 查拏獲逃徒及賊匪逃人  
向例歸入年終彙奏能獲五名以上者列為一  
等准其紀錄二次獲至二名以上者列為二等  
准其紀錄一次其三等之員毋庸議叙今乾隆  
五十五年分除直隸浙江湖南甘肅廣東廣西  
等省業經該督撫隨摺聲叙並無拏獲尋常案  
犯應行議叙之員惟安徽江西福建四川等省  
有拏獲三四名至一二名列為二等三等分別  
記功之員其餘奉天江蘇河南山東山西陝西  
雲南貴州等省即有拏獲尋常逃匪亦俱隨案  
咨明刑部照例分別查辦均無舛錯應毋庸再  
議

藩庫銀數及各屬倉庫義社倉穀耗羨有無虧挪

四款 查以上四款倉庫錢糧關係綦重如有虧挪等弊即應嚴叅治罪今據奉天直隸江蘇安徽江西山東山西陝西甘肅河南湖北四川廣東廣西雲南貴州各督撫奏稱並無虧短情弊其浙江省據巡撫福崧奏各屬倉庫錢糧現

在歸於

大計展限業內一併確查結報又福建省據總督伍拉納奏各府州屬倉庫現在查明著追各數同臺灣從前府倉虧缺穀石並各廳縣應存倉庫被賊焚搶各款銀穀分別著賠請豁一併另摺具奏又湖南省據巡撫馮光熊奏各屬倉庫有無虧挪請歸於到任三個月限內盤查事竣再行分別奏咨各等因所有查明並無虧空各省應令該督撫等隨時稽察毋致稍有虧缺其有應行查核之浙江福建湖南等省應飭該督撫上緊確查分別辦理並即酌籌賠補一律實貯無虧毋得再有遲逾致干重咎

銀號無弊 查此項定例各省藩司循例具奏如有弊竇嚴叅治罪今乾隆五十五年分各省藩

司俱依限奏到並無逾限業經戶部按款查核民數穀數 查此件定例造報舛錯例應罰俸三個月今乾隆五十五年分各省依限造報並無舛錯遺漏

甄別教職佐雜千總 查以上三限並摺具奏又定例內載甄別不及百之二三者照徇庇例降三級調用今乾隆五十五年分各省督撫奏到並無違例亦無逾限均經吏兵二部查核具奏屬員託故赴省扣展公出日期及濫行換帖宴會 查以上二條前經定例如有違犯者本員照不應重私罪降三級調用上司照失於覺察例降一級留任今乾隆五十五年分各省督撫奏到並無此項積弊陋習各省奏到亦並未逾限

嚴禁坐省家人長隨 查此項如有違犯者定例本官降三級調用上司降一級留任今乾隆五十五年分各省奏到俱謹遵

功令並無坐省家人滋事之處奏到日期亦未逾限但恐日久玩生仍蹈故轍應行令各省督撫

嚴加查察如有違犯嚴叅辦理

收受屬員門包押席銀兩及令屬員承辦筵席

查以上三條定例如有違犯者請

旨革職治罪今據各督撫年終照例彙奏俱稱並無

此等陋規但恐日久怠玩漸滋弊端應令各省

督撫加意稽查嚴行管束倘有陽奉陰違一奏

了事者別經發覺照例革職治罪

各屬城垣完固 查此條工部每年三月內彙奏

一次如有上年列入急修之工次年未經奏報

者將該督撫照例議處今查乾隆五十五年分

工部覆稱各省並無違例應議之案

各項應修船隻及估變物料在二百兩以上 查

以上二條係歸併一摺具奏其各省節省修造

船隻銀兩向於上年十二月軍機處查核彙奏

歷年照舊辦理在案其估變物料數在二百兩

以上有冊報未協或估值短少者工部隨案駁

查不待彙奏時始行議駁所有乾隆五十五年

分各省奏到之摺俱逐案奏明應毋庸再議

禁止私立德政碑及私設班館二款 查以上二

欵各督撫俱於年底奏到各屬並無私行設立  
奉行在案

688 乾隆五十六年五月十六日內閣奉

上諭前因民間攪使小錢節經降旨各督撫嚴定章程

通行禁止並恐地方官收買小錢奸民等即將所

易大錢銷毀仍行私鑄小錢繳換圖利是則名為

交官收買轉導以私鑄私銷之弊因復諭令將給

換大錢之例停止勒限收繳以期淨盡今思市集

錢文多係商賈貿易流通間有攪雜民間收藏行

使各處皆然茲令小錢赴官繳出免其治罪毋庸

換給大錢固可剔除奸弊但恐小民趨利若鶩收

藏小錢皆係貿易所得見地方官僅令將小錢全

行交出不給官值不但無利可圖且使一空蓄積

愚民觀望遷延呈繳必不能踴躍甚或私行藏匿

日後復間雜行使定例雖嚴而小錢終無淨盡之

日仍屬有名無實嗣後著各督撫轉飭地方官出

示曉諭凡民間呈繳小錢若止數百文數十文者

為數無多不必將大錢給換其呈繳至數十百千串者查明實係零星存積並非私銷私鑄即按照繳出小錢酌量行酌給大錢小民等不致賠累自必爭先呈繳可期收買淨盡但須將收買價值確加核定不可令稍有贏餘致奸民仍行轉售私銷弊中滋弊也將此再行通諭知之欽此

689

乾隆五十六年五月十六日內閣奉

上諭署理江蘇巡撫長麟自棄瑕錄用以來查拏盜匪會匪嚴緝鹽梟等業於地方一切事件辦理頗屬認真著加恩實授江蘇巡撫給還頂帶仍著賞戴花翎該撫益當感激朕恩倍加奮勉毋致始勤終怠以副朕格外加恩訓誨成全至意欽此

690

乾隆五十六年五月十六日奉

旨顧五著即處斬餘依議欽此

直隸拏獲劫盜傅大頭

等案內逸犯一案

691

大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十六年

五月十六日奉

上諭據正紅旗滿洲都統等奏廣東已故通判永清前署封川縣任內辦理埠務拖欠餉項共銀四千七百餘兩准兩廣總督咨查該員在京產業催令完繳現查該員名下止有地一項四十餘畝約值銀二百餘兩其餘並無別項家產可抵請行令廣東著落各該管上司代賠完項等語永清於署封川縣任內辦理埠務拖欠餉銀四千七百餘兩向來辦理鹽務各員俱有餘潤可沾何以該員在任時致有拖欠餉項之事如係經理不善所致則該省埠務自不止此一處何以他人並無拖欠獨該員名下致欠四千餘兩之多自應詳細確查若他人俱係足額唯永清獨有拖欠是該員在任時必有侵欺入己之事則查估產業自應豐裕何以止有此數恐此外尚有隱匿寄頓情弊如永清並無侵蝕而其所欠銀兩另有情節亦應查明酌辦不



值遽將該員產業查抄變抵亦不應遽令該管上司分賠且永清僅係知縣辦理埠務拖欠已如此之多則所管道府等員又當何如是此業必須確切查明方可核辦著傳諭福康安即將永清拖欠餉項實在情節及此外有無似此拖欠之人即行查明據實具奏再降諭旨朕辦理庶務一秉至公地方官員有實係侵貪肥橐虧缺帑項者自不令坐擁厚貲稍為寬貸若虧欠之故另有別情亦必據實辦理或行寬免斷不肯稍涉含混致有屈抑福康安惟當仰體朕意據實查奏不可稍存迴護之見也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

692 乾隆五十六年五月十七日奉

旨孫士毅著改為降一級從寬留任朱珪著降一級留任兩淮鹽運使鹿荃著從寬改為革職留任餘依議欽此

693 同日奉

旨同興蔣雲師俱著從寬改為革職留任欽此

694 查工部奏四川修理新疆五營演武廳教場藥

局工程一業經部三次題駁該督仍未將木植勦重數目運送里數逐款聲明開造細冊以致無憑核算工部

奏請飭查係屬照例辦理但臣等詳細閱看雖摺內已將辦理此業總督及承辦各官查取職名送部議處而未經聲明參奏字樣殊欠明晰謹擬寫寄信鄂輝

諭旨進

呈謹

奏

十八日

695 大學士公阿 大學士伯和 字寄

四川總督鄂 乾隆五十六年五月十八日奉

上諭工部奏川省修理新疆五營演武廳教場藥局一案該督造冊題銷所開木植筋重數目及按里折給脚價之處未經分晰開明經部三次題駁該督仍未逐款聲明開造無憑核算請旨勅下該督查明題報並查明辦理此案總督及承辦官職名送部議奏等語工程銷算例應將物料細數逐一造報今此案木植數目筋重及運送道里遠近屢經部駁仍未聲覆殊屬延緩著傳諭鄂輝即照指駁各款據實聲叙即行摺奏一面另造妥冊報部以清塵業至辦理此案總督及承辦各官並不遵駁核報均屬不合著即據實查明交部議處欽此

696 乾隆五十六年五月十八日奉

旨馬元勳張紹祖俱著准其貤封該部知道摺併發  
欽此

697 乾隆五十六年五月十八日奉

旨這所叅化州知州張祺著革職交與該督等提同案內人犯一併嚴審定擬具奏該部知道摺併發  
欽此

698 本月十八日吏部將江蘇省歷俸十年並押運

漕糧抵通之現任江寧府南捕通判陳遂一員  
帶領引

見奉

旨交軍機處記名欽此

699 乾隆五十六年五月十九日內閣奉

上諭江西建昌府知府員缺著李基補授欽此

700 乾隆五十六年五月十九日奉

旨甘運滄王文在俱著准其貤封該部知道摺併發  
欽此

701 乾隆五十六年五月二十一日內閣奉

上諭朕此次巡幸木蘭駐蹕熱河所有經過地方著  
蠲免地丁錢糧十分之三欽此

702 乾隆五十六年五月二十一日奉

旨黃象新袁定綱徐忠薛廣俱著准其馳封該部知  
道摺併發欽此

703 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 湖北巡撫福 湖南巡撫姜

乾隆五十六年五月二十二日奉

上諭畢沅等奏永順宜昌兩府每年定額不過各銷  
三千餘引淮商並不爭此綱地實係恃此數處險  
隘以為蔽私之地如改食川鹽實有扞格難行之  
處應請仍循其舊等語此事昨已明降諭旨將各  
省行銷引地悉照舊定章程辦理毋事更張矣今  
畢沅所奏永順宜昌二府不復改食川鹽尚與諭  
旨相合自應照舊辦理惟所稱永順龍山等四縣

如遇淮鹽不能接濟仍令零星買食川鹽聽從民  
便但不得過十斤以上一節所言殊屬未當該處  
毗連川境小民因淮鹽不能接濟零星買食川鹽  
亦事所常有但不可定以銷鹽斤數使百姓以買  
食私鹽業已奉有明文遂致逐漸增多無所底止  
設如畢沅等所奏以十斤為率明立科條不啻導  
以興販私鹽之路况小民趨利若鶩或於十斤之  
外加增數斤地方官豈能按戶稽查逐一秤驗如  
果私販鹽斤事經發覺自當按法懲處若係官鹽  
不能接濟零星買食地方官祇可行所無事所謂  
民可使由之不可使知之畢沅等所奏永順等四  
縣買食川鹽定以十斤之處不必行將此各傳諭  
知之欽此遵

旨寄信前來

704 乾隆五十六年五月二十二日奉

旨黃漢黃銓黃唇黃綱俱著即處斬餘依議欽此

705 乾隆五十六年五月二十二日奉

旨范應斗李維翰俱著准其馳封該部知道摺併發  
欽此

706 乾隆五十六年五月二十三日奉

旨戶工二部議覆淮安等關徵收稅課一年期滿淮安關短少盈餘銀六萬六千六百餘兩宿遷關短少盈餘銀四千九百餘兩著落該監督照數賠補等語固屬照例辦理第念上年山東安徽二省被水較廣兼之王平莊民趁冲塌豆貨重船阻滯難行商販稀少以致盈餘比較不敷尚係實在情形所有此次淮安關短少盈餘銀六萬六千六百餘兩宿遷關短少盈餘銀四千九百餘兩共短少銀七萬一千五百餘兩著落該監督賠補銀一萬兩其餘六萬一千五百餘兩俱著加恩寬免並免其議處餘依議欽此

707 五月初七日董椿奏准宿兩關一年期滿徵收

盈餘比較短少一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

諭旨著董椿將該關盈餘因何短少之處實在情形

據實速奏再降諭旨欽此今董椿覆奏並戶工二

部議覆摺俱於本日

呈遞臣等遵查乾隆五十五十一二三等年淮安

等關徵收稅課俱短少盈餘銀九萬及十萬餘兩

不等均奉

恩旨著賠補銀一萬兩餘著加恩寬免此次該關短

少盈餘銀七萬一千五百餘兩既據該監督奏

明實在情形臣等謹遵照歷屆擬寫賠補銀一

萬兩餘著

加恩寬免

諭旨一併進

呈謹

奏

708

大學士伯和 字寄

江南河道總督蘭 乾隆五十六年五月二十

四日奉

上諭蘭第錫奏查驗徐屬工程情形並黃河水勢驟  
 長各工搶護平穩一摺所辦俱好毛城鋪滾水壩  
 工及王平莊對岸河勢坐灣應挑引河各工均關  
 緊要前經孫士毅會同蘭第錫勘估興修辦理甚  
 屬妥協嗣因孫士毅陞任來京蘭第錫親往該處  
 查驗各工並無草率弊混足見該督等董率有方  
 深可嘉獎現在距伏汛尚有月餘徐城北門誌椿  
 新舊已長水至一丈三尺甚為浩瀚蘭第錫與孫  
 士毅先事預備料物齊全俾鑲防工段得以應手  
 而蘭第錫督同道將等分報搶辦各工保固無虞  
 覽奏深為欣慰但未經入伏以前水勢已如此增  
 長將來入伏後尤應加倍慎重不可稍涉大意此  
 時書麟甫由京啟程到彼尚需時日著傳諭蘭第  
 錫務當督飭在工文武各員一律留心防護以期  
 各工穩固黃流順軌方為妥善將此諭令知之欽  
 此遵

旨寄信前來

709

大學士伯和 字寄

河東河道總督李 乾隆五十六年五月二十

四日奉

上諭本日蘭第錫奏徐城北門誌椿原存長水七尺  
 八寸五月初七八九等日驟長水五尺六寸新舊  
 共一丈三尺四寸水勢甚為浩瀚督同道將等分  
 投晝夜搶辦現已消退二尺餘寸各工俱穩固無  
 虞等語豫省黃河地居江南上游今徐城誌椿已  
 長水至一丈三尺河南水勢自必先行加長該處  
 險要堤壩曾否保護穩固何以未據李奉翰奏報  
 豈不知朕屢念河工無時或釋耶著傳諭該督將  
 豫省黃流增長丈尺及各工平穩情形即行具奏  
 以慰廑注將此由三百里諭令知之欽此遵  
 旨寄信前來

710 查豫省河工現在水勢情形尚未據李奉翰奏

到臣等謹擬寫問

諭旨進

呈謹

奏

711 乾隆五十六年五月二十五日內閣奉

上諭尹壯圖前經降旨以內閣侍讀用但念員缺甚

少補授無期著加恩以禮部主事即用欽此

712 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 乾隆五十六年

五月二十五日奉

上諭據伍拉納等奏委署臺灣道府印務并札會水師提督暫緩內渡一摺所奏是臺灣民風刁悍地方緊要甫經奎林等懲創以後必須熟手經理方足以資整頓該督等所奏署理道篆之楊廷理前已有旨將該員補授臺灣道矣至奎林回赴廈門

接授水師提督印務自應俟丁朝雄渡臺及新任道員到任後再回廈門俾得互相交替於海外地方益昭慎重俱著照該督等相請辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

713 乾隆五十六年五月二十五日內閣奉

上諭伍拉納奏查明捕盜奮勉之文武分別奏咨辦理一摺閩省文武各員弁經伍拉納飭委緝拏洋盜該員等均能認真出力前後緝獲多名甚屬可嘉丁朝雄錢受椿胡世銓徐夢麟雖係專閩道府大員分當宣力但始終奮勉獲盜甚多著加恩一併交部議叙同知黃奠邦等八員獲盜俱在十名以上著送部引見但該員等均係捕盜得力熟手現在尚有逸盜未獲若令其同時赴京引見恐該省緝捕乏人著該督酌量先令一二人給咨送部俟該員引見回閩後再行陸續咨送方為妥協其在本境堵截拏獲逸盜十名以下之文職知府德

奏等十八員武職署副將海隆阿等十八員俱著  
交部按照伍拉納造送清冊分別酌予議叙以示  
鼓勵餘著照該督所請行該部知道摺併發欽此

714  
查上年全漕尾幫於五月二十五日全過濟寧  
今據管幹珍和琳奏五月十八日尾幫全數過  
濟比上年較早七日謹  
奏

715  
召見時面奉  
啟者

諭旨乾隆十七年乾清門二等侍衛巴思哈奉命由  
寧古塔至三姓地方察看畢歌河瑞樹經巴思哈  
將樹形詳繪為圖并將所過山川形勝如寧古塔  
西南之阿補淀內之石梁正西之德哩安平石  
船廠東南之拉法峯城東之祈雨潭繪圖五幅及  
船廠所屬地方繪圖一幅並捕得異雀八種一併  
繪圖附摺進呈現在此項圖幅自必存貯造辦處

圖房或在懋勤殿收貯著金簡將各圖查出寄至  
行在呈覽再此時異雀八種諒已無存彼時係歸  
何處飼養一併查明欽此布

大人遵

旨詳查隨本報之便寄來以備進  
呈並詳悉覆知不必專摺具奏順候  
近祺不一

和等同具

716  
大學士伯和 字寄  
四川總督鄂 乾隆五十六年五月二十八日  
奉

上諭鄂輝奏拏獲糾夥連劫盜犯分別正法發遣一  
摺盜犯尹耀等糾夥肆劫於旬日內竟至四案之  
多實屬目無法紀該督審明後將查劫多次及為  
首之犯即行正法所辦尚是此等盜犯結夥成羣  
連日行劫自即係囑匪餘黨惟在該州縣等實力  
緝拏嚴行處治方足以戢奸宄而靖地方正如閩  
粵等省洋盜聞拏緊急即四散藏匿若巡緝稍有

懈弛仍復聚而為匪不可不隨時隨地留心偵緝以絕根株著傳諭鄂輝嗣後總當督飭所屬密訪嚴拏不使囓匪餘孽潛滋暗長方為妥善除原摺交部核議外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

718 乾隆五十六年五月二十八日奉

旨這所參署桂陽縣事試用知縣陳玉垣著革職交與該撫提同案內犯証嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

717 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 乾隆五十六年五月二十八日

奉

上諭馮光熊奏湖南寶慶府帶徵商稅一摺內稱一年期滿除足原額外盈餘銀八百三十餘兩此項盈餘銀兩例解司庫留充公用業經全數解司其不敷丁役辛工飯食等銀七十餘兩由司核給造銷等語各關徵收稅課期滿比較原有具奏之例至一府一縣額徵商稅向來未見奏報比較何以寶慶一府該撫獨尚摺奏聞且既據奏現有盈餘全數解司何以又有不敷之項由司核給摺內聲叙殊未明晰現在馮光熊業已交篆啟程想此時姜晟將次到任著傳諭該撫即行查明據實覆奏

719 查例載因強姦執持金刃先器戳傷本婦已成

姦者擬斬監候未成姦者擬絞監候又因強姦將本婦立時殺死者擬斬立決各等語今刑部題覆安徽省民人王青強姦邵氏不從用刀砍傷一案因尚未成姦且邵氏傷經平復是以照例問擬絞候但該犯因強姦不從輒敢用刀將邵氏連砍四傷殊屬淫惡臣等告知刑部存記趕入本年秋審情實辦理謹

奏



720 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜

乾隆五十六年六月初一日奉

上諭王懿德奏江西協撥貴州兵餉過境由辰溪縣撥役解至芷江縣離舊驛收貯夜間被賊竊去鞘銀一千兩請將辰溪縣知縣楊義言等革職拏問一摺已明降諭旨將該縣等一併革職拏問交與該撫提同兵役人等嚴審定擬具奏矣至所稱現經獲賊唐開泰等三名審訊時忽認忽翻難以懸定等語餉銀過境該犯等膽敢起意偷竊至一千兩之多實屬目無法紀自應嚴加審訊從重辦理但必須起獲賊據供認確鑿始成信讞若現無賊據而該犯又復隨認隨翻恐刑逼誣供致有屈抑此時姜晟想已抵任該撫久任刑部於此等案件自能詳慎妥辦著傳諭該撫務須提犯親訊細心研鞫必得起出原賊方可定為此案正賊固不可任其狡展抵賴亦不得草率定讞稍有枉屈也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

721 乾隆五十六年六月初一日奉

旨這所參餉鞘過境並不委員接護之辰溪縣知縣楊義言及不嚴加防範之芷江縣知縣方廷機兼管驛務縣丞李世祥並江西委員撫州府經歷孫澧著一併革職拏問交該撫提同兵役人等嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

722 臣和 等謹

奏為遵

旨議奏事長麟等奏會勘江西建昌鹽務酌擬杜私銷引章程一摺乾隆五十六年六月初一日奉硃批原議大臣議奏欽此據長麟等奏稱建昌一府實為江西淮引藩籬該府並無官設鹽店向係淮商由大江運鹽至省城轉付水販認領行銷各水販若不認領官引不敢公然開店既經領引開店隨得假公行私認領官引之數少收買私販之數多即或設卡添兵能絕私販來源而水販有意刁難轉或暫時歇業既不收買私鹽亦不承領官引不惟引課有虛懸之弊而小民

亦多淡食之虞是欲解等私鹽亟宜先開引店應請於建昌府簽派妥商一名開設總店一處其所屬之四縣俱各分設子店俾民間俱有買食之處而水販不致壟斷居奇仍由鹽道隨時查看行銷情形督令源源接運不得如從前之旋設旋撤再閩省與建昌府接壤之各州縣現在行銷鹽價每觔二十八文建昌府行銷鹽價每觔三十四文不惟此縣食鹽之價貴彼縣食鹽之價賤其犬牙相錯處且有兩縣民人共處一村者東隣食賤西隣即已食貴攙雜錯處其勢既難區分而地棍匪徒即得以越境買私之條藉端訛詐尤於里巷小民不無關礙臣等查建昌一府向稱減價敵私但所減價值較之閩鹽時價尚屬增昂且係准商減價付之於水販而水販並未減價賣之於百姓辦理原未妥協應請將建昌府所屬五縣照閩省現在行銷時價減為每觔二十八文於設立鹽店處所明張曉諭使民周知兩省交界鹽價既屬相同私販無利可圖自必漸為歛跡此後建昌府鹽價總

照閩鹽價值隨時長落核實辦理以免兩歧至向來緝私之法未嘗一日或廢而梟販卒未能淨盡者大抵皆緝私兵役並未實心任事之故請嗣後無論巡役兵民但能拏獲梟犯者即將所獲鹽貨車船頭匹全行賞給其所賞鹽觔許該巡役兵民即攜赴就近官商鹽店令商人查照現賣時價八折給領鹽觔由商轉銷至所賞車船頭匹獲犯之日准該巡役兵丁自行看管定案後即准其自行變賣倘兵役等仍敢包庇縱私一經民人告捕緝獲即將該管官升嚴行參處兵役與梟犯一體治罪等語臣等伏查各省行銷額數其官引之滯銷總由私鹽之充斥而揆其所以充斥之故固由緝私之不力亦緣立法之未周即如江西省建昌一府向無官設鹽店係准商由大江運鹽至省城轉付水販認領行銷該水販惟利是圖既得認領開店遂至假公行私勢必收買私販藉端售賣滋弊無窮長麟等請開設官店以杜水販壟斷行私之弊

自為利商便民起見應如所奏准其於建昌府發派安商一名開設總店一處其所屬之四縣俱各分設子店仍由鹽道隨時查看行銷情形督令該商源源接運務令前引尚未銷完後引即應運到私鹽自可日減官引勢必日增於商民兩有裨益至長麟等奏請將建昌府所屬五縣現在鹽價每觔三十四文者照閩省行銷時價減為每觔二十八文固係減價敵私之法但所議尚未周到閩省鹽斤侵銷建昌已非一日今見建昌鹽價與該處相埒奸販等何難暫時再減希圖建昌民人仍行買食閩鹽則所稱減價敵私仍屬有名無實臣等悉心核議如閩省行銷時價每觔二十八文者建昌減為二十六文若閩省減為二十六文者建昌再減為二十四文總使該處鹽價比閩省較賤則私販無利可圖其侵越之弊自可不禁而止况以通綱之力幫助建昌一府即減價賤售於商人並無賠累而江西淮引皆得特建昌為藩籬從此暢行無滯於衆商均可共資利賴再建昌一府鹽價

現在每觔三十四文其附近建昌之撫州等處鹽價該撫等摺內未經一併開明亦屬疎漏該撫等因建昌鹽價較昂恐民人買食閩鹽故為減價敵私之計殊不知附近建昌之撫州等處離閩境亦不甚遠該處鹽價諒與建昌相等若僅減建昌鹽價而附近之撫州等處鹽價仍較閩省昂貴則私販等趨利若鶩勢必繞道越過建昌潛赴撫州等處私自行銷是該撫等減價之法祇能杜建昌一府私鹽而撫州等處仍復不能盡絕防一弊又滋一弊立法仍未為盡善應令該撫等將附近建昌之撫州等處鹽價每觔若干文詳晰聲叙並如何一律酌減永絕閩私侵越之處據實詳查酌減覆奏至長麟等所請嗣後無論巡役兵民但能拏獲私販者即將所獲鹽貨車船頭匹全行賞給其所賞鹽斤許該巡役兵民立即攜赴就近官商鹽店令商人查照現賣時價八折給領其鹽斤由商轉銷所賞車船頭匹亦即於獲犯之日准巡役兵丁自行看管不許承審衙門書役勒索分肥定案之

日即准其自行變賣等語均應如所奏辦理並著該督撫嚴飭所屬於建昌各要隘處所隨時留心巡緝如有兵役等色庇縱私一經民人告捕緝獲即將該管官弁嚴行叅處兵役與梟販一體治罪并將減價充賞各緣由出示曉諭俾衆共知再咨明閩省督撫於交界處所一律委員堵截查辦如此定立章程則私販無所托足而官引日漸暢銷矣所有臣等酌議緣由理合恭摺具奏是否有當伏候

奏

皇上訓示遵行謹

六月初一日

723

本年五月初十日陝甘總督勒保奏請將降調鞏昌府知府陳漢照所降之級加倍捐復仍留甘省差遣一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨部議上時提奏欽此今據吏部知會陳漢捐復之

處照例議駁臣等謹遵  
旨提奏並抄錄勒保原摺進

呈謹

奏

724 乾隆五十六年六月初二日奉

旨吏部議駁勒保奏請將原任鞏昌府知府陳漢照例捐復一本所駁甚是著依議行此事前據勒保奏稱陳漢在知府中頗為出色其降調究屬因公懇請照所降之級捐復留甘差委等語彼時朕以該員係因公降調諭令軍機大臣存記俟部議上時原欲准令捐復今據吏部議覆以陳漢前在禮部郎中任內遺失紅本非尋常疎忽可比應不准其捐復因復看勒保摺內僅稱查其原案究屬因公並未明叙罪由顯係希圖朦混殊屬非是遺失紅本之罪非尋常因公是誤况有旨重處豈得謂之獲咎較輕竟率行懇請捐復耶勒保著飭行欽此

大學士伯和 字寄

刑部堂官 步軍統領衙門 乾隆五十六年

六月初二日奉

上諭據金簡奏拏獲再犯竊賊張三照律枷號發交  
宣武門監看守於二十四日夜在監脫枷逃走請  
將看監門甲賀特亨額門軍德成德福俱革退馬  
甲步甲交與刑部審訊等語張三係再犯偷竊枷  
號既經發交宣武門監理應嚴加防範乃門甲賀  
特亨額等並不小心看守致令乘夜脫逃據供張  
三脫下鑰鎖枷號越牆逃走其脫枷之時豈竟無  
聲息賀特亨額等三人豈有同時睡熟毫無知覺  
之理恐有知情故縱情弊不可不嚴行審究著交  
刑部將門甲賀特亨額等嚴切訊鞠務得實情定  
擬具奏其在逃之賊犯張三並著金簡飭派員升  
番役人等嚴緝速獲一併送部從重究辦毋任遠  
颺將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 山東巡撫惠

乾隆五十六年六月初三日奉

上諭管幹珍和琳奏五月二十八日江西尾船已全  
數催出臨清惟閘外衛河水勢近日微形消落現  
將湖河各閘亮板北注以資浮送等語衛河水勢  
消落自係豫省雨水未能沾足之故直隸山東河  
南三省自四月二十七及五月初旬奏報得雨後  
迄今未據續奏看來各處於五月初旬以後俱未  
經續獲甘霖雖該三省麥收據報八九分不等此  
時想經刈獲登場固資晴日晒晾而大田正當長  
發之候尤賴雨澤滋培著傳諭梁肯堂穆和蘭惠  
齡將現在曾否續得甘膏農情有無望澤是否不  
致妨礙之處各行據實速奏以慰廛注將此由四  
百里各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

大學士伯和 字寄

河東河道總督李 乾隆五十六年六月初四

日奉

上諭前經蘭第錫奏徐城北門誌椿原存長水七尺八寸五月初七八九等日驟長水五尺六寸新舊共一丈三尺四寸因思豫省黃河地居江南上游徐城誌椿已長水一丈三尺有餘河南水勢自必先行加長傳諭李奉翰將該省黃流增長丈尺及各工保護情形即行具奏本日該督奏到查勘曹單黃河工程水勢一摺內稱曹單一帶黃河於五月初六七等日陸續長水三尺九寸初十日後漸次消落現在僅存長水一尺八寸其曹縣六堡自長水之後共深二丈七八尺溜勢湍激暢行下注河底可期愈加刷深直達江境等語所奏尚係東省黃河水勢而於豫省五月間長水情形仍未經奏及此時將屆伏汛一切河水長落及保護工程事關緊要該督奏報情形自應由驛三四百里馳遞乃僅交差弁齎呈殊屬遲緩豈不知朕屢念河防

時禁宵旰耶著傳諭李奉翰即將前次降旨詢問豫省水勢曾否加長並各處險要堤壩是否穩固情形據實速奏以慰屢注毋再遲延將此由五百里諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

乾隆五十六年六月初四日奉

上諭福康安等奏審明崖州拒捕戍官首夥盜犯分別正法並拏獲盜首大辦三李廣才及各船拒捕夥犯二十五名押解來省審辦等語所辦好此次緝獲首夥各犯之文武員弁著福康安等查明開單咨部分別議叙以示獎勵又另片奏阮光平接到搜捕洋盜咨會即飭該國沿海各屯上緊巡哨並令吳文楚為水軍都督分佈巡緝至此業盜匪前在廣南短棉農耐地方竄匿因令該國協同緝拏今據該國王咨稱該國轄內並無此等地名應再照會阮光平令其復行確查辦理等語阮光平

接到咨會派令吳文楚統率海艘戰兵分屯游徼實屬恭順可嘉吳文楚為該國王心腹得力之人特令為水師都督搜拏洋匪足見阮光平為內地捕盜安良出於感激悃忱頗知以事為事盡心調度並非視為海捕具文以一咨塞責其所稱該國境內並無短棉農耐地名自非捏飾况廣南係阮岳所管之地聞阮光平向來與阮岳不睦恐有呼應不靈掣肘難辦之處亦未可定外洋島嶼沙洲道里本屬渺茫地名多非的確非若蘆匿內地盜匪必須確切挨查一一窮究吹毛求疵可比此時福康安惟當以該國王實心敬事調度有方綏輯海疆不遺餘力婉詞嘉獎而鼓勵之不必似內地以獲犯無據之供責成該國於短棉農耐地方搜求跟緝轉令該國王難於措辦至吳文楚如果將盜首拏獲著福康安等即行奏明朕當加以優賞即其所屬土目人等有能拏獲盜匪者亦著量加賞賚俾令益知感戴現在盜首祇有何起文一名未獲或仍知照該國王飭令留心緝捕其餘夥盜十六犯未獲祇須嚴飭內地文武員弁認真緝

不必復令安南協捕於撫馭外藩之道較為得體所有未獲盜首何起文一犯及盜夥王才高孔亞錫張亞四布亞往亞孺亞妹亞九吳添帶頭運獲大砲複劉亞二陳亞二陳亞六張老二亞七亞勝等犯並另業洋盜孫維斌首夥人等著福康安等嚴飭跟拏務期按名就獲毋使一人漏網將此由五百里諭令知之並賞給福康安奶餅一匣著附報發交欽此遵

旨寄信前來

729

查崖州拒捕戍官業內盜首蛋家二陳學輝李廣才大辦三何起文五犯現在已拏獲四犯止有盜首何起文一犯尚未緝獲其未經拏獲之夥盜王才高等尚有十六犯<sub>臣</sub>等謹按名一併

寓入

諭旨內令福康安等速行嚴緝務獲謹

奏

六月初四日

730

本日徵瑞奏許墅關徵收稅課一年期滿比較最旺之年仍有盈無絀緣川廣等省連年豐稔出產米豆較多商販踴躍到關等語查四川湖廣商船係由長江順流南下入鎮江口從丹陽常州一帶直抵許墅關其淮宿等關及安徽省所屬之鳳陽關俱在大江以北係豫東二省商販船隻經行地方所有川廣商船並不由該處行走是該二處與許墅關情形相距較遠本非經由之路謹

奏

六月初四日

731

臣等將禮記集說序文刻本查對其所載四十篇之數與繕本相同誠如

聖諭除去學庸二篇是以前云四十九篇後云四十

七篇序中文法眉目不清並非抄錄錯誤謹

奏

732

大學士伯和 字寄  
留京辦事王大臣 乾隆五十六年六月初五日奉

上諭自駐蹕熱河以來連日天氣炎熇未得雨澤想京城一帶晴霽日久鬱蒸殊甚自必望雨甚殷朕心深為廛念著傳諭阿桂等於覺生寺黑龍潭等處照例設壇虔誠祈禱並查詢在京回子能祈雨者一體祈雨以期速沛甘霖如得有雨澤即行奏聞用慰廛注將此由四百里諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

733

乾隆五十六年六月初五日奉

旨步軍統領衙門奏河南民人鄭守謙呈控光山縣縣役何九等將伊子鄭宗尼搗毀致斃三命一案縣役何九等因鄭守謙揭取派夫折錢告示欲行呈控執將鄭守謙拏獲并將伊子毆斃復赴伊家搜取告示踰死伊孫又將伊媳踢傷殞命該縣祇將快役劉興擬罪其何九等並未抵命核其情節



雖係該犯一面之詞但事關靈役科斂連斃三命重案自當徹底跟究嚴查辦理以成信讞外省習氣往往以州縣民人在上司呈控之案即發該管府縣審辦該府縣豈有不回護之理以致扶同瞻徇百弊叢生此案係五十四年之事該省巡撫藩臬俱經更換與穆和蘭等無涉自無所用其迴護著穆和蘭將案犯卷宗親提至省率同藩臬秉公嚴審定擬具奏嗣後不特民人赴京控訴事件降旨發文審辦者應行提犯親訊即本省民人在督撫衙門控告屈抑之案亦當親提究辦不得仍委所屬府縣承審致有輾轉庇護宕延不結之事實督撫等職任封圻當以整飭地方申理冤抑為務豈可養尊處優於民人陳訴要案僅委之屬員辦理耶所有原告鄭守謙著該部照例解往候質步軍統領衙門原摺並著發交穆和蘭閱看欽此

734 臣等遵

旨寄信金簡令將巴思哈所進畢畝河瑞樹圖及寧

古塔等處地理圖異雀八種等圖查出進

呈茲據金簡覆稱造辦處圖房及懋勤殿各檔俱無紀載現於如意館查得瑞樹圖瑞樹葉圖各一幅地理圖各一幅又於重華宮查得原進瑞樹葉圖冊二本其阿補浞石梁等處地方五圖及異雀圖尚未查得臣等將現在寄到各圖先行呈

覽謹

奏

六月初六日

735 乾隆五十六年六月初七日内閣奉

上諭勒保奏泰西和縣知縣黃潼鯉相驗不實請將該員革職一摺核其情節該縣民人李琳李文子與堂嫂閻氏口角爭扭毆傷閻氏取辜醫治旋即平復嗣因閻氏胃痛病發身死該縣初憑仵作驗報因傷致斃率行通詳繼復訊得閻氏實係因病身死自行據實檢舉是該員雖誤報於前尚不敢迴護於後且此案未經成招即自行確訊得實

非有心捏報始終迴護者可比該督請將該員革職未免過當黃潼經著罰俸一年以示薄懲所有奏請革職之處著加恩留任該部知道摺併發欽此

736 乾隆五十六年六月初八日奉

旨此案兵部職方司書吏膽敢於印付上私行挖補改填月分顯係有心捺摺藉端撞騙自應嚴行跟訊從重辦理至山東巡撫咨送遲誤文報各站員職名係上年三月內自京發遞行在本箱遲誤即經兵部參奏行令該撫開送職名何以直至七月內始行咨覆請免開參復經兵部駁令仍將各職名開送而該撫又遲至十一月內覆到已屬遲延玩愒乃兵部於上年三月之事該撫於十一月內始行覆到並不即時行催任其遲至數月之久亦屬延緩可見兵部與該撫俱不以事為事咎均難辭著留京王大臣會同刑部提到書吏陳遵五嚴究沉摺控改實情從重定擬所有兵部堂官承辦司員及山東巡撫一併察議具奏欽此

737 乾隆五十六年六月初八日奉  
旨姚榮著改為降三級從寬留任欽此

738 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年

六月初八日奉

旨諭梁肯堂奏河南差弁齋揭行至柏鄉地方將摺匣包袱遺失現將差弁王晟高鎖解豫省查明斥革等語河南差弁王晟高呈遞奏摺並不隨身齋帶輒將摺匣包袱拴繫車後以致中途遺失殊屬玩誤該督即將王晟高鎖解豫省查審斥革所辦尚是此等差人齋遞奏摺想係不甚緊要事件著穆和蘭再行補繕另委弁齋進將王晟高訊明有無別情斥革辦理並著梁肯堂飭令正定趙州一帶所屬州縣派役留心尋覓毋使隱匿將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年六月初八日奉

上諭上年六月間據梁肯堂奏喀爾喀王貢楚克札布差札奇魯克齊博羅特入貢於多倫諾爾地方被賊竊去製造經典銀八百兩并衫帽等物請令該廳同知照數賠還一案曾降旨傳諭該督以賠償銀兩恐來使等有裝點被竊布圖地方官賠償之事可以不必惟在飭屬嚴拏賊務獲迄今已屆一年曾否將業內賊犯拏獲未據該督奏聞豈以此案一經奏報於前遂可了事耶著傳諭梁肯堂如賊犯業經緝獲即行奏聞倘仍未弋獲務須嚴飭所屬認真緝緝毋得視為海捕具文日久玩延致干咎戾也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

740 臣 和坤 臣 福長安 謹

奏為遵

旨勘明旱河應挑工程酌議具奏事竊查熱河地方舊有旱河一道歷因沙石停淤奏請動項挑挖

在案本年四月二十九日據直隸總督梁肯堂奏稱旱河復經淤塞應請隨時修濬欽奉

諭旨俟駐蹕熱河就近派令熟諳工程之員會同確估等因欽此嗣於五月二十八日面奉

諭旨令臣等前往勘明辦理臣等率同熟諳工作之

員及熱河道府親赴該處逐一查勘其所指應

行修濬挑挖之處並估需銀兩尚屬實在情形

但目下將屆大雨時行之候若照該督原奏概

行一律挑濬恐趕辦不及臣等酌量形勢亟需

動工興辦者共有三處查自廣仁嶺至

萬壽亭山勢高下約有四五十丈廣仁嶺迤東兩邊

山溝水發連沙帶石直注而下匯入旱河水過

沙停易於壅塞現在該處河底較大路高至一

二尺有餘若遇山水長發不能暢流必致漫入

街道於旗民廬舍不無淹損此處應將河底挖

深三尺長二百四十丈寬八丈至十四丈不等

估需銀一千一百八十八兩又鐘鼓樓至大河

沿一段旱河底與兩岸相平一遇水漲漫溢於

岸旁房舍亦有關礙此處應將河底挖深三尺

長二百九十七丈寬八丈至十二丈不等估需銀一千三百三十六兩五錢又河屯協衙署前舊有旱河一道現經淤平並無溝槽該處俱係綠營兵房雨水盛漲時即浸入房舍亦當及時挑挖計深三尺長二百十丈寬五丈至七丈不等估需銀五百六十七兩以上三處工程俱按照工部則例估計應准其即行興修迅速辦理其餘應辦工程尚在可緩應令該道於明春再行確估報明軍機處核辦但該處山勢自高而下俱係沙石一逢夏秋水過多衝入旱河沙石即隨之壅積雖多費工項挑濬亦復旋挑旋塞若每年奏請動項興修

國家經費有常年復一年伊於何底殊非經久之計今據熱河道全保稟請動撥熱河道庫備賞銀五萬兩交與所屬各州縣當舖按一分生息每年可得息銀六千兩遇閏加增作為歲修旱河之費似屬可行合無仰懇

皇上天恩俯照所請准其撥項生息責成該道確估辦理如遇不須開挖及毋庸大修之年即將生

息多餘銀兩積存歸還原本仍著該道將勘估動用并積存息銀確數開具清冊於年終呈送軍機處歸入熱河奏銷項內查核具奏 臣等每年隨

蹕熱河時再酌派熟諳工程司員將各該處所辦挑濬工段確加勘驗如有以少報多偷減草率之處隨時駁飭似此設法籌辦庶帑項不致虛糜而工程可期核實於水利民生均有裨益如蒙俞允所有現在亟須興挑三處工段共估需銀三千九十一兩五錢先令該道動用道庫備賞銀兩辦理俟有生息贏餘即行歸款是否有當伏候皇上訓示遵行為此謹

奏請

旨

741 乾隆五十六年六月初九日內閣奉

上諭四川保寧府知府員缺著石作瑞補授所有部選知府陳澧俟有相當缺出再行簡用欽此

742 乾隆五十六年六月初九日奉

上諭吳璥奏請俟新任藩司鄭源璠抵任即交卸起程趨赴行在陛見一摺前據李奉翰奏稱吳璥於河防修守事宜熟悉幹練請令該司協防大汛實於要工有益等語業經允其所請現在正當大汛之期黃河上下各工在在均關緊要得一熟手率同保護自較為妥協著傳諭吳璥此時不必汲汲趕赴行在仍令留辦防汛事宜俟過伏秋雨汛於九十月間朕自熱河旋蹕時再行起程來京瞻覲將此諭令知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭河南按察使吳璥

743 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 湖北巡撫福 乾隆五十六年

六月初九日奉

上諭梁肯堂奏審辦密雲縣道旁叩閭之湖北蘄水縣民人徐文緒一摺內稱查照原呈提犯研鞫據

旨寄信前來

供我因姪女被堂叔家人陶象吉拐匿在縣控告本縣並不傳審反把我枷責我逃出性命心懷不甘要想告狀申冤應請將該犯照例發近邊充軍但該犯年已七十語無倫次實有痰迷形狀應解回湖北嚴行禁錮等語徐文緒所供各情節如果屬實何以該縣並不審究轉將該犯枷責自應秉公查辦若係該犯有心誣陷挾嫌控告亦應按律辦理以警刁悍如實係年老痰迷即將該犯飭交司監嚴行永遠禁錮毋令再行滋事將此傳諭畢沅等知之梁肯堂摺著抄寄閱看欽此遵

744 大學士伯和 字寄

四川總督鄂 乾隆五十六年六月初九日奉

上諭鄂輝奏核辦本年四川省秋審案件將擬絞官犯德新斬犯文思鏡二名俱擬入緩決一摺核其情節驟夫陳大成既經受雇起身又復在途翻悔並逞強嚷罵理本不直德新舉腳踏適傷陳大成肚腹斃命尚係事出無心且該犯父叔胞弟均

係出兵身故情亦可憫至文思鏡一犯因伊父與陳黃氏通姦致其母自縊殞命該犯將陳黃氏砍斃究係痛母情切與逞兇謀命者有間鄂輝甫任總督於秋讞案件即能斟酌情理細心推究將此二案俱擬入緩決所辦尚是但該省秋審題本到部時部中自必按律辦理已令軍機大臣存記俟刑部核擬具題再降諭旨將此傳諭知之欽此遵旨寄信前來

745 乾隆五十六年六月初十日奉

旨此案著交侍郎吉慶馳赴豫省秉公審訊定擬具奏不必前來行在請訓其隨帶司員亦著一併馳驛所有刑部原摺並著發交閱看欽此

746 臣等詢問蘇寧阿齋摺差弁據稱蘇寧阿於本

月初六日在景州安陵一帶催僱漕船即在該處拜發奏摺等語查安陵距天津四百餘里是日穆騰額所奏得雨情形該鎮拜摺時想尚未知悉是以未經奏及似可毋庸擬寫詢問蘇寧

阿  
諭旨謹  
奏

747 查失察玉田縣逃流田自相回籍窩匪肆竊一

案所有歷任文職大小各員分別議處各原題俱在吏部本日兵部議處歷任武職一本臣等現交在京吏部查取議處原案俟查送到日再行遵

旨與文職比較核辦另行擬寫改發  
諭旨進  
呈謹  
奏

748 大學士伯和 字寄

留京辦事王大臣 乾隆五十六年六月十一日奉

上諭此間昨日未刻起至申刻止大雨滂沛入土五寸遂交熱河道查看自王家營迤西較小本日未刻又復得陣雨勢甚綿密現在京師望澤甚殷昨今兩日未知曾否一律普被甘膏著傳諭留京辦事王大臣即將日內是否得有雨澤之處查明覆奏以慰廑注將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

749 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年六月十一日奉

上諭陳用數奏拏獲脫逃遣犯正法一摺內稱該犯潛逃後當經該縣查知會差兵役即日在北門城外追獲審明正法所有典史李靈長知縣李日躋相應開報聽候部議等語遣犯脫逃後該縣既能即日拏獲不致任其竄逸稽誅尚屬留心緝捕自應將該員聲請免議乃該撫摺內何以又將該縣

旨寄信前來

此遵

與典史一併開叅殊未明晰况典史係屬專管知縣僅係兼管之員亦不得漫無區別該撫前在安徽巡撫任內辦理地方事務率多錯誤是以降為府尹經朕復加擢用封圻何尚如此遇事懣忤不知留心耶陳用數著傳旨申飭將此諭令知之欽

750 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年六月十一日奉

上諭前因賊犯張三脫枷逃逸諭令步軍統領衙門飭派番役嚴緝茲據金簡奏番役在涿州魯坡村地方將張三拏獲訊據供稱曾許給門軍德成錢十千文將我開了手靠又將脚鐐鑰匙交給我收管並給小刀一把叫我起了枷上鐵錫可以逃走我於五更時候即脫枷潛逸等語張三前因犯竊擬枷在宣武門看守膽敢挈枷逃走實屬不法該門軍德成因張三口許錢文給與鑰匙小刀縱令脫逃甚屬可惡自應與囚同罪但張三係二次犯

竊脫逃拏獲罪不至死即加重亦不過發遣為奴  
著傳諭刑部堂官審訊明確後其縱令脫逃情節  
如果屬實著將德成永遠枷號於各城門輪派示  
衆俾得共知儆畏其一同該班之門甲門軍等有  
無通同賄縱情弊並著嚴行確訊定擬具奏所有  
步軍統領衙門摺著發交閱看其拏獲張三之番  
子等著金簡酌量獎賞以示鼓勵將此諭令刑部  
堂官並諭金簡知之欽此遵

旨寄信前來

751 遵

旨將從前西北兩路用兵時每年動用軍需銀若干  
萬兩自平定新疆撤兵後每年歲需經費銀若  
千萬兩現在歲需動用較從前有無節省再新  
疆各城每年所得房地租銀牲畜稅課及回民  
折交糧石普爾錢文棉花布疋等項折算銀兩  
共值若干每年各處需用經費除交納各項抵  
用外尚需用銀若干萬兩之處一併交查戶部  
茲據稱從前西北兩路用兵時自乾隆十九年

至二十五年凱旋止共用軍需銀二千七百餘  
萬兩每歲攤算約用銀三百八十六萬餘兩自  
平定新疆撤兵後計每歲經費共需用銀一百  
十一萬三千九百餘兩比較從前用兵時每歲  
節省銀二百七十四萬餘兩至新疆各城歲收  
房地租銀牲畜稅課及回民折交糧石普爾錢  
文棉花布疋及綢緞茶葉變價等項每歲合計  
共值銀一十七萬一千餘兩除將此項銀兩抵  
用外每歲尚需經費銀九十四萬餘兩謹

奏

752 乾隆五十六年六月十四日內閣奉

上諭四川保寧府知府員缺昨經降旨將石作瑞補  
授所有部選保寧府知府陳澧著前往川省交該  
督看其才具以相當之缺酌量補用俟得缺後再  
行給咨送部引見欽此



753 查署大埔縣知縣陳鳳藻請實授一本該撫郭

世勳於本年三月二十四日具

題其叅奏該縣陳鳳藻因遣犯脫逃延匿不報請

革職一摺係四月二十二日拜發前後相距一

月謹

奏

754 乾隆五十六年六月十四日內閣奉

上諭陝西榆林府知府員缺著文需補授所遺員缺

著陳遂補授欽此

755 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 湖北巡撫福 乾隆五十六年

六月十四日奉

上諭本日刑部議駁湖北省民人陳谷松與王廷英

共毆呂九如身死將正犯陳谷松減等擬流一本

所駁甚是已依議行矣此案陳谷松王廷英共毆

呂九如斃命先經該撫以王廷英毆傷呂九如左

右膝臙朋僅止紫黑皮破尚屬輕傷不至於死應  
以在逃之陳谷松擬抵王廷英照例擬徒及等獲  
陳谷松到案審訊與原審各情節無異自應將該  
犯照例擬以絞抵乃該撫又稱助毆之王廷英所  
毆亦屬重傷於未結案之前病故准其抵命將陳  
谷松減等擬流具題前後自相矛盾豈呂九如之  
死竟無一抵命之人任聽正犯陳谷松以王廷英  
業已身死無可質証希圖推卸而該撫亦祇憑屬  
員詳報並不細心研究以致先後辦理兩歧罪名  
互相出入殊屬非是此事是否係該臬司意欲如  
此辦理抑出自該撫主見著傳諭福寧據實明白  
迴奏至畢沅係該省總督近在同城於此等人命  
重案亦應留心查察何以未經駁正著畢沅會同  
福寧據實查明親提犯証再行鞠訊明確妥擬具  
奏所有刑部原本着摺抄略節發交閱看將此諭  
令知之欽此遵

旨寄信前來

756

查本月十二日福寧奏安南陪臣於五月二十  
二日由武昌省城前進約計五月二十七日可  
出湖北境等語其於何日入河南境尚未據穆  
和蘭奏到現在大雨時行或途次耽延亦未可  
定若按站行走計算程途約七月初間即可到  
熱河臣等謹擬寫寄信梁肯堂穆和蘭該陪臣  
於七月二十五六等日到熱河

諭旨進

呈謹  
奏

757

大學士伯和 字寄  
直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年  
六月十四日奉

上諭前據福寧奏安南陪臣於五月二十二日由武  
昌省城前進約計五月二十七日可出湖北境等  
語河南毗連楚省該陪臣一出湖北即入豫省信  
陽州境該處距熱河計程不過二千八百餘里若

按站行走七月初間即可行抵熱河彼時距宴奏  
之期尚遠該陪臣亦無需早到等候且現在大雨  
時行想沿途不無泥濘儘可令其緩程行走以示  
體恤著傳諭該督撫等計算日期令於七月二十  
五六行抵熱河亦不為遲將此各諭令知之欽此  
遵

旨寄信前來

758

啟者本日御史徐煥條奏請定毀棄文字之例  
一摺奉

硃批大學士九卿議奏欽此並於

召見時面奉

諭旨京城市賣回殘紙張雖將舊字紙毀造但不過  
為茶坊包裹及糊飾項榻牆壁襯底之用尚無妨  
礙非若草紙一項用之溷廁者可比不必立法禁  
止徒滋紛擾至街衢市巷刷貼淫褻藥方祇須交  
提督衙門五城飭禁若必專立科條通行各省殊  
屬不成事體且恐啟胥役等藉端索詐之弊大學

士等議覆時即將此意叙入議駁欽此相應札知  
希即遵照辦理可也專此並候

近祺不一

董王和福

同具

759 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 傳諭湖南布政司王懿德乾隆

五十六年六月十五日奉

上諭王懿德奏調補善化縣知縣汪輝祖患病未痊  
未便令其到任且何劉氏等命案該員尚有應訊  
之處亦未便遽准回籍等語已明降諭旨將該員  
開缺交姜晟查審矣汪輝祖先經臬司飭委檢驗  
桂陽縣民婦何劉氏等命案該員藉病托故遷延  
未往經巡撫馮光熊於叅奏陳玉垣案內聲明汪  
輝祖有無規避別情另行叅處嗣據汪輝祖以氣  
體漸虛精神恍惚請解任回籍調理雖據王懿德  
驗明患病屬實但其中恐有因被巡撫叅劾托病  
捏報情節王懿德所奏殊不可信著姜晟親提何

劉氏等命案研訊確實並汪輝祖有無規避別情  
一併秉公據實審擬具奏又據王懿德另摺覆奏  
嚴禁小錢一事不過敷衍塞責並無設法查辦之  
處至所稱飭令鹽道於收卯之日會同藩司親加  
點驗仍不時前往抽查等語殊屬拘泥俗套足見  
不實王懿德係本任藩司暫設撫篆現在姜晟已  
抵湖南伊即應卸事早回本任藩司即伊也將來  
會同鹽道於收卯之日親加點驗即伊應辦之事  
乃摺內轉稱飭令鹽道會同藩司辦理其時藩司  
是誰耶不道之極且公然以巡撫自居誇大其辭  
實屬糊塗王懿德著傳旨嚴行申飭將此諭令知  
之欽此遵

旨寄信前來

760 臣等遵

旨將

硃筆諭旨交

行在九卿及提督道府等閱看據舒常等僉稱王懿

德係以藩司暫設撫篆其所稱於收卯之日將

官鑄錢文點驗抽查即係藩司本任之事乃轉

稱飭令鹽道會同藩司親往查驗公然以巡撫

自居誠如

聖諭其時藩司是誰糊塗不通嚴行申飭實屬咎無

可辭仰見

皇上至公至明於大小臣工陳奏事件稍有不實即

隨時

訓飭

親御丹毫無不

指示允當臣等恭閱之下實深欽服等語謹

奏

六月十五日

761 乾隆五十六年六月十五日奉

旨蘇寧阿寶琳俱著於現任內降二級從寬留任王

柄強都俱著降二級從寬留任闞正祥德齡俱著

改為降三級從寬留任托賓泰著從寬免其革任

仍註冊張錫謨劉煊張鵬蒼張麟俱著於現任內

降二級從寬留任賈永言楊開泰魏華國秦申福

靈惠班濟布達色李正勇達崇阿林楷常德馬國

銳俱著降二級從寬留任黃戟著照部議降三級

調用常泰著照部議於現任內降三級調用餘依

議欽此

762 乾隆五十六年六月十五日奉

旨新調善化縣知縣汪輝祖於委驗桂陽縣何劉氏

等命案是否托病規避尚有應行查辦之處未便

令其到任所有善化縣知縣員缺著該撫將此案

審明後另行揀員調補該部知道摺併發欽此

763 臣等查直隸省武職失察玉田縣逃流田自相

窩匪肆竊一案將前日

發下兵部議處題本內統轄兼轄各員與吏部議處

文職各員題本並奉

旨從寬改簽之處比較職分大小逐一核對俱照文

職改簽謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

六月十五日

764 乾隆五十六年六月十七日內閣奉

上諭現因河東商力疲乏亟需調劑已令軍機大臣

會同山西巡撫馮光熊詳悉酌議可否將鹽課改

歸地丁於富戶貧民均有裨益但經理一切章程

尚須勘辦馮光熊究係新任於該處鹽務情形尚

未能熟悉將兆奎曾任河東運使鹽務素所熟諳

且該布政使上年在京亦有課歸地丁為便之語

著調補山西布政使幫同馮光熊妥為辦理所有  
甘肅布政使員缺即著景安調補萬寧著調補山  
西按察使其貴州按察使員缺即著顧長絨調補  
欽此

765 大學士伯和 字寄

直隸山西貴州各督撫 乾隆五十六年六月

十七日奉

上諭據金簡等奏革職貴州威寧州知州高瑋於五

十二年十二月前往胞弟山西寧武府知府高燦

任所就養嗣據晉撫咨據高燦詳稱高瑋於五十

五年七月內自寧武府起程回京迄今已及一年

並未歸旗高瑋既於上年七月間自寧武府起程

何以至今尚未回旗自必在沿途地方任意逗遛

且曾任黔省知州或竟遠道潛往在該處藉端生

事均未可定著傳諭各該督撫一體嚴行查拏送

京治罪至知府高燦於伊兄起身後呈報遲緩及

本旗飭查仍復含混聲覆之處並著該撫確切究

問據實具奏將此各諭令知之金簡等摺著抄寄

閱看欽此遵

旨寄信前來

766

查高瑋未經歸旗係從山西寧武府起程赴京  
但該革員曾任貴州知州恐有沿途逗遛或潛  
往黔省之處亦未可定是以臣等擬寓寄信沿  
途各督撫

諭旨並令黔省一體查拏謹

奏

六月十七日

767 乾隆五十六年六月十七日奉

旨蘇寧阿著改為革職從寬留任其於屬弁遞解遣  
犯未能嚴查致中途脫逃之涿州營參將馬元勳  
著照部議降三級調用

768 乾隆五十六年六月十七日奉

旨惠齡馮光熊俱經賞戴花翎河南巡撫亦係兼提  
督銜穆和蘭並著一體賞戴花翎欽此

769

大學士伯和 字寄

留京辦事王大臣 乾隆五十六年六月十七

日奉

上諭此間自十二三日得雨以後農田已極優渥本  
日復得大雨現在尚未開霽似覺雨水稍多前據  
王大臣等奏報京師得雨亦已深透本日未據續  
奏晴雨情形朕心深為慮注著傳諭留京辦事王  
大臣如近日所得雨澤僅稱霑足則已倘或已形  
過多恐僧道皆不諳求晴之法即派回子薩哈爾  
索丕祈求晴霽隨報據實具奏以慰懸慮將此諭  
令知之欽此遵

旨寄信前來

770 乾隆五十六年六月十七日奉

旨這所參偏聽匿詳之嘉魚縣知縣王遇彩著革職  
交該督等提同業內犯証嚴審定擬具奏該部知  
道摺併發欽此

771 乾隆五十六年六月十七日奉

旨此案陳遵五充當兵部職方司書吏於應議臺站職名接到印付布糞撞騙銀錢以致遲誤日久雖訊無得贓情弊但心存撞騙事後復挖改印付非尋常玩誤可比留京辦事王大臣擬以杖徒殊屬輕縱陳遵五著發往伊犁充當苦差至車駕司貼寫王毓秀於正月內齋送印付遲至數月未見移覆並不回明本官查辦明係有心弊混亦有應得之罪即著照陳遵五原擬杖一百徒三年餘依議

欽此

772 乾隆五十六年六月十七日奉

旨戶部議覆鳳陽關徵收稅課一年期滿短少盈餘銀四萬一千九百餘兩著落管關之員各按經徵月日分別攤賠一摺固屬照例辦理第念該關稅務全賴上游豫省米豆船隻赴江販還上年因豫省江南年歲收成俱各豐稔米豆價值相等商販無利可圖是以船隻過關稀少盈餘短缺尚屬有

因所有此次鳳陽關短少盈餘銀四萬一千九百餘兩著落該監督等各按經徵日月攤賠銀一萬兩其餘銀三萬一千九百餘兩俱著加恩寬免欽此

773 奉

旨王三碰頭著即處斬餘依議欽此

774 乾隆五十六年六月十八日內閣奉

上諭據伍拉納奏臺灣水師副將孫全謀俸滿三年例應於內地水師副將內揀選調補現在乏員陞調請將孫全謀暫行留任俟再滿一年選員調補等語臺灣副將一缺關係緊要必得諳習風土熟悉情形之員方於地方營伍有益臺灣雖在海外非若煙瘴地面例須更換者可比該處總兵道府各員現在無更調之例副將等官又何必拘例定年限紛紛更換致易生手孫全謀著留臺灣水師副將之任嗣後所有俸滿更調之例並著停止該部知道摺併發欽此

775 乾隆五十六年六月十八日內閣奉

上諭王懿德奏貴州餉鞘被竊一案獲賊彭有才賊據未確旋經病故沅州府知府孟姓康並不親身往驗請旨革職等語彭有才係失鞘案內拏獲之犯現無賊據是否因病身死有無畏罪自戕別故該府孟姓康近在同城並不親身前往僅委鄰縣查驗殊屬疎玩孟姓康著革職該部知道摺併發欽此

776 乾隆五十六年六月十八日奉

旨李紹曾陳必發董步雲李廷翰俱著准其貶封該部知道摺併發欽此

777 乾隆五十六年六月十八日奉

旨梁士聰朱思英魏廷拔俱著准其貶封該部知道摺併發欽此

778 臣和坤等謹

奏臣等遵

旨將書麟原摺交馮光熊閱看並將河東商力積疲如何量加調劑及書麟前次面奏加價簽商二事易滋弊竇之處與馮光熊悉心酌議查晉省鹽池所產鹽斤俱係苦黑價值較貴蒙古鹽斤色白而價賤是以民人俱偷買蒙古私鹽以致官引滯銷商人往往賠累疲乏今若如書麟所奏則官價愈增私販更得乘機充斥欲百姓之舍賤求貴勢必不能官引愈難暢銷是名為恤商而反以累商則加價之議殊非善策至簽商尤為該省富戶之累若令地方官簽派則家計實在豐裕者往往行賄求脫而稍有蓋藏之戶無力營求必致勒令充當仍屬有名無實該省商人屢換屢疲其故未必不由於此況地方吏役以及里長借簽商為名將富戶多方恐嚇富戶等畏懼充當聲貨圖免輾轉更派百弊叢生是簽商之議斷不可行臣等再四商酌惟將鹽



課攤入地丁似屬恤商便民之一法緣該省富戶始得置有產業若貧民不過自食其力則計畝攤課與貧民無涉况簽派商人五年一次每逢更換之期富戶等情願出貲圖脫而被簽與不被簽者未免均受其累今既免簽商於地丁內將鹽課攤入按畝所出不過分釐從此概不簽商並可為一勞永逸之計在富戶有益無損自所樂從而貧民皆得買食賤鹽生計益臻寬裕似為兩有裨益再鹽池係天地自然之利晉省所食鹽斤皆取給於此非如銅鉛等廠得以隨時封閉者可比若任聽小民自為經理弛其例禁則取攜甚便無藉之徒勢必紛紛偷挖致啟爭端或業戶恃為己產居奇擡價均未可定自應仍令地方官經理但鹽池為該處百姓所置產業若照金銀各廠之例抽收稅課統歸官辦於業戶仍恐未便且於鹽課歸入地丁之外又有抽收池稅誠如

聖諭轉非加惠閭閻之意或約計鹽池每年出鹽若干可抽稅若干即在鹽課攤歸地丁項下扣除

殊

此語或一辦法

作為定額則百姓既可少輸正課而地方官又

易於辦理似亦通融調劑之法但臣等俱係揣

度情形而臣馮光熊亦未經抵任於河東鹽務

必須將鹽課改歸地丁及該處鹽池向來地方

官如何管理可否抽收稅課之處俱未能懸擬

臣馮光熊抵晉後蔣兆奎亦將次到任即率同

該藩司親履其地通盤籌畫悉心詳勘並咨會

河南陝西二省撫臣一體和衷商酌總使富戶

貧民均受實惠以仰副

皇上卹商便民利歸於下有加無已之至意所有臣

等酌議緣由理合奏

聞伏祈

皇上訓示俟

發下後臣等行知河南陝西二省一體遵照辦理謹

奏

乾隆五十六年六月十八日奉

硃批依議欽此

硃批依議欽此

779 乾隆五十六年六月二十日奉

上諭穆騰額奏東省現在產鹽雖足數春運將來秋晒豐歉難以預定必須預籌接濟應請仍照向例將蘆屬餘鹽通融撥借等語鹽斤為民食所關東省既因海灘風信不時潮汐不旺產鹽恐未能豐足而長蘆現有存積餘鹽自應准其籌撥以資接濟但此項鹽斤既經運往東省售買則應徵引課是否即係東商完納其運脚等費又係出自何省商人再自天津前赴東省一水可達由水路運往自必省便若由陸路則運費較多是否由陸運水運及於官課有無短絀之處著傳諭穆騰額一併查明覆奏將此諭令知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭長蘆鹽政穆騰額

780 乾隆五十六年六月二十一日奉

旨林其宴張輝劉紹寅吳慶珍曾艾朱坦俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

781 乾隆五十六年六月二十二日內閣奉

上諭四川順慶府知府符兆熊著調補寧遠府知府所有順慶府知府員缺即著崔修紳調補欽此

782 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年六月二十二日奉

上諭梁肯堂奏據三河縣知縣稟報屯居旗下家奴侯添祿被伊主何森堂弟阿林因索銀不遂捆毆身死一案緣何森窮苦日甚欲將契買家奴侯振極等出賣阿林貪圖侯振極父子有資應允承買言定身價銀兩兩次交足立契鈐印後阿林隨向侯振極聲言契買緣由即向侯振極索詐銀兩因侯振極出言回覆輒將伊子侯添祿用繩捆縛自持木棍疊毆傷重殞命等語阿林貪圖侯振極父子貲財用銀置買其居心已不可問及至索銀不遂將侯添祿捆毆致斃情節甚為可惡若論旗下毆斃家奴原無擬抵之例但阿林以甫經置買之人起意勒索以致捆毆傷命實屬貪狠將來定案

時自應照平人例擬抵方足以昭平允所有阿林一犯及案內應訊人証俱著解赴刑部交刑部堂官嚴審定擬該犯解到時先行重責四十板再加研訊並著傳諭阿桂將阿林一犯審明定擬後趕入本年秋審情實以為貪暴不法者戒不得以阿林係屬旗人稍從輕減也將此傳諭刑部堂官並諭梁肯堂知之梁肯堂摺著抄寄阿桂等閱看欽此遵

旨寄信前來

783 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十六年

六月二十二日奉

上諭福康安奏安南國王阮光平遣使續進表貢謝恩並將表文進呈覽奏深為嘉悅該國王於上年赴都叩覲回國後感戀交蒙即遣陪臣陳玉視等齋表謝恩已令於七月二十五六日前抵熱河加恩宴賚茲該國王復以萬里初歸為時匆促修儀

備物未能竭盡悃忱且陳玉視進關之後又疊荷隆施愈覺感悚靡寧因再敬修表貢遣使續齋進關情詞肫切悃可嘉而一種感恩戴德之誠溢於楮墨自應准其齋進賞收渥加賚予以示恩眷已另降諭旨令陳用敷於該貢使行抵桂林時妥為照料矣至另摺奏據安南都督黎文認等來至江坪思勒地方投遞呈文內稱國王接奉照會分委伊等帶領兵丁趕獲賊人殺斃二十餘人生擒二人現在將現獲二犯提省審辦等語阮光平恪守藩封認真緝捕並令吳文楚為水軍都督飭令夷目分投巡察奮力殲斃盜匪多名並生擒二人解交內地足見該國王調度有方恭順將事實出至誠此次擒獲盜匪係該國分巡夷目既據福康安等備具綢紗茶布銀牌等物派弁馳齋前往賞給此間自無庸再與獎賚若將來吳文楚自行等獲盜首著福康安即行奏聞朕當加之優賚以示獎勵福康安等不必先行備物賚給也所有阮光平表文及福康安奏到二摺並著發抄將此傳諭

知之欽此遵  
旨寄信前來

784

大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣西巡撫陳

湖南湖北河南直隸各督撫 乾隆五十六年

六月二十二日奉

上諭福康安奏安南國王阮光平遣使續進貢表現  
在據報進關如該貢使阮文璵等進關後計算七  
月杪及八月初間可以趕赴熱河應令加緊行走  
俾與前次貢使同遊宴賚如進關稍遲令於行抵  
桂林時暫行留住令其緩程行走於封印前抵京  
等語此次安南貢使阮文璵等既未經據報進關  
現又距八月初旬不遠不值令其長途冒暑遠行  
自應照福康安所奏於該貢使行抵桂林時暫行  
留住令其從容緩程行走竟於封印前抵京得與  
諸蒙古番回部落及各國使臣同預宴賚較為安  
協若此時該貢使已過桂林省城約計儻程走可  
以趕上前次貢使即令其同赴熱河著速傳諭沿

旨寄信前來

途督撫妥為預備並諭陳用數斷不可如前次陳  
玉視已經過省復行追回以致徒勞往返如約計  
行程不能趕上前次貢使即於該陪臣行抵桂林  
省城時暫留憩息並咨會沿途地方一體令其緩  
程前進於封印前到京亦不為遲也該撫務須酌  
量妥辦毋再舛誤干咎仍將接奉此旨如何辦理  
之處即行覆奏將此由六百里傳諭陳用數並諭  
福康安及沿途督撫知之欽此遵

785

啟者本日面奉

諭旨黎伺等因舊服垢敝懇求給衣更換應諭以爾  
等求給衣服自當用中華服式方可准爾所請若  
爾本國式樣中華無此製造不能另製給予似此  
晚諭倘伊等仍不願改服極可任其破敝又燕起  
係回人不食猪肉在監內亦只可照舊給以牢食  
不必因其不食猪肉另行給予食物也將此諭令  
阿桂知之欽此專此佈達祈

公中堂即行遵照辦理順候

近祉不宣

和 等同具

六月二十二日

786 乾隆五十六年六月二十四日奉

旨這所叅玩視監獄之夏縣典史高秉衡著革職交該撫提同刑禁人等嚴審定擬具奏知縣馮奎顯著交部嚴加議處該部知道摺併發欽此

787 乾隆五十六年六月二十五日奉

旨許世臣周寶馬先甲馮瑾俱著准其貶封該部知道摺併發欽此

788 大學士和 字寄

安南國王阮 乾隆五十六年六月二十五日奉

上諭朕駐蹕熱河幾餘偶檢舊作有昨歲賜安南國

王阮光平至避暑山莊陛見詩章憶及上年該國王萬里來庭情殷愛戴節經接見慰勞頻加宴賚而該國王恭順恪誠根於至性其感激依戀之忱不啻家人父子及陛辭回國朕復繫念不置屢錫上方品物優賚有加今屈指又將一載因用前韻特製詩章書扇以賜現在溽暑屆候該國王正可藉拂炎薰至此間相隔交南道里甚遙若以時鮮食品附驛遠寄恐致霉損不堪食用今隨報發去菓乾一匣以示眷注該國王接奉後不必尚表謝恩祇須附便奏及仰副體恤至意將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

789 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年六月二十五日奉

上諭昨福康安奏安南國王阮光平遣使續進表貢謝恩已諭令陳用數如該貢使阮文璵等進關後計算七月杪及八月初間可以趕赴熱河應令加

緊行走俾與前次貢使同遊宴齊如進關稍遲者  
於行抵桂林時暫為留住令其緩程行走於封印  
前抵京該撫接奉前旨自必遵照妥辦矣阮光平  
敬修表貢遣使續齋進關情詞肫切忱悃可嘉特  
賞御製詩扇一柄菓乾一匣以示優眷著傳諭陳  
用敷於接奉後將寄信該國王諭旨並所賜扇物  
即委妥員齋至鎮南關交該國鎮目轉齋阮光平  
祇領祇須遇便附陳不必令其專表奏謝也將此  
由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

790 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 乾隆五十六年六月二十七日  
奉

上諭姜晟奏江西協撥貴州兵餉解至芷江縣羅舊  
驛被竊去鞘銀一千兩查閱該府縣等原稟情形  
催拘犯証迅速解省審訊一摺細閱該府縣所稟  
偷竊情節其中疑竇甚多殊不可信據稱鞘餉安  
放驛館屋內緊挨板壁外係菜園被賊從板壁地

枋脚下挖洞量高五寸賊從洞外將末尾一鞘橫  
移洞口撬開竊銀而逸一節洞高僅止五寸甚為  
窄小而一鞘餉銀重至千兩豈能於洞內移出即  
用鉄鈎拉拽亦無此力量必有內應况餉鞘收貯  
屋內賊犯不過在外窺伺何由確知安放之地即  
在此處挖洞竟能應手而得又更夫唐守典供係  
伊叔唐開泰邀同彭有才串通夥竊亦無此情理  
唐開泰既與唐守典同行竊自必分得贓銀一  
經伊姪供明即可起出贓據一訊得實何以又稱  
唐開泰等忽認忽翻未得確証且唐開泰與唐守  
典分係叔姪自必代為諱匿何以據肯供扳而彭  
有才於審訊後旋即病故或係畏罪自戕或竟係  
同夥之人致死滅口其中亦顯有別情承審此案  
之員未能將此緊要之處逐一跟訊率行具稟以  
致案情不實自有應得之咎姜晟久任刑部於此  
等案件尚能詳慎妥辦必須提集犯証將以上指  
出各情節細心研鞠務得實在贓據嚴審定擬並  
將承審疎忽之員叅奏議處毋得任聽屬員率稟

虛詞致有枉縱將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

791 乾隆五十六年六月二十七日內閣奉

上諭據梁肯堂奏順德府屬之任縣大陸澤因上年雨水過多諸河並漲田禾被淹收成歉薄所有應徵地畝請減半徵收等語大陸澤召墾地畝上年被水歉收既據該督勘明屬實自應照文安大窪之例酌減糧租所有乾隆五十五年該處應徵租銀三千六百七十餘兩著加恩減半徵收以紓民力該督務須飭屬妥辦俾小民得霑實惠該部即遵諭行欽此

792 乾隆五十六年六月二十八日奉

旨王玉輝峴文安俱著准其地封該部知道摺併發欽此

793 大學士伯和 字寄

留京辦事王大臣 乾隆五十六年六月二十

九日奉

上諭本日據順天府奏京城自屢得澍雨以後連晴數日正可藉資蒸曬深為有益等語京師節次得雨雖日來天氣晴霽土膏自尚屬霑潤但現在熱河地方炎歊殊甚想京中氣候亦大概相同或過之有病人否如尚不致望雨則已倘因天氣鬱蒸晴乾日久須得雨澤霑濡方於田禾有裨之處即著留京王大臣等仍派令回子薩哈爾索丕照前度誠祈禱以冀續沛甘霖將此諭令知之仍著據實覆奏以慰塵注欽此

794 大學士伯和 字寄

倉場侍郎蘇 劉 乾隆五十六年六月二十

九日奉

上諭蘇凌阿等奏漕船抵通摺內稱湖北湖南各幫有失風拆板船自一隻至五隻不等不能到通等

語向來漕船失風該總漕及沿途督撫俱應專摺具奏此項拆板船隻並未據奏報想係失風後所裝米石即時搬出不致沉失或係上年重運北上及回空時失風損拆此次未經起運之船著該侍郎查明覆奏至本年河水充足漕船行走迅速現在南糧尾幫俱已陸續抵通較上年更早該侍郎自應督率坐糧廳隨到隨收俾無壅滯及早回空方為妥善並著傳諭蘇凌阿等將本年全漕約計何時可以收竣比上年可早幾日之處即行奏覆以慰廑注將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

795 乾隆五十六年六月二十九日奉

旨閩幅隆即閩老四著即處斬餘依議欽此

山西竊劫那爾讓家盜

首

796 乾隆五十六年六月二十九日內閣奉

上諭浙江台州府知府員缺著歲光補授欽此

797 乾隆五十六年六月二十九日奉  
旨閩體祥著即處斬餘依議欽此

刑部議覆河南扎死陳  
中權等三命一案

798 本月十四日穆和蘭奏請以開封府下南河同

知朱紱署衛輝府知府一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

朱紱照例議駁等遵

旨擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

799 查阮光平回國後初次遣陪臣恭進表貢謝

恩之陳玉視潘文典黎輝慎三名及福康安昨奏續

進表貢所遣之使臣阮文瑛阮璉二名內惟潘



文典一名上年曾隨阮光平前來熱河餘俱未  
曾來過謹  
奏

六月三十日

800  
遵

旨將惠齡前日奏到叅革嶧縣知縣王旭載盤獲江  
南溧陽縣地方行劫江淮三幫旗丁牛謙糧船  
之盜首王三碰豆一犯又盤獲江南邳州地方  
行劫張存素家之盜犯閻永泰孫大成于貴三  
犯從前該省督撫曾否將此二案  
題咨到部交查刑部茲據覆稱此二案被劫緣由  
並文武疎防職名該省督撫業經先後  
題叅分別議處在案謹  
奏

同日

801  
臣等遵

旨詢問喜常據稱每月九宮內三白俱係輪流轉換

並無一定處所外間俗諺云若逢三七兩月三  
白落地雨水必多亦有未經應驗之時至九宮  
內三白如何輪轉及三白落地何以多在三七  
十等月之處須在協紀辦方等書內推算現未  
隨帶俟寄知京中欽天監時憲科詳悉查明再  
行覆奏等語謹  
奏

奏

802  
臣等將

發下協紀辦方書文喜常閱着推算據稱九宮內每  
逢三白落地俱有一定月分其法以自一至九  
按月輪推週而復始即洛書戴九履一之義即  
如本年七月係屬三白落地應從八月起數至  
第九為明年四月又逢三白落地再從明年五  
月起數至第九為後年正月又逢三白落地再  
從後年二月起數至第九為後年十月又逢三  
白落地照此循環輪轉所有三白落地總在正  
四七十等月至三白落地雨水過多係屬民間  
相沿占驗之語書內並未載及等語謹  
奏

奏

803 乾隆五十六年七月初一日奉

旨許廷進楊桂鄂敏莊大進均著准其馳封該部知道摺併發欽此

804 查福康安摺內廣西巡撫陳用敷於上年十一

月初四日接准部咨轉飭該府張肇祥令伊子栢齡起程進京本年正月初五日福康安又接准部文查催復經飭令栢齡迅速回旗是以張肇祥稟內以上年十一月內挈眷赴任因伊妻中途患病身故伊子栢齡丁憂為詞藉此遷延似可無庸將福康安摺改繕謹

奏

805 乾隆五十六年七月初二日內閣奉

上諭鄂輝奏立限收禁小錢一摺內稱小錢本干例禁應立限期飭令赴官呈繳無須給價收買等語前因地方官收買小錢恐奸民等即將所易大錢銷燬仍行私鑄小錢繳換圖利諭令各督撫所

有呈繳小錢但免其治罪不必換給大錢繼復思小民收藏小錢皆係貿易所得若地方官僅令將小錢交出而不給官值恐愚民觀望遷延呈繳不能踴躍甚或私行藏匿日後又復間雜行使仍屬有名無實復經降旨令民間呈繳小錢若止數百文數十文者不必將大錢給換如繳至數十百千串者即按照勛兩量行酌給以銀使小民不致賠累自必爭先呈繳今鄂輝所奏想尚未按奉後降諭旨是以祇稱民間所有呈繳小錢免其治罪不復給價著鄂輝遵照續降諭旨飭屬出示曉諭如有繳出小錢較多查明實係零星存積並非私銷私鑄即照所繳小錢勛兩酌量給與銀兩並著各督撫一體遵照辦理又鄂輝奏改鑄小錢若於額設匠役之外另募人夫入局幫鑄恐伊等學成手藝一經鑄畢出局或竟翫法鑄私惟令儘此局中額設之爐戶砂丁盡力工作等語改鑄收到小錢額外多募人夫一經學習鼓鑄出局之後難保其不滋生弊端此慮甚是著各督撫即仿照鄂輝所奏祇須督率局中額設工匠儘力鼓鑄毋庸另行多

募人夫致滋弊竇將此通諭知之欽此

806 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十六年

七月初二日奉

上諭福康安奏廣西慶遠府知府張肇祥一摺已  
明降諭旨將張肇祥革職并諭令陳用敷派員押  
帶來京交部治罪矣張肇祥之子栢齡年已及歲  
原不必俟部中調取始行送京及張肇祥既不早  
令伊子回旗當差及至奉旨指名調取而該府猶  
意存延玩嗣該督屢次檄催竟以伊妻中途病故  
令伊子扶櫬歸旗稟覆措詞舛謬其罪較重即云  
伊於上年十一月內丁憂計至本年二月內即已  
百日服滿何以遲至三月二十八日始令起程是  
其種種逗遛尤為顯而易見乃福康安既未將栢  
齡丁憂月日計算指出參奏而於張肇祥所稟扶  
櫬歸旗似此大不敬之語亦未細心看出嚴叅治  
罪僅請交部嚴加議處殊為失當福康安著傳旨  
申飭將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

807 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年七月初二日奉

上諭據福康安奏廣西慶遠府知府張肇祥之子間  
散栢齡上年奉旨交部咨取來京該府任意遷延  
及屢經檄催復稱伊妻患病身故伊子扶櫬由水  
路回旗現在催令改由陸路迅速赴京請將張肇  
祥嚴加議處等語張肇祥之子栢齡係指名調取  
引見當差之人乃張肇祥接奉部咨並不即令伊  
子起程又無隻字稟復殊屬有意延宕其庇留  
之罪尚可從輕惟以奉旨調取來京引見之人張  
肇祥竟以令伊子扶櫬歸旗托詞稟覆實為大不  
敬矣著傳諭陳用敷即將張肇祥派員押帶來京  
交部治罪以示懲儆不得令其別生他故將此諭  
令知之欽此遵

旨寄信前來

808 乾隆五十六年七月初二日內閣奉

上諭福康安奏廣西慶遠府知府張肇祥之子閑散  
栢齡上年奉旨交部咨取來京該府任意遲延及  
屢次檄催復稱伊妻患病身故伊子扶觀由水路  
回旗現在催令改由陸路赴京請將張肇祥交部  
嚴加議處等語八旗外任官員子弟年至十八歲  
例應回京當差張肇祥之子栢齡年已及歲並不  
即令回旗已屬不合經朕圈出指名調取又復有  
意遷延嗣經該督屢次檄催輒以孳眷赴任伊妻  
中途患病身故丁憂於本年三月二十八日令其  
扶觀由水路赴京藉詞稟覆殊出情理之外張肇祥  
於上年十一月初業已接奉令伊子赴京部咨自  
應即令起身赴京若尚未起身違值伊母病故即  
應以不便赴京之故詳報該督撫且向來旗人守  
制以百日為期計算本年二月內栢齡早已滿服  
何以遲至三月二十八日始令由水路起程是其  
有心延玩實屬咎無可辭然張肇祥種種托故遲  
延庇留伊子尚為罪之輕者至以奉旨調取來京  
引見之人竟稱令其扶觀歸旗措詞舛謬豈上對

君父之言大不敬矣張肇祥著革職送京交部治  
罪以示懲儆該部知道摺併發欽此

809 大學士伯和 字寄

福州將軍魁 乾隆五十六年七月初二日奉  
上諭魁倫奏琉球船隻出口照例免稅一摺細閱單  
內所開除大黃一項係遵照奏定章程官為代買  
外其紬緞絲布及川芎川連紙涇縣紙等件俱係  
內地貨物而洋參蘇木等物乃外洋所出又似帶  
至內地售賣之件該夷使既置買內地物件帶回  
該國何以外洋之物復轉向內地購買帶回魁倫  
所開單內殊屬牽混著該將軍即詳晰查明又大  
黃係向何舖代買來自何處覆奏將此諭令知之  
欽此遵

旨寄信前來

810 查向例琉球

貢船進口出口其所帶貨物應徵稅銀俱

加恩免其輸納本日魁倫奏琉球回國船隻隨帶貨

物免過稅銀清單等詳細閱看所有各物皆

係內地置買帶回該國之件其官為代買大黃

一項係遵照奏定數目地方官代為購辦以防

該國私行多帶但單內所開洋參蘇木等物又

係外洋所出開叙殊未明晰其因何轉於內地

購買之處謹擬寫詢問魁倫

諭旨進

呈謹

奏

811 乾隆五十六年七月初二日內閣奉

上諭廣西慶遠府知府員缺著張曾敬補授所遺員

缺著趙式訓補授欽此

812 遵查乾隆四十九年廣東省海豐縣民人鍾亞

金等隱形輪姦一案該縣翟必翔以究出邪術

迷人重案可以邀功見長將鍾亞金等嚴刑拷

打委審之同知齊翀扶同逼勒承認彼時福康

安奉

旨審辦粵東商人呈控綱總派累經費一案在粵風

聞此事情節不實提犯親訊據該犯等供出並

無隱身輪姦之事嗣因鹽案辦竣馳赴

行在末及審結齊翀等仍逼令符合原供舒常孫士

毅到任後嚴審數次該犯等因屢受刑訊不敢

翻供俱各承認將鍾亞金等問擬斬決於四月

內到部其時福康安已將此案疑實先經面奏

刑部照擬核覆時奉

旨令舒常等再行提案研訊復據舒常孫士毅訊明

隱形輪姦俱屬虛誣將鍾亞金改擬充軍知縣

翟必翔同知齊翀分別問擬發遣杖徒督撫兩

司交部嚴議等因具奏奉

旨翟必翔齊翀鍛鍊成招人死罪不得照死罪未

决例減等應照罪人已决例擬抵藩司李天培著加倍嚴加議處督撫舒常孫士毅巴延三尚安司道李廷揚明善交部一併嚴加議處福康安交部議叙等因欽此旋經該部議覆奉

旨李天培著革職發往甘肅以同知用舒常孫士毅自行審出著從寬免其革任巴延三尚安俟差滿回京再行請旨李廷揚明善俱著降三級調用欽此謹

奏

813 乾隆五十六年七月初四日奉

旨詹俊著即處斬梟示餘依議欽此

814 全日奉

旨林倫富旺蔣陞俱著即處絞餘依議欽此

額外需索海口商船番圓一案

815 臣等遵

旨詢問李潢據稱案朱載堉樂譜五調依月令春角夏火中央土秋商冬羽之序分配四詩獨商調不依其次專配商頌是以宮商之商為夏商之商蒙

皇上指示其誤顯然三百篇遺聲久之失傳儀禮經傳通解所載趙彥肅闕睢等風雅十二詩譜以為得自開元者亦不足據惟其參用黃鍾清宮無射商等調可以證朱載堉專用商角調譜國風徵調譜小雅宮調譜大雅之誤其羽調譜周頌之誤亦可類推伏讀

御製律呂正義後編所載樂章如三大節用黃鍾宮其餘

壇

廟各按月律分用又按

欽定詩經樂譜各依詩義分配五調實為正始元音盡美盡善等語臣等恭候鑒定擬照此意謹撰按語附載欽定詩經樂譜之末以昭詳審謹

奏

816 乾隆五十六年七月初四日奉  
旨陳太徐漢俱著即處絞餘依議欽此

817 大學士伯和 字寄

福建水師提督兼臺灣總兵奎 乾隆五十六年七月初四日奉

上諭奎林奏審明管口丁胥額外勒索及拏獲搶奪傷人兇犯各摺俱交軍機大臣會同行在法司核擬速奏矣至署鹿仔港理番同知金榮因查勘臺灣各屬塘汛等工久不在署恐管口丁役乘機作弊回署後即親赴口上查出家人富旺等串通差役於額外需索各船戶番銀至二百餘圓即據實稟明將人犯解府經奎林等審訊屬實分別定擬是金榮尚能留心查訪並不稍存迴護不但無過亦且可嘉今奎林以該員究係平日約束不嚴請交部察議則似此管口員弁有家人書役額外需索等弊懼于處分轉致心存諱匿辦理殊未允協除此案家人書役仍照例核擬外金榮著免其交

部並著該提督酌量俟該員署理番同知任內經手案件完竣卸事後給咨送部引見以示獎勵將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

818 大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十六年七月初四日奉  
上諭朕閱蘓軾鳳翔八觀詩內有何處訪吳畫普門與開元開元有東塔摩詰留手痕等語現在陝省鳳翔府地方諒有普門開元兩寺若其寺尚存所有王維吳道子畫壁是否尚有遺蹟在牆著傳諭秦承恩飭令所屬查明如畫蹟現有留存雖或模糊剝落其形模若可髣髴即令畫工用墨筆鈎出粗藁不必設色於奏事之便進呈備覽該處舊蹟業已無存想因年久剝落牆壁即可毋庸查訪轉致增飾也將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

819 前月二十九日臣等面奉

諭旨俟奏報全漕抵通時將總漕巡漕等給予議叙

欽此昨據管幹珍和琳奏到全漕於六月三十

日抵通謹擬寫議叙

諭旨進

呈謹

奏

820 乾隆五十六年七月初四日內閣奉

上諭據管幹珍等奏六月三十日全漕抵通一摺上

年南糧各幫於七月初八日全抵通壩本年六月

三十日即已抵通較早八日况上年尚有江西後

七幫在北倉截卸本年係全漕俱抵通壩辦理更

為妥速所有總漕巡漕及有漕省分督撫糧道俱

著交部分別議叙以示獎勵其押運催漕出力之

文武員弁並著該督撫查明一併咨部議叙欽此

821 乾隆五十六年七月初五日奉

旨王有貴張八徐四俱著即處斬餘依議欽此

822 大學士伯和 字寄

烏魯木齊都統尚 乾隆五十六年七月初五

日奉

上諭尚安奏烏魯木齊地方倉貯充盈請將濟木薩

一處暫停屯兵耕作歸營撥演等語濟木薩舊貯

新收糧石共有二十萬石該處每歲支銷不過一

千七八百石而缺糧需撥之迪化州等處又距濟

木薩程途較遠腳費浮多不能運往以致該處糧

石日積日多存貯年久不無霉變損耗自應量為

變通調劑但如該都統所奏將濟木薩屯兵令其

暫停耕作歸營撥演所遺屯地招募商民戶民領

種所辦尚未允協該處除種地屯兵之外另有額

設撥防兵丁現在中外一家邊陲寧謐亦何必復

將屯兵歸伍藉資捍衛况此等綠營兵丁務農日

久即令其操練技藝亦屬有名無實且內地咨送



屯兵携挈眷口到彼種地一切行糧盤費亦需按名支給而該處糧既充餘又無藉屯兵耕作豈非置之無用之地莫若將額設種地屯兵逐漸裁減招募商民戶民領種輸糧俾倉儲不致積多損耗而屯兵又可省官為送往之煩方為妥善但此項屯兵俱係挈眷在彼居住並不換班若概行裁撤又恐不無失所或將屯兵即為常住之訓練兵而省內地換班之兵是否可以如此辦理之處著尚安酌量該處情形悉心妥議具奏不可拘於遵旨稍存迴護也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

823 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年七月初五日奉

上諭據惠齡奏訪獲新城縣民張允智設教誦經斂錢惑眾現在嚴行審究一摺內稱張允智之師許作信先曾興立龍天門教念經傳徒嗣許作信病故徒黨俱即星散張允智因窮苦無聊遂復興教騙錢聚會念經除現獲各犯外均須徹底根究按

名搜捕等語外省邪教煽惑最為風俗人心之害其有悖逆誹謗滋事不法自當嚴行懲治置之重典並窮究餘黨以淨根株若不過吃齋念佛燒香斂錢其意祇圖誑騙錢文尚無悖逆情事該地方官審訊明確即將該犯枷杖示儆如有情節較重之犯或即問擬發遣已足蔽辜不必輟轉株連波及良民致多擾累著傳諭惠齡所有張允智一案祇須就案審辦迅速完結毋庸別生枝節以致拖累無辜也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

824 本年正月十三日富綱奏預保堪勝普洱鎮總

兵之貴州定廣協副將永寧擬正遵義協副將

盧鳳擬陪一摺奉

硃批該部知道欽此又奉

旨俟引見時題奏欽此今據兵部知會永寧盧鳳二

員於本日帶領引

見臣等謹遵

旨題奏並將富綱原摺抄錄進

呈謹  
奏

825

查乾隆四十九年廣東省海豐縣民鍾亞金等  
隱形輪姦一案先據該縣翟必翹同知齊紳錄  
供通稟稱黃亞水向能畫迷人割網等符又能  
代人禳解因患足疾不能親往各鄉賺錢商令  
鍾亞金何亞吉楊亞福江亞武四人假以畫符  
行醫賣卜為名分赴各鄉治病如有不效即轉  
薦黃亞水祈禳適因村民呂邦球家童養媳謝  
氏染患目疾呂邦球邀鍾亞金等占卜鍾亞金  
索取謝氏年庚配入迷人符內吞服謝氏吞符  
之後忽發顛迷鍾亞金見謝氏少艾早蓄淫念  
求黃亞水畫給隱身符私入謝氏卧房暗與謝  
氏姦宿江亞武亦懇求同往行姦黃亞水復畫  
隱身符交給江亞武亦隱至謝氏房中姦宿嗣  
因謝氏病愈鍾亞金索謝不得復將謝氏年庚  
配符燒化謝氏復發昏迷呂邦球赴縣控告審

三二四  
悉前情將鍾亞金等問擬斬決此翟必翹等刑  
訊鍾亞金等供認之情節也及刑部核覆時奉  
旨以呂謝氏於八月內被姦呂邦球何以至十一月  
內始行控告况隱形之術若見官府及犯姦汚俱  
不靈驗豈有輪姦之事反能仍舊隱形之理著舒  
常等再行復訊等因欽此嗣據舒常等覆奏鍾亞  
金因祈禳呂謝氏目疾已愈向索謝銀爭鬧並  
恐嚇呂邦球以不給謝銀伊媳目疾必定復發  
嗣謝氏目疾復發呂邦球疑鍾亞金邪術所致  
赴縣控告該縣究出畫符祈禳之同夥何亞吉  
等嚴行拷打並搜出迷人割網各項符咒訊令  
供出平日姦淫偷盜等事鍾亞金等受刑不起  
即供認曾囑黃亞水畫符隱身輪姦謝氏該縣  
即令穩婆驗看謝氏已經破身姦情業有確據  
其時呂邦球探知該縣審出隱身輪姦又驗看  
伊媳業已破身遂捏控鍾亞金等輪姦屬實希  
圖洩忿其實鍾亞金等祇係畫符祈禳並無隱  
身輪姦之事即謝氏破身一節後據呂邦球供  
明訊問伊媳係上年七月間伊子私下將媳婦

破身詢之伊子亦稱實有其事鍾亞金等隱形輪姦實屬冤屈除黃亞水業經病故外將鍾亞金等改擬軍罪翟必翔齊卅照故入人死罪未決例分別充軍杖流此舒常等覆訊鍾亞金等並非隱形輪姦之情節也舒常等審擬具奏時奉

旨翟必翔齊卅有心周內羅織多人應照故入人死罪已決例擬抵經刑部核覆將翟必翔齊卅問擬斬候入於是年秋審情實

予勾在案謹奏

826 乾隆五十六年七月初六日奉

旨此案著派玉德馳驛前往奉天秉公嚴審定擬具奏所有隨帶司員亦著一併馳驛至錦州地方拏獲賭博燒鍋各案內有潘陽番役糾同合夥等情最關緊要並著玉德於經過錦州時先行嚴審究辦毋庸解送刑部欽此

827 乾隆五十六年七月初六日內閣奉

上諭據伍拉納奏黃巖鎮標守備胡昌言前在鎮海營千總任內有閩人葉綱脩等欲圖出洋生理因與鎮海叅將施如憲之弟施如漢同鄉認識免向胡昌言即於稟內批准葉綱脩等遂出洋前赴盡山合夥販賣請將胡昌言革職施如憲解任質訊等語胡昌言係專防關汛之員竟敢徇情濫給批照顯有受賄朦混情弊胡昌言著革職嚴審至叅將施如憲雖據報先往溫州出洋緝匪但正當清釐洋面之時乃一任伊弟施如漢與營弁托情給照毫無覺察致令玩法民人合夥出洋違禁貿易難保無明知故縱情事施如憲著一併革職交與福崧就近提同案犯嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

828 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年七月初六日奉  
 上諭梁肯堂奏報六月分雨澤糧價情形摺內稱先  
 經缺雨之磁州現已得雨四次惟順德府屬之邢  
 臺內邱等處未獲優澍等語本日又據吉慶奏經  
 過直隸沿途各州縣雨澤調勻其順德所屬之內  
 邱邢臺二縣農民稍覺望雨與梁肯堂所奏相同  
 惟該侍郎摺內又稱於六月二十二日入河南彰  
 德境甘霖滂霈得雨三寸有餘該處與內邱邢臺  
 接壤想已均得霑被等語似內邱邢臺等處於六  
 月下旬亦經得霑甘膏或梁肯堂發摺時尚未據  
 各該縣稟報故奏稱該處未獲優澍亦未可定本  
 年直隸地方雨澤適中現在正值田禾長發茂盛  
 之時尤藉澍雨滋培如順德所屬各縣業經得雨  
 則已若尚未續獲甘霖於大田或有妨碍梁肯堂  
 務須飭令所屬即時稟報確勘情形據實奏聞不  
 可稍存諱飾將此傳諭知之並將順德所屬現在  
 曾否續經得雨之處即行覆奏以慰厯注欽此遵  
 旨寄信前來

829 臣等查朱珪恭跋語內稱朱子頗疑詩詞之外

應更有疊字散聲以嘆發其趣一語係載在儀

禮經傳通解書內茲將原書粘簽進

呈至朱子全書內並未載及謹

奏

830 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十六年七月初七日奉

上諭福崧奏五月分海塘沙水漲刷情形一摺內稱

東塘自念里亭汛迤東起至塔山外口新漲水沙

一道逐漸增長而南岸老沙亦日見坍卸今值霽

汛水旺之時所漲新沙並未刷動等語此係好機

皆仰賴

海神庇佑故能新沙日漲保護塘堤自應虔誠致祭

用答

神麻著頒發內府藏香五十枝交福崧親詣拈香以

酬靈既將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

831 大學士伯和 字寄

盛京將軍府尹等 乾隆五十六年七月初七日  
奉

上諭據嵩椿等奏查明岫巖界內石城等島俱向有  
民人居住毋庸令其遷移一摺前因稽查沿海地  
方流寓閩省民人恐嵩椿等未能悉心妥辦特命  
台費蔭與積拉敏對調前赴海口一帶設法查辦  
並令嵩椿等一體留心幫同整飭嗣台費蔭抵錦  
後於六月間將牛庄蓋州及金州岫巖等處海口  
詳查流寓情形會同嵩椿等具奏今此次查辦石  
城等島即係錦州所屬乃摺內竟未與台費蔭會  
銜且據稱榮柱與台費蔭行至岫巖界內安慰在  
島居民等語是此事台費蔭與榮柱始終一同查  
辦令台費蔭既未列銜何以榮柱又在會銜之內  
所奏殊不明晰大約嵩椿等因台費蔭奉旨前往  
未免心存芥蒂不欲與之聯銜入告耶除摺內所  
奏查報不實各員并交部議處外其因何不將台  
費蔭會銜之處著嵩椿等據實明白迴奏將此諭

令知之欽此遵

旨寄信前來

832

查朱珪跋語內稱朱子頗疑詩詞之外應更有  
疊字散聲以嘆發其趣一語係載在朱子儀禮  
經傳通解書內臣等將

文津閣四庫全書內查出儀禮經傳通解一書其

注內所載與朱珪跋語內所引相符謹粘貼黃

簽進

呈似可無庸擬寫詢問朱珪

諭旨謹

奏

833 乾隆五十六年七月初七日奉

旨嵇承志張裕毅葛建楚單毓秀陳惠疇趙釐泰鼎  
雲等懇請馳封俱著該部照例查辦摺併發欽此

834 乾隆五十六年七月初七日內閣奉

上諭長麟奏江淮五府州屬除當年成熟次年因災拖欠銀米麥豆等項仍於本年秋收全數開征外其實在因災積欠請均勻配撥分年催納等語江淮省淮揚徐海等處屢因被災歉收經朕節次加恩於賑卹蠲免之外又將節年積欠錢糧概予緩帶原欲使部屋窮簷無不均沾惠澤其中如係一年偶被偏災次年成熟後自應按數帶征若連年災歉即應據實聲請分年催納以紓民力今江淮等處自乾隆四十八年起至五十四年止因災積欠銀八十一萬餘兩米麥豆十七萬餘石俱係閔鶚元任內之事乃閔鶚元身任巡撫時並未核計積欠之多寡以定分年之遠近均係籠統聲叙概於次年秋後開征是小民遇有一歲豐收即須併納七年積欠力不從心以致吏役等催呼滋擾轉不若未逢樂歲尚可暫緩追逋此乃閔鶚元從前辦理不善不能仰體朕惠愛黎庶之一端所有江寧淮安揚州徐州海州等五府州屬自四十八年

起至五十四年止因災積欠銀八十一萬三千五百餘兩米麥豆一十七萬三千三百餘石均照長麟所請按照所欠多寡分作四年帶征並著加恩將此項帶征銀米麥豆每年寬免一半其當年成熟次年因災拖欠銀二十二萬餘兩米麥豆一萬七千餘石於本年秋後開徵時亦著寬免一半俾小民等戶有蓋藏生計益臻饒裕得以永享豐年之樂長麟即將此旨刊刻謄黃通行曉諭令僻壤窮鄉咸喻朕意毋任不肖吏胥因有恩旨寬免從中影射侵漁以完作欠務須密訪嚴查肅清弊竇方為妥善該部即遵諭行摺併發欽此

835 乾隆五十六年七月初八日奉

旨劉永銓何愚湯誥陳受培俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

836 大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十六年七月初八日奉  
上諭昨據秦承恩奏雨水情形一摺內稱省城於六  
月十一日得雨四寸各府州屬得雨三四五寸等  
語當此盛夏之時風日炎燥必得大霈甘霖方於  
農田有裨若得雨僅止四寸雖足資濡潤但雨澤  
究欠霑渥恐秋禾未得滋培暢茂著傳諭該撫將  
近日是否續得霽雨於田禾有無妨碍之處據實  
奏聞以慰厯注將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

837 啓者本日面奉

諭旨富文布奏銅斤有關鼓鑄豈容民間濫費應請  
詳加酌議除必須用銅斤者方准其應用外如有  
可以代用錫鐵概行禁止等語所言殊屬非是現  
在京師及各直省銅斤充裕鼓鑄官局錢文並未  
短絀何必總總慮從前雍正年間曾因錢貴禁  
銅彼時每銀一兩祇易京錢一千四百文銅價

未嘗稍減此時並不設禁每銀一兩易京錢至一  
千八九百文至二千之多錢價轉賤可見銅斤之  
盈絀錢價之低昂總在調劑得宜原不係禁止民  
間銅器始足供鼓鑄之用况銅器為民間動用必  
需之物若如該御史所奏概行飭禁則番役人等  
藉端嚇詐銅舖居民勢必交受其累而外省吏胥  
更得肆其需索之技且京城錢舖聞知該御史有  
此條陳轉致居奇昂貴於錢法頗有關係富文布  
不過因新用御史藉此以博建白之名其實毫無  
裨益著留京王大臣傳到富文布詳悉諭知並將  
原摺當面交還銷燬不必存案致外間相為傳說  
也特此布

達希即遵照辦理附便覆知不必專摺奏覆並  
候

近祺不一

七月初八日

838 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年七月初九日奉  
上諭前因直隸順德所屬之內邱等縣未獲透雨曾  
經降旨詢問梁肯堂於農田有無妨碍尚未據奏  
覆茲張誠基奏保定省城於本月初五日得雨三  
寸有餘是直隸雨澤究未深透但昨據留京王大  
臣奏報京師於初五日未刻起至初六日丑刻止  
得雨七寸保定距京甚近既同時得雨何以僅止  
三寸有餘著即查明覆奏且京師於初七日又經  
得雨而熱河自初八日亥刻起至本日辰刻雨勢  
連綿未止雲氣甚為寬廣直隸省城及順德一帶  
是否得霑渥澤朕心深為廕念看來口外雨澤業  
經透足無虞短少而口內現在不無望澤之處著  
傳諭梁肯堂將省城及各屬曾否續得透雨即行  
迅速覆奏以慰廕注將此傳諭梁肯堂并張誠基  
知之欽此遵

旨寄信前來

839 乾隆五十六年七月初十日奉

旨這所叅檢審不實朦混具詳之平樂府知府黃文  
燦平樂縣知縣楊懋珩署昭平縣事岑溪縣知縣  
朱熊光俱著革職交該撫提同案犯將有無賄縱  
情弊一併嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

840 臣等遵

旨擬

賞緬甸國王孟隕粧緞二疋錦二疋大緞二疋紗二  
疋大荷包一對小荷包二對恭候

欽定謹

奏

七月十一日

841 查此次安南國王阮光平遣陪臣陳玉視潘文

典黎輝慎三員恭進

表貢前來熱河謝

恩臣等查照向年例



賞

加賞酌擬

賞該國王及陪臣等賞單進

呈俟

發下後遵照預備於

筵宴時再行

頒給謹

奏

\* 例

賞安南國王

蟒緞五疋

粧緞五疋

錦緞五疋

倭緞五疋

閃緞六疋

練緞二十七疋

裏紬二十七疋

賞陪臣三員

表緞各六疋

裏綢各六疋

紗各二疋

羅各二疋

絹各八疋

賞行人六名

表緞各三疋

裏綢各二疋

紗各一疋

羅各一疋 絹各三疋 布各三疋  
賞從人五名

網各三疋 毛青布各七疋

賞伴送官二員

彭緞袍料各一件

加賞安南國王

玉如意一柄 佛一尊 朝珠一盤

香盒二個 青玉瓶一個 磁瓶一個

箋紙三捲 錦緞三疋

加賞陪臣三員

如意各一柄 香盒各二個 箋紙各二捲

錦緞各二疋

加賞行人六名

銀各十兩

加賞從人五名

銀各五兩

842 大學士伯和 字寄

雲貴總督富 乾隆五十六年七月十一日奉  
上諭富綱奏據騰越鎮州稟報有福建民人蔡元媽  
方賢二名從緬甸投出詢係五十年十二月內前  
往暹羅貿易被緬人裹往阿瓦上年國王孟頽感  
激恩准開關查知伊等尚未回籍各給路費資送  
進關等語緬甸國王孟頽前因向化投誠願請錫  
封通市朕俯念該國王恭順悃忱錫之寵命並准  
開關貿易以示柔懷今該國王感戴恩施凡有內  
地人民羈留在彼者俱給與盤費遣送進關其効  
順輸忱實可嘉尚著賞給蟒緞二疋錦二疋大緞二  
疋紗二疋大荷包一對小荷包二對用昭優獎著  
富綱派員費至關外交該國頭目孟幹轉送該國  
王祇領並繕寫照會移知孟頽以該國王資送內  
地人民回籍具見小心敬順經本督部堂據情奏  
達大皇帝垂鑒欵誠特加優賚國王益當恪守藩  
封永承恩眷也將此由四百里諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

843 乾隆五十六年七月十一日內閣奉

上諭據伍拉納奏前署上杭縣知縣泉州府經歷黃  
銓會同營弁拏獲隣省逃遣劉富李德二名訊明  
正法等語黃銓等於隣省在配脫逃之犯甫經入  
境即能盤獲尚屬留心查緝黃銓著送部引見其  
會同獲犯之把總甯明標著該督等遇有干總缺  
出即行拔補以示鼓勵嗣後各省督撫俱嚴飭所  
屬如有似此脫逃違犯經過該省地方各員弁務  
須於隘口津關留心盤詰認真緝拏毋使遠颺漏  
網該部知道摺併發欽此

844 乾隆五十六年七月十一日內閣奉

上諭蘇凌阿等奏全漕到壩起卸完竣一摺前因南  
糧各幫抵通較早業將總漕巡漕等交部議叙茲  
蘇凌阿等於漕船到壩後即督率坐糧廳上緊起  
卸並不留難勒指隨到隨收於七月初九日已將  
全漕俱行起竣較上年更早至十七日辦理更為  
妥速所有倉場侍郎及坐糧廳俱著加恩交部分  
別議叙以示獎勵欽此

旨查陝甘二省從前雍正年間西北兩路用兵時除各省調用征兵外原設額兵十萬四千八百名至乾隆四十七年議添實兵案內將虛兵名糧通行裁汰添作實兵現在該二省共有實兵八萬四千三百八十名再雍正年間至乾隆二十四年新疆未經平定以前陝甘二省駐防綠營各官兵每年俸餉共需銀三百七十九萬餘兩加以動用軍需銀二千七百餘萬兩按年攤算每年又約用銀三百八十六萬餘兩二共每年約需銀七百六十五萬餘兩現在該二省口內口外駐防綠營各官兵每年共需俸餉銀三百七十七萬四千四百餘兩較從前兵餉每年計節省銀一萬五千六百餘兩較西北兩路用兵時軍需兵餉二項合算每年實共節省銀三百八十七萬五千六百餘兩至陝甘二省裁去虛兵名糧銀二十萬九千二百餘兩添設實兵並武職養廉每年共需銀一十九萬八千餘兩較

原裁名糧銀數計又節省銀一萬一千二百餘兩現在陝甘二省較乾隆二十四年未經平定新疆以前每年兵餉等項通共節省銀三百八十八萬六千八百餘兩謹

奏

大學士伯和 字寄

署步軍統領尚書金 乾隆五十六年七月十

二日奉

上諭前據金簡奏革職知州高瑋在伊弟高燦寧武府署中起程久未回旗因傳諭鄭源琦等嚴行查拏送京茲據鄭源琦覆奏詢據高燦稱高瑋於上年七月二十九日攜帶伊妻子女及僕婦使女長隨並雇役尚發榮任重共十一人自寧武起程進京嗣於十月間查詢回晉之雇役尚發榮等據稱八月十六日跟隨高瑋進城至東四牌樓燈草衙衙于姓門首即遣令回署隨飛提雇役到省親訊所供無異等語高瑋既經帶眷起程於上年八

月間進京迄今幾及一年何以該旗尚無消息其為到京後潛匿無疑著傳諭金簡即派委員役前往東四牌樓燈草衙內詳悉查訪如果實有于姓其人自可跟蹤跡儻或並無于姓則高璋挈帶眷口多人諒亦不致遠匿即著金簡飭令番役於京城內外嚴密查拏務期迅速就獲將此諭令知之鄭源璫摺並著抄寄閱看欽此遵

旨寄信前來

847 乾隆五十六年七月十二日奉

旨金國寶高光大方曾奮湯師錫丁人傑靳漢俊張應元俱著准其貶封該部知道摺併發欽此

848 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 傳諭河南布政使鄭源璫 乾隆五十六年七月十二日奉

上諭鄭源璫奏晉省鹽課歸入地丁之議雖意在卹商轉與民食諸多未便惟有將現在報乏之商酌

量抽換另募殷實富戶承充至從前所定行銷地方均屬因他搭配並無應行改易之處等語所奏非實心實語晉省簽商一事向為該處富戶之累地方官藉此訛詐而富戶畏懼充當整費圖免輟轉吏派百弊叢生前經書麟面奏簽商朕即以為不便令軍機大臣會同新任山西巡撫馮光熊詳志籌議並將蔣兆奎調任晉省俟馮光熊抵任後督同蔣兆奎親履其地通盤籌畫再行酌議具奏但恐地方官向來得受鹽規今聞改歸地丁必有紛紛稟阻者今鄭源璫所奏果以改歸地丁為不便仍應另募富戶充當顯為晉省官吏留需索富戶地步該藩司在晉八年即係該處地方官於簽商一事想亦均沾餘潤今已調任河南所有調劑晉省鹽務專交馮光熊等辦理與伊無涉既往不咎朕亦不加深究矣但河南亦有行銷河東引鹽地方將來馮光熊酌議晉省鹽課攤入地丁咨商豫省一體查辦彼時鄭源璫復從中阻撓掣肘必將伊一併治罪決不寬貸此時馮光熊想已抵任俟蔣兆奎到晉後即率同妥辦務使商民交便

利歸於下方為盡善將此傳諭鄭源琦並諭馮光  
熊知之欽此遵

旨寄信前來

849 乾隆五十六年七月十三日內閣奉

上諭據吉慶奏審辦河南省民人鄭守謙呈控光山  
縣役何九等毆斃伊子鄭宗宜一案鄭宗宜致命  
重傷實係何九所毆其同毆之縣役劉興聽從賄  
囑全行承認知縣魏紳捏改情節希圖一人認罪  
將就完案該管知州玉山於所屬知縣庇役改供  
經上司批飭嚴查並不據實詳報除魏紳業經病  
故外應將前任光州知州今調山東東昌府同知  
玉山先行叅奏等語玉山著即革職解赴豫省交  
與吉慶同案內犯証嚴行質訊該部知道欽此

850 大學士伯和 字寄

欽差侍郎吉 河南巡撫穆 乾隆五十六年七月

十三日奉

上諭前因河南省民人鄭守謙在京呈控光山縣役

何九等毆斃伊子鄭宗宜等三命一案諭令吉慶  
前往該省秉公審辦茲據吉慶奏稱提犯研訊鄭  
宗宜致命重傷實係縣役何九所毆是以畏罪潛  
逃劉興聽從胡文舉許給銀兩全行承認光州知  
州玉山於飭委訪查時捏稟正兇實係劉興一人  
實無縣役在內扶同朦蔽應據實先行叅奏等語  
是此案情節與該省題結原案大有不符吉慶審  
出賄囑捏稟各情弊奏請開棺覆檢以成信讞所  
辦甚好穆和蘭前此一任屬員朦混率行題結已  
屬非是乃本日覆奏移交審訊一招適同時奏到  
內稱據前臬司李濤詳稱鄭宗宜委係劉興因索  
欠起衅毆打致斃即經親訊劉興供認鑿鑿與司  
詳無異等語尚屬意存迴護因查知州玉山係旗  
員詢為額勒春之子額勒春為穆和蘭姑夫誼屬  
姑表姻親其由豫省調任山東東昌府同知即因  
迴避該撫調往東省是穆和蘭明知玉山於所屬  
命案懣怗詳報恐致獲咎尚欲曲為庇護其為瞻  
顧表弟顯而易見穆和蘭摺內竟無一語提及實  
為欺隱穆和蘭不應如此此案竟不必會同審辦

著將玉山即行革職解赴豫省交與吉慶歸案審訊至何九一犯著該撫即嚴飭所屬迅速拏獲毋得久任遠颺致干重戾穆和蘭前曾獲咎經朕不次擢用巡撫乃敢意存瞻徇曲庇姻親甚負委任著先傳旨嚴行申飭並令其據實明白迴奏將此傳諭穆和蘭並諭令吉慶知之欽此遵旨寄信前來

851 遵

旨查玉山係穆和蘭表弟玉山之母即係碩色之妹臣等記憶不清今查詢明晰已寫入諭旨內謹

奏

七月十三日

852 大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十六年七月十三日奉

上諭秦承恩奏拏獲八卦教人犯一摺內稱渭南縣知縣詳稱據縣民劉世俊首稱族叔劉照魁從遠

道回家携有銀兩馬匹恐係行竊為匪經該縣將劉照魁拘拏到案訊出該犯係入八卦教內於上年二月自山東起身由庫車阿克蘇葉爾羌至喀什噶爾尋見震卦掌教王子重該犯以劉照魁遠赴口外送伊家信功行較大加以封號並令進口各處暗通信息與復原教請將劉照魁委員解交刑部及王子重等託帶各信一併封送軍機處等語八卦邪教煽惑人心久經破案分別治罪劉照魁胆敢恣不畏法復行入教潛赴新疆重地為遣犯王子重暗通信息受封名號罪惡已極該撫將該犯拏到審訊得實所辦甚好業經降旨新疆辦事大臣及各督撫將案內各犯嚴行查辦矣至劉照魁族姪劉世俊見伊叔遠道回家形迹可疑即行稟首尚知畏法自應優加獎賞所有審出劉照魁入教寄信各緣由之渭南縣知縣田灝著送部引見以示鼓勵其劉照魁一犯著秦承恩派委妥幹員弁迅即解赴行在以憑質訊再劉照魁既可潛赴新疆復行入教該省保無有似此不法之徒暗中煽誘從前段文經案內之徐克展即經逃

陝省旋被弋獲正法恐陝省尚有此教黨羽並著傳諭該撫仍宜留心訪緝飭屬嚴拏毋使邪教潛興漏網稽誅方為不負任使將此由六百里諭令知之欽此遵旨寄信前來

853

大學士伯和 字寄

駐劄回疆辦事大臣等 乾隆五十六年七月

十三日奉

上諭秦承恩奏據渭南縣民人劉世俊出首族叔劉照魁從遠道回家携有銀兩馬匹恐係行竊為匪經該縣將劉照魁拘拏到案訊出該犯係入八卦教內於上年二月自山東起身由庫車阿克蘇葉爾羌至喀什噶爾尋見震卦掌教王子重該犯以劉照魁遠赴口外送伊家信功行較大封為東震至行開路真人令其回至山東與伊姪王騰元兒興復原教並令該犯口許同教發遣葉爾羌等處屈進河等六犯封號等語王子重係震卦教內發

往喀什噶爾給回子為奴之犯乃不思悔改復敢潛通信息妄加封號興復原教實為罪大惡極而同教發遣新疆之屈進河等仍向王子重討求封號均屬慙不畏死竟與叛逆無異自應速正刑誅以昭炯戒但王子重係震卦掌教為此案罪魁著明亮等迅拏到案嚴審令其供出在新疆地方傳教煽惑輾轉授徒入教之人一併查拏跟究無使一名漏網速即驛奏審訊明確後即派妥幹官員兵役將王子重迅速解京再行跟究同教匪犯盡法處治沿途務須小心管押毋使乘間脫逃此等邪教人犯到處皆有夥黨若一經逃竄必有同教之人為之隱匿潛藏往往難於緝獲並恐該犯自知罪重或乘間自戕倖逃顯戮皆未可定務當防範嚴密不可稍有疎虞致干咎戾其屈進河申文成宋明周法才周進毛有倫六犯並著明亮等密拏審訊該犯等既向王子重討求封號必有興教授徒等事務須逐一跟究一面速奏一面即將屈進河等六犯在該處正法示眾所有王子重屈進河等供出各犯如有在新疆復立八卦教名目

授徒惑眾者亦即在該處正法其貿易民人內如  
 審係被惑聽從入教之犯著一併解交刑部發遣  
 以絕根株又喀什噶爾遣犯詹清真係天地會匪  
 犯托劉照魁攜帶家信并給與紙條聲言到粵時  
 給伊家屬者過必有重謝其紙條內語甚違悖並  
 著明亮嚴訊詹清真在該處有無傳習天地會教  
 曾否亦入過八卦教切實研鞫若有匪徒聽從入  
 教者亦當一體從嚴辦理詹清真亦即正法至此  
 等邪教匪犯原以新疆回子等向不信佛是以發  
 往該處為奴乃該犯等到彼仍各互相交結聯絡  
 聲氣甚至妄加封號可見喀什噶爾葉爾羌等四  
 處邪教遣犯如此其餘回疆地方均有邪教業內  
 發往為奴之犯自必在彼仍行傳教煽惑此項邪  
 教發遣之犯俱係情罪重大到配後自應嚴加管  
 束乃回疆辦事大臣等視為尋常案犯給與回子  
 為奴後遂爾聽其在外滋事來往招搖從不過問  
 若一經脫逃不過咨會沿途查拏塞責以致該犯  
 等肆行無忌看來八卦邪教天地會業犯行教授  
 徒不特喀什噶爾四處為然著傳諭回疆辦事大

臣一體留心訪拏如遣犯在彼復傳邪教立即從  
 嚴查辦至王子重等在該處復思興復原教竟敢  
 設立封號誘煽匪徒並有銀兩馬匹資給劉照魁  
 豈非入教之人共相資助若明亮等稍加管束不  
 令與匪徒交結往來何致該犯得有餘資妄思復  
 教其平日毫無覺察任聽新疆地方遣犯邪教蔓  
 延形同木偶咎實難辭明亮興秀林佛住等俱  
 著嚴行申飭若再不將此案匪犯實力查拏細心  
 跟究以致狡供漏網必將伊等一併治罪決不寬  
 貸也除秦承恩飛咨該新疆大臣查照辦理外將  
 此由六百里各傳諭知之仍將如何拏審情形迅  
 速覆奏秦承恩原摺供單一併抄寄閱者欽此遵  
 旨寄信前來

854 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

廣西巡撫陳 乾隆五十六年七月十三日奉

上諭秦承恩奏拏獲八卦教匪犯劉照魁一名訊出

潛赴喀什噶爾等處為震教首犯王子重攜帶家



信并口給封號一摺內稱王子重給予劉照魁書信令赴廣東德慶州復還步文斌指路真人名號並有籍隸廣東饒平縣天地會案內遣犯詹清真等托帶家信給與紙條兩張又該犯曹拜八卦教案內軍犯劉書芳為師授以教內理條等語劉書芳係山東單縣八卦教匪犯充發廣西養利州膽敢復傳邪教收劉照魁為徒傳授八卦教理條並令赴廣東德慶州探訪同教軍犯步文斌而步文斌即將劉照魁認為義子以致輾轉交結復與邪教是劉書芳步文斌二犯實屬大干法紀若不嚴示創懲何以昭國法而緝奸宄著福康安等即將該二犯密提到案訊以該犯等配所與王子重相距甚遠尚能彼此通信且令劉照魁搬取病故同教軍犯骨殖其形跡詭秘往來勾結種種錮習牢不可破若段文經未伏冥誅該犯必知下落務須切實跟究並嚴訊在該處傳習邪教聽從入夥各姓名逐一查拏審訊明確後即將劉書芳步文斌在該處正法示衆其聽從輾轉入教之人解京辦理又詹清真一犯在喀什噶爾給與劉照魁紙條

兩張聲言到粵時給伊家屬者過必有重謝其紙條內語涉違悖亦不可不嚴加跟究該犯籍隸廣東饒平縣著福康安等派員密赴該犯家中搜查有無不法字跡一併審辦至劉書芳步文斌係八卦教內匪犯自應發遣新疆何以轉發廣東廣西刑部及該省督撫辦理殊屬失當並著福康安等飭屬嚴訪如有傳習八卦邪教即按名拏獲解京改遣勿使蔓延滋事方為妥善除秦承恩業經飛咨該督撫查照辦理外將此由六百里各傳諭知之秦承恩摺著抄寄閱者仍將辦理情形及該犯等如何糾黨傳教之處先行覆奏欽此遵

旨寄信前來

855 大學士伯和 字寄

兩江總督書 江蘓巡撫長 乾隆五十六年

七月十三日奉

上諭秦承恩奏渭南縣民劉世俊稟首伊族叔劉照魁自外回家携有銀兩馬匹疑係行竊當即將劉

照魁差提訊究供出為新疆遣犯王子重等送信因詰以王子重係八卦教案內發遣新疆之犯何以往來口外為伊送信並供稱曾入八卦教及授王子重封號王子重發配出口令該犯回至山東原籍傳教與伊姪王騰元兒以異興復原教又給信兩封令先赴江南沛縣轉囑民卦行教之楊武郭信劉姓三人料理會事等語楊武等擅立民教名目與發遣重犯王子重交結通信殊屬不法著傳諭書麟長麟即將楊武郭信劉姓三人迅速查拏遵派委員解赴行在審辦再楊武等既係在沛縣地方設立民卦邪教且與王子重結交已久是伊教內黨羽必多書麟歷任兩江總督既經失察於前自須審嚴設法查拏務盡根株以贖前愆至長麟前在山東巡撫任內辦理八卦邪教一案未能搜拏淨盡以致現在尚有輾轉傳教之事長麟經朕棄瑕錄用深受渥恩今於該省沛縣邪教尤宜悉心查辦以期餘黨盡絕慎勿再有疎漏致干咎戾也除秦承恩業經飛咨該督撫查照辦理外將此由六百里諭令知之秦承恩原摺供單並著

抄寄閱看欽此遵  
旨寄信前來

856 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年七月十三日奉  
上諭秦承恩奏渭南縣民劉世俊稟首伊族叔劉照  
魁自外回京携有銀兩馬匹當即將劉照魁差提  
訊究供出為新疆遣犯王子重等送信王子重係  
八卦教案內發給回子為奴之犯劉照魁何以往  
來口外為伊送信並供稱曾入八卦教及受王子  
重封號王子重發配出口令該犯至山東傳教與  
伊姪王騰元兒以異興復原教該犯又為充發廣  
西之山東單縣八卦教案內劉書芳充發廣東之  
步文斌遞送家信並稱在王子重之母王袁氏家  
聞民卦教內楊武等與王子重之姪王騰元兒言  
及登州地方有段文經徒弟恐其逃往海邊等語  
八卦邪教起自山東單縣久經嚴拿分別懲治何  
以王子重發遣以後仍行膽敢令劉照魁傳教與  
伊姪王騰元兒即劉書芳步文斌業經充發粵省

乃亦復遞送家信往來不絕可見該犯等怙惡不  
悛其根株總未淨盡伊等分地發遣相距甚遠尚  
能彼此通信是其教內聲氣最為聯絡從前查拏  
段文經時令荷澤縣捕役王鵬元兇往緝王鵬元  
兇既係教內之人是予以暗通消息明白嚴拏實  
導以釋放恐各州縣吏胥內入教之人諒復不少  
無怪該犯日久漏網著傳諭惠齡將劉書芳單縣  
原籍及步文斌家屬如有與教煽惑傳播之事即  
按名查拏解京審辦所有王子重之母王袁氏及  
伊姪王鵬元兇一併派委妥幹員弁迅即解赴行  
在嚴行審究至段文經遠颺已久登州一帶地方  
既有段文經徒弟知其下落之語不可不設法嚴  
拏以懲兇惡並著該撫嚴飭所屬慎選妥幹兵役  
嚴行躡緝毋視為海捕具文致干咎戾倘各州縣  
捕役中或有暗中入教之人更不可不嚴密訪  
查以防透漏而淨根株除秦承恩業經飛咨該撫  
查照辦理外將此由六百里諭令知之秦承恩原  
摺并供單俱抄寄閱者欽此遵

旨寄信前來

857

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年

七月十三日奉

上諭秦承恩奏拏獲八卦教內匪犯劉照魁訊出潛  
赴喀什噶爾為震卦教首王子重攜帶家信并口  
給封號一摺內稱王子重給屈進河等封號後屈  
進河即寫信寄知周有孫貽恭杜三元囑其轉向  
劉照魁討求口號等語屈進河係八卦教內匪徒  
發遣葉爾羌給回子為奴之犯膽敢復受王子重  
封號又寫信托劉照魁帶回告知周有等三犯向  
劉照魁討求口號是周有等亦係教內匪徒從前  
漏網之犯屈進河原籍直隸周有孫貽恭杜三元  
與屈進河係屬親戚自必亦在直隸地方居住著  
傳諭梁肯堂飭屬訪拏務獲解赴行在歸案審辦  
再托劉照魁帶信之新疆遣犯內有籍隸河南者  
雖該犯等並非因在八卦教內犯案但既與劉照  
魁往來難保無聽從入教情事並著穆和蘭妥為  
查辦如該犯等家屬有入八卦教內者亦一併緝

拏甯辦勿任狡展將此由六百里傳諭知之欽此

遵

旨寄信前來

858

臣等謹將陝西巡撫秦承恩抄送劉照魁帶寄各犯信底內語句悖逆之處粘貼黃簽進呈其餘各犯書信較多臣等現在查閱有無悖逆字樣之處再行粘簽呈

覽謹

奏

七月十三日

859

查養利州係廣西太平府所屬劉書芳係山東單縣人因八卦教案內發配養利州之犯其於何年何人案內發配臣等現在查查在京刑部至王子重信內皇賑字樣即係該犯等悖逆之處謹

處謹

奏

860

乾隆五十六年七月十四日內閣奉上諭諾穆親著兼署兵部右侍郎所有三山事務著伊齡阿兼管欽此

861

乾隆五十六年七月十四日奉旨刑部審擬老格大王三等共毆常山斃命一摺老格以食餉當差之人膽敢在瀛臺禁地毆斃人命復惡罵屍親布圖寢事到案後又狡供抵賴以致遲至兩月有餘始行定案情罪甚重刑部擬同犯証訊出實情將老格定擬絞候入於本年朝審情實不致正克漏網所辦尚是惟大王三因索欠微嫌爭毆肇衅將常山按地疊踢多傷雖非致命情殊兇橫大王三著銷除旗檔發往黑龍江給兵丁為奴以示懲儆餘俱照所擬完結欽此

862 同日奉

旨著盛京將軍會同盛京戶部侍郎監收欽此

戶部奏盛京官庄交納米石

863 乾隆五十六年七月十四日內閣奉

上諭金簡奏據廣東提督高瑑咨稱堂兄高瑋送女來粵成親在署患病令其上緊醫治即行回京等語高瑑人本庸軟從前軍營並無認真出力打仗之處高瑋係革職知州前經呈明在伊弟高燦任所就養於去年七月起程回京後繞道往粵以送女成親為名屢次托故潛逃高瑑於伊堂兄來至任所時即應押令回旗並據實奏聞乃遲延數月始藉稱因病滯留移咨到旗殊屬不合且伊子高崢年已及歲經朕指名調取來京當差又復托病耽延至今尚未到京實為有心庇縱廣東係海疆要地似此疲玩性成之員豈堪復膺專閫重寄高瑑著即解任來京交部治罪其廣東提督員缺著孫起蛟補授欽此

864 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十六年

七月十四日奉

上諭金簡奏據廣東提督高瑑咨稱堂兄高瑋送女

來粵成親在署患病令其上緊醫治即行回京等語前因高瑋在伊弟高燦山西寧武府任所於上年七月內携眷回京迄今已及一年並無消息節經降旨查拏乃高瑋竟在伊弟高瑑任所逗遛而高瑑並不押令回旗藉稱因病以一咨塞責又伊子高崢經朕指名調取來京當差至今耽延未到實為有心庇縱且其才具平常從前在軍營亦未認真出力打仗難勝海疆提督要缺已明降諭旨將高瑑解任來京交部治罪矣著傳諭福康安即將革職知州高瑋派委委員迅速押解交刑部治罪毋任再有耽延將此諭令知之欽此

865 乾隆五十六年七月十五日奉

上諭穆和蘭奏商邱縣民人張景仲因向吳四索欠爭鬧起衅殺死吳四等四家男婦十一命並扎傷砍傷男婦十二名將張景仲凌遲梟示其同居之母張劉氏胞兄張二胞姪張魁一併發伊犁給官兵為奴一摺張景仲以索欠微嫌於黑夜携帶兇器殺害吳四等四家十一命又扎傷十二人跌壓

致斃幼孩二命如此兇殘慘毒實從來未有之事  
朕覽奏深為惻然更加愆然向來殺死一家三四  
命者其情罪已極先惡乃張景仲殺傷竟至二十  
餘人之多固由戾氣所鍾性成殘忍但地方官有  
親民之任化莠為良是其專職縱不能道德齊禮  
亦當明示政刑嚴加約束如果平日嚴切懲誡俾  
知畏罪保身何致民間有此殘害多命之事可見  
各省牧守等官所稱於每月朔望宣講

聖諭廣訓亦竟屬托諸空言以致愚民全無儆戒重罹

法網甚至有肆行戕害如張景仲者即云世風日  
降人心日壞不能俗盡敦龐亦何至兇暴若此之  
甚朕實引以為愧司牧者豈能辭平日失於訓化  
之咎所有該縣知縣及巡撫以下該管上司俱著  
交部分別議處至張景仲殺死多命並致令吳四  
絕嗣該犯雖無親子亦豈可令其兄姪仍延嗣續  
乃該撫將該犯胞兄張二胞姪張魁不過問擬發  
遣殊屬輕縱除伊母張劉氏著照所擬即發往伊  
犁給官兵為奴外張二張魁俱著解交刑部照例  
治罪並著通諭各省督撫嗣後務當身為表率以

化民敦俗為要務督飭所屬認真訓誨於聽斷詞  
訟收納錢糧與部民相接時隨事隨地將天理國  
法之宜畏身家性命之宜保愷切曉諭使知交相  
警戒勉為善良庶暴戾之氣得以漸消而民俗或  
臻敦厚方為無負臨民之任督撫等其共加策勵  
整治民風以副朕諄諄訓勉至意欽此

866 乾隆五十六年七月十五日內閣奉

上諭雲南開化鎮總兵員缺著蔡鵬補授欽此

867 大學士伯和 字寄

直隸河南湖北湖南各督撫 乾隆五十六年

七月十五日奉

上諭陳用敷奏署龍州通判王撫棠稟稱六月初七  
日接據貢使阮文瑛等稟稱因一路雨水阻滯難  
以行走現在芹營地方守候水退再行前進查芹  
營係安南處北鎮地方距南關尚有四百餘里該  
貢使既因雨水阻滯進關難定時日斷不能於八  
月初間趕赴熱河仍遵前旨俟進關後另其緩程

行走於封印前抵京等語阮文瑛既未據報進關日期此時距封印前月日甚寬將來進關後儘可從容緩程行走竟於封印前抵京與各外藩使臣同預宴賚較為妥協著傳諭沿途各督撫此時竟可毋庸預備俟該陪臣進關後得有前途信息再行照例備辦於經過時令其從容前進亦未為遲也除陳用敷業咨各省查照辦理外將此遇便各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

868 大學士伯和 字寄

兩江總督書 江南河道總督蘭 乾隆五十

六年七月十六日奉

上諭書麟等奏伏汛水勢安瀾工程平穩一摺覽奏欣慰惟閱摺內稱洪澤湖水因頻得大雨淮水加長匯注洪湖高堰誌椿長至一丈零四寸等語聲叙總不明白又稱清口以下清黃並注甚為湍激徐城北門誌椿仍存新舊長水一丈二尺更不成話已於摺內用硃筆抹出詳悉批示矣河湖誌椿

長水情形該督等自應將舊存底水若干尺新長若干尺分別聲叙乃輒稱洪湖長水一丈有餘徐城黃河長水一丈二尺餘寸竟似河湖各水暴漲一丈以外再加底水更不知若何浩瀚書麟等豈能設法抵禦此係向來河工陋習故作此語以為水勢長盛伊等搶護平穩更見籌畫有方前年六月內書麟蘭第錫奏報徐城誌椿長水一丈三尺六寸並不將舊存新長分叙經朕降旨訓諭並令嗣後將新長尺寸明白具奏不得仍前陋習該督等豈未接奉乃未久忘之復蹈故轍又為此牽混之詞甚屬非是况本日據李奉翰等奏黃河僅長水一尺三寸下游徐城誌椿長水尺寸自亦相仿何至陡長一丈二尺餘寸尤為錯謬且李奉翰所奏亦祇將新長之水叙入並不牽連底水甚為明晰豈書麟蘭第錫兩人轉不如李奉翰之曉事耶蘭第錫人本粗直或一時大意而書麟係棄瑕錄用之人又復久任河工自應加倍細心勉力以冀稍贖前愆何漫不經心若此朕將伊復加擢用兩江總督時原慮其才短無用今即此奏報長水尺

寸一端更可概見書麟蘭第錫俱著嚴行申飭並將李奉翰等原摺抄寄閱看至此次水勢不至十分漲盛各工保護平穩亦惟仰賴

神佑若似書麟等如此糊塗其等畫調度實不可恃現在伏汛雖過秋汛正長該督等亦當嚴督在工人員慎之又慎敬謹巡防以期工程鞏固毋得稍有懈弛致干咎戾所有湖河誌樁究竟新長水若干舊存底水若干著書麟等即行分晰奏覆勿再牽混將此傳諭書麟蘭第錫並諭李奉翰等知之

欽此遵

旨寄信前來

869 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年七月十六日奉

上諭尚安奏焦秀棟毆斃蔣自亮身死一案緣焦秀棟向與馬崇元一處傭工不時向馬崇元借貸致被雞姦嗣馬崇元與蔣自亮同住焦秀棟復往看馬崇元叙起舊好適蔣自亮自外醉歸瞥見即欲留焦秀棟姦宿焦秀棟拒姦叫罵因蔣自亮

三六四

撲毆焦秀棟遂拾起柴棒將蔣自亮打傷殞命等語焦秀棟平素果不肯為人姦污即不應有被馬崇元雞姦情事乃以既被馬崇元姦污之人因蔣自亮欲留姦宿忽而拒阻叫罵以致將蔣自亮毆斃情節甚為可惡即其欲行留姦亦據該犯一面之詞現在無憑實証或係捏詞狡供亦未可定焦秀棟除照尚安所奏依律擬絞外著刑部即將該犯入於本年秋審情實將此傳諭刑部堂官並諭尚安知之欽此遵

旨寄信前來

870 大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十六年七月十六日奉

上諭據秦承恩奏雨水情形摺內稱西安府屬之咸寧長安咸陽鳳翔府屬之鳳翔岐山及邠州乾州等州縣雨澤未能深透現在設壇祈禱等語前因秦承恩奏報省城及各屬得雨僅有三四寸恐該省雨澤尚欠優渥深為厯念業經降旨詢問今該撫奏到西安鳳翔所屬州縣望澤頗殷是該處竟



係缺雨秦承恩於此等緊要之摺自應由驛馳奏何以僅交差弁費遞殊屬遲緩現將硃批原摺由四百里發回著該撫即將該處曾否續沛甘霖及田禾有無妨碍之處迅速奏聞如或因早成災務即據實具奏毋得稍有諱飾又另奏查明陝省鹽法一摺內有榆林等州縣販賣蒙鹽及不許蒙鹽透漏入境等語從前各省章奏於滿洲蒙古字樣有摘用滿蒙二字者屢經有旨飭諭乃該撫沿陋習輒將蒙鹽二字叙入摺內省字有限轉不成話豈該撫於陳奏事件一任庸劣幕友隨意填寫不加檢點耶秦承恩著傳旨申飭將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

871 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年七月十七日奉上諭穆和蘭奏拏獲邪教人犯一摺內稱查得周有係周明之父自周明犯案正法後周有旋於上年四月內身故埋葬村西並拏獲孫貽恭杜三元二

犯究出趙成司喜吳弟二等從前亦曾入教現飭解省嚴審等語所辦不明已於摺內批示矣周明係震卦教內正犯伊父周有自必首先傳習從前未經審出况現經屈進河等寄周有信內令其向劉照魁討求口號必有聚徒傳播之事該犯雖經病故自應向其家屬嚴切跟究况周有之子周明尚有義子周進豈周有家中竟無妻子乃穆和蘭僅據地保隣佑指稱周有已經身死轉置該犯家屬於不問且該撫拏獲孫貽恭杜三元供出之趙成等現經逐一跟訊詎有不將周有現在有無子孫其身死後係何人埋葬之處詳晰聲叙之理今摺內竟無一字提及何該撫於此等緊要關鍵正應細心詳鞠之處踈忽至此殊為失當即如本日黑龍江將軍都爾嘉拏獲吉林逃遣咨查吉林將軍是否實係遣犯後始行正法一事豈有平民被人拏獲自認遣犯之理又何必輾轉咨查是都爾嘉於不必細心之事徒多枝節而穆和蘭於理應細心之事反致忽畧將軍督撫等若皆如此不曉事理輕重必待朕逐一指示又安用此大吏為耶

所有申飭都爾嘉清字諭旨著抄寄穆和蘭閱看並著傳旨嚴行申飭至孫貽恭杜三元前此既經入教今屈進河寄信令其討號湊錢送給盤費必另有輟轉入教之人其趙成司喜吳第二所供雖經傳給訶詞現已改悔之語亦不可信均應詳細跟究悉心推鞠毋任狡展並此外有無傳習入教之人務須按名拘獲嚴訊實情問後俱解交刑部勿稍疎縱將此傳諭知之仍即迴奏欽此遵旨寄信前來

872 乾隆五十六年七月十七日奉

旨朔當阿著即處絞餘依議欽此

扎死妻趙氏並致伊母情急  
自盡一案

873 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十六年七月十七日奉  
上諭金簡奏棟汰番役赴燈草衙衙詳悉查訪並無  
于姓其人訊據清河開店民人韓大供稱去年八

月間有一廢員高姓帶同家眷男婦八九人坐車到店住了八九日即起身前往通州找尋親戚等語前經鄭源濤奏詢問高瑋之弟太原府知府高燦據稱查詢送伊兄高瑋赴京之雇役尚發榮任重二人均稱跟隨高瑋進城至東四牌樓燈草衙衙于姓門首即遣令回署等語是以當即降旨令金簡棟汰番役查拏于姓跟究今金簡覆奏燈草衙衙並無于姓其人而高瑋上年帶同家眷即在清河住歇旋赴通州並未進城若非尚發榮等在尚燦前捏詞回覆即係高燦迴護伊兄裝點朦混具稟二者必居一於此著傳諭馮光熊親提尚發榮等面加究詰並詢問高燦是否有心捏飾據實具奏如尚發榮等狡不供吐該撫不能審出實情即將該二犯解京交刑部審訊辦理將此諭令知欽此遵

旨寄信前來

旨將乾隆五十三年荆州被水情形及如何加恩賑卹並辦理窖金洲事宜詳詢陳淮據稱五十二年六月二十日荆江夏汛漲堤騰潰決江水直逼城下冲開西北兩門滿漢兩城文武衙署兵民房屋以及倉庫監獄俱被淹漫兵民多赴城上及屋頂樹上逃生其時陳淮因往長陽查災回省適至荆州當即登城相度惟離城五里之沙市地勢較高未經被水即令家丁紮筏渡赴沙市招募船隻接應兵民上城棲息因被災民人口食無資若待報明督撫始行開倉賑濟恐往返需時倉內米石亦已氾爛無用遂即酌動府倉兵米散給撫卹駐防綠營兵丁照例借給一月口糧其水漲時係在申酉之間兵民等知有水勢猝發急為預備各自逃生是以淹斃人口無多亦無乘機搶奪之事至二十二日大東門本係被水壅阻人力難開該處有關帝廟廟外有大銀杏樹一株忽然拔起撞開城門水勢隨往外洩瀉暴漲得以漸消遠近官民

皆以為

關帝靈佑所致旋蒙

皇上降旨令於戶部庫內動撥銀二百萬兩迅速解往荆州為撫卹之用計五十三四兩年賑濟銀九十四萬餘兩又賞賚駐防兵丁及俸餉等項銀三十六萬餘兩城隍石磯引渠等項銀五十七萬餘兩又修築監利等五縣隄工七萬餘兩所有撥銀二百萬兩俱已動用無存彼時荆州雖猝被水災因即蒙

恩賑卹兵民均不致失所元氣仍屬無損嗣經阿桂奉

命前往荆州確勘形勢奏稱江中淤沙一處土名窖金洲漲沙寬濶侵佔江面攔梗激怒水勢逼溜北趨以致堤工屢決請於該處建築石壩挑溜向南激注沙洲並繪圖呈

鑒蒙

皇上指示機宜於圖內

硃筆標誌令於窖金洲上首西北處所先挑成河口迎受江水俟石壩築成挑溜南趨使江水直注

洲頭更可冲刷成河經阿桂遵

旨飭辦於楊林洲黑窰廠觀音寺等處建設石壩三座於五十四年春間工竣荆江得有石壩通溜南趨自此江流順軌永慶安瀾等語謹奏

七月十七日

875 遵

旨查取紀成斌列傳茲據

國史館覆稱紀成斌未經立傳今恭查紅本內摘叙事蹟抄錄畧節進呈謹奏

七月十八日

876 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十六年七月十八日奉  
上諭據福崧奏拏獲各案盜犯分別正法定擬一摺  
內稱盜犯紀孝等十一名俱恭請王命正法其情

有可原之劉建等十二犯從重擬斬監候俟滿三年後再行解部發遣黑龍江給披甲人為奴等語紀孝等十一犯或在洋為盜或行劫搜贓情罪重大自當立正刑誅未便稍稽顯戮至劉建等十二犯雖祇係接遞贓物在船看守與行兇搜劫者稍為有間但現當綏戢洋盜之時尤宜嚴加創懲以示炯戒福崧將紀孝等即行正法並將劉建等遵照新例從重問擬斬候并年滿發遣不待聽候部覆始行定案所辦甚是嗣後該撫益當嚴飭文武各員留心緝捕不必拘泥定例有犯即懲以靖盜匪而安善良方為無負委任將此諭令知之欽此 遵

寄信前來

大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 乾隆五十六年七月十八日奉

上諭據勒保奏五月分糧價單內開各屬價值皆係價中與上月相同字樣毫無參差所奏殊未可信甘肅地方府州各屬地土既有肥磽人事亦或不齊米糧價值豈能一律相符而各屬每月時價更不應絕無增減今勒保所奏僅據屬員開報價值率行奏報則奏米糧價何用竟成印板文章是該督於民食所關並未留意豈不知朕軫念閭閻無時或釋於各省奏到糧價無不詳加披覽耶勒保著傳旨申飭仍將糧價有無增減之處據實具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

乾隆五十六年七月十八日內閣奉

上諭前因四庫全書內錯悞甚多特令總纂等詳加校閱並恐熱河文津閣所度全書亦多魯魚亥豕之訛復令紀昀帶同詳校各官細心閱看該員等自應認真校勘將書中脫落訛舛之處逐加改正

俾臻完善今朕偶閱文津閣四庫全書內揚子法言一書其卷一首篇有空白二行因檢查是書次卷核對竟係將晉唐及宋人註釋名氏脫寫書中篇首空至兩行顯而易見開卷即可瞭然乃詳校官既漫不經心而紀昀係總司校閱之事亦全未寓目可見重加讐校竟屬虛應故事朕每幾餘披覽其書內有一二字錯落令軍機大臣隨時改正者不一而足因尚係尋常訛脫不加責備今篇內甚至脫去二行紀昀等實難辭咎寧不自知慚惡耶况朕曾有御製書揚雄法言一篇雖係近年之作亦應繕錄弁於是書之首紀昀並未留心補入更屬疎忽紀昀及詳校官莊通敏俱著交部分別議處除將文津閣四庫全書內揚子法言一書就近交軍機大臣將空行填補並繕錄御製文于篇首外著紀昀親赴文淵文源二閣將揚子法言一書檢出繕錄御製文冠於簡端並帶同詳校官抽查此書卷首是否亦有空白之處及此外各書有似此脫誤者一體抽閱填改如再不悉心詳檢經朕看出必將紀昀等加倍治罪不能再邀寬貸也欽此

大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年七月十八日奉

上諭本日梁肯堂奏據署磁州知州景文稟報探聞  
 孫貽恭杜三元二犯并周有之叔周貴已在河南  
 臨漳縣地方拏獲等語昨據穆和蘭奏周明之父  
 周有業經身故並未將該犯家屬提訊已降旨將  
 穆和蘭嚴行申飭並以周明尚有義子周進豈周  
 有家中竟無親屬令其嚴行究辦今梁肯堂果奏  
 稱周有之叔周貴已在河南臨漳地方拏獲何以  
 穆和蘭昨日奏到之摺竟無一字提及殊不可解  
 著傳諭該撫因何拏獲周貴又並不奏聞之處據  
 實明白迴奏可見該撫於查拏此等邪教案內要  
 犯全不留心跟究著傳旨再行申飭將此由四百  
 里諭令知之欽此遵  
 旨寄信前來

880 查乾隆四十六年五月內奉

旨嗣後邪教案內凡有發遣之犯不得發往奉天吉

林及新疆等處致將邪教復行煽惑民人等因欽  
 此昨奉承恩摺內所稱發遣廣東之步文斌係  
 山東沂澤縣清水教首步偉之子其發遣廣西  
 之劉書芳係入單縣民人李步雲借名白蓮教  
 內之犯均於四十七年破案是以山東巡撫及  
 刑部遵照四十六年所奉

諭旨將該二犯發往兩廣烟瘴地方充軍五十三年  
 六月內復奉

旨傳教首犯自應從重定擬其餘既經入教者即不  
 可留於內地竟當分發回城給回子為奴回子另  
 是一教俾該犯等到彼不敢再行煽聚欽此自五  
 十三年以後遇有此等邪教案內應行發遣之  
 犯俱發往烏什葉爾羌阿克蘇喀什噶爾等處  
 給回子為奴再查托劉照魁帶信王騰元兒等  
 興復原教之王子重一犯又向王子重討求封  
 號之屈進河申文成宋明周法才周進毛有倫  
 六犯俱係聽從河南震卦教首林進道傳徒欽  
 錢案內於五十三年發遣回疆給回子為奴在  
 案謹

奏

881 乾隆五十六年七月十九日內閣奉

上諭據惠齡奏東省平原等二十七州縣本年應行帶徵漕糧及買補截留散賑漕米為數較多請將前奏二年內帶徵買補之糧分作四年完納等語該省上年雨水稍多秋禾間有被淹本年雖雨水調勻民間益歲恐尚未能充裕其帶徵買補各項自應酌展年限用示體恤所有平原等各州縣於二年內應行帶徵之米麥豆十萬八千餘石又買補截留散賑漕米十萬九千餘石著加恩分作四年帶徵買補搭運以紓民力該部即遵諭行摺併發欽此

882 乾隆五十六年七月十九日奉

旨田起龍全德顯田祖德俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

883 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年七月十九日奉

上諭惠齡奏接准秦承恩咨會當即密令登州府知府藍嘉瓚訪拏段文經徒弟並恐段文經在登州一帶藏匿令其星飛搜捕一面派委臬司陸有仁前赴荷澤單縣等處查拏王表氏王膺元兒等再行訊供具奏等語此案昨已有旨令該撫實力查拏矣劉照魁在陝西供明於五十四年冬間在王子重之母王袁氏家聽見楊武等向王膺元兒口稱聞有段文經徒弟現在登州恐逃往海邊上去等語所言必非無因安知段文經不竟在登州一帶藏匿此等緊要人犯該撫接到咨會後自應親赴登州迅速訪拏乃竟安坐衙署僅令知府前往訪捕不特要犯難於偵緝並恐捕役等暗中通信導之遠遁從前查拏段文經時曾令荷澤縣捕役王膺元兒往緝王膺元兒即係八卦教內之人彼時自必潛通消息令其竄匿可見該處府縣捕役多有聽從入教者令惠齡即令登州府往拏其所

帶捕役俱係通同一氣即果有段文經在彼潛匿早已聞風遠颺惠齡何不曉事理輕重若此著傳旨申飭並令該撫即行迅往登州一帶不動聲色嚴密訪拏毋得仍前玩愒至王鵬元兇拏到後務須研訊確供追究楊武等向伊所稱段文經徒弟係屬何人令其據實指出容拏到案跟訊段文經下落並遵照前旨將王于重之母王袁氏及王鵬元兇速行解赴行在審辦如有王鵬元兇等供出同教要犯亦一併按名嚴拏解京辦理將此由四百里傳諭知之即行迅速覆奏欽此遵旨寄信前來

884 乾隆五十六年七月二十日內閣奉

上諭順承郡王錫保從前在北路軍營應賠倒斃駝馬銀三十四萬四千四百餘兩在伊子孫熙良等名下接續坐扣固屬咎有應得但念其在將軍任內不過辦理不善與冒銷侵蝕者有間且歷年已久其扣項已閱五世所有未經扣完銀七萬二千四百餘兩著加恩寬免以示朕為念宗潢優加體

恤至意欽此

885 乾隆五十六年七月二十日內閣奉

上諭據書麟等奏太倉州知州西琳嗜酒悞公日就怠玩請旨革職等語西琳身係滿洲出膺民牧乃敢性耽趨藥不理公事雖查無別項劣款但以旗員貪飲不職尤屬可惡西琳著革職解送刑部責四十板以為旗人為外官者戒再交該旗充當護軍披甲等差不許復任官職該部知道摺併發欽此



886 同日奉

旨朱梓薩炳阿違誤接遞文報俱在十案以上非尋常因公墨誤可比著照部議朱梓於補官日降一級用薩炳阿降一級調用餘依議欽此

887 乾隆五十六年七月二十日內閣奉

上諭閻泰和奏向例各巡漕御史僅將重運催備出境遂爾了事心有不安請嗣後各巡漕御史催查重運後即接催空運仍在各處上下往來稽查催備等語所奏竟成笑話巡漕御史起自雍正年間原為督催重運而設每年各幫重船銜尾北上抵通後各巡漕俱遵照向例卸事復命歷來奉行已久本以重運幫船恐有沿途逗遛等事得有巡漕為之逐程催備更以漕務有裨若起卸回空後旗丁等自必早思歸次豈有故為遲滯甘心守凍之理况已有總漕督押回空尾不過奉差日久可多待公費耳幫南下又何必復令巡漕往來稽察使地方官吏轉多紛擾此奏斷不可行至請將派出巡漕四員各按巡視地方鑄印

888 遵

頌給尤屬無謂各巡漕文移往來俱有銜名可據亦不慮漫無區別又何必另行鑄印徒事更張耶所奏亦不可行原摺即著發還欽此

旨查順承郡王錫保從前在北路軍營應賠倒斃駝

馬銀共三十四萬四千四百七十兩在熙良泰斐英阿恒昌倫住名下應得王俸內接續坐扣共扣過銀二十七萬二千三十餘兩現仍欠銀七萬二千四百三十餘兩未經扣完至平郡王福彭於雍正十一年八月授定邊大將軍係在錫保之後所有軍營倒斃駝馬應行著落錫保賠補一案即係福彭及鄂爾泰奏是以此項銀兩並未分賠傳爾丹於雍正七年授靖邊大將軍出師北路係在錫保以前並無分賠銀兩至大學士公馬爾賽雍正年間為北路大將軍因按兵不進怯懦逗遛貽誤軍機按律正法亦無分賠銀兩之事謹

奏

七月二十日

889 乾隆五十六年七月二十日奉

旨這所叅沛縣知縣孫朝幹於所管衙役詐擾商民婪贓入己毫無覺察實屬昏庸不職孫朝幹著革職至捕役張泰倚恃衙役把持索詐錢文以致客商受累殊為不法該撫擬以發遣尚不足蔽辜張泰竟著發往伊犁為奴以為蠹役詐贓者戒該部知道摺併發欽此

890 乾隆五十六年七月二十日內閣奉

上諭長麟奏栗東鈞遣伊子栗時育赴京具控邳州書役捏造供詞通串陷害一案審係全虛將栗東鈞等分別發遣杖責等語栗東鈞前因抗欠工料誣告勒折業經問擬流罪今復妄思翻案輕減罪名輒稱書役串害誣良官吏改供朦結各情節令伊子赴京具控並將素有仇隙及本案書役一併羅列控告希圖洩忿以致拖累多人情殊狡惡非尋常誣告重事不實者可比著長麟將栗東鈞即在該處枷號三個月滿日重責四十板再行發往

伊犁為奴以示懲儆餘俱照該撫所擬完結該部知道摺併發欽此

891 乾隆五十六年七月二十日奉  
旨遣福克精額行禮欽此

892 大學士伯和 字寄

欽差侍郎吉 乾隆五十六年七月二十一日奉

上諭據山東學政鄒炳泰奏稱在濟南府開考有章邱縣生員孟衍魯呈所撰聯句詳閱至後有控章邱縣衙役稟詞內開私造偽冊採買穀石浮派折價私催蠲免口糧多索運米車價又折收糧米有餘糧餘米名目各款等語該縣衙役於經徵米石浮收多派欺誣叢繁該生員所控似非全無証據如果屬實則該縣嚴孫貽在任已久一任衙役等私徵勒索種種舞弊恐不免有通同染指情事不可不徹底跟究倘所控虛誣亦應將生員孟衍魯治罪以儆刁風現在吉慶審訊河南光山縣衙役

何九等毆斃人命一案計接奉此旨時自己審辦完竣著即順道前往東省提集章邱縣案內人証秉公詳悉嚴訊定擬具奏毋得稍存迴護所有該學政原摺及孟衍魯所遞稟詞並著抄寄閱看將此諭令知之欽此

893 乾隆五十六年七月二十一日內閣奉

上諭姚茶奏護理江西鹽道恒寧現已降調自應飭令離任但該員於江省鹽務尚稱熟諳請俟陳大文到任將鹽法一切事宜當面講求交代後再令離任等語江省鹽務現於建昌一郡添設卡巡酌減鹽價自須熟手經理恒寧降調後鹽道員缺雖經選授陳大文但該員究係生手恐於該處鹽務未能諳悉朕正憶及此尚未明降諭旨今姚茶奏稱飭令恒寧交卸南昌府篆其所署鹽道印務暫緩離任以免隔手交代所奏尚是恒寧前於失察屬員派銷鹽勛一案降調尚係因公獲咎並無大過且該員辦理江西鹽務已有三載尚稱熟諳現

在建昌地方增設卡巡減價敵私等事諸關緊要即陳大文到任時令恒寧將一切事宜明晰告知亦恐一時未能詳盡究不如恒寧一手經理較為妥協恒寧著加恩以同知銜仍護理江西鹽道事務該員益當感激朕恩實心整理若該省仍有私鹽偷越官引墮銷之弊必將該員加倍治罪不能再邀寬貸其新選江西鹽道陳大文俟有該省相當道員缺出著姚茶另行奏補欽此

894 乾隆五十六年七月二十二日奉

旨黃定文王宿善俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

895 同日奉

旨孫岳齡翁振行均著准其馳封該部知道摺併發欽此

896 乾隆五十六年七月二十三日奉

旨武鴻翁瓚英吳吉士均著准其賍封該部知道摺併發欽此

897 乾隆五十六年七月二十三日奉

旨吳人驤趙錫蒲王伸漢均著准其賍封該部知道摺併發欽此

898 查本日刑部核議張老六殺死華虎子女三命

一案係湖北省房縣民人昨穆和蘭奏河南商邱縣有張景仲殺死男婦十一命砍傷男婦十二名口之案臣等謹遵

旨一併擬寫寄信畢沅福寧穆和蘭

諭旨進

呈謹

七月二十三日

899 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 湖北巡撫福 河南巡撫穆

乾隆五十六年七月二十三日奉

上諭刑部核覆湖北省房縣民人袁老三共毆劉啟恒身死張老六聽從王老么殺死華虎子女三命一案將張老六擬以斬決袁老三擬絞監候已依議行矣王老么本係無賴匪棍因華虎幫同保正前往捕拏心懷氣忿遂邀同張老六等欲打死華虎洩恨適華虎外出見華虎子女三人在家即率令張老六等一併殺死實屬兇惡不法昨穆和蘭奏河南商邱民人張景仲因索欠起衅殺死吳四等四家男婦十一命並扎傷砍傷男婦十二名口此等殘忍兇徒何各省屢見此案朕閱之殊為憤懣地方官俱有親民之責化莠為良是其專職如果平日嚴切懲誡俾知畏罪保身何致民間屢有殘害多命之事著傳諭畢沅福寧穆和蘭務各留心督飭所屬認真訓誨使愚民交相警戒勉為良善方無負臨民之任至起意謀殺華虎並將其子女一併殺死之王老么及案內幫同動手逸犯仍著該督撫飭屬嚴緝務獲毋任遠颺漏網將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

900 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年七月二十三日  
奉

上諭據惠齡奏審擬新城縣民張允智等興教聚徒一業內稱從前創立龍天門教之許作信令其徒朱相玉編造路引詭稱病故者得此燒化可免阻碍並編有治病咒語哄騙錢文張允智於許作信病故後淨身行教在家聚會男婦燒香斂錢請將朱相玉張允智發往回城給回子為奴等語所辦錯謬已於摺內批示矣許作信設立龍天門教自稱教主傳授生徒聚眾騙錢自屬此案首犯但朱相玉代許作信編造路引咒語助行邪教同惡相濟而張允智於許作信病故後輒思復興原教私自淨身哄誘鄉愚實為詭譎不法是此次興教聚徒許作信久經病故朱相玉張允智即係首犯自當從重辦理不得依邪教為從例子以末減乃該撫僅擬發遣殊屬失當且發遣後彼仍故智復萌惠齡著傳旨申飭除諭知刑部於定議時將朱相

玉張允智議以絞監候外將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

901 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 乾隆五十六年  
七月二十三日奉

上諭伍拉納等奏清查臺灣府屬廳縣被賊搶失倉庫銀穀分別豁免賠補一摺朕覽出語竟似臺灣又有事太不通文已用硃筆改正矣從前臺匪滋事時該府屬倉庫銀穀雖被賊人搶失自應徹底嚴查分別豁免賠補不得藉端弊混致滋侵蝕乃該督等摺內出語率行摘叙牽混不清豈陳奏事件一任庸劣無用之幕賓隨意填寫不加留心檢點耶除將原摺交軍機大臣會同該部核議外伍拉納浦霖著傳旨申飭將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

902 據奏事處傳

旨揚子法言一書簽出訛錯處甚多令臣等將紀昀

等再行酌加議處謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

七月二十三日

903 臣等遵

旨將

發下之揚子法言一書詳加檢閱內有訛寫之處甚

多謹夾簽進

呈其新序一書亦經詳校一併呈

覽謹

奏

904 乾隆五十六年七月二十三日內閣奉

上諭昨因偶閱文津閣四庫全書內揚子法言其卷

一首篇有空白二行竟將晉唐及宋人註釋名氏

脫寫已降旨將紀昀詳校官莊通敏交部分別議處旋命軍機大臣將法言一書詳加閱看書內繕寫訛錯之處不一而足從前詳校官既漫不經心而紀昀總司校閱復不加以訂正其餘各書恐似此錯悞者正復不少可見紀昀等從前覆勘時竟屬虛應故事全未寓目紀昀及詳校官莊通敏著再行交部議處欽此

905 臣等面奉

諭旨令於八月初二初三兩日選擇筵宴蒙古外藩

日期茲查時憲書內八月初二初三兩日初二

日雖係黃道亦不及初十日之最為吉祥謹將

時憲書進

呈或定於初二日初十日筵宴之處恭候

欽定謹

奏

七月二十三日

906 乾隆五十六年七月二十四日內閣奉

上諭刑部題覆浙江省民人張雲濬與邱方玉之母  
湯氏妻曹氏通姦商同勒死邱方玉并曹氏畏罪  
自縊身死一案將湯氏照親母因姦謀死子女例  
實發伊犁給兵丁為奴固屬照例辦理但細閱此  
案情節湯氏先與張雲濬調戲成姦被伊媳曹氏  
窺破恐其洩漏誘令張雲濬一併通姦後因曹氏  
總姦情密商同張雲濬將邱方玉勒斃除謀殺親  
夫罪應凌遲之曹氏業經畏罪自縊外其親母湯  
氏雖係尊長致死卑幼然事起通姦并誘令伊媳  
一併姦宿復因伊子礙眼輒聽從伊媳同謀勒斃  
是與伊子邱方玉恩義已絕設或伊子別無兄弟  
子嗣遂令翁姑及伊夫絕嗣所關甚為重大向例  
親母因姦謀死子女者不論是否造意俱發往伊  
犁給兵丁為奴原以母子倫紀攸關不得與凡人  
一律問抵若其母身蹈邪淫罔顧廉耻已無夫婦  
之倫又安有母子之義朕思同一母子然又有親  
母繼母之別繼母因其子本非已出心懷殘忍謀

死前妻之子情罪自為更重若親母之於子究係  
所生即或因姦致死與繼母自當有間亦應分別  
辦理近來各省題奏事件內間有逞兇斃命慙不  
畏法之案出於情理之外然戾氣所鍾自古而有  
即如文言釋坤初六之言可知周之時已有如此  
亂逆之事設無其事孔子不忍言今世風日降人  
心更不如古無怪兇惡之徒竟至藐法蔑倫行同  
梟獍朕向來遇有此等奏到之件因係滅倫重案  
槩不加以硃批不但不忍而且自慚民間風俗日  
下既不能道德齊禮化莠為良俾不致身罹法網  
我君臣皆當引以為愧惟在明刑勅法重示創懲  
庶兇惡之徒稍加儆戒使之勉為善良朕意各省  
如有母殺子女之案除尋常情節仍照向例辦理  
外其有因姦起意致令絕嗣者即將其母問擬斬  
候入於秋審情實即或伊子尚有子弟未致絕嗣  
仍當定以斬候永遠監禁遇赦不赦其繼母親母  
於情實中略予以勾不勾之分亦足以示輕重區  
別著大學士九卿將是否應如此辦理及如何分

別之處悉心酌議具奏其邱湯氏一案候大學士等詳議奏覆再行降旨欽此

907 查原任湖北荊州府知府張方理於本年二月

內經吉慶等以該員承辦方家溝堤工革率捏報參奏革職嗣經畢沅奏該員辦理地方事件頗為得力請加倍捐復留辦城工奉

旨允准其所遺荊州府知府員缺業於二月內奉有諭旨以崔龍見補授久經到任自無庸另行簡補所有湖南沅州府知府員缺謹遵

旨擬寫傳異補授

諭旨進

呈謹

奏

七月二十四日

908 乾隆五十六年七月二十四日內閣奉

上諭湖南沅州府知府員缺著傅異補授欽此

909 乾隆五十六年七月二十四日內閣奉

上諭據梁肯堂等奏查勘順德府屬邢臺內邱等縣今夏得雨稍遲早禾未能暢發等語邢臺內邱等縣本年入伏以來未經得有透雨收成未免歉薄其應徵錢糧若令小民一律輸將民力恐不無拮据所有順德府屬之邢臺內邱沙河鉅鹿任縣南和平鄉唐山等八縣本年應徵未完錢糧著加恩緩至來歲麥熟後徵收俾閭閻生計益資寬裕以示朕軫念窮簷優加體恤至意該部即遵諭行欽此

910 昨晚據熱河道全保等派役將謀開煤窰夥計

宮廷玉由人和店訪拏到案隨即逐一訊問據宮廷玉供小的是山東萊陽縣人年四十六歲在喀爾沁石佛地方居住多年上年九月同程萬玉要在喀爾沁冰溝地方謀開煤窰到京城貝子府見了管事人那木舒說定押租銀一千兩當時交定銀一百兩今年正月十八日立了



合同交完銀九百兩我親手交給管事人那木舒扎蘭陳梅林的到二月初一日就開窰起後來理藩院稅務章京又不准我們開把我夥計程萬玉掣去我常在熱河來往昨於七月二十日到人和店居住原為探聽煤窰的事因我尋不著貝子府管事人那木舒也並未見過貝子心正疑慮於二十三日下晚就被訪掣了詰問宮廷玉你夥計在

欽差大人處供出你現在丹貝子下處藏匿你自然是在丹貝子處聽見有掣你的信息纔搬在人和店去躲避的據實供來又供我五月二十七日就在人和店住過彼時見過丹貝子一面六月十九日曾經回家昨於七月十七日在家中起身塾記煤窰的事於二十日到人和店的此次並未在丹貝子下處居住現有開店人可以質對得的隨傳喚人和店開店人李玉到案令其當面質証加以駁詰供俱相符看來宮廷玉實係在人和店訪掣到案無疑並差役在人和店將該犯行李內搜獲合同一紙與所供無異

謹將掣獲宮廷玉訊取供辭奏

聞臣等即交承德府僉派妥幹員役將該犯宮廷玉並搜獲合同一紙一併迅速解交福長安索諾木班珠爾歸案質審辦理謹

奏

七月二十四日

911 遵

旨復提宮廷玉一犯嚴切訊問並加以刑嚇錄取供

詞進

呈謹

奏

\* 問宮廷玉你們謀開煤窰既到京城丹貝子家同他管事人央求貝子可以說合辦成且交兌銀兩公立合同來往甚熟自然與丹貝子也是時常見面的了你與他交手事務必不止此一件或你夥計此外還有別事與他管事人或與丹貝子通同商辦再丹貝子在該旗平素與人交

手事件你在彼年久斷無不知之理現在煤窰的事已經破露你將此外事件據實一一供來據供我因住在喀爾沁石佛地方已有多年與丹貝子管事人那木舒播布底家相隔止十餘里彼此認識已久因與夥計程萬玉謀開冰溝煤窰是以託他們懇求貝子准行開採至丹貝子我曾見過一面並不敢到門時常求事此外實沒有別樣事交結即我夥計程萬玉除同我謀開煤窰一事外亦並無別事往來如另有別事商謀今蒙如此嚴究我還敢不實說自甘受刑嗎至丹貝子平素在該旗所做之事我實在不能知道今我們謀開煤窰已經敗露如知道丹貝子另有別事還肯替他隱瞞嗎所供是實

七月二十四日

912 乾隆五十六年七月二十五日內閣奉

上諭據梁肯堂等奏長蘆運使李世望患痰火病症請解任調理等語長蘆運使員缺緊要李世望現

在患病自應另行簡補所有運使員缺著前任廣東運使嵇承志署理此時嵇承志亦近服滿著吏部先行文江蘇原籍調取來京計明歲春間該員即屆服闋再行實授李世望著暫留署運使事務俟嵇承志到任時交代離任回籍調理欽此

913 乾隆五十六年七月二十五日奉

旨關聯陞羅廷樑馬福德李臻王雄冶正華均著准其馳封該部知道摺併發欽此

四川省

914 同日奉

旨章廷鈞劉瑗胡珮均著准其馳封該部知道摺併發欽此

安徽省

915 同日奉

旨李逢泰著准其馳封該部知道摺併發欽此

甘肅省

916

大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年七月二十五日

奉

上諭惠齡奏拏獲八卦教案犯王子重之母王袁氏  
 王騰元兇迅即押解趕赴行在並飭知府前往登  
 州一帶查拏段文經等語段文經竄匿既據匪犯  
 供內有逃往海邊之語該撫即應親赴登州一帶  
 迅速訪拏前據奏僅令知府前往查緝業經降旨  
 申飭乃本日奏到之摺仍未親身前往竟係安坐  
 衙署僅以派員了事所辦實屬錯誤安惠齡著  
 再傳旨申飭所有王袁氏王騰元兇等犯該撫務  
 督飭員弁沿途小心押解毋致稍有疎虞至案內  
 應行訊究各犯並著該撫親提到案嚴切跟究勿  
 任狡展段文經一犯更不得因匪黨飾詞狡卸遂  
 爾任其遠竄稽誅始終漏網也將此諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

917

大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 乾隆五十六年七月二十五日

奉

上諭姜晟奏審明竊鞘案犯情形一摺內稱唐開泰  
 住宿驛館起意與彭有才商量行竊并約定唐守  
 興作為內應唐守興用刀割斷鞘繩將尾鞘挪近  
 壁洞推出一半彭有才撬開鞘壳竊出餉銀現在  
 彭有才業已身故訊之唐開泰等俱經供認已派  
 員速赴芷江地方查起原贓等語此案前經姜晟  
 奏據承審府縣稟稱餉鞘安放驛館屋內緊挨板  
 壁外係菜園賊從板壁地枋脚下挖洞將末尾一  
 鞘橫移洞口竊銀而逸等語朕彼時即以所訊情  
 節多有不實賊犯不過在外窺伺何由確知餉鞘  
 安放之地即在此處挖洞竟能應手而得必係有  
 內應之人串通行竊降旨令姜晟細心研鞫務得  
 實情令該撫奏實係更夫唐守興在內將尾鞘挪  
 近壁洞推出一半彭有才在洞外撬開鞘壳偷竊  
 唐守興並將梆連擊聲響以圖掩飾果不出朕之

所料是唐守興因思偷竊餉銀預充吏夫作為內  
應情節甚屬可惡即可作為此案正犯不得以彭  
有才業經身死任其狡卸致滋輕縱真贓雖少何  
必俟全得著傳諭姜晟即將唐開泰供出贓放原  
贓地方是否現已起出跟訊確鑿嚴審定擬具奏  
將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

918 本日鄂輝奏部駁新疆五營修建演武廳工程

一摺遵

旨將此案議處文武各員何以如此多人交查

行在工部據稱此事原案未經隨帶帶臣等現在交查  
在京工部俟查到之日再行覆奏除將原摺發

交部議外理合先行奏

聞謹

奏

919 乾隆五十六年七月二十五日奉  
旨蔡學吉著即處斬餘依議欽此

陝西擊獲拒捕傷人一集

920 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年七月二十七日

奉

上諭穆和蘭奏前因周有並無子孫的屬惟有兩弟  
周貴周沛俱經外出當即飛飭嚴等尚未到案是  
以先據地隣等供詞具奏等語周貴周沛係周有  
之弟豈非該犯的屬乃該撫摺內尚稱周有並無  
子孫的屬惟有兩弟竟是必須周有之子孫方得  
謂之的屬而弟兄叔姪俱視為疎遠之人如此則  
不應緣坐兄弟之罪乎穆和蘭何糊塗若此著再  
傳旨申飭並著該撫派委妥幹員弁即將周貴周  
沛二犯迅速解赴行在歸案審辦沿途飭令小心  
管押務於八月初十前解到毋得疎懈遲悞並將  
續獲各犯嚴究有無習教及轉相傳授之人按名

查拏審辦勿稍疎縱將此由五百里諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

921 乾隆五十六年七月二十七日奉

旨福寧覆奏陳谷松與王廷英共毆呂九如身死因  
王廷英病故將正犯陳谷松減等擬流一案辦理  
錯謬請與臬司孫曰秉交部嚴加議處等語該撫  
先以王廷英助毆尚屬輕傷應將陳谷松擬抵又  
因陳谷松到案審得王廷英所毆亦係重傷業已  
病故准其抵命將陳谷松擬流於此案辦理情  
節自相矛盾幾致呂九如無一抵償之人實為顛  
倒錯謬福寧孫曰秉俱著交部嚴加議處該部知  
道摺併發欽此

922 乾隆五十六年七月二十七日奉

旨宋鑿准其贖罪欽此

923 乾隆五十六年七月二十七日奉

旨丹有仁著即處斬餘依議欽此

924 辦理軍機處為劄諭事本日據陝西巡撫秦

奏八卦教人犯劉照魁於七月初九日業經派  
委員弁押解起程計十九日可抵山西境等因  
一摺欽奉

諭旨著令押解員弁沿途迅速行走務於八月初五  
日以前趕赴行在以憑審訊欽此相應飛劄該解  
員等遵照備行毋得稍有遲緩至現在行抵何  
處計於何日可到熱河該解員等於接到劄諭  
後即先稟覆

行在漢軍機處須至劄者

右劄陝西同知克蒙額等准此

七月二十七日

925

臣等查例載凡審共毆下手擬絞人犯於未決之前遇有原謀及助毆重傷之人監斃在獄與解審在途病故准其抵命下手之人減等擬流等語謹粘貼黃簽進

呈查此條刑部原例本未詳允臣等謹擬俟明日

召見時恭請

訓示酌改謹

奏

七月二十八日

926 乾隆五十六年七月二十八日奉

旨嚴阿灶著即處斬邱阿五著即處絞餘依議欽此

927 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十六年

七月二十八日奉

上諭據福康安奏從化縣挑販私鹽之嚴阿灶等行至呂田墟地方過米步汛兵朱廷貴等瞥見查拏

嚴阿灶同邱阿五用鐵嘴扁挑戳傷朱廷貴殞命請旨將嚴阿灶邱阿五即行正法等語私鹽匪徒糾夥與販逞兇拒捕最為地方之害粵省正在改綱緝私大加整頓之時嚴阿灶等膽敢販私拒捕傷斃巡兵實屬目無法紀福康安既經拏獲訊明自應將該犯立即正法庶使海疆泉匪知所儆畏乃尚俟奏請降旨始行辦理未免拘泥除將原摺交軍機大臣會同行在法司核擬速奏外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

928 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年七月二十八日奉

上諭前此刑部議駁湖北省民人陳谷松與王廷英共毆呂九如身死將正犯陳谷松減等擬流一案彼時原因刑部以該撫先後辦理兩歧罪名互相出入是以傳諭該撫據實明白迴奏今據福寧奏稱例載凡審共毆擬絞人犯遇有助毆重傷之人解審病故准其抵命應絞之人減等擬流此案王

廷英用刀背毆傷呂九如左右膝臍胸等處雖色至紫黑亦不為輕而正犯陳谷松所毆致命各處其傷更重因王廷英已經病故與助毆之人身死准其抵命正犯減流之例相合是以照例辦理等語此等共毆致斃之案兩人下手俱有重傷者內有一人病故其一人若仍應擬抵該部例內即不應有減等擬流一條今既載有此例該撫即係遵例問擬亦不得謂之舛悞福寧辦理此案其錯處在王廷英病故後報將初報輕傷改為重傷希圖末減陳谷松罪名而於所引例條似無不合朕觀此原以為不當但福寧實係引例然或其中另有別故該部何以加之指駁恐不足以服福寧之心著傳諭刑部堂官將因何議駁之處詳悉覆奏候朕再降諭旨欽此

929

大學士伯和 字寄

雲貴總督富 雲南巡撫譚 乾隆五十六年

七月二十八日奉

上諭費淳奏請給價收買商銅以杜私鑄一摺內稱滇省辦銅各廠除抽課交官外向有一成二成准令通商之例商人等難保無影射收買私鑄漁利情弊應令官為收買每年可多獲銅一百餘萬斤以之添撥各省採買及鐵砂折耗瀘店底銅之用等語此奏雖似為該省杜絕私鑄起見其實該藩司以各省採買銅斤及瀘店底銅恐有欠缺故欲將此項商買餘銅歸官以作抵補之用祇係一偏之見未經通盤籌畫所謂知其一不知其二也銅斤為民間動用必需之物不能一日缺少若將各廠抽課交官所剩餘銅概行禁止商民售買則民間所用之銅從何而出即使廠中稍有偷漏為數亦屬無多不特銅價因此昂貴而小民等需用孔亟必至將官錢私行銷燬改鑄銅器則錢價亦必因之倍增况現在滇省各廠所產銅斤尚屬旺盛每年額運各起俱係依限開辦並無短絀遲悞即民間錢價亦俱平減本無庸總總慮若如該藩司所奏是名為設法調劑而轉使私銷益甚弊實叢生况杜絕私鑄之弊惟在地方官實力查禁今

不於此悉心整頓而以禁止商賈餘銅為正本清源之計恐防弊而適以滋弊且使該處商民知有此事必將銅斤預為抬價居奇銅價既貴則錢價自增於閭閻日用諸多不便所關非細民可使由不可使知費淳何見不及此耶此事當再加詳酌富綱譚尚忠久任滇省於銅務自所屬悉著伊二人會同悉心妥議據實奏覆想該督撫意見亦與朕大略相同也將此傳諭富綱譚尚忠知之並將此旨及原摺發交在京大學士九卿閱看欽此遵旨寄信前來

930 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年七月二十九日 奉

上諭惠齡據署曹州府通判王岐稟稱訪有聲音面貌與段文經相似之人當即拏獲到案據供名喚馬興有夥計史二可以頂証隨傳史二識認指稱此人即係段文經及冠縣知縣送到眼目二名惠齡先行提到詢問僉稱實非段文經訊之史二實

因貪賞混供等語馬興面貌既與段文經相似而史二初供又有即係段文經之語自應詳晰跟究既據該縣送到眼目二名即當隔別詰詢段文經面貌是否與現獲之馬興相符該眼目分作兩起詢問自不能預為串通且二人前後所稱段文經面貌或有彼此參差之處即可從此跟究得實乃該撫將二人令其一同當堂識認勢必隨同附和又何能遽信為確實而摺內并未聲明隔別訊問即此可見該撫不能辦事之一端惠齡著傳旨申飭所有馬興史二兩犯即著該撫委員迅速押赴行在質訊辦理將此由四百里傳諭知之欽此遵旨寄信前來

931 乾隆五十六年七月二十九日奉

旨此案著交吉慶前赴山東提集犯証秉公審擬具奏所有原告申遞著交部照例解往備質欽此



932 大學士伯和 字寄

欽差侍郎吉 乾隆五十六年七月二十九日奉

上諭據戶部奏山東恩縣民人申遜呈控伊姊夫下碗欺孤吞產控告府縣後下碗復賄買書役欺朦本縣將伊杖責等語此案下碗以贊塔欺壓宗嗣侵吞財產并賄囑書役朋比欺朦事干法紀不可不徹底跟究但究係申遜一面之詞是否該縣聽斷不公抑或該犯飾詞聳聽均未可定現在吉慶於審辦光州命案完竣後即須前往山東章邱縣審訊孟衍魯控告縣書偽造糧冊勒折餘糧等事所有此案並著該侍郎順道赴恩縣提集案內人証秉公審擬具奏戶部原摺著發交閱看除將原告申遜照例解往備質外將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

933 啟者奉

旨陳用敷嗣後每年例進富川涼蓆止須照發交式樣如式製辦不必額外多進徒滋糜費亦不適用如有不發式樣年分其例進之蓆亦不得濫用續

邊等因欽此相應札知

大人嗣後遵照辦理前任孫巡撫進過繡邊涼蓆

曾經奉

旨中飭在案

大人檢查舊檔便知再接到此札後止須遇便覆知本處不必專摺覆奏也此達

和坤具

七月二十九日

934 查七月初六日梁肯堂奏請以交河縣知縣章

壽彭調署清苑縣知縣一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

該員照例議駁具

題臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

七月二十九日

935 同日奉

旨余廷山著即處斬楊大麻子著絞監候秋後處決餘依議欽此

刑部題覆貴州大定縣糾夥搶奪一案

936 同日奉

旨馬三著即處斬餘依議欽此

湖北省搶犯毆差致死一案

937 乾隆五十六年七月二十九日奉

旨陳國泰陳鴻猷俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

938 乾隆五十六年七月二十九日奉

旨韓三著即處斬餘依議欽此

吉林用刀扎死二命一案

939 大學士伯和 字寄

成都將軍成 四川總督鄂 四川提督觀

乾隆五十六年八月初一日奉

上諭成德等奏前往西藏熬茶喇嘛在拉木托洛海地方被搶等案據差往德爾格之都司張志林稟稱親帶弁兵在於所轄寨落各番衆內逐一搜查當獲有賊犯納木魯敦多克等五名並起獲被搶原贓訊明此案番賊共有十餘人現在督拏等語此案番賊胆敢於過路喇嘛及牧放牛羊地方肆行搶劫實屬惡不畏法自應盡數查拏嚴辦示儆今該都司率同該土司實力搜查拏獲多名所辦尚好其未獲各犯現據該土司頭人等稟稱已訪得賊人踪跡現在設法擒拏按名獻出等語著傳諭成德等嚴飭該都司務須督率員弁及土司頭人等親赴各寨落嚴行搜緝迅速查拏全數弋獲毋使一名漏網將此諭令知之仍著將現在是否全行緝獲之處迅速覆奏欽此遵

旨寄信前來

940 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年八月初一日奉

上諭前據福寧覆奏陳谷松與王廷英共毆呂九如身死一案因王廷英已經病故與助毆之人身死准其抵命正犯減流之例相合是以照例問擬等語朕披閱時原覺此例不當但福寧辦理此案既係引用舊例該部何以加之指駁業經降旨令刑部堂官將因何議駁之處詳悉覆奏矣本日又據畢沅奏此案如王廷英所毆亦係重傷於未結案之前中途病故自應照例即以該犯抵命陳谷松即可減等擬流今王廷英先既稱係輕傷不至於死擬徒病故乃正犯陳谷松等獲到日又以王廷英原毆亦屬重傷於未結案之前病故准其抵命將陳谷松減等擬流細核前後情節錯悞顯然畢沅未經加意查察咎無可辭等語此案該督撫等始以王廷英所毆呂九如尚屬輕傷不至於死應以在逃之陳谷松擬抵及陳谷松到案又稱助毆之王廷英亦屬重傷於未結案之前病故准其抵

命將陳谷松減等擬流前後所稱情節實自相矛盾但皆例內載有助毆傷重之人解審病故准其抵命應絞之人減等擬流一條以致引用牽混是從前定例本未允協轉起高下其手之弊嗣後凡遇共毆斃命之案惟當將下手傷重致命正犯擬抵其助毆之人無論傷輕傷重俱不得以解審病故即准其抵命致使正犯反邀未減乃為正辦得中所有畢沅摺著抄寄刑部堂官閱看並著將該督撫辦理錯悞緣由是否如此及該部前次因何指駁情節據實覆奏候朕再降諭旨將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

941 查李奉翰摺內所有搶護埽工各員除都司楊克榮落水被救外委張興落水淹斃外祇有同知張愛鼎一員係撈救頭目崔克勤等上岸並未落水臣等遵

旨將楊克榮陞用遊擊於

諭旨內添入此外查無應行加恩議叙之員謹

奏

942 乾隆五十六年八月初一日內閣奉

上諭據李奉翰奏七月十一二等日黃河水勢加長儀封三堡溜勢更為湧急當飭該道等上緊搶護因大溜撞擊埽身陡墊入水都司楊克榮及頭目崔克勤兵丁崔進朝隨埽落水該都司於急溜之中冒出崔克勤崔進朝撈救上岸後復赴水架起楊克榮登岸仍在埽上竭力搶辦等語頭目崔克勤兵丁崔進朝於落水救出後仍復赴水架起都司楊克榮又在埽上幫同搶辦勇往出力實屬可嘉之至該督請將崔克勤頂補外委崔進朝拔為頭目獎勵尚輕崔克勤著即加恩拔補把總崔進朝著即拔補外委以示優獎其都司楊克榮因上緊搶護隨埽落水於急溜之中冒出幸得該頭目等救起亦屬奮勉著加恩以遊擊陞用至外委張興兵丁馬岡武益文搶護埽工落水淹斃殊為

可憫著加恩照陣亡例議卹此次黃河水長溜勢湧急仰賴

河神庇佑得以搶護平穩著發內府藏香五十枝交

該督等虔誠致祭並親書匾額發往懸掛用答

神庥現在正當秋汛之時一切益宜敬慎該督等務

須督率二員實力防護以期工程一律穩固永慶

安瀾不可稍存大意也欽此

943 據山東布政使江蘭賚摺家人稟稱呈

進

萬壽貢件理合據情代

奏並將貢單呈

覽謹

奏

944 乾隆五十六年八月初一日奉

旨潘珍著即處斬餘依議欽此

湖北鍾祥縣偷竊餉鞘一案

945

據兵部知會浙江黃巖鎮總兵劉文敏丁憂查現在並無

記名應用總兵人員惟查有四川署建昌鎮總兵袁

國璜前經奉

旨遇有四川總兵缺出提奏補授該員現在川省尚

未補缺今黃巖鎮總兵員缺可否即將袁國璜

補授或於四川總兵內調補一員所遺員缺將

袁國璜補授之處伏候

欽定臣等謹擬寫空名

諭旨並將四川總兵各員名單開列進

呈謹

奏

八月初二日

\* 四川總兵各員名單

川北鎮總兵富祿

重慶鎮總兵諸神保

建昌鎮總兵穆克登阿

松潘鎮總兵張芝元

八月初二日

946

乾隆五十六年八月初二日內閣奉

上諭浙江黃巖鎮總兵員缺著諸神保調補所遺四

川重慶鎮總兵員缺著袁國璜補授欽此

947

本日吏部將署江西巡撫姚茶保薦卓異撫州

府知府汪如藻雲貴總督富綱等奏稱陞署蒙

化廳直隸同知張大本直隸總督梁肯堂奏請

陞署遵化州直隸州知州傅修兼管奉天府府

尹宜興等保薦卓異寧遠州知州伊湯安陞任

兩江總督孫士毅等奏請陞署高郵州知州曹

廷奎四川總督鄂輝咨送拏獲隣縣謀逆匪犯

之署蘆山縣典史谷煊等員帶領引

見奉

旨汪如藻張大本傅修伊湯安曹廷奎谷煊俱著交

軍機處記名

八月初二日

948

啓者本年秋審勾到人犯現在排列次數因上年停勾如四川湖廣等省俱有一百三四十起直隸省有一百八十餘起陝西浙江二省合為一次有一百五十餘起人數較多恐煩

睿覽此內浙江省自可單作一次湖廣省可分作湖北湖南兩次勾到其餘人犯較多省分應如何酌量排勻之處希

中堂飭令司員設法擬辦開單

示知以便酌定再交欽天監擇日即分作十三四次似亦不為多也率此佈

連順候

近祺不備

949

查梁肯堂奏拏獲拒捕兇匪一摺除李虎張七外尚有就獲何案匪犯摺內祇稱分別斬絞監候未將各該犯姓名及拒捕情節並如何定罪之處詳晰聲叙臣等即於擬寫寄信梁肯堂

諭旨內令將此案題本迅速送

行在俟到日臣等即行核擬具奏謹

奏

950 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年八月初三日奉

上諭據梁肯堂奏武清縣知縣李騰蛟盤獲鹽山縣回民李虎張七先經幫助盜匪丁士太等打傷事主分受贓物李虎復糾夥多人偷挾灘鹽經巡役追拏拒捕查致馮士奎殞命等語李虎等糾約匪犯將灘鹽偷挾回路遇巡役輒敢逞兇拒捕疊毆馮士奎斃命此等偷竊官鹽拒捕殺人重犯該督自應隨時具奏何以並未奏聞直至拏獲李虎後將知縣保送引見始將此案隨摺聲叙著傳諭梁肯堂即將李虎等一案因何未經具奏之處據實覆奏其拏獲隣縣首犯李虎等之武清縣知縣李騰蛟著該督送部引見以示鼓勵將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

951 遵

旨查得

御用烏鎗裝用火藥多寡皆不如式其鉛子大小與火門亦不相合烏鎗處首領太監金成平日並不留心習學應罰半年錢糧太監謝國棟王吉得漫不經心實屬玩忽應各責三十板至總管太監失於查看亦有應得之咎蕭得祿杜國選應罰兩月畢罕錢糧張進喜罰月銀兩個月以示懲儆謹

奏

八月初三日

952 臣等遵

旨將河東鹽務是否可攤入地丁之處詢問和明據稱近來河東官引滯銷商力疲乏俱係實在情形自應設法調劑現在晉省太原汾州兩府及隰州所屬均食土鹽其應徵鹽課俱攤入地丁徵收由來已久百姓亦屬相安近年晉商疲乏將兆奎在山西時曾向我議論現在商人賠累

鹽價昂貴百姓買食維艱辦理實無善策將來若能將通省鹽課攤入地丁於商民均屬有益

我想晉商積疲如欲加價則私販愈增若另簽派富戶充當恐又啓地方官勒派之漸一經改歸地丁百姓食鹽聽其自行買食不經商辦民間鹽價自可平減其說似屬可行仰蒙

皇上垂詢是以即將攤入地丁可以辦理之處陳奏至本省鹽池係該處百姓所置產業若鹽課攤入地丁後該業戶自行刮晒仍可賣與百姓有挑步販照舊獲利于業戶仍屬無損且官為經理亦可不致擡價居奇等語謹

奏

八月初四日

953 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 傳諭山西布政司蔣兆奎 乾隆五十六年八月初四日奉

上諭勒保奏蔣兆奎現在調任山西藩司自應速令該司交卸篆務赴闕請訓等語晉省商力疲乏官

引滯銷亟須設法調劑前因蔣兆奎有將鹽課歸入地丁與商均有裨益之說於該省地方鹽務情形較為熟悉是以將該藩司調任山西此時業經由甘省起程著傳諭蔣兆奎不必前來請訓即先赴山西接印任事幫同馮光熊酌議章程妥為籌辦俟此事辦理完竣後再行來京陛見亦不為避昨召見河東道和明詢問鹽務情形據稱晉省鹽池係該處百姓所置產業若鹽課攤入地丁後該業戶自行利晒仍可賣與民人肩挑步販照舊獲利等語鹽池所產鹽勛苦黑向來官商經理該處百姓尚不願買食商鹽今既歸業主自行交易若不減價售賣則民人豈肯買食苦黑貴鹽是擡價居奇之弊更不可不禁自止而鹽價日賤於閭閻生計更為有益所有昨令軍機大臣詢問和明奏片即發交馮光熊閱看蔣兆奎到任後並著該撫即率同詳悉履勘妥協籌辦總使利歸於下商民交便方為盡美將此傳諭馮光熊並諭蔣兆奎知之

欽此遵

旨寄信前來

954 乾隆五十六年八月初四日內閣奉

上諭秦承恩奏據漢興道盛時杰稟報褒城縣兵房書吏偷換餉鞘一案訊係該縣書吏陳尚因浙省解到川餉銀兩起意偷換與吏夫周鐸將鐵片用紙包封裝入舊木鞘內於夜間背至兵房後窻遮進偷換銀鞘一個該縣何燕查獲贓賊事逾一月尚不通詳該府汪元龍復假捏情節希圖諱飾請將何燕汪元龍革職等語此案陳尚一犯現充褒城縣書吏乃於餉鞘解至縣署大堂膽敢乘夜換竊該縣何燕於獲犯收監後遲至一月未詳有意遷延恐有知情串通等弊至汪元龍經該撫飭查輒代為捏詞諱飾明係迴護屬員意存徇縱何燕汪元龍俱著一併革職交與該撫提同案內犯証嚴審確情定擬具奏該部知道摺併發欽此



955 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 山西巡撫馮 傳諭江寧蘇州

杭州各織造 乾隆五十六年八月初四日奉

上諭據勒保奏乾隆癸丑年新疆應需紬緞按照舊定章程開明顏色丈尺數目清單請勅交山東山西巡撫江寧蘇州杭州各織造照數織辦解送來甘以便分運各處備用等語著照所請傳諭惠齡馮光熊同德徵瑞基厚即照勒保單開各項紬緞如式妥協製辦務使質地堅實顏色鮮明並著選派委員沿途小心護解毋得稍有霉污致滋駁換所有勒保原摺清單俱著抄寄閱看至此次綱緞解到甘肅時即著該督詳細點驗派員轉解各該處併飭接解之員一體小心照料以專責成將此諭令惠齡等並諭勒保知之欽此遵

旨寄信前來

956 遵

旨將鄂輝奏新疆五營修理演武廳等項工程題銷

奏

一案所有造冊舛錯應行議處文武職名何以至十數員之多交查在京工部茲據覆稱此項工程需用木植名色及採運程途實在里數並每里應給工倉腳價銀兩若干未據該督逐款分晰致前後三次駁查並照例將部駁三次後仍不核實造報之該督及承辦官隨摺參奏等語查前日鄂輝奏請議處一摺因此項工程造冊疎漏之處節經三次部駁歷時已久經手各員多有更換是以該督開送應議文武各職名為數較多謹

957 乾隆五十六年八月初四日奉

旨李虎著即處斬陳三禿子劉二俱依擬應絞著監候秋後處決餘依議欽此

直隸扒鹽拒捕一案

大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

廣西巡撫陳 乾隆五十六年八月初五日奉

上諭陳用敷奏接准秦承恩咨文即飭令按察使善

秦前往養利州查拏劉書芳並將同案安插軍犯

楊八等十一名密行拘訊如有不法情事併案辦

理等語此案前已降旨令福康安等查拏究辦矣

劉書芳係山東單縣八卦教匪犯充發廣西養利

州復敢在配傳教收劉照魁為徒並令前赴廣東

德慶州探訪同教軍犯步文斌而步文斌即將劉

照魁認為義子輾轉交結復與邪教實屬大干法

紀此時自己拏獲到案著陳用敷即親提嚴審該

犯在配日久所收徒弟必不止劉照魁一人且步

文斌係在廣東德慶州安插與劉書芳相距甚遠

往來通信是其行踪詭秘必有勾結入教之人並

著福康安等逐一嚴究跟訊明確後無可解京質

審之處即遵前旨將劉書芳步文斌在該處正法

示衆所有究出該犯所傳徒弟務須按名拏獲解

京辦理其徒弟轉相傳授之人不必輾轉株連以

省拖累至與劉書芳同案安插廣西軍犯楊八等十一名與劉書芳自必聲息相通難保無在彼授徒傳教之事若仍留該省勢必煽誘滋事並著陳用敷審明後解交刑部另行定地發遣以淨根株將此各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

959 乾隆五十六年八月初六日奉

旨此案商邱縣民人張景仲殺死吳四等四家男婦

十一命並傷男婦十二名口跌壓致死幼孩二命

如此兇殘慘毒為從來未有之事該地方官職在

牧民平日不能化導實難辭咎本應照部議降革

但外省督撫等於分內應辦之事尚難辦理妥協

豈能望其整齊民俗化莠為良民間有此殘害多

命之事朕自以不能道德齊禮引以為愧司牧者

勸諭愚民亦豈能家諭戶曉姑念該地方官咎止

失於訓導究非翫法營私可比穆和蘭著免其革

任仍註冊署商邱縣知縣楊煒著改為革職從寬

留任歸德府知府彭翼蒙亦著改為革職從寬留

任餘依議欽此

960 乾隆五十六年八月初六日奉

旨朱相玉張允志依擬應絞俱著監候秋後處決即入於本年秋審辦理其傳習邪教之孫繼先侯良卿張德洽伊啓坤陳懷清即陳懷德張一李若芬何希孔八犯該部擬發回城喀什噶爾等處交給回子為奴因屬照例辦理但回疆地方來往貿易民人甚多仍恐交結煽惑今此案孫繼先等八犯著改發黑龍江給索倫達呼爾為奴嗣後凡遇傳習邪教之犯俱著照此辦理餘依議欽此

961 乾隆五十六年八月初六日奉

旨刑部覆奏議駁湖北省陳谷松與王廷英共毆呂九如身死一案稱王廷英所毆同一傷痕該撫前因正犯陳谷松未獲稱為輕傷繼因陳谷松已獲復將王廷英所毆指為重傷圖寬陳谷松絞抵之罪辦理自相抵牾是以題駁等語向來共毆之案因舊例本未允協以致引用牽混但傷輕傷重自

當驗訊明確核實辦理方可定讞今該撫等審擬陳谷松一案始以王廷英毆係輕傷繼復指為重傷辦理實屬矛盾此案係惠齡初審以王廷英所毆係屬輕傷不至於死應以在逃之陳谷松擬抵即將王廷英擬徒旋即中途病故之處咨明刑部尚無不合畢沅兼署巡撫時亦欲照擬完案因福寧即日到任不遠即將卷宗移交福寧辦理是本案雖非畢沅題結亦有應得之咎至福寧與臬司孫曰東係承辦定擬具題之人乃於王廷英一人忽云輕傷忽云重傷辦理兩歧罪名出入實難辭咎畢沅著交部議處福寧孫曰東俱著交部嚴加議處其共毆之案仍著該部詳悉核議酌改具奏

欽此

962 乾隆五十六年八月初六日奉

旨紀昀著免其革任仍註冊莊通敏著於補官日降  
二級調用欽此

963 乾隆五十六年八月初八日內閣奉

上諭據陝西解到邪教八卦案內劉照魁一犯曾往  
喀什噶爾為邪教案內遣犯王子重傳寄書信因  
命軍機大臣嚴加審訊詰其如何出口據供我於  
乾隆五十五年四月內到陝西六月到甘肅地方  
打聽出口的人都要在肅州起票我就假認王子  
重親戚帶有家信前往探望到肅州衙門起票出  
口等供王子重係八卦邪教內重犯發遣回疆從  
前該犯由甘肅出口時地方官行文遞解該省各  
衙門皆有案冊可稽劉照魁出口時既公然自稱  
係王子重親戚前往探望該州知州理應拏住解  
部審問乃竟轉給與口票俾得沿途照驗往來無  
察母任疎縱儻再有似此者惟該督撫是問恐不  
能當其咎也將此通諭知之欽此

964 大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 乾隆五十六年八月初八日奉  
上諭據陝西解到八卦教案內劉照魁一犯命軍機  
大臣審訊詰問該犯如何出口據供我於乾隆五  
十五年四月內到陝西原籍住了兩日即行起身  
到甘肅地方打聽出口的人都要在肅州起票我  
就假認王子重親戚帶有家信前往探望到肅州  
衙門起票出口等供王子重係八卦教內重犯發  
遣喀什噶爾從前發遣時該犯由甘省出口地方  
官行文遞解該省各衙門皆有案冊可稽豈不知  
王子重為邪教案內要犯何得任聽該犯親屬出  
口送信令劉照魁在肅州起票既自稱係王子重  
親戚前往探望該州知州即不應准其出口乃轉  
給與口票令其持票沿途照驗該犯得以往來無  
阻該地方官錯謬甚大著即革職拏送刑部治罪  
勒保駐劄蘭州省城即云距口較遠但關隘重地  
平日自應嚴飭所屬實力稽查盤詰奸宄乃竟漫  
無管束致使邪教案犯親屬公然起票出口該督

所司何事著即據實明白回奏除漫無稽察之駐劄回疆辦事大臣另降諭旨外將此由五百里傳諭勒保知之欽此遵

旨寄信前來

965

據陝西委員將八卦教案內與王子重傳寄書信之劉照魁一犯山東委員將王子重之母王袁氏姪王騰元兒二犯解到臣等即提各犯隔別嚴訊謹錄取供詞先行呈

覽查陝省奏到劉照魁供詞內聽見楊武們與王騰元兒說段文經恐已逃往海邊上及登州有段文經徒弟一節最為案內緊要關鍵今訊據劉照魁供據五十四年冬間在王袁氏家聽見楊武郭信劉姓們與王騰元兒說的臣等面訊王袁氏王騰元兒俱供是年到家探望之人係沛縣楊進郭振趙慎並送給王袁氏銀米等物並沒有楊武郭信劉姓三人到家來過核與惠齡前次奏到所訊王騰元兒供詞相同復提劉照

魁詰訊據供此三人向不認識那年在王袁氏家遇見係王袁氏告知係沛縣人實在三人名姓俱係約摸記得就在陝西供出等語臣等查閱書麟等奏到摺內稱通查沛縣城鄉市鎮並無楊武郭信及劉姓其人惟住居高家坊有楊進一人係入震卦教稱為流水又有郭振亦係同教稱為全仕並訊據楊進郭振供稱於五十四年十月內曾到王袁氏家看望送給酒米即在該處販買棉花等語核與現訊王袁氏王騰元兒所供姓名月日相符是劉照魁所供楊郭二犯即係楊進郭振二人業經書麟等委員解送

行在惟趙慎一犯未據該督等查出臣等檢閱本日惠齡奏到摺內訊據王子重之堂弟王禮供稱趙慎已經病故他兒子叫趙夢魁等語其所供趙慎是否即係五十四年往王袁氏家送給酒米之人曾否病故臣等即行文書麟等確切查明並令速將趙夢魁查拏解部謹

奏

\* 劉照魁供我係陝西渭南縣人年三十七歲父親劉學友早故我六歲時母親就改嫁了有哥哥名叫劉照貴多年流落在外不知下落有一個妹子出嫁楊姓並沒伯叔也沒有妻子我自母親改嫁後無人養活在外討喫度日到八歲上跟隨頑戲法的牛炳學此戲法後來牛炳病故我在各處游蕩營生四十九年到廣西養利州地方趕趁認識軍犯劉書芳他向我說係八卦教案內發配廣西就勸我入了此教可以消災得福我因自幼窮苦頑此戲法騙人錢文略略積積了數千文便要生病因想習了他教或可有一好日就聽信了拜他為師我自幼不曾識字他口傳我此教內理條我用心記誦都能記得五十年上劉書芳叫我送信到他單縣原籍給了我四兩銀子我因係他徒弟不好推却就與他送了信去向他女人李氏討了回信回至養利州劉書芳因有同教李大志魏榮們死在廣東配所央我到廣東去搬取他們骨殖我

不曾應允劉書芳說我們教內第一要行好事你若肯去也是一種善果說得甚是真切并許我十兩銀子做盤費我就應承前去他又叫我順便到德慶州探望他同案發配的步文斌我一路演此戲法湊著盤費到了廣東取了李大志們骨殖又到德慶州找著步文斌送了書信步文斌曉得我入了劉書芳的教又肯替同教搬取骨殖說我有義氣要留我在家裡住我就認他做了義父他又傳我此理條我住了十多日起身時他叫我帶了一封信給他女人蕭氏五十三年我到了山東我住在蕭氏家內認為義母次年冬底蕭氏說荷澤縣袁家莊有王袁氏他丈夫王中係步文斌表叔原是震卦掌教王中死了他兒子王子重就做了掌教上年發配出口只有王袁氏在家叫我送五百錢給他我到了王袁氏家交給錢文我仍回蕭氏家內到次年正月我又到王袁氏家他說起兒子王子重充發口外久未得信要我到口外探望送信我因他是掌教就應允了替他送信至十月

內繞到了喀什噶爾我著王子重將家信交給了他王子重因我從山東大遠的與他送信就封我為開路真人住了一月給我十二兩銀子一匹馬打發我起身又叫我到江南沛縣劉家莊找著楊武郭信劉姓有書一封與他叫他料理會下的事又託我帶信與步文斌復還他指路真人名號臨行時有廣東遣犯詹清真們係天地會案內發遣之人知道我要到廣東都託我帶家信我與詹清真不大熟識不肯帶信他就寫了兩個紙條給我說將此作為憑據交到書信後他們必有重謝我不認識字也不曉得他寫些什麼因他有重謝的話我貪得銀錢就將書信收了我春間往喀什噶爾時先過庫車阿克蘇葉爾羌地方一路探問王子重信息遇見違犯毛有倫周法才周進屈進河申文成宋明等六人問知我係同教要我王子重都叫我見了王子重要替他們代討名號後來我與王子重說了許封他們全仕名號我走了半年多今年六月十八日回到渭南就被族人劉世炳

首告到縣所帶書信皆被起出經本縣審出我係八卦教就將我拿解來了我於五十四年在王袁氏家見楊武們與王騰元兒說現在要掣段文經他如何肯在此藏匿恐怕他逃往海邊上去因王騰元兒係荷澤縣捕役奉文緝拿是以楊武們向他如此說的此係我在他家時聽見的話在陝西時經官府盤問我就供了實在不知虛實只求掣到楊武們問他便可得知的實了所供是實

詰問劉照魁震教理條詞曲你學得很多自係從幼傳習不是劉書芳一人傳授必另有教首係屬何人你既入教多年必有收徒傳授等事且你在新疆住了數月該處傳習王子重邪教的還有何人你必定知道至王子重與段文經同係八卦教你既在王騰元兒家聽見楊武等說段文經逃在海邊去了豈有不向楊武等探問踪跡之理逐一從實供來

據供我父親早故六歲時母親就改嫁了討吃度日到了八歲向頑戲法人牛炳跟隨服侍就學

此戲法騙錢度日在各處游蕩了十多年至四十九年到廣西養利州地方始認識劉書芳傳我八卦教的理條後來遇見步文斌又教了我些詞曲因此我記得甚多從前未曾認識劉書芳步文斌時實係求吃游蕩度日若果有人收我在教內便可得他贊助不至窮苦無依了自從四十九年拜劉書芳為師後我就替劉書芳到山東傳寄家信回至養利州劉書芳又叫我往廣東搬取同教李大志等骨殖回到山東後替王袁氏到口外寄信與王子重今年纔回陝西向來教內須得了全仕名號方可傳教我未見王子重以前不曾受過教內名號不能收徒傳教這是實情至我於上年四月從陝西起身出了口一路見了軍犯向他探問方知王子重充發喀什噶爾走了半年多纔到尋見王子重只住了二十多日王子重就叫我帶信起身今年六月纔到陝西的我在喀什噶爾時只見詹清真曾與王子重往來因詹清真央我捎帶家

信我纔認得他此外實不知何人是王子重的同教他教內屈進河楊武郭信們我曉得的已經供出若還有別人入他教的我豈肯代他隱瞞至段文經逃往海邊去的話係五十四年冬底我在王袁氏家中聽見楊武們向王賜元兒說的那時我並不知道楊武們就是八卦教內的人止與他見了一面我就走了並未與他熟識沒有問過他說話實在不知段文經下落是實

又問劉照魁你往喀什噶爾替王袁氏送信與王子重經過庫車葉爾羌阿克蘇等處一路都有官府盤詰如何容你前往你又如何出口你拜步文斌為師學他理條有何好處從實供來據劉照魁又供我替王袁氏送信出口到了甘肅地方打聽出口的人都要在肅州起了口票方許出口我到了肅州即往州裡衙門去起口票他們盤問我為著何事出口我就假認王子重係是親戚帶有家信前往探望衙門裡的人問明我姓名籍貫并將年貌逐一註在冊子上給了



我一張票子又將我所帶包裹及身上細細搜檢放了出口走過庫車葉爾羌阿克蘇等處也都有人盤問我將票子給他看了他就放我過去我帶些鍋塊乾糧夜間就在柳園下過夜一路遇著軍犯就問王子重信息找到喀什噶爾地方見了王子重將帶的書信交給了他在他那裡住了一個月我要回家他就給了我些銀兩馬匹那裏的遣犯曉得我要起身都寫信託我捎帶各人與我一二錢銀子不等也有各人託我帶幾錢銀子及兩款銀子與他家裡的我連盤費及衆人託帶銀子共有一百餘兩在陝西掣獲時已被官府同信起去我從喀什噶爾起身進口一路盤詰搜檢更加嚴緊見我包內帶的都是家信身邊並無他物就放我走了到口時那裡官府盤問我出口日子查驗口票我將出口日子告訴了他他們對了冊子年月不錯又將我包裹及身上細細搜到放進口來的我們教中都是勸人行好入了這教有了功行得了流水名號就可向同教的人斂些錢文供

奉天地剩下的就可使用若遇要出門遠去也可向他們要些資助積的功行多了不但今生可以消災獲福來世也轉生好人不受貧苦這就是教內好處我是以一心學習的所供是實又問劉照魁現在查出屈進河寄周有的信內有叫孫貽恭杜三元傳會下頭領速動皇賬出其忠心孝意的話會下頭領有若干人係何名姓皇賬二字是什麼講賬上所斂銀錢共有若干如何動用給與何人使用此外有何圖像經卷一一從實供來

據劉照魁供教內規矩凡是入教的男人出錢十文女人出錢五文幼孩出錢三文分作四季每季交與總流水經管湊買香燭上供皇天將各人所出錢文數目寫在紙上焚燒上告天地見他們奉教的誠心此項斂得錢文因與皇天上供使用的就叫做皇賬教內的人肯出錢不肯出錢隨各人情愿也不拘定數目上供餘下的錢文總流水們就可使用或要資助教內窮苦的人或掌教有何用度俱可在賬內動用這屈

進河信內的話因周有是個掌教教他動用賬內銀錢幫給我盤費并送與王袁氏王子重們用度會下頭領就是孫貽恭們未曾得過名號的人我不曾見過孫貽恭杜三元們不曉得他們共有幾人我們這教都是勸人為善只知念誦歌曲向天磕頭此外並無圖像經卷這些名號也都是口許的並無執照是實

王袁氏供年七十五歲我丈夫王中因犯了邪教問了死罪王子重是我兒子今年四十七歲五十三年發遣口外我有族姪王者佐王者敬俱在外與人種地度日王子重有女人王氏自王子重發遣他就回了娘家住在沙土集地方離我住的袁家莊有八里路他有三個兒子大的叫大科兒今年十四歲次子二科兒年十二歲三子忙兒年五歲都跟著我兒媳過日我自王子重發遣兒媳回到娘家十分窮苦只有荒地幾畝無人耕種祇靠紡花織布度日我丈夫族中有王騰元兒向在沙土集居住曾來家過

一兩次五十四年我在沙土集地方趕集遇見王騰元兒說起窮苦無度我向他說家中並沒有親人你肯跟我到家種地做活每年給你兩吊錢王騰元兒應允就跟我回家的這幾年並無人到我家中來往只五十四年十二月內有江南沛縣楊進郭振趙慎三人到過我家中一次我問他說往直隸販買棉花順路看我他們與我兒子交好見我窮苦給了我兩斗米一簍酒十二兩銀子我留他們過了一宿就起身去了此後再沒曾見面是日又有一人到家來找我問他說叫劉五名字叫劉照魁係步文斌義子住在步蕭氏家中因步蕭氏係我甥媳婦叫他來看我并帶給我錢五百文我與他在院子內問他此話他就去了次年正月初七日劉五又同了步蕭氏到我家拜年我又說起兒子發遣後有人說走了四站身故又有人說半路上沒了我不知的信心中掛念步蕭氏見我想著兒子十分苦楚他說這劉五狠有義氣可叫他到

口外探問王子重的下落他與劉五說了劉五應允我就央街坊寫了幾句信給了他四兩銀子打發他起身劉五去了這一年多總不見回信我也沒處打聽今年七月內我在家中被官府拿了解來所供是實

\* 王騰元兒供我係荷澤縣人今年四十六歲父母早故並無兄弟妻子從小討吃長大了與人種種莊稼背送被套行李覓錢過活王子重係我族中叔叔他住的地方離我沙土集有八里多路我自己苦度過日叔叔家中只去過幾次五十二年六月內我替人背送包袱到范縣南關路東飯店內給了我三百錢我正要回到沙土集見飯店內有人出來說要雇人推車我上前招攬他就帶了我去說每日給錢一百文我見一人穿著白布衫布鞋戴草涼帽同了幾個人走出來叫我推著小車上被套物件跟他同走走兩日歇在飯店內那戴草涼帽人叫我

進去與我說他是趙老爺現在奉了牌票改了衣裳要往曹州一帶掣段文經問我可認得他若能指認段文經幫我掣獲可得重重賞錢回家過活豈不是好我因與段文經從不認識聽見了這話恐怕要我做眼目中害怕不敢與他推車他說不妨我帶的人都是眼目你既不認得段文經就不用你幫掣只要與我推車跟著行走按日給你錢文我就仍舊推車跟了他們同走到了鉅野嘉祥濮州等處共走了二十來日曹州府各州縣都走了一遍沒見掣著段文經他給了我錢文便各人走散了我除吃用外還剩了錢八百文七月內回到沙土集仍舊傭工背包度日到五十四年上王子重的母親王袁氏到沙土集趕集遇見了我向我說王子重已經充發不知存亡家中無人叫我到他家去替他傭工做活每年許給我錢二千文我就跟了到他家中與他種地拾柴這年冬底我種地回家吃飯看見屋內坐著三人我不認識我問王袁氏他說是楊進那振趙慎係王子重平

日交好路過袁家莊來看他的叫我點火與他喫烟楊進們問我名姓我說姓王與王袁氏是一家楊進又問我向來作何生理我說傭工種地并背包推車我都曾做上年我還跟過一個趙老爺在曹州一帶拏過段文經他就說你既跟過官府何不當個衙役豈不省些氣力又可賺錢我說我曉得什麼不過與他推推車子賺幾百文那裏當得衙役他因說起如今到處捉拏段文經十分嚴緊段文經恐怕逃到海邊上去了那裏還在這裏呢他們住了一夜就去了這一日我回家時又見有一人在院內站著與王袁氏說話我也不認識問王袁氏他說叫劉五是步文斌的義子係他外甥媳婦步蕭氏叫來看他的并帶了錢五百文給我聽了他的話也沒曾問這劉五是那裏人到次年正月初七日見步蕭氏同了劉五來家來拜年坐了半日說了些話王袁氏向我說要央劉五到口外去探聽王子重下落他已經應允了給了他四兩銀子這是我曉得的此外並沒曾看見有人

來往我與王子重雖係同族叔姪向來不大到他家中幼小討吃營生度日窮苦不堪並不曾當過衙役也沒有入過他的教是實

詰問王騰元兒現據劉五即劉照魁供明五十四年十二月內他在王袁氏家聽見楊進們與你說段文經逃在海邊上那裏登州地方有他徒弟的話又說你是荷澤縣捕役那日拏著一張票子奉官緝拏段文經如今劉五已經拏到就要對質你如何不從實供出還敢抵賴嗎

據王騰元兒供我與楊進們從不認識就是這一日在王袁氏家見過一面因他問起我平日作何生理我就把上年曾跟趙老爺往曹州一帶拏段文經的話告訴他他因勸我當個衙役容易賺些錢文不過隨口間話我從幼窮苦衣食無度只曉得傭工種地做些粗活那裡會當捕役縣裡衙役都是有名姓可查的怎能容我抵賴那趙老爺我不知他的名字也不曉得他什麼官約有四十來歲是個麻子跟隨他的人聽見趙老爺叫他是門斗這也是查得出的他要

幫他認拏段文經時曾將牌票給我，我看說他實係官差。這話我也曾向楊進們說過。至段文經逃往海邊去的話，也是楊進們隨口說的。並沒曾聽見他說登州有段文經徒弟的話。只求與劉五對質，就是了。隨提劉五與王騰元兒當面對質。據劉五即劉照魁供，那日我到王袁氏家，我看見王騰元兒在屋內，同了三個人說話。我不認得那三個人，不曾進屋內去。就同王袁氏在院子內站著，說了幾句話。那時我問王袁氏，他說是楊武郭信劉姓三人與他兒子平日相好，順路來看他的，還資助他些錢米。纔曉得他三人的名姓。段文經逃往海邊上的話，我原在屋外聽見他們說的，并聽見有捕役的話。我想來王騰元兒就是本縣衙役，所以在陝西供出的王騰元兒，實在是捕役，不是捕役。我不能知道確實。至登州有段文經徒弟的話，因在西安時，官府將我夾著，又押杠子，必要向我追究。段文經下落，我先在縣裡審問時，已經夾過兩次，並不曾說有此話。後來在按察使堂上，實在受

刑，不過只得隨口混供。實在王騰元兒與楊進們說話時，不曾聽見此話。我學的這些理條，專要勸人行好，消災免禍，就是今生命該受苦，來世也轉得好處。那段文經害的人不少，就是王子重步文斌們，都是受他害的。他就能躲過一時天地，也不容他終久要拏住的我。若果真曉得他的踪跡，豈肯違了理條，背了天地，代他隱瞞受罪，求詳請所供是實。

又問王騰元兒現在劉照魁供五十四年冬底在王袁氏家看見三人在屋內與你說話。隨問王袁氏說，係沛縣人楊武郭信劉姓，你如何供稱係楊進郭振趙慎三人，必另有楊武郭信劉姓到王袁氏家來過，你如何不從實供出。

據王騰元兒供我，向來在沙土集居住，替人種地，背包度日，從不曾到過江南地方，並不認得楊進們。就是王袁氏家，我也是五十四年秋間才去，與他種地做活的。這年冬底，我在地上回家吃飯，看見屋裡有三個人。我問王袁氏，他告訴我，說是江南沛縣人楊進郭振趙慎與他兒子

向來交好叫我點火與他吃烟我才認得的他們在王袁氏家過了一夜并給了王袁氏些銀米這是王袁氏告訴我的此外實不曉得另有楊武郭信劉姓三人只求問王袁氏便了隨提王袁氏詰問據供三人名姓與王鵬元兜所供相同

又詰問劉照魁據供楊武們三人我從未認識就是五十四年步蕭氏叫我送錢給王袁氏我到他家中看見屋內有三個人坐著說話我問王袁氏記得他告訴我說是楊武郭信劉姓江南沛縣人那日我與王袁氏在院子內站著說了一會話我就走了不曾進到屋內也不曾與他們叙談這三個人名字是我約摸記得的我在陝西官府問我就供出實不知另有楊進郭振趙慎三人是實

夾訊劉照魁你在阿克蘇地方約人入教替周發才等帶信與王子重討求封號後來從喀什噶爾回到阿克蘇又向王朝宗等十五人許封號

寫給字條傳教內規拒到了庫車又許封毛有倫做全任這就是你自己傳教封人現已據周發才等供明你還有何狡賴你在阿克蘇等處地方除周發才毛有倫外尚替何人討過口號糾約入教的俱係何人快快從實供來

據供毛有倫周進周發才們我在阿克蘇庫車地方向他們問起王子重信息曉得他們都是王子重舊時同教他們知道我要往喀什噶爾去就托我問候王子重並討求封號我見了王子重說了這話王子重封我為開路真人並許我給人封號我回到阿克蘇地方周發才周進都來問信我就把王子重封我的話與他們說了並將王子重許封周發才周進做全任的話告訴了周發才們因王子重祇係口許我就叫王朝宗寫成小帖給與周發才們領受我又許封王朝宗也做全任還寫了幾張小帖交給周發才我對他說還有同教的人靳瑞李順等你就給他都封他做全任內有孫貽榮趙永盛王平我曾見過封他們做全任其餘同案遣犯靳瑞

李順賀懷齊焦凡薛奪薛大小王均祿王好林  
王桂宗都叫周發才轉許他們做全仕的後來  
到了庫車地方見了毛有倫也將王子重封他  
全仕的話與他說了並將王子重寄他的勸世  
文交給了他那裡遣犯我都没有見過並不曾  
給與封號這些全仕內止有周發才周進毛有  
倫是王子重叫我封的其餘的人因王子重已  
封了我做真人我就可以轉給名號都是我自  
己許給的是實

詰問劉照魁你在庫車地方有遣犯胡有才張好  
明們都托你帶信你豈有不給與教內名號之  
理你許他們是何名號俱係何人再你在阿克  
蘇給周發才們小帖內寫合字利字午未申酉  
等字俱係甚麼意思從實供來

據供我去年九月間到庫車地方遇見毛有倫知  
是王子重的同教他就托我向王子重討求名  
號後來我從喀什噶爾回到庫車就將王子重  
許他做全仕的話對他說了他甚是感激我幫

了我二百普爾錢做盤費又拏了一封信說是  
同案遣犯們公寄的家信央我帶回家中的那  
些遣犯我並不曾見過實在沒有許給口號的  
事這是可以查得出的我在阿克蘇許給全仕  
的人都已供出若庫車的人有許給名號的我  
受這樣嚴刑豈肯替他們隱瞞我在阿克蘇給  
的小帖內中利字是八卦裏元亨利貞的意思  
合字是和合的意思午未申酉是教他們按了  
時辰對著方向磕頭的都是我隨意編造的並  
無別的緣故是實

又問劉照魁你在肅州起口票時既將要看親戚  
王子重的話對店家說了他必將你的話說明  
請票發票時必將你帶到肅州衙門當面給發  
這票內是如何寫的據實供來

據供我上年六月到了肅州東關飯店裡那店主  
人問我籍貫我就將本籍渭南縣憑信鎮人出  
口看望親戚王子重的話對他說了那時有我  
在路上遇見的高登科是同鄉華州人一同下  
店店家向來與他認識就留我二人住下不曾

問我別的話住了兩三日店裡住的人都央店家到衙門裡去請口票我同高登科也托店家去起票的那票上連高登科共有四五個人店家如何向知州衙門裡說的並沒有對我說過就把起來的票交與高登科收執我們一同出口並不曾帶到衙門去他票內如何寫的我不曾看過止求查驗原票不敢謊供是實

\* 遵

旨訊問劉照魁你在肅州起口票時到了肅州知州衙門見了何人起票給你那知州係何名姓到了口上又見何人驗了票子放了出口一路經過地方在何處有人盤問如何驗放盤驗的俱係何人從實供來

據劉照魁供我於五十五年六月十六日到了肅州地方住在東關裡北斗宮地方飯店內那裡店家俱有排門冊子問明我姓名籍貫註在冊上我就在他店中住下還有一個在路遇見同走的人我問他叫高登科是華州人要出口去

貿易的一路同到肅州就與他同住在這飯店內我初到肅州不認得那裡人不知該如何到衙門裡去報名起票住了兩日我就將要往南路看望親戚王子重的話與店家說了又給了他錢二十文央他替我去起了票子那高登科也是託店家去辦的店家到州裡把我同高登科起了一張口票那口票上如何寫的我不認得字不能知道只求查驗原票就明白了十九日我同了高登科到了嘉峪關關上有一個官員坐在那裡戴的是金頂我同高登科就將肅州起的票子交給了他他將我二人名籍貫并年貌註在一本冊上并將我們包裹衣服搜檢了纔放我們出口自口外至哈密一路俱係戈壁並無人烟直到了哈密城找了飯店住下歇了一兩日也是央店家替我去起票的自哈密至土魯番哈拉沙爾庫車阿克蘇葉爾羌喀什噶爾每到一處就將上站票子繳了另起一票那票子俱係央店家替我起的一路遇著台站俱有官員盤詰我將票子與他看了就放我



過去那沿途駐劄的大人只知庫車係秀大人喀什噶爾係明大人此外各處我都不曉得是那一位大人肅州知州我也不曉得他的名姓我肅州住的飯店記得是東門內北斗宮地方那店家名姓我實在不記得了哈密的地方只記得是富平人也不記他名姓那高登科到了哈密地方他就分路去了以後總不曾見過所供是實

966 大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 乾隆五十六年八月初九日奉  
上諭昨因劉照魁供出前往回疆為王子重傳寄書信時係在肅州知州衙門起票出口該州並不拏送轉給與口票照驗其過甚大已傳諭勒保將該州參革解部治罪並令該督明白迴奏矣茲復命軍機大臣研訊該犯在肅州如何起票經過回城各地方如何盤問驗放據供我於乾隆五十五年六月十六日到了肅州住在東關裡北斗宮地方飯店內店家問明我姓名籍貫註在排門冊上我

在店中住了兩日將要往南路看望親戚王子重的話與店家說了給錢二十文央他替我起了票子還有同住店內要往口外貿易的高登科也託店家一同起票出口的等供關隘重地內地民人出入自應嚴密稽查認真盤詰今劉照魁出口竟係店戶代為起票該州即行給予而自哈密至喀什噶爾地方沿途換票亦俱係店戶代辦試思店戶祇係微賤小民即衙門書吏尚未必與之熟識不過向皂快等役轉為囑託豈有給票出口要務任聽店戶與賤役等串通朦混發給該地方官竟毫無覺察置之不問之理可見地方官於此等要務全不經心竟同聾瞶而該督亦視為具文並不實心督飭又安用此地方大小官吏為耶除駐劄回疆辦事大臣另降清字諭旨飭諭外著傳諭勒保再行明白迴奏並將劉照魁供詞抄寄閱看欽此遵

旨寄信前來

967 乾隆五十六年八月初九日奉

旨此項工程不過將引水溝槽拆修挑換何至估需銀三萬七千餘兩著再大加核減欽此

968 啟者日昨奉

旨將御製大宛馬識語一篇繕入皇輿西域圖志內御製大宛馬詞一首之後除熱河文津閣所貯四庫全書即就近添寫補入外著傳諭紀昀即將文淵文源文溯三閣所貯四庫全書查明一體照繕增入欽此特此佈知希

大人遵照辦理并將

御製大宛馬識語錄稿寄上乞

照入此候

和 等公具

近佳不一

初九日

969 遵

旨將

硃批福寧奏到糧價單交梁肯堂及在此間藩司道

府等閱看據梁肯堂等稱小民等惟利是圖每遇收成豐稔年分預知將來市價必當更減往往先行擡價以便於新稻收成後將市價略行減輕仍可獲利此等細民牟利到處皆然我等

恭閱

硃批福寧奏到糧價單仰見我

皇上聖明洞燭於閭閻細民纖悉情弊無不

睿照靡遺實不勝欽佩悅服之至惟有督率地方官

隨時實力稽查不使市僧擡價居奇豐收年分

糧價自可更就平減等語謹

奏

八月十一日

970

據直隸委員將孥獲屈進河家屬屈王氏屈陳

氏屈三元及屈王氏供出之侯治國侯玉禮侯

呼齒等六犯又據河南委員將孥獲周有之家

屬周貴周沛二犯解到臣等當即親提審訊查

屈王氏係屈進河之母屈陳氏係屈進河之妻

屈進河在配寄伊母妻一信已據直隸省起出

送到臣等閱看止係在配度日情事尚無違悖及關涉八卦邪教語句屈三元一犯訊據屈王氏供稱曾跟着屈進河燒香磕頭亦據該犯供認其侯治國一犯臣等檢閱陝省查出劉照魁在喀什噶爾所帶書信內有屈進河寄侯姓一信係交劉照魁帶給周有轉寄侯姓令其找尋劉照魁打聽王子重下落現在嚴訊解到之周貴周沛二犯據供周有業於上年四月病故詰訊侯治國據供伊父親在時曾令其同屈進河到王子重家中一次亦曾跟着父親對日磕頭自屈進河發遣後總不曾有信寄給我王子重家中亦多年不曾去過實不知信內情事等供復提訊王子重之母王袁氏及王騰元兒亦供並未認識侯治國應侯王子重解到再行質訊至侯玉禮侯呼齒二犯係侯治國之子嚴訊未

御覽謹  
奏

\* 屈王氏供我今年七十七歲屈進河是我兒子從前因拜林進道為師叩頭念經五十三年破案發遣口外後來我兒子的姨外甥孫貽恭替我兒子帶回兩封書信不過是想念家中的話一封信我收在家中已被官府起去那一封信係與我兒子一同充發去的人公寄的家信那日孫貽恭念與我聽了說他在配所窮苦度日身子好的他說還要送與別家看去就掣去了這屈三元是我族中的姪孫我兒子因無子嗣要將他過繼為兒後來他母親因三元兩個兒子都死了就把他領回去了我從兒子發遣後有幾畝地也沒人種了在家中與他媳婦屈陳氏紡花打線苦度過日他們如何磕頭念經的事我都不知道是實

\* 屈陳氏供年三十七歲屈進河是我男人餘與屈王氏供同

\* 屈三元供我係大名縣人年二十四歲我八歲上父親就死了母親今年春間病故的並無妻

子我有兩個哥哥五十三年都沒了這屈進河是我五服內族叔我父親在日屈進河因無兒子與我父親說要將我過繼為兒我父親在日因曾與屈進河口角打過架不肯應允後來我父親死了屈進河又向我母親說了將我領在他家住帮他做活也沒曾立過繼文書我在屈進河家住了半年我母親因我兩個哥哥都害病死了仍舊叫我回家的我住在屈進河家時他曾叫我跟著他對日磕頭口中念誦愚門弟子奉請聖帝老爺照應弟子弟子與聖帝老爺磕頭的話一月兩次我也不懂是什麼意思五十年我回到母親家內就不念了也不再磕頭了屈進河的外甥孫貽恭替屈進河帶給兩封信這是我知道的他並沒有寄給我的信我在屈進河家住了半年多替他種地做活就是初一十五叫我跟著他磕頭沒曾見有別人同他磕頭念經所供是實

\* 侯治國供南樂縣人年四十一歲有女人陳氏

兒子侯玉禮侯呼齒兒並無兄弟我父親侯開道在日曾叫我到王子重家中去過一次因我不認得路係叫屈進河同了我去的王子重也沒曾與我說什麼話我在家中父親叫我跟著他向了太陽磕頭每月初一十五每日磕頭三次聽見父親說奉得虔誠聖帝老爺照應身上就沒有疾病來世轉到好處每磕頭時就對著太陽通誠不過是要求聖帝老爺照應的話並不曉得念誦別的經文我自五十二年因父親破案在保定府監死了我才知道是犯法的事心中害怕又見我父親同屈進河奉著此教並不見有好處都犯了罪我就再不磕頭通誠了我兩個兒子年紀都小跟我種地做活從不曾教他對日磕頭的事至屈進河自發遣後總不曾有信寄給我過我也不認得劉照魁是實侯玉禮年二十歲侯呼齒年十八歲全供這侯治國是我父親我們在家裡種地度日別的事我都不知道也從沒曾跟著我父親燒香磕頭過是實

周貴供我係河南彰德府臨漳縣人年五十五歲我兄弟五人大哥周有二哥周起三哥周全這周沛是我五弟妻邢氏周起周全都早死了周有是五十五年四月內病故的我們早已分居過活我向在直隸成安縣地方替趙姓徐姓家種地總不在家四十三年我聽見大哥周有患病回家看望住了兩天有我大哥的兒子周明勸我行善對日磕頭教我念誦愚門弟子奉請聖帝老爺照應弟子替聖帝老爺磕頭這幾句話我念了八九遍就會了連著初一十五也照他的話對日磕頭過幾次後來我仍舊到成安地方種地做活也就不學他了上年有我素識的司喜擎了一封信說是屈進河托人帶來的要我與他捎去我不認得屈進河的家裡因我表姪孫貽恭是屈進河親戚就給他送了去後來又有申第四擎了屈進河的一封信來我也交給孫貽恭送去這都是有的他信中寫的是什麼話我不知道是實

\* 周沛供年五十三歲周貴是我胞兄周明是我大哥周有的兒子我向在外種地度日有七八年了五十五年因我哥哥周貴眼睛看不見了我才回家幫著哥哥與人種地這初一十五對日磕頭并念誦愚門弟子的話也是我姪兒周明教我的在家時我曾跟著他磕過頭後來出外與人種地又因姪兒周明已經正了法就再沒曾磕頭念誦屈進河我實在不認得他是實

971

查屈進河一犯係五十三年河南林進道等傳習震卦邪教案內發遣新疆給回子為奴因在配所托劉照魁寄信同教周有令向王子重討求名號於本年七月十三日奉

旨令新疆辦事大臣審明後即於該處正法其孫貽恭一犯係代屈進河遞送家信之人已據河南巡撫穆和蘭等獲解送刑部謹

奏

八月十一日

972 查江西省早稻收成分數於七月十六日據姚

榮奏到業經奉有

御製詩章本日該撫所奏係通省雨水農田暨糧價

情形據稱晚禾雜糧預卜豐稔其晚稻收成分

數尚未奏報合將原摺抄錄進

呈謹

奏

八月十一日

973 謹將

頒發安南國王阮光平

勅諭一道恭呈

御覽俟

發下後即同

頒賞物件交該國貢使一併敬謹賞回交該國王祇

領謹

奏

八月十一日

974 查河南等府秋收分數約在八分以上業據楊

和蘭於七月二十八日奏到與本日吳璥所奏

分數相符謹

奏

八月十一日

975 乾隆五十六年八月十一日奉

旨李應選著即處斬餘依議欽此

廣東偽造關防劄付一案

976 乾隆五十六年八月十三日內閣奉

上諭本年屆朕八旬開一年穀順成雨暘時若壽辰

之前夕微雨飄灑次日曠景晶瑩天色開朗太和

朔洽實為渥荷

天庥十一日命皇子皇孫曹孫元孫等山莊校射元孫

載錫年方八歲五發三中朕心甚為嘉悅賜以黃

褂因憶昔年朕隨侍

皇祖山莊閱射朕連中五矢仰蒙

天語褒嘉

慈顏大悅蒙

賜黃褂其時朕年十有二歲今元孫甫及八齡即能連

發命中仰見

吳蒼萬祐

家法貽庥慶澤延洪克膺脩福現在八旬開表元孫業

已長成就傳計朕壽躋九旬時又可見六代承孫

同堂稱慶敬惟

鴻貺駢蕃

貽謀悠遠朕於感荷之餘倍深兢業不敢以景運增隆

稍存自足惟有勵精宵旰孜孜不怠益務敬

天勤民仰酬

恩佑從前因誕育元孫為史冊稀有盛事曾命督撫等

查明各省有五世同堂者據實奏聞特頒恩賚今

思朕速事

皇祖

皇考復得元孫朕已親見七代

萬慶錫光更為古今罕有著交八旗都統步軍統領順

天府府尹及各直省督撫詳查臣民中如有實曾

親身上見祖父下逮元孫有指証者據實奏聞候  
朕優加恩賚以昭壽寓同登之盛欽此

977 擬照上次之例

賞安南國和詩陪臣物件單

大緞各一疋 筆各二匣

墨各二匣 箋紙各二卷

八月十三日

978 大學士伯和坤字寄

廣東巡撫郭 廣西湖南江西湖北河南陝西

甘肅各督撫 乾隆五十六年八月十四日奉

上諭據郭世勳奏陽春縣安置改遣軍犯年四十五

於乾隆五十六年六月初三日在配乘間脫逃等

語年四十五係甘肅河州回民因結夥行竊改發

極邊烟瘴充軍之犯今在配所脫逃自係竄回原

籍或尚在沿途潛匿均未可定著傳諭郭世勳認

真查緝並著沿途各省督撫一體飭屬嚴拏務獲

母任遠颺漏網將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

979 查寄信福康安阮光平

諭旨因先後難以列銜謹分寫兩道進

呈恭候

發下分別遞交謹

奏

八月十五日

980 大學士伯和 字寄

安南國王阮 乾隆五十六年八月十五日奉

上諭據福康安奏接到阮光平咨啟以臣母年屆七

十附帶禮物致送雖其意存見好而人臣義無私

交體制豈容踰越現在婉詞照會將帶來禮物令

成林送交諒山鎮目轉行送回等語此舉未免過

甚已於摺內批示阮光平備位藩封恪恭侯服渥

承恩眷比於近臣上年該國王祝嘏來京福康安

仰體朕撫育深仁盡心照料途中往返數月朝夕

相晤結契良深友朋交際往來原屬人情所不廢

况係因福康安之母七旬生辰備儀稱祝尤不應

固辭拂其美意阮光平受朕深恩視之如子福康

安亦如之與該國王交誼即與和坤無異設和坤

致送伊母壽禮亦將却而不受乎所有阮光平送

給儀物福康安竟當收受優加酬答以見投報之

情不必以人臣無外交之義過於拘執也朕撫御

中外一視同仁從不稍存岐視該國王自當明喻

朕意除將硃批福康安摺就近發交陪臣陳玉視

等閱悉外並將原摺封交阮光平閱看令其欣悅

欽此遵

旨寄信前來



981 臣等遵

旨將

硃批福康安原摺交安南使臣閱看并將欽奉諭旨傳知該使臣陳玉視潘文璵叩頭口稱大皇帝天地為心待我等國王與在

廷大臣無異上年國王阮光平進京祝嘏蒙

大皇帝恩禮優渥

賜予駢蕃來往經過地方復經福總督遵旨照料十分周到國王感激

天恩與福總督深為相好今年福總督之母七十壽

辰國王稍具菲儀福總督未經收受蒙

大皇帝降旨訓示並令我等知道仰見

大皇帝中外一家待國王不啻家人父子國王接奉諭旨必定分外歡感我等回去仍將奉

命傳知

聖諭及福總督奏摺緣由畧知國王自當倍加感戴

等語謹

奏

982 大學士伯和 字寄

山東巡撫忠 乾隆五十六年八月十五日奉

上諭據山東委員試用州同王岐將貌似段文經之馬興及伊夥計史二兩犯解到當令軍機大臣研訊此二人均係無業貧民討乞度日馬興並有妹夫及地保人等可証復提刑部解到之王成功一犯令其識認王成功一見即稱面貌模樣一此也不像段文經不敢妄認等語是馬興史二與本案全無干涉竟係該委員王岐意圖見功陞擢妄拏平民刑拷逼認似此拖累無辜豈堪膺牧民之任著傳諭惠齡將該員存記停其陞用仍責令王岐緝拏段文經真犯如不能拏獲其咎更難解免除令軍機大臣將馬興史二即行釋放並罰令王岐每人各給銀二十兩以示體恤外將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

據山東委員將貌似段文經之馬興及伊夥計史二兩犯解到臣等先提刑部解到之王成功一犯訊以段文經面貌若何有何識別據供段文經係圓面微赤色耳長背駝短鬚連腮門牙脫落二個見面即能指認等語當即核對從前發交各省圖形並所載面貌標誌與供相符隨將王成功另行押禁再提史二嚴切審訊據該犯堅供山東掣的實係邱縣人馬興並非段文經緣四十三年史二因窮苦無度討喫至廣平府之府東橋地方遇見巧頭馬興夜間即同在李姓伙房歇宿因此認識該二犯俱會編篋即夥同做賣并同當巧頭討喫度日至五十二年因廣平府年景平常史二又同馬興一路討喫至曹州府屬之尹家樓地方編篋篋篋賣錢并討喫餬口夜間就在七聖廟歇宿今年二月有該處監生尹樹德僱傭工史二即受僱在彼做活馬興仍在七聖廟編篋篋篋該二犯一同窮苦度日已十三年有素常認識之地保

李木秀等可証馬興委非段文經是實臣等復將馬興如果非段文經何以該犯被掣時即指馬興為段文經及解省審訊何以又復翻供之處詰訊史二據供七月初三日我在尹監生家忽被人掣去指著馬興問我是段文經不是我那時極口辨別官府只是不信我怕受刑只得說他就是段文經後來解到濟南府我見地保李木秀并馬興的妹夫都在那裏可以質証我才實供馬興並不是段文經的等語臣等復提馬興隔別嚴訊看得該犯門牙並未脫落亦無連腮短鬚頸項上隱隱有小肉包亦非羅鍋腰背細加究訊據該犯供出與史二認識前後一同討喫住宿破廟及該處地保隣佑並該犯妹夫名姓核與史二供情相符年月亦屬符合隨提同馬興史二兩犯令王成功向前指認王成功一見即稱面貌模樣實非段文經臣等惟恐王成功明知段文經已經被獲有心庇護不肯據實指出復諭以此二人中已有一人自認段文經汝若能據實指出不但可寬你罪并可得

賞之處再三開導據王成功供稱段文經如果  
拏獲我没有不認得的我已不得指出真犯布  
圖自己免罪從前拏獲徐克展到案我即立時  
指認若果是段文經我豈肯代他隱瞞的理  
這兩人實在不是段文經不敢冒認等語臣等  
復據各犯所供情節反覆究詰並驗看馬興面  
貌審對圖形馬興並非段文經似無疑義謹將  
供詞恭呈

御覽外應請將馬興史二兩犯仍交原解官解交刑  
部暫行監禁一面即行文山東巡撫并就近告  
知梁肯堂令將該二犯供出親屬地保及隣佑  
催主人等逐一查詢明確取具切實保結咨覆  
到日再行遞回省釋其王成功一犯亦即交刑  
部解員解京照舊收禁謹

奏

馬興供我是邱縣西劉垆人小名叫馬玉成兒  
年五十五歲父親叫馬國華我九歲上就病故  
了母親楊氏也沒了我二十一歲上娶妻楊氏  
不久身故並無兄弟止有兩個妹子第二的妹  
子早沒了大妹子先嫁在北營里宋家後來妹  
夫沒了他大伯子將我妹子轉嫁與威縣馬家  
是個武生我不曉得他的名字從前到過他家  
一次後來總沒曾去過我因家裡窮苦出外覓  
食四十一二年到廣平府永年縣的府東橋  
地方編些柴簍也賣不得幾文錢仍舊求喫度  
日夜裡在李家伙房棲身四十三年內有沙河  
縣史二也到伙房內歇宿我問起他也會編柴  
就留他幫削柳條做柴簍過活遇著人家紅白  
事情我與史二就替人家照應車馬討些賞錢  
後因火房倒了就同史二在土地廟裡棲身將  
近有十年了那府東橋的總地保名叫李木秀  
是認得我與史二的到五十三年上因廣平府  
年景平常不能存住我同了史二往曹州府一  
帶覓食到了荷澤縣的尹家樓地方在一個七

聖廟裡仍舊編些笨簿賣錢討喫過活有三年多了今年二月內史二到尹家做長工我仍在七聖廟住宿前月初三日有徐姓差人把小的拏去說我是段文經我說我是邱縣馬興並不是段文經他不依將我吊打起來我說有夥計史二可以問得的他就把我送到王老爺處並將史二拏到他說小的名叫馬興王老爺不信就將我與史二解到濟南府裡審問我又供出向來認識的地保李木秀并馬家妹夫都傳到了我大人已經去世他的隣居李禿子尚在也喚他到案大家議認他們都替我伸辯後來又叫兩個人認我我不曉他的名姓只聽見他們說我不是段文經這都是查對得的我實是冤枉也並不曾認得段文經求開恩

詰問馬興你如果不是段文經那差人為何把你拏去况你供出史二已在縣裡說你實是段文經你如何還敢抵賴嗎

據供我本籍邱縣父母妻子雖已亡故都是有人知道的大妹子現存妹夫家姓馬姓也都

可以查問我在廣平府的東橋地方住了十多年地保李木秀是眼見的我在尹家樓廟內編笨簿討喫也有三年多了實在不是段文經因那日徐姓差人在廟前走過向我討火喫烟我將火繩遞與他條光著脊梁他看見我頸脖子上有個小疙瘩問了我幾句話去了過了一會就同了六七個人把我拏去我也不曉得是什麼緣故我這頸上疙瘩是常時與人挑担做活壓起這個肉包並非長成的只求查驗我實在不是段文經不敢狡賴是實

\*  
史二供我是順德府沙河縣人年三十八歲父親史可映母親王氏哥哥叫史文成都早已病故的了小的因家裡窮苦在外與人推車編些笨篋賣錢并討乞度日四十三年因在家窮苦無度討吃至廣平府的府東橋地方遇見丐頭馬興夜間同在李家的伙房歇宿日久熟識後來伙房倒了就在土地廟過夜那馬興也會削柳條編笨篋我就與他一同編此賣錢夥用遇有人家紅白事情我與馬興就去替人家看管牲口覓碗飯吃我與他同在府東橋當丐頭賣笨篋有十年了那裡的總地保叫李木秀認得我與馬興的到五十三年上因廣平府年景平常米麵都貴我就同馬興一路討吃到曹州府的尹家樓地方依舊編此笨篋求吃度日夜間在七聖廟裡住宿今年二月那有監生尹樹德雇我與他做工每年給我四千大錢五斤棉花我就在尹家住下馬興仍在七聖廟過活前月十一日忽來了幾個衙役把我掣去指着馬興

說是段文經叫我質証我說是邱縣人馬興我在廣平曹州一同窮苦度日有十三年了並不是段文經那官府只是不信要我跪鍊子我怕受刑不起只得說他就是段文經後來到了濟南府纔供明的是實

詰問史二據你供說馬興並非段文經因被掣審訊時恐怕受刑不起只得妄供但後來解到濟南府時官府審問你難道又不怕受刑如何翻了口供又說他不是段文經這不是你有心庇護著他替他狡賴嗎若再不實說就要夾著問你了

據史二供我與馬興認得有十數年了那裡是段文經我被掣到縣裡時官府吆喝著問我我實在恐怕受刑只得妄供後來到了濟南府看見地保李木秀並馬興的妹夫都在那裡這是有對証的事了我就將實在不是段文經的話供明這是實情那段文經我從不曾認得他我如何肯替他隱瞞自己受罪求詳請

\* 王成功供這人全不是段文經那段文經門牙脫落頭髮卸頂兩腮還要寬些我一見面就認得現在這人一些不像從前叫我認得陝西擊來的人那模樣還有些彷彿這人連彷彿都沒有了實在不敢妄認所供是實

984 乾隆五十六年八月十五日內閣奉

上諭富綱等奏鹽道楊有誣染患怔忡病症氣體虛弱懇請解任回籍調理等語楊有誣著准其解任回籍調理所遺雲南鹽法道員缺著蔣繼勳補授  
欽此

985 乾隆五十六年八月十六日內閣奉

上諭雲南府知府員缺緊要著該督撫於通省知府內揀選一員調補所遺員缺著陳科銷補授其所遺員缺著永舒補授欽此

986 乾隆五十六年八月十七日內閣奉

上諭李奉翰等奏本年桃伏秋三汛黃河大溜順軌安流河勢並無遷改即間有舊埽墊卸以及接修新埽處所均即搶修穩固現在已屆白露可慶安瀾等語本年七月間河水驟長儀封三堡溜勢湧急經李奉翰等督率屬員搶護平穩新舊埽工補修鞏固現在時逾白露奏報安瀾宜予甄叙以示獎勵李奉翰穆和蘭俱著交部議叙所有在工人員亦著查明一併咨部議叙欽此

987 遵

旨將刑部具奏

恩詔減等已逾十年之軍流官犯查案關人命及曾

任知府參將以上各犯謹開列名單摘叙案由

恭呈

御覽伏候

欽定其餘各犯查看情節均應遵

旨釋放再查向例年過七十者方註年歲合併聲明

奏 謹

八月十七日

\* 情節較重及案關人命官犯名單

周尚智

年八十一歲係已革江南州判因見官貴震傳抄偽稿不行出首依知人謀逆不即出首律擬流

陳天相

年七十二歲因署廣西寧明州任內拷打平民身死擬流

洪旋吉

年七十一歲係已革安徽巡檢因與部民胡成受之妻王氏通姦敗露賄和致氏母女溺死加等擬流

周成錚

因署湖北荊門州州同任內聽信差役誣良

為竊拷訊致死擬流

朱紹儒

已革陝西巡檢因擅准濫差致斃人命復誣揭知縣勒索銀兩依誣告加等律擬流

關崇芳

已革外委因於陳老黑店內查拏賭犯周特林逃避跳入塘內該弁逼令陳老黑下塘捉拏致陳老黑溺斃依誣告人死罪未決擬流

八月十七日

\* 曾任知府叅將官犯名單

莊學和

年七十九歲已革保寧府知府因求索所部財物准枉法計贓擬流

袁文觀

已革施南府知府因挪用銅廠商人存庫工本銀兩依監守自盜律計贓擬流

楊大鵬

已革平越府知府因協濟兵米運脚銀兩照

侵盜錢糧律計贓擬流

劉煊

已革叅將因與部書交通營謀作弊依官吏  
央浼營幹致被誑騙例擬軍

諭旨進

呈謹  
奏

八月十七日

八月十八日

988 乾隆五十六年八月十七日奉

旨據刑部將恩詔減等已逾十年軍流官犯分別開  
單具奏除陳天相洪旋吉二名有關人命情節較  
重不准釋放其餘各犯俱著加恩釋回原籍單  
併發欽此

990 大學士伯和 字寄

兩廣總督福 山東巡撫惠 河南巡撫穆  
江西 安徽 江蘇 各督撫 乾隆五十六  
年八月十八日奉

989 查本日穆和蘭奏拏獲山東教匪究出步文斌

之子步大斤一犯臣等查對前次惠齡奏到之  
摺據步二斤供稱步大斤係該犯哥子久已出  
外求乞等語核與河南省究出供情不符謹擬  
寫信寄福康安等令其協同查拏

上諭據穆和蘭奏拏獲山東教匪餘孽內張魯一犯  
供出該犯於五十五年十月送步文斌之子步大  
斤至廣東看視步文斌留住兩月有餘現與東省  
併力協拏步大斤務獲等語前據惠齡奏拏獲步  
文斌之子步二斤供稱哥子步大斤是個瞎子久  
已出外求乞去了今據河南省訊究張魯供詞是  
步二斤所供瞽目出外求乞之語殊不足信或該  
犯步大斤尚在廣東及沿途逗留或已潛回原籍



均未可定著傳諭福康安惠齡穆和蘭及沿途各督撫各飭所屬嚴密查拏務獲解交刑部歸案審辦毋任遠颺漏網將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

991 查穆和蘭審擬何九毆斃鄭宗宜錯誤率行題

結一案遵

旨明白迴奏於七月二十四日奏到請交部嚴加治

罪奉

硃批這所奏情節該部嚴察議奏欽此謹

奏

八月十八日

992 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年八月十八日奉

上諭河南光山縣役何九等共毆斃鄭宗宜一案業據吉慶審明鄭宗宜致命重傷實係縣役何九所毆在逃未獲現將共毆之劉興等定擬具奏何九身充縣役妄拏平民毆斃人命實為此案正兇該

犯畏罪潛逃日久未獲著傳諭穆和蘭督飭所屬迅速查拏務獲毋任遠颺致干咎戾將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

993 乾隆五十六年八月十八日內閣奉

上諭據穆和蘭奏河南彰德衛輝懷慶三府所屬各縣內有因本年得雨稍遲收成僅止五六分不等所有應徵未完舊欠錢糧及新舊倉穀請緩至次年麥收後徵收兼分別酌借籽種口糧其應徵米豆二項並請停徵一半等語彰德衛輝懷慶三府本年夏間得雨較遲前經降旨令該撫查明據實具奏茲據勘明湯陰等十三縣收成僅止五六分不等是各縣秋收歉薄自應分別加恩以紓民力所有湯陰臨彰林縣汲縣淇縣輝縣濬縣滑縣獲嘉新鄉陽武修武原武十三縣應徵未完舊欠錢糧及新舊倉穀俱著緩至次年麥收後完納其成災五分之湯陰等五縣仍著借給籽種並於冬間

或來歲青黃不接之時察看民情酌借一月口糧  
勘不成災之林縣等八縣亦著借給籽種至應徵  
漕糧內米豆二項竟著加恩全予緩徵俟次年秋  
收後完納俾閭閻益裕益藏以示溥惠窮黎恩加  
無已至意摺併發欽此

994 臣和坤等謹

奏為遵

旨議奏事福康安覆奏查明廣東已故通判永清拖

欠埠務銀兩一摺奉

硃批軍機大臣議奏欽此據稱兩廣釐務向係按照  
州縣分設鹽埠名商充辦後因商人勤惰不齊  
埠地衰旺不一毗連場竈處所民多貪賤食私  
額引不能暢銷其中疲乏之埠一經斥革名商  
往往無人應募不得不暫交州縣承辦而牧令  
各員類皆未諳鹽務經理失宜即多掛欠經前  
督臣孫士毅

奏准改歸緡設局統辦臣抵粵後徹底清查逐加

籌畫其改緡以前官商積欠餉項分別有著無  
著辦理除有著之項現在上緊追完外其有事  
故者先於本員本商名下按照籍貫咨行嚴追  
如實無著議令局商攤入通緡將所得羨餘分  
年完繳曾於改定章程款內

奏明在案前任通判永清委署封川縣事該縣埠  
務素稱疲乏遞年銷引不及十之五六自商人  
沈芝庭充辦後積欠不清革埠另名無人充補  
詳請歸官暫辦適值永清抵任接手經管計一  
年四個月零二十日除完繳之外共欠銀四千  
七百餘兩屢催未完旋經物故查無資物可抵  
因咨明本旗查變家產抵補欠項嗣准部咨查  
明永清房產與永清之子觀成在粵供報不符  
俟到京之日查訊辦理茲蒙

聖訓諄飭查伏查永清在任若有侵欺入己及隱  
匿之事自應從嚴究辦何敢稍存迴護惟封川  
一埠不特該員任內承辦未能完楚即接任之  
員如張映衡李情方元張允喜漆浥美等正署  
久暫不同亦皆各有掛欠自數十兩至一千餘

兩不等此其明証是永清承辦鹽埠經理雖未妥善實無侵蝕別情先經嚴飭任所確查亦無隱匿寄頓請將旗籍房產查明變抵其不敷欠數照從前

奏案歸入通網攤繳等語 查原任廣東通判永清於署封川縣任內拖欠鹽埠餉銀四千七百餘兩經兩廣總督福康安查明任所賞財無可抵變訊據永清之子觀成供稱京中有祖遺房屋二所田三處或可值銀三千餘兩因移咨正紅旗查變抵款嗣經該旗查明永清房屋二處係坟塋上陽宅地畝三處有二處係族間公中塋地此外止有文安縣老園地一項四十八畝值銀二百餘兩抵變恭摺具

奏奉

旨令福康安將該員任所有無隱匿寄頓及該員在任拖欠之故是否另有別情確切查明據實具奏茲據福康安奏稱封川一埠久稱竭蹶不特永清任內承辦未能歸楚即接任之員如張映衡李情方元張允喜漆浥美等亦皆各有掛欠

是其明証永清在任實無侵蝕別情任所賞財嚴飭確查亦無隱匿寄頓等語是該員任內拖欠實因鹽埠積疲所致並非侵蝕其任所無可抵變之處及委無隱寄之處均經福康安確切查明自屬可信惟觀成在廣東供內有京中房屋地畝或可值銀三千餘兩之語今該旗查出僅值銀二百餘兩與在粵原供不符臣等因交該旗再行傳到觀成嚴切訊問詳細確查毋得稍有率混今據覆稱觀成供我從十三歲隨任廣東從前聽見父親說過京中有房二所地三處那地若干得租多少我實不能知道父親故後南海縣問我京中有何產業可以抵交我實因記憶不清說不出確實數目隨口說出房屋地畝或者可值銀三千餘兩我到京後纔知道房二所是坟塋上陽宅西流村塋上陽宅房二間大柳樹村族中公共祖塋上陽宅房十一間燒燬四間下存七間我現在無處棲身即在祖塋陽宅房內居住地三處內有兩處是族間公中塋地止有文安縣老園地一項四十八畝此

外別無房產如有隱匿情甘領罪等語並據伊族長及該佐領等呈報相同復經該叅領等覆查加具保結由該旗都統咨覆前來查永清任內拖欠之項除將該旗查出該員文安縣地一項四十八畝估變抵交此外實無隱寄財產堪以抵補所有不敷銀四千五百餘兩未便久懸自應照該督所請依從前

奏案歸入通綱攤繳以清積欠再查粵省自改綱之後疲商概行斥革所有封川一埠既據該督奏稱已另募商人充辦應請令該督嚴飭地方文武實力整頓設法暢銷俾積玩得有起色毋致仍前拖欠方為妥善所有查議緣由謹繕摺具

奏伏候

命下行文該督遵照辦理謹

奏

乾隆五十六年八月十八日奉

旨依議欽此

995 臣和坤等謹

奏為遵

旨議奏事書麟等奏會議江西建昌等處鹽價一摺

乾隆五十六年八月初七日奉

硃批原議大臣議奏欽此 據書麟等奏稱前請於

建昌府開設鹽店減價敵私令准商照依閩鹽價值售賣其減價虧折之處於通省鹽價內公捐貼補經原議大臣議以閩鹽每斤二十八文准鹽應再減二文其附近建昌之撫州亦應酌減鹽價行令會議具奏等因查建昌壤接閩疆今行令准鹽於二十八文之內再減二文自是永杜侵越之遠計應即遵照辦理現已出示該處居民并令省店運鹽前往照價售賣至撫州一府有難一併議減者蓋僅就每斤酌減數文計算似覺所減無多而將減價之引數彙總計算則積少成多貼費甚大建昌額銷七千五百餘引以現在所減之價而論須貼補銀三萬四千餘兩而此七千五百餘引尚係舊定之額今

設店減價則所銷必不止此數每年約二萬餘引其貼費不下八萬九千餘兩若撫州亦復減價又須貼銀十九萬三千餘兩且撫州水販向係到省店照部定之價買鹽轉售若獨於撫販另減價值則各府水販皆將冒充撫販來買賤鹽其貼費更無所底止現據揚州商人懇求奏明撫州一府免其減價俾商等得以通省之力專貼建昌所稟似屬實情所有撫州鹽價應請免其議減等語 臣等查建昌一府行鹽章程既據該督等遵照

諭旨行令淮商按照閩省時價再減二文則私販無利可圖其侵越之弊自可不禁而止至撫州府鹽價前議令該督等據實詳查一律酌減者原以撫州與建昌地界毗連離閩亦不甚遠該處鹽價諒與建昌相等若僅減建昌鹽價而撫州鹽價仍較閩省昂貴恐私販等潛赴撫州等處售賣仍未能暢銷官引是以議令一律酌減以期杜絕閩省私販今據該督等以撫州額引較

多減價貼補須銀十九萬三千餘兩再加建昌減價現須銀三萬四千餘兩為數甚多且撫州之鹽向係該處水販到省店轉買若各府水販知省店獨於撫販減價皆將冒充撫販圖買賤鹽其貼費更無所底止懇請俯如淮商所呈將撫州鹽價免其議減固因郵商起見惟恐貼費過重商力不支難與建昌一律辦理雖是實在情形但查撫州府每年額銷鹽四萬七千五百餘引而年節奏銷冊報皆不足額即如丙午綱僅銷鹽九千二百餘引丁未綱僅銷鹽七千四百餘引其多銷之年分如戊申綱已酉綱亦祇銷鹽二萬餘引及一萬八千餘引所有銷不足數引鹽俱分派於暢銷口岸通融足額可見該府情形與建昌大畧相同恐該處水販亦有增價轉賣之弊以致官鹽不能暢銷自應將該處現賣時價實係若干比較建昌昂貴若干之處詳晰查明方可通盤籌畫今書麟等摺內並未據實聲叙碍難懸定且撫州隣近建昌若鹽價過昂在梟販等趨利若鶩必至越過建昌潛赴

撫州售賣甚且蔓延他府於江西通省釐政大有關係不可不悉心籌酌應交江西巡撫就近查明撫州府行鹽時價據實聲明俟登覆到日再將應否減價斟酌定議務使章程一定可無慮私販侵越而官引得以暢銷庶於釐政有裨所有臣等酌議緣由謹繕摺具

奏伏候

皇上訓示遵行謹

奏

乾隆五十六年八月十八日奉

旨依議欽此

996 大學士伯和 字寄

工部侍郎德 乾隆五十六年八月十九日奉

上諭據德成奏山東省初限城工估冊其中做法有未盡善必須調劑數款一摺已交軍機大臣詳議具奏另降諭旨姑毋論所言是否可行即摺內卷洞鋪墁石塊一款據稱卷洞必須鋪墁石塊者非特使車馬之往來實以防穿窬之出入等語措辭

甚屬不通竊賊撬掘壁洞皆係橫穿出入人牆並非將城洞穿穴地道今城門卷洞添砌石塊貼地鋪墁祇供踐踏之用竟與竊盜穿窬無涉德成妄行牽引不通可笑著傳旨嚴行申飭仍令其明白迴奏欽此遵

旨寄信前來

997 大學士伯和 字寄

盛京將軍嵩 直隸總督梁 雲貴總督富 雲

南巡撫譚 貴州湖南湖北河南各督撫 乾

隆五十六年八月十九日奉

上諭據鑲白旗漢軍都統德保奏雲南省勒休開化府知府劉杰應賠粵鹽餘息及銅價等項接准該撫移咨該旗著追完款劉杰並未歸旗疊催七次仍在外逗留六年之久欠項虛懸請令該撫將劉杰併伊子解送來京交部治罪並請將該撫一併交部查議一摺此案劉杰係勒休旗員其應賠鹽銅價銀於五十三年據該撫移咨該旗著追完款乃劉杰並不歸旗經該旗疊催七次於本年五

月始據該撫咨稱劉杰因患病甫愈於三月起程回旗計該撫初次咨報迄今已逾數年之久而前後所報劉杰應賠款項及起程日期又復不符劉杰在開化府任內既有應賠鹽銅款項移咨該旗後即應催令劉杰作速歸旗完繳何以該旗疊催七次該督等任其在外擔延六年之久尚未回旗以致久懸帑項且劉杰久經勒休其接任之員又係如何交代明係該督等有意庇護藉詞逗留而所報應賠款項及起程日期何以又復前後不符著傳諭富綱譚尚忠詳晰查明據實明白迴奏俟奏到時再降諭旨其劉杰著該督等即派員同伊子劉門燮劉燈等解送來京交部治罪如劉杰已經起程尚在中途逗留即著沿途各督撫查拏委員解京至劉杰京中產業現據該旗查明有坐落灤州菜園庄地九項二十畝房五十間又山海關外卧佛寺有地三十日房十二間著傳諭盛京將軍直隸總督委員查丈明確先行入官抵項其不敷銀兩再著追完繳將此傳諭各督撫及德保知之原摺併著抄寄富綱譚尚忠閱看欽此遵

旨寄信前來

998 乾隆五十六年八月二十一日內閣奉

上諭據伍拉納等奏清查各屬倉庫錢糧一摺內稱閩省共缺額穀六十四萬九千六百餘石雜項銀三十六萬三千二百餘兩詳加察訪倉穀一項緣歷來採買不無日久懸欠嗣因臺匪滋事碾運兵米間有越例多給其雜項銀兩因公動缺事所難免兼之五十一二等年辦理軍需不無通融墊給所有不准造銷之項皆應於承辦各員名下著追歸款懇請各歸各任於三年內全數完繳如逾限無完及無可著追者在該管道府名下分賠等語所辦非是殊欠公允前此臺匪滋事所有軍需款項經特旨撥解數百萬帑金發給應用其口糧兵米亦由四川江浙等省運往支放即有例外多支一時通融墊發事後不准造銷亦係在撥解銀米內虧短數目與該省倉庫實貯之款原無干涉今該督撫等清查各屬錢糧惟以墊解軍需為辭明係藉端影射况各屬虧短銀穀不下數十萬該管道府職分較小廉俸無多若所屬州縣應賠無著

之項悉令道府賠繳帑項仍屬虛懸所有閩省查明虧短銀穀即照該督等所請統限三年著落全數完繳其有拖欠未完及抵變不敷並道府不完繳者均著閩省歷任督撫藩司於限內分賠完繳如再逾限不能清款惟該督撫及藩司是問必將伊等從重治罪不稍寬貸也欽此

999

大學士伯和 字寄

福建巡撫浦 浙江江蘇山東各督撫 乾隆

五十六年八月二十一日奉

上諭浦霖奏改遣軍犯段二即段旺於五十六年六月初七日在配脫逃等語段二即段旺係停發新疆改發內地之犯膽敢乘間脫逃情殊可惡該犯係山東平度州人此時或已竄回原籍或尚在沿途潛匿均未定著傳諭浦霖認真查緝並著沿途各督撫一體飭屬嚴拏毋任遠颺漏網將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1000 乾隆五十六年八月二十一日奉

旨夏德著即處斬梟示餘依議欽此

拏獲江洋逸盜

1001 同日奉

旨劉子富劉子康俱著即處斬劉子受著即處絞餘依議欽此

湖北省匪犯拒捕傷差

1002 查州縣以下等官拏獲盜犯向准其送部引

見今拏獲逸盜夏德之劉永銓係漢陽府知府是以臣等於議稿內將該員交部議叙謹

奏

八月二十一日



大學士伯和 字寄

協辦大學士吏部尚書孫 乾隆五十六年八

月二十二日奉

上諭本日據保泰等奏巴勒布現因貿易之事復搶

占後藏聶拉木地方已降清字諭旨指示保泰等

遵照妥辦如保泰未能即時辦理完結尚須令鄂

輝前往督辦前據鄂輝奏請陞見朕本欲於鄂輝

來京時令孫士毅前往川省署理總督印務今後

藏聶拉木地方既有巴勒布搶占之事鄂輝尚須

在彼聽候信息預備前往孫士毅現在留京並無

應辦要務且曾任四川總督該省一切地方事宜

本係熟手著傳諭孫士毅接奉此旨不必前來行

在請訓即輕裝減從馳驛前往四川署理總督印

務到川省後如保泰已將巴勒布之事辦理完結

毋須鄂輝前往即著鄂輝來京陞見俟其陞見回

任孫士毅再將督篆交卸儘鄂輝應往後藏督

辦孫士毅亦應俟鄂輝辦理巴勒布事務完竣來

京陞見回任後再行交卸督篆回京供職孫士毅

此時馳驛出京祇以鄂輝陞見令往署理督篆為  
辭不必將巴勒布之事稍有宣露也將此諭令知  
之欽此遵

旨寄信前來

1004 乾隆五十六年八月二十二日奉

旨潘聰李雲沈民林丑邱奎汪廣陸潭七犯俱著改

發黑龍江給索倫達呼爾為奴欽此

刑部奏福建省盜犯減等一案

1005 大學士伯和 字寄

大學士公阿 乾隆五十六年八月二十三日

奉

上諭昨據兵部奏新授浙江定海鎮總兵德昌查福

康安咨部副將等第案內係列為三等之員其定

海鎮總兵員缺應否另行簡放請旨定奪等語所

奏甚是德昌前以副將引見朕不過看其人才尚

可且有勞績記以去得是以簡用今在副將任內

既據福康安以該員稍欠歷練尚須學習列為三等自難遽膺總兵之任阿桂等於朕簡放後即查明具奏尚屬細心朕甚嘉之如此方是昨本報遞到時奏事太監將此摺竟未單行呈覽夾入吏兵兩部月摺一併遞換隨事發下經軍機大臣看出擬寫空名諭旨進呈朕方命取兵部原摺送看竟係奏事太監遺漏呈覽已各責三十板示懲矣至兵部具奏此摺係屬何人主意想他人未必能見及此自係阿桂看出查明辦理著傳諭阿桂將此事是否係阿桂一人主見抑係各堂官中何人看出商同具奏之處據實覆奏以上此旨著與大學士九卿看再昨據保泰等奏巴勒布又有因私債未清槍占轟拉木之事已降清字諭旨詳晰指示令保泰等遵照妥辦並著將所降諭旨抄寄阿桂閱看其意以為如何一併據實覆奏不必與衆看再孫士毅已命往四川署理督篆所有留京辦事尚須添一人輪流值宿著阿桂詢問嵇璜如伊精力尚可行走即派嵇璜稍覺衰頹不必勉強即

派常青留京辦事將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

1006 乾隆五十六年八月二十四日奉

旨將廷傑高天福張魁彪均著准其馳封該部知道  
摺併發欽此

1007 本年七月十一日雲貴總督富綱等奏請仍以

荔波縣知縣周緯調補貴筑縣知縣一摺奉  
硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今吏部知會因  
該員係以繁調繁與例不符議駁於本日具

題謹遵

旨擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

八月二十五日

1008 乾隆五十六年八月二十五日奉  
旨著照該督等所請行欽此

1009 乾隆五十六年八月二十五日奉  
旨本年索倫等進到貂皮雖不及等第但既已足數  
著減半賞給欽此

1010 查畢沅等所叅知府赫爾謹從前係浙江處州  
府同知於乾隆五十三年補授施南府知府係  
何任督撫所保臣等記憶不清現在無從查核  
謹於擬寫

諭旨內令吏部查明議處謹  
奏

八月二十六日

1011 乾隆五十六年八月二十六日奉  
旨這所叅施南府知府赫爾謹著革職拏問利川縣  
知縣張宗孔著革職此案赫爾謹從容署幕與屬

員等交通勾結朋比作奸情節較重著該督撫提  
集案內人証秉公嚴審定擬具奏其從前原保赫  
爾謹堪勝知府之上司並著吏部查明議處摺併  
發欽此

1012 乾隆五十六年八月二十六日奉  
旨這所勾馬得保巴桑范有昌達木吹白泗信妥其  
順得勒格爾馬定剛王氏噶爾桑扎木產賈克得  
扎木楚楊貴楊氏焦秀棟董訓布爾甘俱著即處  
決餘仍著牢固監禁欽此

新疆勾到

1013 乾隆五十六年八月二十六日奉  
旨此案趙三等胆敢結夥跟隨行營宰馬至十四匹之  
多且有肥馬斷非出自價買必係竊馬屠宰售賣  
漁利甚為可惡著交管理行營王大臣及行在刑  
部嚴審從重治罪欽此

1014 大學士伯和 字寄

工部尚書金 乾隆五十六年八月二十六日

奉

上諭據陳用敷奏阮光平奉到端陽節恩賞並諭旨

一道硃批金簡原摺一件具表謝恩將表文進呈

朕閱該國王表內情詞懇切感戴惻忱出於至誠

流露甚為嘉悅又據該國王表內稱前經奉旨查

尋黎維祁弟妹眷屬起送北上而伊等內懷疑阻

尚無消息今奉廷寄遵旨諭知黎維祁妄聽教唆

不安本分其眷屬毋庸查訪等語從前黎維祁到

京後賞給俸祿錢糧建蓋房屋伊尚知感激朕恩

情愿在京居住是以降旨令阮光平為之查訪弟

妹眷屬送京使其一家團聚乃黎維祁聽信黃益

晚等唆使滋事經金簡等詳加曉諭伊仍屢次瀆

稟訓飭不悛是以諭知阮光平毋庸將伊眷屬尋

訪此皆黎維祁愚情無知福分淺薄不能承受朕恩

其咎實由自取著將阮光平表文並硃批金簡原

摺一併發交金簡令傳黎維祁閱看並著傳旨曉

諭黎維祁如伊自知改悔循分安居尚可承受恩  
眷仰荷生成倘再復萌妄念不知安靜守法必當  
重治其罪不能再邀矜宥也將此諭令知之欽此  
遵

旨寄信前來

1015 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十六年

八月二十七日奉

上諭本年十一月係福康安之母七十生辰上年曾

諭令福康安屆期來京茲距十一月之期尚寬但

粵省現無要務福康安若預行來京更得從容就

道著傳諭福康安接奉此旨即行起程將總督印

務交與郭世勳署理將此傳諭福康安並諭郭世

勳知之欽此遵

旨寄信前來

1016 乾隆五十六年八月二十七日內閣奉

上諭據保奏客什噶爾班滿換回都司阿那布現  
經推陞四川潼綿營游擊詳加考驗弓馬俱屬平  
常難勝游擊之任該員係於五十二年換防出口  
經喀什噶爾辦事大臣明亮出考預保今考驗弓  
馬既屬平常應令其仍回都司本任所有預保之  
案請飭部註銷其四川潼綿營游擊開缺另補等  
語所奏甚屬可嘉已於摺內批示各省督撫凡遇  
保舉人員一經陞用即明知其才不能勝任往  
往意存迴護見好不肯據實陳奏今勒保於推陞  
游擊阿那布驗看弓馬平常即奏明請將預保之  
案飭部註銷開缺另補並不因該員曾經明亮出  
考預保稍有瞻徇深得核實辦公之道各省督撫  
俱應似此實心任事營伍官方庶可日就整飭勒  
保著交部議叙其阿那布仍回都司本任及註銷  
預保之處俱著照該督所請行摺併發欽此

1017 乾隆五十六年八月二十七日內閣奉

上諭湖北施南府知府員缺著法克晉補授其所遺  
員缺著王以清補授欽此

1018 乾隆五十六年八月二十七日內閣奉

上諭書麟等奏現在節逾白露河湖水勢旋長旋消  
各工平穩等語本年夏間河湖水勢加長清口以  
下清黃並注甚為湍急經書麟等督率在工員弁  
保護平穩埽壩各工鑲修鞏固現在已逾白露嗣  
後水勢有消無長可慶安瀾書麟蘭第錫俱著交  
部議叙所有在工人員亦著一併查明咨部議叙  
以示獎勵欽此

1019 乾隆五十六年八月二十八日內閣奉

上諭陝西漢中府知府員缺著吳沂補授所遺員缺  
著羅肇遠補授欽此

大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 西寧辦事大臣奎 乾隆五十

六年八月二十八日奉

上諭勒保奏緝獲番賊究出青海札薩克屬下蒙古  
 勾通番子搶劫緣由及遵辦歸併管理二摺已於  
 摺內批示矣青海等處番子相隔遙遠本不便交  
 地方官管理乃向來俱由西寧辦事大臣報明內  
 地為之緝拿輾轉稽延殊屬鞭長莫及自應遵照  
 諭旨歸併西寧辦事大臣就近管理遇有搶掠事  
 件即行上緊緝拿呼應較靈自為捷便至此案蒙  
 古合拉納杭等胆敢勾通番賊搶竊其主以致其  
 主傷斃是即與自戕其主無異情罪甚為重大所  
 有拿獲各犯俱應不分首從即於該處正法以示  
 懲創其案內未獲番賊據勒保奏若調派官兵入  
 山搜捕恐沿途番子聞信驚疑轉致激成事端所  
 見亦是惟當督飭地方文武選派熟悉番協同兵役  
 設法緝拿務期弋獲嚴行懲辦毋得稍有疎縱至  
 隣近蒙古邊界番子應如何歸併管理著勒保奎

大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年八月二十八日奉

上諭據梁肯堂奏拏獲邪教從犯秦繼先朱煥二犯  
 解送刑部摺內稱朱煥於上年十二月內侯二曹  
 托伊將王子重家信送至荷澤縣王子重家內屬  
 實訊明侯二即侯治國上年十二月王子重寄回  
 家信侯治國斷無不知之理現咨明刑部提訊侯  
 治國等語王子重於上年十二月寄回家信經侯  
 治國轉託朱煥寄送則此信何人由配所帶回侯  
 治國必知其詳著傳諭刑部堂官即提該犯嚴行  
 訊究據實具奏勿任狡展欽此

1022 乾隆五十六年八月二十八日奉

旨王德基張道源張遇康均著准其貶封該部知道  
摺併發欽此

1023 乾隆五十六年八月二十八日奉

旨穆和蘭著免其革任仍註冊欽此

光山縣何九傷斃鄭宗宜一案錯悞請治罪

1024 同日奉

旨姚荼著改為革職從寬留任

失察南豐縣役私買銷引一案

1025 乾隆五十六年八月二十八日奉

旨此案瘋犯姚增不必解回原籍即著刑部將該犯  
重責四十板牢固監禁遇赦不赦其歷任失於覺  
察及此次失察該犯來京之地方官並著吏部查  
取職名議處欽此

1026 臣和坤等謹

奏為遵

旨議奏事本月十九日工部侍郎上行走德成泰山  
東省修理城垣據報初限做法未盡妥善必須  
調劑一摺奉

旨軍機大臣議奏欽此查山東省修理城垣四十二  
處經前撫臣長麟於乾隆五十五年奏明借項  
生息動銀一百七十餘萬兩分為三限興修經  
臣等議奏奉

旨依議其應修初限城垣即著於本年秋季興修欽  
此嗣據撫臣惠齡奏稱初限城工原估銀五十  
一萬一千七百餘兩內有可以節省之處如原  
估正城月城垛墼城臺前經查勘折修現在開  
工折驗內中磚石完固只須補修又如泰洞海  
墘石塊有地非衝途舊制原築灰土者有石塊  
尚可選用者均可酌減計節省銀五萬八千二  
百餘兩惟曹縣等九州縣離山較遠所有灰勛  
自應加給運腳共應加銀五萬三十一百餘兩

通盤核算較原估銀尚節省銀五千六十餘兩等因奉

硃批所奏是總應以實為之欽此今據該撫將初限十五處城工造具估冊送部經德成奏稱其中做法有未盡妥善必須調劑數款仰蒙

聖明交臣等詳議具奏臣等伏查德成所奏三條內

一據稱城垣所以資保護者上憑海墁下藉根脚若海墁酥城裂縫根脚水汕必致坍塌今該省冊開除金鄉一縣舊有海墁宇墻外其泗水等十四處城頂僅只築打灰土二步既無海墁磚塊亦無宇墻水口一經雨水連綿水由縫入則城心即為泡漲水勢漫流則城身即被冲刷請將此十四處城垣一體添砌海墁磚塊俾城頂無虞浸灌加砌宇墻水口俾水有關攔順溝而下城身免致冲刷等語 查城頂添砌海墁磚塊加築宇墻水口固為保護城垣起見但外省城工俱係中心素土裡外或砌磚石或包灰土名為裡生外熟若城頂加築海墁宇墻則城身

著重日久轉致酥裂今泗水等十四處城工俱係照舊辦理並非另行建造其城頂既經築打灰土二步如果一律堅實自可無庸海墁亦無須加築宇墻惟水口一項係出水之路必不可少應令該撫查明添砌務須用磚堅築出口寬大俾得暢流下注不致城身滲漏鼓裂方為妥善但查該省從前原估未經議及今既須添砌水口即令其在估內通融辦理核實報銷

一據稱券洞海墁必須石塊鋪砌非特便車馬之往來實以防穿窬之出入現據該撫具奏地非衝途將石塊即行刪減則所省錢糧不過四百餘兩而於捍衛之道大有關碍請仍照原估鋪砌石塊等語 查券洞內添砌石塊貼地鋪墁原為地當孔道車馬往來以供出入踐踏並非藉以防範穿窬其有地非衝途舊制原築灰土者自可毋庸更改惟據該撫奏有雖當孔道石塊尚可選用可以酌減辦理等語應令惠齡查明何處券洞原係砌有石塊仍行選擇添補鋪墁更昭慎重



一據稱修理城工以磚石為最其次則莫若素土  
前查估

盛京城垣內有海城縣巨流河二處原定外石內  
土後訪得出石處所相距甚近曾經

奏明將裏皮改砌碎石在案今該省冊開泗水嘉

祥二縣外皮本係碎石成砌其離山路甚近石

料易辦可知請將裏皮灰土改用碎石又莒州

曹縣單縣係外皮砌磚裏皮包築灰土陽穀鉅

野夏津城武壽張邱縣范縣係內外包築灰土

若一律改用碎石恐各該州縣離山較遠石料

均需運腳所費過多查從前勘估四川湖北江

南等省城工俱係外皮砌磚裏皮築打素土又

恭查河南等省城垣亦有內外築打素土並非

包築灰土者請將莒州等三處裏皮灰土陽穀

等七處裏外皮灰土即照江南河南等省之例

均改素土可減銀九萬六千餘兩惟查該省初

限工程係今歲興修其城身改築素土如灰土

業已包築將竣自未便另議更張俟二三年限

工程再行一體增改等語 查築砌城垣原係

磚石最為鞏固但所用石塊如果能廣為取材  
一律堅實則屹然壁立自較包土為優儻本地  
所產石料有限取材碎小石性又不堅凝則以  
石傳土轉不若以土傳土之較為連屬穩固此  
又在因地制宜未便膠執成見強為比附今泗  
水嘉祥及莒州等城身裏外皮所包灰土如果  
攪和得法打築堅實與中心素土一手做成土  
性膠粘自可連合為一較之於素土上貼砌碎  
石及純用素土者似轉覺包築渾成可資經久  
但德成既有此奏其山東省現在修理城垣是  
否必須如德成所奏分別改築抑或該撫現在  
所辦工程實係就該處地方情形酌量辦理可  
毋須另議更張之處應仍令惠齡詳晰查明如  
現辦工程實係因地制宜足資鞏固即將估辦  
緣由據實聲明具奏儻有仍應酌加更改如德  
成所奏之處亦令據實奏明妥為酌辦現在該  
省初限城工業已屆竣自未便另議更張致滋  
糜費所有二三兩限城工應令該撫酌量辦理  
據實具奏所有臣等酌議緣由謹繕摺具

奏伏祈  
皇上訓示遵行謹

奏

乾隆五十六年八月二十八日奉  
旨依議欽此

1027 大學士伯和 字寄

雲南巡撫譚 乾隆五十六年八月二十八日  
奉

上諭刑部進呈雲南秋審黃冊內該撫原定緩決經  
刑部改入情實者共有三起一起絞犯可儒因王  
發玉向王老溫爭鬧上前解勸被王發玉戳傷該  
犯即奪刀砍傷王發玉身死其同案之張瑋砍斃  
王老溫已入情實可儒雖非同場共毆究係各斃  
一命一起絞犯白七五因與楊李氏之妹李保姐  
有姦令其唱歌不理取用掌毆經李氏持棍向毆  
該犯奪棍戳傷李氏殞命衅起因姦逞忿毆斃婦  
女一起絞犯鄭起鶴因與楊連賭博經楊連之嫂

萬氏前往詈罵互相爭毆該犯連毆萬氏斃命賭  
匪逞兇毆斃理斤之婦以上三起聞其情節均無  
可緩之理刑部改入情實俱屬允當秋審大典理  
宜悉心斟酌核實辦理乃譚尚忠率行擬緩殊屬  
寬縱譚尚忠著傳旨申飭將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1028 臣等將

發下記名副將胡琰劉允桂張士儒張錫謨四員各  
該督撫保列幾等之處查兵部茲據覆到胡  
琰劉允桂張錫謨三員俱列為二等其張士儒  
一員係列為三等均非保列一等之員所有各  
該員

記名之處謹遵

旨將原片撤下又據兵部將各省保列一等副將名  
單履歷開送前來臣等詳加檢閱內已經引

見者四員未經引

見者共三十七員臣等酌擬將已經引

見准列一等人員開列該員名單履歷恭呈

御覽預備

簡用其未經引

見者即由軍機處存記俟各該員陸續到京引

見奉

旨准列一等後臣等即隨時開具名單履歷送進備

簡再查前日補授定海鎮總兵胡琰臣等因該員原

列幾等尚須查核是以未經發抄今該員既列

二等似未便即授總兵所有定海鎮總兵一缺

臣等謹擬寫空名

諭旨進

呈伏候

簡用謹

奏

八月二十九日

馬

馬 瑀山西武進士年五十五歲現任巡捕中  
營副將經大學士伯和坤以該員人本  
得操防嚴肅語練營伍保列一等於本  
年四月三十日引

見奉  
旨准其一等註冊

皂君保

正紅旗滿洲年四十七歲現任直隸河  
北協副將經直隸總督梁肯堂以該員  
年壯才長語練營伍保列一等於本年  
五月十三日引

見奉  
旨准其一等註冊

德

齡 鑲白旗滿洲年四十四歲現任直隸山  
東協副將經直隸總督梁肯堂以該員  
明白幹練才具俱優保列一等於本年  
五月十三日引

見奉  
旨准其一等註冊

海通保

鑲黃旗滿洲年五十二歲現任西安軍  
標副將經西安將軍恒秀以該員年壯  
技優打仗帶傷語練營伍老成勤慎保  
列一等於本年七月初六日引

見奉  
旨准其一等註冊

八月二十九日

1029 乾隆五十六年八月二十九日內閣奉

上諭浙江定海鎮總兵員缺著馬瑀補授欽此

1030 乾隆五十六年八月二十九日奉

旨雷輪方春澍邢璵李興邦俱著准其馳封該部知  
道摺併發欽此

1031 大學士伯和 字寄

四川總督鄂 乾隆五十六年八月三十日奉  
 上諭刑部進呈四川省秋審黃冊由緩決改入情實  
 者共有五起內惟文思鏡一犯因伊父與陳黃氏  
 通姦致其母自縊殞命該犯將陳黃氏砍斃究係  
 痛母情切激於義忿與逞兇謀命者有間勾到時  
 尚可免其勾決其餘四起一係呂池陽因伊兄呂  
 經陽與張壁建爭毆被張壁建用刀戳傷該犯見  
 兄受虧拾石擲傷張壁建殞命其同案之陳文富  
 戳斃呂紹陽已入情實呂池陽雖情切護兄傷由  
 擲中究係共毆各斃一命一係楊添順因袁范年  
 見伊為雇主黃登幅牧牛欲牽牛抵欠黃登幅求  
 其寬緩袁范年不允用刀向戳楊添順將刀奪獲  
 被袁范年嚷罵蹬踢該犯用刀格傷殞命逞兇刃  
 殺傷重近故一係張爵樹因令兄妻馮氏赴田收  
 割不允斥其懶惰即被詈罵該犯回罵被毆用刀  
 格傷馮氏殞命細故逞忿刃砍兄妻立斃一起向  
 行忠因見年甫十四之何其榮挖放堰水戲言被

罵互相爭毆向珩忠連毆何其榮越三日殞命叠  
 毆傷多致斃幼孩以上四起核其情節均無可緩  
 之理刑部改入情實俱屬允當鄂輝身任總督辦  
 理秋讞大典並未留心確核臬司聞嘉言於秋審  
 案件尤其專責乃竟率行擬緩殊屬寬縱鄂輝聞  
 嘉言俱著傳旨申飭將此遇便傳諭知之欽此遵  
 旨寄信前來

1032 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年九月初一日奉  
 上諭據吉慶奏審擬申遜呈控下碗欺孤吞產一案  
 已批交該部議奏案內有申希堯一犯係申遜遠  
 族唆使申遜控經該地方官審無憑據批駁責  
 懲申希堯復唆使申遜潛赴京師具控審訊時匿  
 不到案該犯屢次唆訟滋生事端及提訊人証又  
 復潛行逃匿甚為可惡著傳諭惠齡嚴飭地方官  
 即速查拏務獲按律治罪毋任漏網將此諭令知  
 之欽此遵  
 旨寄信前來

1033 乾隆五十六年九月初一日奉

旨這所叅懷慶府清化鎮通判王增著革職交該撫  
提同案內人証一併研審定擬具奏該部知道摺  
併發欽此

1034 乾隆五十六年九月初二日奉

旨楊拜颺梁士朝徐招黃朝用何國斌陳金均著准  
其貶封該部知道摺併發欽此

1035 查廣東洋行商人吳昭平拖欠夷商銀兩一案

於本年四月內經福康安等審明具奏將吳昭  
平問擬軍罪從重發往伊犁當差謹

奏

九月初二日

1036 遵

旨將乾隆五十四年秋審服制攸關人犯共若干起  
是年勾決若干未勾若干交查刑部茲據查覆

五十四年服制情實十三起人犯十三名勾決  
二名未勾十一名其餘年分勾決一二名及未  
勾不等謹

奏

九月初二日

1037 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 廣東巡撫郭

乾隆五十六年九月初二日奉

上諭向來福建民風好鬪往往以小嫌逞忿致成械  
鬪之案最為惡習節經嚴加懲創本日閱廣東招  
冊該省亦頗有械鬪案件尚較閩省為多此風斷  
不可長不可不防微杜漸以儆兇悍而靖地方又  
廣東審辦命案內往往有將旁人謀害以圖傾陷  
訛詐者其風尤為克頑可惡在愚民無知止圖洩  
忿詐財以為得計不知一經官為審訊即時敗露  
或為被詐之人拏獲訴理所謀者未中於法而先  
自罹於抵命是欲害人而轉以自害尤須明白曉

示嚴行禁止庶足以保全民命安輯閭閻著傳諭  
福康安郭世勳嚴飭地方文武各員將械關謀命  
之案不時留心稽察實力化導庶此風漸戢免罹  
法網以副誨誨教誡至意將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1038 大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 乾隆五十六年九月初二日奉  
上諭勒保覆奏劉照魁上年領票出口肅州知州涂  
躍龍輒據店戶保結混行給票現將涂躍龍革職  
解送刑部並自請交部嚴加議處一摺已交該部  
矣此案劉照魁前經軍機大臣審訊業據該犯供  
明係假認王子重親戚央該處店戶在肅州起票  
今勒保查詢該州涂躍龍又稱上年六月有高登  
科劉照魁等共四人前往西安傭工經店戶王謙  
益具保給票與劉照魁所供不符自係涂躍龍恐  
縱令邪教案犯親戚出口其咎更重而朦混請票  
不過失察是以避重就輕藉辭推卸現在涂躍龍  
業已解京自可與劉照魁質訊其一同起票之高

登科已據勒保查拏該犯到案後更無難究訊得  
實勒保不可因屬員搪塞之辭稍存憚忤了事之  
見也將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1039

辦理軍機處 為知照事所有喀什噶爾解送  
刑部之邪教遣犯王子重一名由甘肅陝西山  
西直隸行走該犯係八卦邪教案內要犯解送  
過境時務飭地方官添派員弁兵役小心防範  
迅速行走并飭該委員等尤當慎密管解毋致  
稍有疎虞致干咎戾特此知會  
貴督查照辦理並即轉咨陝西山西直隸各督  
撫一體遵照可也須至知照者  
右 咨

陝甘總督  
乾隆五十六年九月初二日

1040 乾隆五十六年九月初三日內閣奉

上諭諾穆親著調補理藩院侍郎其戶部左侍郎員缺著吉慶調補欽此

1041 乾隆五十六年九月初三日奉

旨這所叅遊擊周一雷千總張兆鯤著革職交與該督提同案內人犯一併嚴審定擬具奏欽此

1042 查緩決人犯向來題本內俱不開載原題年月

今陝西省王聰文一犯遵

旨歸入情實冊內辦理應交在京刑部查明原題年

月補繕黃冊再行進

呈謹

奏

九月初三日

1043 乾隆五十六年九月初三日奉

旨此案著交戶部刑部提集人証秉公質審具奏欽此

1044 乾隆五十六年九月初三日奉

旨林博鍾哲鍾珍蔡胡俱著即處斬餘依議欽此

臺灣

1045 乾隆五十六年九月初三日內閣奉

上諭奎林等奏拏獲洋盜審明正法一案摺內稱盜犯蔡允等駕船行劫遭風漂至淡水廳竹塹港外洋面經淡水同知袁秉義竹塹守備林登雲派撥兵役往查即將盜犯蔡允等十二名拏獲現查明出力兵役按名獎賞等語淡水洋面有盜船漂至該同知守備一聞口汛稟報即撥兵役出港查拏當獲首夥盜犯十二名尚屬留心緝捕除出力兵役等業經奎林等獎賞外袁秉義林登雲均著交部議叙以示獎勵欽此

1046 乾隆五十六年九月初三日奉

旨李公勳著即處斬楊俸虎依擬應絞著監候秋後處決餘依議欽此

刑部審擬四川省李公勳妒姦與楊俸虎謀死石玉秀一案

1047 旨會同 臣等遵

行在刑部堂官詳查福建省秋審情實人犯黃冊

內天地會聽糾入夥之犯共二起九名械鬥傷

人之犯共二起三名在臺灣犯事問擬死罪人

犯共三起三名均係應行勾決之犯謹擬寫寄

信伍拉納等

諭旨令將該犯等即行處決福建省

勾到時於黃冊內粘貼黃簽註明已經正法字樣並

令內閣學士毋庸念名俟

發下勾到本後一併予勾列入榜示謹

奏

九月初三日

1048 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 乾隆五十六年九月初三日奉

上諭現在刑部進呈福建省秋審情實人犯黃冊各案內如林三元曹慶藍漢廖的石講陳贊陳湧林紅記洪月等九犯係天地會聽糾入夥匪黨曹雍丁遂黃治三犯係械鬥案內聽糾助毆傷人之犯王水林旋璣吳真三犯係在臺灣犯事問擬死罪此等人犯均屬法無可赦勾到時自應即予勾決但福建省勾到之期尚早若俟刑部行文辦理有需時日該犯多人羈禁囹圄自知罪在不赦或致別生事端殊覺不成事體著傳諭伍拉納等接奉此旨即將林三元曹慶藍漢廖的石講陳贊陳湧林紅記洪月曹雍丁遂黃治王水林旋璣吳真十五犯提出先行處決除就近諭知刑部外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來



1049 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十六年九月初四日奉

上諭刑部進呈陝西省秋審情實黃冊內蒙古旺楚克毆傷瑪寨身死一案叙述該管員外郎原報有管理蒙民字樣率意減省轉至不成文理從前各省章奏於滿洲蒙古等字有摘用滿蒙<sup>及蒙民</sup>二字者屢

硃  
經降旨飭諭令駐劄寧夏員外郎係管理蒙古民人交涉事務乃刑部輒將蒙民字樣叙入冊內並不留心檢點殊屬疎忽刑部堂官著傳旨申飭除將黃冊改正外將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1050 乾隆五十六年九月初五日內閣奉

上諭朕披閱刑部進呈甘肅省秋審黃冊內絞犯林中萃逼斃李仲娃子等二命一案閱其情節李仲娃子李進玉兒之父李鴻在日曾典林中萃故父房屋居住並托林中萃代為完納房地糧錢李鴻故後伊妻韋氏因李仲娃子弟兄年幼央林中萃

管束並照看家務迨李仲娃子年長自理家務韋氏邀林中萃到家查檢賬目林中萃輒將典房原契竊取燒燬與圖白索原業免還典價後韋氏身故林中萃欺李仲娃子等懦弱欲行索房先借地糧名色向李仲娃子預支十年糧錢肆行辱鬧嗣復逼騰房屋李仲娃子以係典業與之分辯林中萃即向李仲娃子索取憑據並以若無契紙即行逐出之言恐嚇李仲娃子弟兄查檢原契無獲慮被再鬧俱即投縲殞命此案林中萃與李鴻素相交好是以李鴻故後伊妻韋氏即托其管束幼子照看家務林中萃受其付托自應憐憫孤寡顧念交情為之盡心經理於情義庶為允協乃竟存心吞霸見李仲娃子年長自管家務輒乘查點賬目之時竊回典契燒燬滅蹟迨韋氏病故復欺伊子懦弱借端向索糧錢逼騰房屋李仲娃子與之分辯林中萃明知契已竊回轉向詐索憑據逐令出房以致李仲娃子李進玉兒情迫勢窘均即自縊是林中萃倚仗曾經代理家務有意欺凌挾制窘

辱慘斃二命絕人子嗣種種狡詐克殘無復人理該督審明定擬時即應將林中革請旨即行正法乃僅問擬絞候歸入情實致使該犯得以稽誅年餘辦理殊屬輕縱勒保著嚴行申飭並著接奉此旨後將林中革即行正法至林中革霸產欺孤情理滅絕伊名下所有產業自不便令其子孫坐享李仲娃子年已十九曾娶妻生子著該督查明如李仲娃子已有子嗣不但李鴻產業應歸管理即林中革所有產業亦著給予李仲娃之子一併管業若李仲娃子並無子嗣亦應查明李鴻之近支親屬將李鴻及林中革產業一併分給承管以為欺孤絕嗣者戒至林中革逼斃一家二命絕人子嗣僅將該犯抵法不足蔽辜並令該撫查明林中革子嗣內再將一人擬絞監候入於情實俟明年勾到時再行酌量降旨欽此

1051 大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 西寧辦事大臣奎 乾隆五十六年九月初五日奉

四五四

上諭勒保等奏青海蒙古勾通番子搶殺審明正法及會議循化貴德兩屬番子歸併西寧辦事大臣管理二摺所辦尚好已於摺內批示並降清字諭旨令奎舒將納漢達爾濟嚴行飭諭矣此案合納拉杭等勾通搶劫緣由札什一經到案即行供吐實情將首從多人供出得以按名緝獲及審訊合納拉杭各犯時均各狡展不認復經札什當堂指証無從抵賴始各供認不諱是案內首夥各犯若非札什供指明確幾致克徒漏網該犯聽從合納拉杭同行為從雖有應得之罪但念其到案供明指証各犯尚屬畏法所有該督問擬札什斬候之處著即加恩寬免現在案內未獲番賊尚多若須札什質對仍著暫留備質將來無須質証之時即將札什釋回俾番眾等咸知感勵遇有此等案件不肯互相容隱庶正犯得以速獲不致稽誅漏網其案內逸犯蒙古番子等據札什供出尚有二十餘人並著勒保等嚴飭該管各官及納漢達爾濟一體嚴拏務獲從重治罪至青海等番子相隔遙遠本不便交地方官管理向來由西寧報明內地

輟轉緝拏實有鞭長莫及之勢今勒保等遵旨議令歸併西寧辦事大臣就近管理遇有搶掠案件查緝要犯呼應較靈辦理自為便捷除將所議章程交軍機大臣議奏外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1052 臣等將道旁叩

閻之民婦李黃氏嚴加訊問據供係河南祥符縣人因於乾隆五十一年冬間帶同伊十四歲幼女出外求乞被李六牛誘至陽武縣民人孫老三家將伊女拐賣與宋大妯家為娼嗣有營兵馬金忠因在宋大妯家姦宿被毆挾嫌向伊告知伊女被逼為娼情由伊在陽武縣輝縣先後控告俱未審理復赴該撫衙門喊控批發祥符縣究訊該縣將伊遞回陽武縣關提宋大妯馬金忠到案審過四次衙役毛四海等教令宋大妯捏供伊女已賣給山西民人後經身死致關查無著案延不結伊因情急隨來

行在叩

閻等語臣等以該氏係屬婦女由河南至熱河千有餘里豈能獨自一人行走又何由認得熱河道路必有主唆同來之人且據該氏供出有營兵馬金忠因宿姦被毆將伊女被賣下落向伊告知疊經指控自係馬金忠挾嫌指引前來控告復向究詰雖據該氏堅供實係伊一人沿途探聽道路前來並沒主唆同行之人但係一面之詞所供究不足信既據供稱在該省節控有案該地方官因何延擱不結事關賣良為娼及官役教供朦蔽各情均須跟究明確應將李黃氏嚴加鎖鑰或仍交解該撫秉公研訊或欽派大臣審訊確情實則從重究辦虛則照衝突儀仗例定擬具奏謹

九月初五日

李黃氏供年六十二歲我係河南開封府祥符縣民人李有基之妻有子丑兒女兒龍姐今年二十歲了我男人於乾隆四十四年間與我口角兒子丑兒解勸男人將兒子責打我兒子旋即逃走男人生氣亦出外不歸我男人併兒子俱不知去向因我娘家原是延津縣人帶同女兒至延津縣準提巷內與尼僧証空同住帶髮修行至五十一年十一月因在巷窮苦帶同女兒出外討乞在路拾柴烤火有素不認識的李六牛在彼與我說話他說陽武縣所屬的古倫集地方有飯廠叫我到彼討乞我就跟着李六牛一同到彼討飯晚上沒處容身李六牛領我同女兒到他相識的孫老三家借住孫老三留我在堂屋居住叫我女兒在廂屋裡同他女兒住宿第二日早我不見女兒孫老三併他兒子孫小三孫二小亦不見面我向他女兒查問他說不知道我在各處找尋無著到五十二年夏間我因女兒不見想是李六牛串同孫老三拐賣去了我就在陽武縣將李六牛孫老三父子

一併呈告縣裡沒有批發我只得仍往各處找尋到五十三年尋至輝縣地方有營兵們在那裡嚷說他夥伴馬金忠在娼婦宋大妞家嫖宿倒被娼家打了並聽見馬金忠說娼家將好人家女兒李龍姐吊拷的話我因他說著我女兒就上前詢問他說的年紀麼樣的是我的女兒併說我女兒曾對他說過被古倫集孫姓拐賣為娼現在受苦求他到延津縣準提巷向我告知控告我聽了這話就在輝縣喊冤縣官叫我補呈那裡代書不肯替我寫呈我無奈即刻到開封府省城見巡撫出門時在道旁喊告巡撫將我發到祥符縣祥符縣又把我遞解到陽武縣陽武縣將宋大妞馬金忠關提到案審過四次總沒將女兒斷給我後來縣裡衙役崔把忠告訴我說你還要想你女兒麼衙役王五毛四海兩個作弊與宋大妞們串通捏供說你女兒已經轉賣給山西太谷縣人後經身死那裡關查得來呢我等了幾時總沒審結衙役已將宋大妞馬金忠放回我因宋大妞捏供不肯還我

女兒本地地方官不能替我伸冤就想到

萬歲爺跟前訴冤於五十六年二月初四日從準提  
菴起身求乞進京在路上煩了一個不識姓名  
過路的人寫了一張狀子帶了幾件衣服行至  
定州我因帶著衣包行走吃力雇一過路人替  
我擎著不料被他拐著逃走連包內杖子一併  
失去我於七月間進京聞得

萬歲爺到熱河就打聽熱河道路於八月二十日走  
到這裡等候

萬歲爺來叩

聞的所供是實

九月初五日

1053 奉

旨此案著交穆和蘭秉公審訊具奏所有原告李黃  
氏著該部照例解往欽此

1054 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年九月初六日奉  
上諭昨有道傍叩聞民婦李黃氏交軍機大臣審訊  
據李黃氏供稱伊女龍姐被李六牛誘至陽武縣  
民人孫老三拐賣為娼曾在陽武縣輝縣先後  
控告俱未審理復赴該撫衙門喊控批發祥符縣  
究訊將伊遞回陽武差役教串捏供案延不結等  
語李黃氏之女被人拐賣為娼節控有案該地方  
官因何延擱不辦任聽差役教供朦蔽均須澈底  
跟究但案內情節尚非重大不值特派大臣前往  
著將李黃氏解回豫省交穆和蘭提集犯証嚴審  
具奏此案曾在該撫衙門喊控發交首縣未經辦  
結已屬不合茲復發交該撫審訊務須親提認真  
究訊吊查案卷據實辦理不得仍交府縣致滋迴  
護干咎將此諭令知之並將訊取供詞發交穆和  
蘭閱看欽此遵

旨寄信前來

1055 乾隆五十六年九月初五日內閣奉

上諭據富綱等奏廣南府知府宋成綏患病難以就  
痊請將該員勒休等語宋成綏著即勒令休致所  
遺員缺著該督等照例揀員調補該部知道欽此

1056 查宋成綏係宋邦綏親弟謹

奏

1057 乾隆五十六年九月初五日奉

旨這所參長泰縣知縣周毓呢著革職交該督撫提  
同案內人証一併嚴審定擬具奏該部知道摺併  
發欽此

1058 同日奉

旨這所參署長樂令之福清場鹽大使王佑郊著革  
職交該督撫提同案內犯証一併嚴審定擬具奏  
該部知道摺併發欽此

1059 同日奉

旨這所參檢驗不實之署平原令平原縣縣丞王達  
源著革職交該督撫提同案內人証嚴審定擬具奏  
其協同檢驗之博山縣知縣趙大桂亦著交部議  
處該部知道摺併發欽此

1060 查張姚成奏請

馳封外祖父母之處係屬合例臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

九月初五日

1061 乾隆五十六年九月初五日奉

旨張姚成准其馳封該部知道摺併發欽此

1062 乾隆五十六年九月初五日奉

旨黃循漏著即處絞餘依議欽此

閩省續獲逸盜究出曾入天地會邪教人犯

1063 乾隆五十六年九月初五日奉

上諭富綱等奏順寧府困牛寨民周士賢被擄黑夷人波林等搜劫經緬寧汛外委楊美枝帶同兵丁王亮袁廷受追捕該犯等拒捕楊美枝王亮袁廷受俱受重傷身故請照例恤賞等語外委楊美枝兵丁王亮袁廷受巡查塘卡追捕賊匪受傷身死俱著照陣亡例分別恤賞該部知道摺併發欽此

1064 遵

旨將佛住秀林奏到訊問新疆邪教遣犯供詞內有應該劉照魁之處提出該犯擰耳跪鍊加以刑夾逐一嚴訊又將勒保奏到劉照魁出口情節與該犯原供不符之處一併訊問所有劉照魁

在阿克蘇地方給與各遣犯小帖並自行許給全仕名號等情均據該犯供認不諱其在庫車地方除代王子重許給毛有倫全仕名號外其餘寄帶家信之各遣犯劉照魁有無虛給名號及經過新疆各處有無輾轉傳教受徒之處反覆刑訊該犯堅稱除供出各犯外實無另有給號傳教之人臣等查對佛住秀林原摺供情尚屬符合其肅州起票一節該犯堅供係托店家請票並未到過知州衙門其同行住店之高登科已據勒保奏稱現在查拏嚴訊應俟肅州知州解到後一併嚴行質訊自可得實謹將訊取供詞呈

覽謹  
奏

九月初五日

1065

辦理軍機處為飛咨事本處提訊劉照魁供內  
有托店家起票一節奉

旨著勒保將店家即行解京一併質訊欽此為此飛

咨

貴督接到咨行後即將劉照魁所供店家委員

迅即解京以憑質訊毋致遲延須至咨者

右

陝甘總督

九月初五日

1066  
遵

旨查福康安奏到兩次前往廣東探望步文斌之張

正魯一犯臣等檢查穆和蘭前奏摺內訊據該

犯供稱四十八年為步文斌之妻步蕭氏赴廣

東看過步文斌一次此係在劉照魁未到廣東

之先該犯又於五十五年十月送步文斌之子

步大斤至廣東看視步文斌留住兩月有餘並

步蕭氏囑其詢問步文斌果否認劉照魁為義

四六〇

行在質訊謹

奏

子緣由此係在劉照魁到廣東之後兩次年月  
核與福康安所奏相符其張正魯前往廣東探  
望步文斌俱係步文斌之妻步蕭氏指使前往  
該犯並未到過喀什噶爾現將張正魯一犯寄  
信刑部並飛咨經過沿途地方令於該犯解到  
時即速押解逕赴

九月初六日

1067

大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 乾隆五十六年

九月初六日奉

上諭據福康安奏提訊八卦教匪步文斌究出該犯

在配勾誘各軍犯傳徒習教並張正魯等代為往

來寄信等情復飛咨陳用敷嚴訊劉書芳在廣西

配所如何傳教收徒各情節咨覆辦理一摺步文

斌劉書房二犯前經降旨令福康安等嚴切究訊

如案內無須該犯等質對之處即在該處正法今



據福康安奏究出步文斌在配仍與各軍犯輾轉誘惑並與王子重往來遞信討求封號情節甚為可惡將來尚應與王子重劉照魁質訊以憑嚴切跟究著傳諭福康安即將步文斌同劉書芳一併派委委員迅速解京沿途務須小心押解毋稍疎虞將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1068

辦理軍機處為知照事查河南省委員押解八卦邪教案內張魯李正二犯現在奉

旨迅速押解前赴行在審訊欽此特此知會

貴督查照即速飭令沿途地方官添派員弁兵役

小心防範迅速行走逕行解赴

行在以憑審訊毋得遲悞須至知會者

右 咨

直隸總督

九月初六日

1069

昨據江蘇委員將八卦邪教案內之楊進郭振孫忝然劉效先劉二五犯解到臣等親提逐加刑訊其楊進一犯係已故高志遠收入教內郭振一犯係已故陳柱收入教內高志遠陳柱俱係王中之徒孫忝然劉效先劉二三犯俱係郭振等轉收入教之人該犯等受教收徒俱已訊明供認惟查劉照魁所供五十四年冬間在王袁氏家聽見楊武郭信向王膺元兒說段文經逃往海邊等語與現在解到之楊進郭振二犯名姓不符臣等再四研訊據該犯等所供五十三四兩年同住王袁氏家看望送給銀米核之劉照魁所供年月俱屬符合隨提王袁氏王膺元兒令與質認俱供兩次到伊家內委係此二人屬實復提劉照魁詰訊據供那年在王袁氏家內本未與二人見面止係王袁氏告知係沛縣人楊姓郭姓其名字原本記不甚清等供是楊進郭振即係在王袁氏家與王膺元兒叙談之人臣等隨將段文經踪跡向該二犯嚴切究

問該犯等堅供段文經逃往海邊的話約摸記得係王鵬元兒向伊等提及曾經跟過官府緝拏段文經的事該犯等隨口答應實在不知下落至登州有段文經徒弟一語該二犯並未說過反覆嚴鞫加以刑夾堅供如前復親提王鵬元兒當面質對據王鵬元兒供在王袁氏家裡因楊進們問其作何生理原將跟過趙老爺緝拏段文經的事告訴過他他說段文經只怕逃往海邊去了原是隨口的話這是有其登州有段文經徒弟的話我並不曾聽見又提訊劉照魁據供此語實因在西安受刑不過隨口混供前蒙嚴訊已經據實供過臣等查對惠齡奏到摺內查明五十三年有新城縣教諭趙錫蒲曾經奉委緝拏段文經有案是王鵬元兒所供尚非捏飾其劉照魁在西安所供王鵬元兒等說過段文經恐怕逃往海邊之語自非無因至登州有段文經徒弟一節似未足憑信謹錄取各犯供詞恭呈

御覽謹

奏

楊進供年七十一歲係沛縣高家坊人父母早沒了有兩個哥子妻姚氏亦俱亡故並無兒女二十六年有山東人高志遠係王中的徒弟因到沛縣販賣布疋彼此認識間中談起他教中的好處說入了他的教可以消災獲福每年只要隨各人情願出錢幾百文交給傳教師父收存彙總送與掌教的人點香上供教內有全仕有流水年分久了就可做得流水收得徒弟他師父王中在荷澤縣沙土集居住係震教內長教在教多年狠有勸我入他的教我當時聽信就拜高志遠為師王中家內我從前不曾去過就是他的兒子王子重也素不認識直到四十五年上王子重到沛縣販賣醃魚高志遠領了我見了一次後來高志遠在沛縣病故我已做教內流水就接著管事因高志遠在日有陸續收下的香錢及賣布剩下的錢文都該送給掌教的師父收用五十三年春間我與同教郭振將收下錢文兌銀六兩一錢送到王子重家

內去那日王子重不在家裡我就將銀交給他  
姪兒王鵬元兒收去五十四年十月我又同了  
郭振併郭振的徒弟孫忝然帶了十二兩四錢  
銀子六簍酒兩包蝦米去過一次看見王子重  
的母親王袁氏就把銀子交給收去因他說起  
丈夫王中已經正法王子重也為行教充發口  
外我聽了害怕就與郭振商量止將兩包蝦米  
一簍酒送了王袁氏餘下的五簍酒就與郭振  
仍賣錢販了棉花次日即同回沛縣那日在他  
家裡止有王鵬元兒與我們在屋裡說了一會  
閒話並沒曾見有別人我收的徒弟叫韓元興  
陳林李正幅陳籠宜都是沛縣人這四人內韓  
元興陳籠宜已被官府拏了陳林李正幅早已  
身故此外並無別的徒弟是實

\*

郭振供我係沛縣舊城人年六十歲父母俱故並  
無兄弟止有妻子曹氏也沒兒女我向來在家  
做些小經紀度日並不曉得磕頭念誦的事四  
十三年上我有表兄陳柱向我說起他是八卦  
震教教內理條都是勸人行好的話若習了他  
的教可以獲福免禍諸事順利現在教內係王  
中的徒弟高志遠管事有全任傳仕的名目每  
年只要出錢三四百文就可入教做了全仕并  
他可轉收徒弟我聽了他的話就認他做了師  
父他叫我每日向了太陽磕頭三遍口中念誦  
孝順父母尊敬長上和睦鄉里不瞞心不昧已  
的話後來遇見高志遠他就許我做全仕我收  
過孫忝然為徒每年收他三百錢都交與高志  
遠收管高志遠死了就是楊進接手管事五十  
三年楊進同我到山東河澤縣王子重家中去  
過一次五十四年又同我與孫忝然去過一次  
兩次送過他銀子并沛酒蝦米這都是楊進把  
收存教內的香錢免銀送給的五十四年這一  
次我與楊進們到王子重家中去聽見王袁氏

說他丈夫兒子都為行教問了重罪楊進就對我說我們入教原想有些好處如今他家都問了重罪還有何好處就將帶去的沛酒留下了四篋賣了錢買了棉花帶回沛縣給我與孫忝然及孫忝然的徒弟劉效先四人分用此後我就沒曾習他的教也不曾傳過別的徒弟我的表兄陳柱早已身故所供是實

\*  
孫忝然供年五十二歲沛縣劉家堤口人父母俱故家中止有妻子孟氏兒子孫玉現年十八歲我於四十三年上同縣人郭振勸我入教每年送他錢三百文後來我收了一個徒弟係同村的劉效先每年出錢四百文交給我轉交郭振聽見郭振說這項錢他彙總了都送與管事的

高志遠收去四十九年高志遠死了就交他同教楊進收管到五十四年郭振與我說山東荷澤縣王子重係掌震卦教王中的兒子叫我同了楊進去看望過他一次我到他家裡只見過

王袁氏並不曾見過王子重此後並沒曾去過是實

\*  
詰問楊進郭振你們五十四年冬間到王袁氏家裡曾向王騰元兒說過段文經的話段文經與王子重同係震卦教你們都是教內的人自必知段文經信息那日與王騰元兒如何說的山東地方何處有段文經徒弟你們傳教往來必定知道快快從實供來免受刑法

據供我們雖是震卦教都是高志遠陳柱傳授的素常並不曾與王子重認識因高志遠係王中的徒弟告訴我們說王中是震卦掌教各人收的香錢都要送給掌教師父收過高志遠在日我們的香錢都交與高志遠後來他死了我們接著管事餘下香錢沒處交付才兌了銀子送到王子重家內去的王子重與小的楊進只見過一次小的郭振並不曾與他見面他同教的

段文經我們越發不知道了小的楊進向在本村開個飯鋪小的郭進係在本地做燒酒匠人只到過山東兩次並未往來傳教段文經係直隸人離我們沛縣更遠實不曉得他們的下落并他的徒弟是何人五十四年我們在王袁氏家裡記得王騰元兒曾向我們提過段文經的話也記不真了只求問王騰元兒就是恩典

夾訊楊進郭振你們在王袁氏家告訴王騰元兒說段文經逃往海邊並登州有段文經徒弟的話不但王騰元兒已經供明還有劉照魁在他家中聽見如今就要質對你們如何還敢狡賴明係你們護著同教替他隱瞞若再不據實供出還要受各種重刑你何苦替人受罪快快從實說來

據供段文經在大名府關了事我們沛縣地方都張掛圖形懸賞查拏十分緊急這事我們知道的我們與段文經從不認識如果曉得他的踪跡那時在縣裡首明還可得賞如何肯替他瞞隱況我在王袁氏家與王騰元兒止見過兩次

並非交好那時因聽見王袁氏說王中父子都為行教問罪我們就灰了心十分害怕就是我們教內的事都不敢提起何況這段文經的話如何敢向王騰元兒亂說只記得王騰元兒曾向我們說起從前跟人拏過段文經我們信口答應是有的至登州地方有段文經徒弟的話實在一些影兒也沒有就是夾死了也不敢亂供只求與王騰元兒質對若果向他說過這話情甘處死那劉照魁我們從來不曾見過他這也可以質對的現在受這樣重刑如何還肯代人隱瞞自己受罪求開恩隨提王騰元兒與楊進郭振當面質對據王騰元兒供上年在王袁氏家楊進們問我作何生理我原把跟隨趙老爺拏過段文經的話向楊進們說過他說段文經只怕逃往海邊去了這話是有的至登州有段文經徒弟的話實沒曾聽見他說過又提劉照魁令與楊進郭振質認據劉照魁供上年冬間在王袁氏家裡我在院子內與王袁氏說了幾句話並不曾進屋裡去這楊進們實不認識

那日我只聽見王騰元兒在屋子裡說著有段文經的話原聽得不真後來在西安官府向我追問必要我供出段文經下落我實在受刑不過只得隨口混供曾聽見他們說登州有段文經徒弟的話只求詳察復將各犯嚴行夾訊并捉孫忝然反復究詰堅供如一

又詰問楊進郭振現在起出王子重書信內有寄楊郭劉一信說他發配西邊一路盤費盡是東南良糧可見你們必是良卦教內的人良卦掌教係屬何人如何傳授劉姓又屬何人一據實供來

據供我們沛縣地方都是高志遠在那里收徒傳教高志遠係王中徒弟一向只知道他是震卦教下人後來高志遠死了就是我二人管理教事我們收的徒弟俱已逐一供出此外並不知有良教名目我們收存教內的香錢向俱交給高志遠轉送掌教自我二人接手管理也因王子重係震卦掌教所以將銀米送到他家中若我們另係良卦教那王子重就不是同教了如

何肯將香錢銀米送給他求詳情我們教內有劉效先劉二兩人劉效先是孫忝然徒弟劉二係蘓五的徒弟俱是我們同教的人都已據實供出實無另有良教是實

劉效先供我是沛縣劉家堤口人年五十歲父親名叫劉有年現年八十五歲母親已故妻程氏沒有兒女也沒兄弟我向來種地過日四十四年上孫忝然勸我入教說可以消災得福我就信了他的話拜他為師每年出香錢四百文四十五年上我收了一個徒弟蘓五他每年也給我四百錢這些香錢都歸總交給孫忝然轉送掌教的到了五十四年孫忝然對我說同教的楊進郭振從山東回來說掌教王中連他的兒子王子重都問了罪看來這教沒甚好處給了我五十斤棉花叫我不要再習這教了我聽了這話心裡害怕就再不敢磕頭念誦那王子重我止聽見孫忝然說過他的名字並沒見過面

劉照魁我從不認識實沒有往來寄信的事我收的徒弟止有蘓五已被官府拏去了所供是實

\* 劉二供我是銅山縣敬安集人年二十七歲父親劉得現存母親已沒了並無兄弟妻小我做鞋匠生理五十一年上曾拜蘓五為師給過他一百五十錢我因家裡窮苦見這教也沒好處到了五十三年就出錢與他們也不習學這教了與王子重劉照魁都不認得也沒曾收過徒弟是實

1070  
臣等前日寄信刑部令將河南省拏解邪教案內張魯即張正魯一犯如已到京即派員解送行在質審茲據復稱河南省解送邪教案犯係張魯李正二名該犯李正已於八月二十九日押解到部其張魯一犯據該委員稱該犯起解時本患癆症八月十九日解至彰德府城內該犯氣

喘痰湧於是日未時病故經安陽縣知縣親驗屬實取有結報呈驗在案今將李正一犯派員解送

行在候訊等因臣等當即親提嚴加鞠訊該犯係四十七年查辦八卦邪教案內發遣廣東李書之子李忠之弟因五十三年劉照魁送伊父骨殖回家伊兄李忠帶信該犯令其謝給盤費始與劉照魁認識以後並未見過亦未入教核與河南省訊取原供相符臣等復提劉照魁隔別嚴訊供亦脗合其張魯一犯據李正供素不認識現在被拏一同起解聽見差役叫他張正魯等供查該犯並非案內要犯應仍解交刑部歸案辦理謹錄取供詞恭呈

御覽謹奏

\* 李正供我今年二十三歲向住在山東曹縣張家

口地方五十四年八月內因被了水我同母親搬到河南虞城縣顏村寺替人種地度日父親叫李書哥哥叫李忠因犯事發遣廣東我在家中也不曉得我父親存亡信息五十三年九月內有一個不認識的人將我父親骨殖從廣東搬送到家問他說叫劉照魁是我哥哥李忠叫我送來的哥哥有信給我說狠承劉照魁好意叫我幫給他些盤纏我因他把我父親骨殖送來與他磕了幾個頭并送了他大錢六百文留他住了兩日他就去了我父親哥哥犯事發遣時我年纔十四歲並不知道入教的事劉照魁我也只見過他一次以後再沒曾見過並沒有隨他入教今年七月十六日我在河北替范姓種地回家看望母親隣居告知我母親已被縣裡差人拏去我不知為甚麼事次日我趕到縣裡看我母親就被拏住把我解來沒曾與我母親見面我父親哥哥發遣後就是劉照魁帶過

一次信此外並不曾有信來過我哥哥叫劉照魁帶來的信說他在配所衣食不缺叫我母親不用墨念并叫我酬謝劉照魁的話此外並無別的說話我不認得字這信叫街坊做醫生的吳姓念與我聽的原信也被水冲失了那張魯我平素並不認識因被拏到縣裡與他一同起解纔認得的我在路上聽見差役們叫他張正魯別的我都不知道所供是實



1071 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十六年九月初六日奉  
上諭福康安奏訊據高瑋之子高端供稱伊父於乾  
隆五十二年十二月前往寧武府知府胞叔高璣  
任所五十四年四月有山西人張姓為伊大姊做  
媒許配代州崞縣人賈輝為繼室伊父隨於五十  
五年八月自寧武起程回京本年正月到惠州提  
督署內伊父旋即病故等語高瑋自高璣任所回  
京並不呈明本旗私赴粵東在高璣署內逗遛數  
月高璣藉病朦朧咨顯係意存欺隱至高璣身任山  
西知府伊兄高瑋在署就養率與該省紳民交接  
結姻不加阻止尤屬不合除降旨將高璣革職交  
部治罪外著傳諭馮光熊詳悉查明高瑋在寧武  
府逗留三年之久高璣並不呈報高瑋與崞縣人  
試用知縣賈輝結姻高璣因何聽任伊兄與本省  
紳民交結往來不加阻止之處即行面詢高璣據  
實叅奏治罪母任捏飾俟該撫查明奏到後再降  
諭旨原摺並著抄寄閱看欽此遵

旨寄信前來

1072 乾隆五十六年九月初六日內閣奉

上諭前因高瑋私往廣東至伊兄高璣署內高璣並  
不奏明押令回旗又不即行呈報降旨將高璣解  
任來京交部治罪茲據福康安查明高瑋於乾隆  
五十五年自寧武回京在清河暫住適值高璣進  
京曾與相見及高瑋潛往粵省高璣留任署內遲  
延數月始藉稱因病滯留移咨本旗高瑋身故後  
又復匿不具報高璣身為提督大員朦朧欺飾實  
屬有心庇縱高璣著即行革職解交刑部治罪欽  
此

1073 乾隆五十六年九月初六日內閣奉

上諭伍拉納等奏興泉永道胡世銓現在三年期滿應遵旨回籍養親等語胡世銓著准其回籍終養所遺興泉永道員缺著汪如藻補授欽此

1074 同日奉

旨林叅林潤林狗林椿林南狗俱著即處斬餘依議欽此

福建省鹽梟拒捕一案

1075 臣等遵

旨將浙江省緩決本內張二一起竊贓滿貫何以定擬緩決不入情實之處詢問刑部堂官據稱向例竊贓數未逾貫罪止滿流至一百二十兩以上逾貫者始問擬絞罪至辦理秋審時核其情節分別情實緩決如係結夥潛隨行走伺竊客贖或奴僕勾引外人罄竊主財並店家船戶糾竊本店本船客商為害行旅者向皆入於情實其

雖無前項情節而贓數盈千者亦入於情實辦理若僅係尋常偷竊逾貫之案外省問擬絞罪入於緩決者臣部亦照擬入於緩決此案張二行竊事主計贓逾貫依律問擬絞罪但究無前項情節止係尋常偷竊是以外省照例擬緩臣部亦即核覆入緩等語謹

奏

九月初六日

1076 乾隆五十六年九月初六日奉

旨靈速勒策丹扎窩策丹克舒勒察旺布木俱著即處斬餘依議欽此

四川省賊番搶劫熬茶刺麻一案

1077 同日奉

旨將振鼎著即處斬餘依議欽此

福建省賭匪拒捕一案

1078 遵

旨將刑部奏蓋忿自盡已勾單內絞犯賀俊一起係

上年業經處決之犯因何單內仍寫九卿擬入情實字樣詢問刑部堂官據稱賀俊一犯業於

上年奉

旨處決自應於單內將已經勾決字樣註明方可不

至牽混今並未聲叙明晰致與面上開寫不符

實屬疎忽茲蒙

聖明指詢仰見我

皇上披閱秋讞事件鉅細無遺臣等欽佩之下更深

惶悚請將臣等交部議處等語謹

奏

奉

旨著寬免欽此

九月初七日

1079 乾隆五十六年九月初八日內閣奉

上諭本日召見新調貴州按察使顧長紱詢其祖母年已七十九歲伊母年近七旬貴州道路較遠難以就養顧長紱著調補浙江按察使其貴州按察使員缺即著姜開陽調補欽此

1080 查伍拉納奏臨海縣知縣華瑞璜等玩縱私

泉一案並未據福崧奏到謹擬寫寄信福崧

諭旨進

呈謹

奏

九月初八日

1081 乾隆五十六年九月初八日奉

旨這所參臨海縣知縣華瑞璜太平營守備張永昌俱著革職交該撫嚴審定擬具奏欽此

1082 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十六年九月初八日奉  
 上諭據伍拉納參奏臨海縣知縣華瑞璜太平營守  
 備張永昌玩縱私梟贖徇匪報一摺已降旨將華  
 瑞璜張永昌革職嚴審定擬具奏此案黃巖太平  
 二縣商人張隆盛等控告梟販橫行指稱把總吳  
 璣縱容伊弟吳叔曉等煎私拒捕槍鹽奪犯等情  
 節由該營將吳璣解府轉發臨海縣究審該縣華  
 瑞璜因吳叔曉在逃將該把總移回並不稟報吳  
 璣縱弟吳叔曉煎私拒捕槍鹽奪犯情罪甚重該  
 縣華瑞璜藉稱吳叔曉在逃將吳璣移回匿不通  
 詳而該管守備張永昌亦不據實稟報顯有扶同  
 徇隱情弊今伍拉納於太平營詳送竊案冊內看  
 出飭查即行參奏福崧近在浙省何以毫無聞見  
 並未劾參著傳諭該撫即將因何並不參奏緣由  
 據實明白回奏此案著嚴行查辦若再稍存迴護  
 爾將得何罪將此由五百里發去速迴奏欽此遵  
 旨寄信前來

1083 乾隆五十六年九月初八日奉  
 旨陳上高袁剛韓貞福均著准其貶封該部知道摺  
 併發欽此

1084 本年六月初九日鄂輝奏四川省秋審案內將  
 擬絞官犯德新斬犯文思鏡二名俱擬入緩決  
 一摺奉

旨鄂輝所辦尚是該省秋審題本到部自必按律辦  
 理俟勾到時提奏欽此除文思鏡一犯俟四川省  
 勾到時再行提奏外所有本日  
 勾到官犯德新一名刑部照例入於情實理合遵  
 旨提奏並將鄂輝原摺抄錄進

呈謹 奏

九月初八日

1085 本年六月初九日鄂輝奏四川省秋審案內將  
 擬絞官犯德新斬犯文思敬二名俱擬入絞決

一摺奉

旨鄂輝所辦尚是該省秋審題本到部自必按律辦理俟勾到時提奏欽此除德新一犯業經提奏外

本日

勾到四川省臣等謹遵

旨提奏謹

奏

1086 乾隆五十六年九月初九日奉

旨嚴登楷著即處絞餘依議欽此

四川省監犯毆斃同監人犯一案

1087 乾隆五十六年九月初十日奉

上諭提督山東學政著鄒奕孝去欽此

1088 遵

旨將

硃批富綱奏緬甸遣使恭賚表貢謝

恩一摺交

行在王大臣九卿等閱看據溥穎等僉稱緬甸國王

孟賚仰蒙

皇上恩准歸順

賜勅宣封俾供藩服並荷駢蕃

殊錫舉國邀

榮復於本年七月內該貢使等回國時賞到

御書珍賞寵被交陬該國王虔誠坐擺率領妻子臣

民出城祇領實為該國從古未有之遭逢宜其

感深淪浹專遣頭目恭賚謝

恩表貢進京臣等恭閱該國表文感激

隆施情詞肫懇共誓永為臣僕實出恭順至誠仰見

我

皇上撫馭邊夷仁至義盡臣等恭閱之下不勝欽佩

悅服等語除俟本報再將

硃批原摺寄京交大學士九卿閱看外謹

奏

1089 乾隆五十六年九月初十日奉

上諭朕偶閱嘉靖年間所刻文獻通考其序文內有命司禮監重刻以傳之語文獻通考一書於列代制度典章采摭綜核鏤板以傳原屬表章之道但自應交與儒臣詳校精覈付諸梨棗庶於稽古崇文較有裨益乃竟付諸奄豎之手率行承辦書內句讀及所別四聲多有舛誤即此可見嘉靖年間惟知溺志焚修耽心齋醮於政治朝綱廢弛不講此書自不值特加論說重為駁正著將此旨錄存首冊以示朕崇實黜浮至意欽此

1090 大學士伯和 字寄

直隸河南山東各督撫 乾隆五十六年九月初十日奉

上諭據惠齡奏親赴登州一帶嚴查並往勞山訪察實無要犯段文經藏匿茲復由青州各海口遍加偵緝亦無段文經及其徒弟踪跡等語看來段文經自滋事逃竄後或竟早伏冥誅迄今已歷多年一時難以跟緝但恐同黨藏匿日久復出亦未可

定著傳諭直隸河南山東各督撫不動聲色密飭所屬留心偵緝毋得視為海捕具文久而生懈以致要犯始終漏網將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1091

查秋審情實人犯收禁司監之例於乾隆五十年九月內經軍機大臣會同刑部分別條款議奏擇其案情重大如奪犯傷差鹽梟拒捕械鬥搶奪等案必須加意防範之犯應在省監收禁其餘尋常謀故鬥毆等案仍發回原監羈禁奏准通行在案今雲南寶寧縣斬犯蕭光祖係因瘋戮傷胞叔身死之犯是以解省審訊後仍發回該縣收禁謹

奏

九月十一日

1092

大學士伯和 字寄

雲貴總督富 雲南巡撫譚 乾隆五十六年

九月十一日奉

上諭富綱等奏寶寧縣斬犯蕭光祖中途脫逃一案所有疎縱之解役等均照限內無獲之例問擬杖流其僉差不慎之熊孔榮等發往軍臺効力等語此案蕭光祖係因瘋戳傷胞叔問擬斬決之犯解審發回原籍於本年正月初五日在邱北縣地方脫逃迄今已及半載有餘尚未弋獲該地方官既不嚴密防範於前及脫逃後又復視為海捕具文並不上緊緝實屬怠玩富綱譚尚忠俱著傳旨申飭至蕭光祖一犯係有瘋疾之犯未必能遠竄他省或仍在滇省地方潛匿亦未可定並著富綱等督飭所屬認真查拏務獲毋任漏網干咎將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1093

大學士伯和 字寄

喀什噶爾叅贊大臣明 乾隆五十六年九月

十一日奉

上諭據明亮奏審訊遣犯王子重等傳習邪教潛通信一摺所奏總不明白已於摺內批示兼將明亮交部嚴察議奏矣此案現據明興同日奏到嚴訊邪教人犯於劉照魁所供屈進河宋明申文成外又究出討封全士名號之龐行忠等共九犯俱即審明正法並傳齊各遣犯目親行刑俾該犯等共知警戒乃明亮查辦此案止將王子重詹清真派員解京而於該首犯等如何傳教收徒及往來通信之處並未研訊明確得有頭緒且王子重等俱係邪教案內發遣該處為奴之犯到配後又復通信匪徒交結往來種種不法明亮平日不能嚴加防範稽查管束自有應得之咎乃祇稱漫無覺察實屬疎忽並未自行請罪明亮何以糊塗若此著再傳旨嚴行申飭仍著將該處遣犯逐加嚴究有無傳教通信及求給名號等事務得實情從嚴辦

理母任稍有狡展將此傳諭明亮並諭明興知之  
欽此遵  
旨寄信前來

1094 查本日明興奏查訊屈進河等九犯俱係得受  
邪教封號潛通信息之人經明興於審明後即  
遵

旨將該犯等正法示衆其明亮摺內除將王子重詹  
清真二犯委員解京外其餘供出各遣犯祇係  
托劉照魁帶寄家信幫給盤費之人奏請永遠  
枷號謹遵

旨擬寫嚴行申飭明亮並令將該處遣犯再行嚴查  
究辦

諭旨進  
呈謹  
奏

1095 乾隆五十六年九月十一日奉  
旨福彰阿吳民秉鄧元第俱著准其馳封該部知道  
摺併發欽此

1096 臣和坤等謹  
奏為遵

旨議奏事勒保奎舒會奏遵將隣近蒙古邊界番子  
議歸西寧辦事大臣兼管一摺乾隆五十六年  
九月初五日奉

硃批軍機大臣議奏欽此據勒保等奏稱西寧等屬  
黃河以北各番族撫綏日久耕牧為生與齊民  
無異其循化貴德兩屬番衆在黃河以南與蒙  
古南五旗扎薩克游牧處所地界毗連遠近不  
一內循化所屬熟番十八寨四屯貴德所屬熟  
番五十四旗俱係耕種地畝完納番糧住居土  
房已成村落設有千戶百戶鄉約等頭目管理  
惟邊界生番向來不知耕種以打牲為業挿帳  
居住搬移無定並無番目管轄此等生番與蒙



古較近每有搶掠牲畜之事今仰蒙

聖明鑒照令將各番子歸併西寧辦事大臣兼管臣等公同等酌循化貴德兩屬番衆雖有生熟之異但居住族寨犬牙相錯難以劃分應將該二族生熟各番並番目人等統歸臣奎舒衙門兼管除番地應納番糧仍歸循化貴德文員催收交納其番子與漢民交涉命盜案件亦歸地方官辦理外遇有番子搶掠蒙古之案均由臣奎舒衙門照例辦理至各番旗千戶百戶等頭目內如有能奮勉緝賊踴躍出力之人容臣奎舒留心察看據實奏明請

旨獎賞但番子搶掠牲畜係尋常之事若蒙古人等果能加意防範番子等亦不敢深入搶掠嗣後如有蒙古被賊搶殺等案該蒙古能自行拏住賊賊報官者即與從嚴辦理如蒙古等並不能自行拏獲事後報官緝拏概不與之查辦庶蒙古人等各相儆惕嚴密巡邏該番賊等亦不敢遠入滋事至貴德縣丞改設同知章程臣勒保現與藩臬兩司悉心籌酌另容具奏等語 臣

等伏查向例駐劄西寧辦事大臣專管青海蒙古番子而隣近蒙古等邊界生番素性嗜利恃強並無頭目約束以致屢有搶掠牲畜之事一經事主控告必由西寧辦事大臣轉報內地為之緝拏地方官相隔遙遠殊屬鞭長莫及是以跡縱案犯勢所不免舊例本未精詳今仰蒙

聖明洞鑒

特諭將貴德循化等處隣近蒙古邊界番子亦令西寧辦事大臣就近兼管遇有搶竊案件即令迅速查拏呼應較靈事權歸一實為兩有裨益並 欽奉

諭旨貴德地方縣丞亦應改設同知其番子內有千戶百戶等虛頂之官飭交奎舒查明如有能緝賊奮勉者酌量具奏賞戴藍翎遇有差違自必倍加勤奮

聖訓周詳至當至精行令勒保奎舒一併籌酌定議具奏在案今據勒保等以循化貴德兩屬番衆雖有生熟之異但居住族寨犬牙相錯難以劃

分請將該二族生熟各番並頭目人等統歸臣奎舒衙門管理查熟番諳習法度耕牧為生雖向無滋事之處但既與生番雜處其勢自難劃分應如該督等所奏將循化貴德兩屬生熟各番統歸西寧辦事大臣兼管仍飭令奎舒將各該寨番目姓名同各族寨名色並熟番戶口清冊分別詳細稽核嗣後除番地應納番糧及與漢民交涉命盜案件仍歸循化貴德文員照例辦理由該管上司核轉會同題咨完結外其番子搶掠蒙古之案經由西寧辦事大臣就近緝拏自必捷便妥協惟是熟番內向設有千戶百戶鄉約等管轄而生番並無頭目究恐約束為難若即令熟番之千戶百戶鄉約等兼轄亦斷不能相習其應如何就生番內設立千戶百戶責令稽查管束之處該督等摺內並未分晰聲明應仍令該督等再行悉心籌酌會議具奏至千戶百戶等頭目內果有奮勉緝賊之人應令奎舒遵照

## 諭旨奏明

賞戴藍翎以示鼓勵該督等又稱自此歸併兼管之後如有蒙古被賊搶殺等案該蒙古能自行拏住賊賊赴官呈報者即與從嚴辦理儻蒙古等並不能自行拏獲事後呈報緝拏概不與之查辦庶蒙古人等各相儆惕嚴密巡邏該番賊等亦不敢遠入滋事等語查生番搶掠牲畜事屬尋常所有而青海蒙古等所設卡倫並不留心防範任其出入無忌以致劫奪頻聞甚且有蒙古人等反行勾引番賊搶掠蒙古牲畜之事即如近日沙拉布體禮被搶傷斃一案竟係該札薩克屬下人等勾通所致轉需地方官為之紛究辦實屬不成事體亦應如該督等所奏此後蒙古等不能自行拏獲賊事後指為外來番賊呈報緝拏者概不與之辦理庶於整飭之中兼寓儆戒之意再查西寧辦事大臣衙門雖有當差兵丁為數無幾遇有拘拏人犯事件向祇派通事前往但生番野性不知法度如遇人犯較多之案自非通事所能拘拏恐呼應不靈更多掣肘之處查西寧鎮總兵駐劄同城嗣後

如有案情稍大需派官兵之事應准令西寧辦事大臣酌量檄調庶辦理更為妥速以期嚴暴除奸永綏邊境其責德縣縣丞改設同知章程仍令勒保率同藩臬兩司即行妥議具奏所有臣等酌議緣由謹繕摺具

奏是否有當伏候

皇上訓示遵行謹

奏

乾隆五十六年九月十一日奉

旨依議欽此

1097 乾隆五十六年九月十二日內閣奉

上諭各省秋審情實人犯解審後仍發回各州縣監禁中途每致脫逃曾降旨將應入情實要犯概留司監以免踈脫嗣因保寧李世傑及御史劉紹錦紛紛條奏以留禁司監人犯衆多恐致滋事經軍機大臣會同刑部分別條款議奏擇其案情重大者在司監收禁其尋常案犯仍令發回原監乃定例未及數年雲南寶寧縣斬犯蕭光祖即於解審

發回後在邱北縣地方脫逃可見更定新例究未妥善其所云留禁司監人犯過多自必死恐致商同越獄之說不過藉辭推卸試思各省司監必在省城墻垣堅固禁卒衆多臬司為總理刑名大員並無別項要務親加督察嚴密巡查原不致有意外踈虞之事今不收禁司監往返遞解距省較遠州縣多有至千餘里者長途解送要犯乘間脫逃勢所必至儻不急為更正留禁司監使此等桀驁兇徒得以稽誅漏網更復成何事體且省城為督撫大員駐劄之地若司監重犯尚不能留心防範又安用此督撫臬司為耶嗣後各省秋審情實人犯解審後俱即留於司監羈禁不必發回各州縣並著該督撫就近派撥本標及城守營兵丁幫同巡邏責成按察使督率兵役實力稽查儻有踈虞必將該督撫臬司一體治罪決不稍為寬貸欽此

1098 乾隆五十六年九月十二日內閣奉

上諭台費蔭奏錦州所屬于家屯霍家臺等處於九月初一日猝被風電刮倒旗民房屋壓斃人口損壞禾稼所有被災旗民業經捐資掩埋并開倉查照人口散給一月口糧等語錦州地方偶被風災旗民俱有受傷禾稼間有損壞殊堪軫念該副都統務須會同將軍府尹等督率地方官詳悉查勘實力撫恤俾旗民得資接濟無使一夫失所其被災地畝倒壞房屋並著查明咨部辦理欽此

1099 乾隆五十六年九月十二日內閣奉

上諭僧保住奏寧遠州知州伊湯安拏獲脫逃遣犯審明正法一摺此案遣犯許老十係盜犯為從減等擬遣之犯在配脫逃後即經該州盤獲尚屬認真寧遠州知州伊湯安著交部議叙其捕役等並著查明獎賞以示鼓勵摺併發欽此

1100 大學士伯和 字寄

廣東巡撫郭 乾隆五十六年九月十二日奉  
上諭本日勾到廣東省秋審情實人犯內周閏潮一起係調戲小功服兄之妾何氏致令羞忿自盡閱其情節周閏潮始以何氏年久無孕之言戲問繼以想必伊兄沒用為詞向其褻狎何氏即行嚷罵經伊夫詢知緣由告知伊父周益勳投族理責何氏羞忿莫釋投縲殞命此案周閏潮調戲何氏如僅以言語褻狎別無勾引情狀致令該氏自盡此等祇係語言調戲之案向來俱不予勾若該犯另有褻狎勾引情狀以致死者受之難堪羞忿殞命則該犯即應勾決此條案內緊要關鍵該撫來經聲叙明晰現將周閏潮暫行停勾著傳諭郭世勳即將周閏潮如何向何氏褻狎是否僅係言語之處詳晰查明具奏再降諭旨將此諭令知之欽此

旨寄信前來

1101 乾隆五十六年九月十二日內閣奉  
上諭江西撫州府知府員缺著侯學詩補授所遺員  
缺著韋協中補受欽此

1102 查江西天罡會案內首犯張必發問擬絞候尚  
未正法前經刑部聲明趕入本年秋審情實今  
拏獲從犯胡大勇臣等會同刑部將該犯一併  
趕入情實辦理謹  
奏

1103 乾隆五十六年九月十四日內閣奉  
上諭據惠齡奏山東萊州府臨清州等屬州縣間有  
被旱被水歉收之處雖查明均不成災然無力貧  
民未免稍形拮据等語山東萊州等屬本年秋間  
雨水較多低窪地畝間有被淹前據惠齡奏到即  
令妥為查辦茲據該撫勘明萊州臨清等屬均有  
被水被旱歉收之處雖據奏並未成災民力究恐  
不無竭蹶所有被水之濰縣南臺社等處一百零

九莊昌邑縣任流社等處一百四十九莊平度州  
傅家回社等處六十七莊高密縣張家大莊等處  
一百六十九莊本年錢糧倉穀及歷年舊欠均著  
加恩一體緩徵其被水較重者並著酌借籽種以  
資接濟又被旱之臨清州新莊等一百二十二村莊  
邱縣之南屯等處五十七村莊館陶縣之孟家莊  
等一百五十九村莊平原縣之大王莊等四十八  
村莊高唐州之于家莊等一百三十村莊德州之  
南劉李莊等一百五十五村莊恩縣之腰站等二  
百三十七村莊并臨清德州二衛坐落該二州境  
內被旱村莊所有歷年帶徵新舊錢糧均著暫行  
停緩俟明年麥收後完納其應輸漕米亦著加恩  
緩徵一半以示體恤該撫務須督飭所屬實力妥  
辦俾無力貧民均沾實惠毋使一夫失所以副朕  
軫念民依恩加無已至意欽此

1104 乾隆五十六年九月十四日內閣奉

上諭梁肯堂奏順德廣平等府屬十一州縣本年因七月下旬雨澤未能深透收成稍有歉薄等語本年順德府屬之邢臺等八縣雨澤愆期秋禾未能暢發收成較歉所有應征本年錢糧業經降旨緩至來歲麥收後開徵茲據梁肯堂奏順德府屬之廣宗及廣平府屬之磁州等各州縣秋禾實收止五六分雖勘不成災民力未免拮据著加恩將廣宗磁州永年邯鄲成安肥鄉曲周廣平鷄澤威縣清河等十一州縣應徵本年未完錢糧概行緩至明年麥熟後徵收俾閭閻益臻寬裕以示朕施惠窮黎有加無已至意該部知道欽此

1105 乾隆五十六年九月十五日奉

旨張德著即處斬餘依議欽此

北城奏交刑部審擬逃徒謀財害命一案

1106 查歸景照於此案雖應降二級留任但任內有革職留任無級可降部議革任臣等謹照例擬

寫免其革任

諭旨進

呈謹

奏

九月十五日

1107 乾隆五十六年九月十五日奉

旨歸景照免其革任仍註冊寧紹台道左周於所屬縣書私雕印信誑騙錢文並不實力稽查著照部議降二級調用餘依議欽此

1108 臣等將本日道旁叩

聞之山東民人邱雲龍嚴加研訊據該犯供稱籍隸山東滕縣本年五月間在河南商水縣傭工見該縣上蔡村有一邱生廟業已坍塌我問廟內僧人說係漢朝造律例的邱生廟廟後就是邱

生坟墓該犯因自係邱姓欲告官重修廟宇認  
為違祖恐地方官不准因來叩

閻亦並無主使呈告之人等供臣等察看邱雲龍情  
狀似屬癡迷言語亦甚支離但該犯以毫不干  
己之事輒敢叩

閻妄告未便輕縱應將該犯交與總督梁肯堂即照  
衝突

儀仗例治罪謹

奏

九月十六日

1109 乾隆五十六年九月十六日內閣奉

上諭據姜晟奏審擬唐佔哇糾竊江西解縣餉鞘一  
摺此案前經王懿德具奏曾降旨諭令姜晟必須  
起獲原贓跟訊確鑿方可定案茲據姜晟將各犯  
悉行拏獲親提審訊究出糾夥偷竊及輾轉勾約  
各情節並將竊去原贓全數起獲辦理尚屬細心  
姜晟著交部議叙餘著軍機大臣會同行在法司  
迅速定擬具奏欽此

1110 乾隆五十六年九月十六日奉  
旨唐佔哇著即處絞餘依議欽此

湖南省審擬盜竊餉鞘一案

1111 乾隆五十五年九月十二日奉

旨陝西省秋審情實絞犯李玉因胞弟李英忤母欺  
兄蓄意謀殺乘其在山莊獨宿意欲放火因其驚  
覺即用刀砍死固屬殘忍可惡其弟李英亦實不  
堪李玉雖歸入情實明年仍行免勾屆期題奏欽  
此本日

勾到陝西省臣等謹遵

旨提奏謹

九月十六日

奏

1112 乾隆五十六年九月十六日內閣奉

上諭吉夢熊奏現因感冒風寒手足拘攣運動維艱  
請解任回籍調理等語並據伍拉納等同日奏到  
吉夢熊著准其解任回籍調理所有提督福建學

政著改派鄒奕孝前往其提督山東學政著翁方綱去欽此

1113 乾隆五十六年九月十六日內閣奉

上諭據勒保等奏潼關城垣工程修理完竣請汰大臣前往驗收等語潼關城垣雖因年久多有坍塌但所需工料等項何至用銀一百三十五萬餘兩之多著派和琳馳驛前往詳查確勘大加刪減毋任稍有浮冒所有隨帶司員亦著一併馳驛欽此

1114 查潼關工程係何人奏請修理及何人勘估之處現在交查工部俟查明後再行具

奏  
謹

九月十六日

1115 乾隆五十六年九月十六日內閣奉

上諭直隸本年輪免錢糧應徵地丁較少據梁肯堂奏藩庫存貯銀兩不敷支放著即撥給部庫銀七十萬兩即令該督派委委員赴部支領欽此

1116 據梁肯堂告稱面奏直隸現存地丁銀兩不敷

支放奉

旨撥給部庫銀七十萬兩臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

1117

臣等將琅玕奏摺內所稱與劉照魁同行出口之王得祿一犯提訊劉照魁據供王得祿我向來不認得他五十五年上我從肅州出口在中途遇見我問他說叫王得祿係興安府安陸縣人曾在興漢鎮標下吃過糧後來退了糧在人當厨子掙錢度日如今要往吐魯番地方尋覓生理等語這些話他曾告訴我過我出了關與他一路同行到了哈密一同起票又同到了吐魯番我就分路到庫車去了以後總不曾與他見面他現在何處實不知道等語謹即將現訊供詞一併行知駐劄回疆大臣令其查照所供情節嚴拏務獲謹



奏

九月十六日

1118 大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 陝西巡撫秦 乾隆五十六年

九月十六日奉

上諭本日據琅玕奏八卦邪教案犯劉照魁前在肅州出口時有同行王得祿一犯現在軍機大臣提訊劉照魁據供五十五年出口時路遇王得祿告知係興安府安陸縣人曾在興漢鎮標下喫過糧後來退了糧在人家當厨子度日要往土魯番尋覓生理等語劉照魁同王得祿出口到哈密又同到土魯番分路等供王得祿既與劉照魁一同出口自係不安本分之人必有傳習邪教等事該犯此時或已回至本籍或尚在甘省逗留著傳諭該督撫嚴飭所屬實力查拏務期弋獲解京歸案辦理除已飭知駐劄回疆大臣查拏外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1119 大學士伯和 字寄

湖北巡撫福 乾隆五十七年九月十八日奉

上諭本日勾到湖北省秋審情實人犯內經刑部由緩決改入情實者七起除絞犯萬志成一起因萬云和取水互毆該犯打傷伊女萬嫌女殞命雖係毆斃幼女但理尚不曲他物適傷致斃又絞犯郭必美一起因與郭必昆趕集將錫遺忘囑令同尋未允被罵尋毆該犯連毆郭必昆殞命傷非金刃死越旬餘此二案情尚可原是以均予免勾此外絞犯嚴萬舉因與年老之嚴應潮爭地吵鬧被其攏毆該犯用担毆傷嚴應潮殞命兇斃老人復傷其孫嚴之寧又絞犯唐林九因唐受祿以伊貪得媒禮爭鬧登門叫罵該犯之兄唐潮九出而爭鬧被毆該犯用錘戳傷唐受祿殞命貪得媒禮理既不直用錘戳斃難以護兄為解又絞犯朱紹五因全為周在河捕魚該犯邀允朱鵬舉等向阻被毆該犯用刀格砍全為周殞命糾人逞兇金刃傷多又絞犯陳們子與劉浩同伴求乞因劉浩為人強

橫侵用衆丐錢文該犯氣忿用斧砍傷劉浩殞命  
 挾嫌逞兇鐵器傷重又絞犯蠻招因伊姊告知被  
 夫斥詈該犯理論被鄭氏用木桿向毆該犯奪桿  
 回毆鄭氏殞命逞兇致斃婦女傷至骨損骨斷以  
 上五起核其情節均無可緩之理刑部改入情實  
 均屬允當福寧曾任臬司於秋讞大典理應悉心  
 斟酌核實辦理乃率行擬緩殊屬寬縱臬司孫曰  
 秉刑名是其專責何以疎忽若此福寧孫曰秉均  
 著傳旨申飭欽此遵

旨寄信前來

1120  
遵

旨將潼關工程因何需銀一百三十餘萬兩及成造  
 匠役是否係在京僱覓並德成有無自帶匠役  
 前往之處詢問巴延三據稱潼關工程當日原  
 估時我同德成沿城看視見東北角城根逼近  
 黃河墻垣已有坍塌德成說這段工程與水相  
 近若不修理儻城脚被水則全工盡棄是以隨  
 同一併估入我曾與德成講論過因他係工程

熟手又此城係沿山築砌大半多在山上歷年  
 遠久山上城墻坍塌較多有應粘補者有應修  
 理者皆一體估入又城內有石頭水口二座各  
 處之水向俱由洞內洩入黃河亦因年久損壞  
 洞口淤塞亦皆估修德成曾說潼關係古來名  
 勝之地又係觀瞻所係是以估工較多用銀未  
 免過費此當日我與德成查勘估計之實在情  
 形也至西安匠役向來不諳做法如此大工必  
 須慎重辦理派出承辦各員在京師僱覓匠役  
 數人率領西安匠人指撥做法是有的德成曾  
 否自帶匠人前去及工員所僱匠役有無德成  
 所帶之人我實不知道現在奉

旨令和琳前往查核這都可以查得出的總之我受  
 皇上天恩辦理工程不能慎重擣節隨同附和今蒙  
 詢問實深惶悚等語謹

奏

九月十八日

1121 大學士伯和 字寄

欽差內閣學士和 陝西巡撫秦 乾隆五十六年

九月十八日奉

上諭昨因勒保秦承恩奏潼關城垣修理完竣所需工料等項用銀至一百三十五萬餘兩之多已派和琳馳驛前往查勘大加刪減核實報銷今復思勒保等摺內有雇覓各項諳練匠作之語察其語意含糊而不露其中似有情弊此項工程原係德成前往勘估預料收工時亦必仍派伊前往是以將包攬工程匠頭自京帶往以為冒銷弊混地步而該省即用所帶匠役承修任其浮冒開銷不復過問若祇係用本地土匠則西安城工甫經修竣何患匠役無人又須向他處雇覓耶朕於辦理要工從不存惜費之見即如西安城工已不惜多費帑金豈於潼關城垣轉為斤斤較量但所用工料多至一百三十五萬餘兩其為藉端浮冒情弊顯然且該督撫摺內字句自露間隙隱躍其詞尤屬可疑著傳諭秦承恩即將修理潼關工程是否用德

成所帶京中匠役據實明白迴奏秦承恩曾任西安藩司久在工所督飭備辦並不將浮冒情弊隨時奏奏已有應得之咎茲特降旨詢問若再意存徇隱一經察出決不能再邀寬貸也和琳此次奉命前往務須將該處工程詳加覆核刪減並將此項工程是否係德成帶往匠役修理之處一併嚴查據實具奏勿稍徇隱干咎將此各諭知之欽此

遵

旨寄信前來

1122 乾隆五十六年九月十八日奉

旨王魁沅著即處斬餘依議欽此

江蘇省審擬曳刀匪犯一案

1123 同日奉

旨依議欽此

江蘇省續獲洋盜審辦一案

1124 乾隆五十六年九月十八日內閣奉

上諭前因各省秋審情實人犯解審後仍發回各州縣監禁中途每致脫逃特降旨令將各犯概行留于司監收管以專責成今閱各省秋審情實人犯黃冊如直隸一省監犯有一百九十餘名雖司監較大足資羈禁究恐人犯過多一處擁擠難于防範嗣後各省情實人犯解審後若仍照舊例發回各州縣往返遞解或致要犯乘間脫逃其事斷不可行應令在司監及首府首縣監獄分禁司監墻垣堅固禁卒衆多該臬司自可督率兵役嚴加管束即府縣各監近在省城亦必較外府州縣監獄寬敞嚴密該督撫等近在同城再派撥本標及城守營兵丁幫同巡邏查察自可不致有意外疎虞于防禁要犯更昭慎重而免擁聚倘再有疎失之事必將該督撫臬司及該管府縣一體治罪決不稍為寬貸欽此

1125 乾隆五十六年九月十八日奉

旨陳奉茲免其革任仍註冊景安著改為革職從寬留任其署按察使事河陝汝道劉同敬免其革任仍註冊該藩臬等未經審出實情雖有應得之咎但止係據委審各員原訊案情未及詳究尚可加恩留任至府縣為親民之官承審此等庶役縱兇重案並不悉心嚴究咎無可辭所有委審之開封府知府武先慎著照部議降三級調用隨同審辦之汝陽縣知縣李敷文安陽縣知縣吳學會俱著照部議降二級調用餘依議欽此

1126 乾隆五十六年九月十九日內閣奉

上諭河南開封府知府員缺緊要著該撫于知府內揀選一員調補所遺員缺著董樑補授其所遺員缺著孫鑑補授欽此

1127 遵

旨將潼關成造城樓一座何以所用工料多至一百三十五萬餘兩之處詢問德成據稱我從前奉命前往陝西會同巴延三週圍履勘查得潼關舊有

東南西北城樓共六座年久坍塌僅存基址應須修整又穿城有潼河一道南有石閘舊基五座北有水津門石閘舊基三座俱寬二丈有餘我當即詢問該處官員水津門舊基何以如此寬大據告稱潼河之水來源甚遠每年夏秋雨水盛行之時諸山之水匯入潼河由南水津門入城出北水津門歸入黃河水津門石閘必如此寬大方資容納等語今潼關城垣既經重建此項水津門石閘亦應一律修整藉資宣洩以復舊觀是以一併估入又查潼關北城逼近黃河每遇盛漲之時若不添建石堤保護城根恐受黃水冲刷新修城垣難以經久是以奏明添建石堤估需銀四十餘萬兩至修建城牆城樓閘座水津門共估需銀九十餘萬兩等語謹

奏

九月二十日

1128 乾隆五十六年九月二十日內閣奉

上諭奎林現派往西藏辦事所有福建水師提督員缺著哈當阿調補仍兼管臺灣鎮總兵印務欽此

1129 乾隆五十六年九月二十一日奉

旨何鰲杜永寧周嘉會王輯瑞姜雲鸞俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

1130 乾隆五十六年九月二十一日內閣奉

上諭福建陸路提督員缺著瑪爾琿阿補授欽此

1131 乾隆五十六年九月二十一日內閣奉

上諭陝西河州鎮總兵員缺著皂君保補授欽此

1132 乾隆五十六年九月二十一日奉

旨張泳徐易俱著准其馳封該部知道摺併發欽此

1133 乾隆五十六年九月二十一日內閣奉

上諭孫士毅現今前往四川署理總督其未回京以前吏部尚書事務著劉墉暫行兼署欽此

1134 大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年九月二十一日 奉

上諭陳用敷奏完出邪教軍犯在配收徒現在嚴拏審辦一摺並搜出軍犯程東岳王芥保等寄與劉書芳書信內有承來諭指點之情等語程東岳係與劉書芳同案發遣之犯胆敢在配復收軍犯王芥保為徒而李若居係安肅逆匪業內劉心高係河南混元邪教業內充發之犯乃在配均不安分與劉書芳書信往來且因劉書芳有令其各守本教之語輒聯名寄書致謝是其始終怙惡不畏法必另有傳教煽誘之事不可不嚴行跟訊著陳用敷即派委員將劉書芳及陳東岳王芥保李若居劉心高一併解京以便與劉照魁質審歸案

辦理至同案軍犯劉顯明係劉書芳胞兄素松安係劉書芳妻舅及黃存義等五犯與劉書芳聲息相通難保無在彼授徒傳教等事務須嚴切跟究勿任狡展如訊無別項情節再遵前旨解交刑部另行定地發配以淨根株將此傳諭知之欽此遵旨寄信前來

1135 本月二十一日吏部將護理廣西巡撫調任布

政使英善保舉堪勝知府之鬱林直隸州知州 覺羅有德一員帶領引

見奉

旨覺羅有德著交軍機處記名

九月二十一日

1136 乾隆五十六年九月二十二日奉

旨陳漢林俊蔡窩鄭崑玉吳摘陳煌黃成林海陳傳莊器莊送俱著即處絞餘依議欽此

臣等將陳用敷奏到訊問劉書芳供出各情節  
 監提劉照魁嚴加質訊摺內所稱程東岳王芥  
 保二犯據劉照魁供認俱在遷江縣見過其劉  
 書芳委係程東岳指引至養利州探望屬實至  
 劉書芳所供王子重令劉照魁到兩廣面囑劉  
 書芳與步文斌傳知同案軍犯仍守本教五十  
 二年劉照魁復至養利州告知前情劉書芳隨  
 從患劉照魁往廣東撤取同案軍犯李大志等  
 骨殖一節據劉照魁供前至廣東撤取李大志  
 們骨殖係五十二年二月的事我替王袁氏出  
 口探望王子重係五十五年二月內在山東起  
 身十月內繞到喀什噶爾尋見王子重住了一  
 個月從那裏起身走了半年多到今年六月十  
 八日繞到渭南縣就被拏住並不曾與劉書芳  
 見面如何能傳王子重的話我在口外見了王  
 子重他叫我口許步文斌做指路真人我當即  
 供出若有給劉書芳教內名號的事我豈肯替  
 他隱瞞等供加以刑夾矢供不移臣等核其年  
 月與劉照魁在陝省原供及臣等節次所訊供

詞尚屬相合但該犯進口後既未與劉書芳見  
 面何以劉書芳供有此語恐另有別情亦未可  
 定應俟王子重劉書芳解到再行三面質訊自  
 難遁飾其餘摺內各情節再四研鞠均屬符合  
 所有該犯供出認識之各遣犯程東岳王芥保  
 劉顯明現據陳用敷拏獲審辦其趙啟明一犯  
 查福康安等前次奏到摺內亦已拏獲究訊謹  
 錄取供詞恭呈

御覽謹  
 奏

\* 夾訊劉照魁供廣西遣犯程東岳向不認識因四  
 十九年我在遷江縣地方趕趁度日有那裏遣  
 犯王芥保同了程東岳做了幾百文錢叫我變  
 戲法頑耍他二人聽見我說話是西北口音彼  
 此叙起鄉貫繞認得的程東岳就邀我在他那  
 裡住了兩日他問起我曉得我要到養利州土  
 田州一帶去趕趁因向我說養利州有個劉書

芳是他同案發遣的。他在那裡年久認的人多，叫我到了那裡去找他，好叫我替他攬些生意。趁些錢文就替他問好。我到了養利州，尋見劉書芳，把程東岳的話對他說了。他就留我同住。我每日在街坊上變些戲法，覓得錢，就叫劉書芳替我收下。住了一個多月，劉書芳勸我入他的教，我就拜他為師。他口傳我些理條，我慢慢都記熟了。後來因養利州沒了生意，我就到柳州府慶遠府一帶去。趕這年冬天，仍回到劉書芳那裡。過了年到五十年，上劉書芳念記家裡。我回去看，望我就在養利州起身到了山東單縣劉書芳的家裡。見了劉書芳的女人劉李氏，住了幾時，十月內仍回至養利州。到五十二年二月，劉書芳叫我往廣東鶴山縣地方搬取他同案遣犯李大志們的骨殖，并指引我去找步文斌。我到德慶州，找見了步文斌，認為義父。五十二年六月，步文斌叫我到他家裡看，望他的女人步蕭氏。十一月內，我到了荷澤縣，見了步蕭氏，并将所帶李大志們的骨殖送往各

家。收了五十四年，我仍舊往河南一帶變戲法。度日。冬底，繞回到步蕭氏家。臘月內，同了步蕭氏到王袁氏家去過一次。五十五年正月，又同他去過一次。王袁氏就叫我替他到口外看望兒子王子重。我於二月十九日起身，到十月內，繞到喀什噶爾，找著了王子重。住了一個多月，從那裡起身進口，走了半年多。今年六月十八日，繞到渭南縣地方，就被拏住。我從五十三年離了德慶州，沒曾再到廣東廣西去過。我替王袁氏到口外看望王子重，係五十五年的事。從口外回來，到了陝西，就被拏了。並沒與劉書芳們見面。那王子重如何叫劉書芳傳教的事，我並不知道是實。

詰問劉照魁：你既入了劉書芳的教，拜他為師，你見了王子重，必定替他討求救教。內名號你從口外回來，雖不曾與劉書芳見過，王子重曾許他是何名號，再沒有不對你說的。從實供來。

\* 據供我五十五年出口時，一路遇見遣犯毛有倫



周發才們因知道我要去找王子重是以都托我代討教內名號那劉書芳並不知我要往口外去實不曾叫我向王子重討求名號我並沒曾替他求過那王子重許給名號的步文斌屈進河們我當下都已供出若有給劉書芳名號的事我受這樣重刑如何還肯替他隱瞞求詳情

又問劉照魁你在廣東廣西往來多次你認識的遣犯必多何人是劉書芳步文斌的徒弟他們又收了何人入教快快供來

據供我四十九年在遷江縣地方遇見程東岳王芥保那時我還沒曾認得劉書芳不曾入他的教實不知他二人是那個的徒弟後來在慶遠府遇見遣犯劉顯明係劉書芳的哥哥因劉書芳曾對我說過叫我路過時留心我才認得的又我在廣寧縣地方要搬取李大志們的骨殖沒處找尋有那裡遣犯趙啟明指引我去我因此認得他但只曉得他們都是同案發遣的他們又收了何人入教我不知道是實

1138 乾隆五十六年九月二十二日奉  
旨胡廷章萬鍾濬俱著准其貶封該部知道摺併發  
欽此

1139 乾隆五十六年九月二十二日奉  
旨奎林奏降調守備吳大瑞自留任以後屢次拏獲  
盜犯逸匪十九名尚知奮勉可否准其開復等語  
吳大瑞著加恩准其開復該部知道摺併發欽此

1140 乾隆五十六年九月二十二日奉  
旨此案轎夫宋大等因賭博爭毆扎傷步甲喜成殊  
屬不法巴延三約束不嚴實難辭咎著先革去頂  
戴仍同失察之該管地方官俟定案時交部分別  
議處至宋大等開設賭局起自何時及與喜成爭  
毆用刀扎傷確情著交軍機大臣會同步軍統領  
嚴查完審定擬具奏欽此

1141 乾隆五十六年九月二十二日內閣奉

上諭宜興等奏奉天地地方前次揀發知縣已經用完其雜職亦止有二員未補差委乏員請揀發知縣二員雜職四員等語著照所請派此次驗看月官大臣會同該部于候補人員內照例揀選引見發往以資委用欽此

1142 乾隆五十六年九月二十二日奉

旨福寧著免其革任仍註冊孫曰秉著改為革職從寬留任畢沅著銷去尋常加一級免其降調餘依議欽此

1143 本月二十二日兵部將陞任兩江總督孫士毅

保列一等之江南京口水師副將陳安邦湖廣總督畢沅保列一等之湖南澧州營叅將慶溥二員帶領引

見奉

旨陳安邦慶溥俱著交軍機處記名

九月二十三日

1144 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十六年九月二十三日奉

上諭本日馮光熊由驛遞到奏摺朕以為必係地方緊要事件及披閱所奏各摺祇係安設臺站并派員接護藏使進京陞署平定州牧等件並非刻不容緩之事此等奏摺自應差人貴遞何必由驛馳奏該撫係軍機司員出身何不曉事若此著傳諭該撫嗣後凡有似此尋常事件不得輒用報遞徒勞驛傳致駭觀聽也將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1145 臣等查奎林等奏拏獲會匪審明分別正法定

擬摺內尚有逸犯吳堅等十五名未獲又拏獲窩藏匪犯審擬摺內尚有逸犯何創等八名未獲臣等俱于議摺內令哈當阿等實力查拏務獲謹

奏

九月二十三日

1146 乾隆五十六年九月二十四日內閣奉

上諭據全德奏前次揀發試用人員俱已陸續補用  
現在僅有大使二員不敷差委請揀發運判三員  
大使八員等語著照所請即令此次派出驗看月  
官大臣會同該部照例揀選帶領引見發往欽此

1147 據蔣賜榮告稱面奉

諭旨京城廣寧門外普濟堂

賞給小米三百石等語臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

1148 乾隆五十六年九月二十四日內閣奉

上諭京城廣寧門外普濟堂冬間施捨貧民經費米  
石恐不敷用著加恩將京倉內小米賞給三百石  
以資接濟欽此

1149 乾隆五十六年九月二十四日內閣奉

上諭朱珪奏安徽鳳陽潁州泗州等府屬州縣低窪  
之區本年夏間雨水稍多間有淹浸雖經涸復補  
種收成未免歉薄等語鳳潁等府屬各州縣本年  
窪地過水收成既經歉薄除本年應完漕糧耗羨  
等項外其應行帶徵舊欠錢糧為數尚多若令同  
時輸納民力不無拮据所有鳳陽宿州靈璧亳州  
霍邱盱眙等六州縣低窪村莊地畝應完五十四  
五兩年丁地屯折漕糧漕項等款舊欠銀米并天  
長縣自四十八年起至五十五年止歷年舊欠銀  
米俱著加恩緩至來年秋後徵收又壽州自五十  
年起至五十三年止定遠鳳臺二縣鳳陽長淮二  
衛自四十八年起至五十三年止分限應征歷欠  
銀米所有低窪村莊地畝均照原限展緩至五十  
七年開征其餘應完分限帶徵銀米以次遞緩至  
來年秋後征收以紓民力該撫務須督飭所屬實  
心經理俾小民益資寬裕以副朕軫念窮簷有加  
無已至意該部即遵諭行欽此

1150 臣等遵

旨將惠齡覆奏查明初限城工仍照原估辦理毋庸  
另議加改一摺交德成閱看據稱我前因山東  
城工其中做法未盡妥善是以比照各處城工  
例案將海墘宇墻城身等項奏請酌改經軍機  
大臣遵

旨議奏以辦理城工總在因地制宜未便膠執成見  
強為比附仍令惠齡酌核該處情形據實覆奏  
今惠齡摺內所稱山東各州縣城工俱係照各  
該處舊制估辦實係因地制宜無庸增改等語  
是惠齡目擊該處情形確核辦理自無庸另議  
更張我從前所奏比照成案令其酌改之處實  
屬拘泥今蒙傳

旨將惠齡奏摺發交閱看不勝惶悚之至等語謹  
奏

二十四日

1151 臣阿桂等謹

奏為請交部事 臣等今早面承  
諭旨將康世貴補授副將之處誤聽為哈豐阿以致  
述

旨錯誤今蒙

聖明指斥不勝惶悚請將 臣阿桂 臣和坤交部議處  
以示懲儆謹

奏

乾隆五十六年九月二十四日奉

旨知道了欽此

1152 本月二十四日吏部將山東巡撫惠齡保薦卓

異之臨邑縣知縣吳于宣帶領引

見奉

旨吳于宣著交軍機處記名

二十五日

1153 乾隆五十六年九月二十五日內閣奉

上諭福康安等奏奏偏斷庇縱延玩朦詳之知縣沈峻及任令該縣玩匿頂替之知府徐學僑分別革職嚴議一摺該縣管門家人梅姓捐留埠屋索令運商承買並因需索季規不遂挾嫌唆聳轉將私販釋放及奉文提審之後延不解訊任聽差役頂替弊混又復隱匿家人實屬有心庇縱吳川縣知縣沈峻即著革職至該府于此案人犯提審時並不迅速解省延挨日久任令該縣玩匿頂替其中必有庇護容隱情弊高州府知府徐學僑著即解任交與該撫提同案內犯証一併嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

1154 查兵部向例陣亡官員給雲騎尉世職於次數

襲完時再給恩騎世襲罔替其被賊戕害人員照陣亡例議卹嗣於乾隆四十七年四月內欽奉

諭旨被賊傷亡人等照陣亡例給予世職已屬從優

若再賞給恩騎尉似無區別嗣後傷亡人等毋庸議給恩騎尉欽此現在兵部俱遵照諭旨辦理其被賊傷亡人員襲次完時不給恩騎尉

奏 謹

九月二十七日

1155

臣等將伊江阿奏到審訊王得祿供詞監提劉照魁詳加質訊據劉照魁供我上年六月間出口走了十來天在口外地方遇見王得祿問起都是陝西人我因那一帶都像戈壁風大難走就與他作伴同行到了哈密地方我與他同住一店過了幾日叫店家替我們兩人同起了一張路票又逐站同走到了土魯番我們將票了繳了王得祿就在那裡住下我另叫店家替我換了一張路票前去的這王得祿我在路上曾問過他說是安康縣人要往土魯番尋買賣的我與他在土魯番分散後總沒見面在路上不過講些閒話並不曾與他提起教內的事是實

等供臣等核對伊江阿原摺及前次訊問劉照魁供詞均屬相符其王得祿一犯已據伊江阿奏明解京應俟解到後一併歸案質審辦理現即行文陝甘等省知照停緝謹

奏

1156 乾隆五十六年九月二十七日奉

旨宋大高五劉六俱著枷號三個月滿日重責四十六板再行發配喜成著交刑部暫行監禁俟傷愈後亦著枷號三個月滿日重責四十六板再行發遣餘依議欽此

1157 乾隆五十六年九月二十七日內閣奉

上諭據梁肯堂奏直隸知縣佐雜並河工効用人員現在不敷差委請揀發知縣八員吏目從九品未入流各四員歸於地方差委八品以下等官二十員歸於河工差委等語著照所請即派此次驗看月官之和坤等會同該部於候補候選人員內照例揀選帶領引見發往欽此

1158 乾隆五十六年九月二十七日奉

旨著派此次驗看月官大臣照例揀選帶領引見欽此

1159 遵

旨將梁肯堂奏西路同知蔣雲師一摺給蔣賜榮閱看並將該員是否與蔣賜榮同族從前在宛平縣任內因何保題及此次因何不就近先行參奏之處面加詢問據蔣賜榮稱蔣雲師係松江人我係常熟人並非一家亦並未聯宗該員從前在宛平縣任內尚知黽勉供職辦理本任事務尚無貽誤嗣因西路同知缺出總督劉我與我會同照例題陞該員自陞任後才具不能展布近來辦事漸不如前看其精力難望振作是以與梁肯堂會銜參奏請將該員勒令休致但我係府尹西路同知是我專屬並未先行查參今蒙

垂詢實深惶悚等語謹

奏

九月二十七日

1160 乾隆五十六年九月二十八日內閣奉

上諭據長麟奏江南蘇州常州江寧等府屬本年因春夏之間雨水過多低窪地畝間被淹浸收成未免歉薄等語江南蘇州府等屬本年雨水較多田禾間有被淹前據長麟奏到即令妥為查辦茲據該撫勘明蘇州常州江寧等府屬極窪地畝消涸較遲僅能補種雜糧等項不過薄有所收雖據奏並未成災民力究不無竭蹶所有蘇州府屬之長洲元和昭文常熟崑山新陽常州府屬之無錫陽湖江陰江寧府屬之江浦六合等十一縣本年應完漕屯等米六萬六千餘石著加恩緩至來年秋收後分作二年帶征其應納地丁等銀亦著緩至來年麥收後一體完納又太倉州屬之寶山縣并海州暨所屬之沐陽縣等三州縣所有本年墊漕銀兩及應徵麥石地漕等款一併緩至來春麥收後分作二年徵收以示體恤該撫務須督飭所屬實力妥辦俾無力貧民均沾實惠毋使一夫失所以副朕軫念民依恩加無已至意欽此

1161 乾隆五十六年九月二十八日內閣奉

上諭馮光熊覆奏詢明高璫在寧武府任內任聽伊兄高瑋與代州丁憂知縣賈輝結姻一摺閱所奏情節高瑋與賈輝結姻時高璫因有查審案件赴省並未在署迨回任查知曾說高瑋之非並將媒人責處是高璫之咎止在不行稟辦尚無與本地紳衿交結往來之事且高瑋現已病故無從究問高璫著交部議處至丁憂知縣賈輝曾任職官乃並未服滿輒行議婚甚屬不合賈輝著交部嚴加議處摺併發欽此

1162 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督書 江蘇巡撫長 乾隆五十六年九月二十八日奉

上諭書麟等奏請將失察衙役之知縣方發革職並將嚇詐良民之蠹役枷號遊示再行發遣一摺已批交該部知道矣此案縣役余佩以姦私重款污蔑良民憑空嚇詐實屬藐法該犯於枷號遊示滿

日著重責四十板再行發遣所有家產查明入官  
留備江省公用以為蠹役詐贓不法者戒將此諭  
令知之欽此遵

旨寄信前來

1163 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十六年九月二十八日  
奉

上諭朕明春巡幸五臺於三月內啟鑾該處行宮座  
落廟宇不過略事掃除糊飾均毋庸另行修葺著  
傳諭馮光熊督飭該地方官諸事倍加撙節即一  
椽一棟亦不得妄有添建該撫務須仰體朕意妥  
協辦理斷不可踵事增華稍涉糜費干咎將此諭  
令知之欽此遵

旨寄信前來

1164 乾隆五十六年九月二十九日內閣奉

上諭祭酒瑚圖禮侍講那彥成俱著在南書房行走  
欽此

1165 奉

旨劉文敏俟服闋來京之日著該部提奏再降諭旨

兵部本改簽

十月初一日

1166 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 湖北巡撫福 乾隆五十六年  
十月初二日奉

上諭蘇陵阿等奏貴州委員蕭志翊接運吳壽朋解  
京鉛斤內吳壽朋押解領運時在湖北地方沉溺  
未獲鉛十七萬八千一百斤該處地方官是否打  
撈全獲等語上年貴州委員吳壽朋在湖北省之  
巴東東湖江陵三縣地方沉溺鉛斤迄今已一年  
有餘何以未經該督撫報明撈獲數目此項沉溺  
鉛斤至十七萬八千餘斤之多若不上緊打撈任  
其沉失豈不可惜著傳諭該督等嚴飭地方官同  
該委員親屬認真督令水摸實力打撈務期全數  
起獲並將曾否撈獲若干斤之處及委如何治罪



據實覆奏毋得久而生懈致沉失鉛斤終於無獲  
也將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

1167

查貴州委員吳壽朋解京鉛斤在湖北地方沈  
溺一案上年六月內業經畢沅奏其現在是  
否全行撈獲之處臣等遵

旨擬寫詢問

諭旨進

呈謹

奏

1168

查雅爾哈善列傳內之副都統順德訥於回匪  
竄出庫車城既不速行稟報復不悉力追擒以  
致縱脫首惡奉

旨於軍營正法並將伊子阿爾絀阿發遣廣東以示  
懲戒其提督馬得勝亦因失機債事同時正法

謹

奏

1169

辦理軍機處為知會事查八卦教案犯劉照魁  
供出同行出口之王得祿一犯前經奉

旨傳諭陝西甘肅各督撫暨各回疆大臣一體查拏  
解京審辦在案茲據土魯番領隊大臣奏稱業

將王得祿拏獲解京經本處遵

旨訊問劉照魁供詞內奏明行文陝甘等省知照停

緝為此知會

貴督即查照本處原奏行咨陝西及各回疆大臣  
一體停緝可也須至知會者

十月初二日

1170

乾隆五十六年十月初二日奉

旨趙五著即處斬餘依議欽此

直隸省趙五因姦殺死三命一案

1171 乾隆五十六年十月初二日奉  
旨著該管王大臣閱看欽此

兵部奏三年大閱一摺

1172 乾隆五十六年十月初二日奉  
旨依議欽此

疎脫遣犯之解役王沛逃匿被獲  
問擬絞候一案

1173 八月二十六日安南國王阮光平遞到謝  
恩表文一件臣等面奉  
諭旨俟到京後送批欽此茲將原表進

呈恭候

硃批俟

發下遇便交該國貢使帶回謹  
奏

1174 乾隆五十六年十月初二日奉  
旨所奏應修工程太多著再加刪減欽此

修理 園明園等處工程

1175 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 提督陳 乾隆五十六年十月  
初三日奉

上諭福崧奏外委陳學明所駕巡船一隻駛至太平  
縣沙鑊洋面被盜拒傷搶失器械福崧現在親往  
台州黃巖一帶稽查督緝等語上年浙江温州洋  
面盜匪拒捕戕官一案所有正夥各犯俱係閩省  
拏獲審辦浙省祇獲盜一名即廣東崖州盜案節  
據福康安等具奏將首夥各犯拏獲多名分別正  
法嚴示創懲而浙江海洋盜匪未聞就獲多人今  
又有此事可見福崧陳杰無能並不嚴飭地方文  
武員弁實力巡緝豈不自知愧勵耶令黃巖鎮所  
轄海洋又有巡船被劫之事福崧現已前往該處  
督率查拏務將該盜匪全數就獲從重辦理若再

不認真督緝致盜匪遠颺將來被閩粵二省拏獲  
福崧陳杰恐不能當其咎也將此諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

1176 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安南國王阮 乾隆五十六年十月初三日奉

上諭據廣東督撫福康安郭世勲奏安南國王阮光  
平派撥都督黎文認等帶兵駕船在觀瀾海面追  
獲盜船擊斃落水二十餘人生擒二犯業經就地  
處決仍將前次賚去賞物優加賞賚以示鼓勵等  
語廣東洋盜因內地官兵追拏緊急竄入安南洋  
面前經福康安咨會安南一體協拏該國王即派  
撥兵丁在外洋認真堵緝上年據該國屯將范光  
璋捕獲盜犯曾經優加賞賚茲復據阮光平派撥  
都督黎文認帶兵追獲盜船擊斃多人生擒匪犯  
二名即行正法不使稍稽顯戮具見該國王感激  
朕恩力圖報効實堪嘉獎著加恩賞給阮光平金  
花緞二疋八絲緞二疋紅呢一板果乾一匣奶餅

一匣以昭優眷黎文認奉委緝盜認真巡哨甚屬  
奮勇出力亦著加恩賞給五絲緞二疋用示獎勵  
至該國王前遞到謝恩表文其感戴悃忱實屬至  
誠流露已於表文內用硃筆批答著一併發交阮  
光平閱看該國王渥受朕恩仰遵褒獎益當倍加  
感奮不必差員及特表謝恩也將此諭令知之欽  
此遵

旨寄信前來

1177 辦理軍機處為知會事本日有寄信安南國王

諭旨一道又

硃批表文一件

賞給金花緞二疋八絲緞二卷大紅呢一板奶餅一

匣菓乾一匣又

賞該國都督黎文認五絲緞二卷

貴撫接奉後即派委妥員送至鎮南關妥交轉  
遞為此知會須至咨者

右 知 會

乾隆五十六年十月初三日

1178 本月初二日吏部將推陞雲南羅平州知州劉

兆清籤掣湖北利川縣知縣調補甘肅伏羌縣  
知縣劉斯瀨帶領引

見奉

旨劉兆清劉斯瀨著交軍機處記名

十月初三日

1179 乾隆五十六年十月初三日奉

旨楊逢貴鄭朝柱彭萬世俱准其馳封該部知道摺  
併發欽此

1180 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙閩總督伍 福建巡撫浦 乾隆五十六年

十月初四日奉

上諭伍拉納奏據延平府知府鄧廷輯稟報頭運委  
員領解餉銀分裝船隻行至長鐵灘地方有第七  
號餉船悞碰石梁擊碎船身沉溺餉銀二十鞘現  
在設法打撈已獲六鞘仍飭上緊撈獲等語此事

殊不可信向來各省運解銅鉛船隻經行險灘往  
往有奏報沉溺至解運餉鞘即有疎虞亦係途中  
被竊即如湖南芷江縣驛失去鞘銀一案審係更  
夫串通賊匪偷取從未聞有餉鞘沉溺之事其中  
必有串同偷竊裝點捏報情弊不可不嚴行審究  
沉運送餉鞘由水路行走事所常有若以經歷險  
灘為辭竟似解運銅鉛具報沉溺將來必致任意  
偷竊紛紛捏報此端斷不可開著該督撫即將此  
案親提該委員及丁役家人船戶水手人等嚴加  
跟究徹底查明如有串通情弊據實究辦將該委  
員參奏治罪毋任捏飾朦混致滋寬縱其未獲餉  
鞘務須全行起獲倘不能足數即著查明分別賠  
補以杜捏飾之漸將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

1181 乾隆五十六年十月初四日内閣奉

上諭閔鶚元前在江蘇巡撫任內於高郵州句容縣  
書役偽串假票侵挪錢糧兩案遷延不奏始則有  
意消彌繼復飾詞掩蓋種種廢弛貽誤其罪甚重

經大學士九卿按律問擬改為監候本屬罪所應得但念閔鶚元於高郵句容二案辦理錯謬之處節經降旨查訊實係徇庇屬員心存迴護任內尚無別項貪贖執法情節此等庇護徇私之事各省督撫中即不能保其必無特未經敗露得以倖免耳閔鶚元羈禁囹圄已經歲餘且年逾七旬著加恩即行釋放伊精力已衰并非不可少之人亦不足再加錄用著即令其回籍閉門思過閔鶚元益當感激朕法外施恩自知愧悔欽此

1182 乾隆五十六年十月初四日内閣奉

上諭前據鑲白旗漢軍都統德保奏雲南勒休知府劉杰久未歸旗拖欠咨追官項降旨令富綱等嚴查將劉杰同伊子劉門變劉燈解部治罪茲據該督撫查奏劉杰有應賠銅廠銀兩及另案粵鹽餘息於勒休後留滇追緣久未完解據稱家有產業尚可回旗變抵及具報起程日期後又復屢次藉病延挨經該督撫派員管押始行起程是劉杰

在滇就延至六年之久明係有心逗遛不願回旗竟思藉患病為辭久在外省居住其罪實不可逭劉杰即著革職發往伊犁効力贖罪現在行抵何省地方即著該督撫截留以已力由彼逕行發遣若再逗遛著該督撫即行拏問解京正法伊子劉門變劉燈俱著銷除旗檔聽其為民所有應賠銀兩即交該旗將其家產入官變抵以清官項至富綱譚尚忠任聽劉杰在滇省久住並不早為押令起程均屬不合著交該部嚴加議處欽此

1183

臣等遵將福康安等奏續獲崖州洋面拒捕戕官之首夥各犯審明分別正法一摺詳細閱看內李廣才等二十一犯業經該督等先行正法其餘並未上盜被脅關禁各犯俱問擬斬候監禁三年再行發遣係照閩省洋盜新例辦理臣等俱照擬核覆惟查關應華一犯係被李廣才擄捉過船逼脅扳槳並未同行上盜且旋即逃回於到案首先供出各船首夥盜犯姓名得以按照等獲與本年九月內勒保審擬青海蒙古

勾引番賊拒捕傷斃扎薩克案內之扎什一犯  
到案後供出首從多人奉

旨免死釋放情節相同但闕應華究係海洋匪犯未  
便竟予省釋似應照免死夥盜供出首盜逃匿  
地方即行拏獲改擬杖流之例仍擬滿流臣等  
於摺內改擬核覆謹

奏

十月初四日

1184

大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士兩廣總督公福 駐藏大臣都統

奎 福建水師提督兼臺灣鎮總兵哈 乾隆

五十六年十月初五日奉

上諭奎林等奏拏獲圖誘生番滋事匪徒審明定擬  
一摺該犯彭貴生因與泉州人不睦輒敢勾引生  
番出山欲加殺害以圖洩忿此事甚有關係現已  
將該犯拏獲搜出書信不致滋事生端若此信寄  
到而生番等頑悍無知竟聽從出山將三角湧莊

居住之泉州民人妄為殺害更復成何事體豈能  
置之不問必將生番痛加剿戮又當致啟衅端所關  
非細此等要犯既經拏獲審出確情自應立正刑  
誅以示懲儆乃奎林仍復拘泥請旨殊不可解况  
伊自任臺灣總兵以來於該處搶奪鬪毆及滋事  
不法匪徒審明後即行正法者不一而足且有案  
犯情罪尚不致即予立決而以臺灣民風獷悍從  
重辦理者亦復不少何獨於此等勾引生番殺人  
洩忿事關構釁重大之犯轉不敢請王命即行正  
法耶奎林平日辦事於輕重緩急機宜不能卓有  
把握忽昧忽明即此可見是以朕於科爾喀侵擾  
後藏一事慮及奎林不能獨當其任復令福康安  
來京面授機略前往督辦奎林務當痛改舊習倍  
加詳慎毋致臨時稍昧事機以期速藏膚功方為  
不負任使至臺灣為五方雜處之地匪徒兇棍最  
易滋事奎林在彼力加整飭有犯必懲積習尚未  
能盡改哈當阿到任後於奎林辦理得宜之處總  
當仿照而行若似此案之不知輕重拘泥失當則  
不可踵其所為所有彭貴生一犯即著處斬其未

獲之饒阿俊黃管二犯並著哈當阿等飭屬嚴密緝拏務獲歸案審辦將此傳諭奎林哈當阿並諭福康安知之欽此遵

旨寄信前來

1185 乾隆五十六年十月初五日奉

旨此案所控情節係蠹役舞弊索詐浮收案關田賦經徵非尋常控詞可比雖所稱請將自置地三十餘項全數交官以免拖累之處似非情理但節次在巡撫藩司衙門控告未經審結不便再交該省巡撫審辦致滋迴護著派劉我吉慶馳驛前往提集人証秉公研審定擬具奏所有隨帶司員亦著一併馳驛並將原告楊淑照例解往備質欽此

1186 乾隆五十六年十月初五日內閣奉

上諭孫士毅奏新授浙江黃巖鎮總兵諸神保呈稱現值科爾喀滋擾後藏情愿赴藏隨同帶兵進剿等語所請甚屬可嘉諸神保即著留於川省遇有

續調官兵令其帶往俟有川省總兵缺出即行補用所有浙江黃巖鎮總兵員缺著海通保補授欽此

1187 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江提督陳 乾隆五十六年十月初五日奉上諭據陳杰奏外委陳學明巡洋船隻駛至沙鑊洋面被盜拒傷搶劫軍械現在馳赴黃巖督緝等語陳杰前經屢次獲咎朕加恩棄瑕錄用復授為浙江提督自應感激朕恩倍思奮勉乃自到浙以後祇係循分供職並無認真出力之處即如上年温州洋盜各犯俱由閩省拏獲浙省僅獲盜一名又廣東崖州盜案節經閩粵督撫飭屬拏獲多名分別正法而浙江未聞就獲多人可見陳杰任意疎懈不能嚴飭所屬實力巡緝以致復有巡船被劫之事殊屬有負委任甚不稱意陳杰著嚴行申飭現在該提督業已前赴黃巖查緝務將此案盜匪迅速全行捕獲從重辦理若再不認真督緝致令遠颺必將陳杰治罪不能稍為寬貸也今獲犯否

將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1188 乾隆五十六年十月初五日內閣奉

上諭本日召見新選福建延建邵道承勲清語雖屬平常但前在川省歷任有年該處情形諳習現在辦理軍糈需員差委即著馳驛前往四川交該署督孫士毅差遣委用遇有相當道員缺出補用所有福建延邵道員缺著蔣見美補授欽此

1189 乾隆五十六年十月初五日內閣奉

上諭本日朕閱山西省情實人犯招冊內絞犯余文全一起因恨伊胞叔余發不行周濟起意將其年甫十二之幼子余興成子致死洩忿隨詎入場內揪倒在地用石連毆殞命又絞犯孫式漢一起因年甫十歲之小功堂姪孫寬漢子攜取所借鐵抓欲走該犯奪抓毆砍孫寬漢子倒地憶及其父母相待刻薄頃起殺機用鐵抓連砍殞命以上二案

刑部均照原擬依尊長謀殺本宗卑幼律問擬絞候入於情實辦理未為允協尊長致死卑幼其情節輕重原有區別如卑幼果有不安本分下流為匪等情為尊長者訓誨不悛恐貽羞族黨以致責打殞命自應按照定例問擬勾到時尚可不行予勾若因挾嫌懷忿輒倚尊長名分故行毆打致死甚或覬覦家貲肆意凌雲毆斃卑幼且其中致絕人子嗣者有之是其殘忍已極恩義斷絕即當以凡論不得再援尊長之例按照定擬今余文全因伊胞叔余發不行資助輒將大功服弟余興成子用石毆斃孫式漢因孫寬漢子攜取鐵抓奪毆憶及其父母相待刻薄頃起殺機是其致死緣由實因洩忿利己慘斃幼孩情節均屬殘忍自應即以凡論乃刑部仍照尊長致死卑幼律問擬絞候引用例條未免牽混殊非弼教明刑之義嗣後凡遇尊長謀殺本宗卑幼之案其應如何分別案情定擬罪名之處著軍機大臣會同刑部悉心定議具奏欽此



1190 乾隆五十六年十月初六日内閣奉

上諭貴州貴陽府知府員缺緊要著該督撫於通省知府內揀選一員調補所遺員缺著覺羅有德補授其所遺員缺著陳邦泰補授欽此

1191 乾隆五十六年十月初七日内閣奉

上諭福建興泉永道員缺著德泰補授欽此

1192 本月初六日兵部將直隸總督梁肯堂保列一等之張家口協副將恩特黑默陞任兩江總督

孫士毅保列一等之江南提標中軍叅將曾攀

桂山東巡撫惠齡保列一等之青州營叅將保

泰臺庄營叅將王文雄陝甘總督勒保保列一

等之督標左營叅將哈明阿等帶領引

見奉

旨恩特黑默曾攀桂保泰王文雄哈明阿俱著交軍

機處記名欽此

十月初 日

賞唐顏真卿書朱巨川告身墨刻名單

1193 乾隆五十六年十月初七日奉  
旨成策著改為革職從寬留任餘依議欽此

1194 乾隆五十六年十月初七日奉

旨王振和鄭殿燦王阿開鄭阿日王朝隴王振春鄭阿振俱著即處絞餘依議欽此

1195 擬

賞唐顏真卿書朱巨川告身墨刻名單

八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿恩阿哥

綿億阿哥

綿惠阿哥

綿志阿哥

綿勤阿哥

綿懿阿哥  
 綿總阿哥  
 綿德阿哥  
 綿慶阿哥  
 綿寧阿哥  
 奕純阿哥  
 奕紹阿哥  
 載錫阿哥  
 禮親王永恩  
 睿親王淳穎  
 豫親王裕豐  
 肅親王永錫  
 莊親王綿課  
 怡親王永琅  
 克勤郡王雅朗阿  
 順承郡王倫柱  
 裕郡王亮煥  
 誠郡王弘暢  
 和郡王綿備

御前額駙拉旺多爾濟

豐伸殷德

德勒克

貝勒永筠

永蓋

綿律

綿譽

貝子弘閔

弘謙

永碩

永澤

綿溥

大軍機  
大臣阿桂

和坤

王杰

福康安

孫士毅

福長安

董 誥  
慶 桂  
大學士 嵇 璜  
尚書 劉 墉  
巴 延 三  
常 青  
劉 棻  
胡 季 堂  
金 簡  
留 保 佳  
御左 舒 常  
御史 紀 昀  
侍郎 瑪 興 阿  
保 成  
沈 初  
金 士 松  
吉 慶  
蔣 賜 棨  
慶 成

韓 鐸  
蘇 凌 阿  
劉 秉 怡  
德 明  
鐵 保  
彭 元 瑞  
和 琳  
趙 鏌  
穆 精 阿  
張 若 濤  
王 德  
王 昶  
德 成  
成 策  
吳 省 欽  
諾 穆 親  
宜 興  
祿 康  
玉 保

僧保住  
傅森  
內閣學士 扎郎阿  
依蘭泰  
多永武  
薩哈爾濟  
李潢  
副都御史 巴彥學  
哈福納  
劉權之  
陸錫熊  
南書房 阮元  
瑚圖禮  
那彥成  
都統 麟寧  
保寧  
恒瑞  
恒秀  
都爾嘉

圖柔阿  
永慶  
寶琳  
舒亮  
善德  
魁倫  
成德  
奎林  
尚安  
總督 梁肯堂  
書麟  
伍拉納  
畢沅  
勒保  
鄂輝  
富綱  
管幹珍  
蘭第錫  
李奉翰

提督閣正祥

陳大用

俞金鰲

陳杰

哈當阿

瑪爾洪阿

王崇

蘇靈

觀成

孫起蛟

梁朝桂

路超吉

彭廷棟

巡撫長麟

朱珪

惠齡

馮光熊

穆和蘭

秦承恩

福崧

浦霖

姚茶

福寧

姜晟

郭世勳

陳用敷

譚尚忠

額勒春

學政吳省蘭

胡高望

翁方綱

竇光鼐

鄒奕孝

趙佑

周興岱

新

予告大學士蔡

原任尚書曹文植

1196 臣等將上四次

派出巡漕滿洲科道詳加查核除已經陞用及降調  
告假病故各員外此次帶領引

見滿洲科道並無曾經巡漕之員謹開單註明呈  
覽至本日引

見漕差之漢科道祇註出差次數而於巡視何處地  
方並未詳晰註明所辨殊屬踈忽應請將都察  
院堂官文部察議謹

奏

十月初九日

\* 上四次

派出巡漕滿洲科道各員名單

和琳 巡視濟寧漕四次已經陞用

寶岱 巡視通州漕一次現已病故

蘇楞額 巡視通州漕一次現已病故

永清 巡視天津漕一次現告病假扣除

五泰 巡視通州漕一次係漢軍歸入漢員班內

扎拉豐阿 巡視天津漕一次已經降用主事

1197 乾隆五十六年十月初九日內閣奉

上諭福建福州府知府員缺緊要著該督撫於通省  
知府內揀選一員調補所遺員缺著金城補授欽  
此

1198 乾隆五十六年十月初九日奉

旨劉惠著准其馳封該部知道摺併發欽此

1199 乾隆五十六年十月初九日奉

旨許國寶著即處斬餘依議欽此

1200 乾隆五十六年十月初九日奉

旨黃逢時著即處斬餘依議欽此

1201 遵

旨將本日和琳等奏到之摺交德成巴延三閱看據  
德成稱我從前奉

命前往陝西會同巴延三履勘潼關工程時所估磚

石泊岸原因彼時黃河逼近東門是以估用石工離西門較遠是以估用磚工今黃水溜勢日趨西門轉距東門較遠此係河流隨時變遷我當初勘估時實在意想不到至東西二門舊時尚有磚牆北門止存基址從前該處城垣原非一律土築我勘估時估得舊磚九十餘萬內約得整磚四十餘萬添補抵用現有底冊可查再泊岸工程我因潼關北面一處係平地臨河舊時原有護城西頭並露有磚塊是以分別添估磚石泊岸其南北水關二座原為宣洩潼關而設因恐山水暴漲水勢勇猛提板不及所以添蓋閘樓內安轆轤以便臨時提放便捷不至閘板皸裂至堆撥房七十座係拘泥志書內原有此項房屋是以照數添建查乾隆九年原案因係補築城身城樓止用銀二萬餘兩此次我一時糊塗執拘不查舊案輒任意浮估至虛糜帑項一百三十餘萬實屬罪無可辭今看和琳等原奏如夢方醒追悔無及至匠人甯保全等四人我在關東查勘城工時見他們工作做得好

後來徐大文到京見我說起西安城工要找兩個懂得城工的匠人我因告知徐大文工城熟練的匠人如甯保全等曾辦過關東工程尚可用得這句話原告訴過徐大文的是他自己催去修理西安城工至他們四人在彼辦理潼關工程係該省工員自行令其接辦並未向我說過但此項工程我一時拘泥前後情節俱經奏明是以未能擗節辦理以致多費帑金實屬糊塗只求

皇上天恩將我從重治罪等語又據巴延三稱我從前與德成會同勘估潼關工程時東北角城根泊岸曾與他講論過因他係工程熟手我素來本不諳悉是以勘估隨同估入的但我受恩深重不能慎重節省隨聲附和咎無可辭只求皇上將我治罪等語謹

奏

十月初十日

1202 乾隆五十六年十月初十日內閣奉

上諭額勒春奏黔省分發試用人員現在將次用完遇有缺出委署乏人請揀發知州二員知縣四員來黔委用等語著照所請派福長安劉墉瑪興阿會同該部於候補候選人員內照例揀選引見發往欽此

1203 乾隆五十六年十月初十日奉

旨額爾登布現在病故所有粵海關監督著盛住去欽此

1204 乾隆五十六年十月初十日奉

旨訥清額著准其贖罪欽此

1205 臣阿 等謹

奏為遵

旨議奏事九月二十九日左都御史紀昀奏

文源閣書覆勘先完請將詳校官等分別議處一

摺奉

旨軍機大臣議奏欽此 據紀昀摺內稱臣於奉

命之後傳齊原赴熱河各員宣示

諭旨嚴切申明各該員俱感激悚惶認真搜別計所

簽舛漏較初次詳校竟增數倍之多凡一字半

字之空白悉皆檢出各調取底本補填其餘卷

頁脫落行款參差以及流水錯誤者亦俱抽換

修整謹繕清單恭呈

御覽請

旨照例分別議處至空白之中有原注闕文一項詳

校官因已聲明遂不查核 臣偶覺數處可疑調

取底本查對中有實係原闕者亦有底本不闕

而憚於書寫已經挖補而懶於查填竟自捏注

闕文者實係有心弊混與偶然舛漏不同已各

於單內開明應請

旨將濫邀議敘之謄錄查明尾頁姓名一併議處此

外更有底本遺失抵以他書正本未全偽注闕

卷致詳校官無從舉發者弊混均屬相同亦於

單內開明應請

旨交



武英殿查明經手提調及濫邀議敘之收發供事

一併議處所闕各書京師有本者現俱寫補其無本者原採進之省分當有別本流傳應請

旨行知各督撫購寫補送以成全璧

御製詩文應弁各書之首者恭檢

文源閣所載亦與

文津閣相同伏查

御製永樂大典詩文向在翰林院尊藏

御製各省遺書詩文向係

發交

武英殿提調繕寫現已行文兩處恭錄全本一俟

覆到即敬謹補入等語臣等伏查四庫全書為

天祿石渠之藏

皇上下文稽古蒐輯遺書

特令分建延閣度置秘籍足以垂示萬古惟卷冊浩

繁繕錄每多錯誤從前總校分校等官未能警

勤無瑕屢經

宸覽指出訛舛是以於乾隆五十二年間

特命派九卿及部院官員覆加詳校自應悉心研核

俾臻美善今據紀昀覆勘

文源閣書完竣奏稱所簽舛漏較初次詳校竟增數倍之多凡一字半字之空白以及卷頁脫落行款參差流水錯誤悉皆補填抽換修整等語是詳校各員仍未逐一細加讐校以致謬誤尚多疎忽之咎實所難辭自應照紀昀所奏將單開各員交部照例分別議處查五十二年詳校全書時其原總校分校各員或罰令看書或照例議處或罰繳廉俸俱係分別辦理今既據紀昀另摺內稱現在留空函書俱需詳校應如所奏令紀昀查明訛舛較少者罰令看

文源閣留空函書其訛舛較多過失重者罰令前往熱河看文津閣留空函書其現在並不在京不能令看留空函書之各員除病故革職休致不議外其現膺外任及丁憂告假各員仍交該部照五十二年之例分別辦理以示懲儆又摺內稱空白之有原註闕文一項經紀昀調取底本查對竟有底本不闕而憚於書寫或已經挖補而懶於查填竟自捏註闕文希圖朦混實與尋常舛漏不同應如所奏交

武英殿查明單開捏註闕文之各書尾頁上騰錄姓名交部議處又據稱有底本遺失抵以他書正本未全偽註闕卷致詳校官無從舉發者查書繕寫時俱由

武英殿提調檢查底本給發各騰錄並派有供事專司收發乃既不加意檢點任其遺失又復抵以他書及偽註闕卷是供事弊混提調不行查出應如所奏交

武英殿查明原經手之提調等及濫邀議敘之收發供事一併議處至

文淵

天津兩閣書現據紀昀等陸續覆勘俟完竣時查出如有前項各弊即照此次議處之例分別辦理再摺內稱所闕各書外省尚有流傳別本請旨行知各督撫購寫補送一節臣等查此項書籍俱係外省搜採遺書並非流傳經見之本可以輟轉

尋覓况

四閣書籍並非同時繕寫或有此闕而彼不闕者應令紀昀等覆勘時將何閣何書闕何卷頁之

處分別記檔互相比較查核就所有以補所無並行知翰林院於所貯底本內詳檢補寫自可無虞缺佚似毋庸行知各督撫購寫補送致令奉行不善轉多滋擾又

御製題書各詩文應弁書首者本年六月間經臣等於

文津閣抽查各書竟有未經恭載者今據紀昀覆勘

文津閣書亦與相同查向來

御製永樂大典詩文向在翰林院專藏

御製各省遺書詩條發交

武英殿繕寫現據紀昀行文兩處恭錄全本應俟覆到之日交紀昀恭錄補入其

文淵

文津二閣書內亦令紀昀覆勘時查明應行補錄者一律恭錄裝入其

文溯閣書內一分即請交陸錫熊恭錄俟張燾送書歸架時查明補裝如此酌量辦理庶使任鑒校之責者知所懲誠而

秘閣書籍亦可盡歸完善所有臣等酌議緣由理  
合恭摺具奏伏乞

皇上訓示遵行謹

奏

十月初十日

1206 臣阿 等謹

奏為遵

旨議奏事九月二十九日左都御史紀昀奏籌辦新

添空匣諸書一摺奉

旨軍機大臣議奏欽此 據紀昀摺內稱四庫全書

共六千一百四十四函其中先行寫就已經詳

校者五千八百五十餘函乾隆五十四年以後

新修及抽換各書寫成補入未經詳校者二百

五十餘函均係

武英殿提調陸續送進其時書館已收分校已散

未能一一校讐訛舛頗多必須派員細校此次  
覆勘

文源閣書現有應議者多員請以

文源閣應議之員即罰看

文淵閣新書將來

文淵閣應議之員即罰看

文淵閣新書於中擇其條數較多過失較重者並

罰看

文津閣新書除熱河道路較遠運送不便仍令前

往就書外所有

二閣新書有挖改抽頁及成卷成部駁換者均令

武英殿原提調賠寫其熱河新書挖改抽頁臣即

就近辦理成部成卷駁換者臣帶回交原提調

賠寫送往等語臣等伏查四庫全書共六千一

百四十四函內五千八百五十餘函早已繕成

歸架業於乾隆五十二年間派員詳校一遍其

各館新纂各書共二百五十餘函俱係留空於

乾隆五十三年陸續繕補未經詳校自應一

律派員校讐俾歸完善惟是卷冊較繁非數人旬日所能藏事若不認真辦理仍屬有名無實查乾隆五十二年詳校

三閣書時查出應議之原校各員仍罰令看書在案今此次詳校各員既經派同校勘不能恣心詳讐致有訛闕實難辭咎應如紀昀所奏將此次應議之詳校各員即罰看

文源閣新書並令

武英殿及各館檢出留空函書各底本送交紀昀轉發各員逐一查對每員每日按照舊例各看二萬字立定章程計共書一千六百餘冊即於本年冬間飭令趕緊校竣仍令紀昀總司督率隨時查察其

文淵閣留空函書一分應俟紀昀覆勘完竣時將查出應議之詳校各員即照此次所定章程畫一辦理至

文津閣一分應俟

文淵兩閣書校竣之後令紀昀查明應議之詳校各員擇其條數較多過失較重者即令隨同紀

昀前赴熱河詳加校閱以示薄懲至所稱

三閣新書內如有挖改抽頁及成卷成部駁換者仍令原提調賠寫之處查此項留空書籍內三通方畧

國史三館之書俱係奏明送交

武英殿校對裝函自有經手校對之員應將查出挖改抽頁及成部成卷駁換各書發回

武英殿查明經手原提調及校對各員分別賠寫其熱河一分內除挖改換頁業經紀昀自請就近辦理外如有成部成卷駁換者亦一併令紀昀帶回交

武英殿提調及校對各員賠寫再臣等查  
盛京

文淵閣全書及留空函書事同一律曾經陸錫熊督同各員前往詳校因將此分書內有無訛舛之處面詢陸錫熊據稱伊於上年往

盛京詳校

閣書業將應行抽改駁換者查明改正其留空函書彼時俱亦歸架亦經校閱更改似可不至仍

滋謬誤但卷帙繁多難保盡無一二掛漏此項  
書內應行賠寫抽換之本前經  
奏准交未赴

盛京之張燾賚往歸架現在賠寫各書將次告竣  
請令張燾前往覆看等語臣等查

文溯閣書函卷帙浩繁自難保無錯誤應令張燾  
先行前往抽閱若訛闕較多斷非一人所能辦  
理即令呈明軍機處請

旨仍令陸錫熊及前此同往看書各員前赴

盛京覆加詳閱如有挖改換頁等事仍即就近辦  
理其有成部成卷駁換者亦一併帶回交

武英殿查明照例分別賠寫送往歸架又查

摘藻堂

味腴書屋所藏薈要二分亦有留空函書卷冊較  
少業於上年經臣等議將詳校

文溯閣書內之應議總校分校各員陸續校竣但  
恐尚有舛誤亦應請俟

四閣書籍詳校全竣後交與紀昀陸錫熊二人就  
近抽查如有駁換并交

武英殿查明分別賠寫再留空函書內尚有八旗

通志等書現在尚未辦竣應俟各書全竣後統

交紀昀陸錫熊率同各員詳細校勘如此陸續

閱校庶各員得以次第辦理而

秘閣書函亦可盡臻完善所有臣等酌議緣由理

合繕摺具

奏伏乞

皇上訓示遵行謹

奏

十月初十日

<sup>1207</sup> 乾隆五十六年十月十一日內閣奉

上諭勒保奏拏獲匪犯附天保解京審訊一摺附天

保從前在甘肅地方控稱世襲公爵誑騙店戶廖

珂給與家信令至京城住宅投遞保薦廖珂嗣因

廖珂被獲究出附天保誑騙情節曾經降旨令該

督撫密訪嚴拏務期弋獲今靖遠縣知縣楊懋德

因該犯形跡可疑稟請咨查解審經勒保提犯飭委署蘭州府知府清安泰嚴加鞠訊審出節次撞騙緣由並提從前被騙之腳戶楊應強等認係附天保屬實并據供出曾在山東滋陽縣地方經兗州府差役盤獲發縣審訊假稱武舉取結釋放又在山西五寨縣地方犯賭被拏經該縣責處釋放各情節此案附天保聞拏潛匿事閱六年該府清安泰奉委審訊即能究出實情尚屬留心能事著送部引見該縣楊懋德因該犯形跡可疑即行稟明解審以視滋陽五寨兩縣於拏獲時任其捏供僅予杖責釋放者尚屬認真亦著送部引見以示鼓勵勒保能督飭所屬審究得實不致要犯始終漏網著交部議敘至滋陽五寨兩縣於該犯到案時不能悉心研究視為尋常匪犯就案完結殊為疎縱著山東山西巡撫將該府縣查明叅處此等逃匿重犯各督撫若能嚴飭所屬上緊查拏留心偵緝斷無日久不獲之理即如段文經一犯此時如未伏冥誅亦必因事隔多年查拏踈懈變易名姓混跡平民往來遊蕩亦未可定地方官如果能隨時隨處認

真訪緝自無難將重犯弋獲著各督撫務督飭地方文武員弁於關津隘口見有形迹可疑者即行細心盤詰嚴密訪拏若能將段文經拏獲必將該地方官立加陞擢毋得視為海捕具文久而生懈倘拏獲後審出該犯曾在何處逗遛未經查拏究辦必將失察之地方官從重治罪勒保摺並發欽此

1208 乾隆五十六年十月十一日奉

旨熱河芳園居收貯銀一百萬兩內除已撥出修理普陀宗乘廟工備用之三十萬兩外其餘七十餘萬兩將來留備該工不足之需並各項工程歲修之用著再於戶部庫存元寶內撥出一百萬兩交芳園居收貯欽此

1209 本年九月初二日湖南巡撫姜晟奏請以衡陽

縣知縣黃允洙調補長沙縣知縣一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

將該員照例議駁於本日具

題臣等謹遵

旨擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

1210 乾隆五十六年十月十二日奉

旨黃允洙著照該撫所請行欽此

1211 乾隆五十六年十月十二日內閣奉

上諭前據勒保等奏潼關城垣工程修理完竣請派

大臣驗收當經派令和琳馳驛前往詳查履勘昨

據和琳奏稱該處工程從前經巴延三德成會同

勘估時將不應添修之水關泊岸等工率行浮估

并城上添建堆撥房七十二座尤屬虛糜帑項以

致用銀一百三十餘萬兩之多現擬大加刪減等

語因令軍機大臣傳到巴延三德成面加詢問伊

等俱自認糊塗錯誤咎無可辭是其任意浮估已

屬顯然現在和琳會同秦承恩在該處核實查辦

巴延三德成俱係革去頂帶之員即著革任自備

資斧速行前往潼關工所眼同和琳等當面講求

以服其心所有戶部尚書員缺著福長安調補其

工部尚書員缺著金簡轉補所遺工部漢尚書員

缺著加恩以彭元瑞補授伊係甫經獲罪之人念

其學問尚優自降用以來辦理石渠寶笈尚知奮

勉是以加恩錄用彭元瑞益當感激朕恩倍加謹

慎勉圖後效無負朕宥過施恩至意欽此

1212 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸山東河南江蘇安徽各督撫 乾隆五十

六年十月十三日奉

上諭本年直隸順德廣平等府屬州縣因夏秋雨澤

未能深透收成歉薄山東萊州府臨清等屬州縣

間有被旱被水之處河南彰德衛輝懷慶等府屬州縣本年得雨稍遲收成僅止五六分又江南蘇州常州等府屬及海州之沐陽縣本年春夏之間雨水較多沐河漫溢低窪地畝間被淹浸安徽鳳陽潁州泗州等府屬州縣低窪之區今夏雨水稍多亦間有被淹處所收成均未免歉薄業經降旨將本年應徵銀米並節年帶徵等項分別緩徵停展令該督撫實力查辦以示體卹第念各該處被水被旱地方秋收既未豐稔于明春青黃不接之時民力究恐不無拮据是否應需賑濟或酌借籽種口糧之處著傳諭梁肯堂惠齡穆和蘭長麟朱珪即行體察情形悉心履勘據實覆奏候朕於新正酌量加恩降旨將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1213 查本年直隸山東河南江蘇安徽五省各屬州縣內據該督撫奏報間有被水被旱情形是否應需於新正

加恩賑濟之處臣等謹擬寫詢問梁肯堂等

諭旨進  
呈謹  
奏

十月十三日

1214 乾隆五十六年十月十三日奉  
旨何桂著准其貶封該部知道摺併發欽此

1215 乾隆五十六年十月十三日奉  
旨著照所請行欽此

山東省請撥地方人員在河  
工差遣委用

1216 乾隆五十六年十月十三日內閣奉  
上諭禮部漢侍郎員缺著劉權之補授欽此



1217 同日內閣奉

上諭工部滿侍郎員缺著松筠補授欽此

1218 乾隆五十六年十月十五日奉

旨汪啟楊宗澤張濯胡敖王延年劉博李殿魁劉成喜馬俊俱著准其貶封該部知道摺併發欽此

1219 大學士公阿 大學士伯和 字寄

駐藏大臣都統奎 傳諭臺灣道楊 乾隆五十六年十月十六日奉

上諭奎林等奏彰化縣民劉文騰喊稟被陳非王庇二犯砍傷刦取番銀業將陳非王庇拏獲定擬斬決即請王命照例梟示等語此案陳非王庇于五十五年十一月內探知劉文騰在瓦窰庄討賬帶有多銀相約在途截刦即將劉文騰用刀連砍重傷搜取番銀分散不法已極奎林等自應飭屬上緊查拏即時就獲俾得速正刑誅乃遲至本年八月內始行辦理殊屬遲延疎玩現在該二犯業經

拏獲幸未始終漏網倘竟不能弋獲以致兇惡重犯偉逃顯戮奎林等疎縱之咎更何可辭至摺內所稱賊番字樣不成文理已用硃筆添改銀字可見奎林等於陳奏事件並不留心尤屬疎忽著傳旨申飭將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1220 大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建水師提督兼臺灣鎮總兵哈 傳諭福建臺灣道楊廷理 乾隆五十六年十月十六日奉

上諭本日奎林奏到拏獲行刦盜匪並聽糾入會及偷挖硝磺各犯等摺已分別交軍機大臣會同該部核辦矣臺灣乃五方雜處之地匪徒兇棍往往滋事近年以來奎林在彼力加整飭有犯必懲乃積習未能盡改尚有逞兇行刦偷挖硝磺斤及糾夥重興天地會等事可見該處民風頑悍非一時所能速化現在哈當阿到彼接任務須督飭所屬於一切整飭地方緝拏匪犯諸務仿照奎林舊辦章

程認真嚴辦以期綏靖海疆方為不負委任將此諭知哈當阿並傳諭楊廷理知之欽此遵

旨寄信前來

1221 乾隆五十六年十月十六日奉

旨前將土爾扈特喇嘛薩瑪林所供各款令理藩院行文俄羅斯薩納特衙門查詢去後今據該衙門覆稱前信係屬偽造向來此等書信從無用印兩顆之例况鈐蓋之處不合款式並非邊界頭目手記我國於天朝素習恭順不敢稍存異念所有從前未結各案懇求早為割斷實深願望至土爾扈特久已投誠大國生聚有年安居得所豈敢異其復還故土想蒙大皇帝俯念忱悃信其無他干犯邊界之說實無其事從前洽克圖貿易通商于俄羅斯大有裨益敢乞施恩復准開市等語此事前據特成額奏到之時朕即疑其語屬無稽不足憑信是以明降諭旨令將薩瑪林解京審訊嗣因該犯不能確指實據隨行文俄羅斯薩納特衙門查詢明確據實登覆今既據稱並無其事是薩瑪林

前次帶投書信其為捏造無疑而俄羅斯並無誘致土爾扈特之心尤可槩見至所懇求通貿易措辭極為恭順已降旨准其通市矣並著保寧永保將薩瑪林假造書信及俄羅斯懇求開市之處傳諭策凌烏拔什令其不必心存疑惑再伊屬下人等前次聞知薩瑪林捏造謠言未免各懷畏懼即著策凌烏拔什明白宣諭令伊等疑懷盡釋守分安居以期承受朕恩愛深恩永綏邊境至意欽此

1222 乾隆五十六年十月十七日內閣奉

上諭據姜晟奏湖南候補及試用知縣不敷差委請揀發知縣六員來楚委用等語著照所請派福長安劉墉瑪興阿會同該部於候補候選知縣內照例揀選引見發往欽此

1223 乾隆五十六年十月十七日內閣奉

上諭姜晟奏審擬桑植縣役王清仇殺王潮祚等七命并将捏名朦詳之知縣夏名陞叅革治罪及自請與司道等議處一摺本年河南商邱縣民人張景仲逞兇殘殺十一命地方官平日失于化導曾降旨將該府縣及該管各上司交部分別議處今湖南省王清一案其殘殺多命與豫省張景仲情罪相同本應將該撫等照例議處但此案該縣夏名陞規避處分將該犯改名捏詳該撫司即能審出實情據實叅奏並不稍存迴護所辦尚屬認真姜晟恩長俱著加恩免其議處餘著軍機大臣會同法司核擬速奏摺併發欽此

1224 據奏事太監傳

旨湖南桑植縣役王清戕殺多命一案該省巡撫臬司辦理尚好俱著交部議敘但查本年六月內河南商邱縣民人張景仲殺傷多命一案奉旨以該府縣及該管各上司失於化導交部分別議

處在案今湖南省王清一案與張景仲案情相同是以該撫於摺內自請與司道一併交部議處惟此案該縣夏名陞捏名朦詳之處該撫及臬司審出實情即行叅奏並不迴護應請免其議處已足示獎似毋庸再予議敘致與前案不符恭俟

奏 謹

十月十七日

欽定後臣等於議稿內將免其議處之處一併議入

1225 乾隆五十六年十月十七日奉

旨蔡綿著即處絞餘依議欽此

1226 乾隆五十六年十月十八日內閣奉

上諭據孫士毅奏審明郭洛克搶奪番匪按律分別定議一摺此案番賊糾夥搶劫傷斃事主實屬兇頑不法前經降旨以總兵張芝元諳悉番情令其

前往辦理今張芝元帶同遊擊關聯陞劉國劉馳赴該處除當場殺斃跌死各賊番外擒獲寧柯等七十五名解省審辦甚屬奮勉張芝元關聯陞劉國剛俱著交部議敘以示獎勵至案內賊匪寧柯等十犯業經該督恭請王命分別凌遲斬梟七勒等十犯俱係同謀搶劫法無可寬著照該督所奏即行斬決餘均照所奏完結其在逃未獲之甲讓等五犯仍著該督嚴飭土司等實力查拏務期迅就弋獲辦理示懲該部知道摺併發欽此

1227 乾隆五十六年十月十八日奉

旨前經諭令戶部於庫存元寶內撥出一百萬兩解交熱河芳園居收貯著於廣儲司造辦處庫貯銀奏撥一百萬兩還欵欽此

1228 大學士公阿 大學士伯和 字寄

奉天府府尹 直隸總督梁 乾隆五十六年十月十八日奉

上諭刑部議覆直隸撫寧縣民王二用刀治病釀傷

劉蔣氏身死一本此案據王二供五十年上在奉天承德縣東八家子地方做工害起病來那裡伏魔庵有住持于道給藥醫治痊愈又將用刀切病的醫法傳授並教給治病咒語等供伏魔庵住持于道傳給此等邪法妖言煽惑愚民致戕人命最為可惡不可不嚴拏懲辦該犯于道現經直省關提尚未到案著傳諭該府尹即行飭屬查拏務獲解交刑部審辦並著梁肯堂一體飭屬嚴緝毋致匪犯漏網將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1229 乾隆五十六年十月十八日奉

旨此案著交劉我吉慶侯河南控案審明完結後即馳驛前往江西提集人証秉公嚴審定擬具奏其原告周鼎生等著照例解往備質欽此

1230 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差尚書劉 侍郎吉 乾隆五十六年十月十八

日奉

上諭步軍統領衙門奏江西崇義縣民人周鼎生等呈控周聖傳等創毀伊家祖塋自將祖父母棺木盜葬一摺此案周鼎生等在本省督撫司道府縣衙門疊經控告該省各官不但不為訊斷且知縣押令和息知府控改圖樣如果所控屬實自應徹底查明嚴叅究辦但係一面之詞或因挾嫌控真圖拖累亦應究明懲辦以儆刁頑著傳諭劉我吉慶于河南控案審明完結後即馳驛前赴江西提集人証秉公嚴審定擬具奏除將原告周鼎生等交該部照例解往備質外所有步軍統領衙門原摺並著抄寄劉我等閱看欽此遵

旨寄信前來

1231 乾隆五十六年十月十八日奉

旨吳省蘭著仍留順天學政之任欽此

1232 乾隆五十六年十月十八日奉

旨向來尊長謀殺本宗卑幼問擬罪名雖有定例但案情輕重不同如係謀財害命強盜放火殺人及圖姦謀殺並因挾有父兄夙嫌遷怒無辜幼小子嗣弟姪故行殺害以致絕人子嗣則殘忍已極恩義斷絕自當即照平人科斷此為明刑弼教起見並非有意從嚴是以令軍機大臣會同刑部原定條例分別妥議具奏今據準酌案情增定條例於情法益昭平允著依議行法可定而情不同仍在該部就事一準情酌理耳欽此

1233 乾隆五十六年十月十八日奉

旨李亞霞著即處斬餘依議欽此

1234 乾隆五十六年十月十八日奉

旨王勝明著即處絞餘依議欽此

1235 啟者本日總兵諸神保奏請

陞見一摺奉

硃批准汝來欽此查該鎮前經懇請留川

中堂代為具奏欽奉

諭旨嘉獎令其留川帶兵補用川省總兵之缺本日

具奏之摺

上照例批發未經

留意亦不便再為請

旨此時川省需人之際該鎮自應遵照前

旨軍營効力所有原摺特寄交

中堂傳知該鎮不必拘泥前來致干詰詢特此

附報奉

聞並祈遇便

示復毋庸形諸章奏也尚候

近祺不一

和阿 同具

十月十八日

1236 乾隆五十六年十月十九日内閣奉

上諭姚茶奏據廣豐縣知縣曹德元稟稱告假在籍

侍衛嚴夢彪赴縣拜謁將紙條開寫米四百石交

管門家人又復乘馬赴倉將完糧花戶鄭才左腿

踏傷請旨革職等語嚴夢彪告假期滿不即赴京

銷假當差藉稱患病在籍逗遛擅入縣署并敢乘

馬赴倉踏傷花戶甚屬奇事嚴夢彪著革職拏問

交該撫提同案內人証嚴審定擬具奏至該侍衛

在籍捏病遷延其代為詳報展限捏病之該縣府

咎亦難辭並著該撫查明叅奏摺併發欽此

1237 查侍衛嚴夢彪於五十五年十一月告假回籍

扣至本年六月假滿未經來京經領侍衛內大

臣處於七月內行文催令銷假嗣據兵部咨稱

據江西巡撫咨覆該侍衛患病懇請展限復經

領侍衛內大臣處於九月內又行咨催是該侍

衛告假展限疊經咨催在案尚無不合似可免

其察議至該侍衛在籍捏病其代為具詳展限

之該縣府應交該撫查明參奏是以臣等擬於諭旨內一併寫入謹奏

1238 乾隆五十六年十月十九日奉

旨伊桑阿著從寬免其革任仍註冊明亮毓奇俱著改為革職留任德勒克扎布伊江阿俱著改為降三級從寬留任明興愛星阿秀林琅玕增保俱著改為降二級從寬留任佛住著照部議降二級留任遊擊阿玉璽守備胡大全前任葉爾羌遊擊王清弼前任哈密通判慶格俱著從寬改為革職留任餘依議欽此

1239 乾隆五十六年十月十九日奉

旨陳尚著即處絞餘依議欽此

陝西省私竊餉銀一案

1240 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江蘇巡撫長 乾隆五十六年十月二十日奉

上諭長麟奏調劑市集錢價一摺朕初閱時因泉貨流通隨時長落原可聽民自便但該省現在錢價過賤諸物未免增昂推原其故自因銀少錢多以致錢價日賤物價愈昂朕即想及該省暫停鼓鑄自可調劑得宜惟是銀錢互易務在商民兩得其平其應如何量為節制不使稍有窒礙之處必須籌算周詳且鎔鍊較量以及商僧情形此等細事原非朕所素諳本日復與軍機大臣講求推原該撫所稱將江省各營兵餉暫以銀兩散放並請來春暫緩開爐鼓鑄一節係為一時調劑起見與朕初意相合看來長麟於地方事務尚能留心應照所請辦理但民可使由不可使知若令小民明知其故又難保無市僧將錢文預行收積以為將來抬價牟利地步此等權宜之計祇可因時通變行之一年以收一年之效可暫而不可久如明歲停止局鑄後錢價不致日賤仍當照舊辦理即此法亦祇可行之江省錢賤之處而他省情形又各不

同亦不得一例辦理總之有治人無治法惟在封疆大吏因地制宜隨時妥辦也此治目前之急由五百里速諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1241 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年十月二十日 奉

上諭惠齡奏據茌平縣稟報接遞兩廣總督福康安自江西建昌驛馳遞五百里報匣因馬夫行至教場舖地方馬驚被跌以致報匣壓壞現提馬夫嚴訊並將不行慎選之知縣另行核辦等語驛站馬夫馳遞文報馬驚被跌原屬猝不及防途中常有之事此等文報往來地方官亦斷不敢私行偷閱捏稱馬夫跌損此次壓壞報匣諒無別項情弊該馬夫因急于馳遞以致馬驚被跌受傷其情尚屬可憫著惠齡即賞給銀五兩令其養傷以示體卹至該縣差遣馬夫馳遞報匣安能保其途間必無馬驚等事所有此次壓損報匣之馬夫及該地方

官竟可置之不問將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1242 臣等將穆和蘭奏到審擬民人許敦濟與許百

朋爭控塙基一摺詳加閱看摺內既稱許百朋違斷潛逃伊子尋父不獲畏罪投井復稱向許百朋詳加訊究竟許百朋於何時到案是否係該撫飭屬拏獲抑係許百朋自行投到該撫摺內未經聲敘僅於供單內敘許百朋供詞有小的回家一語殊欠明晰臣等謹擬寫寄信穆和蘭

諭旨進

呈謹 奏



1243

大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年十月二十日奉

上諭穆和蘭奏審擬通判王增因民人許敦濟與許百朋爭控牆基濫差斃命一摺摺內既稱許百朋違斷潛逃又稱向許百朋詳加究訊究竟許百朋於何時到案摺內未經敘入僅于供單內敘許百朋供詞有小的回家一語是否許百朋自行投到抑係該犯潛回被獲之處均未據該撫聲敘明晰所奏甚屬含糊穆和蘭著傳旨申飭仍著查明據實覆奏欽此遵

旨寄信前來

1244

乾隆五十六年十月二十日內閣奉

上諭上年恩詔內給予大小官員封典其有將應得封贈懇請照例馳封者准令該督撫據情具奏原屬推廣恩施之意但立限雖有二年今已屆滿各督撫每遇一二員呈懇即行專摺具奏朕亦不過硃批有旨而已殊屬煩瑣嗣後著各督撫將呈請

馳封之文武各員于請封限內彙齊年終具奏一次不必陸續奏請以歸簡易欽此

1245

乾隆五十六年十月二十日奉

旨李捷輝溫祥治劉天錫王德俱著准其馳封該部知道摺單併發欽此

1246

乾隆五十六年十月二十日奉

上諭愛星阿奏各處行宮請交總理工程處派員勸修一摺所稱木植間有糟朽油飾爆裂墻垣地面亦有酥城之語殊難憑信向來各處工程在工人員往往以油飾剝落地面酥城為詞朦混開銷藉以稍沾餘潤遂成陋習此等酥城剝落之處即在內廷宮殿亦所常有况各處行宮為巡幸所經暫時駐蹕不過於滲漏處所畧為拘抵以防雨水浸滲其油飾爆裂地面酥城原屬無碍何得任聽工員藉詞開報以為浮冒地步致滋糜費所有愛星阿請修各處工程止須將滲漏之處勘估粘修其餘單開各項俱可毋庸辦理除就近諭知總理工程

大臣等嗣後遇有似此等工程俱遵照此旨辦理外將此諭令知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭馬蘭鎮總兵愛星阿

<sup>1247</sup> 乾隆五十六年十月二十日內閣奉

上諭據伍拉納奏革職留緝守備富興請賞給職銜留閩差遣等語富興前于失察金門兵船被劫案內叅革留於閩省緝拏今先後緝獲盜犯多名審明辦理尚屬認真富興著照所請賞給守備職銜仍留該省差委緝捕如果始終出力俟有相當缺出該督再行奏請補用該部知道欽此

<sup>1248</sup> 臣等遵

旨將寄信鄂輝成德

諭旨交大學士九卿閱看據嵇璜等僉稱科爾喀賊

匪侵擾西藏竟敢將扎什倫布佔據搶掠非祇

索欠滋擾可以將就完結者可比

皇上命於明歲春融集兵進剿為聲罪致討之舉堂

堂正正使么膺小醜震懾

天威自可即時戡定

聖人不得已用兵之心實為天下臣民共知共見其

清還欠賬一事既已問罪興師即毋庸再為議

及

皇上明切訓示俾鄂輝等得所凜循洵為至精至當

又前後藏地窄人稠

皇上慮及驟增各處調撥之兵坐食數月虛糜軍餉

早經降

旨令續調官兵暫停進發而鄂輝率據保泰咨會紛

紛檄調設非

聖明洞燭幾先必致糧石不敷愈形竭蹶

皇上嚴加

飭諭並以一切事宜若自揣未能妥辦竟俟福康安

到日再行辦理足徵

睿謨遠運慎重周詳無微不至薩安巴塘各土司

自請帶領土兵隨往効力具見敵愾急公

皇上以大兵過境該土司惟當應付烏拉等事不必

効力戎行始見勞績

諭該督等明白宣示如或業經帶往即照例支給口

糧

深仁體恤自足使土司番兵等倍知感奮璜等恭閱  
諭旨仰見我

皇上宵旰運籌萬里以外情形靡弗炳如觀火實深

奏  
欽服之至等語謹

十月二十日

1249 遵

旨將

硃批富綱惠齡各摺交大學士九卿等閱看據嵇璜

等僉稱科爾喀滋擾後歲一事仰蒙

皇上洞燭幾先預料賊匪必行逃竄

諭令將續調滇兵停其進發茲據富綱遵奉

諭旨即將派調各兵於齊集大理時密檄總兵劉之

仁等不動聲色作為暫停休息不令兵衆咸知

致滋觀望仰蒙

批諭嘉獎此皆我

皇上指示精詳審時度勢於明春舉兵進勦既可

不悞調遣而現在暫時停止又不致虛糜糧餉仰

見

睿謨廣運悉協機宜至惠齡奏東阿縣馬夫接遞報

匪途中馬驚被跌壓損報匪該撫現將馬夫嚴

訊俟審明後再將該縣核辦恭誦

硃批馬驚常事總不必問尤仰見我

皇上辦理庶務鉅細不遺於此等夫役失悞之處

念其事出無心曲加體恤而該縣亦得邀

恩寬免實屬格外

垂慈臣等恭閱之下實深欽服之至等語謹

奏

1250 乾隆五十六年十月二十一日奉

旨刑部議覆吉林將軍審擬屈常祥戲傷米文祿身

死一案核其情節龍德成糾集多人強搶良家孀

婦以致釀成人命情殊可惡刑部照該將軍所擬僅

將該犯發極邊充軍不足蔽辜著發往伊犁給兵

丁為奴以示懲儆屈常祥因女被搶趕至龍德成寓所聽聞伊女在屋內哭喊即欲進屋拉救又被米文祿攔阻隨用刀將米文祿向戳致斃係恐伊女被姦汚迫於救護情尚可憫屈常祥應照姦夫已離姦所本夫登時逐至門外將姦夫殺死不應重律改為杖八十以昭平允餘依議欽此

1251

大學士公阿 大學士伯和 字寄

奉 順天學政吳 乾隆五十六年十月二十一日

上諭吳省蘭謝陞授內閣學士恩摺內有宣批諾之謨一語其意以內閣學士職司批本故用批諾二字但史冊所載如後漢之南陽宗資主畫諾係指太守不事事而言南齊江夏王蕭鐸學畫鳳諾係屬藩王典故均與批本無涉即朕批閱奏摺用硃筆批寫覽字亦不得謂之批諾是諾字雖係用古此處殊欠切當朕從不以語言文字責人因該學政尚稱讀書人摺內用字未妥降旨訓示伊亦不必稍存畏懼也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1252 遵

旨將

硃批富綱等議覆藩司費淳奏請給價收買商銅一摺交大學士九卿等閱看據嵇璜等僉稱該藩

司費淳奏請禁止商人收買餘銅當奉

諭旨以銅斤為民間動用必需之物不能一日缺少若將餘銅禁止收買不特銅價因此昂貴而小民等需用孔亟必致將官錢私燬改鑄銅器轉恐弊竇叢生行令富綱等悉心妥議今據該督等察看滇省銅廠情形悉與

聖諭符合仰見我

皇上睿照如神於萬里之外民生利弊無不瞭若指

掌現在滇省廠銅豐裕本無需收買商銅况民間需用銅器均資滇產若概行禁止收買誠如聖諭易啟私銷官錢之弊該督等仰承

指示仍照舊例辦理既可以正本清源且于裕銅便

民之道兩有裨益臣等恭閱之下實深欽服誠  
悅之至等語謹

奏

1253

本月二十三日吏部將山東巡撫惠齡保薦卓  
異之東昌府知府達明阿帶領引

見奉

旨達明阿著交軍機處記名欽此

1254

乾隆五十六年十月二十三日奉  
旨劉墉彭元瑞俱著加恩仍在紫禁城騎馬欽此

1255

乾隆五十六年十月二十三日奉  
旨松筠即著補授左侍郎欽此

1256

大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年十月二十三日

奉

上諭都察院奏據山東海陽縣民姜子柱控稱王方  
貴捏報被伊弟武生姜子楷砍傷王縣官並不相  
驗即將姜子楷鎖押詳革衣頂及奔控前任巡撫  
批飭臬司疊委泰安濟南兩府審明實情前撫撫  
任改發何縣官忽又翻案等語此案因該縣並未  
相驗辨結經長麟委員審明許復姜子楷衣頂迨  
長麟離任之後接審縣令又復翻案恐該縣等有  
扶同徇隱之弊抑或姜子楷恃矜逞兇在本省不  
能翻控又復潛逃來京架詞捏控亦未可定著將  
姜子柱解往山東即交惠齡親提犯証嚴審確情  
據實具奏此係前任之事該撫本無所用其迴護  
但恐該縣等辦理此案難保無別項情弊該撫不  
可存徇庇屬員之見致有屈抑也將此諭令知之  
都察院原摺並著發交閱看欽此遵

旨寄信前來

1257 乾隆五十六年十月二十三日奉

旨此案著交與惠齡親提審擬具奏其原告姜子柱著即照例解往備質欽此

1258 乾隆五十六年十月二十三日內閣奉

上諭近來大學士九卿奏事各衙門帶領引見朕於夙興之時一經詢問即據奏事處奏稱俱已伺候齊集朕因年高少寐每當丑寅之際即垂衣待旦日以為常而諸臣因請駕較早率皆先時祇候且漢大臣中多有住居城外者趨朝自必更早如詩所云東方未明顛倒衣裳殊屬無謂况日今冬月日短朕用膳辦事總在卯正以後諸臣早集朝房亦無所事嗣後各衙門遇有陳奏事件及帶領官員引見俱著於卯正到齊亦不為遲以示體卹欽此

1259 乾隆五十六年十月二十三日內閣奉

上諭據福康安等奏廣東鹽場大使及佐雜人員等不敷差委請揀發鹽大使八員縣丞二員吏目四員從九品十員未入流十員來粵差遣委用等語著照所請派慶桂胡季堂瑪興阿會同該部於候補候選人員內照例揀選引見發往欽此

1260 遵將烏爾圖那遜所進楚里格爾米給東三省

侍衛等看視據稱東三省並無此米又給彭元瑞金士松沈初等閱看據稱南方亦無此米惟查

欽定授時通考內

聖祖御製幾暇格物編載有沙蓬米名色似係此米等

語謹將原書夾簽呈

覽至楚里格爾米清文鑑中並無此語謹奏

十月二十三日

1261 乾隆五十六年十月二十三日內閣奉

上諭山西太原府知府員缺緊要著該撫於通省知府內揀選一員調補所遺員著張力行補授欽此

1262 乾隆五十六年十月二十四日內閣奉

上諭國初以來設立議政王大臣彼時因有議政處是以特派王大臣承充辦理自雍正年間設立軍機處之後皆係軍機大臣每日召對承旨遵辦而滿洲大學士尚書向例俱兼虛銜並無應辦之事殊屬有名無實朕向來辦事祇崇實政所有議政空銜著不必兼充嗣後該部亦毋庸奏請欽此

1263 乾隆五十六年十月二十四日奉

旨張漢岱著即處斬餘依議欽此

姦斃二命

1264 乾隆五十六年十月二十五日內閣奉

上諭馮光熊奏輕信差役捏報關提案犯病故之大谷縣告病知縣顧售請旨革職一摺此案前因河南民婦李黃氏在行在呈控伊女李龍姐被陽武縣民孫老三拐賣無踪當即降旨解豫審辦經穆和蘭訊出李龍姐被賣山西大谷縣民苗進祿為媳咨查晉省茲據馮光熊將犯訪獲審明五十二年曾經豫省闕查該縣顧售飭差已故縣役連世德傳喚該役得賄捏稟李龍姐苗進祿俱已病故率行咨覆以致案懸不結該縣差役連世德於豫省初次咨查時膽敢收受錢文將關提質訊之犯捏稱病故現在案經訪獲該差連世德或因畏罪潛逃詐稱病故亦未可定著馮光熊再行確切嚴查據實究辦毋任漏網至告病知縣顧售於差役得贓捏稟之處並不查明虛實率行闕覆此等外省州縣錮習牢不可破殊為可惡顧售著革職拏問解交豫省同案內人犯一併嚴審定擬具奏摺併發欽此

1265

大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督書 江蘇巡撫長 山東巡撫惠

乾隆五十六年十月二十六日奉

上諭據書麟等奏審辦外委地保賄縱販賣私礦人犯一摺已交該部議奏矣案內李言一犯販賣私礦業經弁兵查拏輒即乘間逃逸實屬可惡該督等務須飭屬嚴拏務獲該犯原籍山東並著惠齡一體查拏務期弋獲毋任漏網至該督等所稱民間需用硫磺若照定例由縣詳府由府詳司未免稽延時日請每年由布政使衙門預印空數印票發給州縣遇有商販請領查明填發等語硫磺一項為民間需用之物該商販等報明州縣後輾轉批詳耽延時日固屬於民不便但由布政司衙門預印空數印票發給州縣亦難保胥吏等無藉端勒索等事惟在該督等隨時留心嚴加稽察毋使法立弊生俾商民兩便方為妥善將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1266

大學士公阿 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 廣西巡撫陳 乾

隆五十六年十月二十七日奉

上諭現在福康安到京已令即日前赴西藏籌辦明春進剿事宜回任尚需時日恐安南國王阮光平未能詳悉緣由致有懸厪疑慮特令軍機大臣擬寫照會明白告知該署督等接到後即照錄差員齎赴鎮南關交該鎮目遞送該國王閱看以副朕厪念遠藩之至意將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1267

署兩廣總督廣東巡撫郭 協辦大學士兩廣總督公福全 街為照會事照得本 廣西巡撫 陳 爵閣部堂前經奉

旨因本年十一月徐母壽辰諭令回京藉申私悃今

已於十月二十六日行抵京城入覲

天顏途次行走平善足慰遠念現因西藏有應辦事

件復奉

諭旨令本爵閣部堂前往查辦回任尚須時日所有



兩廣總督印務奉

旨令廣東郭撫院暫行署理其由

貴國貴進表文及移會等件奉

旨即令廣西陳撫院就近照料接遞嗣後

貴國遇有陳奏

大皇帝表文等件及使臣來往過境署督部院等自

應查照向例妥為辦理署督部院等承受

大皇帝天恩

簡任封圻與

貴國王同屬臣僚自可無分畛域因本爵閣部

堂奉

命前往西藏辦事未能即回本任緣由恐

貴國王無由知悉致深懸厪特此照會

十月二十七日

1268 查蘭州道王曾翼前在甘涼道任內於監糧濫

結一案革職嗣經李侍堯保奏引

見奉

旨以同知用又經福康安保舉堪勝知府奉

旨補授鞏昌府知府於五十一年陞授西寧道五十

三年經勒保奏調蘭州道謹

奏

十月二十七日

1269 乾隆五十六年十月二十八日奉

旨這所叅台州協副將劉潢著革職發往伊犁効力

贖罪劉文敏著交部嚴加議處至溫處道高樹勳

奉委出結查點兵械自係由陸路行走於劉潢私

由陸路之處不得諉為不知高樹勳著交部嚴加

議處溫州鎮總兵謝斌係由水路前往會哨自不

知劉潢私由陸路行走情事謝斌著交部議處摺

并發欽此

1270 乾隆五十六年十月二十八日內閣奉

上諭據伍拉納等奏審擬巡洋哨船遇盜恆怯裝傷  
控報之弁兵一摺已交軍機大臣會同刑部速議  
具奏矣此案外委陳學明巡洋遇盜被劫軍械膽敢  
裝傷捏報希圖掩飾情殊可惡伍拉納赴浙查閱  
營伍一經稟報即能就近將陳學明裝傷捏報各  
實情逐細究出審明定擬具奏辦理甚為認真伍  
拉納著賞給大荷包一對小荷包四個以示獎勵  
至福崧陳杰現駐台州海門等處查拏洋盜何以  
直至伍拉納到後始行查奏若非伍拉納到浙查  
辦則福崧陳杰竟不能究出此案實情伊等在彼  
所辦何事福崧陳杰著交部嚴加議處該部知道

欽此

1271 乾隆五十六年十月二十八日奉

旨陳學明著即處斬餘依議欽此

浙江省巡洋外委遇

盜被劫軍械裝傷捏

報一案

1272 查本日臣等擬寫温州府太平府空名

諭旨進

呈所有應用知府人員及應用遺缺人員名單本係分  
東註明因奏事太監將應放遺缺人員名單先  
行呈遞實屬錯誤請交總管太監議罪外謹另  
行擬寫空名

諭旨同記名人員名單一併進

呈恭候

簡放謹

奏

十月二十八日

1273 乾隆五十六年十月二十八日內閣奉

上諭安徽太平府知府員缺著李煥補授欽此

1274 乾隆五十六年十月二十八日內閣奉

上諭浙江温州府知府員缺著穆通阿補授欽此

1275  
遵

旨將本日進

呈考試謄錄卷內策題何以止寫策問二字不將  
題寫明之處詢問劉墉據稱向例鄉會試及各  
項考試策題字數較多是以另給題紙令各士  
子逐條詳對該生等於鄉會試卷內策題五道  
者則寫第一問第二問字樣於各項考試策題  
一道者則止寫策問二字此項考試謄錄進

呈之卷該生係循照向例繕寫於策問二字下末

經將

殊筆圈出之積貯二字註明即寫該生對策之語殊

屬拘泥含混今蒙傳

旨詢問實深惶悚等語謹

奏

十月二十八日

1276  
乾隆五十六年十月二十八日內閣奉

上諭前因潼關城垣工程巴延三德成會同勘估時

將不應添修之水閘泊岸堆撥率行浮估虛糜帑  
項經和琳查明具奏當即降旨將巴延三德成革  
任前往潼關工所眼同和琳等當面講求以服其  
心茲復據和琳將查收潼關城工分晰刪減數目  
據實核奏內如南北水閘二座券洞之上祇須隨  
城安砌排垛宇牆儘可適觀今德成做箭樓式樣  
成造於兩閘添建閘樓懸掛千斤閘板每塊重五  
千斤非七八十人不能啟放試思水閘安設閘板  
所以禦水而非藉以禦寇即為防人起見平時放  
下適遇潼水猝至不能拽起轉致阻遏城內淹浸  
民居是防患而適以滋患如荊州前年之合城皆  
水雖下愚無知亦不至糊塗若此而其上復添蓋  
箭樓巍峩聳峙殊屬無謂又城上建堆撥房七十  
二座無人看守尤為虛設潼關在漢唐時原為雄  
鎮安設重兵自不能不於城上建設堆撥今昔異  
勢潼關尚不如直省之一邑並無重兵在彼駐劄  
又安用此堆撥為耶至自西門至東門一帶城身

係依山脚建築原屬堅實從無衝決之患乃德成因添建泊岸轉將山脚削去是從前山脚之土本堅無須泊岸以護城根而今日泊岸之土浮鬆必須挑溜以資捍禦且應時時修築矣種種錯謬實出情理之外且券洞安設千斤闌板一節曾經金簡在朕前奏及伊向德成講論德成以明季李自成到潼關時曾從券洞內潛過此言尤為可笑李自成在明季橫行蹂躪殘破郡縣不可勝計又安能處處為之設備此等妄論直同夢囈總之德成性成自高固執前因辦理河工與阿桂意見齟齬即其於工部同僚中素所嫉惡者莫如金簡而於福長安亦情同冰炭皆朕所素知其意以為與此數人不和斷不能在朕前攻摘其短而伊平日又以廉介自居工程復稱為諳習諒必為朕所袒護故敢于估勘潼關城工一事固執已見任意率行即彼時巴延三秦承恩俱有不必如此大修之語向其辯論而德成竟置之不顧蓋欲藉此得有沾潤以為肥已娛老之資而舉朝大臣想皆莫能誰何以致營私執拗虛費帑金至一百三十餘萬之

多其居心實為可惡德成前已革任著即拏問令巴延三押解來京交刑部治罪巴延三既知德成勘估過當與之講論不從即應據實奏聞乃亦隨同附和固難辭咎但念其本係庸懦無能之人業經革任免其置議至工部堂官於德成濫行勘估之處未經指駁照估題覆亦有不合著交部議處餘仍著軍機大臣會同該部議奏欽此

1277 乾隆五十六年十月二十八日奉

旨妻如山著即處絞餘依議欽此

湖北省審擬幕友妻如山  
恃勢串詐一案

1278 乾隆五十六年十月二十九日奉

旨湖南鎮筵鎮總兵員缺著明安圖補授欽此

1279

查本日魁倫奏到琉球貢船到關免稅一摺內  
有進貢方物事宜應聽督撫辦理字樣自係該  
國遣使賚進

貢物現在浦霖尚未奏到臣等遵

旨擬寫詢問

諭旨進

呈謹

奏

十月二十九日

1280

大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建巡撫浦 乾隆五十六年十月二十九日奉

上諭據魁倫奏琉球國貢船進關遵例免稅一摺內  
稱此次正副貢船二隻進口逐一查驗與免稅之  
例相符隨照例寬免旋據該通事梁元魯率領來  
使馬繼謨等赴關叩謝天恩等語琉球國既差使  
臣賚進貢物現在船隻到關經魁倫驗明免稅該  
撫即應將該國貢使到境日期及約計程站何時

旨寄信前來

可以到京專摺具奏乃僅照例具題而於該貢使  
何時可以到京之處並未奏及殊屬拘泥遲緩著  
傳諭浦霖即將該使臣能否於年內到京之處據  
實覆奏將此諭令知之欽此遵

1281

乾隆五十六年十月二十九日內閣奉

上諭據畢沅等奏審明殺死胞兄年遠稽誅之王谷  
平一犯即行辦理一摺此案王谷平於乾隆二十  
五年與胞兄王谷治酒後爭論持刀向戩身死伊  
母劉氏以王谷平若報官問罪恐致絕嗣當懇戶  
族王宗湯等將王谷平逐出為伊嫂祁氏擇立堂  
姪王家讓為嗣厚給財產今因祁氏身故王谷平  
復向王家讓佔產涉訟經隨州知州張璿訊出從  
前戩死胞兄私行調處各實情審明正法王谷平  
以戩兄重犯因伊母私和寢事彼時承繼之王家  
讓年僅七歲尚屬無知至今已三十餘年若非王  
谷平有佔奪財產之事竟至無由舉發且當日立  
有分闈嗣約所有作証之王宗湯等現俱年逾八

十設於此案未經破露以前先已身故亦不能証據確鑿今該犯踞佔屋產經該州究出種種情節並起出舊存嗣約內載有王谷平刀截胞兄身死字樣其目擊王谷平被截及聽從劉氏私和之王宗湯等又俱到案供吐歷歷如繪可見天網恢恢疎而不漏此等蔑倫逞兇之犯斷不能以事隔多年倖逃顯戮似此天理昭彰兇徒益當知所儆畏至該州張璿審理爭產詞訟即能究出三十餘年未破重案立實憲典尚屬留心除將原摺批交該部知道外張璿著送部引見摺併發欽此

1282 本月二十九日戶部將解運京銅之雲南廣西州

直隸州知州穆克登額一員帶領引

見奉

旨穆克登額著交軍機處記名欽此

十月三十日

1283 本日河南巡撫穆和蘭具奏等獲隣省兇犯趙

三五謹問擬斬決另疏具題一摺臣等面奉

諭旨令軍機大臣會同該部核議速奏欽此臣等查

此案該撫題本業已到閣因本日例不進本尚

未具

題謹將本內情節一併詳細敘入先行核擬具奏

謹

奏

1284 乾隆五十六年十月三十日奉

旨趙三五謹著即處斬餘依議欽此

1285 本月初一日吏部將丁憂回旗之原任山西太

原府知府海昌原任河南衛輝府知府德昌及

卓異知縣推陞吏部主事之沈詩杜三員帶領

引

見奉

旨海昌德昌沈詩杜俱著交軍機處記名欽此

十一月初二日

1286 乾隆五十六年十一月初二日內閣奉

上諭湖南岳常澧道員缺著達明阿補授欽此

1287 查十月二十九日江蘭奏到之摺係查催城工

沿途雨麥情形其山東省曾否得雪尚未據該  
撫奏到惟山西直隸得雪情形已據該督撫等  
於二十九初二等日先後奏到謹

奏

1288 查琉球國賚進表文方物據浦霖疏

題於十月二十二日奉

旨該部知道欽此禮部於今日

題覆再查本內稱該國賚貢使臣馬紹謨等於十

月初二日起程赴京等語約計年內可以到京  
臣等謹擬寫寄信沿途各督撫

諭旨令其照料如期抵京謹

奏

1289 查官犯吳瑛於上年十月初三日經刑部將秋

朝審情重各犯照例摘敘案由請

旨正法當經奉

旨吳瑛於書吏舞弊並不詳辨固屬有意彌縫但究

係前任之事尚無通同侵蝕情弊吳瑛著牢固監

候欽此理合將原奉

諭旨進

呈謹

奏

1290 本月初二日兵部將前任兩江總督孫士毅保

列一等之江西九江營副將張文奇一員帶領

引

見奉

旨張文奇著交軍機處記名欽此

十一月初三日

1291 乾隆五十六年十一月初三日奉

旨伍拉納奏浙江定海鎮總兵伊里布因疎防案內業經降調現在浙省武職乏員伊里布平日人尚勤勉請將該員仍留浙省差委等語著照所請伊里布仍留於浙省交該督等差遣委用俟有相當缺出再行照例題補該部知道摺併發欽此

1292 大學士公阿 大學士伯和 傳諭

河南布政使鄭源璣 乾隆五十六年十一月

初三日奉

上諭本日勾到山西省秋審情實人犯內經刑部由緩決改入情實者四起一起絞犯柳鬧娃因王有均斥其不應將污穢羊隻在村中水池洗刷致相爭毆柳鬧娃順取鐵鋏毆傷王有均偏左偏右柳鬧娃之弟柳根學亦用木棒毆打王有均右腳腕等處柳鬧娃復用鐵鋏毆其頂心倒地殞命兄弟共毆復用鐵器傷多且重一起絞犯孫九子因欠李登高房飯錢文李登高向索不還致相爭毆孫九子隨拔小刀札傷李登高脊背殞命適郭繼法

在旁攔阻孫九子亦用刀札傷左乳負欠逞兇及斃徒手一死一傷一起絞犯王學同因與皇甫文秀夥開肉舖欲支用錢文促令算賬皇甫文秀不允詈罵而散王學同氣忿不甘復趕至廟內向皇甫文秀爭嚷順取鐵斧砍傷皇甫文秀偏右並右太陽殞命尋衅逞兇及斃徒手一起絞犯李二保子因伊妻王氏與姜景春通姦李二保子查知利其資助遂爾縱容旋因向姜景春索借不遂致相爭毆即拔小刀札傷姜景春左肩甲左肱左臂等處殞命縱姦索借及斃徒手以上四起閱其情節均無可緩之理刑部改入情實俱屬允當此次山西秋審係鄭源璣護理巡撫任內核覆具題該藩司既護撫家於秋讞大典理宜悉心酌核乃率行擬緩致滋寬縱自必因暫護巡撫存五日京兆之見是以漫不經心否則即係已經調任思博寬厚之名有意姑息豈核實辦公之道甚屬非是鄭源璣著傳旨嚴行申飭並令明白迴奏欽此



1293

啓者本日奉

旨西安每年例進歐蒲無甚用處嗣後不必呈進欽

此特此札知

大人遵照嗣後停止備辦遇便止須覆知不必形諸奏牘也並候不一

和具

十一月初三日

1294 乾隆五十六年十一月初三日內閣奉

上諭據浦霖奏連江縣知縣彭祖瑀等失察地保毆斃人命作受賄縱充率委率驗請旨革審一摺此案地保林渭廩毆死張文吉控稱病斃作陳忠受賄匿傷扶同捏報經知府德泰訪聞通稟究出實情尚屬細心可嘉德泰現已陞授道員仍著交部議敘以示獎勵該知縣彭祖瑀於地保毆斃人命之案並不親往相驗又復匿不通詳殊屬玩縱典史何星源既奉委驗一任作舞弊混報難保

1295 臣阿桂等謹

奏為遵

無賄囑扶控情事彭祖瑀何星源俱著革職交該督等提同案內犯証嚴審定擬具奏至作陳忠得受林渭廩銀兩將毆斃重情控稱病故若非德泰訪出審究幾致正兇漏網甚為可惡應照衙役詐贓例從重定擬以示懲儆該部知道摺併發欽此

旨議奏事和琳奏查收潼關城工分晰刪減數目一摺乾隆五十六年十月二十七日奉

硃批軍機大臣會同該部議奏欽此 據該侍郎奏稱潼關城垣週城內外按冊詳加履勘間段則驗核對例價丈尺做法尚無浮冒偷減情弊但碼下柏木椿原估俱用長一丈二尺今考究做法緣土性鬆實不一間遇石子即不能通長必須鋸截安砌大料石每層每塊頭縫俱滿用生鐵錠露明及可以剗驗處所尚無短少其不露明及不可以剗驗之處無憑查核二項應照原估折半核減其成砌牆身磚塊層數拘抵灰縫

厚薄尺寸亦有與原估不符按例應行核減之處至於原估時因一城樓牆身年久坍塌有碍往來之故率臆估計動用

帑項至一百三十五萬餘兩之多悉心查勘緣北面土築牆垣內外皆改磚砌東西二門城樓亦加高大堆撥房七十二座內附近城門水關更房十八座此尚在可以減准之例惟查南北水關二座券洞上面防箭樓式樣南水關添建三重簷閣樓五間北水關添建三重簷閣樓九間南樓內懸掛千斤閘板三塊北樓內懸掛千斤閘板五塊每塊皆約重五千斤安設繩練轆轤每塊非七八十人不能啟放伏思水關到處皆有而仿箭樓之式以建閘樓者絕少所懸千斤閘板若為防人起見當無水時懸而不放固屬虛設若平時放下遇澆水猝至勢須五六百人方能一齊拽起設如閘板一時不及提起或提起時水勢湧猛繩鍊偶斷反致牢閉券洞豈不所患更大應將閘板轆轤繩鍊等項一槩變價于券洞內改立木柵以止行人來往安插亦易為力

又自西門至東門所添磚石泊岸原以防黃水逼近城根而設該處雖離河不遠城身係建于山脚土性堅實從不聞有衝決之患今因建築泊岸剝槽下椿不能不將此山脚砌直方可施工奴才前奏當初若築挑水堤二道逼溜北趨儘可以衛城原無需建築此工今泊岸業已築成用銀四十萬兩有零查看現在情形既有泊岸更須做挑水堤以衛泊岸緣昔日山脚之土本堅無需泊岸護城而今日泊岸外之土浮鬆必須挑溜以護泊岸今看明應築挑水堤處所簽錠誌樁估計做法督令在工監督等成做所有需用錢糧并水關券洞內改設木柵之費應令總理城工之潼商道德明墊出無庸請動正項嗣後此項挑水堤總責令潼商道及潼關廳相機辦理不准呈報開銷至東西二門外添蓋箭樓二座箭臺一座城上堆撥房五十四座等工俱係槩行浮估均應全減德成巴延三等任意鋪張該省督撫藩司大員於一廳治小邑創建大工糜費帑金興修四年以來並無有人奏及

樽節辦理而總理此項工程之道府等又不將  
可以節省之處具稟均有不合應將原估內之  
應行減准及無需添做工程二共核減銀六十  
三萬四千九十八兩八錢七分九厘又報竣與  
原估不符工程核減銀七萬二千二十三兩一  
錢四分一厘通共核減銀七十萬六千一百二  
十二兩二分按照核明工價錢糧數目酌擬輕  
重若令該員等分別賠補歸款其業經查收工  
程應仍令該撫照例題銷等語 臣等伏查潼  
關城垣建自唐秦漢自乾隆九年興修之後已  
歷四十餘年前因年久坍塌五十二年經前任  
陝甘總督福 等奏請動項修葺原因該處為  
隴蜀通衢不過欲援照乾隆九年之例修理完  
整以壯觀瞻並未有改添修建之議乃德成奉  
命前往勘估會同巴延三等竟將不應添修之水關  
泊岸堆檢樓座率行浮估虛糜  
帑項至一百三十五萬餘兩前經  
欽差侍郎和琳查明具奏續又奉  
旨將德成巴延三革任前往潼關眼同講求以服其

心茲據該侍郎和琳查明潼關城工分晰刪減  
數目據實核奏內有應行核減原估銀及無需  
添做工程銀六十三萬四千九十八兩八錢七  
分九厘其報竣工程內做法與原估不符應行  
駁減銀七萬二千二十三兩一錢四分一厘通  
共核減銀七十萬六千一百二十二兩二分皆  
因德成等任意增添濫行勘估所致自應如該  
侍郎所奏著落原估隨估並承修各員分別賠  
補歸款至該處南北水關二座券洞上面隨城  
安砌排垛宇牆儘可適觀今券洞上仿箭樓式  
樣成造于兩關添建閣樓南樓內懸掛千斤閘  
板三塊北樓內懸掛千斤閘板五塊每塊皆重  
五千斤安設繩鍊轆轤每塊非七八十人不能  
啟放設遇潼水猝至不能拽起轉致阻遏城內  
淹浸民居誠如

聖諭是欲防患而適以滋患自應將閘板轆轤繩練  
等項一槩變價於券洞內改立木柵以止行人  
來往安插亦易為力至自西門至東門一帶城

身係建于山脚土性原屬堅實從無衝決之患今因建築泊岸以護城根轉將山脚之土剝去自從前山脚之土本係堅實今泊岸以外之土轉覺浮鬆勢不得不築挑水堤以資捍禦該侍郎奏請於應築挑水堤處所簽錠誌椿飭令在工監督等成做之處自係為保護泊岸起見應如所奏辦理所有需用錢糧并水關券洞內改設木柵之費即飭交總理城工之潼商道德明墊出不得動用正項嗣後此項挑水堤總責令潼商道及潼關廳相機辦理不准呈報開銷仍令該撫隨時稽察不得以該道等自出已資任其延玩此項工城因一城樓牆身年久坍塌有碍往來觀瞻之故幸臆估計不顧體制於一廳治小邑創建大工動用帑項至一百三十五萬餘兩之多與乾隆九年動項修葺之案大相懸殊所有核減原估銀六十三萬四千九十八兩八錢七分九厘應於原估隨估官及歷任督撫藩司名下著落分賠其所估隨估官擬賠十成之六內再按四六分賠所

有原估官革任侍郎德成革任尚書巴延三俱應賠六成中十分之六各應賠銀十一萬四千一百三十七兩七錢九分八厘隨估官陞任歸綏道工部員外郎恭安原任工部員外郎沈濬現任潼商道德明原任西安府知府徐大文俱應賠六成中之四各應賠銀三萬八千四十五兩九錢三分二厘其總催督辦歷任督撫藩司應賠十成之四內再按在任年月久暫核計分賠所有五十二年開工後至五十六年工竣止在任四年之總督勒保應賠四成中十分之三銀七萬六千九十一兩八錢六分五厘自藩司任內開工起至巡撫任內工竣且在本省之現任巡撫秦承恩應賠四成中十分之四銀十萬一千四百五十五兩八錢二分四厘署布政使周樽前後在任五個月應賠銀一萬一千八百八十九兩三錢五分四厘四毫署布政使思明在任四個月應賠銀九千五百一十一兩四錢八分三厘二毫陞任布政使福寧在任十個月應賠銀二萬三千七百七十八兩七錢八厘前署

布政使姚學瑛在任兩個月應賠銀四千七百五十五兩七錢四分一厘六毫現任布政使和寧在任十一個月應賠銀二萬六千一百五十六兩五錢七分八厘八毫至查收工程駁減銀七萬二千二十三兩一錢四分一厘應於總河道府及監督各員名下分賠所有總理官潼商道德明原任西安府知府徐大文俱應賠十分之六各應賠銀二萬一千六百六兩九錢四分二厘監督官名下應賠十分之四所有華州知州李帶雙洋縣知縣許光基原任知州汪以誠俱各應賠銀九千六百三兩八分五厘四毫查沈濬徐大文二員業已病故均應於原籍著追汪以誠緣事離任亦應於原籍著追其業經查收工程仍准該撫照例題銷再該侍郎另片內奏稱內外大小工程估計做法核算錢糧造冊等事不能不用算手經理此等人每于做法估計內暗中高下其手如管工大臣監督人員稍有粗心稽察不密鮮不被其朦混此次美手陳

秉忠係工部年滿經承久隨德成辦事所有關東四川西安各處城垣皆其估計深明則例做法之人乃竟漫不經心不思撙節即此已有應得之咎未便因現無分肥實據轉得脫身事外請於德成應賠項下代繳十分之四等語查德成自五十三年具奏漕米有虧案內得項全罰此項應賠銀兩未便任其懸宕無著應如該侍郎所奏請

旨飭交步軍統領衙門順天府飭令陳秉忠於德成應賠項下代繳十分之四以為算手不知慎重估計者戒其餘仍令德成自行完繳所有臣等會同核議緣由理合繕摺具

奏是否當俟

旨命下將該侍郎和琳所開核減駁減原單并應行分賠各員名單一併行文各該處遵照查辦賠繳還款其工頭窳保全等應聽該侍郎實訊明確查奏辦理為此謹

奏請

旨

乾隆五十六年十一月初三日奉

旨依議欽此

1296

再查革任尚書巴延三在歷任督撫名下應行賠罰銀兩除已經陸續完繳外尚有未完銀七萬五千餘兩此次工程項下應分賠銀十一萬四千一百三十七兩零統計前項未完之數賠項未免較多恐一時無力完交

帑項久懸臣等公同酌議現任歸綏道前任工部員外郎恭安原任工部員外郎沈濬俱係跟隨德成前往隨估之員一任德成率意浮估並不稟阻均屬咎有應得查恭安現任山西道員每年所得廉俸較優沈濬雖經身故查該員家資豐厚其賠繳之項為數尚屬無多除該二員名下自行賠繳銀兩外請於巴延三應賠銀兩內著落恭安沈濬二員再共代賠十分之四沈濬仍於原籍家屬追還歸款如此酌量辦理庶帑項不致無著而輕重亦歸允當理合附片

奏請是否有當伏候

訓示謹

奏

乾隆五十六年十一月初三日奉

旨依議欽此

1297

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 山東巡撫惠 河南巡撫穆

乾隆五十六年十一月初四日奉

上諭現在審訊八卦邪教案內王子重並代為傳遞書信之劉照魁等犯傳教授徒及許封歛錢各情節雖據該犯等逐一供認此等匪徒轉相傳習直隸豫東三省多有餘孽潛藏未經破露者不可不嚴行查緝以淨根株著傳諭梁肯堂惠齡穆和蘭仍須督飭所屬隨時留心嚴密訪查毋得稍有疎懈將來倘經別處發覺恐該督撫等不能當其咎也再艮卦教內楊進等伙助王子重之母銀米王子重信內指為良糧該處必另有艮卦一教延及直隸豫東等省著梁肯堂惠齡穆和蘭一體嚴查

母任疎漏將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1298 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督書 江蘇巡撫長 乾隆五十六年  
十一月初四日奉

上諭現在令軍機大臣審訊八卦邪教一案所有前  
次江南省解到之楊進郭振孫天然三犯曾經幫  
給王子重及伊母銀米王子重信內稱為良糧該  
三犯自必係傳習良卦邪教之犯其教內必另有  
教首及轉相傳授之人必不止此三犯不可不切  
實查拏從重究辦此外或有別卦邪教匪犯亦  
應一體嚴拏著傳諭該督等嚴飭所屬實力跟究  
務盡根株勿令邪教匪徒稍留餘孽不得因已經  
拏獲楊進等三犯解京遂可了事不行詳查辦理  
將來別經發覺該督撫不能當其咎也將此諭令  
知之欽此遵

旨寄信前來

1299 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江江蘇山東直隸各督撫 乾隆五十六年  
十一月初五日奉

上諭據浦霖具題本內稱琉球國王遣使費進表文  
方物循例給咨令該國使臣馬紹謨等於十月初  
二日起程赴京等語該國使臣在途行走或恐未  
能迅速致誤年底筵宴之期著傳諭沿途各督撫  
於該國使臣經過地方委員妥為護送務於臘月  
二十內到京以便與蒙古外藩一體同預宴費但  
計筭時日尚寬途次儘可從容行走亦不必過於  
迫促也將此諭令知之欽此

1300 大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十六年十一月初五日奉  
上諭陳用敷奏接據阮光平咨文代奏謝恩一摺將

該國王咨文抄錄進呈文內稱慈懷覃施于小菴者非自古君臣遭遇所能舉其萬一等語已用硃筆於咨稿內批示具見誠惻著傳諭陳用敷即知會阮光平將硃筆批示之處告知該國王自必倍深欣感也將此諭令知之欽此

1301 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫惠 乾隆五十六年十一月初五日奉  
上諭直隸山西河南三省各府屬近日得雨雪情形

業經該督撫先後奏報山東與河南直隸境壤毗連自應一律霑被該省近日曾否得雨雪之處何以迄今尚未據該撫奏到朕心深為屢念著傳諭惠齡即飭屬查明據實覆奏將此諭令知之欽此

1302 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江南山東各督撫 乾隆五十六年十一月初五日奉

上諭軍機大臣嚴審王子重傳習八卦邪教一案檢查乾隆三十七年山東省審辦劉省過邪教原案係將八卦分授各犯內惟坤卦一卦未經立教其艮卦教下係分給張玉成并伊子張靜安曾經訊明辯理完結在案艮卦一教王子重信內稱有艮糧自必實有其教昨已降旨令江南山東各督撫一體留心實力查緝務獲懲辦以淨根株連日復經軍機大臣嚴刑審訊雖該犯熬刑尚未吐實實供但三十七年邪教案內既有艮卦一教張玉成張靜安父子分授傳習則張玉成等在日自必傳教受徒更有沿習其教之人即如王子重之父王中因邪教破案正法而王子重尚仍其教且敢在新疆地方輾轉煽惑此等慙不畏死之徒冥頑無知牢不可破所供艮卦一教無人傳習之語殊不可信著再傳諭書麟長麟惠齡於江南沛縣一帶



山東單縣一帶地方密飭所屬務將良卦或別卦認真查訪嚴切跟究毋令邪教匪徒稍留餘孽倘視為海捕具文以致別經發覺則是自干咎戾也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1303 查琉球國向例間歲進

貢方物一次其

貢船過關所有隨帶土產俱蒙

恩免其納稅此次魁倫所奏琉球國來使馬繼謨等

感激

天恩望

關叩謝等語係該國

貢船到關魁倫照例免其納稅是以該使臣望

關謝

恩經魁倫代為陳

奏並非該國另有謝

恩貢使謹

奏

十一月初六日

1304

查佐雜人員揭報上司之案近年以來除陳倚道外惟知府徐大榕於山東萊州府任內審辦張子布一案以該撫長麟審擬不實在部呈控審明後業經奉

旨將徐大榕仍發往山東補授泰安府知府此外並

無別案謹

奏

十一月初六日

1305 遵

旨查明亮審辦王子重一案前據奏到究出曾託劉

照魁帶寄家信幫助路費之李奉魏大經等十

八犯永遠枷號此外並無傳教討封之人等因

當經奉

旨以此案明興等俱能究出傳教人犯審明正法乃

明亮祇將王子重詹清真解京其如何傳教收

徒及往來通信之處並未訊明辦理

傳旨嚴行申飭並將明亮交部嚴察議奏等因於九

月十一日由駟發去嗣於十月初五日又奉

諭旨以明亮辦理遲延再行申飭即於是日發往計

弄覆奏之摺約於本月初十以內可以奏到謹

奏

十一月初六日

1306 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十六年十一月初六日 奉

上諭據劉莪等奏審明監生楊淑控告銀匠等浮收錢文請將地畝交官一案內稱楊淑因田產荒蕪無力完糧思以呈交地畝圖免田賦並經劉莪等前往虞城縣查勘楊淑地畝實有荒蕪之處且所過各村莊間有未經開種之地詢之民人僉稱因五十年被旱後無力所致等語各省地方官當以農事為重所有村莊田畝如遇水旱偏災間有荒

旨寄信前來

歎自當督勸小民及時開墾詎可任其竟行拋棄今豫省寧城縣地方既查有因旱後無力開種以致荒廢之處其餘各州縣似此情形者想亦不少著傳諭穆和蘭即專派明幹大員詳悉查驗妥為設法經理務使田疇盡行耕治而閭閻不致無力輸將方為無負牧民之責將此諭令知之仍將查明各州縣荒廢田畝如何借給籽種辦理之處據實覆奏毋得迴護干咎欽此遵

1307 乾隆五十六年十一月初六日內閣奉

上諭現今惠齡來京陛見另有差遣所有山東巡撫員缺著吉慶前往署理吉慶現在前赴江西審辦案件應俟審案完竣後即由江西前赴山東接印任事此時不必來京請訓抵任後將地方應辦事宜妥為辦理數月之後再行來京陛見請訓其吉慶未到以前所有山東巡撫印務著江蘭暫行護理欽此

1308 乾隆五十六年十一月初六日内閣奉

上諭上年高郵州假串冒徵一案係巡檢陳倚道揭報破案審辦得實彼時若將該巡檢即為擢用恐各省聞風效尤致起告訐之風是以未即加恩陞用但該巡檢於書吏通同舞弊之案竟能首先揭報不避嫌怨所告皆實究屬持正現在事隔年餘著該督撫即將該巡檢陳倚道送部引見欽此

1309 乾隆五十六年十一月初七日奉

旨百爾格圖著枷號三個月遊示九門滿日再行發遣以為重利放債者戒餘依議欽此

1310 導

旨查哈元生參奏張照原案臣等恭查紅本摘敘事

由敬呈

御覽謹

奏

十一月初七日

\* 查雍正十三年官兵勦除叛逆熟苗

特授貴州提督哈元生為揚威將軍以湖廣提督董芳為副將軍時張照為

欽差總理苗疆大臣主分兵分地之說令滇黔之兵聽哈元生調度楚粵之兵聽董芳調度並將哈元生所調勦洗江內一帶逆寨之總兵王無黨檄令撤回其所調清江分路勦捕逆苗之副將李椅馬成林撤至八弓地方候董芳到日調遣又將哈元生所調協勦之川省貼防兵一千名檄令不准赴調經哈元生以軍前事為張照阻撓掣肘必致貽誤等因參奏欽奉

諭旨令張照回京續又因哈元生遣副將柳定國李

椅馬成林統領官兵進勦苗寨開通柳羅清江一路經古州統兵彈壓之總兵譚行義咨報張照據張照批云用銀四百兩買令苗賊讓路入清江等語經哈元生參奏以總理大臣豈可以無稽之詞批入公牘請令張照指出確據及首報之人嚴審究明等因奉

旨俟張照來京令總理事務王大臣一併嚴加訊問  
嗣經王大臣等審明張照挾詐懷私擾亂軍務  
各款屬實擬斬監候奉  
旨免死釋放在案

1311 大學士公阿 大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十六年十一月初八日  
奉

上諭秦承恩奏審擬白河縣監禁軍犯陳應照毆斃  
同監絞犯李得發一摺此案陳應照係原犯絞罪  
減流脫逃改軍之犯復在監逞兇毆斃人命實屬  
怙惡不悛該撫將陳應照問擬絞決尚屬照例辦  
理但摺內所訊起衅緣由據提牢等供稱陳應照  
因與李得發爭喫肉塊互相嚷罵陳應照即用手  
帶鐵鐐將李得發毆斃一節此語殊不可信各處  
監禁人犯每日不過例給囚糧斷無官為給肉在  
官犯羈禁囚圍或尚有餘費得營口腹棲止之事  
如此等逃流被拏拘禁之犯皆係窮民安得帶有  
錢文私買肉食至管獄吏卒於應給囚糧尚不免

旨寄信前來

從中尅扣豈有買肉給囚之理今所稱陳應照與  
李得發爭肉起衅必非實在情節否則係該縣監  
獄平日漫無管束一任監犯等家屬來往私給錢  
文買肉共食禁子於中取利致有彼此爭毆斃命  
之案該撫於此事問擬罪名雖無錯誤但所取供  
詞殊非實情秦承恩何以輕信屬員詳報之詞漫  
不加察率行入奏著傳旨申飭並著將指出情節  
查明據實覆奏除原摺核議速奏外將此諭令知  
之欽此遵

1312

查涿州僉差按遞遺犯孫二王成張毛兒三犯  
中途脫逃頭役係李文忠入散役係王沛梁德  
韓泳沛李卓傅成等五人兵丁係劉泳王有祿  
鄭亮王達周泳等五人除散役梁德韓泳沛傅  
成兵丁劉泳王有祿鄭亮王達等七犯俱發伊  
犁為奴散役李卓一犯擬流其頭役李文忠與  
兵丁周泳俱畏罪自縊此次將在逃之散役王  
沛一犯拏獲刑部以該犯任聽頭役開放鎖鑰

致孫二等中途脫逃又不知到官待罪輒敢逃  
匿將王沛擬以絞候入于本年秋審情實至開  
放鎖鑰之頭役即係李文忠業經畏罪自縊是  
以未經擬罪謹

奏

十一月初八日

1313  
導

旨查福康安前因洒帶木植案內罰總督養廉三年  
應罰銀四萬五千兩自五十四年秋李起共交  
納過養廉銀三萬一千五百四十餘兩其未交  
銀一萬三千四百五十餘兩於本年二月初八  
日奉

旨加恩寬免又罰公俸十年應罰銀七千兩自五十  
四年秋季起至五十六年秋季止共扣過公俸  
銀九百兩尚有未扣銀六千一百兩謹  
奏

十一月初九日

1314 乾隆五十六年十一月初九日內閣奉

上諭福康安前因洒帶木植一案曾罰公俸十年尚  
有未經扣完銀六十餘兩現今前往西藏勦辦科  
爾喀滋擾後歲一事需費較多所有前罰公俸除  
交納外餘著加恩寬免以示體恤欽此

1315 乾隆五十六年十一月初九日奉

旨金簡鄰奕孝張若溍俱著改為革職從寬留任欽  
此

1316 乾隆五十六年十一月初九日內閣奉

上諭廣西左江道員缺著陳孝昇補授欽此

1317 查軍機處所奉

硃批改定清漢字

諭旨及各項事件名單奉有

硃筆並各該處繳到

硃批奏摺等件每年彙交奏事處恭繳茲臣等謹將

乾隆五十五年十月起至本年十月止所奉

硃筆改定

諭旨內臣等細加檢閱其中有關係緊要事件應備

另匣存貯者敬謹檢出另束恭呈

御覽至尋常事件並各項名單等件均分束照例彙

交並將各該處繳到奏摺開列清單一併呈繳

謹

奏

十一月初九日

1318 大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建水師提督兼管臺灣總兵事務哈 乾隆

五十六年十一月十一日奉

上諭據奎林奏拏獲糾夥行劫盜犯審明正法一摺

旨寄信前來

此遵

已批交該部矣此案首夥盜犯十二人雖已將盜首拏獲尚有逸犯何枋王光典林料林川連李春蔡添來周信王夏等八犯未經就獲奎林現已補放成都將軍令其馳赴西藏勦辦科爾喀賊匪所有此案未獲各犯著交哈當阿等督率兵弁實力嚴拏務期弋獲毋使一名漏網將此諭令知之欽

1319 乾隆五十六年十一月十一日內閣奉

上諭崇文門正監督事務著派奎林管理奎林現授

成都將軍派往西藏辦理軍務所有崇文門事務

著伊姪御前侍衛惠倫代辦欽此

1320 乾隆五十六年十一月十一日奉

旨王均進著即處斬餘依議欽此

刑部議覆四川省毆斃幼孩一案

1321 乾隆五十六年十一月十二日内閣奉

上諭雲南麗江府知府員缺著林荔補授所遺員缺著曹廷奎補授欽此

1322 乾隆五十六年十一月十二日内閣奉

上諭昨據兵部將修製軍械則例進呈朕詳加披閱所辦殊屬非是前因各省提鎮以下至將弁等俱有佔用馬步名糧作為得項者殊非核實行伍之道因降旨添給武職養廉將虛額兵丁名糧俱挑補實兵所有一切修製軍裝等項俱令作正開銷原為慎重營伍體恤兵丁起見但既官為經理所有應修軍械等項亦應核實辦理毋許各該省稍有弊混方為正辦今閱兵部所定則例內即如鐵盔鐵甲兩項今定為六十年一製三十年一修殊不思鐵盔鐵甲係堅實經久之物亦不過於督撫提鎮查閱營伍時偶一穿帶並不常用即調派出兵若穿鐵盔鐵甲打仗必致難於轉動此歷來出兵打仗之人所深知何必予以修造年限致啓各

營伍開銷浮冒之漸其虎衣虎帽等項尤為虛設無用

又何必定限修整以此類推其中似此者諒亦不少况各省修造軍械銀兩亦應酌定數目豈可聽其任意開銷今部例內總未載明所謂定限者定何限應用者用何項甚屬疎漏不成書尚欲頒行各省何所適從著軍機大臣會同該部另行詳加酌核悉心妥議具奏欽此

1323 乾隆五十六年十一月十二日内閣奉

上諭富綱等奏遣犯在配脫逃旋經拏獲請將失於防範之地方官職名另行送部等語遣犯胡牛於九月初四日潛逃至初九日即行追獲該縣等雖不能防範於前而一聞該犯脫逃即選派差役上緊追捕甫閱五日即經拏獲不致要犯稽誅顯戮尚可量予從寬若將應議職名仍行送部則地方官於此等速行拏獲脫逃要犯終不免處分此後轉致懈於緝捕殊不足以示勸所有此案應議職名著免其送部摺併發欽此

1324 乾隆五十六年十一月十二日內閣奉

上諭山海關監督常福奏一年任滿比較盈餘短少銀四萬二千餘兩請從重治罪並將房屋衣物等項變抵其餘銀兩將應得俸銀坐扣完欸等語關稅盈餘比較短少該監督自有應得之咎但念該處連歲歉收商貨未能銷售到口空重船隻未免稀少盈餘短缺自屬實在情形且較之五十四五兩年德綸百福保任內徵有多餘尚非辦理不善常福著照前例罰俸四年以示懲儆所有短少盈餘銀四萬二千餘兩著加恩免其賠繳其所請治罪並變抵房屋等項之處俱著一併寬免欽此

1325 乾隆五十六年十一月十二日內閣奉

上諭本日勾到朝審情實人犯內有阿林一起因向新買家奴候振極追問買地情由候振極不肯實說該犯將伊子候添祿毆打並向索地價因候添祿頂撞令家人楊三用繩捆住自用木棍毆傷頭命此案阿林堂兄何森欲將契買家奴候振極等

出買阿林貪圖候振極父子贖財用銀置賣其居心已不可問及至索銀不遂即將候添祿捆毆致斃情節甚為可惡向來毆斃家奴原無擬抵之例但阿林置買堂兄名下家奴可知原非其本身家奴其意本預為勒索起見嗣因未遂所欲輒行捆毆傷命即主僕之分已絕自應照平人例擬抵不得引斃家奴之例稍從末減是以即行予勾並將此案情節詳悉宣示庶使貪暴不法者知所儆畏欽此

1326 乾隆五十六年十一月十二日內閣奉

上諭本日勾到朝審情實人犯內一起官犯吳瑛在高郵州知州任內於書吏私雕印信假票重徵一案雖係前任知州班濟泰任內之事究不得諉為不知是其瞻徇同官袒護蠹吏且係原任侍郎吳嗣爵之子按其情罪本應予勾但念該犯在任尚無通同染指情弊其匿不詳辨究係前任之事此案巡撫閔鶚元係屬統轄大員業已加恩釋放是以免其勾決一起絞婦烏蘇氏因契買幼婢二格



彈別燻花誤落伊女脖項伊女啼哭抽風該氏氣  
忿輒用燒熱烟袋盪烙多傷以致幼婢殞命該氏  
身係女流兇暴殘忍輕視人命情節甚為可惡但  
念契買之婢究有主僕名分是以免其勾決一起  
絞犯李生貴邁瑪弟敏因在烏魯木齊收買大黃  
賣與俄羅斯圖利至千斤以上大黃久經例禁該  
犯違例夥買私販出境情罪甚重但念究係愚民  
圖利是以免其勾決一起絞犯扎郎阿因與胞兄繼  
妻章佳氏通姦被氏塔巴揚阿聞知屢向章佳氏  
挾制嚇取財產該氏恐伊子被巴揚阿陷害遂將  
姦情自首案關倫紀其罪本無可寬但念章佳氏  
因伊夫在外恐幼子被害致夫絕嗣與尚有不忍  
致死其夫之心情尚可原者相等業將章佳氏改  
入緩決是以一併免勾一起斬犯多隆武五保佛  
保太保勇明六達子九福鍾保珠隆阿九犯因護  
軍海旺等偷竊庫銀該犯等既經撞遇並不首報  
聽從分贓其罪本無可寬但念起意偷竊為首七  
犯業經處決該犯等究係被嚇分贓隨同隱匿尚  
無商同夥竊情事且人數眾多不忍令其駢首就

戮是以免其勾決以上各犯情罪俱屬重大雖經  
免其予勾俱著永遠監禁遇赦不赦嗣後刑部亦  
不必入於朝審秋審情實人犯冊內進呈朕辦理  
庶獄矜慎為懷于法無可貸之中特求其一線之  
路曲予生成而水懦民玩又憲失之寬縱致狡吏  
兇民無復知所懲儆是以斟酌權衡纖悉必求其  
當以期寬嚴適中不為已甚亦不失之不及特將  
辦理各案緣由通諭知之欽此

1327 本年七月內湖北藩司陳淮前赴熱河

陛見嗣經面奉

諭旨陳淮俟有事簡省分巡撫缺出提奏欽此今出

有貴州巡撫一缺省分較小理合遵

旨提奏謹

奏

1328 乾隆五十六年十一月十三日内閣奉  
上諭額勒春著補授戶部侍郎其貴州巡撫員缺著  
陳淮補授欽此

1329 遵

旨將奉天府尹一缺向吏部查取應行開列人員內

臣等酌量擇其尚可勝任之員開單同空名

諭旨進

呈伏候

簡放謹

奏

1330 應陞人員

光祿寺卿豐盛阿 年逾六十微覺衰老

其次應陞人員

少詹事岳起

翰林院侍講學士恭泰

國子監祭酒瑚圖禮

1331 乾隆五十六年十一月十三日内閣奉  
上諭奉天府府尹員缺著岳起補授欽此

1332 乾隆五十六年十一月十三日奉

旨崇文門副監督著伊齡阿去欽此

1333 乾隆五十六年十一月十四日奉

旨程萬長者即凌遲處死程克武著即處斬餘依議

欽此

1334 乾隆五十六年十一月十四日内閣奉

上諭懋勤殿舊貯蔣衡所書十三經應鐫刻石版歲

諸太學以垂永久著派金簡彭元瑞金士松沈初

專司辦理並著阮元瑚圖禮那彥成隨同校勘俾

臻完善欽此

1335 乾隆五十六年十一月十四日内閣奉

上諭湖北布政使員缺著汪新調補其貴州布政使員缺著萬寧補授欽此

1336 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江蘇巡撫長 乾隆五十六年十一月十五日奉

上諭長麟覆奏江南海州屬之沭陽縣劉家集等二十二鎮夏間雖被水患現已疏消罄盡播種秋麥民情不致拮据惟於來年二三月間酌借口糧秋後照數徵還則窮民口食愈得從容實可無虞失所等語沭陽縣劉家集等處既據該撫查明勘不成灾亦不值特降諭旨所有歉收各戶明春青黃不接之時即著該撫飭屬察看情形酌借口糧以資接濟務使毋濫毋遺俾小民均沾實惠方為妥善將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1337 乾隆五十六年十一月十五日奉

旨向來武職內丁憂回旗之副將人員於每年冬間照文員之例帶領引見嗣後武職病痊起復在侍衛旗員上行走及終養事畢人員俱著照吏部文官之例於每年冬季一併彙齊引見欽此

1338 查向來武職自叅將以下例不丁憂惟副將一項於丁憂回旗已滿百日先由該旗帶領引

見再於每年冬間由兵部帶領引見其病痊起復及終養事畢人員向無年底引見之例臣等謹擬寫

諭旨進 呈 謹 奏

1339 乾隆五十六年十一月十五日奉

旨俱著准其照例兼銜欽此

惠齡等請兼兵部尚書等銜

1340 乾隆五十六年十一月十五日奉  
旨慶成著轉補左侍郎額勒春著補授右侍郎欽此

1341 查山西巡撫馮光熊布政使蔣兆奎俱係漢員  
所有按察使員缺應請

簡用滿員謹寫空名  
諭旨進

呈謹  
奏

十一月十五日

1342 同日奉

上諭山西按察使員缺著特克慎補授欽此

1343 乾隆五十六年十一月十六日内閣奉

上諭富綱奏現在滇黔兩省參遊都司等員差委乏  
人雲南省請揀發參將一員遊擊三員都司二員  
貴州省參將二員遊擊二員都司二員以資差委

等語著照所請派福長安慶桂劉墉會同該部於  
健銳火器二營內照例揀選引見發往欽此

1344 乾隆五十六年十一月十六日内閣奉

上諭前令福康安海蘭察等分起帶領官兵由西寧  
一路前赴西藏所有應行騎帶馬匹等項關係緊  
要特降旨交勒保妥為籌備茲據該督奏官兵應  
需裹帶口糧及雇備駝隻馱運各事宜均經勒保  
酌定數目飭令附近各屬預為雇就官兵一抵西  
寧即可分撥馱載依期前進辦理實為妥速勒保  
著交部議敘以示獎勵欽此

1345 查莫瞻萊在御史任內條奏四件一係條奏河

南省賣與山西民人地畝經畢沅奏請准其回  
贖但其中有麥已收割出糶者應請令該撫查  
照該省月報麥價令業主於贖價內坐扣等由  
奉

硃批此事著該撫詳議一面辦理一面速奏欽此一

係條奏續辦三分書謬訛甚多請將現在詳校  
官所閱書籍簽改冊檔令三分書原校對等查  
對照改仍派大臣一二員總核簽檔等由奉

旨准行一係條奏詳校三閣書冊簽出錯謬甚多請  
將四庫館纂校議啟應陞各員驟行註銷其已  
經陞用之員分別內外任酌罰廉俸等由奉

旨所奏甚是著該部核議具奏欽此一係條奏請令  
各督撫於僻遠處所倍加留心訪緝段文經等  
由奉

旨寄信直隸江南山東等省各督撫一體留心查緝  
因此摺條密擊要犯未經發抄並非留中臣等  
面詢該府尹據稱

召見時奏對未能明晰今蒙傳詢不勝惶悚等語謹  
奏

十一月十六日

1346 乾隆五十六年十一月十六日內閣奉

上諭福建汀漳龍道員缺著史夢琦補授欽此

1347 臣等遵

旨監提附天保將該犯如何捏名誣騙種種情節再  
行逐加嚴究並擰耳跪鍊加以拶夾該犯所供  
仍與前日供詞無異是該犯已無可再行研訊  
之處現在臣等即將該犯從重定擬另行繕摺  
具奏謹

奏

十一月十六日

1348 乾隆五十六年十一月十七日內閣奉

上諭福建漳州府知府員缺著該督撫於所屬內揀  
選一員調補所遺員缺著甄時濟補授其所遺員  
缺著吳于宣補授欽此

1349 乾隆五十六年十一月十七日奉

旨林文學著即處斬餘依議欽此

刑部議覆雲南省因姦殺死二命一案

1350

大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十六年十一月十七日  
奉

上諭本日閱馮光熊奏查閱營伍情形一摺因思從前巡幸五臺該省向將旗營兵丁在行宮前預備簡閱五臺僅係一邑兵丁自屬有限所有備閱之兵自係由太原駐防及各營調取前赴該處伺候五臺地方狹隘本無演武之處朕巡幸所經願為瞻禮並非覈簡軍實此項備閱之兵甚屬無謂况各營紛紜調取兵丁所有盔甲器械等項均須運送亦覺紛擾糜費著傳諭馮光熊明春五臺差次除辦道及巡查兵丁照例預備外其備操綠營兵丁及城守尉所管駐防官兵俱不必調往伺候以節繁費而示體恤欽此遵

旨寄信前來

1351

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年十一月十七日奉

上諭朕從前巡幸五臺經過正定向將旗營兵丁預備操演此次巡幸臺山原為瞻禮並非覈簡軍實若將各營兵丁紛紛調取前赴伺候未免紛擾糜費著傳諭梁肯堂明春經過正定地方時向來備操之駐防滿兵及綠營官兵竟可毋庸伺候以示體恤將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1352

乾隆五十六年十一月十八日內閣奉

上諭本日刑部題覆河南省賈希曾賈望曾砍傷堂叔賈嵩秀致成篤疾將賈希曾依毆本宗小功尊屬至篤疾者擬以絞決賈望曾照為從減等律擬流一本此案賈希曾因向堂叔賈嵩秀借貸不允挾嫌氣忿喚同胞弟賈望曾先後用刀砍傷賈嵩秀致成篤疾賈希曾賈望曾兄弟兩人同為賈嵩秀堂姪雖用刀毆砍有先後之別但服制攸關未

可照凡人鬪毆例分別輕重也且賈希曾刃砍兩傷賈嵩秀即行走避賈望曾復疊砍多傷更不得以下手先後分別首從刑部雖屬照律辦理實未允協着軍機大臣會同刑部悉心詳議應如何酌定改擬之處另行具奏此案俟議定一併核覆欽此

1353 臣等遵

旨監提附天保將該犯從前在五寨縣如何被拏彼時究係何人拏獲之處詳加研詢據該犯供五十五年四月間到五寨縣城內北街在棋桿店內住有十幾天聞得北街有個賭局我就前往同張姓秀才狄姓房東並有兩個不知姓名的人一同闖牌不想街門忘了上樓到起更時候忽有巡役數人進來說是縣官查夜就把我們鎖鞏了將牌搶去當時並沒見有縣官帶至班房鎖押到第三天太爺坐堂訊供我說因無行李店家不肯收留是以捏稱武舉那時縣官就將我責了三十二板把我趕出西門外我就往

陝西一帶去了等供臣等以該犯狡詐多端所供恐尚有不實不盡復擰耳掌責加以拶夾該犯仍堅執前供矢口不移是該犯已無可再行詢問之處謹將臣等定擬原摺隨

旨進

呈俟

發下後即將該犯綁赴市曹處斬理合將遵

旨嚴訊緣由覆

奏並擬寫寄信馮光熊

諭旨一併進

呈謹

奏

1354

大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十六年十一月十八日

奉

上諭本日據馮光熊奏五寨縣調任太平縣知縣孫永治於拏獲附天保時並不悉心根究從輕責逐完結一摺已批交該部嚴察議奏矣但摺內稱提

查五寨縣案卷該縣孫永治於晚間帶役巡查聽聞東關開張歇店之張大門內深夜喧鬧進內查拏在店拏獲歇客王雍訊供本名夏應瓏因無行李店家不肯收留只得捏稱武舉纔允留住隨將該犯杖責驅逐出境完案等語附天保一犯既經捏稱武舉即應嚴行跟究何得僅以杖責完結至該縣孫永治深夜查拏一節此係詐語尤不可信所謂難罔以非其道也各省督撫大員廉俸優厚尚多深居簡出不肯於暮夜之時查拏匪類至州縣等官於地方宵小聚集處所即日問未必能親身查訪安得有深夜帶役巡查拏獲匪犯之事若果孫永治如此留心朕方欲加以不次陞擢豈轉將該員交部嚴議因令軍機大臣監提附天保細加研鞫據供上年四月間到五寨城內北街住在客店聞得北街有個賭局我就前往同張姓秀才秋姓房東等鬪牌到起更時忽有巡役數人進來說是縣官查夜就把我們鎖拏當時並沒見有縣官等語可見彼時孫永治並非親自往查祇係巡役等虛張聲勢用言恐嚇而孫永治亦遂裝點情節

意圖輕減處分該撫不加查察於奏摺內率行敘入竟為該縣所愚著傳諭馮光熊嗣後凡遇屬員詳報事件務須悉心察核不使稍有朦混方為無負委任將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1355 乾隆五十六年十一月十八日奉

旨附天保即夏應瓏著即處斬餘依議欽此

1356 據惠齡告稱本日面奏請將山東試用州同毛

大瀛帶往西藏差委奉

旨允准即令在川省補用等語臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

十一月十八日



1357 乾隆五十六年十一月十八日內閣奉

上諭據惠齡奏請將山東試用州同毛大瀛帶往西藏差委等語毛大瀛著照所請交惠齡帶往西藏差委事竣後遇有川省相當缺出補用欽此

1358 乾隆五十六年十一月十八日奉

旨王廣楠著即處斬餘依議欽此

速議安省私雕假印

1359 本月十八日兵部將陝甘總督勒保預行保舉

續經保列一等之甘肅提標中軍叅將明廣又前任兩江總督協辦大學士尚書孫士毅保列一等之江西饒州營叅將劉鑑二員帶領引

見奉

旨明廣劉鑑俱著交軍機處記名欽此

十一月十九日

1360 臣阿桂等謹

奏為奏銷事查向例熱河道庫收貯備賞備用銀兩其動用實存銀數臣等於年底查核一次茲據熱河道全保將乾隆五十五年報銷以後道庫存貯銀兩開具管收除在四柱清冊呈送前來臣等逐加查核其冊內舊管備賞備用備存銀六萬六千三百九十九兩二錢五分與上屆奏銷銀數相符新收內務府廣儲司撥交備賞銀三十萬兩又准熱河副都統解交挪蓋圍場鑲藍旗營房借領備賞銀於乾隆五十六年春夏二季兵餉內五次扣存應繳銀一百五十六兩又秋冬二季應扣繳銀一百五十六兩共新收銀三十萬三百二十二兩核實數目均屬相符至開除項下自乾隆五十六年三月二十日起至七月二十五日止准熱河總理工程處咨領木商趙敬修砍辦松鶴齋應用木植案內找領銀一千一百四十八兩九錢三分准熱河副都統咨領圍場獲鹿官兵賞銀六十一兩又

行在戶部劄領鑿儀衛校尉應賞一月錢糧銀五十

二兩

行在戶部劄領熱河滿洲兵丁并看守

行宮千總兵丁賞銀六千五百五十兩

行在戶部劄領熱河南北兩路看守

行宮官兵賞銀一千四百十八兩

行在戶部劄領內務府都察院司嚮導處茶膳房太僕

寺

上駟院粘竿處兵部七處先行回京官兵驟價銀

四百二十六兩六錢

行在戶部劄領

上駟院收駝官兵路費銀三百四兩二錢

行在戶部劄領

上駟院尚都達布遜諾爾放馬官兵路費銀一百

五十六兩

行在戶部劄領熱河額魯特兵丁賞銀二百九十四

兩伍錢

行在戶部劄領刑部員外郎明保候補員外郎員承

寧路費銀七兩八錢又奉

旨挑挖旱河借動備賞銀三千九十一兩五錢

行在戶部劄領熱河居住安南黎光零等賞銀三十

兩

行在戶部劄領

上駟院達里崗愛收駝官兵路費銀三百四兩二

錢

行在戶部劄領內閣吏部戶部禮部兵部刑部工部

理藩院提督衙門鑿儀衛

上駟院武備院

御茶膳房嚮導處虎鎗處粘竿處會計司太醫院太

僕寺養狗處都察院司侍衛處諸達處熱河額魯

特總管烏鎗處共二十五處賞銀一萬六千九

百八十五兩內除

上駟院派往多倫諾爾等處放馬官兵暫存道庫

銀四百二十二兩外實先發銀一萬六千五百

六十三兩

行在戶部劄領候補員外郎員承寧賞銀四十兩

行在戶部劄領鑿儀衛校尉應領一月錢糧銀五十

二兩

行在戶部劄領武備院派出察哈爾牽駝官兵路費

幫銀共二千三百八十三兩

行在戶部劄領侍衛處虎鎗處粘竿處鑾儀衛禮部

內務府

上駟院

御茶膳房提督衙門軍機處理藩院武備院十二處

射中布靶官員賞銀四百五十兩

行在戶部劄領熱河滿洲并額魯特兵丁賞一月錢

糧銀六千八百四十四兩五錢

行在廣儲司咨借備賞銀六千兩

行在戶部劄領熱河派出進哨官兵較射布靶賞銀

六百六十兩又奉

旨批挖旱河發給各當商生息銀五萬兩以上共開

除銀九萬六千八百三十七兩二錢三分臣等

將各款數目按冊詳加核對并交查戶部內務

府咨領各案均屬相符其實存備賞備用銀二

十六萬九千八百六十五兩二分應令熱河道

全保造入下年報銷冊內再行核算所有臣等

查核緣由理合恭摺具

奏伏乞

皇上睿鑒謹

奏

乾隆五十六年十一月十九日奉

旨

1361 乾隆五十六年十一月二十一日奉

旨玉山准其贖罪仍著交刑部監禁俟贖罪銀兩依

限完交再行釋放欽此

1362 乾隆五十六年十一月二十一日內閣奉

上諭書麟奏蘇松鎮總兵魏轍年近七十旬精力漸衰

現又染患瘡疾一時難與速痊請令休致等語魏

轍著准其休致所遺蘇松鎮總兵員缺著陳安邦

補授欽此

臣等將郭世勳奏到審明八卦邪教案犯分起解京一摺詳悉閱看內有周二雷興麻三陳正忠胡國吉等五犯係在德慶州拜步文斌為師之人又洪百春陳典二犯係引進周二等五犯拜步文斌為師之人其餘謝文等三十四犯或在配所輾轉收徒或聽從劉照魁勾引令其堅守本教並有止係與步文斌同案發遣並無在配收徒傳教之人臣等恭查本年八月內欽奉上諭令究出劉書芳步文斌所傳徒弟務須按名拏獲解京辦理其徒弟轉相傳授之人不必輾轉株連以省拖累等因欽此今郭世勳所奏審明邪教各犯內周二等五犯既拜步文斌為師洪百春等二犯既指引周二等拜步文斌為師自應與步文斌一併解京歸案嚴訊辦理其餘謝文等三十四犯均係轉相傳授及聽從劉照魁勾引堅守本教並有止係步文斌同案發遣之人以上各犯並無應行實訊之處止應留於廣東監禁俟臣等會同刑部將來定擬全案時將各犯

分別核擬行知該督遵照辦理若概行解京誠如聖諭人數衆多且恐有中途脫逃之事謹遵旨擬寫寄信郭世勳及沿途各督撫令其截回諭旨進  
呈謹  
奏

十一月二十一日

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
署兩廣總督廣東巡撫郭 直隸山東江南江西各督撫 乾隆五十六年十一月二十一日奉  
上諭郭世勳奏審明八卦邪教案犯分起解京一摺此案步文斌一犯在德慶州配所令劉照魁洪百春陳典等勾引各犯傳教收徒情節甚為可惡前已有旨令將步文斌解京審辦其聽從勾結拜步文斌為師之犯自應一併解京歸案辦理至其餘各犯止係輾轉收徒及聽信劉照魁指引堅守本

教之人自應於審明後監禁省城聽候軍機大臣會同刑部將來定擬全案時分別核擬行知該督等遵照辦理乃郭世勳將四十餘人概行解京辦理此案既漫無區別且人數衆多如有中途脫逃等事轉屬不成事體所有此案人犯閱該督奏到單內周二雷興麻三陳正忠胡國吉五犯係拜步文斌為師之人洪百春陳典二犯係引誘周二等拜步文斌為師之人情節較重俱著解京審辦其餘三十四犯著傳諭郭世勳將該犯等留禁省監聽候核擬分別發落如業經起解行至中途並著沿途督撫查明截回仍交郭世勳收禁將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1365 乾隆五十六年十一月二十一日內閣奉

上諭據吉林將軍奏通省節年發到遣犯名數清單內稱脫逃未獲遣犯五百二十二名此等遣犯節年脫逃未獲至五百餘名之多可見地方官於咨緝事宜不過視為海捕具文不能實力偵緝但此

等未獲各犯俱係各省通緝且其中多有年久之案每年開單照例彙奏亦非核實之道所有此項未獲各犯除行查各該犯原籍有無潛逃回籍一體嚴緝外其應如何查核年分分別停緝並將承緝各員再行酌定處分之處著軍機大臣會同吏刑二部詳晰核議具奏欽此

1366 乾隆五十六年十一月二十一日內閣奉

上諭自漢唐宋以來皆有石經之刻所以考定聖賢經傳使文字異同歸於一是嘉惠藝林昭垂奕禩甚盛典也但歷年久遠率多殘缺即間有片石流傳如開成紹興年間所刊今尚存貯西安杭州等府學者亦均非全經完本我朝文治光昌崇儒重道朕臨御五十餘年稽古表章孜孜不倦前曾特命所司創建辟雍以光文教並重排石鼓文壽諸貞珉而十三經雖有武英殿刊本未經勒石因思從前將銜所進手書十三經曾命內廷翰林詳數舛謬歲弄慙勤殿有年允宜刊之石版列於太學用垂永久著派和坤王杰為總裁董誥劉墉金簡

彭元瑞為副總裁並派金士松沈初阮元瑚圖禮那彥成隨同校勘但卷帙繁多恐尚不敷辦理著總裁等再行遴派三人以足八員之數為校勘諸臣等其悉心研辦務臻完善以副朕尊經右文至意欽此

1367 遵

旨查穆騰額前次奏到解交張家口利銀一欸係乾隆三十二年奏明將綏遠城生息銀一萬兩發交長蘆一分生息每年應得利銀一千二百兩解交內務府以備張家口兵丁紅白事件

恩賞之用嗣於三十三年欽奉

諭旨各省綠營駐防生息銀兩全行裁撤所有此項兵丁紅白賞銀動用裁扣兵餉銀兩報部核銷在案是以前交長蘆生息利銀該鹽政每年照例解交內務府歸入正項開銷張家口並不支領謹

奏

十一月二十二日

1368

查詢問各督撫明春新正應否加恩諭旨係直隸山東河南江蘇安徽五省前據梁肯堂穆和蘭長麟先後覆奏本日又據江蘭奏到俱請俟來春酌借口糧無庸另行賑濟現在惟安徽一省尚未奏到俟朱珪覆奏到日臣等

謹遵

旨擬寫

加恩賞給口糧

諭旨進

呈謹

奏

十一月二十二日

1369

辦理軍機處為咨催事照得雲南勒休知府劉杰名下應行入官房地前據鑲白旗漢軍都統奏稱查出劉杰冊檔開載地畝房間應俟直隸總督

盛京將軍查明確作價到日再行歸業辦理等

因奉

旨交軍機大臣查辦欽此嗣據

貴將軍奏報查得雍正五年紅冊內載京都鑲  
白旗漢軍李廷勳佐領下閑散劉花馬名下坐  
落臥佛寺等處地五百六十一畝二分曾有候  
補稅司劉杲劉栢二人至錦州將劉花馬名下  
地畝立契租佃但劉杰係花馬何人劉杲劉栢  
與劉杰是否一族無憑根查請交鑲白旗漢軍  
都統就近詳查咨覆即據實估變報部入官等  
因奉

硃批知道了欽此經本處交該旗查覆據稱查得乾

隆六年劉永濬等由裕親王門上包衣抬入本  
旗時隨帶地畝印冊內載劉書孟之長房孫劉  
永濬名下山海關外卧佛寺有地三十日劉書  
孟之三房孫劉永泓名下山海關外卧佛寺有  
地三十日今因劉杰名下有應追欠項是以  
奏請僅將該員之故父劉永濬名下地畝入官其  
劉栢之故父劉永泓名下地畝因過旗時另冊  
開載業經分出之產未便報出入官並詢據劉

栢劉門變劉燈等均稱劉書孟當日原有劉花  
馬之號係劉杰之曾祖其劉花馬之房地即係  
劉杰之房地等語查劉花馬即劉書孟既係劉  
杰之曾祖其山海關外卧佛寺地畝即係劉杰  
名下地畝自應查丈入官抵項此案奉

旨交本處查辦未便稍有稽延相應飛咨

貴將軍速飭查照核其咨內情節即將劉杰名  
下地畝勘丈明確據實估變作價一面報部抵  
項一面咨覆本處以便核辦具

奏毋致遲悞可也須至咨者

右咨

盛京將軍

乾隆五十六年十一月二十二日

1370 盛京侍郎名單

戶部侍郎宜興

禮部侍郎祿康

兵部侍郎玉保 現在丁憂

刑部侍郎僧保住

工部侍郎傅森

1371 乾隆五十六年十一月二十三日內閣奉

上諭德明著調補吏部右侍郎仍兼管樂部太常寺

事務其禮部侍郎員缺著僧保住調補所有盛京

刑部侍郎員缺著巴延三補授欽此

1372 乾隆五十六年十一月二十三日奉

旨石二班著即處斬餘依議欽此

1373 查本日福康安奏到之摺係本月十六日在甘

肅靜寧州由五百里拜發計在途行走七日前

所奉令福康安由鞏昌改道赴藏

諭旨係本月十八日由六百里加緊發往約於本月

二十三四等日福康安可以在蘭州至西寧一

帶途次接奉福康安若由六百里加緊覆奏約

於出月初二三等日可以奏到再查索倫達呼

爾兵丁現在尚無由黑龍江起程准日其行走

程站及何日可抵西寧之處俟該兵丁等到京

擬定分起啟程日期方可核籌謹

奏

十一月二十三日

1374 乾隆五十六年十一月二十三日內閣奉

上諭本日刑部奏驍騎校穆克登額責打民人李大

身死請將穆克登額依罪人已就拘執而擅殺律

擬絞監候一摺細閱此案情節李大因馬甲威靈阿

賒欠錢文於點燈時赴營房索討威靈阿之妻回

覆伊夫外出該班李大不依吵嚷穆克登額差馬

甲德通等將李大挈至官廳責打傷重殞命刑部

將穆克登額擬以絞候於罪名尚無錯悞但摺內



稱李大係屬有罪之人依擅殺罪人律定擬則所引殊未允協馬甲威靈阿賒欠李大錢文許以十月初八日下晚清還李大屆時往索其理本直並非有罪之人穆克登額庇護馬甲因李大出言頂撞喝令疊加杖責斃命自應按例擬抵而刑部輒稱李大究屬有罪是旗人欠負民人錢文俱不應索討勢必至益加橫恣遇有錢債事件民人竟不敢向其清理何以示平允而昭公當朕辦理庶務於旗民從不稍存岐視如民人有應得之罪固當按律懲治若曲在旗人亦必加以重懲不少寬貸惟期情真罪當用法持平絕無畸輕畸重於其間乃刑部以索欠之李大指為罪人是該管官員袒庇於前而刑部又袒庇於後皆屬非是刑部堂官著飭行並將此旨傳諭八旗並各營房一體刊刻張掛俾各觸目警心共知懲戒此案穆克登額著另擬絞監候秋後處決之罪餘依議欽此

1375

乾隆五十六年十一月二十四日內閣奉

上諭兵部題覆廣東候補都司利振紀守備黃斌全在部呈改水師到省試驗未嫻准咨照例議以降一級調用一本業照部議降調矣該都司等在部呈請生長海濱熟悉水師到粵後經福康安即行試驗均未諳習據實咨部辦理自係福康安覈實試驗不肯任其冒濫貽誤辦理尚屬公正因思此等人員或因在部候補時希圖得缺較早兼回原籍及水師陞途便捷隨冒昧呈改迨發往各省後各督撫以候補人員一時未能得缺不即行試驗致令該員等冒濫充數殊非覈實辦公之道嗣後各督撫遇有此等呈改水師人員分發到省務須認真試驗除實能諳習水師情形者方准留標補用外如有本不諳習朦混呈改之員即據實咨部辦理毋得稍存姑息致滋貽誤欽此

1376 乾隆五十六年十一月二十四日內閣奉  
上諭浙江溫處道員缺著張暎璣補授欽此

1377 乾隆五十六年十一月二十四日內閣奉  
上諭工部滿侍郎現在乏人和琳本係工部司員出  
身於部務素所熟悉松筠未回京以前著和琳兼  
署欽此

1378 乾隆五十六年十一月二十四日內閣奉  
上諭雲南迤東道員缺著王祿朋補授欽此

1379 查通鑑綱目續編自乾隆四十八年奉  
旨令各省挖改抽繳後節據各督撫每年收繳陸續  
解京俱經臣等於年底交

進銷燬本年據廣東福建甘肅各督撫奏到並無  
抽改綱目續編惟本日湖北巡撫福寧奏繳一  
部尚未解到俟各省續有送到者一併彙齊再  
行文

進謹  
奏

1380 本月二十四日吏部將保薦卓異之四川重慶  
府知府趙由坤甘肅西寧府知府瑞亨湖北黃  
崗縣知縣王正常三員帶領引

見奉  
旨趙由坤瑞亨王正常俱著交軍機處記名欽此

1381 臣等面奉

諭旨令擬寫寄信陳用敷

賞阮光平

御書福字節賞

諭旨進

呈查上年十二月內該國王瞻觀回國賚表謝

恩曾經

御賜壽字并

加賞物件並非年例此次

恩賞福字謹俟

發下時酌擬

加賞物件再行擬寫寄信

諭旨進

呈謹

奏

1382

大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 山西巡撫馮 乾隆五十六年

十一月二十六日奉

上諭昨據都察院奏山西職員王嵐控告孟教材等負欠誣告占妾霸姦各款內有河南告病通判孟鑾求御史武潢寄信伊父原任開封府知府武先慎代起病痊咨文一節現今軍機大臣傳到武潢詢問據武潢供稱孟鑾係我表弟在河南告病後於上年夏間到京先在外城客店居住嗣於九月內移居內城普濟寺十月間孟鑾到我家內要我帶信與我父親武先慎替他代起病痊咨文我適有使人要往河南即將孟鑾書信寄去到十一月

我接父親來信內有寄覆孟鑾信一封內咨文一件叫我交給孟鑾我隨著人送給等語孟鑾告病後即在京居住未曾親赴河南請給病痊咨文已據武潢供明屬實是穆和蘭於該員起文時並未與之見面何得遽行給與咨文其咨內所出看驗考語竟屬憑空填寫必係武先慎向穆和蘭代為懇求勒令鄭州出結以致通同朦混率行咨部起復其弊已屬顯然除將武潢解任質訊外著穆和蘭將武先慎如何代孟鑾懇求及該撫未見孟鑾之面何以知孟鑾病已痊愈憑空填寫注年力強壯人亦明白考語一併據實明白迴奏至降調知府武先慎候補通判孟鑾並著該撫派委委員迅即解京以憑質訊又據王嵐稱孟鑾在京接到武先慎書信及病痊咨文時有孟鑾妹夫李安民在寓一同看見現在河南孟鑾任所等語亦著穆和蘭將李安民一併拏獲解京候質再王嵐控詞內所稱倚勢詐銀之孟教材及太谷縣串通枉斷之武先勳從中說合乘機搶妻之張效禹並已革太谷

縣知縣顧售均係案內應行質訊之人著馮光熊  
按名押解來京歸案審辦其餘呈內所控各案人  
數衆多若概行解京未免拖累著將王嵐原呈及  
所開款蹟抄寄穆和蘭馮光熊閱看按照所控情  
節逐一就近訊取供詞咨送軍機處歸案辦理若  
再稍有回護遷就恐該撫等不能當其咎也將此  
各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

1383

查上年前任浙江巡撫琅玕奏新疆改遣軍犯  
梁好在配脫逃將典史知縣咨部議處一摺欽  
奉

上諭以梁好係竊賊拒捕應發新疆改遣之犯該管  
官並不小小心約束將典史革職知縣交部嚴加  
議處經該部欽遵辦理在案本日福崧奏到在  
配脫逃遣犯郝黑狗旦亦係竊賊拒捕應發新  
疆改遣人犯與上年琅玕所奏脫逃之犯例案  
相同福崧並未遵照前次所奉

諭旨專摺奏謹遵

旨擬寫明發

諭旨進

呈謹

奏

1384

乾隆五十六年十一月二十七日內閣奉

上諭據福崧奏新疆改遣人犯郝黑狗旦在配脫逃  
將專管之典史兼轄之知縣咨部照例議處一摺  
郝黑狗旦係竊盜臨時拒捕傷輕平復應發新疆  
改遣之犯脫逃後如經拏獲即應正法非尋常遣  
犯在配脫逃者可比上年琅玕在浙江巡撫任內  
具奏新疆改遣人犯梁好在配脫逃一摺曾降旨  
將典史革職知縣交部嚴加議處今福崧所奏脫  
逃之犯與前此案例相同該撫豈得諉為不知乃  
並不專摺奏僅於摺尾聲明咨部照例議處殊  
屬袒縱福崧著傳旨申飭此案典史侯璋係專管  
之員著即革職其失於防範之知縣饒用著交部  
嚴加議處摺併發欽此

1385

大學士公阿和 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 浙江提督陳 乾隆五十六年

十一月二十八日奉

上諭福崧等奏拏獲洋面盜犯審明後即行正法並分別發遣一摺已交該部核議矣浙省營伍廢弛海洋地方劫盜頻聞皆由該撫等平日不能實力整飭所致今福崧等派委文武員弁於水陸要隘拏獲陳阿掌蔡阿洋等六名審明後即將首惡要犯恭請王命正法其餘分別從重定擬福崧等自緝拏洋盜以來祇此一事差強人意所有緝獲此案盜犯之文武各員著該撫等分別記功以示獎勵嗣後該撫等於地方營伍一切務須實力整頓而於海洋巡緝事件尤宜督飭所屬倍加奮勉方為不負委任將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1386

乾隆五十六年十一月二十八日奉

旨部議不准捐復之劉德懋一員核其情節雖係擅用印照催繳津貼銀兩但尚屬以公濟公著准其捐復餘依議欽此

1387

本年十月二十二日直隸總督梁肯堂奏請以

磁州知州仲貽桂陞署北運河務關同知一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

已照例議准臣等無庸擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

十一月二十八日

1388

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
廣西巡撫陳 乾隆五十六年十一月二十九日奉

上諭阮光平寵列藩封情殷愛戴自應與在朝之王公大臣近同一體本年十二月朔朕開筆所書福字即以賞給該國王俾得先承恩賚與該國臣民共迓春禧以示欽時錫福中外同沾之意並照諸王新年分例賞給黃辮大荷包一對貯各色玉石八寶一分小荷包四對貯金八寶一分銀八寶一分穗子小荷包一個金錢金鏤各二個銀錢銀鏤各二個又加賞白玉象一件一并發往著陳用敷將以上所賜福字荷包等物即交鎮南關鎮目轉交阮光平祇領並恭錄此旨知照該國王用昭優眷將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1389

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
湖廣總督畢 湖北巡撫福 乾隆五十六年十一月二十九日奉

上諭本日據畢沅等奏漢陽江岸泊船失火延燒糧船鉛船請分別賠造船隻賠補鉛斤一摺已明降諭旨免其著賠矣因思此時正值緬甸安南等國使臣入京之期各國來使向俱由水路進京必於該省經過該處延燒船隻一事該使臣等曾否已經過境未及聞知抑或正值行抵該處目覩其事並有無得自傳聞之處著該督即行查明具奏欽此

1390

乾隆五十六年十一月二十九日內閣奉

上諭畢沅等奏湖北漢陽江岸停泊船隻被火焚燬一摺內稱該處泊有回空漕船及鉛斤鹽船民船約千餘隻沿岸排列十一月十一日有民船一隻失火延及各船一時風狂火烈被燒回空漕船十六隻鉛船九隻鹽船一隻沉溺鉛六十四萬餘斤

淹傷貴州委員吏目吳掄元一員淹斃家丁舵工四名水手九名不知下落等語此係无妄之災覽奏深為憫惻本年雨暘時若年穀卓成河工海塘安瀾順軌朕猶慮直隸河南山東江蘇等省所屬村庄內間有一隅歉收之處特降諭旨令該督撫查明具奏候朕新正加恩撫恤嗣接各督撫奏稱查明所屬均不至成災祇須於明春酌借口糧無庸加賑是朕欲加惠黎元而思無可施方思廣求民瘼用普春祺俾蔀屋茅簷咸沾愷澤朕臨御以來惟日孜孜常懷寅畏從不敢稍存滿足之念以仰

賴  
吳蒼鴻賦諸事順寧正益深兢惕之時秋間有科爾喀與唐古忒索欠滋擾後藏邊界一事致勞宵旰今漢陽江岸延燒官民船隻淹斃人口猝被災傷此正

上天垂戒滿盈之意是宜引以自儆而益深乾惕也所有漢陽江岸被燒漕船及沉失鉛斤事起倉猝人力難施何忍按例令被災之運丁及委員等賠補此項漕船十六隻俱著官為造辦免其著賠明歲

應運新漕即著該督等催募民船無悞開兌其沉失鉛斤並令該督等督飭所屬上緊打撈務獲如有撈不足數者亦加恩豁免至淹傷委員及淹斃人口俱著妥為優卹恐此外尚有並非在官人役及商民同時淹斃者亦著查明確數一體辦理該督等務須實力查辦以副朕恤災愛民至意摺併發欽此

1391

查各國貢使來京惟緬甸安南二國向由湖北行走其琉球一國使臣係由福建江西江南山東等省行走並不由湖北經過是以臣等於擬寫寄信畢沅等

諭旨內未將琉球一國叙入謹奏

十一月二十九日

1392

查昨日福崧奏拏獲洋盜分別辦理摺內未獲  
逸盜二名係蔡世貴許阿榮查對浦霖奏到摺  
內所獲各犯俱無蔡世貴許阿榮姓名與福崧  
所奏係屬兩案除將浦霖摺會同刑部速議具  
奏外理合查明覆奏謹  
奏

十二月初一日

1393

本年十月二十二日兩廣總督公福 等奏請  
仍以河源縣知縣趙鴻文調補南海縣知縣一  
摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

將該員照例議駁於本日具

題臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

1394

乾隆五十六年十二月初一日奉  
旨趙鴻文著照該督所請行

1395

乾隆五十六年十二月初二日奉  
旨鐵保著轉補左侍郎僧保住著補授右侍郎欽此

1396

乾隆五十六年十二月初二日奉  
旨康基田著照該督等所請准其陞授准徐道摺併  
發欽此

1397

乾隆五十六年十二月初二日奉  
旨這所參署連江縣事長汀縣縣丞李林著革職交  
與該督撫提同案內人証秉公嚴審定擬具奏該  
部知道摺併發欽此



奏為遵

旨會議具奏事乾隆五十六年十一月十二日欽奉  
上諭昨據兵部將修製軍械則例進呈朕詳加披閱  
所辨殊屬非是前因各省提鎮以下至將弁等俱  
有佔用馬步名糧作為得項者殊非核實行伍之  
道因降旨添給武職養廉將虛額兵丁名糧俱挑  
補實兵所有一切修製軍裝等項俱令作正開銷  
原為慎重營伍體恤兵丁起見但既官為經理所  
有應修軍械等項亦應核實辦理毋許各該省稍  
有弊混方為正辦今閱兵部所定則例內即如鐵  
盔鐵甲兩項今定為六十年一製三十年一修殊不  
思鐵盔鐵甲係堅實經久之物亦不過於督撫提  
鎮查閱營伍時偶一穿帶並不常用即調派出兵  
若穿鐵盔鐵甲打仗必致難於轉動此歷來出兵  
打仗之人所深知何必定以修製年限致啟營伍  
開銷浮冒之漸其虎衣虎帽等項尤為虛設無用  
又何必定限修整以此類推其中似此者諒亦不

少况各省修造軍械銀兩亦應酌定數目豈可聽  
其任意開銷今則例內總未載明所謂定限者定  
何限應用者用何項甚屬踈漏不成書尚欲頒行  
各省何所適從著軍機大臣會同該部另行詳加  
酌核悉心妥議具奏欽此 查向來各省武職官  
員俱係分扣兵丁名糧作為用項所有修製軍  
裝器械等項即動用公費名糧於每兵百名中  
酌扣二三名虛糧作為修製之費並不報部核  
銷乾隆四十六年欽奉

諭旨酌給武職養廉增添實兵將虛糧名目概行裁  
汰其應需修製軍裝器械銀兩各按營分大小  
酌定數目即於原設公費內動給令其逐款開  
造清冊報部核銷其餘剩銀兩仍令存貯各營  
於下年請領公費時按數扣除惟是各省造報  
修製軍裝器械之案名目甚繁節經兵部咨查  
駁飭核減於五十年三月內奏請行令各該督  
撫按照水陸情形分別實在應修應存款項造  
冊報部復經兵部逐款查核將舊例未經開載

各項均令營兵自備不准開銷又行軍攜帶及差務備用各項停其修製遇需用時將應修應製歸入軍需差案欸項核銷其餘實在行軍操演所必需軍裝器械酌展年限纂入則例此兵部辦理則例之原委也但查則例內所載准其修製軍裝器械等項內仍有並非常用及可以經久不壞毋庸定限修製之物誠如

聖諭

如鐵盔鐵甲不過於操演時偶一穿帶其虎衣兜帽等項俱係靈設無用今一律增定年限准其修製辦理未為核實<sub>臣</sub>等公同酌議謹將則例內所開定限修製各項除實係操演守禦必需之物不能經久不敝必當報部修製者准其仍立年限修製報部核銷外其餘軍裝器械並非常用及製造後可以經久不壞如鐵盔鐵甲虎衣虎帽等類稟行刪除毋庸定立年限再為修製以昭覈實至實在應修器具所需工料等項核銷銀兩向例歸于工部辦理但各省物料價值貴賤不等應令各該省督撫及將軍提鎮等將各項器具長寬尺寸並所需工料逐一開

明一併造報工部詳晰核定再行載入則例務使帑項不致虛糜而軍器咸歸實用所有<sub>臣</sub>等公同酌議緣由理合恭摺具

奏謹將各省軍裝器械應行永遠停其修製並則例內原擬停修存貯及令營兵自備各項分別

開繕清單進

呈恭候

欽定俟

發下後<sub>臣</sub>等再行另繕則例刊刻

頒發是否有當伏乞

皇上訓示謹

奏

乾隆五十六年十二月初三日奉

旨依議欽此

1399

再<sub>臣</sub>阿桂等所纂則例內修製軍裝器械等項雖經酌展年限並舊例未開各項均令營兵自備不准開銷其軍械內並非行軍操演所用者

均令存貯永遠停修但列入應修軍械內仍有  
並非常用及可以經久之物誠如

聖諭未為核實臣等未經詳加確核實屬疎忽應請  
旨將臣阿桂臣慶桂及承辦則例之兵部堂官一併  
交部議處謹

奏

同日奉

旨知道了欽此

1400 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年十二月初四日  
奉

上諭步軍統領衙門奏據山西民人王永恒呈控與  
許禔夥開鹽店不還銀兩鹽運使批交運同審斷  
不公偏護朱玉樹許禔將應還本利一萬一千餘  
兩只斷給本銀三千兩王永恒不肯遵斷並令書  
吏樊樹勒寫遵依等情此案因負欠不清毋須特  
派大臣前往審訊著將原被各犯解赴直省交該  
督梁肯堂提同案內人証將該運同所斷是否偏

袒及該運使有無授意運同串通書吏枉斷等弊  
秉公嚴訊徹底根究所有原審之運使李世望業  
經告病離任現任運使嵇承志非伊任內之事該  
督自無所用其回護務當逐一嚴訊據實查辦毋  
任稍有狡飾致干咎戾再穆騰額不得諉為不知  
亦應問步軍統領衙門原摺著抄寄閱看將此諭  
令知之欽此遵

旨寄信前來

1401 乾隆五十六年十二月初四日奉

旨此案著交梁肯堂秉公嚴審定擬具奏所有原被  
各犯一併解交直隸質審欽此

步軍統領衙門奏王永恒呈  
控與許禔夥開鹽店不還銀  
兩一案

1402 乾隆五十六年十二月初四日奉

旨林杜著即處斬餘依議欽此

刑部定擬福建省妬姦殺  
死二命

1403 本月初四日兵部將兩廣總督公福 保列一

等之廣東南雄協副將托爾歡一員帶領引

見奉

旨托爾歡交軍機處記名

十二月初五日

1404 乾隆五十六年十二月初六日內閣奉

上諭富綱等奏據官犯黃宗傑之伯母黃高氏呈請

代姪贖罪一摺已批交該部議奏矣但該督等摺

內既稱查閱黃宗傑犯流原案雖曾經縱於前但

究係自行審出與故出人罪者有間可否准其贖

罪出自天恩又稱飭將捐贖銀兩提貯司庫等語

殊屬非是此等呈請贖罪之案該督等據情具奏

其應准與否交部核議後尚須候朕酌核情節降  
旨定奪今富綱等既以可否准其贖罪之處聲明  
雙請乃又先將捐贖銀兩提貯司庫倘核其案情  
不應准贖則此項預提銀兩仍須給還其經手書  
吏從中尅扣留難種種弊端更不可問富綱等之  
意雖以提銀貯庫見其辨理認真其實隱為地步  
以贖項業經交納異圖允准試思黃宗傑應交贖  
罪之項為數無幾又何慮其拖延不繳若非意存  
取巧有何迫不及待先行提貯司庫耶富綱額勒  
春俱著傳旨嚴行申飭嗣後各督撫遇有此等呈  
請贖罪案件祇應據情入奏候旨遵行不得將捐  
贖銀兩預行提貯以杜僥倖而絕弊端將此通諭  
知之欽此

1405 乾隆五十六年十二月初六日奉

旨刑部題覆直隸省新樂縣民人韓連陰圖姦韓朝

立之妻黃氏未成致氏羞忿自縊身死一本照該

督所題將韓連陰照強姦未成本婦羞忿自盡者

絞例問擬絞候於罪名雖無出入而所引強姦例

條過重殊未切當韓連陰因韓朝立外出起意圖  
姦其妻假冒韓朝立聲音喚黃氏開門黃氏不應  
韓連陰推門進屋被黃氏聽出韓連陰聲音當即  
喊罵該犯畏懼逃逸核其情節韓連陰祇係冒姦  
聞喊即逃並無威逼抑制情事安得謂之強姦况  
向來調姦未成致本婦羞忿自盡之案手足勾引  
方予勾決如僅係語言調戲並不予勾此案韓連  
陰不但無強暴逼勒之事亦非手足勾引若如刑  
部所題比照強姦未成之例則較手足勾引者為  
更重矣律例內雖未載有冒姦專條亦應引用調  
姦之例方與案情允協所有本內引用強姦未成  
字樣著改為調姦再行批發以昭平允欽此

1406 乾隆五十六年十二月初七日奉

旨觀祥係內務府筆帖式理宜安分當差乃賒欠民  
人李晉洋鐘等物價銀並不如約清還以致李晉  
控告殊屬不安本分若僅照內務府議罰俸九個  
月不足示懲觀祥著革職發往打牲烏拉當差欽  
此

1407 乾隆五十六年十二月初七日內閣奉

上諭浦霖奏審明沉溺餉銷分別定擬著賠一摺內  
稱此項酌撥京餉行至南平縣所屬之長鐵灘地  
方水急灘高逆流牽挽最為陡險因用力過猛絳  
繩拉斷船隻倒流悞碰石梁擊碎船身原裝餉銀  
二十鞘全行沉溺現已撈獲十八鞘其未獲兩鞘  
著落運員及失防之地方官各半分賠即時歸款  
並請將該運員分別革職議處等語此案餉鞘沉  
溺既據查明實係險灘又因絳斷船弱人力難施  
尚非有心貽悞且未獲鞘銀業經分賠歸款所有  
副運官巡檢韓興祖著加恩免其革職其正運官  
同知萬柱交部議處之處亦著加恩一并寬免至  
所擬船戶水手家丁兵丁縣役等應得罪名均著  
一體寬免該部知道摺併發欽此

1408 查各省積欠單內山西一省未完銀二萬二千

一百餘兩為數較少明春恭值

聖駕巡幸五臺所有此項未完銀兩擬俟屆時

加恩謹將奉天等四省豁免積欠並直隸等五省賞

給籽種口糧

恩旨一並擬寫進

呈其應於新正何日

頒發之處伏候

欽定謹

奏

十二月初七日

1409 遵

旨查各省節年民欠銀糧實數內除江西廣西雲南

貴州四川五省並無積欠緩帶徵銀糧又陝西

甘肅二省係民借未完銀糧俱毋庸開載外謹

將查明直隸江蘇等十二省歷年民欠未完地

丁正項銀糧分晰開單進

呈臣等查各省未完銀約共五百八十餘萬兩未

完糧約共六十九萬一千餘石為數較多恭候

訓示再行擬寫

恩旨進

呈謹

奏

十二月初七日

\* 直隸省

自乾隆四十五年起至五十四年止除上年

欽奉

恩旨豁免銀一百四十四萬一千八百餘兩外尚有

未完銀二十九萬八千三百六十五兩零

未完帶徵地糧銀七十八萬五千八百一十

兩零

山東省

自乾隆四十五年起至五十五年止除上年

巡幸山東欽奉

恩旨豁免銀一百七十八萬八千餘兩外尚有未完

銀二百一十八萬五百餘兩

河南省

自乾隆四十八年起至五十四年止未完銀  
四十五萬八千八百三十餘兩

山西省

自乾隆五十二年起到五十四年止未完銀  
二萬二千一百五十餘兩

奉天省

自乾隆五十四年起至五十五年止除欽奉  
恩旨蠲免外尚有未完銀一千七百八十八兩零

江蘇省

自乾隆四十八年起至五十四年止未完地  
丁等銀除本年七月內欽奉

恩旨寬免一半外尚有未完銀五十萬七千一百餘  
兩

安徽省

自乾隆四十八年起至五十四年止除已完  
併奉

恩旨寬免外尚有未完銀一萬五千餘兩

浙江省

乾隆五十四年分未完銀九萬六千三百七十  
十餘兩

福建省

自乾隆五十二年起到五十四年止未完銀  
八十一萬六千四百七十餘兩

湖北省

自乾隆五十年起到五十四年止未完銀六  
十四萬七千五百一十兩零

湖南省

自乾隆五十年起到五十四年止未完銀一  
萬二千七百六十八兩零

廣東省

自乾隆五十三年起到五十四年止未完銀  
二萬九千九百四十六兩零

\* 直隸省

未完糧並帶徵糧共一萬八千九百九十石  
八斗零

奉天省

未完緩帶徵米麥豆一萬三千九百四十石  
一斗零

江蘇省

未完積欠米豆一萬八千二百石零

安徽省

未完積欠米麥二萬五千七百七十石零

山東省

未完緩徵穀六十一萬四千六百一十二石  
七斗零

1410 乾隆五十六年十二月初七日奉

旨余恩何暫俱著即處斬梟示餘依議欽此

1411 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸山東河南江蘇福建浙江湖北各督撫

乾隆五十六年十二月初八日奉

上諭昨令軍機大臣將各省積欠銀兩數目查明開

單進呈朕詳加披閱內直隸省未完銀二十九萬八千三百餘兩帶徵地糧七十八萬五千八百餘兩山東省未完銀二百一十八萬五百餘兩河南省未完銀四十五萬八千八百餘兩江蘇省未完銀五十萬七千一百餘兩福建省未完銀八十一萬六千四百餘兩湖北省未完銀六十四萬七千五百餘兩為數甚多浙江省亦有未完銀九萬六千三百餘兩此項積欠銀兩俱係應徵正項錢糧在小民等踴躍急公自無不輸將恐後其各省所報未完銀數必非盡係實欠在民間總由地方官吏藉口水旱歉收因災帶緩從中挪前移後官侵吏蝕藉稱積欠在民况連歲以來各省秋收多屬豐稔間有歉收之處亦不過一隅偏災即如直隸省祇係河間天津等府屬偶因夏秋水稍多田禾間被淹浸山東省祇係平原禹城德州等處因河流漲發附近村庄收成稍歉河南省祇係歸德等府屬秋禾被淹江蘇省祇係淮安徐州等府屬因黃河漫水下注被淹成災湖北省祇係荊州府屬被隄塍決潰偶被水淹均不過一隅中之一隅



而福建浙江歷年並未報有災歟乃徵收地糧款項均欠至二百餘萬及數十萬之多至少者亦有九萬餘兩若非經收官吏任意侵挪何至積欠銀糧竟有此數從前雍正年間曾特派大臣分往各省逐一清查朕臨御以來惟恐派出之員奉行不善或致擾累地方是以未經派員查辦但國家經費有常似此懸宕無著便於蠹吏誣及良民年復一年伊於何底著傳諭各該督撫即將前項未完積欠銀兩實在因何民欠若干官吏侵蝕若干詳晰查明分別開單據實具奏此項歷年積欠在州縣等斷不肯自行呈報但該督撫等俱係陞調未幾其經徵州縣輾轉挪欠已非一日此時自無用其迴護惟當確切嚴查據實陳奏其經徵不力之咎轉可加恩寬宥若該督撫等心存袒護代為隱瞞不過與海捕具文視同一例稍有不實不盡經朕派員查出或被百姓告發恐該督撫等不能當此重慶也將此各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

1412

查畢沅等奏漢陽江岸泊船失火延燒係十一月十一日之事本日福寧奏安南貢使於十一月初三日入湖北嘉魚縣境嘉魚距省三百餘里應於初五六等日可到武昌省城即在省暫停數日亦當於初八九等日由省起程前進是漢陽江岸被燒船隻一事已在該貢使過省啟程之後謹

奏

1413

辦理軍機處 為劄知事本年十月二十八日協辦大學士兩廣總督公福康安奏稱總督舊署拆下鐵梨木料大小共六百三十三件由海運送京茲已運至天津暫交穆騰額存貯遇便再行帶運來京等因奉

旨知道了欽此相應劄知

長蘆鹽政即遵

旨遇便帶運交明造辦處收貯並於解交特咨報軍機處不必具奏須至劄者

外鐵梨木清冊二本於查對後仍交還軍機處

占劉長盧鹽政穆騰額准此

1414 大學士公阿 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十六年十月初九日奉

上諭郭世勲奏續獲洋盜分別辦理一摺已批交該部知道矣至另片稱崖州盜案內據營員拏獲張在書等解省審出張在書等並無通賊為匪情事現俱省擇等語張在書等被賊劫去錢文魚網適遇巡船隨即喊報指令追查該營員不見賊船心疑張在書等代賊探信拏獲解縣尚屬有因若該撫以該弁候拏無辜遽加飭責嗣後巡洋各弁心存畏懼遇有形跡可疑之人不敢立時拏獲轉恐正盜因而縱逸漏網况此案業經該撫審明省釋所有候拏張在書等之該營員竟可無庸置議仍令地方員弁認真巡緝以靖洋面以戢盜風將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1415 臣阿桂等謹

奏遵

旨查湖南綏寧營守備全德顯乾隆三十八年於把

總任內出師金川四十年進攻達思拉木首先

上礮奮勇殺賊捉活賊一名經將軍明亮等保奏

賞戴藍翎前後打仗共七十二次受傷一處得過超

等功牌九個是該員打仗尚屬奮勉可否

賞換花翎之處恭候

欽定謹

奏

乾隆五十六年十二月初九日奉

旨著賞換花翎欽此

1416 乾隆五十六年十二月初九日奉

旨原任總兵尹德禧曾經出師伊犁金川臺灣等處前在湖南鎮草鎮總兵任內辦理鳳凰廳苗民滋事一案尚屬出力所有尹德禧子孫著加恩准其入旗欽此

1417 查德爾格賊番搶劫前往西藏熬茶喇嘛銀物

一案前據鄂輝等奏當經拏獲首夥賊番阿哩克奔邁等十二名除病斃三名外其餘九犯業經正法案內尚有夥犯策布木甲勒卓特巴二名在逃未獲等語本日孫士毅奏績獲逸犯策布木甲勒審明正法外止有卓特巴一名尚未緝獲現經孫士毅飭令該土司等嚴拏與鄂輝等前奏賊犯名數相符謹

奏

1418 大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建巡撫浦 乾隆五十六年十二月初十日奉上諭據浦霖奏查繳烏鎗一摺內稱查有漳浦縣盜犯陳歪等業內究出私藏烏鎗業經具奏完結並開具文武失察次數職名造冊送部現在嚴飭文武各官實力稽查毋致隱漏請勅部查照施行等語所奏殊未明晰該省漳浦縣盜犯陳歪私藏烏鎗一案雖先經該撫具奏但既敘入摺內自應將原案如何辦理之處詳悉聲明並將文武各官失察次數一併分別開單具奏乃該撫摺祇係稱造冊呈送請飭部查照施行等語殊屬牽混除將原摺交部查案具奏外浦霖著傳旨申飭將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

大學士公阿 大學士伯和 字寄

兵部尚書劉 山東巡撫吉 乾隆五十六年

十二月十二日奉

上諭步軍統領衙門奏江西廣豐縣民人嚴夢魁呈  
 控伊兄嚴夢彪被廣豐縣知縣曹德元誣稟被參  
 並知縣將未完米石勒令花戶交銀及浮收倉糧  
 抑派交倉使費錢文一摺此案前據姚茶叅奏告  
 假在藉侍衛嚴夢彪赴縣拜謁將紙條開寫米四  
 百石交該縣管門家人又復乘馬赴倉將完糧花  
 戶鄭牙踏傷是以降旨將該侍衛革職拏問交該  
 撫姚茶提集人証嚴審定擬令據嚴夢魁呈稱伊  
 兄嚴夢彪係赴縣起咨該縣並未與之見面管門  
 徐姓家人向索使費以致分爭適有完糧人等在  
 縣前吵嚷經知縣查問徐姓家人即捏稱嚴夢彪  
 鬧漕等語如果屬實是該縣袒護家人捏稟誣陷  
 已有應得之咎至呈內所稱知縣於收倉後將未  
 完米石勒令花戶每石交銀五兩六錢又收糧三  
 斛算兩斛每石要倉錢二百文水脚錢二百文一

節事關勒派浮收尤屬大干法紀雖係一面之詞  
 不可不徹底查明從嚴究辦此案未便再交姚茶  
 審辦致滋迴護劉莪吉慶前因江西民人周鴻生  
 控告毀墳盜葬一案由河南前往該省審辦計日  
 已可定擬完結所有此案呈控情節即著劉莪等就近  
 提集人証秉公嚴訊定擬具奏步軍統領衙門原  
 摺並著抄寄閱看如劉莪等前案審竣業已起程  
 在途於何處接奉此旨即著仍回江西俟此案審  
 辦完竣劉莪再行來京復命吉慶仍遵前旨順道  
 赴山東新任將此諭令知之欽此遵  
 旨寄信前來

1420 乾隆五十六年十二月十二日奉

旨候補總兵彭承堯著馳驛前往四川交與孫士毅  
 酌量調遣委用欽此

1421 乾隆五十六年十二月十二日内閣奉

上諭陝西潼商道員缺著廣厚調補所遺延榆綏道員缺著瑞亨補授欽此

1422 查本日鄂輝成德奏到摺內稱現在成德帶領

已到頭起屯練並添奏藏內之兵即自前藏起程馳往邊界相機進勦鄂輝俟前藏查辦事竣催令後起官兵一到亦即接續前往等語查此摺係於十一月十六日拜發成德自即於是日啟程前往後藏鄂輝想不過再遲數日亦即啟程前往伊二人到定結聶拉木後奏報剿賊情形約計正月上元前後可以奏到又查寄信鄂輝成德令其乘賊匪逗遛跟踪追勦立功自贖諭旨於十一月十三日由六百里加緊發往約於本月初六七日可以接奉若即日覆奏約於年底可以奏到謹

奏

十二月十二日

1423 大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 哈密辦事大臣琅 乾隆五十六年十二月十三日奉

上諭福裕奏海塘應修各工業經一律完竣核計銀數分別著賠一摺據稱琅玕任內延悞未辦工段其最要各工應賠銀八萬九千六百六十兩零又次要各工用過例估加貼工料銀十三萬七千六百五十一兩零亦應令琅玕賠補五成其餘五成著落該司道廳員名下按數分賠等語此項海塘應修各工琅玕前在巡撫任內延悞不辦現在用過例估加貼工料銀兩自應著落分賠但所奏各工從前辦理時未能堅實亦非琅玕一人之咎其承辦之司道廳員等豈得置身事外所有此項應賠銀八萬九千六百六十兩零亦著照次要各工令琅玕賠補五成其餘五成著落承辦之司道廳員等分賠完項以昭平允至琅玕名下尚有節次自行議罰應交海塘及內務府銀兩除陸續完繳外尚未完銀八萬兩著加恩彙行寬免令其專力

措繳現在海塘最要次兩工應賠銀十一萬三千餘兩琅玕務須倍加感激作速解交浙省歸款毋再延緩干咎將此各傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

1424 查本年十月十八日直隸總督梁肯堂奏職陞山東平度州知州之定州州同李貴齡才具中平以之陞補知州恐難勝任除照例給咨送部

外相應據實具奏等因一摺奉  
硃批是引見時有旨欽此又奉

旨引見時提奏茲據吏部知會李貴齡於本日帶領

引  
見理合遵

旨提奏並將梁肯堂原摺一併抄錄進

呈謹

奏

十二月十三日

1425 乾隆五十六年十二月十三日内閣奉

上諭前經降旨直隸解到旗租銀兩足數普賞八旗兵丁一月錢糧即行普賞一次現在直隸解到租銀雖不足敷賞賚之用但念該兵丁等寒冬歲暮生計維艱著於節年積存旗租項下撥補足數加恩普賞八旗兵丁一月錢糧俾生計益臻充裕以示教錫春祺有加無已至意該部即遵行欽此

1426 乾隆五十六年十二月十三日内閣奉

上諭甘肅西寧府知府員缺著海昌署理俟服闋後再請實授欽此

1427 乾隆五十六年十二月十三日奉

旨馬志義著即處斬餘依議欽此

山東省扶危致斃張升夫婦二命

1428 同日奉

旨程瑚著即處斬餘依議欽此

山東省因忿殺害程勤妻子二命

1429 乾隆五十六年十二月十三日奉

旨陶仲興著即處斬餘依議欽此

山東拏獲行劫奇藩司春船案內逸犯

1430 乾隆五十六年十二月十四日內閣奉

上諭福建額徵地丁銀兩為數較少該省應需兵餉

等項不敷支放向由隣近省分協撥濟用因思閩

海關盈餘稅銀每年俱全數解部既多運送之煩

而該省應放餉銀轉須向隣近省分紛紛協濟辦理殊

多周折所有閩海關盈餘稅銀嗣後不必解部即

著留於福建藩庫以備支放兵餉之用至各省內

如有似此地丁銀兩不敷支放兵餉者其有關稅

省分應解稅銀亦著照此辦理該部即詳晰查明

分別應留應解之項行知各省一體遵照辦理欽

此

1431 乾隆五十六年十二月十四日奉

旨不必賞祭嗣後公夫人以下致祭之處該部毋庸

具奏欽此

禮部奏鎮國公晉昌夫人

章氏應否賞祭

1432 乾隆五十六年十二月十四日奉

旨這所奏濫差斃命之署順昌縣知縣李擲芳著革

職交與該督撫提同案內犯証一併嚴審定擬具

奏該部知道摺並發欽此

1433 本年十二月十三日吏部將保薦卓異之廣東

肇羅道阿彰阿保舉堪勝知府之江蘇江寧府

同知素知保薦卓異之廣東廣州府同知葉汝

蘭山東商河縣知縣章玉輅甘肅平涼縣知縣

龔景瀚湖北江夏縣知縣陳元京陝西臨潼縣

知縣朱學濂江蘇縣丞題陞崇明縣知縣何啟

秀等帶領引

見奉

旨阿彰阿素知葉汝蘭章玉輅龔景瀚陳元京朱學

濂何啟秀俱著軍機處記名欽此

十二月十四日

題報由兵部按照原冊及原開車輛數目核對部

檔相符方准

題銷若有不符之處即行議駁等語臣等現將梁

肯堂原摺及所開清單照例交部辦理謹

奏

十二月十四日

1434 查

南書房

尚書房行走職分較小未經得過貂褂人員除那

彥成陳崇本謝墉無庸

賞給外其餘未經得

賞人員謹繕寫絳頭牌進

呈謹

奏

1436

查朝鮮安南琉球緬甸各國貢使現在陸續到

京所有該國王及使臣等例

賞物件仍由禮部照例具

奏辦理外其

紫光閣筵宴

加賞使臣物件臣等謹分晰擬

賞開單進

呈至

圓明園上元節山高水長筵宴如奉

特旨預備

加賞國王及使臣之處屆期再行擬

1435 遵

旨將梁肯堂奏到雇用民車數目一摺交查兵部茲

據覆稱直隸省每年雇用民車該督於年底具

奏後次年仍造具清冊



呈謹  
奏

十二月十五日

紫光閣筵宴  
加賞各國使臣物件清單

朝鮮正使

錦三疋 漳絨三疋 八絲緞五疋 五絲緞五

疋 大荷包一對 小荷包四對

朝鮮副使

錦一疋 漳絨一疋 八絲緞三疋 五絲緞三

疋 大荷包一對 小荷包二對

安南貢使二員

每員錦一疋 漳絨一疋 八絲緞三疋 五絲

緞三疋 大荷包一對 小荷包二對

琉球正使

錦三疋 漳絨三疋 八絲緞五疋 五絲緞五

疋 大荷包一對 小荷包四對

琉球副使

錦一疋 漳絨一疋 八絲緞三疋 五絲緞三  
疋 大荷包一對 小荷包二對

緬甸大頭目二名

每名錦一疋 漳絨一疋 八絲緞三疋 五絲  
緞三疋 大荷包一對 小荷包二對

十二月十五日

1437 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兵部尚書劉 山東巡撫吉 山西巡撫馮

乾隆五十六年十二月十五日奉

上諭據劉我等奏審訊崇義縣民人周鼎生等呈控  
周聖傳等創墳盜葬一案摺內稱周鼎生周聖傳與  
周大端公共遠祖其墳塋經族人議定不許添葬  
嗣周聖傳之父周志選將祖父骨殖遷至周大端  
墳旁附葬奉官押遷經劉我等親往該處履勘周  
姓墳塋前面石板堅砌平排四穴的係近年發開  
修整其前後左右並無餘地可以附葬據周鼎生  
供稱周志選等發開石版將骨殖葬埋與原卷所  
稱在旁附葬之處不符原辦官並未詳悉究出顯

有情弊所有崇義縣知縣唐志越及勘詳之署南安府令陞山西大同府知府孫之岸均應解任實訊著傳諭馮光熊即將孫之岸解任派員迅速押赴江丙交與劉我等提同案內人等秉公質審以成信讞再江西民人嚴夢魁呈控伊兄嚴夢彪被廣豐縣知縣曹德元誣稟被叅一案昨經降旨令劉我等就近嚴訊現在審辦周鼎生控案俟山西省解到孫之岸質審尚須時日即可將廣豐縣控告之案提集審訊先行具奏完結也將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1438 本月十四日兵部將山西巡撫馮光熊咨送保

列一等之撫標叅將李璋一員帶領引

見奉

旨李璋交軍機處記名欽此

十二月十五日

1439 乾隆五十六年十二月十六日奉

旨楊戴氏著即凌遲處死楊裕坤著即處斬餘依議欽此

江蘇省因姦謀殺本夫并闖放火燒屍滅跡一案

1440 同日奉

旨高王氏著改為即行斬決餘依議欽此

陝西省改醮之婦因隨帶前夫之女被後夫欲賣為婢該婦不允累被毆打忿恨頓殺其夫一案

1441 乾隆五十六年十二月十六日內閣奉

上諭據書麟等叅奏署青浦縣知縣何廷鳳於開倉之後糧戶輸納漸多該縣並不親身臨倉以致書役斗級等任意拋撒掃集餘米收存不復給還糧戶經糧道汪志伊知府李廷敬查訪密稟請將何廷鳳革職等語江南漕務積弊最深節經降

旨令該督等實力整頓乃尚有書役等乘機舞弊之事不可不澈底跟究何廷鳳著革職拏問交該督等提同案內人証嚴審定擬具奏書麟在兩江總督任內為時已久此等書吏舞弊之案從前未據該督查辦具奏此次會銜入告自必係長麟查出所辦可嘉至糧道汪志伊知府李廷敬能改裝易服潛赴該縣查訪密稟尚屬認真汪志伊李廷敬俱著交部議敘該部知道摺併發欽此

1442 臣阿 等謹

奏為遵

旨議奏事本月十一日左都御史紀昀奏官書錯誤

難於改補請換寫分賠並

文淵閣書接勘完竣將舛漏條款開單進呈二摺

奉

旨軍機大臣議奏欽此 據紀昀摺內稱性理大全

一書乃明永樂中胡廣等奉勅所撰前此

奏定繕寫原以明刻舊本送

武英殿茲抽查

文淵閣書見此書每卷首尾及每頁板心俱加增御定二字三擡繕寫當即提對底本已另換一康熙初

年刻板冠以

聖祖仁皇帝御製序序中明言為永樂原書書中亦無御定字樣惟每頁之首各粘

武英殿原發謄錄格式一紙有

御定字三擡等語查此書原係前代所修恭繹

御製序中板籍殘闕重加補訂之文蓋指舊刻漫漶為之補訂訛脫並非別有增損不應冠以

御定字樣理合請

旨改正但此書十函五十六冊頁頁俱錯不能挖改

板心必須全部換寫以每冊二三萬字計算寫

價已六七兩加以紙價裝潢須八九兩方換一

冊四五十兩方換一函統計

四閣四十函二百二十四冊約估需銀二千兩查

武英殿辦書供事歷年議敘者多員此書因遺失

抵換釀成錯誤則經管接管之供事原屬罪魁

其餘供事又皆託賴書局藉以得官議敘既已

同邀則罰項自當均出擬請一面交

武英殿先支官項換寫一面估定價值查明開館

以來曾經議敘供事現任者共若干員勻扣廉俸行文各該督撫搭解還庫再前次所奏史記正義五函與此書事同一例現無底本不能換寫俟訪得真本之後應亦照此例追賠等語  
臣等伏查康熙五十四年

聖祖仁皇帝曾

命大學士李光地等編校

御纂性理精義十二卷

賜弁序文頒行天下其書悉稟

睿裁允宜冠以

御纂二字至性理大全一書為前明永樂年間所修雖

有

聖祖御製序恭錄簡端但此書究係撰自前明於康熙

初年重加刊刻非

御纂之書可比乃於繕寫四庫全書時加增

御定字樣作為三擡實屬歧誤查性理大全每部五十

六冊今板心俱經錯寫難以逐頁挖改自應全

部改繕方為妥協茲據紀昀稱此書

四閣錯誤相同若通行換寫計二百二十四冊以

每冊需費八九兩計筭共約銀二千兩工費較繁豈可重糜

帑項其率寫標題格式之陸費墀既無可追賠而武英殿辦書供事因原送明刻舊本遺失輒行抵換以致體例不合轉相沿誤實難辭咎所有性理大全一書應如所奏交

武英殿先支官項換寫估定價值交吏部查明開館以來得有議敘之供事現任者若干員按名勻扣俸廉行文各該督撫搭解還庫以清帑項其史記正義俟購得真本之後亦即照此追賠換寫所有改繕各書冊即交原充四庫全書總校詳悉校對以免舛誤又另摺奏董率詳校各官將

文淵閣書細心檢閱此次舛漏條數視

文源閣書較少十分之二所有續勘出遺失底本

一種遺失正本一種及捏注闕文各條均於單內聲明請核議分別辦理等語查本年九月間

紀昀奏覆勘

文源閣書請將詳校官等分別議處一摺臣等遵

旨議奏以

四閣留空函書俱需詳校應照紀昀所奏查明訛

舛較少者罰令看

文源閣留空函書其訛舛較多過失較重者罰令

前往熱河看

文津閣留空函書其現膺外任及丁憂告假各員

仍交該部照乾隆五十二年之例辦理其控註

闕文一節亦如所奏交

武英殿查明單開控註各書尾頁謄錄姓名交部

議處等因俱經奉

旨准行並經吏部遵照分別查辦在案茲

文淵閣簽出各書舛誤詳校官未經勘出及謄錄

控註闕文之處與

文源閣事同一例應請仍照前議交紀昀及

武英殿查明分別咨部辦理至遺失底本抵換他

書不行查出之經手提調及濫邀議敘之收發

供事一併交部分別核議所有臣等酌議緣由

理合繕摺具

奏伏乞

皇上睿鑒謹

奏

乾隆五十六年十二月十六日奉

旨依議欽此

<sup>1443</sup> 據山東布政使江蘭呈進

貢物理合代為呈

進謹

奏

十二月十七日

1444 乾隆五十六年十二月十七日奉

旨譚從玉著即處絞餘依議欽此

刑部議覆扎死韓氣子等一案

1445 乾隆五十六年十二月十七日內閣奉

上諭姚茶奏訪獲在逃年久之軍流人犯劉細貴劉允南二名并將奪犯毆差傷官人犯全數拏獲分別辦理一摺已批交三法司核擬速奏矣此案著縣丞史相訪有年久在逃軍流劉細貴劉允南二名潛回本籍於夜間帶役往拏已將劉細貴拏獲復被劉勝組等糾眾奪犯並將差役及該縣丞毆傷該縣丞即知會該縣親往查拏隨將毆奪人犯之劉勝組等拏獲尚屬可嘉署都昌縣知縣方中署縣丞史相俱著交部議敘該撫接據稟報即派委道將上緊訪拏將案內逸犯劉細貴劉允南等全數弋獲亦屬認真姚茶並著交部議敘欽此

1446 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兵部尚書劉 山東巡撫吉 乾隆五十六年

十二月十八日奉

上諭姚茶奏審擬革職侍衛嚴夢彪包攬漕米一案此事前經步軍統領衙門具奏嚴夢彪之弟呈控伊兄被廣豐縣知縣曹德元誣稟被叅並知縣將未完米石勒令花戶交銀及浮收倉糧押派交倉使費錢文等事有關勒派浮收不可不查明嚴辦當即降旨交劉莪吉慶就近提集人証秉公嚴審今披閱姚茶摺內所奏情形其中自相矛盾之處甚多如所稱嚴夢彪代伊戚赴縣求情該縣不見嚴夢彪即於大堂下馬走進宅門將米單交管門家人轉稟一節嚴夢彪回籍後兩次以患病未痊呈請該縣詳咨展限是其患病自屬實情又豈能乘馬往見知縣代伊戚說情交米且前次姚茶叅奏摺內稱嚴夢彪乘馬入倉踏傷完糧花戶茲又稱嚴夢彪騎馬至倉見完糧米石擁擠即下馬步行令工人牽馬在後因馬吃擔內糧米花戶喝趕

馬驚脫韉踢傷鄭牙左腿等語此事如係嚴夢彪騎馬入倉踏傷花戶必係有意恃符強橫進倉鬧漕情事自應嚴辦示懲茲嚴夢彪所騎之馬係令工人牽拉在後因馬被花戶喝趕驚逸踢人畜類無知為事所常有何得以此入嚴夢彪之罪况該撫既以嚴夢彪鬧漕滋事問擬發遣又以該縣不能約束家人任其擅收米單代為轉繳奏請革職看來姚茶竟有迴護地方官令兩敗俱傷而已無事之意可以將就完事此案情節並未確實若速將嚴夢彪發遣既不足以示服又啟外官通同瞻庇之漸且嚴夢彪在京所控詞內有該縣浮收勒抑情弊於地方漕務尤有關係如果屬實該縣之罪亦豈僅止革職不可不查審明確以成信讞著將姚茶原摺發交劉莪吉慶閱看按照折角處所及以上指駁各情節提集案內人証秉公逐一研訊母任稍有隱飾回護以副委任將此通諭知之速行將畧節奏聞欽此遵

旨寄信前來

1447 乾隆五十六年十二月十八日奉

旨劉光得著即處斬劉才得劉乞得劉興得劉七喜劉玉振著即處絞餘依議欽此

1448 乾隆五十六年十二月十八日奉

旨姚楚川著即處斬餘依議欽此

1449 擬

賞帽緯一百匝名單

內廷行走王等

睿親王溥穎

怡親王永琅

莊親王綿謀

誠郡王弘暢

和郡王綿循

御前行走蒙古王公額駙

貢格喇布坦

旺扎勒多爾濟

拉旺多爾濟

巴圖

滿珠巴咱爾

拉旺喇布坦

雲端多爾濟

索諾木巴勒珠爾

豐紳敷德

德勒克

桑濟扎勒

索特納木多爾濟

軍機大臣大學士

阿桂

崧璜

和

王

福

董

慶

以上各賞二匣

扎清門行走蒙古王公額駙

旺親班巴爾

喇什噶勒當

齊莫特魯瓦

哈第爾

瑪什巴圖

德威多爾濟

達克丹彭楚克

那木扎勒多爾濟

拉扎布

鄂爾哲依特穆爾額爾克巴拜

丹巴多爾濟

賽尚阿

南書房翰林

彭元瑞

金士松

沈初

阮元



瑚圖禮

那彥成

御前侍衛

德保

景熠

慶成

布顏達賴

豐紳濟倫

阿蘭保

扎克塔爾

惠綸

乾清門侍衛

彰藹

明安

阿爾塔什第

佛爾卿額

祥保

長林

富成

伊嚕勒圖

阿齊蘭

隆福

喀伸霍卓

伯綽諾克

慶長

那彥占

鄂勒哲依圖

阿隆阿

興常

瑪們達扎

綿亘

徹森保

永明

羅卜藏多爾濟

穆隆阿

宜興

永福

那彥保

以上各賞一匣

十二月二十日

1450 擬

賞正陽橋疏渠記墨刻名單 共九十一分

八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿恩阿哥

綿億阿哥

綿忠阿哥

綿志阿哥

綿懃阿哥

綿懿阿哥

綿總阿哥

綿德阿哥

綿慶阿哥

綿寧阿哥

奕純阿哥

奕紹阿哥

載錫阿哥

禮親王永恩

睿親王淳穎

豫親王裕豐

肅親王永錫

莊親王綿謀

怡親王永琅

克勤郡王雅朗阿

順承郡王倫住

裕郡王亮煥

誠郡王弘暢

和郡王綿備

軍機大臣阿

和

王

福

孫

福

董

慶

大學士 嵇璜

尚書 常青

劉墉

劉我

胡季堂

金簡

彭元瑞

留保住

左都御史 舒常

紀昀

侍郎 瑪興阿

金士松

德明

沈初

慶成

蔣賜榮

韓鏞

鐵保

劉權之

趙鏌

和琳

穆精阿

張若淳

王德

王昶

成策

吳省欽

南書房翰林 阮元

瑚圖禮

那彥成

總督 梁肯堂

書麟

伍拉納

畢沅

巡

勒保 惠齡 富綱 管幹珍 蘭第錫 李奉翰 朱珪 吉慶 馮光熊 穆和蘭 秦承恩 福崧 浦霖 姚棻 福寧 姜晟 郭世勳 陳用敷

陳准  
譚尚忠  
十二月二十日

1451 臣等查乾隆二十七年十二月內遵  
旨將各省修造戰船暨節省銀兩數目開單進  
呈奉

旨知道了每年彙奏一次欽此茲據工部將乾隆五  
十五年各省估報例應修造船隻自行撙節銀  
兩數目清單移咨軍機處臣等查廣東福建浙  
江等三省於乾隆五十五年分應行修造船隻  
或將應拆造者改為大修應大修者改為小修  
應小修者改為停修共船九十二隻桅木三株  
通共節省銀四千一百七十兩二錢八分一厘  
再查設有戰船共九省內江蘇安徽江西山東  
湖南湖北六省並無改修緩修船隻節省銀兩  
合並聲明謹將工部查核原單一併進

呈謹  
奏

十二月二十日

謹將

西華門外道南道北各回子伯克各部落及各外

藩使臣等分晰開列清單呈

覽再朝鮮使臣尚未到京是以未經開入謹

奏

十二月二十日

\* 西華門道北瞻仰之各部落名單

喀爾喀納魯班臣呼圖克圖

歸化城札薩喇嘛那遜格爾格圖

帕克巴拉呼圖克圖等

正使占巴勒嘉木錯

副使策凌棍札

杜爾伯特扎薩克台吉布達錫哩

土爾扈特頭等台吉策伯克扎布

杜爾伯特汗麻克蘇爾扎布等來使二十一

\* 西華門外道南跪瞻之回子伯克及各外藩使臣

名單

回子伯克

穆喇特柏格

伊斯拉木

沙莽素爾

阿布都拉

玉素布

呼圖魯克拜

庫圖魯克

阿布都嘎帕爾

艾里穆

阿布拉

邁瑪第敏

邁瑪特

博查什

玉多克

艾瑪爾和卓

外藩使臣

琉球國貢使 馬繼謨 陳天龍

安南國貢使 阮文璜 阮 璉

緬甸國貢使 亞札覺蘇 得滿覺

1453

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年

十二月二十日奉

上諭穆和蘭奏據內黃縣許長浩稟稱接准直隸大名縣密札知會該縣宋家屯地方有窩匪肆竊拒捕傷差之冀兔子一犯逃逸未獲當即馳往查拏將該犯拏獲并在內黃縣菜園溝地方拏獲夥犯張二怪岳老殿二名一并飭令該管員弁將冀兔子等三犯押解來省審訊等語所辦甚好已於摺內批示矣冀兔子一犯在大名縣宋家屯地方窩匪肆竊復敢拒捕傷差情殊可惡自毋庸解往直隸以免輾轉疎虞著傳諭穆和蘭將該犯如何窩匪肆竊等情並夥犯張二怪岳老殿等一併嚴行

審訊辦理並著梁肯堂將冀兔子一犯原案咨送豫省查辦許長浩著送部引見將此各諭令知之  
欽此遵  
旨寄信前來

1454

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十六年

十二月二十一日奉

上諭昨據穆和蘭奏內黃縣許長浩拏獲大名縣窩匪肆竊拒捕傷差之冀兔子及夥犯張二怪岳老殿一併解省審訊一摺已有旨諭令穆和蘭將冀兔子等犯嚴行審辦毋庸解到直隸矣本日又據梁肯堂奏大名縣知縣王鑑稟稱率同兵役將冀兔子之弟冀四及夥匪焦富宋顯拏獲即派員將焦富等押解來省督同嚴訊等語冀兔子及張二怪岳老殿三犯既經豫省緝獲審辦不必解往直隸所有大名縣拏獲之焦富等犯即著梁肯堂就近嚴審分別定擬毋庸轉解河南致有疎虞其案內逸匪常復貴等並著該督飭屬嚴拏務獲無任

速賜漏網將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1455 乾隆五十六年十二月二十一日內閣奉

上諭大學士嵇璜年逾八十每晨趨直策騎惟艱著  
加恩令其乘坐肩輿以示優眷老臣格外體恤之  
意欽此

1456 乾隆五十六年十二月二十二日內閣奉

上諭山西大同府知府員缺著素知補授所遺員缺  
著伊湯安補授欽此

1457 乾隆五十六年十二月二十二日奉

旨這所叅海陽縣知縣王風清前署棲霞縣知縣饒  
積俱著革職交該護撫提同案內犯証一並審擬具  
奏該部知道摺併發欽此

1458 乾隆五十六年十二月二十二日奉

旨胡大雨子著即處斬餘依議欽此

順天府拏獲大興縣賊犯挾  
索還贓物之恨將事主八歲  
幼孫推入井中淹斃一案

1459 查馮鼎高係江蘇蘇州府知府昨據書麟等奏

拏獲盜犯黃幗瑞等摺內馮鼎高係承審之員  
謹

奏

十二月二十三日

1460 乾隆五十六年十二月二十三日內閣奉

上諭江寧布政使員缺著陳奉茲補授欽此

1461 大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣東巡撫郭 乾隆五十六年十二月二十四

日奉

上諭郭世勳奏澳門夷人嘍嘍戲斃民命審明辨  
理一摺此案嘍嘍因鬪毆連斃二命自應按例  
即行絞決乃摺內又稱澳門地方民番謀故鬪毆  
等案若夷人罪應斬絞驗訊明確即飭地方官依  
法辦理等語所奏太不明晰嘍嘍既經按例絞  
決是應絞之犯何以又將夷人罪應斬絞之例牽  
引聲敘該撫於此等審擬案件何漫不經心牽混  
若是耶郭世勳著傳旨申飭欽此遵  
旨寄信前來

1462 乾隆五十六年十二月二十四日內閣奉

上諭江蘇按察使員缺著汪志伊補授欽此

1463 臣等遵

旨將朝鮮琉球安南緬甸四國應行例賞物件並遵  
旨加賞安南國王物件分晰開單呈

覽查向例各國

頒賞惟暹羅緬甸有

賞王妃物件其餘各國向例均不及王妃此次四國

內惟緬甸仍照例擬

賞王妃俟

發下後臣等照單隔別

頒給謹

奏

十二月二十五日

\* 朝鮮國例

賞物件清單

萬壽聖節貢例

賞

國王



表緞五疋 裏五疋 粧緞四疋 雲緞四疋  
貂皮一百張 二等玲瓏鞍韉全備 二等馬  
一匹

正副使二員

大緞各一疋 帽緞各一疋 彭緞各一疋  
綢各一疋 紡絲各一疋 絹各二疋 銀各  
五十兩 漆鞍全備 三等馬各一疋

書狀官一員

大緞一疋 彭綢一疋 綢一疋 絹一疋  
銀五十兩

大通官三員

大緞各一疋 綢各一疋 絹各一疋 銀各  
三十兩

押物官二十四員

彭緞各一疋 綢各一疋 布各二疋 銀各  
二十兩

從人三十名

銀各五兩

元旦貢例

賞同上  
年貢例  
賞

國王

表緞五疋 裏五疋 粧緞四疋 雲緞四疋  
貂皮一百張

正副使二員

大緞各一疋 帽緞各一疋 彭緞各一疋  
綢各一疋 紡絲各一疋 絹各二疋 銀各  
五十兩

書狀官一員

大緞一疋 彭緞一疋 絹一疋 銀四十兩  
大通官三員

大緞各一疋 絹各一疋 銀各二十兩

押物官二十四員

彭緞各一疋 布各二疋 銀各十五兩

從人三十名

銀各四兩

冬至貢例

賞同上

十二月二十五日

\* 琉球國例

賞物件清單

國王

錦八疋 織金緞八疋 織金紗八疋 織金  
羅八疋 紗十二疋 緞十八疋 羅十八疋  
貢使二員

織金羅各三疋 緞各八疋 羅各五疋 絹  
各五疋 裏各二疋 布各一疋

都通事留邊通事共二名

緞各五疋 羅各五疋 絹各三疋

從人及留邊從人共三十二名土通事一名

絹各三疋 布各八疋

伴送官一員

彭緞袍一件

十二月二十五日

\* 安南國例

賞物件清單

國王

錦八疋 織金緞八疋 織金紗八疋 織金  
羅八疋 紗十二疋 緞十八疋 羅十八疋  
貢使二員

織金羅各三疋 緞各八疋 羅各五疋 絹  
各五疋 裏各二疋 布各一疋

通事一名

絹三疋 布八疋

行人六名

緞各五疋 羅各五疋 絹各五疋

從人九名

絹各三疋 布各八疋

伴送官二員

彭緞袍各一件

擬

加賞安南國王物件清單

玉如意一柄 玉器二件 磁器四件 玻璃器  
四件 錦四疋 大彩緞四疋 閃緞四疋  
蟒緞四疋

十二月二十五日

此係奉  
特旨加賞

\* 緬甸國例

賞物件清單

國王

錦八疋 織金緞八疋 織金紗八疋 織金  
羅八疋 紗十二疋 緞十八疋 羅十八疋

王妃

織金緞四疋 織金紗四疋 織金羅四疋  
緞六疋 紗六疋 羅六疋

大頭目二名

織金羅各三疋 緞各八疋 羅各五疋 絹  
各五疋 裏各二疋 布各二疋

從人六名 通事二名

絹各三疋 布各八疋  
伴送官四員  
彭緞袍各一件

十二月二十五日

\* 擬

賞朝鮮等四國綢緞布疋清單

朝鮮國

正使一員

金鞘小刀一把 緞五疋 綢五疋 布二疋

副使一員

金鞘小刀一把 緞四疋 綢四疋 布二疋

書狀官一員 緞三疋 綢四疋

大通官三員

每人緞一疋 綢二疋 布一疋

押物官二十四員

每人綢二疋

從人三十名

每人布一疋

琉球國

正使一員

金鞘小刀一把 緞五疋 綢五疋 布二疋

副使一員

金鞘小刀一把 緞四疋 綢四疋 布二疋

通事三名

每人緞一疋 綢二疋 布一疋

從人三十二名

每人布一疋

安南國

貢使二員

金鞘小刀各一把 緞各四疋 綢各四疋 布各二疋

通事一名

緞一疋 綢二疋 布一疋

行人六名

每人緞二疋 布一疋

從人九名

每人布一疋

緬甸國

大頭目二名

金鞘小刀各一把 緞各四疋 綢各四疋

布各二疋

通事二名

緞各一疋 綢各二疋 布各一疋

從人六名

布各一疋

1464 乾隆五十六年十二月二十五日內閣奉

上諭江蘇督糧道員缺緊要著該督撫於兩江道員內揀選一員調補所遺員缺著趙由坤補授欽此

1465 乾隆五十六年十二月二十五日奉

旨知道了其三次不到之索諾木扎什著交部照例察議欽此

壇廟不到

1466

辦理軍機處為咨提事照得山西太谷縣職員王嵐呈控張效禹搶妾霸姦一節訊據王嵐供稱伊在外接得伊母寄信知伊妻張氏月女被張效禹拉至家中至今三年有餘等語應將王嵐之母楊氏伊妻周氏及張效禹拉去之妾張氏月女一併解京質訊再奉

旨提訊之張效禹孟教材武先勳並經河南轉咨查

拏之李安民等迄今尚未解到為此飛咨

貴撫速飭將各該犯等提齊派委員弁分別管

押解送刑部聽候審辦毋任遲延可也

右咨

山西巡撫

十二月二十五日

1467

乾隆五十六年十二月二十六日內閣奉

上諭四川重慶府知府員缺著蔡必昌補授所遺員

缺著楊廷瑛補授欽此

1468

蒙

發下土絹一百五十疋土布一百五十疋土紬一百

四十疋緬布六十疋交<sub>臣</sub>等擬

賞謹開列名單進

呈謹

奏

十二月二十六日

\* 擬

賞土絹土布土紬緬布名單

禮親王永恩

睿親王溥穎

豫親王裕豐

肅親王永錫

莊親王綿課

怡親王永琅

克勤郡王雅朗阿

順承郡王倫住

裕郡王亮煥

誠郡王弘暢

和郡王綿備

御前行走蒙古王公額駙

貢格喇布坦

旺扎勒多爾濟

拉旺多爾濟

巴圖

滿珠巴咱爾

拉旺喇布坦

雲端多爾濟

索諾木巴勒珠爾

豐紳殷德

德勒克

桑濟扎勒

索特納木多爾濟

軍機大臣阿

和

王

福

董

慶

大學士 嵇璜

以上各賞土絹土布土絨各二疋緬布各二疋

乾清門行走蒙古王公額駙

旺親班巴爾

喇什噶勒當

齊莫特魯瓦

哈第爾

瑪什巴圖

德威多爾濟

達克丹彭楚克

那木扎勒多爾濟

拉扎布

鄂勒哲依特穆爾額爾克巴拜

丹巴多爾濟

賽尚阿

敏珠爾多爾濟

永庫爾忠

索諾木巴勒丹

巴勒楚克

濟克濟札布

察克多爾扎布

尚書常青

劉墉

胡季堂

金簡

彭元瑞

留保住

左都御史舒常

紀昀

以上各賞土絹土布土紈緬布各一疋

御前侍衛

德保

景燭

慶成

布彥達賴

豐紳濟倫

侍郎

阿蘭保

扎克塔爾

惠倫

瑪興阿

德明

金士松

沈初

蔣賜榮

韓鏞

劉權之

趙瑛

和琳

穆精阿

張若淳

玉德

王昶

成策

吳省欽

倉場侍郎蘇凌阿

劉秉恬

理藩院侍郎諾穆親

內閣學士扎郎阿

依蘭泰

薩哈爾濟

多永武

伯麟

德瑛

李潢

乾清門侍衛伍岱

永琨

南書房翰林阮元

瑚圖禮

那彥成

以上各賞三件

乾清門侍衛德勒格楞貴

春寧

彰霽

明安

阿爾塔什第

佛爾卿額

祥保

長林

富成

伊喚勒圖

阿齊蘭

隆福

喀仲霍卓

伯綽諾克

慶長

那彥占

鄂勒哲依圖

阿隆阿

興常

瑪們達祀

綿亘



徹森保

永明

羅卜藏多爾濟

穆隆阿

宜興

永福

那彥保

察罕烏巴什

托克托瑪穆特

巴圖濟勒

三都克林親

副都御史巴彥學

哈福納

汪承霈

陸錫熊

以上各賞二件

十二月二十六日

1469

查各省繳到違碍書籍共五千三百七十二本  
理合繕具清單繳

進銷燬謹

奏

十二月二十六日

1470

據吏部知會廣西潯州府知府一缺例應部選  
現在並無合例應選之人應請

旨簡授理合擬寫潯州府空名

諭旨進

呈謹

奏

十二月二十七日

1471

乾隆五十六年十二月二十七日內閣奉  
上諭廣西潯州府知府員缺著葉蘭補授所遺員缺

著沈詩杜補授欽此

1472  
遵

旨詢問蔡攀龍據稱我于五十一年在澎湖游擊任

內適值林爽文滋事臺灣鎮總兵柴大紀檄派

澎湖兵丁七百名調我帶兵前赴臺灣先在城

內把守南門後又派我帶兵收復鳳山嗣於八

月內柴大紀在諸羅縣被賊圍困將軍常青派

我前往接應我就帶領兵丁八百名馳赴諸羅

殺入重圍那時柴大紀看見我們的兵到了他

就帶兵開了城門前來迎接會合進城到了城

內查點兵數共傷了二百多人後因被困日久

城中乏食我同柴大紀帶領兵丁出城打仗亦

不記次數總殺不出去直至到十一月初間福

康安海蘭察帶領大兵到了賊匪方始潰散等

語臣等檢查常青原摺與蔡攀龍所稱尚屬相

符理合具

奏恭俟

發下後臣等即遵

旨傳知該鎮令其即回本任謹

奏

1473  
臣阿等謹

奏為

奏銷紙張事查乾隆五十六年分軍機處支領過

戶部紙張又清漢檔房領用紙張循例報銷理

合一併開單奏

聞謹

奏

\* 計開

軍機處五十六年分領用紙張

本紙五千張繕寫奏摺及抄錄各處奏摺行文等項用實銷無存

白榜紙一千張抄寫檔案包封事件用實銷無存

黃榜紙一百張釘輯檔案包封案件用實銷無存

高麗紙一百張包封月摺及印封用實銷無存

台連紙七千張繕清譯漢并寫底稿用實銷無存

計開

清漢檔房五十五年繕寫清漢檔用存紙張

白榜紙六千二百五十張

台連紙七千一百四十張

黃榜紙一千一百三十張

高麗紙一百九十八張

今將五十六年正月起至十二月止報銷實用

實存數目

白榜紙抄寫月摺清漢檔共用四千三十一張實存

台連紙訂檔整書抄寫月摺譯漢巴勒布書共用五千四百二十五張實存一千七百十五張

1474

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十六年十二月二十八

日奉

上諭吳省蘭奏科試情形並拏獲鎗替辦理一摺內稱在冀州科考有棗強縣童生李人恒核對試卷筆跡不符查該童並未入場顯有鎗替情弊正在究辦間隨經代辦提調之武邑縣知縣杜羣玉因有風聞先將李人恒拏獲審出催替實情現即飭令將各犯收禁解省審辦等語考試生童鎗冒頂替入場自應查拏究辦該縣一有風聞即將該童

拏獲審得實情並究出包攬說合之人一併緝拏到案尚屬留心能事者傳諭梁肯堂將該縣知縣杜羣玉先行記功遇有陞調之處酌量鼓勵至此案應行審擬各犯並著該督撫嚴審定擬以整士習而杜弊端將此諭令知之吳省蘭摺並著抄寄閱看欽此遵旨寄信前來

1475

臣阿 等謹

奏為奏銷領用紙張等項事查先經戶部於乾隆十二年四月奏銷各項用過紙張等項一摺奉旨知道了嗣後奏銷紙張時著該處將上年領過數目詳細註明具奏欽此欽遵在案臣等謹將乾隆五十六年正月起至十二月辦理南巡盛典安南紀畧巴勒布紀畧領用過紙張黃綾等項並將乾隆五十五年領過數目一併詳細開列繕摺奏

聞謹

奏

計開

乾隆五十六年領過

金線榜紙三百張

舊存六百六十張繕寫南巡盛典巴勒布紀畧安南紀畧各正本及抽換篇頁共用五百二十張現存四百四十張

台連紙八千張

舊存六千五百三十四張繕寫各書纂副本及包書行文進冊零呈使用萬四千一百三十張存四百零四張

本紙二百張

繕寫奏片摺及各項現在無存

五摺黃榜二百張

裝訂檔案零呈使用包封片籍並裝釘各書副本及發報包封等項無存

白榜紙二百張

裝釘檔案及祿稿抄寫檔案現在無存

裱料紙一千五百張

裝釘各書皮面共用一千二百張現存三百張

紅花水五十觔

刷印各正副本殿本共用三十五斤十兩現存十四斤六兩

舊存黃花綾三十一丈二尺三寸

裝釘巴勒布及重辦南巡盛典

九十六本書套十個匣子二個共用十六丈六尺九寸現存十四丈五尺四寸

舊存黃絲線八兩裝釘正本各書共用二兩現存六兩

舊存黃素箋二十九張現存

黃榜紙

包封每月摺月摺摺包共用二百八十五張實存八百四十五張

高麗紙

裱皮面換月摺摺包共用七十四張實存一百二十四張

舊存石青絹五丈二尺現存

烤炭二千四百斤

乾隆五十五年領過

金線榜一千張

台連紙一萬張

本紙一百張

五摺黃榜二百張

白榜紙一百張

裱料一千張

烤炭二千四百斤

1476

辦理軍機處為咨覆事照得雲南勒休知府劉杰名下應行入官地畝一案准

貴將軍來咨內稱劉花馬名下坐落卧佛寺等處共地五百六十一畝二分內除該旗查明劉

永濟劉永泓二人名下共地六十日計三百六

十畝應行入官估變抵項外其餘地二百零一

畝二分亦係劉花馬名下之地畝應否一併入

官請查明指示等因茲經本處交該旗詳查覆

稱劉永濟劉永泓等指入本旗時隨帶地畝印

冊內載伊二人名下山海關外卧佛寺等處各

有地三十日除此別無地畝隨傳訊劉永泓之子劉栢等結稱今該將軍查問之地即係冊載之地自故父劉永泓故伯劉永濬分受祖業以來均照十畝一日起租應有地六百畝上年租與佃戶孫姓時據云年歲久遠河水冲刷地隣侵佔不足原額通共祇算五十六日計算交租與現在勘丈五百六十餘畝相符本旗查現因劉永濬之子劉杰名下有應追官項是以前經奏准僅將劉永濬名下地畝入官其劉永泓名下地畝係過旗時冊內分明之產未便入官之處咨行戶部轉咨

盛京將軍在案自應照十畝一日之數劃地三百畝入官抵項其餘因侵佔冲刷不足原數地二百六十一畝二分應仍給劉永泓之子劉栢等執業呈請轉行查辦等語相應飛咨貴將軍即照該旗所咨將前地三百畝查丈明確據實估變報部抵項仍一面速咨本處以便核辦毋致稍遲可也

右咨  
盛京將軍

1477 臣 阿桂 等謹

奏為遵

旨速議具奏事鄂輝奏籌辦西藏軍糧買運支放各事宜一摺乾隆五十六年十二月二十五日奉硃批軍機大臣速議具奏欽此據鄂輝摺內稱前後藏現辦糶糶七萬餘石足敷支應現在奴才等帶兵先後前往邊界勦殺賊匪所有官兵口糧自應隨時支給以資飽騰謹將糧石價值運送脚費及安設各處糧臺官兵如何支領逐一籌議章程以期各有遵循等語臣等查廓爾喀賊匪滋擾後藏現在鄂輝等帶兵進勦以待明春福康安大舉深入軍食最關緊要前據鄂輝等奏明前後藏採買糶糶七萬餘石足敷支應但兵動糧隨所有官兵口糧及運送支放安設糧臺等事自應立定章程以期源源接濟無悞軍行臣等查鄂輝所奏四條內

一 稞麥價值當為核定一款據稱前後藏現辦口糧間有麥石其餘盡係青稞所報之數除計算可以磨成糶粳之數然既未炒磨自應仍以稞麥核定藏中今歲收成尚為豐稔臣與達賴喇嘛酌議每麥一石價銀一兩一錢每青稞一石價銀一兩三錢較之五十四五年採買價值有少無多但麥子磨麵並青稞炒麵糶粳一切人工薪火亦應核計定價每麵一石加磨工銀二錢每糶粳一石加炒價磨工銀三錢等語臣等查糶粳一項既未炒磨自應仍以青稞核定價值查五十四年採買案內經舒濂等奏明每麥一石價銀一兩四錢八分每青稞一石價銀一兩七錢四分又五十五年採買案內每麥一石價銀一兩一錢一分八厘每青稞一石價銀一兩三錢九厘今據鄂輝奏稱今歲藏中收成豐稔現在酌定每麥一石價銀一兩一錢每青稞一石價銀一兩三錢核之前次採買價值俱屬有減無浮應如鄂輝所奏辦理至麥子青稞支給兵食自當炒磨應用但查上次辦理巴勒布軍

需案內並無開銷磨價之條况既據稱番子等自行炒磨更無庸另給工價所有鄂輝奏每麵一石加磨工銀二錢每糶粳一石加炒價磨工銀三錢之處應毋庸議

一 官兵口糧應酌定斤數一款據稱每兵一名日給糶粳一斤無論官役人等照此闕支用歸畫一並於各臺製給大小準秤二桿以便收放等語臣等查軍需定例每兵每名日給米八合三勺或麵一斤今西藏所辦多係糶粳雖據稱體質輕鬆若以升給發不敷果腹但查上次巴勒布軍需案內每兵每名係折糶粳一升並未有不敷飽食之虞此次若折支一斤未免多為糜費應仍令查照上屆辦理成案無論官兵人等每名每日支給糶粳一升以昭畫一至各臺應製大小秤二桿係為給發糶粳斤數而設今仍令以升支給亦毋庸再行製辦

一 各臺應酌量安設一款據稱自前藏至後藏原定二十三站半自應照舊安設其自後藏至噶爾原定二十站五十三三年經部駁作兵行十

站但該處每站實有四五六十里不等若竟減作十站難以運供應請仍安二十站并於相隔四五站安設一臺專員經理以便接續轉輸每臺各派糧員一員專司收發等語<sub>臣</sub>等查軍行糧食最為緊要自應安設糧臺以便轉輸但口外蠻荒應就各該處地方擇其可以存割者通融安設今鄂輝奏擬安前藏一臺由前藏至曲水由曲水至浪噶子由浪噶子至江孜由江孜至後藏由後藏至乃安由乃安至彭錯嶺由彭錯嶺至納子由納子直至脅噶爾以上共安九臺每臺各派糧員一員專司收發其內地派出文員未到之前先派武弁接管以專責成自為慎重軍糧起見應如所奏辦理至所稱前藏至後藏定為二十三站半後藏至脅噶爾定為二十站之處查上屆辦理巴勒布經叅贊成德奏明前藏至後藏計程十二站後藏至脅噶爾計程十站各案軍需俱飭令遵照報銷此次自應仍照奏定站數未便以口外難行多開程站致滋冒濫至應用護臺兵丁倉斗通譯並油單標

單賞需用 賃礮房等項應悉令查照上屆出師巴勒布之例辦理不得藉端開銷致滋浮冒

一運糧應酌定斤數一款據稱舊案每麵一石五斗用烏拉一隻此次所辦糶粃亦應照運麵之例每一石五斗用烏拉一隻每站給價銀一錢六分每二隻給照料夫一名查糶粃體質散細若用毛袋裝運易於滲漏請每糶粃一石五斗用皮袋二條口繩二根等語<sub>臣</sub>等查上屆出師巴勒布經四川總督李世傑奏明每糶粃一石五斗用烏拉一隻每站每隻給價銀一錢六分每二隻給照料耆夫一名折給口糧一分遵照辦理在案此次軍行自應如鄂輝所奏至所稱用皮口袋裝運之處查軍需定例凡軍營運糧俱用毛麻口袋裝運况上屆撥運糶粃係用毛袋裝運報銷有案未便以糶粃體質散細改用皮口袋致與例案不符應仍令鄂輝查照遵辦其折耗並入倉撥運支放請照運米之例開銷並運送軍器軍裝軍餉送兵等差均應如鄂輝

所奏照舊辦理統於事竣後報部核銷以上四  
條臣等悉心核議是否有當伏候

皇上訓示候

命下即行知鄂輝舒濂孫士毅一體遵照辦理謹

奏



1478 乾隆五十七年正月初二日內閣奉

上諭朕仰承

吳眷慶澤延洪五代一堂誕膺多福因思朕逮事

皇祖

皇考復得元孫親見七代實為古今罕有前曾降旨令

八旗都統步軍統領順天府府尹及各直省督撫  
詳查臣民如有實曾親身上見祖父下逮元孫有  
指証者據實奏聞候朕優加恩賚茲當歲籥開韶  
元正肇慶節據內務府正白旗查有致仕上駟院  
卿李質穎並據馮光熊奏忻州監生張克用趙鈺  
解州民人陳徽舜交城縣人武魚河江蘭奏濟寧  
州原任雲南布政使李承鄰朱珪奏歙縣捐職府  
知事潘起煌均係上事祖父下逮元孫確有指証  
並飭取系圖冊結咨部等語李質穎等年躋耆耄  
或曾列卿寮或安居節屋親見七代五世同堂實  
為昇平盛事著加恩賞給七葉衍祥匾額字樣令  
該部及各該督撫製造頒給用昭壽寓同登欽時  
敷錫之盛嗣後遇有續行奏到者該部即照例彙  
題一體頒賞匾額馮光熊等摺併發欽此

1479 乾隆五十七年正月初二日內閣奉

上諭上年雨暘時若年穀順成朕慮直隸山東河南

江蘇安徽等省所屬州縣村庄內有得雨稍遲及  
得雨稍多一隅歉收之處特降旨令各該督撫查  
明據實奏候朕加恩嗣據各督撫奏稱查明所屬  
均不成災祇須於春間酌借籽種口糧毋庸加賑  
等語現已另頒諭旨將籽種口糧竟行賞給矣因  
思各直省節年民欠尚多未完之項特交該部詳  
查茲據查明直隸山東江蘇等省前經特頒恩旨  
及巡幸所經節次分別蠲免外將奉天等省未完  
民欠數目開單具奏此項未完銀兩雖係應徵正  
項錢糧但小民無力輸將以致積年遞欠若仍令  
分別緩徵帶徵恐茅檐蔭屋仍屬不免追呼所有  
奉天省未完民欠銀一千七百八十餘兩安徽省  
未完民欠銀一萬五千餘兩湖南省未完民欠銀  
一萬二千七百六十餘兩廣東省未完民欠銀二  
萬九千九百餘兩俱著加恩全行豁免該督撫務  
須督飭所屬遍行曉諭務使周知毋任蠹吏奸胥

侵欺影射俾小民咸沾實惠共迓春禧以副朕惠  
愛黎元有加無已至意該部即遵諭行欽此

<sup>1480</sup> 乾隆五十七年正月初二日內閣奉

上諭上年直隸順德廣平等府屬州縣因夏秋雨澤  
未能深透收成稍歉山東萊州府臨清等屬州縣  
間有被早被水之處河南彰德衛輝懷慶等府屬  
州縣得雨稍遲收成僅止五六分江南蘇州常州  
等府屬及海州之沭陽縣春夏雨水較多沭河漫  
溢低窪地畝間被淹浸安徽鳳陽潁州泗州等府  
屬州縣低窪之區雨水較多亦間有被淹處所收成  
均未免歉薄業經降旨將上年應徵銀米並節年  
帶徵等項分別緩徵停展令各該督撫實力查辦  
以示體恤今據該督撫等奏到查勘各該處地方  
俱尚不致成災且業將新徵舊欠等項分別緩徵  
帶徵小民自可不致失所但念各該處上年秋收  
既未豐稔今春青黃不接之時民力究恐不無拮  
据所有直隸山東河南三省奏請酌借一月口糧  
江蘇省奏請酌借兩月口糧俱著加恩竟行賞給

其安徽省雖據朱珪奏稱鳳潁各屬被水較輕毋  
庸賑濟俟交春後察看情形如應酌借籽種口糧  
再當酌辦等語著該撫查明被水處所加恩賞給  
籽種口糧以資接濟該督撫等務督飭所屬寔心  
經理俾閭閻均沾愷澤以副朕惠愛黎元普錫春  
祺至意該部即遵諭行欽此

<sup>1481</sup> 乾隆五十七年正月初七日內閣奉

上諭勒保奏護理莊浪土司印務魯孫氏呈稱近聞  
大兵進剿廓爾喀情願趕辦乾柴十二萬斤以備  
應用現據該土司於十一月內將所辦乾柴照數  
運至丹噶爾交納等語莊浪土司魯璠在日於剿  
捕甘肅逆回時曾經隨征出力賞戴花翎今魯孫  
氏一聞大兵進剿廓爾喀即請備柴薪十二萬斤  
運至丹噶爾地方以資應用邊徼土司係屬女流  
能知大義甚屬可嘉著賞給大緞二疋伊子魯紀  
勛現在年已十五歲即著承襲指揮使世職並加  
恩賞戴花翎以示獎勵欽此

1482 乾隆五十七年正月初七日内閣奉  
上諭提督山西學政著戈源去欽此

1483 本日伍拉納等奏續獲洋盜摺內奉

硃筆點出之盜首蔡瑞明許榮陳從洪裁四犯查蔡

瑞明一犯現經拏獲正法其許榮陳從洪裁三

犯尚未拏獲臣等於擬寫

諭旨內令伍拉納等飭屬嚴拏務獲謹

奏

1484 大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 乾隆五十七年

正月初九日奉

上諭伍拉納等奏審擬續獲行劫浙江外委陳學明

巡船軍械洋盜及閩省各案洋盜分別正法定擬

各摺已批交該部知道矣閩浙兩省各案洋盜節

經伍拉納飭屬嚴拏先後正法者為數甚多今盜

匪蔡瑞明等猶敢恣不畏法仍在海洋行劫復經

伍拉納派委員弁拏獲首夥各犯七十餘名分別  
正法發遣尚屬認真所有拏獲該盜犯之地方文武  
員弁即著該督撫查明咨部議叙以示鼓勵其逸  
盜許榮陳從洪裁三犯俱係盜首已用硃筆點出  
著該督等務嚴飭所屬實力偵緝文期按名就獲  
毋得日久生懈致滋疎縱將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1485 山西省歲徵地丁銀二百八十三萬二千七百

餘兩今以九分攤徵鹽課應攤銀二十五萬四  
千餘兩

陝西省行銷山西引鹽地方歲徵地丁銀一百

四十七萬二千一百餘兩今以九分攤徵鹽課

應攤銀十三萬二千餘兩

河南省行銷山西引鹽地方歲徵地丁銀止六

十六萬六千四百餘兩若亦以九分攤徵止攤

徵五萬九千九百餘兩則山陝兩省攤徵數目未

免過多是以臣等議令河南省量增三分有零

統計攤徵銀八萬六千六百餘兩較之山陝二省攤徵之數尚屬輕減而山陝二省攤徵銀兩

為數亦不致過多俟

發下臣等將原摺擬寫依議

諭旨發抄謹

奏

遠和親王恭代行禮乾隆四十九年  
遣皇六子恭代行禮共二次餘俱係

親詣行禮謹

奏

正月初十日

<sup>1486</sup> 乾隆五十七年正月初十日內閣奉

上諭致仕上駟院卿李質穎年逾八十親見七代五世

同堂實為熙朝盛事除照例給予匾額外著加恩

賞給總管內務府大臣職銜以示錫慶引年至意

欽此

<sup>1488</sup> 遵

旨詢問戈源前在御史任內條奏各摺准駁幾件有

無申飭之處據稱我在御史任內條奏事十二

件太僕寺少卿任內條奏事一件准行八件議

駁四件奉

旨申飭一件

一考試繙繹生童奏請加

派王大臣搜檢並御史監試一摺奉

旨著照所請行

一京師外城每年春間開濬溝渠請停止

欽派大臣查驗以免蓋溝遲延一摺經軍機大臣議

准奉

<sup>1487</sup> 遵查

國史恭載康熙年間

祈穀壇行禮

親詣三十七次恭代十六次不書者八次再恭查

皇上御極以來惟乾隆五年

旨依議

一請停管給僧道度牒以免滋擾一摺奉

旨所奏是所有禮部奏請給發牒照之處著永遠停止其選充僧道官令地方官查明具結辦理亦如該御史所請行

一官員赴選文結請勒定期到部一摺奉

旨該部議奏經吏部議准

一申明鄉會試冒籍治罪之例並稽查冒籍條

例五款二摺均奉

旨該部議奏俱經禮部議准

一參奏冒籍進士孫履謙請

勅部核辦一摺奉

硃批大學士九卿查奏經大學士九卿查明將孫履

謙革去進士

一街道衙門收受修造房屋呈詞每月請交都

察院查核註銷以除指勒一摺奉

硃批該衙門議奏經工部議准

一請釐正文體不准用僻字一摺奉

硃批所奏甚是依議行

一請將商學運學概行刪除其商人子弟勒令回籍應試一摺奉

硃批大學士九卿議奏經大學士九卿以商學運學

設立已久毋庸裁去將商籍另編鹵字號取中原奏議駁

一四庫館騰錄字數報滿即請議叙不必扣限五年一摺奉

旨四庫全書處總裁議奏經總裁等議駁

一參奏順天冒籍中式舉人王霖等九名請照

例查辦一摺奉

旨交該部欽此經刑部審明入籍俱在二十年以上

並非冒籍

一條奏外城街道街心宜定丈尺水潦應講歸

宿等款一摺奉

硃批該衙門議奏經工部議駁

一參奏吏部月選知府儲秘書簽掣湖北鄖陽府缺風聞尚未覆奏開缺即行入選一摺奉

硃批此事著英廉閣循琦金簡查明具奏經英廉等查明實係開缺在前應行入選奉

旨中飭等語謹

奏

1489

辦理軍機處為咨提事照得山西太谷縣職員  
王嵐呈控張效禹搶妻霸姦等情一案前經奉  
旨令山西巡撫拏解張效禹解京審辦今據該撫將  
張效禹之弟張效朋解到經本處訊據供稱伊  
兄張效禹於上年六七月間往山東販賣皮貨  
並往蘇州討取賬目等語查張效禹係案內要  
犯必須解京質訊為此飛咨  
貴撫速飭文武員弁嚴切查拏務獲即日委員  
解交刑部以便歸案審辦毋稍遲延可也

右 咨

江蘇  
山東 巡撫

正月初十日

1490

辦理軍機處為飛咨事照得山西太谷縣職員  
王嵐呈控原任太谷縣知縣顧售與紳士武先  
勳往來交結並於王嵐孟教材互控賬目一案  
有該縣頭役趙得勝及把守宅門之三兒向王  
嵐告稱顧售得受孟教材賄囑銀兩等情現經  
本處提訊顧售必須趙得勝及三兒等親供指  
証為此飛咨  
貴撫速飭將該二犯查拏務獲就近訊取確切  
供詞並將案內應訊各供一併詳晰咨覆本處  
以便歸案辦理毋任遲延率覆可也

右 咨

山西巡撫

正月初十日

1491

乾隆五十七年正月十三日内閣奉

上諭孫士毅奏川省帶兵將備需人較多現在署缺  
以及差遣之員請揀選叅將遊擊都司守備各二

員來川差委等語著照所請派軍機大臣會同該部於候補候選及應用人員內照例揀選於十六日帶領引見發往欽此

1492 乾隆五十七年正月十三日内閣奉

上諭據孫士毅奏原任四川靖遠營守備田占魁前因藥局被轟案內奏奉草職上年恭祝萬壽賞給守備原銜今情願赴藏打仗自効等語田占魁前此緣事奉係屬因公且曾在金川臺灣等處打仗出力著准其赴藏交與福康安差遣委用欽此

1493 遵

旨將雲南道員名單開列進

呈並擬寫空名

諭旨伏候

簡調謹

奏

正月十三日

\* 雲南道員名單

迤西道楊以爰現因護送緬甸貢使在京

糧道永慧

鹽道蔣繼勳

迤東道王祿明

迤南道宣世濤

1494 乾隆五十七年正月十三日内閣奉

上諭據陳用敷奏新授廣西左江道陳孝昇係屬族弟應請迴避等語廣西左江道員缺著永慧調補其雲南糧道員缺即著陳孝昇補授欽此

1495 乾隆五十七年正月十三日奉

旨廖山著即處絞餘依議欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建水師提督兼管臺灣鎮總兵哈 傳諭臺

灣道楊廷理乾隆五十七年正月十四日奉

上諭據哈當阿等奏拏獲在監滋事並搶牛拒捕各犯審明辦理二摺俱交軍機大臣會同該部議具奏矣臺灣府監犯吳兒等商謀鬧監越獄禁卒陳德在監放飯時聽聞吳兒向洪毛悄說新提督已經進城我們須早定主意之語當即回明管監經歷周書鳳該經歷恐有鬧監等事即囑守監兵役小心防守並即報知本府及城守營一面率同提牢禁卒進監收封適見吳兒等已將鑰鑰掙斷向外跑走彼時該府楊紹表同叅將張無咎已到當將各犯擒獲此案吳兒與洪毛等商同鬧監滋事若非禁卒陳德於放飯一聞該犯等商謀之語即行稟報則猝不及備幾至監禁重犯乘間越獄該禁卒陳德管束監犯尚屬留心可嘉著哈當阿等從重給賞或拔補名糧以示獎勵經歷周書鳳一經禁卒稟知即報明該府及營員帶領兵役到

監查拏將吳兒等按名擒獲是周書鳳不但無罪尚屬能事著哈當阿將該員送部引見其臺灣府楊紹表叅將張無咎督率兵役立擒重犯著咨部議叙又所奏查辦搶牛拒捕各犯一摺內據該犯供稱奪時經事主喊叫庄隣聞聲追赶該犯等將庄民砍傷躲入蔗園值藍千總帶兵趕拏該犯等拚命抵拒將藍千總用刀砍傷因被蔗根絆倒將我擒住等語該千總藍國寶帶兵巡查塘卡遇見搶牛賊犯即能督率營兵拏獲各犯並受刀傷尚屬奮勇著哈當阿將該千總藍國寶送部引見所有洋盜案內未獲之蔡進等七犯搶牛案內未獲之王夏等四犯並著該提督等督飭兵役一體嚴拏務期弋獲從重辦理毋使一名漏網至哈當阿所奏審訊在洋行劫盜犯洪毛等之父訊無知情分贓情事應照父兄不能禁約子弟為盜例杖一百等語臺灣地方民情獷悍非他處可比不可不從重辦理此案洪毛等之父洪應等係兇犯親屬自不應仍留該處著杖一百流三千里以示懲儆



此後臺灣地方遇有此等行劫拒捕之犯該提督等於拏獲審明後即一面奏聞一面即將該犯正法示衆不必奏聞請旨再行辦理以致遲延人不知畏法臺灣地隔重洋屢有滋事之案經奎林在彼實力整飭嚴加懲創尚復強劫頻聞哈當阿等惟當照奎林所辦認真整頓遇事嚴辦俟一二年後盜風稍熄民氣漸馴方可照內地之例辦理也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1497

辦理軍機處為飛咨事照得太谷縣職員王嵐控案內應行提訊之李安民並王嵐之母楊氏妻周氏及張效禹拉去之妾張氏月女等前經本處節次行令拏解送京迄今尚未解到查李安民等俱係案內要犯必須當面質訊且奉旨交本處會同刑部嚴辦未便久延合再飛咨貴撫速飭將該犯等委員迅即解京毋任遲延干咎須至咨者

右  
山 西 巡 撫 咨  
乾隆五十七年正月十六日

1498

乾隆五十七年正月十八日內閣奉  
上諭朕於二月初四日臨御經筵所有應行典禮著各該衙門照例預備欽此

1499 謹擬

經筵題目

四書題

敬事而信節用而愛人  
惟仁者能好人能惡人  
一日克己復禮天下歸仁焉  
君子思不出其位

殊

執其兩端用其中於民  
微則悠遠悠遠則博厚博厚則高明

易經題

天地之道恒久而不已也

顯諸仁藏諸用

惟幾也故能成天下之務

天之所助者順也

書經題

欽時五福用敷錫厥庶民

王敬作所

先知稼穡之艱難

思其艱以圖其易民乃寧

1500 乾隆五十七年正月二十日內閣奉

上諭全德奏據兩淮商人洪歲遠等呈稱現聞大兵

進藏勦除賊匪情愿捐銀四百萬兩以備凱旋賞

勞之需並請於運庫先行借撥分限十年帶完歸

款等語此次廓爾喀賊匪滋擾後藏不過邊徼公

廩即日當可勦滅易於藏事自不致多糜軍餉今

既據全德奏稱該商等情詞懇切實出至誠著准

其捐銀二百萬兩收貯運庫聽候部撥並准其於

今年壬子綱起五年帶完歸款所有商人洪歲遠

等著該鹽政查明咨部照例議叙欽此

1501 乾隆五十七年正月二十一日內閣奉

上諭姜晟奏准吏部行查並江縣失鞘一案將夥犯

唐開泰等錯擬發遣之承審各員職名查此案審

訊擬罪始終姜晟督同辦理與尋常命盜案件由

縣府審詳者有別所有錯擬罪名皆由姜晟拘泥

所致不敢迴護諉卸自請交部議處等語向來督

撫遇有審辦案件問擬錯悞其應得處分俱係上司

輕而承辦之員為重今姜晟以此案係由該撫始

終督辦非承問各員之過自請交部議處雖據稱

不敢迴護諉卸但此風亦不可長督撫遇有應得

處分即使例應降革每多邀恩留任若督撫等自

以處分不致降革有恃無恐於實係屬員承辦錯

悞之案均一律自行承認既可博擔當之名又可為

屬員開脫地步豈核實辦事之道所有並江縣失

鞘錯擬罪名一案著交該部詳悉查明如實係姜

晟一人之過即將該撫照例議處餘員不問若係

誅

承審各員辦理錯悞甚衆有心迴護仍著查取職  
名將各該員該撫一併議處以昭覈實而杜弊端  
摺併發欽此

1502 臣等遵

旨詢問紀昀據稱

摘藻堂

味腴書室蒼要二分於乾隆五十五年奉

旨交

南書房翰林分股詳校我亦奉

旨勻攤一股於時

摘藻堂之書尚未領完即奉

旨撤回與

味腴書室之書一併改交

文溯閣校書舛漏各員共加詳校是以我未經看

過昨於

名見時因震懼失措奏對未能明晰實深愧悚等語

查蒼要書二分業經詳校各員覆勘完竣臣等奉

旨抽閱舛誤之處尚少其蒼要內留空書函從前未

經詳校臣等於上年十月間議覆紀昀籌辦空  
函諸書摺內請俟

四閣書籍覆校全竣後交與紀昀陸錫熊二人就  
近抽查在案應俟

文津

文溯二閣覆勘完竣再將留空書籍交紀昀等閱

看謹

奏

1503

謹將朝鮮琉球安南三國使臣所作詩章恭呈  
御覽其琉球正使馬維謨及緬甸使臣均不能詩臣

等謹遵

旨分別擬寫

賞單進

呈謹

奏

正月二十一日

1504 遵

旨擬

賞朝鮮琉球安南緬甸四國國王及作詩使臣並未作

詩使 巨物件清單

賞朝鮮等四國國王

大卷緞各二疋 福字方各一百幅 湖筆各

四匣 各色絹箋各大小四卷 徽墨各四匣

硯各二方 雕漆盤各四件

賞朝鮮等國作詩使臣

大卷緞各一疋 各色絹箋各二卷 湖筆各

二匣 徽墨各二匣

賞緬甸國未作詩使臣及琉球國未作詩使臣

小卷緞各一疋 各色絹箋各一卷 湖筆各

一匣 徽墨各一匣

1505 遵

旨將

發下賞朝鮮等四國國王及作詩使臣並未作詩使

臣緞疋絹箋筆硯等件交禮部司員祇領

頒賞茲據朝鮮等國貢使金履素等跪稱我國王幸

列藩封每遇歲時

朝覲渥荷

殊恩

賞賚駢蕃舉國咸知感戴今因燕九

錫宴復蒙

大皇帝優加賞賜陪臣等恭賚回國我國王被此

恩榮自必益深欣感至陪臣等瞻仰

天顏壹叨

宴賚茲復

寵示宸章

頒賜珍品實為希逢之榮遇不勝感激懼忭奉為世

寶等語理合據情代

奏謹

奏

正月二十二日

1506

本月二十一日吏部將雲貴總督富綱委令伴送緬甸貢使來京之奏請陞署騰越州知州屠述瀛江蘓巡撫長麟保薦卓異之松江府通判福綸布署江西巡撫姚茶保薦卓異之湖口縣知縣陳樹華三員帶領引

見奉

旨屠述瀛福綸布陳樹華俱著交軍機處記名

正月二十二日

1507

本月二十二日兵部將兩廣總督公福康安保送擬陪題補廣西右江鎮總兵之廣西新泰協

副將烏蘭保帶領引

見奉

旨烏蘭保著交軍機處記名

正月二十三日

1508

本日江蘭奏新舊脫逃遣犯已未獲名數一摺係年終彙奏之件查各省脫逃遣犯年久未獲者前經吏部遵

旨將何省脫逃及原籍州縣酌加議處於向例二參降調外再將從前未獲年分按照二限各罰俸二年在案再各省彙奏事件臣等俟各該部查核具

題後覆加考核分款開單於四五月間具

奏此次江蘭奏到之摺應照向例歸入彙奏核辦所有脫逃遣犯未獲一款業經吏部議加處分似可毋庸再辦謹

奏

正月二十三日

1509

乾隆五十七年正月二十四日內閣奉

上諭據勒保奏寧夏府知府隆興鞏昌營遊擊雷仁委辦青海外安設臺站又帶領甘肅兵弁前赴臺地

逐臺分安甚為出力等語隆興雷仁俱著加恩賞戴花翎以示鼓勵欽此

1510 乾隆五十七年正月二十四日內閣奉

上諭據穆騰額奏現在並無試用大使請揀發長蘆四員山東四員以資差委等語著照所請交該部於候補候選人員內照例揀選帶領引見發往欽此

1511 前據穆和蘭奏河南省河工攤徵歲料幫價銀兩一摺臣等面奉

諭旨令將此項攤徵銀兩有無逐年遞增之處查明具奏臣等隨提取戶工二部咨報原案詳加確查此項幫價銀兩向係在於沿河州縣地畝內攤徵嗣因該省黃河逐年汛險工多用料日繁沿河州縣幫價銀兩多有積欠經畢沅奏請自乾隆五十一年為始改於通省各屬可均勻攤徵並將需用措價每斤連例價定以三厘五毫麻價連例價定以二分二厘奉

旨准行在案所有例價不敷應行幫價銀兩俱經該撫將每年歲修搶修各動用料物及應幫價銀並攤徵數目造具清冊報部由部核覆准其照數攤徵上年八月復經

欽差侍郎吉慶等奏准嗣後該省河工動用料物除照舊司庫墊發例價報銷外其幫價銀兩每年多寡不齊應令該撫先行奏明方准於通省攤徵是以此次穆和蘭遵照新例將五十四年動用料物幫價銀兩數目核明具奏臣等核對該省逐年報部歲修搶修各工原案及動用料物餉數按照畢沅奏定幫價數目逐加核算其每年攤徵幫價銀兩均屬相符並無逐年遞增之處除將穆和蘭原摺仍交部照例核辦外謹

奏  
正月二十四日

1512 乾隆五十七年正月二十五日內閣奉  
上諭吏部侍郎員缺著穆精阿調補其刑部侍郎員缺著伊齡阿補授欽此

1513 同日內閣奉

上諭倉場侍郎員缺著諾穆親調補其理藩院侍郎員缺著博興補授欽此

1514 乾隆五十七年正月二十六日奉

旨吏部議覆湖南芷江縣竊鞫影犯唐開泰等錯擬罪名一案寔係姜晟率同司道府等親提嚴鞫請將該撫照意存迴護降二級調用無級可降相應革任並將司道府等查取職名送部核議等語此案既係姜晟率同司道府公同鞫訊即均有應得之咎乃姜晟以此案係由該撫一人主見拘泥條例以致擬議失錯並非承審各員之過誠為迴護部議革任本屬罪所應得但念該撫因此案改擬失當即行檢舉自請議處與始終諱飾者有間姜晟著從寬改為革職留任仍註冊至此案會審之司道知府等均有錯悞仍著該撫查取職名一併送部核議欽此

1515 遵查提督衙門奏拏獲逃遣楊騰子究出同逃未

獲之沈六兒一名其脫逃時曾否報部有案茲據刑部覆稱上年十月內准內務府咨開據打牲烏拉總管報明此案遣犯楊騰子沈六兒及趙二保等於七八兩月內先後脫逃當經南苑將逃遣趙二保劉五二犯拏獲其沈六兒等犯現在刑部等衙門一體咨緝等語謹

奏

正月二十六日

1516 據廣東巡撫郭世勳廣西巡撫陳用敷委員將

步文斌劉書芳二犯已於昨日先後解到刑部當即提該犯等嚴刑審訊據步文斌將在配認劉照魁為義子劉書芳將在配收劉照魁為徒弟及令劉照魁寄送家信搬取病故各遣犯骨殖並收各遣犯為徒傳習歌詞等事一一供認不諱臣等檢查各該撫原奏並監提劉照魁與之質對尚俱符合其廣東解到之胡國吉雷興

麻三洪百春陳正忠陳典周二七犯廣西解到  
之程東岳王芥保方觀音子李阿南李若居劉  
星高六犯俱係在配拜步文斌劉書芳為師及  
轉相傳授之犯再四刑訊並無得受名號及另  
有傳徒之事似屬可信查此案各省應行提解  
質訊之犯俱已到齊臣等現將全案人犯質訊  
供詞分別定擬即行繕摺具

奏所有訊取步文斌劉書芳及各該犯供詞理合  
呈

覽謹

奏

正月二十六日

\* 步文斌供我係山東荷澤縣人年五十一歲母親  
早故女人蕭氏兒子步大斤步二斤父親步偉  
於四十四年十二月病故父親在日原習八卦  
會震卦教得有指路真人名號曾引吳克已入  
教後於四十七年吳克已破案因我係教匪之

子將我充發廣東德慶州於四十八年到配這  
王子重係震卦掌教王中的兒子王中係我母  
舅王子重係我的表弟四十八年十月有曹縣  
人張正魯即張魯到我配所遇見對我說他起  
身時王子重叫他帶口信向我問好並問我在  
配光景何如我也托他帶口信回覆說在配安  
好不必記念五十年冬月有這素不認識的陝西  
人劉照魁因耍戲法到我配所說他前在廣西  
已拜我同教的遣犯劉書芳為師現在要往山東  
替劉書芳送家信去五十一年春間劉照魁就起  
身往山東去了那時我並沒書信叫他送去是  
年十月劉照魁復到德慶州說從山東回來帶  
有劉書芳家信要送往廣西去我見他為人義  
氣就認他為義子並將我記得歌詞傳了他幾  
句住了十多日劉照魁起身去了五十二年十  
二月劉照魁又到我配所說是劉書芳叫他搬  
取故犯李大智魏榮李書骨殖送往山東我就  
煩他帶了一封家信那時我並不知道王子重  
已經破案充發新疆的事還叫劉照魁到山東



時見了王子重過便問好原是有劉照魁去後總沒再來五十五年我兒子步大斤到我配所看望說劉照魁到我家中對我女人說是我義子在我家住了好些日子至五十六年我教兒子與張正魯搭伴回籍的如今兒子逃往何處我不知道至我在配收過陳正忠雷興周二胡國吉麻三五人為徒傳授四相歌是實

刑訊步文斌你與王子重既係姑表弟兄又屬同教自必常有書信往來況且王子重在新疆叫劉照魁帶信還你指路真人名號你必與他有商量復興邪教的事你在配多年所收徒弟必不止胡國吉等五人此外更有何人你給過何人名號一一從實供來

據供我自四十八年張魯到配寄有王子重口信向我問好我曾有口信覆他後來五十五年兒子步大斤從原籍來對我說王子重犯罪的話我纔知道王子重發到新疆因路途遙遠從沒通過書信至王子重叫劉照魁復還我指路真人名號的信我寔在沒曾接著如今纔知道

劉照魁走到陝西已被拏獲我如何能接著這信呢只求詳情我自犯事到配後實止收過胡國吉等五人為徒此外實沒傳過別人也沒給予別人名號現蒙這樣嚴訊知道罪已重大就是多傳幾人給人名號想來總是一樣重罪豈肯甘受嚴刑不據實供嗎

又問步文斌你傳授劉照魁並無四相歌詞如今傳授胡國吉們又有四相歌這歌詞係傳自何人作何講解據實供來

據供我們流傳的歌詞原不得一樣都是編造的但詞因劉照魁畧解字義所以傳他一指東方他為尊陰陽二氣上下分八卦八開天地理真性纔得出崑崙的歌詞這胡國吉們不能記誦我所以止教他們耳為東方眼為南方口為北方鼻為西方早不向東午不向南晚不向西夜不向北的歌詞他們也有記得八句的也有只記得四句的這四相歌句因是太陽出入的時候一切污穢事體禁忌不可朝向可以消災得

福耳眼口鼻四句歌詞也是勸人行正道就是視聽言動非禮勿為的意思並無別的講解這都是我母舅王中傳我的事實

\* 劉書芳供我係山東單縣人年四十八歲父母俱故女人袁氏並無兒子我於四十五年拜已正法震卦教內的楊起玉為師四十七年破案將我同胞兄劉顯明及已故胞姪劉文治充發廣西劉武治充發廣東四十八年到配將我安插養利州打草鞋度日與同案發配遷江的程東岳原係同教認識四十九年四月裡有素不認識的陝西人劉照魁要我教授理條認我為師五十年正月我給劉照魁銀兩教他到山東送家信與我女人袁氏囑其路過遷江向程東岳問候劉照魁應允去了至五十二年二月劉照魁仍到我配所帶有我的家信說他在廣東德慶州遇見步文斌認為義父教授理條那時我因同案發來的李大智魏榮李書俱已死故給劉照魁十兩銀子叫他搬取他們的骨殖送往各

家劉照魁說先要到遷江縣看望程東岳回來再送骨殖當即去了至是年四月仍到我配所住了幾個月就往鶴山等處起取骨殖送往各處去了五十三年記不得月日我煩湯殿爵寫信與程東岳教他不要忘了本教六月內程東岳也有回信問候是賣茶葉的張蕙帶來邪信內寫著感德不淺的話就是謝我勸他謹守本教的意思並無別故至方觀音子李阿南與我在配熟識於五十五年九月十月內他們先後拜我為師並沒傳授理條亦無得過銀錢不敢妄供是實

刑訊劉書芳你在廣西既與程東岳通信此外在配同案軍犯書信來往自必不止程東岳一人你教授劉照魁理條必有托他到新疆給王子重書信與教之事所收徒弟斷不止方觀音子李阿南兩人從實供來

據供我自四十八年到配同案軍犯俱係隔別安插不能見面往來四十九年四月內纔有這劉照魁到我配所提起程東岳的話我纔叫他替

我帶口信問好此外實無別人交接我傳劉照魁理條不過是敬重天地孝順父母的話我並不知道有同教發到新疆的王子重劉照魁並沒向我提過我如何給他帶信至方觀音子李阿南兩人因他問起我的教條要拜我為師所以收他為徒寔沒收過別的徒弟是實

又問劉書芳你既勸程東岳謹守本教在配又收方觀音子李阿南為徒你胞兄劉顯明胞姪劉文治劉武治豈有不往來通信商同傳教之理據實供來免受刑夾

據供我胞兄劉顯明發配宜山縣在養利州隔別安插不能見面我胞姪劉文治已在廣西河池州配所病故劉武治充發廣東離我配所遙遠我與他們寔無書信往來現在收方觀音子李阿南為徒並勸程東岳守教的事我都據實供出此外寔無慫恿別人入教傳徒的事求饒刑

\* 胡國吉供我係貴州貴筑縣人年三十四歲父母妻子俱故兒子胡起蛟現在原籍我因犯了命案

免死減軍五十五年九月間發廣東德慶州因與步文斌熟識五十六年正月內我到步文斌寓所見步文斌與洪百春講說教內理條我也就拜步文斌為師他就傳我歌語說是耳為東方眼為南方口為北方鼻為西方早不朝東晚不朝西午不朝南夜不朝北這就是耳目口鼻四相的歌句叫我時時念誦原是有可免疾病我依着他念了幾時此外並無別的歌句我也並未傳過別人是實

\* 雷興供我係湖北棗陽縣人年三十六歲父母俱故並無妻子我因犯竊於五十四年五月內充發廣東德慶州與軍犯步文斌熟識看見他時常念誦歌句我問他說是耳目口鼻的歌語學習了可以消災獲福我就於是年十二月內拜他為師並未傳過別人是實

\* 麻三供我係貴州寧州人年四十三歲女人莫氏

兒子亞壽今年六歲了我因犯命案於三十七年充發德慶州上年正月內有向來熟識的軍犯陳典拜步文斌為師向我說學了他的歌句可得好處我就聽信於正月初八日也拜步文斌為師他就傳我耳目口鼻四相歌句我依著他念熟了並沒傳過別人是實

\* 洪百春供我係山東曹縣人年三十八歲父母俱故並沒兄弟女人葛氏兒子洪奇魁我於四十八年因犯邪教同步文斌等充發廣東到配後步文斌曾傳授我四相歌句五十年冬間有這劉書芳的徒弟劉照魁來到德慶州拜步文斌為義父住了幾日步文斌托他帶家信往山東去五十二年劉照魁又到德慶州帶有步文斌家信又向步文斌商量搬取李大智等骨殖的事步文斌都告訴過我的五十五年十二月內我見有同配流犯雷興陳正忠二人拜步文斌為師教他們念習歌句這是我知道的此外尚有何人入教我不曾看見不能知道至步文斌

的兒子步大斤五十五年冬間曾到配所一次後來就同崔三醜們回原籍去了以後總沒曾來過現在何處我不知道是實

\* 陳正忠供我係貴州銅仁縣人年三十一歲父親已故母親楊氏並無妻子我因犯命案於五十五年十月減等擬流發配廣東德慶州安置與軍犯洪百春熟識知道他曾拜從步文斌為師傅習歌句我因聽見洪百春說這歌句年久了可以得福免災上年二月也拜了步文斌為師他教我念誦四相歌句這都是有的我並無傳過別人是實

\* 陳典供我係山東冠縣人年四十五歲父母妻子俱在原籍我因邪教犯罪充發廣東德慶州與步文斌先不認識到配後纔知道是同教的人步文斌曾勸我不要忘了本教曾口授我教的歌詞說是可以消災得福我也就跟著念誦那胡國吉麻三拜步文斌為師各傳給四相歌句是我知道的此外更有何人我實不知道我在配所也不曾收過徒弟亦無得過名號是實

\* 程東岳供我係山東單縣人年五十四歲父母俱故兒子程獻章我於四十五年拜楊起玉為師入震卦教四十七年犯案四十八年充發廣西遷江縣賣餛飩度日本與劉書芳同教認識後來劉書芳充發養利州四十九年四月內有耍戲法的劉照魁到我舖內買食餛飩彼此問了鄉貫姓名我留他住了一夜劉照魁向我問及教內的好處我說師父楊起玉曾說今生受窮苦的人來生定有好處劉照魁要我講究理條我說

我習教未久不能通曉有同案充發養利州的劉書芳比我明白些劉照魁說他正要到養利州去就可順便找尋劉書芳我說你若遇見替我問好劉照魁就去了到五十年二月劉照魁復至我配所說已拜劉書芳為師傅授理條叫他往山東替劉書芳送家信的話告訴我我也托他寄家信與兒程獻章五十二年三月劉照魁從山東回來說在廣東見過步文斌認為義父帶有劉書芳的家信並說劉書芳叫他搬送李大智魏榮李書骨殖要我幫湊盤費我給了八百文錢劉照魁去後總沒來過至五十三年劉書芳曾有信寄我說不可忘了本教我也有信回他內有感德不淺的話不過是通套謝他的意思並無別故那王芥保李作琚劉星高與我同安插遷江縣往來認識我勸他們入教來生定有好處他們愿從於五十一年正月間王芥保李作琚劉星高俱拜我為師入教並無傳授理條亦無得受名號是實

\* 周二供我係直隸固安縣人年五十八歲父母俱故乾隆三十八年因犯盜案充發廣東德慶州隨帶妻陶氏已死一個兒子周祥今年三十歲了五十三年正月內有同配軍犯步文斌的鄉親劉照魁勸我跟隨步文斌入教說是可以消災得福我就允從即於是月記不得日子劉照魁帶我見了步文斌他在旁點香叫我與步文斌磕頭步文斌傳我歌語說是早不朝東晚不朝西午不朝南夜不朝北這就是四相歌句叫我念誦原是有有的至我並無轉傳別人亦無得過名號是實

\* 李作塔供我係甘肅安定縣人年四十四歲因逆匪王伏林案內將我充發廣西於四十三年六月到配與這程東岳認識於五十一年正月裡拜他為師入八卦教並沒傳過別人是實

\* 方觀音子供我係江西寧都州人年三十一歲因雜教案內於四十六年充發廣西安插養利州與劉書芳相好常聽他說入了八卦教來生定有好處我於五十五年十月拜他為師教我理條不過是要孝父母敬天地的話我都記不全了至我在配並未收過徒弟亦無得受名號是實

\* 李阿南供我係江蘇上海縣人因犯竊案發遣廣西於五十一年到配安插養利州與這劉書芳認識五十五年九月拜他為師是有餘與方觀音子同供

\* 王芥保供我係山東曹縣人年四十五歲因犯竊充發廣西於三十四年十一月到配安插遷江縣與程東岳在配熟識他常說入了八卦教未生定有好處我被他所惑於五十一年正月裡就拜程東岳為師入教原是我的我並無另傳別人是實

\* 劉星高供我係河南淮寧縣人年五十六歲因邪教案內四十八年充發廣西與程東岳在配熟識他勸我入八卦教我就允從於五十一年二月內拜他為師是有的至我在配並無收過徒弟亦無得受名號的事是實

1517

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年正月二十七日

奉

上諭據梁肯堂奏查明直隸省積欠地糧已未完各數分晰開單呈覽內民欠未完銀二十七萬五千一百餘兩帶徵未完銀七十四萬八千八百餘兩現在派委道府督同候補丞倅州縣各員分投清查等語直省積欠銀兩遞歷至一百餘萬為數甚多雖該省差務較多並據稱附近山海之區田畝率多沙城且五十四五兩年霸州等各州縣先後被災分年帶徵之項未能依限完納以致遞有積壓然斷不至如此之多自係不肖官吏影射帶徵名色從中挪前移後以完作欠必非盡寔欠在民今既經該督派委到直未久之丞倅州縣各員調取收納紅簿及完銀串票逐一核對並派隔屬道府大員督同查核自應如此辦理此事總在該督寔力妥為不可存庇護屬員之見僅以一奏了事直隸係首善之區為他省所效法今積欠銀數至一百

餘萬之多若不認真上緊查辦一任地方官吏藉口水旱歉收因災帶緩任意侵挪逐年積壓直隸一省如此他省從而效尤國家經費有常似此正項錢糧懸宕無著年復一年伊於何底著傳諭梁肯堂務須確切嚴查寔心核辦並著予限一年責成該督將積欠之項全數歸款毋得再有拖延倘該督意存袒護代屬員隱飾朦混以致積欠久懸朕不拘何時密派大員前往抽查一經查出弊竇該督自問能當此重戾耶將此傳諭知之欽此遵旨寄信前來

1518 乾隆五十七年正月二十七日奉

旨這所叅失察差役詐贓釀命之候補通判張起洙試用知縣何粹文及署吏目蔣輝等俱著革職交與該撫提同案内犯証一併嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

1519 乾隆五十七年正月二十七日內閣奉

上諭前據張家口監督瑯瑞奏報五十六年經徵稅務短絀盈餘銀九千餘兩等語當經降旨令該都統烏爾圖那遜詳查該監督任內有無侵蝕捏報情弊茲據軍機大臣及該都統查奏瑯瑞任內所徵關稅銀兩與該年到關貨物各項核對均屬相符採辦官物添用銀兩及變價馬駝亦有賠墊委係辦理不善尚無侵蝕情弊但盈餘短絀銀兩究係該監督不能妥為籌辦所致倘概予寬免竟不示以薄懲則人皆效尤此風漸不可長瑯瑞著降一級以員外郎補用所有短絀盈餘銀九千四百四十餘兩著加恩寬免欽此



1520

臣等傳到汪新賚摺差弁詳加詢問據稱我係把總馮起渭於上年十二月二十日起身上次遞摺把總李崇係於上年十二月十六日起身已於昨日接摺後出京等語臣等查汪新兩次發摺之期相隔不過四五日並不將審辦命案一併差賚乃分作兩次差弁呈遞謹擬寫申飭汪新並將額勒春交部察議

諭旨進

呈謹

奏

正月二十九日

1521 乾隆五十七年正月二十九日內閣奉

上諭向來各省督撫提鎮遇有陳奏事件往往令賚摺差弁分日呈遞希圖惜費見長最為陋習屢經降旨申飭此次汪新於正月二十七二十九兩日均有奏到之摺核其發摺之期相隔不過四五日且其二十七日具奏各摺祇係尋常事件並非緊要自應將本日所奏審辦命案趕緊辦竣一併迅

速賚奏又何必分作兩次差弁呈遞以為辦事見

長仍沿陋習汪新著傳旨申飭嗣後各省督撫提鎮俱不得仍蹈前轍將應奏十日以內之事件分日呈遞至汪新所奏訪獲砍殺一家五命審明辦理一案據稱前撫臣額勒春曾經面商以案內情節可疑應詳慎確查等語今查此案於上年十一月初十日即據州役訪稟經該州錄供具詳額勒春係於上年十二月初八日交卸撫篆計破案之後已及一月額勒春既以案情多有疑實自應即親提審訊乃僅告知汪新令其詳慎確查是額勒春竟以業經內用侍郎意存推諉於地方兇殺重案即置不辦實屬非是額勒春著交部察議欽此

1522 乾隆五十七年正月二十九日奉

旨德明著轉補吏部左侍郎其右侍郎員缺即著穆精阿補授玉德著轉補刑部左侍郎其右侍郎員缺即著伊齡阿補授佛住著轉補理藩院左侍郎其右侍郎員缺即著博興補授欽此

1523 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸提督閔 乾隆五十七年正月二十九日 奉

硃

上諭據閔正祥奏現因感患風疾懇請賞假調理等語此次巡幸五臺該提督例應隨扈今既因患病著准其給假調理所有沿途一切事宜有總督梁肯堂隨往足資料理閔正祥可免毋庸前往未接駕令其安心調養並著派太醫院醫官一員前往看視以期速就痊愈特此諭令知之欽此

1524 乾隆五十七年二月初一日奉

旨現交內務府查出舊存明季玉圭十一件並非古大圭鎮圭內有刻山文者二件自係仿擬鎮圭之假製而玉質平常刻文麤俗必非郊廟所用或係前明嘉靖年間崇尚道流仿擬古式以供醮壇之用均不足以資攷証著仍交原處收貯可也欽此

1525 乾隆五十七年二月初一日奉

旨薛學詩著照所請准其留於直隸差委如果出力再准照所降之級補用欽此

1526 本日富綱奏普洱鎮總兵朱射斗期滿換回一

摺臣等查現在並無總兵員缺該鎮朱射斗到京尚需時日應將該員存記俟有總兵缺出即行提奏請

旨補授謹

奏 二月初二日

1527 乾隆五十七年二月初二日奉

旨鮑均玉著即處斬餘依議欽此

1528 乾隆五十七年二月初二日内閣奉

上諭伍拉納奏審明拏獲行劫浙省外委陳學明巡船首夥洋盜及續獲閩浙二省海洋各案逸盜並被誘逼脅窩留消贓等犯分別正法定擬二摺俱批交三法司核擬速奏矣此二案內有被誘逼脅並未隨同上盜之犯該督照粵省王馬成案內陳螺之例擬斬監候俟滿三年再行發遣回疆給回子為奴固屬遵例辦理但海洋行劫盜犯情罪較重非內河陸路可比此等匪徒既經被誘在船隨同出洋聽從盜匪指使為其煮飯即非善類若擬斬監禁三年後發遣回疆仍恐復行為匪滋事且回疆漸多發遣之惡人亦非善事嗣後凡江洋大盜案內情有可原之犯及被誘在船日久為盜匪服役者竟當問擬斬候永遠監禁以示懲儆其內河陸路盜案仍照舊例辦理欽此

1529 擬

賞石刻蔣衡書十三經序七十分

- 八阿哥
- 十一阿哥
- 十五阿哥
- 十七阿哥
- 綿恩阿哥
- 綿億阿哥
- 綿惠阿哥
- 綿志阿哥
- 綿懃阿哥
- 綿懿阿哥
- 綿總阿哥
- 綿偲阿哥
- 綿慶阿哥
- 綿寧阿哥
- 奕純阿哥
- 奕紹阿哥

載錫阿哥

禮親王永恩

睿親王淳穎

豫親王裕豐

肅親王永錫

莊親王綿課

怡親王永琅

克勤郡王雅朗阿

順承郡王倫住

裕郡王亮煥

誠郡王弘暢

和郡王綿循

軍機大臣阿桂

和坤

王杰

福康安

孫士毅

福長安

董誥

慶桂

大學士嵇璜

尚書常青

劉墉

蘇凌阿

胡李堂

金簡

彭元瑞

左都御史舒常

紀昀

侍郎德明

金士松

穆精阿

沈初

慶成

蔣賜榮

韓鐸

諾穆親

劉秉恬

鐵保

寶光萬

僧保住

劉權之

趙鏜

和琳

玉德

張若淳

伊齡阿

王昶

成策

吳省欽

南書房阮元

瑚圖禮

那彥成

于克學 蔡新

1530

乾隆五十七年二月初三日奉

旨張二揚二著即處斬餘依議欽此

刑部奏山東省疊劫隣省盜犯一摺

1531 乾隆五十七年二月初三日奉

旨依議欽此

失察劉照魁出口之革職肅州知州涂躍龍定擬軍臺一摺

1532 乾隆五十七年二月初三日奉

上諭穆騰額奏長蘆山東商人王珮等呈稱現聞大兵進剿廓爾喀賊匪蘆商願捐銀三十五萬東商願捐銀一十五萬共五十萬兩以備凱旋賞賚之用等語廓爾喀賊匪滋擾計日即可蕩平本不致多費軍餉今既據穆騰額奏稱該商等願懇誠切著准其捐銀五十萬並著照所請於運庫中本年奏銷五十六年引課項下借撥分作五年完交所有捐餉商人等著該鹽政查明咨部照例議叙欽此

1533 乾隆五十七年二月初四日内閣奉

上諭據書麟等奏興武九幫內領兌上元江寧江浦三縣漕糧於上年十二月二十五日午刻行至上元縣黃天蕩陡遇狂風巨浪四起汹涌異常搶護不及將第八號楊九章十二號強尊壘二船打散原裝米共一千一百四十餘石漂沒無存淹斃大小人口五名又有十六號薛文親一船被風打破除撈獲乾濕米石外虧折米二百八十七石等語此次漕船渡江陡遭風暴人力難施無從搶救以致船米冲失淹斃人口殊堪憐憫所有旂丁楊九章強尊壘二船漂沒米一千一百四十五石七斗有零及薛文親船隻虧折米二百八十七石二斗有零俱著加恩免其賠補其應行修造船隻並著官為造辦至淹斃人口著該督等照例賞卹以副朕恤災惠丁至意該部知道摺併發欽此

1534 乾隆五十七年二月初四日内閣奉

上諭直隸提督閔正祥現患痰疾未能就愈閔正祥

著解任安心調理所有提督印務著慶成前往署理欽此

1535 乾隆五十七年二月初四日内閣奉

上諭今年京察屆期吏部奏請甄別一本向來大學士例不開列第念大學士阿桂等或襄贊綸扉或兼統部務均能懋著勤勞敬公稱職宜加優叙以昭恩眷阿桂嵇璜和坤王杰俱著交部議叙協辦大學士尚書孫士毅尚書福長安董誥胡李堂金簡彭元瑞侍郎德明蔣賜棨劉秉恬夙夜宣勤均能稱職宜加獎勵俱著交部議叙餘著照舊供職欽此

1536 乾隆五十七年二月初四日内閣奉

上諭今年京察屆期吏部將各省督撫開列名單進呈請旨甄別協辦大學士總督福康安總督梁肯堂勒保惠齡單沅河道總督蘭第錫李奉翰巡撫長麟秦承恩宣力封疆克稱厥職俱著交部議叙餘著照舊供職欽此

遵查康熙年間撤藩一事其時建議諸臣如明珠米思翰等力持必撤之議現經載入列傳中其有言不宜撤者遍查

紅本及當時共議諸臣列傳所載除明珠米思翰外俱不詳姓氏惟查康熙二十年

聖祖仁皇帝

上諭曩者平南王尚可喜奏請回籍時朕與閣臣面議圖海言不可遷移惟莫洛米思翰明珠蘓拜塞克德等言應遷移等因欽此謹將

諭旨恭錄進

呈並將明珠米思翰列傳粘貼黃簽恭呈

御覽至圖海莫洛蘓拜塞克德等傳內俱並未載

有此事合併聲明謹

奏

乾隆五十七年二月初五日

\* 康熙二十年十二月癸巳

九卿詹事科道等以滇南蕩平請加上

尊號

上諭曰爾等以大憝既除寰宇底定奏請上朕尊號朕思曩者平南王尚可喜奏請回籍時朕與閣臣面議圖海言斷不可遷移朕以三藩俱握兵柄深恐日久滋蔓釀成不測故決意撤回不圖吳三桂背恩反叛八年之間外內騷動兵民交困賴

上天眷佑

祖宗福庇逆賊蕩平倘復再延數年百姓不幾疲敝耶憶爾時惟有莫洛米思翰明珠蘓拜塞克德等言應遷移其餘並未言遷移則吳三桂必致反叛也議事之人至今尚多試問當日曾有言吳三桂必反者否及吳三桂倡叛四方擾亂多有退而非毀謂因遷移所致若彼時朕諉過於人將會議言應撤者盡行誅戮則彼等含冤泉壤矣朕素不肯諉過臣下即部院事有錯悞朕亦自任朕自少時以三藩勢熾日熾不可不撤豈因吳三桂反叛遂諉過於人耶今亂賊雖已削平而瘡痍尚未全復君臣

之間宜益加修省息兵養民布宣德化務以廉潔  
為本用致太平若遂侈然以為功德崇上尊稱濫  
邀恩賞寔可恥也

1538 遵將

發下二程文集

指出錯悞之處交紀的閱看據稱集內指揮字樣誤  
寫旨揮實為錯誤前此督率覆勘未能稽察周  
到殊為疎漏除謹遵  
旨改正實深愧悚等語謹

奏

初五日

1539 遵

旨將八旂氏族通譜輯要內

指出各條交該纂修等增添案語粘貼進

呈俟

發下交該館另行繕寫謹

奏

二月初五日

1540 乾隆五十七年二月初六日內閣奉

上諭戶部議覆給事中初彭齡條奏各省州縣徵收  
正雜錢糧及出借倉穀責成各道府據實查核等  
因一摺已依議行矣清查之事朕素不欲為但各  
省州縣經管倉庫錢糧該管各上司衙門層層稽  
核立法不為不周各督撫如果實心經理隨時查  
察即有不肖之員何敢侵挪影射致滋弊端倘督  
撫不能潔已率屬致屬員持其短長遂爾心存迴  
護概置不辦即多設科條亦屬有名無實所謂有  
治人無治法也即如上年軍機大臣將各省積欠  
銀兩數目查奏朕以此項未完銀數在小民踴躍  
輸將斷無實係實欠在民之理必係地方官吏任  
意侵挪藉詞掩飾因特降諭旨令各該督撫徹底  
查明據實具奏不得便於蠹吏誣及良民嗣經梁  
肯堂覆奏分委隔屬之道府大員督同候補丞倅  
州縣等官分投各處調取收納紅簿及完銀串票  
逐一核對等語自應如此辦理復經降旨該督令  
其確切嚴查並勒限一年將積欠之項全數歸款



直隸係首善之區為各省之所取法所有山東江蘇河南福建湖北浙江積欠較多省分自應一體實力查明盡心經理務俾正項錢糧悉有歸著不致朕特遣大臣往查豈不妥善本日戶部議奏各省經徵錢糧出借倉穀俱責成各該管道府隨時確查將州縣所報完欠錢糧數目詳加核對並由督撫取具藩司道府印結報部存案各條所議章程雖為詳備然在人不在法各省督撫務須遵照所議督率所屬隨時隨事確訪嚴查一經查有弊端即行嚴叅究辦州縣及該管各員具有身家斷不敢輕於試法庶陋習可以轉移而積弊可以釐剔倘各督撫尚存袒護屬員之見任情怠玩及有心朦混遲至一二年或派大臣往查各督撫能保其必無乎若查有仍前侵挪以致倉庫虧短之事則各該督撫能任其罪乎毋謂教之不早也將此通諭知之欽此

1544 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 乾隆五十七年二月初六日奉  
上諭步軍統領衙門奏雲南民人那耀宗呈控伊儿那顯宗謀佔家產誣伊為朱亦甫之子又據民人富如山厦則呈控那顯宗霸佔伊等房地什物歷控本省各上司俱不為審辦一摺此案那耀宗等屢經在本省控告何以該地方官延宕數載並不審辦結案今那耀宗等不憚萬里遠赴京師呈控恐其中不無冤抑情事自未便仍交該省督撫查審致滋迴護湖南距滇省較近且現在並無緊要應辦事件著傳諭姜晟於接奉諭旨後即將巡撫印篆交與王懿德暫行護理姜晟即迅赴雲南會同該督撫提集犯証秉公嚴審定擬具奏該撫久任刑部獄素所諳習且事係隔省自無所用其迴護今特責成姜晟查辦務須將實在情形確切審明據實具奏倘有不實不盡稍涉徇隱之處將來復經控告恐該撫不能當其咎也所有步軍統領衙門摺著抄寄閱看將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1542 本月初五日吏部將江蘊巡撫長麟保薦卓異之現任徐州府知府永齡帶領引

見奉

旨永齡著交軍機處記名欽此

1543 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 乾隆五十七年二月初七日奉

上諭昨據步軍統領衙門奏雲南民人那權宗等呈

控那顯宗霸佔家產房地一案已降旨令姜晟前

赴雲南會同該督撫審辦現在又派刑部司員一

員將那顯宗等押解前往隨同姜晟審辦該司員

雖係馳驛但行走尚需時日此旨由驛發往自己

早經遞到該撫接奉後且不必即行啟程該司員

押解原告赴滇自必經過湖南姜晟應俟該司員

到楚時再行帶同前往如有案內應行傳提人証

姜晟不妨先行文滇省令該督撫預為調集以便

到滇後即可會同審辦也將此再行諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

1544 乾隆五十七年二月初七日奉

旨嚴廷良准其補授四川敘馬營都司著仍由驛回

藏聽候差委欽此

1545 乾隆五十七年二月初七日奉

旨此案著交姜晟前赴雲南提集犯証會同秉公嚴

審定擬具奏並派刑部司員一員將原告那耀宗

富如山厦則押解前往即著隨同姜晟審辦欽此

1546 啟者本日面奉

諭旨閔正祥現在患病未痊已令解任調理該提督

係屬漢軍城內自有住屋與其在古北口署內調

養不若令其進京在家養病更可安心調攝著遇

便傳諭慶成告知該提督即行來京在家調攝冀

得痊愈以示體恤欽此為此附差便札知希

大人即遵照辦理該提督是否情愿來京於何

日起身之處並即咨覆軍機處以備

再詢時覆奏順候

近祉不脩

二月初十日

<sup>1547</sup> 乾隆五十七年二月十一日內閣奉

上諭伍拉納奏擊獲從前在臺灣附從賊首莊大田授過偽職之逸匪張奢即黃奢審明辦理及續拏海洋行劫盜犯各摺已批交該部及三法司核擬具奏矣前此臺灣從賊餘犯竄逸多年伍拉納因督緝洋盜駐劄泉州督飭地方文武留心偵捕將附從賊首莊大田得受偽職之逸匪拏獲到案審明正法並將海洋各案盜匪續行拏獲多犯俾兇徒逆犯不至漏網稽誅辦理尚屬認真伍拉納著交部議叙至從賊逸匪張奢即黃奢一犯在逃日久現據伍拉納奏稱據陞任汀漳龍道史夢琦稟係府縣緝匪差役拏獲並著該督查明同承審究辦之道府等一併咨部分別議叙以示鼓勵欽此

<sup>1548</sup>

查伍拉納奏審辦前在臺灣從賊逸匪一摺祇稱該犯係府縣緝匪差役拏獲究出並未指出係何縣差役拏獲是以臣等擬寫

諭旨內未將該縣送部引見之處寫入今伍拉納一併咨部分別議叙謹

奏

<sup>1549</sup> 遵

旨詢問范宜恒從前伊父范時綬因何獲罪查抄家產之處據稱我父親范時綬於乾隆二十四年由副都統在關展辦事時和其表叅奏私役官匠蓋造房屋及在關展私行貿易等款經

欽差大臣安泰前往審明止係失察家人與買賣人交易其餘別款皆虛彼時安泰審摺尚未奏到已因石道工程從前修理未能堅固奉

旨革職查抄家產仍在新疆効力贖罪二十五年蒙恩補放頭等侍衛在新疆辦事二十八年換班回京

奉

旨補授吏部侍郎存任尚書都統等語謹

奏

1550 查上年十二月初七日湖南巡撫姜晟奏請以

永興縣知縣馮城調署善化縣知縣一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

照例議駁於本日具

題 臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈 謹

奏

1551 乾隆五十七年二月十二日奉

旨馮城著照該撫所請行欽此

1552 乾隆五十七年十二月二十二日兩江總督書

麟等奏請以賴榆縣知縣鄧諧陞署泰州分司

運判一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會照

例議駁 臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈 謹

奏

1553 乾隆五十七年二月十二日奉

旨鄧諧著照該督等所請行欽此

1554 遵查雍正年間阿靈阿揆叙墓上立不忠不

孝等字碑石原奉

諭旨及乾隆元年二年撤去碑石

諭旨俱恭載阿靈阿揆叙本傳內謹夾簽同余國

柱列傳一併呈

覽 謹

奏

1555

遵查康熙年間首告奸民楊起隆謀叛一案之郎廷樞查郎廷樞未經陞任大員

國史館例不列傳臣等查旗冊內開郎廷樞係鑲黃旗漢軍由監生考州同職銜因首告楊起

隆一案奉

旨從優議叙旋經部議給與二等輕車都尉世職准

襲五次嗣經兵部據情代奏以該員係候補州同不敢濫膺世職奉

旨以叅政道用仍帶世職准其承襲後歷任至廣東

布政使至其子孫有無現任官職之處據該

旗稱郎廷樞之子孫早經物故現有二世孫

馬甲郎致安閑散郎致孝三世孫印務章京

兼公中佐領郎萱四世孫世襲二等輕車都

尉得陞此外皆係馬甲閑散再查奸民楊起隆

於康熙十九年業經拏獲事載圖海傳內謹

將圖海列傳夾簽進

呈謹

奏

1556

查上年李奉翰等奏報南糧首幫挽入東境係二月初七日此次窩星額等所奏日期與上年相同摺內未經比較叙入臣等謹遵

旨擬寫詢問

諭旨進

呈謹

奏

十三日

1557

大學士公阿 大學士伯和 字寄

巡漕給事中窩 傳諭兗州鎮總兵官柯藩

乾隆五十七年二月十三日奉

上諭據窩星額等奏南糧首幫大河前幫船三十五

隻於本月初七日挽入山東黃林莊境其在後之

泗州後揚州二揚州三等幫亦俱跟接行走等語

南糧首幫於二月初七日挽入東境該巡漕等

奏報時自應比較上年將遲早幾日之處隨摺聲

叙乃摺內並未叙及殊欠明晰著傳諭窩星額等

即將此次南糧首幫入東日期與上年比較或遲  
或早之處詳晰覆奏將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1558 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年二月十三日奉  
上諭梁肯堂奏拏獲疊劫盜犯等分別問擬一摺已  
交三法司核擬速奏並准將交河縣知縣姚祖善  
送部引見矣但閱該督所奏另片內稱係交河縣  
知縣姚祖善購線緝獲而摺內又稱據陞任滄州  
知州王仲將各盜犯先後拏獲等語各盜犯究係何  
人拏獲聲叙殊未明晰看其語意此案自係姚祖  
善先經購線密訪而摺內未經分析叙明不免牽  
混著該督即行查明覆奏將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1559 乾隆五十七年二月十四日內閣奉

上諭刑部題覆安徽民人程菊摔刀致傷胞兄程紹  
章身死按律擬斬立決一本據該撫原疏稱程菊

因割稻鑷刀口鈍在院磨刀伊兄程紹章見程菊  
未赴田工作斥其懶惰程菊以伊兄睡卧方起不  
應向斥程紹章惡其頂撞從後掌批程菊頸後程  
菊負痛生氣將所磨鑷刀向後摔棄適傷程紹章  
左後脇透膜腸出等語殊若以為情有可原者而  
實非情理之正也程菊刀傷胞兄程紹章致斃事  
關服制其罪已無可寬乃該撫以程菊因伊兄斥  
責摔刀失傷曲為聲敘試思程菊實斃與兄弟爭  
即果係隨手摔刀何以不向前直摔或摔向左右  
兩旁轉行向後摔擲致傷伊兄身死即云摔刀失  
傷又何至透膜腸出實非無心過失也各省命案  
督撫等辦理固不可鍛練周內亦不可有意從寬  
總當準情酌理俾無枉縱朕向於服制攸關案件  
或遇救親情切或因姦致斃出於義忿者俱交九  
卿議奏量從末減今此案程菊刀傷胞兄程紹章  
致斃情罪無可從輕該撫猶為此無謂之聲敘不  
過刑書開脫故套最為外省陋習各督撫皆所不  
免但朱珪本係書生尤好為此迂濶多活人積陰  
德之見遇事從寬所謂婦寺之仁實屬非是除將

部題本照發批發外未珪著交部議處欽此

1560 乾隆五十七年二月十四日內閣奉

上諭前額勒春因伊子玉山在光州知州任內於縣役何九毆斃鄭宗宜等扶同捏稟一案交部嚴加議處嗣經吏部具題以額勒春無級可降應行革任曾有旨俟額勒春來京再行降旨此案係司李濤承審率行具詳該司業經病故免議該撫穆和蘭應得處分亦經加恩免其革任至額勒春乃因承審之撫臬寓護庇其子所致非額勒春囑託令寬其子其罪尚輕於穆和蘭額勒春著從寬改為革職留任欽此

1561 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年二月十四日奉

上諭據吉林將軍恒秀奏發遣三姓為奴長二一犯於正月初二日在配脫逃現在飛咨直隸原籍查拏等語長二係因搶奪案內免死減等發遣之犯胆敢在配乘間脫逃情殊可惡該犯脫逃後或竟

潛回原籍亦未可定著傳諭梁肯堂按照該將軍來咨即飭所屬於該犯原籍上緊查拏務獲毋任漏網將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1562 遵將康熙十三年禮部侍郎哲勒肯奉使雲南

攜有吳三桂奏疏交查內閣

國史館茲據復稱詳查康熙三十四等年

紅本並無吳三桂奏疏所有哲勒肯列傳遵

旨查取恭呈

御覽再奉

旨查取阿密達謝濟世列傳據

國史館覆稱謝濟世官止道員例不立傳開具節

畧送到謹將謝濟世節畧並阿密達列傳一併

進

呈謹

奏

\* 謝世濟廣西全州人康熙壬辰進士由翰林院  
檢討授浙江道御史因叅奏河南巡撫田文鏡  
貪虐不法各款皆虛革職發往軍前効力贖罪  
召回補江南道員調湖南糧道休致

二月十六日

1563 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 湖北巡撫福 湖南巡撫姜

署江西巡撫姚 乾隆五十七年二月十六日  
奉

上諭全德奏上年江廣銷鹽總數一摺內稱湖廣於  
歲額外多銷十萬二千七百六十七引江西於歲  
額外多銷一萬八千九百二十六引等語江廣額  
銷鹽斤前因督撫等皆有積弊以致私販充斥官  
引不能暢銷引課往往缺額經朕節次降旨飭令  
該督撫嚴定章程實力去弊緝私今據全德查明  
上年江廣銷鹽總數於正額外多銷十二萬一千  
八百餘引可見各督撫果能潔已更飭屬上緊緝

私其效立見但江廣地方鹽務於積疲之後甫有  
起色該督撫等尤應各飭所屬加倍認真俾官引銷  
售日暢不可因上年稍有多銷引額遂爾心存懈  
怠復使私販得以侵銷官引再有積壓方為妥善  
將此各傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

1564 乾隆五十七年二月十七日奉

旨此次京察一等雙圈人員著交該堂官將各員是  
否堪勝外任及應留京之處出具考語交吏部照  
例帶領引見其圓圈之滿洲蒙古中書筆帖式等  
官著歸入記名理事同知通判內遇有缺出與舊  
記名人員一體帶領引見其漢軍漢人著交部以  
撫民同知通判照例選用欽此

1565 雙圈京察一等人員名單

內閣侍讀那 洪 色布星額 秦 瀛

宗府事李呂雲棟

吏部郎中和精額 和 德 蔣子滿 趙槐符



主事巴哈布

戶部郎中圖桑阿 圖桑阿 張紹孟 張灼

員外郎五靈泰 哈達納 常齡 和靜

曾映 丁楷

銀庫郎中台布

禮部郎中李奕疇

員外郎舒山 顏檢

主事富俊

兵部郎中盛保 朱爾賡額

員外郎張丙震

堂事多慶

刑部郎中崇祿 恩赫赫謨 祥林 熊之台

王朝梧 祖之望 劉大懿 邵洪

員外郎那縉 覺羅長虎 文通 椿齡

王奉曾

工部郎中景裕 阿禮布 樊士鑑

員外郎玉保 劉青照

主事嘉琿

理藩院郎富泰 阿麟 瞻柱 多托禮

主事文都遜

戶科給事中李翮

掌河道監察御史恒溥

掌河道監察御史高杞 王春煦

掌河道監察御史徐如澍

掌河道監察御史高三畏

京畿道監察御史五泰

湖廣道監察御史程炎

翰林院侍講蔡共武

修撰史致光

編修邱庭澐

李傅熊

順天府治中盧又紳

叢慶節員外吉綸

刑部郎中杜兆基

太僕寺贊禮郎愛星阿

常寧 特松額

吳嵩雯 馮集梧 王錫奎

單圍京察一等中書筆帖式等官

內閣中書

文修 達椿 西彰阿

色攬星額 德亨 哈豐額

沈颺 劉源溥

吏部筆帖式

富昌 寶德 舒英阿

英吉 翔兆

稽察

上御處鴻臚寺筆帖式

雙壽 博金岱 舒尔炳阿

戶部筆帖式

承炷 德喜 廣順

永魁 克誠 克麟

依精阿 福克旌阿

禮部筆帖式

茶徹布 特通阿 色成額

兵部筆帖式

清照 佛倫 慶恩

舒進 瑋璐 札拉豐阿

刑部筆帖式

阿方阿 富綸 札拉豐阿

靈德 瑞英 官棟

工部筆帖式

德興 鳴岐 富明泰

理藩院筆帖式

德興 鳴岐 富明泰

都察院筆帖式

元奎 平晏 永祥

刑科筆帖式

武什杭阿 塔清阿 察尔海

翰林院筆帖式

覺羅金善 麒麟太 慶瑞

起居注筆帖式

武靈阿 德明

大理寺筆帖式

阿林

太常寺博士

沈浩

光祿寺筆帖式

善良

國子監助教

嵩齡 德布

典籍

張若詠

筆帖式

常福

步軍統領衙門筆帖式

善慶 景明

醫館筆帖式

汪本中

1567 乾隆五十七年二月十七日奉

旨此案失察劉照魁往來寄信之遊擊福德保守備  
蘓光生前署吐魯番同知申保俱著從寬改為革

職留任欽此

1568 乾隆五十七年二月十七日奉

旨軍機大臣會同刑部審擬太谷縣捐職從九品王嵐呈控孟教材等一案閱其情節王嵐本係負欠孟教材銀兩因互控詞輸心懷忿恨輒行捏砌多款牽連呈告以致拖累多人情殊可惡僅按律議以杖流不足蔽辜王嵐著發往烏魯木齊充當苦差以示懲儆仍暫行監禁俟全案擬審完結後再行發遣餘依議欽此

1569 乾隆五十七年二月十七日奉

旨戶部議駁穆和蘭奏酌改徵收河工幫價章程並將節年積欠銀兩分別著賠展限一招所議甚是但其中尚有未甚詳備之處豫省河工幫價銀兩從前畢沅奏請通省地糧一律攤徵辦理即屬非是黃河遇有應辦工程在沿河各州縣均資保障護衛田廬為閭閻生計攸關該處居民誼切護已如偶值工程緊要採買物料例價不敷不得不量為幫貼於沿河州縣內按數攤徵尚屬近理至通省

州縣與沿河者較遠全於河工無涉亦令一體均攤雖為眾擎易舉起見但揆之事理實未允協所有此項攤徵積欠未完銀兩著穆和蘭悉心籌酌當仍攤歸沿河州縣為是已有旨令穆和蘭來迎駕待其至時著會軍機大臣妥議具奏候朕降旨至河工採辦物料雖時值貴賤或有不齊然各處情形大概相仿即如江南山東均有河務均須採辦物料並未聞有例價不敷加增攤派之事况河工偶遇險要鉅工或需用物料緊急價值較昂於例價之外稍有加增致須幫價尚為情理所有若歲修摠修則係每年常辦工程乃亦藉口物價昂貴輒議增添竟至作為定額年復一年伊於何底以小民之脂膏徒為不肖官吏影射侵漁地步尤非朕軫恤民隱之意該部將穆和蘭所請每年幫價三十萬兩作為定額之處議駁甚是至此項歲修搶修每年率議幫價起於何時所有該省初議幫價及歷任踵行各巡撫著該部查明同此次奏請之巡撫穆和蘭一併嚴加議處再乾隆四十三年以後已攤未完銀二十六萬七千餘兩及未攤銀十

一萬四千餘兩該部議准照穆和蘭所奏著落經徵各州縣及該管巡撫司道知府直隸州分別著賠一欸此項攤派銀兩起自乾隆四十三年彼時經手各員任意浮冒分肥率多飽索而去轉令接手之員代為賠補亦不足以昭平允著將此項應賠銀兩交該撫查明乾隆四十三年以後歷任自巡撫至州縣各員按照在任久暫月日著落分賠以示懲儆以示公平至該部議准該撫所請已攤未完銀兩自乾隆五十八年為始分作八年帶徵又未攤及預支銀兩俟前項徵完之後再作四年帶徵一欸此項銀數甚多若照該撫所請按期徵收民力尚不免拮据著將原定八年之限展為十年帶徵原定四年之限展為六年帶徵庶期限寬裕小民益得從容完納用示體恤此皆朕權宜所辦十年六年之期甚遠待朕六十年歸政之時當更有處該部即遵諭行欽此

1570 乾隆五十七年二月十七日奉

旨楊臆子著即處絞餘依議欽此

偷竊南苑牲畜發遣逃回賊犯拒捕傷兵一案

1571 乾隆五十七年二月十七日奉

旨李鵬劉二小徐七俱著即處斬餘依議欽此

直隸省盜案

1572 臣等遵

旨將昨日停止豫省河工幫價銀兩及未完幫價分

作十年六年

諭旨交籍隸河南大員胡季堂蔣曰綸莫瞻萊閱看

據稱恭閱

諭旨後即於

靜明園宮門碰頭謝

恩並稱豫省河工歲修搶修係每年常辦之事荷蒙

皇上軫念中州黎庶

俯准戶部所議將每年幫價三十萬兩作為定額之

處永行停止並將從前已攤未完銀兩部議分  
作八年四年帶徵復行展限用示體恤仰見我

皇上愛民如子於閭閻生計無不上履

睿懷

恩施優渥小民具有天良益當踴躍急公輸將恐後

而限期寬裕完納更可從容至黃河遇有應辦

工程誠如

聖諭沿河各州縣田廬地畝藉資保障自應將幫價

銀兩按數攤徵與通省州縣無涉若一體均攤

實未允協今蒙

諭令穆和蘭會議仍攤歸沿河州縣尤見我

皇上於周恤民隱之中寓

大公至正之道臣等謹闕桑梓共沐

恩慈恭讀

天語煌煌寔深感忭悅服之至等語謹

奏

1573  
遵

旨將本日福康安奏到各摺交到圍奏事之九卿閱

看據常青等僉稱此次福康安進勦廓爾喀值

隆冬風雪之時一路併站行走人衆俱屬平寧

業於正月二十日行抵前藏仰見

吳蒼默佑

聖主洪禧事機極為順利現在衛藏人等咸知大兵

已到踴躍急公即巴勒布等部落志切同仇自

皆爭先效用春融已屆福康安秉承

方略統兵深入自當不日奏功犁庭掃穴上慰

宸懷臣等共深欣慶至巴忠前次籌辦時許銀贖地

一節福康安現在所奏情形與臣等前次恭閱

諭旨內指出各情節悉相符合尤仰見

聖明洞燭纖悉無遺實深欣服之至等語謹

奏

1574

查刑部本內所稱望見祝棉虫將劉三姐捺在水灣之于臘月及查問此事之于二東俱年甫十一歲幼孩例得免議惟于崇信於伊子于臘月告知時禁勿聲張幾致兇徒漏網自有應得之罪臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

1575 乾隆五十七年二月十八日奉

旨祝棉虫著即處斬其案內之于崇信於伊子于臘月瞥見祝棉虫將劉三姐捧入水灣回家告知伊母經于崇信聽聞以事關人命禁勿聲張嗣經劉三姐之父劉萃往水灣撈獲屍身報縣訊究得寔于臘月係屬幼孩伊母趙氏身係女流恐因人命干涉不敢聲張尚為情事所有至于崇信既聞伊子告知即當據寔首報乃不行出首轉禁止伊子聲張幾致淫兇之徒漏網豈可置之不議于崇信

著交刑部治以不應重律之罪以示懲儆餘依議欽此

1576 乾隆五十七年二月十八日內閣奉

上諭劉躍雲現在服闋來京著署理寶光禮部左侍郎事務沈初不必兼署欽此

1577 本月十六日全德奏到乾隆五十六年分湖廣

江西兩處銷鹽總數一摺遵

旨查定例湖廣江西歲額綱鹽共該銷鹽一百四萬六千九百五十四引每引例徵正課銀一兩一錢七分零今據全德查明該二省於正額外共多銷引鹽十二萬一千六百九十三引按引核算共應多收課銀十三萬四千餘兩但查歷年鹽引奏銷冊內據鹽政開報向係以盈補絀並無溢課至五十五六兩年鹽引尚未報銷其是否寔有溢課之處應令全德查明覆奏臣等謹擬寫傳諭全德令其據寔覆奏

諭旨進

呈謹  
奏

二月十八日

1578 乾隆五十七年二月十八日奉

上諭昨據全德奏乾隆五十六年分湖廣江西兩處  
行銷引益於正額外共多銷十二萬一千六百餘  
引等語此項鹽引既於正額外多銷則按引核算  
自應多收課銀若干兩今交戶部查明定例每引  
徵正課銀一兩一錢七分今多銷十二萬一千六  
百餘引共應多收課銀十三萬四千餘兩但歷年  
鹽引奏銷冊內向據該鹽政開報以盈補絀並無  
溢課是多銷鹽引仍屬有名無寔且歷年缺額自  
有定數除多銷年分補足外即係多餘課銀現在  
五十五六兩年鹽引尚未奏銷報部但業經奏明  
該二省多銷過額其是否寔有溢課之處著全德  
詳查據實覆奏毋任弊混將此傳諭知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭兩淮鹽政全德

1579 乾隆五十七年二月十九日奉  
旨朕此次恭謁

西陵後巡幸五臺所有步軍統領印鑰著定郡王綿恩署  
理吏部印鑰著常青署理戶部印鑰著金簡署理  
欽此

1580 乾隆五十七年二月十九日內閣奉

上諭朕此次恭謁

西陵就近巡幸五臺於三月初八日啟鑾著怡親王儀  
郡王大學士阿桂嵇璜留京辦事至迴蹕日期不  
過月餘所有月選官文職知縣以上武職守備以  
上俱候朕迴鑾帶領引見其餘俱照向例著王大  
臣驗放其各省應進奏摺俱著費赴行在投遞該  
部知道欽此

查山東省節年積欠乾隆五十六年奏銷業內共未完銀二百一十八萬五百餘兩本日據江蘭覆奏自上年奏銷後續完銀八十四萬三千二百五十餘兩又除分年緩徵未屆限期銀七十四萬七千九百九十餘兩現在寔未完民欠銀五十八萬九千三百餘兩等語臣等詳加查對除續經徵完及緩徵尚未屆限兩款外核之江蘭所稱現在實欠之數尚屬相符謹將原摺抄存俟江南浙江等省覆奏到齊遵

旨再行彙奏謹  
奏

1582 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年二月十九日奉  
上諭本日據江蘭覆奏山東省積欠未完銀二百一十八萬餘兩自上年奏銷後續完銀八十四萬三千餘兩又除本年緩徵未屆限期銀七十四萬七千九百餘兩現在實未完民欠銀五十八萬九千

三百餘兩等語前因直隸江蘇山東河南浙江福建湖北等省歷年積欠為數較多降旨令各督撫據實查奏茲據江蘭奏稱該省除續經徵完及緩徵未屆限期銀兩外現止實在未完民欠銀五十八萬餘兩是山東一省未完積欠自上年奏銷以後為期未及一年經該省實力徵收現在已逾三分之一豫省民欠前據查明未完銀四十五萬八千餘兩加以河工幫價積欠未完銀二百一十餘萬兩是該省兩項積欠較之山東為數尤多昨據穆和蘭奏河工幫價積欠請分年帶徵而於該省正項積欠應行查辦之處並未據該撫查明覆奏豈豫省積欠自上年奏銷以後竟無續徵銀兩况上年山東萊州臨清等屬州縣間有被早被水之處小民尚能踴躍輸將而河南則連歲豐收豈轉致艱於交納著傳諭穆和蘭即將該省各項積欠已徵若干實欠若干及現在徵有幾分成數一併查明分晰覆奏如一時未能查明即於正定接駕時詳悉開單具奏毋得稍有隱飾將此諭令知之並將軍機大臣查核東省積欠已未完奏片及江蘭摺發



交穆和蘭閱看欽此遵

旨寄信前來

1583 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江南河道總督蘭 河東河道總督李 乾隆

五十七年二月十九日奉

上諭李奉翰奏查勘儀封上汛三堡大堤之後有月

堤一道工段綿長中間夾塘過於寬廣應加築撐

堤一道又七堡河勢近堤應估築挑壩一道以資

挑護等語朕閱所繪圖樣儀封七堡河流逼近大

堤惟恐大汛時溜勢汕刷自應添築挑壩以資保

護至三堡月堤原為大堤重障今擬加築撐堤試

思此項月堤工段綿長中間夾塘俱係一律寬廣

添此一線之堤又安能處處撐護自係工員等思

欲藉此開銷以為沾潤謀食地步殊屬多費無益

此等陋習不獨東河為然即江南亦所不免且撐

堤字樣殊不成話撐堤寬不過五丈高堤其餘長堤何能撐是實屬有名無實後河務工程均不得仍列此等

名目其李奉翰所請加築撐堤之處甫經核估自

尚未經開工竟可毋庸辦理以杜浮冒而歸核實至

殊

該督等總理河工惟當寔力寔心先事籌辦以期

安流順軌堤埽鞏固無虞其河員中如果有不辭

勞瘁在工出力者不妨據實奏明酌予陞遷獎賞

斷不可任其藉端開銷興作無益工程兼沾餘潤

甚或希圖肥己將險要各工並不實力搶護以致

貽誤地方則責有攸歸惟該總河是問恐不能當

其咎也將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1584 乾隆五十七年二月十九日內閣奉

上諭據宜興等奏奉天地方前次揀發知縣人員業

經陸續補用遇有公務不敷委用請揀發知縣二

員發赴差委等語著照所請交該部照例揀選帶

領引見發往欽此

1585 蒙

發下吳省蘭摺內所奏保薦教職例應會銜一事直

隸向來如何辦理之處

命臣等詢問金士松查金士松本日未經到園現已

傳令明早赴園詢問俟到後詢問再行繕片具奏

謹

奏

1586 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差尚書劉 侍郎吉 乾隆五十七年二月二十

日奉

上諭前據劉我吉慶奏查審嚴夢魁呈控伊兄嚴夢

彪被廣豐縣知縣誣稟被參及該縣勒派浮收一

案大概情形當即批令東公據理定罪劉我等之

摺係於正月十六日奏到迄今已逾一月自己實

訊明確何以尚未據定擬具奏又崇義縣民人周

鼎生等呈控周聖傳創墳盜葬一案前署南安府

知府現任大同守孫之岸有應行質訊之處早經

降旨將該員解任押赴江西聽候質審計此時亦可早抵該省何以亦尚未審擬奏到著傳諭劉我等即將此二案迅速秉公定擬具奏毋任延緩將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1587 臣等遵

旨將直隸保薦教職向來總督學政如何會同辦理之

處詢問金士松據稱向來直省保薦教職俱係

查照學政咨送等第冊擇其才具優長堪膺民

社者會同具題或學政與總督在省面商及曾

經札商總督先行會銜出本再行咨送學政畫

題備案從無徑行具題不先知照之例此次保

薦教職總督正值學政在省按試之時並未面

商即行出本與向例未合吳省蘭所奏自屬慎

重保題之意等語謹

奏

1588 乾隆五十七年二月二十日內閣奉

上諭據吳省蘭奏准督臣梁肯堂咨送年滿教職保薦甄別抄疏令學政衙門備案內有保薦教職二員李德興祇見過一次吳士升並未見過因業經具題咨商無及已咨令梁肯堂調送補驗等語各省教職係學政專管其保薦堪膺民社之員陞任知縣後如才具平常不能勝任原保之學政定例處分恭嚴是各省保薦教職時自應與學政會商擇其才具優長者會銜保題今梁肯堂所保教職二員並未先與學政酌商於會銜具題後始行抄疏知照備案殊非慎重保薦之道竟係梁肯堂不以學政為事率臆徑行國家簡任學政豈不竟同虛設乎梁肯堂著嚴飭行此後遇有甄別保薦教職等事均應照例會同學政先行酌商秉公辦理連銜具題毋得仍前徑行專辦以符體制至各省督撫若於保薦甄別地方官員亦有似此並不彼此會商輒以一人專主即會銜具題者一經發覺朕必重治其罪將此通諭知之欽此

1589 道

旨詢問本日引

見之福建詔安縣知縣姚永年從前拏獲行劫軍裝一案係何項軍裝盜犯如何行劫該縣如何拏獲之處據稱五十二年勦捕臺灣逆匪時廣東解赴臺灣軍裝係鷓鞋杖褲及衣襖等物用船裝載九月內行至福建詔安縣官仔前地方被盜首林濶柳帶等劫去當經前任知縣曹建中將柳帶林挺等拏獲審明正法尚有首犯林濶等在逃未獲我於五十三年二月到任後先經緝獲行劫軍裝蓄逸犯吳日陳渥吳早陳寸四名審明正法又於五十四年十二月將盜首林濶在西澳地方帶領捕役拏獲總督伍拉納等具奏奉

旨著送部引見等語臣等查對伍拉納原奏情節俱屬相符謹  
奏

1590

查安靜係福建漳州府石碼通判因失察軍裝船隻被盜搶劫該員係不同城兼轄之員當即獲盜過半經部議以降調嗣經總督伍拉納以該員留辦軍需局事務奮勉出力奏請捐復原官欽奉

上諭准其捐復留閩効用經該省督撫以該員捐復銀兩業經完繳照例送部引

見又安靜於前署平和縣知縣任內失察天地會內

教匪一案經部議以於補官日降二級調用復奉

旨失察邪教聚眾斂錢議以補官日降級用之安靜

著該督撫出具考語送部引見欽此欽遵在案

今經福建巡撫浦霖將該員出具考語給咨到

部吏部以該員係本省總督奏准捐復原官例

應引

見及失察邪教案內奉

旨送部引

見之員是以照例辦理再查安靜失察軍裝被劫一

案該員係不同城兼轄之員又當即獲盜過半

是以吏部按例議以降二級調用其本任失察軍裝被劫之詔安縣知縣曹建中係專管之員亦因當即獲盜過半經部議以降三級調用不准抵銷亦經伍拉納留辦軍需奏請捐復原官送部引

見奉

旨曹建中著回原省以知縣用欽此合併聲明謹

奏

二月二十一日

1591

辦理軍機處為劄覆事據熱河道呈稱本年勘估應挑旱河工段通共估需工價銀五千四百二十八兩零先請動撥庫項乘此春融興工挑挖俟收取前項生息利銀即行撥還歸款並造具挑挖各段起止地方名目清冊繪圖貼說前來查挑挖旱河上年業經

奏明撥銀生息以備歲修之需自應准其勘估挑挖

收息歸款仍飭令該道核寔辦理毋得稍有浮冒  
工竣呈報本處候派員查驗以便年底彙奏核銷  
須至劄者

右劄熱河道全保准此

二月二十一日

1592 前將康熙十三年吳三桂奏章交查

國史館內閣據覆查無此件

紅本巨等遵

旨恭查

實錄內載有此事之處夫簽進

呈謹

奏

二月二十二日

1593 奉

旨查取黨務禮薩穆哈甘文焜三人列傳據

國史館查明黨務禮因事蹟無多並未列傳開具

節畧送到謹將薩穆哈甘文焜列傳二本並黨

務禮節畧一併

恭呈

御覽謹

奏

二月二十二日

\* 黨務禮滿洲正藍旗人由戶部筆帖式洵陞兵

部郎中康熙十二年同戶部郎中席蘭泰員外

薩穆哈兵部主事辛珠等往貴州經理吳三桂

移藩事十一月三桂反黨務禮等赴京告變十

四年叙功擢太僕寺卿十五年擢內閣學士十

六年擢兵部侍郎二十六年授西安副都統三

十三年卒

賜祭葬如例

1594 大學士公阿 大學士伯和 字寄

福建水師提督仍兼署總兵事務哈 傳諭臺

灣道楊 乾隆五十七年二月二十二日奉

上諭據哈當阿等奏汎兵進殺生番被戕購獲正兇

查驗明確正法一摺內稱此案係汎兵吳祥貞等

出外砍柴望見界外有生番在彼趕鹿吳祥貞等

出界趕逐致被生番用鏢擲傷身死現據哈當阿

等訊據該兵供稱因生番趕鹿將近界口是以出

界趕逐等語該兵丁等在汎防守遇有生番入界滋

事自應趕逐擒拏今該番等在彼趕鹿並未入界

該兵丁等輒行出界趕逐致被生番戕害實為多

事該處生番已經歸化尚屬恭順防守汎兵固應

隨時稽察亦何得有意欺凌輒致無端生事殊非

撫馭番夷之道甚或因此拒捕戕害官兵激生釁

端更屬不成事體除此次戕兵生番業經審明辯

理外著傳諭哈當阿楊廷理務須督飭兵丁時加

管束止應在汎寔力防守其界外生番不得肆行

滋擾失之太過至此出界趕逐生番之兵丁陳

得順元啟等業據該提督等分別責革嗣後文武

所屬員弁務須一體嚴加管束如再有無故出界  
生事者即當從嚴懲治以安番衆而靖海疆將此  
諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1595 本月二十一日吏部將閩浙總督伍拉納給咨

送部之福建詔安縣知縣姚永年廣西巡撫陳

用敷給咨送部之平南縣知縣孫鑒兵部將署

兩廣總督郭世勲題補廣東三江口副將元九

叙帶領引

見奉

旨姚永年孫鑒元九叙俱著交軍機處記名

二月二十二日

1596 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十七年二月二十三日

奉

上諭據馮光熊奏遣犯李相湯在監自戕身死一摺

內稱該犯向與民婦周郝氏調戲經郝氏投約報縣李相湯復聲言郝氏本係娼婦並指典史卞瀾等曾與飲酒旋據審明實係李相湯乘醉調戲捏詞牽扯將該犯問擬發遣詎該犯於典史查驗箕斗之後自戕身死復提該典史卞瀾到省審訊寔係李相湯悔罪自戕該典史並無恐嚇凌辱等語所奏情節尚未確實已用硃筆點出李相湯因調戲民婦問擬發遣罪由自取原無可悔且發遣並非死罪更何至遽行自戕殊非情理所有或係典史卞瀾因該犯誣指娼妓之嫌恐嚇凌辱以致該犯抱忿自戕亦未可定著傳諭馮光熊即將此案悉心研鞫李相湯何故自戕抑係因該典史挾嫌恐嚇凌辱致令自戕之處再行審訊明確據實具奏再降諭旨將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1597 大學士公阿 大學士伯和 字寄

署江西巡撫姚 乾隆五十七年二月二十三  
日奉

上諭本日據候補道陳大文奏奉撫臣姚茶行知廣饒九南道福昌染患病症解任回旂調治委令暫行署理等語江西廣饒九南道一缺兼管九江關稅課辦理密廠關係緊要福昌既經染患病証姚茶自應一面委署一面具奏仍將應否准其解任回旂調治之處候部題覆今姚茶尚未將福昌患病情形繕摺具奏即行委署且陳大文已將署事日期奏報而姚茶奏請解任委署之摺尚未奏到殊屬遲緩該署撫所司何事姚茶著傳旨申飭仍令將因何遲悞之處據寔覆奏將此諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

1598 乾隆五十七年二月二十四日內閣奉

上諭福崧奏據兩浙商人何永和等呈稱現聞大兵進剿廓爾喀賊匪情願捐銀一百萬兩以備凱旋賞勞之需等語廓爾喀賊匪滋擾後藏不過邊徽么齋計日即可蕩平本不致多費軍餉今既據福崧奏稱該商等再四籲請情詞懇摯著准其捐銀

五十萬兩並准其於本年壬子綱鹽引內按數起  
捐分作半年完納所有捐餉商人等著該撫查明  
咨部照例議敘欽此

1599 大學士公阿 大學士伯和 字寄

江蘓巡撫長 乾隆五十七年二月二十四日  
奉

上諭據福崧奏范公塘一帶原係建築石壩嗣經琅  
玕以石塊易於沖失奏請停修如遇應行修築之  
時一體改築柴壩今自停修以來石壩多已坍塌  
若改築柴壩頭不特需柴甚多且石壩挑溜極為  
得力現率同司道將石壩如式捐修以資捍衛等  
語范公塘一帶前經琅玕奏稱石壩一項係用碎  
石裝入木樁排列海邊復以碎石圍繞堆護跟脚  
既不能排釘木椿又不能用灰漿澆灌一遇潮大之  
時易於潑損坍塌不若柴壩頭一項可以釘木作  
椿跟脚堅固能耐潮水冲刷彼時朕以琅玕所奏  
情形尚屬近理是以照議允行今福崧又以石壩  
挑溜較為得力現在壩基尚屬堅固廢棄實屬可

惜仍應將柴壩頭改築石壩為詞與琅玕所奏互  
異朕思柴壩頭一項鑲築既易即遇有潮水沖汕  
坍塌亦不難隨時修補而石壩以碎石堆積作基  
難以釘椿護脚豈能日久堅固且遇潮水沖卸石  
塊沉入水底無從查驗易啟工員浮冒之漸然以  
情理揆之柴薪為民間日用必需之物若改築柴壩頭  
需柴甚多如每年壩工多費一萬柴餉民間即缺  
少一萬柴餉之用柴價不無少增似非民情樂從  
而建築石壩則需用工料較多承辦之員藉此為  
開銷浮冒地步自以石壩為便今若以石壩柴壩  
二項孰為有益之處仍令福崧酌量定議則福崧  
既以修築石壩為宜具奏肯自改前說是兩說  
皆各有理朕不能遠定大約官員喜於石工之多  
開銷而民間又喜於不作柴工則柴省於民間日  
用柴薪為有益大概出於此乎此事著交長麟前  
往查勘江蘓距浙江甚近現在該省並無應辦緊  
要事件即著長麟親往杭州范公塘一帶逐細履  
勘體察該處情形究竟石壩柴壩兩項孰為得力  
孰為經久秉公據實覆奏並繪圖貼說呈覽總期



工各員辦理不能堅實所致並著長麟一併查明具奏將此傳諭長麟並諭福崧知之所有琅玕福崧原摺並著抄寄長麟閱看欽此遵旨寄信前來

1600 同日奉

上諭江西廣饒九南道員缺著高杞補授兼管九江關務欽此

二十五日撤回

1601 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督書 傳諭兩淮鹽政全德 乾隆五十七年二月二十五日奉

上諭據書麟等奏上年冬季淮南各口岸行銷食鹽數目內高淳等處多有溢銷上元等處銷不足數等語淮南行銷食鹽與江廣二處通省攤算情形不同彼係以衆商之力通融辦理遇有少銷額引之處自可於通網內牽算補足淮南食鹽係各商認定口岸運鹽行銷各銷各地各完各課誰肯以

已之有餘補他人之不足是高淳等處多銷之數原不能牽補上元等處缺額但恐地方官規避督銷不力處分或以銷數有餘之處牽補不足朦混具報不可不嚴行飭禁至額銷引鹽以一年統計核算遇有溢額之年向例係歸入下年應銷鹽引內牽算若下年行銷又有盈餘則此項多餘課銀年積一年又作何著落著傳諭書麟全德一併查明據實覆奏不可稍有牽混將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1602 乾隆五十七年二月二十五日內閣奉

上諭江西廣饒九南道員缺著福英補授兼管九江關務欽此

1603 乾隆五十七年二月二十五日奉

旨刑部具題廣西民人麻六成誤傷妻母羅黃氏身  
 死一本將麻六成依本夫捉姦誤殺旁例問擬絞  
 候羅黃氏是誘女賣姦之人非旁人也至麻羅氏依  
 父母縱姦敗露愧迫自盡者止科姦罪擬以杖九  
 十羅黃氏護賣姦之女被誤殺非愧迫自盡也以  
 此入罪殊未平允核其情節羅黃氏縱令伊女屢  
 次在家賣姦麻六成聞知前往捉姦正值伊妻在  
 寮與人說笑聲喊捉拏當將姦夫梁奇保細縛見  
 伊妻向內逃跑麻六成手執鐵尺追趕適羅黃氏  
 聞聲走出麻六成於黑暗中望見人影疑係伊妻  
 隨用鐵尺毆打誤傷羅黃氏殞命是羅黃氏貪圖  
 梁奇保資助縱令伊女通姦已屬不顧其壻恩義  
 斷絕麻六成本係應行捉姦之人即因羅黃氏貪  
 財縱女賣姦或一時氣忿將羅黃氏毆斃亦不過  
 照擅殺罪人例問擬今麻六成於黑暗之中追趕  
 伊妻不能辨識誤傷羅黃氏斃命更非出於有心  
 何得拘泥將捉姦之人擬以死罪而羅氏與梁奇

保通姦雖由伊母羅黃氏得財縱容但伊母或以  
 他事指使其女無甚闕碍者尚可勉從若此等賣  
 姦之事名節攸關豈宜聽從伊母不顧其夫况其  
 母羅黃氏之死寔由該氏與人通姦所致向例父  
 母因子孫犯姦敗露愧忿自盡及被殺者將子孫  
 問擬絞決此案即因羅氏犯姦係由伊母羅黃氏  
 縱容亦應於絞決罪名稍為末減予以絞候可矣  
 何以僅照常例祇科姦罪擬杖今刑部即照該撫  
 所擬罪名題覆輕重殊為倒置羅氏應改為應絞  
 監候秋後處決麻六成改為杖九十如此兩相互  
 易庶情罪各得其平著刑部遵照改擬另行進呈  
 欽此

1604 遵

旨將書麟全德奏報上年冬季淮南行銷食鹽數目  
 內各州縣所銷多寡不同是否以盈補絀並有  
 無溢課之處詢問伊齡阿據稱兩淮食鹽係各  
 商認定各處口岸運鹽行銷各完各課不能以  
 此處之有餘補彼處之不足今書麟等所奏高

溥等處多銷鹽引不能牽補上元等處少銷之數且摺內所稱祇據上年冬令一季而言其寔在有無溢額缺額之處須以一年統計核算如寔在銷鹽旺盛有逾引額者即歸入下年應銷引鹽內牽算行銷並無溢課其銷不足數以致缺額者除照例令該商等照依定額納課外仍將督銷不力之府州縣分別叅處等語查淮南食鹽口岸各銷各地與江廣二處通省攤算情形不同自不能以此處多銷之數補彼處之不足但據伊齡阿所稱每年統計核算如銷鹽逾額即歸入下年引鹽內行銷是年復一年所有積餘究竟應歸何處臣等謹擬寫寄信書麟等令其據寔查明覆奏

諭旨進

呈謹

奏

二月二十五日

1606 本日太常寺奏各壇廟回乾樹株共四百四十九株遵

旨詢問該堂官等據稱此項樹株係從前大樹並非四十七年尚書德保等補種之樹等語謹將原摺擬寫知道了

諭旨發抄謹

奏

二月二十六日

1606 乾隆五十七年二月二十七日奉

旨羅氏依擬應統著監候秋候處決餘依議欽此刑部遵改麻六成捉姦斃命一案

1607 查陳兆崙原任太僕寺卿業於乾隆三十五年病

故謹

奏

二月二十七日

1608 乾隆五十七年二月二十七日內閣奉

上諭此次大兵進剿廓爾喀前經降旨撥銀二百萬

兩解往川省以備軍需恐尚不敷應用著戶部再

撥銀一百萬兩解赴川省交署督孫士毅備用欽

此

1609 乾隆五十七年二月二十七日奉

旨此案廣豐縣曹德元因已革侍衛嚴夢彪包交糧

石添砌情節捏詞具稟固有應得之咎但究係嚴

夢彪屢次赴縣欲行請托該縣嫌其囉唆架詞呈

稟尚屬有因况本地紳衿干預地方公事擅為請托

若令兩敗俱傷則將來地方官遇有紳衿囑托之

事轉致心存顧忌聽受情面亦不可不防其漸曹

德元著從寬改為革職留任餘著該部議奏摺併

發欽此

1610 查上年十二月二十三日勒保奏請以武威縣

知縣沈晨陞署肅州直隸州知州一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁查明肅州若係官兵往過之地即寫

准行諭旨欽此今據吏部知會照例議駁查此

次官兵出並不經由肅州地方是以臣等未經

擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

二月二十八日

1611 裕親王保泰係

世祖章皇帝第二子裕親王福全之第三子康熙四

十一年四月封世子四十二年十月襲封和

碩裕親王雍正二年十一月緣

聖祖仁皇帝國制未滿時在家演劇革退親王以其

弟保綬第二子廣寧襲爵

二月二十九日

1612 遵

旨查取安親王岳樂裕親王保泰列傳據

國史館覆稱裕親王並無事蹟未經立傳祇列入

宗室王公表內其安親王事蹟附載饒餘敏郡

王傳後謹一併摘錄事蹟進

呈謹

奏

\*

安親王岳樂饒餘敏郡王阿巴泰第四子初

封鎮國公順治三年隨肅親王豪格征四川

誅流賊張獻忠八年襲封多羅郡王改號曰

安十年以喀爾喀土謝圖汗車臣汗等弗遵

旨還所掠巴林戶口反來索歸順同部蒙古

命為宣威大將軍統兵駐歸化城相機進剿尋因其

悔罪撤還十四年晉封親王康熙十三年以

吳三桂等賊黨分犯江西

命為定遠平寇大將軍前往剿賊復安福都昌諸縣

邑十五年收復洋鄉縣進薄長沙敗偽總兵

命班師

解先聲及馬棚賊邱義尚等擒斬無算遂親  
赴岳州以次撫定湖湘十九年

上行郊勞禮於盧溝橋南先是順治元年有赴故外

戚周奎家自稱明太子者奎白諸

朝令舊宮人及東宮官屬辨視非真法司鞫寔

太監楊玉取劉姓子詐冒狀伏誅康熙十二

年冬京師有自稱朱慈瑞三太子廣德元年

糾黨放火官軍擒其黨詰以朱慈瑞云即楊

起龍已遁矣十八年王駐營楓木嶺獲朱慈

燦於新化縣僧寺追問前在京城放火事朱

慈燦訴已係崇禎帝長子十二歲遭闖難出

奔南京後未再至北京往來永州寶慶欲聲

討吳三桂悖逆反覆不忠不孝不義諸罪因

吳三桂病死中止王疏陳獄詞言朱慈燦自

稱真係明嗣當攜至京認識得

旨令王帶來至是王移送法司令與前繫獄之朱慈

瑞逆黨相見俱不識鞫寔謀亂狀伏誅是年

秋復有以朱慈瑞之名在陝西煽誘逞逆官

軍擒之漢中大將軍圖海械送至京磔於市  
二十八年卒年六十五謚曰和三十九年貝  
勒諾尼訴岳樂從前掌宗人府事偏聽諾尼  
姑母讒言枉坐以不孝死罪誣陷無辜理應  
反坐

詔宗人府察議復諾尼貝勒追降岳樂為郡王削其謚

1613 臣等遵

旨將

發下各種違碍書籍詳加閱看內有必應全燬各書

共五十種謹先行進

呈除錢謙益呂留良屈大均戴名世王錫侯尹嘉

銓等所撰詩文毋庸粘簽外其餘各書所有違

碍之處逐一粘貼黃簽分晰開單呈

覽內有面奉

諭旨交臣等閱看之明通紀輯要一種查此書自明

神宗以後指斥狂悖之處不可枚舉必須全行

銷燬至應行抽燬及無庸銷燬各書現在陸續詳

閱完竣後再行進

呈謹  
奏

二月三十日

\* 全燬書籍清單

初學集四本

有學集二十一本

牧齋詩鈔三本

杜詩箋註四十六本

列朝詩集三十八本

牧齋尺牘八本

以上六種係錢謙益撰應全燬

呂留良選評時文三種七百零四本

四書講義一百二十一本

呂評四書語錄四十九本

四書語類抄二十五本

評語正編十本

慙書一本

晚村續集三本

天蓋樓遺稿一本

古文精選二本

呂氏醫貫七本

以上十二種係呂留良撰應全燬

廣東新語三十五本

登華山記一本

以上二種係屈大均撰應全燬

唐詩試帖詳解一本

王錫侯所選應全燬

偶然吟二本

隨五草二本

繫矩篇二本

以上三種係尹嘉銓所編應全燬

皇明通紀輯要四本

皇明資治通紀十六本

明通紀十四本

明馬晉元撰

明陳建撰

明陳建撰

以上三種大同小異神宗以後俱有指斥違悖

之處其通紀輯要內更多應全燬

明通紀纂八本

明鍾惺撰

神宗熹宗年間多有剝去字句俱係指斥之處應全燬

明紀編年四本

明陳建撰

神宗以後多有指斥違碍且附有隆武年號事蹟應全燬

捷錄法原六本

明鍾惺撰

內論述元明事迹語多偏謬應全燬

通紀直解十四本

內論述明末諸臣奏疏事蹟多有違碍應全燬

雪堂文選八本

熊文舉撰

語多悖謬應全燬

弱水集五本

本朝屈復撰

詩中語多狂謬應全燬

行厨集四本

係應酬俗套本不足存又有引用錢謙益語應全燬

幾亭續文錄三本

卷五內策議序等篇俱有違碍應全燬

隨時

學問及學亭外書應一併銷燬

湘帆集四本

本朝傅占衡撰

詩文俱粗鄙不足存詩內有違碍語應全燬

凌雲堂詩草一本

本朝芮嶼撰

詩中如御河橋及落葉等詩措詞俱不得體應燬

古今將畧一本

無撰人名

此係俗坊所刻供武場抄撮之用本不足存兼

末頁有違碍字樣宋金各條內亦有偏謬字句

應全燬

太乙房山文集四本

明陳際泰撰

黃文中傳內語多違碍論策內狂謬更多應全

燬

王季重文集七本

明王思任撰

詩文俱有違碍語應全燬

四夷考一本

明葉向高撰

語有違碍應全燬

啜墨亭集五本

明徐時進撰

內雜著一卷語多悖謬應燬

焚書五本

一家言六本

本朝李漁撰

書內有違碍字句應全燬

經世要畧二本

此係明人防邊之書字句違碍應燬

榭葉集五本

本朝李柏撰

詩文持論多僻謬處應全燬

如面談五本

明鍾惺撰

有疵謬處書亦陋劣應燬

登壇必究六本

明王鳴鶴撰

明人脩邊之策語有違碍應全燬

南雷文定一本

本朝黃宗羲撰

文內語有偏謬且引用錢謙益語應燬

<sup>1614</sup> 乾隆五十七年二月三十日奉

旨陳愷即戚庭順著即處斬餘依議欽此

山東省毆斃王三一案



1615 大學士公阿 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 乾隆五十七年二月三十日奉  
上諭據伍拉納奏浙省修造戰巡船隻並無節省銀  
兩等語各省修造船隻俱有節省何獨至浙省並  
無節省銀兩此項修造船隻外省估計時往往稍  
為多估預為節省地少固所不免但存此節省名  
目地方官尚可認真查核不致冒濫滋弊若並此  
節省之名而去之則經管各官員相習成風勢必至  
任意開銷有增無減殊非核寔辦公之道該督於  
此等事件何漫不經心若此嗣後務須寔力查驗  
毋得視為具文致啟屬員浮冒開銷之漸將此諭  
令知之欽此

1616 乾隆五十七年二月三十日奉

旨陶明陶四劉三即處斬餘依議欽此

河南省糾夥砍傷事主一案

1617 乾隆五十七年三月初一日奉

旨俸滿調回之前任雲南普洱鎮總兵朱射斗著隨  
和琳馳驛抵藏後再赴邊界聽候福康安派委帶  
兵進剿欽此

1618

二月三十日吏部將前任兩廣總督孫士毅保  
舉堪勝道員並卓異俸滿之廣州府知府張道  
源又前任兩江總督李世傑保舉堪勝知府之  
泗州直隸州知州陳三辰二員帶領引

見奉

旨張道源陳三辰俱著交軍機處記名

三月初一日

1619 大學士公阿 大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十七年三月初二日奉

上諭據秦承恩奏漢中府屬畧陽縣興隆灣地方露  
有銅苗商民王兆熊等呈請自備資本試採現已  
委員親往該處勘明將挖出礦砂如法煎鍊成色

與滇省高銅無異請予限二年試採如果旺盛另行題請開採等語開採銅礦係天地自然之利陝省畧陽地方露有銅苗既據該撫委員勘明該處銅砂旺盛山深境僻無碍田廬自應立限開採以資鼓鑄但銅廠為利之所在且該處界連楚蜀五方襟處設或派委非人不但開採無效轉恐無藉游民從中漁利於事無益著傳諭該撫務須派委妥員悉心籌辦並慎選人夫如法開採務使銅砂日加旺盛源源不竭足供採取仍督率地方官不時留心稽查毋使牟利之徒藉端滋事方為妥善將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1620 乾隆五十七年三月初三日奉

旨此案失察劉照魁往來寄信之各該管員弁俱經從寬分別降革留任所有失察出口之蕙管遊擊袋什衣專管千總曹良臣亦著從寬改為革職留任欽此

1621 乾隆五十七年三月初三日奉

旨此案景安於候補通判孟鑾今家人具呈請咨時並不飭令親身領咨輒為轉詳出考該撫穆和蘭亦即率行給咨吏部均議以降調無級可降俱應革任固屬咎所應得但念景安現在辦理西寧臺站隨赴前歲尚屬奮勉穆和蘭究係統轄上司其填註考語係由藩司核轉發給穆和蘭景安俱著從寬改為革職留任其瞻徇同鄉濫行出結之鄭州知州張鑣咨無可寬著照部議革職欽此

1622 乾隆五十七年三月初三日奉

旨朱珪著改為降二級從寬留任欽此

1623 乾隆五十七年三月初三日奉

旨陳忠著即處絞餘依議欽此  
福建省順昌縣濫差蠹役

1624 乾隆五十七年三月初三日奉

旨張三著即處斬餘依議欽此

直隸省行劫錢鋪案內逸盜

1625 本月初三日兵部將湖廣總督畢沅保列一等

之湖北鄖陽協副將張鵬翥一員帶領引

見奉

旨張鵬翥著交軍機處記名

1626 遵

旨查西安祖地方遍查並無其名惟於鎮國寺門外

迤西至蘆溝橋西三十餘里有西安左村名一

處或者西安祖俗名呼為西安左均未可定此

處相離潭柘寺二十餘里且詢得蘆溝橋西北潭

河上游東岸有龍王廟一座旁有

備用房間至西安左村庄相距八里許謹

奏

三月初五日

1627 乾隆五十七年三月初五日内閣奉

上諭勒保奏此次福康安等及各起帶兵官員由西

寧赴藏甘肅提標馬匹賸分平常經該督駁換補

解仍有不堪備用之馬請將提督蘓靈交部議處

等語蘓靈所辦馬匹賸分平常致干駁換其補解

之馬仍有疲瘦難以備用者寔難辭咎蘓靈著交

部嚴加議處其勒保所奏承辦軍需在事出力之

西寧鎮總兵富爾賽西寧道蔡廷衡安肅道福慶

舉蘭縣知縣應先烈俱著交部分別議叙以示獎

勵該部知道欽此

1628 乾隆五十七年三月初五日内閣奉

上諭勒保奏延綏鎮標候補把總廕生馮凱因在營

學習十餘年未得補缺稟請告退該營守備駁飭

不准馮凱即在部領執照內書寫該鎮營規不按

部例依次補用將部照呈繳意圖挾制請將馮凱

發附近充軍等語馮凱因在營年久未能補缺

稟請告退經守備批駁遂疑該營拔補不公填入

部照希圖挾制固有應得之罪除將原摺批交該部議奏外至此等難廢員弁在營學習年滿後如果弓馬熟練差操勤勉自應秉公拔補俾得及時効用若人材弓馬平常不堪造就亦當令其回籍乃既不拔補又不令其回籍使其在營守候多年復不准告退殊非整飭營伍體恤微弁之道即如前次慶成奏科布多等處換防屯田官兵例由宣化鎮屬其班滿回營後仍派在提督二標學習並未定有學習年限以致補缺無期多以窘乏具呈請回本鎮當差皆由各該處原送官兵為數過多是以班滿回營派在督提二標後人多壅滯候補需時亦殊未允協所有此等難廢微弁應如何定立年限及科布多等處換防屯田官兵應如何核計數目酌量保送之處均著軍機大臣會同該部定議具奏欽此

1629  
遵

旨將王進寶海爾圖錫卜臣哈占各列傳查取進呈又洞鄂事蹟附載豫親王多鐸傳後勒爾錦事

蹟附載順承郡王勒克德渾傳後謹於傳內粘貼黃簽呈

覽謹

奏

三月初五日

1630 乾隆五十七年三月初五日內閣奉

上諭直隸古北口提督員缺即著慶成補授欽此

1631 乾隆五十七年三月初五日內閣奉

上諭據勒保奏金縣知縣員缺請以鞏昌府經歷張師升陞署一摺已批交該部議奏矣該督因張師升係佐貳人員未經保舉卓異且歷俸未滿五年與陞署之例種種不符輒另加夾片懇恩俯賜允准朕於各督撫保奏陞署州縣等員如實有人地相需之處即與例不符經部議駁俱特降旨允行豈有關係地方事件稍為忽畧者該督即為要缺需員起見亦祇應照例陳奏朕自能隨時酌量准駁

又何必夾片聲明希邀恩准若俱似此紛紛瀆請則凡與例不合人員豈一經保奏即應盡人予以陞調殊與吏治有關勒保所奏非是著飭行欽此

1632 乾隆五十七年三月初五日奉

旨涂躍龍准其贖罪欽此

1633 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督書 江蘇巡撫長 乾隆五十七年

三月初六日奉

上諭上年據長麟奏江省現在銀少錢多錢價日賤請於來春暫緩開爐鼓鑄朕以該撫所奏固為一時調劑起見但可暫而不可久如明歲停止局鑄後錢價不致日賤仍當照舊辦理惟思該省錢價過賤之故由於私鑄充斥與官錢攙雜而行今已將鼓鑄停止則官錢不復發給恐市儈知將來錢價漸昂將錢文預行收積私銷私鑄更易滋弊則小錢必致仍復行使所為查察小錢調劑市價仍屬有名無實著傳諭該督撫將該省錢價較前貴賤

若何現在有無私鑄小錢之處查明據實覆奏將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

1634 查各省查禁小錢章程節據直隸山東江蘇浙江

江西兩湖兩廣四川雲貴等省奏到其餘各省尚未奏到謹

奏

三月初六日

1635 臣等遵

旨出題令內閣學士伯麟作詩一首並眼同監試謹

將所作詩進

呈謹

奏

三月初六日

1636 查自京師至湖北省城三十一百五十五里自京師至浙江省城三千三百里計由京至湖北較浙江近二百五十五里謹

奏

三月初六日

1637 大學士公阿 大學士伯和 字寄 福建甘肅安徽河南山西各督撫 乾隆五十

七年三月初七日奉

上諭前因民間私銷私鑄挽使小錢節經降旨令各督撫嚴定章程通行禁止嗣據直隸山東江蘇浙江江西兩湖兩廣四川雲貴陝西各督撫將查辦飭禁緣由陸續奏到而福建甘肅安徽河南山西等省如何辦理之處迄今未據覆奏此等私鑄小錢挽和行使於錢法大有關係而小民趨利若鶩種種弊端各省皆所不免自應一體飭屬實力查辦其福建甘肅等省有無此等弊端及如何嚴定章程設法查禁之處自當據實具奏何以遲之許

久尚未奏到著傳諭各督撫即將各該省現在作何辦理並有無弊端之處迅速具奏毋得任意拖延致干咎戾將此各傳諭知之欽此遵 旨寄信前來

1638 遵

旨出題令薩敏施朝幹各作詩一首臣等眼同監試

謹將所作詩進

呈謹

奏

1639 乾隆五十七年三月初七日奉

旨准其贖罪欽此

兵部奏武先慎武潢捐贖軍臺一摺

1640 乾隆五十七年三月初七日奉

旨劉至先著即處斬餘依議欽此

刑部議覆廣東省奏圖財謀命之船戶一案

啓者

聖駕巡幸五臺向來隨從王公大臣官員及兵丁等  
 由京騎往官馬例於到臺懷後通融更換二千  
 匹奏准行知在案惟是向來更換馬匹時往往  
 王公大臣官員兵丁等尚未行抵該處輒先期  
 差人前往更換又不執持紅單任意牽拉幾同  
 搶掠而地方官於預備馬匹之處並無妥協大員  
 經理其事不過委之末弁營兵見勢即避以致  
 不能彈壓馬匹搶掠一空而地方官轉用重價  
 向隨從之人買取紅單送兵部繳銷上次  
 駕幸山東隨從換馬之人即蹈此弊實堪鄙恨本年  
 係管理行在兵部特此奉

聞此次臺懷預備馬匹之處

大人可於南北兩鎮內酌派一員駐劄該處專司

經理所有更換馬匹之人必俟

欽派驗收馬匹大臣到後將馬匹全行驗竣方准更

換其換馬匹之人必須執持紅單責成該鎮多

帶弁兵驗單放馬依次更換如有仍前先期差

人前往任意拉馬者不論何處王公大臣之人

定係假冒概不得擅行予給仍將橫肆不服及  
 無紅單擊馬者即行鎖禁伺俟該鎮稟明究  
 辦不得稍有瞻徇如此辦理庶換馬可期整肅  
 而地方官不致受滋擾之累此次

派放馬大臣小兒亦蒙派出已將此意諭知倘仍蹈前弊

定將放馬王大臣官員及該撫鎮將一體叅究

端此佈達統惟

查照妥辦並候

過安不一

三月初八日

1642 乾隆五十七年三月初八日內閣奉

上諭朕此次恭謁

西陵後巡幸五臺所有沿途經過地方著加恩蠲免

本年地丁錢糧十分之三欽此

1643 查辦差兵丁賞給一月錢糧

恩旨上屆

聖駕巡幸五臺係

啟鑒第三日頒發此次臣等謹先擬寫

諭旨進

呈俟初十日再行頒發謹

奏

1644 乾隆五十七年三月初十日內閣奉

上諭此次直隸派出辦差兵丁著加恩賞給一月錢

糧欽此

1645 大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年三月初十日奉

上諭前因德成勘估潼關工程將不應添修之水關

洎岸堆撥濫行浮估虛糜帑項至一百三十餘萬之

多經和琳前往查明因即降旨將德成革職奪文

刑部治罪嗣經刑部定擬斬候固屬罪所應得但

味

念德成辦理此事祇係拘泥成見藉以興舉大工  
成其執拘之名尚無侵肥入己情弊且在工部向  
屬奮勉情罪尚屬可原著即加恩釋放至德成舊  
患目疾並著留京王大臣察看德成目疾是否尚  
能通明辨物抑或竟成盲瞽即行據實覆奏勿得  
稍存迴護候朕另降諭旨將此諭令知之欽此

1646 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十七年三月初十日奉

上諭據陳用敦將安南國王阮光平謝恩表文進呈

朕披閱該國王表內所稱節次祇領頒賜御製詩

章書扇及玉象荷包等件具表恭謝情詞懇摯感

激實出至誠深堪嘉獎已於表內用硃筆批示茲

將原表發回並賞給該國王玉煖手一件寄信諭

旨一道一併發交該撫接到後即派委妥員賞赴

鎮南關交該國鎮目轉交阮光平收領將此傳諭

知之欽此遵

旨寄信前來



1647

大學士伯和 字寄

安南國王阮 乾隆五十七年三月初十日奉

上諭據廣西巡撫陳用敷遞到該國王奏謝表文一

道覽奏情詞懇摯具見惻忱已御丹毫批示春序

融和朕躬康適茲於三月八日啓鑿巡幸五臺瞻

禮佛像於秋瀾途次披閱該國王章奏萬里雖遙

如接堂陛朕心深為嘉悅昨秋因福康安之母七

十生辰諭令來京稱祝適值西藏邊界外有廓爾

喀部落與藏內唐古忒人等構釁滋擾不可不聲

罪致討特命福康安前往勦辦現已馳抵該處即

日統兵進勦明正其罪廓爾喀以徼外小番自作

不靖大兵所指迅掃么膺計日即可殄滅賊巢永

綏邊圉俟捷書奏到當諭知該國王同深喜慶該

國王與朕近侍大臣情聯一體特為寄示並將朕

日所撫玩玉暖手一件隨郵頒賜即物寓懷王其

祇受不殊躬侍左右親承恩接也不必具表謝恩將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

1648

臣等將本日道旁叩

閩人嚴切訊問據供我名楊秀錦年四十三歲貴州

鎮遠府鎮遠縣人住在邛水縣丞所管燒巴寨

地方我父親楊勝桂素當本縣董董長催取本村

錢糧五十四年病故我就接充董董長乾隆四十

四年以前每地一畝徵米一斗六升五合至四

十八年就改徵銀兩每地二畝折徵銀六錢五分

四十九五十年每畝徵銀九錢五分五十一

年每畝徵銀一兩二錢五十二年加至一兩八

錢五十三四五年俱徵至二兩一二錢不等

五十六年仍徵銀一兩二錢我現在家裡還有

地三畝六分我管的一村應催取錢糧共有二

百二十五畝因每年加徵銀兩太多催取不齊

屢被總催錢糧的差役駟公成譚起志責打受

苦不過又見五十二年同村人龍正開等曾經

上省控告未見審辦我就於上年十一月二十

日從家裡起身攜帶串票沿途討乞於本月初三

日到京希圖申冤我因不識字又無人代寫呈

子聽見

萬歲爺出來就趕到此地拏著串票跪在道旁的等

語臣等檢查該犯所執串票係乾隆三十三四

等年並四十年五十六年糧戶收執之票並無

折色字樣且該犯現無呈詞其所指各年折銀

加增數目逐一訊究不能指實但事關地方加徵

錢糧不可不徹底根究相應請

旨將該犯楊秀錦發交直隸總督解回原省交貴州

巡撫提集人証審明辦理或

欽派大臣前往審辦之處伏候

訓示遵行謹

奏

三月初十日

1649 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 乾隆五十七年三月初十日奉

上諭朕本日常秋瀾有道旁叩閣之貴州人楊秀

錦隨令軍機大臣訊取供詞進呈該犯係貴州鎮

遠縣人素當本縣董長催取每年應徵錢糧從前

俱按畝徵收米石自四十八年以來改徵折色每

地一畝徵銀遞年加增因加徵銀兩太多催交不

齊屢被責打受苦不過攜帶串票來京申訴等情

細閱該犯供詞折徵之始每畝折銀六錢五分遞

加至二兩一二錢不等上年則仍徵一兩二錢等

語地畝錢糧徵收米石自有定例何以改徵折色

且遞年既經加多何以上年銀數又復減少種種

情節自應徹底根究以成信讞但該縣民人交納錢糧

者甚多何獨該犯一人不憚遠來赴京控告或另

有唆使賄囑之人亦未可定如該犯所供情節竟

屬虛誣自當治以應得之罪以儆刁風若該地方

官果有加徵之事更不可不嚴行查辦據寔奏

著傳諭姜晟於滇省民人那耀宗等控告爭奪家

產一案審辦完竣即順赴黔省提集犯証秉公嚴

審定擬具奏此係隔省之事該撫自無所用其瞻

徇也所有軍機大臣訊取供詞及該犯呈出串票

一併發交該撫閱看除將該犯楊秀錦交直隸總

督迅速遞解貴州原籍以備質訊外將此諭令知

之欽此遵

旨寄信前來

1650 乾隆五十七年三月十一日奉  
旨僧勝淨著即處斬餘依議欽此

僧砍死僧

1651 查節次  
聖駕巡幸五臺所有辦差兵丁俱係賞給一月錢糧

惟五十五年

巡幸山東是年恭逢

皇上八旬萬壽慶典仰蒙

加賞辦差兵丁兩月錢糧此係

特恩並非常例蘊布未能分晰是以奏對含混謹

奏

三月十二日

1652 乾隆五十七年三月十三日奉

旨盧孫著即處斬餘依議欽此

臺灣因姦致死姦婦義子一案

1653 乾隆五十七年三月十二日奉

旨此案失察劉照魁往來寄信之各該管員弁俱經  
從寬分別降革留任所有失察換給路票之遊擊  
永明千總楊浩亦著從寬改為革職留任欽此

1654 乾隆五十七年三月十三日奉

旨許儀著即處斬梟示餘依議欽此

臺灣糾合四人以上搶劫財物一案

1655 大學士伯和 字寄

兩江總督書 乾隆五十七年三月十四日奉

上諭書麟奏請修理江都等處營房一摺據清單內  
所開江都縣孫基港等五汛營房於乾隆四十八  
年五十年修理後現已坍倒應修又興化縣大團  
汛等十一汛營房於乾隆五十三年修竣現經倒  
卸勘明應修等語向來修理營房俱有一定年限  
如果修建已在十年之外或有坍損傾圮自應勘  
明照例請修今江都縣孫基港等處營房自四十

殊

八五十年修理後距今不過八年六年亦何致即有坍塌至興化縣大團等汛甫於五十三年修竣距今祇有三年為期更近亦一併列入應修單內明

係營弁借此為名欲沾餘潤而該縣亦扶同朦混彼此分肥其弊顯而易見乃書麟並不即如駁飭

督署飭委派委員復勘

率據屬員詳請開單具奏請修殊屬非是著該督將是否文武員弁通同借此開銷及應何不遵年限率請修理之處據實明白覆奏毋得稍有迴護致干咎戾除原摺交部核議外將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

1656 乾隆五十七年三月十四日内閣奉  
上諭朕此次恭謁

西陵巡幸五臺經過直隸地方已加恩蠲免本年地丁錢糧十分之三惟念經過各州縣尚有節年因災出借米穀各項若仍令一併帶徵小民輸將未免究形拮据著再加恩將大興安肅新樂正定定州望都清苑新城等八州縣未完節年因災出借米

奏穀三萬四千五百五十四石概行豁免用示朕惠愛黎元有加無已至意該部即遵諭行欽此

1657 查本年二月十一日陝甘總督勒保奏請以西

寧縣知縣安福等陞署貴德撫番同知等缺一摺奉

殊批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會照例議駁於本日具

題臣等謹遵

旨擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

1658 乾隆五十七年三月十五日奉  
旨安福等著照該督所請行欽此

1659 查五十一年

聖駕巡幸五臺回

鑿時駐蹕衆春園行宮至清風店頭分夫營用膳畢

越七里堡二分夫營進望都縣南門詣

堯母陵閱視出北門至

堯廟拈香駐蹕膏腴堡大營謹

奏

乾隆五十七年三月十五日奉

旨此次即照此伺候欽此

1660 大學士伯和 字寄

留京辦事王大臣 乾隆五十七年三月十五日奉

日奉

上諭朕啟蹕以來連日途次天氣頗覺乾燥望澤甚

殷本日得有雨澤雲氣寬廣京師是否同霑朕心

深為屢念著傳諭留京辦事王大臣京城一帶是

否已沐春膏或亦覺有乾燥之處如未得雨照例

於兩處祈雨若業經得雨即行迅速具奏以慰屢

注欽此遵

旨寄信前來

1661 于安太年六歲直隸完縣人係安南陣亡原任廣

西恩恩營遊擊于宗範之子難蔭雲騎尉三月

十五日在東度亭接

駕奉

旨賞給五絲緞一疋

1662 乾隆五十七年三月十五日奉

旨曹三著即處斬餘依議欽此

山東省盜犯

1663 乾隆五十七年三月十五日內閣奉

上諭本日刑部具題因姦謀死本夫兩案一係山西

省趙希元子因與張崔氏通姦情熱起意商同姦

婦張崔氏謀勒本夫張楊寶子身死張崔氏聽從

下手該部照原擬將張崔氏依律凌遲處死趙希

元子擬斬立決一係河南省熊在法與胡氏通姦  
 熊在法起意圖娶用言試探經胡氏斥罵熊在法  
 將本夫余天毒害胡氏聞知即將姦情實告伊姑  
 指拏到官該部照原擬將熊在法擬斬監候聲明  
 胡氏尚有不忍致死其夫之心按律擬絞監候例  
 應減等發落此兩案同係姦夫起意謀死本夫其  
 趙希元一案因姦婦張崔氏知情同謀斃命將張崔  
 氏問擬凌遲趙希元子亦問擬斬決蓋因趙希元  
 子既殺本夫於非命又陷姦婦於極刑自應如此  
 定擬至熊在法圖娶胡氏毒死本夫張楊寶子其  
 因姦謀殺本夫與趙希元子一案情罪相同特因  
 胡氏一聞熊在法圖娶之語即行斥詈及余天被  
 毒身死又復告知伊姑指拏到案尚有不忍致死  
 其夫之心是以援例減等而姦夫熊在法則淫兇  
 已極於法實無可寬且揆之情理姦婦商同謀死  
 本夫者因彼此戀姦情熱本夫之死尚出同謀若  
 姦夫一人起意姦婦既未知情及用言試探又復  
 詈罵不從是本夫之死實係姦夫一人主謀較之  
 商同謀殺者其罪更為淫惡原不應照尋常謀故

殊

之案定擬斬候乃該部於趙希元子一案因本婦不  
 忍致死其夫即將姦夫問擬斬候同係因姦謀起  
 意殺死之案輕重兩岐殊未平允嗣後該部遇有  
 此等因姦謀死本夫係姦夫起意者除將姦婦分  
 別知情與不知情仍照舊例辦理外其姦夫問擬  
 斬立決以儆淫兇此案熊在法即照此辦理除將  
 原題改簽批發外將此通諭知之欽此

1664 乾隆五十七年三月十五日奉

旨熊在法著即處斬胡氏與熊在法通姦熊在法起  
 意圖娶將伊夫余天毒害該氏聞知即將姦情實  
 告伊姑指拏到官尚有不忍致死其夫之心著從  
 寬免死照例減等發落餘依議欽此

1665 乾隆五十七年三月十七日奉

旨許黨許螺著即處斬餘依議欽此  
 福建省南靖縣械鬥一案

臣和珅等謹  
奏為遵

旨議奏事本年二月十七日奉

旨戶部議駁穆和蘭奏酌改徵收河工幫價章程並將節年積欠銀兩分別著賠展限一摺等因欽此

仰見我

皇上念切民依權衡至當茲河南巡撫穆和蘭已來行在臣等詳加詢問悉心商酌查豫省河工節年採辦料物加價銀兩其自乾隆四十三年以後已攤未完銀二十六萬七千餘兩及未攤銀十一萬四千餘兩一欵前經戶部核議欽奉

諭旨令查明乾隆四十三年以後歷任自巡撫至州縣各員按照在任久暫月日著落分賠業經欽遵辦理在案其五十二年睢汛漫工及五十一二三四等年已攤幫價銀兩除已完外尚未完銀一百八十八萬餘兩一欵查此項幫價銀兩在沿河州縣居民保衛田廬誼切護已量為幫貼尚屬近理至通省州縣與工防遠隔自不便令其

一體均攤惟查未完銀數尚有一百八十八萬餘兩之多而沿河州縣僅止三十二處歸併均攤似為喫重且自畢沅奏請改歸通省攤徵以來行之已久現有全完者有完不足數者有全未完者前此通省均攤而沿河州縣即在通省之內今以通省未完銀兩仍改歸沿河州縣勢不得不就沿河州縣均勻攤派在已完之戶似屬重科而未完之戶又增積欠臣等再四商酌所有此項未完銀一百八十八萬餘兩似應仍請在通省攤徵飭令該地方官按照各欠戶名下未完之數欽遵

諭旨分作十年帶徵並令該撫核定每年應徵十八萬八千餘兩之數飭令各該州縣務須年清年欸按數徵解司庫報部在案倘仍因循遞壓致蹈前轍即行從重叅處如此辦理則未完之項均之通省每年各州縣完交之數既屬無多又蒙

特恩展限十年民力益加寬裕庶

皇仁得以普沾而正項可歸有著至豫省各州縣高

未攤派五十五六兩年幫價銀六十餘萬兩及五十六年預支五十七年歲料銀二十七萬餘兩二共未攤銀九十六萬餘兩一欵查此項銀兩前經奉

旨俟前項十年帶徵銀兩完納後再行展作六年一律帶徵臣等伏思河工料物偶遇險要工程需料緊急或於例價之外稍有加增尚近情理若歲修搶修乃係每年常辦之事何得概照鉅工之例藉詞增價牽混開銷况每年預辦料物實在用去若干入水之工無憑查核率據工員一面之詞即於藩庫先行墊發而地方官因以加價為名紛紛攤派擾累閭閻誠如

聖訓以小民之脂膏為不肖官吏影射侵漁地步煌煌

訓示洞燭弊端且此項五十五六等年已發未攤銀兩從前並未據該省總河巡撫先行奏明乃以預辦料物為詞擅行動支給發尤屬非是前據該撫奏請每年幫價三十萬兩之處經戶部議駁

欽奉

諭旨飭令停止並將初議幫價及歷任踵行巡撫查明交部嚴加議處今此九十六萬餘兩之欵係於五十四五六等年預發每年發銀或三四十萬或二十餘萬不等統計三年以九十餘萬之數牽勻攤算則每年幫價仍與三十萬兩之數符合是未經具奏之前已定額幫之數與現在奉

旨飭停議幫之價事同一例未便再行攤徵徒令不肖官吏私肥囊橐致累小民查司庫墊發代辦物料銀兩係起自乾隆三十年前任河南巡撫阿思哈任內具奏之案所有此項銀九十六萬餘兩應即著落自三十年以後之歷任總河巡撫司道府廳州縣及河工道廳分別在任久暫年月照數分賠其陞遷離任者即行令現在任所賠繳其丁憂病故者即行令原籍及子孫賠繳如無力完繳無可著追者即令該地方官查明出具切實甘結將未完之項咨報豫省於應賠各員名下一律攤賠並請自五十八年為始統限三



年依數歸款母許宕延以示懲儆仍令該撫出示曉諭並嚴查各州縣不許仍在地畝錢糧攤徵以杜影射之弊再查幫價之名從前該省撫臣總以民間採買物料運交工所道路遠近不齊時值低昂不一頗形苦累為詞是以議令加價官為採辦預行墊發以後攤徵歸款其實官辦之料究竟實買若干工程所用究竟實銷若干民間既無從查知而官票催徵遂臚列某年某款某限字樣多其條目四出追呼以致積欠遞歷年復一年有增無減是幫價一項名為便民起見而實自便其私今將幫價定額概行停止地方官既已無從染指將來河工歲修搶修所需料物承辦官吏勢必至仍令民辦民運多方勒指任意浮收之弊誠難保其必無應請

勅下該撫此後河工採辦料物承辦各州縣止應按照例價自行買備運交工所不得絲毫累及小民如有私派民間辦運者一經查出即行嚴叅治罪毋得稍事姑容至豫省黃河工程歲需料物乾隆三十年以前皆有定例章程若此次

河員等因幫價停止凡遇應辦工程以料難應手恐致貽誤為詞則三十年以前亦有歲修搶修並未聞有例價不敷致誤要工之事即其明証應請並

勅下河臣查照舊定章程申明例禁督率所屬妥實經理如有有心玩悞之員亦即嚴叅治罪該河督總司河務責成尤重斷不可稍有袒徇致悞要工如此嚴定章程庶考員知所懲儆小民得免追呼而河道工程均歸核實臣與穆和蘭反覆講求亦無異議所有會議緣由是否有當伏候

聖明訓示俟

命下即行知河南河撫三臣遵照辦理並令遍行貼示務俾鄉隅小民咸知我

皇上念切民依體恤周至之意為此謹

奏

1667 乾隆五十七年三月十八日奉

旨軍機大臣同河南巡撫穆和蘭議奏河南攤徵河工帮價積欠銀兩請將民欠已攤未完銀一百八十八萬餘兩仍於通省均攤遵旨分作十年帶徵其未攤預發銀九十六萬餘兩請著落乾隆三十年以後初議帮價及踵行之巡撫總河並司道府廳州縣河工道廳各按在任久暫年月分別著賠一摺準情酌理所議亦是前因豫省河工帮價已攤未完銀兩積欠甚多特降旨分作十年帶徵以紓民力並將此項通省攤徵銀兩或仍改歸沿河三十二州縣按數完納俟穆和蘭前來迎駕時著軍機大臣會酌妥議具奏茲據奏稱已攤未完民欠銀兩尚有一百八十八萬餘兩之多而沿河州縣祇有三十二處歸併均攤似覺喫重仍請通省均攤分作十年帶徵固為衆擎易舉起見但此項帮價皆由從前承辦大小各員任意浮冒以致累及閭閻積年遞壓負欠甚多今定以十年帶徵為期已屬寬裕在小民急公知感自必踴躍輸將但十年

硃

之期甚遠依限徵催逐年皆有帶徵之項民力未免拮据朕甚憫之是以前降諭旨內欲俟朕歸政之期再行酌量加恩惟是朕軫念民依無時或釋凡屬加惠黎元之事不惜逾格施恩亦不肯靳澤逾時俾小民早沾愷惠著將此項十年帶徵銀兩按照每年應完銀十八萬八千餘兩之數祇徵四年

並著將此四年之限寬作八年則民力益紓

年其餘六年應帶徵銀一百一十二萬餘兩著竟加恩豁免此實朕子惠元元損上益下有加無已之意小民具有天良平日偶遇水旱不齊朕不靳千百萬帑金蠲賑頻施弗使一夫失所今距歸改之期已近復大沛此恩俾豫省億萬生民益臻樂利其未完預派銀九十六萬餘兩一款因定議之員創為帮價踵行之員擅行給發或竟侵漁肥己其咎均無可寬且此項預發銀兩係乾隆五十四五六等年由司庫預發非遠年攤項可比乃該省總河巡撫並未先行奏明輒踵承積弊以預辦物料為詞擅行動支給發本應照議著落自乾隆三十年以後創議帮價及踵行之歷任總河巡撫司道

府屬州縣並河工道廳分別在任久暫年月按數分賠以示懲但銀數未免稍多且自乾隆三十年以後歷任大小各員人數亦眾朕於無可加恩之中再為破格曲予恩施著將此項應賠銀九十六萬餘兩免賠四十六萬餘兩僅令分賠五十萬兩所議統限三年依數歸款之處亦予限四年再每年幫價銀兩前經降旨概行停止此項河工歲需料物固由各州縣採購交工而辦理工程開銷料物皆係河員經手尤應責成總河隨時稽察務令實用實銷毋任承辦之員仍前冒濫而採買各地方官亦當按照例價購辦不得絲毫派累民間如河工地方各員再有前項弊端則惟該總河巡撫是問決不稍為寬貸著將此旨謄黃偏行曉諭俾豫省小民咸喻朕格外施仁體卹周至之意欽此

1668 乾隆五十七年三月十九日內閣奉

上諭甘肅提督蘓靈據勒保奏備辦帶兵官員由西寧赴藏馬匹朕分平常該督駁換補解仍有不堪備用之馬業經降旨將蘓靈交部嚴加議處

將未部議上時自應離任蘓靈著即來京候旨其甘肅提督原缺著烏大經前往署理俟服闋後再行實授欽此

1669 查成汝舟係山西文水縣人現年六十一歲原任

湖北按察使因前在江蘇江寧府知府任內失察所屬句容縣書吏侵挪錢糧案內經部議革職又揚州府高郵州書吏偽串冒徵一案該員曾任淮揚道亦有失察之咎部議以該員於句容縣案內革職在前是以未及另議謹

奏

三月二十日

1670 查山西省上年奏銷案內大同朔平二府尚有積

欠未完銀二萬二千餘兩臣等面奉

諭旨俟今春

聖駕巡幸五臺將此項未完銀兩再行

加恩豁免今據馮光熊告稱前項未完銀兩業經陸

續徵完此外並無另有積欠惟大同朔平二府屬現在尚有未完糧一萬八百四十八石和林格爾廳尚有未完米九百八十九石等語臣等謹擬寫豁免

恩旨進呈謹  
奏

1671 乾隆五十七年三月二十日內閣奉

上諭朕此次巡幸五臺清蹕經臨宜敷渥澤所有大同朔平二府屬未完糧一萬八百四十八石和林格爾廳未完米九百八十九石零俱著加恩豁免以敷朕惠愛黎元省方行慶至意該部即遵諭行

欽此  
次日添送

1672 乾隆五十七年三月二十日內閣奉

上諭朕此次巡幸五臺所有山西辦差兵丁著加恩賞給一月錢糧欽此

1673

查琅玕奏請將石壩改建柴盤頭一摺係五十四年四月初一日奏到是年月摺現在未經隨帶臣等由明日本報寄信回京查取寄到再行進呈謹先將本年二月內福崧原摺抄錄呈

覽謹  
奏

1674 查乾隆五十五年長蘆山東商人承領

賞借東省城工帑本銀二百萬兩內發借蘆商銀一百萬兩東商銀一百萬兩每年生息銀兩屆期俱交納山東藩庫本日穆騰額所奏係蘆商承借一百萬兩生息利銀解交山東藩庫實數其東商生息利銀由山東運使催齊詳請就近解交該省藩庫該鹽政摺內未將此二項分晰聲明是以語涉含混謹

奏

遵

旨將山西鹽課改歸地丁一事傳集梁肯堂會同馮光熊蔣兆奎互相講求將如何便民便商之處確切指陳據蔣兆奎稱山西從前鹽務簽商納課浮費繁多節經加增鹽價較鹽課正額幾至加倍民間每以官鹽價貴便食私鹽今將鹽課攤入地丁以有糧之戶而論山陝二省每銀一兩攤課銀九分九釐零河南省每銀一兩攤課銀一錢三分為數本屬無多而停止官運浮費盡除鹽價日減本年自弛鹽禁後察訪各行鹽處所現賣價值每觔賤至四五文及七八文不等以節省鹽價之數交納應攤鹽課實屬寬餘是民間毫無攤課之累而有食賤鹽之利其大便秘於民已有成效至從前已簽各商自此即可息肩而通省殷實之家日後永免簽商之擾其便於富戶更屬顯然民間自行運販既無官課又無浮費利之所在踴躍爭趨不但閭閻無淡食之虞而土販亦藉以營生此便於民而亦便於運販

者也至於鹽池業主約有數百家業主既多咸以速售為願而各土販擇價買鹽爭取其賤各業主必不肯高擡價值自阻利源此業主居奇之斷可無慮者也以上各情形馮光熊所稱無異復經梁肯堂再四講求細心詳核亦以鹽課改歸地丁一事實係商民兩便並僉稱我皇上加惠商民權衡至當既杜簽商之弊復省加價之煩凡此

睿慮周詳總期利歸於下商民欣感實倍尋常自遵辦以來業已行之有效

聖主念切民生猶復殷殷

垂詢寶深欽佩悅服之至等語謹

奏

1676 乾隆五十七年三月二十一日內閣奉

上諭朕向來每遇巡幸所有經過地方俱加恩蠲免地丁錢糧十分之三五臺非清蹕常臨之地此次巡幸蹕蹕尤宜逾格施恩用敷渥澤所有五臺一

縣本年地丁錢糧著加恩蠲免十分之五其大同朔平二府屬未完糧一萬八百四十八石零和林格爾廳未完米九百八十九石零亦著全行豁免以示朕惠愛黎元省方行慶至意該部即遵諭行欽此

1677 大學士伯和 字寄

江蘇巡撫長 浙江巡撫福 乾隆五十七年

三月二十一日奉

上諭長麟奏查勘范公塘石壩係沈船載石為基堆積石塊增高出水體重根牢即遇風潮汹涌不過頂上木櫃及浮置碎石冲損斷不能搖動壩基若改作柴工一遇風排浪湧拔椿走埽漂蕩無存似應仍用石壩等語此事於乾隆五十四年四月內據琅玕奏稱范公塘一帶所築挑水石壩碎石堆積不能排釘木椿易於坍塌不若柴盤頭一項可以釘木作椿跟脚堅固彼時朕以琅玕所奏情形尚屬可行本年二月內據福崧奏以此項石壩基址尚屬堅固廢棄可惜若改築柴壩不特需柴甚

多且挑溜不能得力現將石壩如式捐修以資捍衛等語與琅玕所奏情形互異朕以兩說皆有理但不能遽定因令長麟前赴杭州范公塘一帶逐細履勘究竟石壩柴壩兩項孰為有益秉公據實覆奏今長麟既偏主福崧之說以石壩為是則琅玕所議改築柴壩所見即屬錯悞前此朕令長麟前往海塘履勘原欲於福崧琅玕兩人所議孰得孰失之處確切指陳乃長麟摺內祇稱宜用石壩將柴壩毋庸置議而於琅玕原辦錯悞之處並未逐細聲叙意存迴護調停殊屬非是至琅玕於五十四年四月內奏請改用柴壩後迄今已及三年是否將此項柴壩開工修築福崧於五十五年秋間抵任至本年二月內始將應行修築石壩之處具奏其五十五六兩年是否照琅玕所辦將柴壩仍行修理若云此項壩工全為挑溜護塘所築則無論用石用柴自應隨時修整何以兩年以來任其坍塌若係無關緊要之壩又何必多此一舉徒滋糜費殊不可解著傳諭福崧即將此次柴壩是否業經修築被水冲塌抑係竟未動工所請改作石

殊

亦已過詳餘如何

壩現在曾否修建據實覆奏再細閱圖內挑水壩  
基上窄下寬堆作坦坡周圍係屬圓形儘可藉以  
挑溜又何須於壩頂安設木樅此項木樅舊製本  
屬方形今長麟又欲改作三角雖長麟所奏側身  
讓水之言尚屬近理但設此木樅究係何用亦著  
福崧一併覆奏至柴壩自不如石壩之堅固經久  
況每年壩工多費一萬柴船民間即缺少一萬柴  
船之用柴價不無少增於小民日用多有未便自  
應照長麟所議行並著福崧悉照所議妥協修辦  
以副朕慎重海防保護民生至意除另降諭旨傳  
諭琅玕回奏外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1678  
遵

旨詢問馮光熊三月以內五臺附近地方曾否得雨  
據稱三月初四日五臺一帶得有雨雪約計三寸  
初七八及十五等日皆陸續得有雨雪一二三寸  
不等是本月內已疊次得有雨雪現在土膏甚為  
滋潤不致缺雨等語謹

奏

1679

大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年三月二十二日

奉

上諭朕此次巡幸五臺於二十日過長城嶺風日暄  
和蹕途極為順適即扈從人等行走皆各安穩本  
日已抵臺懷即詣菩薩頂殊相寺拈香瞻禮天氣  
猶覺晴朗迨至未刻祥雲飄洒漸次稠密沾渥甚  
為優厚特此隨報諭知現在京師一帶正值望澤  
之際是否一律均沾或得有膏雨之處著留京王  
大臣據實覆奏以慰塵懷將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

大學士伯和 字寄

哈密辦事大臣琅 乾隆五十七年三月二十二日奉

上諭前據福崧奏范公塘一帶原係建築石壩嗣經琅玕以石塊易於沖失奏請停修如遇應行修築之時一體改築柴壩自停修以來石壩多已坍塌若改築柴壩頭不特需柴甚多且石壩挑溜極為得力現將石壩如式捐修一摺因查從前琅玕所奏內稱石壩一項係用碎石裝入木櫃排列海邊復以碎石圍繞堆護跟脚既不能排釘木樁又不能用灰漿澆灌一遇潮大之時易於潑損坍塌卸不若柴壩頭可以釘木作樁能耐潮水衝刷等語朕以兩說皆各有理但建築石壩易滋工員浮冒之弊而改用柴工又虞民間日用柴薪或致缺少是石壩柴壩兩項究竟孰為得力孰為經久之處未能遙定因令長麟前赴范公塘一帶逐細履勘體察情形秉公據實覆奏茲據長麟奏稱石壩係沉船載石為基體重根牢即遇風潮汹涌不過頂上木櫃及浮置碎石衝損斷不能搖動壩基若改作柴工一遇風排浪湧拔樁走埽漂蕩全無似應仍用

石壩等語范公塘一帶大小石壩已閱多年現在壩基依然穩固止須畧為修補即可收事半功倍之效若改用柴工偶遇風潮即屬易於汕刷而基址尚存碎石釘樁下埽又復難以施工况每年多費柴薪於小民日用之需亦多未便是柴工不如石工之堅固經久有益於民顯而易見從前琅玕有何所見而率為改用柴工之奏輕議更張且改用柴壩後亦應即為修理加意保護以資捍衛何以並未補修以致壩工現有坍塌之事著傳諭琅玕令將從前何以請改柴工又何以並不修理之處據實明白迴奏長麟福崧原摺俱著抄寄閱看欽此遵

旨寄信前來

1681 乾隆五十七年三月二十四日內閣奉

上諭朕此次巡幸五臺所有直隸山西駐驛行宮雖俱係從前發帑修建但自上屆巡幸以來已閱數年不無粘補糊飾之費著於長蘆運庫應解廣儲司項下各賞給銀一萬兩以示體卹欽此



1682

查鄂輝成德於本月十一日奏到摺內稱成德將  
 聶拉木各卡隘分兵防守後再行前往宗喀鄂輝  
 先往拉子一帶催糧至宗喀與成德會合進勦濟  
 龍賊匪此摺係於二月初五日拜發再查福康安  
 昨日奏到之摺係二月二十二日拜發內稱鄂輝  
 已赴脅噶爾拉子等處查辦糧運成德因聶拉木  
 至濟龍道路屢遇大雪未即融化在聶拉木一帶  
 安築碉卡後再行前赴宗喀計福康安發摺時距  
 今已及一月鄂輝成德自已先後早抵宗喀會合  
 前赴濟龍勦賊謹

奏

1683

乾隆五十七年三月二十四日奉  
 旨高樂在寧武府任內因伊兄高璋與岢縣賈輝結  
 親一案該員祇係事後聞知未經稟辦並無與  
 本地紳衿交結往來之事律以親屬得相容隱  
 其咎尚輕著照馮光熊所請准其加倍捐復留  
 於晉省差委該部知道摺併發欽此

1684

臣等將道旁叩  
 閩人嚴加刑訊據供我叫胡起富代州繁峙縣人年  
 三十二歲家有母親談氏今年六十七歲還有  
 兄弟胡起善在外傭工我因家裡窮苦五十三  
 年將我女人趙氏賣錢二千文買米度日我父  
 親因家裡貧窮受苦不過就於是年吊死了我  
 母親亦因沒得穿吃時時也要尋死實在心裡  
 著急並無親戚就有別人也不能幫助我如今  
 萬歲爺現來此地要求大大的給我些銀錢我就可  
 度日了等語復訊以你既窮了多年就是貧苦  
 不過也祇好向親友告助或在地方官跟前哀  
 求因何胆敢在

萬歲爺前喊叫你必有冤枉情事或另有指使你來  
 的嚴切訊究加以掌責復據該犯堅供我實在  
 因沒得吃穿就求地方官想他們也不能幫我  
 是以情急哀告

萬歲爺的此外實沒有別的冤枉情事也並無人叫我  
 來的等語臣等除將該犯眼同重責四十板外

應請

旨將該犯交與地方官照衝突儀仗例辦理謹

奏

三月二十五日

1685

查和琳於三月初二日由京起程現據秦承恩奏和琳於三月十一日過西安省城共計行走九日再查自京至西安省城計程二千七百里每日行三百里謹

奏

三月二十六日

1686

乾隆五十七年三月二十六日內閣奉

上諭秦承恩奏陝省辦理鹽務情形一摺據稱該省遵照新定章程以來西安同州兩府屬鹽價較之往日每勛約減錢二文興安商郊等府州屬程途較遠鹽價亦有減無增各糧戶以買鹽所減之錢完納所增些微之額課有贏餘等語覽奏嘉悅河

東鹽課改歸地丁一事原期商民兩便利歸於下使貧富均沾實惠自改行以來陝省西安等府州鹽價即已減落可見調劑得宜其效立應况鹽勛為閭閻每日必需之物價值既減則小民每日皆有節省而應攤鹽課每年祇納交一次以日日節省之數完一年應攤之課其贏餘不可勝計昨經面詢馮光熊蔣兆奎僉稱本年晉省自弛鹽禁後察訪各行鹽處所價值俱已減落民間毫無攤課之累而有食賤之利今秦承恩所奏陝省情形又復相同是鹽課改歸地丁洵屬有利無弊豫省州縣內亦有行銷河東鹽勛之處自己一律奉行何以穆和蘭並未將該省情形據實具奏即前日該撫來行在迎駕召見時因加恩寬免展限積欠未暇問及此事著穆和蘭將豫省鹽價現在如何減落及商民均有利益之處確切查明即行明白奏覆以慰廑注秦承恩摺並著發交穆和蘭閱看該部知道欽此

1687

大學士伯和 字寄

留京王大臣 署步軍統領定郡王 尚書金

乾隆五十七年三月二十六日奉

上諭據諾穆親等奏拏獲惡棍謝君美混入西倉口

稱係定郡王府內人手持米票強欲尖斛量米因

花戶不允輒肆行毆打並將官役毆傷請交刑部

審辦等語細閱摺內情節該犯平日在京開張米

局準折旗人米石於放米之時混入倉內爭多斛

面並敢逞兇毆傷官役且指稱綿恩府內人名目

希圖恐嚇多領官米囤積漁利甚屬可惡不可不

嚴辦示儆現據諾穆親等將該犯謝君美及助毆

之跟隨人等一併拏獲所辦可嘉此案著交留京

王大臣會同綿恩金簡提集各犯嚴審照所奏以

光棍例定擬速奏將此諭令知之諾穆親等摺並

著發交閱看欽此遵

旨寄信前來

1688

查上年長麟奏裁撤站船摺內稱上元等九縣沿

河官塘均有額設驛站夫馬將站船一項奏請裁

撤經兵部議准行令江西安徽等省設有站船州

縣應裁應存之處俟覆奏到日再行核議旋經江

西湖南廣東等省覆奏俱稱站船一項實係應用

毋庸議裁本日朱珪奏到亦稱該省沿江七站額

設差船四十二隻均須護送差使與江蘇省內河

情形不同仍請照舊存留等語查江蘇省上元等

州縣係於額設驛站夫馬之外又有站船是以長

麟奏請裁撤其餘安徽等省沿江一帶州縣止有

站船應付並無另設夫馬是以俱照舊存留謹

奏

三月二十八日

1689

大學士伯和 字寄

兩江總督書 乾隆五十七年三月二十八日

奉

上諭前據長麟奏查江蘇省上元等九縣沿河官塘  
 於額設驛站夫馬之外又有站船一項奏請裁撤  
 一摺已經該部議准行令有站船省分查明覆奏  
 矣驛站經費攸關國帑江蘇省上元等九縣既有  
 額設夫馬接遞文報是此項站船洵屬虛設無用  
 書麟在兩江總督任內已久自應早為奏請裁撤  
 何以從前並未具奏可見書麟於此等事件漫不  
 留心致留此虛設之船任聽屬員等浮冒開銷殊  
 屬非是著傳諭該督將因何不將此項站船奏請  
 裁撤之處據實覆奏至長麟於地方事務應行陳  
 奏之件自當留心辦理書麟亦不得因有此旨稍  
 存意見與該撫不和以致辦公掣肘也將此諭令  
 知之欽此遵

旨寄信前來

1690

乾隆五十七年三月二十八日內閣奉

上諭朕覽國史傳宏烈列傳載其生平忠烈事實深  
 堪嘉獎傳宏烈任慶陽知府時即預知吳三桂蓄  
 謀不軌首先許告及巡撫粵西正值吳三桂倡亂  
 之時

聖祖仁皇帝投為撫蠻滅寇大將軍傳宏烈親統官兵  
 恢復梧州等處屢奏捷功勞績茂著嗣又密疏尚  
 之信種種逆謀請削其藩封分其兵柄陳詞愷切  
 備極忠誠後為吳三桂逆黨馬承蔭所給刳往貴  
 陽抗節不屈罵賊捐軀蒙

聖祖仁皇帝優恤賜諡並准祠祀桂林

世宗憲皇帝復敕入祀昭忠祠以褒忠蓋朕披閱傳內  
 所列事蹟嘉其志節良用憫焉傳宏烈著再入祀  
 賢良祠並令江西巡撫查明傳宏烈後嗣有無官  
 職現執何業據實具奏以副朕篤念蓋臣至意該  
 部知道欽此

1691 乾隆五十七年三月二十八日奉

旨這所叅福建寧化縣安遠寨巡檢陸允恭著革職  
拏問即交雲貴各督撫沿途就近截拏嚴審實情  
定擬具奏該部知道摺併發欽此

1692 大學士伯和 字寄

雲貴督撫 乾隆五十七年三月二十八日奉

上諭據王懿德奏福建委員安遠寨巡檢陸允恭領  
銀赴滇採辦銅斤與正委員連城縣知縣楊環共  
領銀九萬三千九百五十餘兩計裝九十三鞘現  
在查對止裝九十鞘其餘銀三千九百五十餘兩  
俱係散領攜帶又陸允恭於領運正銀之外尚有  
津貼銀一千三十三兩及附帶解還滇省銀一千  
兩該員現已丁憂應交楊環一併查收管解除未  
經入鞘之銀三千餘兩已據楊環接收清楚其領  
解津貼及附帶之銀二千餘兩該員不能點交請  
將陸允恭革職拏問一摺已明降諭旨將該員革  
職拏問矣此案領運辦銅銀兩既據福建原咨稱

係九十三鞘該員止裝九十鞘其餘銀三千九百  
餘兩並未裝鞘自係冀圖取携自便可以隨意那  
用現在點交雖無短少情事其未經裝鞘之處已  
屬非是至該員附解之銀二千餘兩不能如數點交  
是其將領運之銀任意侵用以致虧缺情弊已屬  
顯然不可不嚴訊著追以清官項而示懲儆該員  
之母寄居滇省病故該員得信後自即赴滇著傳  
諭雲貴各督撫即就近截拏提訊嚴審實情定擬  
具奏其侵用官項如不能依數歸款即咨明該員  
原籍及任所地方查明貳財變抵歸款至正委員  
知縣楊環係領銀同解之員何以於陸允恭私用  
官項之處並無覺察亦著該督撫等就近查訊將  
此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1693 乾隆五十七年三月二十八日奉

旨夏瑚准其捐復餘依議欽此

大學士伯和 字寄

留京王大臣 署步軍統領定郡王 尚書金

乾隆五十七年三月二十八日奉

上諭據諾穆親等奏拏獲惡棍謝君美混入西倉口

稱定郡王府內人手持米票強欲共斛量米因花

戶不允輒肆行毆打並將官役毆傷一案已降旨

交留京王大臣會同綿恩金簡提集各犯嚴審照

所奏以光棍例定擬速奏矣該犯謝君美胆敢指

稱綿恩府內人名目希圖恐嚇多領官米囤積漁

利並將官役毆傷甚屬可惡固當嚴辦示懲但聞

向來赴倉領米者往往給與倉書斗級錢文即可

支領好米其弊由來已久該犯謝君美指稱綿恩

府內之人恐嚇花戶或不肯給與錢文又欲支領

好米是以彼此爭執毆打且據諾穆親摺內稱謝

君美平日盤剝旗人利息於領米之時將旗人官

米准折代領是該犯色攬赴倉領米必不止此一

次與倉書斗級等自係素所熟識因此捏稱綿恩

府內人名目不復給予錢文強領好米而倉書斗

級因向來俱有使費不肯允從互相爭吵毆打情

節顯然若該犯與倉書斗級平日並不認識何以知謝君美曾捐過州同職銜在城內燈市口開張米局該犯既經毆打官役明知必獲重罪又豈肯自行供出以上所指情事不可不逐一跟訊著傳諭留京王大臣等嚴訊謝君美色攬領米共有幾次該倉書斗級等向來是否給與錢文並此外有無似此需索領米使費之處一併嚴訊確情據實定擬若倉書斗級索錢積弊既經破露到案不治以應得之罪又將何以示懲耶再此奏是否係諾穆親一人主見抑係何人先定議亦著一併詢問覆奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1695 乾隆五十七年三月二十九日內閣奉

上諭據梁肯堂奏直隸順義營都司金積福於上年十

二月內推陞四川達州營遊擊例應送部引見該

員現在染患瘡疾請回旂醫治但四川現在辦理

軍務復經委員驗明並無捏飾請令暫行回旂醫

治俟病痊後送部引見仍發往四川等語金積福

既據該督奏稱染患瘡疾業經委員驗明並無捏飾規避情事著照所請准其回旂醫治俟病痊後再行送部引見仍令赴川省候補其四川達州營遊擊一缺另行歸部銓選該部知道摺併發欽此

1696 本日梁肯堂奏請以大興縣縣丞滑承芳陞補

萬全縣知縣一摺臣等面奉

諭旨即於明日帶領引

見詢據梁肯堂稱該員現在大興任所並未前來行在臣等現已傳知該督令其給咨赴部帶領引見謹

奏

1697 乾隆五十七年三月二十九日奉

旨滑承芳著照該督所請行仍送部引見欽此

1698

大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年三月二十九日

奉

上諭昨據留京辦事王大臣奏京師於二十四日微雨飄灑不成分寸現在虔誠祈禱等語此次駐蹕台懷於二十二二十四等日溼沾雨雪直隸阜平等亦報得雨三寸本日駐蹕大教場現在雲勢濃布可期即沛甘膏惟念京師自入春以來總未得有透雨農民待澤正殷朕心深為厯注著傳諭留京王大臣如日內得有雨澤即由驛馳奏以慰厯注倘尚未得雨即由本報覆奏可不必專摺馳遞也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1699

大學士伯和 字寄

總管內務府大臣巴 乾隆五十七年三月二十九日奉

上諭朕起鑾前巴寧阿曾有欲俟回鑾時前來接駕之奏殊可不必巴寧阿辦理普陀宗乘廟工程現在時屆春深正可趁此興工趕辦何必前來行在徒勞往返轉不免耽延工作再本年係多一閏月朕駐驛避暑山莊時亦不詣普陀宗乘廟擬俟木蘭迴蹕方前往瞻禮計自此時至九月為期半年有餘此項工程是否可於木蘭出哨時完竣著巴寧阿自行酌量上緊趕辦無論廟工能否於九月初完竣此時總不必前來迎駕也將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

1700

查姜晟摺內所稱頂名傅老三之盜犯董舒友係起意行劫首盜又先同已正法之張仰富等行劫三次其傅老三即傅三陽一犯係夥同行

七三二

劫二次之犯是以董舒友被湖北省掣獲時頂名傅老三希圖輕減罪名除將原摺交三法司核擬速奏外謹

奏

四月初二日

1701

大學士伯和 字寄

留京王大臣 署步軍統領定郡王 尚書金

乾隆五十七年四月初二日奉

上諭前據諾穆親等奏掣獲惡棍謝君美混入通倉領米允毆官役一案當經降旨交留京王大臣等審擬速奏但聞向來赴倉領米者往往給與倉書斗級花戶錢文即得好米此次謝君美指稱綿恩府內之人恐嚇花戶或因不肯給予錢文又欲支領好米是以彼此爭執毆打復有諭旨令留京王大臣等嚴訊謝君美包攬領米共有幾次向來是否給予倉書斗級花戶等錢文並此外有無似此需索領米之處一併研訊確情據實定擬本日據



留京王大臣等奏謝君美一犯已在監身故驗得該犯兩眼胞俱各潰爛左眼睛塌陷係被花戶董得祿用灰土揉按兩眼該犯謝君美傷重感受風邪醫治不痊委係因傷身死等語此案謝君美與花戶彼此爭毆既將謝君美挈獲自應送官究治何以花戶董得祿擅將謝君美揉按兩眼至左眼睛塌陷因傷監斃此與罪人已就拘執而擅殺何異有此情形或竟係花戶等向謝君美需索錢文謝君美指稱綿恩府內名目既不給與錢文又欲支領好米以致爭毆何得專指為謝君美一人之罪昨續降諭旨甚明著留京王大臣等即遵前旨內指出各情節向花戶張文煥董得祿詳加究訊並與跟隨入倉之盧社兒徐保兒彼此質對是否因需索領米錢文啟衅及向來赴倉領米曾否給與花戶錢文之處秉公嚴審務得確情即行定擬具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1702 乾隆五十七年四月初四日奉

旨蕭英著即處斬欽此

臺灣故殺兇犯一案

1703 乾隆五十七年四月初五日奉

旨此案著交湖北巡撫福寧秉公嚴審定擬具奏原告著照例解往備質其童作璫一犯著梁肯堂即飭所屬迅速緝獲一併解往歸案審辦欽此

1704 臣等遵

旨將本日道旁叩

閩人嚴切審訊據供我名童佩玉係湖北黃州府蘄州人年三十七歲家有母親高氏年六十二歲弟兄四個我居長乾隆五十年蘄州被災蒙皇上天恩賑濟又將應征的錢糧緩作五十一兩年帶征我堂兄弟童豈磷名下應完糧米每石分作兩年交納每年應交五斗被蠹役田廷秀於五斗之外多收二斗五升又我堂兄弟童豈

磷花戶名字叫做實亭柱每年應交米三石七斗七勺被糧書李年茂一年收過兩次多收米三石七斗七勺五十二年正月差役劉貴又來追交帶征米石並將我等七柱名下應完的米石於全完後又復重追這都有由單印票為據又要將米石折收錢文我們那裡的米價係二串四百錢一石他要每石折錢四串二百一十文我堂弟豈磷於五十三年二月內赴黃州府控告府裡批准親提本州並未解審五月裡又到布政司衙門控告司批文黃州府親提審訊被糧書李年茂等串通作弊勒令和息我堂兄弟豈磷於八月內持重徵印票折錢的字約赴巡撫衙門呈控蒙姜大人批令布政司弔冊提人嚴究布政司委武昌漢陽兩府訊究兩府延擱不辦我堂兄弟豈磷于五十三年十月內又赴巡撫惠大人案下呈訴蒙批布按兩司嚴催確究十二月內我堂兄弟豈磷又赴總督衙門呈控蒙批布政司會同糧道提犯速審嗣經司道委漢陽同知通判並江夏縣審訊五十四年三

月內我姑夫田雍也因浮收的事執持印券六張到巡撫惠大人案下控告蒙批與童豈磷控案一併訊詳經江夏縣審將李年茂收禁問擬軍罪通詳各憲蒙督撫批示李年茂身充糧書胆敢多納花戶糧米從中作弊必不止此一案仰布按兩司研審有無重徵別案並查取應參職名聽參嗣經兩司各府會審忽于九月內將童豈磷收禁武昌監內十二月內又將豈磷釋放五十五年三月內將問軍之李年茂提出解到州裡追出重徵勒折的錢十六吊八百發落完案票傳童豈磷到案領錢我堂弟不領五月內忽將姑夫田雍差役劉貴我父親童澤庶三人收禁江夏縣監內委員疊審逼勒我父親供說節次控告皆係我父親主使我父親被打不過只得承認十月內招解過司十二月內將田雍劉貴釋放獨將我父親留禁寬我父親曾替江夏縣的陳騰氏做過訴詞二紙得錢一串問擬軍罪尚未起解於五十六年五月內拖斃禁內我實因我父親死得委屈那些舞弊的書吏並不問罪倒把我父親屈打成招拖斃監內所

以來叩

聞的我有四兄弟童作璠也一同來京的他身邊也

有一張呈子恐怕遞不上這張呈子他在蘆溝

橋一帶預備叩

聞的如今是否還在那裡我不知道等語臣等查該

犯所供雖係一面之詞但案關書吏重徵勒折

承審各員訊斷不公且此案控自五十二年事

閱六載該省何以宕延不結自應徹底根究以

成信讞查湖北巡撫福寧到任未久並未審辦

此案無所用其迴護或

敕下該省督撫親提人犯秉公嚴訊定擬具奏抑或

欽派大臣前往審辦之處伏候

聖裁恭俟

命下所有原告人犯照例解往備贖其童作璠一犯

請交直隸總督梁肯堂飭屬緝獲一併解往歸

案噴審謹

奏

1705 大學士伯和 字寄

湖北巡撫福 乾隆五十七年四月初五日奉

上諭本日正定道旁有告狀民人童佩玉一犯當令

軍機大臣審訊係湖北蘄州人因伊堂弟童豈磷

名下應完糧米被書役舞弊重徵浮收又將應交

米石勒折錢文任意多收屢在本省控告承審各

員不為據實審斷轉坐伊父以主使之罪拖斃監

獄細閱所供情節雖係一面之詞但此案控自五

十二年迄今已閱六載屢經呈訴該省承審各員

任意宕延並不速為審結且案關書吏勒折重徵

楚省素稱健訟此告不為無因如果屬實尤應徹

底跟究嚴辦示懲此案童豈磷曾在總督門控告

即係畢沅任內之事自不便再交該督審辦致滋

迴護福寧到任未久於此案呈控批委之處始終

並未經手毫無干涉自無所用其瞻顧著傳諭福

寧即將此案前後所控各情節弔齊卷宗親提人

犯秉公研訊毋得擅行轉發務將有無重徵勒折

浮收及因何懸宕不辦是否拖斃無辜之處逐一

嚴審確情按律定擬具奏以副委任倘該撫存瞻護同官袒徇屬員之見以致案有屈抑再經控告發覺則惟福寧是問除將原告董佩玉照例解往備質其童作璠一犯交梁肯堂飭屬緝獲一併解往外將此諭令知之所有軍機大臣訊取該犯供詞及原呈一併發交福寧閱看欽此遵  
旨寄信前來

1706 查向來南糧抵通交足正供之外所有餘米均

蒙

恩准旗丁等就近糶賣昨據諾穆親等奏南糧頭進幫船現已抵通交卸臣等照例擬寫

諭旨進

呈謹

奏

1707 乾隆五十七年四月初六日內閣奉

上諭向來南糧餘米俱准在通州變賣以資食用今

南漕現已抵通旗丁於交足正供之外所有多餘米石情願出售者仍著加恩准其就近于通州糶賣在旗丁等既所樂從而近畿地方糧米益充于市價民食均有裨益該部即遵諭行欽此

1708 臣等遵

旨將本日

硃批李奉翰奏謝豫省河工幫價應賠銀兩分別豁免減賠一摺交

免減賠一摺交

行在九卿等閱看據舒常等僉稱豫省河工幫價民

欠未完銀兩荷蒙

皇上逾格施恩豁免六成並將四年之限寬作八年

實為從來未有之

曠典其未完預派銀九十六萬餘兩又蒙

聖主垂念臣工銀數稍多僅令分賠銀五十萬兩予

限四年完繳仰見我

皇上恩施優渥有加無已不特豫省臣民頂戴

鴻慈凡天下臣工黎庶均感頌

皇仁于無既至李奉翰黃河桃汛安瀾一摺奉

硃批春汎豈可置而來迎駕等因欽此仰邀  
聖明洞鑒以該督所奏不實不令前來尤見  
皇上慎重河工至意臣等恭閱之下竇深欽感悅服  
之至等語謹

奏

1709 恭查丙午年

御製詩註內畢沅在河南巡撫任內曾遣官詣嵩岳

廟取水祈雨又戊申年曾遣官向陝西太白山

取水祈雨俱著靈驗但太白山距豫省較遠嵩

岳近在該省是以臣等擬寫

諭旨內令穆和蘭遣官至嵩岳廟取水祈雨謹

奏

四月初六日

1710 遵

旨詢問梁肯堂直隸順德廣平大名三府與豫省彰

德衛輝懷慶三府境壤毗連彰德等府向遇歉

收年分有河以南各府糧食接濟至順德等府

如遇歉收之年該處糧食係由何處接濟據稱  
直隸順德地方與山東東昌府屬連界大名廣  
平地方與山東曹州府屬連界向來偶遇收成  
歉薄糧價昂貴之時皆係東昌曹州等處販運  
接濟等語謹

奏

四月初六日

1711 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年四月初六日奉

上諭直隸正定保定一帶自三月以來雖間得微雨

不成分寸並未霑足而順德廣平大名三府屬地

方總未據報得雨豫省彰德衛輝懷慶三府與直隸順

德等處境壤毗連聞該處連年缺雨地土乾燥待

澤頗殷雖前據該撫奏稱衛輝府屬之汲縣延津

彰德府屬之湯陰等縣于三月初四日得雨一二

寸不等看來亦未透足現在正當農民望澤之時

是否得有透雨並未據該撫續行奏報朕心深為

屢念著傳諭穆和蘭飭屬查明若此時尚未續獲

雨澤自應虔誠祈禱或更設法疏濬泉源俾通山澤之氣以期速沛甘霖從前卑沅在河南巡撫任內曾遣官詣太白山嵩廟取水祈雨旋獲濃膏嵩岳即在該省穆和蘭亦應倣照辦理何以並未見及豈該撫竟不闢心民瘼耶倘該處得雨較遲于麥田有碍該撫務須確查據實具奏為綢繆之計毋得任聽屬員捏報稍存諱飾致令百姓失所也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1712 乾隆五十七年四月初六日内閣奉

上諭松筠著調補戶部侍郎其工部侍郎員缺著巴寧阿補授欽此

1713 乾隆五十七年四月初七日奉

旨董舒友董舒勤石世昌徐門位傅三陽均著即處斬餘依議欽此

湖南省湖面行劫客船盜犯

1714 乾隆五十七年四月初七日内閣奉

上諭據和琳奏馳抵成都察看各站馬匹皆臃肥足用弁兵等費遞文報即值山逕崎嶇亦復儘力馳驟可無虞遲悞等語此次進剿廓爾喀一切文報往來關係緊要各該省臺站兵丁等上緊馳遞俱屬迅速並無遲悞從前勦辦兩金川曾降旨將沿途臺站弁兵加恩賞賚現在正值軍營文報絡繹之際著沿途設有臺站省分各該督撫查照從前金川恩賞之例將馳遞文報奮勉之弁兵等查明先行分別賞賚一次以示體恤該部遵諭即行欽此

1715 乾隆五十七年四月初七日奉

旨這所叅署南靖縣知縣鍾福典史周得士俱著革職等因交該督撫提同案内犯証嚴審定擬具奏該部知道摺摺併發欽此

1716

查京城至四川成都共五千七百餘里和琳係于三月初二日自京起程于二十五日抵成都省城計行走二十三日臣等查惠齡上年赴藏亦係由四川一路行走于十一月二十一日自京起程十二月十六日行抵成都計行走二十日今和琳行走二十三日較惠齡早到二日

奏

謹

四月初七日

1717

乾隆五十七年四月初七日奉

旨沈念茲著照孫士毅所請遇有四川請告知府缺出著該部開列名單進呈如遇該省有應歸部選知府缺出亦著將該員即行選用該部知道摺併發欽此

1718

乾隆五十七年四月初七日內閣奉

上諭台斐英阿已補用圍場總管所有直隸承德府

知府員缺著加恩以慶章署理俟八年無過方准實授欽此

1719

乾隆五十七年四月初七日奉

旨留京王大臣等審擬謝君美等冒名領米爭毆摔斛一案將謝君美照光棍例擬斬立決其幫助謝君美踢傷官役之盧祿兒照光棍為從例擬絞監候所辦尚是惟甲斗董得祿因謝君美尖量倉米摔斛兇毆該犯將謝君美迷眼按地復用磚砸脚踢以致因傷自斃照罪人已就拘執而擅殺律將董得祿擬以絞候核其情節尚未平允董得祿身充甲斗管理厥口是其專責見謝君美尋衅摔斛毆打官役勢甚強橫因暗拾灰土灑迷謝君美兩眼趁勢毆踢與無故逞兇斃命者有間董得祿著于所擬應絞監候罪名上減一等發落餘俱照所議行至旗員應支俸米自當赴倉親領何得將米票擅交舖戶領賣致啟包攬情弊嗣後著八旗都統遍行傳知無論大小官員俱令自行赴倉支領

如有仍前將米票私給碓房米局包領者一經查出即行參奏以示懲儆再鋪戶包攬旗員俸米兵丁甲米與倉書斗級私自交結赴倉支領布圖從中取利其弊由來已久雖謝君美業經破案而似此因積漁利者必不止謝君美一人著步軍統領衙門順天府密訪嚴拏如有此等包攬領米鋪戶即行拏獲人犯枷號米石入官示懲以儆其餘摺併發欽此

1720 乾隆五十七年四月初八日內閣奉

上諭朕此次巡幸五臺所有直隸辦差兵丁業經賞給一月錢糧內有御道潑水兵丁奔走較勞著再加恩賞給銀一百兩交該督均勻分散以示體恤欽此

1721 乾隆五十七年四月初九日內閣奉

上諭向來踔路經過地方搭蓋橋梁原為河渠水道而設此次經過直隸地方道路凡遇地勢低窪並無積水之處亦概建設橋座殊屬無謂昨詢據梁

肯堂稱此項橋梁向來並不開銷此語尤屬非是地方官遇有承辦工程方欲藉端開銷豈有自行出資賠墊之理今若不准開銷在官員養廉無幾勢必派及閭閻致滋擾累轉非朕省方行慶惠愛小民之意嗣後遇有此等無水處所不准支搭橋座外所有此次經過地方無水有橋之處仍著梁肯堂據實報部並令嚮導處及行在工部逐一查明登記於將來報部時准其開銷一半以昭覈實而示體恤欽此

1722 乾隆五十七年四月初九日內閣奉

上諭直隸順德廣平大名三府自三月以來並未得有雨澤而豫省河北彰德衛輝懷慶三府屬雖間得微雨亦不成分寸朕心深為廛念昨已有旨馳詢豫省矣現已將屆立夏即甘膏立需麥收亦不無歉薄自應早為設法接濟俾小民不致失所若俟地方官具報到日再降諭旨恐閭閻口食未免拮据現已面諭梁肯堂令其馳赴天津辦理截漕事務並著倉場侍郎劉秉恬會同妥為經理于續



到津闕南糧漕船內截留漕米六十萬石以三十萬石留于直隸地方以備順德廣平大名三府接濟之需以三十萬石運送豫省以備河北三府接

濟之需雖每府以十萬為率其間視災之輕重戶之多寡令該督酌劑撥用向來山東糧米有係河南漕船運載赴適者此時該省漕糧雖已起卸回空想船隻未必即過天津即可將截留接濟豫省漕米三十萬石順便載回該省交穆和蘭酌量存貯河北備用其直隸截留漕米三十萬石應運貯何地就近備用之處若梁肯堂自行的辦至漕米既在天津地方截留所有旗丁等食米更有多餘即准其就近糶賣該處糧石既得藉以流通于民食更有裨益劉秉恬接奉此旨即行帶員行赴天津其時梁肯堂亦可到彼會同商酌妥協辦理于南糧幫船內酌量何幫截留為便即將該幫米石截留該督等務須籌酌盡善毋許地方胥吏從中滋弊以期小民得受實惠副朕廑念民依先期籌畫至意計截留撥運不無畧須時日並著梁肯堂穆和蘭先將此旨于缺兩地方遍貼騰黃使百姓

先知口食有資而市僧亦不敢壟斷居奇方為兩有裨益該部知道欽此

1723 乾隆五十七年四月初十日內閣奉

上諭刑部議覆姜晟奏巴陵縣知縣鄭遇亨于藍青薦被劉楚玉毆傷後因病身死一案該縣鄭遇亨雖無信用差役投意婪索情弊但辦理命案並不當場取其屍親確結復聽差役方元引進部民私謁餽送又失察差役指官撞騙雖經自行舉發究屬辦理錯謬將該縣鄭遇亨照擬革職一摺細閱原奏情節藍青薦既經該縣驗明委係因病身死而縣役方元稟知屍親藍鴻要求見面該縣疑其在外招搖遂傳喚藍鴻進見藍鴻將銀二百四十兩面為呈送該縣以藍鴻行賄于求即行坐堂將藍鴻收禁並通詳革審飭提犯証至省究辦如果屬實則該縣鄭遇亨于辦理命案既屬細心且于部民餽送銀兩時立即收禁詳辦操守亦甚清潔此等縣令方當加之獎擢以風示地方官何以該撫姜晟轉將鄭遇亨奏請革職但該縣鄭遇亨于

藍青薦因病身死之處既已當場驗明何復任聽屍親藍鴻以毆傷身死具結投案且于縣役方元稟知藍鴻欲求進見時即不應傳喚進署及至藍鴻呈送銀兩又復坐堂將伊收禁種種情節殊屬支離其中顯有先侵後吐及事後捏飾上司代為開脫各情弊此案先經該撫姜晟奏請將該縣解任質訊及至審擬定案既稱該縣並無婪索情弊復請將該縣鄭遇亨革職安知不因鄭遇亨先侵後吐罪名較重有意避重就輕僅以辦理錯謬失察縣役撞騙奏請革職曲為屬員開脫罪名二者必居其一不足以成信讞此案必須再行徹底根究但該撫姜晟係原辦之人自未便仍交伊審辦致有迴護畢沅係總督統轄兩省湖南雖其所屬但此事原係姜晟審辦與畢沅無涉著該督即親赴湖南提集案內人証復加研訊該縣鄭遇亨有無得受賍銀先侵後吐情事不難與藍鴻等互相質對其平日居官操守若何亦不難詢訪得實如果鄭遇亨審辦此案既無錯悞又無別項情弊自不應擬以革職若實係先行受賄知事將敗露始行

收禁詳辦則是先侵後吐有心捏飾即不致問擬死罪亦應發往新疆示懲非僅革職足以蔽辜向來朕辦理庶務事無大小必期無枉無縱著畢沅秉公據實審擬具奏此案係特交畢沅審辦之件倘該督瞻徇同官仍為屬員開脫地步別經發覺恐該督不能當此重咎也至刑部于該撫奏到定擬之摺並未將以上指出情節詳細駁正照擬議覆殊屬疎漏並著將辦理此案緣由通諭知之刑部摺併發欽此

1724 乾隆五十七年四月初十日內閣奉

上諭江西饒州府知府員缺著蔡齊明補授所遺員缺著王正常補授欽此

1725 乾隆五十七年四月初十日奉

旨刑部題覆四川省陳啟賢陳啟才殺死胞叔陳公奇並胞叔之妾陳王氏依律凌遲處死一本已照簽發下矣陳啟賢陳啟才起意偷竊胞叔陳公奇

銀兩挖開總樞入室偷取因陳公奇驚喊各用斧將陳公奇連砍斃命並將陳公奇之妾王氏一併砍傷身死是陳啟賢陳啟才二犯援竊盜拒捕殺人律已應問擬斬決况陳公奇係該二犯胞叔因陳公奇瞥見驚喊輒敢用斧毆斃是該二犯兩重罪案一死不足蔽辜問擬凌遲其罪不可復加但令其子嗣脫然無事于情法未為平允著該督查明陳啟賢陳啟才二犯現在于嗣年已及歲者俱著永遠監禁以為逞兇不法者戒欽此

1726 乾隆五十七年四月初十日奉

旨蔣曾煌前據孫士毅奏請留于軍營承辦糧務已降旨允准張寧陽毛大瀛均著照福康安等所請行該部知道摺併發欽此

1727

查福康安摺內奏留軍營辦事之丁憂東鄉縣知縣蔣曾煌即係前次孫士毅摺內奏留之員業奉

硃批允准在案至福康安摺內請以潼川府經歷張

寧陽陞補東鄉縣知縣並將候選州同毛大瀛借補潼川府經歷臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈謹

奏

四月初十日

1728 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年四月十一日奉

上諭昨因直隸順德廣平大名三府及豫省彰德懷慶衛輝三府屬地方雨澤愆期恐麥收歉薄民食未免拮据已諭令梁肯堂馳赴天津會同劉秉恬于續抵津關南糧幫船內截留漕米六十萬石以三十萬石接濟直隸南三府以三十萬石接濟豫省北三府已將明發諭旨由驛發交穆和蘭矣該撫接奉後自當遵照辦理但此項米石雖令梁肯堂等就近交豫省回空幫船順便載回而免收裝運以及沿途照料均須專員經理著穆和蘭迅即派妥妥幹道府大員速行迎赴前途將米石督運

回豫並著穆和蘭酌量附近河北三府屬地方存貯備用再截留接濟豫省漕米雖約以一府十萬石為率但亦須視州縣戶口之多寡受災之輕重均勻酌劑毋許地方官吏從中滋弊務期民受實惠方為妥善仍著遵照昨降諭旨先行刊刻謄黃于該三府屬缺雨處所通行曉示俾窮民知口食有資而市儈亦不致有屯積居奇之事以副朕軫念民依先事綢繆至意將此由三百里傳諭知之

欽此遵

旨寄信前來

1729 乾隆五十七年四月十一日奉

旨此案著交畢沅提集犯証嚴審定擬具奏所有原告劉大鴻等五犯著照例解往備質欽此

1730 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 乾隆五十七年四月十一日奉

上諭本日有道旁告狀人湖南辰州府鳳凰廳生員

劉大鴻及里民劉勝學等喧喊遞呈當交軍機大

臣詢問所控情節緣該廳五司借兵糧為名派買倉穀照糧開單每田一畝連加耗實需出穀九斗三升該地方官每穀一斗僅發官價五分貧民逃避不前輒票差花戶鎖押等情並細閱原呈該處兵糧定例于各府州產米縣分採買近年始違例于該廳五司地方買穀填倉照糧派買又復浮收斗面準折銀兩如果所控屬實則該地方官違例勒買自應查明懲辦但劉大鴻身列巽序輒敢會合里民以一廳五司派買之事並未向該省各衙門具控徑赴行在呈告胆敢于蹕路聚集喧嚷此風斷不可長昨因該省巴陵縣藍青薦命案曾明降諭旨令畢沅親赴湖南提集犯証覆加審訊所有劉大鴻等控告一案即著畢沅一併親赴該處徹底嚴究該地方官是否違例勒買倉穀有無多收準折各情弊若所控全虛自應按律嚴行治罪即訊明屬實除將該地方官嚴行叅辦外劉大鴻等聯名越控亦應從重擬發新疆以示嚴懲畢沅務當秉公據實辦理即按例嚴審定擬具奏劉大鴻等現交直隸省迅速解往原呈及軍機大臣訊

問該犯原供一併發交畢沅閱看將此諭令知之  
欽此遵

旨寄信前來

1731 臣等將本日道旁叩

閩人嚴切訊問據劉大鴻供我係湖南辰州府鳳凰廳生員年四十八歲我們一廳五司例不派買兵糧五十四年鳳凰廳周太爺奉王道憲牌委巡檢徐老爺下鄉派買倉穀借兵糧積穀為名每田一畝派買穀四斗我有地五畝零應買穀二石一斗六升每斗加耗穀五升共交穀三石三斗四升官府只發銀一兩零八分我粘在呈上的銀封就是憑據那年沒有穀子交的人家官府先發銀一兩要民間交銀二兩補銀水五分這都是糧書楊勝德開單承辦的五十五年謝太爺沒有買穀五十六年朱太爺到任要補買五十五年及五十六年倉穀每田一畝要派買六斗二升連加耗實要九斗三升這都是糧書陳自隆等承辦的糧廳又差衙役滕華等下

鄉將花戶鎖拿我們因買穀不起曾經押追實在氣忿不過是以逃出來邀族姪劉勝學親戚曹必選莫朝拔陳清伯一同來叩

閩的我恐怕在本省兩司督撫衙門控告不能准辦是以未經具控等語隨將劉勝學曾必選莫朝拔陳清伯逐一研訊並令與劉大鴻當面質對供亦相同 臣等當即眼同將該犯等各重責六十板示眾並擬寫寄信畢沅

諭旨進

呈謹

奏

四月十二日

1732 據穆騰額告稱面奉

諭旨蘆東商人節年緩徵帶徵銀兩准予原限七年內將銀數均勻帶徵等語 臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

四月十二日

1733 乾隆五十七年四月十二日內閣奉

上諭前據戶部議駁穆騰額奏蘆東商人節年緩帶各項不准再行展限一摺原屬照例辦理已依議行矣但念該商等資本微薄從前原定七年限內前數限應交緩帶銀兩較多若今按限照數完納商力究未免拮据所有長蘆商人乾隆四十八至五十四等年緩徵引課未完銀一百五十三萬六千餘兩山東商人乾隆四十八至五十五年緩徵引課未完銀七十二萬六千六百餘兩著加恩于本年奏銷後仍按原限分作七年將銀數均勻帶徵以紓商力該部知道欽此

1734 乾隆五十七年四月十二日內閣奉

上諭據吉慶奏登州鎮總兵朱泰德現在患病請回旗調理等語朱泰德著准其回旗調理所有山東登州鎮總兵員缺著恩特黑默補授欽此

1735 乾隆五十七年四月十二日內閣奉

上諭兩淮鹽運使員缺著柴楨補授浙江鹽道員缺亦屬緊要著該督撫于寧紹台道張慎和溫處道張映璣二員內揀選一員調補其所遺員缺著張道源補授欽此

1736 乾隆五十七年四月十二日奉

旨這所叅江川縣典史余永芳著即革職江川縣知縣李登瀛著交部嚴加議處其挈獲隣省逃遣之文武員弁著照該督等所請交部照例分別議叙該部知道摺併發欽此

1737 乾隆五十七年四月十二日奉

旨李二劉之禮王虎子均著即處斬餘依議欽此  
山東省盜犯

1738 乾隆五十七年四月十三日內閣奉

上諭據伍拉納奏武職副叅遊擊等官久經停止抹發現在浙省出缺甚多乏人委用請于候補候選人員內揀發副將叅將遊擊各二員來浙差委等語著照所請派綿恩阿桂胡李堂照例揀選于本月十七日帶領引見發往該部知道摺併發欽此

1739 乾隆五十七年四月十三日內閣奉

上諭廣東廣州府知府員缺緊要著該撫于通省知府內揀員調補所遺員缺著葉汝蘭補授其所遺員缺著吳翰補授欽此

1740 乾隆五十七年四月十三日奉

旨刑部議覆安徽省民人程光鋸毆死胞弟程南運并弟媳汪氏二命問擬斬決一本已照簽發下矣程光鋸因胞弟程南運不允借錢蓄意謀殺前赴程南運家內携取柴斧先將弟媳汪氏砍斃復將胞弟程南運連砍殞命挾嫌逞忿實為殘忍已極

該犯因借錢細故殺死胞弟弟妻二命該部照平人科斷依殺一家非死罪二人問擬斬決其罪已無可復加核其情節與前日四川省陳啟賢陳啟才殺死胞叔陳公奇並胞叔之妾陳王氏一案情罪相似陳啟賢等二犯子嗣已令該督查明年已及歲者永遠監禁今程光鋸子嗣亦應照此辦理但此等罔顧倫常逞兇殘殺二命之犯若將其子嗣永遠監禁轉得安坐囹圄尚不足以儆所有此案程光鋸之子並前此四川省陳啟賢陳啟才子嗣俱著發往黑龍江給兵丁為奴以飭倫紀而儆兇頑嗣後似此情節殘忍者俱照此酌核辦理欽此

1741 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十七年四月十四日奉  
上諭朕駐蹕五臺時該處地方疊遇雨雪阜平亦得雨三寸土膏極為滋潤自入直隸界後間有微雨飄洒總未成分寸未知晉省近日曾否續沛甘膏

現交夏令農民待澤之時朕心深為屢念著傳諭馮光熊山西通省春雨是否一律優沾相距不遠何以未據該撫奏報該省入四月以來各屬有無續報雨澤之處應即查明覆奏以慰懸注將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1742 臣等將道旁叩

閩人王繼成嚴加審訊該犯目瞪口呆神迷語無倫次再三嚴究並加以責打唯云自今年三月初三日每夜有人來敲門及出來開門又並沒有人夜夜如此我連飯也不愿吃到十二日夜間又有人來敲門叫我去接

主子我就趕到這裡大道邊跪著的並無別的緣故等語臣等看其情形實係痰迷中邪並無控告別情相應請

旨發交地方官嚴行監禁毋許出外滋事謹奏

十四日

1743 大學士伯和 字寄

葉爾羌辦事大臣琅 乾隆五十七年四月十五日奉

上諭據長麟覆奏范公塘一帶所築挑水壩柴工不如石工之堅固經久應仍用石壩既省柴斤挑水又復得力當經降旨令琅玕將從前何所見而率為改用柴工之奏又因何並未補修以致壩工現有坍塌之事據實明白迴奏並令福崧將琅玕于五十四年奏請改用柴工後曾否將此項柴壩開工修築之處查明具奏茲據福崧奏稱范公塘一帶埽工五十四年四月間前撫臣琅玕雖經奏請改築柴壩旋因潮神廟逸西一帶陰沙增漲並未動工等語此項壩工原為挑溜護塘而設從前琅玕在任時如果因要工起見即應于奏請改用柴工後即為修理以資捍衛若係無關緊要之工又何必妄議更張多此一奏今據福崧稱琅玕奏請改築柴壩並未動工是此項柴工雖經琅玕具奏並未認真修理今幸石壩業已增修前奏柴工原可



無庸改築不致虛費物料但從前琅玕何以必欲改用柴工亟為奏請而具奏後又不動工補修可見琅玕在任時于海塘要工並未實心經理不過據拾虛詞為此有名無實之奏甚屬非是琅玕著傳旨嚴行申飭仍令其據實明白迴奏福崧原摺著抄寄閱看欽此遵

旨寄信前來

1744 大學士伯和 字寄

左都御史紀 乾隆五十七年四月十五日奉  
上諭紀昀奏現在熱河覆勘天津閣書籍經部業將完竣簽出空白舛誤一千餘條分別修補其空函書內並無天文算法罰來覆勘之欽天監官賈德輔無書可勘等語天津閣書籍上次紀昀帶同詳校官員前赴熱河業已校勘完竣分別改正何以揚雄法言一書空白未填上年既經朕看出此次復又有簽出空白舛誤一千餘條之多可見校勘一事全屬有名無實至空函書內並無天文算法則欽天監官賈德輔即何必令其前往徒勞跋涉

紀昀著傳旨申飭並令將覆校各書務臻完善毋得再有舛誤致干咎戾若朕駐蹕熱河時再經指出錯誤必當重治其罪也將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1745 乾隆五十七年四月十五日內閣奉

上諭諾穆親奏本月十三日夜土壩號房後身居民紀榮三家失火延燒號房六間將該管州同蘇曰柄奏請革職等語土壩號房為儲米重地該處既設有州同衙署自應常川駐劄以便稽查況現在正當重運起卸之時尤宜加意防範小心職守乃該州同蘇曰柄竟敢擅離衙署進城拜客連日不歸于失火之夜並未在署隨同即時撲救以致延燒號房幸此時尚未起米該處號房止係空屋若已堆貯漕米或竟致被燬尤屬不成事體此等怠玩不職之員不可不嚴行示儆僅予革職不足蔽辜蘇曰柄著革職解交刑部治罪再現在氣候乾燥漕米陸續起卸火燭最關緊要著諾穆親嚴飭

該管各員率同人役留心防範毋得稍有疎虞致  
干咎戾欽此

1746

查紀昀摺內所稱並無天文算法等書可勘之  
語專指空函書而言此項空函書係辦理四庫  
全書完竣後續辦歸架者如一統志石峯堡紀  
略臺灣紀略之類本無天文算法在內其天文  
算法等項俱係舊有成書已列入全書子部內  
所有

文淵

文源兩閣全書與熱河

文津閣相同似可無庸派員查勘至此次復行簽  
出空白舛誤一千餘條臣等暫行存記統俟紀  
昀等看竣時再行歸總計算從嚴議處謹  
奏

四月十五日

七五〇

1747

臣等遵將康熙年間原任兩廣總督金光祖有  
無子孫及現在是否有居官之人寄京交查該  
旂茲據覆稱金光祖之五世孫金作兩現任門  
千總其餘四世孫金式英等八人俱係充當領  
催馬甲步甲砲手等項差使餘俱閑散幼小等  
語謹

奏

四月十五日

1748

乾隆五十七年四月十八日奉

旨王懿德著從寬免其革任仍註冊恩長著銷去加  
二級免其降調其因會審錯擬罪名議以降調之  
錫麟著該督撫出具考語送部引見再降諭旨餘  
依議欽此

1749

同日奉

旨這所叅永順府通判李珩著革職交與該撫提同  
犯証嚴審定擬具奏欽此

1750 乾隆五十七年四月十八日內閣奉

上諭穆和蘭奏河北彰德衛輝懷慶三府屬地方現在未得透雨麥苗漸形黃萎正當新舊開徵之際民情不無拮据請將安陽等二十一縣應徵新舊錢糧倉穀懇恩緩徵等語前因該省河北三府自三月以來未得透雨時屆立夏恐麥收歉薄應早為設法接濟業經先期降旨諭令梁肯堂劉秉恬截留漕米三十萬石運交豫省以備河北三府接濟之需茲據該撫奏到河北被旱情形朕心深為軫念著再加恩將彰德府屬之安陽湯陰臨漳林縣武安涉縣內黃衛輝府屬之汲縣新鄉輝縣獲嘉淇縣延津滑縣濬縣封邱考城懷慶府屬之修武武陟陽武原武等二十一縣應徵新舊錢糧倉穀等項一併緩至本年秋後徵收以蘇民力該撫務須實力查察毋任吏胥滋弊以副朕軫恤民隱至意該部知道摺併發欽此

1751 乾隆五十七年四月十八日奉

旨冀免子著即處絞餘依議欽此

河南等處直隸省行  
拒捕首犯審擬一案

1752 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年四月十八日奉

上諭穆和蘭奏連日祈禱雨澤河北彰德懷慶衛輝三府終未得有透雨麥收已屬無望民情不無拮据請將三府屬應徵錢糧緩徵等語業經明降諭旨將安陽等二十一縣應徵新舊錢糧一併緩至秋後徵收以紓民力矣朕前因該省北三府雨澤愆期若俟地方官具報到日再降諭旨恐民力不無拮据業經先事籌畫截運漕米三十萬石交穆和蘭酌量存貯備用並有旨飭令派委道府大員迎赴前途督運回豫籌辦接濟矣今始據該撫將三府屬被旱情形及應緩徵之處奏請加恩所奏已失之遲緩所有截存漕米如何分別戶口多寡災分輕重酌量接濟及此次緩徵各事宜該撫

務須督率屬員實力經理毋任地方官吏從中滋  
弊俾小民均沾實惠以副朕軫念災黎至意方為  
妥善若再辦理不善小民勿受實惠其過當為誰任  
將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1753 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年四月十八日奉  
上諭穆和蘭奏河北鎮總兵王普染患目疾請解任  
調理一摺所奏殊遲已有旨將王普休致另行簡  
放矣王普前于高雲從案內獲譴復行加恩錄用  
為朕所素知之人該鎮目疾復發至于考較官兵  
鎗箭俱不能審視以致噴有人言且其精力衰頹  
亦未必復能痊愈總兵為專閫大員河北地尤衝  
要穆和蘭自應隨時查察早行奏聞何得直至此  
時始行奏請解任豈不慮其貽誤營務耶所辦實  
屬遲緩穆和蘭著傳諭申飭欽此遵  
旨寄信前來

1754 乾隆五十七年四月十八日內閣奉  
上諭穆和蘭奏河北鎮總兵王普染患目疾難以就  
痊等語王普目疾復發至于瞳光昏闇且已精力  
衰頹著以原品休致其河北鎮總兵員缺著張文  
奇補授欽此

1755 查乾隆五十二年四月十六日奉

旨交禮部祈雨其清理庶獄五十三年于四月初九

日降

旨五十六年于四月二十一日降

旨臣等謹一併擬寫

諭旨進

呈謹

奏

1756 乾隆五十七年四月十八日內閣奉

上諭京師自入春以來雨澤稀少未能透足本年雖  
有閏月而現在已逾立夏正當麥苗長發之時民

間望澤甚殷朕心深為厯切著該部照例敬謹設壇虔誠祈禱以期渥霈甘霖欽此

1757 乾隆五十七年四月十八日內閣奉

上諭京師自本年二月以來雖經節次得雨總未沾足現屆麥苗長發之際望澤甚殷因思清理庶獄或可感召甘霖著刑部堂官查明徒罪以下各案情罪較輕者分別減等發落其因事牽涉拘繫候質者亦速行訊明省釋至尋常案件並著即行完結毋得稽滯該部即遵諭行欽此

1758 大學士公阿 大學士伯和 字寄

甘肅陝西河南湖北安徽江西各督撫 乾隆五十七年四月十八日奉

上諭據保寧奏遣犯羅喜山于五十六年二月二十九日在配脫逃等語羅喜山因假裝行客出外疊竊審依積匪猾賊例發往伊犁給種地兵丁為奴之犯今胆敢脫逃情殊可惡該犯係江西上高縣人或徑潛逃回籍或于經過地方逗遛藏匿均未

可定著傳諭甘肅陝西河南湖北安徽江西各督撫一體飭屬嚴密查拏毋任遠颺漏網所有保寧奏片並抄寄閱看將此各諭令知之欽此遵旨寄信前來

1759 乾隆五十七年四月十九日內閣奉

上諭梁肯堂奏順德廣平大名三府屬并順德毗連之趙州及所屬各州縣本年入春以後雨澤缺少二麥難冀有收民力不無拮据請將邢臺等一十九州縣元城等一十三州縣本年節年應徵新舊錢糧倉穀分別緩徵等語前因該省順德廣平大名三府屬自三月以來並未得有雨澤麥收不無歉薄業經先期降旨諭令梁肯堂劉秉恬于南糧漕船內截留漕米三十萬石以備該三府接濟之需茲據該督奏到被旱情形朕心深為軫念著再加恩將順德府屬之邢臺沙河南和平鄉廣宗鉅鹿唐山內邱任縣廣平府屬之永年邯鄲成安肥鄉曲周廣平雞澤威縣清河磁州等一十九州縣

本年應徵倉穀同節年未完錢糧倉穀及大名府屬之元城大名南樂清豐開州東明長垣趙州并所屬之柏鄉隆平高邑臨城寧晉等一十三州縣本年節年應徵新舊倉穀錢糧等項一併緩至本年秋後徵收以蘇民力該督務須實力查察毋任吏胥滋弊以副朕軫恤民隱至意該部即遵諭行摺併發欽此

1760

大學士公阿 大學士伯和 字寄

倉場侍郎劉 直隸總督梁 乾隆五十七年

四月十九日奉

上諭劉秉恬等奏連日將廬州頭幫漕米開斛起兌并將東豫二省回空軍船上緊催備南下前至臨清以為撥給順德等屬南糧運入衛河之用等語現又據穆和蘭奏稱接奉諭旨後即飭委糧道劉文徽帶同通判知縣及佐雜各員分赴天津臨清聽候截撥領米一摺計此時河南委員等諒已陸續到齊著劉秉恬等即將運撥糧石照數分撥裝載飭令督運之糧道及領運之正協各員妥為照

料沿途嚴密稽查務期迅速運到以資河北三府接濟之需所有穆和蘭摺即著抄寄劉秉恬等閱看至直隸順德府等屬目下曾否得有透雨未據梁肯堂奏到朕心深為廕念並著梁肯堂即行查明具奏欽此遵旨寄信前來

1761 乾隆五十七年四月十九日內閣奉

上諭直隸通州協副將員缺著王文雄補授欽此

1762 遵將

硃批福康安等奏籌議糧運事宜及穆和蘭奏欽奉恩旨截留南糧漕米接濟河北民食各一摺交本日奏事之九卿等閱看據金簡等僉稱我

皇上聲靈赫濯屢奏鴻勳凡遇軍行糧運事宜從不靳惜

帑費是以兵將効命爭先所向克捷今大兵征勦廓爾喀經福康安等以軍需格于成例籌議入

奏即蒙

諭旨將用兵不惜費之

聖意明白宣示惟期迅速成功俾福康安等接奉  
硃批得以專意進剿必能蕩平賊境永靖邊疆至豫

省河北三府因三月以來未得透雨仰蒙

聖慈屢念民食先事綢繆于該撫未奏到之前早降  
諭旨將南糧漕米截留三十萬石以為該三府接濟  
之需昨復經

加恩將該三府新舊倉穀錢糧緩至秋後徵納

鴻施稠疊節屋優沾該處民人自可無失所之慮臣  
等恭閱之下實不勝欽佩悅服之至等語謹

奏

1763 乾隆五十七年四月二十日內閣奉

上諭據馮光熊覆奏查審遣犯李相湯在監自戕身

死一案覆審刑書禁卒人等供稱委係該犯畏罪

自戕典史邵瀾並無恐嚇凌虐情事但疎于防範

實屬不職仍請將榆杜縣典史邵瀾革職知縣孟

毓潔交部議處等語此案前因該撫原摺內稱李

相湯向因與民婦周郝氏調戲經郝氏報約投縣

李相湯復聲言郝氏本係娼婦並指典史邵瀾曾

與飲酒旋據審明實係李相湯乘醉調戲捏詞牽

扯將該犯問擬發遣李相湯于典史查驗箕斗之

後自戕身死等語以所奏情節未為確實或係典

史邵瀾因該犯誣指狎妓之嫌恐嚇凌辱以致該

犯抱忿自戕亦未可定因令馮光熊另行確審具

奏今既據該撫審明該犯委係畏罪自戕該典史

實無挾嫌恐嚇凌虐情事則該典史尚無不是乃

仍請將典史革職知縣交部議處所辦未免過當

除將原摺交部外其該撫所奏典史邵瀾革職知

縣孟毓潔請交部議之處俱著加恩寬免欽此

1764 乾隆五十七年四月二十日內閣奉

上諭刑部題覆安徽省姦犯王林遠扎傷姦婦夫兄

鄭瑤典身死將王林遠依罪人拒捕殺所捕人者

律擬斬監候直隸省賊犯黃昆等毆傷事主楊文

德身死將黃昆依竊盜臨時拒捕為首殺人例擬

斬立決二本已照簽下矣又題覆山東省民犯劉

書圖脫拒捕砸傷捕役喬振緒身死將劉書依犯罪逃走拒捕殺所捕人律僅擬斬監候未為允協黃昆係屬賊犯臨時拒捕傷殺事主自應照例斬決至王林遠與鄭瑤典俱係平民其捉姦被扎身死將王林遠問擬斬候已足蔽辜若劉書係毆傷堂嫂拘押候質之犯乃敢硬自跑走及經縣役堵挈輒用石向砸致傷身死以犯人而拒殺在官人役一死二傷豈王林遠之拒殺鄭瑤典可比乃僅擬斬候使之監禁稽誅從前定例本未平允刑部援引定擬亦未加細酌以致失當嗣後除拒殺所捕係屬平民者仍照舊例辦理外其在官兵役自應奉票差拘以及簽派看守押解人犯如無恐嚇凌辱索賄情事犯人敢于圖脫毆打致斃者概不當復擬斬候其應如何酌行改定之處著該部悉心妥議具奏欽此

1765 大學士公阿 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十七年四

月二十日奉

上諭據郭世勳奏挈獲新會縣拒捕傷兵淹斃多命之盜犯歐陽愈盛等又茂名縣拒捕傷人梟犯崔亞生一名俱經審明正法各摺所辦尚為妥速該省地屬海疆時有盜匪出沒及販買私鹽逞兇拒捕均須嚴行懲治郭世勳自署理督篆以來飭屬認真巡緝挈獲辦理尚屬得當著交部議叙現在福康安統領大兵進剿廓爾喀賊匪歲事尚需時日郭世勳于該省地方要務益當督飭所屬加意奮勉毋稍疎懈以副委任其案內逸犯仇老英現在曾否就獲應飭令嚴行緝務期弋獲正法毋致漏網將此諭令知之欽此

1766 乾隆五十七年四月二十日內閣奉

上諭據郭世勳奏新會營把總談時泰等挈獲拒捕傷兵盜犯歐陽愈盛等恭請王命正法臬示一摺



已批交該部矣談時泰巡查河面遇見盜船即協同縣役拏獲盜犯多人尚屬認真巡緝談時泰著送部引見其因賊夥拒捕以致船覆斃命之管隊梁韜等七名俱著交部照例議卹欽此

1767

大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十七年四月二十日奉

上諭馮光熊奏雨水糧價情形摺內稱查太原等屬先後稟報三月二十四五及四月初二等日得雨一二三寸等語太原等屬得雨三寸地方子麥田尚屬有裨若得雨僅止一二寸者不過稍滋土脉麥苗豈能藉之長發雖山西地方非若直隸南三府豫省北三府連年歉收閭閻毫無蓋藏者可比但得雨僅止一二寸之處又何足以資沾潤現在正值麥苗長發大田播種之時農民待澤孔殷所有得雨一二寸地方曾否續沛甘膏于麥苗大田有無妨碍倘因雨澤未能透足或致歉收民力稍形拮据著馮光熊即速查明具奏以慰廛注不得稍存諱飾之見將此諭令知之欽此

1768

乾隆五十七年四月二十一日內閣奉

上諭郭世勳奏審辦吳川縣知縣沈峻偏斷庇縱延緩朦詳知府徐學僑任聽縱役頂替審明定擬一摺已交該部議奏矣此案參革知縣沈峻將現獲私販並不嚴行跟究輒行釋放實屬任意輕縱該署督將沈峻問擬發遣新疆實為罪所應得至知府徐學僑于沈峻解犯遲悞並不實力催提且于該縣釋放私犯及家人需索陋規勒買埠屋衙役私行頂替等弊均毫無覺察僅擬革職不足示懲徐學僑著發往軍臺効力贖罪以昭儆戒摺併發欽此

1769

本月二十一日吏部將前任兩廣總督孫士毅保舉堪勝知府之廣東嘉應州知州戴求仁一員帶領引

見奉

旨戴求仁著交軍機處記名

1770

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
閩浙總督伍 乾隆五十七年四月二十二日  
奉

上諭據温州鎮總兵謝斌奏請陞見一摺已准令來  
京矣温州地處海洋一切巡查會哨及緝拏洋盜  
各事宜緊要著伍拉納即遴選妥員奏明委署謝  
斌俟交代後再行啟程來京陞見將此傳諭伍拉  
納並諭謝斌知之欽此遵

旨寄信前來

1771

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
山東巡撫吉 乾隆五十七年四月二十二日  
奉

上諭據吉慶奏山東省城于三月二十五日得雨之  
後四月十七日又得雨二寸滕縣鄒縣城武等處  
亦于十五日均得雨二寸惟附近直隸大名之館  
陶冠縣邱縣曹州府屬之濮州范縣并德州間有  
雨水未能透足之處等語本日據蘇寧阿奏直隸

景州安陵于本月十七日得雨三寸景州與德州  
境壤毗連今景州安陵既得雨三寸其德州曾否  
同時得沛甘膏並現在附近大名之館陶等縣及  
曹州德州一帶曾否續得雨澤一律深透于大田  
有無妨礙之處著該撫即行查明迅速具奏以慰  
廑注欽此遵

旨寄信前來

1772

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
直隸總督梁 乾隆五十七年四月二十二日  
奉

上諭本日據蘇寧阿奏直隸景州安陵于四月十七  
日得雨三寸等語直省雨澤愆期現在盼望甚殷  
景州安陵既經得雨該州縣自必隨時稟報何以  
未據梁肯堂具奏昨據正定鎮總兵德克精額奏  
正定地方于四月十七日得雨三寸有餘本日又  
據吉慶奏山東省附近大名之館陶冠縣等處得  
雨未能透足看來直隸河間天津及保定以北均  
覺缺雨日內曾否得有澍澤之處梁肯堂現駐天

津著即迅速具奏以慰屢注欽此遵  
旨寄信前來

1773 乾隆五十七年四月二十三日內閣奉

上諭穆和蘭奏報二麥約收分數一摺據稱河南省  
彰德衛輝懷慶三府所屬之二十一縣兩澤愆期  
麥收歉薄其餘八十七廳州縣通計合算收成約  
計七分有餘等語所奏詞語牽混未免涉于諱飾  
二麥約收分數係合通省計算今河南省雖止彰  
德衛輝懷慶三府缺雨歉收其餘各屬收成仍有  
七分有餘但該撫叙摺時自應于合算之處將缺  
雨之河北三府屬歉收情形分晰聲明始為核實  
今率以通計合算籠統聲叙竟似河南通省收成  
均屬七分有餘殊為牽混天下之大雨水原不能  
一律調勻間因短缺兩澤二麥歉收亦屬事所難  
免况豫省河北三府缺雨朕于未報歉收之前早  
經先事綢繆降旨截留漕米三十萬石運往該處  
以資接濟該撫又何必諱言為此含混之語設各

督撫踵而行之習為諱飾豈朕軫念災區勤恤民  
隱之意耶將此通諭知之欽此

1774 乾隆五十七年四月二十三日內閣奉

上諭御史曹錫齡奏京畿自春入夏以來得雨未能  
霑足請將法司問擬立決之案除情罪重大者照  
例辦理外其餘命盜案內按律問擬即應處決之  
犯可否暫停題奏一摺所見甚淺兩澤愆期關係  
民瘼朕宵旰焦勞刻加循省如果朕躬或有闕失  
或內外大臣中有黨援貪贖及壅蔽下情之事以  
致上干

天和恒曷示懲微諷御史原應具疏入告朕必嘉其諫直現在紀綱振飭並無前項情事該御史

徒敷衍虛詞以冀朕嘉其進言或邀恩賞甚無謂  
也本年缺雨之處惟直隸迤南順德廣平大名三  
府並保定以北州縣望澤惟殷並非各直省在在  
缺雨况經朕已降恩旨令刑部清理庶獄查明徒  
罪以下減等發落並將拘繫候訊者訊明省釋尋  
常案件速即完結以冀感召

麻和甘霖速沛不過如此而已今該御史因有此旨乃

奏請將各省命盜案件律應問擬立決者一概暫  
停題奏試思各直省與京畿何涉且邊遠省分即  
間擬立決之犯經法司題奏後知照各該省亦須  
遲至數月方行處決焉有因京師及畿輔數處偶  
缺兩澤即將各直省命盜案件應擬立決之犯概  
行停辦以致懸案不結日久積壓更復成何政體  
該御史所奏甚屬迂謬原摺擲還並著傳旨申飭  
欽此

1775 乾隆五十七年四月二十三日內閣奉

上諭姚茶奏江西省試用知縣現在乏人遇有缺出  
不敷差委請揀發知縣六員以資委用等語著照  
所請即派此次驗看月官之大臣會同該部于候  
補候選人員內照例揀選帶領引見發往欽此

1776 乾隆五十七年四月二十六日內閣奉

上諭書麟等奏縱匪匿報之蕭縣知縣黃大有一  
摺黃大有于地方被搶案件經事主具報後既不

上緊緝拏迨至鄰縣獲犯移解又不照例收禁即  
時審辦以致案犯脫逃復敢諱匿不報殊出情理  
之外僅予革職不足蔽辜黃大有著革職拏問交  
該督撫等提同案內人犯一併嚴審定擬具奏仍  
即督飭所屬將逸犯上緊緝拏務期弋獲毋任遠  
颺漏網該部知道欽此

1777 大學士公阿 大學士伯和 字寄

奉 兩江總督書 乾隆五十七年四月二十六日

上諭書麟奏縱匪匿報之蕭縣知縣黃大有一摺  
已另降諭旨將黃大有革職拏問矣蕭縣地方雖  
同係該督撫所屬但距江寧甚近自係書麟平日  
不能約束所屬以致該縣有此等玩悞諱匿之事  
即此案與長麟會銜具奏亦係書麟主政知會長  
麟一同列名其廢弛地方實屬書麟一人之咎又  
書麟另摺覆奏裁汰站船一摺可謂不知恥書麟  
在兩江總督任內已久既以此項站船虛設無用  
何以從前並未具奏直至長麟到任後查出始行

殊

會銜奏請裁汰即此兩事而論可見書麟于地方  
事件一味因循毫無整頓不過據決自守無策耳殊負朕委瑣錄用之意  
書麟著傳旨申飭嗣後倘再不知悔改則竟甘于  
自棄朕亦無可再諭矣慎之將此傳諭書麟並諭  
長麟知之欽此遵  
旨寄信前來

1778  
遵

旨將

殊批畢沅等審擬窩竊謀命之陶之棟一犯請

旨即行正法一摺交御史曹錫齡閱看並將

諭旨指出之處面加詢問據曹錫齡跪稱陶之棟一

犯窩賊肆竊復敢挾張應太引挈之嫌縛手毆

打因其欲行告官輒用鹽酒灌食致斃按律應

擬斬監候但該犯又用賄私和以致稽誅三四

年之久不法已極今經該地方官拏獲若不請

旨即行正法是使張應太含冤地下久而不伸蒙

發交三法司核擬速奏即予正法俾冤抑早得昭雪

而免徒知所做戒實為辟以止辟之義前此錫

齡冒昧請將應行立決之犯暫緩題奏今跪聆

聖訓如夢方覺實在惶悚無地等語又將

殊批書麟摺交尹壯圖閱看並遵照

諭旨傳詢據尹壯圖跪稱書麟在江年久于應行裁

撤站船並未早行陳奏而蕭縣知縣黃大有縱

匪匿報一事亦由書麟平日不能整飭官方遇

事廢弛所致此等因公錯悞誠如

聖諭若將書麟遽予罷斥一時人才難得豈能多為

預備更換但竟不予以罰懲封疆大吏又無以

示儆壯圖知識昏昧從前實見不到此屢荷

聖明指示悚惕愧悔不能自己茲蒙傳

諭實深感懼並將本日遞下

諭旨及常青等覆奏片一併交曹錫齡尹壯圖閱看

禽稱我

皇上念切民依無時或釋而于辦理庶務均屬權衡

至當凡在臣工無不同深欽感等語謹

奏

1779 乾隆五十七年四月二十六日奉

旨陶之棟著即處斬餘依議欽此

湖北省賊匪挾指等之嫌毆斃人命復贖和稽誅四年一案

1780 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年四月二十六日奉

上諭穆和蘭奏河北安陽等二十一縣至今未獲大沛甘霖現值青黃不接之時麥收失望秋禾雜糧亦尚未能播種齊全懇概行借給一月口糧其平糶穀價照歉歲減價之例每石較市價酌減銀一錢俾資買食等語自應如此已批交該部速行矣前因豫省河北三屬暨直隸順德廣平大名三府雨澤缺少早經降旨令于南糧漕船內各截留三十萬石以備接濟之需今河北三府業經穆和蘭酌籌借糶而直隸順德等處亦迄今未據奏報續得透雨雖已請將三府新舊錢糧概予緩徵但究

恐民力不無拮据朕心深為厯念著傳諭梁肯堂即將缺雨各屬現在曾否得有雨澤應否照豫省借給口糧及減價平糶之處迅速查明據實具奏所有穆和蘭摺並著抄寄閱看欽此遵  
旨寄信前來

1781 遵

旨將本日

硃批穆和蘭摺並臣等議覆福康安等工價事宜等摺交本日奏事之九卿等閱看據常青等食稱我

皇上厯念雨暘無時或釋因直隸順德等三府河南

彰德等三府雨澤缺少早蒙

特降恩旨截留漕米六十萬石預備接濟之需並將

新舊錢糧緩徵以紓民力茲因穆和蘭奏請酌

籌借糶既蒙

恩准復蒙

垂詢梁肯堂令將直隸缺雨各屬應否照豫省借糶之處據實具奏尤仰見

皇上痼瘵在抱無不先事預籌至福康安等奏採買  
稞麥支銷炒磨工價定例本無開銷之條其程  
站照上次成案加至一倍軍機大臣照例議駁  
荷蒙

聖主格外鴻慈悉照福康安等所請准其作正開銷  
益見我

皇上體恤戎行無微不至將弁兵丁等自當倍加感  
激奮勇爭先即可迅速歲事又恭閱

硃批書麟畢沅等摺更見我

皇上日理萬幾凡臣工之功過庶獄之重輕無不權  
衡至當纖悉靡遺實深欽佩之至等語謹

奏

1782 遵將上三屆

考差四書題詩題開單進

呈

\* 五十一年丙午科

四書題

誠者自成也

人能無以饑渴之害為心害

詩題

賦得麥浪 得難字五言八韻

五十三年戊申

恩科

四書題

君子無入而不自得焉

而獨於富貴之中有私龍斷焉

詩題

賦得棲鳳難為條 得年字五言八韻

五十四年己酉科

四書題

巧言令色鮮矣仁

有伊尹之志則可無伊尹之志則篡也

詩題

賦得歌器 得知字五言八韻

四月二十六日

1783

查向來惟大齋戒日期刑部例不進立決本至  
祈雨齋戒刑部遇有立決本仍照常呈進及斷  
屠之日亦俱照例進本似可無庸擬寫

諭旨謹

奏

四月二十七日

1784  
遵

旨將譚洪列傳交查

國史館茲據覆稱譚洪係編入逆臣傳內尚未繕

有正本謹開具畧節進

呈謹

奏

1785

乾隆五十七年四月二十七日內閣奉

上諭雲南永昌府知府員缺著屠述濂陞署欽此

1786

乾隆五十七年四月二十七日內閣奉

上諭書麟等奏江西九江前幫漕船渡黃時陡遇暴  
風折斷舵杆均各搶救無虞惟徐子信等四船冲  
入河心船身漂滿所裝漕米盡行沉失淹斃水手  
等六名又朱伏一等二船水湧入艙登時側溺沉  
濕米石現俱搶獲等語江西九江前幫漕船在黃  
河陡遇風暴人力難施以致漂失米石淹斃人口  
殊為可憫所有旗丁徐子信傅勝樂徐全商陳玉  
軍船四隻漂沒米石席竹著加恩全行豁免船隻  
給料成造其淹斃水手人等照例優恤即得生者  
亦屬可憫均著酌加賞賚至旗丁朱伏一劉合二  
船所撈濕米著准其將食米易換同搶獲乾米分  
洒通幫赴通交納以示體恤該部知道摺併發欽  
此



1787 乾隆五十七年四月二十七日內閣奉

上諭富綱等奏滇省丞倅州縣現在乏人每遇缺出及緊要差務不敷差委請揀發同知二員通判二員知州四員知縣四員來滇委用等語著照所請即派此次驗看月官之大臣會同該部于候補候選人員內照例揀選帶領引見發往又據奏迤東道恩慶因所轄寶寧縣解審兇犯在途脫逃部議降二級以同知補用查該員在滇年久熟悉風土民情請留滇委用等語亦著照該督等所請恩慶即留于滇省以同知委用俟有相當缺出再行奏補摺併發欽此

1788 乾隆五十七年四月二十八日奉

旨本年舉行鄉試所有應行開列試差之進士出身人員著于四月三十日在正大光明殿考試仍著吏部照例按各衙門次序于閏四月初二初三日帶領引見欽此

1789 乾隆五十七年四月二十八日內閣奉

上諭孫士毅奏寧遠府知府符兆熊阜和協副將趙秉彝辦理軍務不辭勞瘁實為得力之員又原任安徽巢縣教諭周諒自上年帶至打箭爐幫辦幕務晝夜經理毫無貽誤實屬能事等語符兆熊趙秉彝俱著賞戴花翎以示鼓勵仍于應陞處記名用周諒著賞給內閣中書俟軍務告竣再行送部引見欽此

1790 大學士公阿 大學士伯和 字寄

甘肅陝西河南湖北安徽江蘇各督撫 乾隆五十七年四月二十八日奉

上諭據保寧奏遣犯陳文在配脫逃逾限未獲等語陳文因行竊虞復全家案內究出該犯前後共計十一案為積匪猾賊例改發伊犁給兵丁為奴在鉛廠當差具報為民之犯今膽敢脫逃情殊可惡該犯係江蘇丹徒縣人或徑潛逃回籍或于經過地方逗遛藏匿均未可定著傳諭甘肅陝西河南湖

北安徽江蘇各督撫一體飭屬嚴密查拏毋任遠  
颺漏網將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1791 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年四月二十八日  
奉

上諭穆騰額奏天津地方于二十五日辰刻起澍雨  
稠沛至亥刻止入土共有五寸等語覽奏欣慰昨  
據梁肯堂奏兗收漕米事竣二十五日起程回省  
由天津以至靜海創土驗看入土已及四寸等語  
看來保定一帶地方或不致大旱惟近京則實早  
矣至該督所過暨附近地方是否一律沾被未據  
續奏朕心深為屢念連日京畿雲氣甚濃似釀雨  
之勢旋為風吹散不過微點飄洒竟未得分寸  
實切焦煩看來天津及保定以南正定一帶已得  
雨澤其迤北地方均覺缺雨著傳諭梁肯堂即將  
各該處曾否得有澍澤之處迅速查明具奏再本  
年遇閏節候較早通省麥收分數此時尚未報齊

但州縣自己先將情形陸續稟報並著梁肯堂將  
直隸通省麥收牽算是否約有六七分之處先行  
奏聞以慰屢注將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

1792 乾隆五十七年四月二十九日內閣奉

上諭前日御史曹錫齡奏京畿得雨未能霑足請將  
法司問擬立決之案除情罪重大者照例辦理外  
其餘命盜案件內按律問擬即應處決之犯暫停  
題奏一摺已經降旨飭行第思禁屠祈雨原期感  
召

天和若于祈雨之齋戒日期及致祭之本日亦照常進  
立決本實不足以昭誠敬是其奏原有一半可行  
查向例凡遇祈雨齋戒日期刑部並不停進立決  
本章即本月二十一日係齋戒祈雨之期刑部亦  
曾呈進所辦誠屬未協此事阿桂未免因年老重  
聽不能領會遂相沿舊例辦理而軍機大臣于朕  
降旨時都未奏及朕一時忽畧當引以為咎朕于

臣工功過權衡至當豈肯令軍機大臣嘵嘵迴護嗣後凡遇祈禱雨澤之前一日及祭日此二日所有刑部應請立決之本俱著停止進呈以肅感孚而昭誠敬著為令欽此

1793

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
倉場侍郎劉 直隸總督梁 山東巡撫吉

乾隆五十七年四月二十九日奉

上諭吉慶奏籌辦運送豫省漕米軍船一摺內稱豫東二省回空漕船共五百九十八隻自應全行撥用以期運送迅速惟查由臨清至楚旺水次係逆流而上今歲漳衛兩河水勢微弱如船身吃重恐致稽遲現在籌酌每船只令運米三百石先裝米十七萬餘石俟卸竣回船再將未運十二萬餘石一併運交等語此項米石關係豫省民食自應迅速運送早到一日俾得早受一日之惠吉慶現在籌辦船隻恐裝米過多船身吃重行走稍遲酌量分撥輪流來回運送以期及早抵豫所辦頗見留心尚屬可嘉著傳諭劉秉恬核計豫東回空船數

酌定截留幫次隨到隨截却竟作兩番轉運度船隻既覺寬裕而途次行走亦可期輕捷俾豫省災黎得以早資接濟實有裨益吉慶摺著抄寄劉秉恬閱看並諭梁肯堂知之欽此遵

旨寄信前來

1794

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
山東巡撫吉 乾隆五十七年四月二十九日  
奉

上諭前因蘇寧阿奏景州得雨三寸將德州曾否得雨之處詢問吉慶茲據奏稱德州冠縣范縣三處于四月十七日各得雨二寸是德州一帶雨澤尚未透足又據續奏濟南省城得雨已為深透自可無需再行祈禱而該撫何以復稱率同文武虔祈自因德州雨澤未得透足之故但德州距省城二百餘里該撫或飭令該州所屬在彼設壇祈禱或親自前往率同文武祈求以冀續沛甘霖乃僅在省城遙遙致禱豈能感召

天和殊屬有名無實著傳諭吉慶即將德州一帶是否

得有透雨及因何在省祈禱之處據實覆奏以慰  
厯注將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1795

大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 河南巡撫穆 乾隆五十七年

四月三十日奉

上諭本年直隸之順德廣平大名及河南之彰德衛  
輝懷慶等府雨澤愆期麥收歉薄已截漕六十萬  
石分撥接濟將未完新舊倉穀錢糧緩至秋後徵  
收並經該督撫先後奏明酌籌借糶俾貧民得資  
口食連日據吉慶李奉翰等奏山東各屬均得透  
雨本日穆和蘭奏河南之開封歸德河南陳州許  
州陝州各屬亦于二十五六等日得有澍雨三四  
五寸以至深透不等是東省各屬及豫省之大河  
以南甘霖渥被可冀稔收將來商販自必前往糶  
買爭赴災歉地方出糶如直隸之南三府皆須仰  
給山東豫省之北三府亦藉大河以南各府糧食

硃

即京師五近亦數收

硃

運往接濟此等商販往來務須聽其自行流通以  
有餘補不足斷不可禁遏運糶以致歉收地方不  
能得食但亦不必官為經理或有擾累轉致累足  
不前祇須聽商民自便商販等惟利是圖聞知糧  
價昂貴之區自必趨之若鶩也將此諭令知之欽  
此遵

旨寄信前來

1796

查原任湖南按察使德克進布前在浙江金衢  
嚴道任內採辦范公塘椿木因起身之費將應  
行找給木商價銀四千四百兩借用未歸經福  
崧奏奉

旨革職交刑部問擬斬候並查抄家產嗣奉

恩旨釋放發往伊犁効力贖罪五十四年將軍保寧

等奏請

賞給主事本年三月三年期滿復經奏准回旗尚未  
起程于三月二十七日病故謹

奏

四月三十日

1797

前據管理鳳陽關稅務盧鳳道刁玉成奏關稅  
一年期滿比較盈餘短絀請照數賠補一摺奉  
硃批該部議奏欽此臣等面奉

諭旨部議上時著寬免一半其餘各按正署任內經  
徵月日分別賠補欽此今戶部于本日具

奏臣等謹遵

旨擬寫寬免一半

諭旨進

呈謹

奏

閏四月初一日

1798 乾隆五十七年閏四月初一日奉

旨戶部議奏鳳陽關一年期滿徵收盈餘比較上三  
屆短少銀四萬九千七百三十兩零著落管關之  
員照數賠補一摺固屬照例辦理第念該關稅課  
全憑豫省糧食販運下江經過該處源源銷售始  
能豐旺上年豫江兩省年歲收成相仿糧價不甚

低昂商販無利可圖以致豫省糧石米豆到關稀  
少盈餘短絀尚屬有因所有此次鳳陽關短少盈  
餘銀四萬九千七百三十兩零著加恩寬免一半  
其餘一半著該監督等各按正署任內經徵月日  
分別賠補欽此

1799

查上年南糧二進尾幫及三進頭幫漕船係于  
四月二十二日備過臨清本日李奉翰等奏二  
進尾幫並三進首幫于四月二十一日備出臨  
清口比較上年計早一日謹

奏

閏四月初一日

1800 臣阿桂等謹

奏蒙

發下試卷一百七十九本臣等公同閱看擇其文理  
清順者擬選取七十卷其不入選者一百九卷  
謹分別粘簽進

呈伏候

欽定俟

發下臣等拆去彌封將入選各員繕寫名單並照上

屆之例于各名下將從前出過學差試差次數

詳晰註明密封進

呈仍交吏部照例帶領引

見謹

奏

閏四月初一日

1801 大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 乾隆五十七年閏四月初二日 奉

上諭本日召見降調開復仍發湖北以知府用之吳

斐龍朕看其人才具平常奏對語言亦不甚清楚

詢之該員據稱從前曾經文綬李侍堯畢沅保舉文綬

尚可此等平庸之員想李侍堯畢沅斷不至濫行

保舉所奏或有捏飾著傳諭該督于吳斐龍到楚

後酌量以專簡之缺補用倘才具并不勝簡缺之任即當據實具奏毋得稍存迴護致貽悞地方也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1802 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 乾隆五十七年閏四月初二日

奉

上諭前據蘇寧阿奏直隸景州于四月十七日得雨

三寸嗣據吉慶奏德州冠縣范縣同日得雨二寸

尚未透足現在率屬祈禱復經降旨詢問吉慶德

州一帶曾否續得透雨因何該撫在省城祈禱並

不飭屬在德州禱雨或親往祈求之處令其據實

覆奏茲據吉慶奏各屬同霽甘霖一摺詳閱清單

內濟南各屬于四月二十五六等日俱經得雨二

三四寸而德州仍未開列是尚未得有雨澤但德

州即係濟南府屬何以未能一律均霽是否僅止

一州缺雨並現在曾否續獲甘膏之處著該撫查

明迅速覆奏以慰屢注欽此遵  
旨寄信前來

1803 乾隆五十七年閏四月初二日內閣奉

上諭此次巡幸木蘭工部堂官前班已派出吳省欽  
後班已派出成策第念行在工部有查看道路橋  
梁及監放柴炭之事恐隨從人等有藉端需索等  
弊伊二人未能彈壓周到所有行在工部事務著  
福長安兼管欽此

1804 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 乾隆五十七年閏四月初二日  
奉

上諭據吉慶奏審擬海陽縣民姜子柱在都察院呈  
控一案將姜子柱問擬杖徒初閱時即歷歷折角  
以記已批交該部議奏及覆閱折角處所姜子柱  
所控朱守經誣告漏稅王方貴袒護捏傷及縣役  
邵魁等詐贓各情節均經得實惟所控該縣王風

清交接當商聽受囑托一款審係虛誣將姜子柱  
按律加等反坐細思未為平允外省辦理誣告反  
坐案件如所告俱係平人自應將虛捏之款按例  
反坐但向例遇有控告一人數款一二款審明屬  
實者猶應分別科罪此案姜子柱所控得實之款  
俱係平人惟該縣王風清交接當商聽受囑托一  
款坐以虛誣此等案件自係先行飭委道府各員  
審訊外省官官相護且避自己處分安知非承審  
之員有扶同徇隱情事前因此案係長麟任內之  
事是以特交後任巡撫惠齡審辦今該撫又係接  
辦前任案件更何所用其迴護乃獨將姜子柱所  
控知縣王風清一款坐誣且抵之罪殊難憑信此  
案著交吉慶再行親提研審務將該縣王風清有  
無交接當商聽受囑托之處訊得確情另行定擬  
不得因王風清已于另案參革外遺稍涉憐忤即  
姜子柱所控果虛亦不當治以加等罪名該撫初  
任地方當整飭陋習此次提審仍存瞻徇之見別  
經派員審訊究出實情恐該撫不能當其咎也將

此諭令吉慶知之原摺發還欽此遵

旨寄信前來

1805 查平糶米麥原以接濟民食平減市價誠如

聖諭應在青黃不接之時上屆京師平糶係在六月

其從前遇有青黃不接之時曾否平糶如何酌

定章程及用何項米麥並直隸附京一帶從前

曾否截留漕米接濟之處臣等現交查戶部俟

查覆到時再行具

奏謹

奏

閏四月初四日

1806 大學士公阿 大學士伯和 字寄

漕運總督管 直隸山東江南各督撫 巡漕

御史 乾隆五十七年閏四月初四日奉

上諭本年漕船行走迅速南糧已于四月二十日全

數渡黃前據書麟等奏江西九江幫徐子信等四

船在黃河遇風有漂沒米石淹斃人口之事因思

此項船隻或由沿途派出員弁惟知催趨前進不

顧風色以致猝遇暴風救護不及亦未可定各省

幫船固不許無故逗遛倘遇風色不便亦不可冒

昧開行致有疎虞著傳諭管幹珍暨沿途督撫及

巡漕御史等即通飭派出各員弁于催趨船隻時

務宜留心察看設見風色不利不妨暫令停泊以

昭慎重若運丁舵工人等因有此旨輒思無故逗

留又當實力嚴催不得任令遲延也將此各諭令

知之欽此遵

旨寄信前來

1807 大學士公阿 大學士伯和 字寄

倉場侍郎諾 劉 直隸總督梁 山東巡撫

吉 巡視通漕給事中斐 乾隆五十七年閏

四月初四日奉

上諭據劉秉恬奏前月二十八日在武城地方見河

內水勢陡長四尺有餘必係豫省河北各府及山

西地方大霽甘霖漳衛二河源水盛發故南運河

水勢驟長糧艘得以浮送裕如等語又吉慶同日



奏到運河水勢增長情形與劉秉恬所奏相同各  
幫糧艘自出臨清開河以來雖有淺溢之處自四  
月二十八日長水以後則前次之遇淺起撥各船  
俱已揚帆北上毫無費力此係

天恩垂佑朕心實深敬戴但近京一帶總未得有澍雨

慙悚之至本日又據巡漕御史斐靈額奏北河安  
福庄地方有沙淤淺灘而德州上下亦間露古淺  
等語看來德州迤南運河水勢足資浮送重運而  
通州誌椿亦未據報落水但自德州至天津一帶  
古淺處所亟需認真撈挖一律深通俾重運得以  
隨到隨行迅速抵通著梁肯堂嚴飭所屬上緊籌  
辦毋致漕艘稍有淺擱再自天津至通沙淤灘淺  
之處應須該倉場督率疏濬挑挖現在劉秉恬在  
臨清辦理截漕事務著諾穆親會同斐靈額將一  
切挖淺撥運事宜妥為經理至臨清開外運河之  
水雖據古慶稱因雨驟長但恐逐漸消落所有撈  
挖古淺人夫及官民剥船仍著該撫留心備辦以  
便江廣重運進行無阻方為妥協將此各傳諭知  
之欽此遵

旨寄信前來

1808 大學士公阿 大學士伯和 字寄

署江西巡撫姚 乾隆五十七年閏四月初五  
日奉

上諭姚茶奏審擬鹽梟拒捕一摺已批交該部核擬  
速奏矣但摺內出語祇將為首之張宗超一犯聲  
請即行正法其為從傷人問擬絞候之何劃俚一  
犯未經覆叙于首犯張宗超之下即直接問擬餘  
犯李廣厚等罪名聲叙不明殊屬牽混姚茶著傳  
旨申飭將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1809

查姚荼審擬鹽梟拒捕摺內將為首之張宗起一犯問擬斬候請

旨即行正法為從傷人之何劃俚一犯問擬絞候所擬罪名尚無錯悞惟出語內祇將張宗起聲請即行正法其問擬絞候之何劃俚未經復叙以致與此案餘犯李廣厚等罪名牽混聲叙實未明晰除將原摺交部速議另行具奏外謹擬寫申飭姚荼

諭旨進

呈謹

奏

1810 乾隆五十七年閏四月初五日內閣奉

上諭郭世勳等奏粵東洋鹽各商蔡世文陳維屏等呈稱現聞大兵進勦廓爾喀賊匪情愿共捐銀六十萬兩以備凱旋賞賚之需等語廓爾喀賊匪滋擾後藏不過邊徼么膺指日即可殲除自不致多糜軍餉今既據郭世勳等奏稱該商等再四籲懇

情詞肫切著准其共捐銀三十萬兩並准其于本年五月起分作六年完款所有捐餉之洋鹽商人著該署督等查明咨部照例議叙欽此

1811

大學士公阿 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 署江西巡撫姚

乾隆五十七年閏四月初五日奉

上諭據趙佑奏考試信豐興國二縣童生拏獲鎗手王致中一摺所辦好王致中係代興國縣童生劉昌新入場應名代考事干嚴例今既據該學政拏獲訊明王致中係廣東嘉應州文童又供實名黃揚係州學生員供詞狡詐殊難憑信著傳諭姚荼即將王致中一犯解赴廣東交郭世勳飭令該犯原籍地方官查認明確仍解回江西提集案內人証一併嚴審定擬其在逃之童生劉昌新並著姚荼飭屬嚴拏務獲歸案審辦所有趙佑原摺著抄寄郭世勳閱看將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1812 查向來致祭

風神係

派皇子及親王前往是以臣等于擬寫

諭旨內空寫恭候

欽派謹

奏

1813 乾隆五十七年閏四月初五日奉

旨現在設壇祈雨望澤孔殷時有雲陰因風吹散自

應虔祭風神以期感召靈貺渥沛甘霖著永于

初六日詣風神廟敬謹致祭所有一切事宜交內

務府照例預備欽此

1814 查乾隆四十年及四十三四十五等年奉

旨平糶係在四五六等月其章程俱由戶部酌議奏

請

派大臣監糶臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

1815 乾隆五十七年閏四月初五日內閣奉

上諭京城尚未得有透雨現屆青黃不接之時恐糧

價不無昂貴自應減價平糶以裕民食其如何分

城設廠並撥用何項米麥及派員經理之處著該

部查照向例悉心酌議具奏欽此

1816 遵

旨查取尚之信勒爾錦馬承蔭宜昌阿馬九玉等列

傳茲據

國史館將尚之信列傳查送前來恭呈

御覽並據覆稱勒爾錦係附在勒克德澤傳之後馬

承蔭係附在馬雄傳之後理合粘貼黃簽一併

進

呈至宜昌阿馬九玉並未列傳現在查取畧節俟

送到後再行進

呈謹

奏

閏四月初六日

1817 臣 阿桂等謹

奏為遵

旨查辦具奏事鑲白旗漢軍都統德保等奏查出草職雲南知府劉杰名下地畝房間並衣物等件應行入官抵項等因一摺乾隆五十六年十月二十六日奉

旨交軍機大臣查辦欽此據奏稱查劉杰名下應賠厚黑銅價粵鹽餘息等項共銀四千五百六十七兩零前准雲南巡撫咨旗照數著追交納當經查出劉杰旗存印冊載灤州菜園庄地九頃二十畝房五十間山海關外卧佛寺地三十日房十二間奏交直隸總督

盛京將軍查辦入官抵項續准刑部咨據湖北巡撫解到在楚截留劉杰隨帶衣箱三個隨派員領取到旗按照原咨檢査箱內僅有破舊衣衫零星使用物件復又查出劉杰眷屬隨帶使女一口破舊衣衫等物為數無幾除此外並無別項財產應將使女一口照例招買作價銀十兩先交戶部

七七六

抵項所有衣物等件交崇文門變價徑行文部其查出劉杰冊檔開載地畝房間俟直隸總督盛京將軍查丈明確作價到日再行歸案辦理如有不敷銀兩照例著落該省同案各上司名下攤賠再查劉杰之子劉門變劉燈欽遵

諭旨銷除旗檔令其為民所有劉杰之孫伊昌阿伊拉齊併伊孫女等未便容留在旗亦應隨伊父劉門變一併銷除旗檔為民等語臣等當即行文直隸總督

盛京將軍將劉杰名下房地等項查勘明確據實估價俟咨覆到日以便核辦嗣據各該處以劉杰名下房地與該旗原報數目多寡不符管業人名亦有互異往返咨查未能即時核覆又經臣等行據該旗確查明晰復行知各該處勘丈估價去後今據

盛京將軍查覆山海關外卧佛寺地方劉杰名下地內原有土平房十二間早已被水冲塌木料經本家售賣無存實應入官地三十日飭據該地方官查丈足數三百畝照依時值每畝估價

銀一兩共估銀三百兩又據直隸總督將坐落灤州菜園庄地九頃二十畝飭據該州勘丈照原額多出地九十二畝五分五厘共丈得地十頃十二畝五分五厘照例按依原收租數共估價銀一千五百五十七兩一錢三分一厘又草房五十間實查得五十三間半照依時值共估價銀七十九兩六錢四分各出具冊結咨部查核等因並經戶部查劉杰名下又有續行加攤應賠粵鹽餘息銀一百九十兩四錢三分六厘應歸案辦理陸續咨報前來<sub>臣</sub>等查劉杰名下應行入官房地既據

盛京將軍直隸總督飭據各該地方官查勘明確分別估價出具冊結咨覆並無估多報少情弊自應准其照估抵項查劉杰拖欠未完官項前後共銀四千七百五十八兩一錢五分九厘內除房地共估價銀一千九百三十六兩七錢七分一厘並先據該旗將使女一口變價銀十兩抵項外尚不敷核抵銀二千八百一十一兩三錢八分八厘劉杰並無別項財產未便置官項于

無著應如該都統所奏即行著落雲南同案各上司名下按照在任月日攤賠報部其劉杰隨身衣箱內破舊衣衫等物為數無幾已交崇文門變價俟交納戶部後核算扣抵至劉杰之子劉門變劉燈業經奉

旨銷除旗檔令其為民其劉杰之孫并孫女等自未便容留在旗亦應如所奏一併銷除旗檔隨劉門變等為民所有<sub>臣</sub>等遵

旨查辦緣由謹繕摺具

奏恭候

命下交各該衙門並該督撫遵照辦理謹

奏

乾隆五十七年閏四月初七日奉

旨依議欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年閏四月初七日

奉

上諭前因直隸順德廣平大名三府屬雨澤愆期降  
旨截留漕米三十萬石運往該處以資接濟並令  
該督按照災分之輕重戶口之多寡酌量撫恤矣  
昨據梁肯堂奏報大名府屬之清豐南樂長垣廣  
平府屬之威縣各得雨三四寸是該處近日已間  
有沾澤或可稍冀薄收所有前項漕米三十萬石  
是否足資接濟尚有多餘如或有餘即可分撥鄰  
近地方酌量動支借糶抑或就前項漕米儘數動  
用尚覺不敷並應酌量加添之處亦應據實奏聞  
因思該三府所屬州縣向設有常社等倉額貯穀  
石此等倉穀原備借糶之需如截存漕米不敷支  
放即將此項穀石添入動用豈不近便至保定以  
北及近畿一帶總未得有透雨即此後續得甘霖  
大田可資播種而現在麥收已屬歉薄亦應預籌  
民食將來察看情形需用糧石接濟如將漕米截

留北倉勢須分投轉運各該處道里較遠水路不  
通徒費運脚因令戶部查得保定以北三十一州  
縣常平倉穀除出借動用共實存六十五萬五千  
餘石又二十九州縣社義二倉米穀四萬一千五  
百餘石是各該處存倉穀石為數不為不多將來  
如需賑糶與其將截留漕米紛紛運送而各屬倉  
儲轉致陳陳相因何不乘此青黃不接之時就各  
該州縣現存米穀酌量動支以為平糶賑借之用  
較更為妥便該督身任地方何竟見不及此或已  
經辦理耶著傳諭梁肯堂即遵照諭旨酌籌妥辦  
如果各屬倉穀動用後再有不敷亦不妨據實奏  
明候朕另撥漕米亦無不可至各州縣倉儲數目  
平時或有動用等項而其報部之數自必確實該  
督自可確查妥辦也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1819 乾隆五十七年閏四月初七日奉

旨此素失察所屬知州率給劉照魁口票之安肅道  
調任鎮迪道榮德前署按察使事蘭州道王曾翼  
均著從寬改為革職留任欽此

1820 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 乾隆五十七年閏四月初七日  
奉

上諭據吉慶奏四月二十五日省城得雨深透自省  
城以及各屬八十四州縣均得普沾惟德州一處  
微雨飄洒不成分寸等語東省濟南以南俱經得  
雨霑足其直隸之天津府屬亦前據奏報得雨五  
寸惟中間德州尚在望澤而景州前此得雨止有  
三寸亦未為霑透昨據梁肯堂奏直屬二麥約收  
分數合計六分有餘東省上年收成豐稔此時缺  
雨處所亦僅屬一隅著傳諭吉慶即將該省本年  
麥收分數統算約有幾分並德州地方曾否得霑  
甘霖之處據實即覆奏以慰廛注將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

1821 遵

旨詢問保成賚摺差弁據稱熱河于初五日申刻下  
雨起至初六日寅時止未時復又下雨至酉刻  
方止我于初六日戌時起身由熱河至巴克什  
營一帶道路泥濘想必一律得雨自古北口以  
內地土乾燥途次並未遇雨等語謹

奏

閏四月初九日

1822 乾隆五十七年閏四月初九日內閣奉

上諭朕閱給事中拴柱從前條奏各款內有外省鄉  
試請照順天之例欽命題目並派出之正副考官  
限五日內起程一款業經禮部議駁今思各省鄉  
試題目甚多若一一皆須欽命殊為繁瑣其事自  
不可行至正副考官限以五日內起程係為防弊

起見各省考官派出後在京耽延多日難保無交通囑託情弊控柱所奏不為無見嗣後派出各省正副考官俱著于五日內起程至禮部請派考官向例按照省分遠近以次進本行走日期本寬今考官起程既定限五日若仍循向例進本請派則為期更寬該考官等勢必在途逗遛以符到省入闈之期並著該部核計各省程站遠近較向來進本日期酌改緩數日不必拘泥舊例辦理以杜弊端欽此

1823 乾隆五十七年閏四月初九日內閣奉

上諭據管幹珍奏鎮江府通判鄭時泰管押漕糧不辭勞瘁三年以來均屬全漕迅速抵壩現在到通交糧事竣可否准赴戶部帶領引見等語鄭時泰著准其送部引見以示鼓勵摺併發欽此

1824

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年閏四月初九日

奉

上諭吉慶覆奏山東通省各屬俱經得雨惟德州一處微雨飄洒不成分寸已飭該州將倉貯麥石高粱酌量出糶以平市價等語因思直隸景州一帶與德州境壤毗連前據該督奏報景州得雨僅止三寸近今未據續報得有雨澤是景州河間一帶總未得有透雨麥收未免歉薄自應酌籌借糶以濟民食著傳諭梁肯堂即將景州一處並查明河間新城涿州一帶缺雨處所飭令各該屬將常平社義倉穀酌量動用先行平糶並借給籽種口糧以平市價而資接濟該督務飭所屬妥為經理俾小民得沾實惠以副軫念仍將各該處現在曾否得雨之處即行覆奏以慰廛注將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來



1825 遵

旨將本日

硃批穆和蘭奏雨水糧價情形一摺交與現在奏事

之九御等閱看據劉莪等僉稱我

皇上廑念雨暘時紫

宵旰前因豫省彰德等三府雨澤缺少蒙

特降恩旨截留漕米預備接濟之需並將新舊錢糧

槩予緩徵以紓民力又蒙

恩借給籽種口糧減價平糶凡為閭閻生計至周且

渥今據穆和蘭奏報河以北被旱地方俱經得

有雨澤現在俱已翻犁布種小民感被

鴻恩甚為寧謐仰見我

皇上先事預籌

恩綸疊沛即頻年缺雨之地亦已續被甘膏及時播

種益徵

聖澤涵濡共臻樂利臣等恭閱之下實深欽忭等語

謹

奏

閏四月初十日

1826 大學士公阿 大學士伯和 字寄

烏魯木齊都統尚 乾隆五十七年閏四月十

一日奉

上諭尚安奏審擬迪化州客民胡三元用刀扎死田

玉印請旨即行正法一摺新疆非內地可比此等

重犯既經審實即應一面正法一面奏聞若必待

請旨辦理動致往返需時轉稽顯戮胡三元著即

行正法以示懲儆將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1827 乾隆五十七年閏四月十一日內閣奉

上諭向來京師冬春之際五城及普濟堂俱設廠煮

粥以濟貧民一屆融煖例即停止第念近畿一帶

尚未得有透雨雖業經降旨加恩平糶尚恐京城

及附近覓食貧民餬口維艱著五城順天府再行

煮賑一月並著都察院堂官及該府尹等不時前

往查察勿使胥吏從中滋弊以副朕恤貧祈澤至

意欽此

1828 乾隆五十七年閏四月十一日奉

旨俱著准其入城欽此

禮部奏請佛柱舒濂靈樞應否准其入城

1829 遵

旨查取噶爾漢哈占烏丹賴塔宜昌阿馬九玉譚洪

列傳據

國史館覆稱宜昌阿馬九玉譚洪俱未立傳謹摘

叙節畧同噶爾漢等列傳一併進

呈謹

奏

閏四月十一日

1830 遵

旨詢問欽天監現在星象躔度有無差異之處據監

正安國寧等僉稱現在星度俱照常行運並無

差異等語謹

奏

閏四月十一日

1831 乾隆五十七年閏四月十二日內閣奉

上諭前因直隸順德廣平大名三府屬雨澤愆期業

經截留漕米三十萬石並將新舊錢糧槩予緩徵

其保定以北各州縣亦未得透雨應否緩徵平糶

之處降旨詢問梁肯堂茲據覆奏該處各州縣久

未得雨或得雨未透來收未能豐稔等語近畿一

帶上年秋成雖在八分以上且現經該督飭屬將

倉儲穀石分別借糶民食自不至缺乏但麥收既

屬歉薄若照例將新舊錢糧倉穀同時並徵民力究

未免拮据所有保定府屬之清苑滿城安肅定興

新城容城安州東鹿雄縣順天府屬之宛平大興

霸州東安大城保定文安涿州良鄉固安永清香

河昌平順義懷柔密雲平谷通州三河武清寶坻

薊州寧河河間府屬之獻縣景州故城吳橋交河

易州併所屬之涑水廣昌等四十州縣應徵本年

節年倉穀錢糧均著加恩緩至本年秋成後再

行啟徵俾民力益紓以副朕軫念閭閻有加無已

至意該部遵諭即行欽此

1832 乾隆五十七年閏四月十二日奉  
旨邱雲翰准其捐復欽此

兵部奏請因公降調守備可否捐復一摺

1833 查盜賣祭田之固永係固八代之孫固禧之子  
並非固琮之子孫除遵

旨擬寫改發伊犁當差

諭旨進

呈外謹  
奏

1834 乾隆五十七年閏四月十三日奉

旨知道了至固永係原任尚書固八代之孫乃私將  
祭田押借銀兩殊屬有玷家聲若僅問擬充軍照  
例折枷鞭責發落不足示懲固永著改發伊犁充  
當苦差又候補筆帖式富善毆傷使女平泉身死  
一案向來家長毆斃雇工本律祇問擬滿徒此案

因使女平泉年僅九歲富善輒以砸碎磁碗細故  
毆燙幼穉多傷殊屬殘忍刑部將富善革去候補  
筆帖式從重發往伊犁充當苦差所辦尚是著照  
所議行欽此

1835 同日奉

旨此案那耀宗本係朱亦甫之子並非那嘉猷所生  
業經在本省歷次審結有案今復妄希分得家產  
輒行添捏多款赴京呈控情殊狡詐僅照例問擬  
充軍不足蔽辜那耀宗著發往伊犁充當苦差以  
示懲儆餘依議欽此

1836 乾隆五十七年閏四月十四日內閣奉

上諭長麟奏拏獲海洋劫殺事主多命之兇盜審明  
正法一摺此案盜犯黃泳林等結夥多人在洋面  
行劫客船將事主水手等十二人擲海身死實屬  
兇惡已極長麟接據同知王恒稟報即督飭緝拏  
將首夥十三犯立時拏獲審明後即押赴海口傳

集被害之事主家屬等眼同看視將各該犯分別  
凌遲斬決所辦好長麟著交部議叙同知王恒盤  
獲多盜尚屬留心出力並著送部引見餘俱照該  
撫所擬完結摺併發欽此

1837 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督書 乾隆五十七年閏四月十五日  
奉

上諭書麟奏拏獲在洋行劫之盜犯黃泳林等一案  
審明辦理請將總巡內洋之守備趙邦臣革職統  
巡之總兵陳安邦交部議處一摺此案行劫盜犯  
據同知王恒知縣何啟秀先後稟報查拏均係長  
麟及文員拏獲其巡洋大小營弁怠玩疏防自應  
分別懲處即書麟統轄弁兵亦屬失于覺察已將  
原摺批交該部議奏矣至所參之總兵陳安邦甫  
經陞見回任此案若係陳安邦任內疎防該鎮自  
難辭咎俟查明送部嚴加議處若係陳安邦陞見  
卸任以後之事即應將署任之員議處著傳諭書

麟據實查明咨部辦理以昭核實綠旗廢弛之習  
書麟應留心整頓欽此遵  
旨寄信前來

1838 乾隆五十七年閏四月十六日內閣奉

上諭京師自春徂夏總未得有透雨朕齋心虔禱望  
雲瞻禮宵旰靡寧節經降旨屢沛恩施以冀感召  
甘和渥沾澍澤旬日以來尚在盼雨未得朕心實  
增焦切日諭軍機大臣等現在政刑或不無闕失  
撫躬循省乾惕尤深因思近年來因臺灣海洋盜  
風甚熾曾諭該省督撫拏獲盜犯不分首從概行  
按律正法從重示懲俟數年後盜風少息再行照  
舊辦理原期禁戢兇暴以安良善乃節年該督撫  
及附近海洋省分督撫等奏報拏獲洋盜多係一  
面奏聞一面即行正法雖屬辟以止辟之意第恐  
督撫等有意見長或為屬員陞擢地步所獲之犯  
未必盡係正盜僅將夥黨內無關緊要者拏獲充  
數甚至設法購求愚民重利輕生頂充認盜而正

犯轉致遠颺又或奸民因仇誣指該督撫既經奏明正法部臣亦無由覆核其中或竟有冤屈亦未可知殊非朕靖盜安民之本意也即如近日長麟奏拏獲海洋兇盜黃泳林等結夥多人在洋面行劫客船將事主水手等十二人擲海身死兇惡已極該撫于審明後即將首夥十三犯押赴海口分別凌遲斬決示衆此等刦殺多命之兇盜加以重典正可肅法紀而快人心不得謂之過當昨又據梁肯堂奏拏獲越獄之絞犯瞿套兜一犯恭請王命即行正法則辦理未免稍過該犯止係竊賊滿貫問擬絞候之犯今因越獄拏獲雖例應加重亦止應入于情實辦理何至決不待時外省似此非過則不及者正復不少各省用刑失當雖距輦轂甚遠然皆朕之土之民京師缺雨或即由此乎朕子惠元元遠近豈有歧視此後臺灣地方拏獲盜犯該督撫審明後如果係真正首盜害人贓據確鑿者自應即行正法以儆兇頑若止係隨從夥黨及把風接贓等犯仍按照常例分別辦理其附近海洋及各直省凡遇命盜等案俱應細心研訊務

期情真罪當按例辦理不得有意從嚴株連拖累此係朕顛

天祈澤夙夜焦勞無聊之極思各督撫等尚其敬體朕意詳慎庶獄以期共迓祥和庶冀甘霖速沛將此通諭知之欽此

1839 奉

旨此案著派玉德馳驛前往江西提集案內人証秉公審辦所有隨帶司員俱著一併馳驛其原告毛昌言著即解往質訊欽此

十六日

1840 遵

旨查取察尼彰泰李本深列傳茲據國史館將察尼列傳查送前來至彰泰事蹟係附載博和託傳後謹粘貼黃簽進呈李本深係列入逆臣傳尚未編有正本謹將底本一併呈

覽謹

奏

1841 本年四月二十九日山西巡撫馮光熊奏請以

絳州直隸州州判蔣維澧陞署陽曲縣知縣一

摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

照例議駁于本日具

題臣等謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

1842 乾隆五十七年閏四月十七日奉

旨蔣維澧著照該撫所請行欽此

1843 乾隆五十七年閏四月十八日奉

旨此次著派皇八子皇十一子皇十五子分詣

三壇虔誠祈禱欽此

1844 乾隆五十七年閏四月十九日內閣奉

上諭宜興等奏奉天地方遇有知縣缺出差委乏人

請揀發知縣三員以資差遣等語著照所請派劉

墉慶桂胡季堂會同該部于候補知縣人員內照

例揀選帶領引見發往該部知道欽此

1845 同日奉

旨准其改補欽此

吏部奏鄭豹文請改補

國子監學正等官一摺

1846

前據淮安關監督董椿奏關稅一年期滿徵收盈餘比較短少請分年賠繳一摺奉

硃批該部議奏欽此臣等面奉

諭旨部議上時著該監督賠補一半其餘一半著加

恩寬免欽此今戶工二部于本日具

奏臣等謹遵

旨擬寫寬免一半

諭旨進

呈謹

奏

閏四月二十日

1847 乾隆五十七年閏四月二十日奉

旨戶工二部議覆淮宿等關徵收稅課一年期滿比較五十五年短少盈餘銀四萬五千九百七十三

兩零著落該監督照數賠繳等語固係照例辦理

第念該關稅課全仗山東河南等處豆貨販運南

來錢糧始能豐旺上年南北各省收成俱屬豐稔

商販無利可圖以致豆貨船隻到關稀少盈餘短

1848

乾隆五十七年閏四月二十日內閣奉

上諭朕此次駐蹕熱河巡幸木蘭著怡親王儀郡王  
純尚屬有因所有此次淮宿二關短少盈餘銀四  
萬五千九百七十三兩零著該監督賠補四分之  
一餘著加恩寬免欽此

大學士公阿桂尚書常青留京辦事所有吏部兵

部應行引見官員文職知縣以上武職守備以上

于啟鑾進木蘭之前著該部每月派堂官一員輪

流帶赴熱河引見其文員內佐雜等官武員內八

旗護軍校驍騎校及外省送到之補放驍騎校水

手並年滿十總等官弁仍著王大臣照例驗放至

八月以後月選州縣等官照例俟回鑾後歸于九

月分一併引見其各省督撫提鎮等奏摺著費摺

人前赴行在投遞進哨後著兵部派員駐劄哨門

接遞各省奏摺封送行在候朕批示發回仍于哨

門交付費摺人祇領該部知道欽此

1849 大學士公阿 大學士伯和 字寄

山西巡撫馮 乾隆五十七年閏四月二十一日奉

上諭馮光熊奏晉省自鹽課改歸地丁之後鹽池發販鹽數自本年二月初一日起至四月底止較往年多至加倍有餘等語向來晉省行銷引課未能辦理裕如總以該處鹽池產鹽不能旺盛為辭自課歸糧輸鹽聽民運之後商販絡繹兩三月內販運之數較前竟多至加倍有餘是鹽池所產鹽斤本為旺盛從前鹽歸官辦商課不能如期輸納加以地方官派商勒索商人視為畏途遂以鹽池產鹽不旺藉詞卸責今將鹽課改攤地丁不歸地方經理該省即以鹽池產鹽旺盛具報前後情形是否如此著馮光熊查明據實覆奏至此事既已行之有效利歸于下自應使鹽斤販運流通俾閭閻永資利賴並著該撫隨時督飭嚴查毋任官吏胥役等從中滋弊致有需索阻撓之事此為最要此事所辦實蔣兆奎之力已加恩矣將此諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

1850 遵

旨將

硃批馮光熊奏報鹽價平減一摺交本日奏事之九卿等閱看據常青等僉稱向來晉省行銷引鹽辦課未能裕如地方官總以鹽池產鹽不能旺盛為詞自上年課歸糧輸鹽聽民運之後民間商販絡繹而鹽池產鹽亦加旺盛誠如聖諭鹽池所產之鹽本屬豐旺今將鹽課改攤地丁不令地方官經理實屬商民兩便仰見我皇上於外省情形洞燭靡遺總期利歸于下鹽斤行運流通臣等恭閱之下實深欽佩悅服之至等語謹

奏

閏四月二十一日



1851

大學士公阿 大學士伯和 字寄

倉場侍郎諾 直隸總督梁 山東巡撫吉

河東河道李 乾隆五十七年閏四月二十一

日奉

上諭劉秉恬奏籌辦截漕一摺內稱近日臨清一帶水勢漸消河面未能寬濶江西船體較大請將在前之南昌等七幫跟接赴通儘在後之廣信等六幫截留撥給等語所辦好但臨清水勢漸見消落于赴通重運是否不至妨碍近日通州誌椿並未據報落水自由上游潮河之水足資接濟臨清一帶河水前據劉秉恬等奏增長四尺有餘何以復形消落著傳諭吉慶務宜留心查察嚴飭所屬疏濬各泉源並將古淺處所實力撈挖俾漕艘卸尾進毋致稍有淺擱其北運河一帶有無淤淺之處並著諾穆親梁肯堂一體留心撈濬以便重運迅速抵通方為妥善將此傳諭諾穆親等並諭劉秉恬知之欽此遵

旨寄信前來

1852

大學士公阿 大學士伯和 字寄

江西巡撫姚 乾隆五十七年閏四月二十一

日奉

上諭本日召見新授撫州府知府侯學詩看其人甚平常奏對亦不明晰該員前任廣東知縣時雖經孫士毅保題同知福康安保舉堪勝知府但朕聞其才具未必能勝方面之任著傳諭姚榮俟該員到任後留心察看如果不能勝任即當據實具奏不可稍有迴護以致貽誤地方將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1853

乾隆五十七年閏四月二十二日奉

旨歐國選黃愷俱著即處斬餘依議欽此

福建省糾眾互毆  
致斃人命一案

1854 遵

旨查圖海于康熙十五年封三等公卒子諾敏襲諾敏卒子馬爾賽襲雍正二年晉襲一等公十年馬爾賽緣事正法弟馬禮善承襲卒子馬賢襲卒無子弟馬斌襲卒無子馬禮善親弟馬爾屯之子特通額承襲卒無子其弟特松額之子永福承襲現在年幼尚未當差謹將圖海傳一併

呈 謹 奏

閏四月二十二日

1855 乾隆五十七年閏四月二十二日內閣奉

上諭河東鹽務從前食商承辦徒滋地方官勒索之弊商力屢形疲乏是以議將鹽課改歸地丁以期利歸于下商民交便但立法之初朕尚慮未能立時奏效乃自改定章程以來晉省業已行之有驗而河南陝西二省行銷河東引鹽地方節經穆和

硃改

蘭秦承恩奏稱鹽價日減商民俱獲利益茲又據馮光熊奏現在該省鹽池產鹽旺盛兩三月內發販鹽數較往年多至加倍有餘等語是鹽課改歸地丁一事效驗甚速竟可永遠遵行俾商民均資利賴矣此據實是所招朕不接人之善是以自甘肅調彼至山西俾身任其事利賴今果蔣兆奎人本結實于此事議改之初既能確有所見而酌定章程以後果能實力奉行是始終承辦實係該藩司一人之力甚屬可嘉蔣兆奎著加恩賞戴花翎以示獎勵欽此

1856

大學士公阿 大學士伯和 字寄

協辦大學士大將軍公福 署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十七年閏四月二十三日奉

上諭郭世勳奏接據署龍州通判王撫崇稟稱據安南國諒山鎮目遞到該國王阮光平進呈表文一道寄福康安咨呈一件地圖一件因該國興化鎮萬陵醴泉黃岩綏阜合肥萊州謙州等七州與內地雲南開化府毗連從前被莫氏舊人黃公繼父子據守及內投後該處土民黃緣內附內地官員

概行征繕額祈詳查等情當經該署通判王撫棠以該國王所請事不可行即發書將文表地圖駁回等語該署通判所辦甚為得體阮光平自納款以來經朕特沛殊恩錫封王爵賞賚駢蕃寵榮已極或該國王不知謹凜漸生驕恣抑或該鎮目等慙恩輒萌冀倖故有此非分之請署通判王撫棠一接來文即發書將文表地圖駁回細閱書稿內飭駁之語義正詞嚴甚為得當即福康安在彼亦必係如此辦理該署通判不俟稟請督撫即一面先行飭駁且於回書內作為並未稟明督撫者所辦尤為直捷王撫棠以佐貳下僚乃能具此識見甚屬可嘉朕若因此即將王撫棠陞擢恐阮光平聞知未免碍伊顏面心生疑畏著郭世勳先行傳旨賞給王撫棠大緞二疋以示嘉獎所有今日寄信諭旨及郭世勳原摺阮光平文表王撫棠駁稿並著遇便抄寄福康安閱看將此諭令知之欽此

1857

大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 乾隆五十七年閏四月二十三

日奉

上諭王懿德奏據道州知州劉國永稟稱挈獲武生李盛春等護黨挾嫌肆行糾搶一案現將人犯提省審辦等語此案武生李盛春等因草生何竹筠等私立衿戶名色抗欠錢糧經戶書李啟珩等証佐供出實情致何竹筠等罹於罪愆輒敢護黨挾嫌糾約多人赴李啟珩等家內肆搶洩忿情節甚為可惡不可不嚴行審辦以示懲儆畢沅現在湖南審辦案件著傳諭該督即就近提集人犯嚴究實情定擬具奏知州劉國永一聞糾搶之事當即前往查拏擒獲多犯其案內逸犯亦據道員達明阿全數弋獲尚屬認真並著畢沅查明會同獲犯之文武各員一併咨部分別議叙以示獎勵將此傳諭畢沅並諭王懿德知之欽此遵

旨寄信前來

1858 大學士公阿 大學士伯和 字寄

欽差侍郎玉 乾隆五十七年閏四月二十三日奉  
上諭據刑部奏直隸寧津縣已革生員李步雲呈控  
生員李永章挾嫌率眾兇毆並串通訓導學書許  
為保全衣頂勾騙銀八十餘兩一案革生李步雲  
因爭買房基以致興訟鬥毆本屬細事惟所控褫  
革衣頂時有本學訓導許為保全頂帶勾騙銀兩  
等情如果所控屬實事關訓導舞弊得贓不可不  
嚴切跟究倘係挾嫌虛捏亦當將該革生按律懲  
治以儆刁風此案若交直隸總督及學政審辦難  
保無迴護地方官情事前因江西安仁縣民毛昌  
言控告族弟原任合肥縣知縣毛廷錦侵蝕籽種  
口糧及強佔山場一案派令玉德馳驛前往審辦  
計此時正當行抵河間一帶著即就近提集人犯  
秉公確訊如已行過該處諒亦相去不遠接奉此  
旨即著回至河間先將此案審辦完結再赴江西  
審理控案所有刑部奏摺並李步雲原呈一併發  
交閱看將此由五百里諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1859 奉

旨此案著交待郎玉德於馳抵河間府地方時一併  
審訊具奏其原告李步雲並著照例解往候質欽  
此

1860 恭查

東陵五陵內

孝陵

景陵

孝賢皇后陵各設總管一員

昭西陵

孝東陵向來專設總管係

孝陵總管兼管

泰陵

泰東陵止設總管一缺

東西兩陵共設總管四缺從前俱用外旗人員嗣于乾

隆四十六年奉

旨增添宗室御史並

陵寢司員各缺時經宗人府會同吏部議定

東西兩陵原設郎中六缺員外郎二十缺主事五缺共三十一缺內改宗室郎中一缺員外郎二缺主事二缺共五缺郎中員外郎六年期滿由宗人府帶領引

見奉

旨以京職用者調京以宗人府理事等官補用以總管用者即俟該處總管缺出亦由宗人府帶領引

見補放並未定有宗室及八旗缺額現在

東西兩陵總管內共有宗室三人謹奏

1861 查原任禮部尚書陳惠華有子陳箴捐授兵部

主事本年

京察因才力不及降調此外子孫並無出仕謹奏

閏四月二十四日

1862 本月二十四日吏部將廣西巡撫陳用敷保薦

卓異之桂林府知府查淳一員帶領引

見奉

旨查淳著交軍機處記名欽此

閏四月二十四日

1863 遵

旨詢問甘肅知縣楊懋德如何掣獲附天保之處據稱我到任後因縣境東北水泉地方偏僻派捕役等輪班巡查上年三月內巡役等遇見一人外鄉口音衣服藍縷形同乞丐又自稱身係丁酉科武舉該處劉千總係伊同年欲找尋幫助巡役等查知劉千總並非丁酉科武舉見其言語荒唐形迹可疑隨即帶到縣署我細加詰問據供名叫王雍係四川巴縣武舉曾在京城大柵欄居住放賬今赴甘州要債等供並搜出借票一紙內寫甘州府知府李所欠字樣我看票內文理不通且甘州知府向無李姓其為假

冒撞騙之犯無疑隨即稟明總督行查四川巴縣原籍嗣據覆稱並無武舉王雍其人我又嚴加刑訊審出該犯真名夏應龍實係四川涪州民人我因檢查舊案從前附天保曾昌稱武舉通飭緝拏心裡疑惑隨即稟明總督帶犯上省隨同蘭州府知府清安泰審訊經清安泰傳喚認識附天保之眼目當堂指認隨據該犯供認不諱等語再查知府清安泰已據該督給咨送部引

見現在尚未到部謹

奏

1864

閏四月二十五日兵部將兩廣總督福康安保列一等之督標中軍副將德敏陝甘總督勒保保列一等之督標中軍副將許世臣二員帶領引

見奉

旨德敏許世臣俱著交軍機處記名

1865

大學士公阿 大學士伯和 字寄

湖廣總督畢 乾隆五十七年閏四月二十六

日奉

上諭前因湖南巴陵縣知縣鄭遇亨於藍青薦被劉楚玉毆傷後因病身死一案情節甚屬支離恐有先侵後吐情事又湖南鳳凰廳生員劉大鴻等控告該廳五司借兵糧為名勒買倉穀浮收斗面一案事關地方官違例派買準折多收此二案內一條姜晟定擬具題之事一係姜晟湖南本任之事是以特交畢沅前赴湖南秉公審辦現在姜晟審擬貴州民人楊秀錦控告折色加徵一案業據完結具奏已回本任但鄭遇亨劉大鴻兩案係前交畢沅辦理之事自應伊始終一人經手不得擅與姜晟會同辦理亦不得私相商酌如或姜晟于前兩案內有袒護屬員縱容開脫情事該督即應據實參辦不得稍為徇隱倘畢沅瞻顧同官意存見好以致定擬案情未能確實甚或有屈抑之事將來別經發覺必將畢沅與姜晟一併治罪斷不稍

為寬貸也將此傳諭畢沅知之並將大概情形先行速奏欽此遵

旨寄信前來

1866

據署兩廣總督郭世勳等題請以王撫崇署理廣西龍州同知員缺查王撫崇係候補州同賞給同知職銜並非奉

旨以同知題補之員且該員現在尚未補授州同實

缺若遽以同知陞署未免過優是以吏部仍照

例議駁昨因該員辦理駁回安南表文一事奉

旨所辦尚有見識理合隨本提

奏再查王撫崇係候補人員未經引

見是以並無記名合併聲明謹

奏

1867

大學士公阿 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 廣西巡撫陳 乾

隆五十七年閏四月二十七日奉

上諭吏部議駁廣西候補州同王撫崇題署太平府

龍州同知一本已依議行矣王撫崇係試用州同即請補同知實缺未免過優吏部按例議駁所辦尚是但該員前于駁回阮光平文表一事不待稟知督撫即直捷辦理以佐貳下僚能具此識見甚屬可嘉論其才具不特越陞同知即超擢知府亦堪勝任原不必拘于資格第此時即將王撫崇陞擢恐阮光平聞知未免心生疑畏是以昨經郭世勳奏到止先令賞給大緞二疋以示嘉獎本日吏部議駁本上亦照簽批發著郭世勳陳用敷將此旨詳細傳示王撫崇惟當益加奮勉俟二三年後朕必加恩擢用也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1868

乾隆五十七年閏四月二十七日奉

旨張僧子著即處斬餘依議欽此

直隸省圖姦殺死二命一案

1869

大學士公阿 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十七年閏四月二十七

日奉

上諭據琅玕覆奏范公塘石壩前請改用柴工辦理實為錯謬等語范公塘一帶石壩已閱多年現在壩基依然穩固若改用柴工偶遇風潮轉易汕刷自應仍用石壩為此項石壩向來係用碎石沉入海邊疊出水面上以柵欄木櫃裝載碎石排列但碎石大小不等若僅以碎石小石子拋入水中恐根脚不能堅實自當檢取較大石塊作為基址方能得力且用散碎石塊墊作壩基水底無所關束究未免易于冲刷不若將竹篾較前放大內裝石塊沉入海底壩基豈不更為牢固是否可以如此辦理著福崧于應行修築時酌量情形遵照妥辦至福崧于本年正月奏請陞見摺內朕批令畧遲待數月現在將屆伏汛之時沿海塘工一切防護搶修均關緊要如該撫尚未啟程此時且不必赴京俟伏秋大汛平穩後于十月間到京陞見亦無不可若該撫現在業已起身于途次接奉此旨亦

七九六

不必轉回俟陞見後即速回浙省往返不過月餘于塘工防汛事宜儘可無悞也將此諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

1870 查福崧懇請

陞見一摺于正月二十日奏到奉

硃批且畧遲待數月可也欽此 臣等詢問本日引

見之浙江瑞安協千總劉永貴據稱聞得福巡撫于

本月二十外起身進京是否定有准日不能知

道等語是以臣等于擬寫

諭旨內該撫若已啟程今即行前來以便早回任所

謹

奏

閏四月二十七日



1871 遵

旨查直隸本年缺雨之保定順天河間等府屬四十

州縣內除容城等六縣並無積欠外其清苑等

三十四州縣積欠銀共十一萬九千二百八十

五兩零緩徵帶徵銀共二十九萬八千一百九

十八兩零積欠並緩徵帶徵糧共一千八百一

十五石九斗零但此項未完銀糧係據該督五

十五年奏銷冊內開造之數其五十六年續經

徵完若干之處該省奏銷冊籍現尚未據造送

到部謹

奏

1872 乾隆五十七年閏四月二十七日奉

旨于徐氏著即凌遲處死餘依議欽此

奉天省挾忿謀死親夫一案

1873 乾隆五十七年閏四月二十八日內閣奉

上諭京師自春徂夏總未獲沛甘霖朕晝夜焦勞無

時或釋去冬因雪澤較稀即于春間齋心祈禱而  
入夏以後望澤尤殷屢經敬謹籲求仍未能即施  
渥霽輒轉思維求所以不能感召之由而不可得  
至于夜不成寐昨本欲于二十八日御門聽政時  
召見大學士九卿等面加諮詢交相循省今早適  
恭閱

聖祖實錄康熙二十一年六月亦因天氣炎旱曾令九  
卿科道會議彼時九卿等奏請清理庶獄而親祈  
之禮未及舉行現在郵刑一事朕不待九卿奏請  
早經降旨並截漕緩徵平糶煮賑等事無不次第  
加恩且朕曾于黑龍潭覺生寺拈香敬禱又令皇  
子等分詣行禮凡所以祈求甘澤者已無不備至  
因思乾隆二十四年京城亢旱六月初旬尚未得  
雨朕于十一日舉行大雩禮躬親步禱旋沛醴膏  
但維時朕年甫四旬有餘力能步行今春秋八十  
有二矣雖精神尚能如舊而步履未免稍艱即在  
宮內行走天色稍暗間或需人扶掖若必勉強步  
禱足力不支倘偶愆儀節轉不足以昭懇誠如本  
日召見諸臣內尚書常青年甫八十精力素稱強

健乃因跪聆諭旨為時未久竟至頭目眩暈須人  
掖出况朕年高于常青乎且朕雖未行大雩之禮  
而于設壇祈禱分遣皇子等恭詣行禮時朕每日  
夙興必于宮中升香

天神

地祇前默禱偶見雲氣往來必望空叩祝是朕雖未步  
禱而為民祈澤之誠實不敢一刻稍懈乃至三壇

禮竣

昊既未昭夙夜焦思撫躬自省或緣政治有所缺失以  
致未能感迓祥和但自古政治之失無如女謁宦  
寺權臣外戚諸大端現在宮中妃嬪四五人皆已  
年老且不能備位至于女樂自即位以來即不用  
其餘給使女子合之皇子皇孫等乳媪使婢統計  
不滿二百人為從來宮闈所未有至本朝闈寺祇  
供洒掃之役從不敢干預政事近因約束更嚴稍  
有微愆即加斥責而伊等亦自覺愚蠢即尋常使  
令尚形竭蹶豈復能營私舞弊是以願充太監者  
日少當差竟致乏人若云權臣專政則更無其事  
朕乾綱獨攬太阿從不下移况現在內外大臣俱

朕親加擢用不特不敢如前明之嚴嵩輩盜竊威  
柄朋比為奸即本朝康熙年間明珠徐乾學等私  
相交結少通饋遺雍正年間及朕乾隆十年以前  
鄂爾泰張廷玉等素知謹慎尚不免稍存門戶之  
見此時諸臣中亦無一畧似彼二人者以言外戚  
則觀音保為

孝聖憲皇后之姪在散秩大臣上行走十有餘年甫得  
簡用副都統爵位亦不為崇若傳恒福康安之晉  
封公爵俱因底定金川及勦平臺灣等處逆匪懋  
著勞績用示酬庸並非因傳恒福康安為

孝賢皇后之弟姪特加恩寵即明瑞奎林明亮皆

皇后之姪俱以躬列戎行為國家宣力而明瑞又係  
歿于王事此等得力大臣豈必因身係外戚轉棄  
而不用乎其餘如興修工作等事朕早自以為過  
然俱動用內府帑餘從無絲毫累及閭閻並或以  
工代賑俾小民均資利益且近十餘年來亦未嘗  
復舉大工是朕之用人行政天下臣民所共聞共  
見者因復思目前重務惟有進勦廓爾喀一事外  
間或有議及不應勞師動眾以致雨澤愆期者殊

不知廓爾喀係徼外小番前此因與唐古忒人等  
鹽稅細故侵擾後歲邊界彼時派令巴忠鄂輝成  
德等前往剖斷賊匪即畏懼乞降此次賊匪復因  
賬目未清又來滋擾經駐藏大臣具奏時朕僅令  
鄂輝成德帶兵往諭原不過示以兵威使之悔罪  
乞降不敢再萌他念即可完事而已及巴忠聞信  
自戕始疑從前辦理錯悞而賊匪等竟敢擾至札  
什倫布肆行搶劫若不痛加殲戮賊匪無所忌憚  
勢必為得尺則尺之計漸至侵及前歲即察木多  
巴塘裏塘一帶亦必受其煽惑日久漸成邊患且  
此時僅以和息了事將來大兵撤後倘賊匪復來  
滋事後歲距川省遼遠鞭長莫及斷無屢勞兵力  
遠涉勤辦之理是以特命福康安海蘭察等統兵  
前往聲罪致討無非為綏靖邊圉保護衛藏起見  
朕臨御以來拓土開疆膚功屢奏以廓爾喀之叢  
爾彈丸不及回準二部兩金川緬甸安南百分之  
一豈屑利其土地而為此勞師動衆之舉此朕不  
得已用兵之苦心又宜為天下臣民所共諒者或  
此即窮兵黷武乎朕反覆推求終莫能得致早之

故但甘澤未施總由朕躬不能感格豈此自省無  
缺之一念即不免為滿盈之累遂致恒暘示儆耶  
此意朕每日召見軍機大臣未嘗不再三垂問即  
大學士九卿間日召對時均殷殷面詢令其據實  
直陳而諸臣等僉稱並無缺失大臣等俱受朕深  
恩于此等關係民瘼重務經朕虛懷訪詢豈忍復  
事諱飾第  
天恩未降究由人事未孚是以本日于御門聽政畢復  
召見皇子皇孫及大學士九卿等交相咨徹務求  
致旱之由益加省惕皇子等皆當  
北郊大祭齋居並派皇孫大臣等再分詣黑龍潭覺生  
寺齋宿齋禱仍令皇子等輪日前往拈香此時將  
屆夏至若能速霈恩膏趕緊播種大田秋收尚屬  
可望著大學士九卿等傳集科道公同諮議如果  
確有所見即據實合詞陳奏以副朕遇災戒懼側  
身修省之意欽此

大學士公阿 大學士伯和 字寄

倉場侍郎劉 山東巡撫吉 乾隆五十七年

閏四月二十八日奉

上諭據劉秉恬奏籌辦截漕一摺內稱直隸大名府前此運回截留漕米五萬餘石均係雇覓民船由漳河運往計日內可以放空回轉此項空船正欲四去覓載不如即將此項船隻截留應雇而軍船用以起撥于糧運自更有益等語本年漕船抵通比往年已屬較早又當遇閏之年即抵通稍遲數日亦于回空無悞且漕米抵通亦不過間貯倉廩並非現待闕支者可比若因起撥漕米竟將民船展轉截留應雇以致往來商旅不能販運流通于民食大有關係現在直隸地方雨澤稀少麥收較歉糧價恐不免昂貴正需各處商販源源接濟且直省地方糧食向多仰給于豫東二省商販運往接濟本年山東及豫省之河以南雨澤尚屬調勻糧價較賤自應聽其自行販賣流通轉運方于直隸附京一帶被旱之區大有裨益今劉秉恬所奏

是但知起運漕米而于通商便民之計竟未籌及所謂止知其一而未知其二也又據吉慶奏于三進尾幫過濟後將天井在城二閘嚴行封閉以遏南瀉之水及幫船轉過分水口後即將寺前通濟二閘嚴板貼席使汶河蜀山湖之水全行北注以資浮送等語運河原以濟送漕船但商販船隻亦資利濟若將南流之水阻遏于漕船北上固屬有益而民間商賈必致阻滯所辦亦未周到著傳諭劉秉恬所有軍船應行起撥米石仍用官備撥船運載毋得再雇民船致阻商運並著吉慶將閘河相機啟閉酌籌善固不可貽悞漕運亦不可令商販稍有阻遏以副朕軫念民依酌加調劑至意將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1875

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 山東巡撫吉

乾隆五十七年閏四月二十八日奉

上諭吉慶奏拏獲東昌府屬聊城縣地方行劫官眷船隻盜犯常二王智訊出同夥強劫之犯趙二王小王二等俱係直隸人現在飛咨一體查拏等語東昌地方為南北舟楫往來衝要之道該犯等胆敢上船肆劫致斃人命殊屬藐法所有現獲各犯著該撫嚴行審訊按律定擬其未獲各犯並著梁肯堂飭屬迅即查拏務獲又據穆和蘭奏拏獲行劫盜首張蠻子夥盜張二邊二許六分別定擬一摺尚有夥盜賈小祥剛二劉喜柱三犯未經拏獲著該撫飭屬上緊嚴緝並恐該犯等竄入隣省附近地方亦未可定并著直隸山東各督撫一體查拏務期弋獲至上蔡縣知縣張時霖拏獲隣境首夥盜犯尚屬留心緝捕並著穆和蘭出具考語送部引見將此各傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

1876

遵將

硃批劉秉恬吉慶摺交大學士九卿等閱看據稔璜

等會稱劉秉恬奏崔覓民船起撥漕米即將直

隸大名府運回空船轉輾截留應崔止知趕辦

漕運而于商民運販之事並未籌及伏讀

硃批亦不可阻商旅之往來仰見我

皇上念切民依于閭閻生計無不曲籌盡善至吉慶

奏運河蓄水專資浮送糧艘現將閘板封閉等

語仰蒙

硃筆點出并予摺內撈挖古淺處所

硃批應為之以實尤仰見

聖訓周詳無微不至皆非臣下思慮所及臣等恭讀

之下實深欽佩悅服之至等語謹

奏

閏四月二十八日

1877 乾隆五十七年閏四月二十九日內閣奉

上諭現在恰克圖已准其照常貿易所有刑部監禁私販大黃案內絞犯民人李生貴回子邁瑪第敏俱著加恩釋放其邁瑪第敏如情愿回至本地准其跟隨年班入覲之伯克同往倘不愿回至本地即著入于在京回子佐領下管束欽此

1878 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年五月初一日奉  
上諭京師於閏四月二十九日申刻至本日丑刻已得澍雨深透農民正可趕種秋禾業經明降諭旨令順天府尹及梁肯堂查明各屬地方酌量借給籽種以資播植矣因思此次得雨甚為優渥雖據順天府具報至丑時止共得五寸但自丑時至卯辰之間又復得雨勢亦綿密約計共有七八寸且雲氣寬廣由西北以至東南更為濃厚想從前缺雨一帶地方自必均霑澤朕心深為廬念著傳諭梁肯堂即查明各該處曾否一律均沾及得雨深透之處即行據實速奏以慰廬注將此諭令知

之欽此遵  
旨寄信前來

1879 遵

旨將乾隆八年至三十九年缺雨年分欽奉

恩旨摘錄清單恭呈

御覽謹  
奏

\* 乾隆八年六月內發內帑銀一萬兩分給九門  
以備冰水藥物

圓明園另給二千兩一體辦理

又直隸豁免舊欠米穀一萬餘石

又直隸各地方極貧戶賑卹

乾隆九年四月內直隸被旱地方四五月加賑

又刑部及直隸監禁重犯於夏至前後暫寬刑

具並給冰水藥物

又直隸應緩徵地方所有額徵錢糧暫停催納

一五月內

親祭

北郊不乘輦不設鹵簿

乾隆十年五月內順天府五城掩骼埋胔

乾隆十二年五月內刑部徒罪以下分別釋放

減等

乾隆十五年五月內

諭九卿等指陳時政勤修厥職

又

親祭

北郊不乘輦不設鹵簿

乾隆十八年徒杖以下分別釋放減等

乾隆二十三年徒罪以下減等

乾隆二十四年四月

親行步禱

又安河橋之豐益倉清河之本裕倉米石平糶

令侍衛等會同監督辦理俾郊外居民就近買

食

又京師平糶每日不妨多為出糶若將次糶完

即奏明添撥其價隨時酌減

又通州地方動通倉米石照京城設廠平糶

又八旗兵丁向無閏月支給甲米之例著於閏

六月賞給一月甲米

又五月內

親詣

社

稷壇祈雨戴雨纓冠素服步禱

又平糶各米廠添設冰水暑湯俾買米小民赴

飲

又

親祭

北郊不乘輦不設鹵簿

又直隸平糶每石減銀二三錢

又六月內

進宮徹膳敬舉

大雩之禮

乾隆三十五年五月京師平糶

又軍流以下減等

乾隆三十六年五月京師平糶

1880

遵查偷竊蒙古馬牛人犯因首犯未獲即將從犯問擬絞候現在監禁者共十六名謹將各該犯犯事情由分起開單進

呈謹奏

\* 據直隸總督題于得澄張魁聽從逸賊周敬偷竊馬匹首犯周敬在逃將于得澄張魁解部監候

又題王月明李剛聽從李四行竊蒙古馬匹牛隻什物李四在逃將王月明李剛題准解部監候

又題班達爾什等聽從逸盜得勒班行竊馬匹案內從犯楊富擬發山東河南行令解部監禁又題賈富祿等聽從逸賊莫胡盧行竊馬匹首犯莫胡盧在逃將賈富祿題准解部監禁將次解到

又題旺濟兒丹畢爾聽從逸賊各得賴偷竊牛馬首犯在逃將旺濟兒丹畢爾題准解部監禁又題卜經聽從干旦偷竊驢頭等物首犯在逃將卜經題准解部監禁將次解到

又題杜文才劉麻子聽從逸賊白京偷竊牲畜首犯在逃將杜文才劉麻子題准解部監禁將次解到

又題王誠聽從逸賊王殿臣偷牛首犯在逃將王誠題准問擬監禁又題丹巴聽從喇嘛錫拉布等偷竊馬匹首犯在逃將丹巴題准監禁

據察哈爾都統咨賽汗濟雅聽從逸犯滾楚克行竊騾馬首犯在逃將賽汗濟雅題准監禁又咨董孝先聽從伍拜偷竊馬匹首犯在逃將董孝先題准監禁

又咨車靈端多克聽從阿爾賓偷竊牛馬首犯在逃將車靈端多克題准監禁又刑部現審立決人犯暫緩行刑乾隆三十九年五月



諭各省緩決一二次人犯分別減等軍流以下減等

發落

1881 乾隆五十七年五月初一日內閣奉

上諭此次大兵進勦廓爾喀節經降旨撥銀三百萬

兩解往川省以備軍糈恐尚不敷應用著戶部於附近四川省分再酌撥銀二三百萬兩解交川省備用欽此

1882 乾隆五十七年五月初一日內閣奉

上諭向來蒙古偷竊牲畜十匹以上者首犯未獲將為從之犯即擬絞候監禁俟首犯就獲再照本罪問擬第念此等人犯究係隨同為從之人若因首犯未獲久羈囹圄情亦可憫現在清理庶獄所有監禁偷竊牲畜為從之旺濟兒丹畢爾等十六犯即各按本罪發落嗣後各省俱著照此辦理如該犯等本係起意為首因同案逸犯未獲無憑實証狡供為從希圖避重就輕將來獲犯後審出該犯

等實係起意為首無難於配所提回審訊明確治以應得本罪該犯等亦無從狡飾其未獲之首犯仍著各該處嚴飭上緊緝捕務獲按律治罪不得因有此旨遂視為海捕具文也欽此

1883 乾隆五十七年五月初一日內閣奉

上諭本年春夏以來京師及直隸近畿一帶雨澤稀少糧價不無昂貴節經降旨令順天府尹設廠平糶五城煮賑並令梁肯堂將被旱各屬倉穀動用及應徵錢糧緩至秋後開徵矣茲京師已於閏四月二十九日大沛甘霖西北一帶更為優渥雲勢寬廣現仍濃陰未止想近畿一帶自必一律均霑現在節近夏至農民正可趁此普植秋禾但恐無力貧民一時趕種未免竭蹶所有順天府所屬各州縣除就近傳知該府尹等查明即行借給籽種外其直隸被旱地方現在已經得雨趕種秋禾之處並著梁肯堂查明一律借給籽種以資播植副朕獲澤施恩有加無已至意欽此

1884  
遵

旨將

硃批阮光平表文二件交本日在

壇陪祀之大學士九卿閱看據稱阮光平因黎維祇煽

誘各首糾眾滋事其初以恐厘

聖懷未敢即行瀆奏直至將黎維祇等悉行殄滅始

具表奏捷於承事

君父之道實為恭順有加我

皇上丹毫嘉獎所以體卹而撫慰之者無微弗至仰

見

聖天子統馭外藩推誠周浹至該國王以此次殲除

餘黨由於憑仗

天威得弭後患將搜獲象隻器物恭遣陪臣賞獻既

另備表貢復懇

勅定年限品物意欲視向定年分較為增密情詞既

懇出於至誠總由

聖慈高厚中外視同一體俾邊徼新藩傾心輸悃實

為從來史冊所未有臣等恭閱之下實深欽佩

欣忭之至等語謹

奏

1885  
大學士公阿 大學士伯和 字寄

廣西巡撫陳 乾隆五十七年五月初二日奉

上諭據陳用敷奏安南國王阮光平因黎維祇糾眾

滋擾經該藩統兵殄滅具表奏聞並將搜獲象隻

器物恭遣陪臣賞獻又另備表貢遣陪臣武永城

陳玉視恭賞現在尚未報有起程日期如未能於

八月初趕赴熱河應令其緩程行走於封印前抵

京等語此次阮光平貢使等北上該撫酌量程期

能知緩急輕重所見甚妥著即照所奏如安南陪

臣賞遞表貢計七月杪及八月初間可以趕到即

令加緊行走於萬壽節前行抵熱河倘貢使等尚

無進關消息不必過於催促竟令緩程行走於封

印前抵京俾其同預朝正與蒙古王公外藩人等

共霑恩宴之榮自為妥善著該撫飭令王撫棠將

此意就近告知阮光平並該貢使等一體遵照至

表文內所請酌定進貢年限品物及賞給該國王

朝珠如意等件另有寄信該國王諭旨並著交該

撫一併照例發往將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1886 大學士公阿 大學士伯和 字寄

安南國王阮 乾隆五十七年五月初二日奉

上諭阮光平奏黎維祇等連結西南蠻萬象國首及  
鎮寧鄭臯歸合暹羅諸蠻謀襲取義安城邑經該  
國王親督將士分道擒捕悉就殲除境內寧輯等  
語覽奏深為欣慰該國王祇受藩封當邦家新造  
之時黎氏黨與復思煽動此係必有之事今該國  
王勤除餘孽絕去後患黎維祇等已殄滅無遺從  
此外靖內寧世作屏翰懋承恩眷朕用嘉焉日內  
朕因

北郊齋居虔心禱雨仰邀

昊旣立需甘霖次日該國王奏表適至深愜於懷披閱  
之餘該國王以前此入覲時即得黎維祇等構誣  
之信因恐屢朕懷未即陳奏此臣子仰體君父之  
心尤見誠悃而該國王猶以未先奏聞自行引咎  
此有何罪乎朕撫綏方夏一皆欽承

上帝栽培傾覆之理該國王能見及此深知朕心實堪

嘉獎今特賜玉如意一柄綠松朝珠一盤蟒緞二  
疋閃緞二疋錦二疋大緞二疋紗二疋羅二疋用  
以志喜王其祇受益勵虔恭長享多祜又該國王  
寄福康安咨呈一件福康安現赴西藏邊徼外勤  
辦廓爾喀番夷西藏距京二萬里廓爾喀又距藏  
萬餘里福康安檄調各路大兵一俟齊集尅日聲  
討廓爾喀業已震懾軍威窘蹙待斃俟捷書馳到  
再當寄諭該國王同深歡慶所有咨文即於軍郵  
之便發交福康安閱看俟覆信到日再遇便寄示  
也至黎維祇及手下人上年向尚書金簡處籲懇  
妄思復歸故土實係不安本分金簡斥駁不為轉  
奏其事已將黎維祇奏聞監禁維時恐該國王牽  
慮故未諭知今據該國王奏黎維祇與黎維祇兄  
弟通信構釁並宵小暗中攬撥諒為情事所有已  
交軍機大臣嚴查究訊矣至該國王前次備進方  
物曾有准作下次年貢之旨該國王因受恩優渥  
未敢拘照前例懇另定期限俾得常輸忱悃現今  
軍機大臣會同該部定議俟議上時行知該國王

敬謹遵照可也現在節屆天中照例加賜紗葛香  
扇等物另單一併寄往將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1887 遵

旨傳詢梁肯堂賈摺差弁據稱二十九日行至定興  
縣得有密雨一陣初一日從涿州良鄉一路進  
京連遇霽雨道路泥濘極為深透等語謹  
奏

五月初二日

1888 遵

旨擬  
賞安南國王阮光平物件清單進

呈俟

發下臣等於擬審

諭旨內寫入謹

奏

玉如意一柄

朝珠一盤

珠緞二疋

閃緞二疋

錦二疋

大緞二疋

紗二疋

羅二疋

\* 賞阮光平

膠紗二疋

十錦香袋一匣

甜香珠一串

香珠一包

曹扇一匣

宮扇一柄

五月初二日

兼絲葛四疋

繡香袋八箇

線絡香念珠一串

香餅一包

芭蕉扇一柄

芙蓉手巾二條

鏡子扇器二十箇  
紫金蟾酥離宮錠各三包  
鹽水錠十五包

1889 乾隆五十七年五月初二日內閣奉

上諭秦承恩奏試用州同銜竄樸歷經委管司獄事務甚為妥協現在新選按察司司獄陳書到陝尚需時日請即以銜竄樸借署陝西按察司司獄其部選之員俟到陝後另行補用等語銜竄樸著照該撫所請准其以州同銜借署陝西按察司司獄該部知道摺併發欽此

1890 大學士公阿 大學士伯和 字寄

倉場侍郎劉 河東河道總督李 乾隆五十七年五月初二日奉

上諭據李奉翰奏籌辦運河水勢情形一摺內稱此時江西尾幫催過南旺分水口已將南旺迤南寺前等閘嚴行閉板俾蜀山等湖放水北注接濟臨清等語現在京師連日得有透雨雨勢極為寬廣直隸山東一帶河路自己長水暢流諸凡順適無

慮船行之稍有阻滯矣本年漕運抵通較早且到壩後亦不過閒貯倉廩並非現待關支者可比而直隸缺雨歉收地方正需各處商販糧食接濟前因劉秉恬奏截僱民船以速漕運及吉慶奏三進幫船過濟寧後封閉天井等各閘使湖水下注以資浮送漕船但知趕辦漕運而於通商便民之計並未籌及皆所謂知其一不知其二業經飭諭妥辦現在已得透雨河流暢順更無庸復事周章著傳諭劉秉恬李奉翰等該處閘河務須相機啓閉酌籌盡善斷不可因欲速漕運致令商販稍有阻遏以副朕念切民依隨時調劑至意欽此遵

旨寄信前來

1891 本月初二日兵部將湖廣總督畢沅送到俵滿

之長沙協副將張朝龍一員帶領引

見奉

旨張朝龍著交軍機處記名欽此

1892 臣阿桂等謹

奏 臣等恭查凡致祭

壇

廟陳設邊豆供器俱係太常寺典簿專管與光祿寺無

涉本日

太祖位前供器陳設稍偏殊屬疎忽應請將典簿百昌

張善寶罰俸六個月該堂官未能看出咎亦難

辭應各罰俸三個月是否有當伏候

欽定謹

奏

乾隆五十七年五月初三日奉

旨知道了欽此

1893 大學士公阿 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十七年五

月初四日奉

上諭據郭世勳奏揭陽縣民謝阿通等行竊拒捕傷

差並戕害巡檢一案等語首犯謝阿通并謝阿袋

等十名又續獲謝阿替等四名其在逃各犯現在督飭嚴拏務獲等語此案謝阿通等因行竊被事主追趕拳毆輒挾忿將事主毆斃經縣差往拏復敢毆傷差役及至巡檢張書紳督拏竟敢逞兇拒捕將巡檢殺害刁惡已極必當按名緝獲從嚴辦理以靖地方前因京畿缺雨曾降旨令附近海洋省分凡遇命盜等案俱應按例辦理不得有意從嚴原指尋常案件而言今謝阿通等拒捕戕官情罪重大實屬莠民之尤此而不嚴行懲辦何以肅法紀而儆刁頑著傳諭郭世勳辦理此案不得拘泥近旨其為首之犯竟當問以凌遲即幫同下手戕官者亦應問擬重辟此外拒傷差役助惡助勢各犯均當照舊從嚴定擬其未獲各犯即嚴飭文武員弁上緊緝拏並於通海道路分派兵役嚴密偵緝毋致一名漏網仍將現獲各犯一面先行定擬具奏不可因有近旨稍事姑息遷就也將此諭令知之欽此

1894 大學士公臣阿桂等謹

奏為遵

旨議奏事安南國王阮光平恭獻戎捷並請按論黎  
維祁丁逆衡黎個潘啓德等罪狀一表乾隆五  
十七年五月初二日欽奉

硃批軍機大臣議奏欽此據稱黎維祁眷屬之在內  
地者送回安插八十餘名其中有丁逆衡黎個  
潘啓德手下因維祁暗囑與維祁通信他始潛  
出再據保樂遍行誘集各處豪目以起兵迎復  
維祁回國為名萬象水火二酋亦與他黨之在  
驩演者相連犄角鎮寧鄭臯歸合暹羅之兵同  
日起事將襲取義安都邑伏望

聖聽曲垂體照准下所司按論黎維祁丁逆衡黎個  
潘啓德罪狀明發處分等語臣等當即提出黎  
維祁將如何令發回安南之人暗通信息作何  
書信交付何人遞與黎維祁並作何勾結誘集  
之處逐一嚴加詰訊據黎維祁供維祁從前到

京時蒙

大皇帝天恩將維祁編入旗分給職給俸維祁因誤

聽黃益曉之言請於高平諒山等處安插以致  
革去頂帶俸祿嚴行圍禁本都統金大人管束  
維祁甚是嚴密那送回安南安插的人皆是隔  
別起身維祁不但未曾與他們見面並不知道  
他們有回安南的話何從向他們囑託暗帶信  
息呢至維祁上年因一時糊塗聽信黃益曉之  
言冒昧呈請如今懊悔無及何敢別存妄想維  
祁實在沒有暗通消息的事止求明察等語臣  
等復鎖提丁逆衡黎個潘啓德逐一隔別嚴訊  
據丁逆衡供逆衡管下皆係婦女幼孩那送回  
安南的八十餘人並無逆衡手下的人他們回  
去時逆衡並未與他們見面無從向他們囑託  
至逆衡家口親屬俱在京師惟恐犯出事情連  
累家屬不但沒有通信的事也並無通信的心  
止求詳情等語據潘啓德供那回去的八十餘  
人有啓德手下二十四人從前雖曾見過面但  
那時他們並無回安南的信啓德何從逆料他  
們回去預向他們囑託呢到了上年將啓德收  
禁時金大人管得狼嚴不許與他們見面何從

向他們囑託呢實無暗囑通信的事等語復監  
提黎個供個從前敬關請兵即被福公爺喚進  
關時事在倉猝並未向何人囑付後來解送進  
京因個不肯薙髮改服下在刑部監禁監獄重  
地拘管嚴密即黎維祁尚未能一見凡安南來  
京的人更不能與之一面他們或在京城或回  
安南全不知一毫消息實無從令人通信這是  
實情等語臣等復將各該犯反覆究詰矢口不  
移查上年阮廷沛等八十餘人該都統金簡於  
欽奉

諭旨後即時押令起程事在頃刻黎維祁等所供並  
未得信與無從見面之語似尚可信未便遽加  
以罪但現據該國王阮光平表稱丁廷衡黎個  
潘啟德手下因維祁暗囑與維祇通信以致轉  
相糾約結黨稱兵自必確有所據亦未便因黎  
維祁等一面之詞稍事姑容置之不辦應請  
勅下該國王阮光平查明從前發回該國八十餘人  
內係何人帶信所帶之信現存何處帶信之人  
係何名姓務須確切查出將原信原人由該國

委官解至鎮南關交廣西巡撫陳用敷委員接  
解鎖押送京臣等再行提集各犯當面質訊庶  
黎維祁等無從狡飾如果暗囑通信之事確有  
憑據臣等即將黎維祁等從重定擬罪名請

旨辦理以肅

憲典而昭懲創所有臣等審訊緣由謹恭摺具  
奏是否有當恭候

命下臣等一併行知廣西巡撫陳用敷轉行該國王  
欽遵辦理謹

奏

乾隆五十七年五月初四日奉

旨依議欽此

1895 大學士公臣阿桂等謹

奏為遵

旨議奏事安南國王阮光平奏請酌定貢期方物一  
表乾隆五十七年五月初二日欽奉

硃批軍機大臣會同該部議奏欽此據稱安南國自



丁李陳黎以來臣事

天朝世修職貢載在寶書光平仰荷

聖恩叨司南徼乾隆己酉年受

封伊始國事草創貢典無所徵比因循進奉但

聖主施恩如此隆厚不敢拘於前黎之例伏望

聖慈曲垂體照准下酌定本國歲貢年限與方物之

數著所司釐為成式世世遵行等語 查禮部

定例安南國向係三年一貢六年遣使來朝一

次合兩貢並進其例貢物件係金香爐花瓶四

副計重二百零九兩折金二十一錠銀盆十二

事計重六百九十一兩折銀六十九錠沉香九

百六十兩速香二十三百六十八兩久經遵行

在案茲該國王阮光平新受藩封寵膺王爵前

者躬赴

闕廷觀

光叩祝特邀

賚予駢蕃迥逾常格上年遣使修貢欽奉

諭旨准作下次年貢

聖慈曲體極渥至優該國王感激

恩施表請不拘前例另定貢期情詞肫懇實出至誠

自應量從所請俾得抒効悃忱臣等會同酌議

所有安南國貢期向係三年一貢者今酌定兩

年一貢向係六年遣使來朝一次者今酌定四

年遣使來朝一次仍著合兩貢並進以遂該國

王愛戴虔恭勤修職貢之意至該國方物任土

作貢舊有常經應照例備進但

天朝統馭茲國厚往薄來即該國不能備物亦不妨

稍從節減用示體卹恭俟

命下臣部即行知該國王永遠遵循以仰副

聖主懷柔撫字至意所有臣等會議緣由謹恭摺具

奏伏乞

皇上睿鑒施行謹

奏

五月初四日

1896 大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年五月初四日奉

上諭梁肯堂奏保定省城五月初一日得雨三寸安

肅定興滿城良鄉四縣閏四月二十九夜至五月

初一日得雨二寸至四寸不等又順天承德等府

屬州縣俱於閏四月二十一等日得雨一二

寸至五寸等語京師於閏四月二十九及五月初

一日連得澍雨極為深透本日又據保成奏熱河

一帶自閏四月二十九日至五月初一日甘霖大

沛得雨甚為優渥想該督尚未據各屬報到故未

經奏及連日陰雲間作直隸缺雨一帶各府州屬

自必一律均霑渥澤前已降旨令該督查明應借

戶口酌量借給籽種現在得雨地方自己趕種秋

禾其有得雨較遲或僅止一二寸未能普渥間成

偏災處所著該督遵照節降諭旨酌量賑濟加意

撫卹務俾小民均沾實惠毋使一夫失所仍據實

奏聞不得稍有諱飾其距省稍遠未經報雨各州

縣現在曾否已得透雨之處即速查覆奏以慰廑

注將此諭令知之欽此

1897

查本日梁肯堂奏到報雨單內昌平州於閏四

月二十九日得雨三寸連日或已續得雨澤自

必即行奏到俟詢明順天府尹再行具奏至宣

化府屬本日該督報雨單內未經開載但摺內

聲明距省較遠處所業已專弁分查尚未覆到

或因宣化府距省較遠是以未經奏及謹

奏

五月初四日

1898

大學士公阿 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年五月初五日奉

上諭昨據梁肯堂奏保定順天承德等府屬俱得澍

雨而易州地方得雨僅止一二寸昌平一帶亦止

三寸等語現在詢之順天府據稱昌平等處連日

得雨已經深透想該督尚未據該州稟報易州一

帶近日得雨諒已深透著傳諭梁肯堂即行查明

各該處續得透雨及入土分寸若干之處迅速覆

奏以慰廑注將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1899

臣等詢問蔣賜榮等昌平州一帶得雨情形據稱昌平州等處已據報得雨深透業經繕摺具奏等語謹

奏

五月初六日

1900

查京城平糶米麥前經奏明發京倉米五萬石麥四萬石共九萬石於閏四月初十日開糶起每日五城十廠糶賣米麥九百石計至七月二十日始行糶竣至五城普濟堂設廠糶原奉諭旨查賑一月於閏四月十五日起至五月十五日

完竣恰與頃奉

恩旨相符似可無庸擬寫再行平糶一月

諭旨謹

奏

五月初六日

1901

大學士公阿 大學士伯和 字寄  
福建廣東江南浙江山東各督撫 乾隆五十七年五月初六日奉

上諭本日據書麟吉慶奏盜犯彭正林等出洋行劫將舵工水手推海淹斃一摺已批交三法司核擬速奏矣前因京畿缺雨曾降旨令附近海洋省分審辦盜案祇須照舊辦理不必從嚴今盜犯彭正林等糾夥在洋面行劫竟至將舵工水手推溺斃命慘惡已極豈可不嚴行懲辦以肅法紀而靖海疆閩粵江浙等省俱係瀕海重地若各該督撫等因有近旨於盤獲洋盜一味從寬意存輕縱勢必盜風日熾轉非辟以止辟之意且現在京師及畿輔一帶俱已普霽甘霖此等兇惡盜犯豈可稍從寬典轉致擾害良民著傳諭閩粵江浙等省各督撫嗣後遇有洋盜重案情節兇橫戕殺多命疊劫多案者均當從嚴辦理不得拘泥近旨稍事姑息以期靖盜安良將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1902 大學士公阿 大學士伯和 字寄

兩江總督書 山東巡撫吉 乾隆五十七年

五月初六日奉

上諭吉慶奏據署膠州知州沈霽稟稱在東洪洋面盤獲無票漁船一隻究出黃月林等聽從彭正林在江南海門地方劫奪孫泳茂船隻並將舵水楊才丁泳二人推海淹斃現將首盜彭正林一犯挈獲解交江省審辦其逸盜萬奇現在飭屬嚴拏等語已批交三法司核擬速奏矣彭正林等膽敢糾夥出洋劫奪客船並將舵工水手推跌入海斃命兇惡已極吉慶係隔省巡撫竟能不分疆域督飭所屬拏獲首盜解交江省審明正法辦理甚屬認真所有署膠州知州沈霽於鄰省洋盜即能留心盤獲亦屬能事著送部引見其在逃之萬奇一犯仍著各該督撫嚴飭所屬實力查拏務獲毋任遠颺漏網將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1903 乾隆五十七年五月初六日奉

旨陳喜黃月林均著即處斬梟示餘依議欽此

山東拏獲江南行劫盜犯一案

1904

查各省採買銅鉛等船及滇黔等省運京銅鉛中途沉溺打撈無獲或不能如數全獲者俱令各運員等分別著賠地方官議處其認真打撈並無損失者令該督撫查明咨部議叙業於乾隆五十五年八月二十七日欽奉

諭旨通行在案臣等謹抄錄呈覽似可無庸再行擬寫

奏

諭旨謹

五月初六日

1905 遵

旨將

硃批馮光熊覆奏河東近日銷鹽情形一摺交本日

奏事之九卿等閱看據常青等僉稱從前晉省

行銷引鹽商力總形竭蹶鹽觔亦未能暢銷自

上年課歸糧輸鹽聽民便之後人人皆得販運

既無守候又無限制民間商販絡繹較向年商

運鹽數多銷至加倍有餘而鹽價亦漸減落仰

見我

皇上嘉惠商民務使利歸於下臣等實深欽佩悅服

之至等語謹

奏

五月初七日

1906 乾隆五十七年五月初七日奉

旨朕此次巡幸木蘭駐蹕熱河所有步軍統領印鑰

著定郡王綿恩署理吏部印鑰著常青帶管戶部

印鑰著金簡帶管欽此

1907 乾隆五十七年五月初七日內閣奉

上諭玉德現在出差蘇凌阿又派令隨往熱河伊齡

阿於刑名未能諳習玉德未回京以前所有刑部

侍郎事務著穆精阿兼署欽此

1908 乾隆五十七年五月初七日內閣奉

上諭從前臺灣海口員弁得受陋規銀兩於各家屬

名下著追其實在無力完繳者經該督撫奏請於

該管各上司名下攤賠業降旨加恩寬免海口員

弁得受陋規多至鉅萬該管上司乃竟毫無覺察

本應一體著賠因念人數太多且閱年已久是以

免令攤賠但各管上司內有棄瑕錄用者其應得

廉俸等項若仍准支領究不足以示懲即如雅德

現賞給頭等侍衛在新疆辦事其得項即不應支

給所有此案失察海口陋規曾免攤賠之各上司

如有復邀錄用者雖免攤賠之項俱不准領廉俸

以示因循不察屬員者戒該部知道欽此

1909 乾隆五十七年五月初七日內閣奉

上諭向來親王郡王以下府第俱有定制載在會典  
惟門首應否設立行馬下馬椿及高下寬窄遠近  
之處並未開載但行馬下馬椿為規制攸關會典  
未有明條難以遵循亦應明立限制以示等威此  
後親王固倫公主郡王和碩公主及貝勒門首俱  
准設立行馬下馬椿貝子以下不得借用其尺寸  
高下寬窄距府第遠近若干應如何分別等差著  
宗人府會同步軍統領衙門詳議章程具奏至諸  
王園居惟彩霞園曾經  
皇祖駐蹕是以門外建蓋東西相向朝房二座自應仍  
存其舊此外諸王公主之園居俱不准建蓋朝房  
以示限制其親郡王子孫以次降封至貝子以下  
者其舊居府第規制俱毋庸更改惟行馬及下馬  
椿應照舊制撤去不得僭用並交宗人府存記遵  
照欽此

1910 乾隆五十七年五月初七日奉  
旨九兒三姪俱著即處斬餘依議欽此

1911 同日奉

旨閔小命兒著即處斬餘依議欽此  
脫逃遣犯挈獲

1912 前據梁肯堂奏臺灣陋規案內籍隸直省之已  
故同知焦長發韓琮業經發遣之原任總兵章  
紳三員所有未得受陋規者銀將各該員之  
子監追日久查明本籍實在無力完繳可否照  
籍隸閩省營弁無力完繳各員懇  
恩一體寬免毋庸該上司分賠一摺閏四月二十一  
日奉

硃批即有旨欽此又奉  
旨令臣等將此案文武員弁共若干人應賠銀兩若  
干現在已未完各若干查明具奏 臣等遵查  
臺灣陋規案內得受番銀文武員弁自乾隆三

十一年起至五十一年止文職二十一員武職八十九員業經分別治罪仍按照在任年月共應追賠銀八十七萬七千九百六十餘兩現已完繳銀十二萬二百八十餘兩又五十六年二月伍拉納奏此案應追銀兩內有籍隸閩省之營弁五十五名查明實在無力完繳酌議歷任各上司攤賠一摺奉

硃批該部議奏欽此嗣經戶部

題覆議令歷任各上司照數分賠奉

旨此項應追銀兩歷年已久該督奏請於歷任各上司攤賠之處著加恩寬免餘依議欽此現在除已經賠繳及蒙

恩寬免外尚有未完銀五十一萬五千二百七十餘兩所有焦長發等三員名下共應追銀四萬九千七百四十餘兩謹分晰開具清單並將梁肯堂原摺一併抄錄進

呈謹  
奏

五月初七日

1913 大學士公阿 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年五月初八日奉  
上諭據穆和蘭奏四月分雨澤糧價摺內稱開封省城暨河北三府屬地方自上月得雨後間有微雨飄灑多屬不成分寸現在率屬祈禱以冀續霑甘露等語春夏以來豫省開封府屬雨澤稍稀而河北三府更屬缺少雖據該撫奏於上月二十五二十六二十九等日普得透雨但現在尚未續得雨澤朕心深為廛念著傳諭穆和蘭即行查明缺雨地方現在曾否續得透雨趕種秋禾其有得雨較遲或僅止一二寸未能普渥間成偏災處所著該撫酌量賑濟加意撫卹俾小民均沾實惠毋使一夫失所仍即據實奏聞不得稍有諱飾將此傳諭知之欽此

1914 乾隆五十七年五月初八日內閣奉

上諭吉慶奏山東德州一帶自四月二十五六等日得有透雨以後迄今未獲續沛甘霖地土乾燥晚禾雜糧播種無多小民口食不無拮据等語前因東省德州一帶望澤甚殷業經降旨令該撫查明無力貧民借給籽種口糧以資接濟今該處至今既未獲被甘膏麥收失望若應徵新舊錢糧同時輸納民力益形竭蹶所有德州平原恩縣武城夏津邱縣臨清高唐館陶並德州衛等十州縣衛本年應徵新舊錢糧倉穀著加恩一併緩至秋後察看收成再行啟徵以紓民力其實在無力貧戶並著賞給一月口糧用資接濟該撫務督飭所屬實心經理俾小民均沾實惠以副朕軫念民艱之至意該部即遵諭行欽此

1915 乾隆五十七年五月初八日內閣奉

上諭本日太常寺將贊禮郎六缺讀祝官二缺帶領引見所帶人員多至二十八名殊屬非是其

陵寢贊禮郎讀祝官二缺已即行引見補放此外亦僅

有六缺何必需用二十餘名之多朕引見內外各官一日有多至百餘員者從不厭煩勞但部院衙門引見官員即係緊要之缺例止擬正擬陪候朕簡用足矣况贊禮微員又何須加倍乎且單內缺分行款陵寢禮寫三字本寺之缺亦禮寫一字以便一目了然乃竟一例平寫眉目不清該堂官於此等處全未留心殊屬疎忽所有此次帶領引見之太常寺堂官俱著交部議處欽此

1916 乾隆五十七年五月初八日內閣奉

上諭伍拉納等奏查獲私拆公文投入匿名揭帖詎告本管營弁之兵丁柯大斌定擬絞罪請即行正法一摺所辦過當此案柯大斌因本管把總許登龍平日管束嚴緊並有同營食糧之弟柯幅因情悞操演曾被許登龍責處柯大斌挾嫌捏寫許登龍包賭匿名揭帖一紙私行裝入公文投遞總督衙門以圖拖累洩忿經該督等審出實情從重問擬但此等業犯非若洋盜行劫兇殺事主及連斃



多命情罪重大決不待時者可比該督等照依本律問擬絞候由部入於秋審情實屆時仍當予勾亦不過暫緩數月乃該督輒請即行正法致與洋盜重犯漫無區別殊屬非是外省辦理讞案非失之不及即失之太過大率類此除將原摺交部核擬外伍拉納浦霖俱著傳旨申飭欽此

1917 查和親王園居彩霞園匾額係乾隆二年七月

內

御書頒賜謹

奏

五月初九日

1918 查乾隆五十四年

駕幸熱河於南石槽途次遇雨所有墊道兵丁奉旨每名賞銀一兩是以臣等於擬寫諭旨內即照五十四年之例繕寫謹

奏

五月初十日

1919 閏四月二十七日臣等面奉

諭旨此次前往熱河所有經過地方著照本年巡幸五臺之例蠲免地丁錢糧十分之五欽此謹擬寫

諭旨進

呈謹

奏

五月初十日

1920 查阿爾曾薩野前經福康安奏到據該犯供稱

係喇達納巴都爾一族瑪木薩野之堂姪謹

奏

五月初十日

1921 乾隆五十七年五月初十日奉

旨本日由圓明園啓蹕前赴南石槽途次遇雨所有墊道兵丁著每名賞給銀一兩欽此

1922 乾隆五十七年五月初十日內閣奉

上諭朕向來巡幸木蘭駐蹕熱河經過地方俱蠲免地丁錢糧十分之三本年近畿一帶現在雖經渥霈甘膏但從前得雨稍遲甫經補種大田小民恐未免拮据所有此次經過地方著加恩蠲免地丁錢糧十分之五以示朕格外體卹至意欽此

1923 大學士伯和 字寄

湖南巡撫姜 乾隆五十七年五月初十日奉  
上諭據張姚成奏於嶽麓書院之旁籌建別院一所並請將學政衙門學租用剩銀五百餘兩撥給書院增添膏火等語張姚成現於失察道州武生糾槍一案應行交部該學政此奏非為冀寬處分即因本年係屆更換學差之時去任在即為此遺愛之留其意俱不免於私但建立別院向來所無此項銀兩向備賑濟貧生之用或為學政餘資是否報部查核今若撥給書院將來遇有動用是否足敷抑將另動公項摺內均未奏及著傳諭姜晟就近詳細查明如張姚成所請可行即奏明准其撥

給若有窒碍之處亦即據實具奏不可稍涉遷就將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1924 大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 乾隆五十七年五月初十日奉  
上諭山東德州與直隸景州接壤本年春夏未經得有透雨節經降旨詢問據吉慶奏稱德州地方自四月下旬微雨後總未續被甘霖等語現在京師已連霑渥澤昨晚及本日途次復得密雨雲勢甚廣東南一帶更為濃厚諒德州附近自必一律普霑除河間景州等處已就近傳知梁肯堂派員前往查看外著再傳諭吉慶即將德州附近一帶曾否得雨大田趕種情形迅速查明覆奏以慰廑注  
欽此遵

旨寄信前來

1925  
遵

旨詢問梁肯堂據稱宣化府屬於三月初旬得雨後

五月初八日在涿州途次據該道府稟報宣化郡城一帶地方於初六日卯時起午時止得雨約有四寸從此翻犁播種秋成實屬可望等語因在途次接到尚未及具奏至獨石口地方前據赤城縣稟報初一日得雨二寸初二日又得雨二寸先後共有四寸各田亦可趕種業於初六日

奏明在案其張家口地方據萬全縣稟報於初六

日得雨二寸雖得雨較小但該處於三月初四

日得雨三寸大田已經播種今得此雨澤接濟

亦屬有益俱可無須委員往查至河間景州等處已專差營弁迅速前往查看俟稟覆到日再

行具

奏等語謹

奏

五月初十日

1926  
大學士伯和 字寄

安徽巡撫朱 乾隆五十七年五月十一日奉

上諭本日朱珪奏報銅鉛過境及滇銅過境兩摺係同日拜發又俱係滇省銅運似此照例事件自應歸併一摺具奏何以該撫輒分作兩摺已於摺內用硃筆點出雖朕日理萬幾固不厭披閱之煩而該撫於同日陳奏事件漫不經心率行分繕何不曉事若此朱珪著傳旨申飭將此諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

1927  
乾隆五十七年五月十一日內閣奉

上諭朕本年巡幸五臺召見山西巡撫馮光熊觀其才具難勝繁省之任且山西駐防滿兵口外各廳均係蒙古地方向例多用旗員馮光熊著來京另候簡用其山西巡撫員缺著長麟調補其所遺江蘇巡撫員缺著奇豐額補授欽此

1928 乾隆五十七年五月十二日內閣奉

上諭江蘇布政使員缺著張誠基調補所有直隸布

政使員缺著陸有仁補授其山東按察使員缺著

阿彰阿補授欽此

1929 臣等將昨日

召見清河道方受疇霸昌道同興次序錯悞之處傳

集梁肯堂及該司道等面傳

諭旨據梁肯堂等稱我

皇上辦理政務悉秉至公於大小臣工滿漢視同一

體今因

召見道員次序先後錯悞即蒙

旨查詢仰見

聖明燭照鉅細靡遺等語臣等復將因何錯悞之處

面詢奏事處該班官員據員外郎文英稱實係

一時疎忽排列錯悞並非出自該道等之意今

蒙傳

旨詢問不敢迴護等語應請將文英照疎忽例罰俸

奏

三個月以示懲儆謹

五月十二日

1930

查本日玉德奏審案摺內訓導李天挺先因生  
員李步雲向懇出文補考經學書王煥初稟知  
該生在省控案曾經藩司查取入學年分聽候  
褫革未便起文該訓導遂爾中止嗣因李步雲  
送給李天挺銀二十兩分給王煥初二兩王煥  
初亦即聽從出文侍郎玉德將李天挺照枉法  
贓律計贓擬徒已屬從重辦理惟該學書王煥  
初始以未便起文回稟嗣分得銀兩復即為辦  
文雖所得之銀僅止二兩業經該侍郎照例加  
一等擬杖八十但核其情節究不免於刁難臣  
等謹擬於核擬摺內將王煥初從重再加枷號  
一個月至摺內應議各員其任內有無加級紀  
錄及降革處分此間無案可查臣等現會同梁  
肯堂將罪名先行議定其應議各員俟寄信在

京吏部查覆到日再行具

奏梁肯堂於明早送

駕後應即令回署任事合併陳明謹

奏

五月十二日

1931 大學士伯和 字寄

漕運總督管 乾隆五十七年五月十四日奉

上諭據諾穆親等奏報二進南糧起卸全竣摺內稱

江淮九幫抵關脫空七日四幫脫空六日興武二

幫脫空三日安慶前幫脫空一日行咨漕臣查辦

等語本年二進南糧於五月十二日全數起完辦

理尚為迅速但江淮興武安慶等幫何以俱有脫

硃

空日期計前後脫幫共十七日之多是否押運員

弁任令該丁等途次逗遛所致抑或別有緣故著傳諭管幹珍即

將二進內江淮等幫因何脫空緣由切實查明如

有任意遲延情事即分別究辦以示懲儆將此傳

諭管幹珍並諭諾穆親等知之欽此遵

旨寄信前來

硃

1932 乾隆五十七年五月十四日奉

旨軍機大臣核議紀昀奏覆勘天津閣書籍遺漏未

簽各員請交部分別議處其應行換寫各書所需

工料銀兩於議叙得官各供事名下按數攤賠一

摺此等供事因辦理書籍俸邀議叙得受官職而

所辦之書竟有缺頁缺卷並將他本抵換等事今

不將該承辦供事等概行斥革已屬格外從寬所

有此項著賠工料銀兩非尋常賠項可比著交各

該督撫於部文到日照數嚴追歸款該員等俱係

微員廉俸無幾毋任藉詞扣繳致有延宕更當查

察因此納賄有即嚴叅治罪餘依議欽此

1933 乾隆五十七年五月十四日奉

旨陳安邦身任總兵於海洋行劫重案不能實力巡

查以致被賊慘殺多命非尋常疎防可比且伊今

春在西巡途中接見亦不過一尋常供職之人陳

安邦著照部議降一級調用並著送部引見餘依

議欽此

1934 昨奉

旨降調蘇松鎮總兵陳安邦一缺應請

旨補放查蘇松鎮係屬水師現在

記名副將內並無水師出身人員惟福建省保列一

等副將內有孫全謀一員係臺灣水師副將尚

未引

見謹擬寫空名

諭旨進

呈恭候

簡放謹

奏

1935 乾隆五十七年五月十五日內閣奉

上諭江南蘇松鎮總兵員缺著孫全謀補授欽此

1936 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 山東巡撫吉

乾隆五十七年五月十五日奉

上諭據江蘭奏直隸河南附近山東處所商販至東  
 糴買糧食者車馱相接於道恐市僧抑勒居奇節  
 經密飭地方官不動聲色妥為經理等語所辦尚  
 是本年直隸地方雨澤稀少麥收歉薄糧價不免  
 昂貴必需各處商販源源接濟茲赴東糴買糧食  
 者相接於道正應聽其販賣流通轉運者傳諭梁  
 肯堂穆和蘭吉慶務宜飭屬設法招徠固不可使  
 市僧居奇尤不可稍有阻遏庶商販雲集糧價日  
 臻平減俾兩省小民易於糴食於災區大有裨益  
 又摺內稱德州於初六日得雨一寸沂州萊州青  
 州登州府屬亦於初七日得雨二三四寸等語本  
 月初六日德州得雨僅止一寸是仍未沾足景州  
 與德州接壤情形想屬相同看來直隸迤南及山  
 東德州東昌一帶俱未免缺少雨澤即沂州萊州  
 各府得雨四寸者尚為有益其僅止二三寸者恐  
 不足以資沾潤昨於十四日駐蹕常山峪釀膏續  
 沛東南一帶雲氣尤為濃厚若直隸山東缺雨各  
 屬同日普沾則已倘尚未得透雨現在將屆小暑  
 恐秋禾不及趕種如有應行借給籽種酌量接濟

者即當留心妥辦不可稍事諱飾著傳諭梁肯堂  
穆和蘭吉慶即將各該省缺雨地方於十四日曾  
否得有透雨及應行接濟之處詳晰查明據實具  
奏以慰厯注將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1937 大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 陝西巡撫秦 乾隆五十七年

五月十五日奉

上諭據秦承恩奏拏獲黑龍江為奴人犯照例辦理  
又哈當阿等奏拏獲逸盜餘匪審明正法兩摺俱  
已批交該部矣此二案被獲人犯一係在配脫逃  
一係逸盜餘匪該縣馬允剛游擊潘國材俱能留  
心查察督率拏獲俾逃匪徒不致漏網雖非拏  
獲鄰境盜犯及海洋盜犯可比不值送部引見但  
該員等於緝捕事務尚屬認真亦應量加獎勵著  
傳諭伍拉納秦承恩察看該員等如果實在奮勉  
或酌予記功遇應行陞用時置之前列使其益加

感奮用示鼓勵將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1938 乾隆五十七年五月十五日內閣奉

上諭據秦承恩奏請定太白山祀典一摺太白山禱  
雨輒應久著靈異從前曾令該地方官春秋致祭  
並特加昭靈普潤封號以答神庥本年該省盼雨  
稍殷設壇虔禱經撫臣委員自太白山取水甫至  
即霽甘霖通省俱獲優霑益見功濟生民允宜特  
隆秩祀用肅精禋著交禮部列入祀典並頒給祝  
文儀注以昭崇報摺併發欽此

1939 啟者本日

大人奏請太白山祀典一摺已恭奉

諭旨勅部列入祀典頒給祝文儀注矣又面奉

諭旨太白山禱雨輒應久著靈異將來應於香山千  
相寺內供奉太白山神以昭誠敬嗣後每年春初  
著該撫遣官虔赴太白山取水遇有便差及引見官  
員等順送至京供設神前設遇應行祈雨之時即

可就近取水祈禱等因欽此為此專札佈知  
大人遵照辦理不必專摺具奏順候不一

和具

五月十五日

1940 辦理軍機處為飛催事本月十二日奉

旨現由打箭鑪解京之廓爾喀賊犯阿爾曾薩野著  
沿途各督撫於其過境時飭令解員趨緊進行前  
赴熱河欽此為此飛咨  
貴督即行欽遵辦理可也須至咨者

右咨

直隸總督

陝西巡撫

山西巡撫

乾隆五十七年五月

日

1941 大學士公臣阿桂等謹

奏為遵

旨議奏事本年五月初二日左都御史紀昀奏覆勘

天津閣書籍完竣等因一摺奉

旨軍機大臣議奏欽此據稱

天津閣全書六千餘函現俱勘完歸架所有勘出  
從前詳校各員遺漏未簽之處逐條造具清冊  
修補完整其中缺頁缺卷及成部成卷應行換  
寫各書並查出他本抵換書三種請照從前性  
理大全史記正義之例賠寫又提要內有任意  
刪節改竄及遺失私撰各篇頁並請先交

武英殿官為換寫所需工料銀兩於議叙得官供  
事名下攤追等語 查詳校

文淵

文源兩閣書籍各員上年經紀的覆行勘出遺漏  
未簽者業據奏明將訛錯較少之員罰令校勘

文淵

文源兩閣空函書訛錯較多之員罰令前赴熱河  
校勘



文津閣空函書其未經勘書丁憂告假回籍及外任各員交部分別議處經臣等核准在案現在熱河勘出遺漏各條其原辦之詳校官內有上年經紀的遵

旨帶同赴

文淵

文源兩閣覆勘書籍者計各該員每人所勘書不下七八百函簽出各條較前數倍此次紀的冊內所開除許兆椿祁韻士常循裴謙王坦修牛稔文何思鈞倉聖脉徐以坤德生程嘉謨劉源溥倪廷梅溫常綬呂雲棟莫瞻萊孫球十七員已經罰令勘書毋庸再議外其未經勘書之各員除病故降革外所有孫溶潘有為石鴻翥朱鈐溫汝适郭在遠吳錫麟王燕緒李巖卜維吉十員應請交部照冊開各條分別議處至應行換寫各書卷帙較繁查從前性理大全因全部擡寫錯悞史記正義係他本抵換俱經紀的奏明此二項書籍係承辦供事舛錯以致全部四分均須另寫請於議叙得官各供事名下攤賠

一面交

武英殿先行換寫所需工料照數追銀完繳此次文津閣勘出缺頁缺卷及成部成卷應行換寫並他本抵換各書與性理大全史記正義事同一例自應照前攤賠換寫又據紀的查出提要內刪節改竄及遺失私撰各篇頁與總目不符一律賠換以臻完善均應如紀的所奏先交武英殿官為換寫其需用工料銀若干兩應即查明議叙各供事現任某省飭令按數攤賠並行知各該督撫上緊追齊歸款毋任延宕俟寫畢後仍責成紀的帶領官匠將

文淵

文源二閣換寫篇頁逐一抽換完竣再前赴

文津閣抽換整齊免致歧悞並將未刻

御製詩文一併補繕添入以歸畫一所有臣等核議

緣由謹恭摺具

奏伏乞

皇上聖鑒謹

奏

1942 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十七年五月十七日奉

上諭前因海塘伏汛將屆一切搶護修防均關緊要  
曾降旨諭令福崧如尚未起程且不必赴京陛見  
本日據福崧奏行抵宿遷接據藩司稟報提標派  
出之巡洋署守備林鳳鳴等於民人互爭網地一  
事經伊父寄信囑託希圖獲利幫同爭奪並許給  
巡洋之署游擊李廷翰錢文現經提督提回審辦  
相應據實參奏等語除已降旨將李廷翰等革職  
拿問外即此而論可見福崧此時之急於起程殊  
屬非是福崧此次陛見如果地方事務有必須面  
行陳奏者亦可具摺奏聞料福崧亦無要事必須  
面奏而為此僕僕轉稱沿途兼程行走俟陛見後  
再行迅速回任豈不可笑且該撫奏報交印起程  
日期摺內稱現無急須趕辦要件因犬馬戀主之  
心夢寐不能自己尤屬無謂福崧如曾在內廷行  
走或久未覲見尚可為此依戀之詞乃作此虛飾  
過分之語其誰欺乎福崧前在巡撫任內獲咎派

往新疆辦事令其効力贖罪嗣因一時乏人是以  
棄瑕錄用仍任為浙江巡撫以收駕輕就熟之益  
伊前奏海塘石壩一事尚見留心今於接奉諭旨  
令其緩行陛見仍不權事理輕重亟於一來何不  
曉事若此著傳旨嚴行申飭並著該撫於何處接  
奉此旨即於何處迅速仍回本任即已行抵古北  
口亦不必即來來亦不令進見即斥迴伊若為前  
來陛見呈進方物即差人賞呈亦已諭令奏事處  
不准接受福崧惟當遵奉諭旨速回浙江將爭奪  
網地一案嚴切審訊並將海塘石壩事宜實力籌  
辦以副委任至福崧所奏辦理石壩必須將大塊  
石料拋入其畧小之石俱裝入竹簍沉放海底以  
期不致衝刷等語亦屬無用大塊石料散拋水中  
仍虞衝失何不即將大石一併裝入大簍內沉放  
海底更為著實且有收束亦著福崧於回任後一  
併酌籌妥辦如實有地方要務即可專差具摺陳  
奏此時總不必前來行在也將此由五百里諭令  
知之欽此遵

旨寄信前來

1943 乾隆五十七年五月十七日奉

旨這所叅蔞差不慎致令解犯脫逃之融縣知縣王輔長並接解之署雄容縣知縣福慶俱著革職留任勒限一年緝拏如逾限未獲即行革任該部知道摺併發欽此

1944 乾隆五十七年五月十七日奉

旨據福崧奏浙江提標派出巡洋之署守備事千總林鳳鳴因民人與漁戶互爭網地該署守備聽從伊父寄信囑託貪圖得賄輒帶兵丁幫同爭奪並許給定海鎮標巡洋之署游擊事守備李廷翰錢一百千文邀同前往而定海縣知縣嚴承夏並無隻字稟報相應據實叅奏等語巡洋員弁因貪圖得賄輒敢幫同民人爭奪網地最為綠營惡習該縣地方遇有此等事件並不稟報意存諱飾殊為可惡署游擊李廷翰署守備林鳳鳴及定海縣知縣嚴承夏俱著革職拏問交福崧回任即行會同提集犯証兵丁人等嚴審定擬具奏該部知道摺

併發欽此

1945 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 廣西巡撫陳  
乾隆五十七年五月十八日奉

上諭郭世勳奏阮光平獻捷表內輒謂黎維祁與黎維祗暗通消息懇按論罪狀不但事屬無憑抑且對揚非體現擬與陳用敷照會該國王凡表內牽涉黎維祁之處一概刪節繕正賞進等語所見固屬甚正但此事先據陳用敷於初間奏到已於該國王原表內即行批諭並指示軍機大臣於議摺內將阮光平表稱丁逆衛手下人等為黎維祁弟兄暗通消息糾約稱兵一節自必實有其人確有所據今該國王查明帶信之人及所帶之信將原信原人送京質對業屬詞嚴義正足消其覬覦之心此旨暨軍機大臣議摺於初八日由四百里發往數日內已可遞至廣西此時即欲掣回亦屬無及想陳用敷接奉後自必咨會郭世勳該署督止可遵照前旨與陳用敷聯銜發去此事若陳用敷

於接到王撫崇稟報時即札會郭世勳商同具奏原可照該署督現在所奏駁斥之處辦理乃該撫不待會商先行具奏致有兩歧嗣後該撫遇有邊關表文緊要重務當和衷商榷會同具奏毋得彼此不相關照以致稍有歧誤至現在郭世勳等惟當遵照前旨暨軍機大臣議摺即行發往所有駁令刪改表文之處竟可毋庸再提俟阮光平如何措詞登覆到日再行會奏請旨候朕裁奪將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1946 乾隆五十七年五月十九日內閣奉

上諭甘肅鎮西府知府員缺著穆爾薩哩補授欽此

1947 昨據勒保奏甘肅鎮西府知府富興阿病故所遺之缺應用旗員現在陝甘兩省滿洲知府內實無可以揀調之員請

旨簡放等語謹將奉

旨記名及應行提奏滿洲人員開單進

呈恭候

簡用謹

奏

五月十九日

\*奉

旨記名人員

穆爾薩哩 正黃旗滿洲現署山西大同府理事

廣 玉 正白旗滿洲現任甘肅循化同知

穆克登額 正紅旗滿洲現任雲南廣西直隸州

德 昌 正白旗滿洲原任衛輝府知府丁憂

奉 回旗現在太僕寺員外郎上行走

旨提奏人員

台斐英阿 正黃旗蒙古前任承德府知府現任  
園場總管

京察記名繁缺人員

恒 溥 正紅旗滿洲現任御史

高 杞 鑲黃旗滿洲現任御史

圖 桑 阿 正黃旗滿洲現任戶部郎中

恩 特 赫 謨 鑲黃旗滿洲現任刑部郎中

祥 林 正白旗滿洲現任刑部郎中

景 裕 鑲黃旗滿洲現任工部郎中

阿 禮 布 正白旗滿洲現任工部郎中

富 泰 正黃旗滿洲現任理藩院郎中

常 齡 正藍旗滿洲現任戶部員外郎

那 縉 正白旗滿洲現任刑部員外郎

椿 齡 正紅旗滿洲現任刑部員外郎

玉 保 鑲黃旗滿洲現任工部員外郎

多 托 禮 鑲紅旗蒙古現任理藩院員外郎

色 布 星 額 鑲紅旗蒙古現任內閣侍讀

1948 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年五月十九日奉

上諭據穆和蘭奏豫省河南各屬得雨深透早禾勃  
發現已趕種晚禾雜糧惟河北三府屬尚在望雨  
據彰德衛輝等府稟報五月初一日各得雨一寸  
等語本年春夏以來河北三府屬雨澤短絀前經  
降旨截留南糧漕米以資接濟并令該撫酌量借  
給籽種銀兩今據奏各屬交五月以來尚未得有  
透雨若旬日之間仍未普渥恐致間成偏災是該  
處現在盼雨甚殷所有彰德衛輝等處僅得雨一  
寸亦何足用著傳諭穆和蘭將河北三府屬近來  
曾否得有透雨即行查明迅速奏聞其得雨較遲  
地方該撫務使留心察看先事綢繆如晚穀雜糧  
不能趕種齊全間有成災處所仍即據實奏聞不  
得稍有諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1949

查李奉翰奏報得雨之處係由東省赴豫一帶地方均係河以南各府屬穆和蘭所奏得雨各處亦係河以南地方與李奉翰所奏相同其河北三府屬仍尚缺雨 臣等謹擬寫寄信穆和蘭

諭旨進

呈謹

奏

五月十九日

1950

大學士伯和 字寄

兩湖總督畢 乾隆五十七年五月十九日奉

上諭據劉君輔奏續獲道州生員糾搶案內逸犯周

邦俊等十三名選派員弁押解赴省聽候審辦一

摺此案前據王懿德奏到時業經降旨交畢沅嚴

審究辦該犯李盛春等均係生員伊等身列黷宮

乃因護黨挾嫌起釁膽敢糾集多人肆行抄搶尤

屬目無法紀幸而案內首從各犯三十三名業已

先後全行拏獲尚無抗拒情事設人數眾多安保

1951

遵

旨將

硃批和琳奏摺及欽奉

諭旨一道交

行在九卿等閱看據劉綦等稟稱此次進剿廓爾

喀賊匪口外一帶軍饗烏拉在在均關緊要蒙

皇上特派和琳馳驛前往督辦一切事宜茲據奏出

口後沿途查催糧餉火藥業經前抵衛藏所有

經行丹達遠西各臺站向噶布倫等切實曉諭

旨寄信前來

其不恃強拒捕且現當海宇昇平楚南亦年歲屢豐設該省地方遇有水旱偏災以致無知貧民脅從附和更復成何事體不可不嚴行辦理以示懲創著傳諭畢沅於審究此案當查明糾搶時如有傷斃人命者竟將為首之犯問擬重辟傳旨即行正法如並無傷斃情形再行按律從重定擬具奏候旨辦理將此由五百里諭令知之欽此遵

設法勸懲令將烏拉寬為預備運送軍需自可  
益無阻滯仰見

聖主先事預籌知人善任是以軍營饒饋果能辦理  
妥協源源接濟迅速集事以紓

宵旰焦勞今復奉

諭旨賞給和琳都統職銜以示嘉獎俾事權有所歸

一番眾益知畏憚於公務更有裨益仰見我

皇上權衡悉當獎賞一秉大公臣等曷勝欽服懼忤

之至等語其在京大學士九卿臣等即於本報  
之便寄交閱看謹

奏

五月十九日

1952 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 提督陳 乾隆五十七年五月

十九日奉

上諭據陳杰奏署守備事千總林鳳鳴委巡洋汛聽  
從民人賄囑伊父貪圖買賣幫同爭奪桁地署游  
擊事守備李廷翰一同前往放鎗嚇唬請一併革

職嚴審治罪等語林鳳鳴係派委巡洋之員因貪  
圖得賄膽敢拋棄戰艦另僱小船幫同民人往黃  
攏山搶奪桁地並邀李廷翰同往爭奪實為大干  
法紀豈僅可以革職了事昨經福崧奏報已降旨  
將林鳳鳴李廷翰及並不稟報之定海縣知縣嚴  
承夏革職挈問矣其林鳳鳴之父寄信伊子前往  
幫奪情殊可惡亦應一併挈問至該提督摺內稱  
李廷翰所帶兵船六隻據供僅放空鎗未加鉛子  
此語斷不可信李廷翰係管林鳳鳴之人今乃同  
往林鳳鳴既已聽從李廷翰舉旗開鎗鉛子打去  
三十餘出豈有李廷翰兵船僅止施放空鎗不加  
鉛子之理明係捏飾狡供最為綠營惡習豈能欺  
朕該提督輒據以叙入摺內殊屬非是著傳旨申  
飭至烏鎗火藥原為巡查洋面時擊打賊匪之用  
乃林鳳鳴等身為員弁轉因貪賄擊打平民此即  
與附賊何異福崧遇有此等地方要事輒置之不  
顧起程來京陛見實不知事體輕重著接奉此旨  
即兼程迅速回任會同陳杰將此案犯証嚴切訊  
究如林鳳鳴等有鎗傷斃命之事即應奏明在該

處正法示儆其餘各犯亦應從重定擬以懲貪黷  
而肅戎行將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1953

大學士伯和 字寄

留京辦事王大臣 乾隆五十七年五月二十  
日奉

上諭本月初十日自圓明園啓鑿得有澍雨十四日  
在常山峪夜雨優渥十五日喀喇河屯又復得雨  
昨十九日戌亥之間熱河雷電交作又獲澍雨西  
南雲氣極為濃厚今日本報並未據奏報京城得  
雨著傳諭留京王大臣將京城自初十日以後曾  
否續得透雨及京南一帶是否得雨情形即詢問  
順天府尹詳悉覆奏以慰廑注欽此遵

旨寄信前來

1954

乾隆五十七年五月二十日奉

旨陳准著從寬免其革任仍註冊畢沅著銷去尋常  
加一級惠齡著銷去加一級俱免其降調荊州府  
同知常丹葵於前署蘄州知州任內書吏舞弊營  
私毫無覺察著照部議革職餘依議欽此

1955

乾隆五十七年五月二十日奉

旨此案王逢源情節尚輕著准其贖罪但向來贖罪  
人員一經准贖輒以措繳銀兩為詞安然家居免  
赴戍所迨至限期已滿又復具呈請展藉辭延宕  
均所不免嗣後凡有奏准贖罪立限完繳者仍令  
前赴戍所俟贖項繳清之日再准回籍如有及早  
完項者即可令其早回不必拘定期限如逾期不  
清著照舊例治罪所有王逢源一員即照新例辦  
理欽此



1956

大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 提督陳 乾隆五十七年五月

二十一日奉

上諭浙江提標派出巡洋之署守備千總林鳳鳴聽  
從民人賄囑伊父貪圖買賣奪網地一案前據  
福崧奏到當經降旨令速回浙江將此案嚴切審  
訊昨據陳杰奏報又有旨令該撫兼程回任會同  
陳杰審辦但福崧之摺係五月初九日在宿遷拜  
發其摺聲明一面拜發一面仍赴行在陛見前旨  
係十七日發往計該撫接奉當在山東直隸交界  
一帶回浙尚需半月而藩司歸景照既護撫篆於  
此等重大案件不即徑行審辦具奏尚待轉稟巡  
撫看來亦不過一循分供職之人若專交辦理恐  
未必能審斷得當陳杰駐劄寧波距杭州不過三  
四日路程著再傳諭該提督接奉此旨迅赴省城  
不必等候福崧即會同歸景照將此案犯証詳細  
嚴鞫務得確情至林鳳鳴等以巡洋弁兵輒敢因  
貪賄賂將烏鎗火藥擊打平民與附賊何異此而

1957

大學士伯和 字寄

署兩廣總督郭 乾隆五十七年五月二十二

日奉

不嚴加懲創其何以儆貪黷而肅戎行陳杰等務  
遵照昨降諭旨將鎗傷斃命之犯即行奏明正法  
其餘亦分別從重定擬用昭炯戒福崧仍當於途  
次趨緊速回以便會同審辦勿稍延緩將此由五  
百里各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

上諭據郭世勳奏嘉應州民巫希敏之妻曹氏捏稱  
供奉觀音靈驗哄騙鄉民治病當將曹氏拏獲起  
出畫像紙扇其起意之曹秉和及同夥之余福郎  
黃雲振等已赴川省咨四川督臣將曹秉和等截  
拏務獲究辦等語巫曹氏等藉稱治病誑騙鄉愚  
固屬不安本分然祇係鄉曲無知以供奉觀音畫  
像祈禱治病尚非邪教可比該署督恐該犯等別  
有傳授邪術開堂聚眾情事專委道員馳往該處  
密行查辦並飛咨川省轉飭嚴拏所辦未免過當

著傳諭郭世勳所有此案人犯於審明後祇須杖責示懲交地方官嚴加約束不准再行藉詞哄騙其行咨川省截拏之處即著停止毋庸輾轉查拏致有滋擾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1958 大學士伯和 字寄

署步軍統領定郡王 乾隆五十七年五月二

十三日奉

上諭前因步軍統領衙門拏獲犯夜之董二供出王倫原籍山西伊兄王疼疼子等尚在崞縣居住本日據長麟奏將王疼疼子等拏獲審訊已令將業內各要犯摘出解赴行在與董二質訊因思從前王倫滋事時其緣坐人犯俱解京發交功臣之家為奴其中必有認識王倫者著傳諭綿恩查明此項為奴各犯內有無王倫親屬及能辨認王倫之人除彼時年尚幼稚及不能指証者不必解赴熱河外其有緊要者即揀擇數人派委妥員解赴行在以備質証沿途並飭小心看守勿稍疎虞將此

諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1959 大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年五月二十三日

奉

上諭長麟奏拏獲董二在京所供王疼疼子等三名審訊一摺閱摺內稱體察各犯語音形跡均係本地鄉愚不似外來流匪等語董二在京原供明王倫原籍山西崞縣陽武村俞家街居住三十八年帶了武雷算子等至臨清謀逆事敗脫逃並非以王倫為山東之人竄匿山西語音有何不對亦且並非流寓如此揆嫌起見則董二被王黑黑子等網毆係乾隆四十一年之事董二進京已十七年何不早行控告直待犯夜被拏始行供出其情節尚多疑竇况董二前供還有伊堂兄董好小子董賴小子在寧武縣雄溝村居住只求查對董二如不過因挾嫌控告正當自行掩覆又豈肯

殊

將伊弟兄親戚及墳墓一一說出以為指証之理  
 董二此供亦抄交長麟帶往該撫曾否向董好小  
 子等查訊否此節何以未據奏及長麟甫調山西若交與  
 審辦恐該省官吏懼干處分亦不免意存消弭而  
 現獲人數衆多又未便概令解京已交軍機大臣  
 將案內緊要之人另單摘出著傳諭該撫即照單  
 開各犯先行派委妥幹員弁迅速分別解赴行在  
 毋令串供又長麟奏各犯堅供委係土著良民並  
 非黨逆董二與王黑黑子結有宿恨等語此語究  
 係何人首先供出有何証據尤為此案緊要關鍵並著  
 該撫查明將到案首先供証董二挾嫌之犯亦即  
 解來沿途並飭小心看守勿稍疎虞俟各犯到時  
 與董二隔別質訊自無難得其確實再董劉氏據  
 董二供係伊繼母即王倫岳母為此案要犯其已  
 未挈獲該撫摺內何以未經聲叙著傳諭長麟如  
 董劉氏已經挈獲即一併解赴行在如尚未挈獲  
 即飭屬同未獲之王慶武雷算子高好手子等各  
 要犯一體嚴拏務獲解至行在審辦此外已獲續  
 獲未解之犯仍嚴行隔別看守俟有應行質訊之

處聽候提解不得任其串供免脫將此由六百里  
 發去仍六百里速奏欽此遵  
 旨寄信前來

1960

硃批此四人令  
 奉  
 獲否欽此

- 王疼疼子 據董二供係王倫胞兄
- 王午午子 據供係王倫長子
- 王忙忙子 據供係王倫次子
- 王胖女子 據供係王倫之女
- 趙金柱子 據供係董二繼母劉氏帶來之子
- 劉法 據供係董二繼母劉氏之姪王倫妻表弟
- 劉士位 據供係董二繼母劉氏之姪王倫妻表弟
- 李上人子 據供同王倫到山東謀逆
- 以上八犯 據長麟奏業經拏獲應即令解來
- 王慶 據供係王倫堂兄經長麟查訊該犯現經出口委員往拏
- 高好手子 據供係同王倫到山東謀逆亦經長麟委員出口查拏
- 武雷算子 據供係趙金柱子之母即董二繼母又王倫之岳母向隨趙金柱
- 董劉氏 據供係趙金柱子之母即董二繼母又王倫之岳母向隨趙金柱

以上四犯尚未拏獲應令該撫迅速查拏續  
即解來

1961 乾隆五十七年五月二十三日奉

旨夏王氏著俟產限滿日即行處絞餘依議欽此

1962 乾隆五十七年五月二十三日奉

旨黃悅連梁開建黃亞七李其高陳信會陳亞五陳  
亞二梁全積梁悅得俱著即處斬餘依議欽此

1963 乾隆五十七年五月二十三日奉

旨戶部議奏盛京將軍琳寧等奏請將

三陵官兵賞給隨缺官地一摺因該將軍單內祇將官  
兵數目及擬給畝數開載並未將現在確有何地  
可躡詳聲又從前原撥各城官兵按品分等給與  
地數亦未據聲叙應令該將軍查明覆奏等語所  
奏是但

三陵官兵安設已久隨缺地畝何以各城官兵皆有獨

三陵官兵未經一律撥給節年又係如何辦理若已經  
撥給自未便無故增添著該將軍等一併詳晰查  
明據實具奏再行核辦欽此

1964 臣等查各省年終彙奏及本年開印後應行具

奏各案於乾隆四十九年二月初三日欽奉

諭旨著各該部詳核具題後再行彙送軍機處覆加  
考核具奏欽此乾隆五十六年二月初七日臣等  
遵

旨議奏嗣後各該部照例辦理後除送軍機處覆查

彙奏外仍移會吏兵刑等科及稽察各該衙門

御史查核倘有遺漏舛錯不以時奏

聞准科道等據實查叅議處奉

旨准行在案茲查乾隆五十六年分各省彙奏事件

經各督撫陸續奏到各該部遵照成例逐款核  
議具題彙送前來臣等覆加查核所有各部逐  
案核准具題之處俱係遵照章程並無錯悞惟

查盜竊功過等款奏定條例令各該省於三月  
初十日內將文武專管兼統轄各職名造冊咨

送以憑查核如有稽延即行議處今各省俱依限咨送到部經吏兵刑三部逐案查明照例具題此內直隸浙江陝甘湖廣廣東武職各員咨冊到部遲延相應請

旨照例察議至各省倉庫錢糧一款臣等於五十一年

年查核彙奏時

奏請嗣後應令各該督撫於彙奏時所屬倉庫如有虧缺數目已彌補若干未彌補若干據實奏明如逾違定限者即行參奏辦理在案今查乾

隆五十六年彙奏盤查倉庫各摺奉天直隸江蘇浙江安徽江西山東山西陝西甘肅河南湖北湖南廣東廣西雲南貴州均稱並無虧缺情弊其福建省據伍拉納等奏各府州屬倉庫現在查明應行彌補之項遵照定限實力嚴催完繳勿致逾限又四川省據孫士毅奏此次到川後督辦軍需所有倉庫實存尚未親身盤查等語應飭令伍拉納等速行嚴催依限完繳毋任遲延至四川省應俟該署督盤查具奏後再行辦理其餘應行彙奏各件各省俱係遵奉定限

逐案奏到並無遲延遺漏並經吏刑兵工各部先後具

題所有臣等核辦乾隆五十六年各省彙奏事件理合分款開具清單恭呈

御覽伏乞

皇上睿鑒謹

奏

乾隆五十七年五月二十五日奉

旨知道了欽此

\* 查核彙奏事件已未逾限及應行議處各項清單

竊案已未獲分別功過及命盜各案已未拏獲完結等款向例歸併一摺具奏 查定例內州縣等官一年內報竊之案記功記過按年查核記過至四次者罰俸六個月記功至四次者紀錄一次俱以次遞加又定例督緝之道府鎮協統計所屬內竊案獲不及十之三四者罰俸六個月督撫提督臬司獲不及十之二三者罰俸三

個月又例內盜案承緝州縣定有四參限滿降  
調處分其盜案參限未滿一年統計所屬獲不  
及十之二三者督撫提督臬司罰俸三個月盜  
案已滿參限一年內統計所屬獲不及十之三  
四者道府鎮協罰俸六個月督撫提督等罰俸  
三個月嗣於五十六年二月 臣等遵

旨議奏以各省督撫提督臬司等有統轄兼轄之責  
向例處分過輕請嗣後所屬新舊盜案獲不及  
十之二三者改為罰俸一年竊案獲不及十之  
二三者改為罰俸半年奉

旨准行在案茲查乾隆五十六年分各省彙奏各案  
除奉天直隸江蘇安徽江西河南陝西甘肅等  
省統計所屬盜竊案參限已未滿獲犯已及十  
之二三之督撫提督臬司及各省盜竊案獲犯  
已及十之三四之道府等員又承緝州縣功過  
不及四次均毋庸議外其餘文職應行議處之  
員業經吏部將督緝已滿參限盜竊各案獲犯  
不及十之二三之湖廣總督畢沅前任湖廣總

督福寧均各罰俸三年六個月雲貴總督富綱  
前署雲貴總督雲南巡撫譚尚忠均各罰俸三  
年署兩廣總督廣東巡撫郭世勳罰俸二年閩  
浙總督覺羅伍拉納罰俸一年六個月前任四  
川總督鄂輝署四川總督孫士毅兩廣總督公  
福康安均各罰俸一年前任湖南巡撫山西巡  
撫馮光熊罰俸三年前任山西巡撫書麟前護  
山西巡撫布政使鄭源琦前任貴州巡撫額勒  
春均各罰俸二年前任山東巡撫惠齡罰俸一  
年六個月前護湖南巡撫王懿德湖南巡撫姜  
晟福建巡撫浦霖廣西巡撫陳用敷均各罰俸  
一年浙江巡撫福崧罰俸六個月前任山西臬  
司貴州臬司萬寧罰俸四年前任山西臬司顧  
長紱湖北臬司孫曰秉均各罰俸二年六個月  
山東臬司陸有仁罰俸一年六個月雲南臬司  
賀長庚湖南臬司恩長四川臬司聞嘉言前署  
四川臬司林僑福建臬司戚蓼生前署福建臬  
司錢受椿廣東臬司張朝縉署廣西臬司孫王  
庭均各罰俸一年前任浙江臬司姜開陽罰俸

六個月直隸省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之清河道方受疇署通水道事永定河道羅瑛通水道索明阿天津道喬人傑保定府知府王銀前署正定府知府南路同知汪應紹正定府知府邱學勳前任永平府知府福慶永平府知府孔繼炘河間府知府戴華齡天津府知府李程蓮大名府知府張文烟東路同知汪大鏞西路同知蔣如燕署遵化州知州通判范清澄遵化州知州申允恭傅修均照例各罰俸六個月山東省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之濟東泰武臨道熊枚充沂曹濟道高宮壘登萊青道曹芝田濟南府知府宋思仁前署兗州府事同知玉山兗州府知府蔡五錫沂州府知府白啓泰曹州府知府蔣繼煥萊州府知府姜斌青州府知府公幾各罰俸一年泰安府知府徐大榕武定府知府唐若瀛前署濟南府事候補知府歸朝煦署東昌府事知州張度前任東昌府陞任湖南岳常澧道達明阿濟寧州知州李維謙各罰俸六個月山西省督緝盜竊各

案獲犯不及十之三四之冀寧道盛祿河東道和明雁平道陳學穎前署河東道事知府富勒琿前任太原府知府海昌高燦前任平陽府知府調任太原府張曾誼前署太原府事汾州府知府鄧希曾各罰俸六個月江蘇省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之松太道通恩淮揚道谷廷珍常鎮通道梁羣英松江府知府李廷敬揚州府知府馬慧裕署通州事知縣魏右曾各罰俸六個月安徽省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之廬鳳道刁玉成前護廬鳳道事潁州府知府王秉韜前任廬州府知府今調鎮江府知府恩保廬州府知府和騰額鳳陽府知府楊禮行池州府知府荆道乾前署潁州府事安慶府同知倪廷謨前署潁州府事滁州知州善慶前護池州府事和州知州李伯龍前代理太平府事當塗縣知縣顧之葵前署太平府事泗州知州陞任四川重慶府知府蔡必昌均照例罰俸六個月浙江省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之嘉興府知府劉嘉會罰俸一年

前任杭嘉湖道清秦杭嘉湖道良柱前任寧紹  
台道左周杭州府知府明保湖州府知府雷輪  
寧波府知府克什納紹興府知府李亨持金華  
府知府邢璵均各罰俸六個月福建省督緝盜  
竊各案獲犯不及十之三四之興泉永道胡世  
銓汀漳龍道今陞山西按察使特克慎福州府  
知府今陞興泉永道德泰福寧府知府今調漳  
州府知府全士潮泉州府知府徐夢麟漳州府  
知府今陞汀漳龍道史夢琦均各罰俸六個月  
河南省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之  
開封府知府完顏岱罰俸一年六個月開歸陳  
許道蘇爾芳阿前任開封府知府武先慎汝寧  
府知府彭如榦各罰俸一年前任開歸陳許道  
陞任臬司吳璫河北道陳文緯南汝光道陳鍾  
琛河陝汝道劉同敬彰德府知府孫步雲前署  
陳州府事同知瞿兆麟陳州府知府陳于禮各  
罰俸六個月湖北省督緝盜竊各案獲犯不及  
十之三四之漢黃德道張長庚武昌道保定安  
襄鄆道田鳳儀武昌府知府德興漢陽府知府

劉永銓德安府知府威德昌襄陽府知府楊芳  
春各罰俸一年荆宜施道布顏黃州府知府先  
福安陸府知府施奕學前任荊州府今補宜昌  
府知府張方理荊州府知府崔龍見鄆陽府知  
府徐兆伯前任宜昌府知府今陞浙江溫處道  
張映璣前任施南府知府赫爾謹前署施南府  
今補湖南沅州府知府傅巽各罰俸六個月湖  
南省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之鹽  
法長寶道西成衛永郴桂道世寧署岳常澧道  
常德府知府李大憲前護辰永沅靖道事永順  
府知府伯起圖辰永沅靖道王家賓長沙府知  
府潘成棟寶慶府知府王汝恂澧州知州方維  
祺均照例罰俸六個月陝西省督緝盜竊各案  
獲犯不及十之三四之延安府知府洪蕙同州  
府知府蕭登生均各罰俸一年督糧道秦震鈞  
前任延榆綏道今調潼商道廣厚前護延榆綏  
道榆林府知府文需西安府知府李國麒署延  
安府事邠州知州王榮榮各罰俸六個月廣東  
省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之督糧



道吳俊肇羅道阿彰阿前任廣州府知府張道源署廣州府事瓊州府知府徐玟署肇慶府事同知侯學詩肇慶府知府楊有源均各罰俸六個月廣西省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之護鹽法道事桂林府知府查淳署左江道事右江道宋文型左江道成林右江道薩騰安梧州府知府王友蓮署南寧府事同知宋榮南寧府知府婁文鑑柳州府知府鄭濟燾署泗城府事同知潘鍾瀛均各罰俸六個月四川省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之成綿道林偽罰俸一年六個月永寧道舒弼前任重慶府知府趙由坤罰俸一年川東道王啓焜川北道博純前署永寧道良柱前任成都府知府李憲宜成都府知府邱之芬署重慶府事知州沈念茲潼川府知府蘇文輔叙州府知府吉陞保均照例各罰俸六個月雲南省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之昭通府調任雲南府知府敦柱罰俸一年前任迤東道恩慶迤西道楊以浚署昭通府澂江府知府春貴東川府知府蕭

文言護理曲靖府事知州周名炎曲靖府知府常明均各罰俸六個月貴州省督緝盜竊各案獲犯不及十之三四之貴西道張繼辛糧儲道吳超貴東道尼堪富什渾前署貴西道事知府劉詔陞前署貴東道事知府楊焯前任貴陽府陞任福建延建邵道牆見夔貴陽府知府徐曰紀南龍府知府張鳳枝各罰俸六個月其餘各省承緝之丞倅州縣等員應行議處及記功記過俱經吏部會同刑部查照各省原冊分別辦理彙核具

題各在案至武職應議各員除直隸浙江陝甘湖廣廣東等省咨送到部遲延另行請

旨察議又奉天江南江西甘肅查核並無處分據兵部議將督緝盜竊各案獲犯不及十之二三之湖廣提督俞金鼈罰俸三年六個月福建提督哈當阿前署廣東提督蒼保前任廣東提督高瑒廣東提督孫起蛟廣西提督梁朝桂均各罰俸二年浙江提督陳杰罰俸一年六個月雲南提督路超吉原任雲南提督烏大經貴州提督

彭廷棟四川提督觀成陝西固原提督王彙均各罰俸一年獲犯不及十之三四之直隸省總兵德克精額罰俸一年蘇寧阿罰俸六個月山西省總兵福敏泰巴揚阿均各罰俸一年河南省總兵袁敏罰俸六個月浙江省總兵劉文敏謝斌伊里布均各罰俸一年六個月總兵馬瑀署總兵事副將黑虎劉烜均各罰俸一年總兵伊楞額罰俸六個月雲南省總兵寶瑣署總兵事副將張玉龍均各罰俸一年福建省總兵丁朝雄常泰顏鳴漢署總兵李南馨均各罰俸二年總兵李芳園罰俸一年湖北省總兵彭之年馬定彝均各罰俸二年六個月貴州省總兵花連布珠隆阿署總兵事陞任普洱鎮永寧署總兵事副將三達色均各罰俸一年山東省總兵柯藩朱泰德均各罰俸一年六個月湖南省總兵劉君輔明安圖護總兵事遊擊田起龍均各罰俸一年四川省總兵諸神保索國璜均各罰俸二年總兵富祿署總兵富森均各罰俸一年陝西省總兵今陞福建提督瑪爾洪阿總兵楊秀均各罰俸一年六個月總兵保興署總兵事

副將槐塔布均各罰俸一年安徽省總兵王柄罰俸六個月廣東省總兵趙邦詔罰俸二年黃大謀罰俸一年廣西省總兵孝順阿罰俸二年總兵王林署總兵事副將富志那均各罰俸一年其餘督緝承緝之副參遊都以至千把外委應行議處及記功記過各員並據兵部會同刑部查照該省原冊分別核辦照例具

題各在案臣等詳加覆核俱無遺漏應毋庸議各省通緝逃遣人犯及新疆改發內地本省起解接遞人犯有無脫逃等款查各省通緝遣犯前經奉

旨通緝人犯於何省脫逃責成該省州縣並原籍州縣實力緝捕如仍年久無獲交部量予議處等因欽此經吏部

奏准於向例二叅降調外再將從前未獲年分按照二限各罰俸二年在案今查乾隆五十六年分奉天安徽湖南湖北山東陝西廣東廣西貴州等省奏到掣獲逃遣共二十九名尚非全無弋獲至各省改發內地及起解接遞之犯有無

脫逃各督撫俱於年終彙奏隨摺聲明並經刑部照例核議應毋庸議

拏獲尋常案犯一款 查拏獲逃徒及賊匪逃人向例歸入年終彙奏能獲五名以上者列為一等准其紀錄二次獲至二名以上者列為二等准其紀錄一次其三等之員毋庸議叙今乾隆五十六年分除直隸江西浙江河南甘肅等省業經該督撫隨摺聲叙並無拏獲尋常案犯應行議叙之員惟奉天安徽湖南湖北山東陝西廣東廣西貴州等省有拏獲七名至一二三名列為一等二等三等分別記功之員其餘江蘇福建山西四川雲南等省即有拏獲尋常逃匪亦俱隨案咨明刑部照例分別查辦均無舛錯應毋庸再議

藩庫銀數及各屬倉庫義社倉穀耗羨有無虧挪四款

查以上四款倉庫錢糧關係綦重如有虧挪等弊即應嚴參治罪今據奉天直隸江蘇浙江安徽江西山東山西陝西甘肅河南湖北湖南廣

東廣西雲南貴州各督撫奏稱並無虧短情弊其福建省據伍拉納等奏各府州屬倉庫現在查明應行彌補之項遵照定限實力嚴催完繳勿致逾限又四川省據孫士毅奏此次到川後督辦軍需所有倉庫實存尚未親身盤查各等因所有查明並無虧空各省應令該督撫等隨時稽察毋致稍有虧缺其有應行催繳之福建省應飭令該督撫上緊嚴催完繳一律實貯無虧毋得再有遲逾致干重究四川省俟孫士毅盤查後具奏到日再行查核辦理

銀號無弊 查此項定例各省藩司循例具奏如有弊竇嚴參治罪今乾隆五十六年分各省藩司俱依限奏到並無逾限業經戶部按款查核民數穀數 查此件定例造報舛錯例應罰俸三個月今乾隆五十六年分各省依限造報並無舛錯遺漏

甄別教職佐雜千總 查以上三項併摺具奏又定例內載甄別不及百之二三者照徇庇例降三級調用今乾隆五十六年分各省督撫奏到

並無違例亦無逾限均經吏兵二部查核具奏屬員託故赴省扣展公出日期及濫行換帖宴會

查以上二條前經定例如有違犯者本員照不

應重私罪降三級調用上司照失於覺察例降

一級留任今乾隆五十六年分各省督撫奏到

並無此等積弊陋習各省奏到亦並未逾限

嚴禁坐省家人長隨 查此項如有違犯者定例

本官降三級調用上司降一級留任今乾隆五

十六年分各省奏到俱謹遵

功令並無坐省家人滋事之處奏到日期亦未逾

限但恐日久玩生仍蹈故轍應行令各省督撫

嚴加查察如有違犯嚴叅辦理

收受屬員門包押席銀兩及令屬員承辦筵席

查以上三條定例如有違犯者請

旨革職治罪今據各督撫年終照例彙奏俱稱並無

此等陋規但恐日久怠玩漸滋弊端應令各省

督撫加意稽查嚴行管束倘有陽奉陰違一奏

了事者別經發覺照例革職治罪

各屬城垣完固 查此條工部每年三月內彙奏

一次如有上年列入急修之工次年未經奏報者將該督撫照例議處今查乾隆五十六年分工部覆稱各省並無違例應議之案

各項應修船隻及估變物料在二百兩以上 查

以上二條係歸併一摺具奏其各省節省修造

船隻銀兩向於上年十二月軍機處查核彙奏

歷年遵照辦理在案其估變物料數在二百兩

以上有冊報未協或估值短少者工部隨案駁

查不待彙奏時始行議駁所有乾隆五十六年

分各省奏到之摺俱逐案奏明應毋庸再議

禁止私立德政碑及私設班館二款 查以上二

款各督撫俱於年底奏到各屬並無私行設立

奉行在案

1965 乾隆五十七年五月二十五日奉

旨常二王智趙二俱著即處斬梟示餘依議欽此

1966

查董二一犯於二十三日寄信到京提解約二十七日晚間可到山西提解王疼疼子各犯亦於二十三日由六百里寄信發往山西至熱河計程一千七百里二十六日該撫可以接奉即行派員起解以每日行走二百里上下計算約六月初四五日可到謹

奏

五月二十五日

1967

乾隆五十七年五月二十六日內閣奉

上諭前經降旨各省盜案如原贓未能起獲即著該管地方官罰賠嗣恐正盜未獲先令州縣賠出贓銀地方官規避罰賠必有諱盜減贓情弊復降旨嗣後遇有盜案即應嚴緝正盜審明贓數查追給主如已經獲盜而原贓未能起獲仍著該管官罰賠示懲原因地方官平時既不能實力巡查及遇有盜案又不肯認真緝捕以致小民被盜贓項久懸終歸無著若事主係殷商大賈即盜贓無獲生

計尚可不致竭蹶如係中人小戶惟仗經紀營生一經被劫即為數無多已足罄其家產是以罰令地方官賠給以示懲儆但近據吉慶奏拏獲盜犯常二等一案未起贓銀止四百餘兩著令該縣賠繳尚屬力所能辦至如本日書麟奇豐額所奏尹二一案贓數至一千九百餘兩又查前據郭世勳奏梁亞容等一案贓數多至萬餘若亦責成該處州縣按數賠給其勢必致日久懸宕而閭閻小民豈敢以盜贓未獲向地方官索賠甚至不肖州縣或借罰賠盜贓為名採買科派及需索鹽當陋規在被劫小民仍不能得獲原贓地方良善徒滋擾累而不肖州縣轉得為肥索之計豈不有名無實嗣後遇有盜案該督撫等總當嚴飭所屬實力緝捕務將原贓即時起獲速給事主其盜犯行劫之後衆人俸分如遇贓數較多者每犯俱可分銀數百金一時豈能費用蕩盡若將盜犯立時緝獲原無難起贓給主即有業經花費者亦必為數有限責令地方官賠給自屬易辦如盜犯實已遠颺不能立時起獲而贓數又復較多該督撫等即當核

其緝盜勤情分別賊數責令著賠總之有治人無治法惟在該督撫隨時整飭核實辦理庶州縣等知所勸懲而被盜小民不致拖延受累方為妥善  
欽此

1968 頃奏事太監傳

旨詢問留京王大臣京城曾否得雨 臣等謹擬寫寄

信

諭旨進

呈本日本報到來如留京王大臣業經奏報得雨

此

旨即可毋庸發去若無奏雨之摺即將遞下

諭旨隨報發往謹

奏

1969 大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年五月二十六日

奉

上諭前據留京王大臣覆奏京城於初十後半月以

來未續得雨澤等語雖據稱地土尚屬滋潤但現屆大田長發之際亟資甘膏接濟著傳諭留京王大臣如已得雨則已如尚未得雨即於覺生寺黑龍潭二處照舊設壇虔誠祈禱以期續沛甘霖欽此遵

旨寄信前來

1970 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 山東巡撫吉 乾隆五十七年

五月二十六日奉

上諭據管幹珍奏本年臨清一帶雨水短少江廣重船經過古淺非起空不能前進現在時已溽暑民間望澤孔殷惟有虔心禱祝速霑甘霖等語看來臨清德州東昌一帶至今總未得透雨即直隸景州河間與德州境壤毗連情形大約相同目下已過小暑正當大田長發之時朕心深為廛念著再傳諭梁肯堂吉慶務宜加意留心察看或覓能求雨之人虔誠設法祈求先事綢繆如有應行接濟之處即當據實奏聞妥為籌辦仍將近日景州德

州一帶曾否得有透雨之處迅速奏聞以慰廛注  
將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

1971 大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年五月二十八日奉

上諭本日提到董二令軍機大臣詳細詢問據供王

倫係名王河河子並非王黑黑子前據長麟查奏

王黑黑子已經病故及另孥同名一人均非正犯

著傳諭該撫即將董二所供王河河子飭屬嚴密

查拏務獲即派員迅速解赴行在毋任遠颺又現

在訊據董二供稱案內有李老三一名住上楊武

地方平日教書為業即李上人子同族可以質証

又已獲未提之趙仁意子劉毛歪子二犯俱係王

倫親戚四十二年王倫潛回山西該二犯俱曾眼

見王倫是該三犯均為案中要犯並著長麟將李

老三迅速查拏務獲同趙仁意子劉毛歪子以備

質訊再董二之繼母董劉氏據供即係王倫岳母

曾否拏獲前此該撫摺內未據聲明曾降旨詢問

董劉氏亦係要犯此時自己查拏到案於何日委  
員解赴行在及現在口外之王慶高好手子武雷  
算子三犯曾否俱經拏獲何日起解並著長麟迅  
速據實具奏至前提各犯已派乾清門侍衛阿爾  
塔錫里馳赴前途迎解所有續提各犯該撫務即  
派員星速管解沿途趕解行走仍飭該解員等小  
心看守速解毋致稍有疎虞延緩將此由六百里  
傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

\* 王河河子

據董二本日供出係王倫的真名前  
次供內因口音之訛寫作王黑黑子  
應令長麟將王河河子速拏解來

李老三

據董二本日供出該犯教書為業係  
李上人子同族可以質証王倫該犯  
前次未經查拏應令長麟迅速拏解

趙仁意子

劉毛歪子

以上二犯前據長麟奏已經拏獲茲  
復訊據董二供稱與王倫親戚四十  
二年王倫潛回山西該犯等俱曾眼  
見應令長麟即行解來備質

1972  
遵

旨提出董二訊以王倫妻女係何姓氏並有無義女  
據供王倫之妻趙氏業經身故未經續娶伊妹  
嫁與李姓此外並無義女等語臣等再查董二  
原供內有帶娼婦四人同往臨清之語恐其中  
有張氏黨王氏閔賈氏等在內復向董二訊問  
據供王倫所帶娼婦四人記得一個姓趙兩個  
姓李還有一個是李氏所生之女記不清他的  
姓了等供應俟京中查出為奴之張氏黨王氏  
閔賈氏解到臣等先行隔別審訊再令與董二  
識認另行錄供具奏謹

奏

五月二十九日

1973  
乾隆五十七年五月二十九日內閣奉

上諭原任甘肅提督蘇靈緣事降調例應以叅將補  
用該員原係京營出身著即以巡捕營叅將補用  
並即著回京當差欽此

1974  
乾隆五十七年五月二十九日內閣奉

上諭前因直隸順德廣平大名三府屬入春雨澤短  
缺麥收歉薄曾降旨截漕三十萬石以備應用其  
應徵新舊錢糧一併緩徵並令該督酌量借糶俾  
資接濟本日據梁肯堂奏現報被旱州縣俟勘明  
如果成災即需賑項通盤核計尚須豫為籌備請  
將恩賞豫省漕米三十萬石內多餘之米十萬石  
賞給備用等語看來直省本年缺雨地方較廣河  
間景州一帶至今未獲甘霖即順德廣平大名雨  
水亦未能沾足現在時逾小暑大田恐不及趕種  
必須寬為籌備以裕民食著加恩於該督所請十  
萬石之外再增賞十萬石即著劉秉恬與梁肯堂  
相商就近酌撥應用該督務宜體察情形實心經  
理俾小民均沾實惠以副朕軫念災黎有加無已  
至意欽此



1975 乾隆五十七年五月二十九日奉  
旨張水著即處斬餘依議欽此

閩省臺灣偷牛追捕截傷事  
主身死一案

1976 乾隆五十七年五月二十九日奉

旨梁肯堂畢沅穆和蘭景安徐績俱著從寬免其革  
任仍註冊伍拉納著從寬改為降二級留任李世  
傑亦著從寬免其再降職銜二級餘依議欽此

1977 查本日所奏明發

諭旨俟

發下後臣等即由驛寄交劉秉恬等遵辦謹

奏

五月二十九日

1978

臣等親提董二將長麟摺內續獲之高好手子  
及王慶二犯現經提解到時你能否與該二犯

當面質証之處訊問董二據供高好手子於三  
十八年隨同王倫前往山東謀逆事敗逃回後  
我還到過他家中數次王慶係王倫堂兄我素  
常認識他與王倫同謀我也知道的只求於該  
二犯解到時先叫與我認識如果係真犯我就  
可証住他等語臣等詰以如何質証之處董二  
亦不能切實指出惟堅稱該二犯解到後我與  
他面質總可証住等語查高好手子王慶二犯  
臣等已飛劄侍衛阿爾塔錫第一併摘解迅速  
押赴熱河應俟解到時先行隔別審訊再令與  
董二當面質對另行錄供具奏謹

奏

1979

大學士伯和 字寄

協辦大學士署四川總督孫 署兩廣總督廣  
東巡撫郭 乾隆五十七年五月三十日奉

上諭孫士毅奏接據奉節縣稟查挈粵東民人余福  
郎等在該縣地方用紙扇淨水妄稱消灾惑眾一  
案已移咨廣東撫臣確查有無別項滋事不法等

情並令藩臬兩司提犯確訊等語此案先據郭世  
勳奏到嘉應州民巫希敏之妻曹氏捏稱供奉觀  
音靈驗哄騙鄉愚治病當將曹氏挈獲其起意之  
曹秉和及同夥余福郎等現赴川省已咨四川截  
挈究辦當經降旨以巫曹氏等藉稱治病詎騙鄉  
愚固屬不安本分然祇係鄉曲無知以供奉觀音  
祈禱治病尚非邪教可比該督審明後祇須杖責  
示懲其行咨川省截挈之處即行停止今據孫士  
毅奏余福郎等在川省捏稱紙扇淨水却病消災  
當被地民唐萬善識破哄騙用言斥責以致彼此  
爭鬧經縣挈獲是該犯等不但捏詞哄騙鄉愚竟  
敢公然恃強爭鬧情殊可惡不可不嚴行懲辦著  
傳諭該督等即行提犯審訊切實跟究雖不必照  
逆案辦理亦當照邪教之例分別定擬以示懲儆  
將此傳諭孫士毅郭世勳並諭英善等知之欽此

遵

旨寄信前來

1980

遵

旨將歸景照摺內賊犯吳老舟竊贓逾貫何以秋審  
僅擬緩決之處詢問刑部據稱向例竊贓數未  
逾貫罪止滿流至一百二十兩以上逾貫者始  
擬絞罪辦理秋審時仍核其情節如係結夥潛  
隨行走伺竊客貨或奴僕勾引外人罄竊主財  
並店家船戶糾竊本店本船客商為害行旅及  
贓數盈千者皆入於情實如無前項情節止係  
尋常逾貫俱擬入緩決今吳老舟一犯據歸景  
照摺內聲明贓雖逾貫究係鼠竊秋審時原擬  
緩決因脫逃挈獲是以加一等問擬情實均係  
照例辦理等語除將該護撫原摺交部核議外  
似可毋庸另寫

諭旨謹

奏

六月初一日

1981

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 山東巡撫吉

乾隆五十七年六月初一日奉

上諭據梁肯堂奏直隸各州縣得雨情形一摺並開具清單進呈詳加披閱內中保定正定各府屬得雨不過一二寸者居多於農田有何裨益即保定省城及附近安州等州縣得雨三四寸較之京城現在所獲雨澤未為霑足當此夏令久晴地土乾燥得此數寸之雨何益於事至景州及順德廣平大名等處迄今尚未得雨看來畿輔東南一帶及山東之德州東昌臨清並河南之彰德衛輝懷慶各府屬雨澤俱屬短缺即使日內得有澍雨亦祇可補種晚禾若時逾大暑仍不得雨即蕎麥雜糧亦俱不能補種是缺雨地方早象已成雖直隸一省業經前後賞給漕糧五十萬石俾資接濟但被旱地方較廣一切仍應留心酌為調劑至豫省河北三府雖亦截留漕糧二十萬石兼有大河以南稔收各屬可以有餘補不足但係連年缺雨之區

1982

吉寄信前來

亦應先事綢繆即山東缺雨州縣亦多除新舊錢糧業已降旨緩徵賞給口糧外如有尚須撫卹之處著該督撫等一體留心察看據實奏聞毋得稍存諱飾將此各諭令知之欽此遵

前據步軍統領衙門奏查出王倫案內給發為奴之張氏黨王氏閭賈氏於初一日解到臣等當即親提隔別審訊據張氏供我係被王倫擄掠為妾黨王氏供我係王倫胞妹閭賈氏供我係王倫義女臣等詢以王倫實係何處人氏據張氏堅供王倫係山東黨家庄人並無子女離我住處不遠如果挈住王倫真犯雖已事隔多年我還可以仔細認得就是王倫親弟兄我也或可認得出的等語訊之黨王氏閭賈氏所供亦屬相同臣等復訊之董二據供王倫妻室除他在山西原籍娶的女人姓趙我是認得至他到山東擄掠之妻妾我不認得他的胞妹嫁與李姓早已病故他有無嫁與黨姓的妹子我不

知道等供應俟山西省將現在掣獲董二所供之王倫胞兄王疼疼子等解到再令張氏等實認另行錄供具

奏謹

六月初二日

1983

大學士伯和 字寄

倉場侍郎諾 直隸總督梁 山東巡撫吉

乾隆五十七年六月初四日奉

上諭據諾穆親等奏目下北河一帶於五月二十八九連日得雨水勢頗為充足現在過關到通浙江湖廣等幫船核計所需撥船足資接濟其浙省杭嚴四幫於五月二十四日過津關後未見續行具報現將北河撥船酌量趕赴津南以備江廣各幫輪撥等語所辦好自應如此辦理至北河一帶現據諾穆親等奏水勢充足所有陸續入境幫船皆已過關北上而南船過津關者具報遲延看此情

形天津以北尚得雨澤而天津迤南至山東德州臨清東昌一帶地方雨水短缺竟成旱象前已有旨諭令梁肯堂吉慶留心察看先事綢繆如有尚須撫卹之處即行量為調劑著再傳諭該督撫等務須切實稽查倘有被旱成災地方即當據實奏聞酌加接濟勿使貧民一夫失所將此傳諭梁肯堂吉慶並諭諾穆親等知之欽此遵

旨寄信前來

1984

查本日穆和蘭奏掣獲鄰境盜首王雙等一案問擬斬決據該撫摺內稱業經恭疏具

題此次所奏止係請將掣獲鄰境盜犯之知縣吳

元潤送部引

見其此案盜犯曾否題到議覆之處此間無案可查

容即日交查在京內閣查覆到日如尚未題到

再行核議具

奏謹

奏

1985  
遵

旨傳訊董二據稱彭明秀子他是個獵戶也是王倫黨與這是我知道的他曾否跟從王倫到山東謀逆我不知道至趙二李三我俱不認得他等供臣等又遵

旨訊以伊於四十一年與李趙氏李黑女子即有仇恨復被人細毆何以不早行控告據供李趙二姓均係王倫黨與我父親於三十六年被他們殺害我因不能扎死王倫所以將李趙氏李黑女子扎傷等語臣等又詰以伊父既被王倫等殺害何以不於到京時即行控告又據供王倫的法術大能咒得人心迷所以我不敢控告等語除俟山西各犯解到臣等再行隔別質訊外

奏  
謹

1986  
遵

旨詢問馮光熊據稱長麟到山西時查辦何事我並不知道但聞有查拏人犯之事我在省城因交代一切耽擱數日起身時聽見人犯多已拏到至此項人犯因何事查拏長麟並未向我告知我在山西任內並未風聞有匪犯在彼潛匿之事此事虛實我實在不能知道亦無聞見等語  
謹

奏

六月初四日

1987  
大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年六月初五日奉  
上諭據長麟奏遵旨查訪王河河子等並扎催委員趕解各犯一摺內稱前此拏獲王疼疼子即據供稱伊弟原名王河河子又名王家珍並不叫做王黑黑子即疑該犯自知案情重大改名捏飾未經聲叙入奏等語是何言耶王疼疼子既供稱伊弟

殊

原名王河河子自應據實奏明以憑向董二跟訊何以長麟既心疑其改名捏飾轉不據實聲叙摺內又稱現在查明董二原供所指王倫胞兄子女名字與已故王河河子兄弟子女俱屬相符是王河河子即係王黑黑子無疑現將王河河子墳墓創驗等語此案長麟初次查辦時即以董二有挾嫌情事具奏自因長麟初到晉省該處地方官自顧處分不免心存迴護該撫未經詳加體察率行具奏嗣見董二所供之人俱已先後挈獲人証甚多事非無據又復意在偏信原告所辦殊未周詳如臨清首逆王倫即使彼時倖逃法網潛回山西當此光天化日之下豈敢復萌他志不過思潛匿村僻苟延殘喘終其天年亦屬事之所有但該犯既為大逆即使漏網一時潛逃藏伏亦豈能日久掩人耳目竟無知覺者長麟於挈到王午午子王忙忙子等時即應將所供之王河河子是否係其父親於何時身故及是否即係王倫改名捏飾之處嚴切究訊即王午午子等明係逆黨自知案情

殊

重大未必肯吐實供但該處豈無鄰佑村民可以質訊且崞縣係一縣城居民貿易人等耳目眾多又豈盡其黨與何難詳加詢問得有端倪乃長麟於此等緊要關鍵全未辦及何疎忽若此至所稱現查王河河子墳墓業經委員創驗一節尤屬非是王河河子如果審明實係王倫則伊墳墓豈止創掘並當對骨揚灰以中國法若審明並非王倫則係一無辜之人其弟兄子女也皆屬牽連拖累豈有復將其墳墓創驗之理今王午午子等尚提解在途本案虛實未經定讞長麟又並未向王午午子等跟訊明確遽先將其墳墓創挖是何意也長麟不應冒昧若此著傳旨申飭至該撫前奏另獲之王黑黑子一名業經訊明係因同名查挈並非案內之犯自應即予省釋以免拖累此人被挈審訊不無所累並著長麟賞給銀十兩用示體卹所有現在押解之董劉氏一犯據稱年老疲憊應飭令解員等沿途小心管看毋令在途病斃以致質對無人方為妥善將此由五百里諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

1988

大學士伯和 字寄

浙江巡撫福

提督陳

乾隆五十七年六月

初五日奉

上諭據伍拉納奏署守備林鳳鳴及署遊擊李廷翰聽從賄囑與民人爭奪柎地放鎗滋事一摺此事實屬大奇前因福崧陳杰先後奏報恐歸景照未能辦理得當已諭福崧迅速回浙會同陳杰嚴切訊究矣該督摺內稱李廷翰舉旗開鎗鉛子已打三十餘出自因民人不服聚眾鬧鬧該將備等任意放鎗而陳杰前摺有李廷翰僅止施放空鎗之語明係該將備捏飾狡供豈能逃朕洞鑒烏鎗火藥原係巡查洋面時為擊賊之用乃李廷翰等身為員弁轉因聽囑貪賄用鎗擊打平民即使僅放空鎗已干法紀若竟裝入鉛子勢必有傷斃人命之事是該將備等貪圖得賄其事尚輕而開放烏鎗不顧民命實屬罪無可寬該督等務須切實跟

旨寄信前來

究即遵照前旨據實奏明將該犯在該處正法示儆若存化大為小之見輒以施放空鎗曲為開脫斷不能任其憚忤了事也將此傳諭福崧陳杰並令伍拉納知之欽此遵

1989

大學士伯和 字寄

閩浙總督伍

福建巡撫浦

乾隆五十七年

六月初五日奉

上諭伍拉納等奏摺獲前在臺灣附從林爽文受過偽封有名逆匪朱先一犯審明辦理一摺內稱係署同知黃奠邦稟報摺獲此等匪犯稽誅日久黃奠邦偵緝弋獲尚屬留心著傳諭伍拉納等查明如果係該署同知摺獲即行送部引見以示獎勵此外如有幫同協緝之人亦著咨部議叙摺內又稱林爽文滋事案內尚有未獲之偽封將軍張員係朱先文友好張員薦引入夥等語該犯曾受偽封亦未便任其漏網並著該督等飭屬嚴摺務獲立

正刑誅所有未獲各逸匪亦一體嚴緝毋得視為  
海捕具文將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1990 乾隆五十七年六月初五日內閣奉

上諭前因山東德州一帶地方自四月以後雨澤缺  
少未能播種隨經降旨將德州平原等十州縣衛  
加恩緩徵並賞給貧民口糧以資接濟嗣因該省  
總未得有透雨節經降旨詢問該撫並令留心察  
看如尚有缺雨地方即行據實奏聞並據吉慶續  
奏歷城等二十州縣至今仍未得雨晚禾未能趕  
種民食不無拮据等語著加恩將濟南府屬之歷  
城齊河禹城陵縣臨邑德平濟陽東昌府屬之聊  
城茌平博平清平冠縣莘縣泰安府屬之東阿充  
州府屬之陽穀壽張曹州府屬之濮州范縣觀城  
朝城等州縣并坐落衛所本年應徵新舊錢糧倉  
穀緩至秋後察看收成再行啓徵並著將各該州  
縣衛所乏食貧民賞借一月口糧以資撫卹又德  
州德州衛平原恩縣館陶高唐臨清武城邱縣夏

津等十州縣衛將來一得雨澤亦須接濟以資耕  
作著照乾隆五十二五十五年成例量為變通借  
給籽種於來年麥熟後徵收以紓民力該撫務須  
飭屬實心妥辦以期窮黎均沾實惠用副朕軫念  
民依至意該部知道欽此

1991 大學士伯和 字寄

山東巡撫吉

乾隆五十七年六月初五日奉

上諭據吉慶奏續查被旱之歷城等二十州縣懇請  
加恩一摺業經明降諭旨加恩緩徵分別賞借以  
資民食矣但本年山東各屬其德州東昌臨清一  
帶節經該撫等先後具奏總未得雨自屬早象已  
成至濟南省城先據江蘭奏於五月十一二等日  
得有澍雨附近齊河章邱一帶俱一律普霑並據  
吉慶亦奏稱十一二等日濟南府屬均霑渥澤等  
語歷城係濟南府首縣豈有省城得雨而首縣獨  
未沾被之理何以此次吉慶摺內奏請加恩各屬  
又將歷城齊河等縣一併列入若歷城齊河等縣



被早屬實則前此吉慶江蘭所奏得雨情形必係  
虛飾甚不明晰著傳諭該撫即將歷城等縣是否  
實係被早成災及前次何以又稱省城雨澤均霑  
之處查明據實覆奏勿得迴護干咎將此諭令知  
之欽此遵

旨寄信前來

1992  
臣等遵

旨傳訊董二據供王河河子即係王倫他長子叫王

午午子次子叫王忙忙子女兒叫王胖女子胞

兄叫王疼疼子是不錯的等語臣等又將各犯

業經全數拘獲即日解到熱河如你能質証得

住即當優加獎賞若質証不住你告謀逆不實

牽累多人當得何罪向董二委曲開導董二仍

不能指出切實証據但稱俟各犯解到時我自

能與之面質如質對不住自然有罪等語除俟

山西案犯解到臣等先行隔別研鞫再令與董

二質訊另行具

奏謹

奏

六月初五日

1993  
查書麟等奏續獲海洋劫殺多命案內逸盜一  
摺內盜犯首夥黃泳林等十三名係海門同知  
王恒掣獲業經將黃泳林等分別凌遲斬決其  
同知王恒已奉有

諭旨著送部引見至本日摺內續獲逸盜之龔耀模  
陶忝林二犯係外委李天林把總丁有昌及知  
縣盧雲路掣解省業經書麟等摺內聲明將  
獲犯職名查明咨部應聽吏部照例議叙除將  
硃批原摺交部外謹

奏

六月初五日

1994 據奏事太監傳

旨令 臣等另寫

諭旨將江蘇省績獲逸犯之知縣盧雲路送部引

見其把總外委咨部議叙等因 臣等查閱書牘等原

摺其知縣盧雲路所獲之陶忝林一犯止係水

手被逼受僱並未同行上盜分贓罪止杖流並

非此案正犯業經該督等將該縣職名咨部議

叙似可毋庸再令送部引

見至掣獲此案夥犯之把總外委等職分較小向不

送部現亦經該督等咨部議叙應聽該部照例

辦理是以 臣等未經另寫

諭旨進

呈 謹

奏

六月初五日

1995 大學士伯和 字寄

刑部堂官 陝西巡撫秦 乾隆五十七年六

月初六日奉

上諭刑部議駁陝西省審擬蕭登月毆傷杜文重身

死一本先經秦承恩照威力致死人例將蕭登月

擬抵經刑部駁令改擬該撫仍照原擬具題復經

刑部題駁令該撫再加細核朕詳閱情節該撫原

擬暨刑部所駁揆之案情律意均未允協此案死

者杜文重身充民壯輒借查夜巡更為名訛詐錢

文復與蕭登月扭結被蕭登月踢傷腎囊甚輕杜

文重仍扭住蕭登月欲毆蕭登月因喝令僱工人

史舉幫毆致斃該撫以史舉係聽從蕭登月喝令

遂援照威力致死人例問擬但杜文重假差索詐

又復扭毆本係有罪之人而以蕭登月無罪平民

為之抵償實不足以昭平允然殺人者死杜文重

業被毆斃命不可無擬抵之人蕭登月所毆係屬

輕傷杜文重究被史舉毆傷太陽倒地殞命自應

以下手傷重之史舉擬抵仍著刑部存記於辦理

秋審時將史舉入於緩決並著秦承恩監提蕭登

月諭以杜文重身死由於該犯喝令史舉幫毆致

斃本應將該犯照威力主使例擬抵將來必須入

於情實不但不准留養並應予勾現奉有恩旨以杜文重藉差索詐係有罪之人而史舉又屬下手傷重是以將史舉擬絞實屬格外施恩第史舉係伊僱工又係聽從幫毆今以擬抵羈禁固圜情殊可憫該犯既免抵償此時固應照看史舉飲其用度即將來史舉照例減等後其家口養贍該犯並當調給終身如此向蕭登月詳細諭庶情理兩盡於用法亦無枉縱又可免該撫與刑部之往返辨駁徒煩案牘也除交軍機大臣會同行在法司另行遵旨定擬外並傳諭刑部堂官秦承恩知之

欽此遵

旨寄信前來

1996  
遵

旨查勘被水淹冲各處普仁寺地方東四旗蒙古官兵房屋沙堤一帶正白旗滿洲官兵房屋多被冲塌又二道河迎水壩南草市三處民房舖戶房屋亦俱被水淹冲現擬分別賞給俸銀甲米口糧並粘蓋房屋銀兩另繕清單進

呈所有應賞官兵糧米請於

官倉內支用其應賞戶民糧米交該道府即動倉穀發給現在被水官兵俱暫住蒙古王公下處及在親戚寄居不致失所俟天色晴霽即飭工員速為查明修蓋以便棲止其厄魯特營房牆垣間被水冲缺尚不至坍塌並飭工員一體粘補完整謹擬寫

恩旨進

呈現在詢問熱河道府並無淹斃人口之事至隨從官員有無被水及冲失什物之處現交查各該處俟查明後再行具

奏至該處堤岸應行酌量加高之處俟詳悉酌定再行繪圖貼說呈

覽謹

奏

六月初六日

殊 殊 殊 殊 殊

\* 查勘被水官兵民戶房屋并賞給銀米清單

普仁寺東四旗蒙古官兵房屋共四百二十八間  
全行衝塌

沙堤正白旗滿洲官兵房屋共七十九間內全行  
衝塌者十三間水淹者六十六間

以上房屋交工程處動項修蓋粘補

二道河迎水壩南草市三處民房舖戶共六百七

十四間內民房三百九十三間令該道府等查

明瓦房每間賞銀二兩土房草房每間賞銀一

兩 舖戶二百八十一間除有力者毋庸議賞

外其無力者瓦房亦賞銀二兩土房草房亦賞

銀一兩

東四旗蒙古被水較重該旗官八員每員各賞<sup>著賞三月</sup>兩

月俸銀計用銀一百十三兩零每員各賞一月

俸米計共米十三石七斗零 兵一百六十七

名每名各賞<sup>著賞三月</sup>兩月錢糧計用銀九百六十四兩

每名各賞<sup>兩</sup>一月甲米共米一百四十石零

正白旗滿洲被水稍輕該旗佐領一員賞<sup>兩</sup>一月俸

殊

殊

殊

銀計銀八兩七錢零 兵三十三名每名賞<sup>兩</sup>一

月錢糧計用銀一百零四兩

民戶共七十五戶內大口四百二十名每名賞<sup>兩</sup>一

月口糧計米三斗共用米一百二十六石 小

口一百四十名每名賞<sup>兩</sup>半月口糧計米一斗五

升共用米二十一石

六月初六日

1997 乾隆五十七年六月初六日內閣奉

上諭熱河連次得雨後山水陡發沙堤一帶官兵居

民房屋間被衝塌深堪軫念因特派和坤福長安

往查勘據和坤等將被水情形分晰具奏著加恩

將被水較重之東四旗蒙古協尉佐領等八員每

員各賞三月俸銀兩月俸米兵一百六十七名每

名各賞三月錢糧兩月甲米被水稍輕之正白旗

滿洲佐領一員著賞兩月俸銀兵三十二名每名

各賞兩月錢糧被水居民大口各賞兩月口糧小

口各賞一月口糧以資口食其官兵被衝房屋交

工程處動項修蓋粘補至居民舖戶坍塌房屋和

坤等奏請瓦房賞銀二兩草房賞銀一兩固屬照例辦理現在朕於熱河駐蹕自宜格外施恩所有被衝瓦房著賞銀四兩土草房著賞銀二兩交該道府查明發給令其自行修葺俾得各安棲止不致稍有拮据以示朕軫卹旗民有加無已至意欽此

1998

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 山東巡撫吉 乾隆五十七年

六月初七日奉

上諭劉秉恬奏臨清地方於五月二十七日得雨二寸二十九日雷電交作又得雨四寸察看情形田間已種早穀高粱棉花藉滋長發未種大田並可上緊趕種蕎麥雜糧等語覽奏欣慰臨清一帶既得澍雨此時趕種蕎麥雜糧是否足資生長不致成災至臨清距德州不遠臨清既經得雨德州曾否一律普霑如德州仍未得雨則毗連之直隸景州河間一帶恐亦竟成旱象前據留京王大臣奏五月二十八九等日得雨深透現在熱河於本月

初五六等日又復連得澍雨雲氣自北而南勢尤廣遠著傳諭梁肯堂吉慶即將缺雨各州縣上月二十八九及本月初間曾否普被甘霖並得雨後能否趕種晚禾之處迅速查明覆奏以慰屢注將此各諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

1999

查劉秉恬奏摺內稱臨清得雨之後其未種大田之處可上緊翻耕趕種蕎麥雜糧等語是現在尚可趕種蕎麥雜糧至大田已屬趕種不及謹擬寫詢問梁肯堂吉慶

諭旨進

呈謹

奏

六月初七日

2000  
遵

旨將如何盤獲劉照魁之處詢問渭南縣知縣田灝據稱渭南為回民雜處之所我到任後嚴行保甲每甲設立甲頭一名以便稽查凡有形迹可

疑之人即令該甲頭速行稟報上年六月十八日甲頭劉世俊稟稱伊族叔劉照魁自幼在外三十餘年未經回家於五十五年曾回原籍住過一日止有包袱一個並無行李衣衫亦甚襤褸現在又復回家騎有馬匹行裝體面實屬可疑等語我聞稟後隨即親往將劉照魁查拿到案訊以因何驟得多貲再四盤詰據劉照魁供出為違犯王子重等送信出口又為王子重等帶信回家是以得有伙助盤費銀兩備辦行裝隨起出伊在口外所帶王子重等各家信立即稟明撫臣究辦等語謹

奏

乾隆五十七年六月初七日奉

硃批著交部以同知即用軍機處仍記名欽此

2001 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年六月初八日奉

上諭本日據紀昀奏直隸河間等處二麥歉收業蒙

截漕五十萬石以備賑濟惟是領賑百姓其極貧

之戶一逢米貴即先赴京城覓工餬口恐聚集日多未必能人人得所請於直隸所截漕糧五十萬石之內酌撥京城數千石煮米放賑等語已交大學士九卿會議自當准行核計數目約需米六千餘石應先於京倉支用將來再於北倉截漕數內撥還但京城所賑之人即係直隸應賑之人今既因此等貧民先經就食京城代為給賑則京城多一人領賑本地即應少一人領米其應行散賑州縣該督務須切實稽查各按領賑實戶照數給米毋任州縣虛開戶口冒賑侵肥倘京城既經代為給賑而州縣仍復浮開一經核對查出恐該督等不能當其咎也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2002 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年六月初八日奉

上諭吏部具題保定駐防兵丁馬匹牧場並不上緊飭屬擇地將梁肯堂議以革任一本已從寬免其

革任矣此事梁肯堂身任總督屢准移催何以並不上緊飭屬擇地以致耽延日久是其咎專在該督即照部議革任亦所應得第念不值因此一事遽更換總督是以仍從寬留任該督既貽悞於前仰邀恩宥務宜即派妥員尋擇妥協水牧處所上緊辦理著梁肯堂即將另選牧場之處迅速繕摺具奏若復仍前玩延朕亦不能再為寬貸也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2003 乾隆五十七年六月初八日內閣奉

上諭鄒奕孝現在出差所有工部左侍郎員缺著馮光熊署理欽此

2004 查本日戶部具

題一本係粵海關監督報解雜項銀兩經部議准令其解部至本內稱乾隆五十五年九月起至次年九月止一年徵收關稅盈餘銀兩比較上屆短收銀十三萬有零經戶部議令該監督等

各按經徵月日照數賠補奉

旨依議等語此係已經奏准之案查向來關稅盈餘短少銀兩如實係貨物往來較稀以致不能足數者聲明具題

恩准酌量寬免若實係該監督等辦理不善即仍照部議分別著賠此項粵海關應賠盈餘短少銀兩因何令其照數賠補及該監督等如何分賠之處此間無案可查應寄交在京戶部分晰查明覆到再行具

奏所有本日

題本暫行扣存俟查覆具奏後再行核辦請

旨謹

奏

六月初八日

2005

查千相寺暨田村蓋建廟宇是否足以供奉  
太白山神之處 臣等現即寄信秦承恩令其將該  
處

神廟規模並如何塑像體式繪圖貼說敬謹描摹  
送京俟送到後再寄信金簡等仿照式樣詳細  
履勘繪圖勘估具

奏謹

奏

六月初八日

2006

本月初四日穆和蘭奏拏獲鄰境盜犯之知縣  
吳元潤請送部引

見一摺奉

旨軍機大臣會同行在法司核擬具奏欽此經 臣等

查閱摺內所奏盜首王雙等分別問擬一案該

撫曾否先經

題到奉有

諭旨應交在京內閣查明再行核辦今據查覆此本

於五月二十九日抄出到部現在辦理尚未具

題等語 臣等謹即會同核擬繕摺具  
奏並擬寫

諭旨進

呈謹

奏

2007

乾隆五十七年六月初九日奉

旨王雙劉來王貳單二王二著即處斬餘依議欽此

2008  
遵

旨查明隨從人等被水衝失什物各員名內有官物

衝失者請

旨免其賠補其衝失什物者官員擬每員賞給二月

俸銀拜唐阿兵丁官役等每名賞給二月錢糧

謹分繕清單進

呈俟

命下 臣等遵照辦理謹

奏

六月初 日



\* 被水衝失官物單

乳牛二十三頭

廐長慧保呈報在草市被水衝失

白麩五百餘觔 白糖二包 米二石 油一

簍 桃仁二百觔 台連紙一簍

餽餽房倉掌金立柱呈報在沙堤被水衝失

木耳一百二十觔 乾菠菜五十觔 蘑菇一

百觔 黃花五十觔 芥麩一百觔 黑瓜子

二百觔 醃蘿蔔二百五十觔 乾肫膀一百

二十觔 青醬一百四十觔

菜庫副庫掌德兒呈報在沙堤被水衝失

官鞍十七副 馱鞍一副

署廐副郭興阿等呈報在草市被水衝失

帳房一架 綿被一十個 它單十五塊 油

單一塊 金龍盒子一副

藍翎侍衛雙全呈報在迎水壩被水衝失

以上請

旨免其賠補

\* 隨從人等被水衝失什物名單

二等侍衛韋馱保 佛德 明德 白濟呼

圖清額

三等侍衛都勒保 雙福 福智 福保

倭靈額 托靈太 三遠爾

藍翎侍衛慎通 尼里庫

膳府藍翎侍衛雙全

嚮導處護軍叅領鍾傑 副護軍叅領額圖歡

會計司筆帖式朱德

廐掌慧保 福泰

粘竿處拜唐阿達色 成善 額爾格奇扣

三官保 奇成額 長齡

養狗處拜唐阿穆克登布

廐副皂住克興阿常山廐丁楊喜爾等三十八

名 馬甲一名

膳房承應人二滿等十二名 庖人福泰等二名

庫守六十兒等二名

領催增榮一名

厨役百欵等四名

以上官員每員擬賞二月俸銀拜唐阿兵丁  
官役等每名擬賞二月錢糧

2009 乾隆五十七年六月初九日奉

旨戶部具題起解粵海關雜項銀兩一本內稱該關  
徵收關稅盈餘銀兩自乾隆五十五年九月起至  
五十六年九月止比較上屆短收銀十三萬有零  
議令該監督等各按經徵月日照數賠補等語因  
思向來關稅盈餘短少銀兩如係該監督等辦理  
不善自當照數著賠但粵海關稅課之盈絀總視  
洋船之多寡上年該處徵收短絀係洋船到少貨  
物較稀所致尚非該監督等辦理不善所有此次  
短收盈餘銀十三萬零著令郭世勳額爾登布各  
賠銀一萬兩其餘著加恩寬免餘依議欵此

2010

臣等復將山西省解到之高好手子李上人子  
王慶三犯派員隔別熬訊並親提董二與之逐  
一面質據董二仍供該三犯實屬逆黨及訊以  
切實証據則又不能指証復另提訊李上人子  
據供我於乾隆三十八九兩年在崞縣上陽武  
地方李吉祥子開的永興成油號內傭工還有  
同我做活的白喜旺子及郝佑汪應位子俱是  
知道的等語訊之高好手子供我祖名高步雲  
父名高陞向在歸化城西干者漢衙衙居住替  
蒙古協領蘇烈閒散蒙古那木扎家種地年年  
交租銀一兩八錢三分及五錢不等我於三十  
八九兩年俱在歸化城種地交租地主並附近  
居住之谷道成李儒文高儒章陳法榮俱是知  
道的等語訊之王慶供我與王河河子同姓不  
宗並非堂兄三十八九兩年在崞縣租王伶的  
屋開煙酒鋪煙係向崞縣城裏萬恒號內轉販  
酒係向張浩雜貨舖內轉販並未出門是可以  
查得的等語臣等因查董二原供王倫於三十

八年帶了高好手子李上人子及餘黨至臨清三十九年謀逆滋事今據高好手子等三犯堅供三十八九等年俱在崞縣及歸化城貿易種地為生並有下落可查若所供屬實則董二前供又不足信除將高好手子等供詞飛咨山西巡撫綏遠城將軍飭查覆核辦外再俟王疼子等解到時另行逐細研鞫錄供具奏謹奏

乾隆五十七年六月初九日奉

硃批著六百里發往問明即各速行回奏毋致屬員朦混了事欽此

2011  
辦理軍機處為飛咨事本月初八日據山西解到之高好手子等三名據李上人子供我於乾隆三十八九兩年在崞縣上陽地方李吉祥子開的永興成油號內傭工還有同我做活的白喜旺子及左鄰汪應位子並開客店的李福定子俱是知道的等語據高好手子供我祖名高

步雲父名高陞向在歸化城西干哲汗衙衙居住租種蒙古協領蘇烈蘇拉那木甲及民人高建宗地畝每年交租銀一兩八錢三分五錢三錢三分不等我於三十八九兩年俱在歸化城種地交租地主並附近居住之谷道成李儒文高玉章陳法榮可以查問得的等語據王慶即王清供我與王河河子同姓不宗並非堂兄三十八九兩年在崞縣租得王伶的舖面房三間開鳳鳴號煙酒舖我舖內的煙係向崞縣城裏萬恒號內轉販酒係向張浩雜貨舖內轉販我於三十七八九這三年俱在舖內做買賣並未出門取貨年年有賬是可以查得的等語為此

飛咨

貴將軍 撫即飭喚高好手子李上人子王慶之屋主地主暨鄰佑人等將所供三十八九兩年在崞縣暨歸化城地方貿易傭工種地為生之處是否屬實錄取確供飛咨覆本處以憑核辦其屋主地主暨鄰佑人等於訊供後即行釋寧俱

不必解赴熱河以省煩擾須至咨者

右 咨

綏遠城將軍

山西巡撫

六月初 日

2012 啟者本日面奉

上諭太白山神禱雨輒應夙著靈異擬於京城附近  
靜宜園處所建廟供奉以昭誠敬著傳諭秦承恩  
將該處太白山神廟如何建造規模繪圖呈覽并  
將廟內所塑神像敬謹描摹一併送京以便將來  
建廟時仿照供奉欽此布達希即遵照繪圖  
描像咨覆本處辦理不必專摺覆奏並候  
近祉不備

和 等拜具

2013 頃據侍衛阿爾塔錫第迎到王胖女子一犯臣

等即行親加審訊謹錄取供詞進

呈至伊父王河河子如何至山東謀逆之處臣等  
將董二與之面質董二仍不能指出切實証據  
王胖女子堅供王河河子從未出外有街坊趙  
葦葦子等可証除飛咨長麟飭查咨覆核辦外  
俟王疼疼子等解到再行分別研鞫錄供具  
奏 謹

六月初十日

\* 王胖女子供我今年二十八歲我父親名叫王  
河河子又名叫王家珍今年若在有六十二歲  
了平素做紙花兒為生我母親趙氏今年六十  
歲我大兄弟叫王午午子今年二十五歲二兄  
弟王忙忙子今年二十歲我於十二歲時我母  
親病故十四歲時父親病故我有三個姑娘大  
姑娘嫁與王姓在本縣上陽武地方居住他已  
病故了二姑娘嫁與歸化城住的賈姓也病故  
了三姑娘嫁與李姓也在上陽武地方居住如  
今他也病故了我父親從來沒有出過外有街

坊趙葦葦子趙閏聰子于引福子都知道的我於十五歲時我伯王疼疼子將我嫁與本縣申三屯賈石虎子為妻我男人今年三十四歲董二是我外祖母晚嫁生的兒子我從十二歲上曾見過他以後總沒有見過是實

2014

辦理軍機處 為飛咨事據王胖女子供伊父親王河河子從來沒有出過外有街坊趙葦葦子趙閏聰子于引福子都知道的等語為此抄錄供詞飛咨  
貴撫即飭訊趙葦葦子等錄取確供飛咨本處核辦其趙葦葦子等即行釋寧不必解赴熱河以省煩擾須至咨者

六月初十日

2015

大學士伯和 字寄  
山東巡撫吉 乾隆五十七年六月初十日奉

上諭從前逆匪王倫滋事後其祖父墳墓據徐績奏俱經兗州府知府劄掘並將屍骨燒揚等語但彼

時正當剿賊匆猝之際其墳墓曾否劄挖亦無確據地方官所稟情節難以深信今已事隔多年官非一任吉慶受恩深重甫任山東巡撫無所用其迴護著傳諭吉慶即將王倫祖父墳墓是否確在山東壽張地方從前劄挖一節有無捏飾之處詳細訪查據實具奏再王倫如實屬籍隸壽張該處必有伊房屋田畝其房屋雖例應平毀而田畝自必入官有冊可查况現距該犯滋事時尚未及二十年其附近居民未必悉皆從逆無難訪詢即該縣書役里長等亦必有知其事者並著該撫即將王倫是否山東土著抑係外來寄寓一併訪查確實迅速具奏毋稍含混將此傳諭知之欽此遵旨寄信前來

2016 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年六月初十日奉

上諭據梁肯堂奏省城及易州等屬得雨三寸一摺

三寸之雨豈足為慰已於摺內批示矣至京城迤南各府州屬至今未得澍雨早象已成前經截留漕米五十萬石預為直省賑撫之用復節次降旨緩徵平糶借給籽種口糧所以賑卹貧民俾資生計者已極周備該督惟當督率所屬悉心妥辦務使小民均霑實惠不可稍存大意至河間景州一帶及順德廣平等屬此時若得有雨澤是否尚能趕種晚禾之處並著該督查明據實具奏毋稍諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2017 遵

旨詢問梁肯堂摺差把總江有本據稱保定省城六

月初六日申時起亥時止得有細雨入土約三

寸把總於初七日起身自安肅迤北至涿州道

路泥濘得雨已屬深透至保定迤南梁總督現已差人前往查看聞得彼處得雨較小等語謹奏

2018 乾隆五十七年六月初十日內閣奉

上諭據姚棻奏江西南豐廣昌二縣地居上游因閏

四月下旬雨水過多溪河泛漲五月初三四日復大雨如注山水驟發以致被淹業經分別撫卹等語南豐廣昌二縣因雨水稍多致被淹浸雖經該撫查明業已照例撫卹並聲明水勢已退尚可補種晚禾不至成災但該處民居衝塌較多且有淹斃人口之事朕心殊為惻然此當速奏何遲至月餘昨熱河地方亦因山水陡發沙堤一帶衝塌房屋業降旨於和珅等奏請例賞之外加倍賞給所有南豐廣昌二縣應行賞給建蓋民房暨掩埋銀兩俱著照該撫所奏加倍賞給以示朕體卹災黎有加無已至意摺併發欽此

2019 乾隆五十七年六月十一日內閣奉

上諭浙江布政使員缺著王懿德調補鄭源璿著調補湖南布政使其河南布政使員缺著吳璥補授所遺河南按察使員缺著陳文緯補授欽此

2020 乾隆五十七年六月十一日內閣奉

上諭浙江杭嘉湖道員缺著李嗣補授欽此

2021 乾隆五十七年六月十一日奉

旨大學士九卿議覆紀昀奏請撥直隸截漕米石在京分廠煮賑一摺所議尚未周到朕軫念災區預籌民食本年因直隸被旱各屬二麥歉收節經降旨緩徵借糶並截漕五十萬石俾資接濟現因應賑百姓赴京就食者較多酌籌分廠煮賑所需米僅止數千石不過截留糶糧百分之一大學士九卿等議如所奏在直隸原截漕糧內扣出撥給殊屬見小所有京城需用賑米竟毋庸在直隸截留漕糧內扣撥即著動用通倉米石速行撥廠分賑

以資災民口食更可多賑數人不致一夫失所母任地方州縣吏胥尅扣侵肥以副朕惠愛黎元有加無已至意欽此

2022 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 河南巡撫穆 乾隆五十七年

六月十一日奉

上諭本日據永瑄等奏易州所屬地方於本月初六日得有透雨又據管幹珍奏德州恩縣一帶初六初七等日連得大雨是京西及東南一帶俱經續沛甘霖所有直隸之河間景州安陵等處境壤俱屬毗連豈有東西均得雨澤而中間數處獨未霑被之理何以梁肯堂未經具奏至豫省河北三府望澤甚殷前經穆和蘭奏報該處雨澤未能周徧昨據劉秉恬奏運河水勢增長必係河北各府得雨是以漳衛二河源水盛發等語其曾否續得澍雨之處日久未據穆和蘭奏及著傳諭該督撫即將該處近日曾否得雨情形迅速覆奏以慰廑注

將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2023 大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 乾隆五十七年六月十一日奉

上諭昨經降旨令吉慶將逆匪王倫祖父墳墓從前創掘燒揚一節是否確實訪查具奏今思該省州縣地方官雖遠隔多年並非本任之事但恐該州縣官官相護且或自顧處分恐查勘未能真確仍不免虛詞朦混吉慶現在臨清一帶辦賑距兗州不遠著即親往該處查明王倫祖父墳墓是否確在山東地方並親自勘驗其墳墓創掘之處有何憑証至王倫如實係籍隸壽張其所有田產雖當時業已入官然改邑不改井自有冊籍可查即現在該處者老及書役里長等必有能知其大概者無難尋訪而得如王倫係外來流寓計伊到東省年分不久未必即有墳墓田產若伊祖父俱葬在壽張並有產業可稽自係該處土著該撫受恩深

八七六

重務宜親往履勘並詳悉訪查毋得稍事含混再本日據管幹珍奏恩縣德州一帶初七日辰刻連得大雨至午刻密點不止等語德州一帶盼澤甚殷今獲此甘霖覽奏欣慰不禁以手加額該撫何以未經具奏並著該撫即將德州臨清等處得雨是否一律深透并尚可趕種晚禾之處查明據實覆奏將此由五百里傳諭知之仍即速奏欽此遵旨寄信前來

2024 乾隆五十七年六月十一日內閣奉

上諭歸景照奏叅革知縣嚴承夏於五月三十日晚押解到省因時值深夜暫委按察司照磨張克謙看守飭於次早收禁不料嚴承夏即於是夜自縊身死請將照磨張克謙革職拏問署按察使事杭嘉湖道良柱革職一併嚴審並自請交部等語嚴承夏係因署守備林鳳鳴等聽從賄囑幫爭析地放鎗滋事一案匿不稟報特旨拏問之員一經解到即應嚴禁所稱令照磨看守竟是虛語致令自



溢實出情理之外省城重地以拏問官犯輒任自盡此而不嚴加懲創設有大員拏問亦復徇情寬縱與以自戕之暇尚復成何事體張克謙著革職拏問交與福崧提同看守人役將有無徇情受賄之處嚴審定擬具奏良柱著革職審明後發往軍臺効力贖罪至歸景照不過一循分供職之員因念其係尚書歸宣光之子不次加恩擢用藩司現護撫篆又近在同城乃於此等拏問官犯並不留心查察委蛇取譽致有畏罪自盡之事其罪實無可逭歸景照亦著革職發往軍臺効力贖罪福崧並無緊要必須面奏事件冒昧起程來京陛見轉致地方於不問釀成重案殊屬非是福崧即著交部嚴加議處欽此

2025 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十七年六月十二日奉

上諭據歸景照奏參革定海縣知縣嚴承夏在省自縊一摺已降旨將歸景照良柱革職發往軍臺効力按察使照磨張克謙革職拏問嚴行訊究矣此

案總由福崧因急於陛見冒昧前來必有規避之心且並無迫不及待之事輒將巡撫印篆交與歸景照護理地方重案不能親自督飭料理以致廢弛現已降旨將該撫交部嚴加議處至嚴承夏於革弁林鳳鳴等幫同民人爭奪柎地一案不過匿不稟報並無重大情罪何以於押解到省時遽行畏罪自盡其中必有別項情事或係嚴承夏於此案本有染指是以畏罪自盡或該照磨受嚴承夏賄賂有心徇縱並不即行監禁此等情弊不可不切實跟究著傳諭福崧親提案內人犯嚴行究訊務得實情從重定擬具奏該撫既經規避於前若再不嚴切審辦稍涉迴護恐不能當其咎也將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2026

大學士伯和 字寄  
兩江總督書 河道總督蘭 乾隆五十七年  
六月十二日奉

上諭書麟等奏瓜洲江岸坍塌會勘籌辦一摺據稱瓜洲城外迴瀾壩迤下江岸於五月十八日裂縫坍塌侵至城根將四十一年收進之土城塌卸十丈現將迴瀾壩塌卸工尾暨南門外灘嘴處所用料覆護並請將土城讓進五六十丈補還城垣以復舊觀等語瓜洲城外江灘因江流北徙衝刷灘崖坍塌及土城該督等以城內西南隅並無民居現在坍塌之處後身尚有隙地擬讓進五六十丈照舊補還土城亦止可如此辦理但該處城垣於十一年業經收進五六十丈此次又復讓進若不另籌挑護之法則江流衝刷靡常難保不再行塌進豈有屢將城垣向內收進之理閱圖內現做裹頭處所自屬頂衝何不於該處接靠壩根建築石磯挑溜向東南下趨俾瓜洲城外灘岸不致衝刷塌卸城垣可資保護已於圖內用硃筆圈誌但此

係柴壩江流甚深溜勢湍急若以壩根接做石磯是否可能生根鞏固以資挑護之處著該督等詳細履勘是否可行悉心籌酌據實具奏將此諭令知之硃筆原圖一併發往欽此遵  
旨寄信前來

2027

據山西委員將王疼疼子等犯解到臣等逐一  
隔別嚴鞫謹錄供具

奏其跟隨王河河子赴山東謀逆一節據各該犯堅供乾隆四十三年以前王河河子從未出外該犯等三十八九年俱在本籍種地傭工及手藝營生有鄰佑里長等可訊臣等因令董二與之面質董二亦不能指出各該犯前赴山東謀逆確據又將王疼疼子三犯今京中查出王倫案內緣坐為奴之王張子黨王氏閔賈氏詳細辨認僉供並不認識臣等復將董二所供劉法劉煥劉大位王慶四犯何以適與從前臨清逆犯名姓相符之處詰訊董二據供我從前所供

王河河子黨與內王慶劉法劉煥劉大位四人係就我所知之人供出其姓名因何與從前山東拏獲之人恰好相同我實不知道等語臣等查董二所供雖不能指實各該犯謀逆情節但王疼疼子等所供並未出外之處究難憑信此時無從究詰除一併飛咨長麟飭訊地鄰人等錄取供詞咨覆核辦並俟吉慶訪查到日再行嚴訊具

奏謹

奏

六月十二日

2028 查戈源所奏請嚴縣府錄取文章一摺各省情

形相同自應一體酌辦臣等遵

旨擬寫寄信長麟

諭旨並將原摺交該部議奏謹

奏

2029 大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年六月十二日奉上諭據戈源奏現考山西一府三州童生除錄取外皆文理不通宜嚴定縣府考送之額以杜夾帶抄襲等弊一摺所奏甚是縣府考試為士子進身之階必須先加遴選始不致冒濫滋弊若無論文理之通與不通全行錄送勢必人思倖進夾帶鎗倩之弊在所不免關於士習者甚大著傳諭長麟飭令縣府各屬遇考試童生時務須詳慎去取如有文理荒謬竟至不能完卷者即行扣除毋得濫送其是否可定額數之處並著該撫悉心酌辦以勵真才而清弊源除交該部核議具奏外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2030 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年六月十二日奉上諭穆和蘭奏河北彰衛懷三府屬於二十七八等

日至三十日各得雨一二寸至三寸不等雖未能一律霑足於秋禾究為有益此外不成分寸地方察看情形分別核辦等語河北三府屬缺雨已久今得此一二寸之雨究未霑足雖昨據劉秉恬奏稱臨清閘外運河於初三四日長水一二尺必係豫省河北地方得沛甘霖漳衛二河源水盛發等語今復經該撫奏到是河北各府屬業經得有雨澤但究係未能深透即趕種晚禾恐已失時民食不免拮据節經降旨截留漕米二十萬石並分別緩徵借給籽種口糧俾資接濟該撫務須督率所屬實心經理俾沾實惠其被災地方勘明核辦切忌稍存諱飾俾小民口食有資不致一夫失所以副朕軫念民依至意將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2031  
遵

旨查于住挾恨逞兇殺死三命案內其被殺之于四拐子雖係張姓為于姓義子與族姪于二小同居即屬一家至同時被殺之馮成係于四拐子

鄰人與于四拐子于二小等並非一家是以臣等核擬摺內將于住一犯仍照該督所擬殺三人而非一家例定擬斬決謹

奏

乾隆五十七年六月十二日奉

旨于住著即處斬餘依議欽此

2032  
遵

旨傳詢梁肯堂摺差把總丁銘據稱保定省城於初六日得雨後未經再得過雨把總於初九日自保定起程初十日行抵良鄉得雨寸許初十日以後路上並未遇雨安肅以北直至口外地土俱屬滋潤又詢問吉慶摺差把總金貴據稱把總於初六日午時自濟南省城起身行至平原地方於三更時分得有大雨一次初七日至德州景州一帶又遇雨一陣約有二三指以後未經遇雨等語謹

奏

2033 乾隆五十七年六月十二日內閣奉

上諭河南河北道員缺著蔡共武補授欽此

2034 大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年六月十三日奉

上諭據長麟奏董二供出之李老三查明已經病故往查墳墓及傳訊地鄰人等僉供李老三病故屬實等語此案節經該撫將王疼疼子高好子子等解到令軍機大臣分別嚴鞠該犯等俱供並未出外堅不承認尋常小竊到案尚思狡賴况謀逆重情自未肯即行供認但案情重大非實有確據豈可遽入人以叛逆之罪此事朕毫無成見並不稍有偏袒現已思得辦法昨經降旨交吉慶親往查勘王倫祖父墳墓是否確在東省壽張地方從前派員創掘之處有何憑証並王倫原籍有無田產當時雖已入官亦必有冊籍可稽該處耆老里書人等均可訪詢而得俟吉慶奏到真偽自明如王倫實係山東土著則董二挾嫌誣告事屬顯然雖

所控之人尚未的決但拖累多人亦當按律擬以重辟入於情實倘王倫竟係外來流寓則董二所告不為無因是晉省地方迴護不實不盡亦未可定必須兩處實証徹底跟訊以成信讞不能憚忤了事也將此傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

2035 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十七年六月十四日奉

上諭戶部奏查辦假捏公文以爐頭王世德出名呈告寶泉局監督百善出賣渣土需索使費並聽信書吏王芝三擅用節年出賣渣土銀兩一摺此案經戶部堂官傳到爐頭王世德書吏王芝三嚴切詰訊俱供並不知情並據王芝三供出從前局內曾有革退貼寫勞元亮央求復充未經應允呈內字迹與伊從前所寫稿案相仿已將王世德王芝三勞元亮送交刑部審辦此項假捏公文如果係王世德所為又豈肯直書己名具呈匿告自投法網其革退貼寫勞元亮核對呈內字跡既與伊從

前所寫稿業相仿又在伊家內搜出銀珠硯並有塗描跡跡木鎮紙一塊情有可疑且因事革退後有央求復充未經應允情事或挾嫌匿告希圖洩忿自未可定應向勞元亮嚴切跟究同該書吏爐頭等三面質訊務得實情並將所控情節一併嚴審定擬具奏將此傳諭刑部堂官並諭戶部堂官知之欽此遵

旨寄信前來

2036 大學士伯和 字寄

刑部堂官 乾隆五十七年六月十四日奉

上諭據阿桂覆奏步軍校唐廣德用刀砍傷伊媳薛氏一案於派員前往驗傷時薛氏原供有上年唐廣德曾向調戲之語所奏殊屬踈畧唐廣德於上年調戲伊媳何以直至此時以切爪微嫌復將伊媳砍傷必其砍傷之前又因調戲不從故欲致死滅口情事阿桂既知薛氏有上年向其調戲之供即應從此跟究何以並不即時詳訊況薛氏頭上現被唐廣德刀砍多傷刑部派員往驗時究竟薛

氏之傷是否不至殞命摺內何以無一言叙及試思該氏若竟因傷故又不訊取活供豈不留唐廣德狡賴之地事關倫紀罪名所繫阿桂因何不即時訊問明確遽行具奏著傳諭刑部堂官速即將此案起衅根由及薛氏傷痕輕重是否不至殞命之處詳細查驗訊取確供如唐廣德調姦屬實該犯身係漢軍職官乃罔顧倫紀復將伊媳砍傷情節實為可惡並著於審明後從重定擬具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2037

查律載姦子孫之婦和者姦夫姦婦各斬決強者姦夫斬決婦女不坐又例載強姦婦女執持金及兇器戳傷本婦未成姦者擬絞監候又強姦未遂將本婦毆傷數日後因傷身死者擬斬監候此係凡姦之例親屬更應加重是唐廣德如果調姦屬實薛氏即不至因傷身死唐廣德亦應問擬死罪謹

奏

六月十四日

2038

大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 提督陳 乾隆五十七年六月

十四日奉

上諭據陳杰奏參革知縣嚴承夏畏罪自縊等因一摺已於摺內詳細批示此事昨據歸景照奏到嚴承夏於革弁林鳳鳴等幫同民人爭奪桁地一案匿不稟報不過失察之罪將來定案後止於發往新疆或問擬軍臺何至遽行自盡其中必有別項情事前已有旨交福崧嚴行究訊陳杰拜發此摺時福崧尚未抵浙該提督摺內所稱驟加刑夾恐致斃命此不過等候福崧之意尚敢飾詞取巧著再傳諭該撫務將嚴承夏是否於此案或有染指是以畏罪自盡及該照磨有無受賄徇縱之處嚴切審鞠務得確情該撫既已規避於前若再稍涉迴護恐不能當其咎也此案應訊犯証解省者有六十餘名之多更應留心防範毋得再有疎虞以

旨寄信前來

致別生事端至陳杰所奏定案後將該犯韓廷傑等家產概行查追酌給被殺家屬以資養贍之處自應如此並著福崧查明辦理將此傳諭福崧並諭陳杰知之欽此遵

2039

臣等遵

旨將本日

硃批陳杰摺交

行在九卿閱看據劉莪等稱此案革弁林鳳鳴等

聽受賄囑幫同民人爭奪網地參革知縣嚴承

夏祇係未經詳報乃於解到省城時即行自縊

誠如

聖諭嚴承夏不過失察之罪何以遽致輕生其中必

有別故於陳杰奏摺內詳悉

批諭交與福崧嚴切訊究仰見我

皇上睿照如神一切外省讞案胥蒙

指示周詳無微不至臣等恭閱之下實深欽服等語

謹

奏

六月十四日

2040 乾隆五十七年六月十四日内閣奉

上諭姚榮現丁母憂江西巡撫員缺著陳淮調補所遺貴州巡撫員缺著馮光熊補授馮光熊甫在熱河召見回京且係素知之人著即赴新任不必前來行在請訓陳淮未到任之前其江西巡撫印務著託倫暫行護理欽此

2041 大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年六月十四日奉  
上諭京師自前月二十八九等日奏報得雨之後距今已及半月未據續報得雨現在天氣炎熱是否稍覺乾燥著傳諭留京王大臣將旬日以來京師曾否續沛甘霖農田有無望澤之處即據實覆奏以慰屢注欽此遵

旨寄信前來

八八四

2042

奏

查本日管幹珍等所奏係南漕全過德州日期臣等查上年南漕重運幫船於六月初五日全過德州北上本年於六月初九日全過德州比較上年除閏月外尚遲四日謹

六月十四日

2043 大學士伯和 字寄

漕運總督管 河東河道總督李 山東巡撫

吉 乾隆五十七年六月十七日奉

上諭諾穆親等奏江西南昌前幫於十三日過關在後各船若能接續前來至遲不過七月初旬亦得全漕告竣等語上年漕船於七月初九全數抵通今年過閏若漕船於七月初旬告竣已遲一月昨據管幹珍奏南漕尾幫於六月初五日全過德州當令軍機大臣將上年全過德州日期查對比較除閏月外尚遲四日雖本年東昌臨清一帶得雨稍遲運河水淺糧船未免因此行走耽延但從前糧船抵通節年遲逾直至九十月間方得全數告



竣經朕屢降諭旨飭令實力催償兩年以來方得復冬兌冬開之制本年幸遇閏月各幫船於七月初旬告竣尚可無悞若遇無閏之年該督等亦不上緊催償輒引有閏之年相為比較則年遲一年必至又如從前之遲逾豈不前功盡棄目下運河已經長水回空更無阻滯著傳諭管幹珍等嗣後務宜加緊催償俾漕艘及早回歸受兌以符冬兌冬開定制不得藉詞耽延致滋遲悞獲咎將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2044 乾隆五十七年六月十七日內閣奉

上諭鄒奕孝現任學政吳省欽又派試差工部漢侍郎辦事乏人著張若淳暫行兼署工部右侍郎事務張若淳前派隨往木蘭著毋庸前來所有後班刑部堂官即著蘇凌阿隨往欽此

2045 大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十七年六月十七日奉  
上諭刑部奏陝西巡撫秦承恩題覆汪秀魁毆傷假差鄧貴身死一案先經刑部題駁以此案該撫置鄧貴假差嚇詐逞兇拒捕於不問遽將汪秀魁依鬥殺律擬絞未為允協請令該撫另行妥議今秦承恩仍照鬥殺具題所引各條俱與例義案情不合自毋庸再行議駁應即照律改擬等語所奏是依議行至秦承恩辦理人命重案既經刑部題駁自應悉心詳核斟酌妥議以歸平允乃此案鄧貴假差嚇詐及汪秀魁被詐擅殺各情節業據該撫兩次覆審無異仍照原題以尋常鬥殺律一例定擬未免固執著傳旨申飭將此傳諭秦承恩并令刑部堂官知之欽此遵

旨寄信前來

2046  
遵

旨將

硃批刑部奏辦陝西省鄧貴假差嚇詐被汪秀魁毆傷身死一摺交蘇凌阿閱看據稱此案該撫秦承恩於初次題到時經刑部以鄧貴假差鎖拏平人被汪秀魁識破欲行扭稟輒逞兇拒捕以致汪秀魁抵格致斃是死者之狡惡難恕即平民之情罪可原該撫將汪秀魁依鬥殺律問擬未為允協請令秦承恩另行妥議而該撫仍照原議題覆現經刑部即照擅殺律改擬不復再行議駁以免紛煩此皆由前次刑部題駁蕭登月毆斃假差一案仰蒙

聖明指示周詳此案情節適與前案相同是以部臣得有稟承遵照辦理恭閱

硃批仰見我

皇上情法持平權衡至當實深欽佩感服等語謹  
奏

2047  
乾隆五十七年六月十九日內閣奉

上諭據哈當阿等奏拏獲臺灣附逆案内匪犯張寢鄒祥二名審明辦理一摺已批該部知道矣前據伍拉納等奏到拏獲林爽文逆黨逸犯朱先審明正法今嘉義彰化等縣又有陸續緝獲之犯該處地方員弁尚屬留心緝捕此案從逆各犯前於大兵到時逃入內山苟延殘喘者若不盡數緝獲日久稽誅勢必竄入內地但該犯等自內山潛回不能不由臺灣經過現在各該員弁節次拏獲可期逸犯淨盡甚為妥善嗣後益當飭令文武各員於要隘處所認真盤緝其有續行拏獲者即酌量所獲匪犯名數咨部議叙以示鼓勵所有此次獲犯之嘉義彰化二縣及把總陳成功著即照此辦理哈當阿楊廷理亦著一併議叙摺併發欽此

2048

查兇匪謝阿通兄弟四人該犯居長業經凌遲處死次名阿安在逃未獲該撫摺內聲明現在緝拏三名阿納下手戕官之犯業經該撫恭請王命即行斬決四名阿五即謝阿摸係聽從在場幫喊助勢亦經問擬絞決謹

奏

2049

乾隆五十七年六月十九日奉

旨謝阿親謝阿派謝阿省俱著即處斬謝阿五即謝摸謝阿老謝阿牛謝阿衿謝阿厚謝阿縣謝阿法謝阿成謝阿許即謝阿何謝阿岳謝阿兌謝阿豐俱著即處絞餘依議欽此

2050

大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十七年六月十九日奉

上諭據郭世勳奏審擬陽縣拒捕傷官之兇犯謝阿通等分別辦理一摺已交軍機大臣會同行在法

旨寄信前來

司核擬速奏矣此案謝阿通兄弟四人糾夥行竊復敢拒捕傷官實為可惡謝阿通及謝阿納謝阿五雖已分別正法而謝阿安尚在逃未獲著傳諭郭世勳務宜督飭地方文武將該犯嚴緝務獲毋令日久遠颺以致漏網稽誅其同夥在逃之謝阿宗謝阿烈謝阿懷亦著一併嚴拏務期弋獲辦理將此諭令知之欽此遵

2051

乾隆五十七年六月十九日奉

旨談時奏著照該署督所請行該部知道摺併發欽此

2052

查吏部本內署福建同安縣知縣張學溥楊賡鐸二員於營弁串詐釀命一案因未能確審詳報究出實情經該督等奏革職並無餘罪謹

奏

六月二十日

2053

查前日吉慶奏甘雨普霑一摺係六月初九十一等日得雨共七十八州縣並無德州其摺內所稱德州等處同獲澍雨係六月初七日所得雨澤已於本月十三日先據奏報核對江蘭所奏初七日德州得雨之處日期相同謹將上次吉慶奏到原摺粘簽進

呈謹  
奏

六月二十日

2054

乾隆五十七年六月二十日奉

旨唐廣德身為旗員因圖姦伊媳不從輒起意殺害疊砍多傷情節實為可惡著改為斬決餘依議欽此

2055

乾隆五十七年六月二十日奉

旨准其贖罪欽此

陳玉垣

2056

大學士伯和坤等謹

奏為遵

旨議奏事據署兩廣總督郭世勳奏安南國王阮光平咨請製買袍服酌令查照舊章辦理一摺乾隆五十七年六月十九日奉

硃批軍機大臣議奏欽此 據稱安南國王阮光平咨呈以該國所需袍服式樣頗多非江南織買多不合用擬派通曉工技者一人隨帶四五人親赴江寧等處購織懇予咨會江南給下牌照通行及沿途如何雇賃夫船水陸搬運之處曲為酌定等情查該藩此時事屬創始所需袍服采章之類未能遠致似係實在情形但所製式樣既多購辦動需時日一經給予牌照誠恐恃有護符藉稱製辦名目到處逗遛難保無別滋事端防範自宜周密查乾隆三十八年該國遣使入

貢由水路進京順便在江寧鋪家定織綢緞至次年自京回至江寧守取貨物延挨至二三月之

久經前任兩江督臣高晉奏明嗣後該國入  
貢路過江寧如有置買綢緞應令使臣將需買各  
貨開單交地方官傳齊店戶面同貢使講定市  
值給銀領織俟貢使回寧定限半月內交清等  
因恭奉

硃批甚是欽遵在案是貢使因便置買尚應官為經  
理似不便給予牌照聽其自行交易查阮光平  
節次遣使進京俱由湖廣河南一帶行走並未  
取道江寧可否嗣後

勅令改由江蘇一帶水路行走其所需各貨仍照舊  
例先令通事開明清單官為傳齊鋪戶領辦俟  
貢使出京照數交收等語臣等查安南國王阮  
光平仰蒙

皇上錫爵封藩

恩施優渥准將平而水口等關照常貿易內地貨物  
原可流通今該國王仰慕

天朝文物采章欲向江南購織袍服等物該國此  
時事在創始似可准行惟查該國王咨呈該署

督文內稱該國所需物件式樣頗多必得專人  
帶式親赴購織請給牌照通行并酌定沿途如  
何雇賃夫船水陸搬運等語是該國王意欲專  
差多人來至內地按式辦織其需用物件既多  
織辦必需時日設江寧一時不敷製買或款式  
未能合用勢必廣為購辦在外藩與內地商民  
自行交易鋪戶等既不無藉貨居奇而該國來  
人亦難保其不爭較價值且差來工匠多人一  
經給予牌照或因恃有護符借製辦名目到處  
逗遛既無定限回國或致別滋事端轉非所以  
仰體

聖主懷柔藩服惠卹遠人之意查乾隆三十八年該  
國遣使入貢由水路進京順便在江寧定織綢  
緞至次年自京回國復由江寧順道帶回因守  
取貨物延挨日久經前任督臣高晉酌定章程  
設立期限奏准遵行在案今該國王阮光平前  
據表請另定貢期業經臣等會同禮部定議酌  
以二年一貢

奏准行知該國王遵照辦理是該國貢使時常往來所需購織袍緞等物應即令乘貢使來京順道置辦帶回以歸省便惟查該國王遣使進貢俱由湖廣河南一帶行走並未取道江寧現在該國既有購買物件之事此次應准其改由湖北荆江至江寧長江一路行走以便順道購買此後該國貢使來京如遇再有購辦物件年分應令先期呈明督撫具奏方准其改由江寧水路行走如並無購辦物件之事仍照舊由湖廣河南一帶進京不得藉詞紆道江南以省道里遙遠沿途來往照料之煩至此次需買袍服等件並應仍照從前原定章程先令通事開明清單呈交地方官傳齊鋪戶領辦官為查催俟貢使出京照數收取回國仍飭地方官妥為查察毋任鋪戶等有昂價居奇及偷減工料等弊如此辦理庶該國購買物件既不必專差多人往來跋涉而沿途亦無須雇賃夫船水陸搬運於我

皇上加惠藩封慎重體制之道均為周妥所有臣等酌議緣由謹恭摺具

奏是否伏候

訓示俟

命下臣等即知照署兩廣總督轉行該國王欽遵辦

理並知會江南督撫一體遵照謹

奏

乾隆五十七年六月二十日奉

硃批所奏是依議欽此

2057

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年六月二十一日

奉

上諭本日據穆和蘭奏河北彰德衛輝懷慶三府屬於六月十一十二十三十四等日得雨三四五寸以至深透等語河北三府既經得有透雨其直隸之順德廣平大名各府境壤毗連自當一律均霑何以未據該督奏報再保定天津河間景州等處

本年俱缺少雨澤此四處內何處被旱較重看來保定天津二府屬曾經陸續得雨雖未沾足被旱自當差減惟河間景州則雨澤稀少早象已成著傳諭梁肯堂即將順德等三府六月十一二等日曾否均沾澍雨及保定河間等四處何處被旱較重之處據實覆奏以慰厯注將此諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

2058

大學士伯和 字寄

調任江西巡撫陳 貴州巡撫馮 各省督撫

乾隆五十七年六月二十三日奉

上諭據陳准題報本年貴州省麥收分數一本查與該撫閏四月間奏到之摺分數相同惟本內繕寫夏田收成字樣似於麥收之後另有收穫早稻雜糧等項措詞殊屬牽混著傳諭該撫嗣後題報麥收時務宜改正毋得相沿繕寫以致聲叙不清將此傳諭陳准馮光熊並諭各督撫知之欽此

2059

查貴州麥收分數業據該撫於閏四月二十日奏到通省合計共九分有餘已奉有

御製詩章與

題本內分數相同惟本內所稱夏田字樣實屬牽混謹擬寫寄信陳准馮光熊

諭旨進

呈俟

發下後通寄各督撫一體遵照謹

奏

2060

查乾隆四十四年定例殺一家四命以上者如被殺之家絕嗣者將兇犯同子照數抵罪如未絕嗣者將兇犯之子俱擬斬監候秋審時仍得

邀

恩免勾不特長年羈禁徒滋擁擠且該犯等轉得安坐囹圄不足示懲是以於乾隆五十四年內又

奉

旨此等兇殘之徒不可令其復留遺孽嗣後凡殺死

一家三四命以上者不拘死者之家是否絕嗣其  
兇犯之子無論年歲大小俱著交內務府一體閱  
割欽此此案係照新例辦理謹

奏

六月二十三日

2061

大學士伯和 字寄

工部尚書金 乾隆五十七年六月二十三日

奉

上諭此次圓明園進呈五月分月摺內南苑草橋等  
處清挖水泡河道一款用銀至十八萬一百八十  
餘兩為數已屬過多此項工程著金簡務須認真  
查察使帑不虛糜工歸實用毋任工員虛報丈尺  
冒銷銀數將來遇有淤墊輒以風雨停淤藉詞朦  
混此事著交金簡實力查辦和珅到京亦一體認  
真詳查不得以領項寬餘稍滋浮冒不數年仍致  
淤墊干咎將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

2062

乾隆五十七年六月二十三日奉

旨著交部董肇彤著送部引見欽此

2063

大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 乾隆五十七年六月二十四日

奉

上諭吉慶覆奏勘明逆匪墳墓並查訊証據一摺據  
稱抵壽張後密訪當日王倫住居及祖墳所在黨  
家庄居民咸能指目其處隨將王倫祖墳覆加刨  
挖所有遺剩骸骨盡行燒燬並請將從前刨挖逆  
墳遺漏草率之承辦府縣交部嚴加議處及原辦  
逆匪籍貫錯悞各員咨部議處等語此事既經該  
撫勘明王倫祖父已刨墳墓俱屬確實並查明王  
倫族姓實為山東土著是此案已可明白其從前  
刨挖逆匪墳墓未將骸骨查檢淨盡固屬辦理疎  
漏但念事隔年久此時亦不必深求所請將承辦  
刨墳府縣及原辦逆匪籍貫錯悞之各府縣等分  
別交部之處均著加恩寬免又據另片稱王倫同



庄居住之王森係屬生員王正係屬考職經歷請革去衣頂同族人王楹等一併遷徙等語王森等雖王倫宗黨究係遠族且事屬既往更可毋庸置議將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

2064 臣等遵

旨傳集王疼疼子並提同董二諭以山東巡撫本日

奏到業將逆匪王倫墳墓籍貫查明實係山東

土著明係董二挾嫌誣告與王疼疼子等無涉

皇上念王疼疼子等被誣拖累

特令即時省釋並每人賞給銀五兩王疼疼子等俱

各叩頭跪領感激懽忻臣等並令王疼疼子等

在旁看視將董二一犯嚴行駁詰加以刑訊謹

錄取供詞具

奏所有王疼疼子二十五名口即令原解官帶回

原籍釋寧外其董二一犯容俟會同

行在法司定擬具奏謹

奏

\* 董二供我係山西寧武縣人年四十三歲父叫董

三春子母董劉氏是先嫁趙姓後嫁與我父親的王河河子是我同母異父的姐夫他住在陽武村俞家衛與我住的孫家坪相隔三十里乾隆四十一年我原要娶過我外甥女李黑黑子為妻我同母的姐姐李趙氏不依我用刀扎傷我姐姐及外甥女是實王河河子等不依與村衆人等將我捆縛打罵了一頓是我母親向衆人央懇纔免送官我因恨王河河子等打罵我所以誣告他的

詰問你恨王河河子也只該告他一人或告他別的事何以告他是王倫又拖累上這許多人呢又供王倫謀反的事是人人知道的我想告他別的事未必能准王河河子恰又姓王不如說他是王倫可以動聽又想說他一個人謀反恐怕不像是以將從前幫同王河河子捆打我的人一齊砌入希圖告准拖累他們到案好洩我的忿恨這總是我的該死不敢妄供

又夾問你供出的人都是他們的俗名何以王慶  
劉法劉煥劉大位四人俱說他的正名又恰與  
從前王倫案內黨與王慶等四人的名字相合這  
必是你也入過王倫的黨所以知道如此詳細  
或是有人教唆你如此說快快從實供來若再  
不實供便又動刑了

又供三十八年王倫謀反時我在山西本籍現  
在案下的人都是知道的他們此時豈肯再替  
我隱瞞只求訊問他們便是了我所供王慶即  
王清劉法即劉掌福子劉煥劉大位係我所恨  
的人或記得他正名或記得他俗名供出其姓  
名因何與從前山東拏獲之人恰好相同我實  
不知道我若聽人教唆便該到衙門裏首告如  
何還等到犯夜被拏始行供出呢今蒙如此嚴  
刑審問還敢替人隱瞞麼求詳情

又詰問你由山西逃至京城已將十年這十年內  
你必別有為匪不法的事快快一併供來

又供我於乾隆四十八年秋天來京討乞度日遇

有當閒地方雇給人家當閒得幾個錢盤費又  
在德勝阜成正陽朝陽等門外討乞度日遇有  
墳塋或空廟裏隨便度宿如討得幾個餘錢即  
在伙房內住宿記得有王五巴于大眼安常孟  
二賈二瞎子的伙房內我曾住過俱是暫來暫  
去不記得店主的名姓我是個討乞人如何還  
有人窩留我我到京後實無別的為匪事情不敢混供

又詰問你供若聽人教唆便該到衙門首告如何  
等到犯夜被拏供出這明明就是訟棍的詭計  
教你如此作為以見不是挾嫌可以栽害良善  
究竟是何人教唆你的這教唆的是山西人是  
京城內人你從實供明你的罪倒可輕減若再  
不說就要夾死了

又供我離了山西地方今已有十年我的親戚鄉  
里們這幾年都不曾見過面實在並無山西人  
教唆的事若是山西人教唆我告的我早應控  
告何以直等到此時始行說出至王河河子等  
俱是鄉村種地經紀之人與京內的人更無嫌  
怨實在無人教唆我因犯夜後盤查我有無為

匪情事我想起從前的宿恨一時該死將王河  
河子說是王倫希圖借此洩忿若有教唆之人  
我現今受此嚴刑又豈肯不將他說出輕減我  
的罪呢求饒刑

又詰問若果無人教唆你不過是一討乞之人如  
何能曉得王倫案內黨與名姓你此時還敢狡  
賴嗎快快供來

又供我供的有六七十人如果我曉得王倫的黨  
與名字就該將他們名字都砌上了豈肯單說  
出王慶等四人這四人名字如何與王倫黨與  
相同我實在不知道的就是夾死我也說不出  
別的情節求詳察反覆刑訊堅供不移

2065  
查穆和蘭六月二十一日奏到摺內稱河北三  
府於六月十一至十四等日衛輝懷慶兩府通  
屬俱經得雨惟彰德府通屬除安陽等五縣得  
雨外尚有武安涉縣二處未經報雨已奉有

御製詩嗣於二十三日又據穆和蘭續奏武安縣於

六月十四日得雨五寸涉縣於十三日得雨深  
透等語是河北三府通屬均已普沾雨澤謹  
奏

六月二十五日

2066  
乾隆五十七年六月二十五日內閣奉

上諭據梁肯堂奏河間保定天津等屬受旱較重請  
分別賞借口糧等語本年河間等屬雨澤短缺近  
雖得雨數次為時已遲所有被旱較重之處無力  
貧民口食未免拮据著加恩將河間府屬之景州  
河間獻縣阜城任邱吳橋保定府屬之雄縣東鹿  
八州縣貧民於七八兩月內先行賞借兩月口糧  
其河間府屬之肅寧交河東光保定府屬之清苑  
滿城安肅唐縣博野望都完縣蠡縣容城新安天  
津府屬之青縣南皮滄州鹽山慶雲等十八州縣  
酌借八月一月口糧以資接濟該督務須董飭所  
屬實力稽查妥為經理毋任胥役人等捏冒滋弊  
俾小民均沾實惠以副朕軫卹窮簷有加無已至  
意該部即遵諭行摺併發欽此

2067 乾隆五十七年六月二十五日奉

吉林喬俞啓明岳遜剛邱廷元趙得榮王宗顯孫行仁七犯俱著即處絞至浙省營伍廢弛已久林鳳鳴李廷翰身為將備方當率兵衛民乃敢貪圖得賄幫爭拊地並施放鳥鎗擊打民人此與洋盜何異竟失衆武弁之顏若不嚴加懲創其何以儆貪黷而肅戎行林鳳鳴李廷翰雖已正法並著將伊二人之子查明發往伊犁給兵丁為奴用昭炯戒至該撫及提鎮等有管轄營伍之責今所屬將備竟有貪賄幫爭放鎗滋事之案非尋常失察可比福崧馬瑀俱著交部嚴加議處陳杰係棄瑕錄用之人屢經獲咎此次林鳳鳴前往巡洋又係該提督所派該弁輒藉差滋事其平日不能管束已可概見陳杰著革去翎頂仍帶革職留任八年無過方准開復此八年之內止准其支領一半養廉以為專閫大員不能約束弁兵者戒餘依議欽此

2068 查各省學政奏到科試情形其考試經解如何

八九六

出題之處俱未聲叙恐亦有相沿辦理者謹擬  
寫明發

諭旨進

呈謹

奏

六月二十五日

2069 乾隆五十七年六月二十六日內閣奉

上諭翁方綱奏科試情形一摺內稱考試士子經解默經時却於坊間所刪經題內出題其有未讀全經者概不錄取等語五經為聖賢垂教之書士子有志進取竟有未經全讀者可見士習之荒疎卑靡翁方綱身任學政自應認真董率俾承學之士全讀經義身體而力行之方不負訓迪之責如詩書內不祥諱用語句不便出題乃後世過於迴避之陋習朕所不取茲公然竟有刪去者豈不可鄙是亦學術式微之一證也經籍俱經孔子刪定豈容後人更復妄有刪節今該學政明知坊間刪經之不可而不能去不過調停其間且相沿陋習形

之奏章若為定例者然殊屬非是著傳旨申飭蓋各省坊間射利之徒往往於經書內避去不祥諱用語擅行刪節標寫擬題以為習場屋者揣摩之具而躁進之士子遂以為捷徑秘傳最為惡習山東一省如此各省當亦所不免而各督撫學臣知而不言則更翁方綱之不如矣朕甚愧之此事於士風大有關係不可不明為查禁著通諭各督撫及學政等務須實心查察嚴行禁止俾士各通經文風振作其應如何立法查禁以端士習之處著軍機大臣會同禮部妥議具奏欽此

2070 乾隆五十七年六月二十六日奉

旨即著此次派出驗看月官之劉墉金簡彭元瑞松筠會同該部照例揀選帶領引見欽此

2071 乾隆五十七年六月二十六日奉

旨鄧施貴王楞賈有禮宋添貴俱著即處斬餘依議欽此

刑部核覆直隸省拏獲行劫盜犯

2072 大學士伯和 字寄

順天府尹 乾隆五十七年六月二十六日奉  
上諭蔣賜榮等奏京城得雨一摺內稱大興宛平二縣得雨三寸等語前據梁肯堂奏順天府屬之寧河縣久晴無雨禾苗受旱是寧河縣自春徂夏總未沾澤早象已成小民自不免艱食何以蔣賜榮等並未奏及直隸省已截留漕糧放米賑濟該縣自可一律均霑且距京不遠現在五城設廠煮粥該處貧民亦可就食京城自當不致失所著傳諭蔣賜榮等即將寧河縣被旱曾否歸入災賑案給賑及該縣民人是否赴京領賑口食有資之處查明據實具奏以慰廛注欽此遵

旨寄信前來

2073 乾隆五十七年六月二十六日奉

旨著松筠暫行兼署欽此

2074  
遵

旨詢問直隸按察使阿精阿貴摺家人據稱保定省城於六月十八日得雨一次約有三四寸我於二十二日早間自保定起身酉時行抵涿州遇有小雨自涿州至京地土潮潤得雨約有二三寸光景自京至古北口外一帶道路泥濘得雨較為深透等語謹

奏

六月二十六日

2075  
乾隆五十七年六月二十六日內閣奉

上諭前降諭旨截漕六十萬石分撥直隸河南二省預備缺雨各府屬接濟之用並派令劉秉恬梁肯堂前赴該二省交界處所就近商酌撥續又增賞直省米十萬石今於北倉內撥給梁肯堂因有地方應辦事件先回保定劉秉恬往來臨清一帶現赴北倉調度撥運辦理均為妥協著交部議叙  
欽此

2076  
遵

旨詢問梁肯堂摺把總江有本據稱把總於二十三日自長安城起身十九日得雨三寸聞得保定省城亦得雨三寸二十二日長安城得有小雨把總途次所經自京城至古北口外一帶道路泥濘想來得雨均屬深透至保定河間景州等處二十二日曾否得雨把總於二十三日已經起身不能知道等語謹

奏

六月二十六日

2077  
遵

旨將熱河地方現在正當田稼結穗之時如連晴十日半月於田稼是否有益之處詢問熱河道府據稱熱河自二十二日得有透雨大田所種黍穀高粱方當成實之時得此雨澤滋培膏漿飽滿正須日光蒸曬今雨後連晴顆粒更為充實飽綻此後即再晴十日半月亦不妨等語謹

奏

2078 乾隆五十七年六月二十七日內閣奉

上諭浙江署守備林鳳鳴等貪圖得賄幫爭拊地放鎗滋事一業昨經福崧等審明定擬具奏已將林鳳鳴李廷翰等四犯即行正法示衆林喬俞啓明岳遜剛等七犯一併正法矣國家設立弁兵原以稽查奸宄衛護民生海洋重地如漁戶民人等私相械鬥忿爭該將備等聞信自應率兵前往查拏送交地方官辦理其有不服拘拏臨時逞兇拒捕者無論彼此曲直但經抗拒即放鎗擊打致有傷斃於該弁等亦無不合今林鳳鳴因貪圖民人韓廷傑賄囑輒敢乘巡洋之便邀同署遊擊李廷翰前往幫爭拊地施放火藥鉛彈擊打平民兵丁岳遜剛等明知林鳳鳴等貪圖賄賂輒行聽從放鎗嚇制似此藐法營私竟與洋盜無異實有靦衆武弁之顏若不嚴加懲創其何以昭法紀而肅戎行是以將林鳳鳴李廷翰立行正法並查明伊子發伊犂給兵丁為奴其聽從放鎗之兵丁岳遜剛等概予縲首蓋此事於營伍地方均大有關係不得

不從重辦理用垂炯戒但恐武弁等知識愚昧惟利是圖不知法禁森嚴復懼重辟不可不申明紀律以儆將來著各省提鎮將此旨及辦理此案原降諭旨一併敬謹抄錄入於交代轉相誡諭並刊刻懸掛俾將弁兵丁等共知觸目儆心毋蹈林鳳鳴等覆轍以副朕整飭戎政諄切訓諭之至意欽此

2079 大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年六月二十八日 奉

上諭本年直隸河南山東三省雨澤均屬短少陝西省入伏以後亦覺望澤山西與直隸陝西等省境壤毗連前據長麟奏平陽潞安等六府夏間雨水稀少於六月初七八等日始得透雨但糧價不免昂貴懇請平糶已依議速行茲直隸河南缺雨各州縣業據陸續奏報得雨本日據秦承恩奏陝省於六月十五日復得透雨未稔山西平陽各府屬

於初七八等日得雨之後曾否續被甘霖大田情形若何近日糧價能否逐漸平減著長麟即詳悉查明據實具奏將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

2080 遵

旨查直隸所屬地方共一百四十九州縣昨據梁肯堂奏本年缺雨州縣共有六十八處計通省被旱地方約十分之四謹

奏

2081 大學士伯和 字寄

浙江巡撫福 乾隆五十七年六月二十八日 奉

上諭前因福崧急於起程前來朕見曾經降旨飭諭以地方事務如果有必須面行陳奏者亦可具摺奏聞何必為此僕僕轉置地方於不問今福崧回任後奏到各摺不過係海塘沙水及浙省糧價並

沿途雨水情形其摺內所稱河間德州一帶尚未得雨之處朕已早經知悉又何待福崧入告可見該撫並無緊要事件必須面奏又何必急於起程其前次摺內所稱依戀之詞並非出於至誠殊為不實著再傳旨申飭將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

2082 乾隆五十七年六月二十九日內閣奉

上諭現因京南被旱地方無業貧民就京覓食者較多特令五城添設粥廠煮賑朕現在駐蹕熱河恐口內貧民出口至此者必多自應特沛恩施俾得均沾愷澤著承德府道府等酌量設廠撥米煮賑使乏食民人得資口食並著實力稽查妥協經理務使均沾實惠以副朕軫念民休有加無已至意  
欽此



2083 乾隆五十七年六月二十九日內閣奉

上諭前因京南諸府雨水短少二麥歉收貧民赴京覓食者多今於五城展煮粥賑俾資餬口但念本年直隸被旱地方稍廣各處貧民間設粥廠自必紛紛就食人衆既恐致擁擠而相距路遠者或不免向隅著加恩照乾隆二十七年之例於五城例設各廠外在離城三四十里鎮集處所添設廠照舊定章程一體妥辦並增派滿漢科道各五員會同著留京辦事王大臣揀選派出不必送來引見現任五城御史督率司坊官悉心經理至就食人數既多所有每日額支米石恐不敷用並著加恩每廠每日各加米一石其中人數不齊或將在城之贏餘協濟在鄉之不足著都察院堂官等善為酌劑仍不時輪往稽查毋任胥吏侵扣滋弊俾赴食者均霑實惠以副朕軫念窮黎有加無已至意欽此

2084 查熱河煮賑一事臣等傳詢該道府等其應需

賑米熱河向有備存米石可以動用其應如何設廠及每日酌撥米數現今該道府等酌量情形妥議章程稟覆到時再行

奏明辦理謹擬寫

恩旨進

呈俟

發下即令該道府等騰黃曉諭謹

奏

六月二十九日

2085 乾隆五十七年六月二十九日內閣奉

上諭現在京城添設粥廠煮賑事頗煩重都察院堂官須輪往稽查舒常著即回京董理留京王大臣亦著留心詳悉督察欽此

2086 乾隆五十七年六月二十九日奉  
旨福崧著從寬免其革任仍註冊欽此

2087 同日奉  
旨張姚成著降二級從寬留任

2088 啓者二十七日面奉

諭旨愉貴妃係朕在藩邸時即經隨侍且五阿哥是其所出今已晉封貴妃其位次應在慶貴妃忻貴妃之上等因欽此除 神牌位次業交

行在禮部改行排定粘貼圖式寄回外專此佈

聞希即傳知各該衙門遵照辦理此圖似不必再行具奏並候  
近祺不備

金阿常

六月二十九日

2089 查滇省應封廠神名號 臣等謹擬進

呈俟

欽定發下即於

諭旨內填寫謹

奏

六月二十九日

2090 乾隆五十七年六月二十九日內閣奉

上諭富綱等奏請勅賜廠神封號一摺近年各廠辦獲銅筋較每年額數多至四百餘萬自屬山靈呈瑞理宜列在祀典錫之封號用答神庥著封為裕源興寶礦脉龍神並著該督撫於廠地相度處所建設總廟春秋致祭並交該部載入祀典其大小各廠聽其自行立祠其神牌祠額即照所定封號一律繕寫該部知道欽此

2091 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十七年六

月三十日奉

上諭本日郭世勳四百里報至及加批閱不過覆奏

接奉諭旨殊屬無謂各省驛站原為馳遞緊要事

件而設今阮光平進表一事早經朕指示遵辦該

署督接奉諭旨並無急需籌辦之處儘可遇便或

差人覆奏何必復用四百里郭世勳可謂不知事

體之輕重著傳旨申飭嗣後非有緊要事件不得

擅用驛遞將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2092 乾隆五十七年六月三十日內閣奉

上諭湖北宜昌府知府員缺著王春煦補授欽此

2093 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年六月三十日奉

上諭前因直隸順德廣平大名三府及河間景州一

帶被旱成災先後截漕五十萬石今梁肯堂督率

稽查按戶給賑俾小民得資口食嗣因直省無業

貧民至京就食者聚集甚多特於五城地方添廠

煮賑乃京城粥廠現在遠來領賑者竟有二萬餘

人熱河地方貧民出口覓食者亦復不少此等就

食之人俱係直省京南一帶貧民該省早經截漕

辦賑而乏業貧戶紛紛或赴京或出口分投覓

食則該督所辦何事况京城粥廠每日放賑截至

明歲春間所需米不過一萬餘石而直省截漕至

五十萬石之多豈復虞其不給當此貧民待哺嗷

嗷自應即時賑濟豈得拘泥成例待至九月始行

散賑此數月內枵腹災黎將何所得食耶梁肯堂

以防汎為名駐劄長安城其養尊處優與在保定

何異試思永定河流順軌又有永定河道在彼有

何要工必須該督在彼久駐轉致地方賑務於不

辦何不知輕重緩急若此著傳旨申飭並著該督

速赴河間景州一帶實力嚴查妥辦毋使一夫失

所此事該督既經貽誤於前若再不親身督察實

力稽查一任道府州縣等草率從事致有冒尅一  
經查出則該督獲咎非止於革職留任已也慎之  
慎之再本日馮光熊奏經過新城定興一帶詢問  
該道府等據稱雨澤不缺補種蕎麥等項可冀薄  
收等語保定府屬雖節經得雨但為時已遲即補  
種蕎麥等項亦恐未必有收並著梁肯堂將該處  
所種蕎麥是否尚可收成之處查明據實由五百  
里覆奏毋得諱飾干咎將此由五百里傳諭知之  
欽此遵

旨寄信前來

2094  
遵查

御製詩內乾隆二十七年因夏間雨水過多被潦成  
災降

奉有

旨於京城例設粥廠外令四鄉各倍其數賚賑散給

御製添設五城粥廠誌事詩謹

奏

2095  
昨奉

旨於熱河賚賑以濟貧民口食臣等當即傳詢該道  
府等如何設廠及每日酌撥米數若干令其妥  
議章程茲據熱河道全保承德府知府慶章稟  
稱遵

旨設立粥廠擬於熱河通衢地方在迤西附近廣仁  
嶺及迤南南營三官廟各設廠一處於七月初  
一日起每日辰刻支放兩處約需用米三石恐  
就食貧民來往不定米石數目難以核計俟支  
放三五日後查明人口多寡稟明增減每日支  
放賑粥時道府輪流赴廠稽查並帶同鄉約人  
等前往如有並非實在窮民混冒領賑者即嚴  
行查禁等語臣和珅等仍不時派員及番役等  
前赴該處嚴密稽察毋許胥役從中扣尅以仰  
副

皇上軫卹貧民務沾實惠至意謹

奏

六月三十日

臣和珅等謹

奏為遵

旨議奏事直隸提督慶成奏請酌撥存營銀兩生息

以資兵丁盤費一摺乾隆五十七年六月初十

日奉

旨軍機大臣議奏欽此 據奏稱古北口提標各營

前任提臣王進泰

奏准以節省銀兩設立當舖生息為出差官兵盤

費而河屯協兵丁遇有差遣其盤費尚係自捐

該營駐劄熱河差務稍繁若復自行捐辦則兵

丁生計即不能如口內之寬裕該協營每歲兵

丁出差盤費共需銀不過三四百兩現有提標

庫存遞年節省公項銀九百餘兩又接濟兵米

銀七千兩並備辦麩豆銀三千餘兩可否仰懇

天恩於此二項銀兩內

賞借銀三千兩合之庫存節省公項共銀四千兩交

熱河道轉發所屬當舖按月一分生息所得利

銀解交河屯協營作為兵丁出差盤費至提標

接濟兵米備辦麩豆之項每年通融辦理尚不

致拮据等語 臣等查綠營兵丁遇有差遣日給

盤費向例係通營兵丁自行捐幫惟古北口提

標各營經前任提臣王進泰

奏明准以節省銀兩設立當舖滋生利息以為出

差官兵盤費此係

皇上恩施格外俾該處兵丁糧餉得以按月全數支

領無分毫捐幫之費至河屯協營駐劄熱河差

務較為繁劇而兵丁盤費尚係自捐自不如古

北口提標各營生計之寬裕今該提督奏懇於

提標庫存接濟兵米銀七千兩並備辦麩豆銀

三千餘兩內

賞借銀三千兩合之庫存遞年節省公項銀九百餘

兩共銀四千兩撥交熱河當舖生息以為河屯

協兵丁出差盤費亦屬推廣

皇仁體卹營伍以公濟公之意 臣等復傳詢熱河道

府將此項銀兩若交熱河當舖生息該商等是

否足資營運之處據該道府僉稱按月一分生

息較之民間甚覺輕減當舖等得資營運自所

樂從等語是前項銀兩交商生息既可使河屯協營生計益加寬裕而當商得領此項亦不無稍沾餘潤應如該提督所奏於提標庫存接濟兵米並備辦麩豆銀兩內

賞借銀三千兩合之節省公項銀九百餘兩共銀四千兩准令該提督解交熱河道轉發所屬當商按月一分生息遇閏加增所得利銀解交河屯協營作為兵丁出差盤費仍令該提督飭屬撙節動支每歲利銀除兵丁盤費外其盈餘積存即行陸續歸還原本俾源源生息可以永資惠濟並飭河屯協副將按季造報支銷數目查核不得稍有浮冒至提標接濟兵米備辦麩豆銀兩均關緊要應令該提督通盤籌畫妥協辦理勿致稍有拮据方為兩有裨益所有臣等議覆緣由理合繕摺具

奏伏祈

皇上睿鑒謹  
奏

2097

大學士伯和 字寄

總管內務府大臣 乾隆五十七年七月初一日奉

上諭本日據長麟奏擊獲太監吉德喜本名成福據供在張首領名下當差本年正月隨往海甸伺候曾碰碎玻璃鏡又偷竊張首領人參銀兩等語吉德喜在殿廷當差既經碰碎官物又復偷竊私逃情節甚為可惡該首領太監何以未經報明具奏但稱官物私物都未動其碰碎玻璃鏡如何賠補人參從何處得來均應逐一訊究養心殿首領太監張永貴人本不堪從前曾經責處遇該總管太監因何復將伊挑充首領著傳諭永琅等即傳總管太監王承義劉秉忠及該首領等面加詢問如吉德喜係張永貴名下所管即將張永貴革去首領將玻璃鏡如何賠補伊安得有人參四枝及何以不行呈報各情節一併嚴審並問總管太監因何將張永貴復挑首領之處令其據實登答擬罪具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2098 臣等詢問總管太監蕭得祿據稱

養心殿有兩個張首領一名張明德一名張永貴

此案吉德喜係跟那個張首領在海甸當差不

能記憶無從查核等語臣等擬於寄信

諭旨內令總管內務府大臣查明後即行遵

旨革退審擬辦理謹

奏

2099 遵

旨將長麟奏擊護太監吉德喜供出伊曾碰損玻璃

又偷竊人參銀兩逃走該總管等何以未將偷

竊情節具

奏之處詢問總管蕭得祿首領趙進忠等據稱各

首領名下當差太監有私逃者俱由首領轉報

總管太監若有偷竊情事首領們未經報知無

憑查核此案吉德喜報逃冊檔現在城內該首

領等亦未隨至熱河求寄京查詢等語應俟本

報之便臣等即抄錄長麟奏稿寄交在京總管

內務府大臣查明原案并傳詢總管王承義劉

秉忠及該首領等令其據實登答擬罪具  
奏謹

奏

七月初一日

2100

查長麟奏摺差弁所稱山西省城於六月十八

十九兩日得有透雨之處臣等查對長麟前次

奏到摺內稱山西省城及太原汾州大同寧武

朔平代州忻州霍州隰州沁州平定保德

等十三府州屬雨水充足秋禾暢茂指日可慶

豐收糧價亦各平減等語據摺內所稱山西省

城雨水業經透足其六月十八九等日續得雨

澤該撫未經奏及至該省缺雨府屬係平陽潞

安澤州蒲州解州六處業據長麟奏稱六月初

六七八等日均已得雨自三四五寸至深透不

等因糧價不免昂貴奏請平糶業已於二十八

日奉有

諭旨詢問該撫平陽潞安等六府州屬於初七八日

得雨之後曾否續被甘霖及大田情形若何令

其據實具奏現在尚未奏到謹

奏

2101  
遵

旨詢問長麟賚摺外委李攀林據稱山西省城於六

月十八九等日得有透雨平陽等府距省較遠

十八九日曾否同得透雨不能知道外委於二

十三日在太原府起身由直隸井陘獲鹿縣正

定保定府一帶行走路上沒有遇雨保定至京

地土覺得乾燥自京直至口外俱屬潮潤等語

謹

奏

七月初一日

2102  
遵

旨詢問梁肯堂賚摺把總孫國柱據稱把總於六月

二十九日在保定起身保定自十八日得雨四

寸以後未續得雨澤路上也沒有遇雨自保定

至京地土稍覺乾燥由京至古北口以外俱屬

潮潤等語謹

奏

七月初二日

2103  
查本日刑部進

呈九卿議奏王在金誤傷胞兄身死改擬斬監候

一本未經夾簽蒙

皇上指出查詢係批本處行走中書武靖阿遺漏相

應請

旨將該中書武靖阿照疎忽例罰俸三個月以示懲

儆謹

奏

2104  
大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年七月初二日奉

上諭昨已有旨令梁肯堂速赴河間景州一帶親歷

災區查辦賑務本日該督摺至朕以為尚在長安

城及傳詢賚摺差弁據稱係在保定拜發是梁肯



堂早已回至省城何以並不預行奏明遽離工所目下伏汎雖過秋汎方長尚須防守即云本年永定河安流順軌有該道在彼足資照料該督亦應先赴河間景州一帶查勘被旱情形妥為辦理乃並不奏聞即於工次逕行回署是該督竟屬思家念切惟圖安逸養尊處優置地方災賑於不辦殊屬非是著再傳旨申飭仍著即遵前旨速赴河間景州順廣大等處親查妥辦務使無業貧民餬口有資毋使一夫失所致干咎戾再該督另片奏經過之定興安肅清苑地方得雨已遲所有補種蕎麥菜豆須續沛甘霖以冀葱茂等語定興等縣補種蕎麥等項尚需雨澤滋培現在曾否續被甘膏是否不至成災至直隸本年被旱較廣看來涿州迤北雨澤尚屬調勻涿州迤南雨水俱不免短少所有被旱各州縣該督詳悉查勘後著即通行核算總計成災分數實有幾分一併據實五百里速奏毋稍諱飾將此諭令知之仍即速覆奏欽此

2105 乾隆五十七年七月初二日奉  
旨申祿著即處斬餘依議欽此

山西省長子縣長隨申祿勒索民人砍死朱良才一案

2106 乾隆五十七年七月初二日奉  
旨陳正揆著即凌遲處死餘依議欽此

毆斃胞叔陳會初一案

2107 大學士伯和 字寄

欽差侍郎玉 乾隆五十七年七月初二日奉

上諭據御史閻泰和奏有李姓投遞浙江杭州府新城縣典史公文一角當即折閱內係稟揭新城縣知縣侵挪恩賞老民銀二十兩等情請欽派大臣前往查辦等語此項恩賞銀兩理應隨時給發如該縣果有侵挪情弊自當嚴查究辦但該典史既知該縣未經給發儘可就近稟報上司何必用公文托人帶京代投或另有別情亦未可定此事若

即交浙江巡撫審辦恐不免迴護地方官處分致有瞻徇現在玉德審辦江西控案計算將次完竣著即取道前赴浙江將該典史所控情節嚴切究訊秉公審辦毋得稍有徇隱所有該御史奏摺及該典史稟揭印文一併發交閱看將此由五百里傳諭知之欽此遵  
旨寄信前來

2108 大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年七月初二日奉  
上諭據御史閻泰和奏有李姓賚投浙江杭州府新城縣典史馬二偕公文一角折閱文內係稟揭新城縣有恩賞老民銀二千兩該縣至今未發等情已交玉德於江西審案完竣後即就近前赴浙省嚴審矣此項公文是否該典史親自交給李姓抑係他人托名轉交何以李姓肯為帶遞均應詢問李姓既為代遞公文該典史所稟情節李姓自亦必知其詳著傳諭留京王大臣即提到李姓詳悉詢供具奏將此諭令知之欽此

2109 大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年七月初三日奉  
上諭尹壯圖前因逞臆妄言自取重戾經朕加恩寬免復行錄用伊亦何顏尚思陞擢且其母已年逾七十遠在萬里雖伊戀職忘親攜妾在京居住不以定省為念但朕以孝治天下不可不曲加體恤著留京王大臣即傳尹壯圖面加詢問如伊不願回籍亦聽其在京供職倘情願回家侍奉即准其開缺歸養以示朕教孝矜全格外推恩至意欽此  
遵  
旨寄信前來

2110 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年七月初四日奉  
上諭前因直隸省京南被旱各州縣無業貧民至京就食者日衆並多有出口覓食者已有旨令梁肯堂速赴河間景州一帶周歷查勘即時散賑俾資糊口但恐該督接奉前旨錯會朕意或慮貧民赴京日多懼干咎戾令地方官先行攔阻則此等乏

業窮黎無從得食豈不竟至轉於溝壑更非朕病瘵在抱之意此時京城各廠領賑者已不下二萬人今年京南各屬被旱較廣地方官散賑恐有未周若不設法辦理則京城熱河就食者日聚日衆古語救荒無善策現詢據熱河道府等稱熱河領賑貧民有每日赴廠食粥者有領過一二次不復再來者該道府訪詢情形此等領賑貧民並非俱藉粥賑度活其稍有力者即分赴他處手藝傭工各自謀生等語可見領賑貧民內稍資接濟原即有可以自謀生計之人並非一律嗷嗷待哺專資粥賑度日除已令熱河道府就近曉諭各貧民由張三營博洛河屯等處分往各蒙古地方謀食者不禁其京南地方亦應一體妥辦著梁肯堂即轉飭各州縣於赴京出口通衢各地方官遇有貧民詳悉曉諭今年關東盛京及土默特喀爾沁教漢巴溝三座塔一帶均屬豐收爾等何不各赴豐稔地方傭工覓食俟本處麥收有望即可速回鄉里如此遍行曉諭並令其或出山海關赴盛京一帶或出張家口喜峯口赴巴溝三座塔暨蒙古地

方不必專由古北口出口則貧民中稍可力圖自給者知有長遠覓食之路自必分投謀生不至齊赴粥廠致滋擁擠人多致病庶更妥協但總須善為開導不可加之攔阻此事該督既貽誤於前再不實力稽查任令地方官吏剋扣浮冒其咎已不止於革職留任若復將赴賑貧民阻其生路則其咎更重斷不能稍為寬貸也將此由五百里再傳諭知之仍即將如何發賑及勸諭分赴各處就食情形迅速覆奏欽此遵

旨寄信前來

2111 遵

旨將現在出口貧民地方官不應攔阻仍應遍加曉諭令赴口外豐收地方各謀生計俾四處分散不至擁聚之處傳知熱河道府據稱現在設廠煮賑留心察看其領賑民人有每日到廠領賑者亦有止領一二次不復再來者面加訪詢據稱我等因乏食出外餬口亦知放賑向有定期原一面領賑一面自覓生計其覓有生計者領

賑數日俱即陸續分往他處營生度日其每日  
在此領賑者俱係無業乞丐亦屬無多等語臣  
等據該道府所言自係實情謹一併於寄信梁  
肯堂

諭旨內寫入又將現奉

諭旨辦理之處面詢劉我據稱領賑貧民地方官自  
斷不應攔阻但日聚日多實非良策今奉

旨令梁肯堂詳悉曉諭令貧民內稍能自給者即指  
與豐收地方令其各自覓食則貧民既可自謀  
生之路又不致在京城及熱河地方擁聚實為  
辦理盡善不勝欽服等語謹

奏

2112 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年七月初五日奉  
上諭梁肯堂奏接奉諭旨前赴河間景州一帶督辦災  
賑事宜一摺已於摺內詳細批示據稱河間景州  
及保定等屬久晴不雨得雨三處亦未透足近雖

得雨數次為時已遲等語總未言明分寸是何意  
見殊不可解熱河地方初二初三連日陰雨保定  
天津河間等處豈尚未一律普沾著該督即查明  
分晰速奏至河間景州保定天津等處向年尚不  
至於乾曠今看此光景其被旱竟比順德廣平大  
名較重該處百姓驟遇歉收紛紛外出覓食或不  
免致有怨咨該督宜飭令地方官於查賑之便就  
近曉諭以早澇亦天運之常茲逢此旱歉究由爾等  
向值屢豐不知感激

天恩博節培養所致今偶遇儉歲宜加儆畏以冀感召  
休和斷不可稍萌怨尤之念此時被旱地方雖得  
有透雨已不及補種雜糧等項祇可趕種秋麥以  
期明年春熟現已蒙恩酌借口糧明歲青黃不接  
之時尚當加恩展賑以濟口食不使失所如此向  
小民等明切曉諭伊等自必各知安分民情悉臻  
寧謐至摺內所稱受旱各州縣令於村莊適中之  
地先行設廠煮賑等語何以前此未據奏及殊未  
可信各州縣既設立粥廠則現在赴京及出口就  
食之人又從何而來昨恐梁肯堂接奉前旨誤會

朕意又有旨諭令該督斷不可阻止朕於該省災務先事綢繆不辭語煩隨時訓諭已屬無微不至惟在該督善體朕意董率所屬實力妥辦梁肯堂當往來親歷周查勿使不肖州縣及吏胥從中剋扣滋弊俾災民務沾實惠此為最要即八月萬壽節該督亦竟不必前來行在也將此再傳諭知之並將目今光景究竟如何速奏來欽此遵

旨寄信前來

2113 乾隆五十七年七月初五日奉

旨丁三彭四李儉俱著即處斬傳首犯事地方示衆至此案盜犯丁三等膽敢糾約夥犯多人於五十五六等年在安徽蒙城縣地方屢次行劫搶掠婦女轉行販賣非尋常盜犯僅止劫掠財物者可比安徽地方尚屬淳良乃竟有此疊劫婦女之案該省地方官並不即時將盜首查拏嚴行究辦一任其疊次搶掠竄逸多時始被豫省拏獲安徽省地方官所司何事著該撫查明各案失事年月將該管知縣革職拏交刑部治罪朱珪亦不得為無過

著交部議處其該管道府並著查明一併交部嚴加議處以示懲儆餘依議欽此

2114 乾隆五十七年七月初五日內閣奉

上諭據紀昀奏巡視西城給事中孫家賢於所管增壽寺粥廠本月初三日紀昀查至該處見領飯者二千餘人並無人監放詢之坊書稱史目吳嗣德因押送損夫已稟請孫家賢代放紀昀因領飯者難於久待親身在廠代為監放孫家賢至竟不來請將該給事中交部嚴加議處吳嗣德一併議處其御史富廉是日現在別廠應否免議等語本年京南一帶被早歉收赴京就食者甚多朕宵旰縈懷特予展賑添廠並恐都察院堂官照料難周復令舒常回京一同查察凡承辦各員稍有人心者皆當實心經理乃孫家賢係本城監賑之人竟不以為事伊係給事中別無差使且經吳嗣德先行稟知以該吏目押送損夫請該給事中代放而孫家賢竟置若罔聞並不到廠似此玩視民瘼非交部嚴議足以蔽辜孫家賢著革職拏交刑

部治罪以示懲儆至御史富廉初三日是否因在別廠不能兼顧吏目吳嗣德是否押送損夫著交與留京王大臣查明如係實情均予免議若有捏飾情節並著一併據實奏欽此

2115  
遵

旨詢問穆和蘭賚摺千總劉寅清據稱千總於上月

二十七日在開封起身一路未經過雨大河以南各州縣雨水透足禾苗俱已長發茂盛經過河北衛輝彰德二府該處於六月十三四日連得透雨補種蕎麥雜糧等項皆已出土青蔥再得雨澤滋培更資長發所過直隸地方涿州以南地土稍覺乾燥涿州以北地方俱屬潮潤等語謹

奏

七月初五日

2116  
乾隆五十七年七月初五日奉

旨不必與謚其一切喪儀俱係官為辦理毋庸再給銀兩欽此

隨禮部奏請

愉貴妃應否

賜謚一摺

2117  
乾隆五十七年七月初六日內閣奉

上諭前據戈源奏請嚴定縣府考送童生額數一摺已交該部核議具奏並令長麟將山西省考試童生是否可定額數之處酌議覆奏茲據長麟奏請縣府考試弊竇最多往往閱卷衡文委之幕友本官並不寓目甚有瞻徇情面及任聽幕友書吏勾串舞弊等事應請嗣後縣府考試毋庸定額俟錄送後學臣考試如所送童生實在荒謬不通即由學咨送撫臣查核卷數多寡將原送官查取職名交部分別議處等語各省縣府考試每以錄取入學總憑學政定奪遂視為無關輕重概委幕友閱看本官或有意沽名將文理荒謬之卷濫行錄送

甚或瞻徇情面聽受賄囑並任幕友書吏勾通交結種種弊端皆所不免亦不獨山西一省為然今長麟請定處分俾縣府各顧考成不敢仍前弊混所奏尚屬可行著交大學士九卿會同該部一併悉心妥議具奏摺併發欽此

2118 乾隆五十七年七月初六日內閣奉

上諭據吉慶叅奏博山縣知縣武億於緝捕事件任聽衙役妄拏平民濫行重責以致延累無辜除已降旨將武億革職外竊役倚官滋事最為閭閻之害法禁綦嚴但向來書役詐贓斃命以及假差嚇騙等項律有專條自可按例定擬其奉有差票而妄行拘拏別無詐索情事者未經著有定例此等衙役懲患本官濫行差拘拖累無辜及至滋生事端本官被叅降革而該役等轉得置身事外又於後來官員任內試其伎倆殊不足以示懲儆不特衙役為然即書吏長隨以及幕友亦往往愚弄本官聳令任意妄行貽誤地方即本官去任所謂官去吏不去仍可作弊此等惡習不可不加之懲治

使知儆畏嗣後除書役等詐贓斃命等項仍按律治罪外其雖無嚇詐等情而有藉勢妄為累及平民致本官降革者所有幕友書役長隨應如何酌議治罪之處著該部詳細定議具奏所有武億案內妄拏平民之衙役即著吉慶查明照新例辦理欽此

2119 同日奉

旨這所叅博山縣知縣武億著革職該部知道摺併發欽此

2120 乾隆五十七年七月初六日奉

旨這所叅歸化廳同知阿永著解任交該撫提同案內人証一併嚴審定擬具奏該部知道摺併發欽此

2121 遵

旨查乾隆二年御史夏之芳等及甄之璜鍾衡條奏

河工毛城鋪一事交部嚴審察議奉

旨甄之璜鍾衡從寬免其治罪降三級留任夏之芳

等免其議處謹將原奉

諭旨抄錄呈

覽謹

奏

七月初六日

2122 遵

旨詢問梁肯堂摺差外委劉曰惠據稱外委於初三

日由保定省城起身初二日省城得雨二寸初

三日晚間行至安肅地方密雨半夜初四日到

良鄉又有微雨其河間一帶離省二百餘里是

否報過得雨外委未能知道自京至口外一帶

地土俱屬潮潤低窪之處間有積水泥濘其高

平處所尚屬好走等語謹

奏

七月初六日

2123

查向來繙譯鄉試題目例應屆期頒發現在舉

行繙譯鄉試理合恭請

欽命四書論題一道漢字滿洲繙譯題一道清字蒙

古繙譯題一道臣等謹分別恭擬題目進

呈伏候各

欽定一道發下後即行寄交留京王大臣密送貢院

以昭嚴肅謹

奏

七月初七日

2124 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年七月初八日奉

上諭據刑部題駁河南省審擬朱三圖財謀死孟加

爵一案所駁甚是已依議行矣向來圖財謀命之

案必視其得財與否分別斬決監候誠以圖財為

謀命根由須究明贓據下落庶案無疑義此案朱

三謀死孟加爵之處該撫並未查起贓據下落僅

憑該犯向不知姓名舖內換錢花用及連錢包推

跌下溝之供竟將朱三定擬斬決殊不足以服該



犯之心而成信讞罪闕重辟自應詳慎辦理該撫  
何得於此等緊要情節不加跟究確鑿率行定擬  
若此穆和蘭著傳旨申飭仍著將部駁各情節逐  
一覆加研鞠務得贓據致死確情另行妥擬具題  
勿再會混干咎將此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

2125

大學士伯和 字寄

伊犁將軍保 陝甘總督勒 乾隆五十七年

七月初八日奉

上諭據勒保履奏甘省營員不願承領伊犁馬匹情  
形一摺已於摺內批示據稱陝甘兩省每年應補  
倒缺馬匹向來原由伊犁等撥解嗣因該處解到  
之馬骨格俱小長途解送多有疲瘦是以綠營人  
等不願承領多在洮岷青海歸化城產馬處所購  
買其價值自七八兩至十一二兩不等合算買馬  
弁兵往回盤費每匹價銀總在八兩以外各營不  
無稍有賠貼並無多餘等語所奏殊不可信各營  
如果賠貼則弁兵必視為畏途豈有願買馬之理

天下有賠家私做官之人乎若論蒙古番子地方  
如洮岷青海歸化城以及大凌河等處所產馬匹  
骨格甚小知伊犁哈薩克馬匹向多高大即最小  
者較之蒙古馬匹亦屬差勝此係朕所深知該省  
營員情願領銀在歸化城等處買補豈能得有好  
馬自為意圖沾潤起見若云例價之外尚有賠貼  
則該營員等何以轉不樂於承領伊犁馬匹可免  
賠累而轉願向歸化城等處貼價購買如此急公  
之人即勒保尚恐不能宜有合省弁兵皆如此賠  
家產為國家出力之理此皆由勒保不諳乘馬聽  
信營員一面之詞意存偏袒而不自知其所言之  
矛盾也今勒保既有此奏即姑照所請辦理著傳  
諭保寧嗣後伊犁等處應解陝甘撥補馬匹務須  
擇其骨格高大堪以適用者儘數撥解如所解馬  
匹不敷撥補之數再由該省給價購買其沿途解  
送並飭該解員等妥為喂養毋致疲乏如解員喂  
養不善致有倒斃并有私行盜賣抵換者亦必就  
近賣與該省之地方官勒保無難留心訪察一二  
以儆其餘據實奏自當從嚴辦理也將此各諭

今知之欽此遵

旨寄信前來

2126 啟者本日內務府奏查詢私逃太監吉德喜偷

竊物件一案面奉

諭旨現在詢問該首領張進忠於吉德喜偷竊物件之處堅不承認且玻璃鏡係陳設之物亦非四執事所應管此間乏人當差且不必赴京候質俟吉德喜解到時無難跟究確實如果張進忠有隱匿之事再行奏明革退究辦治罪亦不為遲欽此專

此佈

聞希即遵照順候

近祺不一

怡親王

伊金大人

七月初八日

2127 乾隆五十七年七月初八日奉

旨奕紹阿哥之福晉薨逝一切喪儀本應自辦著加恩賞給綿恩銀一千兩俾資料理以示體恤欽此

2128 大學士伯和 字寄

協辦大學士署四川總督孫 乾隆五十七年

七月初八日奉

上諭本日吏部將四川天全州知州徐時敏一員帶領引見朕看其才具平庸因令軍機大臣查明該員本係涪州知州經李世傑以該員才具未能明幹奏請調署天全簡缺嗣因委辦巴勒布糧餉出力復經鄂輝等保奏准其以同知直隸州知州陞用徐時敏前在涪州任內經李世傑奏請調簡自因其才具平常何以鄂輝又稱其辦理糧餉出力復行保奏如該員於糧餉事務果能辦理妥善現在孫士毅督辦糧運正當用人之際况曾將丁憂事故人員奏留差委自應將該員留辦糧運以收駕輕就熟之益何以轉令其赴部引見是該員似又

非辦糧得力之人但鄂輝等曾經保奏該員是否  
果有勞績可錄此間無從考核著傳諭孫士毅即  
將徐時敏從前李世傑奏請調簡後鄂輝等因何  
復行保奏及該員才具究竟如何之處一併秉公  
查明覆奏欽此遵  
旨寄信前來

2129

查徐時敏於乾隆五十三年十二月內經原任  
總督李世傑以該員辦事尚屬黽勉而才具未  
能明幹於涪州一缺人地不宜奏請調署天全  
州簡缺知州未經引

見嗣因委辦巴勒布糧餉出力經鄂輝等保奏奉  
旨以同知直隸州知州陞用嗣因委辦硝勛今事竣  
給咨到部謹  
奏

七月初八日

2130

遵

旨詢問內黃縣知縣許長浩據稱我於上年十二月  
初三日接到直隸大名縣密札該縣宋家屯地  
方有窩匪肆竊之冀鬼子拒捕逃逸恐其竄入  
隣境密速協拏等因我即親帶幹役馳往查拏  
於初七日五更時在大名縣普安村地方遇見  
有一人騎馬過去形跡可疑即令衙役將人連  
馬帶住細加盤詰據該犯供出冀鬼子姓名即  
行拏獲並究出夥犯內有在內黃縣菜園溝地  
方居住之張二怪岳老殿二犯當即前往該處  
一併拏獲解省審辦等語謹  
奏

七月初八日

2131

乾隆五十七年七月初八日奉  
旨黃寶童著即處斬餘依議欽此

四川省因恐姦情敗露將九歲  
胞妹致死滅口一案

2132 同日奉

旨劉引鳳著即處斬餘依議欽此

浙江省店夥圖財致死客民一案

2133 大學士伯和 字寄

署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十七年七

月十一日奉

上諭本日據蒼保奏早稻收成數一摺內稱瓊州府屬十三州縣收成八分有餘雷州府屬三縣亦在八分以上等語自係祇就該鎮所管瓊雷兩屬而言其通省收成尚未據郭世勳具奏想該署督因俟各屬稟報到齊始行繕摺彙奏是以尚未通到計此時該省早稻諒已收獲完竣各屬自必稟報齊全著傳諭該署督即將通省收成數若干迅速據實奏聞以慰厯注將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2134 乾隆五十七年七月十一日內閣奉

上諭刑部具題福建省民人林石殺傷胞弟林月身死一案將林石依尊長謀殺卑幼已殺者以故殺例問擬絞候已照簽下矣細看林石因胞弟林月嗜酒懶作並屢次私用伊錢文林石查知責罵林月不服較鬧林石輒乘伊弟醉卧起意殺害用刀連砍斃命自應依尊長謀殺卑幼以故殺例定擬但尊長殺死卑幼案情亦有區別如果為卑幼者有酗酒賭錢為匪滋事等情尊長或因其不服教訓一時忿激毆殺斃命自可照本例辦理毋庸入於秋審情實今林石因伊弟私用錢文嗜酒懶作起見止屬尋常小過且林石係林月胞兄伊弟乏錢使用林石乃親兄即幫助錢文亦分所應爾乃不念手足親情輒因此起意殺害乘醉砍斃情節較為殘忍自應趕入本年秋審情實辦理又刑部具題河南省趙行遠謀勒杜三癩身死一案因趙行遠與杜三癩之妻調戲成姦杜三癩利其資助知情縱容嗣知趙行遠家業罄盡囑令伊妻拒絕

後趙行遠因乏用借錢逾期不還經杜三癩屢次逼索心懷忿恨即將杜三癩誑至村外用繩勒死刑部將趙行遠依本夫縱容妻與人通姦被姦夫起意謀殺例擬以斬候係屬按例辦理亦照簽下矣此案雖係杜三癩無恥知情縱容但趙行遠因姦害本夫難以寬縱亦應趕入本年秋審情實以昭儆戒嗣後刑部遇有此等案件俱應留心分別斟酌辦理以示弭教之意欽此

2135 乾隆五十七年七月十一日奉

上諭前日據蒼保奏請陞見本日又據奏雷瓊鎮屬收成分數相隔僅止一日自係同日拜發令差弁分日投遞以見已結詢之摺差果係伊一人賚送分日呈遞殊屬非是向來各省督撫往往有陳奏事件令賚摺差弁分日進呈希圖惜費又欲見長屢次奏事經降旨訓飭今蒼保豈不知所奏二摺均不過尋常事件儘可一併呈奏何以復蹈從前陋習分作兩次呈遞著傳旨嚴行申飭欽此遵

旨傳諭雷瓊鎮總兵蒼保

2136 遵

旨詢問蒼保賚摺把總汪有林據稱我於五月二十八日在瓊州起身賚有奏事夾板二件本官吩咐我先遞一件隔一日後再遞一件我到熱河後遵照呈遞至所奏何事我不知道等語謹擬寫嚴行申飭

諭旨進

呈謹  
奏

七月十一日

2137

遵查雷瓊鎮總兵蒼保係鑲白旗漢軍由鑾儀衛治儀正於乾隆三十二年補授廣東都司三十九年陞授江南遊擊歷陞廣西右江鎮總兵俸滿調回內地經孫士毅奏署廣東潮州鎮總兵五十五年十二月福康安奏  
調今職謹

奏

七月十一日

2138 乾隆五十七年七月十一日奉

旨張阿立著即處斬餘依議欽此

強姦黃氏並砍傷張新有身死一案

2139 乾隆五十七年七月十一日奉

旨左郭氏著凌遲處死李廣著即處斬餘依議欽此

因姦謀殺本夫一案

2140 查王春煦上次大考原卷除由本報寄信京中

查取進

呈外現在遵

旨先行考試王春煦臣等眼同監看謹將該員恭和

御製福康安等奏報攻克濟龍嘉慰詩一首進

呈謹

奏

七月十一日

2141 乾隆五十七年七月十一日內閣奉

上諭梁肯堂奏費摺差弁回緝經過密雲城外見有

蝗蝻已飛扎霸昌道同興迅速力捕務期淨盡適

豐紳殷德由京回至熱河詢之亦稱清河蘭溝石

槽蝗蝻至密雲漸少近古北口則並無迤南沿途

見有蝗蝻蝕傷禾稼約有十之二三該道率同地

方官掩撲等語蝗蝻滋生最為苗稼之害本年懷

柔密雲一帶雨水尚屬調勻何以有此蟲孽該地

方官等於其初起時即應一面稟報上司據實奏

聞一面率領夫役實力捕撲早期淨盡今蝕傷禾

稼已有十之二三則蟲孽之起必非一日此事梁

肯堂現在河間相距較遠且一經差弁告知即行

具奏而將賜祭莫瞻菜身為府尹清河密雲皆其

所屬密邇京城豈竟毫無聞見乃並未奏及殊屬

非是將賜祭莫瞻菜俱著交部嚴加議處霸昌道

同興係專派駐劄密雲一帶照料臺站之員該處

既有蝗蝻即應及早撲打不使蔓延伊雖無奏事

之責亦當呈報軍機大臣轉奏乃既不迅速撲捕

以致傷及禾稼又不呈明轉奏其咎亦無可逭同

興並著交部嚴加議處其各該管地方官並著梁肯堂查明咨部一併嚴加議處仍著該府尹就近督同實力撲捕淨盡並將是否不至延及他境暨禾稼不至過受損傷之處速行查奏勿再諱飾干咎欽此

2142 大學士伯和 字寄

留京王大臣 乾隆五十七年七月十二日奉  
上諭昨據梁肯堂奏密雲城外現有蝗蝻又詢之豐伸殷德亦稱所過自清河蘭溝石槽蝗蝻較多蝕傷禾稼至密雲漸少近古北口則無等語已降旨將蔣賜榮等分別嚴加議處矣清河蘭溝距京不遠况現聞安定門外及京南等處亦有蝗蝻留京王大臣等豈無見聞應一面奏聞一面即派人撲捕何亦諱飾不奏著即將近京一帶有無蝗蝻並因何不奏之處據實具奏毋稍諱飾干咎將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2143 乾隆五十七年七月十二日奉

上諭昨據梁肯堂奏密雲一帶生有蝗蝻詢之豐伸殷德亦稱所過自清河蘭溝石槽蝗蝻較多蝕傷禾稼密雲漸少至古北口則無等語順天府尹並未具奏霸昌道同興亦未稟報已降旨將蔣賜榮等及地方官交部分別嚴加議處矣近聞京南一帶亦有蝗蝻但此物由地方潮濕所致密雲一帶地勢較為高燥何以忽生蝗孽此必係天津等處卑濕之鄉一經暑熱鬱蒸以致萌生蝻子蔓延及於他境且蝗蝻多由魚子化生天津沽淀多魚上年魚子至次年雨後蒸晒滋生蝗蝻自所不免此等蝗生害稼之所在地方官往往諱飾不肯據實奏報穆騰額何亦隱飾不奏著傳諭該員即將天津地方現在有無蝗蝻地方撲捕與否即行查明據實迅速具奏毋得稍有捏飾致干咎戾將此由四百里傳諭知之欽此遵

旨傳諭長蘆鹽政穆騰額

2144 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年七月十二日奉

上諭昨據梁肯堂奏密雲一帶漸有蝗蝻該府尹竟未具奏已降旨將蔣賜祭等交部分別嚴加議處矣此事適豐紳殷德由京回至熱河當經詳細詢問據稱自清河蘭溝石槽等處蝗蝻較多蝕傷未稼至密雲漸少近古北口則無因思蝗孽之起多在積水潮濕被旱之地隔年生有蝻子次年暑雨之後復經蒸晒始行萌生今密雲一帶地土向屬高阜上年雨水不多並無積潦何至忽生蝻孽况蝗蝻多為魚子所變此乃眾所知者現聞京城安定門外以及正定保定河間天津等處俱有蝗蝻核之豐紳殷德所奏情形是此次蟲孽竟係自南而北朕意必係天津河間等府沾淀低下之區先行萌生以致蔓延他境梁肯堂或因朕駐蹕熱河密雲一帶為大臣官員往來必經之路恐該處蝗蝻有人奏聞故以一奏自占地步京南等處則匿不具陳今已傳諭遍問也著傳諭梁肯堂即將保定正定天津河間以及廣順大各屬有無蟲孽之

處迅速據實覆奏勿稍諱飾昨因梁肯堂現在河間清河蘭溝密邇京城是以僅將蔣賜祭等交部嚴議若保定天津河間等處亦有蝗蝻梁肯堂竟匿不奏聞一經派員查出則是罪上加罪恐該督不能當其咎也將此由四百里諭令知之仍即迅速迴奏欽此遵

旨寄信前來

2145 查安南國王阮光平本年端午節已

頒賞玉如意朝珠蟒緞等物並

加賞節意紗葛香扇交陳用敷轉發尚未奏謝謹擬

寫

諭旨進

呈謹

奏

2146 乾隆五十七年七月十二日奉

旨阿音太色楞額堆青額衣薩布俱著即處斬餘依議欽此

盛京滿洲閑散為盜一案



2147

查通鑑輯覽依朱子綱目之例以後梁為北朝附庸歲首不書年號惟新主嗣位改元之歲年號乃一見梁主歸係丙午歲即位其天保年號已於是歲附載陳周齊之下是以乙巳歲陳至德三年隋開皇五年一條內不復附書至梁主琮廣運年號亦經於元年一見是清字繙繹之本尚無舛誤謹

奏

2148

大學士伯和 字寄

安南國王阮

乾隆五十七年七月十二日奉

上諭廣西撫臣陳用敷接到該國王呈覆以前次接奉恩賞玉玩並蒙寄示辦理西藏事宜遵旨不敢具摺謝恩呈請據情代奏一摺並將該國王呈覆一併進呈披覽之下具見該國王感激恭謹出於至誠深為嘉悅朕因該國王恪守藩封作我屏翰是以懋加恩賚與內廷近侍大臣情聯一體特將西藏用兵進勦廓爾喀辦理機宜因便寄知俾該

國王與聞其事今該國王接奉前旨因朕開誠寄示歡感悃忱溢於詞表並盼望奏膚倍深顯切足徵敵愾之心殷拳懇摯萬里雖遙不隔堂陛現在福康安等統領大兵由第哩浪古一路收復濟龍三戰三捷乘勝長驅即行攻克熱索橋催破碉卡焚燬柵寨將守隘賊匪全數殲擒進入賊境所向披靡旬日之間捷報踵至茲於六月三十日已據奏到官兵攻克協布魯賊寨深入賊境二百餘里痛加勦撲餘賊望風奔潰勢成破竹相距陽布賊巢不遠可期指日蕨功即日掃穴犁庭擒渠獻馘紅旗遞至再當諭知該國王同深歡慶茲特將福康安等攻克濟龍嘉慰御製詩章親書扇頭以賜用昭優眷思念之意該國王揚風歌凱倍增慶忭也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2149 大學士伯和 字寄

順天府尹 乾隆五十七年七月十四日奉

上諭據蔣賜祭等覆奏近京一帶生有蝗蝻一摺內稱前已派員查看即親赴其地率同地方官一面掩撲一面即行具奏等語清河懷柔密雲等處蝗蝻傷稼俱係該府尹所屬地方蔣賜祭等並未奏聞直至降旨飭諭交部嚴議始據伊等覆奏乃輒稱一面掩撲一面具奏試問蔣賜祭等於未奉諭旨之前何曾先行奏到乃覲顏為此支飾之語耶蔣賜祭莫瞻萊著再傳旨嚴行申飭該府尹等現赴清河蘭溝及懷柔密雲一帶沿途撲捕著即將現在曾否捕淨之處據實覆奏毋再延悞諱飾致干咎戾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2150 乾隆五十七年七月十四日奉

旨留京王大臣查奏監賑御史富廉一摺內稱傳詢

富廉初三日曾經到廠量飯旋赴衙門坐城但飯廠事務繁重該御史並不親身常川監放於量飯

之後即行赴署實屬不知輕重請將富廉交部議處等語富廉係派出監賑之員自應親身在廠實心經理至衙門坐城有何緊要事件乃該御史借此為名輒於量飯之後即行赴署是其在廠監放不過以一到塞責希圖早散回寓富廉係屬滿洲尤不應疎玩若此著即革職以示懲儆坐城有何緊要此後凡在廠監賑派出科道等官俱應每日在廠親身督放如遇坐城日期須俟領賑人散後始許回至衙門辦事其不坐城各員更當俟領賑人散後方准回寓不得藉詞早散自干咎戾至該御史等管理飯廠似此玩愒皆由紀昫等不能約束所致所有都察院堂官俱著一併交部議處欽此

2151 乾隆五十七年七月十四日奉

旨朱漢章勞元亮俱著即處絞餘依議欽此

寶泉局書史匿名揭帖一摺

2152 乾隆五十七年七月十四日奉  
旨閻喜春閻跟驢劉車輛俱著即處斬餘依議欽此

刑部核覆晉省行強盜犯

2153 乾隆五十七年七月十四日內閣奉

上諭李奉翰奏山東運河道沈啟震患病未痊請解  
任回籍等語沈啟震著准其回籍調理原任河南  
河北道唐侍陞現已服滿所有山東運河道員缺  
即著唐侍陞補授欽此

2154 乾隆五十七年七月十四日內閣奉

上諭鄂輝奏四川同知姚令儀自隨帶到藏以來催  
查糧運安設臺站等事俱能實心奮勉妥協辦理  
等語姚令儀隨同鄂輝到藏將屆一年委辦糧運  
諸務奮勉出力並不因鄂輝已離總督之任稍存  
懈弛甚屬可嘉著加恩先行賞戴花翎並交與孫  
士毅遇有四川知府缺出即行奏請補用欽此

2155 查附庸小國歲首不載年號一節通鑑輯覽凡

例內未經敍入臣等遵

旨於凡例所載歷代紀年一條下增入謹粘貼黃簽

進

呈恭候

欽定發下後再交

武英殿改刻並將

四閣全書繕本一體添改謹

奏

七月十四日

2156 乾隆五十七年七月十五日內閣奉

上諭前因清河至密雲一帶蝗蝻蝕傷禾稼順天府  
尹並不奏聞已降旨交部嚴加議處昨據蔣賜榮  
等覆奏尚飾稱前已派員查看即親赴其地一面  
掩撲一面具奏等語復嚴行申飭矣蔣賜榮係棄  
瑕錄用之人因念其平日辦事尚屬奮勉是以加  
恩特調戶部侍郎並兼管府尹非莫瞻藁可比乃

伊亦支飾回護殊負委任現雖已交部嚴議但不  
值以此將伊即行罷斥將來部議上時仍得邀恩  
留任不足示儆將賜榮此案處分未經開復以前  
所有戶部飯銀不准支給充公備賞以為玩悞諱  
飾者戒欽此

2157 乾隆五十七年七月十五日內閣奉

上諭據吉慶奏署蘭山縣知縣王錫培差役至江南  
邳州地方緝拏搶劫閩省差弁銀物之盜犯經該  
州已將此案首夥各犯全行拏獲請將疎玩盜犯  
之署蘭山縣知縣王錫培及專汛把總李雲龍交  
部嚴加議處等語此案盜犯在蘭山縣地方行劫  
該縣未能即時查拏經邳州知州全行拏獲自不  
得照隣省全獲減等之例辦理所有蘭山縣知縣  
王錫培專汛把總李雲龍俱著交部嚴加議處其  
餘疎防各員並著該撫查取職名咨部分別議處  
至邳州知州於東省行劫盜案全行拏獲尚屬留  
心著該督撫查明如果係該知州差役緝獲並著  
出具考語送部引見該部知道摺併發欽此

2158 大學士伯和 字寄

固倫額駙豐 乾隆五十七年七月十七日奉  
上諭據穆騰額覆奏天津地方並無蝗蝻等語穆騰  
額係屬鹽政於地方事務無所用其迴護且經朕  
降旨詢問伊更不敢捏飾干咎所奏自係實情計  
此旨到時豐紳殷德已抵天津著傳諭豐紳殷德  
到彼查勘如該處實有蝗蝻豐紳殷德自應仍往  
河間一帶查撲若天津並無蝗蝻則河間景州一  
帶自亦必無豐紳殷德即可回至熱河毋庸前往  
又據蔣賜榮等奏詢之農民僉稱蝗由東南飛來  
等語京城東南約在通州至永平一帶除已降旨  
令慶成詳細查勘外通州地方係豐紳殷德必過  
之路自己順道查勘該處有無蝗蝻及如何掩捕  
並將此次蝻孽究從何處長起留心詢訪據實奏  
聞將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2159 大學士伯和 字寄

直隸提督慶 乾隆五十七年七月十七日奉  
上諭據蔣賜榮等奏查過清河蘭溝順義等處撲捕  
飛蝗情形一摺內稱詢之鄉農僉稱蝗由東飛來  
等語核其方向京城東南當在遵化等處而薊州  
至永平一帶亦在京之東現在慶成前往各該處  
著傳諭慶成務須詳悉查看如該處果有蝗蝻即  
將蟲孽是否起自該處傷損禾稼若干一面奏聞  
一面督同地方官實力撲打務期淨盡其清河等  
處蝗蝻仍著蔣賜榮等董率實力搜捕俾永絕根  
株不使復延他境勿再玩誤干咎將此傳諭慶成  
並諭蔣賜榮等知之欽此遵

旨寄信前來

2160 乾隆五十七年七月十七日內閣奉

上諭向來各省督撫奏請調補陞署人員有與例不  
符經吏部議駁者朕或因其人地實在相需特降  
旨仍如該督撫所請行今日偶因畢沅等奏摺思

及所調府州縣各缺必尚有以次遞請調補陞署  
之員其應准應駁仍當照例核辦若因該督撫奏  
請陞署人員業經奉旨允行其遞行調補陞署各  
員即不復查照合例與否概予議准恐開外省僥  
倖之漸嗣後該部遇有各省題奏府州縣各缺照  
例議駁復經特旨允行者其奏請以次遞請調補  
陞署之員俱應查照定例辦理如有不合例者著  
該部仍行議駁不得一律准行以杜混冒而重官  
方欽此

2161

查陳杰所積處分二案內一案係失察署守備  
林鳳鳴等貪圖得賄幫同爭地放鎗滋事情節  
較重本年六月內甫奉

諭旨革去翎頂仍帶革職留任八年無過方准開復  
此八年內准其支領一半養廉若即予開復不  
足示懲是以臣等於擬寫

諭旨內止將該提督五十六年所得降留處分加倍  
罰養廉一年再向來每處分二三案共罰廉俸  
一年是以此次應罰各員內有應加倍者臣等

俱擬寫每案罰廉俸一年合併聲明謹  
奏

2162 乾隆五十七年七月十七日內閣奉

上諭據吏兵二部將內外文武大臣所積處分五年  
屆期查明具奏朕詳加察核在京大臣內處分一  
二案之阿桂嵇璜和坤王杰福長安常青慶桂胡  
季堂金簡穆精阿沈初鐵保僧保住胡高望張若  
溥成策鄒奕孝宜興諾穆親弘旰阿克東阿范宜  
恒都爾嘉均著加恩即予開復外至金士松所得  
處分二案俱係在順天學政任內將文理平常之  
生員濫行拔取韓鏞處分一案係因伊子冒籍投  
充書吏考職朦朧分發漫無約束紀昫處分三案  
一係禮部司員遺失紅本未能先事查察餘二案  
則皆因校辦四庫全書錯誤甚多均非尋常處分  
可比金士松韓鏞紀昫俱著每一案照議處本任  
分別各罰廉俸一年德明處分四案著罰廉俸二  
年其額勒春處分三案劉我處分四案伊桑阿處  
分四案徐績處分三案每一案各罰督撫本任廉

俸半年明興處分一案巴延三處分三案俱著每  
一案照議處本任分別各罰廉俸半年所有金士  
松韓鏞紀昫德明額勒春劉我伊桑阿徐績明興  
巴延三從前降革處分俱著准其開復至各省督  
撫內福康安惠齡現在勦辦廓爾喀奮勉出力孫  
士毅現赴前藏督催糧餉亦屬出力福康安處分  
一案惠齡處分二案孫士毅處分一案俱著加恩  
免其議罰准予開復梁肯堂處分五案書麟處分  
四案畢沅處分四案穆和蘭處分十案福崧處分  
四案陳淮處分八案姜晟處分二案俱著每一案  
照所得處分各罰督撫及本任養廉半年准其開  
復浙江提督陳杰處分二案除本年失察屬弁放  
鎗滋事爭奪柝地一案情節較重不准開復外其  
餘一案著罰提督養廉一年准其開復餘統俟五  
年查辦時再行核辦欽此

2163 六月十五日陝甘總督勒保奏請以候補知州

李榮署岷州知州一摺奉

硃批該部議奏欽此又奉

旨如吏部議駁即寫准行諭旨欽此今據吏部知會

照例議駁臣等謹擬寫准行

諭旨進

呈再查李榮係在省候補人員並無違請陞署調

補之缺合併聲明謹

奏

七月十七日

2164 遵

旨詢問熱河道府據稱熱河地方前因蒸熱高粱葉

上間有膩蟲初二初三等日連次得有大雨所

有膩蟲俱被沖洗淨盡並未損傷禾稼現在查

看各處實無膩蟲為患等語謹

奏

七月十七日

2165 乾隆五十七年七月十七日內閣奉

上諭據梁肯堂奏查勘河間府屬受旱輕重情形內

景州任邱二州縣成災約五六七八分不等等語

本年河間等屬雨澤短缺雖得雨數次為時已遲

內景州任邱二州縣地勢又多高阜早晚田未

能一律秀實受旱較重民食未免拮据著加恩將

該州縣應賑戶口即照河間等縣急賑一月口糧

之例一體散賑其獻縣等縣著於酌借口糧之外

凡缺之麥種之戶再行添借籽種俾資接濟該督

務須董飭所屬實力稽查妥為經理毋任胥役人

等捏冒滋弊俾小民均霑實惠以副朕軫恤窮黎

有加無已至意該部即遵諭行欽此

2166 乾隆五十七年七月十七日奉

旨鄒梅氏著即處絞餘依議欽此

刑部議覆黔省鄒梅氏縱女通

姦復聽從姦夫誅殺伊婿一案

2167 乾隆五十七年七月十七日奉

旨郭生復梁遠耀陳亞蒂梁遠開郭亞復陳茂齊梁遠聚郭亞八郭明起梁遠中梁遠才俱著即處斬餘依議欽此

刑部議覆廣東省番禺縣盜犯

糾夥行劫一案

2168 遵查

欽定詩經樂譜於乾隆五十四年二月刊就進

呈刷印二百部奉

旨交各處存貯二十部分賞一百三十五部其餘四

十五部交

武英殿收存謹

奏

2169 乾隆五十七年七月十九日內閣奉

上諭陳淮奏據候補同知和敏稟稱父母年老家無

次丁情願回旗當差等語和敏著准其回京交該

部帶領引見摺併發欽此

2170 大學士伯和 字寄

順天府府尹 乾隆五十七年七月十九日奉

上諭豐紳殷德奏前赴通州查勘蝗蝻情形一摺據稱詢之村民云自初十至十二三等夜明月之下見有蝗蟲飛過往來斷續細看來蹤由西北飛至東南者居多除迤南天津等處豐紳殷德前往查勘外其迤東係三河寶坻等縣地方請勅下順天府府尹飭令地方官迅速查撲等語蝗蟲既成羣飛動落跡必非一處三河寶坻一帶豐紳殷德未能繞道前往著傳諭蔣賜榮等查現在昌平州等處查撲尚未淨盡即飛飭各該地方官或分一人前往查撲務使蝻孽飛止之處及早捕打淨盡不至蔓延他境損傷禾稼勿再玩悞干咎將此傳諭蔣賜榮等並諭豐紳殷德知之欽此遵

旨寄信前來



2171

遵查例載凡用藥迷人已經得財之案將起意為首及下手用藥迷人並迷竊已至二次及首先傳授藥方之犯均照強盜律擬斬立決等語本日陳淮奏到審擬汪小四張老二張老五等三犯用藥迷劫二次其郭榮二花巴等二犯起意下手用藥迷人被迷事主當經身死均應照強盜殺人得財例分別斬決臬示謹

奏

七月十九日

2172

乾隆五十七年七月十九日奉

旨汪小四張老二張老五俱著即處斬二花巴著即處斬臬示郭榮著戮屍臬示餘依議欽此

2173 啟者本日面奉

諭旨綿億阿哥為愉貴妃之親孫現在穿孝自當穿滿百日若扣至八月應赴熱河及隨從進哨之時不過未滿數日尚可令其前來今計綿億阿哥脫

孝之期當在九月初間竟可毋庸前赴熱河隨從進哨等因並令寄信大人希即遵照辦理特此奉佈順候不一  
寄金三大人

和 同具  
福

七月十九日

2174

大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年七月二十日奉  
上諭本日秦承恩奏陝省西安同州二府屬夏間缺雨秋禾未能長發收成歉薄業經降旨以該撫奏報遲延心存諱飾嚴行申飭並令將被旱州縣應徵錢糧竟予緩徵並酌量借糶以資接濟矣本年直隸地方春夏缺少雨澤被旱甚廣今據秦承恩奏陝省西安同州等屬亦因缺雨歉收山西與直隸陝西境壤毗連宜有直隸陝西兩處被旱而山西介乎其中竟無缺雨歉收之處前雖據長麟奏平陽等六府州屬入夏以後雨水稀少糧價漸增

已准令減價平糶嗣又據奏平陽等六處於六月初七八及二十四五等日續經得雨秋成不致歉薄成災但恐該撫亦不克心存諱飾所奏尚非實在情形朕關心民食屢念雨暘無時或釋封疆大吏何得稍存粉飾之見致令災黎向隅著傳諭長麟即將平陽等六府州屬續得雨澤是否需足秋收不致歉薄減價平糶後糧價是否漸平及此外各屬有無被旱歉收之處查明據實覆奏以慰屢注毋得迴護干咎將此諭令知之速行回奏欽此遵旨寄信前來

2175 大學士伯和 字寄

順天府尹蔣 莫 直隸總督梁 乾隆五十七年七月二十日奉

上諭慶桂奏勘過宛平良鄉房山三縣地方田禾間有被蝗蝕傷之處詢之西路同知及各縣等稟稱伊等於十三四等日一面撲捕一面具稟所言未足憑信已行查順天府尹直隸總督如有隱飾即行叅奏等語宛平等處蝗蝕如該縣等於六月十

三四等日稟報將賜祭梁肯堂等匿不奏聞則其咎自在該府尹及總督今清河蘭溝南石礮一帶蝗蝕前豐伸殷德進京及回至熱河即經看見豐伸殷德往還過彼之時尚在本月初一二及初六七等日梁肯堂於十一日奏到該督之摺亦係初九日拜發是蟲孽之起已久該地方官所稱十一二等日始有蝗蝕十三四日具稟之處若在七月分顯係聞知梁肯堂具奏朕經降旨嚴查補行稟報以為卸過地步著傳諭蔣賜祭梁肯堂等即查明宛平良鄉房山三縣地方蝗蝕究竟起於何時該縣等係何月日稟報如係七月十三四等日始行補稟即將該縣等叅奏仍董飭上緊撲捕淨盡勿再玩延干咎將此傳諭蔣賜祭梁肯堂等並諭慶桂知之仍各查明迴奏欽此遵

旨寄信前來

2176 乾隆五十七年七月二十日內閣奉

上諭秦承恩奏西安同州兩府屬之咸寧華州等十  
六廳州縣高原地方雨水未能霑足所種秋禾難  
望一律有收應酌量借糶並將未完錢糧暫緩徵  
收等語所奏殊屬遲緩上年京城雪澤較稀朕於  
今春即齋心祈禱而直隸順德廣平大名以及豫  
省河北各府屬二三月間亦屬雨澤短少朕巡幸  
五臺途次屢經降旨詢問並預為慮及截漕為綱  
繆之計入夏以後盼澤尤殷幾於無日不加詢問  
陝省距山西甚近秦承恩寧未之聞迨回蹕後朕  
即親詣黑龍潭覺生寺拈香敬禱並設壇虔祈分  
遣皇子等恭詣行禮每日夙興仍於宮中升香

天神

地祇前默禱偶見雲氣往來必望空叩祝所有截漕緩  
徵平糶賑賑等事無不次第加恩朕之塵念雨暘  
及軫恤窮黎宵旰焦勞無時或釋此尤天下臣民  
之共聞共見者秦承恩歷任有年豈於朕痼疾在  
抱之意尚未能深喻仰體耶今咸寧等州縣既因  
五月中旬晴霽日久以致秋禾未能長發何以不

早奏聞前據該撫奏盛夏地土易於乾燥農田頗  
殷望澤旋又據奏前赴太白山焚告省城等處已  
於六月十五日得有透雨等語並未將秋禾未能  
長發之處據實具奏看此情形秦承恩竟有諱飾  
之意直至此時因秋收歉薄民食未免拮据始奏  
請借糶緩徵豈以本年直隸河南山東等省被旱  
州縣稍多該撫恐早經奏聞致朕焦煩強作解事  
遲遲不奏欲以寬慰朕懷此則大不知朕心矣朕  
臨御五十餘年念切民瘼從不肯任封疆大吏有  
諱災等事秦承恩又何必稍存掩飾況地方既有  
旱災該撫即應親履查勘速行籌辦何得委令道  
府勘辦以致輾轉遲延著傳旨嚴行申飭所有該  
府奏請暫予緩徵之西安府屬咸寧長安咸陽興  
平醴泉涇陽三原富平高陵臨潼渭南同州府屬  
華州華陰潼關蒲城韓城共十六廳州縣未完錢  
糧竟著加恩緩至明年麥熟後再行徵收並酌量  
出借平糶仍著該撫親往詳勘各州縣究竟是否  
成災如有應行接濟之處即據實奏聞候朕降旨  
加恩勿再隱飾干咎該部遵諭速行摺併發欽此

2177 乾隆五十七年七月二十日奉

旨福崧著免其革任仍註冊馬瑞到任未久亦著改為革職從寬留任至署守備林鳳鳴等貪圖得賄幫爭網地放鎗滋事一案係該縣嚴承夏匿不稟報該道府止屬失於覺察寧波府知府克什納著從寬改為革職留任前任寧紹台道張慎和著改為降三級從寬留任欽此

2178 乾隆五十七年七月二十日奉

旨通恩著降三級從寬留任餘依議欽此

2179 臣等遵

旨將清漢對音字式凡例內粘貼黃簽添改進

呈俟

欽定發下再交

武英殿將此四行排勻改刻謹  
奏

七月二十日

2180 乾隆五十七年七月二十日奉

旨李佑著即處斬餘依議欽此

刑部議覆川省白晝搶奪一案

2181 啟者本日面奉

諭旨現在鄂勒哲伊特穆爾額爾克巴拜所患病症甚重看來難望起色三公主業經薨逝所有公主府年例進益儘足敷伊家用况鄂勒哲伊特穆爾額爾克巴拜並不當差今既病重難起平日又性情不好且伊嗣子年幼一切家務用度若任伊家人等混行花費必致日就銷耗著伊齡阿務須嚴加管束代為經理隨時查察毋任暗中耗費再三公主護衛官員此時不必遽行裁減將來遇事故出缺毋庸挑補即可逐漸裁汰等因欽此特此

佈

聞希

大人遵照辦理順候

近祺不一

伊大人

七月二十日

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年七月二十一日  
奉

上諭慶成奏查勘遵化州屬地方間有數處田禾被  
蝗蝕傷比薊州較輕詢之鄉農均稱本處近山不  
長蝗蝻向來夏秋亦見飛蝗往來多係近河潮濕  
處所春間少雨入地之草子化生等語遵化等處  
向來亦見飛蝗慶成所奏係詢之鄉農其言必非  
虛捏可見蝗蝻向所時有但在偏僻處所該地方  
官即匿不稟報今清河藺溝等處為大臣官員往  
來必經之路梁肯堂恐其奏聞不過以一奏自占  
地步至此次蝗蝻前將賜祭等奏由東南而來嗣  
豐仲殷德奏到亦稱自西北飛往東南而各該地  
方官等又輒稱本處並不長蝻係從他處飛至蝻  
孽之生必有始起之處斷非從空而降以豐紳殷  
德蔣賜祭等所奏地方互相核對當起自薊州玉  
田豐潤三河一帶蔣賜祭等在順義發摺故稱自  
東南而來豐紳殷德拜摺時係在通州故稱自西  
北飛往况現據慶成查勘遵化被蝗輕於薊州該

州暨玉田豐潤等處俱為沮洳之區自係該州縣  
潮濕處所草子化生地方官漫不經心以致蔓延  
他境著傳諭梁肯堂務查明此次蝻孽究竟起於  
何處將不及早搜捕之地方官據實參奏示儆勿  
稍迴護干咎至本年河間景州受旱較重天津保  
定次之幸朕預為綢繆截漕五十萬石並令分別  
借糶賑濟兼行所有救荒蠲緩之策無不指示周  
備該督務宜往來嚴查實心經理俾災黎均沾實  
惠以副朕痼瘼在抱至意將此傳諭梁肯堂並諭  
慶成知之欽此遵

旨寄信前來

前據穆騰額奏請將長蘆商人應交本年帑利  
三十五萬六千餘兩分作三年完交一摺奉  
硃批該衙門議奏欽此又奉

旨如該衙門議駁即擬寫准行諭旨欽此今據內務  
府照例議駁於本日具奏謹遵

旨擬寫准行

諭旨進

呈謹  
奏

七月二十三日

2184 乾隆五十七年七月二十三日內閣奉

上諭據內務府議駁穆騰額奏長蘆商人本年應交  
幣利不准分限緩交一摺固屬照例辦理但念長  
蘆商眾資本微薄本年雨澤愆期麥收稍歉引鹽  
不能暢銷以致商力拮据該鹽政所奏尚屬實在  
情形此次姑從所請將本年應交幣利銀三十五  
萬六千餘兩著加恩緩至本年奏銷後起限分作  
三年帶交全完以紓商力嗣後不得援以為例欽  
此

2185 大學士伯和 字寄

留京王大臣 工部堂官 乾隆五十七年七  
月二十三日奉

上諭工部題銷四川省新疆五營修建教場藥局庫  
局等項核減款項一本細閱冊內該省原題用過

九三八

工料銀四千六百餘兩工部准銷銀止二千五百  
餘兩竟係對半核減向來辦理工程核減不過十  
之一二多者亦不過十之二三從無對半核減之  
事所有川省修建教場等項如果承辦之員不照  
定例估報任意浮開於例價多至一倍該部即當  
參奏不應即以核減了事向來工部於外省奏銷  
事件書吏人等得有使費即為照例核銷其不得  
使費者往往吹毛求疵任意駁減今川省此案工  
程竟減至對半或係索費不遂有意從刻亦未可  
定著傳諭留京王大臣會同該部即將此案核減  
銀兩是否照例辦理有無別情及若應核減屬實  
何以不將該省浮報官員參奏之處詳細查明秉  
公具奏勿稍迴護欽此

2186 大學士伯和 字寄

河南巡撫穆 乾隆五十七年七月二十四日  
奉

上諭據穆和蘭奏各屬續得雨澤情形摺內稱彰德  
府屬之安陽內黃得雨二寸懷慶府屬之原武得

雨一寸等語本年豫省河北三府該撫節次所奏雨澤總未霑足茲據奏安陽內黃原武等縣於七月初四五等日得雨僅止一二寸是河北三府所屬仍未能一律優霑朕心甚為屢念著傳諭穆和蘭將得雨一二寸之處是否成災於田禾有無妨礙即查明據實速奏毋得稍事諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2187 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年七月二十四日奉

上諭慶成奏查看玉田縣迤西間有蟲傷田禾甚輕因遵化州知州傅修帶領知縣於初見飛蝗時立即捕捉未致停落是以所傷無幾等語該知州於飛蝗初起即帶領所屬撲打全淨且禾稼毫無踐踏傷損防護尚為得宜該州自己稟報何以未據梁肯堂具奏又慶成奏自薊州赴永平府途次經過道傍堆撥塘汎房屋墩臺大率傾圮不堪兵丁

殊 殊

不能棲止詢係五十五年水浸後並未修葺等語各處塘汎為兵丁棲宿巡警之所况薊州永平一帶為山海關大道朝鮮貢使往來商賈絡繹之區尤屬觀瞻所繫今該處堆房等項被水倒壞年久未修成何體制此尚屬閻正祥任內之事是否閻正祥未移知該督因而未辦抑係閻正祥業經移知該督置之不問以致延誤並曾否報部准修有案著梁肯堂即查明據實速奏勿稍迴護干咎將此諭知梁肯堂並諭慶成知之欽此遵

旨寄信前來

2188

查樂器音律各有本宮如簫以工字為黃鍾笛以四字為黃鍾蓋緣簫短孔少而直吹笛長孔多而橫吹笛比簫高四音若笛亦用工字則其聲太高即成變徵與本宮不協即與簫音不諧以淺近言之譬若射然的猶黃鍾弓之力有軟勁箭之輕重因之若以勁弓而用輕箭軟弓而用重箭即輕重不稱不能至的查詩經樂譜凡例內本有論簫笛字色高下不同一條而文義

未能詳盡臣等與該總管等商擬增補恭候

欽定發下再行添繕詩經樂譜凡例內謹

奏

七月二十四日

\* 擬增補凡例

一所注簫笛字色不同由於樂器音律各有本宮  
如簫短孔少而直吹笛長孔多而橫吹笛比簫  
高四音是以簫以工字為清宮笛以四字為清  
宮餘可類推今譜內俱遵

音駢注七音則知字色雖異而七音則同其清均所  
注字色俱加立人旁為記亦照律呂正義體例

2189 乾隆五十七年七月二十五日內閣奉

上諭據郭世勳奏肇慶府知府楊有源因生母現年  
八十家無次丁懇請回籍終養等語楊有源著准  
其回籍終養所遺肇慶府知府員缺著照該署督  
所請准以莊肇奎調補其所遺惠州府知府員缺  
著廣玉補授欽此

2190 大學士伯和 字寄

大學士公阿 工部尚書金 乾隆五十七年

七月二十五日奉

上諭據朱珪奏請修驛路橋梁一摺內稱鳳陽縣臨  
淮鄉境有土壩埂一道因壘被淮水沖塌於乾隆  
二十年將壩頂沖處所添建五孔石橋一座嗣於  
二十五年例塌一孔另將壩增高橋面鋪釘楞  
木填上壘築三十六年又經換木加添磚灰五十  
一五十三等年兩次被水沖刷橋身壩卸業經題  
准興修現據該道府親勘確估除舊料抵用銀一  
千一百十五兩零外實需工料銀二千八百七十  
九兩零已飭令緊興工修造具估冊照例具題等  
語五十三年至今五十七年此四年之間作何辦  
理何無一語令人不曉此項橋座於乾隆二十年  
添建閱時未久何以二十五三十六等年即被淮  
濠水發淹浸沖刷屢次動項興修而修築後復於  
五十一五十三等年仍被水沖竟將橋身刷卸  
明係該省地方官借此為常川開銷地步已降旨  
令長麟由驛前往該處會同朱珪勘明如係前任



地方官辦理不善該管上司並不詳勘率行據報  
題修即行據實奏奉著落該地方官分別賠修  
矣至各省題報估修橋梁工程俱有保固例限此  
項橋梁旋修旋塌屢次題請動項興修該部何以  
並不查明保固定限率行覆准阿桂曾經督辦南  
河工程於淮水情形較為熟悉金簡係工部尚書  
於該省題報估修係屬專辦著將此項橋座工程  
何以修建後屢被淮水冲塌及如何遽行覆准興  
修之處會同查明並將五十三年題估之巡撫係  
屬何人將各原案一併查奏韓鑠亦曾辦理河工  
且曾任工部侍郎於水利工程亦所諳悉並著阿  
桂等將以上情節詢問韓鑠將該處橋座何以屢  
被淮水冲塌之處一併覆奏朱珪摺並著抄寄閱  
看欽此遵

旨寄信前來

2191  
遵

旨將

硃筆添改寄信長麟

諭旨交

行在九卿閱看據劉綬等稱各省辦理工程皆應有  
保固年限今安徽省鳳陽縣臨淮鄉土壩埋五孔  
石橋於乾隆二十年始行改建何以二十五年  
即至倒塌改築三十六五十一五十三等年又  
疊次坍塌此顯係地方官修做不能如法轉借  
此以為常川開銷地步况五十三年即經冲塌  
至今五十七年此四年之間作何辦理該撫摺  
內亦未聲敘明晰荷蒙

聖明指出仰見

皇上辦理庶務綜覈周詳不遺鉅細臣等跪讀之下  
實深欽佩之至等語謹

奏

七月二十五日

2192

大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年七月二十五日

奉

上諭朱珪奏請修鳳陽縣臨淮鄉西土壩中段五孔石橋一摺閱摺內稱該處原係土壩埂一道乾隆初年疊被淮水冲坍二十年將中段頂冲處所添建五孔石橋二十五年內倒塌一孔拆去石板於橋面鋪釘楞木以草墊土築築三十六年又換木填土五十一五十三等年兩次被水冲塌橋身急需興修等語五十三年至今五十七年此四年之間作何辦理何無一語令人不曉且各省水利工程皆當有保固年限今鳳陽五孔石橋甫於乾隆二十年添建何以二十五年即至倒塌改築而三十六五十一五十三等年又復連塌三次即云淮流湍急自臨淮以下沿河橋梁又不知凡幾若皆如此屢圯屢修豈不勞費更多况該處如果頂冲迎溜亦須相度地勢或設法改辦或另立渡船亦足以濟行旅何必專資橋座自係地方官修建時不

能如法辦理又不加意保護轉借此以為常川開銷地步本欲令書麟前往查勘但書麟人本拘謹且曾任安徽巡撫從前題估興修係其任內之事究未免意存迴護著傳諭長麟接奉此旨即將巡撫印務交蔣兆奎護理其鄉試監臨亦著蔣兆奎代辦該撫輕騎減從由驛前赴鳳陽會同朱珪確加履勘將五孔橋向來修建有無保固及此次冲塌是否承辦之員不能如式以致塌卸如查明前任各該地方官辦理不善該管上司亦不加查核率行據報題修即據實參奏著落分賠修築以示懲儆將此諭令知之著即速去詳勘速奏欽此遵旨寄信前來

2193 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 順天府府尹蔣 莫 乾隆五十七年七月二十六日奉

上諭慶桂奏查勘涿州至保定正定一帶禾稼情形一摺內稱安肅清苑滿城望都等四縣本年雨澤

短少迨補種晚穀雜糧亦無透雨接濟未能一律長發等語同日又據阿精阿奏保定一帶於七月二十一日戌時得雨起至二十二日卯時止入土霑足等語與慶桂所奏不符慶桂此摺係二十三日在正定拜發或係慶桂已過保定之後二十一二兩日始得透雨亦未可定著梁肯堂即將安肅清苑滿城望都四縣二十一二等日曾否普被甘膏補種之晚禾蕎麥是否尚足資長發查明據實速奏以慰廛念又據梁肯堂奏仍請以三河縣知縣李培榮陞署通州知州一摺本年直省被蝗處所前據豐紳殷德奏天津一帶並無蝗蝻本日慶成奏正定保定等處禾稼並無被蟲蝕傷之處其永平一帶亦據慶成奏查無蝗蝻但蟲孽之生必有始起之處斷非從空而降看來此次蝗孽竟係起自薊州遵化三河一帶昨據蔣賜榮等奏查至三河地方之張各莊燕口段家嶺等處晚穀間有被蝕俱撲打淨盡等語是該縣境內現經查有蟲患如竟起自三河則該縣係獲咎之員安望復邀陞擢是以該督奏請以李培榮陞署摺不復批交

部議著傳諭梁肯堂將賜榮等遵前降諭旨將此次蝗蝻究係起自何處不可顛預混過終無起處將從空中所生耶其因何不及早搜捕以致蔓延他境必有一地方即將該地方官嚴叅示儆並查明李培榮是否在應叅各員之內一併具奏將此傳諭梁肯堂等並諭慶成知之欽此遵  
旨寄信前來

2194 乾隆五十七年七月二十六日內閣奉

上諭給事中溫常綬奏酌籌興修城垣以工代賑一摺本年直隸省被旱較廣經朕先事綢繆截漕緩徵並借糶糴賑所有救荒之策已無不預行籌備今保定天津河間以及順廣大等府既有應修城垣該給事中請趁此興修俾工程得以早完而貧民趨事赴公藉工代賑免致外出其事尚屬可行著交梁肯堂即查明各該州縣城工如有應行急修之處一面趕緊勘估一面奏明辦理以資貧民傭工口食至該給事中所奏天氣漸寒可否勅下順天府於空曠地面搭建席蓬以資棲止一節各

厥就食貧民來去無常若搭建席蓬不特於觀瞻  
有碍且冬令風燥火燭尤屬可虞其事斷不可行  
摺併發欽此

2195 乾隆五十七年七月二十六日奉

旨阮上乙許聰俊著即處斬餘依議欽此

刑部核覆福建省天地會匪疊  
劫一案

2196 同日奉

旨黃文著即處絞餘依議欽此

刑部核覆福建洋盜案內拒捕  
窩盜一案

2197 乾隆五十七年七月二十六日奉

旨張雙燕著即處斬餘依議欽此

刑部核覆福建省曬丁偷漏拒  
捕一案

2198 同日奉

旨張二著即處斬餘依議欽此

刑部審擬南城盤獲行劫逸盜  
一案

2199 乾隆五十七年七月二十七日奉

旨這所叅新平營叅將五十四著革職等因交該護  
撫蔣兆奎提同案內人証一並嚴審定擬具奏該  
部知道摺併發欽此

2200 乾隆五十七年七月二十七日奉

旨左翼監督著德明去欽此

2201 臣等早間奉有寄信梁肯堂籌酌銀米

諭旨一道因一時遺忘不勝惶悚今補繕進

呈謹  
奏

七月二十七日

2202

大學士伯和 字寄

閩浙總督伍 福建巡撫浦 乾隆五十七年

七月二十七日奉

上諭伍拉納等奏審擬外委楊坊濫差兵丁嚇詐斃命一案閱摺首摘叙事由繕寫營弁字樣朕以為自屬守備等官及披閱摺內乃係外委楊坊此等外委不過該營兵丁經督撫等拔取充補以資差委尚非干把可比何得謂之營弁措詞殊屬失當已於摺內用硃筆點出著傳諭該督撫嗣後於具奏事件務宜留心檢點勿再似此牽混除將原摺發交部議外將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2203

大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年七月二十七日

奉

上諭直省順德大名廣平三府屬今春雨澤短少麥收歉薄經朕早經降旨截漕三十萬石以備接濟之用該三府屬入夏以後節次得有雨澤可望薄

欽此遵

旨寄信前來

收者所截漕米似已敷用况該三府屬與河北三府境壤毗連缺雨次數較多人情相安已久地方官辦理撫卹事宜均有舊定章程較易措施但保定天津一帶得雨稍遲被旱較重河間景州為尤甚且各該府向年雨水尚屬調勻未經乾燠為患今驟罹旱災民情或不免窘迫雖亦賞截漕米二十萬石但被旱處所較廣恐不敷用向來各省散賑原屬銀米兼放不知直省庫項是否足資散給著傳諭梁肯堂即通盤籌畫如庫項不敷另須撥帑支放即據實奏聞候朕撥給庫帑倘截留之米石不能足用亦即酌定數目迅速陳奏再行酌撥朕於加惠災黎從不稍事靳惜該督惟當確核情形據實速奏以副朕軫念災區有加無已至意將此由五百里諭令知之又慶桂奏保定望雨阿精阿又奏得透雨究其光景如何仍著即速行迴奏

2204

乾隆五十七年七月二十八日内閣奉

上諭吉慶奏德州等二十四州縣衛得雨較少補種之晚秋未能一律飽滿收成雖有五六分民力不無拮据又武定府屬海豐樂陵霑化三處因夏秋雨澤未能調勻秋收止五分有餘等語德州等州縣前因得雨稍遲秋收不無歉薄已降旨令該撫查明之貧民賞借一月口糧仍俟秋後察看收成分數再行放徵茲既據查明各該處收成止有五六分所有德州德州平原恩縣武城夏津邱縣臨清高唐館陶歷城齊河禹城陵縣臨邑德平聊城茌平博平清平莘縣濮州范縣觀城二十四州縣衛本年應徵新舊錢糧倉穀俱著加恩緩至來年麥熟後徵收其海豐樂陵霑化三縣本年應徵新舊錢糧倉穀亦著緩至來年麥熟後徵收並賞借一月口糧俾資接濟又據奏德州平原恩縣邱縣夏津武城濮州臨清高唐九處連歲未獲豐收本年收成又復較減各該州縣有五十五六年因災緩徵漕糧應於本年併徵民力稍覺竭蹶等語所有德州等七州縣新舊漕糧均著緩徵一

半臨清高唐二州舊欠漕糧亦予緩徵統於來歲冬間一併徵收以紓民力該撫務須董飭所屬實心妥辦俾災黎均沾實惠以副朕廑念民依有加無已至意該部即遵諭行欽此

2205

查山東通省秋收分數前據吉慶奏到已奉有御製詩章至本日江蘭所奏本月二十二日濟南省城得雨因吉慶已往臨清一帶查勘秋禾情形未據該撫奏報尚未有

御製詩謹抄錄江蘭原摺進

呈謹

奏

七月二十九日

2206

據山東布政使江蘭遣家人呈進

萬壽貢件理合據情代

奏並將貢單進

呈謹  
奏

七月二十九日

2207  
項奉

旨派多永武致祭黑龍潭

龍神祠臣等查祭日係八月二十六日多永武已  
派後班隨圍計八月初旬即應前來熱河是以  
臣等謹擬改派太常寺卿世魁前往致祭並擬

寫

諭旨進

呈謹

奏

2208  
乾隆五十七年七月二十九日奉

旨著派世魁前往致祭欽此

2209  
乾隆五十七年七月二十九日奉

旨吏部具題將順天府屬生有蝗蝻並不先行奏報  
之府尹暨霸昌道分別降革一本蝗蝻萌生最為  
田禾之害從前節降諭旨令該上司等務宜督飭  
各州縣及早搜挖勿留餘孽該管地方官遇有飛  
蝗之時自當一面奏報一面實力撲捕使庄稼不  
至損傷方無忝厥職其有撲捕不力以致滋蔓者  
此等處分緣係玩視民瘼非尋常疎懈可比向來  
從重辦理未嘗稍事寬貸近年以來因地方久無  
蝗孽未經降旨查詢而該地方官等遂不以事為  
事以致順天府屬又有飛蝗蝕傷禾稼直待朕降  
旨嚴飭派員查勘始行上緊搜捕即將該管府尹  
及霸昌道等照部議降革俱屬咎所應得但念將  
賜祭莫瞻菴等究係統轄之員其蝗蝻傷稼由於  
各州縣不早詳稟撲捕所致將賜祭莫瞻菴姑著  
從寬改為革職留任同興雖屬本道因念伊數年  
以來夏間駐劄密雲於大雨時行之後防護河道  
橋梁照料文報尚無貽誤亦著加恩免其革任仍

註冊俟八年無過方准開復此係朕格外施恩若州縣等身任地方其應得處分自不稍從寬宥將賜祭等當自知媿奮於地方事務倍加實心經理勿再稍有玩誤致干重咎也欽此

2210

大學士伯和 字寄

內務府大臣 乾隆五十七年七月二十九日

奉

上諭據永琅等奏查勘乾清宮等處滲漏糟朽處所請率領司員妥協修理一摺此次滲漏糟朽各處所如從前並未修理自應准其按例修整若曾經派員粘補年分未速復有漏損之處即應著落承辦司員賠修著交內務府大臣再行確切查明奏聞辦理將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

2211

乾隆五十七年七月二十九日奉

旨朱珪著改為降三級從寬留任餘依議欽此

2212

御批通鑑輯覽小字板凡例第八第九條遵

旨添刪式

一尚書備稱祀載春秋首紀春王統事表年實史家大法是書於歷代紀年之際大書分注進退攸關皆仰稟

聖謨權衡允協其有未改歲而事涉兩朝者則並用一年兩系之例以存其統至附庸小國歲首不書年號惟嗣位改元乃一書

一正統偏安之辨其界最嚴前史每以興代而紀載前朝因多徇徇若續綱目於宋元明之際更屬不公瀛國既執而猶以宋紀年順帝未亡而即標明國號任意低昂適足貽譏識者今自景炎而後至正以前皆恪奉

宸裁統歸元紀至於明之崇禎十七年明統尚存亦用大書紀歲而福王事蹟並遵

旨採輯附書明紀大公至正曠古無倫謹於卷內恭

錄

御製文冠諸卷首以昭定論

四庫全書照此增刪改寫



欽定清漢對音字式凡例第五條遵  
旨添改式

一滿洲蒙古地名內如喀爾喀人名內如旺扎爾兩爾字俱應從勒今俱用爾字之類相沿已久姑仍其舊

2213 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年八月初一日奉  
上諭本日慶桂至行在復命詢以沿途情形據稱經良鄉涿州一帶詢之土人云曾見蝗蟲從東北飛至西南等語此次蝗蝻滋生保定正定一帶既據慶桂查明並無蟲孽天津永平等處前據豐紳殷德慶成分路查勘亦無飛蝗而良鄉一帶之蝗蝻又係由東北而來至涿州以南則無踪影以良鄉而論東北方自係在薊州三河遵化等處遵化近山不長蝗蝻沿海等處亦不生長是蝗孽之生必在薊州三河該州縣不及早撲捕以致延及他境方有應得之咎該督前此何得尚將三河縣知縣李培榮奏陞通州前已有旨令梁肯堂等查明具

旨寄信前來

奏總之蝗孽萌生斷非止在空際往來其有飛集之處自必有始起之處不可不核實查辦現在順天府尹及霸昌道俱經分別議處梁肯堂身任總督未經一併交部已屬倖免至其該管州縣斷無可邀寬貸著再傳諭該督務即查明此次蝗蟲實

在始起處所將該地方官據實奏革職以示懲儆毋得稍有顛預希冀混過自干重戾將此諭令知之仍即速迴奏欽此遵

2214 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年八月初三日奉  
上諭據蔣賜榮等奏察看順天所屬田禾被蝗蝕傷情形三河薊州較他處為多三河又較重於薊州是蝗孽孳生竟係由三河一帶所起等語此事前據豐紳殷德慶桂慶成分路查勘先後奏到朕即以蝗蝻斷非從空而降以豐紳殷德等所奏情形互相核對當在三河薊州一帶今據蔣賜榮所奏竟與前降諭旨相合該縣知縣李培榮於所管地

方竊孽萌生未能及早搜捕以致蔓延他境方有  
應得之咎梁肯堂非惟不將該縣叅奏轉以之請  
陞通州知州殊屬非是况李培榮調署他處之後  
亦應另委候選知縣或明幹縣丞接署三河以重  
地方何得僅委微末州判任令玩視民瘼致滋貽  
誤看此情形該督竟欲將李培榮調往通州為  
該員規避處分之計其咎俱卸與微末州判以完  
此局能逃朕洞鑒乎是此事皆係梁肯堂一人之  
咎著該督將各情節逐一明白速行迴奏毋再迴  
護干咎將此傳諭梁肯堂並諭蔣賜榮等知之欽  
此遵

旨寄信前來

2215 乾隆五十七年八月初三日奉

旨馮光熊於山西長子縣知縣派催村民馬匹致令  
長隨衙役勒索斃命一案僅止提拏人犯審辦並  
未叅奏非尋常疎忽可比著改為革職從寬留任  
欽此

2216 乾隆五十七年八月初三日內閣奉  
上諭湖南永順府知府員缺著戴求仁補授欽此

2217

查各省記名應用知府人員內並無現任湖南  
湖北兩省人員謹將

京察記名及外省記名人員名單進

呈恭候

簡用謹

奏

八月初三日

2218 擬

賞回疆三十韻墨刻名單共一百零九分

八阿哥

十一阿哥

十五阿哥

十七阿哥

綿恩阿哥

綿億阿哥  
綿惠阿哥  
綿志阿哥  
綿懃阿哥  
綿懿阿哥  
綿總阿哥  
綿德阿哥  
綿慶阿哥  
綿寧阿哥  
奕純阿哥  
奕紹阿哥  
載錫阿哥  
禮親王永恩  
睿親王淳穎  
豫親王裕豐  
肅親王永錫  
莊親王綿課  
怡親王永琅  
克勤郡王雅朗阿

順承郡王倫住  
裕郡王亮煥  
誠郡王弘暢  
和郡王綿脩  
軍機大臣阿桂

和坤  
王杰

福康安

孫士毅

福長安

董誥

慶桂

御前額駙拉旺多爾濟

豐紳殷德

德勒克

大學士嵇璜

尚書常青

劉墉

劉我

蘇凌阿

胡李堂

金簡

彭元瑞

留保住

左都御史舒常

紀昀

侍 郎德明

金士松

穆精阿

沈初

額勒春

蔣賜榮

松筠

韓鐸

諾穆親

劉秉恬

鐵保

寶光鼎

僧保住

劉權之

劉躍雲

明興

趙瑛

和琳

胡高望

王德

張若滄

伊齡阿

王昶

成策

鄒奕孝

巴寧阿

吳省欽

南書房翰林 吳省蘭

阮元

瑚圖禮

那彥成

伊犁將軍保寧  
總督梁肯堂

書麟

伍拉納

畢沅

勒保

惠齡

富綱

管幹珍

蘭第錫

李奉翰

撫奇豐額

朱珪

吉慶

長麟

穆和蘭

秦承恩

福崧

陳淮

巡

浦霖

福寧

姜晟

郭世勳

陳用敷

馮光熊

譚尚忠

予告大學士蔡新

尚書曹文植

2219

查福建省收成業據浦霖於七月十二日  
奏到通計九分有餘奉有

御製詩章謹

奏

八月初三日

2220 大學士伯和 字寄

山西巡撫長 乾隆五十七年八月初三日奉

上諭據阿桂等查奏鳳陽五孔石橋節次題報估修一摺內稱詢問韓鑠據稱於三十八九年在潁州府任內往來鳳陽橋座尚屬完整五十四年奉差江西經過該處見橋身塌卸往來文報俱用船擺渡等語此項橋座五十四年被水冲塌自必重加修葺否則五十四年至今此四年內行旅何以往來若果重修堅固甫及三年又復塌卸明係該地方官辦理不善借此為開銷地步著長麟到彼後確切查勘所修曾開銷幾何即將該地方官及承辦之員據實查叅著落賠修並將彼時巡撫係屬何人一併查明叅奏阿桂等原摺並著抄寄閱看

欽此遵

旨寄信前來

2221 乾隆五十七年八月初四日內閣奉

上諭哈當阿等奏督標水師千總黃理生外委許寶

國管帶換回班兵齊寶等回厦船隻在洋被浪擊沉該船弁兵共八十六名據報撈救僅有二十八名等語該弁兵等駛船回厦遭風被溺情殊可憫所有未經撈救各弁兵著哈當阿等查明咨部交該部照例從優議卹其業經撈救之各弁兵等亦著查明酌賞以示體卹至意該部知道摺併發欽此

2222

查現在記名人員內惟景祥一員現在刑部主事上行走距通州較近又章玉輅一員係山東商河縣知縣係武定所屬亦在濟南以西距通州為近其餘人員俱係遠省謹將該二員名單并擬寫空名

諭旨進

呈恭候

簡用謹

奏

2223 乾隆五十七年八月初四日内閣奉

上諭順天府屬三河縣知縣李培榮雖既經調署通州但三河是其本任且現署通州又距三河不遠況本縣既有蝗蝻害稼之事該員豈能再邀陞擢李培榮著即離任聽候部議所有通州知州員缺著景祥補授欽此

2224 乾隆五十七年八月初四日奉

旨這所參瓊山縣知縣曾友伋著革職並著該署督提集府縣差役嚴審有無通信賄縱情弊按律定擬具奏署瓊州府知府何如鐘著該署督於審明定案後再行查參該部知道摺併發欽此

2225 大學士伯和 字奇

署兩廣總督廣東巡撫郭 乾隆五十七年八月初四日奉

上諭據郭世勳參奏瓊山縣知縣曾友伋於軍犯黃漢章逃回原籍漫無覺察又不派役協同府差查

旨寄信前來

2226 本日秦承恩摺內稱接准陳用敷咨開廣西慶遠府同知員缺業將候補同知肅崇阿奏補請將推陞慶遠同知之陝西咸陽縣知縣張廷杰仍留陝省差遣等語查陳用敷請將肅崇阿請補慶遠府同知之處係於四月十八日

奏到奉

硃批該部議奏欽此但各省應選之缺已經部選有人該省另行題補向例俱應議駁臣等檢閱進

一體查拏務獲欽此遵

查辦不密之處該署督審明定案後再行一併參奏所有在逃軍犯黃漢章仍著該署督嚴飭所屬

拏請將曾友伋革職等語此案軍犯黃漢章在貴州配所逃回原籍該省咨緝已閱二十餘年該縣曾友伋並無覺察及經該府何如鐘飭役查拏又不選派幹役協同緝捕以致該犯聞信逃避已降旨將曾友伋革職其署瓊州府知府何如鐘既經飭差查緝仍任該犯聞風遠颺如有僉差不慎及

呈摺紳內慶遠府同知一缺仍載張廷杰姓名所  
有肅宗阿請補之處自係部駁是此缺並未補  
放有人應俟寄京吏部查明再擬寫  
諭旨進

呈謹  
奏

2227 大學士伯和 字寄

直隸總督梁 乾隆五十七年八月初五日奉  
上諭本日據梁肯堂奏蝗蝻多起自濕下之區所有  
薊州玉田等州縣業經飛飭通水道索明阿親往  
確查等語直省蝗孽前據蔣賜榮等奏稱竟係由  
三河一帶所起是該縣知縣李培榮實有應得之  
咎昨已降旨詢問令該督嚴查叅劾並令李培榮  
離任聽候部議該州知州員缺已另放有人矣茲  
梁肯堂奏到摺內仍屬含混其詞未將三河一路  
提出確實奏明顯係心存迴護是誠何意著梁肯  
堂再行明白回奏毋得始終瞻徇致干咎戾再前  
以保定天津一帶被旱較重河間景州尤甚因思

向來散賑原屬銀米兼放諭令該督通盤籌畫如  
庫項不敷另須撥帑支放即據實奏聞候朕撥給  
庫帑倘截留米石尚有不足亦即酌定數目撥給  
再行陳奏今尚未據該督覆奏著傳諭梁肯堂迅  
即確核情形據實速奏以副朕軫念災區有加無  
已至意又梁肯堂另摺稱保定河間天津等屬於  
七月二十一二等日各得雨二三寸至深透不等  
等語此時節候已遲不能趕種秋禾即得透雨亦  
豈能於民田有濟耶總應盡心辦理災賑可也將  
此諭令知之欽此遵  
旨寄信前來

2228

本日穆和蘭奏到抽查河北各屬借過夏災口  
糧並履勘秋禾被旱情形請分別撫賑緩徵一  
摺奉

旨交臣等核議臣等查摺內所稱按照成災分數分  
別蠲緩之處及各縣應徵漕糧數目必須查核  
例案始能妥議具  
奏臣等謹擬抄錄原摺附本日六百里加緊報便



寄京交部速議謹  
奏

2229 乾隆五十七年八月初六日內閣奉

上諭據託倫奏雨水農田情形一摺內稱南昌新建進賢都昌鄱陽餘干德化湖口等縣濱河傍湖因江水漲發低窪田畝間有被淹現在積水未退恐雜糧不及趕種應查明分別辦理等語南昌新建等縣傍水低田被淹後積水不能速退以致雜糧不能趕種著託倫詳悉查明分別酌借籽種口糧統俟明歲秋收後免息還倉所有應徵糧銀並著緩至來歲麥熟後徵收俾傍湖貧民得資接濟該護撫務須確切查勘實心經理以副朕軫念民依至意欽此

2230 乾隆五十七年八月初六日內閣奉

上諭前因順天府所屬螞蟥萌生經派往大臣等分路查勘核對所奏情形當起自三河一帶梁肯堂非惟不將該縣李培榮查參轉以之請陞通州知

州所有三河縣缺僅令州判陳馨洲接署顯為李培榮規避處分起見將其咎卸與微末州判以完此局本日據梁肯堂奏李培榮已先委署通州如蟲患竟起自三河自應將陳馨洲參奏等語果不出朕所料朕知梁肯堂必如此辦理早經降旨將李培榮離任其通州員缺另將景祥簡補梁肯堂身任總督乃徇庇曲為開脫處分實大不是著交部嚴加議處欽此

2231 乾隆五十七年八月初六日內閣奉

上諭據梁肯堂覆奏查薊州至永平一帶營房墩臺被冲傾圮州縣營員均未具報請修前任提督閻正祥亦未移會有崇致未修理等語塘汎為兵丁防守之地自當修理齊整以壯觀瞻乃該處文武各員並不隨時報修閻正祥亦並不移會總督任其傾圮所有薊州永平一帶塘房墩臺即著落閻正祥分賠一半及該地方官分賠一半勒限賠修以示懲儆該部知道欽此

2232 大學士伯和 字寄

欽差尚書蘇 乾隆五十七年八月初六日奉

上諭步軍統領衙門奏直隸萬全縣民人王泰來呈

控伊子王世文被齊齊哈爾索倫松安保殺害呈

控該副都統不為究辦等因一摺王泰來所控伊

子王世文被松安保殺害並將屍身殘毀如果屬實

自當嚴審辦理即或王世文與松安保之妻通姦

若已離姦所則非姦所殺姦仍當照律定擬况屬

指姦尚在疑似之間乃該副都統並不虛衷研鞠

僅將松安保杖責完案迨王泰來親往控訴反勒

令屍親具結領屍難保無袒護情弊不可不切實

究辦以成信讞昨蘇凌阿派往盛京審辦事件著

傳諭蘇凌阿於前案審竣時即前赴該處提集犯

証秉公嚴審定擬具奏勿得稍存迴護以副委任

欽此遵

旨寄信前來

2233 乾隆五十七年八月初六日奉

旨此案著交蘇凌阿於盛京審案完竣前赴該處提

集犯証秉公嚴審定擬具奏其原告王泰來交兵

部解往候質欽此

2234

本日吏部將甘肅省審辦匪犯之知府清安泰

一員陝西省陞署知州之陳玉隣一員河南省

陞署知州之張大器一員浙江省卓異知縣之

曹庠業一員山西省陞署知縣之蔣維澧一員

帶領引

見奉

旨清安泰陳玉隣張大器曹庠業蔣維澧俱著交軍

機處記名

八月初六日

2235 遵

旨將

硃批梁肯堂摺交

行在九卿閱看據劉我等稱本年順天府所屬蝗蝻

萌生蒙

皇上欽派大臣並飭令該府尹分路查勘三河一帶

田禾蝕傷最多且係低濕處所是此次蝗蝻自

係起自該處乃梁肯堂非惟不將該縣李培榮

查叅轉以之請陞通州知州

皇上即知該督為李培榮規避處分之計早令離任

另行

簡補茲據梁肯堂覆奏情節果不出

聖明鑒照之中仰見

皇上辦理庶務於臣下功過無不

先幾炳燭臣等恭閱

硃批實深欽佩之至等語除將原摺抄錄附本報寄

交在京大學士九卿閱看外謹

奏

2236 乾隆五十七年八月初六日奉

旨李老六依擬應斬王旺保依擬應絞俱著監候秋

後處決至咸寧縣知縣朱鎰於捕役私帶白役叅

賊分贓致將未經分贓之竊賊糾黨謀殺該縣毫

無覺察非尋常失察可比朱鎰著照部議革職餘  
依議欽此

2237 乾隆五十七年八月初六日内閣奉

上諭前因直隸順德廣平大名三府屬雨澤短缺麥

收歉薄早經降旨截漕三十萬石以備接濟又因

保定天津一帶得雨稍遲被旱較重而河間景州

為尤甚雖已賞截漕米二十萬石但恐被旱處所

較廣尚有不敷特令梁肯堂通盤籌畫如放賑銀

米不能足用即行據實陳奏再行撥給今據該督

奏悉心核計成災分數及應賑戶口尚不敷米二

十萬石銀八十萬兩等語著照所請即於通倉內

再行賞撥漕米二十萬石戶部庫帑內撥給銀八

十萬兩交該督收貯以備賑濟之用梁肯堂務須

督飭所屬嚴加查察毋使吏胥等稍有剋扣浮冒

俾小民均沾實惠不致一夫失所以副朕軫念災

黎有加無已至意該部遵諭速行欽此

2238 遵

旨將本日係屬秋分何以未交卯正即行日出之處  
詢問喜常據稱憲書時刻是按照京城日出晷  
刻排定熱河地方偏在京城東北向來日出晷  
早再鐘表分刻原不能毫釐無爽或係鐘表對  
遲亦未可定至憲書所定節候時刻斷無錯誤  
等語謹

奏

2239 遵

旨詢問喜常據稱熱河北極高度較京師北極高度  
高一度零七分熱河較京師偏東一度三十分  
於時刻應加六分如熱河時係卯正京師即為  
卯正六分是以日出早見等語奴才福長安隨  
將

內裡鐘上日晷及外間日晷與

殿內時辰表比對日晷較表上時刻尚快八九分  
是表上刻數顯係慢走八九分喜常所查度數

與日晷尚屬相符復詢之鐘上太監因何表上  
刻數慢對八九分之處據稱

內廷鐘表向係十五天比對日晷一次每日皆係  
我們隨帶之表兩相比對自係隨帶之表或有  
不准以致刻數不符等語奴才隨告以嗣後對  
表時務須三五日即將日晷比對毋致再遲半  
月之久自可不致遲慢謹

奏

八月初七日

2240

查董二從前供出各犯臣等於審明定案後即  
行文山西雲南等省如已拏獲即行釋放其未  
經拏獲者概行停緝業經知照各該省在案本  
日富綱等奏到拏獲武雷算子即武來拴子押  
解山西一摺查武來拴子係應行釋放之人想  
彼時該督等尚未接准咨文是以具奏此時自  
早已准咨辦理謹

奏

初七日

2241

大學士伯和 字寄

廣東巡撫郭 乾隆五十七年八月初九日奉

上諭郭世勳奏暹羅國差遣陪臣具表入貢七月初一日正副使船陡遇颶風漂至新寧縣海宴汛等處洋面擱淺現將方物起卸撥運來省並飛行該地方文武將貢使人等妥為照料由省河另僱船隻撥送赴省等語暹羅國王鄭華素稱恭順本年屆當正貢之期備進表文方物自當准其呈進但該貢使等陡遇颶風在洋擱淺雖據該署督派員妥為照料竟不妨令其緩程行走於年前到京彼時安南國王阮光平亦有使臣前來具表納貢與各國陪臣同時並沾恩宴共迓春祺更為兩便將此傳諭知之欽此遵

旨寄信前來

2242

大學士伯和 字寄

山東巡撫吉 乾隆五十七年八月初九日奉

上諭步軍統領衙門奏山東民人劉學孟呈控伊兒

劉士興被盜殺害劫去什物嗣經江南豐縣獲犯李士方等解送魚臺縣經濟寧州按審僅將李士方枷責釋放等情此案係兇盜殺劫非尋常竊案可比既經獲有正犯自應嚴究賊証按律辦理迺該州縣等僅以枷杖從輕完結顯有規避處分諱盜縱兇情弊至臬司巡撫衙門既據劉學孟歷次呈控何以並不親提犯証嚴行究辦任聽該州縣率意完案亦難保無袒徇劣員之事此案事閱數年或在惠齡任內或係江蘭護撫任內之事與吉慶全無干涉其前任臬司亦已陞遷又與新任臬司無預吉慶毫無所用其迴護瞻顧之處著傳諭吉慶即親提犯証細加研鞫如果所控屬實即行據實參辦以示懲儆倘該撫意存袒護以致正盜漏網重案失出一經別處發覺恐該撫不能當其重咎也將此諭令知之公平速辦原摺著抄寄閱看欽此遵

旨寄信前來

2243 乾隆五十七年八月初九日奉

旨此案著交吉慶提集人犯秉公嚴審定擬具奏原  
告劉學孟著照例解往備質欽此

2244 乾隆五十七年八月初九日內閣奉

上諭都察院左都御史員缺寶光鼎未到京以前仍  
著紀昀暫行兼署欽此

2245 查盜犯丁三一案不能即時查拏之蒙城縣知

縣劉士煌業經革職拏解刑部治罪所有本內  
議處臬司道府通判各員俱係統轄之員是以  
一例處分未便分晰臣等俱遵

旨擬寫從寬改為革職留任

諭旨進

呈謹

奏

八月初九日

2246 乾隆五十七年八月初九日奉

旨此案盜犯丁三等膽敢糾夥行劫搶掠婦女轉行  
販賣非尋常盜犯僅止劫掠財物者可比今被豫  
省拏獲該省地方官一任竄逸多時即照部議降  
調原屬咎所應得但念臬司道府究係統轄之員  
與專轄州縣尚屬有間所有按察使恩明廬鳳道  
刁玉成前任廬鳳道降用同知迷德潁州府知府  
王秉翰署潁州府事同知倪廷模潁州知州善慶  
前署潁州府通判建德縣知縣簡榮現任潁州府  
通判柳煥俱著從寬改為革職留任餘依議欽此

2247 辦理軍機處為飛咨事照得廓爾喀送出之噶

布倫丹津班珠爾扎什敦珠布二犯現已由軍  
營起解奉

旨此係解審要犯著沿途各督撫於該犯到境迅速

派委委員小心押解務須速赴

行在以便訊究等因欽此為此飛咨

貴督於該二犯到境時欽遵

諭旨迅即派員安速押解前進毋稍遲延須至咨者

右咨

直隸

山西  
各督撫

陝西

四川

八月初九日

2248 乾隆五十七年八月初九日奉

旨諾穆親等奏坐糧廳吉綸現屆報滿請再留一年以資運務一摺坐糧廳有稽查督催之責若一時滿漢廳員並行更換或可酌量熟手以資經理今漢員張灼到任已逾半年原係參差更換本年糧運即已經手辦理何必又將報滿之員率行保奏向來坐糧廳得項優厚人皆視為羨缺豈可任意奏留聽其戀棧嗣後無論滿漢廳員凡屆報滿應行更換之期俱不准奏請留任以杜營競而勵官方欽此

2249 乾隆五十七年八月初九日内閣奉

上諭前據李奉翰等奏黃河水勢情形時屆白露河水安瀾茲據書麟等奏節逾白露黃河水勢旋長

旋消各工平穩情形各等語本年江南河南黃河水勢情形七月以來間有長水處所埽壩各工遇有喫緊工段經各該督等督率所屬隨時修護穩固溜勢平定現在時逾秋分河流順軌慶慰安瀾書麟蘭第錫李奉翰穆和蘭俱著交部議叙其在工出力人員亦著該督等查明一併咨部議叙以示鼓勵欽此

2250 本月十四日臣等面奉

諭旨江南河南兩省奏到秋汛安瀾時降旨議叙欽此查李奉翰等奏河水安瀾摺於七月二十七日奏到茲復據書麟等將時逾白露各工平穩情形具

奏謹遵

旨擬寫議叙

恩旨進

呈謹

奏

八月初九日

奏為遵

旨議奏事據直隸總督梁肯堂奏勘明寧河官地堪

作保定駐防官兵馬廠一摺本月初五日奉

硃批軍機大臣議奏欽此據稱勘明順天府屬寧河

縣七里海地方現有官地六十五頃零名為焦

案官地青草甚茂相距甬口河六七里地內又

有水泊一處頻年有水可以飲馬應請即以此

項官地撥作馬廠俾資牧放但任邱舊有官地

僅五十一頃今焦案官地六十餘頃為數太多

未便全數撥給致虧糧額擬於六十餘頃之內

撥出四十五頃零周圍分立界址行知城守尉

五寧阿於每年馬匹出青之時前往牧放不得

越界肇爭所有此項官地既作馬廠應徵租銀

照例扣除其下剩焦案官地照舊聽民認墾完

租等語查牧廠之設全以水草為主保定駐

防兵丁馬匹向在任邱縣無糧官荒地牧放緣

歷年久遠壕溝漲平民多侵種且廠內積水停

淤青草不生難以牧馬經前任督臣劉我

奏准撤回各墾徵租另將坐落靜海縣之四黨口

村官荒地內擇作馬廠嗣城守尉五寧阿委據

防禦順昌覆勘以四黨口村荒地草稀水鹹不

能牧放經梁肯堂委員於保定河間天津一帶

逐一查勘因辦理遲延經護軍統領叅奏欽奉

諭旨交該督上緊辦理今據奏委員勘得焦案官地

距保定不遠水草甚便堪作馬廠且經五寧阿

派令防禦雅爾哈前往會同覆勘其所稱水草

兼便自屬實在情形應如所奏即以此項官地

撥作馬廠俾資牧放至任邱廠地向僅五十一

頃今焦案官地六十餘頃為數太多自未便全

數撥給致虧糧額亦應如該督所奏於六十餘

頃之內撥出四十五頃零周圍分立界址並行

令五寧阿轉飭駐防官兵於每年馬匹出青之

時前往牧放不得越出界外致肇爭端所有此

項官地除撥作馬廠之四十五頃照例准其開

除租銀外其剩下焦案官地並附近各官地仍

照舊聽民認墾完租以重歲賦並令造具酌撥

照舊聽民認墾完租以重歲賦並令造具酌撥



馬廠地畝四至及除租數目清冊報部以備查核所有臣等核議緣由理合恭摺具

奏伏乞

皇上訓示遵行謹

奏

八月初九日

2252 乾隆五十七年八月初九日內閣奉

上諭前因三河縣為蝗蝻自起之處梁肯堂摺內未經將三河一路提出含混其詞不但不將該縣知縣李培榮叅奏轉以之請陞通州知州因降旨令其明白迴奏今梁肯堂止將署三河縣知縣州判陳馨洲奏請革職而於李培榮一員則仍稱於五月初十日即經接署通州印務三河有蝗之時係在李培榮卸事之後等語是總欲出脫此人始終有心迴護劣員實不可解蝻子之起向在旱濕之地多於二三月內即行化生即或至遲亦不出閏四月內今李培榮係於五月初十日始行接署通

州印務是蝻孽孳生即在該員任內之事未能及早實力搜捕淨盡以致蔓延他境已屬咎無可辭即謂李培榮已署通州與三河無涉通州地方亦有飛蝗間蝕禾稼之處李培榮既未據實稟報又不實力撲捕則通州之蝗李培榮又將誰誣此等情節梁肯堂豈不能見及乃仍以該員卸事為詞再三執奏代為開脫直欲卸過於微末州判而令李培榮得以置身局外仍獲陞擢豈謂朕前可以朦混具奏遂爾了事耶著再傳旨嚴行申飭仍令再行明白迴奏毋再執迷不悟始終迴護致干重戾也李培榮著革職交刑部問罪看梁肯堂又何以致之欽此

2253

辦理軍機處為咨查事 貴督奏勘明寧河官地堪作保定駐防官兵馬廠一摺據稱順天府寧河縣七里海地方現有官地六十五頃撥於此六十餘項內撥出四十五項作為馬廠以資牧放等因查官地撥作馬廠應徵租銀既經照例扣除但此項官地撥出四十五項每年應徵

租銀若干從前任邱撤回厥地五十一頃召墾陞科後每年租銀若干其保定駐防馬匹共有若干每年如不放青應需馬乾若干如發給馬乾比較官地租銀每年有無多費抑或省減若干或將馬數目量加裁減一半是否可行之處逐一會同該城守尉查明迅速登覆並按條開具細數清單詳覆本處以憑核議須至咨者

右 咨

直隸總督梁

八月初十日

2254 乾隆五十七年八月十一日內閣奉

上諭各省學政現屆應行更換之期除順天學政吳省蘭福建學政鄒奕孝山東學政翁方綱山西學政戈源均任事未久毋庸更換外江蘇學政胡高望著再留一任浙江學政著李潢去江西學政著沈初去安徽學政著趙佑去河南學政著曹振鏞去湖北學政著查瑩去湖南學政著石韞玉去四

川學政著吳樹萱去廣東學政著戴衢亨去廣西學政著劉鳳誥去陝甘學政著吳蔭暄去雲南學政著李傳熊去貴州學政著洪亮吉去以上各員內有現出試差者即著於出闈後各赴新任不必前來請訓欽此

2255

查各省學政現屆更換之期除順天學政吳省蘭福建學政鄒奕孝山東學政翁方綱山西學政戈源均任事未久似可無庸更換外所有江蘇等十三省學政臣等謹擬寫空名

諭旨進

呈恭候

簡授此內有現出試差人員並遵照向例於擬寫

諭旨內叙入令其於出闈後即行各赴新任不必前

來請

訓合併陳明謹

奏

八月十一日

臣和坤等謹

奏為查明參奏事陝西巡撫秦承恩奏請將推陞廣西慶遠府同知之咸陽縣知縣張廷杰留陝差遣等因一摺於乾隆五十七年八月初四日奉

旨該部議奏欽此據稱陝西咸陽縣知縣張廷杰推陞廣西慶遠府同知上年十一月內正在交卸起程間因彼時辦理安設臺站差使文報均關緊要一時不得委署之人經臣奏請仍將該員暫署咸陽縣事務俟事竣飭赴新任嗣接准廣西撫臣陳用敷咨開慶遠府同知員缺已將候補同知肅崇阿奏補張廷杰俟到粵後再行酌量補用現在陝省試用同知通判均已挨次補完且現值西藏文報往來之際恐非生手所能經理請將張廷杰留陝差遣遇有相當缺出再行酌量請補等語查廣西慶遠同知係屬邊缺例嚴規避本年四月內據陳用敷奏請將候補同知肅崇阿補授慶遠同知俟張廷杰到粵

後另行補用等因即經臣部議以慶遠同知一缺業經張廷杰推陞應令該員速赴新任所有該撫奏請肅崇阿補用之處應毋庸議於本年五月初七日具

題奉

旨依議欽此欽遵行知各該省在案今秦承恩並未飭令該員即赴新任乃復會同該督奏請留陝遣委是名以藉資熟手為詞實為屬員規避遠省起見陳用敷不候部咨冒昧咨行均屬不合未便准其所請致開趨避之漸相應據實參奏俟

命下臣部將勒保秦承恩陳用敷照例議處所有臣等查議緣由謹繕摺具

奏伏乞

皇上睿鑒謹

奏

2257 乾隆五十七年八月十一日奉

旨黃阿清葉阿五吳阿連郭阿孔李阿華派阿胡俱著即處斬泉示餘依議欽此

廣東省洋盜

2258 乾隆五十七年八月十一日奉

上諭四川雅州府知府員缺著恒溥補授欽此

2259 乾隆五十七年八月十一日內閣奉

上諭前因順天各屬間有飛蝗殘蝕禾稼之處節經降旨嚴飭梁肯堂蔣賜榮等督率所屬實力撲捕並特派大臣分路查勘核對所奏情形蝗蝻自起之處當在薊州三河一帶復經降令梁肯堂蔣賜榮等確查實在起蝗處所將該州縣據實嚴參嗣據蔣賜榮等查奏蝻孽孳生係由三河所起而梁肯堂覆奏摺內含混其詞並不將三河一路提出轉請將該縣知縣李培榮陞擢通州又經降旨詢問並令該督覆奏之摺僅將署三河縣知縣州判

硃 硃

硃

陳馨洲奏草職而於李培榮則稱該員於五月內委署通州印務三河有蝗之時在該員卸事之後等語朕謂蝻孽之生多在二三月內即或至遲亦不出閏四月李培榮於五月內始署通州蝻孽生時即在該員三河任內之事迺梁肯堂欲為該員規避處分預調署理別州縣印今又稱滿城地處衝衢事務繁要是以委令署理查滿城本係簡缺而該員三河本任轉屬要缺今以本居要缺之員調署簡缺而轉以地衝事繁為詞顯係有心捏飾朕謂該員開脫而却罪於微末州判以完此局此等伎倆豈能逃朕洞鑒且即以通州而論該處亦有飛蝗李培榮並未據實稟報實力撲捕其咎又將誰諉昨已降旨將李培榮革職交刑部治罪梁肯堂始終為李培榮開脫欲其置身局外仍邀陞擢袒護劣員冀圖朦混了事以致簡要倒置是誠何心梁肯堂著再交部嚴加議處至蝗蝻殘蝕禾稼最為民害惟在及早實力搜捕方不致蔓延貽患如或地方官玩視民瘼諱匿不報及撲蝗不力

者從前乾隆三三十年間經朕節次嚴懲地方大小各員稍知儆畏留心近因並無蝗蝻二十餘年從未降旨飭詢是以地方官日久玩生遂致心存諱飾豈朕痼疾在抱極害恤民之意嗣後除雲貴四川閩粵等省向不聞有蝗外其餘各省凡有沮洳卑濕之區即防蝻子化生各該督撫務嚴飭所屬每年於二三月內實力搜查據實稟報各該督撫等具奏一次倘復玩忽從事有心諱匿一經發覺必當重治其罪斷不稍為寬貸將此通諭知之欽此

2260

查梁肯堂摺內稱滿城縣地處衝衢事務繁要委令李培榮署理等語臣等因檢査缺單內開滿城縣係屬簡缺缺一衝字三河縣係屬要缺有衝繁難三字是梁肯堂將本任要缺之員轉以之調署簡缺實屬有心捏飾迴護臣等謹於諭旨內叙入進

呈謹

奏

八月十一日

2261 乾隆五十七年八月十一日內閣奉

上諭據吏部叅奏秦承恩會同勒保奏請將推陞廣西慶遠府同知之知縣張廷杰留於陝省差遣委用並聲明慶遠同知已據陳用敷請將肅崇阿補授一摺向來邊省烟瘴等缺例嚴規避今張廷杰於本年四月內推陞廣西慶遠同知該撫等並未飭赴新任遲至半年乃復違例會同奏請留陝名以藉資熟手為辭辦理驛站非一人所獨能此奏實為屬員規避遠省起見陳用敷亦不候部行知輒行移知陝省此端一開必效外省趨避之漸勒保秦承恩陳用敷均屬不合者傳旨嚴行申飭即飭該員迅赴新任不得藉詞逗留致干咎戾餘依議欽此

2262

啟者本月十一日奉

旨本日朕於御園鎗斃一鹿一發輒中者將鹿肉賞給留京王大臣綿恩共一分嵇璜金蘭彭元瑞共一分所有御製園中獲鹿分賜內外諸臣詩一首著阿桂轉交與應和詩章之大學士嵇璜及南書房翰林等恭和進呈欽此專此佈達希即遵照辦理並候  
近祺不備

和 等拜具

2263

大學士伯和 字寄

陝西巡撫秦 乾隆五十七年八月十四日奉  
上諭據秦承恩奏查勘涇陽等四縣秋禾被旱較重現在各該處均得有雨澤正可及時播種現經飭屬查明實係無力農民即日開倉出借並飛飭蒲城韓城等屬如果農民望借甚急亦即確查一體辦理等語所辦好已於摺內批示陝省涇陽等四縣本年秋穀被旱較重現屆秋分種麥之期各該

九七〇

處既得有雨澤自當及時趕種但該處當被旱之後民力不無拮据著傳諭秦承恩即飭所過各地方官確切查明如有應行賑濟者即一面具奏一面飭令各屬即日開倉出糶其有無力農民應須借給籽種者亦即酌量酌給俾得及時佈種其蒲城韓城等屬並著查明分別辦理該撫務須督飭所屬盡心妥辦俾小民均沾實惠毋任不肖官吏從中侵剋以副朕軫念災黎有加無已至意將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2264

大學士伯和 字寄

陝甘總督勒 乾隆五十七年八月十五日奉  
上諭前據琅玕奏葉爾羌回子邁瑪第敏私教內地前往貿易回民李子重等十八名搖頭默念大干例禁請將邁瑪第敏發却五雪山地方安插其李子重等十八名發伊犁塔爾巴哈台給厄魯特為奴已有旨將邁瑪第敏改發烟瘴李子重等改發黑龍江給索倫達呼爾為奴矣老教回子念誦經

典向不搖頭高聲誦惟新教有此念法從前蘇四十三田五等俱因學習新教滋生事端經官兵平定後疊加飭禁始知斂戢今邁瑪第敏又於葉爾羗地方創興新教李子重等私相傳習已有十八人之多看來竟因為時稍久回民等因查禁漸懈以致故習復萌歛錢惑眾不可不杜其漸著傳諭勒保務宜留心查察如回民等有私習新教情事即嚴拏辦理以斷根株不得日久踈懈其李子重等十八犯亦未便發往黑龍江等處致滋煽惑並著勒保於該犯解到甘省時即飭轉解刑部審明治罪定以重辟將來即不予勾亦當永遠監禁庶不在外滋事也將此傳諭勒保並諭刑部堂官知之欽此遵

旨寄信前來

2265

大學士伯和 字寄

浙江江南河南陝甘各督撫 乾隆五十七年

八月十八日奉

上諭據魁倫奏發往福州給兵丁為奴之甘肅逆回之子存柱子於本年六月二十六日在配脫逃等語存柱子係甘肅逆回之子發往福州為奴膽敢在配脫逃情殊可惡計該犯脫逃後自必在沿途逗遛或潛回本省亦未可定著傳諭各該督撫即行飭屬留心偵緝上緊嚴拏務期弋獲毋任遠颺漏網將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

2266

乾隆五十七年八月十八日奉

旨吏部奏據新調福建連城縣知縣李合和呈稱係現任按察使戚蓼生典試取中舉人申請應否迴避該員並不於過堂時預行呈明乃於引見調補後始行呈報應將該員降一級調用等語固屬照例辦理但該員究因不諳新例至引見調補後自行查出呈明其過尚輕李合和著發往浙江仍以知縣補用於補官改為降二級留任欽此

2267 乾隆五十七年八月十八日奉

旨蝗蝻蝕傷禾稼最為民害地方大小各官俱應及早實力搜捕不致蔓延貽患其有諱匿不報及撲捕不力者定例處分甚重從前乾隆二三十年間節經嚴示創懲近因並無蝗蝻二十餘年未復降旨飭詢地方各官遂日久生懈以致三河等處復有飛蝗傷稼之事本應將該縣及同知等即照部議分別拏問革職姑念此次蝗蝻究因朕久未飭訓地方各官亦遂玩懈所致且傷穀不過一二分未致大害禾稼所有議以革職拏問之署三河縣事州判陳馨洲昌平州知州李崇順義縣知縣陸顯曾及雖經立時撲滅不即稟報之宛平縣知縣馬光暉房山縣知縣任銜蕙署良鄉縣知縣汪應棿俱著革職免其拏問議以革職之同知吳于宣蔣如燕知縣王作霖沈振鵬俱著從寬改為革職留任八年無過方准開復此係朕格外施恩地方大小各員嗣後務宜遵照前旨於二三月間實力查察預為搜挖以期保衛田禾倘再有玩延貽

誤不特不能照此次之從寬辦理并當於定例之外加倍治罪以示嚴懲餘依議欽此

2268

查四川革職道員承勳係正白旗滿洲人祖名蒼霖曾任內閣中書父名松德曾任甘肅莊浪同知又革職柳號知府重光係鑲白旗包衣人祖名吳爾宏係開散父名良保曾任筆帖式謹奏

八月十九日

2269

啟者本日

上閱詩話總彙內有余靖刁約各用契丹語入詩命於四庫全書中檢查遼金元人有似此以國語成詩者一體檢出預備送閱為此專札佈知希即遵照辦理為荷順候近祉不一

和 等同具



[General Information]

书名=乾隆朝上谕档（乾隆五十五年十月至五十七年八月）

作者=

页数=972

SS号=10004979

DX号=000005780530

出版日期=

出版社=